岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第513集

# 細谷地遺跡第13次・第14次発掘調査報告書

盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査

2008

独立行政法人都市再生機構
岩手県盛岡市
(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

# 細谷地遺跡第13次・第14次発掘調査報告書

盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査

# 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことの出来ない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、岩手県盛岡市の盛岡南新都市土地区画整理事業に関連して平成18年度に発掘調査を実施した、盛岡市細谷地遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査では奈良時代、平安時代の集落が発見され、特にも平安時代の鍛冶工房や多くの炭化した種実を出土した焼失住居跡からは当時の鉄器生産や食料事情の実態を解き明かす上で貴重な資料を提供することができました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました独立行政法人都市再生機構岩手土地開発事務所、盛岡市都市整備部盛岡南整備課、盛岡市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成20年２月

財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　武　田　牧　雄

# 例　　言

1　本報告書は、岩手県盛岡市飯岡新田２地割字才川48－１ほかに所在する細谷地遺跡第13次・第14次の発掘調査結果を収録したものである。

2　本遺跡の調査は、盛岡南新都市土地区画整理事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は独立行政法人都市再生機構岩手都市開発事務所及び盛岡市都市整備部盛岡南整備課と岩手県教育委員会との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

3　岩手県遺跡情報検索システムに記載される遺跡番号はLE－26－0214、遺跡略号は第13次調査分がOHY－06－13、第14次調査分がOHY－06－14である。

4　発掘調査期間、調査面積及び調査担当者は以下のとおりである。

　第13次調査　平成18年７月３日～11月27日／2,530㎡／星　雅之

　第14次調査　平成18年４月10日～11月27日／7,958㎡／金子佐知子・星　雅之

5　室内整理期間は平成18年11月１日～平成19年３月31日で、第13次分が星雅之、第14次分が金子佐知子、丸山浩治が担当した。

6　本報告書の執筆は、金子佐知子、星雅之が分担して行った。遺構に関しては文末に文責を示した。遺物に関しては文中に示していないが、以下の分担で行っている。

　遺物出土状況　遺構担当者

　＜弥生土器、石器、奈良時代の土器、土製品、金属製品、ガラス製品、陶磁器＞　星　雅之

　＜平安時代の土器＞　金子佐知子

　なお、遺構の年代については、主に遺物担当者が執筆した。

7　発掘調査では、独立行政法人都市再生機構岩手都市開発事務所、盛岡市都市整備部盛岡南整備課、盛岡市教育委員会、高橋善躬氏のご協力をいただいた。

8　本報告書作成にあたり、次の方々にご指導いただいた。（順不同・敬称略）

　伊藤博幸（奥州市埋蔵文化財調査センター）　佐藤良和（奥州市埋蔵文化財調査センター）

　佐瀬　隆（北方ファイトリス研究室）　名久井文明（一芦舎）　中村　晋（岩手県立博物館）

　石崎高臣（奥州市世界遺産登録推進室）

9　各種委託業務では以下の機関に依頼した。

　＜航空写真＞　東邦航空

　＜石質鑑定＞　花崗岩研究会

　＜金属製品の保存処理＞　岩手県立博物館

　＜炭化材樹種同定＞　岩手県木炭協会

　＜鉄滓分析＞　ＪＦＥテクノリサーチ株式会社

　＜炭化種子の同定＞　古代の森研究舎

　＜植物珪酸体・灰像分析＞　北方ファイトリス研究室

　＜火山灰分析＞　パリノ・サーベイ株式会社

10　今回の調査結果は、平成18年９月２日開催の現地説明会及び調査略報などがあるが、本書と記載が異なる場合は、すべて本報告書が優先する。

11　調査で得られた出土遺物や整理に係わる諸記録等については、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管・管理している。

# 目　　次


Ⅰ　調査に至る経過 …… 1

Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 1

1　地理的環境 …… 1

（1）遺跡の位置と立地 …… 1
（2）遺跡周辺の地形と地質 …… 3

2　周辺の遺跡 …… 4

3　基本層序 …… 6

4　これまでの調査 …… 9

Ⅲ　野外調査と室内整理の方法　11

1　野外調査の方法 …… 11

2　室内整理 …… 14

Ⅳ　検出された遺構 …… 23

1　調査の概要 …… 23

2　竪穴住居跡 …… 23

3　掘立柱建物跡 …… 53

4　柱穴列 …… 54

5　土坑 …… 55

6　竪穴状遺構 …… 75

7　溝跡 …… 76

8　柱穴状土坑 …… 83

Ⅴ　遺物 ……188

1　縄文時代の土器 ……188

2　弥生時代の土器 ……188

3　奈良時代の土器 ……188

4　平安時代の土器 ……190

5　石器 ……192

6　ガラス製品 ……193

7　土製品 ……193

8　金属製品 ……193

9　鍛造剥片・粒状鉄滓 ……195

10　近世陶磁器 ……195

11　炭化種実・炭化材・炭化昆虫 ……196

Ⅵ　まとめ ……269

1　奈良時代 ……269

2　平安時代 ……276

（1）竪穴住居跡 ……276
（2）遺構間接合 ……280
（3）土器 ……280
（4）墨書土器・刻書土器 ……284

付編　細谷地遺跡の自然科学分析 ……290

1　細谷地遺跡から検出された灰様資料の
植物珪酸体分析、灰像分析 ……290

2　細谷地遺跡第14次調査
出土鉄滓等の成分分析調査 ……298

3　細谷地遺跡第14次調査における
火山灰分析報告 ……314

4　細谷地遺跡住居跡より出土した
炭化種実 ……317

報告書抄録 …… 463

# 図版目次


第 1 図　遺跡位置図…… 2
第 2 図　遺跡周辺地形分類図…… 3
第 3 図　周辺の遺跡…… 5
第 4 図　基本土層…… 6
第 5 図　細谷地遺跡調査位置図…… 7
第 6 図　沢跡…… 8
第 7 図　グリッド配置図…… 12
第 8 図　実測図凡例…… 16
第 9 図　構配置図 1（全体図）…… 17
第 10 図　遺構配置図 2（拡大図）…… 19
第 11 図　遺構配置図 3（拡大図）…… 20
第 12 図　遺構配置図 4（拡大図）…… 21
第 13 図　遺構配置図 5（拡大図）…… 22
第 14 図　RA074竪穴住居跡 …… 85
第 15 図　RA113竪穴住居跡（1）…… 86
第 16 図　RA113竪穴住居跡（2）…… 87
第 17 図　RA114竪穴住居跡（1）…… 88
第 18 図　RA114竪穴住居跡（2）…… 89
第 19 図　RA115竪穴住居跡（1）…… 90
第 20 図　RA115竪穴住居跡（2）…… 91
第 21 図　RA116竪穴住居跡（1）…… 92
第 22 図　RA116竪穴住居跡（2）…… 93
第 23 図　RA117竪穴住居跡（1）…… 94
第 24 図　RA117竪穴住居跡（2）…… 95
第 25 図　RA118竪穴住居跡（1）…… 96
第 26 図　RA118竪穴住居跡（2）…… 97
第 27 図　RA119竪穴住居跡（1）…… 98
第 28 図　RA119竪穴住居跡（2）…… 99
第 29 図　RA120竪穴住居跡 ……100
第 30 図　RA121竪穴住居跡
・RA122竪穴住居跡（1）……101
第 31 図　RA122竪穴住居跡（2）
・RA123竪穴住居跡（1）……102
第 32 図　RA123竪穴住居跡（2）……103
第 33 図　RA124竪穴住居跡 ……104
第 34 図　RA125竪穴住居跡（1）……105
第 35 図　RA125竪穴住居跡（2）……106
第 36 図　RA126竪穴住居跡 ……107
第 37 図　RA127竪穴住居跡（1）……108
第 38 図　RA127竪穴住居跡（2）……109
第 39 図　RA127竪穴住居跡（3）……110
第 40 図　RA128竪穴住居跡
・RA129竪穴住居跡 ……111
第 41 図　RA130竪穴住居跡 ……112
第 42 図　RA131竪穴住居跡（1）……113
第 43 図　RA131竪穴住居跡（2）……114
第 44 図　RA132竪穴住居跡（1）……115
第 45 図　RA132竪穴住居跡（2）……116
第 46 図　RA132竪穴住居跡（3）……117
第 47 図　RA132竪穴住居跡（4）……118
第 48 図　RA132竪穴住居跡（5）……119
第 49 図　RA132竪穴住居跡（6）……120
第 50 図　RA132竪穴住居跡（7）……121
第 51 図　RA132竪穴住居跡（8）……122
第 52 図　RA133竪穴住居跡（1）……123
第 53 図　RA133竪穴住居跡（2）……124
第 54 図　RA134竪穴住居跡 ……125
第 55 図　RA135竪穴住居跡 ……126
第 56 図　RA136竪穴住居跡 ……127
第 57 図　RA137竪穴住居跡（1）……128
第 58 図　RA137竪穴住居跡（2）……129
第 59 図　RA137竪穴住居跡（3）……130
第 60 図　RA138竪穴住居跡 ……131
第 61 図　RA139竪穴住居跡（1）……132
第 62 図　RA139竪穴住居跡（2）……133
第 63 図　RA139竪穴住居跡（3）……134
第 64 図　RA140竪穴住居跡（1）……135
第 65 図　RA140竪穴住居跡（2）……136
第 66 図　RA141竪穴住居跡（1）……137
第 67 図　RA141竪穴住居跡（2）……138
第 68 図　RA142竪穴住居跡（1）……139
第 69 図　RA142竪穴住居跡（2）……140
第 70 図　RA143竪穴住居跡（1）……141
第 71 図　RA143竪穴住居跡（2）……142
第 72 図　RA144竪穴住居跡 ……143
第 73 図　RA145竪穴住居跡（1）……144
第 74 図　RA145竪穴住居跡（2）……145
第 75 図　RA146竪穴住居跡（1）……146
第 76 図　RA146竪穴住居跡（2）……147
第 77 図　RA146竪穴住居跡（3）……148
第 78 図　RA147竪穴住居跡（1）……149
第 79 図　RA147竪穴住居跡（2）……150
第 80 図　RA147竪穴住居跡（3）……151
第 81 図　RA148竪穴住居跡（1）……152
第 82 図　RA148竪穴住居跡（2）……153
第 83 図　RA148竪穴住居跡（3）……155

第 84 図　RA149竪穴住居跡（１）……156
第 85 図　RA149竪穴住居跡（２）……157
第 86 図　RB018掘立柱建物跡……158
第 87 図　RB019掘立柱建物跡（１）……159
第 88 図　RB019掘立柱建物跡（２）……160
第 89 図　RC002柱穴列・PP16 ……161
第 90 図　RD272～274土坑 ……162
第 91 図　RD275～279土坑 ……163
第 92 図　RD280～282・284・285土坑 ……164
第 93 図　RD283・286～288土坑 ……165
第 94 図　RD290～295土坑 ……166
第 95 図　RD296～298・303～306土坑 ……167
第 96 図　RD299～302・307土坑 ……168
第 97 図　RD308～313土坑 ……169
第 98 図　RD314～319・321土坑 ……170
第 99 図　RD320・322～324・331土坑 ……171
第100図　RD325～330・332・333・336・
337土坑……172
第101図　RD334・335土坑 ……173
第102図　RE007～010竪穴状遺構 ……174
第103図　RG022・027・060溝跡 ……175
第104図　RG027・059・063溝跡 ……176
第105図　RG058・061・062溝跡 ……177
第106図　RG064～068溝跡 ……179
第107図　RG069・070溝跡 ……180
第108図　RG071・072・074溝跡 ……181
第109図　RG073溝跡（１）……182
第110図　RG073溝跡（２）……183
第111図　柱穴状土坑……184
第112図　遺構内出土土器（１）……197
第113図　遺構内出土土器（２）……198
第114図　遺構内出土土器（３）……199
第115図　遺構内出土土器（４）……200
第116図　遺構内出土土器（５）……201
第117図　遺構内出土土器（６）……202
第118図　遺構内出土土器（７）……203
第119図　遺構内出土土器（８）……204
第120図　遺構内出土土器（９）……205
第121図　遺構内出土土器（10）……206
第122図　遺構内出土土器（11）……207
第123図　遺構内出土土器（12）……208
第124図　遺構内出土土器（13）……209
第125図　遺構内出土土器（14）……210
第126図　遺構内出土土器（15）……211
第127図　遺構内出土土器（16）……212
第128図　遺構内出土土器（17）……213
第129図　遺構内出土土器（18）……214
第130図　遺構内出土土器（19）……215
第131図　遺構内出土土器（20）……216
第132図　遺構内出土土器（21）……217
第133図　遺構内出土土器（22）……218
第134図　遺構内出土土器（23）……219
第135図　遺構内出土土器（24）……220
第136図　遺構内出土土器（25）……221
第137図　遺構内出土土器（26）……222
第138図　遺構内出土土器（27）……223
第139図　遺構内出土土器（28）……224
第140図　遺構内出土土器（29）……225
第141図　遺構内出土土器（30）……226
第142図　遺構内出土土器（31）……227
第143図　遺構内出土土器（32）……228
第144図　遺構内出土土器（33）……229
第145図　遺構内出土土器（34）……230
第146図　遺構内出土土器（35）……231
第147図　遺構内出土土器（36）……232
第148図　遺構内出土土器（37）……233
第149図　遺構内出土土器（38）……234
第150図　遺構内出土土器（39）……235
第151図　遺構内出土土器（40）……236
第152図　遺構内出土土器（41）……237
第153図　遺構内出土土器（42）……238
第154図　遺構内出土土器（43）……239
第155図　遺構内出土土器（44）……240
第156図　遺構内出土土器（45）
・遺構外出土土器（１）……241
第157図　遺構外出土土器（２）……242
第158図　遺構内出土石器・石製品（１）……243
第159図　遺構内出土石器・石製品（２）……244
第160図　遺構内出土石器・石製品（３）……245
第161図　遺構内出土石器・石製品（４）
・ガラス製品 ……246
第162図　遺構内出土土製品……247
第163図　遺構内出土金属製品（１）……248
第164図　遺構内出土金属製品（２）……249
第165図　遺構内出土金属製品（３）(参考資料) …250
第166図　遺構内出土金属製品（４）(参考資料)
・遺構内出土陶磁器（１）……251
第167図　遺構内出土陶磁器（２）
・遺構外出土陶磁器 ……252
第168図　平安時代の土器器種別集成図（１）……263
第169図　平安時代の土器器種別集成図（２）……264
第170図　平安時代の土器器種別集成図（３）……265

第171図　平安時代の土器器種別集成図（４）……266
第172図　平安時代の土器器種別集成図（５）……267
第173図　平安時代の土器器種別集成図（６）……268
第174図　細谷地遺跡東端遺構配置図
（第９次・10次・13次・14次）……271
第175図　奈良時代の土器遺構別集成図（１）……273
第176図　奈良時代の土器遺構別集成図（２）……274
第177図　遺物の遺構間接合図（１）土師器……281
第178図　遺物の遺構間接合図（２）須恵器……282
第179図　平安時代の土器遺構別集成図（１）……285
第180図　平安時代の土器遺構別集成図（２）……286
第181図　平安時代の土器遺構別集成図（３）……287
第182図　平安時代の土器遺構別集成図（４）……288
第183図　墨書土器・刻書土器集成図……289

# 表　目　次

第１表　周辺の遺跡一覧 …… 5
第２表　これまでの調査一覧 …… 10
第３表　遺構名対照表 …… 13
第４表　RA132出土炭化種実地点別一覧表 ……122
第５表　竪穴住居跡一覧表 ……185
第６表　土坑一覧表 ……185
第７表　竪穴状遺構一覧表 ……187
第８表　溝跡一覧表 ……187
第９表　炭化種実同定結果 ……196
第10表　炭化材樹種同定結果 ……196
第11表　縄文土器・弥生土器観察表 ……253
第12表　土師器・須恵器観察表 ……253
第13表　石器・ガラス製品観察表 ……260
第14表　土製品観察表 ……260
第15表　古代金属製品観察表 ……260
第16表　近世墓出土金属製品観察表 ……261
第17表　陶磁器観察表 ……262
第18表　奈良時代の竪穴住居跡一覧 ……275
第19表　平安時代の竪穴住居跡一覧 ……278
第20表　墨書土器一覧表 ……284

# 写真図版目次

写真図版１　航空写真（１）……323
写真図版２　航空写真（２）……324
写真図版３　調査前風景・基本土層 ……325
写真図版４　沢跡 ……326
写真図版５　RA074竪穴住居跡 ……327
写真図版６　RA113竪穴住居跡 ……328
写真図版７　RA114竪穴住居跡（１） ……329
写真図版８　RA114竪穴住居跡（２） ……330
写真図版９　RA115竪穴住居跡（１） ……331
写真図版10　RA115竪穴住居跡（２） ……332
写真図版11　RA116竪穴住居跡（１） ……333
写真図版12　RA116竪穴住居跡（２） ……334
写真図版13　RA117竪穴住居跡 ……335
写真図版14　RA118竪穴住居跡（１） ……336
写真図版15　RA118竪穴住居跡（２） ……337
写真図版16　RA119竪穴住居跡（１） ……338
写真図版17　RA119竪穴住居跡（２） ……339
写真図版18　RA120竪穴住居跡 ……340
写真図版19　RA121竪穴住居跡 ……341
写真図版20　RA122竪穴住居跡 ……342
写真図版21　RA123竪穴住居跡（１） ……343
写真図版22　RA123竪穴住居跡（２） ……344
写真図版23　RA124竪穴住居跡（１） ……345
写真図版24　RA124竪穴住居跡（２） ……346
写真図版25　RA125竪穴住居跡（１） ……347
写真図版26　RA125竪穴住居跡（２） ……348
写真図版27　RA126竪穴住居跡（１） ……349
写真図版28　RA126竪穴住居跡（２） ……350
写真図版29　RA127竪穴住居跡（１） ……351
写真図版30　RA127竪穴住居跡（２） ……352
写真図版31　RA128竪穴住居跡 ……353
写真図版32　RA129竪穴住居跡（１） ……354
写真図版33　RA129竪穴住居跡（２） ……355
写真図版34　RA130竪穴住居跡（１） ……356
写真図版35　RA130竪穴住居跡（２） ……357
写真図版36　RA131竪穴住居跡（１） ……358
写真図版37　RA131竪穴住居跡（２） ……359
写真図版38　RA132竪穴住居跡（１） ……360
写真図版39　RA132竪穴住居跡（２） ……361
写真図版40　RA132竪穴住居跡（３） ……362
写真図版41　RA132竪穴住居跡（４） ……363
写真図版42　RA132竪穴住居跡（５） ……364
写真図版43　RA133竪穴住居跡（１） ……365
写真図版44　RA133竪穴住居跡（２） ……366
写真図版45　RA134竪穴住居跡（１） ……367
写真図版46　RA134竪穴住居跡（２） ……368

写真図版47　RA135竪穴住居跡 ……369
写真図版48　RA136竪穴住居跡 ……370
写真図版49　RA137竪穴住居跡（1） ……371
写真図版50　RA137竪穴住居跡（2） ……372
写真図版51　RA138竪穴住居跡 ……373
写真図版52　RA139竪穴住居跡（1） ……374
写真図版53　RA139竪穴住居跡（2） ……375
写真図版54　RA140竪穴住居跡（1） ……376
写真図版55　RA140竪穴住居跡（2） ……377
写真図版56　RA141竪穴住居跡（1） ……378
写真図版57　RA141竪穴住居跡（2） ……379
写真図版58　RA142竪穴住居跡（1） ……380
写真図版59　RA142竪穴住居跡（2） ……381
写真図版60　RA143竪穴住居跡 ……382
写真図版61　RA144竪穴住居跡 ……383
写真図版62　RA145竪穴住居跡（1） ……384
写真図版63　RA145竪穴住居跡（2） ……385
写真図版64　RA146竪穴住居跡（1） ……386
写真図版65　RA146竪穴住居跡（2） ……387
写真図版66　RA147竪穴住居跡（1） ……388
写真図版67　RA147竪穴住居跡（2） ……389
写真図版68　RA148竪穴住居跡（1） ……390
写真図版69　RA148竪穴住居跡（2） ……391
写真図版70　RA149竪穴住居跡（1） ……392
写真図版71　RA149竪穴住居跡（2） ……393
写真図版72　RB018掘立柱建物跡 ……394
写真図版73　RB019掘立柱建物跡 ……395
写真図版74　RC002柱穴列・RD272土坑 ……396
写真図版75　RD273～276土坑 ……397
写真図版76　RD277～279土坑 ……398
写真図版77　RD280～283土坑 ……399
写真図版78　RD284～287土坑 ……400
写真図版79　RD288～291土坑 ……401
写真図版80　RD292～295土坑 ……402
写真図版81　RD296～298・RD301土坑 ……403
写真図版82　RD299・300・302・303土坑 ……404
写真図版83　RD304～308土坑 ……405
写真図版84　RD309～312土坑 ……406
写真図版85　RD313～316土坑 ……407
写真図版86　RD317～319・321土坑 ……408
写真図版87　RD320・322・323土坑 ……409
写真図版88　RD324～330・332土坑 ……410
写真図版89　RD331・333～335土坑 ……411
写真図版90　RD336・337土坑・
RE010竪穴状遺構 ……412
写真図版91　RE007竪穴状遺構 ……413
写真図版92　RE008竪穴状遺構 ……414
写真図版93　RE009竪穴状遺構 ……415
写真図版94　RG022・058溝跡 ……416
写真図版95　RG027溝跡 ……417
写真図版96　RG059・060溝跡 ……418
写真図版97　RG061・062溝跡 ……419
写真図版98　RG063・066・068溝跡 ……420
写真図版99　RG064・065溝跡 ……421
写真図版100　RG067・071溝跡 ……422
写真図版101　RG069・070溝跡 ……423
写真図版102　RG072・073溝跡 ……424
写真図版103　RG073・074溝跡・柱穴状土坑群 …425
写真図版104　遺構内出土土器（1） ……426
写真図版105　遺構内出土土器（2） ……427
写真図版106　遺構内出土土器（3） ……428
写真図版107　遺構内出土土器（4） ……429
写真図版108　遺構内出土土器（5） ……430
写真図版109　遺構内出土土器（6） ……431
写真図版110　遺構内出土土器（7） ……432
写真図版111　遺構内出土土器（8） ……433
写真図版112　遺構内出土土器（9） ……434
写真図版113　遺構内出土土器（10） ……435
写真図版114　遺構内出土土器（11） ……436
写真図版115　遺構内出土土器（12） ……437
写真図版116　遺構内出土土器（13） ……438
写真図版117　遺構内出土土器（14） ……439
写真図版118　遺構内出土土器（15） ……440
写真図版119　遺構内出土土器（16） ……441
写真図版120　遺構内出土土器（17） ……442
写真図版121　遺構内出土土器（18） ……443
写真図版122　遺構内出土土器（19） ……444
写真図版123　遺構内出土土器（20） ……445
写真図版124　遺構内出土土器（21） ……446
写真図版125　遺構内出土土器（22） ……447
写真図版126　遺構内出土土器（23） ……448
写真図版127　遺構内出土土器（24） ……449
写真図版128　遺構内出土土器（25） ……450
写真図版129　遺構内出土土器（26） ……451
写真図版130　遺構内出土土器（27）
・遺構外出土土器（1）……452
写真図版131　遺構外出土土器（2） ……453
写真図版132　遺構内出土石器・石製品（1） ……454
写真図版133　遺構内出土石器・石製品（2） ……455
写真図版134　遺構内出土石器・石製品（3） ……456
写真図版135　遺構内出土石器・石製品（4）
・遺構内出土金属製品（1）……457

写真図版136　遺構内出土金属製品（２）……458
写真図版137　遺構内出土金属製品（３）……459
写真図版138　遺構内出土金属製品（４）
・遺構内外出土陶磁器 ……460
写真図版139　RA132出土炭化種実 ……461
写真図版140　RA132出土炭化昆虫
・RA131出土鍛造剥片・粒状滓……462

# Ⅰ　調査に至る経過

盛岡南新都市土地区画整理事業は、盛岡市が21世紀に向けて、経済・文化などに対する各機能を兼ね備えた北東北の拠点都市として発展していくことを目指し、現在の既成市街地のほかに南部地域を新都市として開発し、両者が有機的に結びついた軸状都市を形成するために策定された事業である。

この事業は、平成２年９月に岩手県、盛岡市、都南村（現盛岡市）の三者が地域振興整備公団（現独立行政法人都市再生機構）に対して事業要請を行い、これを受けて公団が実施計画を作成した。平成３年12月に建設大臣と国土庁長官から事業の実施許可が下り、平成３年度から面積313haを対象とした土地区画整理事業が実施されることとなった。

この間、事業の対象地域に関わる埋蔵文化財の取り扱いについても協議が重ねられた。その結果、本調査に関しては盛岡市教育委員会が試掘調査を行い、調査を必要とする範囲を確定し、財団法人岩手県文化振興事業団の受託事業とすることとなった。

本遺跡第13次調査、第14次調査については、岩手県教育委員会が独立行政法人都市再生機構岩手都市開発事務所長、盛岡市と協議の結果、平成18年度の事業として確定した。これを受け、平成18年４月１日に、財団法人岩手県文化振興事業団理事長と盛岡市長と、また６月２日に都市再生機構岩手都市開発事務所長との間にそれぞれ委託契約を締結し、第13次調査2,825㎡、第14次調査5,713㎡の発掘調査を実施する運びとなった。その後、岩手県教育委員会より通知があり、第13次調査においては295㎡を減じた2,530㎡、第14次調査においては2,245㎡を加えた7,958㎡に面積を変更して、平成19年１月16日付けで変更契約を行った。野外調査は平成18年４月10日から11月27日まで、室内整理は平成18年11月１日から翌平成19年３月31日まで行われた。　（金子佐知子）

# Ⅱ　遺跡の立地と環境

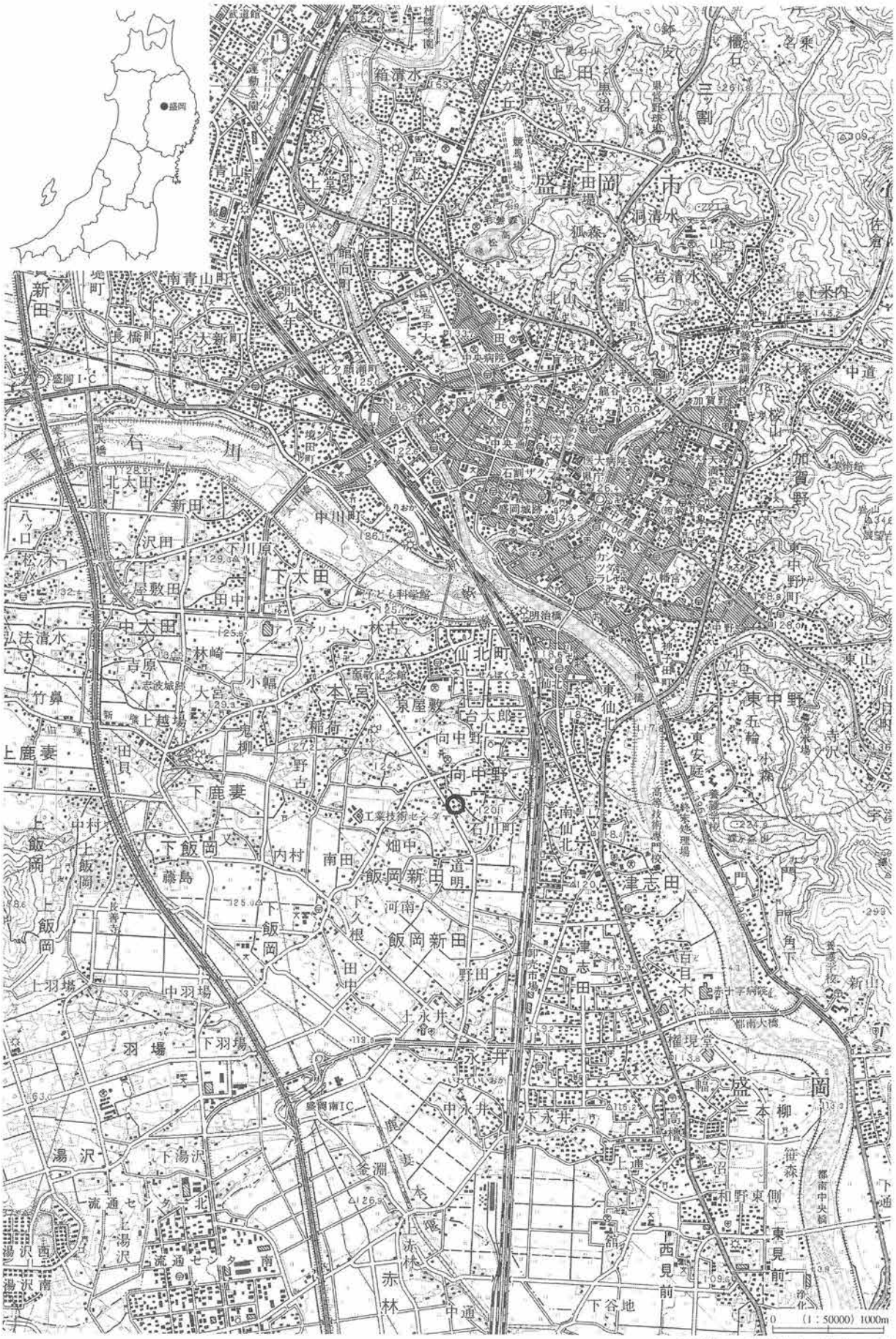
## １　地理的環境

### （１）遺跡の位置と立地

細谷地遺跡の所在する岩手県盛岡市は、岩手県のほぼ中央に位置し、東西約45.5km、南北約40km、総面積886.47km²、総人口約30万人を有する岩手県の県庁所在地である。北は八幡平（はちまんたい）市、岩手郡岩手町・葛巻（くずまき）町、東は下閉伊（しもへいぐん）郡岩泉（いわいずみ）町・川井（かわい）村、南は花巻（はなまき）市、紫波（しわ）郡紫波町・矢巾（やはば）町、西は岩手郡雫石（しずくいし）町・滝沢（たきざわ）村の２市６町２村と接している。南部藩主南部重直公による盛岡城築城の1633年より経ること374年、現在は岩手県の県庁所在地である。

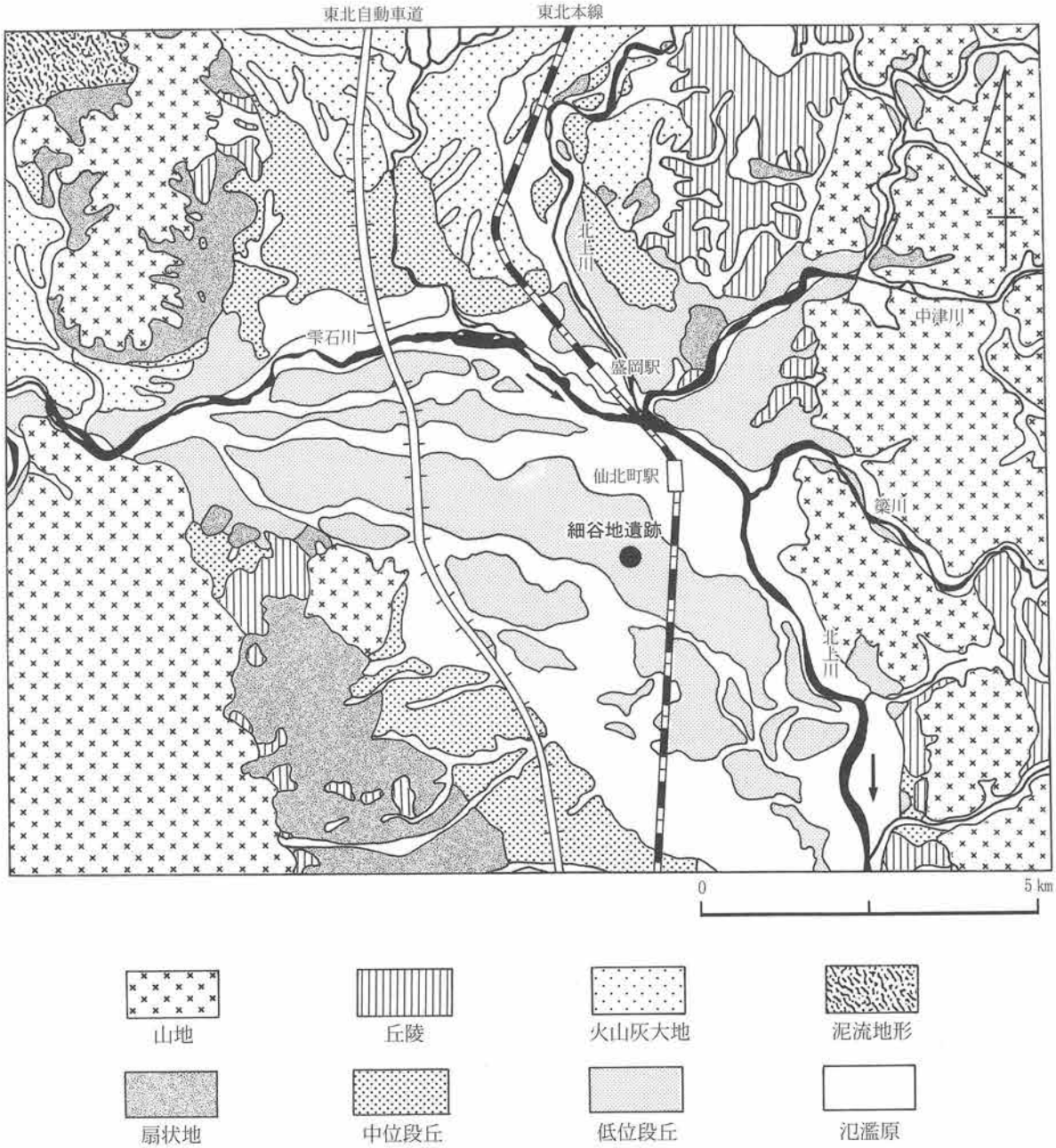
細谷地遺跡の位置は、東日本旅客鉄道仙北町駅から南西約1.3kmにあり、盛岡市向中野及び飯岡新田に所在している。国土地理院発行の２万５千分の１地形図「盛岡」ＮＪ－54－13－14－２の図幅に含まれ、北緯39度40分00秒、東経141度８分00秒付近に位置する。

遺跡は、雫石川右岸（南岸）に形成された低位（沖積）段丘に立地し、標高121～122mである。現況は、宅地跡、畑地、道路である。




5万分の1地形図　盛岡・日詰

第1図　遺跡位置図




**第２図　遺跡周辺地形分類図**

## （２）遺跡周辺の地形と地質

遺跡の立地する盛岡市の地形を概観すると、北上盆地の北部に位置し、東に北上山地、西に奥羽山脈が連なり、盆地に広がる市域からは北西側に岩手山（標高2,038m）、北東側に姫神山（標高1,124m）、南東側に早池峰山を望むことができる。盆地の中央を南流する北上川は、岩手町御堂観音境内にその源を発し、延長243km、流域面積10,720km²、支流数216を数える、東北地方最大の一級河川であり、盛岡の市街地中央で西から雫石川、東から中津川や簗川が合流する。

本地域の地形や地質に大きく影響する北上川は、盛岡市北部の四十四田峡谷以北を上流域に、一関市孤禅寺峡谷付近までを中流域とし、それより石巻港までを下流域と区分される。よって、本地域は、

北上川中流域の北部（上部）に位置付けられる。

北上川左岸（東側）に連なる北上山地は、地質構造上、古生代や中世代の堆積岩及び花崗岩からなり、山地に続く丘陵部縁辺部に小規模な段丘と沖積地が認められるにすぎない。

対して北上川右岸（西側）の奥羽山脈は、北上山地と比べると、比較的新しい新第三紀からなる非火山地域と、第四紀に形成された新規火山地域に区分される。この奥羽山脈から北上川に注ぐ多くの支流により多量の土砂を供給することで、北上川右岸に大小の段丘や扇状地、河岸平野、起伏量の小さい丘陵地等が複雑に入り組む広い平坦面を作り出している。これらの平坦面の大部分は、更新世中・後期に形成されたもので、支流によって解析され段丘化したものである。

本地域の段丘区分について、北上川中流域の段丘を高位から西根段丘、村崎野段丘、金ヶ崎段丘に分類しているが（中川：1963)、中流域北部ではこれに相当するものとして高位の石鳥谷段丘、中位の二枚橋段丘、低位の花巻段丘・都南段丘に区分される。

本遺跡の所在する北上川とその支流の一つである雫石川の合流付近以南では、低位段丘と氾濫原が広く形成・分布する。この低位段丘には、雫石川の連続する旧河道が4条確認されている。さらに小規模な旧河道が網目状に入り組んでおり、小規模な自然堤防状微高地が顕著にみられる。本遺跡を含めた、古代遺跡の多くは、上記した微高地などを中心に位置する。

## 2　周辺の遺跡

盛岡市に所在する遺跡は、岩手県教育委員会が作成した2000年版『岩手県遺跡情報検索システム（盛岡地方振興局管内北部・盛岡地方振興局管内南部)』によると716箇所が登録されている。第3図には本遺跡の周辺に所在する40箇所の遺跡を示した。

旧石器時代は確認例がない。

縄文時代の遺跡は、雫石川左岸地域と比較して全般に希薄であるが、近年晩期の遺構・遺物が比較的確認される傾向にある。竪穴住居跡を検出した遺跡を挙げると、細谷地遺跡で晩期前葉1棟（大洞Ｂ2式期)、本宮熊堂Ａ遺跡で晩期後葉6棟（大洞Ｃ2～Ａ式期)、台太郎遺跡で晩期後葉4棟（大洞Ｃ2～Ａ式）がある。

弥生時代は、前期や中期を中心とする土器の散布が確認されるに留まる。主な遺跡としては、飯岡沢田遺跡、本宮熊堂Ａ遺跡が挙げられる。

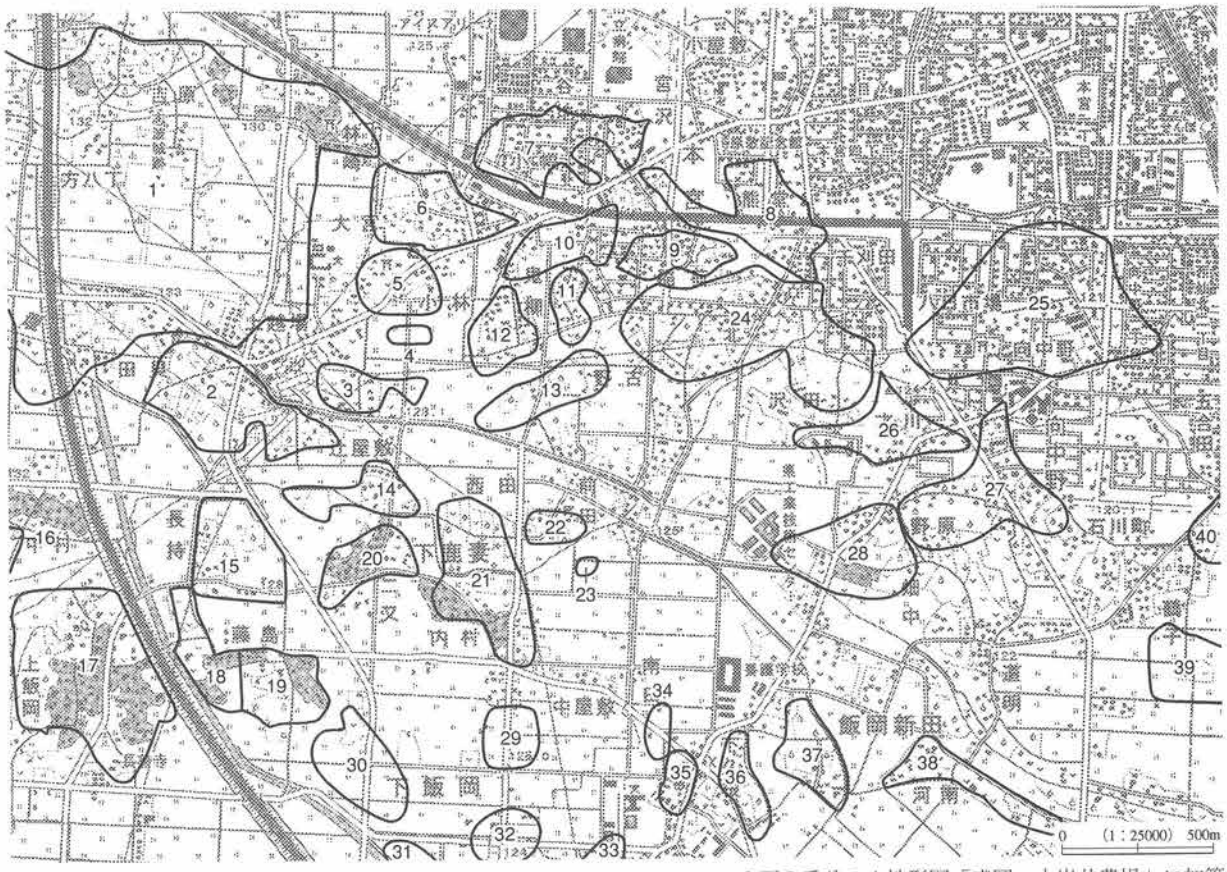
古代以降は多くの遺跡が分布する。本遺跡周辺に所在する主なものとして、小幅遺跡、本宮熊堂Ａ遺跡、本宮熊堂Ｂ遺跡、野古Ａ遺跡、飯岡沢田遺跡、台太郎遺跡、飯岡才川遺跡などが挙げられる。上記した遺跡の平成17年度段階での竪穴住居跡検出数をあげると、小幅遺跡40棟、本宮熊堂Ａ遺跡6棟、本宮熊堂Ｂ遺跡138棟、野古Ａ遺跡79棟、飯岡沢田遺跡31棟、台太郎遺跡619棟、飯岡才川遺跡34棟、細谷地遺跡112棟で、合せて1,000棟を超える。これらの遺跡は、志波城に先行する古墳から奈良時代の集落若しくは徳丹城へ城柵機能が移行後の9世紀中頃以降の集落遺跡で、特に後者は非常に多い。

中世・近世は認識されている遺跡数が少なく、実態が掴み難い。中世の調査事例としては台太郎遺跡、向中野遺跡、矢盛遺跡、近世は台太郎遺跡、小幅遺跡が挙げられる。

第１表　周辺の遺跡一覧

| No | 遺跡名 | 時　代 | 種　別 |
|---|---|---|---|
| 1 | 小沼 | 古代（平安） | 集落跡 |
| 2 | 石仏 | 古代 | 集落跡 |
| 3 | 水門 | 古代 | 集落跡 |
| 4 | 小林 | 古代 | 集落跡 |
| 5 | 大宮 | 古代・中世 | 集落跡 |
| 6 | 大宮北 | 古代 | 集落跡 |
| 7 | 小幅 | 古代 | 集落跡 |
| 8 | 本宮熊堂 | 縄文・古代 | 集落跡 |
| 9 | 稲荷 | 古代 | 集落跡 |
| 10 | 鬼柳Ａ | 古代 | 集落跡 |
| 11 | 鬼柳Ｃ | 古代 | 集落跡 |
| 12 | 鬼柳Ｂ | 古代 | 集落跡 |
| 13 | 野古Ｂ | 古代 | 散布地 |
| 14 | 上越場Ｂ | 古代 | 集落跡 |
| 15 | 辻屋敷 | 古代 | 集落跡 |
| 16 | 堤 | 縄文・古代 | 散布地 |
| 17 | 大柳Ⅰ | 古代 | 集落跡 |
| 18 | 藤島Ⅱ | 平安？ | 散布地 |
| 19 | 藤島 | 縄文・平安 | 集落跡 |
| 20 | 二又 | 古代・平安 | 散布地 |

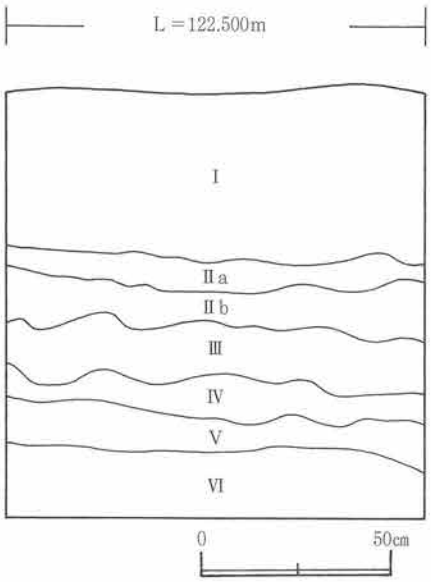
| No | 遺跡名 | 時　代 | 種　別 |
|---|---|---|---|
| 21 | 西田Ａ | 古代 | 集落跡 |
| 22 | 西田Ｂ | 古代 | 集落跡 |
| 23 | 前田 | 古代 | 集落跡 |
| 24 | 野古Ａ | 古代・平安 | 集落跡 |
| 25 | 台太郎 | 古代 | 集落跡 |
| 26 | 飯岡才川 | 古代 | 集落跡 |
| 27 | 細谷地 | 古代 | 集落跡 |
| 28 | 矢盛 | 古代 | 散布地 |
| 29 | 深淵Ⅰ | 古代・平安 | 集落跡 |
| 30 | 飯岡林崎Ⅱ | 古代 | 集落跡 |
| 31 | 飯岡林崎Ⅰ | 古代・平安 | 集落跡 |
| 32 | 深淵Ⅱ | 古代・平安 | 集落跡 |
| 33 | 西 | 古代・平安 | 集落跡 |
| 34 | 高屋敷Ⅰ | 古代 | 散布地 |
| 35 | 高屋敷Ⅱ | 古代・平安 | 散布地 |
| 36 | 下久根Ⅰ | 縄文・古代 | 散布地 |
| 37 | 石持 | 古代 | 散布地 |
| 38 | 夕覚 | 古代 | 散布地 |
| 39 | 向中野幅 | 古代 | 集落跡 |
| 40 | 南仙北 | 縄文・古代 | 散布地・集落跡 |




２万５千分の１地形図「盛岡・小岩井農場」に加筆

第３図　周辺の遺跡

## 3　基　本　層　序



第４図　基本土層

調査区は雫石川によって形成された低位段丘（砂礫段丘Ⅲ）上に立地しており、基盤の砂礫層をシルト層が覆っている。

Ⅰ層　暗褐色シルト（10YR3/3）表土・耕作土　粘性、しまりなし　木根はびこる　層厚10～20㎝

Ⅱａ層　黒褐色シルト（10YR2/2）粘性ややあり　しまり弱　埋没沢にのみ堆積する　層厚５～15㎝

Ⅱｂ層　黒褐色シルト（10YR2/2）Ⅱａ層より暗い　粘性あり　しまりややあり　調査区内にあまねく堆積していた可能性が高いが、標高のやや高いところや、畑地では削平されている。
埋没沢では本層上面が古代遺構の検出面　本層中に弥生土器包含層。層厚５～15㎝

Ⅲ層　暗褐色シルト（10YR3/3）下位はⅣ層の影響を受けやや明るい　粘性、しまりややあり　漸移層　Ⅱ層の削平されている箇所では遺構検出面　層厚５～10㎝

Ⅳ層　褐色シルト（10YR4/6）粘性、しまりあり　層厚15～20㎝　遺構最終検出面

Ⅴ層　褐色砂（10YR4/6）粘性なし　しまりあり　層厚10～40㎝

Ⅵ層　明黄褐色砂礫（10YR6/6）砂と円礫の混合層　礫の直径は１～10㎝の礫25%　層厚不明

現状の調査区内はおおむね平坦であるが、もともとは多少の起伏があったと思われる。調査区北東よりの段丘縁辺部（２Ｍ～３Ｍ付近）、西側の飛び地（５Ｌ付近）はⅠ層を除去すると礫層が露出している部分が見られる。Ⅱ～Ⅳ層がもともと薄かったとも考えられるが削平されたと見られ、現状よりやや高かった可能性がある。また、西側飛び地の（４L12ａグリッド付近）から調査区中央にかけて以下の沢状の地形が走っており、この沢付近では古代には窪地となっていた可能性が高い。（金子）

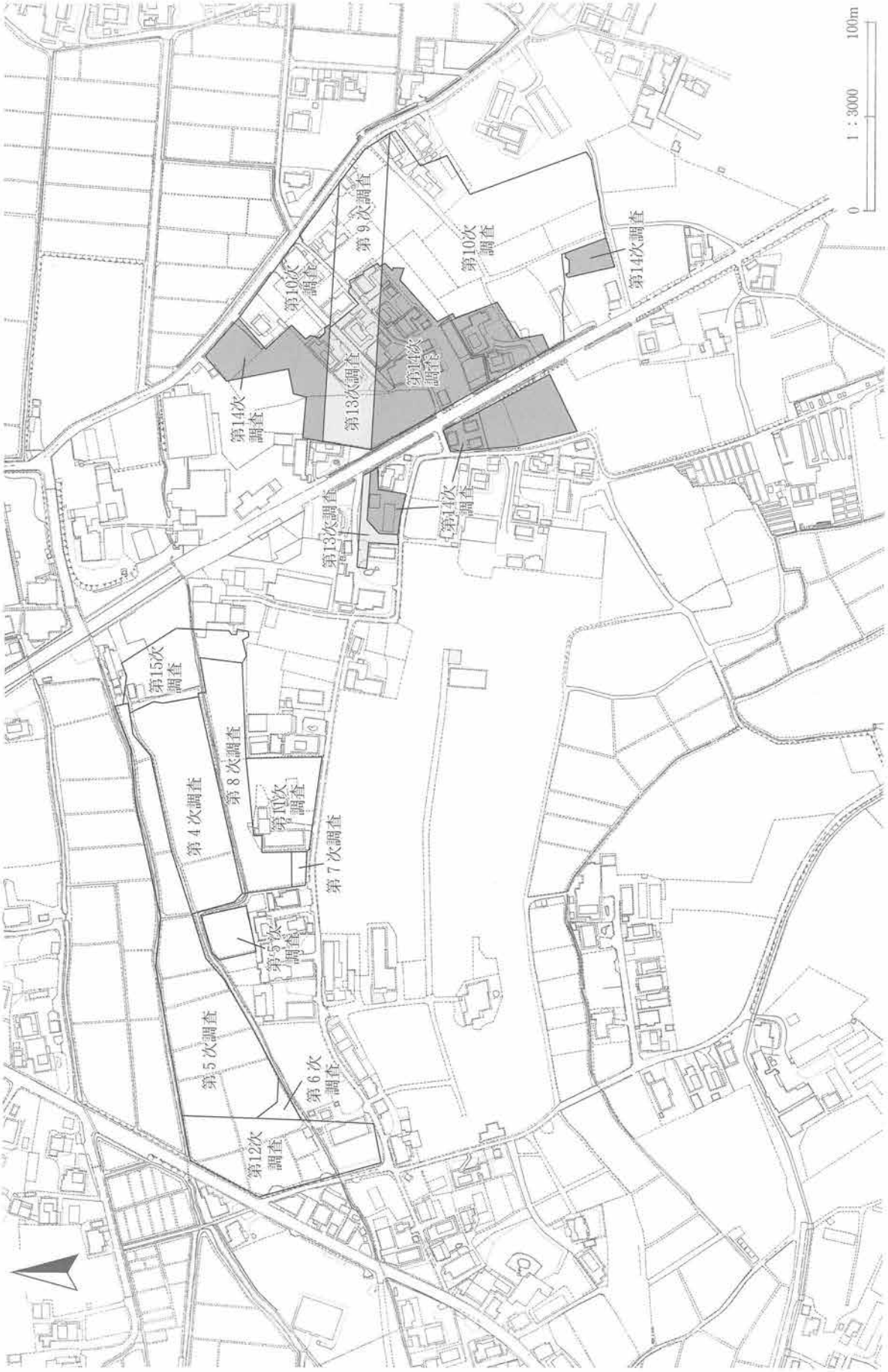
沢跡（第６図、写真図版４）

４Ｋ９ｓ～５N24qグリッドにかけて、帯状に延びる微低地を検出し、本稿では沢跡と呼ぶこととした。検出面は、地点により差異があるものの、概ねⅢ～Ⅴ層で確認される。

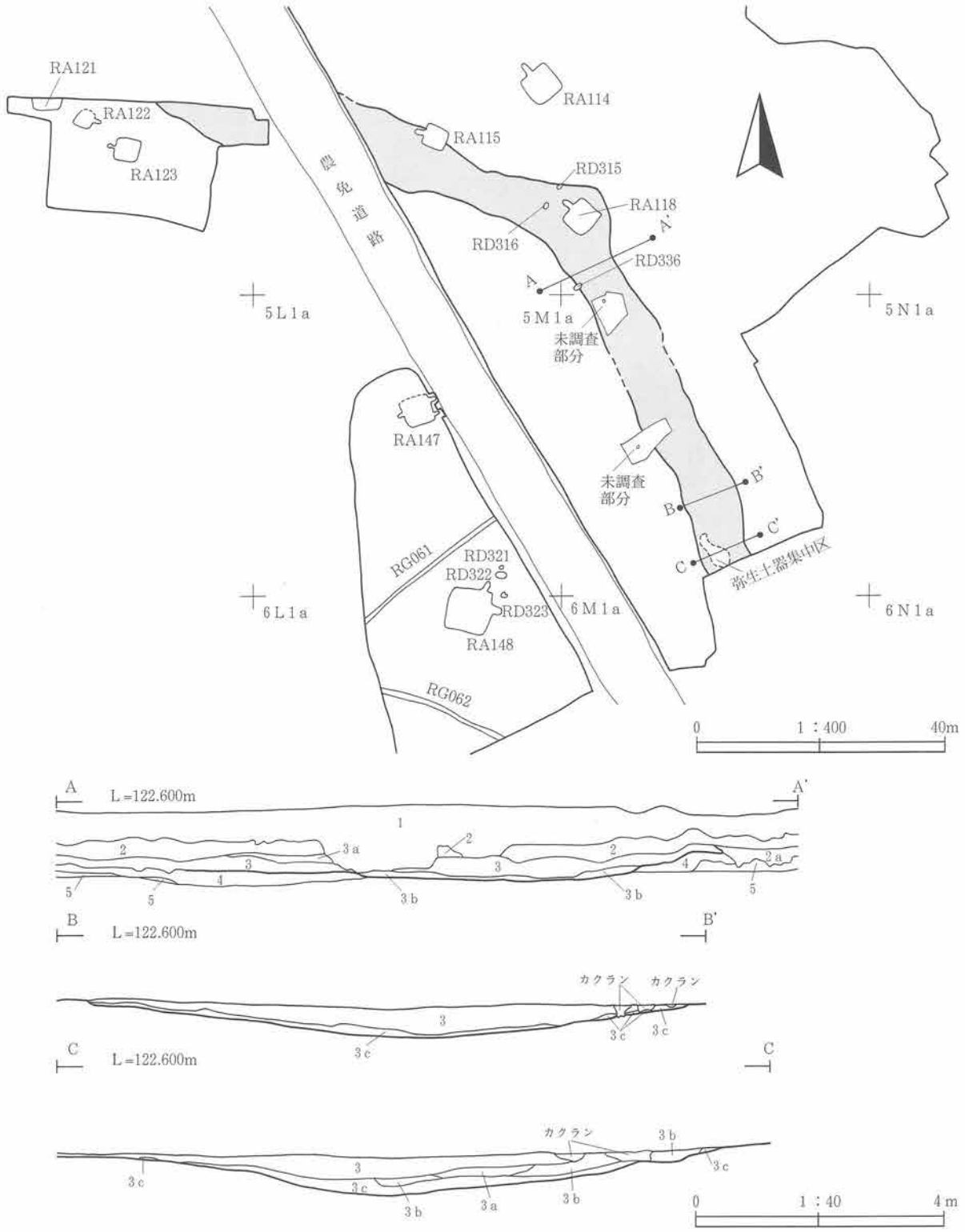
沢跡の延びる方向は、調査区北端からＮ－110°－Ｅで東へ向かい、途中Ｎ－155°－Ｅに方向を変え南に向かう。調査区内での総全長は130ｍで、上幅６～８ｍ、深さは0.6ｍ前後である。

この沢跡の埋土は、全体的に基本層序Ⅱ層に由来する黒色シルトを主体とし、埋没以前に随時流水があったとは捉えられない。ただし、南東端である５N24ｑグリッド付近に設定したＢ－Ｂ’・Ｃ－Ｃ’の土層観察からは、最下層に褐色の粘土質土（※３ｃ層と命名）が認められるが、この３ｃ層のあり方から降水などが集水された可能性は考えられようか。

この沢跡の埋没時期については、10次調査区の続きとなる南端部より、弥生時代後期の土器がまとまって出土している（※第６図で弥生土器集中区として示した地点）。このことから、弥生時代後期頃に埋没したことが窺える。また、奈良時代の竪穴住居跡はこの沢跡上に構築されているもの（RA115・118など）が認められるのに対して、平安時代の竪穴住居跡はこの沢跡の部分を回避して構築されていることが窺える。このことから、本遺跡の古代集落形成において、この沢跡が何らかの影響を及ぼしていることが考えられる。（星）




第５図　細谷地遺跡調査位置図




沢跡1号A－A'・B－B'・C－C'
1　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締りやや密　砂利・礫・現代遺物　(※現代の盛土層)　基本層序Ⅰ層
2　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締りやや密　(基本層序Ⅰ～Ⅱ層相当、旧表土か？)
2a　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締り中　褐粘土10%混入　(※基本層序Ⅰ～Ⅱ層、旧表土か？)
3　10YR2/1 黒　シルト　粘性やや強　締り中　(※沢の主堆積土　基本層序Ⅱ層、遺物は入らない、奈良よりも古い)
3a　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締り中　(※2層に類似する土質、基本層序Ⅱ層)
3b　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中　基本層序Ⅱ層
3c　104/6　褐　粘土質土　粘性やや強　締り密　(※掘った直前は明黄褐色で、酸化すると褐灰色に変色する)
4　10YR3/4 暗褐　シルト質粘土　粘性やや強　締り中　(※黒シルトと褐粘土の漸移層、基本層序Ⅲ層)
5　10YR4/6 褐粘土　粘性やや強　締り中　基本層序Ⅳ層

第6図　沢跡

## 4　これまでの調査

本遺跡は平成８年に盛岡市教育委員会が、土地区画整理事業に伴い試掘調査を行って以降、平成15年までに11回の試掘調査、本調査が行われている。第４次調査以降の本調査については財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターにより、調査報告書が刊行されている（第２表）。

平成12年の第４次調査、13年の第５次・第６次調査では、東西に伸びる本遺跡の主に西側計9,337㎡を調査している。その結果、東側の微高地において、平安時代の集落跡、西側の旧河道において、縄文時代の陥し穴状土坑、近世の遺構を検出した。平安時代の集落跡は竪穴住居跡39棟、掘立柱建物跡４棟、竪穴状遺構、土坑などから構成されており、９世紀後半～10世紀前半に営まれたものである。縄文時代の陥し穴状土坑は旧河道に挟まれた南北二つの微高地に分かれて配置されており、計23基検出された。水辺に集まる動物を対象とした罠猟が行われていたと考えられる。長軸方向が旧河道の方向と平行するものと、直交するものとがあることから、これらの方向の違いが時期差を反映している可能性があるのではないかと調査者は報告している。そのほか、この旧河道付近では近世と思われる井戸跡や掘立柱建物跡を検出している。遺物は縄文時代後晩期の土器片、石器、平安時代の土師器、須恵器、あかやき土器、鉄製品、石製品、土製品が出土している。土師器では内面に花弁状の暗文をもつ内黒の土師器坏が１点出土している。

平成15年度に行われた第７次・第８次調査では、第４次調査の南に隣接する区域2,638㎡の調査を行い、第４次調査区から連なる平安時代の集落跡を検出した。竪穴住居跡15棟、竪穴住居状遺構１棟、土坑17基のほか、調査区西端で、畝間の埋土に十和田ａ降下火山灰を含む畠状遺構が２箇所と、埋土に十和田ａ降下火山灰を含む杭列が検出されている。土坑では土器の焼成時に剥離した未成品の土師器甕破片を埋土に多く含む土器生産に伴うと思われる焼土坑が３基含まれている。

平成17年度に行われた第９次・第10次調査では、今回の調査区の東側にあたる遺跡東端の12,380㎡を調査し、平安時代の集落跡に加え、本遺跡で初めて縄文時代晩期前葉の集落跡、奈良時代の集落跡を検出した。

縄文時代の遺構は、竪穴住居跡１棟、フラスコ状土坑３基で、竪穴住居跡の埋土をマウンド状に人為的に埋め戻していること、副葬品と見られる土器の出土状況から、廃屋葬が行われた可能性がある。

奈良時代の遺構は竪穴住居跡11棟ほかで、埋没した沢に沿って分布している。時期は８世紀後半と考えられる。

平安時代の遺構は竪穴住居跡45棟、掘立柱建物跡１棟のほか多数の土坑、溝跡等である。調査区西よりと段丘縁辺を除く全域に分布しているが、場所によって粗密がある。広場のような遺構のない空間があり、その周辺に大型の住居跡や墓壙と見られる施設、掘立柱建物跡といった特殊な遺構が検出された。この調査でも８次調査と同様、焼成時の破損品と見られる土器破片を多く含む焼土坑が、２基検出された。特殊な遺物では小形の軒平瓦のような土製品、樹木様の文様を刻んだ両面黒色処理の土師器埦が出土している。集落の時期は９世紀後半～10世紀中葉と考えられる。

以上のように遺跡の西側では、縄文時代後晩期と思われる陥し穴状土坑の築かれる狩猟場と近世の掘立柱建物跡が旧河道に、９世紀後半～10世紀前半の平安時代の集落跡が低位段丘縁辺の微高地上に営まれ、遺跡の東端では縄文時代晩期前葉、８世紀後半の奈良時代の集落、９世紀後半～10世紀中葉までの平安時代の集落跡が低位段丘上に営まれていたことがわかっている。　（金子佐）

## 参考引用文献

※（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター→岩手埋文
　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書→岩手埋文報告書と略


岩手県企画開発室　1974　『北上川系開発地域土地分類基本調査―日詰―』
　　1978　『北上川系開発地域土地分類基本調査―盛岡―』
岩手埋文　2003　『細谷地遺跡発掘調査報告書－第４・５次調査－』岩手埋文報告書第414集
岩手埋文　2004　『細谷地遺跡第８次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第454集
岩手埋文　2005　『台太郎遺跡第51次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第468集
岩手埋文　2007　『細谷地遺跡第９次・10次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第500集
岩手埋文　2007　『本宮熊堂Ａ遺跡第26・29次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第502集
中川久夫ほか　1963　「北上川上流沿岸の第四系および地形」『地質学雑誌』69　PP163～171
盛岡市教育委員会　2006　『盛岡市遺跡群－平成17年度発掘調査報告－宿田遺跡』


### 第２表　これまでの調査一覧

| 調査次数 | 委託者 | 種類 | 調査期間 | 調査主体 | 報告書 | 検出遺構 | 出土遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 個人 | 試掘 | 86. 7. 21 | 盛岡市教育委員会 | | 土坑１（平安） | |
| 2 | | 試掘 | 平成８年度 | 盛岡市教育委員会 | | | |
| 3 | | 不明 | | 盛岡市教育委員会 | | | |
| 4 | 盛岡市 | 本調査 | 00. 06. 14～11. 08 | （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第414集 | 竪穴住居跡39棟（平安）　掘立柱建物跡６棟（平安４　近世２）竪穴状遺構５基　土坑112基　陥し穴状土坑23基（縄文）　焼土遺構１基（平安）　溝跡22条（平安近世）　井戸跡２基（近世）カマド状遺構２基　畝間状遺構１基　柱穴状ピット238基 | 縄文土器（後晩期）・剥片石器・土師器・須恵器・あかやき土器・鉄製品（刀子・釘・鉄鏃・手鎌・足金具）・石製品（砥石・磨石・台石・石錘）・土製品（羽口・土錘・紡錘車）・陶磁器（近世）・古銭（寛永通宝）・木製品（曲げ物・杭） |
| 5 | 盛岡市 | 〃 | 01. 04. 16～07. 31 | 同上 | 同上 | | |
| 6 | 公団 | 〃 | 01. 5. 22～06. 05 | 同上 | 同　第397集 | | |
| 7 | 盛岡市 | 〃 | 03. 10. 01～10. 31 | 同上 | 同　第455集 | なし | なし |
| 8 | 盛岡市 | 〃 | 05. 07. 01～11. 07 | 同上 | 同　第454集 | 竪穴住居跡16棟（平安）　畠状遺構２箇所（平安）　柱列１条（平安）　土器焼成土坑４基（平安）　土坑13基 | 土師器・須恵器・鉄製品（鉄鎌、刀子、鉸具、鉄鏃） |
| 9 | 都市機構 | 〃 | 05. 04. 12～11. 18 | 同上 | 同　第500集 | 竪穴住居跡47棟（縄文１　奈良11　平安45）　掘立柱建物跡２棟（平安１　近世１）　土坑70基　墓壙２基、溝跡21条　畝間状遺構１箇所　柱穴群 | 縄文土器（後晩期）・剥片石器・弥生土器・土師器・須恵器・鉄製品（刀子・鉄鏃・穂摘具・鉄鐸・鈎針・小刀）・石製品（砥石・鉄砧石）・土製品（羽口・土錘・瓦）・陶磁器（近世）・古銭（永楽通宝・寛永通宝） |
| 10 | 盛岡市 | 〃 | 同上 | 同上 | 同　第500集 | | |
| 11 | 盛岡市 | 〃 | 05. 04. 11～05. 20 | 盛岡市教育委員会 | 未刊 | 竪穴住居跡４棟（平安）　畑畝間（平安） | |
| 12 | 国土交通省 | 〃 | 06. 04. 10～06. 15 | （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | 今年度 | 陥し穴状遺構11（縄文）　掘立柱建物跡（近世）　墓壙（近世） | |

# Ⅲ　野外調査と室内整理の方法

## 1　野外調査の方法

### （1）調　査　面　積

調査面積は第13次調査が2,530㎡、第14次調査が当初７,958㎡である。

### （2）調査区の区割設定

細谷地遺跡の区割設定は、盛岡市教育委員会の方針に準じ、平面直角座標第Ｘ系を座標変換した調査座標を用いた。細谷地遺跡の調査座標原点をＸ＝－35,000.000、Ｙ＝26,000.000（日本測地系）に設け、ここを基点として一辺50mの大グリッドを設定し、さらにこれを一辺２mの小グリッドに区割した。大グリッドは原点から南に算用数字の１・２・３・・・、東にアルファベットのＡ・Ｂ・Ｃ・・・と付し、「１Ａ」「２Ａ」のようにあらわした。小グリッドは北から南へ算用数字の１～25、西から東へアルファベットのａ～ｙを付し、「１Ａ１ａ」「１Ａ１ｂ」のようにあらわした。

実際の区画設定には以下の基準点３点を打設して、これを用いた。

基準杭１　Ｘ＝－36,150.000　Ｙ＝26,600.000　Ｈ＝122.115m（日本測地系）グリッド　４Ｍ１ａ
　　Ｘ＝－35,842.3134　Ｙ＝26,300.4036（世界測地系）
基準杭２　Ｘ＝－36,170.000　Ｙ＝26,600.000　Ｈ＝121.796m（日本測地系）グリッド　４Ｍ11ａ
　　Ｘ＝－35,862.3135　Ｙ＝26,300.4035（世界測地系）
基準杭３　Ｘ＝－36,170.000　Ｙ＝26,570.000　Ｈ＝121.965m（日本測地系）グリッド　４Ｌ11ｋ
　　Ｘ＝－35,862.3135　Ｙ＝26,270.4042（世界測地系）

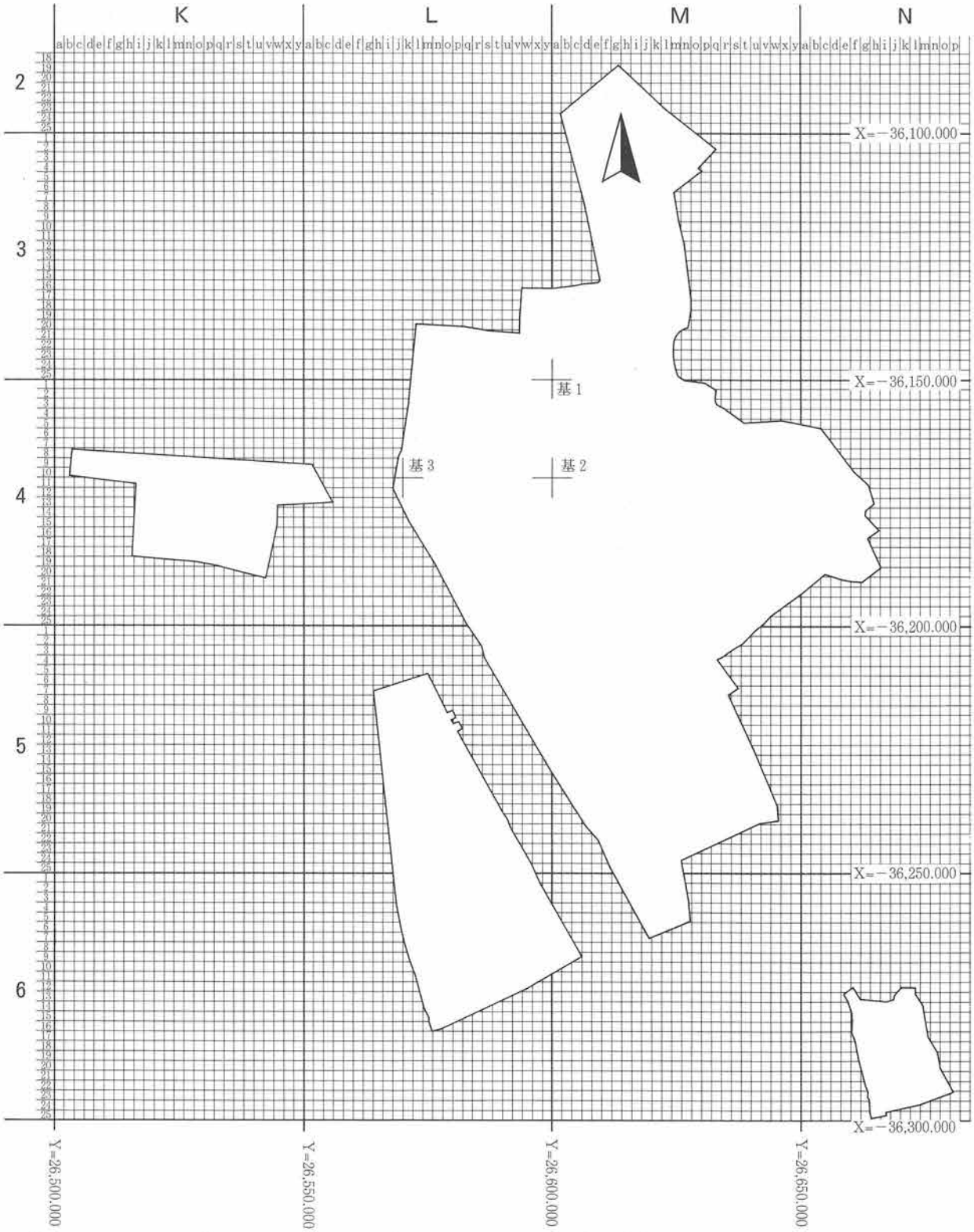
### （3）粗掘り・遺構検出

はじめに調査区内に試掘トレンチを設定し、人力で掘削して土層の堆積状況及び遺構検出面を確認した。埋没沢状の地形部分を除いてⅡ層及びⅢ層が削平されているか、耕作のため撹乱が激しいことがわかり、重機（バックホー）を用いて表土および撹乱層を除去した。表土除去後、人力で鋤簾、移植ヘラを用いて遺構の検出を行った。

### （4）遺 構 の 命 名

検出された遺構は、検出順に○号住、○号土坑などと命名したが、報告書では盛岡市教育委員会の方法に準じ、以下のとおりにつけなおしている。なお、野外調査、室内整理ともに旧遺構名で行っており、図面表記、遺物の注記などは旧遺構名である。遺構名対照表を掲げておく。柱穴状土坑はこれと別にPP１から検出順に番号を付した。

竪穴住居跡・・・RA　掘立柱建物跡・・・RB　柱穴列・・・RC　土坑・・・RD
焼土遺構・・・RF　溝跡・・・RG　その他の遺構・・・RZ




基1
X=−36,150.000
Y= 26,600.000
Z= 122.115m

基2
X=−36,170.000
Y= 26,600.000
Z= 121.796m

基3
X=−36,170.000
Y= 26,570.000
Z= 121.965m

※ 左記の数値は日本測地系による。

0　（1：1,200）　50m

第7図　グリッド配置図

## （5）精　　査

竪穴住居跡の場合はQ１～Q４に４分割したラインに沿って十字に幅25～40㎝程度のトレンチをあけ、土層の堆積状況を把握した上で、上層から１層ずつ掘り下げ、埋土中および貼り床内の遺物は層ごとに取り上げた。床面や住居内の土坑などから出土した遺物、埋土中であっても、出土状況に意味のありそうな遺物はそれぞれ連番をつけて取り上げている。

なお、埋土下層から多くの炭化種実を出土したRA132竪穴住居跡の精査の方法は、遺構本文中に記している。

土坑は２分割して、原則として底面などの遺物は残して埋土で取り上げ、土層記録後に、残る半分

**第３表　遺構名対照表**

| 竪穴住居跡 | |
|---|---|
| 報告名 | 旧遺構名 |
| RA074 | 35号住 |
| RA113 | 16号住 |
| RA114 | １号住 |
| RA115 | ２号住 |
| RA116 | 39号住 |
| RA117 | 31号住 |
| RA118 | ４号住 |
| RA119 | 26号住 |
| RA120 | 38号住 |
| RA121 | 13号住 |
| RA122 | 14号住 |
| RA123 | 15号住 |
| RA124 | 22号住 |
| RA125 | 18号住 |
| RA126 | 23号住 |
| RA127 | 19号住 |
| RA128 | 27号住 |
| RA129 | 20号住 |
| RA130 | 24号住 |
| RA131 | 11号住 |
| RA132 | 17号住 |
| RA133 | ５号住 |
| RA134 | ３号住 |
| RA135 | ７号住 |
| RA136 | ９号住 |
| RA137 | ８号住 |
| RA138 | 21号住 |
| RA139 | 32号住 |
| RA140 | 30号住 |
| RA141 | 33号住 |
| RA142 | 34号住 |
| RA143 | 36号住 |
| RA144 | 29号住 |
| RA145 | 25号住 |
| RA146 | 12号住 |
| RA147 | 28号住 |
| RA148 | ６号住 |
| RA149 | 10号住 |

| 掘立柱建物跡 | |
|---|---|
| 報告名 | 旧遺構名 |
| RB018 | ２号掘立柱建物跡 |
| RB019 | １号掘立柱建物跡 |

| 柱穴列 | |
|---|---|
| 報告名 | 旧遺構名 |
| RC002 | １号柱穴列 |

| 土　　坑 | |
|---|---|
| 報告名 | 旧遺構名 |
| RD272 | 54号土坑 |
| RD273 | 46号土坑 |
| RD274 | 41号土坑 |
| RD275 | 53号土坑 |
| RD276 | 48号土坑 |
| RD277 | 52号土坑 |
| RD278 | 51号土坑 |
| RD279 | 49号土坑 |
| RD280 | 35号土坑 |
| RD281 | 38号土坑 |
| RD282 | 39号土坑 |
| RD283 | 34号土坑 |
| RD284 | 24号土坑 |
| RD285 | 22号土坑 |
| RD286 | 30号土坑 |
| RD287 | 31号土坑 |
| RD288 | ２号土坑 |
| RD289 | 20号土坑 |
| RD290 | 19号土坑 |
| RD291 | 21号土坑 |
| RD292 | 36号土坑 |
| RD293 | 40号土坑 |
| RD294 | 17号土坑 |
| RD295 | ８号土坑 |
| RD296 | 16号土坑 |
| RD297 | 57号土坑 |
| RD298 | 15号土坑 |
| RD299 | ５号土坑 |
| RD300 | ６号土坑 |
| RD301 | ４号土坑 |
| RD302 | ３号土坑 |
| RD303 | 43号土坑 |
| RD304 | 44号土坑 |
| RD305 | 42号土坑 |
| RD306 | 12号土坑 |
| RD307 | 60号土坑 |
| RD308 | 59号土坑 |
| RD309 | 58号土坑 |
| RD310 | 47号土坑 |
| RD311 | 71号土坑 |
| RD312 | 62号土坑 |
| RD313 | 68号土坑 |
| RD314 | 45号土坑 |
| RD315 | 13号土坑 |
| RD316 | 14号土坑 |
| RD317 | 69号土坑 |
| RD318 | 70号土坑 |
| RD319 | 63号土坑 |

| 土　　坑 | |
|---|---|
| 報告名 | 旧遺構名 |
| RD320 | 33号土坑 |
| RD321 | ９号土坑 |
| RD322 | 10号土坑 |
| RD323 | 11号土坑 |
| RD324 | 18号土坑 |
| RD325 | 25号土坑 |
| RD326 | 29号土坑 |
| RD327 | 26号土坑 |
| RD328 | 32号土坑 |
| RD329 | 27号土坑 |
| RD330 | 28号土坑 |
| RD331 | ７号土坑 |
| RD332 | １号土坑 |
| RD333 | 23号土坑 |
| RD334 | 65号土坑 |
| RD335 | 66号土坑 |
| RD336 | 67号土坑 |
| RD337 | 55号土坑 |

| 竪穴状遺構 | |
|---|---|
| 報告名 | 旧遺構名 |
| RE007 | １号竪穴状遺構 |
| RE008 | ２号竪穴状遺構 |
| RE009 | 37号住 |
| RE010 | ３号竪穴状遺構 |

| 溝　　跡 | |
|---|---|
| 報告名 | 旧遺構名 |
| RG022 | 15号溝跡 |
| RG027 | 14号溝跡 |
| RG027 | 16号溝跡 |
| RG058 | １号溝跡 |
| RG059 | ４号溝跡 |
| RG060 | ２号溝跡 |
| RG061 | ３号溝跡 |
| RG062 | 12号溝跡 |
| RG063 | 17号溝跡 |
| RG064 | ７号溝跡 |
| RG065 | ８号溝跡 |
| RG066 | 13号溝跡 |
| RG067 | ６号溝跡 |
| RG068 | 10号溝跡 |
| RG069 | ５号溝跡 |
| RG070 | 11号溝跡 |
| RG071 | 20号溝跡 |
| RG072 | 19号溝跡 |
| RG073 | 18号溝跡 |
| RG074 | ９号溝跡 |

を精査する際に層ごとに取り上げた。

焼土や住居跡のカマドは検出状態の記録を作成後に断ち割り、断面図を作成した。

実測は簡易遣り方測量で行った。現場で作成した実測図は平面図、断面図ともに基本的に1/20で作成したが、カマドや焼土があるもの、微細な遺物の出土状況に関しては1/10で作成している。

写真撮影は、6×7㎝版のモノクローム1台と35㎜版モノクローム1台、35㎜版リバーサル1台、デジタルカメラの4台で行った。原則として報告書掲載用の写真はすべてを使ったが、遺物出土状況のアップ、柱穴などに関しては6×7㎝版、35㎜版リバーサルを省略したものもある。デジタルカメラは、すべてのカットについて撮影したほか、メモ的な写真にも活用している。デジタルカメラの写真は主に遺跡報告会や現地説明会資料、遺跡情報（財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターホームページに掲載）などに使用している。航空写真撮影は調査終了部分を排土置き場とするため、9月4日と11月16日の2回にわたって、セスナ機により行ない、6×7㎝版、35㎜版リバーサルの2種類を撮影した。

### （6）普　及　活　動

今年度は本遺跡を会場に以下の普及活動を行った。

- 遺跡の現地説明会　　9月2日（土）午後1時30分～　参加者59名
- 教員ボランティア研修　　8月8日（火）　　参加者3名
- 中学生職場体験　　8月24日（木）　　参加者6名
- 発掘体験事業　　8月5日（土）　　参加者15名
- ホームページによる発掘調査の進捗状況や現在精査中の遺構についての情報公開

## 2　室　内　整　理

### （1）遺　物　の　整　理

今回の調査で出土した遺物は、土師器・須恵器が当センターの収納用大コンテナ（容量40ℓ）で12箱、弥生土器が9号袋で1袋、石器・石製品が大コンテナ2.5箱、鉄製品が大コンテナ0.3箱、古銭、銅製品が大コンテナ0.2箱、土製品が大コンテナ0.3箱、鉄滓が大コンテナ0.3箱、炭化種実が大コンテナ3箱である。これらの水洗は野外調査の雨天時や室内整理作業員が行った。

その後、土器については袋ごとに遺物番号を付け、重量を計測した上で、手書きやジェットマーカーで注記を行い、接合後、掲載遺物を選別した。接合は、土師器については隣り合った数棟の竪穴住居跡や土坑などの遺構内で行った。須恵器は遺跡全体で遺構間接合を行ったほか、第9次・第10次調査出土土器とも接合を試みている。

土器は原則として、口径、底径が1/4以上あるものを掲載したが、破片であっても、他に遺物がない場合、遺構内で他に例のない種類の遺物については掲載している。これらは、必要に応じ石膏で復元後、実測、底部等の採拓、石膏部分の彩色、写真撮影、実測図トレースを行った。図版中の表現は凡例のとおりである。

石器は全点登録した。剥片や破片は主に打点を有し、素材形状の分かるものを掲載した。礫は炭化物等付着物の確認できる資料を掲載した。上記以外の石器・石製品は全点掲載した。

鉄製品は、現代のものと思われるものを除き、全点掲載した。まず、簡単に泥を落とした後、ソフトエックス線撮影を行い、もとの形状を確認した。そのうえで、錆を落とし、実測・トレース・写真

撮影を行った。その後、岩手県立博物館に委託し、保存処理を行った。

土製品は全点掲載し、実測・トレース・写真撮影を行った。

古銭、胴鏡、キセルなど近世墓から出土した遺物は、改葬前に参考資料として採拓、実測、写真撮影計測を行った。その後、遺骨とともに改葬した。

炭化種実、鉄滓は水洗い後、肉眼で分類し、それぞれ計測、写真撮影を行った。その方法については出土した遺構、遺物の項で詳しく述べている。また、サンプルの同定を委託した（付編２）。

以上の工程を経て遺物図版、遺物写真図版を作成している。

## （２）遺構実測図の整理

実測した図面は、平面図、断面図を照合し必要に応じ合成して第二原図を作成し、トレースをして版組みを行った。図面は第一原図、第二原図とも番号を付し、台帳を作成して収納した。図版中の、焼土、炭等の表現は第８図のとおりである。

## （３）写真類の整理

撮影した遺構写真は、６×７㎝版モノクローム、35㎜版モノクローム、35㎜版リバーサルの種類ごとにアルバムに整理し、撮影カード順の写真台帳を作成した。航空写真は６×７㎝版及び35㎜、遺構写真図版は６×７㎝版を主に選んで焼き付け、写真図版を作成している。

遺物写真は、当センターの写真技師により原則として１点ごとに撮影番号を付して撮影した。これらを掲載縮尺に焼付け、掲載番号順に写真図版を作成した。（金子）

### 凡　例

1　本報告書に掲載した遺構図の方位は平面直角座標第Ｘ系の座標北を、遺構図の水糸レベルは海抜高度を示す。

2　遺跡内に設けた基準点の成果は、日本測地系における値である。

3　遺構図の縮尺は、住居跡、掘立柱建物跡、柱穴列、竪穴状遺構が１/50、土坑１/40、溝跡平面１/100、断面１/50である。住居跡のカマドは必要に応じ１/25で掲載した。柱穴群の平面図は、１/80である。なお、土器の出土状況など必要に応じ縮尺を変えて掲載しているものもあるが、縮尺率を表示している。

4　遺構名は、野外調査及び室内整理の段階では、検出順に○号住、○号土坑などと名を付していたが、報告では盛岡市教育委員会の命名方法に従い、遺構ごとの連番に付け替えている（第３表参照)。なお、本文及び図版中には旧遺構名も併記している。

5　層名は沢跡を除き基本層序にはローマ数字を、遺構の埋土にはアラビア数字を用いた。

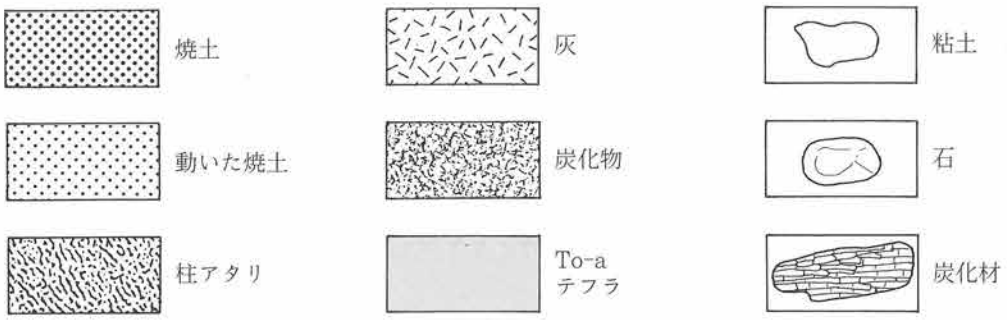
6　土層の色調、混入物の面積割合及び構造は、農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』によった。

7　遺物実測図の縮尺は、土器１/３、石器１/３、ガラス製品１/１、金属製品・土製品１/２、銭貨１/２、陶磁器１/２である。

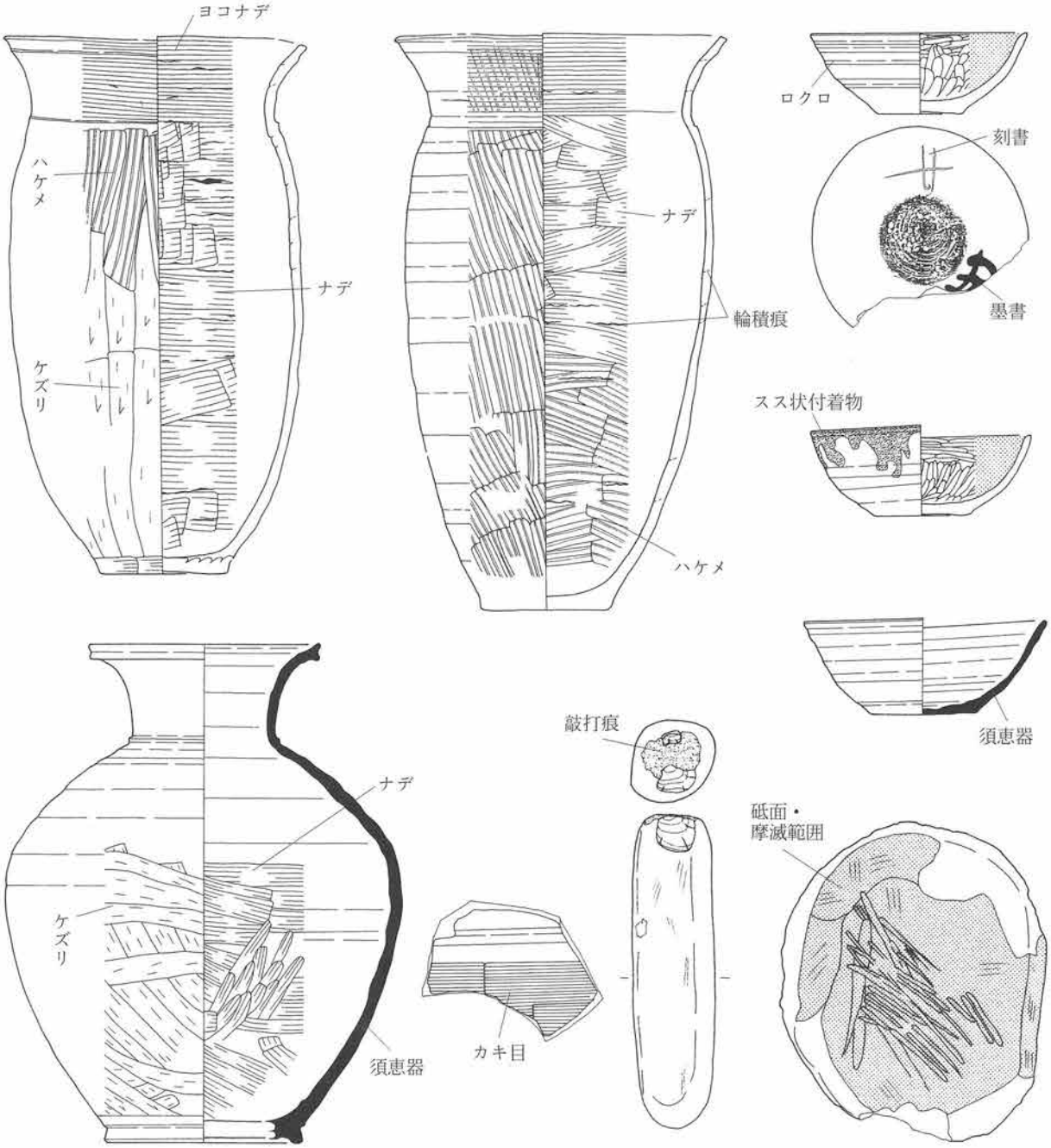
8　遺物写真図版の縮尺は、遺物実測図の縮尺にほぼ準じている。

9　十和田a降下火山灰、粉状パミス、灰白色火山灰、To－aテフラなどの名称で呼ばれる灰白色の火山灰は、文中ではすべてTo－aテフラ、図中ではTo－aと表記している。

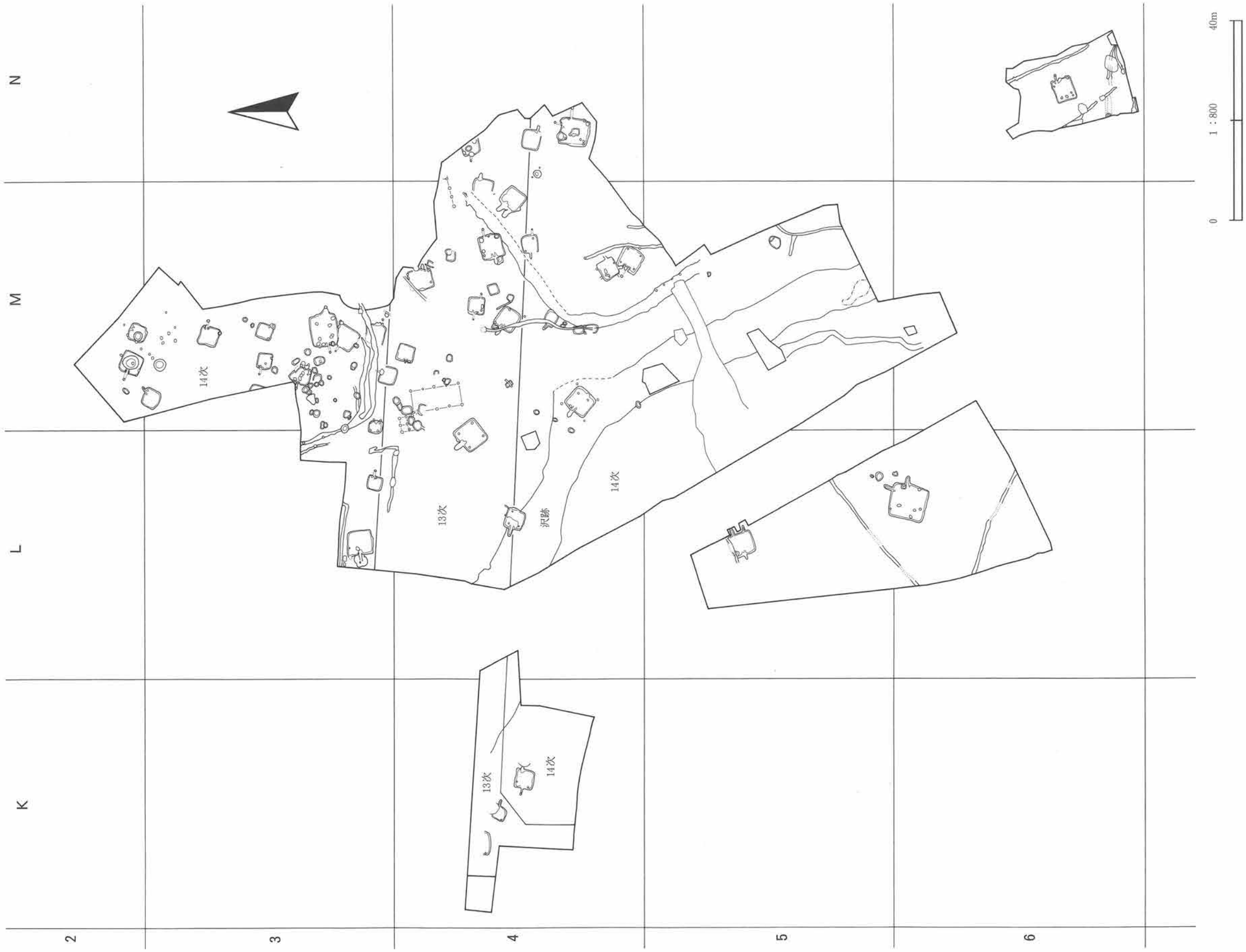
遺構図版



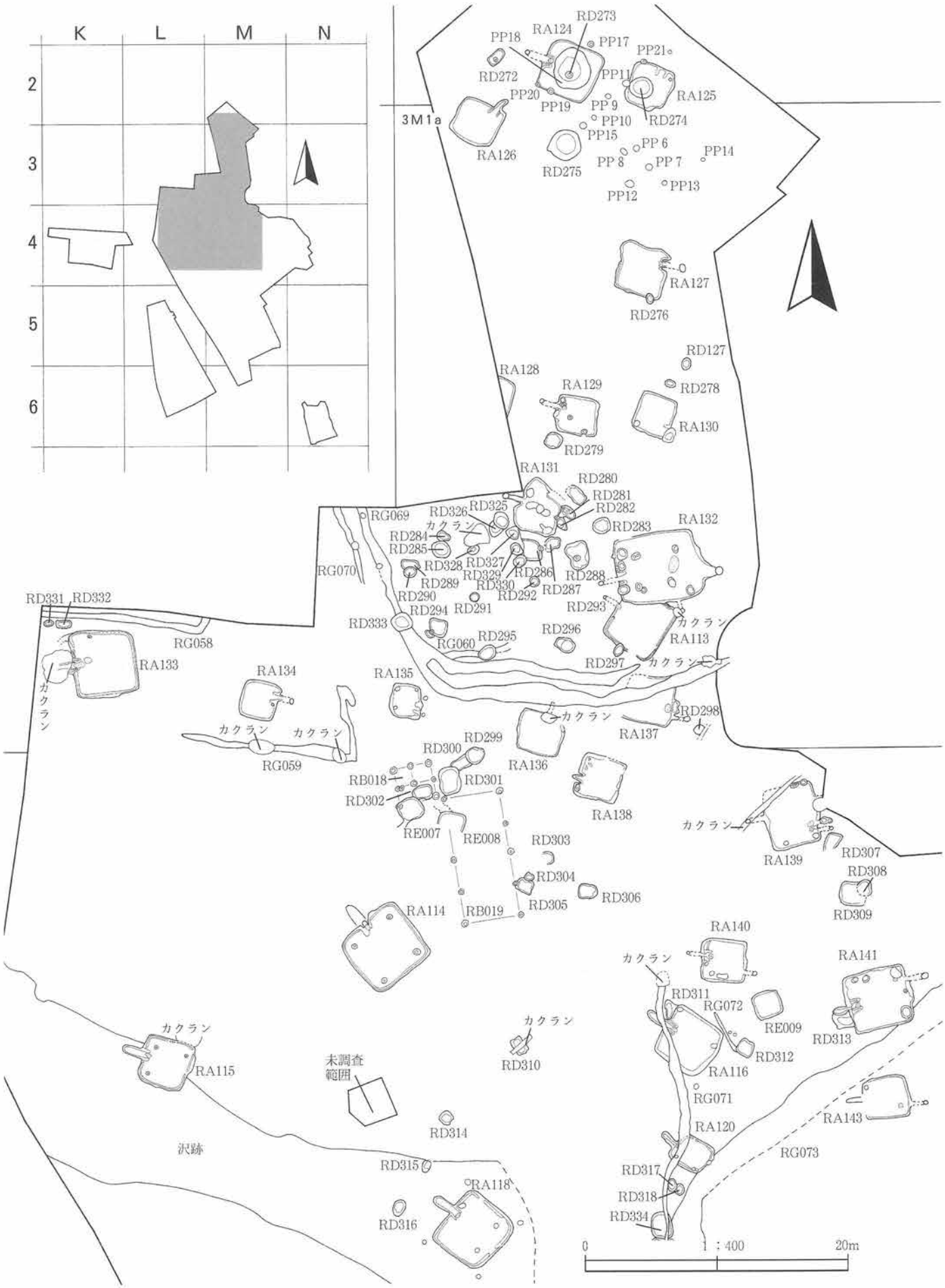

遺物図版



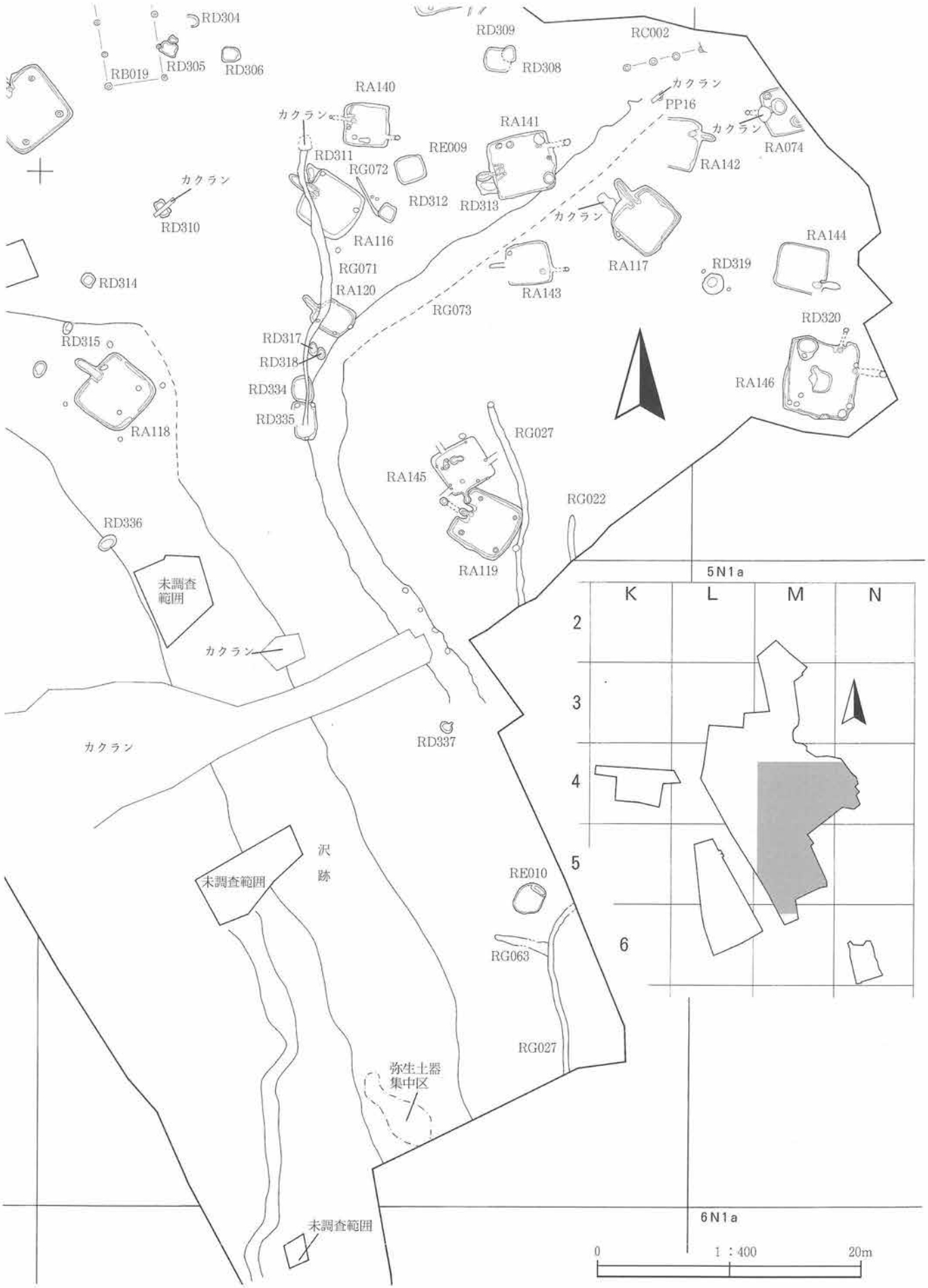

第8図　実測図凡例



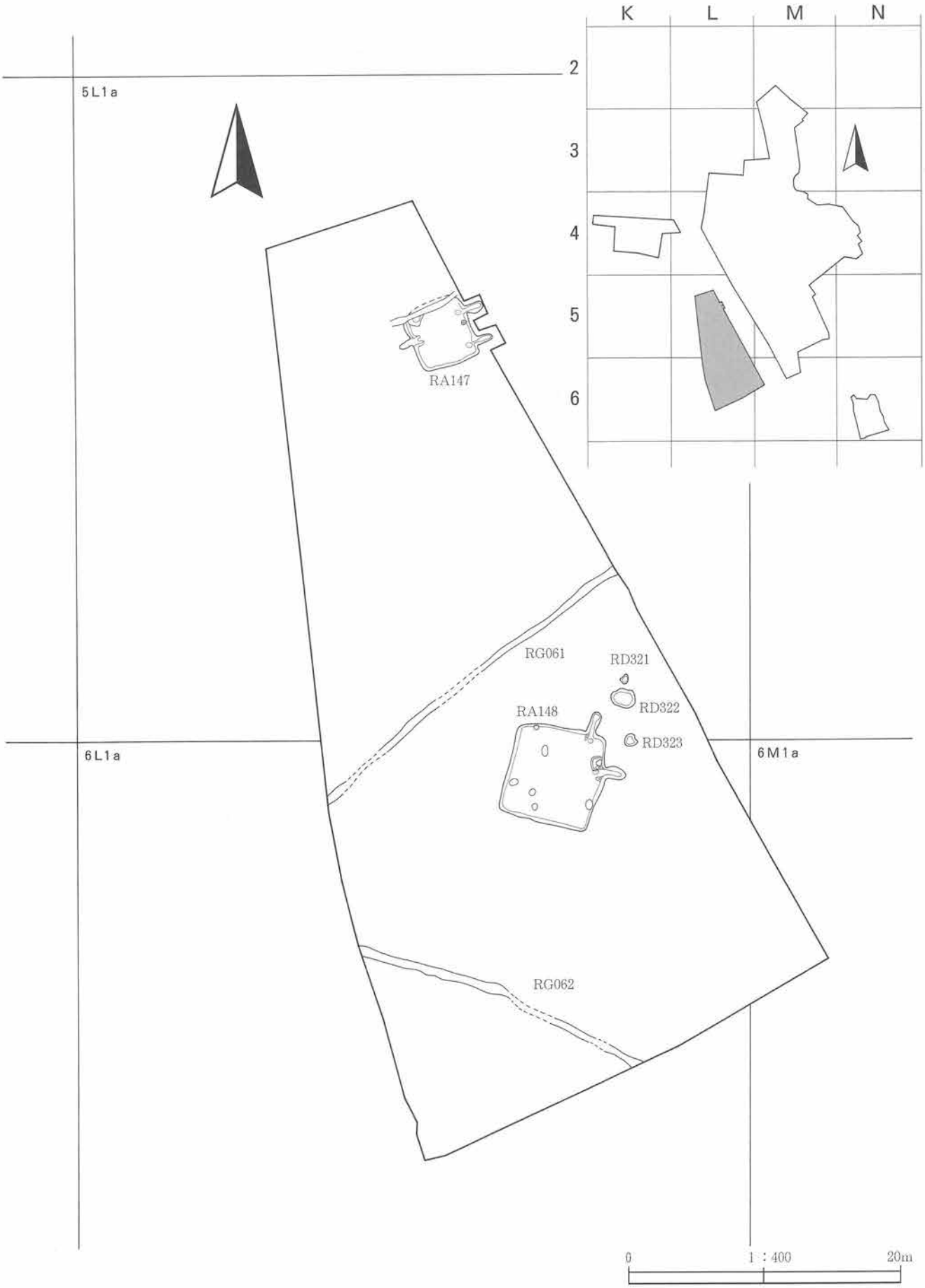

第９図　構配置図１（全体図）



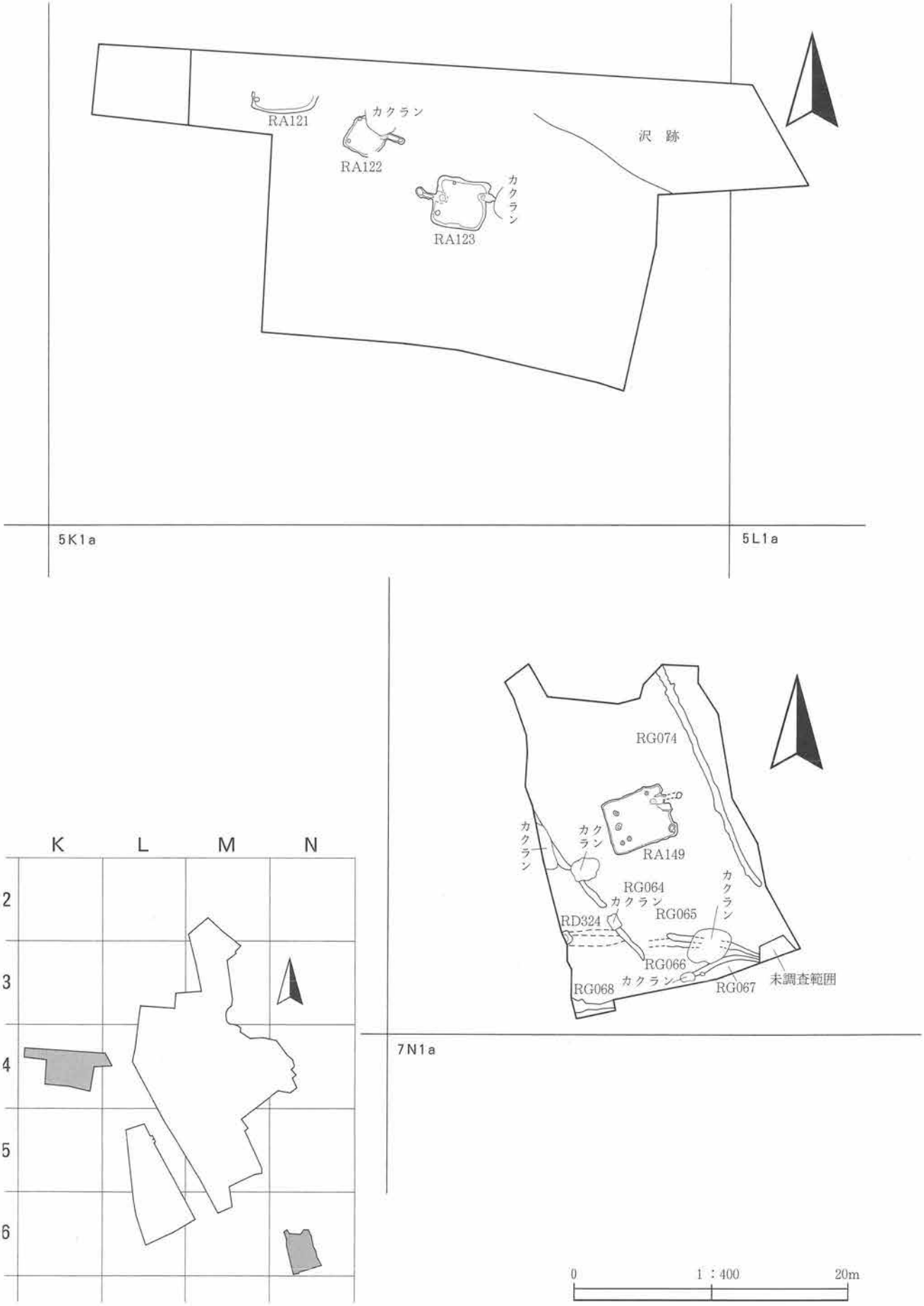

第10図　遺構配置図２（拡大図）




第11図　遺構配置図３（拡大図）




第12図　遺構配置図４（拡大図）




第13図　遺構配置図５（拡大図）

# Ⅳ　検出された遺構

## 1　調査の概要

今回の細谷地遺跡第13次・第14次調査の調査区は低位の沖積段丘の縁辺よりやや内側である。調査区の西側飛び地から中央調査区南端にむけて沢跡が１条延びており、もともとは若干窪地となっていたものと思われる。沢跡の西側は標高がやや高く、表土を除去すると礫層が露出している部分も多い。沢跡の東側は第９次・第10次調査区で検出されたもう１本東側の南北方向の沢跡に至るまで平坦である。

今回検出した遺構は奈良時代の竪穴住居跡８棟、平安時代30棟、平安時代の掘立柱建物跡２棟、平安時代の柱穴列１条、土坑57基（平安時代24基、古代22基、近世以降２基、近現代３基ほか）、墓壙８基（近世及び近世以降）、竪穴状遺構４基（平安時代３基、不明１基）、溝跡20条（古代14条、近世２条、不明４条）、柱穴状土坑11個である。

奈良時代の竪穴住居跡は沢跡の中から東側に分布する。一方、平安時代の手他穴住居跡は調査区全域に広がるものの、沢跡周辺には分布しておらず、やや北よりの段丘縁辺部に近い場所や東側の平坦地に多い。（金子）

## 2　竪穴住居跡

**RA074竪穴住居跡（35号住）**（第14図、写真図版５）

＜位置・検出状況＞調査区東端の４Ｎ８ｃグリッド周辺に位置する。本住居跡は本年度調査区の東端にあり、東半が第９次調査区に延びていて、その部分は平成17年度に調査済みである。検出はⅣ層上で行った。井戸と水道管の撹乱でカマドと煙道の一部が破壊されている。

＜重複関係＞ない。

＜規模・平面形状＞隅丸方形を呈する。一辺の長さは4.1×3.8m、壁高は25cmである。主軸方向はN－103°－Wである。

＜埋土＞６層に細分され、締りのない黒褐色土が大部分である。上層にTo－ａテフラと見られる粒がごくわずかに含まれる。

＜床面・掘り方・貼り床＞カマド燃焼部より東側の床面に貼り床が検出されなかった。この部分の直上には粘性に富み、しまりのない黒色土が堆積しており、少し凹んでいる。そのほかの部分は平坦で、貼り床が施され、硬く締る。

＜壁・壁溝＞壁は外傾して立ち上がる。壁溝はない。

＜柱穴＞南西隅に柱穴と思われる小穴が１個検出されたほかは、第９次調査部分も含め、検出されなかった。

＜カマド＞西壁の中央よりやや北よりに位置するが、現代の井戸により破壊されている。袖、天井等は確認されなかった。燃焼部は径35×45cm以上の楕円形に焼土が形成されている。焼土の厚さは最大15cmである。煙道も上面が水道管で破壊され、掘り込み式か、刳り貫き式かわからない。埋土には焼土ブロックや炭粉が含まれる。煙道の方向はN－100°－Wである。

＜付属施設＞３基の土坑がある。うち１基は第９次調査で調査したものである。土坑１は住居北西隅

に、土坑2は南壁よりに位置する。土坑2からは第9次調査部分で底から白黄褐色の灰が検出されたが、今回はなく、焼土が検出された。底のV層に厚さ5㎝ほどの焼土が形成されている。状況から土坑2中で火を焚いたことは明らかだが、その用途を示すような遺物、検出状況にはなかった。
＜遺物＞（第112図、写真図版104）カマド焼土周辺と主に西壁南より付近から土器が出土している。土器の総量は776ｇで、5点、503ｇを掲載した。
＜時期＞出土した土器から平安時代の9世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。

**RA113竪穴住居跡（16号住）**（第15・16図、写真図版6）
＜位置・検出状況＞調査区北よりの3M20ｉグリッド周辺に位置する。Ⅲ層上で検出した。南西壁と北東隅を撹乱で破壊されている。
＜重複関係＞RA132、RD278と重複し、本遺構が古い。RA132は埋土下層に炭を多く含んでいること、埋土上層にTo－ａテフラ粒を含んでいることから、本遺構との新旧関係の判別ができた。
＜規模・平面形状＞北壁の一部をRA132に切られているため、不明な点もあるが、隅丸方形を呈すると思われ、一辺の長さは4.72×4.32mである。主軸方向はN－55°－Wである。
＜埋土＞5層に細分される。最上層1層は他の層と異なる様相を示す。Ⅳ層粒を斑に含んでおり、人為堆積の可能性が高い。2層から4層はⅣ層粒の少ない黒褐～暗褐色土で、自然堆積と思われる。最下層の4層は炭粒を含んでおり、炭化材も出土している。壁際の5層は壁の崩壊土と考えられる。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面は平坦で硬く締り、炭粒を多く含む。掘り方は細かい凹凸を持つが、全体に同じくらいの深さである。黄褐色土と黒褐色土の混合土を貼って、貼り床としている。
＜壁・壁溝＞Ⅲ～Ⅳ層で、外傾して立ち上がる。壁際に溝が周る。壁溝の埋土は暗褐色の砂質シルトである。
＜柱穴＞検出されなかった。
＜カマド＞北西壁の中央付近と思われる位置にある。左袖はほとんど失われているが、右袖は残っている。地山のⅣ層を削り出し、手前に拳大の礫を芯材として設置し、シルトを貼って構築している。袖構築土から土器片も出土した。左袖周辺から長さ25㎝、幅9㎝の礫が出土している。燃焼部には53×48㎝の不整形に焼土が形成されている。焼土上から支脚と見られる拳大の円礫が検出された。煙道は刳り貫き式で、長さ約1.5m、底部は燃焼部からほぼ水平に煙出しに至る。煙道の方向は住居の主軸と同じN－55°－Wである。
＜付属施設＞ない。
＜遺物＞（第112・163図、写真図版104・135）カマド周辺から土器片が、南東壁付近と床中央から炭化材が出土している。また、拳大の礫が南東壁付近、カマド周辺から数点出土している。出土した土器の総量は787ｇで、うち3点、354ｇを掲載した。
＜時期＞出土土器から奈良時代の8世紀中～後半と考えられる。　（金子）

**RA114竪穴住居跡（1号住）**（第17・18図、写真図版7・8）
＜位置・検出状況＞4L7ｘ～4M10グリッド付近に位置する。検出面はⅣ層中で、黒褐色シルトによる方形プランとして把握した。
＜重複関係＞なし。
＜規模・平面形状＞5.5m×5.5mの方形である。壁高は26～45㎝で、平均的には約35㎝を測る。主軸方向は、N－45°－Wで、カマドの延びる方向も同様である。

＜埋土＞埋土は１～８層に分層し、１層と２層は更に細分した。９層は貼り床である。埋土上位に堆積する１層は、黒褐色シルト主体に黄褐色粘土質土が少量混入する自然堆積層である。２層は黒褐色シルト層で、明確ではないが人為堆積層と判断される。土器は主に２層から出土している。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面は、貼り床がほぼ全面に施されている。カマド周辺は硬化面を形成する。貼り床には、黄褐色粘土に暗褐～褐色シルトを混ぜたものが用いられている。掘り方は、床面から５～10cmの深さを測り、やや凹凸がある。
＜壁・壁溝＞基本層序Ⅳ層を壁とする。外傾して立ち上がる。壁溝は、ほぼ全周する。
＜柱穴＞４個検出した。柱配置は方形を見る。個々の柱穴間隔は3.5mを測る。
＜カマド＞北西壁際に位置する。袖は地山作り出しで、左袖側面は焼土化されている。燃焼部に見られる焼土は64×60cmの範囲で、床面から約５cmの深さで発達する。煙道の長さは約180cm、煙道底面の幅は30cmである。状況から、廃絶後に陥没した土層と埋め戻された土層（カマド２・３・11層）が混在すると推定される。煙道の方向はＮ－45°－Ｗである。
＜付属施設＞なし。
＜遺物＞（第112・113図、写真図版104・105）出土土器の総量は5,223ｇである。９～13の土師器５点、5,023ｇを掲載した。土師器の出土状況として、第17図には一括土器１と一括土器２を図示した。一括土器１は、竪穴中央付近の床面付近において、甕の小破片が散らばる様子で出土した。一括土器２は、右袖付近でに置かれたように出土した坏である。
＜時期＞出土土器から奈良時代の８世紀中～後半と考えられる。（星）

**RA115竪穴住居跡（２号住）**（第19・20図、写真図版９・10）
＜位置・検出状況＞＞４L12o グリッド周辺に位置する。基本層序Ⅲ～Ⅳ層で、黒褐色シルトの方形プランを検出した。
＜重複関係＞沢跡を截る。
＜規模・平面形状＞方形である。規模は4.1×3.8m、壁高は25～30cmである。主軸方向はＮ－72°－Ｗである。
＜埋土＞埋土は１～６層に分層し、１・２・４・５層についてはさらに細分した。７層は貼り床である。埋土の主体を占める黒褐色シルトは、１～４層に分層したが、全て自然堆積層と判断される。土器などの遺物は３層から主体的に出土している。５層系は壁の崩壊土と判断される。
＜床面・掘り方・貼り床＞ほぼ全面に貼り床が施される。カマド周辺は特に硬く、やや盛り上がる。
＜壁・壁溝＞外傾～直立気味に立ち上がる。壁溝は、東壁側で部分的に途切れる以外はほぼ全周する。
＜柱穴＞５個検出した。その中で、柱穴４・５は貼り床下で検出したが、柱穴４は柱配置などからは、柱穴１～３と同時性のものと推定される。主柱は柱穴１～４が想定され、これらの柱穴間隔は2.2m前後を測る。
＜カマド＞西壁際に位置する。袖は地山作り出しである。燃焼部に見られる焼土は70×50cmの範囲で、床面から２～５cmの深さで発達する。煙道の長さは約155cm、煙道底面の幅は42cmである。煙道の土層堆積状況から掘り込み式であったと推定される。煙道の方向はＮ－72°－Ｗである。
＜付属施設＞無し。
＜遺物＞（第114・156図、写真図版105・106・130）出土土器の総量は3,315ｇである。14～18の土師器５点、3,180ｇを掲載した。カマド周辺から土師器片が密に出土している（一括土器１として取り上げた）。また、南壁際床面直上で甕の略完形が出土している（一括土器２とした）。廃絶に関わる何

らかの行為に関係するのであろうか。
＜時期＞出土土器から奈良時代の８世紀後半と考えられる。　（星）

**RA116竪穴住居跡（39号住）**（第21・22図、写真図版11・12）
＜位置・検出状況＞調査区中央の４M11k グリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞RG071が本住居西隅～煙道、RD311が北西壁北よりと重複し、本住居跡の方がいずれよりも古い。
＜規模・平面形状＞隅丸方形を呈し、一辺の長さが4.28×4.25m、壁高46cmである。主軸方向はN－53°－Wである。
＜埋土＞６層に細分される。最上層１層は黒褐色土、中層２層は炭粉、炭粒を含む１層より暗い黒褐色土である。埋土下層の３層はⅤ層の砂を全体に斑に含む暗褐色土であるが、堆積状況から人為的に埋め戻したものではなく、周堤など一旦掘り上げた土が流入したものと考えられる。壁際には壁の崩壊土が堆積する。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面は平坦で締るが、住居東隅付近の土坑１周辺においてはあまり締まりがない。掘り方は中央とカマド前がやや浅く、壁際が深い。貼り床はⅣ層ブロックと暗褐色土粒を含む砂質シルトである。
＜壁・壁溝＞Ⅳ～Ⅴ層にあり、直立気味に立ち上がり、壁の中ほどでやや開く。壁際には周溝が周る。南東壁の北よりには新旧２条の溝があり、外側の溝のほうが新しい。
＜柱穴＞住居内部にはないが、カマドに対面する壁の両端の壁外から３個の柱穴が検出された。東隅に２個、南隅に１個である。いずれも浅く、深さ８～12cm程度で、Ⅳ層ブロックを含んでいる。柱穴３の埋土はⅣ層粒とⅡ層粒の混合土で、埋め戻している可能性がある。
＜カマド＞北西壁のほぼ中央に位置している。両袖は地山のⅤ層、Ⅳ層を削りだして構築している。燃焼部は60×55cmの不整形に焼土が形成され、袖の内側も焼けている。支脚は出土しなかった。煙道は長さ約1.6m、掘りこみ式と見られる。底面は若干の起伏があるものの、ほぼ水平で煙出しに至る。煙道の方向は住居主軸と同じN－53°－Wである。
＜付属施設＞土坑を２基検出した。南東壁際の土坑１と北隅の土坑２である。いずれも埋土は単層で炭を含む。土坑２の埋土は住居埋土３層に類似する。
＜遺物＞（第114・115図、写真図版106）中央よりやや南東壁よりから土器が出土した。また、東隅の埋土中、西隅の埋土から炭化材が出土している。土器の総量は1,036ｇで、うち２点、796ｇを掲載した。
＜時期＞出土土器から奈良時代の８世紀中～後半と考えられる。　（金子）

**RA117竪穴住居跡（31号住）**（第23・24図、写真図版13）
＜位置・検出状況＞４M11w グリッド周辺に位置する。Ⅲ層中で黒褐色シルトの方形プランとして検出した。北西側などは攪乱による破壊が著しい。
＜重複関係＞無し。
＜規模・平面形状＞4.45×4.45mの方形である。壁高は15～22cmである。主軸方向は、N－46°－Wで、カマドの延びる方向も同様である。
＜埋土＞埋土は１～６層に分層した。７層は貼り床である。黒褐色シルトを主体とした、自然堆積と判断される。

＜床面・掘り方・貼り床＞床面は平坦で、貼り床が施されている部分と地山の部分がある。貼り床には、黒褐色シルトに褐～暗褐色砂質土を混ぜたものが用いられている。掘り方は、床面から３～８㎝の深さを測り、やや凹凸がある。
＜壁・壁溝＞基本層序Ⅳ層を壁とする。外傾して立ち上がる。壁溝は全周する。
＜柱穴＞２個検出した。２個ともに壁溝内に設けられている。
＜カマド＞北西壁際に位置する。袖は地山作り出しに土器を埋め芯とし、その上に14・15・18層などを構築土とする。焼土の発達が見られず、燃焼部は未確認にある。煙道の長さは約170㎝、煙道底面の幅は15㎝弱である。煙道は検出状況から刳り貫き式と考えられるが、煙道部の天井部分（カマド13層）は陥没していると調査判断された。煙道の方向はＮ－46°－Ｗである。
＜付属施設＞なし。
＜遺物＞（第115・156図、写真図版104・106・130）出土土器の総量は2,957ｇである。22～24の土師器３点、672ｇを掲載した。
＜時期＞出土土器から奈良時代の８世紀後半と考えられる。（星）

RA118竪穴住居跡（４号住）（第25・26図、写真図版14・15）
＜位置・検出状況＞調査区を北西から南へ走る沢跡の中央、４M18cグリッド周辺に位置する。沢跡上層のⅡa層を除去し、Ⅱb層の上面で黒褐色の広がりとして検出した。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞隅丸方形を呈し、一辺の長さが5.08×4.72m、壁高43㎝である。方向はＮ－54°－Ｗである。
＜埋土＞８層に細分される。Ⅳ層粒を少量含む黒褐色土が主体であるが、埋土中位～下位の３層と南壁際５層は混入物のほとんどない黒色土である。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。南隅を除き、各コーナーの床面～埋土下位から炭化材が、南隅の埋土下位４層から炭片が出土している。出土した位置や状況から住居の建築材が炭となったものと考えられるが、量が少ないことから住居がある程度朽ちてから焼けた可能性もある。埋土中からは焼土は検出されなかった。
＜床面・掘り方・貼り床＞床は平坦で硬く締る。貼り床はほぼ全面に施され、黒褐色土ブロック、Ⅳ～Ⅴ層の褐色土ブロックを斑に含んだ土である。掘り方は住居カマド側が若干浅い。
＜壁・壁溝＞外傾して立ち上がる。東側の一部が撹乱で切られている。壁際には壁溝がほぼ全周する。幅は８～15㎝程度、深さは５～10㎝である。
＜柱穴＞床面から２個、壁外から４個検出した。床面から検出した２個はカマドと対面する壁に寄っている。壁外の４個はⅡb層上でⅣ層ブロックの混入する長円形のプランとして検出した。いずれも四隅にあり、住居側から外側に向かって斜めに掘りこまれている。深さは25～29㎝程度と比較的浅い。本住居跡周辺は、沢跡のためⅡ層が厚く堆積しており、底面はⅣ層を若干掘りこむ程度である。
＜カマド＞北西壁のほぼ中央に位置する。天井は失われているが、袖は比較的良く残存している。Ⅳ～Ⅴ層を掘り残して作り出しており、左右とも手前に土師器甕を倒立させて据えている。燃焼部には50×35㎝の不整形に焼土が形成されている。焼土の厚さは６㎝である。燃焼部の奥にカマド底面より３㎝ほど浮いた状態で、支脚が２個据えられている。向かって右袖よりに倒立の土師器小形甕（№26）、左よりに長さ15㎝ほどの長方体の角礫である。煙道は掘りこみ式で、長さ1.7mである。底部は燃焼部から煙出し間でほぼ平坦である。煙道の方向は住居と同じＮ－54°－Ｗである。
＜付属施設＞カマドの右脇から土坑が検出された。径51×39㎝の楕円形で深さ５㎝とごく浅い。埋土

上面から掌大の礫が２個出土した。
＜遺物＞（第116・117図、写真図版106・107）カマド周辺と住居東隅付近の埋土下位及び床面から土器が多く出土した。破片の状態で出土した土器もほとんどが接合され、一括性が高い。出土した土器の総量は6,286ｇの土器が出土し、ほとんどの、７点6,105ｇを掲載した。
＜時期＞出土土器から奈良時代の８世紀前半と考えられる。（金子）

**RA119竪穴住居跡（26号住）**（第27・28図、写真図版16・17）
＜位置・検出状況＞４M23q グリッドに位置する。Ⅲ～Ⅳ層中でRA145と重複する状況で検出した。住宅跡の下位より検出したが、所々住宅に伴う攪乱により破壊されている。
＜重複関係＞RA124に、本遺構西壁の一部が破壊されている。
＜規模・平面形状＞4.5×4.5ｍの方形である。壁高は25～35㎝である。主軸方向は、Ｎ－60°－Ｗで、カマドの延びる方向も同様である。
＜埋土＞埋土は１～14層に分層した。８・９層は貼り床で、10～13層はカマド付近にのみ見られる堆積土である。したがって、竪穴本体の堆積土は１～７層である。埋土上位を覆う１層黄褐色粘土質土は人為堆積と判断される。２・３・５層の黒褐色シルトを主体とする堆積層は、人為堆積なのか自然堆積なのか明確には掴めなかったが、自然堆積と考えられる。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面は平坦で、８層とした貼り床がほぼ全面に施されている。８層は褐色粘土質シルトに褐～暗褐色砂質土を混ぜたものが用いられ、非常に硬い。９層はカマド付近において、８層の下部にみられる。掘り方は、床面から２～10㎝の深さを測り、やや凹凸がある。
＜壁・壁溝＞直立気味に立ち上がる。壁溝は北西付近が一部途切れる以外全周する。
＜柱穴＞４個検出した。この４個は約３ｍの間隔を持って配置される。
＜カマド＞北西壁際に位置する。袖は、地山作り出しを基礎とし、土師器甕を倒立で埋めて芯としている。甕の上に、11・11ａ・12・13・14層などを構築土として用い貼っている。燃焼部に見られる焼土は100×32㎝の範囲で、床面から７～12㎝の深さで発達する。煙道の長さは約150㎝、煙道底面の幅は15㎝弱である。煙道は検出状況から刳り貫き式と捉えられる。カマド９層は煙道部の天井部分が陥没した土層と推定される。煙道の方向はＮ－60°－Ｗである。
＜付属施設＞なし。
＜遺物＞（第117・118・156図、写真図版107・108）出土土器の総量は5,438ｇである。32～36の土師器を掲載した。袖に設置されていた甕は、左袖が掲載№33、右袖が掲載№34である。
＜時期＞出土土器から奈良時代の８世紀後半と考えられる。（星）

**RA120竪穴住居跡（38号住）**（第29図、写真図版18）
＜位置・検出状況＞４M15k グリッドに位置する。Ⅲ層中で、黒褐色シルトの方形プランとして検出した。
＜重複関係＞RG071に截られる。
＜規模・平面形状＞3.0ｍ×2.5ｍの方形である。壁高は約20㎝である。主軸方向は、Ｎ－55°－Ｗで、カマドの延びる方向も同様である。
＜埋土＞埋土は１～３層に分層し、２層は更に細分した。３層は貼り床である。埋土の主体を占めるのは１層黒褐色シルトで、埋土上～下位にかけて厚く堆積する。床面直上付近に堆積する２～２ｂ層は、褐色砂質土を主体とし、全般に硬く締る。１層は自然堆積である。２層は明確にはわからないが

人為堆積の可能性がある。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面は平坦である。貼り床がほぼ全面に施されている。貼り床には、にぶい黄褐色粘土質土が用いられている。掘り方は、床面から２～６㎝の深さを測り、全般に浅い。
＜壁・壁溝＞基本層序Ⅳ層を壁とする。外傾して立ち上がる。壁溝は、北壁の一部と南壁の一部が途切れる以外は全周する。
＜柱穴＞３個検出した。
＜カマド＞北西壁際に位置する。袖の残存はなく、燃焼部を判断する焼土の広がりも狭い範囲に留まる。煙道の長さは約115㎝、煙道底面の幅は約16㎝である。煙道部は埋め戻されている。検出状況から掘り込み式であった可能性が高い。煙道の方向はＮ－55°－Ｗである。
＜付属施設＞なし。
＜遺物＞（第118図、写真図版109）出土土器の総量は222ｇである。37の土師器坏１点、92ｇを掲載した。
＜時期＞出土土器から奈良時代の８世紀中～後半と考えられる。（星）

**RA121竪穴住居跡（13号住）**（第30図、写真図版19）
＜位置・検出状況＞４K10ｇ グリッド周辺に位置する（４K10ｇ・10h・10ｉグリッドに広がる）。Ⅳ～Ⅵ層中で、黒色シルトによる広がりを検出し、認知した。本遺構の大部分は北側調査区外に延びる。
＜重複関係＞無し。
＜規模・平面形状＞調査した部分から平面形は方形と推定される。規模は一辺4.65ｍで、壁高は20㎝である。
＜埋土＞最上位に黒色シルト、中～下位にTo－aテフラの堆積が顕著に観られ、尚且つ礫を多量に含む黒褐色シルトが堆積する。To－aテフラは、線状の細長いブロックを単位とし、全体的にはレンズ気味に入り込んでいる。全て自然堆積と判断される。
＜床面・掘り方・貼り床＞礫層中を床面とする。貼り床は確認されない。
＜壁・壁溝＞西・南壁は外傾し、東壁は外傾～内湾気味に立ち上がる。
＜柱穴＞東壁付近で１個検出した。
＜カマド＞確認されていない。
＜付属施設＞無し。
＜遺物＞（第118図、写真図版109）出土土器の総量は340ｇである。39・40の土師器187ｇを掲載した。
＜時期＞平安時代と推定される。併せて、To－ａテフラの降下時期より古いと考えられる。39の両面黒色で丁寧に磨かれた土師器から平安時代の９世紀後葉～10世紀と考えられる。（星）

**RA122竪穴住居跡（14号住）**（第30・31図、写真図版20）
＜位置・検出状況＞４K11 *l* グリッド周辺に位置する（４K11 *l* ～11n・12 *l* グリッドに広がる）。Ⅳ～Ⅵ層で検出した。北側は現代攪乱（昭和40～50年と考えられるゴミ穴）で破壊されている。
＜重複関係＞無し。
＜規模・平面形状＞2.75×2.60mの方形である。壁高は10～12㎝である。主軸方向は、Ｎ－110°－Ｅで、カマドの延びる方向も同様である。
＜埋土＞１層とした黒褐色シルトによる単層である。この１層中には径５～30㎝の多量の礫と、極少量の土器片が混入する。これら混入物の有り方からは、人為堆積と判断された。

＜床面・掘り方・貼り床＞カマド付近のみ貼り床が施されており、併せて硬化面を形成する。貼り床には、暗褐～褐色の砂質土が用いられている。その他の部分では貼り床は確認できず、基本層序Ⅵ層（地山）相当の砂礫層が露出する。この砂礫層は、全般に硬いことから、地山を直接踏み固めて床としていたものと捉えられる。
＜壁・壁溝＞壁は、東壁は緩やかに外傾し、南壁・西壁は外傾して立ち上がる。
＜柱穴＞２個検出した。
＜カマド＞東壁側に位置する。カマド上部は攪乱により破壊されている。袖の残存はない。燃焼部と捉えられる焼土は、カマド付近にみられる硬化面上に広がる。また、燃焼部には杯が設置されており、位置などから支脚の可能性が高い。煙道の長さは約140㎝、煙道底面の幅は約26㎝である。煙道底面は、床面から煙出し部に向かって、やや傾斜する。多量の礫が混入する黒褐色シルトで埋め戻されている。煙道の方向はＮ－110°－Ｅである。
＜遺物＞（第118・119図、写真図版109）出土土器の総量は805ｇである。41～45の土師器５点、504ｇを掲載した。
＜時期＞出土した土器から平安時代の10世紀前葉～中葉と考えられる。（星）

**RA123竪穴住居跡（15号住）**（第31・32図、写真図版21・22）
＜位置・検出状況＞４K13nグリッド周辺に位置する（４K13o・14o・13p・14pグリッドに広がる）。Ⅳ～Ⅵ層中で、黒褐色シルトによる方形の広がりとして検出した。概ね北～東側ではⅥ層、西～南側ではⅣ～Ⅴ層が検出面となる。
＜重複関係＞無し。
＜規模・平面形状＞3.8×3.8ｍで方形である。壁高は20㎝である。主軸方向はＮ－75°－Ｗである。
＜埋土＞１～５ａ層に分層した。５層と５ａ層は貼り床である。１層黒褐色シルトを主体とし、所々に焼土粒・To－aテフラ・円礫が混入する。人為堆積と判断される。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面はやや凹凸が看取され、竪穴中央部がやや高く（わずかに盛り上がる様相）、西側が低い。ほぼ全面に貼り床が施される。掘り方は、２～10㎝で、１号カマド付近が約10㎝と他所より深い。貼り床の土質は、場所により若干異なることから、以下の３地点に大別して記述する。①１号カマド付近と２号カマド付近では、礫混じりの暗褐～黒褐色シルト質粘土質土を貼り床とする。②１号カマドの南側と北側は、黒褐色シルトを主体に黄褐色粘土質土により混土を貼り床とする。③その他の部分では礫が少量混じる黒褐色シルトを貼り床とする。
＜壁・壁溝＞北～東壁は礫層中、西～南壁は砂質粘土質土が壁とする。東壁と西壁は外傾気味に立ち上がる。北壁と南壁は、段状の構造（途中に棚状の平坦なスペースが設けられている）が確認された。
＜柱穴＞２個検出した。
＜カマド＞カマドは２基検出され、１号カマドと２号カマドと命名した。１号カマドは、西壁中央に位置する。袖は検出されていない。燃焼部付近の床面はやや高く、焼土は発達が良い（貼り床上面～下位に良好にみられる）。煙道の長さは約150㎝、煙道底面の幅は約24㎝である。煙道底面は、水平の後、煙出し部が10㎝ほど低い作りである。煙道の方向はＮ－75°－Ｗである。
　２号カマドは、東壁北寄りに位置する。煙道～煙出し部は攪乱により破壊されている。燃焼部の焼土は、比較的良好に発達する。煙道底面の幅は、燃焼部に隣接する部分が約58㎝と幅広で、その先が22㎝と細くなる。２号カマドの煙道の方向はＮ－100°－Ｅである。
＜付属施設＞無し。

＜遺物＞（第119図、写真図版109）出土土器の総量は1,019ｇである。46～49の土師器４点、408ｇを掲載した。特記事項として、南壁の棚部分で杯が倒立で出土した。
＜時期＞出土した土器から平安時代の10世紀前葉～中葉と考えられる。（星）

**RA124竪穴住居跡（22号住）**（第33図、写真図版23・24）
＜位置・検出状況＞調査区北端の２M24ｇ グリッド周辺に位置する。付近は段丘縁辺部で、Ⅱ層から一部はⅣ層まで削平されており、検出面はⅢ～Ⅴ層である。黒褐色の広がりとして西半を検出したが、東半は周囲の土層と極めて似通った土が埋土であったため、当初はプランが掴めなかった。
＜重複関係＞RD273、PP18・19・20と重複し、本遺構が古い。
＜規模・平面形状＞隅丸方形で、一辺の長さが4.20×4.05m、壁高22㎝である。方向はN－68°－Wである。
＜埋土＞４層に細分される。住居東半の床面に堆積する２層はⅥ層起源の砂礫である。RD273の外側の、本居住跡床面に盛り上がったような状態で検出されている。このことから２層は、本住居が埋没しないうちにRD273を掘り上げ、その際に人為的に堆積した土層と考えられる。なお、RD273の埋土は本遺構の１層とほぼ同質で分層できなかったことから、同時に埋没した可能性が高い。
＜床面・掘り方・貼り床＞土坑に切られている部分が多いが、平坦である。掘り方は均一で、貼り床が施される。締りはあるが硬化面を形成するほどではない。
＜壁・壁溝＞北西隅付近を除き直立気味に立ち上がる。壁溝は南西壁の西よりを除いて周る。幅は15㎝前後、深さは３～12㎝程度である。南東壁際では壁溝中から壁際に混入物の少ない黒褐色土（埋土３層）が堆積する。
＜柱穴＞検出されなかった。
＜カマド＞カマドは北西壁のほぼ中央に位置する。天井は失われているが、Ⅴ層起源の黄褐～褐色土で袖を構築している。燃焼部には39×34㎝の楕円形に焼土が形成されている。焼土の厚さは７㎝である。左側の袖の一部も焼土化している。煙道は長さ約1.8m、煙道から煙出しにかけて撹乱を受けていることと、上面が削平されているため、掘りこみ式か刳り貫き式か不明であるが、一部崩落した天井と見られる層があることから、刳り貫き式の可能性がある。煙道は燃焼部から煙出しに向かって緩やかに下降し、煙出しでさらに下がる。煙道の方向はN－68°－Wである。
＜付属施設＞ない。
＜遺物＞（第163図、写真図版135）土器は少なく埋土から小片18ｇが出土したのみで、掲載に至らなかった。鉄製品１点（604）を掲載した。
＜時期＞重複しているRD273の上層にTo－aテフラと思われる火山灰が混入することから、平安時代に属すると考えられる。（金子）

**RA125竪穴住居跡（18号住）**（第34・35図、写真図版25・26）
＜位置・検出状況＞調査区北側の２M25ｊグリッド周辺に位置する。北西25ｍにRA124がある。この付近は段丘の縁辺部にあたり、東に向かって徐々に低くなっており、住居の東側半分の検出面はⅤ層（砂層）～Ⅵ層（砂礫層）、西側はⅣ層である。耕作による削平や撹乱があり、特に西壁は検出時にははっきりしなかった。
＜重複関係＞RD274、PP11・PP21と重複し、いずれの遺構よりも古いが、本住居跡の埋土はRD274の埋土と大変よく似ており、撹乱が入っていたこともあって検出時には区別が付かなかった。そのた

め、掘削時にも土坑の存在に気づかず、床面まで検出した段階でようやく土坑があることがわかった。床面を土坑が切っていることと、断面観察時の層位の乱れで、新旧関係が判明したものである。なお、第34図断面では本住居跡の埋土をRD274が切っているように表現しているが、住居が埋まってから土坑を掘りあげたものか、埋没前の廃絶直後に土坑を掘りあげたものか、確認できなかった。

＜規模・平面形状＞一辺の長さ3.52×3.47mの隅丸方形である。方向はN－20°－Eである。

＜埋土＞埋土は8層に細分され、Ⅳ～Ⅴ層のブロックを含む締りのない黒色～黒褐色シルトが主体である。自然堆積か、人為的に埋め戻したものか、はっきりしない。ただし、RD274際の土層の乱れなどから、人為的な埋没の可能性も否定できない。

＜床面・掘り方・貼り床＞住居北東隅の床面が若干高い。この付近に古いカマドが存在した形跡があり、その上に二次的に床を貼っている（9層）ことによる。もともとの床は平坦である。住居北東よりのカマドの前が特に掘り方が深く、貼り床が2層に細分される（10、11層）。これはⅥ層の砂礫、Ⅳ～Ⅴ層ブロックの含有量による細分で、時期的な差はないと思われる。10層上面と9層の間には褐鉄が部分的に0.5～1㎝の厚さに形成されており、かたく締っている。

＜壁・壁溝＞壁高は32㎝である。外傾して立ち上がる。壁溝はない。

＜柱穴＞ない。

＜カマド＞北東壁の中央よりやや東よりに位置する。煙道は検出できなかったが。北東方向に傾斜しているため、削平されたものと考えられる。煙道と思われる壁外に焼土及び焼土を含んだ黒褐色土が若干認められた。カマドの天井は失われているが、袖が残っている。黄褐色シルトに褐色シルトを貼り付けて構築している。燃焼部には50×33㎝、最大厚6㎝の不整形に焼土が形成される。焼土はカマド奥の壁際にも形成され、厚さは8㎝ほどである。支脚はカマド奥に2基検出された。左は倒立の土師器甕、右は人頭大の礫に径10㎝、厚さ1.5㎝ほどの円盤状の礫を重ねたもので、被熱して赤化している。カマドの主軸方向は煙道が残っていないため、不明であるが、住居外の焼土が煙道の一部だとすると、ほぼ住居と同じ方向と考えられる。

住居北東隅の9層を除去したところ、45×23㎝の楕円形の焼土とⅣ層起源の黄褐色シルトが検出された。焼土は厚さが最大で5㎝ほどあり、古い段階のカマドの痕跡と思われる。周辺の壁及び壁外からは煙道は検出されなかった。いずれの煙道もカマド底面から壁に沿っていったん立ち上がって延びるものと考えられる。

＜付属施設＞ない。

＜遺物＞（第119・158・163図、写真図版109・132・135）住居東よりの埋土下層から鉄製品（125）、古いカマドの焼土脇から土師器坏、カマドから土師器甕等出土している。出土した土器の総量は1,365ｇで、このうち4点、1,225ｇを掲載した。また、台石と思われる石器が出土している（401）。

＜時期＞出土した土器から平安時代の9世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。　（金子）

**RA126竪穴住居跡（23号住）**（第36図、写真図版27・28）

＜位置・検出状況＞調査区北端の3Ｍ1ｃグリッド周辺に位置する。検出面はⅣ層上面であるが、Ⅱ層下位～Ⅲ層中で、To－ａテフラが埋土上層に堆積しているのを確認した。

＜重複関係＞ない。

＜規模・平面形状＞南壁がやや胴の張った隅丸方形を呈する。一辺の長さは3.4×3.3mで、壁高は23㎝である。主軸方向はN－27°－Eである。

＜埋土＞検出の過程で除去してしまったが、上層にはTo－ａテフラが堆積していたのを確認した。

精査段階で残存していた埋土には壁際の３層、４層を除き、To－ａテフラの小粒が少量含まれる。火山灰が粒状を呈することから、人為堆積の可能性がある。４層は壁の崩壊土、３層は自然堆積と思われる黒褐色土である。
＜床面・掘り方・貼り床＞平坦で床中央部分は硬く締まるが、壁際は軟らかい。掘り方は凹凸があり、深さは一様である。黄褐色シルト粒を含む黒褐色土を貼って貼り床としている。
＜壁・壁溝＞Ⅳ～Ⅴ層にあり、直立気味に立ち上がる。壁溝はない。
＜柱穴＞ない。
＜カマド＞北東壁の東よりに位置する。袖は褐色の砂質シルトで構築されている。カマドの周囲には袖の崩壊土や焼土が堆積していた。燃焼部に焼土は形成されていないが、左袖の内側が一部焼土化している。煙道は長さ1.1mの掘りこみ式である。Ⅴ層の砂層を掘りこんでいるためか、崩落が激しく、周囲が大きく崩れていた。煙道の底部は燃焼部からほぼ水平で、煙出しに至って上昇する。煙道の方向は住居よりやや東に振れるN－42°－Eである。
＜付属施設＞床面中央からやや南東よりに焼土が検出された。56×52cmの楕円形で純粋な焼土層ではないが、堆積状況と床面から検出されたことから、この場所で形成されたと思われる。焼土直上から拳大の礫が出土したが、焼土中や周囲からその他の遺物は出土しなかった。
＜遺物＞（第120・121図、写真図版110）カマド周辺と東壁際から土器が出土している。特にカマド周辺に多い。カマド崩壊土中や崩れた焼土からも出土している。総量は3,082ｇで、うち４点、1,197ｇを掲載した。
＜時期＞出土土器が少ないのでよくわからないが、平安時代の９世紀後葉～10世紀前葉と考えられる。
（金子）

**RA127竪穴住居跡（19号住）**（第37～39図、写真図版29・30）
＜位置・検出状況＞３Ｍ６ｉグリッド周辺に位置する（３Ｍ６ｉ・６ｊ・７ｉ・７ｊグリッドに広がる）。Ⅳ層（黄褐色砂質土）中で、黒褐色シルトの広がりとして、検出・認知した。
＜重複関係＞本遺構南側（南壁付近）で、RD276に截られる（ただし、埋土の様相からは本遺構と大差ない時期と考えられる）。
＜規模・平面形状＞4.10m×3.85mの方形である。壁高は20～25cmを測る。主軸方向は、N－110°－Eである。
＜埋土＞埋土は１～５層に分層した。１層黒褐色シルトが主体を占め、壁際に２～３層暗褐色シルト質粘土質土が堆積する。５層は貼り床である。自然堆積と判断される。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面は、平坦で、貼り床がほぼ全面に施されている。貼り床には、黒褐色シルトに小礫を混ぜたものが用いられている。掘り方は、床面から３～８cmの深さを測り、やや凹凸がある。
＜壁・壁溝＞基本層序Ⅳ～Ⅵ層を壁とする。床面から外傾して立ち上がった後、棚状に平坦する部分が顕著にみられる。壁溝は検出されていない。
＜柱穴＞床面をダメ押しした段階で、７箇所で柱穴状の落ち込みを確認したが、柱穴とは断定できない（※柱穴名は付していない）。また、本遺構に伴うものか断定できないが、南側屋外で柱穴状の小土坑を検出した。
＜カマド＞東壁際に位置する。袖は褐色粘土質砂質土や黒褐色砂質土に土器片や小礫を混ぜたものを貼り構築されている。燃焼部と判断される焼土は45×22cmの楕円形気味に分布する。煙道の長さは約

150㎝、煙道底面の幅は約26㎝である。煙道部や煙出しは、土器や礫が混入する暗褐色シルトで埋め戻されている。状況から刳り貫き式であったと想定されるが、天井部は陥没していると判断される。煙道の方向はN－100°－Eである。
＜付属施設＞無し。
＜遺物＞（第121～123図、写真図版110・111）出土土器の総量は4,755ｇである。58～76の土師器19点、3,050ｇを掲載した。特にカマド付近や煙出しなどからの出土が多く、器種は坏が顕著である。第38図には一部接合関係を明示した。
＜時期＞出土した土器から平安時代の９世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。（星）

**RA128竪穴住居跡**（27号住）（第40図、写真図版31）
＜位置・検出状況＞調査区北側の３M12eグリッド付近に位置する。検出面はⅢ層であるが、断面ではⅡb層上面から確認できる。住居の大半が調査区外に延びており、北東コーナー付近のみの調査となった。
＜重複関係＞調査部分では、ない。
＜規模・平面形状＞方形基調と思われる。規模は不明であるが、調査部分の辺の長さは2.73×1.50m、壁高は断面で確認したところ、40㎝である。主軸方向は不明だが、東壁の方向はN－14°－Eである。
＜埋土＞上層は混入物のない黒褐色土、中層も混入物のない黒～黒褐色土であるが、際立って暗く、細分した。下層はⅣ層粒が混入する黒褐色土である。３層に細分される。
＜床面・掘り方・貼り床＞平坦で、硬く締まる。掘り方は細かい凹凸があり、深さは一様である。黒褐色土粒を斑に含む暗褐色土を貼り床としている。
＜壁・壁溝＞直立気味に立ち上がる。壁溝はない。
＜柱穴＞検出されなかった。
＜カマド＞調査部分では検出されなかった。
＜付属施設＞ない。
＜遺物＞（第123・124・158図、写真図版112・132）東壁際２層から土器が出土した。一括して廃棄しているような状況で、２層最下位～２層上位からまとまって出土している。出土した土器の総量は1,687ｇで、３点すべてを掲載した。
＜時期＞出土した土器から平安時代と考えられる。（金子）

**RA129竪穴住居跡（20号住）**（第40図、写真図版32・33）
＜位置・検出状況＞調査区北側の３M12ｇグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞ない。重複していないが、25㎝南西にRD279が位置する。
＜規模・平面形状＞隅丸長方形を呈し、一辺の長さが3.30×2.85m、壁高29㎝である。主軸方向はN－82°－Wである。
＜埋土＞Ⅴ～Ⅳ層粒を少量含む黒～黒褐色が主体で、５層に細分される。層相から自然堆積と考えられる。南壁の埋土4層上面から３㎝ほどの厚さの焼土が検出された。また、北西隅の床上７㎝ほどの高さやカマド左脇の埋土中からも焼土が検出された。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面は平坦で硬く締まる。掘り方はⅥ層まで掘り込んでいる。中央付近が浅く、壁際がやや深い。貼り床は黒褐色の砂質シルトである。
＜壁・壁溝＞壁はⅢ～Ⅴ層にあり、直立気味に立ち上がる。

＜柱穴＞ない。
＜カマド＞西壁の中央からやや北よりに位置する。袖の一部が撹乱によって破壊されている。袖は褐色の砂質シルトを貼って構築している。燃焼部は38×30cmの楕円形に焼土が形成される。焼土の厚さは6cmである。燃焼部の奥から掌大の礫が検出されたが、動いた焼土上に浮いているが、支脚の可能性がある。煙道は長さ約1.3m、刳り貫き式である。底部は燃焼部から極く緩やかに煙出しに向かって下降する。煙道の方向はN－73°－Wである。
＜付属施設＞カマド右脇、カマド左手前、南壁際から土坑が3基検出された。カマド右脇の土坑1と南壁際の土坑2は位置などから貯蔵穴と思われる。
＜遺物＞（第124・158・162図、写真図版112・132・135）カマド周辺から土器が多く出土している。土坑2や南壁より、カマド前から礫及び礫石器が出土している。土器の総量は1,323gで、うち6点、869gを掲載した。
＜時期＞出土した土器から平安時代の9世紀後葉～10世紀前葉と考えられる。　（金子）

**RA130竪穴住居跡（24号住）**（第41図、写真図版34・35）
＜位置・検出状況＞調査区北側の3M12jグリッド周辺に位置する。Ⅲ層上で検出した。カマドを撹乱で一部破壊されている。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞方形を基調とし、一辺の長さが3.10×2.95m、壁高22cmである。主軸方向はN－113°－Eである。
＜埋土＞黒褐色土が主体で、Ⅴ層起源の砂の混入具合で4層に細分される。中央～南側の埋土下層から炭化材や焼土が検出された。量は図示した程度で、あまり多くないが、炭化材の出土状況から住居に投げ捨てたというよりは、その場で形成された可能性が高い。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面は平坦で締っている。掘り方は全体に浅い。掘り方の達するⅤ～Ⅵ層の砂が崩れて、平坦になったような様相で、貼り床を施したとは思われない。
＜壁・壁溝＞外傾して立ち上がる。壁溝はない。
＜柱穴＞ない。
＜カマド＞東壁の南端に位置する。撹乱によって破壊されているので、全容は明らかでない。天井の芯に使用されたと見られる焼成された粘土板が埋土上位から検出された。赤化しており、たいへんもろい。奥に支脚と見られる角礫が据えられ、その直上から土器がかさなるように出土した。左袖には天井と同様の長さ55×18×10cmの赤化した粘土板が、右袖には長さ30cmほどで平坦面をもつ礫が芯材として使用されている。煙道と思われる部分は撹乱が入っているが、撹乱の外側からも煙出しは検出されなかった。
＜付属施設＞南西隅から土坑が1基検出された。
＜遺物＞（第125・126・162図、写真図版112・113・135）埋土下層、床面から土器や礫が出土した。88と92は住居北西の床面から出土した坏である。また、カマド埋土より多くの土器が出土している。土器の総量は3,621gで、うち10点2,723gを掲載した。
＜時期＞出土した土器から平安時代の10世紀中葉と考えられる。　（金子）

**RA131竪穴住居跡（11号住）**（第42・43図、写真図版36・37）
＜位置・検出状況＞3M15eグリッド周辺に位置する（南東は3M18hグリッド）。Ⅳ～Ⅴ層におい

て、不整形に広がる黒褐色シルトのプランとして検出した。検出当初は、カマドの位置などが推定できず、また上記のとおり不整形のプランであったことから、複数の遺構による重複と想定し、精査を進めた。

＜重複関係＞RD281・282と重複し、本遺構が新しいか若しくは同時期に存在した可能性がある。また、南西側でRD327の近世墓に截られる。

＜規模・平面形状＞4.05×3.50ｍのやや不整気味の方形を呈する。壁高は20～30㎝を測る。主軸方向は、N－20°－Eである。

＜埋土＞埋土は１～19層に分層した。１～17層が埋土で、18層が貼り床、19層は屋外柱穴と推定される小土坑の埋土である。埋土上～中位にはTo－aテフラと黄褐色粘土質土がわずかに混入する１層黒褐色シルトが厚く堆積する。下位や壁に近い部分に、暗褐色シルトや粘土質土を多量に含む黒褐色シルトの堆積が顕著にみられる。全て人為堆積と判断される。よって、To－aテフラは埋め戻しに用いた黒褐色シルト中に含まれていたと捉えられる。

＜床面・掘り方・貼り床＞床面は硬く、またやや凹凸がある。掘り方は、２～12㎝で、平均的には約７㎝である。貼り床はほぼ全面に施される。

＜壁・壁溝＞壁は外傾気味に立ち上がる。壁溝は無い。

＜柱穴＞９個検出した。東壁際に位置する柱穴１は、規模から推定して主柱を構成する一つと判断される。柱穴２～柱穴７は、形状・規模からは主柱とは考え難い。柱穴８は、北西壁隅に見られる張り出し部中より検出した。柱穴９は屋外から検出したもので、RD286を截り掘られている。埋土自体は、本遺構の竪穴埋土に類似するが、確実に伴うものなのかは検討が必要である。

＜カマド＞西壁に位置する。検出状況で上記したとおり、精査開始初期はカマドの位置が推定できず、従って煙出し部についても、当初は別遺構の柱穴と捉え精査に着手した経緯がある。精査の進行に伴い、煙道は刳り貫きによることがわかった。燃焼部と判断される焼土の発達は見られない。煙道の長さは約170㎝、煙道底面の幅は22～26㎝である。煙出し部は、礫や土器が敷き詰められており、埋め戻されている。煙道の方向はN－75°－Wである。

＜付属施設＞鍛錬鍛冶に関連すると考えられる炉跡１基と土坑６基を床面で検出し、その他に出入り口施設と張り出し２箇所がある。炉跡は、長楕円形で、規模91×52㎝、床面からの深さ８～17㎝の浅皿状に掘られている。鍛造剥片を含む黒褐色シルトが堆積する。土坑は６基検出したが、何れも浅く掘り込まれた後に、上面が黒褐色シルトで整地されている。この黒褐色シルトは固められており、硬化面を成す。また、炉跡と土坑３の接する付近より、鍛造剥片の集中部を確認した。出入り口施設と判断されたのは、黒色シルトや暗褐色シルトを固めたステップ状の施設で、東壁にみられる。張り出し部は、南壁外と北西壁隅に見られる。南壁のものは70×110㎝の三角形状に、北西壁隅のものは68×110㎝の不整形状に作り出されている。

＜遺物＞（第126・127・159・162・163図、写真図版113・114・133・135・140）出土土器の総量は3,853ｇである。96～101の土師器、102の須恵器計７点3,050ｇ、404～406の砥石、503．506の土製品を掲載した。炉跡と土坑１より鍛造剥片、粒状滓などが出土した。炉跡と土坑１の境付近に、鍛造剥片の集中部がみられた。この集中部は、10㎝程の円形に集散する。なお、炉跡と土坑の土を持ち帰り、ウオーターセパレーションなどを実施したところ、総量で鍛造剥片97ｇ、粒状滓7.8ｇ、鉄片5.3ｇ、鉄滓216ｇを抽出した。

＜時期＞出土した土器から10世紀前葉～中葉と考えられる　（星）

**RA132竪穴住居跡（17号住）**（第44～51図、写真図版38～42）

＜位置・検出状況＞調査区３M18ｉグリッド周辺に位置する。検出はⅢ層上でTo－ａテフラを粒状に含む黒褐色土の方形の広がりとして検出した。

＜重複関係＞RA113と重複し、本遺構が新しい。本遺構の埋土はTo－aテフラ粒を含んでいるので、平面及び断面で、本遺構が新しいことを確認することができた。また、住居西壁の一部がRD274と重複している。RD274の埋土は黒褐色土で、本住居跡を切っており、本遺構のほうが古い。

＜規模・平面形状＞南壁と東壁がやや胴の張った隅丸長方形を呈する。一辺の長さが6.73×5.42m、壁高は34cmである。主軸方向はN－100°－Wである。

＜埋土＞６層に細分される。最上層はあまり混入物のない黒褐色土で、自然堆積と思われる。２層はやや厚く、To－aテフラ粒と思われる灰白色粒少量を層全体に満遍なく含んでいる。このようなTo－aテフラのあり方は、埋め戻しではないかとも考えられたが、埋め戻しの埋土に見られるような黄褐色土や黒褐色土のブロックも見られない。焼失住居のような凹凸の激しいところにテフラが堆積するとこのような産状を示すのではないかというご教示を受けたので、記しておく。３層は２号カマドの崩壊土と思われる褐色土粒を含んでいる。また、床上に堆積する４層は炭化材、炭化種実、炭化したカヤ、炭、焼土を大量に含む黒～黒褐色土である。これらの炭類は本住居跡が焼失した結果産出したものと思われ、埋没の過程で廃棄されたような状況ではない。

＜床面・掘り方・貼り床＞床面はやや凹凸があり、北壁よりの部分が低い。この部分はあまり締りがないが、他は硬く締まる。住居東よりの床の一部が非常に硬く締まり、焼けて焼土となっており、最上層に煤も付着している。この部分の貼り床をはがしたところ、貼り床９層中に灰層が確認された。貼り床は断面を観察したところ、５層に細分される。このうち生活面として認められるのは最上層のほか東側では９層である。住居東側に何度も床を貼っている形跡がある。掘り方は細かい凹凸のある通常のもので、特に深浅はない。

＜壁・壁溝＞壁はⅢ～Ⅳ層中にあり、直立～やや外傾気味に立ち上がる。東壁と南壁を拡張した可能性があり、根拠についてはカマドの項で述べる。壁溝はない。

＜柱穴＞９個ある。柱穴１～４で、長方形の主柱穴配置である。主柱穴のうち柱穴３には新旧２時期あることが認められた。また、柱穴４には柱痕跡が２個あり、調査では確認できなかったが、同様に新旧２時期の可能性がある。このほか、西壁際中央に柱穴５、東壁際北よりに柱穴６、中央に柱穴７、南よりに柱穴８、９がある。

＜カマド＞３基確認した。西壁中央よりやや南よりに１号カマド、東壁中央よりやや南側に２号カマド、南壁東よりに３号カマドがある。これらのうち、１号カマドは天井が著しく焼けている点、他のカマドに比して残存状況が良い点から最終段階のカマドと考えられる。２号カマドと３号カマドの新旧は不明である。

１号カマドは左袖の一部が残存していない。袖は大小の礫を芯材として、褐色の粘土を貼り付けて構築している。袖内側や上部、右袖の壁に取り付いている部分が焼けている。ブロック状の硬い焼土がカマド内に崩落しており、焼けた天井と思われる。燃焼部は38×31cmの楕円形に焼土が形成されている。焼土の厚さは６cmである。燃焼部奥には小礫の上に坏が伏せて設置されており、支脚の一部と考えられる。煙道は長さ約1.65m、刳り貫き式である。煙道の底部はやや波打ちながら緩やかに下降して煙出しに至る。煙道の方向はN－102°－Wである。

２号カマドは両袖、天井と燃焼部側の煙道が失われており、煙出しと煙道の一部が残存している。燃焼部に形成された焼土の一部が15×13cmの円形に残存している。燃焼部から煙出しに向かって浅い

溝状の凹みが確認され、煙道の底部と考えられる。煙道の長さは約２m近くあると思われ、本遺跡の他の例よりも長い。本カマド周辺の住居跡壁際からは拳～掌大の礫が出土しており、煙道や袖の構築礫ではないかと思われる。煙道は掘りこみ式で、残存する部分には掘り方があり、底に暗褐～黄褐色の砂質シルトや砂を貼っている。その上に煙道の壁として長円形の礫を立て、天井に長円形の礫を渡して、やや小さめの礫で裏込めをし、褐色の粘土を貼って構築している。掘り方は実際の煙道より幅をかなり広めに取っており、構築後、埋め戻している。煙道の底部は燃焼部から平坦で、煙道なかばで急に上昇し、煙出しに至る。燃焼部の位置が壁からやや遠いことと東壁のカマド周辺の壁が不自然に張り出していることから、本カマド廃棄後、煙道を半分ほど取り壊し、カマド周辺の壁を拡張したものと思われる。煙道の方向はN－82°－Eである。

３号カマドは煙道と煙出しのみ残存している。煙出しは一部撹乱によって破壊されている。燃焼部かと思われる位置で、上層の貼り床をはいだところ、焼土が検出されたが、現地性の焼土ではなかった。煙道は刳り貫き式で、長さ約0.7mである。本遺跡の他の住居の例と比較しても通常の２分の１以下であることから、カマド廃棄後、南壁を拡張した可能性がある。煙道の底部は平坦で煙出しに至る。煙出しから長円形の礫と角礫が出土した。煙道の方向はN－168°－Eである。

＜付属施設＞土坑が６基（土坑１～６）検出された。いずれも壁際にある。土坑６については貼り床をはがした段階で見つかっており、１号カマドの下にも延びることから、最終段階の１号カマド使用時より前に使われたと思われる。

＜遺物＞（第127～132・159・160・163図、写真図版114～117・133・136・139・140）埋土、床上より多くの土器、炭化材、炭化種実、鉄製品が出土した。

炭化材は１号カマド北側、住居北半に残りのよい大きめのものが多く、住居南東側や南半にはやや小さめのものが多い。住居北半の炭化材は壁に直交して住居の内側をむくものが多い。北壁際の一部の炭化材は壁に平行するものもある。肉眼による樹種同定を行った83点のうちほぼ半数近くがクリで、次いでナラ、ケヤキ、スギが多い（第46図、第10表）。カヤは出土したもののうち、繊維の方向がわかるものを図示したが、第45図中③のカヤは表層のカヤを除去すると上層のものと直交する方向のカヤが検出された。

土器は土坑１の埋土と南壁際の西よりから特に多く出土している。土坑１の埋土からは壺、甕の３点が出土した。南壁際からは140の須恵器大甕、広口壺、長頸瓶など４点の須恵器のほか多くの土器が出土した。須恵器は接合の結果、134の広口壺のように完形となるものがあるが、破片が足りず、底や口縁を欠くものも多い。また、須恵器は遺構間接合の結果、他遺構出土の破片と接合するものも多い。132は本遺構出土の破片と、RA146、第10次調査のRA087、RA104出土の破片が接合したものである。135はRA145、奈良時代のRA119、RA120出土の破片と、136、137はRD294出土の破片と、138は東隣の10次調査RA064出土の破片と、139はRA144、10次調査のRA092、RA104出土の破片と本遺構出土の破片が接合したものである（第177、178図）。出土した土器の総量は27,138ｇで、うち38点、16,681ｇを掲載した。

金属製品は13点出土している。ほとんどが、最下層の炭を含む埋土4層か床上から出土した。

［炭化種実］

炭化種実は住居跡床面及び第４層、土坑３埋土より出土した。精査中、肉眼で種実が多く出土することがわかったので、以下のように取り上げた。

［取り上げ方法］

①　肉眼で分布範囲の確認できるところは範囲を図面に記録した。

② その他は住居跡全体を１m四方の方眼に割り、方眼それぞれに番号を付した。これに先立って住居跡にあけたトレンチは床面まで下げてあるので、床面のレベルを参考に目安として床上４㎝以下の土を方眼ごとにすべて取り上げ、土嚢袋に入れた。

③ トチノミやクリなどの大型の種実は中央と東南隅の集中部ごとに完形のものをカウントしながら取り上げた。クリの場合は外皮のついているもの、子葉の状態のものに区別して取り上げた。取り上げの際に出る排土についても回収し、処理している。

④ 炭化米の集中部や豆類が肉眼で観察できた土坑３の埋土はそれぞれ土ごと取り上げた。

［処理］取り上げた土や種実の処理は以下のとおり行った。

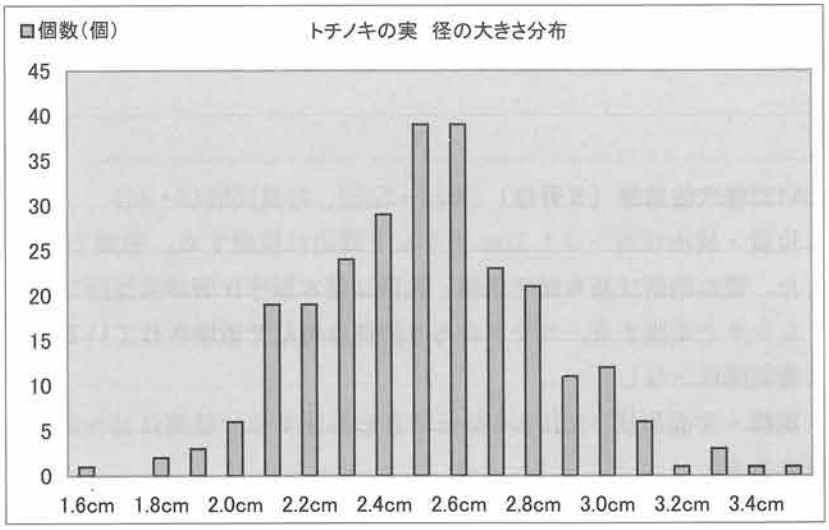
① 計測　重量計測は土嚢袋のままヘルスメーターで計った。容量は25リットル入りのコンテナでどのくらいの量になるか、目分量で測った。

② 乾燥　当初かごに広げて、屋内の日の当たるところで３日ぐらい行ったが、スペース、手間の関係から後半は行っていない。

③ 水洗　土は水を入れたバケツに少しずつ投入して攪拌し、浮上する炭化物をあく取りですくい上げる行為を何度か繰り返した後、乾燥させた。

④ 底に残った残滓は３㎜と１㎜のふるいにあけ、乾燥させた。

⑤ ③と④を行い採取した炭化材は肉眼で下記左欄のようにより分け、それぞれ重量、容量を計測した。また、トチノキの種実は計測可能な個体について最大径を計測した。その結果は上のグラフで、最大35㎜、最小16㎜、平均25㎜である。




これらの種実は古代の森研究舎にサンプルを送付し、同定を行っている（付編４）。その結果を下記右欄に記したが、全量でなく、一部の同定結果である。このように肉眼による分類では数種の植物が混入しており、エラーもあるが、おおよその傾向は示していると思われる。同定結果のなかで最も量が多いものは太字で示した。

| 肉眼による分類 | サンプルの同定結果 |
|---|---|
| A　トチノキと思われる種実 | **トチノキ** |
| B　炭化米と思われる種実 | **イネ**、オオムギ、コムギ、ムギ類、アサ、マメ科B |
| C　豆類と思われる種実 | マメ科A、アサ、**ササゲ属** |
| D　クリと思われる種実 | **クリ** |
| E　米より小さい種実 | ブドウ属、ノブドウ、イネ、コムギ、穀類、マメ科B<br>サンショウ、イネ、**ヒエ** |
| F　骨片 | |
| G　モモと思われる種実 | **モモ** |

カヤ　　イネ科の茎破片、イネ
炭化材
カヤと炭化材で、分別しがたいもの

取り上げた土量と選別した炭化種実、炭化材等の総量は第４表のとおりである。Ａのトチノキは床面中央からまとまって出土したほか、東南隅にも集中して検出された。量は中央が圧倒的に多く、次いで東南隅の36グリッド付近である。Ｄのクリは床面中央と東南隅、豆類は土坑３と炭化米の集中部に多く見られる。また、Ｂは炭化米集中部に非常に多いが、塊状の炭化米３、４が出土した40グリッド、住居東よりにも多く分布する。Ｅの米より小さい種実は北西よりを除く住居全体から出土している。Ｇのモモの種実は全体量が非常に少ないが住居北壁よりのグリッドから出土した。被熱したと思われる骨細片は住居北壁を除いて出土しているが、１号カマド前、２号カマド前が若干多い。なお、骨砕片については微小であるため、同定を行わなかった。
＜時期＞出土した土器は大まかには９世紀末～10世紀中葉までの様相を示している。埋土に混入するTo－aテフラ粒を自然堆積か、人為堆積と見るかで時期が絞られるが、同テフラ前後と思われる。
（金子）

**RA133竪穴住居跡（５号住）**（第52・53図、写真図版43・44）
＜位置・検出状況＞３Ｌ21mグリッド周辺に位置する。重機で基本層序Ⅱ層を除去した段階で検出した。概ね南側は基本層序Ⅲ層、北側は基本層序Ⅳ層が検出面である。調査開始初期に掘削した第４トレンチと重複する。カマドのある西側は攪乱で破壊されている。
＜重複関係＞なし。
＜規模・平面形状＞5.10×4.85ｍで方形を呈する。壁高は15～22㎝を測る。主軸方向は、Ｎ－10°－Ｗである。
＜埋土＞１～７層に分層した。５・５ａ層は貼り床である。５ｂ層は何らかの整地土、６層は壁の崩壊土、７層は袖に伴う地山崩壊土と推定される。埋土は１～４層で、暗褐色シルトを主体とし、自然堆積と判断される。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面はやや凹凸があり、全般に硬く締まる。掘り方は均一の深さになく、凹凸が激しい（特に北壁に近い部分は深い）。概ねⅣ層砂質土中まで掘削した後、粘土とシルトを混ぜたものを貼り床している。貼り床はほぼ全面に施されている。
＜壁・壁溝＞壁は直立気味に立ち上がる。壁溝は全周する。
＜柱穴＞５個検出した。その内、柱穴２～５の４基は屋外より検出された。
＜カマド＞西壁中央に位置する。袖は地山作り出しある。燃焼部は、100×40㎝の楕円形気味に広がり、貼り床の上面から２～７㎝の深さで発達する。煙道部～煙出し部は、植栽痕により大部分を破壊されているが、残存する部分から刳り貫き式と推定される。煙道底面の幅は約30㎝である。煙道の方向はＮ－90°－Ｗである。
＜付属施設＞無し。
＜遺物＞（第132図、写真図版118）出土土器の総量は191ｇである。遺物は極少量である。141の土師器甕の破片39ｇを掲載した。
＜時期＞カマドの方向、主軸方向から平安時代と考えられる。　（星）

RA134竪穴住居跡（３号住）（第54図、写真図版45・46）

＜位置・検出状況＞調査区北側の３L23t グリッド周辺に位置する。南側1.5ｍにRG059が位置する。検出面はⅢ層で、黒褐色土の方形の広がりを確認したことによる。南側は一部リンゴの木根により撹乱を受けている。

＜重複関係＞ない。

＜規模・平面形状＞一辺の長さが2.92×2.75mの方形である。方向はN－105°－Eである。

＜埋土＞９層に細分される。埋土下層の６層及び住居南側と東側に検出される中位の３層は混入物の少ない黒色土で自然堆積と思われる。埋土上層及び中位の４層はⅣ、Ⅴ層ブロックを斑に含む黒褐色土である。堆積状況はレンズ状を示すが、人為堆積か自然堆積か判然としない。

＜床面・掘り方・貼り床＞床面は硬くしまり、住居北西部分が他よりもやや高いが、おおむね平坦である。掘り方は床面中央部分がやや浅く、壁際が若干深い。貼り床は黒褐色土ブロックを含んだ褐色土である。

＜壁・壁溝＞壁高は45㎝で、外傾して立ち上がる。

＜カマド＞カマドは東壁のやや北よりに位置する。袖が残存している。粘性のある褐色及び暗褐色土で構築されている。芯材となるような礫、土器等は確認されなかった。燃焼部は径30×30㎝ほどの円形に焼土が形成されている。焼土の厚さは６㎝である。焼土の直上奥に支脚として使用されたと考えられる15×10㎝程度の角礫が据えられている。煙道は長さ1.16mで、刳り貫き式である。煙道の埋土は黒～黒褐色土と天井からの崩落土、黒褐色土の互層である。煙道の底面は燃焼部から若干上昇した後、煙出しに向かって緩やかに下降している。煙道の方向は住居と同じN－105°－Eである。

＜付属施設＞カマド北側の住居東壁が東側にやや張り出し、さらにオーバーハングしており、貯蔵のための空間と考えられる。また、カマド右側に径13×12㎝、深さ10㎝の小穴がある。

＜遺物＞（第132～134図、写真図版118）住居北半の埋土下位～床直上から土器片、礫が多く出土している。土器の総量は4,115ｇで、うち14点3,586ｇを掲載した。

＜時期＞出土した土器から平安次回の９世紀末～10世紀前葉と考えられる。　（金子）

RA135竪穴住居跡（７号住）（第55図、写真図版47）

＜位置・検出状況＞３M24a グリッドに位置する。Ⅳ層中において黒色シルトの広がりとして検出・認知した。

＜重複関係＞無し。

＜規模・平面形状＞一辺が2.5ｍ弱の隅丸方形である。主軸方向はN－５°－Eである。

＜埋土＞黒色シルトによる単層で、径３～15㎝の円礫を多量に含む。自然堆積と判断される。埋土中には遺物がほとんど含まれない。埋土に含まれる円礫は、幾分自然磨耗されており、基本層序Ⅵ層に由来すると捉えられる。

＜床面・掘り方・貼り床＞床面はほぼ平坦で、基本層序Ⅵ層中に黒色シルトと黄褐色粘土質土の混土を貼り床している。掘り方は、カマド付近は３㎝程で、他の部分では１㎝の深さで掘られている。

＜壁・壁溝＞基本層序Ⅳ～Ⅵ層を壁とする。ほぼ直立気味に立ち上がる。

＜柱穴＞５個検出した。床面では柱穴１～３を検出した。柱穴間隔は、柱穴１と柱穴２で190㎝、柱穴２と柱穴３が150㎝をみる。柱穴４・５は屋外柱穴と捉え認知した。カマド煙道部の両側に対の位置関係にある。

＜カマド＞カマドは東壁に位置する。袖はカマド２層・４層などの貼り土で構成される。燃焼部を判

断する焼土は確認できなかった。煙道部は、上部が削平を受けており、天井部分は残存しない。煙道の長さは約70㎝、煙道底面の幅は16㎝である。煙道の底面の状況から、竪穴床面からやや上がり勾配で東へ延びる。煙道部の付け根付近より、口縁部と底部が欠損する土器が出土している。状況から煙道に設置されていた可能性がある。煙道の方向はN－110°－Eである。
＜遺物＞（第134図、写真図版119）出土土器の総量は1,357ｇである。156～161の土師器６点、460ｇを掲載した。なおカマド６層出土の156の坏は、RA137埋土１層と接合関係をみる。煙道部より甕が横倒しの状態で出土している。また、南東隅床面付近より坏（ロクロ）の底部が出土している。全体に遺物量は少ない（特に竪穴本体からはほとんど出土をみない）。
＜時期＞出土した土器から９世紀末～10世紀前葉と考えられる。（星）

**RA136竪穴住居跡（９号住）**（第56図、写真図版48）
＜位置・検出状況＞３M25ｆグリッド周辺に位置する。Ⅳ層中で黒褐色シルトの広がりとして検出・認知した。
＜重複関係＞RG069（近世？の溝跡）に截られる。
＜規模・平面形状＞3.45ｍ×3.25ｍで方形を呈する。深さは約10㎝である。主軸方向はN－10°－Eである。
＜埋土＞黒褐色シルトによるほぼ単層で、黄褐色粘土質土小ブロックが約３％含まれる。自然堆積と判断される。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面はやや凹凸がある。Q１・２・４では砂礫層上に、黄褐色粘土質土と黒褐色シルトの混土が貼り床されている。貼り床は非常に硬い。Q３付近のみ貼り床が施されていない。
＜壁・壁溝＞壁は外傾を基調とし、やや外に開くように立ち上がる。
＜柱穴＞無し。
＜カマド＞北壁に位置する。袖は右袖が残存し地山作り出しによる。燃焼部と判断される焼土はみられない。煙道の長さは約100㎝、煙道底面の幅は約20㎝である。煙道の底面の状況から、竪穴床面からやや上がり勾配で北へ延びる。刳り貫き式と考えられる。煙道の方向はN－10°－Eである。
＜付属施設＞東壁際で焼土を検出した。
＜遺物＞（第134図、写真図版119）出土土器の総量は289ｇである。162の土師器坏145ｇを掲載した。
＜時期＞出土した土器から９世紀中葉～後葉と考えられる。（星）

**RA137竪穴住居跡（８号住）**（第57～59図、写真図版49・50）
＜位置・検出状況＞３M24ｊグリッド周辺に位置する。Ⅳ層中で黒褐色シルトの広がりとして検出・認知した。なお、北東側は現代攪乱で破壊を受けている。また、表土を除去した段階で直にⅣ層が露出する状況から、本遺構上部は削平を受けていると捉えられる。
＜重複関係＞RG069（現場時の遺構名５号溝で、近世の溝跡）に截られる。
＜規模・平面形状＞4.10×3.60ｍで方形を呈する。深さは10～30㎝である。主軸方向はN－10°－Eである。
＜埋土＞黒褐色シルトによるほぼ単層で、黄褐色粘土質土小ブロックが３％程混入する。
＜床面・掘り方・貼り床＞黄褐色粘土質土と黒褐色シルトの混土で貼り床されている。全体的に硬化面が形成されており、非常に硬い。

＜壁・壁溝＞壁は直立気味に立ち上がる。
＜柱穴＞無し。
＜カマド＞東壁で中央より南に寄って位置する。袖は礫を芯材としカマド２層を周辺に貼り構築される。燃焼部を判断する焼土は確認できなかった。煙道部は、上部が削平を受けており、天井部分は残存しない。煙道の長さは約125㎝、煙道底面の幅は約25㎝である。煙道の底面の状況から、竪穴床面からやや上がり勾配で東へ延びる。煙道の方向はＮ－110°－Ｅである。
＜付属施設＞南東壁隅付近の一部が棚状を呈する。
＜遺物＞（第135～139、412図、写真図版119・120・121・134・138）出土土器の総量は7,279ｇである。163～183の土師器と184～189の須恵器計27点、4,572ｇと412の砥石を掲載した。RA135で上記したとおり、156の土師器坏は遺構間接合をみた。また、埋土１層出土の184須恵器長頸瓶は、RA140床直と接合関係をみる。
＜時期＞出土した土器から9世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。（星）

**RA138竪穴住居跡（21号住）**（第60図、写真図版51）
＜位置・検出状況＞４Ｍ１ｈグリッドに位置する。Ⅲ層中において、黒褐色シルトの方形プランとして検出した。
＜重複関係＞無し。
＜規模・平面形状＞3.45×3.30ｍの方形である。壁高は約15㎝を測る。主軸方向は、Ｎ－70°－Ｗで、カマドの延びる方向も同様である。
＜埋土＞黒褐色シルトによるほぼ単層である。To－aテフラが微量混入する。北西床面付近では、二次堆積の焼土塊と土壌化が進んだ炭化材を検出した。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面はやや凹凸がある。掘り方は床面から２～６㎝の深さを測る。貼り床はほぼ全面に施されている。貼り床には、黄褐色砂質土に黒褐シルトを混ぜたものが用いられている。
＜壁・壁溝＞直立気味に立ち上がる。壁溝は、ほぼ全周する。
＜柱穴＞未検出である。
＜カマド＞カマドは西壁中央よりやや南に位置する。袖は黒褐～暗褐色シルトに黄褐色砂質土を混ぜたものを構築土として作られている。また、右袖の脇で土師器杯が出土している。燃焼部は確認できなかった。煙道部は、上部が破壊を受けており天井部や煙出し部の残存はない。煙道の長さは約75㎝、煙道底面の幅は15㎝である。煙道底面は、竪穴の床面から竪穴の外に向かって上がり勾配を示す。煙道の方向はＮ－70°－Ｗである。
＜付属施設＞南西隅で土坑を検出した。床面からの深さは12～14㎝である。埋土は黒色シルトを主体に黄褐色砂質土や暗褐色砂質土が混ざる。人為堆積と判断されたが明確にはない。
＜遺物＞（第139図、写真図版121）出土土器の総量は394ｇである。190・191の土師器坏２点、208ｇを掲載した。
＜時期＞出土した土器は9世紀後葉～10世紀前葉の様相を示しているが、To－aテフラ降下期より古い可能性が高い。（星）

**RA139竪穴住居跡（32号住）**（第61～63図、写真図版52・53）
＜位置・検出状況＞調査区中央東よりの４Ｍ３ｏグリッド周辺に位置する。本住居跡は、道路と水道管、住宅基礎によって切られている。Ⅲ層上で検出したが、道路の砕石をはがしたところ、Ⅳ層上で

北西隅を確認した。この部分は床面まで削平されている。また、東壁や埋土の一部を撹乱によって破壊されている。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞隅丸長方形で、一辺の長さが4.68×3.75mで、壁高が20cmである。主軸方向はN－79°－Eである。
＜埋土＞上下２層に細分される。黒褐色土が主体だが、住居北東よりでは、上下層の間にⅣ層粒を多く含む。
＜床面・掘り方・貼り床＞平坦で締まる。掘り方は東側と南側が若干深い。貼り床はⅣ層ブロックを多く含む暗褐色土である。
＜壁・壁溝＞Ⅳ層中にあり、直立気味に立ち上がる。北壁の一部のみ壁溝を確認した。
＜柱穴＞南西隅付近から１個検出した。
＜カマド＞４基確認した。遺物の出土状況から東壁南端にある１号カマドが最も新しいと考えられる。
新旧関係は　２号カマド　→　３号カマド　→　１号カマド
　　４号カマド
となり、２号と４号のカマド新旧関係は不明である。

１号カマドの袖は左側が若干残っているのみで、全容は不明である。燃焼部は42×37cmの楕円形に焼土が形成される。焼土の厚さは４cmである。煙道は長さ約1.4m、刳り貫き式である。煙道の底部は燃焼部から一旦緩やかに上昇するが、煙出しに向かって急に下降する。煙出し最上層は埋め戻しされた層である。煙道の方向は住居とほぼ同様のN－82°－Eである。

２号カマドは東壁の中央よりやや北側に位置する。カマド袖、天井は一切残っていない。燃焼部の焼土と煙道の一部のみで、煙道はほとんどが撹乱によって失われている。燃焼部焼土は50×44cmの不整形に形成されている。焼土はよく発達しており、厚さは６cmである。煙道は北側壁のみ残っている。埋土はⅤ層の粒を含む黒褐色土で、埋め戻している可能性が高い。煙道の方向は住居とほぼ同様のN－81°－Eである。本カマドは残存状況から推測すると、１号、３号カマドより古いと思われる。

３号カマドは東壁の１号カマドのすぐ北側に位置する。袖、天井は残存していない。壁際に袖の芯材と思われる礫が１点あったが、精査の過程で崩落し図化できなかった。燃焼部には焼土が51×41cmの楕円形に形成されている。焼土の厚さは５cmである。煙道は長さ約1.1m、刳り貫き式である。壁に対しやや斜めに取り付けられており、煙出しのみならず、煙道も開口している部分がある。燃焼部から一旦急に下降し、やや上昇して煙出しに至って再度下降する。埋土にⅤ層の砂を多く含む部分があり、崩落した可能性も高い。また、埋土上層の様相はⅣ～Ⅴ層ブロックを含み、埋め戻した可能性もある。出土した土器の量等から１号カマドよりは古く、袖芯材がわずかではあるが残っていたことから３号、４号カマドよりは新しいと思われる。

４号カマドは西壁の中央に位置する。袖や天井は残っておらず、その部分に黒色土とⅣ～Ⅴ層の暗褐色シルトを貼って塞いでいる。この部分は硬く締っており、当初ステップ状の遺構と考えたが、断ち割ったところ、煙道入り口を検出した。燃焼部は床上では検出できず、床をはがした段階で23×20cmの焼土を検出した。焼土の厚さは２cm程度で、上面はカマドを壊す際に削られていると考えられる。煙道は長さ約1.5m、刳り貫き式である。煙出し部分は水道管の撹乱を受け、破壊されている。煙道の底面は入り口から煙出しに向かって下降する。煙道の方向は、住居、１号カマド、２号カマドと軸線を同じくするN－103°－Wである。
＜付属施設＞１号カマド右脇の住居東南隅に土坑がある。浅いすり鉢状を呈しており、カマド袖など

に使用されたと思われる礫が出土している。位置等から貯蔵穴と思われる。

住居北壁の東よりに４号土坑がある。壁から張り出しており、底面は住居床よりも低い。当初、埋土１層が柱痕跡のようにも思われ、本住居跡と重複する掘立柱建物の一部と考えて精査したが、周囲に柱穴が見られないことと、同様の住居内土坑が第９次調査区でも検出されていることから、住居に付属する貯蔵穴と捉えた。

床面中央付近の貼り床の下から白色の粘土とそれが焼けて形成された焼土が検出された。粘土は29×22㎝の楕円形に検出され、一部焼土化している。粘土の厚さは2㎝程度と薄い。

また、床をはがしたところ、土坑２基（土坑２、土坑３）が検出された。いずれもⅣ～Ⅴ層ブロックを含む黒色土で埋め戻されている。

＜遺物＞（第139図、写真図版120）１号、３号カマド周辺から土器片が多く出土した。総量は2,360ｇで、うち４点、1,706ｇを掲載した。

＜時期＞出土した土器から9世紀後葉～10世紀前葉と考えられる。（金子）

**RA140竪穴住居跡（30号住）**（第64・65図、写真図版54・55）

＜位置・検出状況＞調査区中央の４M18m グリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。

＜重複関係＞ない。

＜規模・平面形状＞方形を呈し、3.4×3.5m、壁高56㎝である。西壁の北よりが少し外側に張り出している。住居の主軸方向はN－86°－Wである。

＜埋土＞５層に細分される。最下層の５層、壁際の３層は混入物の少ない黒色土で自然堆積と思われるが、少なくとも２層、４層はⅣ層及びⅡ層起源のブロックを斑に含む黒褐色土及び暗褐色土で、埋め戻しと思われる。最上層の１層は自然堆積と思われる。住居北よりの一部に床上３㎝ほどの高さに厚さ１㎝ほどの焼土、南壁際やや西より４層下位に焼土と灰が少量検出された。

＜床面・掘り方・貼り床＞床面は平坦で硬く締っている。東壁よりの一部が特に硬く、床面に厚さ２㎝程度の褐鉄層を形成する。

＜壁・壁溝＞壁は外傾して立ち上がる。壁溝はない。

＜柱穴＞検出されなかった。

＜カマド＞西壁、東壁にそれぞれ１基の計２基ある。残存状況から西壁の１号カマドが新しいと考えられる。１号カマドは西壁の中央より若干北よりに位置する。左袖は芯材に角礫を用い、黒褐色土の上にやや濁った褐色のシルトを貼って構築している。右袖は黒褐色土の上に黄褐色土を貼っている。袖の構築土はやや濁った土であることと、右袖がやや幅が広いように感じたため、当初は左右どちらも袖が崩壊した土かとも思われたが、精査の結果、構築状況から袖であることがわかった。特に右袖は下位から土坑３が検出され、これを埋め戻してその上に袖をやや幅広に構築している。燃焼部は40×40㎝の楕円形に焼土が形成され、厚さは最大で７㎝である。煙道は刳り貫き式で、長さは約1.5m、方向は住居とほぼ同じのN－84°－Wである。煙道の底部は入り口から煙出しに向かって緩やかに下降する。煙出しの埋土上層からは拳大の円礫が多数出土した。

２号カマドは東壁の南よりに位置する。天井、袖などは残存していない。燃焼部の上位の埋土下位から礫が１点出土した。燃焼部は35×25㎝の不整形に焼土が残っている。焼土の厚さは３㎝である。煙道は刳り貫き式で、長さ1.15m、底部は入り口から緩やかに下降して煙出しに至る。煙出しの埋土下層にはⅤ層崩壊土の褐色砂が厚く堆積している。煙出し底部から拳大の円礫が多数出土した。煙道の方向はN－95°－Eである。

＜付属施設＞１号カマド北側に床より５㎝高い棚状の張り出しがある。棚部分の壁には袖と同じような黄褐色土が貼られる。住居内から土坑が４基検出されたが、いずれも黄褐色土ブロックを斑に含む暗褐色土などで埋め戻されており、最終段階では開口していなかった可能性が高い。
＜遺物＞（第139・140・160図、写真図版120・134）埋土及び床上、土坑３埋土から土器が出土している。土器の総量は2,375ｇで、うち８点、822ｇを掲載した。
＜時期＞出土した土器から９世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。　（金子）

**RA141竪穴住居跡（33号住）**（第66・67図、写真図版56・57）
＜位置・検出状況＞調査区中央東よりの４M10rグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層で、黒褐色の方形の広がりとして検出した。
＜重複関係＞南東隅がRG073と重複し、本遺構が古い。また、１号カマド煙道付近がRD313と重複し、本遺構が新しいと思われる。
＜規模・平面形状＞隅丸方形で、一辺の長さが4.6×4.53m、壁高は38㎝である。主軸方向はN－105°－Wである。
＜埋土＞上層１層はTo－ａテフラ粒を少量含む黒褐色土である。中層の３層はⅣ層粒と黒色土ブロックを含む黒褐色土で、それぞれの粒やブロックは形状が不明瞭である。この層は住居中央部が厚く、壁際が薄いことから通常の自然堆積の様相ではなく、埋め戻している可能性が高い。２層は３層上面の壁際の浅い窪地に入り込む混入物の少ない黒褐色土で、自然堆積と思われる。下層４層は壁際から床上に堆積する黒褐色土である。
＜床面・掘り方・貼り床＞やや凹凸はあるが、硬く締まっている。掘り方は床中央が浅く、壁際が深い。もっとも深い南西部はⅤ層砂層まで掘り込んでいる。貼り床はⅤ層砂ブロックの混入する黒褐色土である。南東部の床は貼り床が三重に施されており、最上面に１～２㎝ほどの褐鉄層が形成される。
＜壁・壁溝＞Ⅲ～Ⅳ層中にあり、南北壁は直立気味、東西壁はやや緩やかである。壁溝は検出されなかった。
＜柱穴＞東壁中央に１個検出されたのみである。
＜カマド＞２基検出された。西壁の中央付近に位置する１号カマドは両袖がかなり失われているが、基部が若干残っている。粘性のある黒色土にⅣ層起源の褐色土を貼り付けて構築している。燃焼部は65×48㎝の不整形に焼土が形成され、袖の内側も一部焼土化している。焼土の厚さは７㎝である。煙道は長さ約1.7m、土層の堆積状況から掘り込み式と思われる。煙道の底面は煙出しに向かって緩やかに下降する。煙道の方向はN－105°－Wである。
　２号カマドは東壁のやや北よりに位置する。燃焼部と煙道のみが残っている。燃焼部の一部は北側に隣接する土坑４に切られており、この土坑よりもカマドのほうが古い。燃焼部は49×41㎝の楕円形に焼土が形成され、焼土の厚さは７㎝である。煙道は長さ約1.5m、天井は残っていないが、手前側にⅤ層崩壊土と思われる黄褐色砂（５層、６層）が堆積することから刳り貫き式であった可能性が高い。煙道の底部は煙出しに向かって起伏しながら下降する。煙道の方向はN－80°－Eである。
＜付属施設＞住居北壁際に２基、北東隅に１基、南東隅に１基の計4基の土坑を検出した。土坑３の埋土は黒褐色土の単層で、角礫２点が出土したほか、周辺から土器が出土している。また、床面東よりから現地性の焼土を３箇所確認した。焼土周辺から鍛造剥片その他の遺物は出土していない。
＜遺物＞（第140・141・160図、写真図版120・122・134）住居北西隅、土坑３周辺、中央よりやや南よりの床面、北東隅から土器が出土している。土器の総量は2,882ｇで、うち９点、1,736ｇを掲載した。

＜時期＞出土した土器から平安時代の９世紀後葉と考えられる。　（金子）

**RA142竪穴住居跡（34号住）**（第68・69図、写真図版58・59）

＜位置・検出状況＞４Ｍ８ｘグリッド周辺に位置する。Ⅳ層中において、黒褐色シルトの方形プランとして検出した。西側を中心に下水管などの攪乱により破壊が著しい。

＜重複関係＞なし。

＜規模・平面形状＞3.95×3.90mの方形である。壁高は22～28cmである。主軸方向は、Ｎ－15°－Ｅである。

＜埋土＞１～４層に分層した。主体を成す１層黒褐色シルトと２層暗褐色シルトは自然堆積層と判断される。３層褐色粘土は、床面上に貼られた意図的な土層と考えられる。４層は貼床である。

＜床面・掘り方・貼り床＞黒褐色シルトによる貼り床がほぼ全面に施される。

＜壁・壁溝＞壁は外傾を基調に直立気味に立ち上がる部分もある。壁溝は検出されていない。

＜柱穴＞柱穴は検出していない。

＜カマド＞２基検出した。新しい段階のカマドを１号カマド、古い段階のカマドを２号カマドと命名した。

１号カマドは、東壁で中央より北側に位置する。袖は芯に礫を据え、礫周辺にカマド７層やカマド10層で貼り固めている。燃焼部は、40×35cmの範囲で、深さ５cmで焼土が発達する。また、右袖脇に60×25cmの楕円形に焼土の広がりがみられる。煙道部は、１～４層が人為堆積、５・６層は煙道天井部が陥没した土層と判断される。煙道の長さは約105cm、煙道底面の幅は約26cmである。煙道の底面の状況は、竪穴床面からやや下り勾配で東へ延びる。煙道の方向はＮ－105°－Ｅである。

２号カマドは西壁でほぼ中央に位置する。袖や燃焼部は未確認である。煙道部は、攪乱により破壊されている。煙出し部は埋め戻されている。煙道の方向はＮ－65°－Ｗである。

＜付属施設＞なし。

＜遺物＞（第141図、写真図版122）出土土器の総量は793ｇである。213～215の土師器３点、163ｇを掲載した。なお、埋土１層出土の須恵器甕（215）は、RA089（10次調査）を截るカクラン層出土と接合関係をみる。

＜時期＞出土した土器から平安時代の９世紀末～10世紀前半と考えられる。　（星）

**RA143竪穴住居跡（36号住）**（第70・71図、写真図版60）

＜位置・検出状況＞４M14rグリッドに位置する。北～西がⅤ層中、東～南がⅣ層中において、黒褐色シルトの方形プランとして検出した。北側の一部や西側は攪乱で破壊されている。

＜重複関係＞無し。

＜規模・平面形状＞3.30×3.25ｍの方形である。壁高は15～25cmを測る。主軸方向は、Ｎ－80°－Ｅである。

＜埋土＞埋土は１～８層に分層した。８層は貼り床である。埋土の主体を占める１層黒褐色シルトは、黄褐色粘土質土ブロックが顕著に混入する。人為堆積と判断される。また、床面直上付近にみられ２層黒褐色シルト質粘土は、非常に硬いことから、認知できなかった貼り床土の可能性もある（※８層貼り床土より新しい段階の貼り床土とすると、調査ではわからなかったが床面は新旧２面あった可能性もある）。

＜床面・掘り方・貼り床＞床面は平坦である。貼り床がほぼ全面に施されている。上記のとおり８層

を貼り床土として用いられている。掘り方は、床面から５～10cmの深さを測り、やや凹凸がある。
＜壁・壁溝＞基本層序Ⅳ層を壁とする。外傾若しくは直立気味に立ち上がる。壁溝は２条確認した。２条とも西壁を除き、ほぼ全周する。内側の壁溝が外側の壁溝に截られることから、本遺構は拡張されていると考えられる。
＜柱穴＞12個検出した。主柱としては、柱穴１・３・５・９など壁際近くに位置するものが想定される。ただし、明確には把握できない。
＜カマド＞２基検出し、１号カマド、２号カマドと命名した。
　１号カマドは東壁に位置する。袖は、地山作り出しによる左袖がわずかに残存する。燃焼部は、38×32cmの範囲で、深さ３～５cmで焼土の発達がみられる。煙道の長さは約133cm、煙道底面の幅は約20cmである。煙道の底面の状況は、竪穴床面からやや下り勾配で東へ延びる。煙道の方向はＮ－80°－Ｅである。
　２号カマドは西壁に位置する。煙道部は、上部は既に削平され、また途中攪乱で破壊されている。15cm程の礫を敷き詰め、埋め戻されている。煙道の方向はＮ－100°－Ｗである。
＜付属施設＞カマド左袖脇より土坑１基を検出した。
＜遺物＞（第141・163図、写真図版122・136）出土土器の総量は813ｇである。216・217の土師器２点、132ｇを掲載した。
＜時期＞出土した土器から平安時代の９世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。　（星）

**RA144竪穴住居跡（29号住）**（第72図、写真図版61）
＜位置・検出状況＞４N13dグリッドに位置する。Ⅲ層中で、黒～黒褐色シルトの方形プランとして検出した。西壁の一部と南東隅付近は攪乱で破壊されている。
＜重複関係＞なし。
＜規模・平面形状＞3.9ｍ×3.6ｍの方形である。壁高は15～20cmを測る。主軸方向は、Ｎ－10°－Ｅである。
＜埋土＞埋土は１～６層に分層した。６層は貼り床である。埋土上位に堆積する１～３層は、黒～黒褐色シルトを主体とし、中～下位に堆積する４層は褐色砂質土で、全て自然堆積である。なお、南壁際の一部分にみられた５層黄褐色粘土は、壁の崩壊土なのか人為層なのか明確には判断できなかったが、前者と推定される。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面は、貼り床がほぼ全面に施されている。カマド周辺は硬化面を形成する。掘り方は、床面から約７cmの深さを測り、やや凹凸がある。
＜壁・壁溝＞基本層序Ⅳ層を壁とする。直立気味に立ち上がる。
＜柱穴＞南壁際より１個検出した。
＜カマド＞東壁に位置する。袖は、右袖の高まりがわずかに確認されるに留まる。燃焼部は、上記した硬化面に形成されており、70×35cmの長楕円形に焼土が分布する。この焼土は、深さ３～５cmで発達がみられる。煙道の長さは約110cm、煙道底面の幅は約28cmである。煙出し部の幅は、約48cmである。煙道の底面の状況は、竪穴床面からやや下り勾配で東へ延びる。煙道の方向はＮ－100°－Ｅである。
＜付属施設＞なし。
＜遺物＞（第142・143・163図、写真図版117・122・123・136）出土土器の総量は2,058ｇである。218～226の土師器及び須恵器計９点、819ｇを掲載した。その中で、222はRD282と、223はRD320と

遺構間接合をみる。
＜時期＞出土した土器から平安時代の９世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。　（星）

**RA145竪穴住居跡（25号住）**（第73・74図、写真図版62・63）
＜位置・検出状況＞４M21pグリッドに位置する。Ⅲ～Ⅳ層中でRA119と重複するプランを検出した。
＜重複関係＞RA119（奈良時代の竪穴住居跡）を截る。
＜規模・平面形状＞3.80×3.65mの方形である。壁高は15～20cmを測る。主軸方向は、N－122°－Wである。
＜埋土＞埋土は１～５層に分層した。６・７層は貼り床である。８層は整地層とである。埋土の主体を占める１層黒褐色シルトは自然堆積と判断された。２層は黒褐色シルトと黄褐色砂質シルトの混土で、それらの混ざり方や締り具合から人為堆積と判断される。２a層黄褐色粘土は、人為堆積層で局所的に確認でき、状況から埋め戻した土層ではなく、何らかの用途に関係した整地層と判断される。２b層は、南東隅で検出された土坑５を覆う人為堆積層である。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面は、貼り床がほぼ全面に施されている。カマド周辺は硬化面を形成する。貼り床には、暗褐色シルトに黄褐色粘土質砂質土を混ぜたものが用いられている。掘り方は、床面から５～10cmの深さを測り、所々に大きめの凹部がある。
＜壁・壁溝＞壁は、北・南・西壁は外傾して立ち上がる。東壁は棚状を呈する。
＜柱穴＞８個検出した。柱穴３・８は壁際から、その他は壁内に位置する。
＜カマド＞南東壁際に位置する。カマド付近は貼り床が厚く、硬化面が広がる。袖の残存はない。燃焼部は、硬化面上に約36cmの円形に焼土が分布する。煙道の長さは約90cm、煙道底面の幅は約20cmである。煙道の底面は、竪穴床面よりやや高く、途中から下り勾配で煙出しの方（南東）へ延びる。煙道の方向はN－155°－Eである。
＜付属施設＞土坑５基を検出し、土坑１～５と命名した。その中で、土坑４と土坑５は、床下から検出された。
＜遺物＞（第143・144図、写真図版116・123）出土土器の総量は2,361ｇである。227～232の土師器６点、1,201ｇを掲載した。
＜時期＞出土した土器から９世紀後葉と考えられる。　（星）

**RA146竪穴住居跡（12号住）**（第75～77図、写真図版64・65）
＜位置・検出状況＞調査区東端の４N17eグリッド周辺に位置する。検出はⅢ層上面で黒褐色の方形の広がりを捉えたことによる。本住居跡に接して、北東に大きな撹乱があり、カマド煙道が一部破壊されている。
＜重複関係＞RD320と重複している。精査途中で重複に気づいたが、本住居跡の床面を土坑が切っていることから、本住居跡が古い。
＜規模・平面形状＞隅丸方形を呈し、一辺の長さが5.65×5.47m、壁高は51cmである。主軸方向はN－8°－Eである。
＜埋土＞３層に大別され、上層はⅤ層ブロックと小礫を少量含む黒褐色土、中層はブロックの少ない黒色土、下層はⅤ層ブロックを多く含む黒褐色土である。東壁際にⅤ層崩壊土、西壁際に炭粉を多く含む黒色土が堆積する。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面中央の約1.7×1.7の不整形の範囲は周囲より５～８cm低い。この部分

の貼り床はごく部分的なものである。掘り方は細かい凹凸があり、住居全体が同じくらいの深さである。貼り床は中央の凹みを除いて全体に施されており、東壁際と南壁際では2層確認した。
＜壁・壁溝＞直立気味に立ち上がる。東壁の中央から北端、南壁の西端を除き、壁溝が周る。
＜柱穴＞柱穴1～4の4個検出され、方形の配置である。東側の2個は東壁に取り付く。
＜カマド＞2基検出された。残存状況と最も新しい貼り床との新旧関係から1号カマドの方が新しいと考えられる。

1号カマドは北壁の東よりに位置する。袖は右側がほとんど残っていないが、左袖が残る。細長い礫を直立させ、その上に甕の底部をかぶせて芯材とし、Ⅳ～Ⅴ層起源の黄褐色土を貼って構築している。燃焼部は74×61cmの楕円形に焼土が形成されている。焼土は発達し、厚さ11cmである。煙出しは撹乱によって上面が破壊されている。煙道の長さは約1.4m、刳り貫き式である。煙道底面は煙出しに向かって緩やかに降下する。煙道の方向はN－16°－Eである。

2号カマドは東壁の中央よりやや北に位置する。袖、天井は残っていない。燃焼部と煙道のみである。壁際の貼り床上層を除去した段階で、燃焼部の全容が明らかになった。70×54cmの楕円形で、焼土はよく発達しており、厚さは9cmである。煙出しの上部は撹乱で削られている。煙道の長さは約2.1mで、刳り貫き式である。残存する煙出しの最上層にはⅤ層崩壊土（1層）が堆積している。煙道の底面は緩やかに下降して煙出しに至る。煙道の方向はN－102°－Eである。
＜付属施設＞南東隅に1号土坑、1号カマド右脇の北東隅に北壁に若干張り出す土坑2がある。土坑2はカマド脇の貯蔵穴と思われる。南西隅には土坑3、土坑4がある。深さ5～10cm程度の浅い土坑で、Ⅳ層粒、Ⅱ層粒を斑に含んだ黒褐色土で埋め戻されている。

南壁の中央にはステップ状の施設がある。Ⅴ層起源の砂質土で構築されており、締まっている。ステップを除去したところ、左右から検出されていた壁溝が繋がった。左右の壁溝の埋土は黒色土であるのに対し、ステップ状施設の下の溝はⅤ層の褐色土で埋め戻されている。

床面中央の凹みから移地性の焼土、Ⅴ層の黄褐色砂ブロック、拳大の礫が数点検出されたが、用途を示すような遺物は出土しなかった。
＜遺物＞（第144・145・160・161・162・164図、写真図版115・123・124・134・135・136）土坑1、土坑2の埋土から多くの土器が出土した。掲載した土器のうち243と244は埋土の上層から出土したものである。出土した土器の総量は4,747gで、うち18点、2,417gを掲載した。
＜時期＞出土した土器のうち243と244は出土層位から、流れ込みと考えられる。その他の土器から平安時代の9世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。（金子）

**RA147竪穴住居跡（28号住）**（第78～80図、写真図版66・67）
＜位置・検出状況＞農免道路の西側飛び地の5Ｌ9ｍグリッドに位置する。Ⅳ～Ⅴ層中において、黒褐色シルトの方形プランとして把握した。北壁は、現在も使用中の排水パイプと重複するため、調査を断念した。
＜重複関係＞無し。
＜規模・平面形状＞5.00×4.50mの方形である。壁高は30～35cmを測る。主軸方向は、N－105°－Wである。
＜埋土＞埋土は1層黒褐色シルトを主体とする。この1層には、To－aテフラが少量と径2～20cmの礫を多量に混入する。自然堆積と判断された。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面はほぼ平坦で、全体に硬く締まる。大部分は基本層序Ⅵ層の砂礫層中

を床とするが、壁に近い部分で所々貼り床が施される。掘り方は明瞭ではない。なお、北壁際で非現地性の焼土隗２箇所を確認した。
＜壁・壁溝＞基本層序Ⅳ～Ⅵ層を壁とする。外傾気味に立ち上がる。
＜柱穴＞１基検出した。
＜カマド＞３基検出し、１号カマド、２号カマド、３号カマドと命名した。

１号カマドは西壁際に位置する。袖は残存状態が良く、柱状の礫を埋め込み芯とし、それに石や土器を添え、カマド４層・６層（ａ－ａ'断面）を貼り土に用いて周辺を固める精巧なつくりである。煙道部は、削平により天井部分や煙出し部の残存がない。また、煙道部の裾付近から大形の甕の破片が出土したが、使用時に設置したのではなく、カマド廃絶後に棄てられた（若しくは置かれた）ものと判断した。煙道の長さは約110㎝、煙道底面の幅は18～28㎝である。煙道の底面の状況は、竪穴床面と、ほぼ同じ高さで西へ延びる。状況から掘り込み式と判断される。煙道の方向はＮ－110°－Ｗである。

２号カマドは東壁際やや南に位置する。燃焼部と煙道部を検出した。袖は残存しない。煙道部は人為堆積による。煙道の長さは約130㎝、煙道底面の幅は約25㎝である。煙道の底面の状況は、竪穴床面よりやや高く、緩く下がり勾配で東へ延びる。煙道の方向はＮ－70°－Ｅである。

３号カマドは東壁際やや北に位置する。燃焼部と煙道部を検出した。袖の残存はない。煙道部は、埋め戻されており、煙道入り口は礫が敷き詰められている。煙道の長さは約130㎝、煙道底面の幅は約25㎝である。煙道の底面の状況は、竪穴床面よりやや高く、緩く下がり勾配で東へ延びる。煙道の方向はＮ－75°－Ｅである。
＜付属施設＞北西隅の床下より土坑１を検出した。攪乱下に続くため、形状・規模ともに明確ではないが、開口部80㎝前後、底部40㎝前後、床面からの深さ約25㎝で、方形を基調とする。
＜遺物＞（第146・164図、写真図版124・125・136）出土土器の総量は4,316ｇである。250～254の土師器と255の須恵器計６点、1,438ｇを掲載した。鉄製品が出土している。
＜時期＞出土した土器から９世紀末～10世紀初頭と考えられる。　（星）

**RA148竪穴住居跡（６号住）**（第81～83図、写真図版68・69）
＜位置・検出状況＞調査区南西の６Ｌ１ｑグリッド周辺に位置する。周辺は表土を除去するとⅥ層が露出している部分もあり、Ⅳ～Ⅵ層上で黒褐色の広がりとして検出した。
＜重複関係＞ない。直接重複していないが、住居北東方向1.5～４ｍにRD321～RD323の３基の土坑がある。
＜規模・平面形状＞隅丸方形を呈し、一辺の長さが7.25×6.70m、壁高は36㎝である。今回の調査区内では最大の竪穴住居跡で、過去の調査に照らしても最大級である。主軸方向はＮ－104°－Ｅである。
＜埋土＞４層に細分される。上層～中層の１層、２層は周囲のⅥ層から流れ込んだと見られる礫を多く含む黒色土である。色調の若干の明暗によって細分したものの、ほぼ同じ層といってよいような層相である。壁際の３層、最下層の４層も礫を含んでいる。全体の堆積の状況から自然堆積と考えられる。なお、To－ａテフラ粒が柱穴４の検出面からのみ検出されている。
＜床面・掘り方・貼り床＞床は平坦で、締りはあまり強くない。ただし、１号カマドの右脇付近には濁った黄褐色土が見られ、貼り床状に硬く締まっている。掘り方は四隅が深く、壁際も帯状に深く掘り込んでいる。中央は浅い。礫を多く含んだ砂礫を貼って、貼り床としている。
＜壁・壁溝＞Ⅳ～Ⅵ層中にあり、外傾して立ち上がる。壁溝はない。

＜柱穴＞6個検出された。うち、柱穴1、柱穴4は東際である。柱穴1～4が主要な柱で、長方形の配置をとると思われる。
＜カマド＞新旧2基検出された。残存状況から東壁の中央からやや北よりにある1号カマドが新しいと考えられる。袖は少し残っており、暗褐色の砂質シルトに褐色のシルト質粘土を貼り付けて構築している。右袖は土師器甕を芯材としている。燃焼部はカマド左よりに、38×27cmの楕円形の範囲に焼土が形成される。焼土の厚さは6cmである。燃焼部の奥に土師器甕の底を倒立させて置き、支脚としている。煙道は長さ約1.6m、掘りこみ式である。底面は燃焼部奥で一旦上昇した後、煙出しに向かって下降する。煙出しの部分の最上層と最下層から拳大の円礫が数点出土した。煙道の方向はN－99°－Eである。
　2号カマドは北壁の東よりに位置する。左袖の一部が残存している。長さ20cm、厚さ10cmほどの礫を芯材とし、暗褐色や褐色のシルトを貼り付けている。袖の内側は焼けて焼土化している。燃焼部は42×34cmの不整形に焼土が形成されている。焼土の厚さは4cmである。煙道は長さ約1.6m、掘りこみ式と思われる。底部は燃焼部から煙道入り口で、一旦上昇した後、すぐ下降して緩やかに煙出しに至る。煙道最下層には掌大の円礫を多く含む。煙出し部分には炭粉が多く含まれる。煙道の方向はN－20°－Eである。
＜付属施設＞1号カマド左袖の脇に高さ3～5cmほどのステップ状の施設がある。褐色の粘土を貼って構築されており、硬く締まる。位置と柱穴1に切られていることから入り口とは考えられない。
＜遺物＞（第146～150、164図、写真図版125～127・136）1号カマド内外、カマド上面、住居北東隅、2号カマド左袖周辺、住居南西隅、東壁際の埋土～床面から土器が多く出土している。柱穴3の直上から鉄鏃（633）が出土した。土器の総量は8,454gで、うち33点、6,477gを掲載した。
＜時期＞出土した土器から平安時代の9世紀末～10世紀前葉と考えられる。　（金子）

**RA149竪穴住居跡（10号住）**（第84～85図、写真図版70・71）
＜位置・検出状況＞調査区南の飛び地の6N17iグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層で、Ⅳ層粒を含む黒褐色土の方形の広がりとして検出した。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞隅丸の長方形を呈し、一辺の長さが4.8×4.0m、壁高は21cmである。主軸方向はN－71°－Eである。北東隅と南東隅の壁が少々張り出している。
＜埋土＞上層はⅣ層の細粒を含む黒褐色土で、中～下層に混入土の少ない黒色土が堆積する。この黒色土には場所により炭粉が多く含まれる。西壁際にはⅣ層細粒を含む褐～暗褐色土が堆積している。また、南壁中央付近の壁際の一部にも暗褐色土が堆積している。当初ステップ状の施設かとも思われたが、土に締りがなく下層に黒色土が入り込むので、ステップではないと判断した。北壁際の一部の埋土上位に4cmほどの厚さの焼土が含まれる。焼土の下には間層を挟んで、灰と思われる灰黄褐色土も堆積していた。
＜床面・掘り方・貼り床＞床は小さな凹凸があるが、硬く締まっている。床の凹凸は南西隅では他よりやや大きくなり、浅い小穴状になる。中央から南東よりの一部の床面は貼り床の上にさらにもう一度貼り床を施している。上位の貼り床は焼土粒や炭粒を含み、硬くしまっている。この部分では掘り方はⅥ層まで達し、特に深い。掘り方が深いゆえに、使用中にやや床が落ち込み、さらに床を貼ったのであろうか。そのほか、西壁よりの掘り方もⅤ層まで掘りこんでいて深い。貼り床は黄褐色土と黒褐色土が斑に混合する土である。

＜壁・壁溝＞Ⅳ層中にあり、直立気味に立ち上がる。北壁と西壁の北よりの一部に壁溝がある。
＜柱穴＞いずれも浅いので、真に柱穴となるか疑問だが４基検出された。柱穴１の埋土は粘性に富み、Ⅳ層粒とⅡ層粒の混合土の単層で、埋め戻されている可能性が高い。柱穴２の埋土はⅣ層ブロックを含む黒色土である。かなり浅い。柱穴３も浅く、埋土上位に焼土を含む。柱穴４の埋土は炭粉を多く含む黒色土である。
＜カマド＞東壁北よりに位置する。袖は手前がかなり崩れているが、壁際は残っており、礫を芯材としていることがわかった。左袖は角礫を壁際に設置し、黒～黒褐色土の上に暗褐色土を貼り付けている。角礫の脇からは床と壁に密着するように坏が置かれており、その上にⅣ層土を貼り付けている。袖の一部からはⅣ層起源の褐色土が検出されるので、最後に褐色土を貼って構築していたと思われる。右袖は細長い円礫を壁際に置き、手前にも礫を配して芯材としている。両袖の最も手前から芯材の据え方と思われる小穴が検出された。燃焼部は31×31㎝の楕円形に焼土が形成されている。焼土の厚さは４㎝である。煙道は長さ約1.4m、刳り貫き式である。底面は燃焼部から煙出しに向かって下降する。煙道の埋土は焼土粒や炭粉を含む黒褐色土が主体であるが、煙出しの最上層にⅣ層ブロックを多く含み、埋め戻しと思われる。煙道の方向はN－75°－Eである。
＜付属施設＞カマド右脇と南東隅に土坑がある。いずれも東壁に張り出しており、オーバーハングしている。貯蔵穴と思われる。他にカマド左脇の壁は東側と北側にやや張り出しており、貯蔵穴的に使用された可能性が高い。住居西壁の中央からやや南よりの壁際にステップ状の施設がある。貼り床の上にやや濁った褐色シルトを貼って造られている。上面は締りがあり、凹んでいる。床面からは現地性と思われる焼土が２箇所検出された。１～２㎝程度の厚さの焼土で、よく締まっており、床面が焼けて形成されたと思われる。
＜遺物＞（第150～152、161・164図、写真図版127・128・134・135・137）カマド周辺、住居北東隅から土器片が多く出土している。北西部分からも坏、鉄製品が出土した。土坑１の埋土下位から出土した炭化材は肉眼による同定でクリとの結果を得ている。本住居跡の土器の総量は5,644ｇで、うち25点、2,319ｇを掲載した。
＜時期＞出土した土器から平安時代の９世紀後半から10世紀初頭と考えられる。　（金子）

## 3　掘立柱建物跡

**RB018掘立柱建物跡（２号掘立柱建物跡）**（第86図、写真図版72）
＜位置・検出状況＞４Ｌ１ｙグリッドに位置する。検出面はⅢ～Ⅳ層である。
＜重複＞RD302、RE007と重複する。新旧関係は明確ではないが、本遺構が古いと判断された。
＜規模・構造・方向＞桁行２間、梁行２間の掘立柱建物跡である。規模は、桁行総長が柱穴１－柱穴７間で３ｍ、柱穴３－柱穴８間で2.7ｍと若干差異がある。梁行総長は2.85ｍである。桁行の方向はN－12°－Wである。
＜柱位置・柱間＞柱穴は８個検出されたが、本来は９個で構成されていたものと捉えられる（梁行でみれば柱穴７と柱穴８の間に柱穴が位置していたと捉えられるが、RD302に破壊されている）。柱間距離は、桁行方向で1.3～1.4ｍ、梁行方向で1.4ｍである。
＜掘り方・柱痕・埋土＞掘り方は円形若しくは楕円形で径44～55㎝、深さ33～50㎝である。埋土は黒褐色シルトを主体とする。柱穴１～６ではTo－ａテフラが１％程混入するが、何れも柱を据える際の人為堆積層中より確認される。柱痕跡いわゆるアタリは、柱穴３・６では平面・断面両方から、柱

穴２・５では断面からのみ確認できた。アタリの規模は18～26cmである。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞時期の上限は、柱穴の埋土に見られたTo－ａテフラは再堆積と捉えられることから、同テフラ降下時期より新しい（10世紀前半より新しい）。時期の下限は不明にあるが遺構の重複関係からはRD302・RE007より古い可能性がある。すなわち平安時代に帰属すると判断される。

**RB019掘立柱建物跡（１号掘立柱建物跡）**（第87・88図、写真図版73）
＜位置・検出状況＞４Ｍ２ｂ～４Ｍ７ｅグリッドに位置する。個々の柱穴は、Ⅳ層中において黒褐色シルトによる円形プランとして検出した。
＜重複＞RE008と重複する。新旧関係は明確ではないが、本遺構が古いと判断された。
＜規模・構造・方向＞桁行４間、梁行１間の掘立柱建物跡である。規模は、桁行総長9.7m、梁行総長4.2～4.3mである。桁行は方向はＮ－８°－Ｗである。
＜柱位置・柱間＞柱穴は９個検出したが、本来は10個の柱穴から構成されていたと捉えられる（※１個は現代の攪乱で破壊されている）。柱間距離は、桁行方向で2.3～2.55m、梁行方向で4.3～4.4mである。
＜掘り方・柱痕・埋土＞掘り方は円形若しくは楕円形で、径36～48cm、深さ14～48cmである。埋土は黒褐色シルトを主体とする。柱穴４よりTo－ａテフラの混入が確認された。アタリを確認したのは、柱穴１～５・８で、径12～18cmである。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞時期の上限は、柱穴４の埋土に見られたTo－ａテフラは再堆積と捉えられることから、同テフラ降下時期より新しい（すなわち10世紀前半より新しい）。時期の下限は不明であるが遺構の重複関係からはRE008より古い可能性がある。断定はできないが、平安時代に帰属する可能性がある。（星）

## ４　柱　穴　列

**RC002柱穴列（１号柱穴列）**（第89図、写真図版74）
＜位置・検出状況＞調査区東端の４Ｍ６ｗ～４Ｎ６ａ周辺に位置する。検出面はⅢ層である。PP２～PP５の４個の柱穴が検出された。東端のPP５東側を撹乱によって破壊されている。PP５より東側は第９次調査の調査区であるが、柱穴は検出されていない。本柱穴列より北側も第９次調査区であるが、本遺構の柱穴に対応し、建物跡となるような柱穴は検出されていない。本柱穴列より南側は水道管や排水溝の付設によって、撹乱を受けており、対応するような柱穴はPP３の南側約2.5mに１個確認されたPP16のみである。従って、本遺構は柱穴列として報告する。
＜重複関係＞ない。
＜規模・柱穴間寸法＞個々の柱穴の規模は図中の表のとおりである。柱間寸法は西から2.00m、1.80m、2.13mである。
＜埋土＞PP２・PP３・PP５の断面では柱痕を確認できた。埋土はⅤ層起源の黄褐色土粒を含む黒褐～暗褐色土である。
＜遺物＞PP２・PP３から土器片が16ｇ出土したが細片のため図化していない。
＜時期＞出土遺物と埋土の状況から古代の可能性がある。（金子）

## 5　土　　坑

**RD272土坑（54号土坑）**（第90図、写真図版74）

＜位置・検出状況＞調査区北端の２M24e グリッド周辺に位置する。Ⅲ層で、黒色の長方形の広がりを検出した。

＜重複関係＞ない。

＜規模・平面形状＞一辺の長さが1.25×0.80mの歪んだ長方形である。深さは35cm程度である。

＜埋土＞４層に細分される。自然堆積と思われる。

＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅵ層中にある。底面に深さ15cmの副穴が１個ある。壁は外傾して立ち上がるが、東壁は内湾し、オーバーハングしている。

＜遺物＞ない。

＜時期・性格＞埋土の状況から古代の可能性もある。性格は不明である。

**RD273土坑（46号土坑）**（第90図、写真図版75）

＜位置・検出状況＞調査区北側の２M24ｇ グリッド周辺に位置する。RA124竪穴住居跡のトレンチを掘削していた際に、住居の床面の落ち込みにより検出した。

＜重複関係＞RA124と重複する。住居跡の中に納まっており、双方の埋土を観察すると、住居跡よりも新しいと思われるが、住居跡廃棄後、埋没する前に掘削されたと思われる。本土坑の掘削土と思われるⅣ層起源の砂礫が住居跡南東側半分の床面に堆積している。

＜規模・平面形状＞径が3.19×2.85の楕円形である。深さは最深部で62cmである。

＜埋土＞RA124と共通する埋土で、４層に細分される。最上層下位にTo－ａテフラをブロック状に含む。堆積状況は、自然堆積の様相を示す。

＜底面・壁＞Ⅴ～Ⅵ層中にあり、緩やかに内湾する。

＜遺物＞ない。

＜時期・性格＞RA124とほぼ同じ時期で、平安時代と思われ、To－ａテフラ降下以前の土坑である。性格を示すような遺物は出土していないが、RA124竪穴住居跡と関連が深い可能性が高い。

**RD274土坑（41号土坑）**（第90図、写真図版75）

＜位置・検出状況＞調査区北側の２M25ｊグリッド周辺に位置する。RA125と重複しているが、検出面の埋土が双方類似しており、当初土坑の存在に気づかなかった。住居跡床面を精査している際に貼り床のない場所があり、土坑を確認した。

＜重複関係＞RA125と重複する。断面及び平面での重複関係の確認はできなかったが、住居跡床を本土坑が切っていることから、本土坑が新しいと判断した。

＜規模・平面形状＞径が1.79×1.63mの円形で、深さは41cmである。

＜埋土＞３層に細分され、自然堆積の様相を示す。

＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅵ層中にある。底面は平坦で、壁は一旦直立気味に立ち上がり、開口部でやや開く。

＜遺物＞埋土から土器片5.6ｇが出土したが、細片のため図化していない。

＜時期・性格＞RA125より新しいが、埋土の様相から平安時代に属すると考えられる。性格は不明であるが、重複状況から、RD273のように住居跡と関連が深いものかもしれない。

**RD275土坑（53号土坑）**（第91図、写真図版75）
＜位置・検出状況＞調査区北側の３Ｍ２ｇグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層であるが、撹乱が上位に入りわかりにくかった。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞径が2.56×2.34m、深さ60cmの円形である。
＜埋土＞２層に細分される。下位及び壁際は壁の崩壊土の砂質シルト、上層は黒色シルトである。自然堆積の様相を示す。
＜底面・壁＞壁と底面はⅢ～Ⅵ層である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞（第152図、写真図版128）埋土から土師器破片など95ｇが出土し、うち土師器甕口縁１点14ｇを掲載した。
＜時期・性格＞出土遺物や埋土の様相から平安時代に属すると考えられる。住居跡と重複はしていないが、土坑の規模や形態がRD273、RD274と類似しており、同じような性格なのかもしれない。
（金子）

**RD276土坑（48号土坑）**（第91図、写真図版75）
＜位置・検出状況＞３Ｍ８ｊグリッドに位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞RA127を截る。
＜規模・平面形状＞平面形は楕円形を呈する。規模は0.82×0.52m、深さは約55cmである。主軸方向は南－北である。
＜埋土＞１～３層に分層した。１・２層が黒褐色シルト、３層が黄褐色砂質土である。全て自然堆積と判断される。
＜底面・壁＞底面は丸底状で、壁は外傾気味に立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期＞時期の上限はRA127（平安）より新しいことはわかるが、時期の下限は不明にある。埋土の様相からは、RA127と大差ない時期と判断される。（星）

**RD277土坑（52号土坑）**（第91図、写真図版76）
＜位置・検出状況＞調査区北側の３M11*l*グリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞径が0.91×0.78m、深さ13cmの円形である。
＜埋土＞２層に細分される。浅いので確かではないが、自然堆積か。
＜底面・壁＞Ⅳ～Ⅴ層中にあり、底、壁とも内湾気味に立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞埋土の様相から古代か。

**RD278土坑（51号土坑）**（第91図、写真図版76）
＜位置・検出状況＞調査区北側の３M11k グリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞径0.88×0.50mの長円形である。深さは17cmである。
＜埋土＞２層に細分される。自然堆積か。

＜底面・壁＞Ⅳ～Ⅴ層中にあり、やや内湾気味に立ち上がる。
＜遺物＞土師器破片が89ｇ出土したが、細片のため、図化できなかった。
＜時期・性格＞出土遺物と埋土の様相から平安時代と考えられる。

**RD279土坑（49号土坑）**（第91図、写真図版76）
＜位置・検出状況＞調査区北側の３M14g グリッド周辺に位置する。30cm北側にRA129竪穴住居跡が存在する。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞一辺の長さが1.17×1.13mの隅丸方形である。深さは25cmである。
＜埋土＞４層に細分される。焼成を受けており、中位に焼土粒や灰を含む。上層は混入物の少ない層で、自然堆積と思われる。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅳ層中に壁、底がある。掘り方があり、底面には小さな凹凸がある。壁は直立気味に立ち上がる。
＜遺物＞76ｇの土師器片が出土したが、細片で、図化していない。
＜時期・性格＞出土土器から平安時代と思われ、掘り方を埋めた後、焼成を行っている土坑である。

**RD280土坑（35号土坑）**（第92図、写真図版77）
＜位置・検出状況＞調査区北側の３M16h グリッド周辺に位置する。0.5m西側にRA131竪穴住居跡、RD281がある。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞一辺の長さが1.61×1.03mの長方形である。深さは27cmである。
＜埋土＞Ⅳ層粒を含んだ黒褐～暗褐色が主体である。最下層は特にⅣ層のブロックが多いことと、不自然な堆積状況の部分があることから、人為堆積の可能性がある。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅳ層中にある。底面は平坦だが、壁際に凹凸がある。壁は内湾気味に立ち上がる。
＜遺物＞34ｇの土器小片が出土したが、掲載に至らなかった。
＜時期・性格＞出土遺物、埋土の状況から平安時代と考えられる。　（金子）

**RD281土坑（38号土坑）**（第92図、写真図版77）
＜位置・検出状況＞３M16g ～17g グリッドに位置する。Ⅳ層で検出した。
＜重複関係＞RA131に截られる。
＜規模・平面形状＞平面形は隅丸長方形を呈する。規模は1.26×0.78m、深さ28～32cmである。主軸方向は北西－南東である。
＜埋土＞埋土上位に１層黒色シルト、中～下位に２層黒褐色シルトが、そして西壁側の底面付近にのみ３層暗褐色粘土質土が堆積する。全て自然堆積と判断されるが明確ではない。
＜底面・壁＞底面は東側平坦であるが、西側は小土坑状に落ち込みがある。壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞出土土器の総量は19ｇである。全て平安時代の土師器片である。小片のため不掲載とした。
＜時期＞重複遺構との関係や出土土器から平安時代と推定される。

**RD282土坑（39号土坑）**（第92図、写真図版77）
＜位置・検出状況＞３M17g グリッドに位置する。Ⅳ層で検出した。

＜重複関係＞重複関係は持たないがRA131と近接する。
＜規模・平面形状＞平面形は楕円形である。規模は1.00×0.68m、深さ20cmである。主軸方向は北西－南東である。
＜埋土＞1層黒褐色シルトを主体とする。下位の2層にはTo－aテフラが微量混入する。自然堆積と判断されるが明確ではない。
＜底面・壁＞底面は、東側は平坦であるが、西側は小土坑状に落ち込みがある。壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞（第152図、写真図版123）出土土器の総量は7ｇである。掲載した222の土師器甕の破片は、RA144出土と接合関係を持つ。
＜時期＞出土土器や近接するRA131やRD281との関連性から平安時代と推定される。　（星）

**RD283土坑（34号土坑）**（第93図、写真図版77）
＜位置・検出状況＞調査区北よりの3M17hグリッド周辺に位置する。1m南東にRA132、2m北西にRD280がある。検出面はⅢ層である。埋土上面の一部に撹乱が入る。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞径1.40×1.20mの円形で、深さは26cmである。
＜埋土＞Ⅳ層粒を含む黒色土が主体で、自然堆積と思われる。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅳ層中にある。底面は掘り方状に凹凸がある。特に東側はやや浅い。壁は内湾気味に立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞埋土の状況から古代と推測される。　（金子）

**RD284土坑（24号土坑）**（第92図、写真図版78）
＜位置・検出状況＞3M17bグリッドに位置する。Ⅳ層で検出した。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞平面形は楕円形を呈する。規模は1.00×0.72m、深さ15～20cmである。主軸方向は北西－南東である。
＜埋土＞埋土上位に1層黒色シルト、中～下位に2層黒褐色シルトが堆積し、所々に3層黄褐色粘土質土が混ざる。人為堆積である。
＜底面・壁＞底面はやや凹凸があり、東から西に向かって緩やかに傾斜する。
＜遺物＞（第152図、写真図版128）出土土器の総量は30ｇである。313の土師器甕26ｇを掲載した。
＜時期＞出土土器から平安時代と推定される。

**RD285土坑（22号土坑）**（第92図、写真図版78）
＜位置・検出状況＞3M18bグリッドに位置する。Ⅳ層で検出した。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞平面形は円形を呈する。規模は1.45×1.27m、深さ40cmである。
＜埋土＞黒色シルトによるほぼ単層で、礫が混ざる。自然堆積と推定されるが明確ではない。
＜底面・壁＞底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞ない。

＜時期＞重複遺構、出土遺物共にが無く、詳細な時期を特定できない。埋土の様相からは古代の可能性がある。

**RD286土坑（30号土坑）**（第93図、写真図版78）
＜位置・検出状況＞３M17e～18f グリッドに位置する。Ⅳ～Ⅴ層で検出した。
＜重複関係＞RD329・RD330に截られる。
＜規模・平面形状＞平面形は隅丸方形を呈する。規模は1.20以上×1.60m、深さ34cmである。主軸方向は東－西である。
＜埋土＞黒褐色シルトを主体とし、To－aテフラブロックを含む。人為堆積の可能性が高いと判断される。
＜底面・壁＞底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞（第152図、写真図版128）出土土器の総量は468ｇである。314・315の土師器２点37ｇを掲載した。315の土師器甕は、RD329と遺構間接合をみる。
＜時期＞出土土器から平安時代と推定される。併せて、埋土中に含まれるTo－aテフラは本遺構を埋め戻した際の土中に混入していたと捉えられることから、To－aテフラ降下期より新しい可能性が考えられる。

**RD287土坑（31号土坑）**（第93図、写真図版78）
＜位置・検出状況＞３M17f～18f ・17g～18g グリッドに位置する。Ⅳ層で検出した。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞平面形は方形基調である。規模は1.20×0.88～1.12m、深さ34cmである。主軸方向は東－西である。
＜埋土＞埋土上位が１層黒色シルト、中位に黒褐色シルト、下位に黄褐色砂質粘土が堆積する。１・２層にはTo－aテフラがブロック状に混入する。全て人為堆積と判断した。
＜底面・壁＞底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞出土土器の総量は131ｇであるが、細片で図化に至らなかった。
＜時期＞出土土器から平安時代と推定される。併せて、埋土中に含まれるTo－aテフラは本遺構を埋め戻した際の土中に混入していたと捉えられることから、To－aテフラ降下期より新しい可能性が考えられる。
＜その他＞本遺構出土のTo－aテフラと判断されるものは、テフラ分析を実施したが、To－aテフラと同定された。（星）

**RD288土坑（２号土坑）**（第93図、写真図版79）
＜位置・検出状況＞調査区北よりの３M18h グリッド周辺に位置する。南側の壁の一部を撹乱に切られる。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞径2.16×1.74mの不整形で、深さは25cmである。底に副穴がある。
＜埋土＞上層はⅣ層ブロックを含む黒褐色土、下層はⅣ層起源の崩壊土である。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅳ層中にあり、緩やかな凹凸がある。壁は外形して緩やかに立ち上がる。
＜遺物＞29ｇの土器が出土しているが、小片で図化に至らなかった。

＜時期・性格＞不明である。　（金子）

**RD289土坑（20号土坑）**（第94図、写真図版79）
＜位置・検出状況＞３M18a グリッドに位置する。Ⅳ層中で、黒褐色シルトによる方形プランを検出した。なお、本遺構の南側をRD290（暗褐色シルトのプラン）が截る。
＜重複関係＞RD290に截られる。
＜規模・平面形状＞平面形は隅丸長方形を呈する。規模は1.30×0.68m、深さ10cmである。主軸方向は東－西である。
＜埋土＞黒褐色シルトによる単層である。自然堆積と判断したが明確ではない。
＜底面・壁＞底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期＞重複遺構との関係から平安時代と推定される。

**RD290土坑（19号土坑）**（第94図、写真図版79）
＜位置・検出状況＞３M19a グリッドに位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞RD289を截る。
＜規模・平面形状＞平面形は円形を呈する。規模は0.88×0.82cm、深さ22cmである。主軸方向は東－西である。
＜埋土＞暗褐色シルトによる単層である。この暗褐色シルトには、土器片、黄褐色粘土、焼土ブロックが少量混入する。人為堆積層と判断される。
＜底面・壁＞底面はやや丸底状を呈する。壁は、北側は直立気味に、南側は外傾気味に立ち上がる。
＜遺物＞（第152図、写真図版128・129）出土土器の総量は399ｇである。316～319の土師器４点129ｇを掲載した。
＜時期＞出土遺物から平安時代の９世紀後半から10世紀初頭と考えられる。

**RD291土坑（21号土坑）**（第94図、写真図版79）
＜位置・検出状況＞３M19c ～20c ・19d ・20d に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞平面形は円形を呈する。規模は0.68×0.62m、深さ18cmである。
＜埋土＞黒褐色シルトによる単層である。
＜底面・壁＞底面はやや丸底状を呈する。壁は外傾気味に立ち上がる。
＜遺物＞（第153図、写真図版129）出土土器の総量は2413ｇである。掲載した320の須恵器甕1,250ｇは土坑内に埋設の状態で出土した。
＜時期＞出土遺物から平安時代である。　（星）

**RD292土坑（36号土坑）**（第94図、写真図版80）
＜位置・検出状況＞調査区北よりの３M19e グリッド周辺に位置する。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞径0.76×0.72mの楕円形で、深さは21cmである。
＜埋土＞２～３層は自然堆積と思われる黒褐色土であるが、西壁際に堆積する１層は２、３層を切っ

ている。１層中には炭粒のほか、To－ａテフラと思われる粒が少量混入する。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅴ層中にある。底は平坦で、壁は内湾気味に立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞埋土にTo－ａテフラと思われる粒があることから平安時代か。

**RD293土坑（40号土坑）**（第94図、写真図版80）
＜位置・検出状況＞調査区北よりの３M19ｉグリッドに位置する。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞RA132と重複し、本遺構が新しい。
＜規模・平面形状＞径0.80×0.61mの楕円形で、深さ12cmである。
＜埋土＞混入物のない黒褐色土が主体である。自然堆積と思われる。
＜底面・壁＞平坦で壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞（第153図、写真図版129）
　埋土から土器が44ｇ出土した。うち土師器甕口縁部１点、24ｇを掲載した。
＜時期・性格＞出土遺物はあるが、RA132を切っていることから、本土坑の所産とは限らない。RA132より新しいが、時期は不明である。　（金子）

**RD294土坑（17号土坑）**（第94図、写真図版80）
＜位置・検出状況＞３M21bグリッドに位置する。調査開始初期に掘削した試掘トレンチで、To－ａテフラを検出し、遺構の存在が想定された。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞平面形は楕円形気味で、張り出し部を含めると柄鏡形を呈する。規模は0.70×0.66m、深さ７～10cmである。
＜埋土＞埋土上位に１層にぶい黄橙色To－ａテフラが堆積する。埋土の主体は２層黒褐色シルトで、壁際に３・４層とした黄褐色粘土が混じる暗褐色シルトが堆積する。
＜底面・壁＞底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がる。南西隅の張り出し部に柱穴状の小土坑が伴う。
＜遺物＞（第153図、写真図版116・117）出土土器の総量は127ｇである。136・137の須恵器はRA1132と遺構間接合をみる。
＜時期＞出土土器から平安時代と推定される。併せてTo－aテフラより古い可能性が高い。

**RD295土坑（８号土坑）**（第94図、写真図版80）
＜位置・検出状況＞３M22dグリッドに位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞平面形は楕円形を呈する。規模は0.66×0.60m、深さ８cmである。
＜埋土＞黒褐色シルトによる単層である。自然堆積と推定されたが、明確ではない。
＜底面・壁＞底面はやや凹凸がある。壁は北～西側では緩やかに外傾し、南～東側では直立気味に立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期＞重複遺構・出土遺物とも無く、時期を判断できない。埋土の様相からは古代と推定して置きたい。

**RD296土坑（16号土坑）**（第96図、写真図版81）
＜位置・検出状況＞３M21g～22gグリッドに位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞平面形は楕円形を呈する。規模は0.72×0.54㎝、深さ10～13㎝である。主軸方向は北西－南東である。
＜埋土＞１～３層に分層される。黒褐色シルトを主体とした人為堆積である。
＜底面・壁＞底面は凹凸がある。壁は北・東・南壁は外傾気味に立ち上がる。西壁は緩く外傾する。
＜遺物＞（第153図、写真図版129）出土土器の総量は82ｇである。322・323の土師器２点56ｇを掲載した。
＜時期＞出土土器から平安時代と推定される。（星）

**RD297土坑（57号土坑）**（第95図、写真図版81）
＜位置・検出状況＞調査区北よりの３M22ｉグリッド周辺に位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞RA113と重複し、本土坑が新しい。
＜規模・平面形状＞径1.03×0.70mの楕円形で、深さ14㎝である。
＜埋土＞埋土下位はⅣ層土とⅡ層黒褐色土の混合土で、埋め戻されている可能性がある。２層には炭と粒状の焼土が含まれる。上層は混入物の少ない黒褐色土で、自然堆積と思われる。
＜底面・壁＞Ⅳ層中にあり、底面は緩やかな凹凸がある。壁は内湾して立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞RA113より新しいが、詳しい時期は不明である。埋土の状況から古代と思われる。掘り方を埋め戻して、焼成を行っている可能性もある。（金子）

**RD298土坑（15号土坑）**（第95図、写真図版81）
＜位置・検出状況＞３M25*l*グリッドに位置する。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞平面形は円形を呈する。規模は44×40㎝、深さ14㎝である。
＜埋土＞黒褐色シルトによるほぼ単層である。
＜底面・壁＞底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞出土土器の総量は35ｇである。平安時代の土師器片である（不掲載）。
＜時期＞出土土器から平安時代と推定される。（星）

**RD299土坑（５号土坑）**（第96図、写真図版82）
＜位置・検出状況＞調査区中央の４Ｍ１ｄグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。本土坑南側を撹乱に破壊されている。
＜重複関係＞RD300と重複し、本土坑が新しい。
＜規模・平面形状＞径1.32×1.20m程度の楕円形で、深さは16㎝である。
＜埋土＞上下２層に細分される。どちらにも径0.5～１㎝大のＴｏ－aテフラと思われる粒を少量含んでいる。人為堆積か。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅵ層状面にある。底面は平坦で壁は若干内湾～外傾して立ち上がる。
＜遺物＞（第153図、写真図版129）37ｇの土器が出土し、うち２点、29ｇを掲載した。

＜時期・性格＞埋土中のＴｏ－aテフラと思われる粒、出土遺物から平安時代と思われる。性格は不明である。

**RD300土坑（６号土坑）**（第96図、写真図版82）
＜位置・検出状況＞調査区中央の４Ｍ１ｃグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞RD299、RD301と重複する。RD299より古い。RD301よりも古いと思われる。
＜規模・平面形状＞東西の壁が重複によって壊されているが、短径0.9m、長径1.35m以上で、長円形を呈すると思われる。
＜埋土＞３層に細分される。１・２層にTo－ａテフラと思われる灰白色粒を含む。人為堆積か。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅴ層中にある。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞平安時代と思われる。

**RD301土坑（４号土坑）**（第96図、写真図版81）
＜位置・検出状況＞調査区中央の４Ｍ１ｃグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。西側の一部を溝状の撹乱によって破壊されている
＜重複関係＞RD300と重複し、本遺構が新しいと思われる。
＜規模・平面形状＞隅丸長方形で一辺の長さが1.98×1.48m、深さ36cmである。
＜埋土＞Ⅳ～Ⅴ層粒を全体に含む層が多く、中位にはTo－ａテフラ粒を少量含む。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅵ層中にある。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞（第153図、写真図版129）埋土から573ｇの土器が出土し、うち２点、219ｇを掲載した。
＜時期・性格＞出土遺物と埋土から平安時代と思われる。周辺にはRD302、RE007、RE008など同じような形状の土坑、竪穴状遺構が集中している。さらに総柱のRB018も重複している。貯蔵など特定の用途のために同じ場所に次々と施設が作られた可能性もあり、本土坑もそのひとつかもしれない。

**RD302土坑（３号土坑）**（第96図、写真図版82）
＜位置・検出状況＞調査区中央の４Ｍ２ｂグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。南壁の一部を撹乱に切られる。
＜重複関係＞RE007と重複しているが、新旧は確認できなかった。
＜規模・平面形状＞一辺の長さが1.45×1.13mの隅丸方形～楕円形である。深さは26cmである。
＜埋土＞Ⅳ～Ⅴ層ブロックを含む黒褐色土で、下位にブロックが多く、上位に少ない。１層、３層にはTo－ａテフラの粒と思われる灰白色粒が少量混入する。自然堆積のような層相を示すがはっきりしない。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅴ層中にある。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞178ｇの土器が出土したが、小片で図化できなかった。
＜時期・性格＞出土遺物と埋土から平安時代と思われる。周辺にはRD301、RE007、RE008など同じような形状の土坑、竪穴状遺構が集中している。さらに総柱のRB018も重複している。貯蔵など特定の用途のために同じ場所に次々と施設が作られた可能性もあり、本土坑もそのひとつかもしれない。

**RD303土坑（43号土坑）**（第95図、写真図版82）
＜位置・検出状況＞調査区中央の４Ｍ５ｆグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。住宅の基礎によって西側が破壊されている。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞残存する短辺の長さが0.91m、破壊されている長辺は0.91m以上の長方形と思われる。深さは20cmである。
＜埋土＞２層に細分される。上層は焼土を含む黒褐色土、下層はⅣ層ブロックを多く含む黒褐色土で埋め戻しと思われる。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅳ層にあり、底は凹凸がある。壁はやや内湾気味に立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞出土遺物がなく、時期は不明である。掘り方が埋め戻され、上層に焼土が含まれることから、焼成が行われた可能性があるが、焼土が薄いため、確かではない。

**RD304土坑（44号土坑）**（第95図、写真図版83）
＜位置・検出状況＞調査区中央の４Ｍ６ｄグリッド周辺に位置する。検出面はⅣ層で、上面が削平された可能性がある。
＜重複関係＞RD305と一部重複するが、埋土が似通っており、新旧はわからなかった。
＜規模・平面形状＞径0.70×0.58mの不整形で、深さは13cmである。
＜埋土＞Ⅳ層ブロックを多く含む黒褐色土の単層で埋め戻しと思われる。
＜底面・壁＞Ⅳ層中にあり、底は内湾し、壁もやや内湾気味に立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞出土遺物もなく、不明であるが、埋土から古代に属する可能性がある。RD305とほぼ同時期と思われる。

**RD305土坑（42号土坑）**（第95図、写真図版83）
＜位置・検出状況＞調査区中央の４Ｍ６ｅグリッド周辺に位置する。検出面はⅣ層で、上面が削平された可能性がある。
＜重複関係＞RD304と一部重複するが、埋土が似通っており、新旧はわからなかった。
＜規模・平面形状＞一辺の長さが1.28×1.03mの長方形で、深さは21cmである。
＜埋土＞Ⅳ層ブロックを多く含む黒褐色土の単層で埋め戻しと思われる。
＜底面・壁＞Ⅳ層中にある。底は凹凸があり、壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞出土遺物もなく、不明であるが、埋土から古代に属する可能性がある。RD304とほぼ同時期と思われる。

**RD306土坑（12号土坑）**（第95図、写真図版83）
＜位置・検出状況＞調査区中央の４Ｍ６ｈグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞一辺の長さが1.38×1.10mの隅丸長方形で、深さは29cmである。
＜埋土＞５層に細分される。埋土中位に移地性の焼土と灰を含む。埋土上層にも灰を含む。埋土下層

は焼土、灰を含まないⅣ層起源のシルトである。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅳ層中にある。底は掘り方があり、凹凸が激しい。壁は東側が緩やかであるが、他の壁は直立気味に立ち上がる。
＜遺物＞13ｇの土師器、須恵器が出土したが、小片で図化に至らなかった。
＜時期・性格＞出土遺物から平安時代に属すると思われる。検出された焼土は動いているものと思われるが、掘り方があり、上～中層に焼土や灰が検出されるという要素はRD303など他の土坑にも見られる。

**RD307土坑（60号土坑）**（第96図、写真図版83）
＜位置・検出状況＞調査区中央東側４Ｍ４ｑグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。東側、南側を住宅基礎によって破壊されており、全容は明らかでない。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞北西のコーナーが認められることから方形を記帳としていたものと思われる。残存する規模は1.47×1.40mである。深さは30cmである。
＜埋土＞５層に細分され上位～中位に焼土を含む。焼土を含む層の下に炭粉を含む層が堆積する。最下層には黒褐色土粒を含むⅣ層起源の暗褐色土が堆積し、埋め戻しの可能性がある。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅳ層中にある。底面には掘り方があり、凹凸がある。壁は直立気味に立ち上がる。
＜遺物＞（第154図、写真図版129）埋土から118ｇの土器が出土したが、小片のため図化していない。
＜時期・性格＞出土遺物から平安時代と考えられる。掘り方が埋まった段階で焼成が行われたと見られる。

**RD308土坑（59号土坑）**（第97図、写真図版83）
＜位置・検出状況＞調査区東側の４Ｍ６ｒグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞RD309と重複し、本遺構が古い。
＜規模・平面形状＞一辺の長さが1.70×1.75m以上あり、隅丸方形と思われる。深さは28cmである。
＜埋土＞上下２層に細分され、自然堆積の様相を示す。上位にはTo－ａテフラを粒状に含む。下位はⅤ～Ⅵ層起源の砂礫を含み、部分的に焼土粒も検出された。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅵ層中にある。底面はやや凹凸があり、壁は内湾気味に立ち上がる。
＜遺物＞（第154図、写真図版129）埋土から132ｇの土器が出土し、うち１点38ｇを掲載した。
＜時期・性格＞出土遺物、埋土から平安時代と考えられる。

**RD309土坑（58号土坑）**（第97図、写真図版84）
＜位置・検出状況＞調査区東側の４Ｍ６ｒグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。南壁を撹乱によって破壊されている。
＜重複関係＞RD308と重複し、本土坑が新しい。
＜規模・平面形状＞径1.02×1.05m以上の不整形で、深さは21cmである。
＜埋土＞４層に細分される。中位に硬くしまった焼土層が形成されている。上位には炭粉、焼土粒やRD308と重複する部分ではTo－ａテフラと思われる灰白色粒も少量見られる。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅳ層中にある。掘り方があり底面には凹凸がある。壁は緩やかに立ち上がる。
＜遺物＞８ｇの土器が出土したが、小片で掲載していない。

＜時期・性格＞To－ａテフラ降下時期よりも新しい平安時代に属すると考えられる。土坑内で焼成が行われたことは明白である。

RD310土坑（47号土坑）（第97図、写真図版84）
＜位置・検出状況＞調査区中央の４M12eグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。土坑中央を水道管の攪乱により破壊されている。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞一辺の長さが1.36×0.92mの長方形である。深さは28cmである。
＜埋土＞上下２層に細分される。自然堆積と考えられる。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅴ層中にある。底面は凹凸があり、壁は内湾気味に立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞遺物がなく、不明であるが、埋土の状況から古代と考えられる。

RD311土坑（71号土坑）（第97図、写真図版84）
＜位置・検出状況＞調査区中央の４M11kグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞RA116と重複し、本土坑が新しい。
＜規模・平面形状＞径1.36×0.92mの不整形で、深さは30cmである。
＜埋土＞上下２層に細分され、上層は混入物が少なく、下層はⅣ層粒を多く含む黒褐色土である。下層は埋め戻しか、掘りあげた土の流入と思われる。本土坑の埋土はRA116の埋土とよく似ており、時期的に大差ないのではないかと思われる。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅳ層中にある。底面はやや凹凸があり、内湾する。壁も内湾して立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞遺物がないので時期は不明であるが、RA116よりは新しく、埋土の様相から古代と推定される。

RD312土坑（62号土坑）（第97図、写真図版84）
＜位置・検出状況＞調査区中央東よりの４M12hグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞南西コーナーでRG072と重複し、本土坑が古い。
＜規模・平面形状＞一辺の長さが1.15×1.10mの方形で、深さは19cmである。
＜埋土＞４層に細分される。上層は混入物の少ない黒色土で、下層は炭片、炭粉、焼土、Ⅳ層粒を含む黒褐色土である。下層には多くの土器の剥片や炭化種実を含む。壁に焼土が形成されているが、締りはない。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅳ層にある。底面には掘り方があり小さな凹凸が観察される。壁は直立気味に立ち上がる。
＜遺物＞（第154・155図、写真図版129・130）２層から3,210ｇの土器剥片が出土した。うち６点1,068ｇを掲載した。すべて、ロクロを使用しない甕の細片である。接合をしたところ、少なくとも５個体分の土器片があることがわかった。これらの土器は、焼成によると思われるゆがみや、粘土紐接合部の剥離が激しい。割れ口も鋭く、焼成後使用することなく捨てられた不良品と思われる。木葉痕のある底部、口縁部形状、内面ハケ目、外面ハケ目、ヘラナデ、体部下端ケズリといった調整方法はいずれも同じである。

このほか、炭化した種実も数点出土した。同定を行ったところ、モモの核との結果が出ている（付編４）。
＜時期・性格＞出土遺物から平安時代の９世紀末～10世紀中葉に属すると考えられる。土坑内で焼成を行っていることは明白であるが、出土した土師器甕の焼成が本土坑内で行われたかどうかはわからない。出土した甕は使用に耐えないものであることから、本土坑内に廃棄されたものと考えられる。

**RD313土坑（68号土坑）**（第97図、写真図版84）
＜位置・検出状況＞調査区中央東よりの４M11r グリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞RA141の煙道及び西壁の一部と重複するが、新旧関係はわからなかった。
＜規模・平面形状＞RA141と切りあっているため不明であるが、径1.35m以上×1.20m以上あるものと思われる。平面形状は不明である。深さは41cmである。
＜埋土＞２層に細分される。下層は締りがなく、Ⅳ層及びⅤ層の崩壊土を含む。上層は混入物のない黒色土で、自然堆積と思われる。
＜底面・壁＞Ⅳ～Ⅴ層にあり、底、壁とも内湾する。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞時期、性格ともに不明である。木根の可能性もある。

**RD314土坑（45号土坑）**（第98図、写真図版85）
＜位置・検出状況＞調査区中央の４M15b グリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞一辺の長さが1.03×0.92mの隅丸方形である。深さは26cmである。
＜埋土＞Ⅳ層粒を含む黒褐色土が主体で、自然堆積の様相を示す。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅳ層にある。底面、壁ともに凹凸がある。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞遺物がないので不明であるが、埋土の状況から古代に属する可能性が高い。

**RD315土坑（13号土坑）**（第98図、写真図版85）
＜位置・検出状況＞調査区中央の４M17b グリッド周辺に位置する。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞不整な長円形である。径は開口部で0.97×0.50m、深さは29cmである。
＜埋土＞締りのない黒褐色土で、Ⅳ層粒の混入割合で３層に細分される。上層はⅣ層粒が少ないが、炭化材を含む。自然堆積と思われる。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅴ層にある。底面は内湾する。壁は東側と北側がオーバーハングし、南側には段を持つ。西壁は直立気味に立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞遺物がないので不明であるが、埋土の様相から古代に属すると思われる。性格も不明であるが、２m南に位置するRA118と関連があるかもしれない。なお、約3.5m南西に位置するRD316と規模、形状、埋土の様相が類似しており、同様の性格を持つものと思われる。

**RD316土坑（14号土坑）**（第98図、写真図版85）
＜位置・検出状況＞調査区中央の４M18a グリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞長円形で、開口部は径1.19×0.66m、深さ31cmである。
＜埋土＞自然堆積と思われる。最下層はⅣ層崩壊土である。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅳ層中にある。底面は若干の凹凸があり、東西の壁はオーバーハングしている。南北の壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞遺物がないので不明であるが、埋土の様相から古代に属すると思われる。性格も不明であるが、３m南東に位置するRA118と関連があるかもしれない。なお、約3.5m北東に位置するRD315と規模、形状、埋土の様相が類似しており、同様の性格を持つものと思われる。　（金子）

**RD317土坑（69号土坑）**（第98図、写真図版86）
＜位置・検出状況＞４M17k ～18k グリッドに位置する。Ⅳ層で検出した。
＜重複関係＞RG071とRD318と重複する。RG071に截られる。RD318との新旧関係は明確には掴めなかったが、本遺構が古い可能性が高い。ただし、埋土の様相から大差ない時期と調査判断された。
＜規模・平面形状＞平面形は楕円形を呈する。規模は0.92×0.68m、深さ18cmである。主軸方向は南－北である。
＜埋土＞褐色粘土質土が混入する黒色シルトである。人為堆積である。
＜底面・壁＞底面はやや丸底状を呈する。壁は外傾気味に立ち上がる。
＜遺物＞（第161・164図、写真図版135・137）ガラス玉２点（420・421）、鉄製品８点（635～642）、環状の銅製品１点（644）が出土した。何れも埋土中からの出土である。同一個体と捉えられる635～642の刀子は、９片に分かれて出土し、その内の２片が接合（635）した。
＜時期＞古代に帰属することはわかるが、土師器など時期を推定できる遺物が無く、詳細はわからない。

**RD318土坑（70号土坑）**（第98図、写真図版86）
＜位置・検出状況＞４M17k ～18k グリッドに位置する。Ⅳ層で検出した。
＜重複関係＞RD317と重複する。新旧関係は明確には掴めなかったが、本遺構が新しい可能性が高い。ただし、埋土の様相からは大差ない時期と調査判断された。
＜規模・平面形状＞平面形は楕円形を呈する。規模は0.80×0.55cm、深さ28cmである。主軸方向は南－北である。
＜埋土＞11～14層に細分した。11・12層黒褐色シルトは、RD317の１層と類似する。人為堆積である。
＜底面・壁＞底面は丸底状を呈する。壁は外傾気味に立ち上がる。
＜その他＞本土坑と近接する位置より柱穴の可能性がある小土坑２基を検出し、併せて図示した。埋土の様相から本土坑に伴う可能性が考えられる。
＜遺物＞出土遺物はない。
＜時期＞古代と推定される。

**RD319土坑（63号土坑）**（第98図、写真図版86）
＜位置・検出状況＞４N15a グリッドに位置する。Ⅳ～Ⅴ層で検出した。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞平面形は円形を呈する。規模は1.56×1.52m、深さ22～32cmである。
＜埋土＞１～５層に分層される。人為堆積と判断されるが明確ではない。なお、検出面上に見られた焼土は、埋土内には確認できないことから、焼成土坑的な類とは積極的には言及できない。
＜規模・平面形状＞平面形は不整円形を呈する。規模は1.56×1.52m、深さ22～32cmである。
＜埋土＞１～５層に細分した。主体を占める１層黒褐色シルトは褐色粘土が含まれ、その様相からは人為堆積と判断される。２～４層は地山土の再堆積層で壁の崩壊土の可能性がある。
＜底面・壁＞底面は丸底状を呈する。壁は外傾気味に立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期＞詳細な時期を特定できないが、近接するRA144の埋土と類似することから、古代と推定して置きたい。（星）

**RD320土坑（33号土坑）**（第99図、写真図版87）
＜位置・検出状況＞調査区東端の４N17e グリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層とRA146竪穴住居跡埋土である。RA146の精査中に土坑があることに気づき、検出した。
＜重複関係＞RA146と重複し、本土坑が新しい。
＜規模・平面形状＞楕円形で、径1.92×1.80m、深さ78cmである。
＜埋土＞上位～中位はⅤ層砂を全体に含む黒～黒褐色土である。自然堆積かどうか不明である。下位は炭粉を多く含む黒色土の上位ににぶい黄褐の灰層が堆積する。
＜底面・壁＞Ⅲ～Ⅴ層にある。底面は凹凸があり、掘り方がある。壁は直立気味～外傾して立ち上がる。
＜遺物＞（第155図、写真図版123・130）埋土及び底面から559ｇの土器が出土し、２点、112ｇを掲載した。
＜時期・性格＞出土遺物から平安時代と考えられる。焼土は検出されていないが、灰と炭粉層の堆積状況から本土坑内で、焼成が行われたと考えられる。灰の植物珪酸体及び灰像を分析したところ、イネ類起源灰が主体で、キビ類、ヒエ類、アワ類、ムギ類が含まれるとの結果を得ている（付編１）。

**RD321土坑（９号土坑）**（第98図、写真図版86）
＜位置・検出状況＞調査区西南飛び地の５L23u グリッドに位置する。0.5m南にRD322土坑がある。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞楕円形で、径0.79×0.62m、深さ20cmである。
＜埋土＞黒褐色土が主体で上下２層に細分される。上層は混入物が少なく、下層はⅥ層起源の砂礫を多く含む。自然堆積と思われる。
＜底面・壁＞Ⅳ～Ⅵ層にある。底面は平坦で壁は直立気味に立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞出土遺物がないことから不明であるが、周辺にRD322、RD323と土坑が集中していることから、３基が同様の性格を持つ可能性がある。

**RD322土坑（10号土坑）**（第99図、写真図版87）

＜位置・検出状況＞調査区西南飛び地の５L24u グリッド周辺に位置する。本土坑の北0.5mにRD321、２m南にRD323が、2.5m南西にRA148がある。検出面はⅥ層である。

＜重複関係＞ない。

＜規模・平面形状＞楕円形で、径1.75×1.45m、深さ20cmである。

＜埋土＞炭粒、礫、土器片を含む黒褐色土が主体である。自然堆積か、人為堆積かは不明である。

＜底面・壁＞Ⅵ層中にある。底はやや凹凸があり、壁は内湾気味に立ち上がる。

＜遺物＞（第155図、写真図版125・126・130）埋土から土器が出土した。特に下位の２層に多い。出土した土器の総量は951ｇで、うち６点754ｇを掲載した。259、269、275、281はRA148出土の土器破片と本土坑出土の破片が接合したものである。

＜時期・性格＞出土遺物から平安時代の９世紀後葉～10世紀初頭に属すると考えられる。特に土器がRA148と接合関係にあることから、RA148の貯蔵穴あるいは廃棄土坑などRA148に付属する施設の可能性が高い。

**RD323土坑（11号土坑）**（第99図、写真図版87）

＜位置・検出状況＞調査区西南飛び地の６Ｌ１ｖグリッド周辺に位置する。本土坑の北２ｍにRD323が、1.5m西にRA148がある。検出面はⅥ層である。

＜重複関係＞ない。

＜規模・平面形状＞楕円形で、径0.90×0.54m、深さ34cmである。

＜埋土＞小礫を含んだ黒褐色土の単層である。

＜底面・壁＞Ⅵ層中にある。底面は平坦で、壁は外傾する。

＜遺物＞ない。

＜時期・性格＞遺物がないことから不明であるが、周辺にRD321、RD322と土坑が集中していることから、３基は同様の性格を持つ可能性がある。

**RD324土坑（18号土坑）**（第99図、写真図版88）

＜位置・検出状況＞調査区南飛び地の６N22g グリッド周辺に位置する。調査区外に延びており、検出面はⅢ層であるが、調査区境の断面で確認したところ、Ⅱ層上面から確認できた。

＜重複関係＞RG065、RG066と重複し、本土坑が新しい。

＜規模・平面形状＞方形を基調とすると思われ、一辺の長さは1.00×0.60m以上である。深さは53cmである。

＜埋土＞上～中位はレンズ状に堆積している。上位はTo－ａテフラと思われるにぶい黄褐色土を含む黒褐色土、中位はⅣ層ブロックを含む黒色土である。下位は黒色土、Ⅳ層、Ⅴ層を斑に含む黒褐色土である。少なくとも上～中位までは自然堆積と思われる。

＜底面・壁＞Ⅱ～Ⅵ層にある。底面は凹凸があり、内湾している。壁は外傾して立ち上がる。

＜遺物＞ない。

＜時期・性格＞火山灰がTo－ａテフラだとすれば10世紀初頭以前の平安時代と思われる。性格は不明である。　（金子）

**RD325土坑（25号土坑）**（第100図、写真図版88）
＜位置・検出状況＞３M16dグリッドに位置する。検出面はⅣ～Ⅴ層である。調査開始時においてコンクリートで囲われた墓石が存在し、平成18年４月末頃に地権者により墓石の移設に関わり掘削が行われている。本遺構はそれら墓石の位置に合致することから、掘り残された墓石下位の墓壙と判断される。
＜重複関係＞RD326を截る。
＜規模・平面形状＞平面形は楕円形を呈する。規模は0.72×0.58mである。深さは90～110cmである。
＜埋土＞黒褐色シルトを主体とし、多量の円礫が含まれる。人骨は、30～50cm掘り下げた段階で出土した。
＜底面・壁＞底面は平坦気味であるが、砂礫層中のためかやや凹凸がある。壁は外傾気味に立ち上がる。
＜遺物＞（第165図、写真図版137）多量の人骨とキセル１点（645）、寛永通宝５点（646～650）が出土した。寛永通宝は、古寛永が１点含まれる。
＜時期＞出土遺物から近世である。

**RD326土坑（29号土坑）**（第100図、写真図版88）
＜位置・検出状況＞３M17dグリッドに位置する。検出面はⅣ～Ⅴ層である。調査開始時においてコンクリートで囲われた墓石が存在し、平成18年４月末頃に地権者により墓石の移設に関わり掘削が行われている。本遺構はそれら墓石の位置に合致することから、掘り残された墓石下位の墓壙と判断される。
＜重複関係＞RD325に截られる。
＜規模・平面形状＞平面形は、開口部は楕円形で、底部は方形である。規模は0.50×0.48mである。深さは90～110cmである。
＜埋土＞黒褐色シルトを主体とし、多量の円礫が含まれる。人骨は、50cm程掘り下げた段階で出土した。
＜底面・壁＞底面は砂礫層中でやや凹凸がある。壁は外傾気味に立ち上がる。
＜遺物＞（第165図、写真図版137）多量の人骨と釘２点（651・652）、寛永通宝６点（653～658）出土した。
＜時期＞出土遺物から近世である。

**RD327土坑（26号土坑／墓２）**（第100図、写真図版88）
＜位置・検出状況＞３M17eグリッドに位置する。検出面はⅣ～Ⅴ層である。調査開始時においてコンクリートで囲われた墓石が存在し、平成18年４月末頃に地権者により墓石の移設に関わり掘削が行われている。本遺構はそれら墓石の位置に合致することから、掘り残された墓石下位の墓壙と判断される。
＜重複関係＞RA131を截る。
＜規模・平面形状＞平面形は楕円形を呈する。規模は0.50×0.48mである。深さは90～110cmである。
＜埋土＞黒褐色シルトを主体とし、多量の円礫が含まれる。人骨は、30～50cm掘り下げた段階で出土した。
＜底面・壁＞底面は、砂礫層中でやや凹凸がある。壁は外傾気味に立ち上がる。

＜遺物＞人骨が少量出土した。
＜時期＞近接するRD325・326・328～330と同時期・同種の墓壙と捉えられ、近世と推定できる。

**RD328土坑（32号土坑）**（第100図、写真図版88）
＜位置・検出状況＞3 M18c ～18d グリッドに位置する。Ⅳ～Ⅴ層で検出した。調査開始時においてコンクリートで囲われた墓石が存在し、平成18年4月末頃に地権者により墓石の移設に関わり掘削が行われている。本遺構は、それら墓石の位置に合致することから、掘り残された墓石下位の墓壙と判断される。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞平面形は楕円形を呈する。規模は0.42×0.28cmである。深さは約70cmである。
＜埋土＞黒褐色シルトを主体とし、多量の円礫が含まれる。人骨は、30～50cm掘り下げた段階で出土した。
＜底面・壁＞底面は、砂礫層中でやや凹凸がある。壁は外傾気味に立ち上がる。
＜遺物＞（第165図、写真図版137）多量の人骨と寛永通宝6点（659～664）が出土した。古寛永が1点含まれる。
＜時期＞出土遺物から近世である。

**RD329土坑（27号土坑）**（第100図、写真図版88）
＜位置・検出状況＞3 M18e グリッドに位置する。検出面はⅣ～Ⅴ層である。調査開始時においてコンクリートで囲われた墓石が存在し、平成18年4月末頃に地権者により墓石の移設に関わり掘削が行われている。本遺構は、それら墓石の位置に合致することから、掘り残された墓石下位の墓壙と判断される。
＜重複関係＞RD286を截る。なお、RD330との重複関係は不明にあるが、本土坑が新しい可能性が高い。
＜規模・平面形状＞平面形は楕円形を呈する。規模は0.50×0.46mである。深さは約100cmである。
＜埋土＞黒褐色シルトを主体とし、多量の円礫が含まれる。
＜底面・壁＞底面は、砂礫層中でやや凹凸がある。壁は外傾気味に立ち上がる。
＜遺物＞人骨が少量出土した。
＜時期＞近接するRD325・326・328～330と同時期・同種の墓壙と捉えられ、近世と推定できる。

**RD330土坑（28号土坑）**（第100図、写真図版88）
＜位置・検出状況＞3 M18e グリッドに位置する。検出面はⅣ～Ⅴ層である。調査開始時においてコンクリートで囲われた墓石が存在し、平成18年4月末頃に地権者により墓石の移設に関わり掘削が行われている。本遺構は、それら墓石の位置に合致することから、掘り残された墓石下位の墓壙と判断される。
＜重複関係＞RD286を截る。なお、RD329との新旧関係は不明であるが、本土坑が古い可能性が高い。
＜規模・平面形状＞平面形は楕円形を呈する。規模は0.56×0.42cmである。深さは約90cmである。
＜埋土＞黒褐色シルトを主体とし、多量の円礫が含まれる。
＜底面・壁＞底面は、砂礫層中でやや凹凸がある。壁は外傾気味に立ち上がる。

＜遺物＞人骨が少量出土した。
＜時期＞近接するRD325・326・328～330と同時期・同種の墓壙と捉えられ、近世と推定できる。

**RD331土坑（７号土坑）**（第99図、写真図版89）
＜位置・検出状況＞３L20n ～21n グリッドに位置する。検出面は00層である。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞平面形は不整楕円形を呈する。規模は0.46×0.25mである。深さは約16cmである。
＜埋土＞１～４層に分層した。人為堆積と判断される。
＜底面・壁＞壁は、底面はほぼ平坦である。西壁は外傾気味に、その他は直立気味に立ち上がる。
＜遺物＞（第165図、写真図版137・138）柄鏡１点（670）、寛永通宝11点（665～669・671～676）が出土した。寛永通宝は、古寛永は含まれない。
＜時期＞出土遺物から近世と判断される。（星）

**RD332土坑（１号土坑）**（第100図、写真図版88）
＜位置・検出状況＞調査区北よりの３L21m グリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞隅丸長方形で、一辺の長さが1.30×0.85m、深さ40cmである。
＜埋土＞締りのない黒褐色土で、Ⅳ層及びⅤ層ブロックを含む。人為体積と思われ、上層はレンズ状の堆積のように見えるが、陥没してこのような層相を示したものと思われる。
＜底面・壁＞Ⅳ～Ⅴ層中にあり、底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。
＜遺物＞（第166図、写真図版138）
　腐蝕の進んだ薄い木片、歯、キセル２点、寛永通宝６点が出土した。寛永通宝のうち４点は接着した状態で重なって出土している。
＜時期・性格＞出土遺物と歯の出土状況、埋土の状況から近世以降の土葬墓と考えられる。（金子）

**RD333土坑（23号土坑）**（第100図、写真図版89）
＜位置・検出状況＞３M18c グリッドに位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞RG069を截る。
＜規模・平面形状＞平面形は円形を呈する。規模は1.66×1.42cmである。深さは約34cmである。
＜埋土＞黒褐色シルトと暗褐色シルトが混ざる。人為堆積である。
＜底面・壁＞底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞馬骨が出土した。顎と歯が顕著にみられる。
＜時期＞時期の上限は、RG070を截ることにより近世と捉えられる。下限は不明にあるものの、旧地権者からの教示で、昭和20年よりは古いことがわかった。埋土の様相などからは近代前後と推定しておきたい。

**RD334土坑（65号土坑）**（第101図、写真図版89）
＜位置・検出状況＞４M19 *l* グリッドに位置する。Ⅳ層で検出した。
＜重複関係＞RG071に截られる。
＜規模・平面形状＞平面形は楕円形を呈する。規模は2.10×1.58mである。深さは12～18cmである。

主軸方向は南－北である。
＜埋土＞黒褐色シルトによるほぼ単層である。自然堆積と判断される。
＜底面・壁＞底面は平坦である。なお、底面より柱穴２基を検出した。壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期＞隣接するRD335と同時期と捉えられ、RG073より新しい可能性が高い。よって、近世以降と推定される。

**RD335土坑（66号土坑）**（第101図、写真図版89）
＜位置・検出状況＞４M20 *l* ～20mグリッドに位置する。Ⅳ層で検出した。
＜重複関係＞RG071に截られる。また、RG073より新しい可能性が高い。
＜規模・平面形状＞平面形は楕円形を呈する。規模は3.00×1.60㎝である。深さは12～22㎝である。主軸方向は南－北である。
＜埋土＞黒褐色シルトを主体とし、下位に褐色粘土質砂質土が堆積する。自然堆積と判断される。
＜底面・壁＞底面は平坦を基調とするが、南に向かって緩く傾斜する。なお、底面から柱穴５基を検出した。壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期＞RG073より新しいことから、近世以降と推定される。

**RD336土坑（67号土坑）**（第100図、写真図版90）
＜位置・検出状況＞４M25c グリッドに位置する。Ⅳ層中で検出した。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞平面形は楕円形を呈する。規模は1.40×0.92㎝である。深さは17㎝である。主軸方向は南西－北東である。
＜埋土＞黒褐色シルトによる単層である。自然堆積と判断される。
＜底面・壁＞底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がる。
＜遺物＞ない。
＜時期＞出土遺物、重複遺構ともになく、時期を特定できない。

**RD337土坑（55号土坑）**（第100図、写真図版90）
＜位置・検出状況＞５M７ｐグリッドに位置する。Ⅳ～Ⅴ層で検出した。本土坑上位は、削平を受けている可能性が高い。
＜重複関係＞重複関係は持たないが、RG073と近接して位置する。
＜規模・平面形状＞平面形は楕円形を呈する。規模は0.94×0.62㎝である。深さは８㎝である。主軸方向は北西－南東である。
＜埋土＞黒褐色シルトによる単層である。自然堆積と判断される。
＜底面・壁＞底面はやや凹凸がある。壁はわずかな立ち上がりを確認したに留まり、詳細は不明である。
＜遺物＞獣骨片が少量出土した。種はわからなかった。
＜時期＞近世～近代と推定されるが明確ではない。　（星）

## 6　竪穴状遺構

**RE007竪穴状遺構（1号竪穴状遺構）**（第102図、写真図版91）

＜位置・検出状況＞調査区中央の4M3aグリッド周辺に位置する。検出面はⅣ層である。南東の一部を撹乱によって切られている。

＜重複関係＞RD302と北コーナーで重複しているが、重複が極浅いため新旧は確認できなかった。

＜規模・平面形状＞歪んだ隅丸方形で、一辺の長さが1.45×1.45m、深さは貼り床まで35cmである。

＜埋土＞Ⅳ層ブロックを含む黒褐色土である。自然堆積と思われるが、壁際3層はⅣ層ブロックの入り方が不自然で、人為的に埋め戻されたものかもしれない。

＜床面・掘り方・貼り床＞貼り床があり、床面は硬くしまる。掘り方は緩やかな凹凸がある。Ⅳ層ブロックを若干含む粘性のある黒褐色土を床としている。

＜壁＞Ⅳ層中にあり、内湾～直立気味に立ち上がる。

＜遺物＞（第156・164図、写真図版130・137）埋土から487gの土器が出土し、うち2点160gを掲載した。

＜時期・性格＞出土遺物から平安時代の9世紀後半と思われる。周囲にはRE008や総柱のRB018、RD302、RD301などの土坑が集中し、重複するものもあり、貯蔵施設として使われた可能性がある。

（金子）

**RE008竪穴状遺構（2号竪穴状遺構）**（第102図、写真図版92）

＜位置・検出状況＞4M3bグリッドに位置する。検出状況は、現代の住宅に伴うカクランを除去した段階で、トイレ跡と推定されるコンクリートのたたきが現われ、そのコンクリートの北側で黒褐色シルトのプランを把握した。検出面は概ねⅣ層中である。

＜重複関係＞RB019と平面的に重複するが、新旧関係は不明である。

＜規模・平面形状＞東西方向の開口部で2.05m、南北方向は残存部で1.50mを測る。平面形は方形である。深さは東壁で33cmである。

＜埋土＞1～5層に分層した。黒褐色シルト層（1・3・5層）と黄褐色砂質土（2・4層）が互層気味に堆積する。なお、1・3層にはTo－aテフラが混入する。全体の堆積様相から人為堆積の可能性が高い。

＜床面・掘り方・貼り床＞床面はⅣ層黄褐色砂質土で、やや硬い。貼床は施されていない。

＜壁・壁溝＞東壁半分と北壁が残存する。直立気味に立ち上がる。

＜遺物＞土師器49gが出土したが、小片のため不掲載とした。

＜時期＞平安時代と判断される。　（星）

**RE009竪穴状遺構（37号住）**（第102図、写真図版93）

＜位置・検出状況＞調査区中央やや東よりの4M11oグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。

＜重複関係＞ない。

＜規模・平面形状＞方形を呈し、一辺の長さが2.02×2.00m、深さは貼り床まで50cmである。

＜埋土＞床直上に自然堆積と思われる黒色土が壁際から薄く堆積し、上層は人為堆積と思われるⅣ～Ⅴ層ブロックを含む黒褐色土である。

＜床面・掘り方・貼り床＞床面は締りがあり、おおむね平坦だが、北半壁よりがやや高い。掘り方は凹凸があり、黒褐色土を含む暗褐～黄褐色土を貼っている。
＜壁＞Ⅲ～Ⅴ層中にあり、直立気味に立ち上がる。
＜遺物＞埋土から171ｇの土器が出土しているが、小片で掲載していない。
＜時期・性格＞出土遺物から平安時代と思われる。性格は不明である。　（金子）

**RE010竪穴状遺構（３号竪穴状遺構）**（第102図、写真図版90）
＜位置・検出状況＞調査区南側の５M14tグリッド周辺に位置する。検出面はⅣ層である。本遺構は上面をかなり削られていると思われ、掘り方と貼り床と思われる埋土のみ残存している。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞楕円形で、径2.50×2.16mである。深さは最深部で25㎝、他は５～15㎝程度である。
＜埋土＞Ⅳ層ブロックを含む締りのある黒褐色土である。最深部には黒色土が上面に堆積する。
＜床面・掘り方・貼り床＞床面は削られている可能性が高く、不明である。掘り方は細かい凹凸がある。北壁に沿って1.3×0.6mの土坑状の落ち込みを有する。
＜壁＞Ⅳ～Ⅵ層にあり、内湾気味に立ち上がる。
＜遺物＞出土遺物はない。
＜時期・性格＞遺物もなく不明である。　（金子）

## 7　溝　　跡

**RG022溝跡（15号溝跡）**（第103図、写真図版94）
＜位置・検出状況＞調査区南側の４M24u～５M２uグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。溝の南よりは第10次調査区にあり、今回の調査で全容が明らかになった。
＜重複関係＞第10次調査区内でRD162と重複しており、本溝跡が古い。
＜規模・平面形状＞幅40～50㎝、深さ13㎝、長さは6.40mである。
＜断面形・底・壁＞断面形は逆台形である。底はおおむねⅣ層中で、２列の楕円の工具痕がある。壁は外傾する。
＜方向＞ほぼ南北方向である。
＜埋土＞２層に細分される。下位は壁の崩壊土の多い黄褐色土、上層はⅣ層ブロック、黒色土ブロックを含む黒褐色土で、自然堆積と思われる。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞第10次調査では奈良時代と思われる土器破片が出土したが、今回は土器の出土はなかった。６m西に奈良時代のRA119があるので、土器片が混入する可能性はある。１点の土器を持って奈良時代と断定はしがたいので、埋土の状況から奈良時代を含む古代としておきたい。　（金子）

**RG027溝跡（14号溝跡）**（第103、104図、写真図版95）
＜位置・検出状況＞調査区南側の４M20r～５M21uグリッドに位置する。今年度の調査区では調査区境で２条に分れているが、第10次調査区検出のRG027の北端、南端とつながったので、一条の溝として報告する。なお、今回検出した南端は第10次調査のRG031とつながり、二つの溝は同じもの

であることが明らかになった。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞南側でRG063と重複し、本溝跡が新しい。また、北側ではRA119の東コーナー付近で若干重複しており、本遺構が新しい。
＜規模・平面形状＞南側から北上し、RG063との重複地点からやや東へ向かう。第10次調査区内で再び北上して今回の調査区に入り、RA119を迂回するように東側にわずかに曲がり、さらに北上する。幅は38～58㎝、深さは最深部で27㎝である。長さは今回検出分の北側が17m、南側が11.30mである。溝全体としては約87mに及ぶ。
＜断面形・底・壁＞底はⅣ層中にあり、中央が高い。溝底壁際には２列の工具痕が見られる。壁はⅢ～Ⅳ層中で外傾して立ち上がる。
＜方向＞途中で屈曲しているが、溝の両端を結ぶとほぼN－10°－Wである。
＜埋土＞Ⅳ層粒を含む黒褐色土で場所により単層～３層に細分される。自然堆積と思われる。
＜遺物＞北側で13ｇの土器小片が出土したが、図化に至らなかった。第10次調査区内では剥片と縄文土器小片が出土している。
＜時期・性格＞埋土の状況より古代に属すると考えられる。　（金子）

**RG058溝跡（１号溝跡）**（第105図、写真図版94）
＜位置・検出状況＞３Ｌ20m～３L20ｓグリッドに位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞長さ12.80m、幅24～46㎝、深さ８～13㎝である。西から東にほぼ直線的に延びるた後、北方向に屈曲し、調査区外に続く。
＜断面形・底・壁＞断面形は浅鉢形から不整形までみられ、地点により一律ではない。底面は楕円形気味の工具痕が、ほぼ２列で確認でき、凹凸がある。底面の標高は、西から東に向かって高くなる。（※工具痕は全面を掘削していない）。
＜方向＞方向は西から東に向かって、N－90°－Eから、N－100°－Eに曲がり、さらに屈曲してN－20°－Eの方向に延びる。
＜埋土＞１層黒褐色シルトを主体とする。自然堆積である。１ａ層とした褐色砂質シルトは、底面の工具痕を覆うが、壁の崩壊土の可能性もあり、堆積要因は不明にある。
＜遺物＞（第156図、写真図版130）57ｇの土器が出土し、うち342の土師器坏１点36ｇを掲載した。
＜時期＞出土遺物平安時代は９世紀後葉～10世紀前葉の土器様相を示しており、底面にみられる工具痕のあり方から平安時代と推定される。　（星）

**RG059溝跡（４号溝跡）**（第104図、写真図版96）
＜位置・検出状況＞調査区北側の３L22y～３L25g～４Ｌ１ｘグリッドに位置する。検出面はⅢ層である。一部撹乱によって破解されている。上面を削られており、両端は工具痕のみ残る。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞東西方向から南北方向に鈎型に屈曲する溝である。幅は40～50㎝、深さは最深部で15㎝程度である。長さは23.5mである。
＜断面形・底・壁＞底面に工具痕の凹凸を持つ。壁は内湾気味に立ち上がる。工具痕は底面壁際に２列認められる。
＜方向＞東西方向がN－82°－W、南北方向がN－７°－Wである。

＜埋土＞地点により単層～２層に細分されるがⅢ～Ⅳ層ブロックを含む黒褐色土で自然堆積と思われる。
＜遺物＞埋土から３ｇの土器小片が出土したが、図化していない。
＜時期・性格＞溝の形状、埋土から古代に属する可能性がある。なお、東西の方向については本溝跡より約８ｍ北のRG058とほぼ平行するので、関連があるかもしれない。　（金子）

**RG060溝跡（２号溝跡）**（第103図、写真図版96）
＜位置・検出状況＞３M22c～３M21f グリッドに位置する。検出面はⅣ層である。
＜重複関係＞RD295に截られる。
＜規模・平面形状＞長さ6.20ｍ、幅36～80㎝、深さ10～13㎝である。東西方向にやや蛇行気味に延びる。
＜断面形・底・壁＞断面形は皿状である。底面は、平坦を基調とする。ダメ押しを行った部分では楕円形の工具痕が２列気味で確認できる。
＜方向＞方向は、Ｎ－90°－Ｅで途中よりＮ－65°－Ｅに延びる。
＜埋土＞１層黒褐色シルトによる単層で自然堆積と判断された。ダメ押しを行った部分では、工具痕中に基本層序Ⅳ層に由来する２層にぶい黄褐色シルトが堆積する。この２層は人為堆積の可能性があるものの、判断できなかった。
＜遺物＞ない。
＜時期＞To－aテフラを埋土に含むRD295より古いことが断定できる。よって、10世紀前半より古く、帰属時期は古代と推定される。　（星）

**RG061溝跡（３号溝跡）**（第105図、写真図版97）
＜位置・検出状況＞調査区西南飛び地の５L19t～６Ｌ３ｊグリッド周辺に位置する。検出面はⅣ層であるが、両端ともに調査区外に延びており、調査区境の断面で確認したところ、Ⅱ層上面から検出されることがわかった。溝の中ごろと西よりがかなり削平を受けており、工具痕のみ検出される。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞幅が40～55㎝、深さは西端断面で35㎝である。ほぼ直線で長さは27.80ｍである。
＜断面形・底・壁＞底面はⅢ～Ⅳ層にあり、小さな凹凸がある。底壁際に２列の工具痕が認められる。壁は内湾して立ち上がるが、最深部では壁に段があり、開口部でさらに開く。
＜方向＞Ｎ－50°－Ｅである。
＜埋土＞上層はレンズ状に堆積し、最上層にTo－aテフラと思われる浅黄橙色の火山灰をブロック状や粒状に含む。自然堆積と思われる。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞火山灰がＴo－aテフラとすれば平安時代と考えられる。　（金子）

**RG062溝跡（12号溝跡）**（第105図、写真図版97）
＜位置・検出状況＞調査区西南飛び地の６Ｌ８ｋ～６L13u グリッドに位置する。検出面はⅢ層である。両端は調査区外に延び、一部撹乱によって破解されている。溝の中ほどは削平によって工具痕と思われる凹みのみが残る。
＜重複関係＞ない。

＜規模・平面形状＞幅43～80㎝、深さは西端の調査区境断面で50㎝である。極く緩やかに屈曲する。
＜断面形・底・壁＞溝底はⅣ～Ⅴ層にあり、工具痕の凹凸が認められる。工具痕は底壁際に１列～２列検出された。壁は内湾気味に立ち上がる。
＜方向＞検出部分の両端を結んだ線はN－113°－Eである。
＜埋土＞地点により単層～３層である。最も残りの良い西壁際では３層で、自然堆積の層相を示す。最上層にはTo－aテフラと思われる灰白色火山灰が粒状に少量含まれる。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞火山灰がTo－aテフラとすれば、平安時代と考えられる。　（金子）

**RG063溝跡（17号溝跡）**（第104図、写真図版98）
＜位置・検出状況＞調査区南側の５M15r～５M16tグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞RG027と重複し、本溝跡が古い。
＜規模・平面形状＞幅が45～95㎝、深さは最深部で21㎝である。長さは4.80mである。
＜断面形・底・壁＞底面はⅣ層中にあり、工具痕での小さい凹凸がある。工具痕は底面に２～４列認められる。壁は直立気味に立ち上がる。
＜方向＞N－76°－Wである。
＜埋土＞Ⅳ層粒を含む黒褐色土で、場所によりⅣ層粒の混入割合で単層～２層に細分される。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞埋土の状況や形状により、古代に属すると思われる。　（金子）

**RG064溝跡（７号溝跡）**（第106図、写真図版99）
＜位置・検出状況＞調査区南飛び地の６N17f～６N23jグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。北側は調査区外に延びところどころ撹乱によって破解されている。また、溝の途切れる箇所があり、南北に分かれるが、同一延長線上にあるので、一条の溝として報告する。なお、本溝跡を北に延長すると未調査区を経て第10次調査で検出したRG036とつながることから同一の溝である可能性も高い。
＜重複関係＞RG065、RG066と重複し、本溝跡の方が古い。
＜規模・平面形状＞幅20～60㎝で、深さは12㎝、長さは北側が9.40m、南側が３mである。南側と北側の間は撹乱が入っている箇所もあるが、1.80m離れている。
＜断面形・底・壁＞Ⅳ層中にある。底面は工具痕の凹凸がありやや内湾気味である。北側の溝では底面壁際に工具痕が２条認められる。南側には工具痕はわずかしか検出されなかった。壁は内湾気味に立ち上がる。
＜方向＞N－38°－Wである。
＜埋土＞Ⅳ層ブロックを含む単層である。
＜遺物＞39ｇの土器が埋土から出土したが、小片で図化できなかった。
＜時期・性格＞出土遺物、埋土の状況から古代と考えられる。　（金子）

**RG065溝跡（８号溝跡）**（第106図、写真図版99）
＜位置・検出状況＞調査区南飛び地の６N22g～６N22oグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。両端は調査区外に伸び、溝跡中央付近は途切れている。また、ところどころ撹乱によって破壊

されている。5.5m南にRG068が平行している。
＜重複関係＞RG066と切りあって、平行している。断面を観察すると本溝跡の方が新しい。また、RG064、RD324とも切り合っており、いずれよりも本溝跡の方が古い。
＜規模・平面形状＞幅40cm、深さ26cm程度であるが、西側は削られて壁がほとんど立たず、工具痕のみが最大6列検出できた。東側の工具痕は2列であったので、その延長で2列分を本溝跡とした。長さは東側が6.80m、西側が3.50m、東西間が2.80mである。
＜断面形・底・壁＞Ⅳ層中にある。底面には工具痕の凹凸があり、壁際が深く、中央が高い。壁は内湾気味である。
＜方向＞N－84°－Wである。
＜埋土＞Ⅳ層ブロックを含む黒～黒褐色土が主体である。自然堆積と思われる。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞本遺構を切るRD324埋土にTo－aテフラが堆積していることと、埋土の状況から、本溝跡は古代に属し、To－aテフラ降下以前の時期と考えられる。（金子）

**RG066溝跡（13号溝跡）**（第106図、写真図版98）
＜位置・検出状況＞調査区南飛び地の6N22g～6N22*l*グリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層である。西端は調査区外に延び、東端は撹乱に切られている。溝跡中央付近は途切れる。なお、本溝跡の西側は壁がほとんど立たず、工具痕のみが残存している状況である。従って、重複して延びているRG065と本溝跡との境が不明瞭である。4.8m南にRG068が平行している。
＜重複関係＞RG065、RG064、RD324と切り合っており、そのいずれよりも古い。
＜規模・平面形状＞RG065に切られているので残存幅しかないが、東側では40cm程度で、深さは15cmである。長さは東側で2.70m、西側で4.30mである。東西間は1.60mである。
＜断面形・底・壁＞Ⅳ層中にある。底面は工具痕の凹凸があり、壁際が深く中央が浅い。壁は内湾気味に立ち上がる。工具痕は東側で壁際に2列壁際から検出された。西側では4列検出されたが、すべてが本溝のものか、不明である。
＜方向＞N－87°－Wである。
＜埋土＞Ⅳ層ブロックを含む黒褐色土で、自然堆積と思われる。工具痕は黒褐色ブロックを含む黄褐色土が堆積する。
＜遺物＞土器小片1gが出土したが図化できなかった。
＜時期・性格＞本遺構を切るRD324埋土にTo－aテフラが堆積していることと、埋土の状況から、本溝跡は古代に属し、To－aテフラ降下以前の時期と考えられる。（金子）

**RG067溝跡（6号溝跡）**（第106図、写真図版100）
＜位置・検出状況＞調査区南側飛び地の6N23*l*～6N23nグリッドに位置する。検出面はⅢ層である。溝の両端を撹乱によって、破壊されている。
＜重複関係＞ないが、RG065と一部平行する。
＜規模・平面形状＞幅40～42cm、深さ12cm、長さ4mである。
＜断面形・底・壁＞Ⅳ層中にある。底は東よりの部分に工具痕が壁際に2列認められる。底は凹凸があって、壁際が深く、中央が高い。壁は外傾～内湾気味に立ち上がる。
＜方向＞N－107°－Wである。

＜埋土＞Ⅳ層粒を含む黒褐色土である。自然堆積と考えられる。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞埋土の状況から古代に属すると考えられる。　（金子）

**RG068溝跡（10号溝跡）**（第106図、写真図版98）
＜位置・検出状況＞調査区南側飛び地の６N24h ～６N24ｉグリッド周辺に位置する。検出面はⅢ層であるが、調査区境で確認したところ、Ⅱ層上面で確認できた。東西両端は調査区外に延びる。4.80m北にRG066が、5.50m北にRG065がほぼ平行している。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞幅48～138㎝、深さは最深で45㎝である。検出分の長さは３mである。西側に行くにつれ、幅が広く、深くなる。
＜断面形・底・壁＞Ⅲ～Ⅴ層中にある。底は内湾するが、工具痕がランダムに並んでいる。
＜方向＞N－87°－Wである。
＜埋土＞上層にTo－aテフラと思われる火山灰を含む。自然堆積と思われる。下層はⅣ層ブロックを含む黒褐色土である。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞埋土の状況から、古代のTo－aテフラ降下以前と思われる。　（金子）

**RG069溝跡（５号溝跡）**（第107図、写真図版101）
＜位置・検出状況＞３L17w ～３M22m グリッドに延びる。検出面はⅣ～Ⅴ層である。細谷地遺跡10次調査で検出されたRG38・39に続く、同一の溝跡である。また、RG70とは別の溝跡と捉え遺構登録したが、埋土の類似性などから、一連の溝跡と考えられる。
＜重複関係＞RD333に截られる。
＜規模・平面形状＞長さ約24m、幅70～310㎝、深さ10～20㎝である。東から西に向かって直線的に延び、途中屈曲して北に延びる。東西方向に延びる部分では、溝底が２つに分かれる。
＜断面形・底・壁＞断面形は、第107図の断面図Ａ－Ａ’　Ｂ－Ｂ’　Ｃ－Ｃ’をみるとおり、溝底が二つに分かれ、中央は中州状に高まり「W字状」を呈する。底面は砂礫層まで掘り込まれており、凹凸がある。壁は緩く外傾して立ちがある。
＜方向＞方向は、東側から西側に向かってはN－90°～100°－Wで、途中３M24b グリッド付近よりN－20°－Wに延びて調査区外へ続く。
＜埋土＞黒褐色シルトを主体とする。径３～20㎝の円礫を含む。
＜遺物＞（第00図、写真図版）近世陶磁器が出土している。
＜時期・性格＞出土遺物より近世と判断される。本遺構の性格は不明にあるものの、断面形のあり方や溝幅などからは、道路跡などの可能性が考えられようか。また、断面形や規模の観点からはRG073と類似する。　（星）

**RG070溝跡（11号溝跡）**（第107図、写真図版101）
＜位置・検出状況＞３L17w ～３L20x グリッドに延びる。検出面はⅣ～Ⅴ層である。また、RG069とは別の溝跡と捉え遺構登録したが、埋土の類似性などから、一連の溝跡と考えられる。
＜重複関係＞無し。

＜規模・平面形状＞長さ約６ｍ、幅20～40㎝、深さ約12㎝である。南北方向にほぼ直線的に延びる。
＜断面形・底・壁＞断面形はⅢ状～浅鉢状で、底面は丸底気味である。
＜方向＞方向は、Ｎ－20°－Ｗに延びて、北側の調査区外へ続く。
＜埋土＞第107図Ｇ－Ｇ'断面の５層と５ａ層が本遺構の埋土で、埋土上位が黒褐色シルト、下位が基本層序Ｖ層起源（地山）の褐色粘土質土が堆積する。なお、上位に堆積する５層は、RG069の１層と類似する。
＜遺物＞（第166・167図、写真図版138）４号袋で約２袋分の陶磁器が出土した。その中で、陶磁器701～710を掲載した。
＜時期＞時期は特定できないが、出土遺物から近世の可能性がある。（星）

**RG071溝跡（20号溝跡）**（第108図、写真図版100）
＜位置・検出状況＞調査区中央の４M10ｊ～４M20kグリッドに位置する。検出面はⅢ層である。北端を撹乱に切られている。南側は土坑を切るが、RG073に接し、以南は検出できなかった。
＜重複関係＞南側がRD334、RD335、RA120と、北側がRA116と重複し、本溝が新しい。
＜規模・平面形状＞幅30～80㎝、深さは17㎝である。長さは22.3mである。緩やかに蛇行する。
＜断面形・底・壁＞Ⅲ～Ⅳ層中にある。溝底は東よりが深く部分的に西壁に段がある。壁は内湾気味に立ち上がる。工具痕はない。
＜方向＞蛇行するが、両端を結ぶとＮ－１°－Ｗである。
＜埋土＞黒～黒褐色土が主体で、下層にはⅣ層粒を含む。自然堆積と思われる。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞重複関係から、奈良時代より新しいことは確かであり、加えて埋土の状況、工具痕を持たない溝の形状、RG073に接する箇所以南は検出できないことなどから、近現代以降の新しいものの可能性が高い。（金子）

**RG072溝跡（19号溝跡）**（第108図、写真図版102）
＜位置・検出状況＞調査区中央の４M11m～４M12mグリッドに位置する。検出面はⅢ層である。
＜重複関係＞南端がRD312と重複し、本溝跡が新しい。
＜規模・平面形状＞幅20～30㎝、深さ７㎝、長さ3.50mである。直線的な溝である。
＜断面形・底・壁＞Ⅲ～Ⅳ層中である。底は狭く、内湾する。壁も内湾気味に立ち上がる。
＜方向＞Ｎ－28°－Ｗである。
＜埋土＞Ⅳ層粒を含む黒褐色土である。
＜遺物＞７ｇの土器小片が出土したが、図化できなかった。
＜時期・性格＞重複関係から平安時代以降で、埋土の状況から、比較的新しいものの可能性が高い。（金子）

**RG073溝跡（18号溝跡）**（第109・110図、写真図版102・103）
＜位置・検出状況＞６Ｍ５ｆ～４Ｎ６ａグリッドに位置する。検出面はⅣ～Ｖ層である。
＜重複関係＞北からRA142、RA141、RA120及び沢跡を截る。また、RD334、RD335に截られ、さらに北東側は現代の下水管などに破壊されている。なお、東側は、平成17年度に実施した細谷地遺跡９次調査区内の未調査地部分に続く。

＜規模・平面形状＞長さ約100m（推定）、幅80～260㎝、深さ５～35㎝である。南側からみていくと、南－北方向にほぼ直線的に延び、一度途切れた後、南東－北西方向に向かい、途中南西－北東方向に方向を変える。第110図の平面図には本遺構の中央部を拡大して示したが、東壁付近に柱穴状の小土坑が４基伴う。明確にはわからなかったが、植木痕の可能性がある。
＜断面形・底・壁＞断面形は、不整形をみる部分があるものの、溝底が二つに分かれ、中央は中州状に高まる「W字状」を基調とする。底面は凹凸が激しい。
＜方向＞方向は、南側はN－30°－EからN－０°－Eに延びた後、N－25°－Wに延びる。中央部はN－30°－Wに延びた後、N－50°－Eに延びる。
＜埋土＞埋土上位は黒褐色シルト、下位は暗褐色シルトや褐色砂質土の堆積が顕著である。
＜遺物＞（第167図、写真図版138）４号袋で、１袋分の近世陶磁器が出土している。711・712を掲載した。
＜時期・性格＞遺構同士の重複関係からは、時代の上限は古代より新しいことはわかるが、時代の下限は不明にある。出土遺物からは近世の可能性が高い。本遺構の性格は不明にあるものの、断面形のあり方や溝幅などからは、道路跡などの可能性が考えられようか。また、断面形や規模の観点からはRG069と類似する。（星）

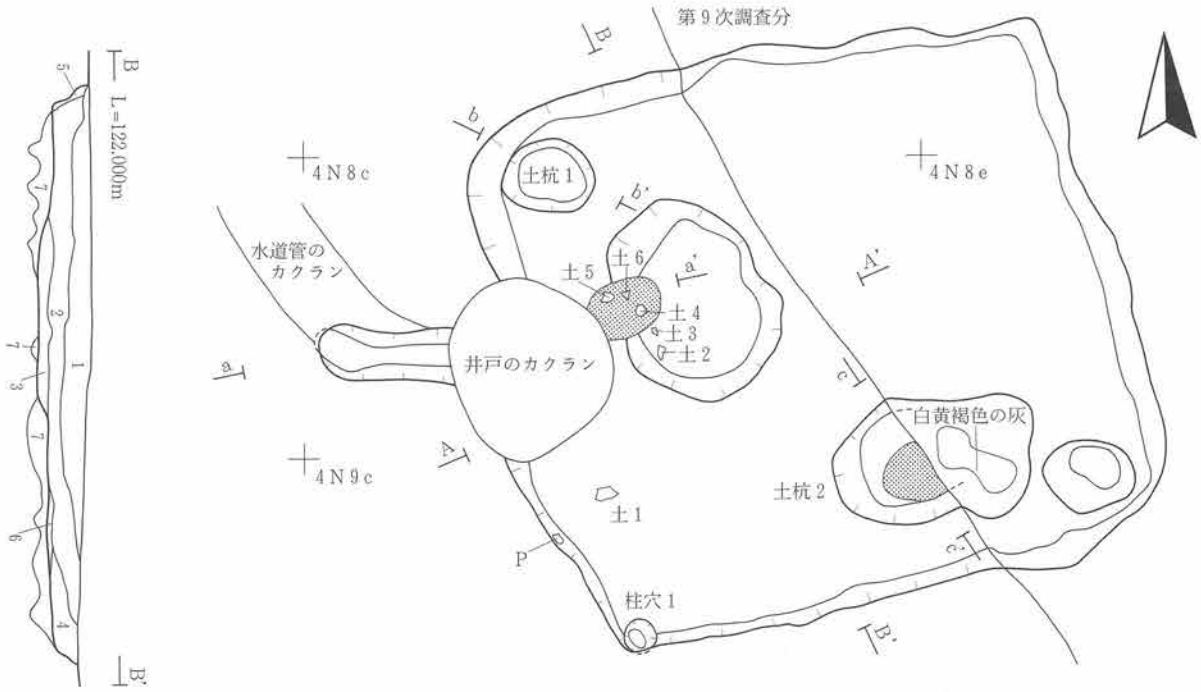
**RG074溝跡（９号溝跡）**（第108図、写真図版103）
＜位置・検出状況＞調査区南飛び地の６N12k～６N22oグリッドに位置する。検出面はⅢ層である。両端は調査区外に延びる。南側の一部が途切れている。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞幅25～60㎝、深さ12㎝である。長さは途切れている部分から北側が17.90m、南側が3.9mである。途切れている部分は約30㎝である。おおむね直線的であるが、南側が若干蛇行する。
＜方向＞若干蛇行するが、両端を結ぶ線はN－26°－Wである。
＜埋土＞上層は黒褐色土、下層は黄褐色土である。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞埋土の状況と溝の直上が現代の地境であることから新しいもののように思えるが、調査区境の断面に撹乱が入っていて、表土から掘りこんでいるか確認できず、遺物もないことからそれを証明できなかった。（金子）

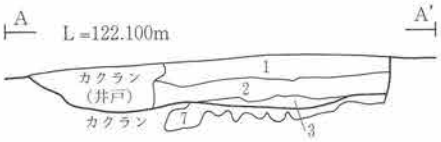
## ８　柱穴状土坑

**PP６～PP15、PP17～PP21**（第111図、写真図版103）
＜位置・検出状況＞調査区北側の２M23f～３M４kグリッド周辺から15個の小穴が検出された。検出面はⅢ層である。当初、PP19・PP18・PP17とPP15・PP10・PP９・PP11・PP21がそれぞれ直線上に並んでいることから建物の一部と考えたが、建物を構成する柱穴を検出することができなかった。
＜重複関係＞図中計測表のとおりである。古代と思われる遺構よりもすべて新しい。
＜規模・平面形状＞直径34～64㎝、深さは29～64㎝である。円形～楕円形を呈する。すべてⅤ層、Ⅵ層まで掘り込んでいる。
＜埋土＞PP８・PP９・PP10は柱痕跡を確認した。これらの柱穴状土坑の埋土はⅤ層ブロックが斑

に混入した黒褐色土で埋め戻している。他は混入物の少ない黒褐色土の単層である。
＜遺物＞PP12から５ｇの土器が出土しているが、小片のため掲載していない。
＜時期・性格＞住居跡等と重複しているPP11、18、19、20は平安時代以降に属すると思われる。他の単層の柱穴状土坑は比較的新しい可能性があるが、他は不明である。　（金子）

PP16（第89図）
＜位置・検出状況＞調査区中央東端の４Ｍ８ｘグリッドに位置する。遺構のほとんどを水道管付設のための撹乱によって破壊されている。残存しているのは南東側の一部である。RC002のPP３の南側2.9mにあり、当初RC002に対応して建物を構成する柱穴かと思われたが、周辺は水道管のほか、排水溝のＵ字管付設のための撹乱もあり、RC002の他の柱穴の南側に対応する柱穴を検出することができなかった。そのため、ここでは柱穴状土坑として報告する。
＜重複関係＞ない。
＜規模・平面形状＞径は不明、深さは残存部分で37㎝である。形状は不整形である。
＜埋土＞黒褐色土が主体である。
＜遺物＞ない。
＜時期・性格＞不明である。　（金子）

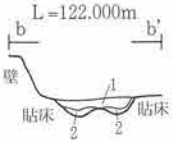



| RA074（35号住） | 柱穴１ | 土坑１ | 土坑２ |
|---|---|---|---|
| 径（cm） | 22×22 | 60×47 | 85×136 |
| 深さ（cm） | 26 | 15 | 16 |
| その他 | | | 底面に焼土 |

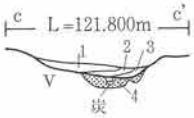
**RA074（35号住）A－A'・B－B'**
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性、締りなし　To－aブロック１％
2　10YR2/2 黒褐　シルト　１層より暗い　粘性、締りなし
3　10YR2/1 黒　シルト　粘性に富む　締りなし
4　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性ややあり　Ⅴ層砂を全体に含む
5　10YR3/3 暗褐　砂　粘性、締りなし　Ⅴ層崩壊砂を全体に含む
6　10YR2/1 黒　シルト　粘性ややあり　締りあり　Ⅴ層粒中粒
7　10YR2/2 黒褐　砂質シルト　粘性あり　硬く締る　貼り床
　Ⅴ層砂大粒、径５cmのブロック10％

土杭１




**RA074（35号住）土坑１　b－b'**
1　10YR2/1 黒　シルト　粘性、締りあり
2　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし
　Ⅴ層崩壊土

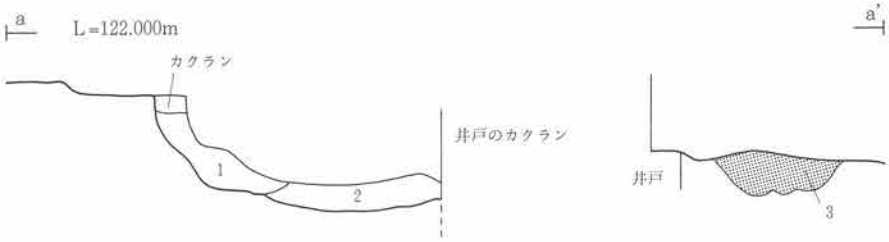
土杭２




**RA074（35号住）土坑２　c－c'**
1　10YR2/1 黒　シルト　粘性あり　締りなし
2　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　明黄褐の灰を含む
3　10YR2/1 黒　砂質シルト　粘性、締りなし
4　5YR3/4 暗赤褐　砂　粘性なし　締りややあり　焼土

0　2 m

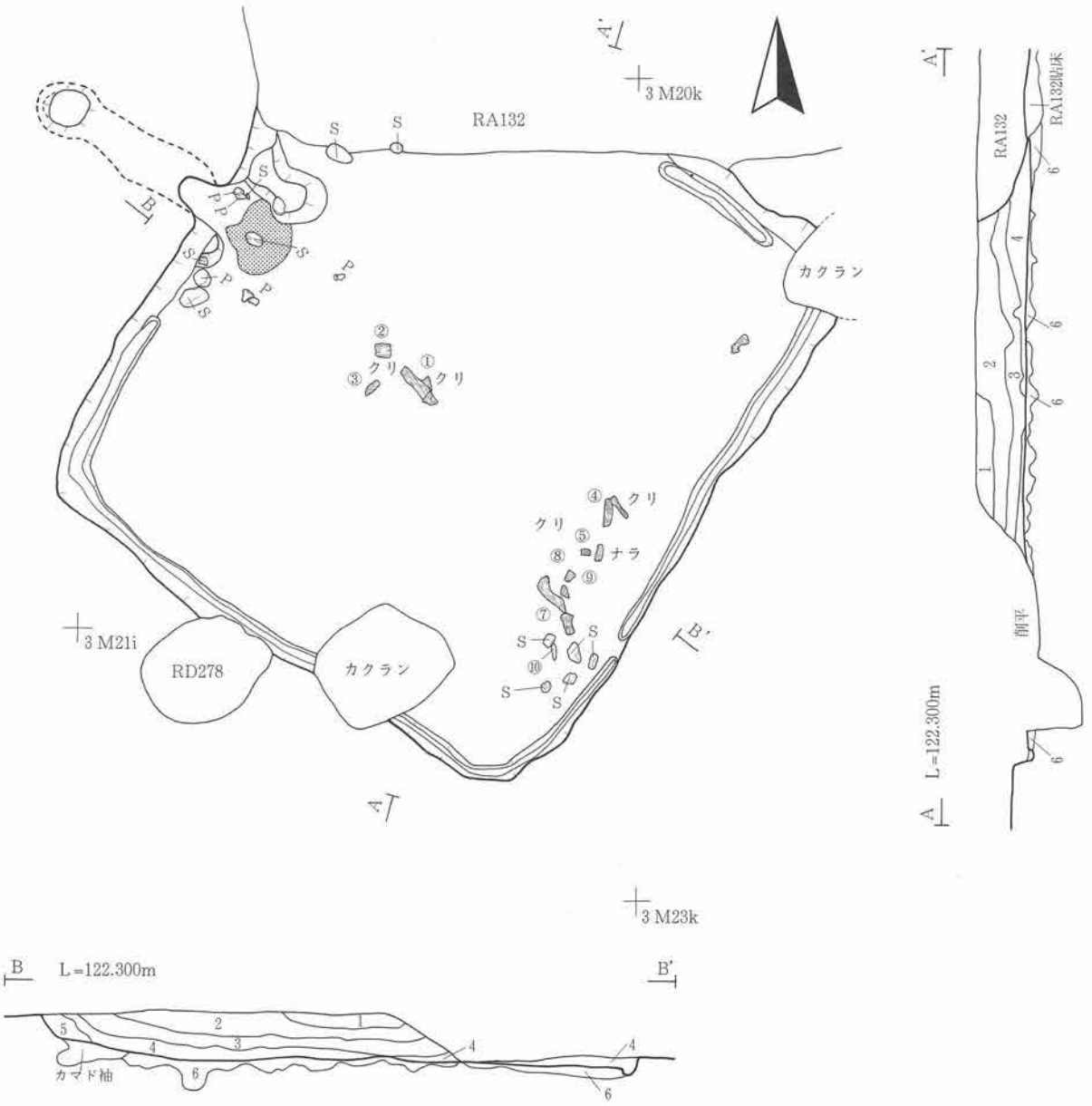
カマド




**RA074（35号住）カマド　a－a'**
1　10YR3/1 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　焼土ブロックを含む
2　10YR3/4 暗褐　砂　粘性、締りなし　炭粉少量含む
3　5YR3/3 暗赤褐　砂　粘性ややあり　締りややあり　焼土

0　1 m

**第14図　RA074竪穴住居跡**

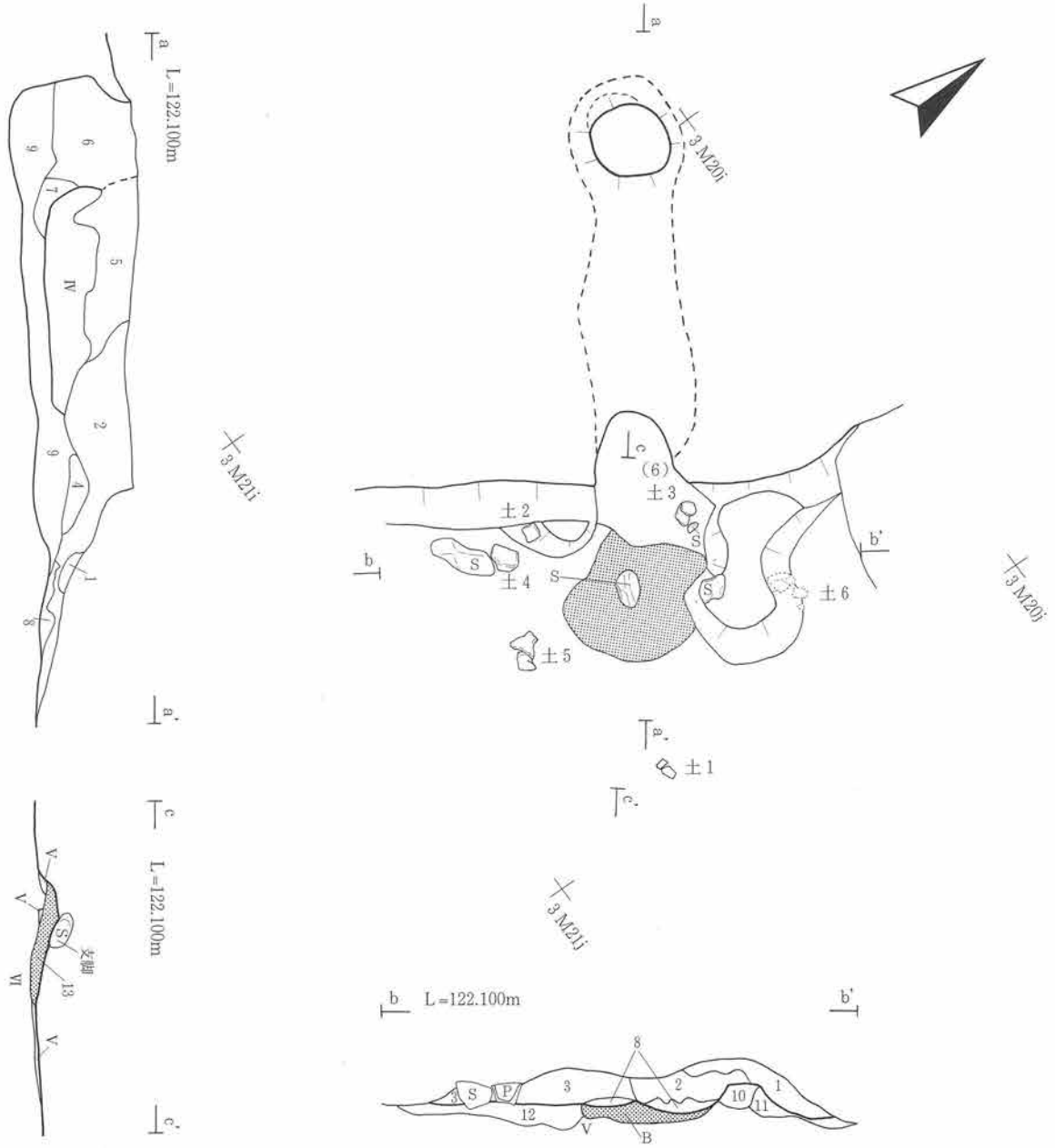



RA113（16号住） A－A'・B－B'

1 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性、締りなし Ⅳ層粒極小～大15%含む
2 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性、締りなし Ⅳ層中粒 2 %
3 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性ややあり 締りなし 微細な炭を少量含む
4 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性、締りなし 炭粒を含む
5 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性あり 締りなし 壁のⅣ層崩壊土大粒10%含む
6 10YR4/4 褐 砂質シルト 粘性あり 硬く締る 上面に炭粒を多く含む
黄褐（10YR4/6）と黒褐（10YR3/2）の混合土 貼り床
7 10YR3/3 暗褐 砂質シルト 粘性あり 締りなし 褐色土（小～中粒）5 % カマド袖構築土

0 2 m

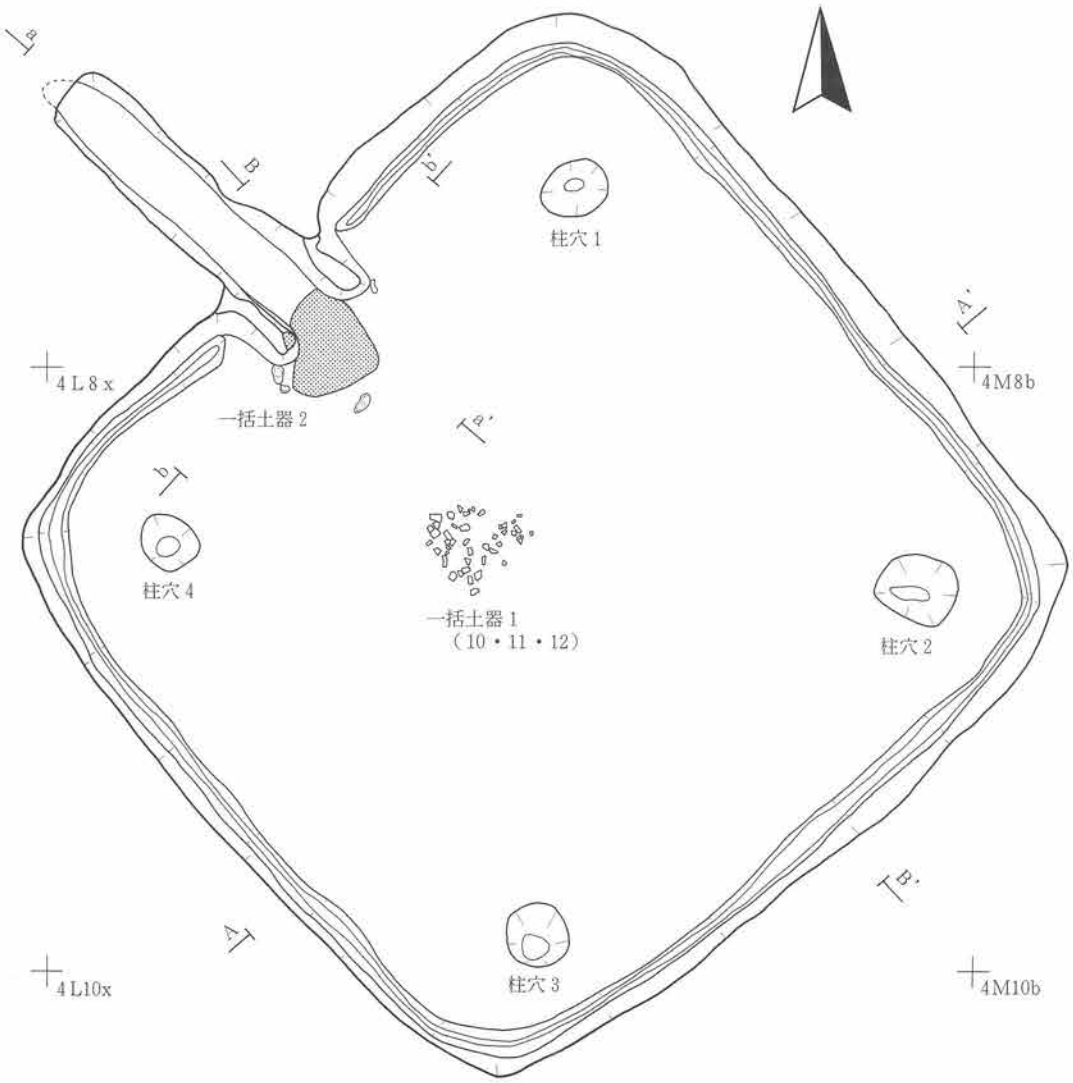
第15図 RA113竪穴住居跡（1）




RA113（16号住）カマド　a－a'・b－b'・c－c'
1 10YR3/3 暗褐　シルト　粘性、締りなし　褐色土ブロック15～20%　天井の崩壊土
2 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性ややあり　締りなし　褐色土大粒３%
3 10YR3/3 暗褐　砂質シルト　粘性、締りなし
4 10YR5/8 黄褐　砂質シルト　粘性、締りなし　天井崩壊土？
5 10YR3/2 黒褐　シルト　粘性ややあり　硬く締る　Ⅱ層崩落土
6 10YR3/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　Ⅳ層大粒７%
7 10YR4/4 褐　シルト　粘性に富む　締りなし　黒褐色土大粒７～10%
8 5YR3/4　暗赤褐　シルト～砂質シルト　粘性、締りなし　動いた焼土
9 10YR4/4 褐　砂質シルト　粘性ややあり　締りなし　焼土粒、炭粉を全体に含む
10 10YR5/8 黄褐　砂質シルト　粘性なし　締りあり　Ⅳ層
11 10YR4/4 褐　シルト　粘性なし　締りあり　黒褐色土粒５%　袖構築土
12 10YR4/4 褐　シルト　粘性、締りなし　焼土粒10%　黒褐色土粒３%　芯材の据え方
13 5YR4/4　褐　砂質シルト　にぶい赤褐　粘性なし　締りあり　焼土

0　1m

第16図　RA113竪穴住居跡（２）

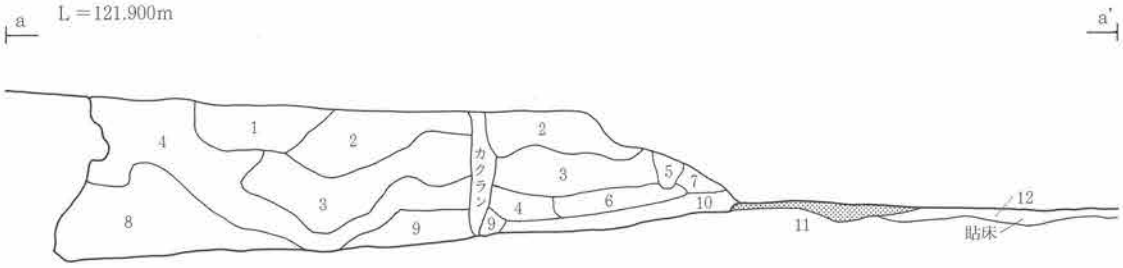


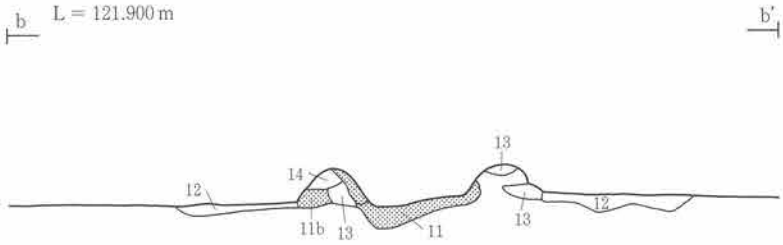

RA114（1号住） A－A'・B－B'
1 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性やや弱 締りやや密 黄褐粘土10%・褐砂質土10%混入
1a 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締りやや密 黄褐粘土20%混入
1b 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性中 締りやや密 黄褐粘土20%混入
2 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締りやや密 土器混入（※土器は一定量含む）
2a 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性中 締りやや密 褐砂質土40%混入
2b 10YR2/1 黒 シルト 粘性中 締りやや密 褐砂質土20%混入
2c 10YR2/1 黒 シルト 粘性中 締りやや疎 黄褐粘土5%混入 （木根による腐食土）
3 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性やや弱 締りやや疎 黄褐粘土5%・褐砂質シルト30%混入
4 10YR3/4 暗褐 シルト質砂質土 粘性やや強 締りやや疎
5 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締り中 褐砂質シルト20%混入
6 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性中 締り疎
7 5YR4/4 にぶい赤褐 焼土（砂質シルト） 粘性弱 締りやや疎
8 10YR5/6 黄褐 粘土質砂質土 粘性弱 締り疎（※地山土 壁の崩壊土若しくは掘り過ぎ）
9 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性中 締り密 黄褐砂質粘土20%混入（※貼床）

| RA114（1号住） | 柱穴1 | 柱穴2 | 柱穴3 | 柱穴4 |
|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 48×38 | 50×40 | 42×40 | 40×35 |
| 深さ（cm） | 33 | 27 | 41 | 45 |

0 2m

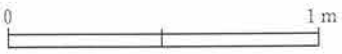
第17図 RA114竪穴住居跡（1）



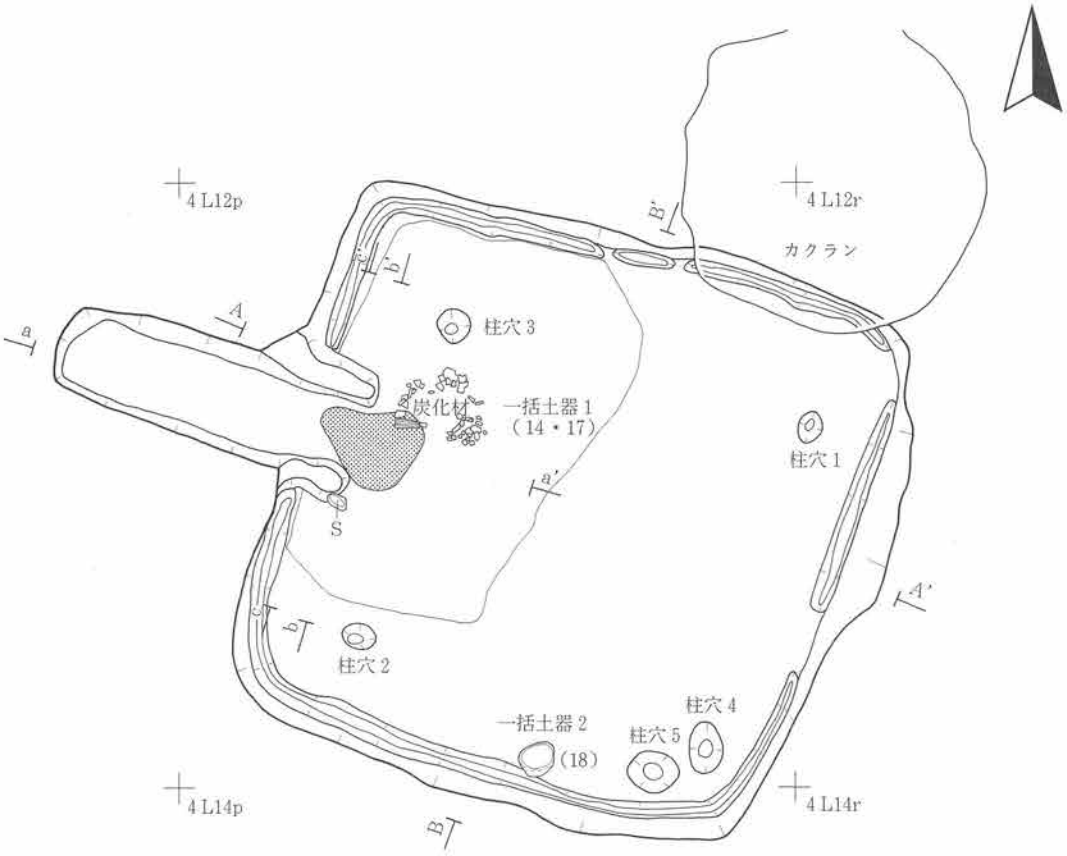



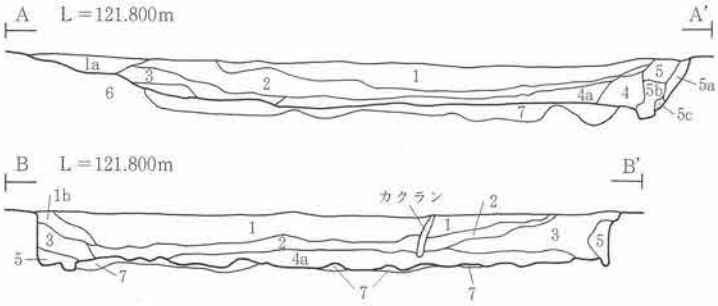

**RA114（1号住）　カマド煙道　a－a'・b－b'**

1　10YR5/6 黄褐　粘土　粘性やや強　締り中　暗褐シルト30%混入
2　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性中　締りやや疎
3　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性中　締り中　黄褐粘土30%混入（※暗褐シルトと黄褐粘土の混合土）
4　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締り中　黄褐粘土３%混入
5　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性中　締り中
6　10YR4/4 褐　粘土　粘性やや強　締り中
7　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性やや強　締り中　褐砂質粘土10%混入（※カマド天井部崩壊土か）
8　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性弱　締り疎　黄褐砂質粘土10%混入
9　10YR4/3 にぶい黄褐　砂質土　粘性弱　締りやや疎
10　7.5YR3/4暗褐　シルト　粘性やや弱　締りやや疎　焼土粒３%混入
11　5YR4/6　赤褐　焼土　粘性やや弱　締り中（※燃焼部　貼床を施した後に焼成を受けた部分よって本来は12層）
11a　5YR4/8 赤褐　焼土　粘性やや弱　締り中（※地山が焼成を受け焼土化した部分）
11b　5YR4/4 にぶい赤褐　焼土　粘性やや弱　締り中（※地山が焼成を受け焼土化した部分）
12　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性中　締り密　黄褐砂質粘土20%混入（※貼床）
13　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性中　締り中（※木根撹乱？）
14　10YR5/8 黄褐　砂質土　粘性中　締り中




第18図　RA114竪穴住居跡（２）

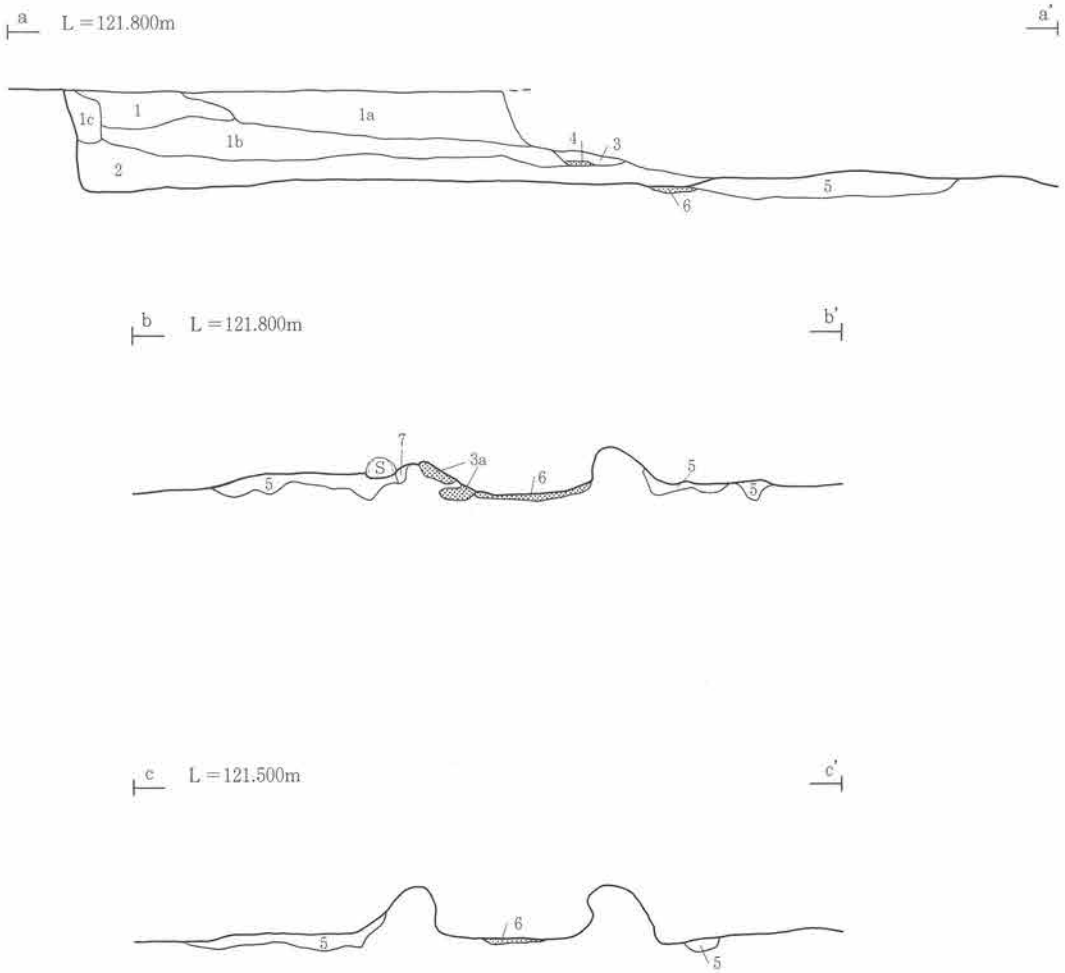



| RA115（2号住） | 柱穴1 | 柱穴2 | 柱穴3 | 柱穴4 | 柱穴5 |
|---|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 20×16 | 22×16 | 22×20 | 34×22 | 38×24 |
| 深さ（cm） | 10 | 4 | 11 | 11 | 15 |
| その他 | | | | 貼り床下で検出 | 貼り床下で検出 |

RA115（2号住） A－A'・B－B'
1 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中（10YR5/6）黄褐粘土ブロック5％混入
1a 10YR3/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中（10YR5/6）黄褐粘土ブロック3％混入
1b 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中（10YR5/6）黄褐粘土ブロック10％混入（※粘土ブロックはまだらに入る）
2 10YR2/1 黒 シルト 粘性中 締りやや疎 黄褐粘土ブロック15％混入（※土器混入）
2a 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締り中
3 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中（※土器あり）
4 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性やや強 締りやや密
4a 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性やや強 締り中 褐砂質土30％混入
5 10YR4/3～3/4 にぶい黄褐～暗褐 粘土 粘性強 締り密 黒褐シルト10％混入
5a 10YR3/4 暗褐 粘土 粘性強 締り密
5b 10YR5/6 黄褐 粘土 粘性強 締り密 黒褐シルト5％混入
5c 10YR3/4 暗褐 粘土 粘性強 締りやや疎 暗褐砂質土30％混入（木根撹乱？）
6 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性強 締りやや密（※土器あり）
7 10YR3/4 暗褐 シルト 粘性中 締り中 黒シルト10％・黄褐粘土10％混入（※貼床）

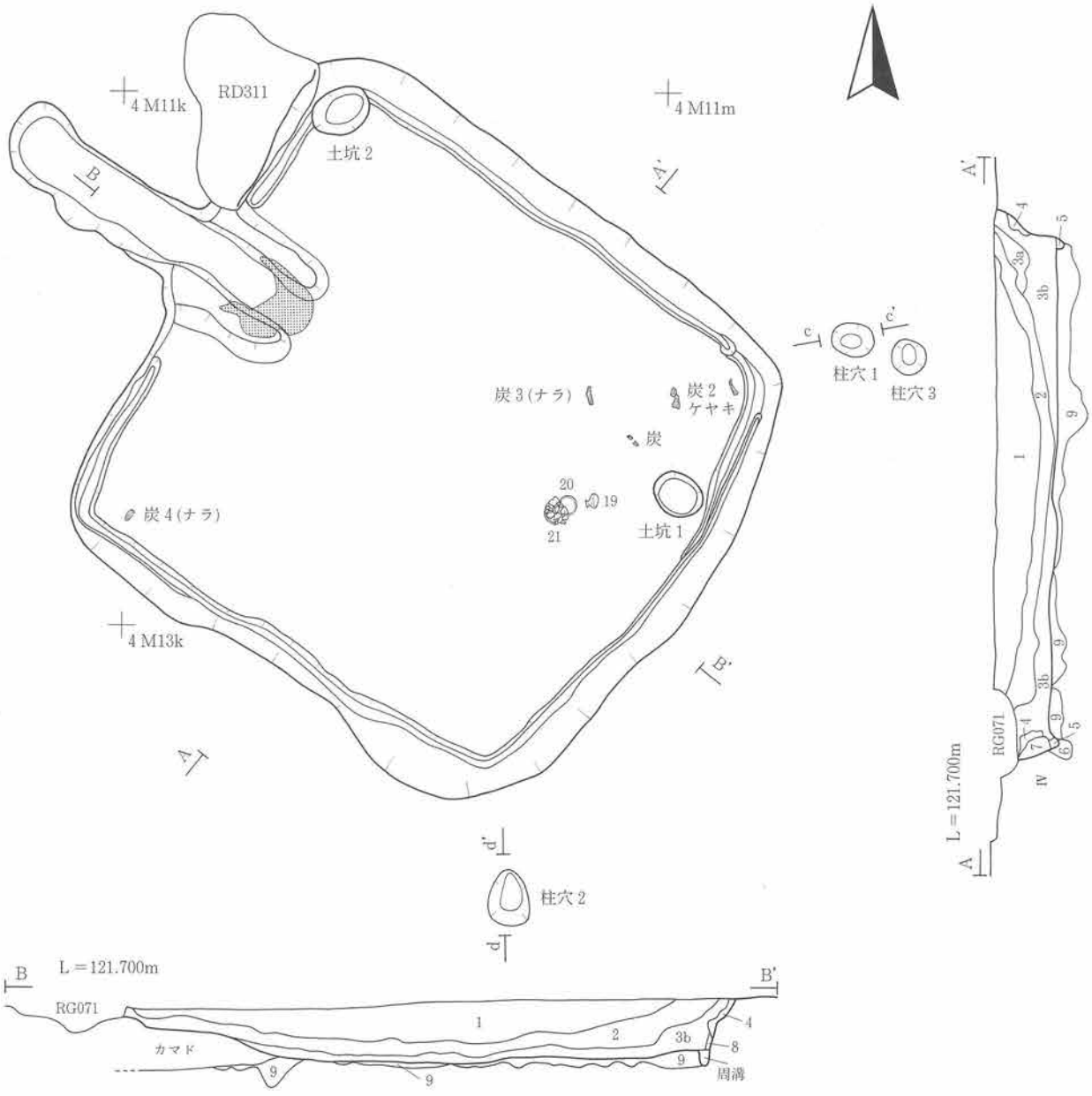
第19図 RA115竪穴住居跡（1）




RA115（2号住）　カマド　a－a'・b－b'・c－c'
1　10YR4/3 にぶい黄褐　シルト質粘土　粘性やや強　締り中
1a　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締り中　暗褐シルト10%・褐粘土５%混入
1b　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中
1c　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中
2　10YR3/4～2/3　暗褐～黒褐　シルト　粘性中　締り中
3　10YR5/6 黄褐　粘土　粘性中　締りやや密
3a　7.5YR2/3極暗褐シルト　粘性中　締りやや疎（※やや焼成受ける）
4　5YR4/8　赤褐　焼土　粘性やや弱　締り中
5　10YR3/4 暗褐　シルト質粘土　粘性中　締り中　黒シルト10%・黄褐粘土10%・焼土粒ブロック３%混入（※貼床）
6　7.5YR4/4褐　焼土（砂質土）　粘性弱　締り疎
7　10YR3/4 暗褐シルト　粘性中　締りやや疎

0　1 m

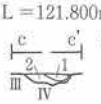
第20図　RA115竪穴住居跡（２）




RA116（39号住）　A－A'・B－B'
1　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　V層小～中粒７％
2　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　炭粒含む
3a　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性あり　締りなし　V層砂全体に含む　埋め戻し？掘り上げ土の流入？
3b　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性あり　締りなし　V層ブロック（径１～３㎝）全体に含む　埋め戻し？掘り上げ土の流入？
4　10YR6/8 明黄褐　シルト　粘性あり　締りなし　暗褐色土粒中粒７％　壁崩落土
5　10YR4/4 褐　砂質シルト　粘性あり　締りなし　周溝埋土
6　10YR3/4 暗褐　砂　粘性、締りなし　根の撹乱？
7　10YR6/8 明黄褐　シルト　粘性あり　締りややあり　壁崩壊土
8　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性あり　締りなし　IV層小～中粒７％
9　10YR4/6 褐砂質　シルト　粘性あり　締りあり　IV層ブロック（径２～５㎝）10％　暗褐色小～大粒15％含む　貼床

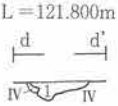
| RA116（39号住） | 柱穴１ | 柱穴２ | 柱穴３ | 土坑１ | 土坑２ |
|---|---|---|---|---|---|
| 径（㎝） | 31×25 | 42×30 | 26×25 | 38×31 | 45×35 |
| 深さ（㎝） | 8 | 12 | 8 | 4 | 14 |
| その他 | 南東隅壁外 | 南西隅壁外 | 南東隅壁外 | | |

柱穴１
L＝121.800m




RA116（39号住）壁外柱穴c－c'
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　IV層大粒10%
2　10YR4/4 褐　粘性あり　締りなし　IV層小粒10%

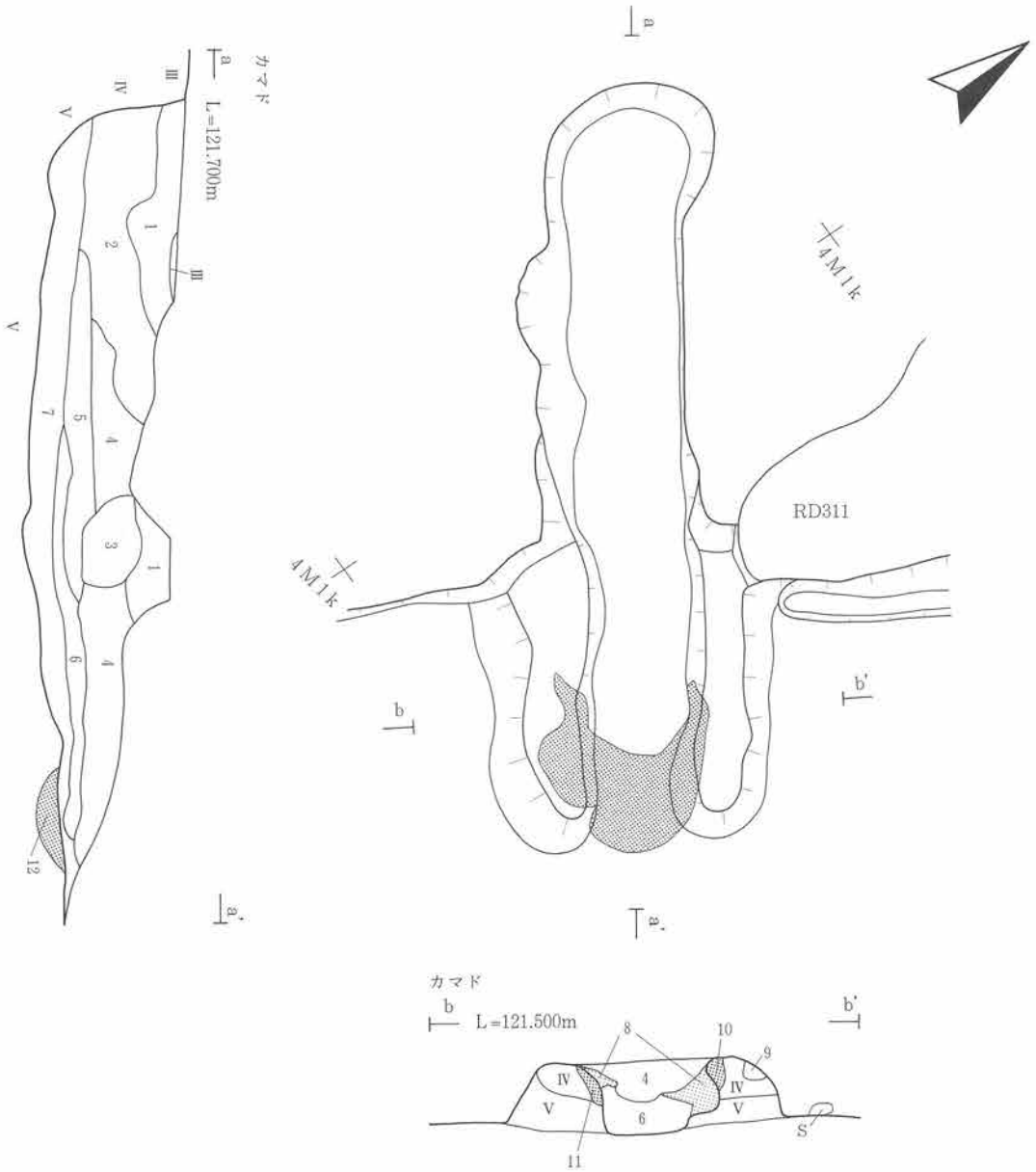
柱穴２
L＝121.800m




RA116（39号住）壁外柱穴d－d'
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　IV層大粒10%含む

0　2 m

第21図　RA116竪穴住居跡（１）

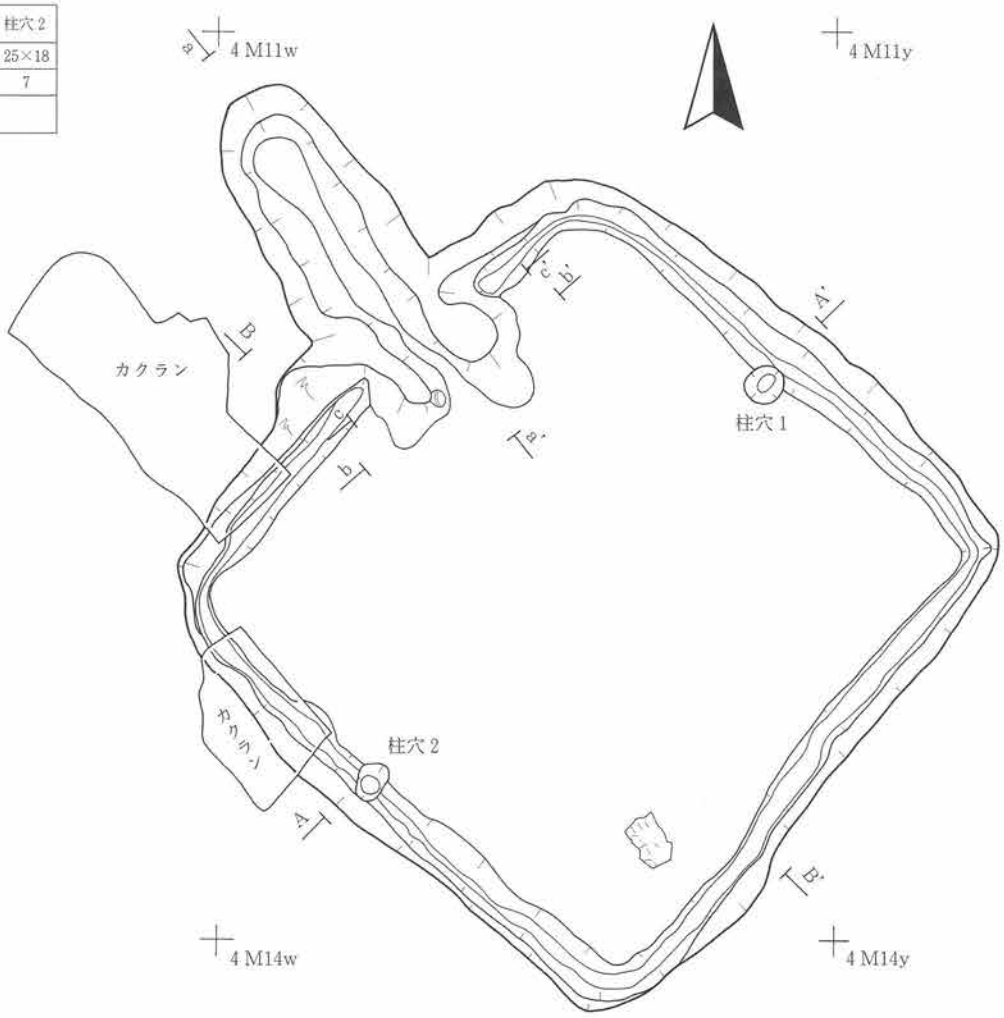


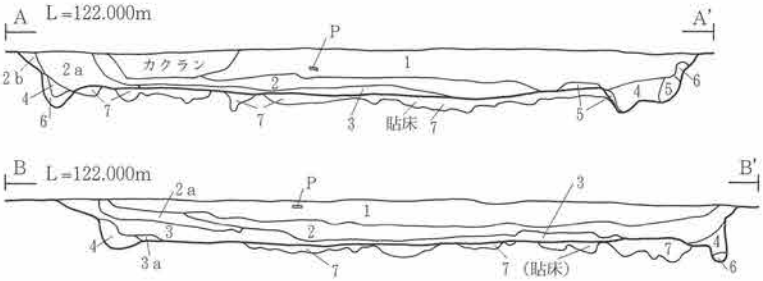

RA116（39号住）カマド　a－a'・b－b'
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性に富む　締りなし
2　10YR4/4 褐　シルト　粘性に富む　締りあり
　　黒褐色土ブロック７～20%
3　10YR5/6 黄褐　シルト　粘性あり　締りあり　硬い
4　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　黄褐色土ブロック（径0.1～３㎝大）５～10%
5　10YR4/6 褐　シルト　粘性あり　しまりなし　壁か天井の崩壊土か
6　5YR3/4　暗赤褐　シルト　粘性あり　締りなし　焼土ブロック　炭片を含む　天井から崩落した焼土
7　10YR5/3 にぶい黄褐　砂　粘性、締りなし　炭粉含む
8　5YR5/8　明赤褐　砂質シルト　粘性、締りなし　袖の焼土崩壊土
9　10YR4/4 褐　シルト　粘性、締りなし
10 5YR4/6　赤褐　シルト　粘性ややあり　締りあり　焼土
11 5YR4/6　赤褐　砂質シルト　粘性なし　締りややあり　焼土
12 5YR4/6　赤褐　シルト　粘性あり　締りあり　焼土

0　1 m

第22図　RA116竪穴住居跡（２）

| RA117 (31号住) | 柱穴1 | 柱穴2 |
|---|---|---|
| 径（cm） | 26×24 | 25×18 |
| 深さ（cm） | 8 | 7 |
| その他 | | |



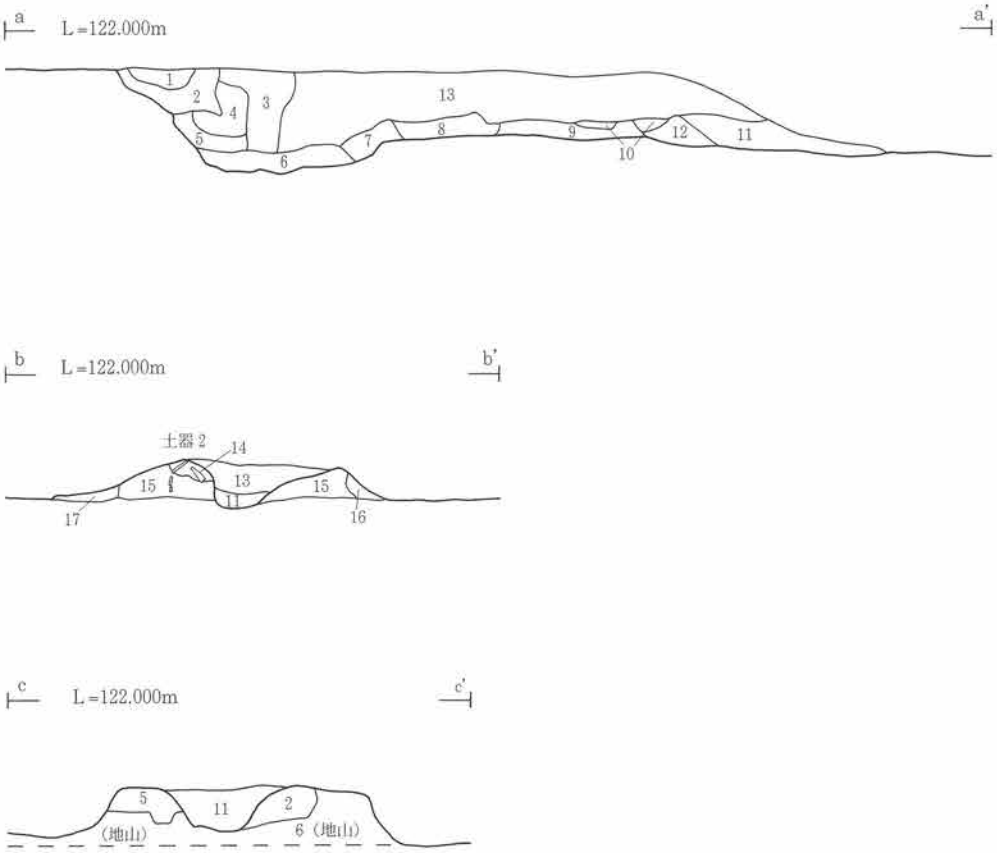




RA117（31号住） A－A'・B－B'
1 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや弱 締りやや密
2 10YR2/1 黒 シルト 粘性やや強 締り中
2a 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締りやや密
2b 10YR3/4 暗褐 シルト 粘性やや強 締りやや密
3 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性中 締りやや密 褐砂質土3％混入
3a 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性中 締りやや密 黄褐砂質粘土10％混入
4 10YR3/3 暗褐 砂質シルト 粘性やや弱 締りやや疎 黄褐砂質土5％混入
5 10YR3/3 暗褐 砂質シルト 粘性やや弱 締りやや疎 黄褐砂質土20％混入
6 10YR5/6 黄褐 砂質土 粘性弱 締り疎（※地山崩壊土）
7 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや弱 締りやや密 褐～暗褐砂質土20％混入（※貼床）

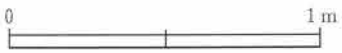
0 2m

第23図 RA117竪穴住居跡（1）

カマド

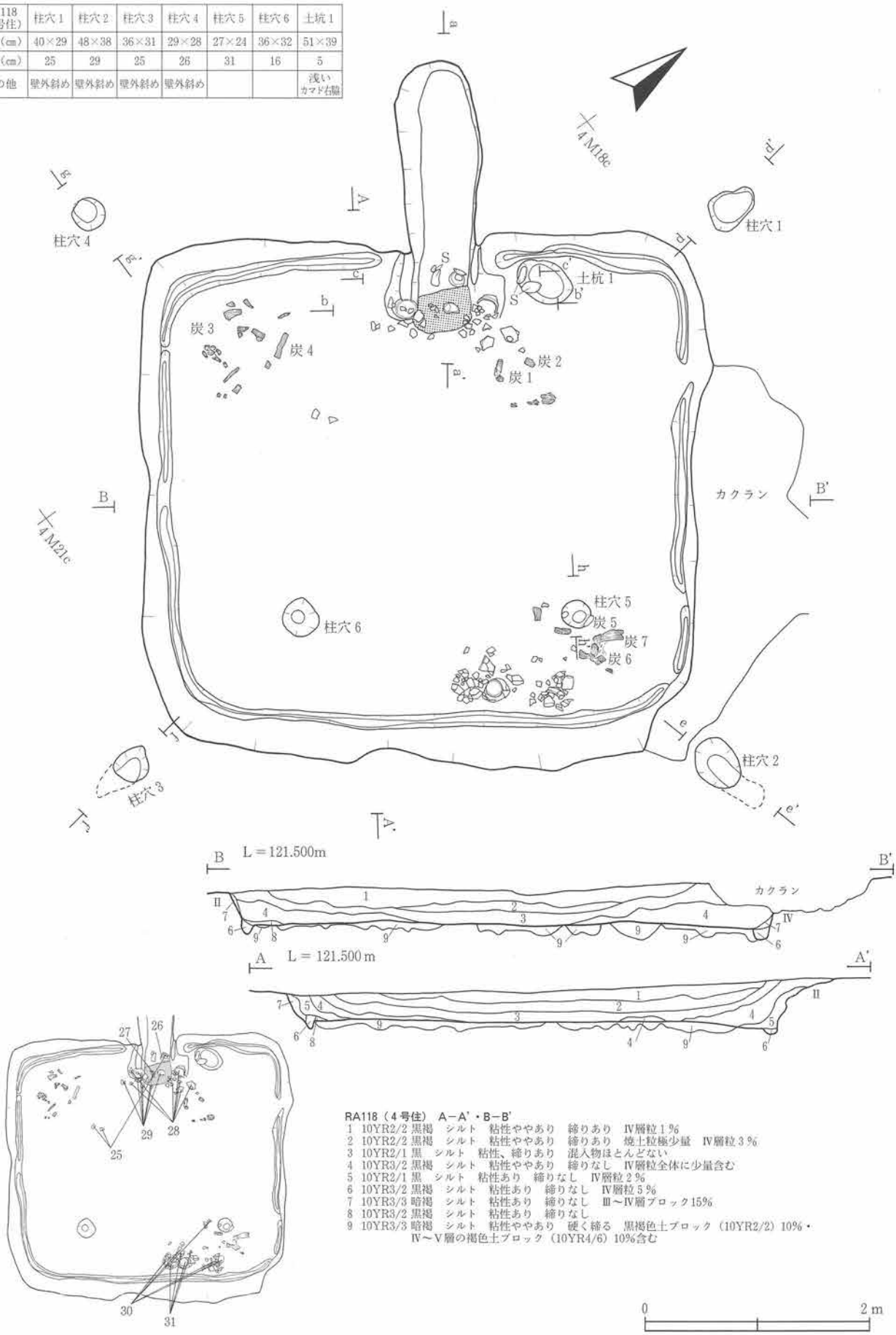



RA117（31号住）　カマドａ－ａ'・ｂ－ｂ'　ｃ－ｃ'
1 10YR3/3 暗褐　シルト質粘土　粘性中　締りやや密
2 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締り中
3 10YR4/6 褐　粘土質土　粘性やや強　締り中　暗褐シルト10%混入（※人為堆積層）
4 10YR3/3 暗褐　シルト　粘性やや強　締りやや疎
5 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締り中
6 10YR3/1 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや疎（※５・７層と比較して黒が強い色調）
7 10YR3/3 暗褐　シルト　粘性中　締りやや疎（※13層が崩壊した土層と考えられる）
8 10YR3/1 黒褐　シルト　粘性中　締りやや疎
9 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや疎
10 10YR4/4 褐　砂質土　粘性やや弱　締りやや疎
11 10YR4/3 にぶい黄褐　砂質粘土　粘性やや強　締りやや疎
12 10YR3/3 暗褐　シルト　粘性中　締りやや疎
13 10YR3/3～2/3 暗褐～黒褐　シルト　粘性中　締り中
14 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締り中（※袖構築土）
15 7.5YR3/4暗褐　粘土質砂質土　粘性中　締りやや密（※袖構築土）
16 10YR4/4 褐　砂質シルト　粘性やや強　締り中　黒褐シルト３%混入
17 10YR3/2 黒褐　シルト　粘性中　締り中
18 10YR3/3 暗褐　シルト　粘性やや弱　締り中　褐砂質土10%混入（※袖構築土）
19 10YR4/6～5/6 褐～黄褐　砂質シルト　粘性やや弱　締り中（※地山作り出し部分）

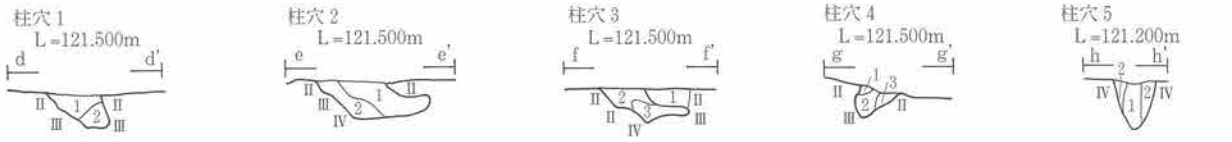



第24図　RA117竪穴住居跡（２）

| RA118（4号住） | 柱穴1 | 柱穴2 | 柱穴3 | 柱穴4 | 柱穴5 | 柱穴6 | 土坑1 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 40×29 | 48×38 | 36×31 | 29×28 | 27×24 | 36×32 | 51×39 |
| 深さ（cm） | 25 | 29 | 25 | 26 | 31 | 16 | 5 |
| その他 | 壁外斜め | 壁外斜め | 壁外斜め | 壁外斜め | | | 浅い カマド右脇 |




第25図　RA118竪穴住居跡（1）




**RA118（4号住）柱穴 1**
1 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性なし　締りなし　微細な褐色粒 2 %含む
2 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性なし　締りなし　Ⅳ層ブロック（φ0.5～ 5 ㎝大）10%含む

**RA118（4号住）柱穴 2**
1 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性ややあり　締りなし　褐色土粒（φ0.2～ 1 ㎝大）10%含む
2 10YR2/1 黒　シルト　粘性ややあり　締りなし　Ⅳ層ブロック（φ0.5～ 7 ㎝大）15～20%含む

**RA118（4号住）柱穴 3**
1 10YR2/1 黒　シルト　粘性あり　締りなし　Ⅱ層の崩壊土？（少し動いている）混入物なし
2 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性ややあり　締りなし　Ⅳ層ブロック（φ0.5～ 1 ㎝大）7 %含む
3 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　Ⅳ層ブロック（φ0.5～ 3 ㎝大）10%含む

**RA118（4号住）柱穴 4**
1 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りややあり　Ⅳ層粒（φ0.5㎝大）7 %含む
2 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　Ⅳ層粒（φ0.5～1.5㎝大）20%含む
3 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　Ⅳ層粒（φ0.3㎝大）2 %含む

**RA118（4号住）柱穴 5**
1 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし
2 10YR2/3 黒褐　砂質シルト　粘性なし　締りあり　Ⅴ層ブロック15%含む

0　2 m

カマド

L =121.500m

4 M19b

4 M18c

**RA118（4号住）カマド　a－a'・b－b'**
1 10YR2/1 黒　シルト　粘性あり　締りなし
2 10YR3/4 暗褐　シルト　粘性なし　締りなし　天井崩壊土
3 10YR3/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし
　Ⅳ層ブロック（0.5～ 5 ㎝大）15%
4 10YR3/1 黒褐　シルト　粘性あり　締りややあり
　Ⅳ層ブロック（0.5～ 5 ㎝大）10%　下位に炭粉含む（分層できず）
5 10YR4/6 褐　シルト　粘性あり　締りややあり　袖天井の崩壊土
6 7.5YR2/3極暗褐　シルト　粘性ややあり　締りなし
　φ0.5～1.5㎝大の焼土ブロック5%　全体に焼土を含む　炭粒を少量含む
7 10YR3/2 黒褐　砂質シルト　粘性なし　締りなし
　Ⅴ層砂質土を全体に多く含む
8 10YR4/4 褐　シルト　粘性なし　締りなし　黒褐色土ブロック15%含む
9 7.5Y3/4　暗褐　シルト　粘性あり　締りややあり　袖焼土の崩壊土
10 5YR3/4　暗赤褐　砂　粘性なし　硬く締る　Ⅴ層の起源の方の焼土
11 7.5YR2/2黒褐　シルト　粘性なし　締りあり　貼床？

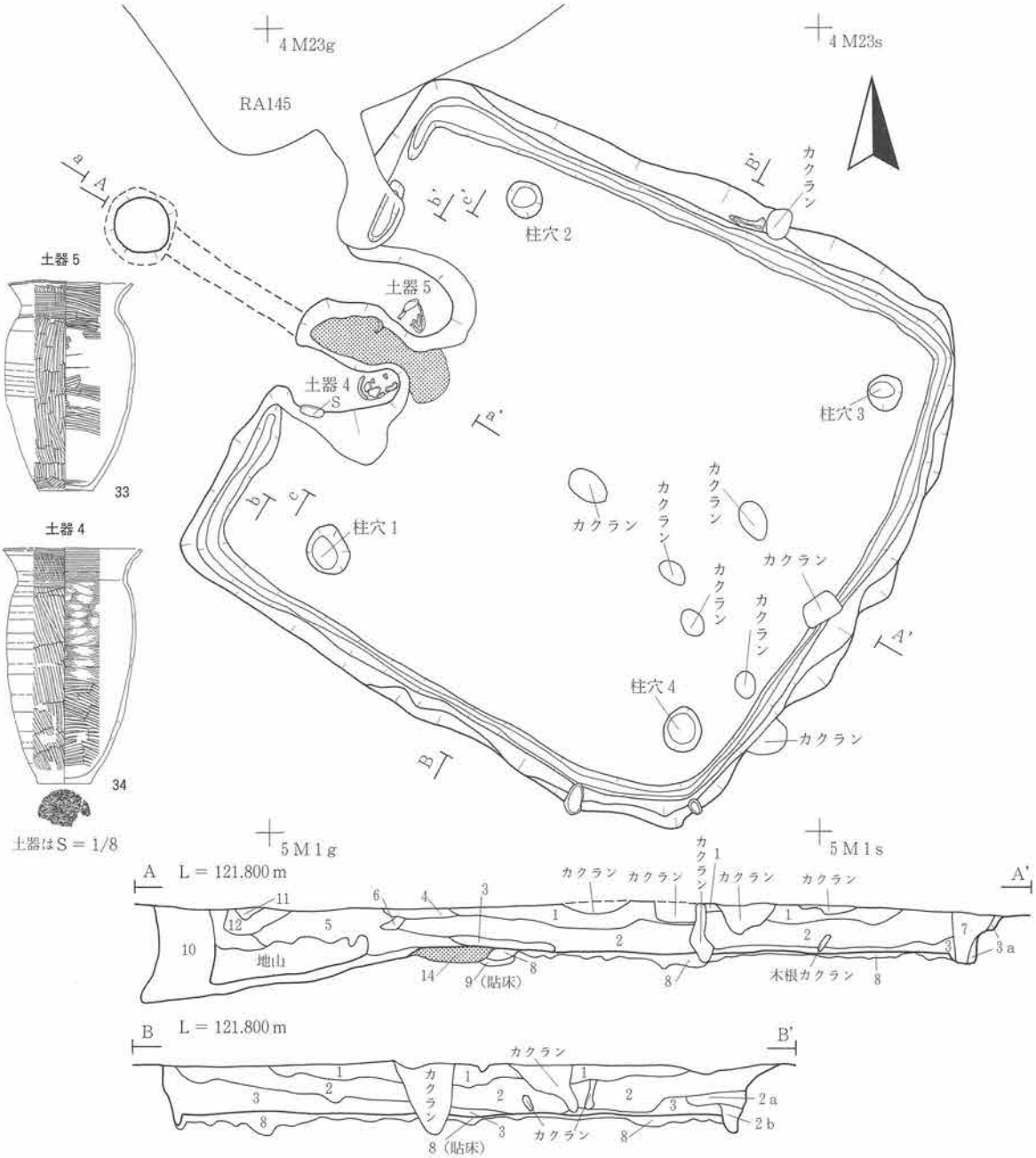
L =121.300m

L =121.500m

**RA118（4号住）袖横断面　c－c'**
Ⅴ 10YR4/6 褐　砂　粘性なし　締りあり

0　1 m

第26図　RA118竪穴住居跡（2）



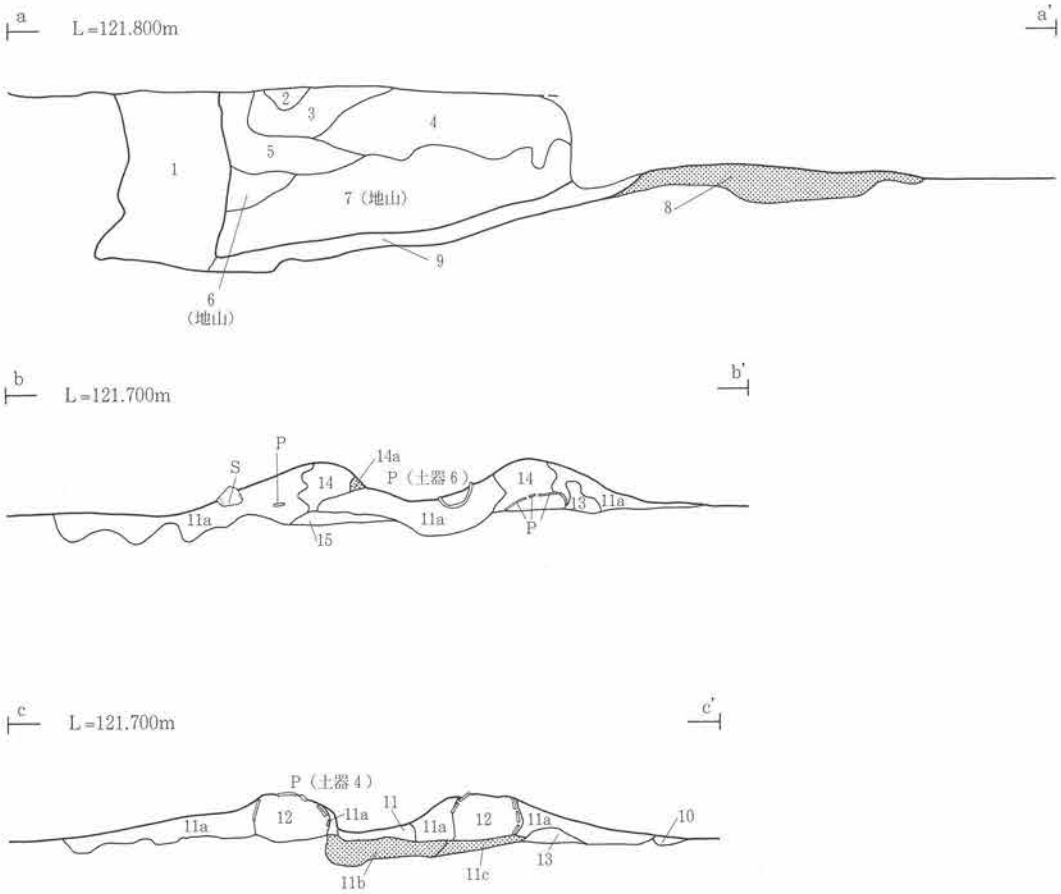

RA119（26号住） A－A'・B－B'
1 10YR5/6 黄褐 砂質粘土 粘性中 締りやや密 黒褐シルト30%混入（※人為堆積層）
2 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中
2a 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中 黄褐砂質粘土５%混入
2b 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締りやや密
3 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性やや強 締りやや密 黄褐砂質粘土10%混入
3a 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性やや強 締りやや疎 黄褐砂質粘土10%混入
4 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締りやや密
5 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締りやや密 黄褐砂質土10%混入（※カマド４層と同一じ）
6 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締り密 黄褐砂質粘土10%混入
7 10YR2/1 黒 シルト 粘性中 締りやや疎（※カクラン層と考えられる）
8 10YR4/4 褐 シルト質粘土 粘性中 締り密 黒褐シルト10%混入（※貼床、踏み固められている）
9 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性中 締りやや密
10 10YR5/6 黄褐 粘土質砂質土 粘性中 締りやや密 黒褐シルト20%混入（※人為による埋め戻し土）
11 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性中 締りやや密
12 10YR5/6 黄褐 粘土質砂質土 粘性中 締りやや密 暗褐シルト10%混入
13 10YR4/4～3/4 褐～暗褐 粘土質シルト 粘性やや強 締りやや密
14 5YR4/8 赤褐 焼土 粘性中 締りやや密（※地山が焼土化した土層、焼土の発達が非常に良い）

| RA119（26号住） | 柱穴１ | 柱穴２ | 柱穴３ | 柱穴４ |
|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 46×28 | 29×27 | 28×26 | 33×28 |
| 深さ（cm） | 14 | 10 | 27 | 14 |
| その他 | | | | |

0 2 m

第27図 RA119竪穴住居跡（１）

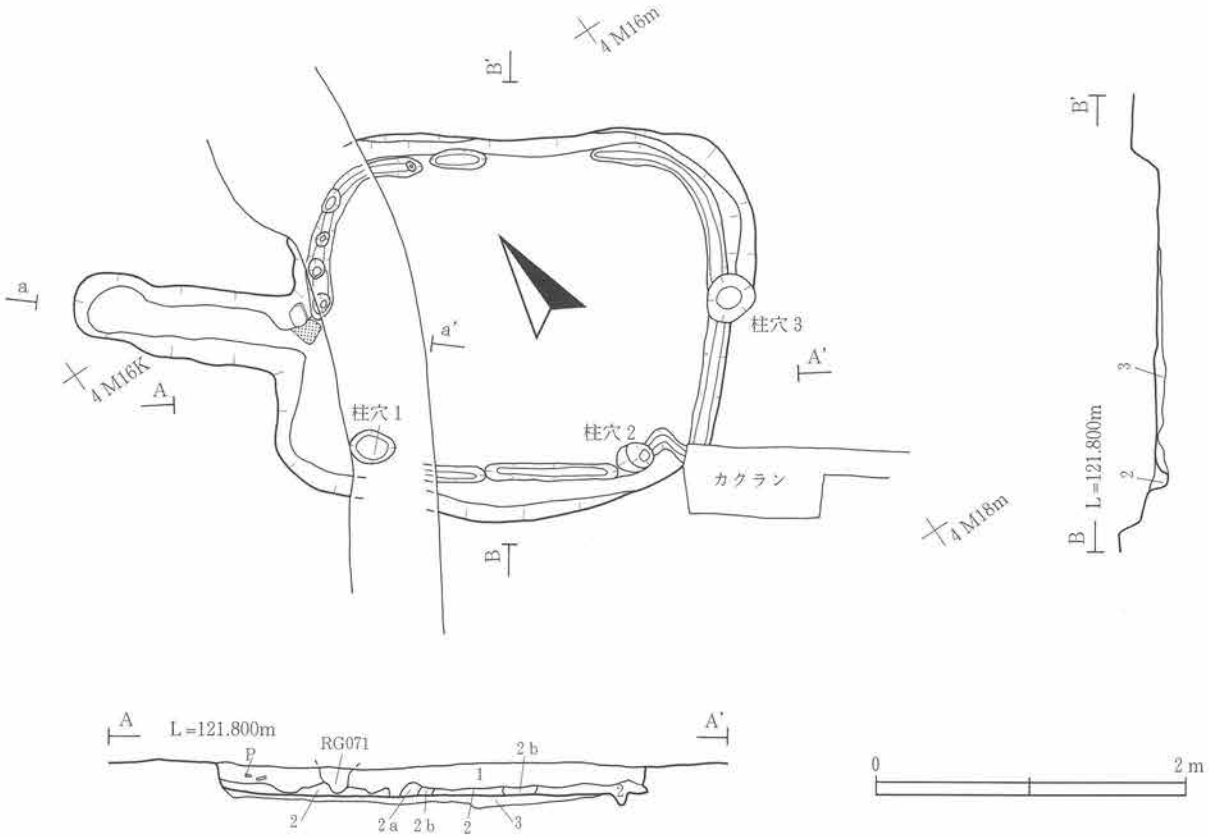
カマド




RA119（26号住）　カマドa－a'・b－b'・c－c'
1 10YR5/6 黄褐　粘土質砂質土　粘性中　締りやや密　黒褐シルト20%混入（※人為堆積層、埋め戻し土）
2 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締りやや密
3 10YR5/6 黄褐　粘土質砂質土　粘性中　締りやや密　暗褐シルト10%混入
4 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや密　黄褐砂質土10%混入（※竪穴住居埋土5層と同一）
5 10YR4/4～3/4 褐～暗褐　粘土質シルト　粘性やや強　締りやや密
6 10YR5/6 黄褐　粘土質砂質土　粘性やや強　締りやや密　暗褐シルト7%混入（地山起源）
7 10YR5/6 黄褐　粘土質砂質土　粘性やや強　締りやや密（※地山で煙道の天井部、全体的に陥没した土層と推定される）
8 5YR4/6　赤褐　焼土　粘性やや強　締り中
9 7.5YR3/4暗褐　粘土質シルト　粘性やや強　締り中（※熱を受けている様相）
10 10YR3/3 暗褐　粘土質シルト　粘性やや強　締りやや密　黄褐砂質土5%混入
11 10YR4/4 褐　シルト質粘土　粘性中　締り密　黒褐シルト10%混入（※貼床、踏み固められている）
11a 10YR3/3 暗褐　シルト　粘性やや弱　締り密　黄褐砂質粘土10%混入
11b 5YR4/8 赤褐　焼土　粘性中　締りやや密（※地山が焼土化した土層、焼土の発達が非常に良い）
11c 7.5YR3/4 暗褐　焼土　粘性やや強　締りやや密（※11b層と比較して、焼土の発達が悪い）
12 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中
13 10YR4/4 褐　粘土質シルト　粘性やや強　締りやや密　暗褐シルト10%混入（※貼床）
14 10YR5/6 黄褐　粘土質砂質土　粘性やや弱　締り中（※貼床、カマド構築土）
14a 5YR4/8 赤褐　焼土　粘性やや弱　締り中（※14層が焼土化した部分）
15 10YR4/4 褐　シルト質粘土　粘性中　締り密　黒褐シルト10%混入

0　1m

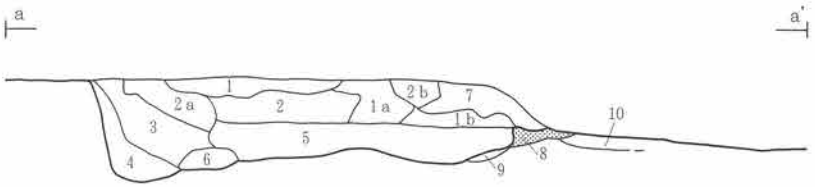
第28図　RA119竪穴住居跡（2）




RA120（38号住） A－A'・B－B'
1 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中
2 10YR4/6 褐 砂質粘土 粘性やや強 締りやや密 黒褐シルト10%混入
2a 10YR5/6 黄褐 砂質粘土 粘性やや強 締りやや密 黒褐シルト5%（※2層より色調が明るい）
2b 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締り密
3 10YR4/3 にぶい黄褐 粘土質土 粘性やや強 締り密 暗褐砂質土20%混入（※貼床、カマド10層と同一土層）

| RA120（38号住） | 柱穴1 | 柱穴2 | 柱穴3 |
|---|---|---|---|
| 径（cm） | 34×24 | 25×20 | 32×28 |
| 深さ（cm） | 10 | 15 | 17 |
| その他 | | | |

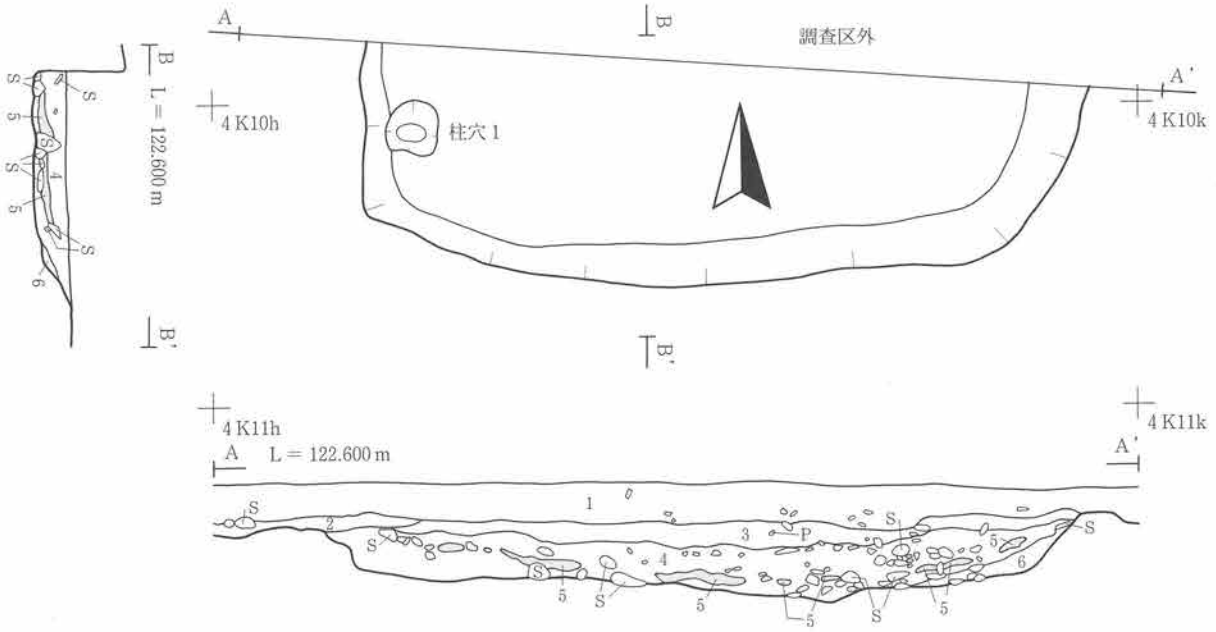
カマド




RA120（38号住） カマドa－a'
1 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中（※人為堆積層？）
1a 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締りやや密 褐粘土質土3%混入（※人為堆積層？）
1b 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中 焼土ブロック（φ5㎜程）2%混入（※煙道部の天井部分の土層であったと推定される）
2 10YR4/4 褐 粘土 粘性強 締りやや密 黒褐シルト5%混入
2a 10YR3/3 暗褐 粘土質シルト 粘性強 締りやや密
2b 10YR4/4 褐 粘土 粘性やや強 締り中 黒褐シルト20%混入
3 10YR3/4 暗褐 シルト 粘性やや強 締りやや密 褐粘土ブロック（φ5～10㎜）5%混入
4 10YR3/4 暗褐 シルト 粘性中 締りやや密（※自然堆積層？）
5 10YR4/3 にぶい黄褐 シルト質粘土 粘性やや強 締り中 焼土ブロック（φ5～30㎜、色調は5YR5/8で非常に硬い）5%混入
6 10YR4/4 褐 砂質 粘土 粘性中 締り中（※地山系の再堆積土）
7 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性中 締り中 焼土ブロック（φ5㎜程）2%混入
8 5YR4/4 にぶい赤褐 焼土 粘性やや強 締り中
9 10YR3/3 暗褐 シルト質粘土質土 粘性やや強 締り密（※貼った土と推定される）
10 10YR4/3 にぶい黄褐 粘土質土 粘性やや強 締り密 暗褐砂質土20%混入（※カマド周辺の硬化面を形成する貼床）

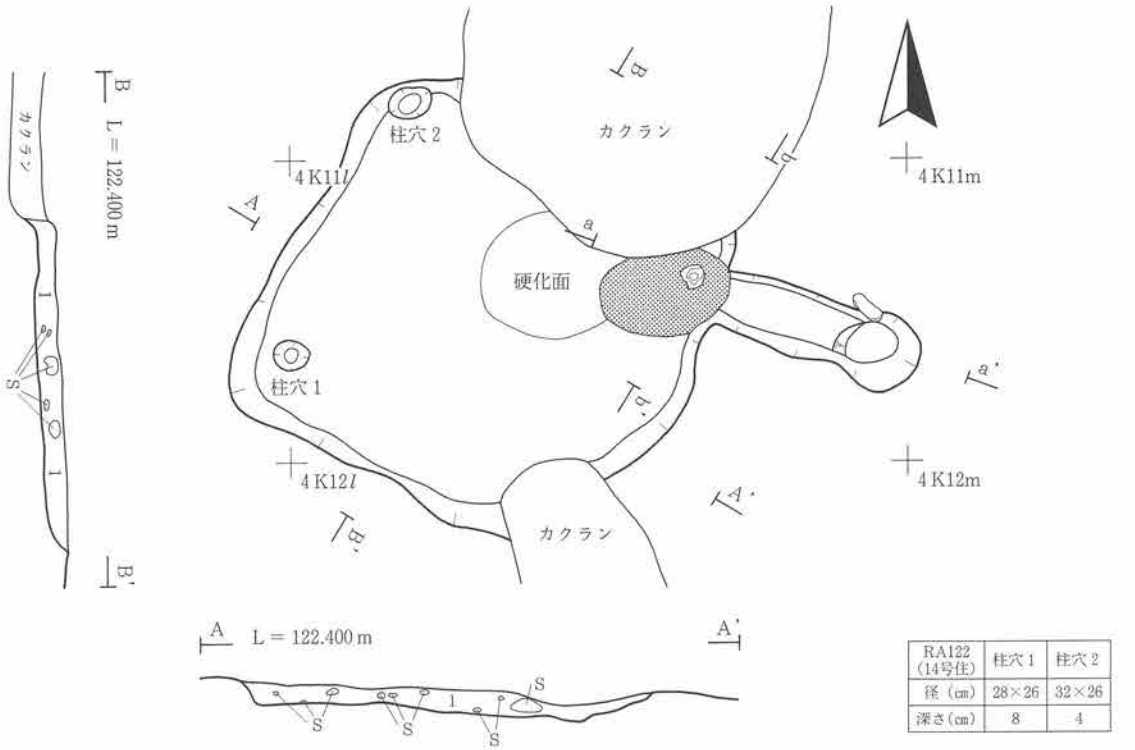
0 1m

第29図 RA120竪穴住居跡




RA121（13号住）　A－A'・B－B'
1　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中　現代ゴミ混入
2　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中　※基本層序Ⅱ層
3　10YR2/1 黒　シルト　粘性やや強　締り中　※土器微量混入
4　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性やや強　締り中　礫20%混入（※5層下To－aが幅2～4㎝で線状に入る）
5　10YR7/4 にぶい黄橙　テフラ　粘性弱　締り疎（※粉状～砂状のTo－a層）
6　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中

| RA121（13号住） | 柱穴1 |
|---|---|
| 径（㎝） | 37×34 |
| 深さ（㎝） | 24 |

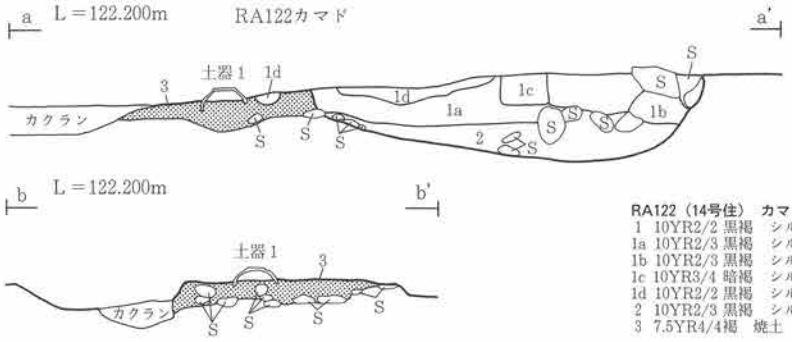



| RA122（14号住） | 柱穴1 | 柱穴2 |
|---|---|---|
| 径（㎝） | 28×26 | 32×26 |
| 深さ（㎝） | 8 | 4 |

RA122（14号住）　A－A'・B－B'
1　10YR2/2 黒褐シルト　粘性やや強　締りやや密　φ5～30㎝の礫多量混入（※土器片は極少量）

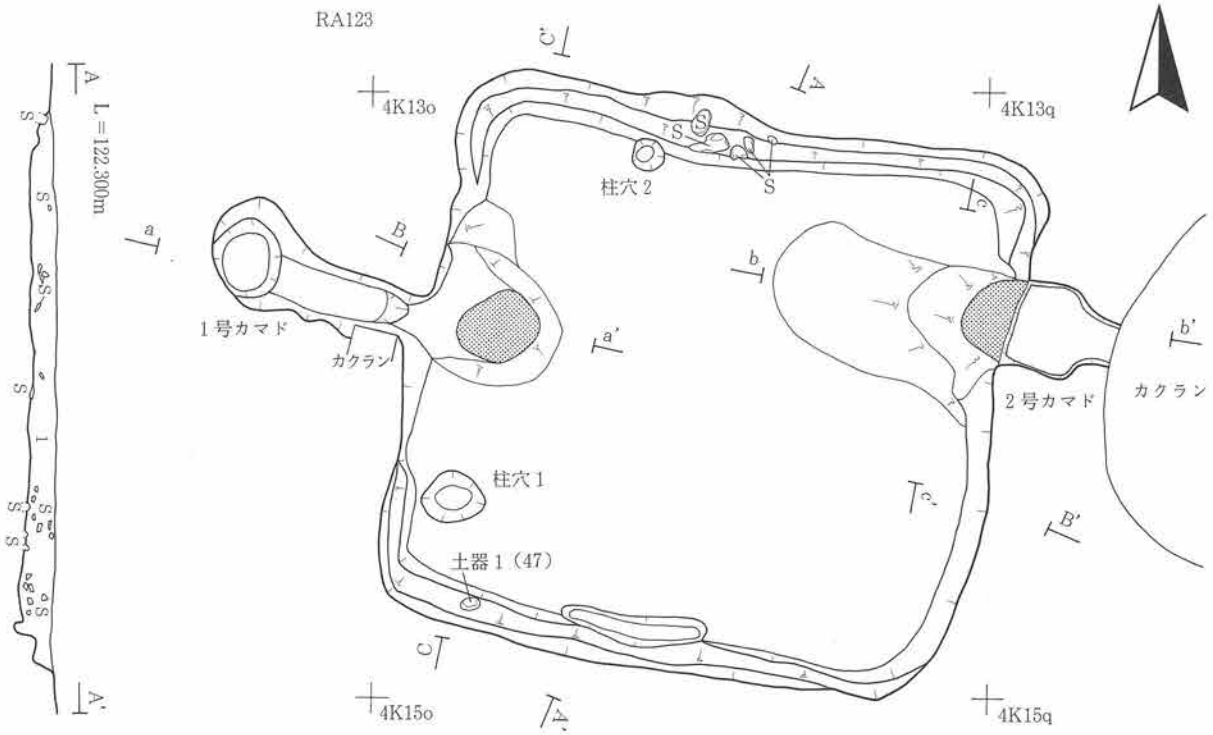
0　2 m

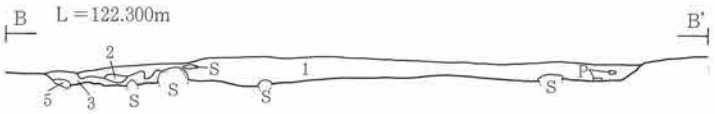
第30図　RA121竪穴住居跡・RA122竪穴住居跡（1）




RA122（14号住） カマド煙道 a－a'・b－b'
1 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締りやや密
1a 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性中 締り中
1b 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性中 締り中 礫5％混入
1c 10YR3/4 暗褐 シルト 粘性中 締り中 褐砂質土20％混入
1d 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中
2 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中 砂礫土30％混入
3 7.5YR4/4褐 焼土 粘性中 締り中

0 1 m

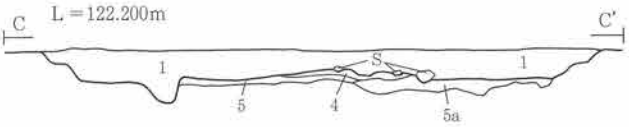



| RA123（15号住） | 柱穴1 | 柱穴2 |
|---|---|---|
| 径（cm） | 40×36 | 22×20 |
| 深さ（cm） | 14 | 7 |

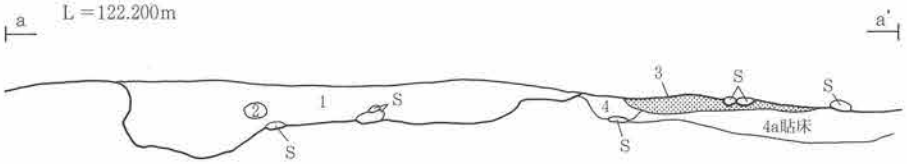
0 2 m

第31図 RA122竪穴住居跡（2）・RA123竪穴住居跡（1）



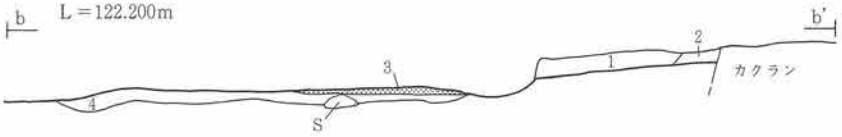

RA123（15号住）　A－A'・B－B'・C－C'
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中　円礫3％　To－a 1％（小ブロック状）混入
2　10YR3/4 暗褐　シルト質粘土　粘性やや強　締り中　焼土粒3％混入
3　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性やや強　締り中
4　5YR2/3　極暗赤褐　焼土　粘性やや強　締り中
5　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締り中（※貼床）
5a　10YR4/6 褐　シルト質粘土　粘性やや強　締り中　黒褐シルト20％混入（※貼床）

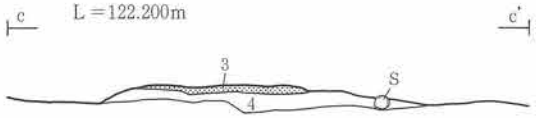
1号カマド




RA123（15号住）　1号カマド煙道a－a'
1　10YR2/2 黒褐シルト　粘性中　締り中
2　10YR2/3 黒褐シルト　粘性中　締り中　褐砂質20％混入
3　5YR2/3　極暗赤褐　焼土　粘性やや強　締り中
4　10YR2/3 黒褐シルト　粘性中　締り中（※貼床）
4a　10YR4/6 褐　シルト質粘土　粘性やや強　締り中　黒褐シルト20％混入（※貼床）

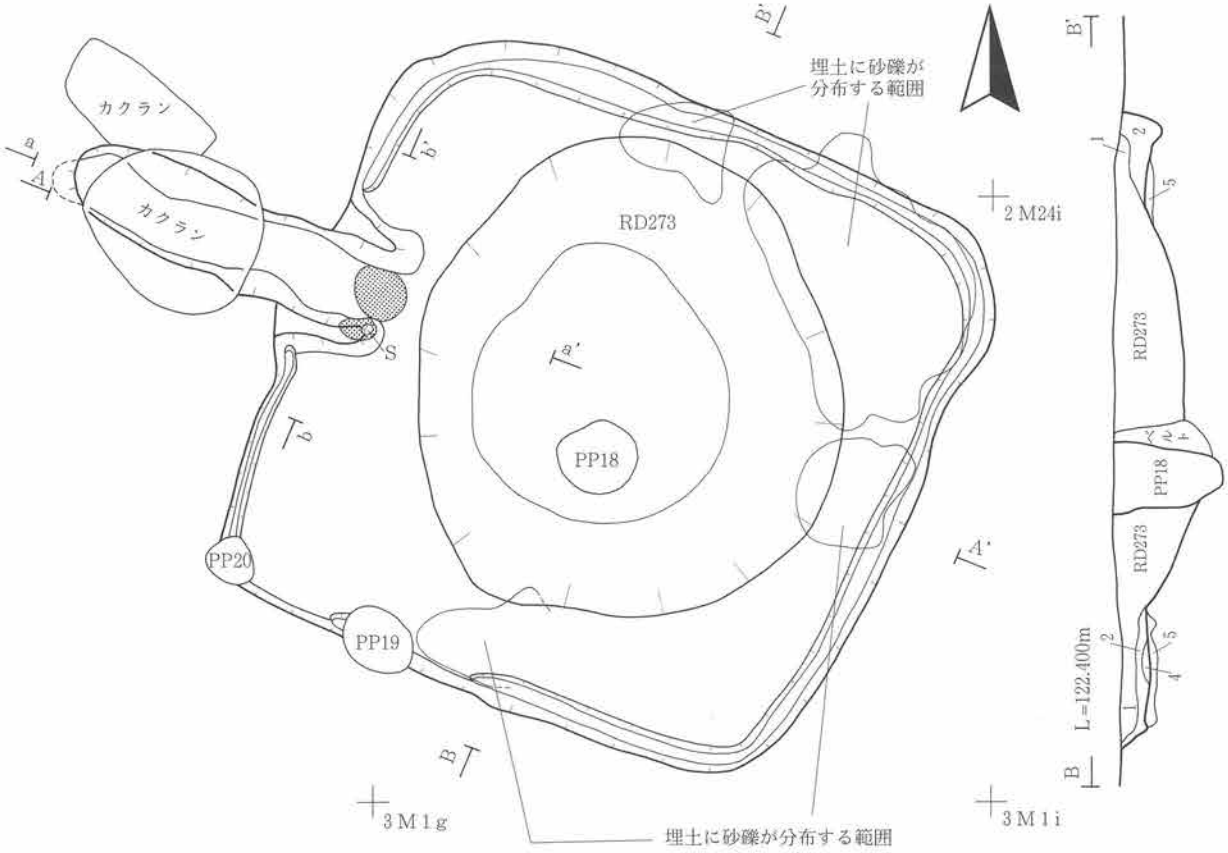
2号カマド

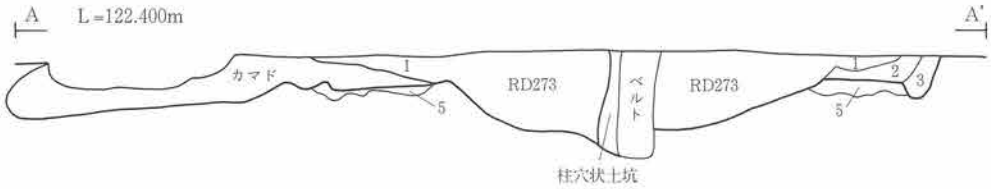



RA123（15号住）　2号カマドb－b'・c－c'
1　10YR3/3 暗褐　シルト質砂質土　粘性中　締り中
2　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締り中　褐シルト質粘土20％混入
3　5YR2/3～4/6 極暗赤褐～赤褐　焼土　粘性やや強　締り中
4　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや密　砂礫土10％混入（※貼床）

第32図　RA123竪穴住居跡（2）

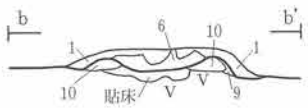



**RA124（22号住） ベルト断面 A−A'・B−B'**

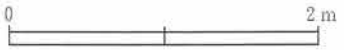
1 10YR3/2〜2/2 黒褐 シルト 粘性なし 締りなし
2 10YR3/4 暗褐 シルト 粘性なし 締りあり Ⅵ層土の埋め戻し 砂礫層
3 10YR3/2 黒褐 シルト 粘性なし 締りなし
4 10YR3/2 黒褐 シルト 粘性ややあり 締りあり 小礫（1㎝大）・Ⅴ層小粒2％含む
5 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性ややあり 締りあり Ⅴ層起源の砂ブロック小〜大7％ 貼床

カマド

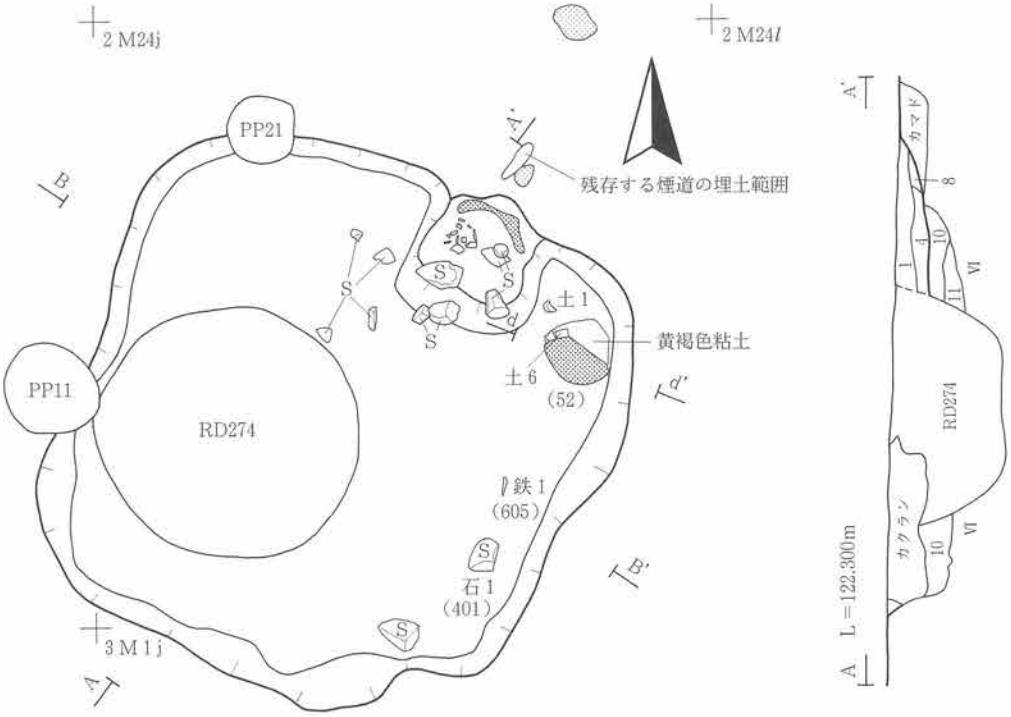


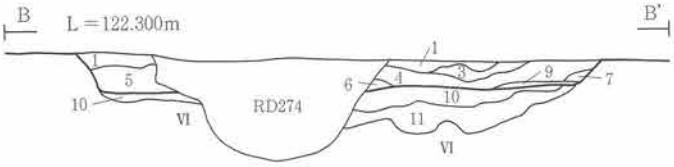

**RA124（22号住） カマド断面 a−a'・b−b'**

1 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性なし 締りなり 焼土小粒を燃焼面上に少量含む
2 10YR3/2 黒褐 シルト 粘性ややあり 締りややあり 貼床？ Ⅳ層を板状に7％含む
3 10YR4/6 褐 シルト 粘性なし 締りなし 黒褐色土10％混入 崩壊した天井
4 10YR3/3 暗褐 砂質シルト 粘性ややあり 締りなし 5層より明るい
5 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性なし 締りなし
6 5YR4/6 赤褐 シルト 粘性なし 締りなし 崩壊した焼土が主体で炭・黒褐色土が混入
明赤褐色ブロック小〜中粒2％含む
7 10YR4/4 褐 砂質シルト 粘性なし 締りなし カーボン含む Ⅴ層極大粒3％
8 5YR4/6 赤褐〜7.5YR5/6明褐色 シルト 粘性なし 締りややあり 焼土
9 10YR4/4 褐 砂 粘性なし 締りややあり Ⅴ層起源のややにごった袖構築土
10 10YR5/6 黄褐 砂 粘性なし 締りあり Ⅴ層起源の袖構築土

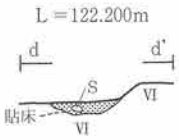



第33図 RA124竪穴住居跡

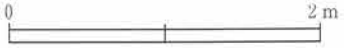


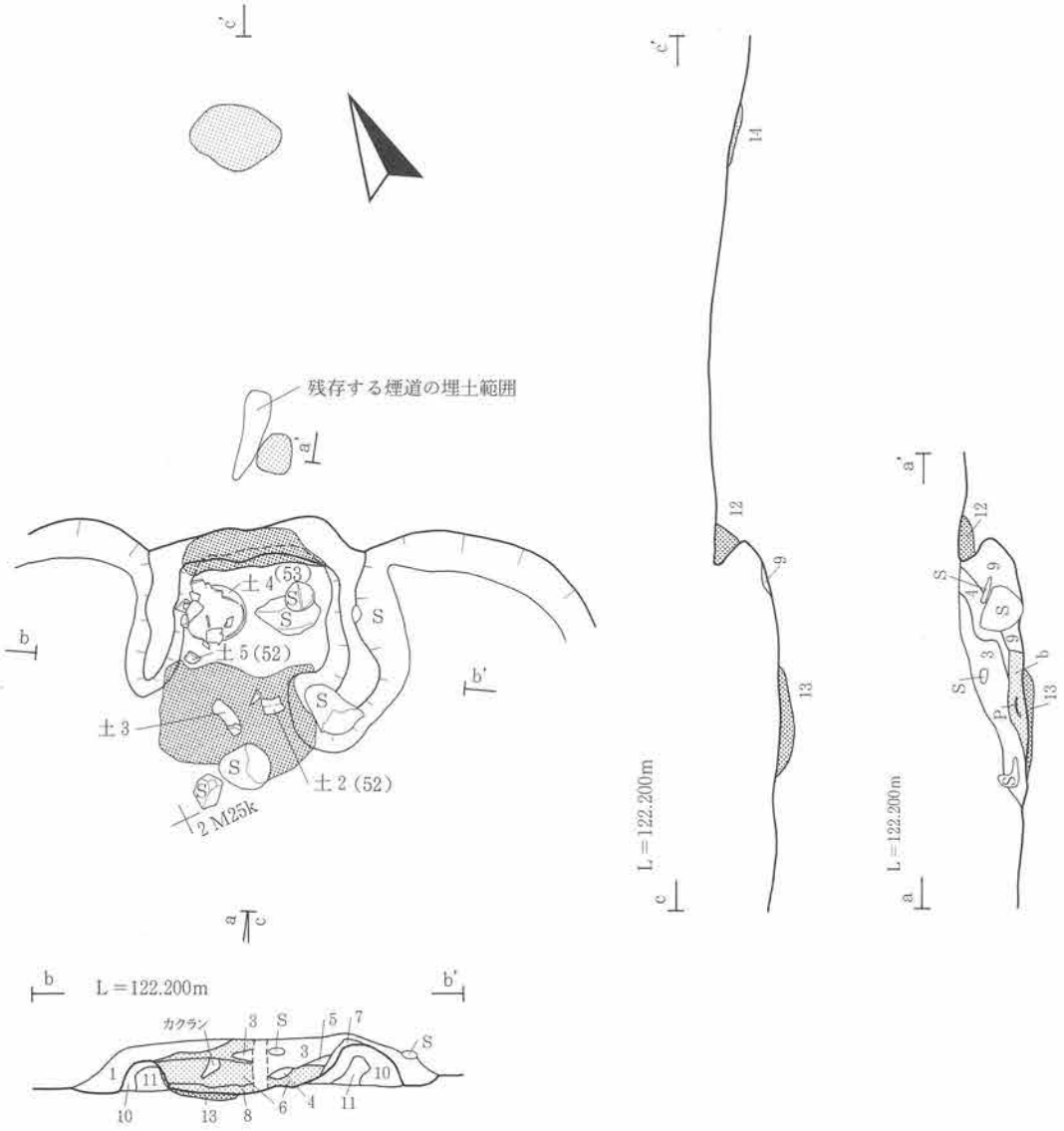

**RA125（18号住）　ベルト断面　A－A'・B－B'**
1　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性ややあり　締りなし
2　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性なし　締りなし
3　10YR3/3 暗褐　砂質シルト　Ⅴ層砂を全体に含む
4　10YR2/1 黒　シルト　粘性なし　締りなし
5　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性ややあり　締りややあり　Ⅳ層土を全体に含む
6　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性なし　締りなし
7　10YR2/3 黒褐　砂質シルト　粘性なし　締りなし　Ⅴ層砂を全体に含む
8　7.5YR4/3褐　シルト　粘性ややあり　締りややあり　極小の焼土を15%含む
9　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　硬く締る　Ⅳ～Ⅴ層ブロック中～極大５%含む　最新の貼床
10　10YR3/3 暗褐　砂質シルト　粘性なし　非常に硬く締る　Ⅵ層起源の砂礫10%含む　９層との間に0.5～１㎝ほどの褐鉄層が形成される　貼床
11　10YR3/2 黒褐　砂質シルト　粘性なし　締りなし　Ⅵ層起源の砂礫７%含む　Ⅳ～Ⅴ層ブロック中～極大７%　貼床




**RA125　旧床面焼土　d－d'**
1　5YR3/3　暗赤褐　シルト　粘性なし　非常に硬く締る　焼土




第34図　RA125竪穴住居跡（１）

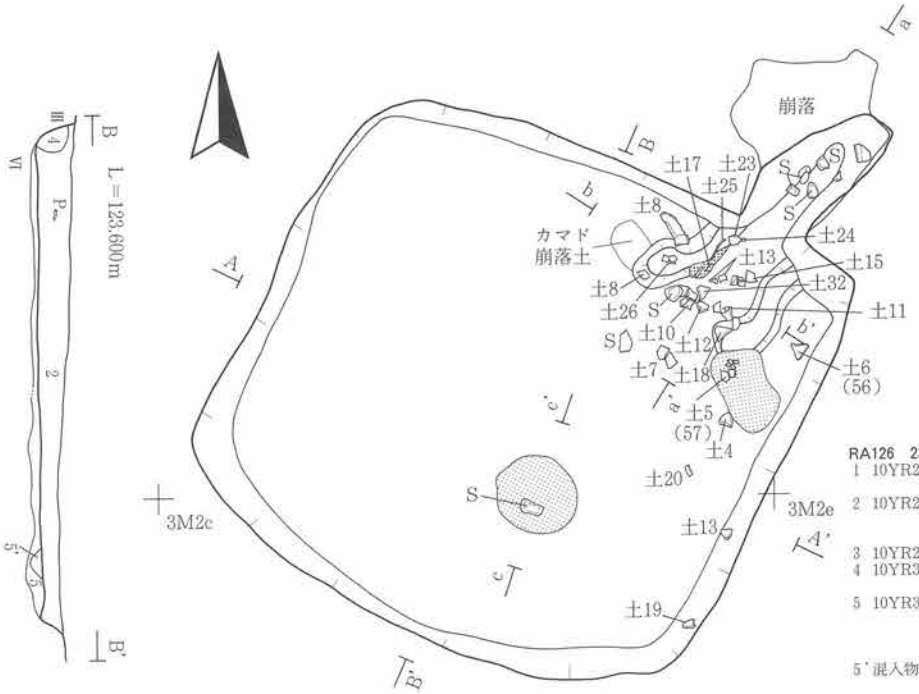



RA125（18号住） カマド断面 a−a'・b−b'・c−c'

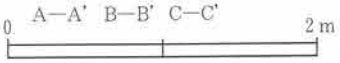
1 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性ややあり 締りなし 焼土粒を含む
2 5YR4/6 赤褐 シルト 粘性なし 締りなし 動いた焼土
3 10YR3/2 黒褐 シルト 粘性なし 締りなし
4 7.5YR3/3暗褐 シルト 粘性なし 締りなし 焼土を全体に含む
5 7.5YR3/2黒褐 シルト 粘性なし 締りややあり 焼土粒を含む 動いた袖土
6 5YR4/8 赤褐 シルト 粘性なし 締りややあり 動いた焼土
7 5YR3/2 黒褐 シルト 粘性ややあり 締りなし Ⅳ層粒中・焼土粒小を含む
8 5YR3/3 暗赤褐 砂 粘性なし 締りなし 動いた焼土
9 5YR3/2 黒褐 シルト 粘性なし 締りなし 焼土を全体に含む
10 10YR4/6 褐 シルト 粘性なし 締りあり カマド袖
11 10YR5/8 黄褐 シルト 粘性なし 硬く締る カマド袖
12 5YR4/8 赤褐 シルト 粘性なし 硬く締る 焼土
13 7.5YR4/4褐 砂質シルト 粘性なし 締りあり 焼土
14 7.5YR4/6褐 砂質シルト 粘性なし 締りなし 焼土粒を全体に少量含む 煙道？ 煙出

0 2m

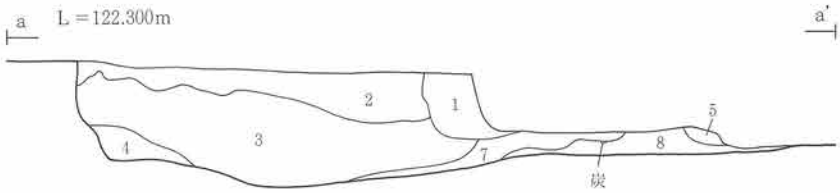
第35図 RA125竪穴住居跡（2）

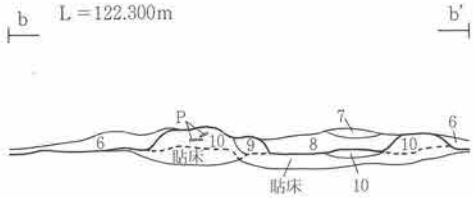


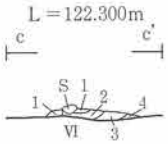

RA126　23号住　ベルト断面　A－A'・B－B'
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性なし　締りなし
　　Ⅴ層大粒2％・灰白色小粒1％
2　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性なし　締りなし
　　1層より明るい　Ⅴ層中～大粒5％・灰白色小～中粒1％
3　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし
4　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし
　　Ⅴ～Ⅳ層小～極大粒3～5％
5　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性なし　締りあり
　　特に中央の上面が硬く締る　壁際には締りがない　黄褐シルト粒（極大5㎝大まで）2～7％含む　一部焼土粒含む　貼床
5'　混入物なし




カマド



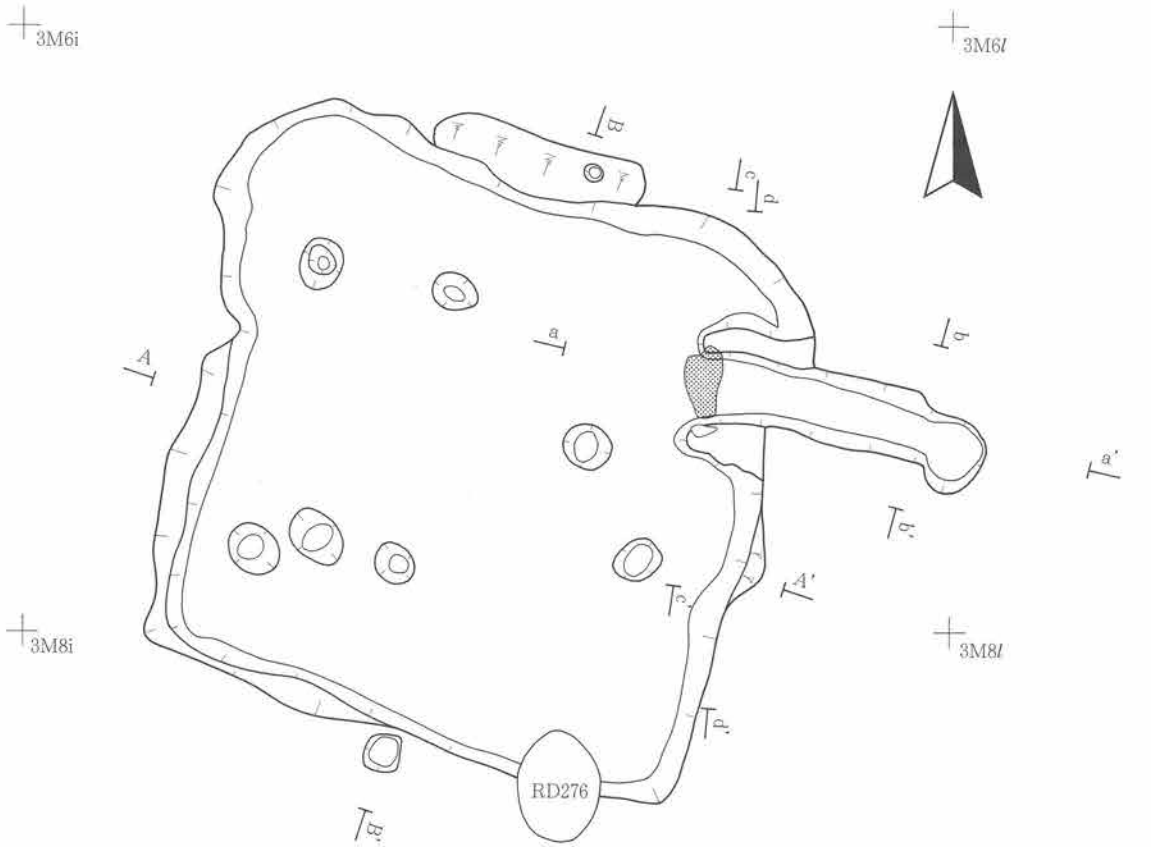



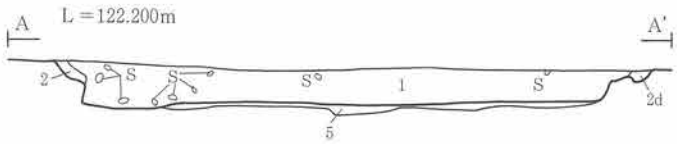



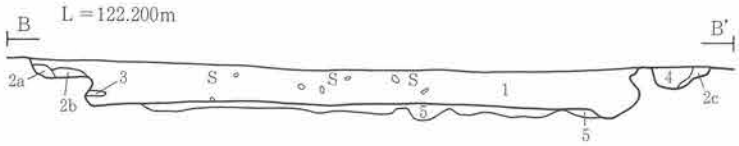

RA126（23号住）　カマド断面　a－a'・b－b'
1　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性ややあり　締りなし　Ⅴ層の砂を含む
2　10YR3/2 黒褐　シルト　Ⅴ層ブロック（10㎝大）5％
3　10YR3/4 暗褐　シルト　Ⅴ層砂を多く含む
3'　10YR3/4 暗褐　シルト　Ⅴ層砂を少し含む（3層より少ない）
4　10YR5/6 黄褐　砂　粘性なし　締りなし　Ⅴ層崩壊土　暗褐色土を含む
5　7.5YR4/4褐　シルト　粘性なし　締りなし　焼土　中～大粒5％
6　10YR4/6 褐　シルト　粘性ややあり　締りなし　焼土中粒1～3％含む
7　10YR4/3 褐　にぶい黄褐シルト　粘性ややあり　締りなし　崩落した天井
8　7.5YR4/3褐　シルト　粘性ややあり　締りなし　焼土
9　7.5YR4/3褐　シルト　粘性ややあり　締りなし　焼土
10　10YR4/6 褐　砂質シルト　粘性ややあり　締りややあり　油の構築土

RA126（23号住）　焼土断面　c－c'
1　5YR4/6　赤褐　粘性なし　締りなし　黒褐色土ブロック大粒3％
2　7.5YR3/2黒褐　シルト　粘性なし　締りなし　焼土を全体に少量含む
3　7.5YR3/2黒褐　シルト粘性なし　締りなし　焼土を全体に含む　2層より多い
4　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性ややあり　締りややあり　Ⅳ層起源の褐色土を含む

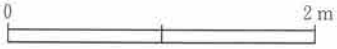
第36図　RA126竪穴住居跡



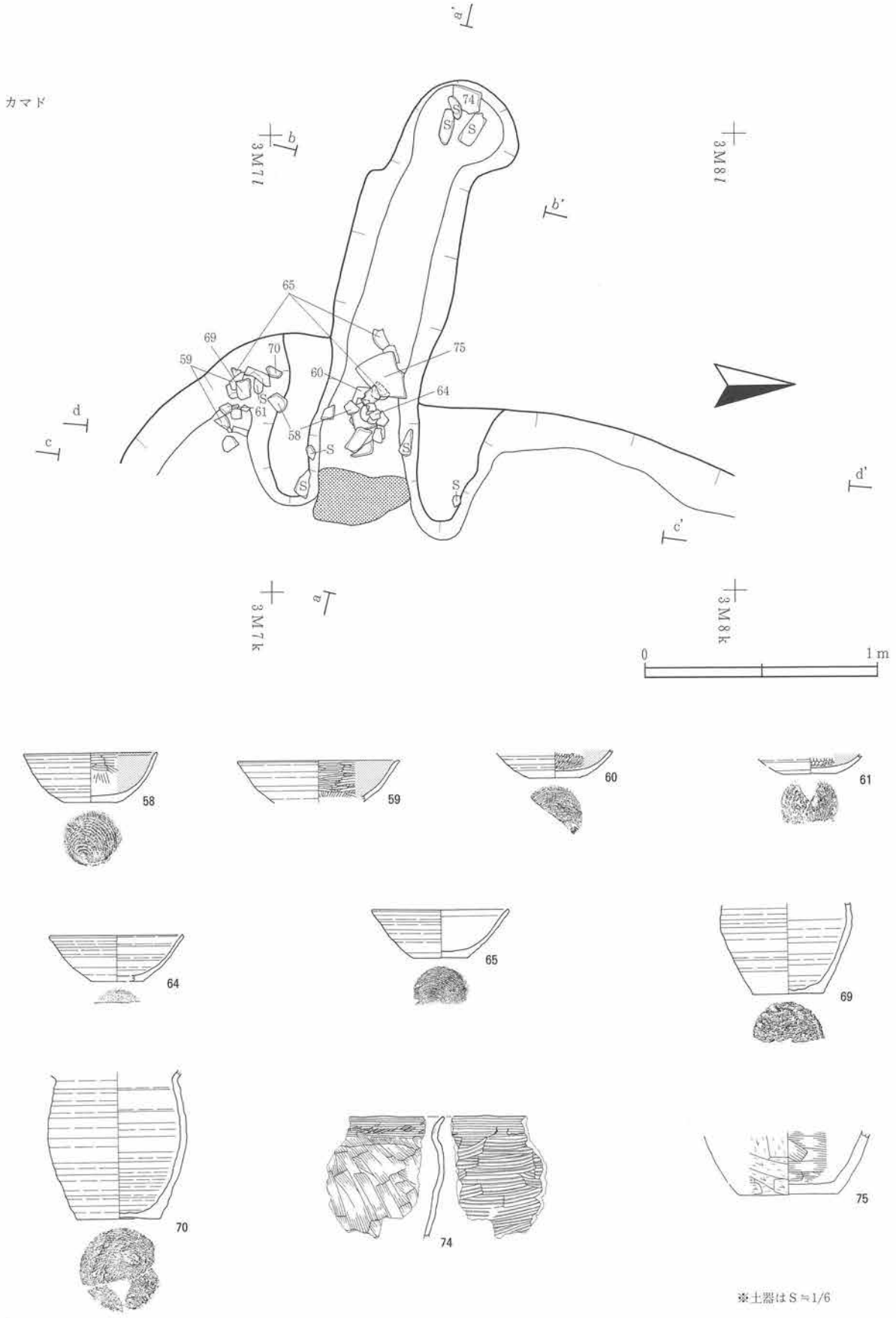



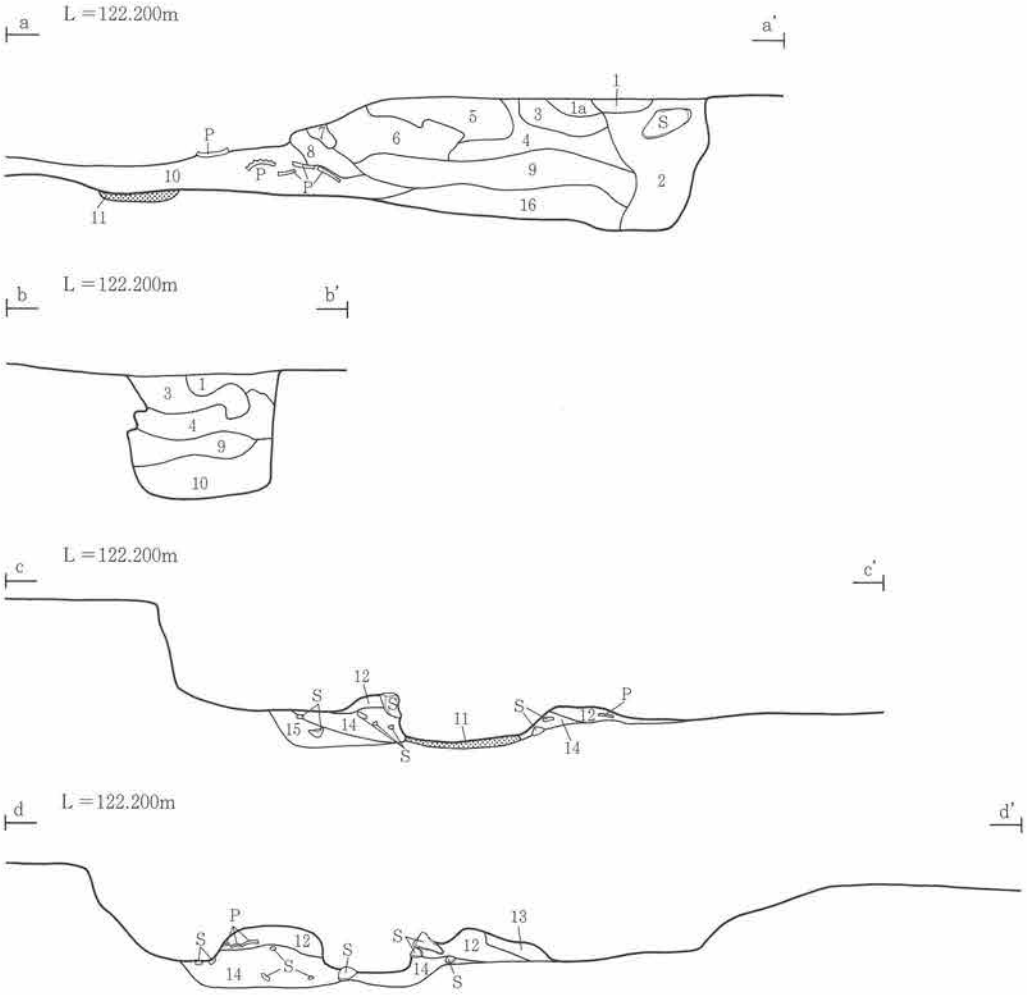

RA127（19号住） A－A'・B－B'
1 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中 礫3％・To－a 1％混入
2 10YR3/3 暗褐粘土質 シルト 粘性やや強 締りやや密 褐砂質粘土20％混入
2a 10YR3/4 暗褐 シルト質粘土質砂質土 粘性やや強 締りやや密
2b 10YR3/4 暗褐 シルト質粘土質土 粘性やや強 締りやや密
2c 10YR3/3 暗褐 粘土質シルト 粘性やや強 締りやや密
2d 10YR3/4 暗褐 粘土質シルト 粘性やや強 締りやや密
3 10YR5/6 黄褐 砂質土 粘性やや弱 締りやや疎
4 10YR3/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中
5 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性中 締りやや密 小礫7％混入（※貼床）




第37図 RA127竪穴住居跡（1）



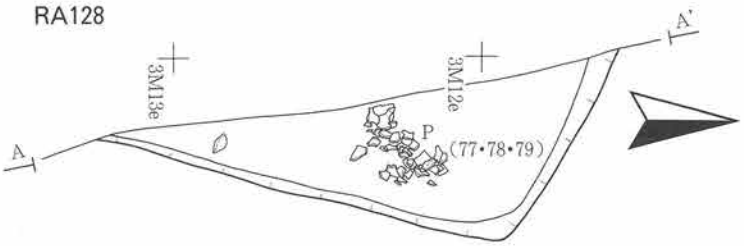

第38図　RA127竪穴住居跡（2）

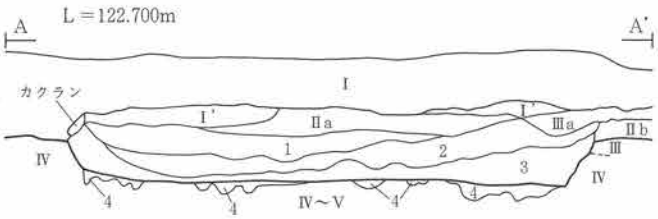



RA127（19号住） カマドa－a'・b－b'・c－c'・d－d'

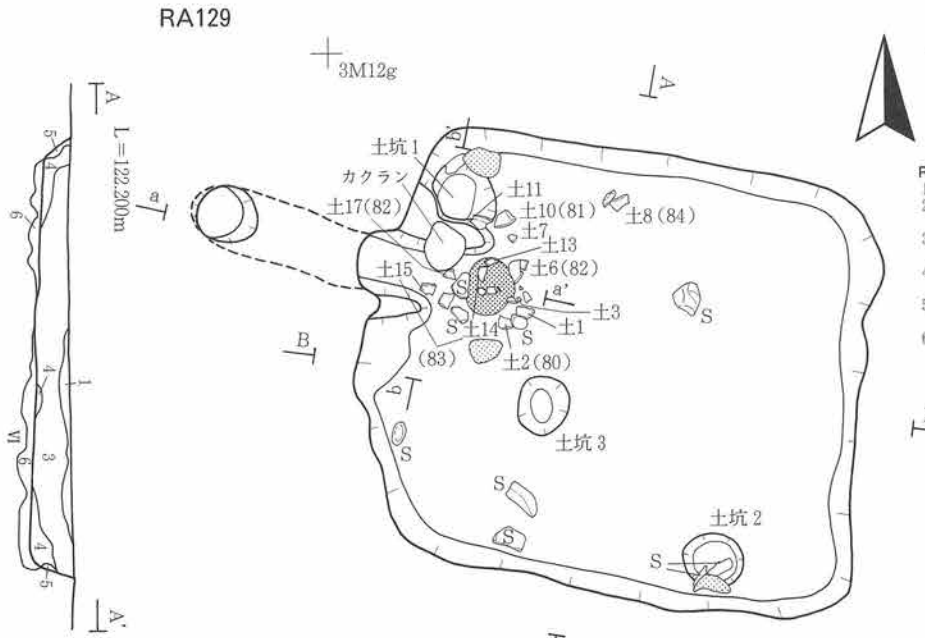
1 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締り中（※煙出部埋土上位）
1a 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締りやや密
2 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中 土器・礫混入（投げ入れられたもの）
3 10YR3/4 暗褐 シルト 粘性やや強 締りやや密
4 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性やや強 締りやや密
5 10YR4/6 褐 粘土質シルト 粘性強 締り中（※煙道部天井が陥没した地山土）
6 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締り中
7 10YR4/6 褐 シルト 粘性中 締りやや疎（※カマド崩壊土と推定される）
8 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中（※やや焼成を受けている）
9 10YR5/6 黄褐 砂質シルト 粘性やや強 締り中（※煙道部天井が陥没した地山土と推定される）
10 10YR3/4 暗褐 シルト 粘性やや弱 締りやや疎 砂質土10%混入
11 5YR3/4 暗赤褐 焼土 粘性中 締りやや疎
12 10YR4/6 褐 粘土質砂質土 粘性やや強 締りやや密 土器片混入（※構築土、土器片は意図的に混入されていると考えられる）
13 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性やや強 締りやや密
14 10YR2/3 黒褐 砂質シルト 粘性やや強 締り中 礫５%混入（※構築土、礫は意図的に混入されていると考えられる）
15 10YR2/2 黒褐 砂質シルト 粘性中 締り中
16 10YR3/4 暗褐 シルト 粘性やや弱 締りやや疎 砂質土10%混入

第39図 RA127竪穴住居跡（３）



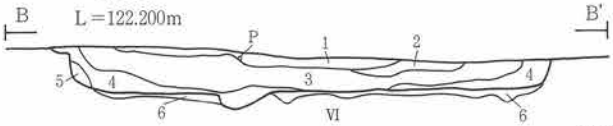



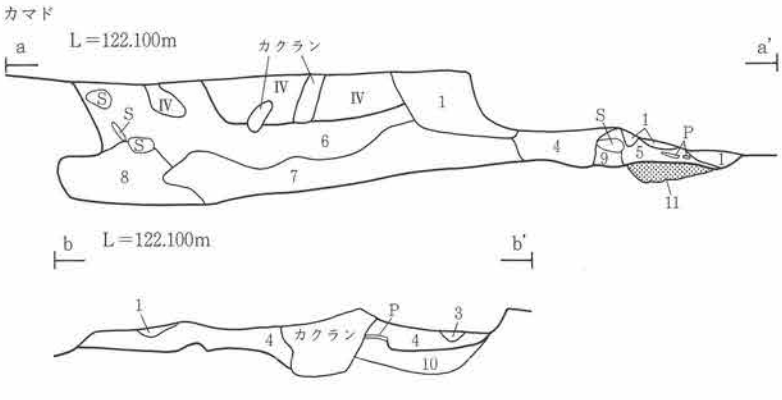

RA128（27号住）　断面　A－A'
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りややあり　混入物なし
2　10YR2/1 黒～2/2黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　混入物少ない
3　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性に富む　締りなし　Ⅳ層小～極大粒５％
4　10YR4/4 暗褐　シルト　粘性なし　硬く締る　黒褐色土（10YR3/2）小粒～極大粒30～40％斑に含む　貼床




RA129（20号住）　ベルト断面　A－A'・B－B'
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性なし　締りなし
2　10YR2/1 黒　シルト　粘性なし　締りなし　Ⅴ層中粒３％
3　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性なし　締りなし　Ⅳ層小～大粒５％
4　10YR2/1 黒　シルト　粘性あり　締りなし　Ⅳ層小粒２％
5　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　Ⅳ層極大粒５％
6　10YR2/3 黒褐　砂質シルト　粘性なし　硬く締る　Ⅴ層極小～極大粒10％　貼床

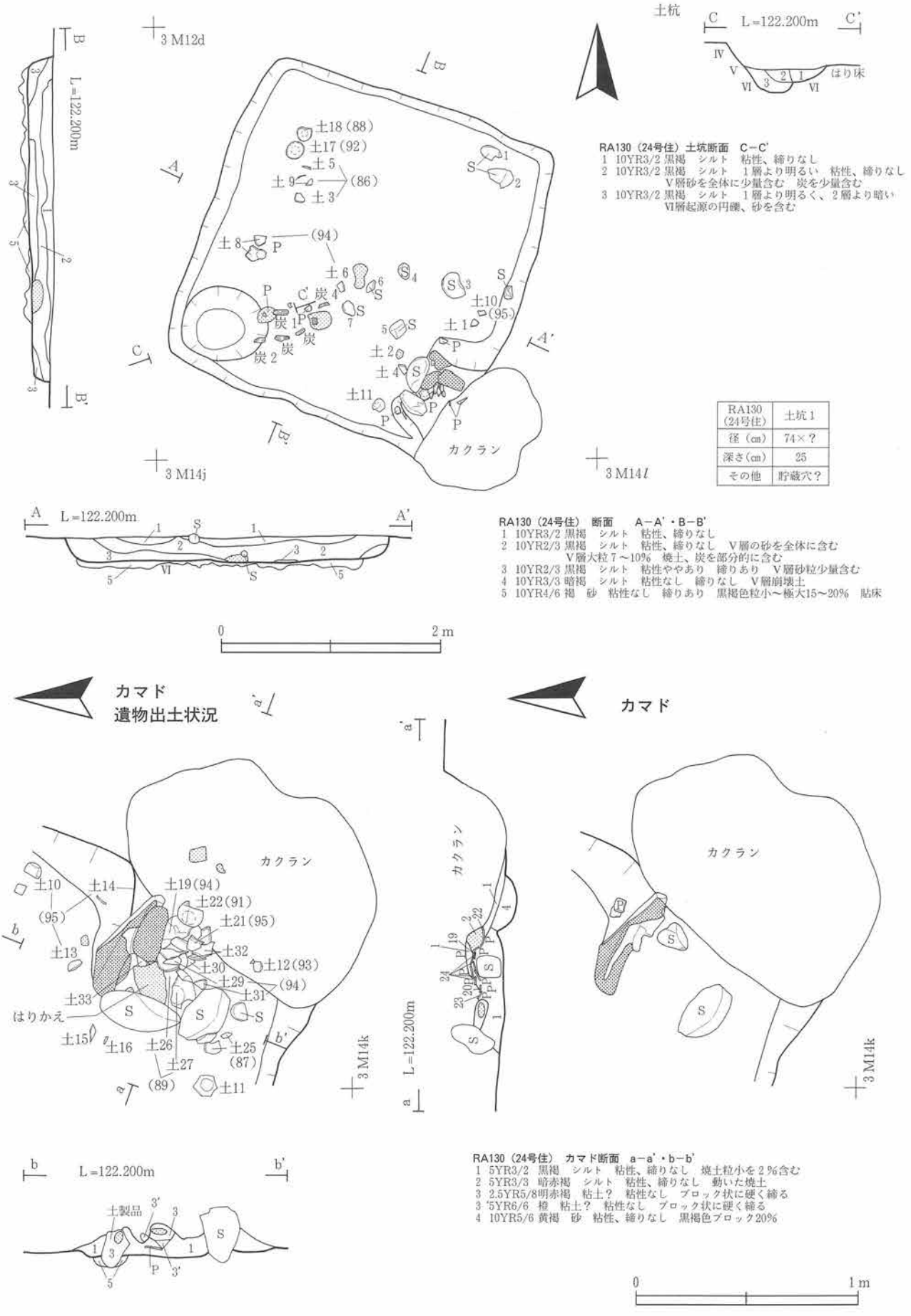
| RA129（20号住） | 土坑1 | 土坑2 | 土坑3 |
|---|---|---|---|
| 径（cm） | 43×42 | 39×36 | 40×34 |
| 深さ（cm） | 5 | 8 | 15 |



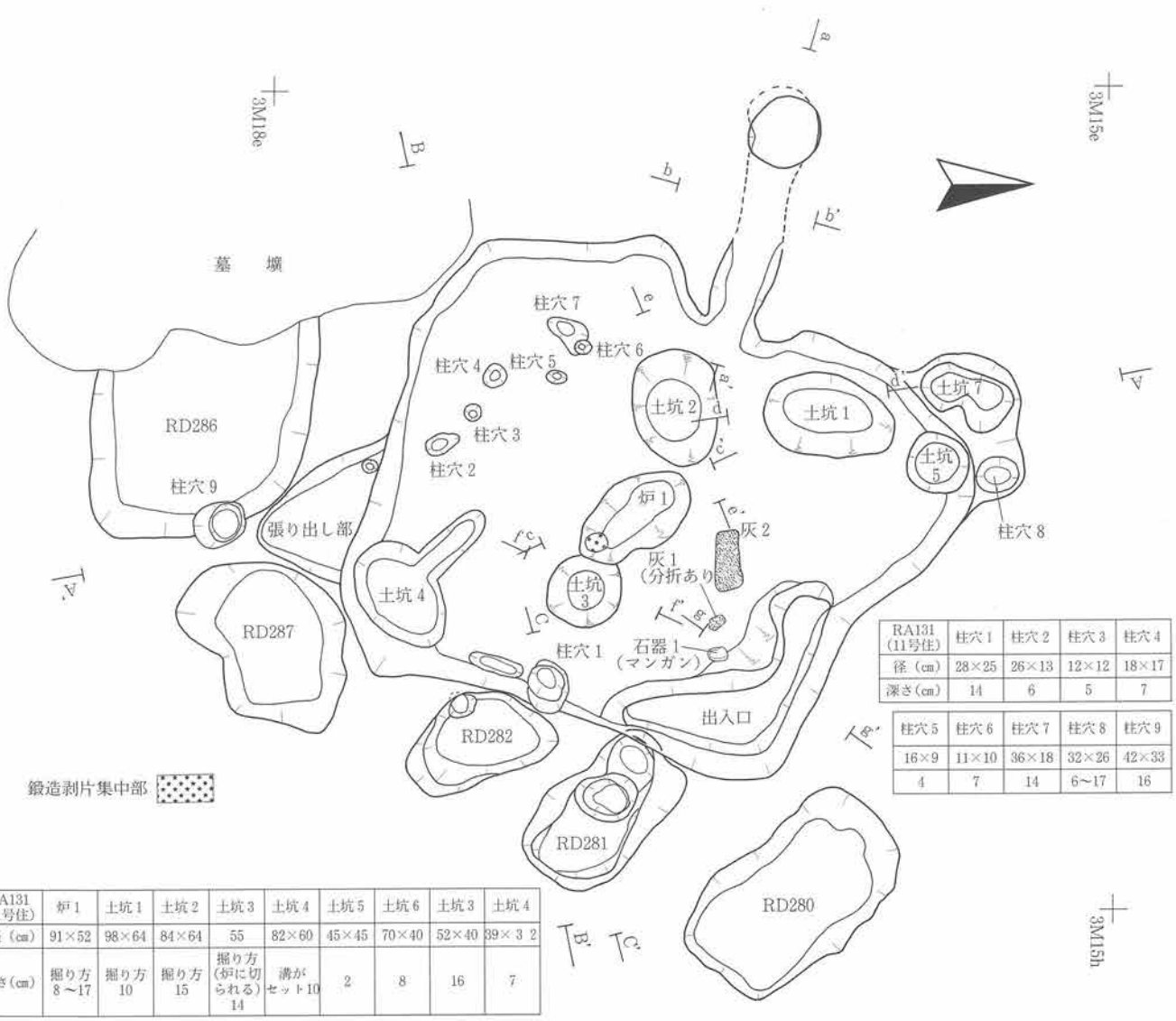

RA129（20号住）　カマド断面　a－a'・b－b'
1　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性なし　締りややあり
2　10YR2/1 黒　シルト　粘性なし　締りなし
3　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性なし　締りなし　崩れたカマド袖土
4　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性ややあり　締りなし
5　7.5YR3/3 暗褐　シルト　粘性なし　締りなし　焼土粒小粒２％のほか焼土を全体に含む　崩壊した天井
6　10YR2/3 黒褐　砂質シルト　粘性なし　締りなし　Ⅴ層ブロック小～極大（３～10cm大）５％・カーボン粉含む
7　10YR2/3 黒褐　砂質シルト　粘性なし　締りなし　Ⅴ層砂を全体に含む（崩壊した天井の砂）
8　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性なし　締りなし　カーボン粉を多く含む
9　5YR4/4 にぶい赤褐　シルト　粘性なし　締りややあり　動いた焼土
10　10YR4/4 褐砂質　シルト　粘性なし　締りあり　黒褐色土粒中～大３％　袖土
11　7.5YR4/4 褐　シルト　粘性なし　締りややあり　焼土

第40図　RA128竪穴住居跡・RA129竪穴住居跡




| RA130（24号住） | 土坑1 |
|---|---|
| 径（cm） | 74×? |
| 深さ（cm） | 25 |
| その他 | 貯蔵穴? |

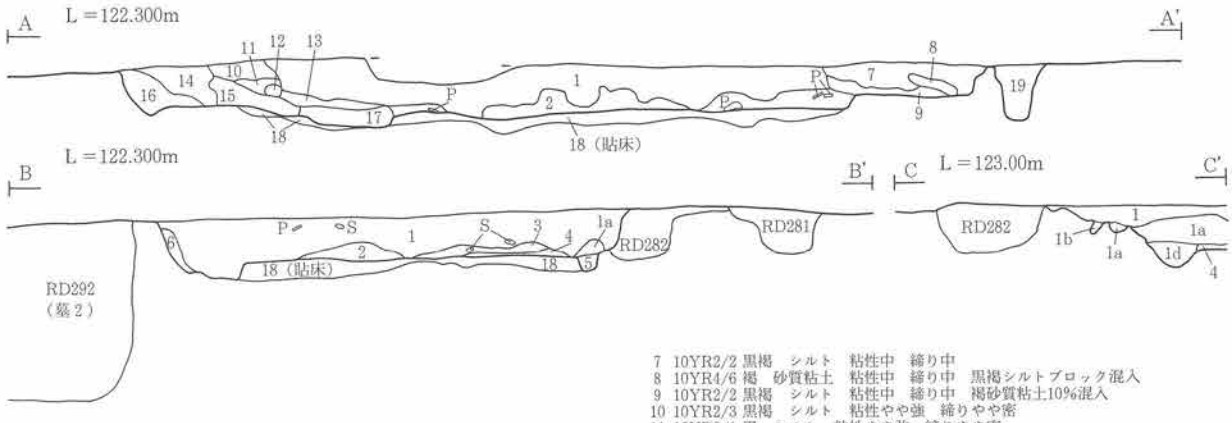
第41図 RA130竪穴住居跡




| RA131（11号住） | 柱穴 1 | 柱穴 2 | 柱穴 3 | 柱穴 4 |
|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 28×25 | 26×13 | 12×12 | 18×17 |
| 深さ（cm） | 14 | 6 | 5 | 7 |

| 柱穴 5 | 柱穴 6 | 柱穴 7 | 柱穴 8 | 柱穴 9 |
|---|---|---|---|---|
| 16×9 | 11×10 | 36×18 | 32×26 | 42×33 |
| 4 | 7 | 14 | 6～17 | 16 |

| RA131（11号住） | 炉 1 | 土坑 1 | 土坑 2 | 土坑 3 | 土坑 4 | 土坑 5 | 土坑 6 | 土坑 3 | 土坑 4 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 91×52 | 98×64 | 84×64 | 55 | 82×60 | 45×45 | 70×40 | 52×40 | 39×3 2 |
| 深さ（cm） | 掘り方 8～17 | 掘り方 10 | 掘り方 15 | 掘り方（炉に切られる）14 | 溝がセット10 | 2 | 8 | 16 | 7 |



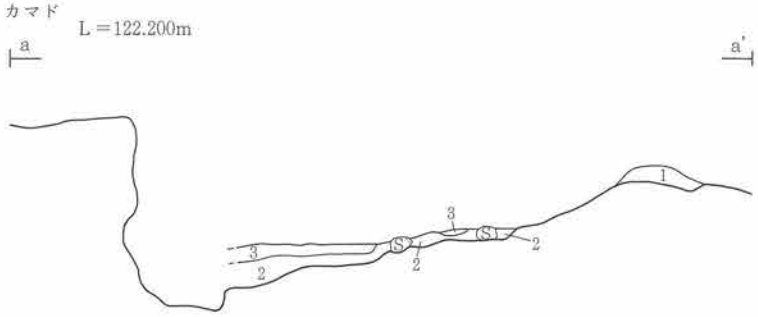

RA131（11号住）　A－A'・B－B'・C－C'

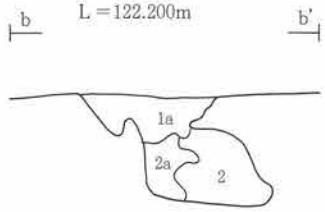
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締りやや密　黄褐粘土 3 %・To－a 1 %混入
1a 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締りやや疎　黄褐粘土 5 %混入
1b 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締り中
1c 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締り疎
1d 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締り疎　黄褐粘土ブロック 7 %混入
2　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性やや強　締り中　黄褐粘土ブロック 7 %混入
3　10YR2/1 黒　シルト　粘性中　締り疎
4　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性やや強　締り密
5　10YR4/4 褐　シルト　粘性やや強　締り密　黄褐粘土30%混入
6　10YR4/4 褐　粘土　粘性やや強　締り中　暗褐シルト10%混入
7　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締り中
8　10YR4/6 褐　砂質粘土　粘性中　締り中　黒褐シルトブロック混入
9　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締り中　褐砂質粘土10%混入
10 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや密
11 10YR2/1 黒　シルト　粘性やや強　締りやや密
12 10YR3/4 暗褐　シルト　粘性やや強　締りやや密
13 10YR2/1 黒　シルト　粘性強　締りやや疎　黄褐粘土 2 %混入
14 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中　黄褐粘土10%混入
15 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや密　黄褐粘土 2 %混入
16 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中　黄褐粘土40%混入
17 10YR3/3 暗褐　シルト　粘性やや強　締り密　砂質土 5 %混入
18 10YR4/6 褐　粘土質砂質土　粘性やや強　締りやや密　黒シルト 5 %混入（※貼床）
19 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締りやや疎　褐砂質粘土10%混入

0　2 m

第42図　RA131竪穴住居跡（1）

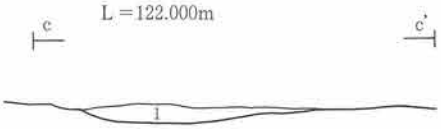
カマド




RA131（11号住） カマド a－a'・b－b'
1 10YR2/3 黒褐シルトと10YR4/6褐砂質土の混土 粘性中 締り中
1a 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性中 締りやや密 黄褐粘土30%混入
2 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中
2a 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性やや強 締り中 黄褐砂質土10%混入
3 10YR4/6～5/6 褐～黄褐 砂質粘土 粘性やや強 締り疎（※煙道天井部の地山崩壊土？）

炉1




RA131（11号住） 炉1 c－c'
1 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性中 締りやや密、鍛造剥片混入

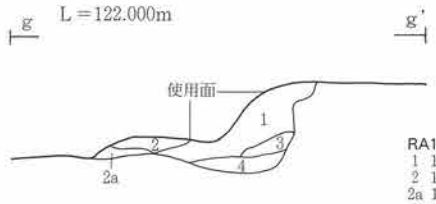
土坑1

土坑2

土坑3

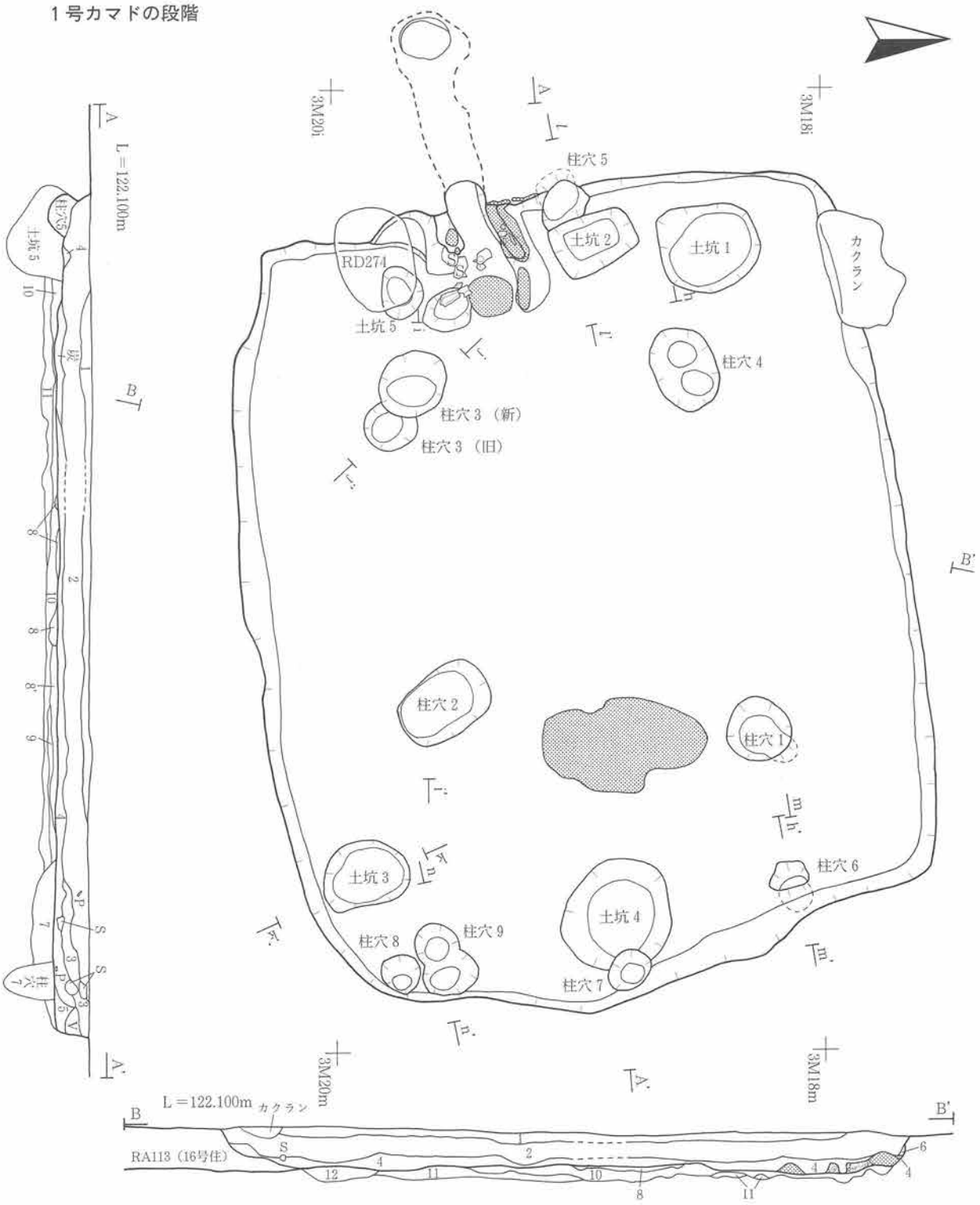
RA131（11号住） 土坑1～3 d－d'・e－e'・f－f'
1 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性やや強 締り密（※上面は硬化面）

出入り口




RA131（11号住） 出入り口 g－g'
1 10YR3/4 暗褐 シルト 粘性中 締りやや疎（※軟らかい）
2 10YR2/1 黒 シルト 粘性中 締り密（※踏み固められているのか、非常に硬い）
2a 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性中 締り密（※2層と比較すると、わずかに軟らかい）
3 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締りやや密
4 10YR4/4～3/4 褐～暗褐砂質シルト 粘性やや弱 締りやや密

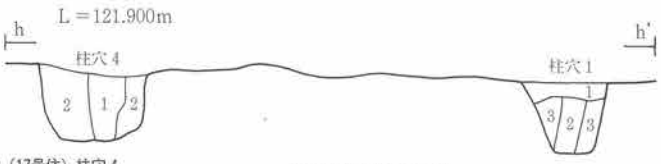
第43図 RA131竪穴住居跡（2）




RA132（17号住）
1 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性、締りなし
2 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性、締りなし　炭小粒少量、To－a 極小～極大粒 2～10%、焼土小粒少量含む
3 10YR3/2 黒褐　シルト　粘性ややあり　締りなし　Ⅳ層小粒を全体に含む
4 10YR2/1 黒～2/2黒褐　粘性、締りなし　炭化材、炭化種子、炭を大量に含む　部分的に焼土を多く含む
5 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性なし　締りあり　Ⅴ層砂粒を含む　2号カマド煙道
6 10YR5/6 黄褐　砂質シルト　粘性、締りなし　Ⅴ層崩壊土　黒褐色土を含み少し濁る
7 10YR3/4 暗褐　シルト　粘性なし　締りあり　褐色粘土を全体に含む　焼土小粒 3 %
8 10YR4/6 褐　シルト　粘性なし　硬く締る
8' 10YR4/4 褐　砂質シルト　粘性なし　硬く締る　黒褐色土大粒 7～10%　最新生活面
9 10YR3/4 暗褐　シルト　粘性なし　硬く締る　褐色土ブロック極大10%
10 10YR3/2 黒褐　砂質シルト　粘性なし　硬く締る　炭粒、褐色ブロック（極大）5 %　生活面
11 10YR3/2 黒褐　砂質シルト　粘性なし　硬く締る　褐色土ブロック極大を土面に 7 %含む
12 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性なし　硬く締る　住居拡張時の貼り床

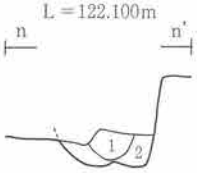
0　2 m

第44図　RA132竪穴住居跡（1）

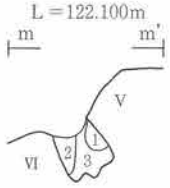



RA132（17号住）柱穴4
1 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性に富む 締りなくブカブカ 炭片含む
2 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性あり 締りややあり 小礫を含む Ⅳ～Ⅴ層大粒5％

RA132（17号住）柱穴1
1 10YR2/3 黒褐 砂質シルト 粘性、締りややあり Ⅴ層大粒7％
2 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性あり 締りなくブカブカ
3 10YR3/2 黒褐 シルト質砂 粘性なし 締りややあり 小礫を含む



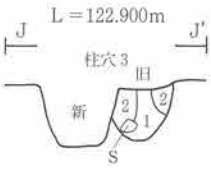

RA132（17号住）柱穴9
1 10YR3/4 暗褐 シルト 粘性なし 締りあり 埋め戻しの土
2 10YR2/1 黒 シルト 粘性あり 締りなし 炭粒、焼土粒服務



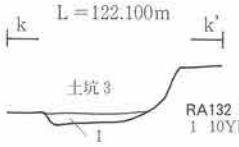

RA132（17号住）東壁柱穴
1 10YR4/6 黄褐 砂礫 粘性、締りなし Ⅵ層起源土の埋め戻し
2 10YR2/3 黒褐 砂質シルト 粘性ややあり 締りなし 柱痕
3 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性あり 締りなし
4 10YR3/3 暗褐 砂質シルト 粘性、締りあり

RA132（17号住）柱穴3
1 10YR2/3 黒褐 砂質シルト 粘性、締りなし ブカブカ 柱痕
2 10YR3/3 暗褐 砂 粘性、締りなし 小礫多く混入

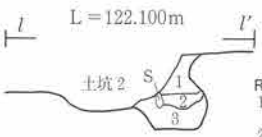
RA132（17号住）柱穴2
1 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性に富む 締りなくブカブカ 上層に炭片、木の実炭化物片含む
2 10YR2/3 黒褐 砂質シルト 粘性なし 締りはないが、1よりある 小礫含む




RA132（17号住）柱穴3（旧段階）
1 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性に富む 締りなし 炭粒を含む
2 10YR3/2 黒褐 砂 粘性、締りなし 礫を多く含む

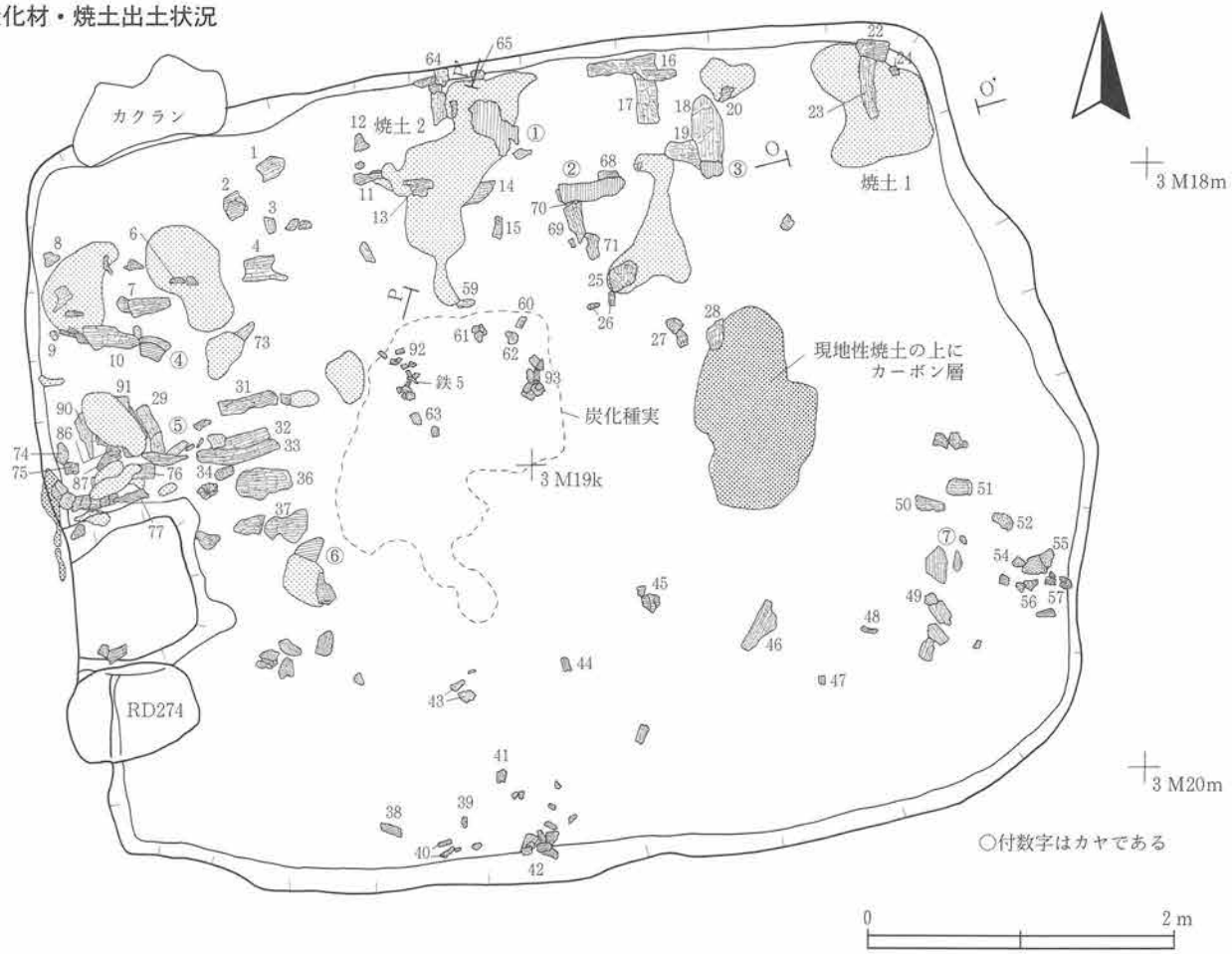



RA132（17号住）土坑3
1 10YR2/1 黒 シルト 粘性あり 締りなし 炭化種実、炭粒を多く含む

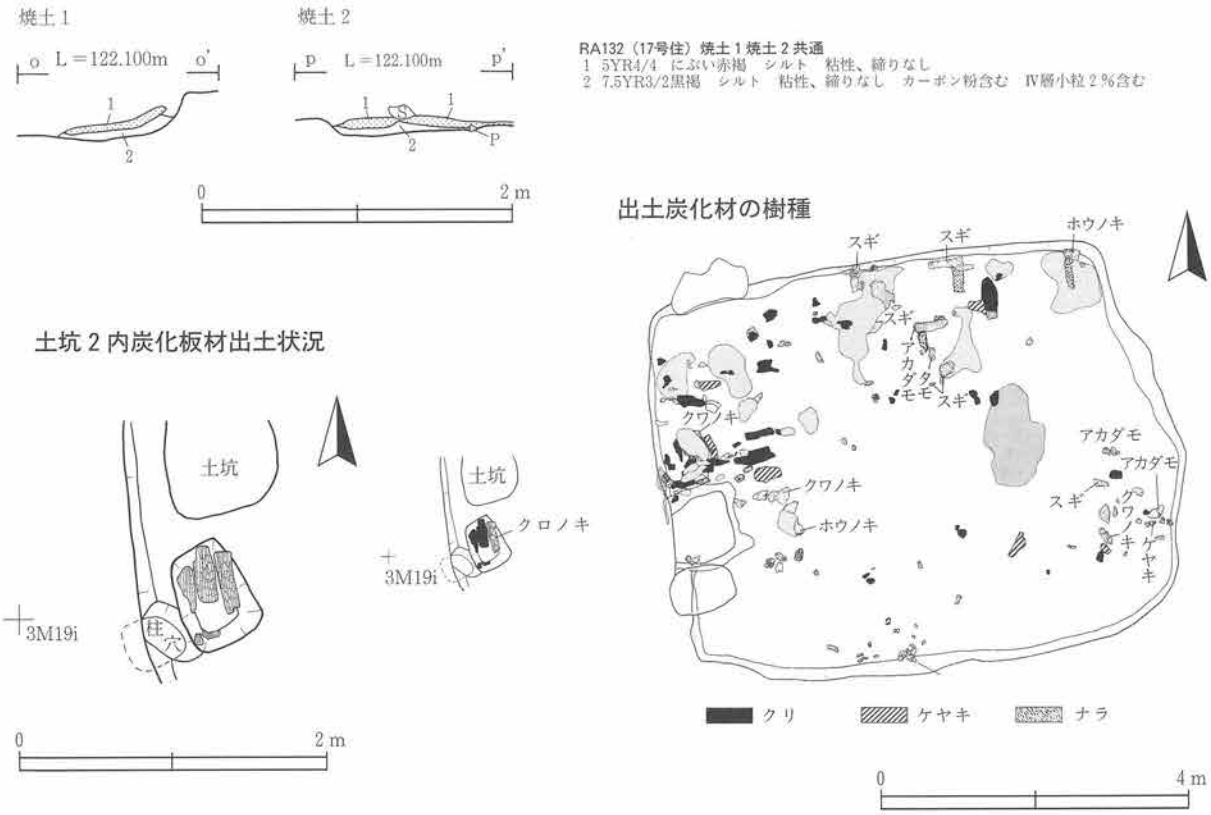



RA132（17号住）1号カマド右袖付近土坑
1 10YR3/2 黒褐 砂質シルト 粘性、締りなし 炭片少量含む
2 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性あり 締りなし
3 10YR3/2 黒褐 砂質シルト 粘性ややあり 締りなし Ⅴ層極大粒ブロック5％

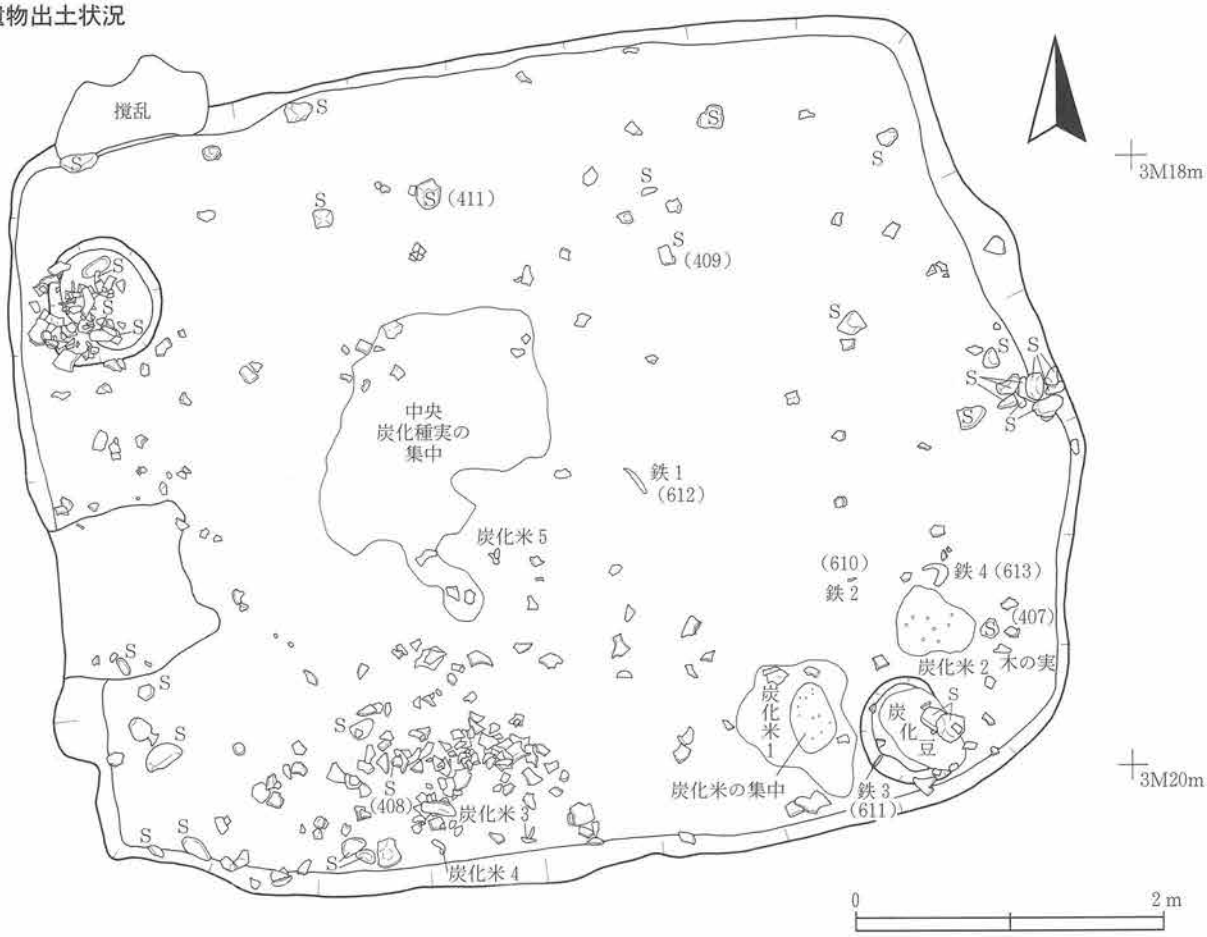
## 炭化材・焼土出土状況



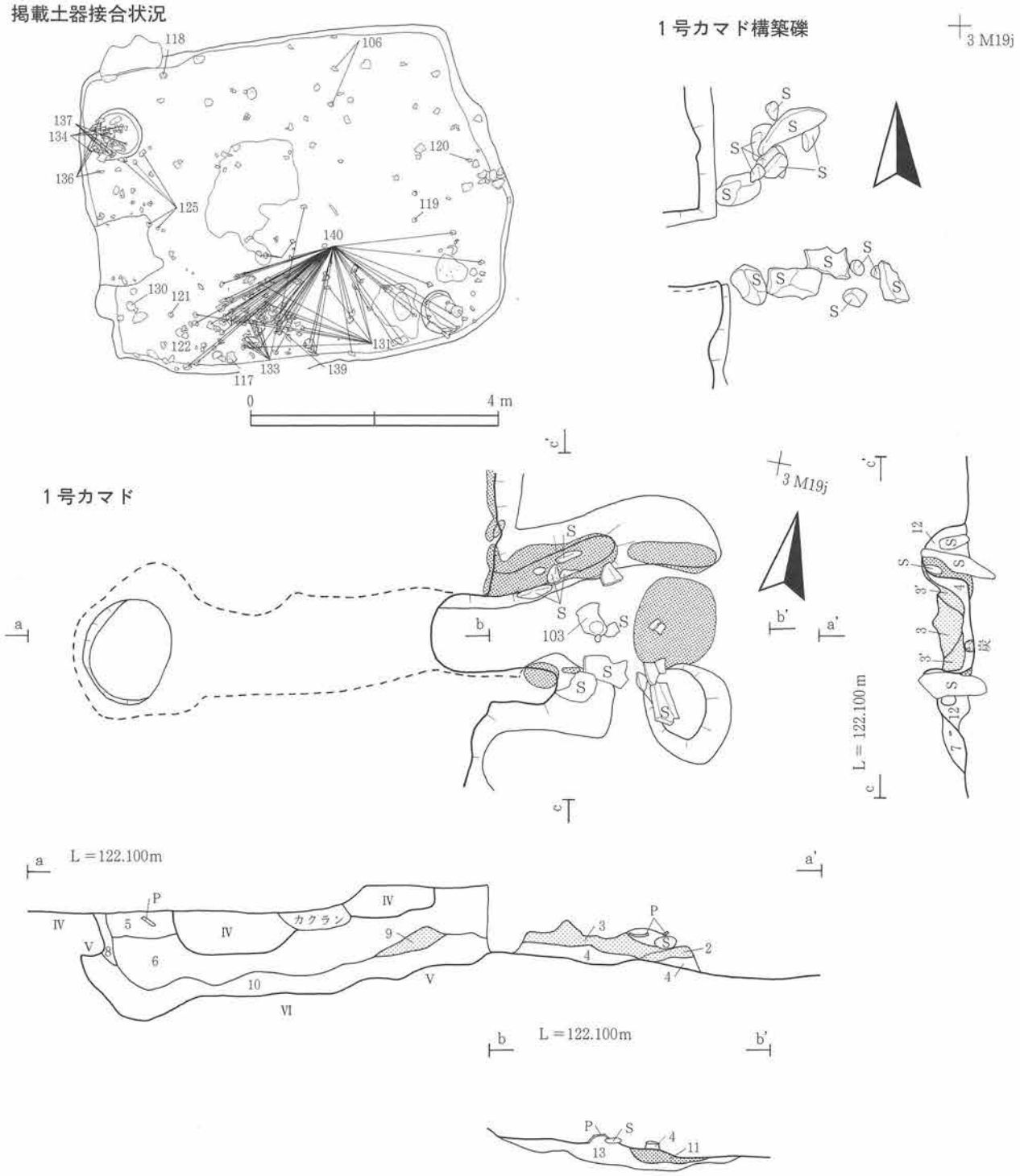

第45図 RA132竪穴住居跡（2）




遺物出土状況




第46図　RA132竪穴住居跡（3）




RA132（17号住）1号カマド
1 10YR4/6 褐　シルト　粘性なし　締りあり　カマド天井
2 5YR4/6 赤褐　シルト　粘性、締りあり　天井に形成された焼土の崩落土
3 5YR3/3 暗赤褐　シルト　粘性あり　締りなし　非常に硬い　明赤褐（5YR4/8）
ブロック極大粒を5～30%含む　炭化材含む
3' 5YR3/3 暗赤褐　シルト　粘性あり　締りなし　明赤褐ブロックを含まない
4 5YR2/3 極暗赤褐　シルト　粘性ややあり　締りなし　全体に焼土を含む
炭化材含む
5 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　炭粒少量、焼土粒を2%含む
6 10YR2/3 黒褐　砂質シルト　粘性ややあり　締りなし
Ⅳ層ブロック小～極大粒5%
7 7.5YR3/2 黒褐　シルト　炭粒、Ⅳ層大粒3%含む
8 10YR3/4 暗褐　砂質シルト　Ⅴ層崩壊土黒褐色粒20%含む
9 10YR5/6 黄褐　砂質シルト　粘性、締りなし　天井崩落土
下位に焼土層（1～3㎜厚5YR5/6明赤褐）
10 10YR3/2 黒褐　砂質シルト　粘性、締りなくカーボン粉含む
11 5YR3/4 暗赤褐　シルト　粘性、締りあり　焼土
12 10YR4/6 褐　粘土　粘性、締りあり
12' 5YR3/4 暗赤褐　粘土　上記12層の焼土層
13 10YR3/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　焼土小粒5%含む

第47図　RA132竪穴住居跡（4）

1号カマドより古い段階

3M20i

3M18i

土坑6

カクラン

1号カマド

柱穴3（新）

柱穴4

柱穴3（旧）

g

g'

床に灰層のある範囲

柱穴2

柱穴1

カクラン

カクラン

S

3号カマド

2号カマド

3M20m

3M18m

S

S

S

S

S

L＝121.700m

g　g'

1

2　Ⅵ　2

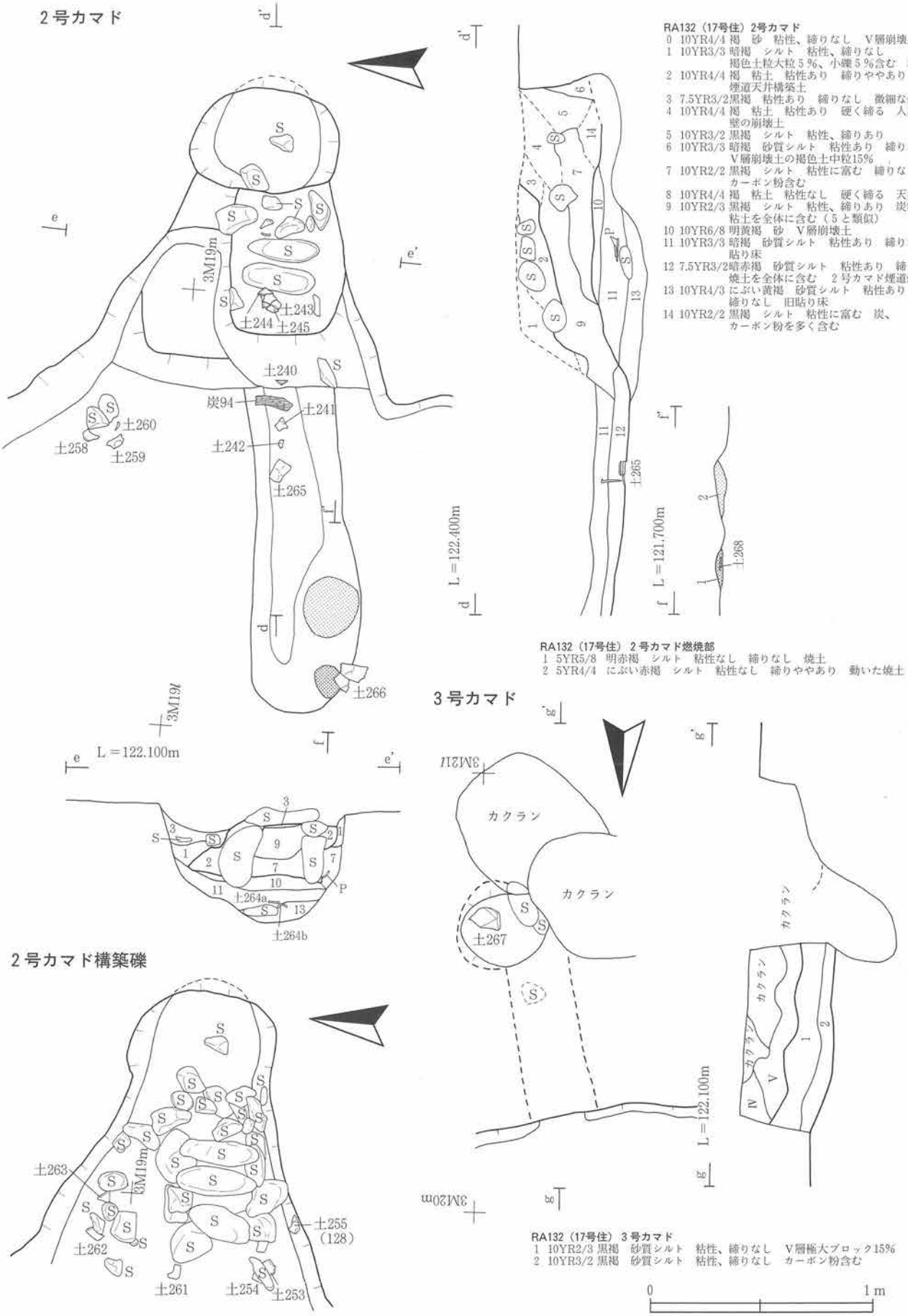
RA132（17号住）住居中央焼土
1　5YR5/8　明赤褐　シルト　粘性なし　硬く締る　焼土
2　7.5YR4/4褐　シルト　粘性なし　硬く締る　焼土

| RA132（17号住） | 柱穴1 | 柱穴2 | 柱穴3新 | 柱穴3旧 | 柱穴4 | 柱穴5 | 柱穴6 | 柱穴7 | 柱穴8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 52×51 | 79×54 | 60×53 | 42×？ | 71×52 | 44×35 | 34×23 | 37×29 | 33×32 |
| 深さ（cm） | 51 | 54 | 50 | 47 | 60 | 35 | 50 | 49 | 33 |
| その他 | | | | | 新旧2個？ | 壁際斜め | 壁際斜め | 壁際 | 壁際 |

| RA132（17号住） | 柱穴9 | 土坑1 | 土坑2 | 土坑3 | 土坑4 | 土坑5 | 土坑6 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 64×46 | 84×82 | 68×47 | 74×56 | 99×87 | 44×35 | 101×79 |
| 深さ（cm） | 45 | 6 | 13 | 9 | 25 | 27 | 40 |
| その他 | 壁際 | | 柱穴5に接する（新旧不明） | | | | 古い段階の土坑 |

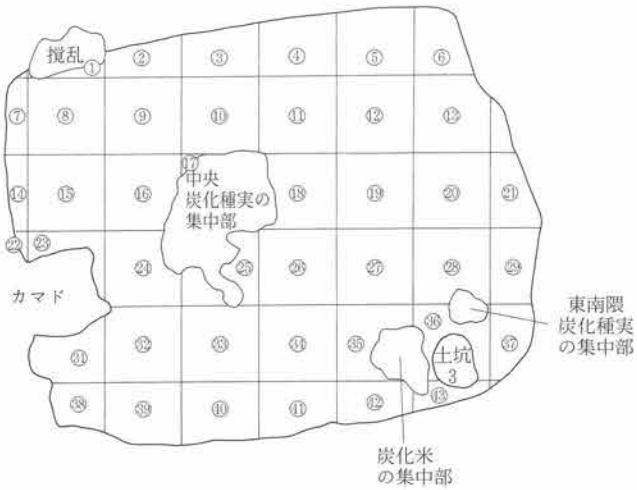
0　2 m

第48図　RA132竪穴住居跡（5）

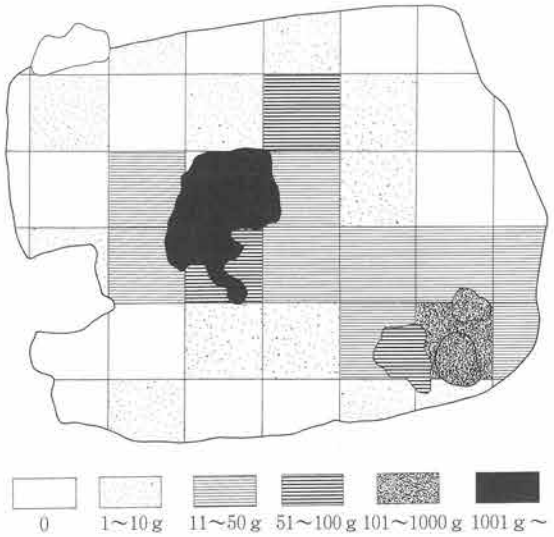



第49図 RA132竪穴住居跡（6）

RA132の土壌取り上げ単位

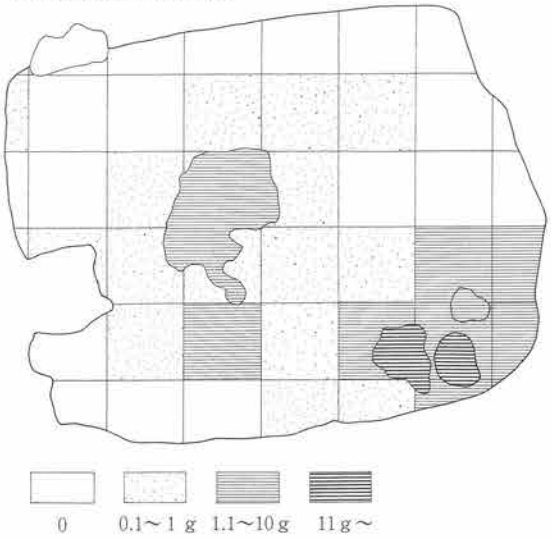



A　トチノキと思われる種実

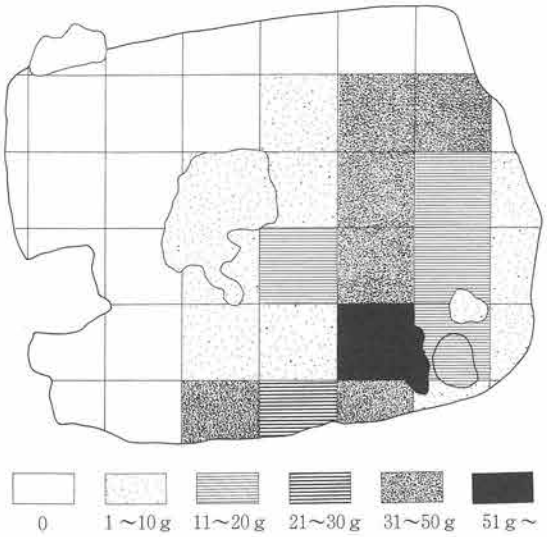



D　クリ

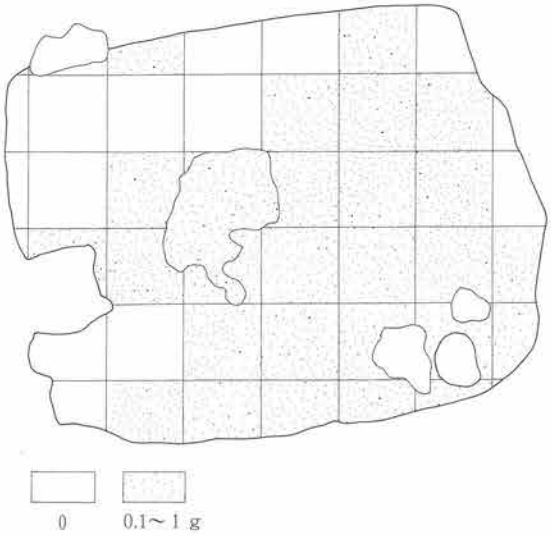
C　豆類と思われる種実




B　炭化米と思われる種実

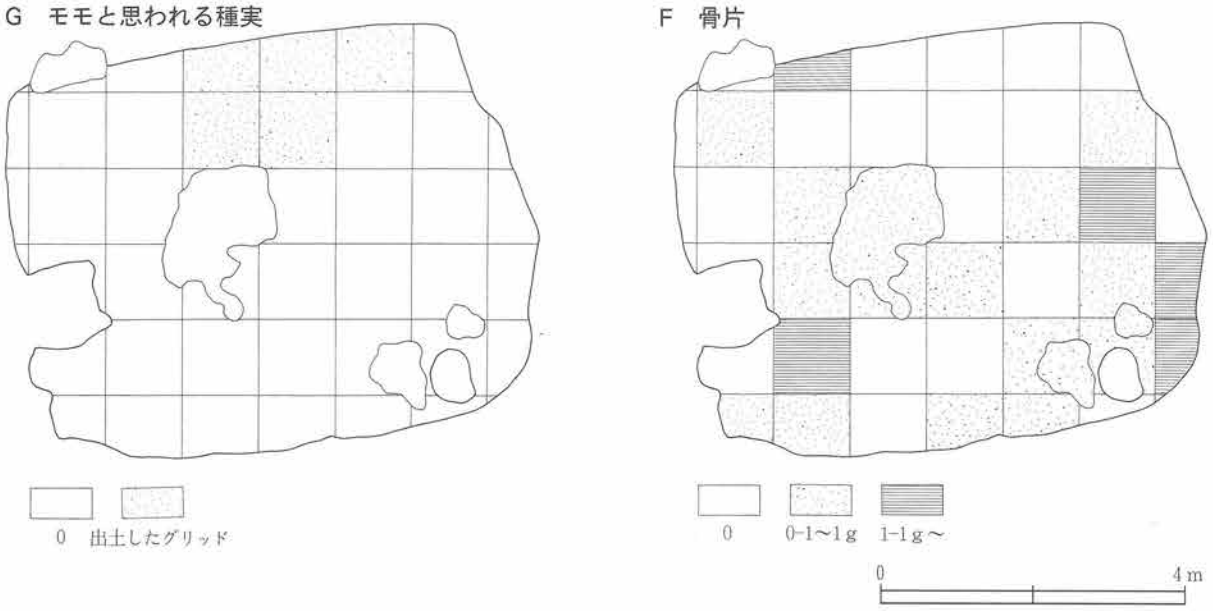



E　米より小さい種実




0　4 m

第50図　RA132竪穴住居跡（7）

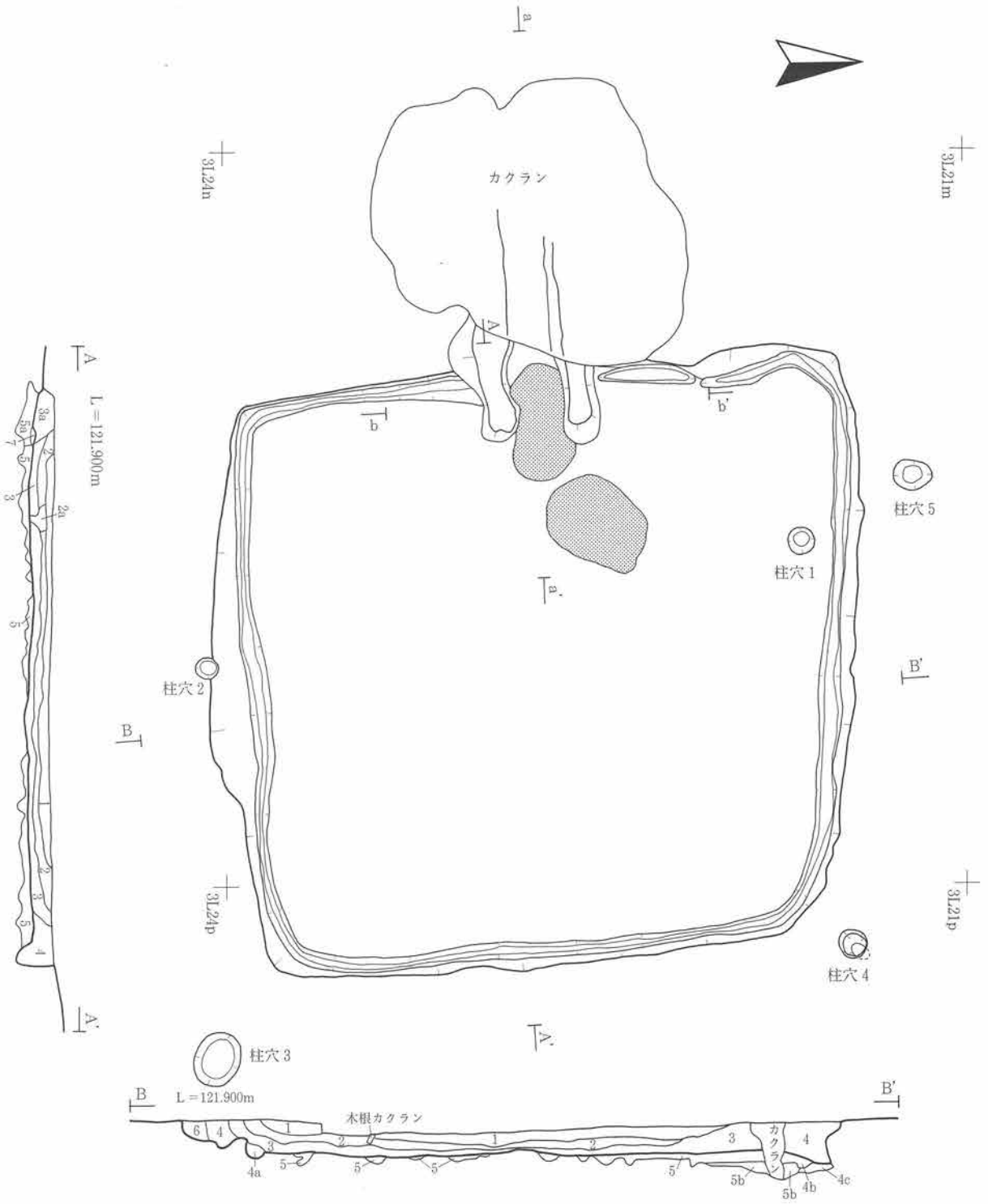



第51図　RA132竪穴住居跡（8）

第4表　RA132出土炭化種実　地点別一覧表

重量（g）

| ブロックNo. | 採取土量(kg) | 容量(中箱) | A（トチノキ） | B | C | D(クリ) | E | F(骨片) | G(モモか) | 不明の種実 | カヤ | 炭 | カヤと炭 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 7.00 | 0.50 | | 0.10 | | | | | | | | | 3.70 |
| 2 | 10.00 | 0.70 | 4.00 | 0.30 | | | 0.05 | 5.00 | | | | 4.20 | |
| 3 | 22.90 | 1.10 | 0.90 | | | | | | 0.80 | | 0.10 | 93.30 | |
| 4 | 23.50 | 1.60 | 1.50 | 0.90 | | | | | 1.40 | | 0.10 | 15.10 | |
| 5 | 32.80 | 1.80 | 0.10 | 0.10 | | 1.40 | 0.10 | | 0.90 | | 0.20 | 17.90 | |
| 6 | 37.50 | 1.80 | 0.60 | 0.10 | | | | | | 0.05 | | 14.40 | |
| 7 | 3.50 | 0.10 | | | 0.05 | | | | | | | 2.70 | |
| 8 | 26.00 | 1.70 | 1.60 | 0.10 | | | | 0.05 | | | 4.50 | 32.80 | |
| 9 | 31.50 | 1.90 | | 0.10 | | | | | | | 14.30 | 8.50 | 4.40 |
| 10 | 28.30 | 1.50 | 2.20 | | 0.40 | | | | 1.10 | 0.10 | 1.10 | 0.60 | |
| 11 | 27.70 | 2.44 | 53.00 | 1.20 | 0.30 | | 0.01 | | 1.20 | | 22.00 | 25.80 | 30.40 |
| 12 | 55.10 | 3.10 | 4.40 | 31.60 | 0.01 | | 1.00 | | | | 0.10 | 16.80 | |
| 13 | 24.50 | 1.70 | 0.01 | 34.30 | | | 0.20 | 0.30 | | | 0.10 | 9.60 | |
| 14 | 4.40 | 0.20 | | 0.10 | | | | | | | 2.10 | 5.70 | 6.40 |
| 15 | 16.00 | 0.84 | 0.20 | 0.10 | | | | | | | 9.50 | 32.40 | |
| 16 | 21.90 | 1.34 | 21.80 | 0.10 | 0.05 | | 0.05 | 0.01 | | | 27.30 | 28.70 | 16.90 |
| 17 | | | 1.90 | | | | | | | | | | |
| 18 | 14.00 | 0.87 | 39.60 | 8.30 | 0.30 | | 0.40 | | | | 0.50 | 11.20 | 32.30 |
| 19 | 15.50 | 1.00 | 1.20 | 34.60 | | | 0.60 | 0.60 | | | 3.80 | 23.30 | 81.80 |
| 20 | 17.50 | 1.02 | 0.60 | 17.30 | | | 0.10 | 1.40 | | | 3.21 | 53.50 | 32.90 |
| 21 | 7.50 | 0.38 | 1.00 | 2.30 | | | | | | | 0.40 | 7.90 | |
| 22 | 3.00 | 0.20 | | | | | | | | | | | 27.40 |
| 23 | 35.50 | 2.46 | 1.20 | 0.20 | 0.20 | | 0.20 | 0.20 | | | 1.40 | 80.90 | 418.70 |
| 24 | 47.50 | 3.00 | 14.60 | 0.40 | 0.05 | | 0.10 | 0.01 | | 0.01 | 45.40 | 20.35 | 24.50 |
| 25 | 15.00 | 0.97 | 91.20 | 6.20 | 0.70 | 0.00 | 0.00 | 0.50 | 0.00 | 1.00 | 0.10 | 1.40 | 62.40 |
| 26 | 62.30 | 4.27 | 19.90 | 15.20 | 0.50 | | 0.80 | 0.10 | | | 2.70 | 74.80 | 149.30 |
| 27 | 33.50 | 2.20 | 12.90 | 34.80 | 0.80 | | 0.10 | 1.00 | | | 1.90 | 200.40 | 171.20 |
| 28 | 39.60 | 2.41 | 29.10 | 19.70 | 1.50 | | 0.30 | 0.90 | | | 3.90 | 150.60 | 118.80 |
| 29 | 30.50 | 2.06 | 22.50 | 3.10 | 1.10 | | 0.20 | 3.60 | | | 0.80 | 183.70 | 43.90 |
| 30 | | | | | | | | | | | | | |
| 31 | 12.50 | 0.76 | | | | | | | | | | 0.20 | 31.00 |
| 32 | 55.00 | 3.39 | 0.60 | 0.60 | 0.10 | | | 1.20 | | 0.01 | 0.60 | 27.50 | 27.30 |
| 33 | 31.20 | 2.02 | 8.50 | 1.40 | 3.50 | | 0.30 | | | | 2.00 | 201.80 | 151.60 |
| 34 | 36.50 | 2.30 | 5.20 | 2.30 | 0.40 | 0.00 | 0.10 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 40.40 | 468.70 |
| 35 | 60.50 | 4.25 | 49.20 | 81.20 | 1.70 | | 1.30 | 0.70 | | | 1.20 | 174.30 | 270.70 |
| 36 | 42.70 | 2.60 | 187.70 | 13.40 | 7.30 | | 0.20 | 0.20 | | 0.10 | 1.10 | 2.30 | 223.00 |
| 37 | 18.50 | 1.25 | 25.00 | 6.70 | 1.10 | 0.90 | 0.10 | 1.90 | 0.00 | 0.00 | 0.40 | 70.60 | 0.00 |
| 38 | 9.50 | 0.67 | | 0.10 | | | | 0.10 | | 0.10 | | | 12.80 |
| 39 | 32.50 | 1.92 | 2.90 | 0.10 | | | 0.10 | 0.10 | | 0.20 | 0.80 | 18.50 | 94.40 |
| 40 | 43.80 | 2.75 | | 31.00 | | | 0.30 | | | | 0.10 | 210.40 | 194.70 |
| 41 | 27.40 | 1.85 | 0.20 | 22.60 | 0.10 | 0.00 | 0.80 | 0.20 | 0.00 | 0.10 | 0.20 | 189.70 | 225.90 |
| 42 | 30.50 | 1.90 | 7.50 | 37.90 | 0.80 | | 0.60 | 0.20 | | | 0.10 | 144.30 | 123.90 |
| 43 | 13.50 | 0.85 | 3.60 | 5.50 | 4.30 | | 0.30 | | | | 0.20 | | 65.30 |
| 炭化米① | 0.00 | 0.00 | 64.30 | 119.00 | 14.90 | 0.00 | 0.00 | 0.30 | 0.00 | 0.00 | 0.20 | 148.80 | 0.00 |
| 中央種実集中部 | 68.00 | 4.65 | 6,688.90 | 5.21 | 1.20 | 38.50 | 0.35 | 0.06 | 0.00 | 0.01 | 5.00 | 258.50 | 0.00 |
| 東南隅種実集中部 | 0.00 | 0.00 | 206.20 | 9.90 | 2.30 | 40.30 | 0.00 | 0.70 | 0.00 | 0.00 | 2.00 | 63.10 | 0.00 |
| 土坑3及び豆集中部 | 19.50 | 1.00 | 307.40 | 11.70 | 19.70 | 41.70 | 0.00 | 0.10 | 0.00 | 0.00 | 2.30 | 28.10 | 0.80 |
| 不明(個別取り上げ) | | | 92.10 | 6.30 | | 0.90 | | | | | | 0.30 | |
| 計 | 1,195.60 | 75.32 | 7,975.31 | 566.11 | 63.36 | 123.70 | 8.66 | 19.43 | 5.40 | 1.68 | 161.71 | 2,695.35 | 3,115.10 |



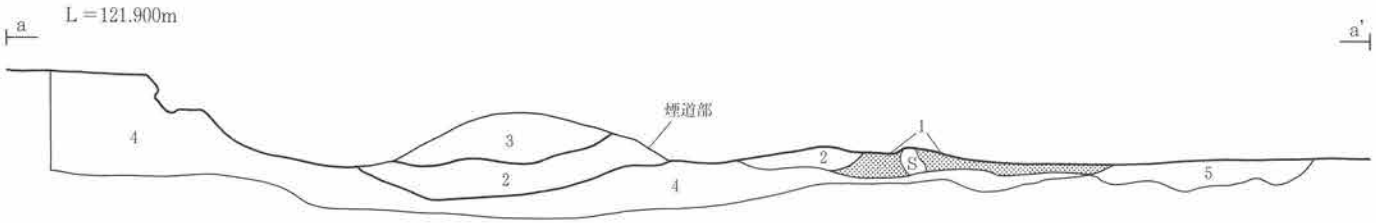

RA133（5号住）　A－A'・B－B'
1　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性中　締りやや密（※遺物極微量出土）
2　10YR2/2 暗褐　シルト　粘性中　締りやや密
2a　10YR2/1 黒　シルト　粘性やや強　締りやや疎（※柱痕か若しくは木根撹乱なのか不明）
3　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性中　締り中　褐～黄褐砂質土５％混入
3a　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性中　締り中　褐～黄褐砂質土５％混入（カマド上部）
4　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性中　締りやや密　黄褐粘土３％混入
4a　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性中　締りやや疎　黄褐砂質土20％混入
4b　10YR4/4 褐　シルト　粘性中　締り中　黄褐砂質粘土20％混入
4c　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性やや弱　締りやや疎　褐砂質土10％混入
5　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや密　黄褐粘土ブロック７％混入（※貼床）
5a　10YR4/4～3/4 褐～暗褐　シルト　粘性中　締りやや密　黄褐粘土10％混入（※貼床？）
5b　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性中　締り中　褐～黄褐砂質土10％混入（※整地層か？）
6　10YR3/4 暗褐　シルト質砂質土　粘性中　締り中　黄褐砂質土５％混入
7　10YR5/6 黄褐　粘土　粘性やや強　締りやや密（※地山土ブロック）

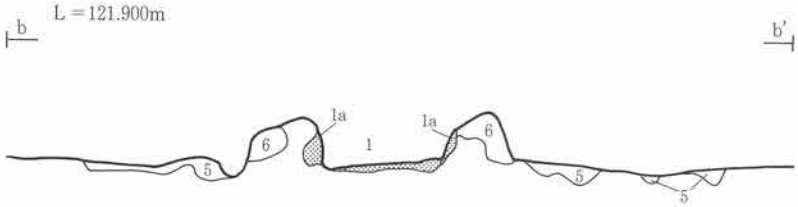
| RA133（5号住） | 柱穴1 | 柱穴2 | 柱穴3 | 柱穴4 | 柱穴5 |
|---|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 25×23 | 48×37 | 20×20 | 25×25 | 35×24 |
| 深さ（cm） | 16 | 20 | 30 | 35 | 41 |
| その他 | | 屋外 | 屋外 | 屋外 | 屋外 |

0　2 m

第52図　RA133竪穴住居跡（1）

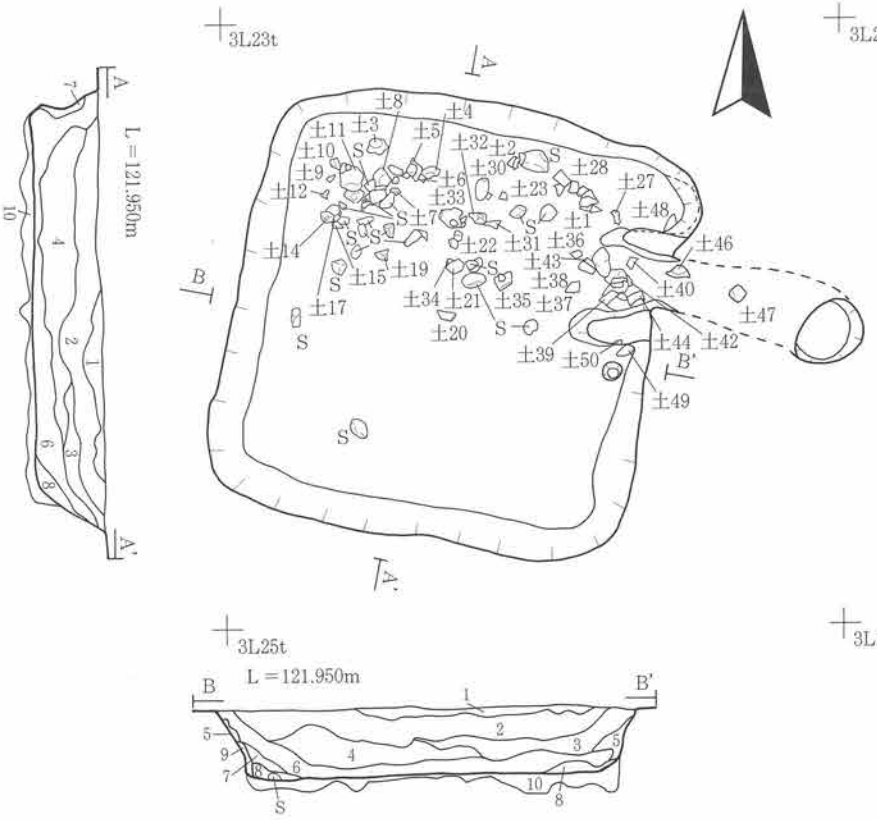
カマド



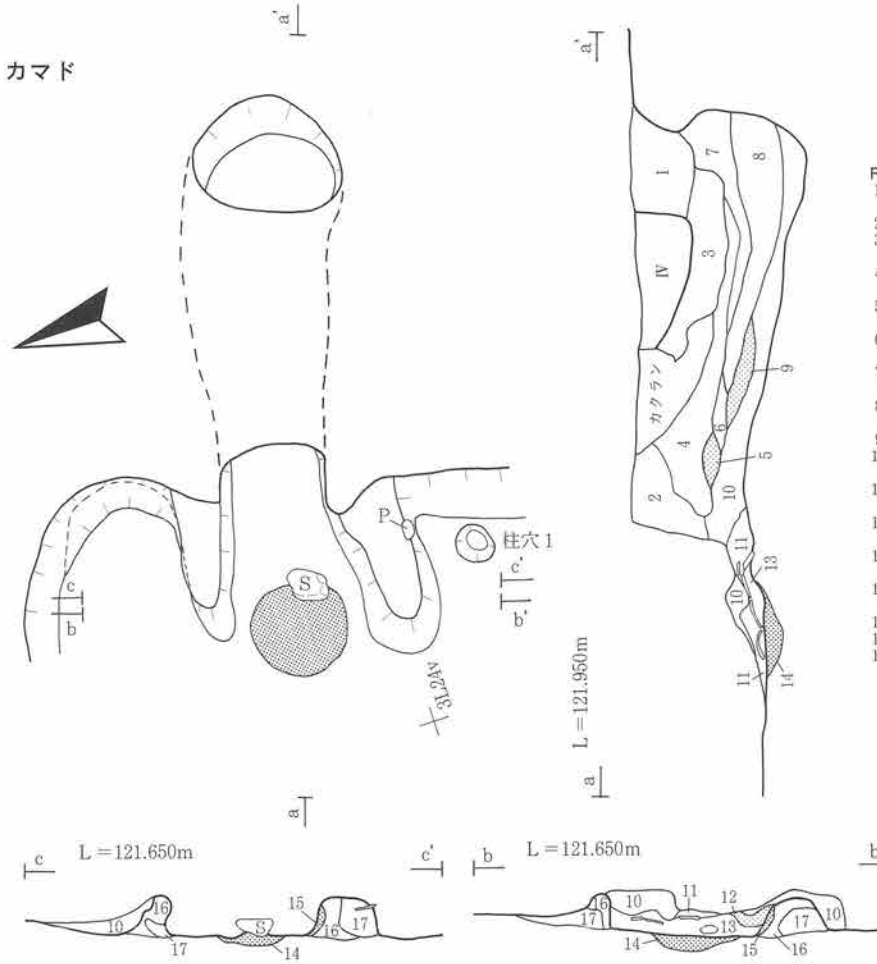

RA133（5号住） カマド断面 a－a'・b－b'
1 5YR3/4 暗赤褐 焼土 粘性中 締り中（※5層貼床が焼成を受け形成された焼土層）
1a 10YR3/3 暗褐 砂質粘土 粘性中 締り中（※地山が焼成を受けた部分）
2 10YR2/3 黒褐 シルト質砂質土 粘性中 締りやや疎
3 10YR4/6 褐 砂質粘土 粘性やや強 締り中（※地山Ⅳ層相当）
4 10YR4/4 褐 砂質土 粘性弱 締りやや疎（※地山Ⅴ層相当）
5 10YR4/3 にぶい黄褐 砂質粘土 粘性中 締り密 黄褐砂質土10%・黒褐シルト10%混入（※貼床）
6 10YR4/3 にぶい黄褐 砂質粘土 粘性弱 締り中（※袖に貼った部分）

第53図 RA133竪穴住居跡（2）




RA134（3号住）　A－A'・B－B'
1　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性なし　締りなし
　　Ⅳ層ブロック（φ0.5～1㎝大）2％
2　10YR2/3 黒褐　シルトと10YR4/6褐
　　シルト（Ⅳ層起源）の混合土　粘性なし
　　締りなし
3　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りややあり
　　混入物極めて少ない
4　10YR3/2 黒褐　シルト　褐色シルトブロック
　　（φ2㎝～こぶし大）3％　全体にⅣ～Ⅴ層
　　の褐色土を多く含む
5　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性あり　締りなし
　　Ⅳ層崩落土を多く含む
6　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし
　　混入物少ない
7　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性あり　締りあり
　　Ⅳ層崩落土を含む
8　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性に富む　締りなし
9　10YR4/6 褐　シルト　Ⅳ層　崩落土
10　10YR4/6 褐　シルト　粘性なし　締りあり
　　黒褐色土ブロック（φ1～2㎝大）
　　3～10%含む　貼床

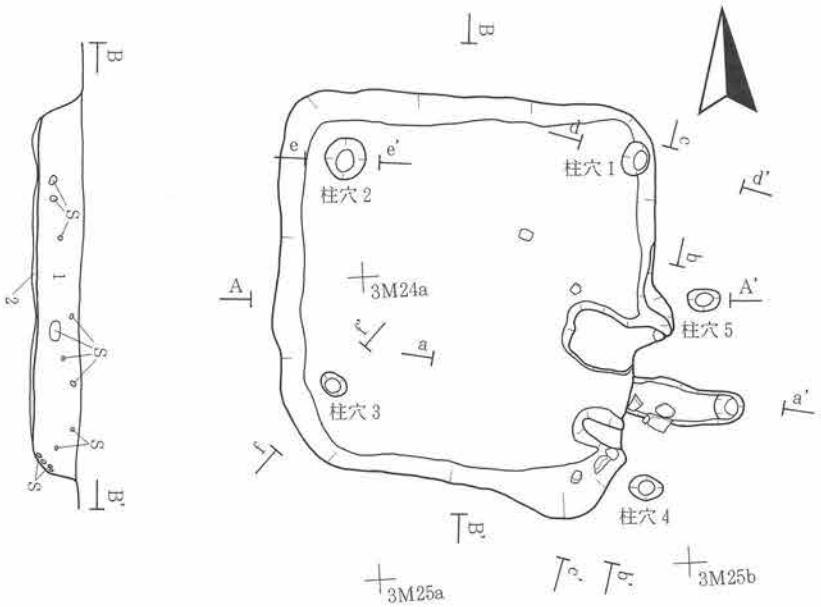
カマド

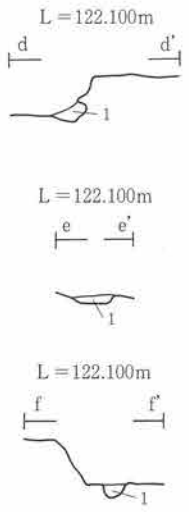



RA134（3号住）　カマド　a－a'・b－b'・c－c'
1　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性なし　締りなし
　　Ⅳ層ブロック10%
2　10YR2/1 黒　シルト　粘性なし　締りあり
3　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性なし　締りなし
　　Ⅳ層ブロック7%
4　10YR4/6 褐　シルト　粘性あり　締りなし
　　黒褐色土ブロック10%　落ちた天井
5　5YR3/4　暗赤褐　シルト　粘性なし　締りなし
　　天井の焼土の落ち込み層
6　7.5YR4/4褐　シルト　粘性なし　締りなし
　　黒褐色土ブロック7％　落ちた天井
7　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りややあり
　　Ⅳ層ブロック5％
8　10YR4/4 褐　シルト　粘性ややあり　締りややあり
　　炭粉含む　全体に褐色土含む
9　5YR3/3　暗赤褐　砂　落ちた天井の焼土
10　7/5YR3/2 黒褐　シルト　Ⅳ層ブロック・
　　Ⅴ層ブロック7％・焼土粒少量含む
11　10YR3/3 暗褐　粘土質シルト　粘性あり　締りあり
　　焼土粒含む
12　5YR4/6　赤褐　シルト　粘性なし　締りあり
　　動いた焼土
13　5YR3/3　暗赤褐　シルト　粘性なし　締りあり
　　炭粒・焼土粒少量含む
14　5YR4/6　赤褐　砂　粘性なし　締りあり
　　砂質（Ⅴ層土）の焼土
15　5YR3/4　暗赤褐　シルト　粘性なし　硬く締る　焼土
16　10YR4/4 褐　シルト　粘性あり　硬く締る　袖構築土
17　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性あり　締りややあり
　　袖構築土

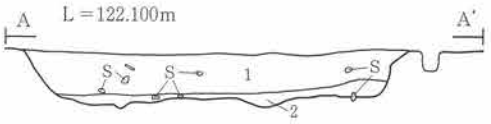
| RA134（3号住） | 柱穴1？ |
|---|---|
| 径（㎝） | 7×6 |
| 深さ（㎝） | 10 |

第54図　RA134竪穴住居跡



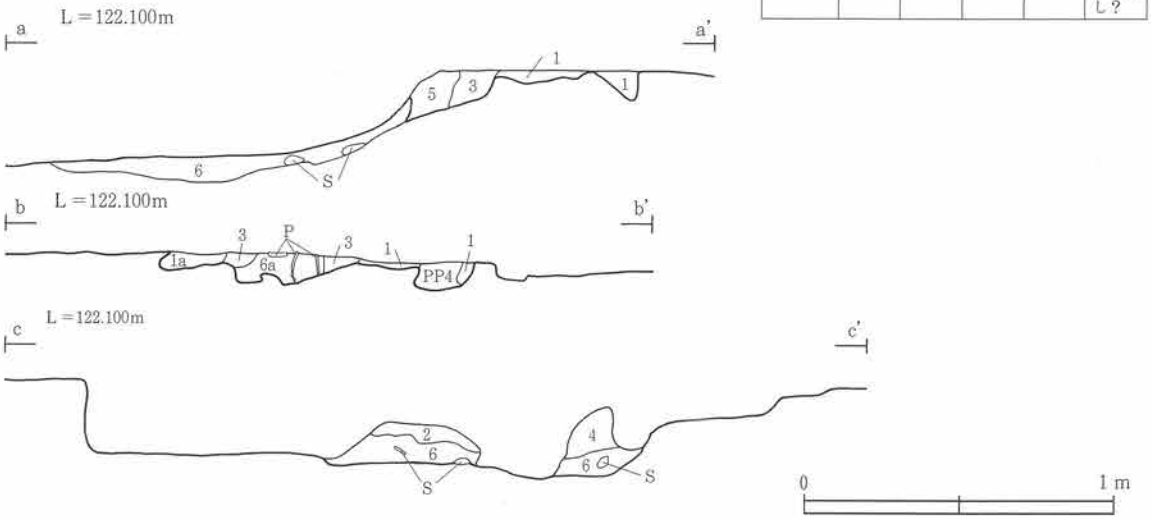

RA135（7号住） d－d'～f－f' PP1～PP3
1 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締りやや疎 砂質土15%混入




RA135（7号住） ベルト A－A'・B－B'
1 10YR2/1 黒 シルト 粘性やや強 締り中 φ3～15cmの礫（円礫主体）7%混入
2 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締り中 砂質シルト10%・φ3～8cmの円礫多量混入（貼床土）

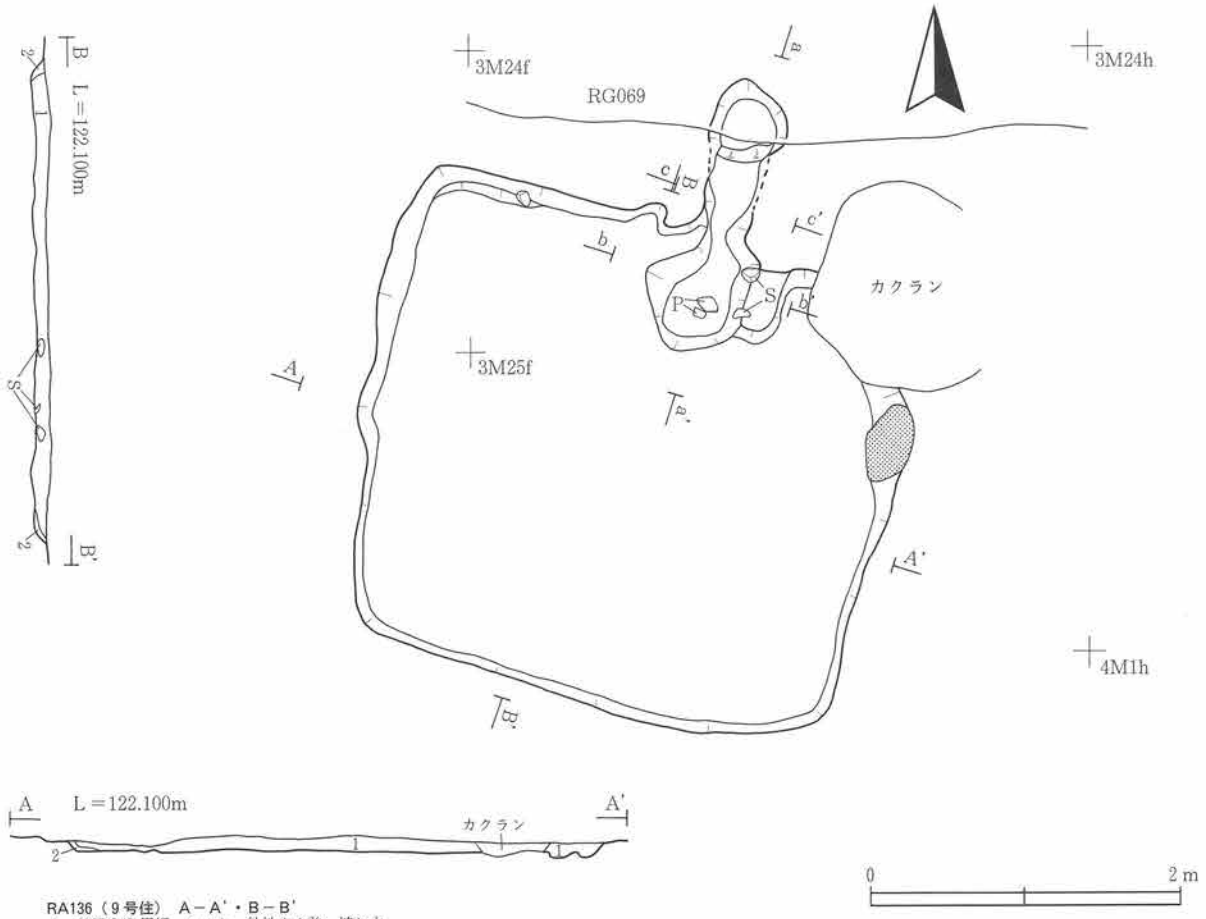
| RA135（7号住） | 柱穴1 | 柱穴2 | 柱穴3 | 柱穴4 | 柱穴5 |
|---|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 21×19 | 28×27 | 18×14 | 22×17 | 20×15 |
| 深さ(cm) | 12 | 5 | 9 | 11 | 14 |
| その他 | 壁際 | | | 屋外 | 屋外 旧カマド煙出し？ |

## カマド



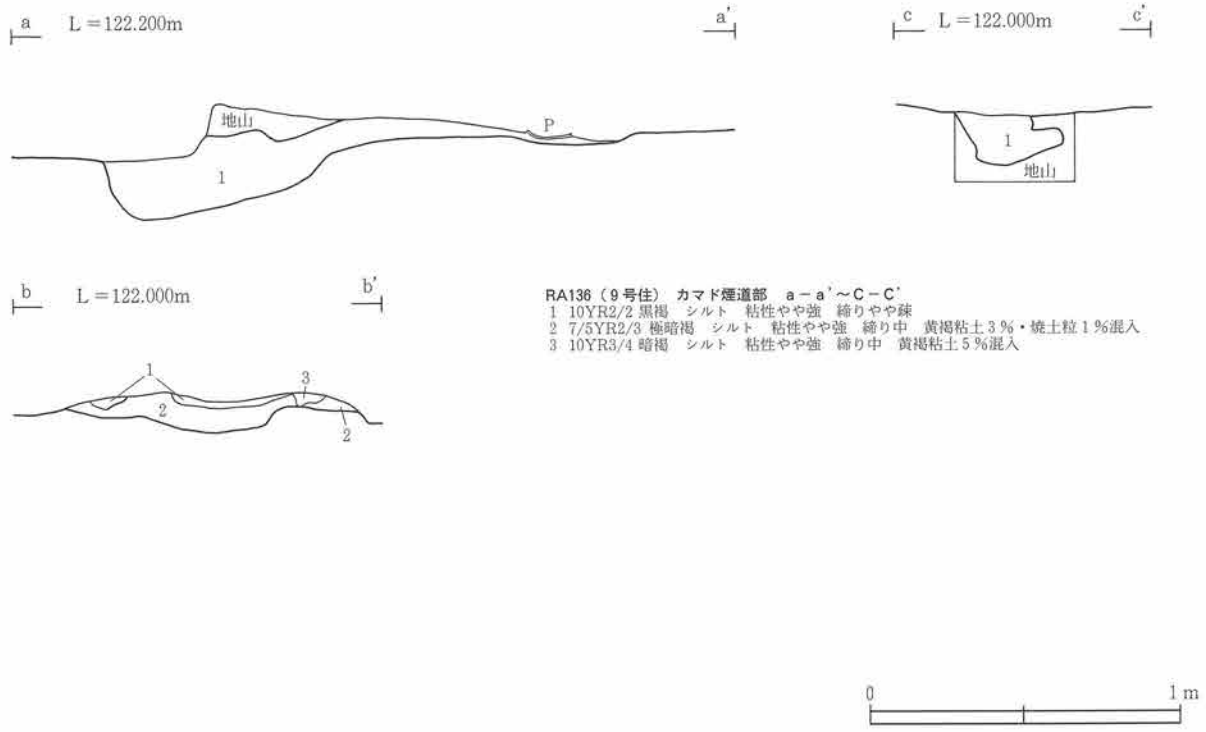

RA135（7号住） カマド断面 a－a'・b－b'・c－c'
1 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締り中
2 10YR4/4 褐 粘土 粘性中 締り密 黒褐シルト10%・焼土ブロック（粒φ2～3mm）3%混入（袖部）
3 10YR5/3 にぶい黄褐 テフラ（To－a層） 粘性やや弱 締り中（※To－a 性状は砂質～粉状）
4 10YR3/4 暗褐 粘土 粘性中 締りやや密（※地山土を貼った袖部と捉えられる）
5 10YR4/4 褐 粘土 粘性やや強 締りやや密（カマド天井崩落土か？）
6 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性やや強 締りやや密 焼土ブロック（5YR4/8 粒φ2～5mm）5%・黄褐粘土ブロック5%混入（※貼床 2層と同一層と捉えられる）
6a 10YR3/2 黒褐 シルト 粘性中 締り密（※土器据え方土）

第55図 RA135竪穴住居跡



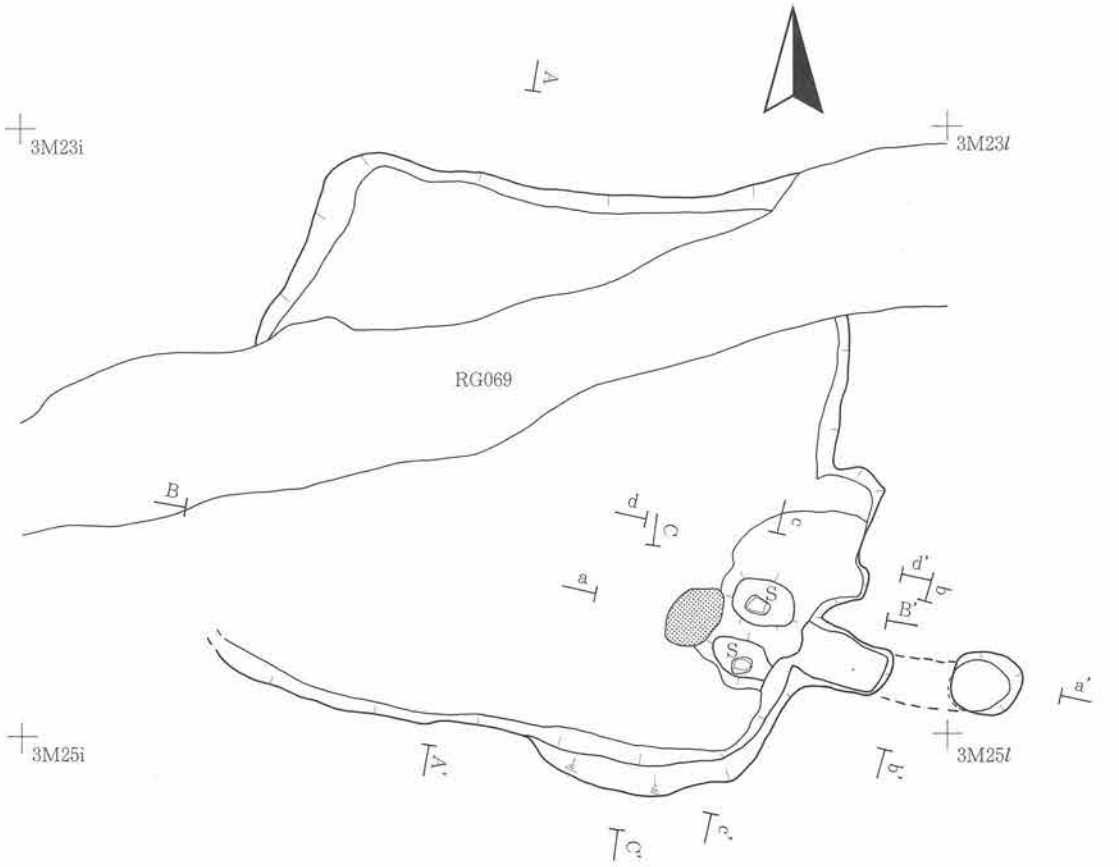

RA136（9号住）　A－A'・B－B'
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中
2　10YR4/4 褐　砂質シルト　粘性中　締り中

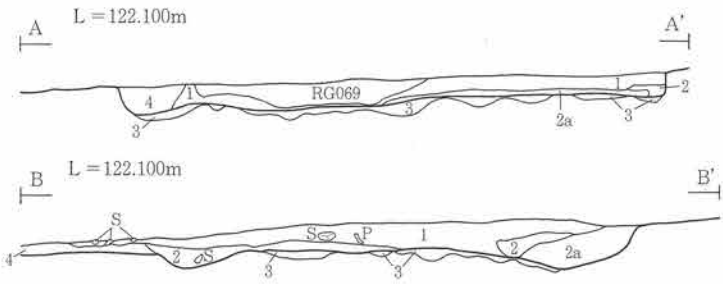
## カマド



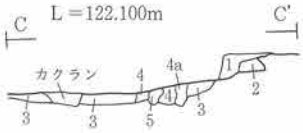

RA136（9号住）　カマド煙道部　a－a'～C－C'
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや疎
2　7/5YR2/3 極暗褐　シルト　粘性やや強　締り中　黄褐粘土3％・焼土粒1％混入
3　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性やや強　締り中　黄褐粘土5％混入

第56図　RA136竪穴住居跡



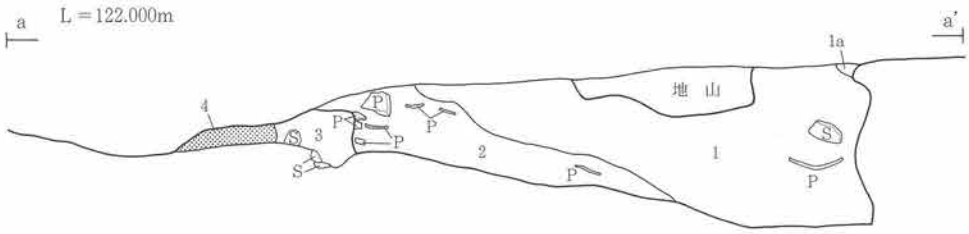

RA137（8号住） A－A'・B－B'
1 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中 黄褐粘土ブロック3％・礫5％混入
2 10YR2/1 黒 シルト 粘性やや強 締り中 褐砂質粘土3％混入
2a 10YR3/4 暗褐 シルト質砂質土 粘性中 締り中
3 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締りやや密 黄褐砂質粘土20％混入 貼床
4 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締り中 黄褐粘土3％混入

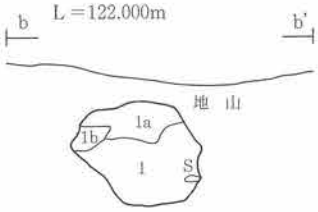


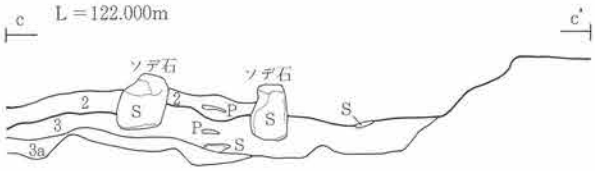

RA137（8号住） 南壁際～床面断面 C－C'
1 10YR2/1 黒 シルト 粘性やや強 締り中
2 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中 黄褐粘土5％混入
3 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中 黄褐粘土10％混入（※貼床）
4 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性中 締りやや密 黄褐粘土20％混入（※貼床）
4a 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性中 締り中 黄褐粘土5％混入（※貼床を裁る小穴）
5 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締りやや疎

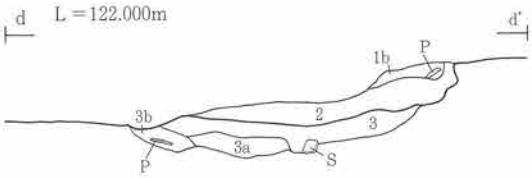
第57図 RA137竪穴住居跡（1）

カマド

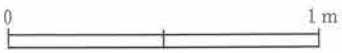


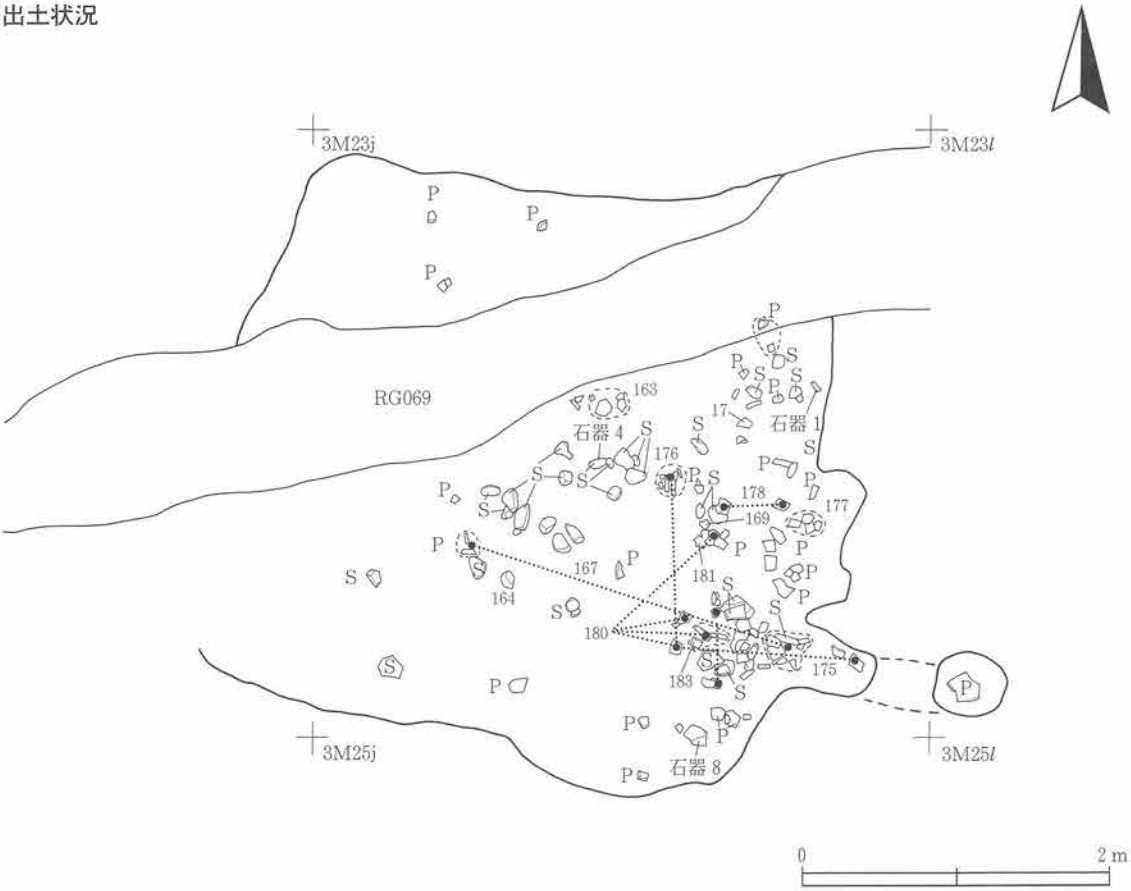



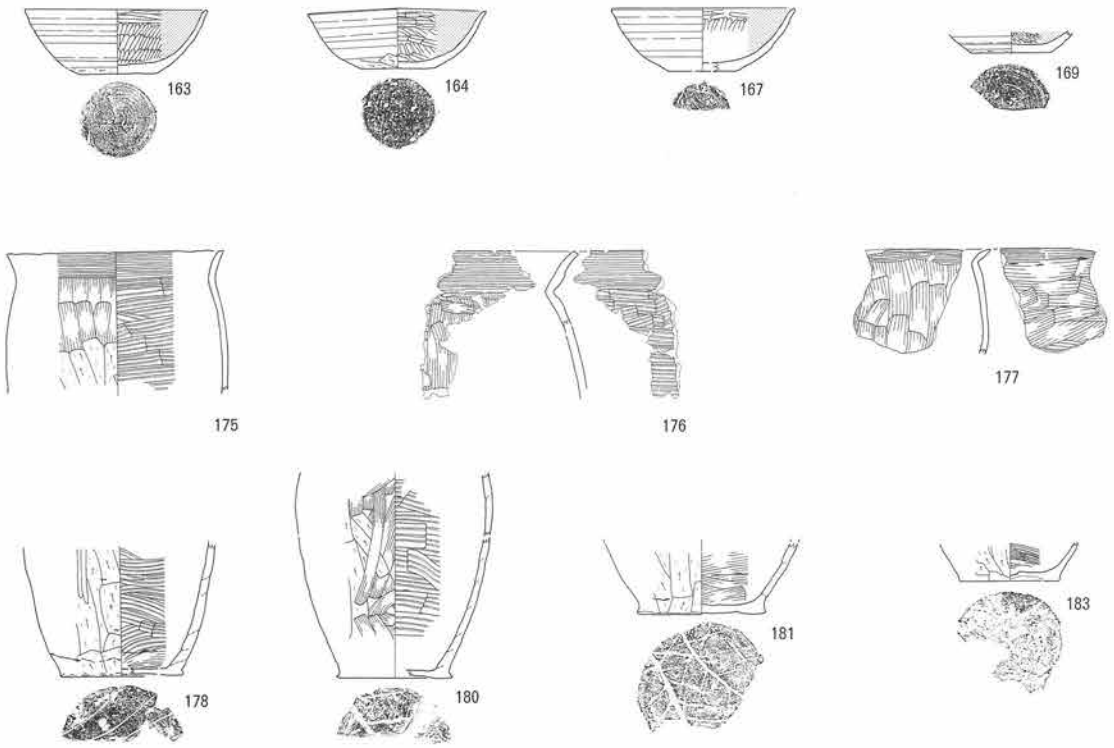

RA137（8号住）　カマド　a－a'～d－d'
1　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性中　締りやや疎　φ20～40cmの礫や土器・須恵器片混入
1a　10YR4/4 褐　シルト　粘性やや強　締り中　黄褐粘土10%混入
1b　10YR5/4 にぶい黄褐　粘土　粘性やや強　締りやや密
2　10YR4/3 にぶい
　　黄褐　シルト質粘土　粘性中　締り中　カマド崩壊土
3　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中（※整地土）
3a　10YR3/4 暗褐　シルト質砂質土　粘性やや強　締り中（※整地土）
3b　10YR2/1 黒　シルト　粘性やや強　締りやや密（※整地土）
4　5YR4/4　にぶい赤褐　焼土　粘性やや強　締りやや密（※燃焼部）



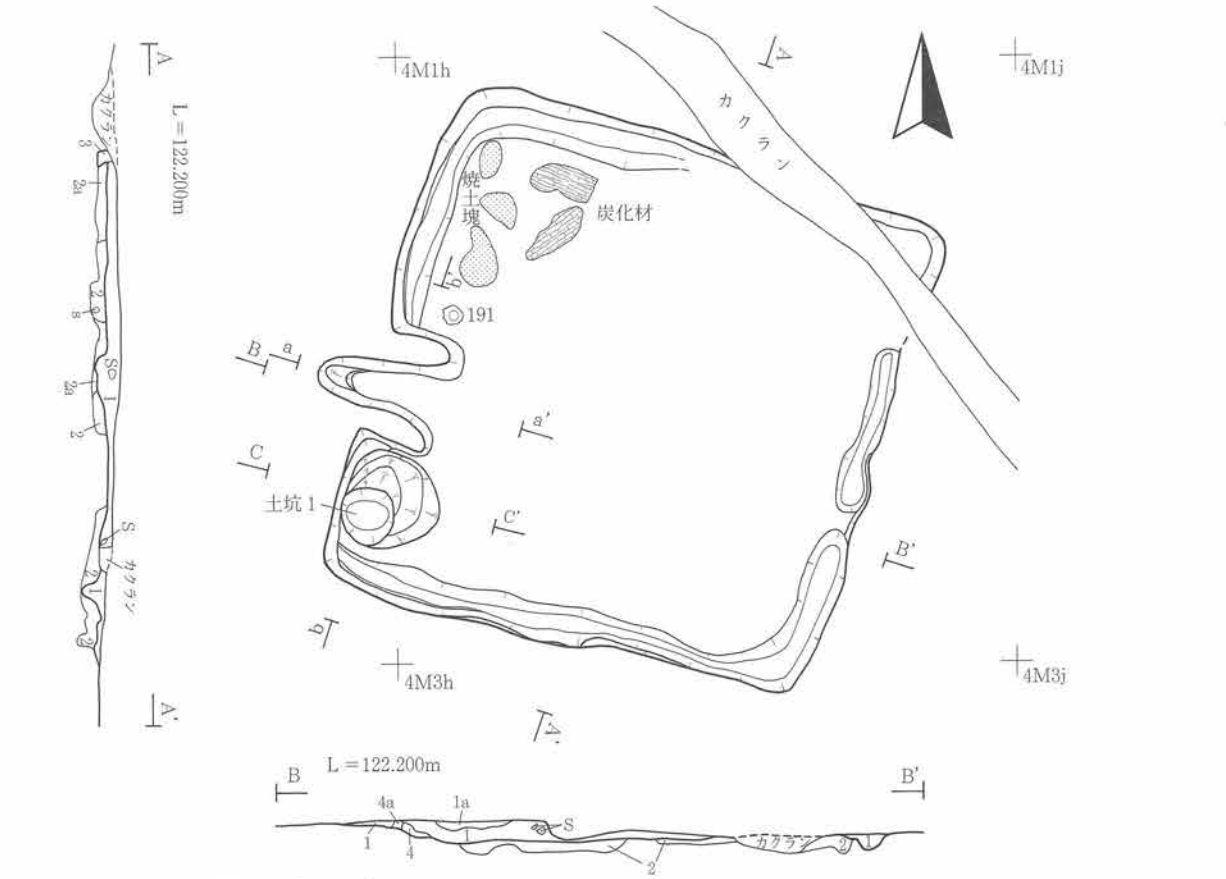

第58図　RA137竪穴住居跡（2）

遺物出土状況



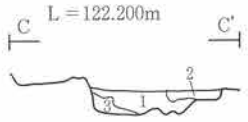




第59図　RA137竪穴住居跡（3）




RA138（21号住）　A－A'・B－B'
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締り中
1a　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締り中
2　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締り密　黄褐砂質シルト20%混入（※貼床）
2a　10YR5/6 黄褐　砂質シルト　粘性やや弱　締り密　黒褐シルト30%混入（※貼床）
3　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性中　締り中
4　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性やや強　締りやや疎
4a　10YR4/4 褐　シルト　粘性中　締りやや疎

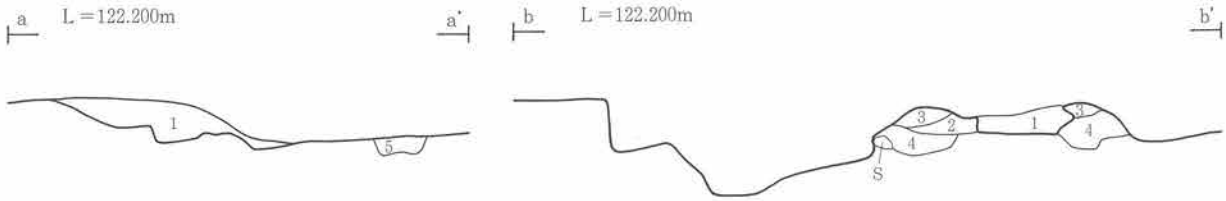
| RA138（21号住） | 土坑1 |
|---|---|
| 径（cm） | 38×34 |
| 深さ（cm） | 20 |




RA138（21号住）　C－C'
1　10YR2/1 黒　シルト　粘性中　締りやや疎　焼土粒（φ2～7㎜）3％・炭化物1％混入
2　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締り中　黄褐砂質シルト10%混入
3　10YR3/4 暗褐　砂質シルト　粘性中　締り中

0　2 m

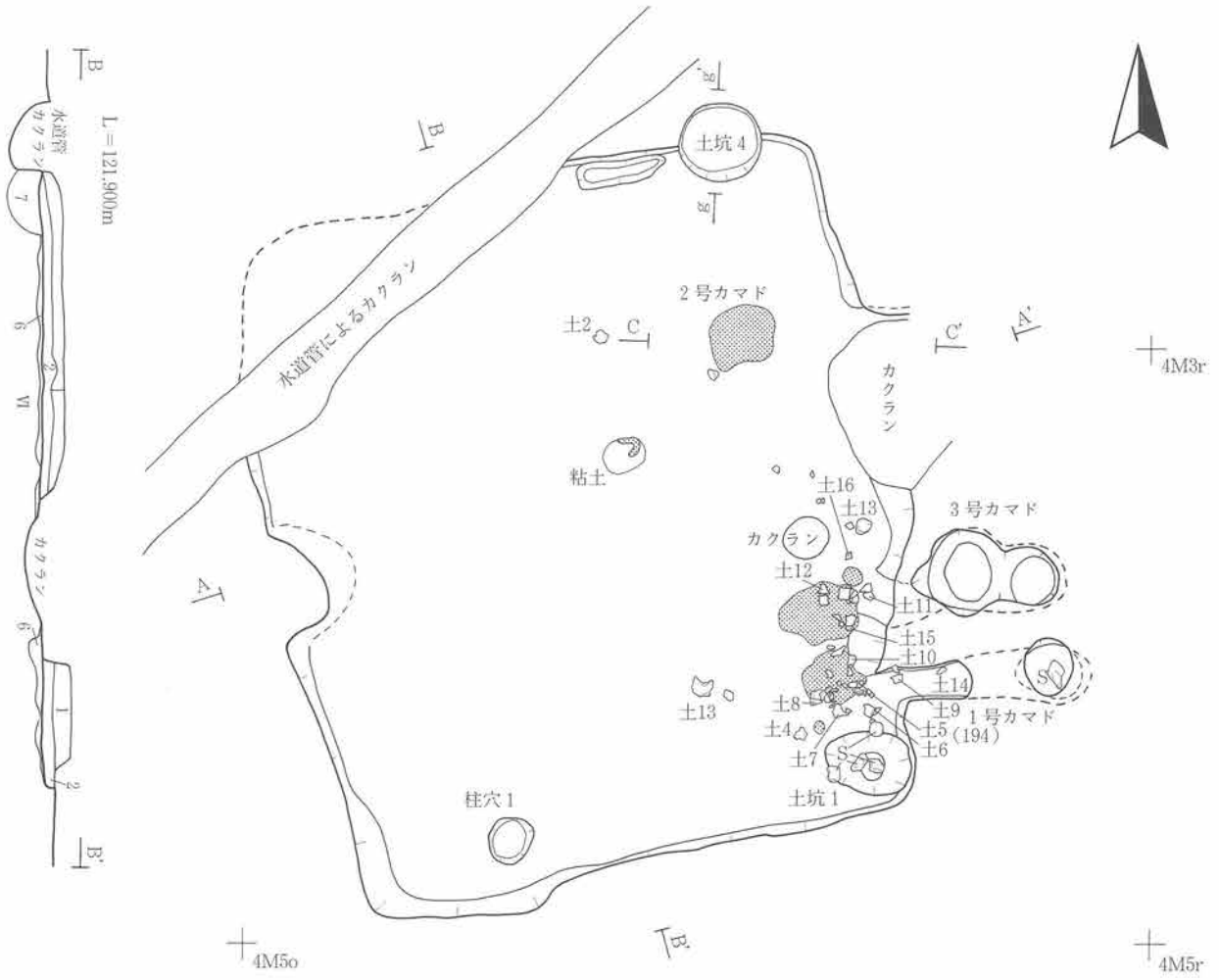
カマド




RA138（21号住）　カマドa－a'・b－b'
1　10YR3/4 暗褐　砂質シルト　粘性やや強　締り中　褐粘土質砂質土20%・焼土粒（φ2～5㎜）5%混入
2　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや密（※構築土）
3　10YR5/6～4/6 黄褐～褐　粘土質砂質土　粘性やや弱　締り中　暗褐シルト10%混入（※構築土）
4　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性やや強　締り密　黄褐粘土質砂質土10%混入（※構築土）
5　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや密　黄褐粘土質砂質土30%混入（※貼床）

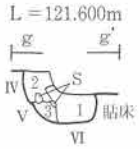
0　1 m

第60図　RA138竪穴住居跡




RA139（32号住）
1 10YR3/2 黒褐　シルト　粘性ややあり　硬く締る
2 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性ややあり　硬く締る　Ⅳ層粒小～極大粒を1層との境に3～15%含む
3 10YR3/4 暗褐　シルト　粘性あり　硬く締る
4 10YR3/3 暗褐　シルト　粘性あり　締りあり　Ⅴ層ブロック30%
5 10YR2/1 黒　シルト　粘性あり　締りややあり　Ⅴ層中粒3%
6 10YR3/3 暗褐　シルト　粘性あり　硬く締る　Ⅴ層ブロック30%（4層とほぼ同じ）貼床
7 10YR2/1 黒　シルト　粘性、締りあり　Ⅳ～Ⅴ層ブロック15%　床下土坑
8 10YR6/3 にぶい黄橙　粘土　粘性に富む　締りあり　貼床

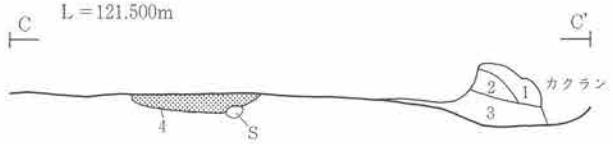
## 土坑4




RA139（32号住）g－g'
1 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性に富む　締りなし
2 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性、締りあり　Ⅳ層粒小～極大10%
3 10YR2/1 黒　砂質シルト　粘性ややあり　締りあり　小礫50%含む

0　2 m

## 2号カマド



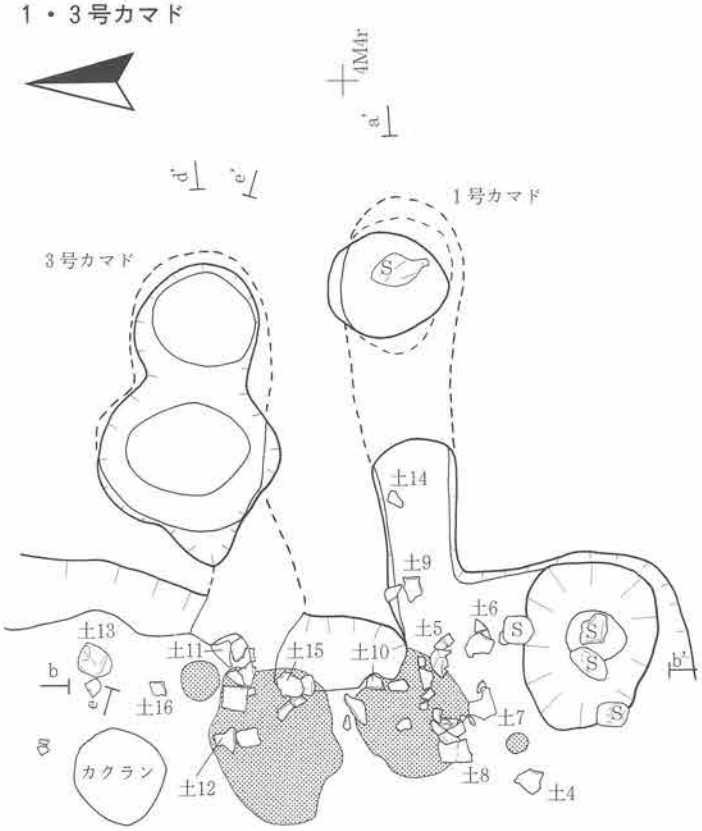

RA139（32号住）2号カマド
1 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　硬く締る　埋め戻し
2 7.5YR3/2黒褐　シルト　粘性あり　硬く締る　炭粒2%、焼土粒極小～小3%　埋め戻し
3 10YR3/2 黒褐　砂質シルト　Ⅴ層粒中～大粒15%　埋め戻し
4 5YR3/4 暗赤褐　砂　粘性なし　非常に硬く締る　焼土

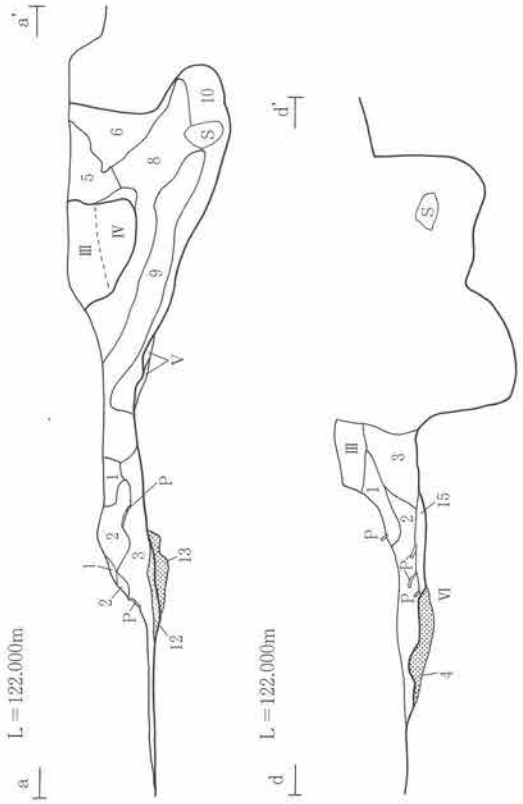
| RA139（32号住） | 柱穴1 | 土坑1 | 土坑2 | 土坑3 | 土坑4 |
|---|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 32×28 | 58×44 | 84×66 | 64×？ | 54×52 |
| 深さ（cm） | 30 | 4 | 30 | 21 | 34 |
| その他 | 床下で検出 | | 床下 | 床下（水道管に切られる） | 貯蔵穴（？） |

0　1 m

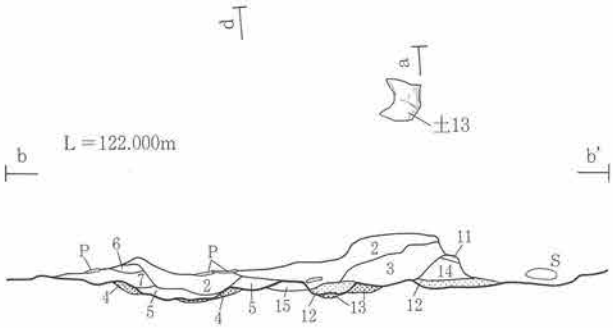
第61図　RA139竪穴住居跡（1）

## 1・3号カマド

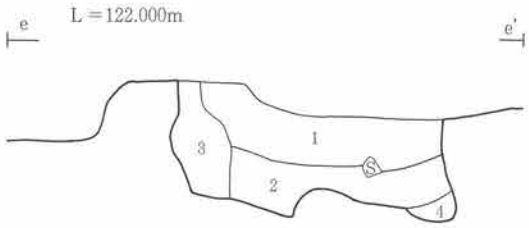



RA139（32号住）2号カマド　a－a'・b－b'・d－d'
1　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　Ⅳ層中粒7％
2　10YR4/4 褐　シルト　粘性あり　締りややあり　カマド天井
3　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性あり　締りなし　炭粒少量含む
4　7.5YR3/3暗褐　シルト　粘性あり　締りなし　焼土を全体に含む
　　炭粒を少量含む
5　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　Ⅱ層黒褐色土と
　　Ⅲ層暗褐色土が斑に混合埋め戻し
6　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性あり　締りなし　黒褐色土粒小粒3％
　　黄褐色土粒小粒5％
7　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性に富む　締りなし　Ⅲ層崩壊土に
　　Ⅳ層小粒10％含む
8　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性ややあり　締りなし　炭粉含む
　　Ⅲ～Ⅳ層崩壊土を上位に含む
9　7.5YR4/4褐　砂質シルト　粘性ややあり　締りなし
　　Ⅴ層崩壊土に焼土を全体に含む　炭細粒少量含む
10　10YR3/3 暗褐　砂　粘性、締りなし　炭粒含む
11　10YR4/4 褐　シルト　粘性に富む　締りあり　Ⅴ層起源の砂質土を
　　特に上位に30％含む　袖、天井の崩壊土
12　5YR3/3　暗赤褐　シルト　粘性あり　締りなし　焼土の崩壊土
　　炭片、焼土粒を含む
13　5YR4/3　にぶい赤褐　砂　粘性なし　締りあり　焼土
14　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性に富む　締りあり
15　10YR5/4 にぶい黄褐　シルト　粘性あり　締りややあり
　　1号カマド袖



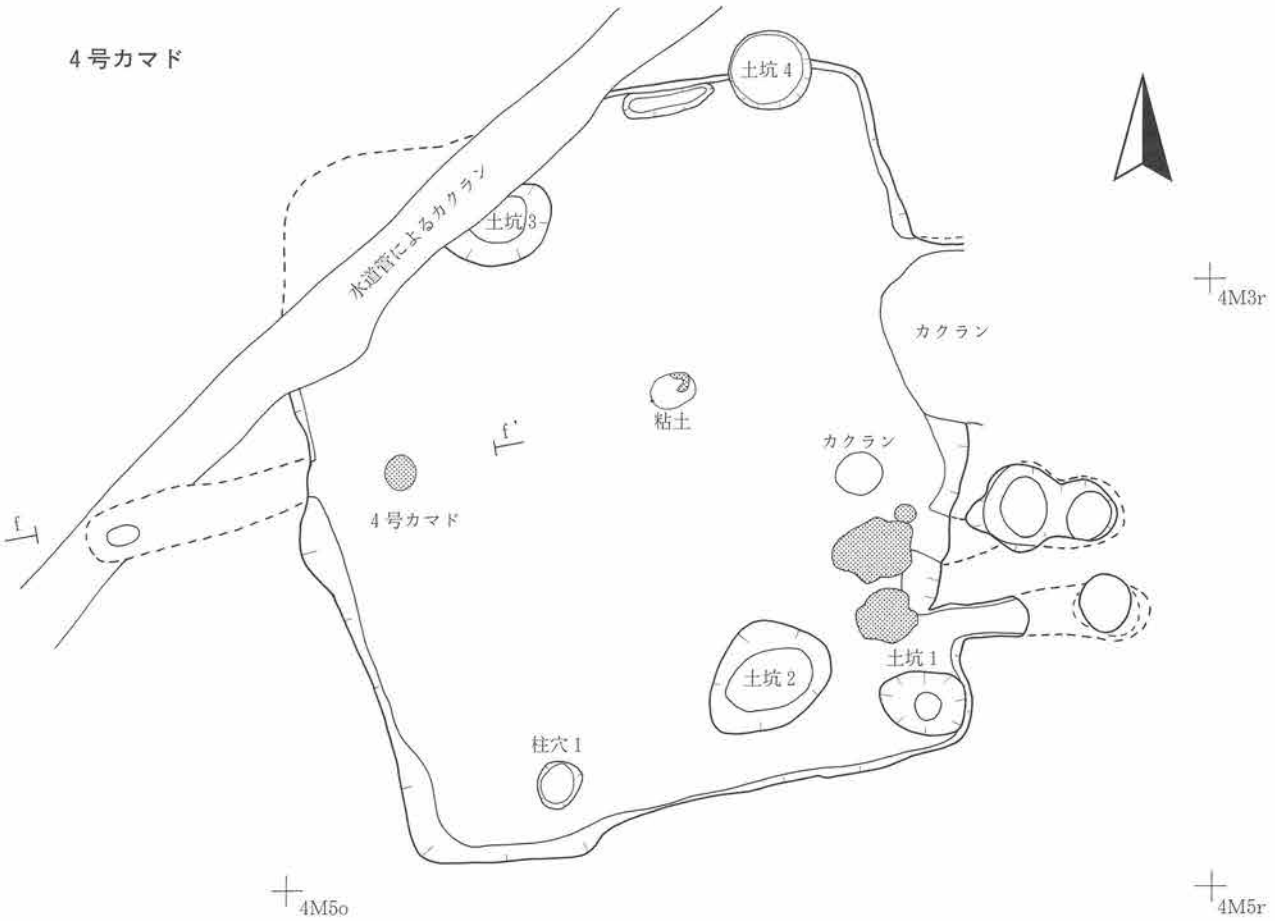

RA139（32号住）3号カマド2　b－b'
1　10YR4/3 にぶい　黄褐シルト　粘性あり　締りなし　焼土粒を含む
2　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　焼土　黄褐色土粒中～大、炭粒を含む
3　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　Ⅴ層起源の黄褐色ブロック大粒7％含む
4　5YR4/3　にぶい　黄褐シルト　粘性あり　締りあり　焼土
5　5YR3/2　暗赤褐　シルト　粘性あり　締りなし　焼土粒、炭粒含む
6　10YR5/4 にぶい黄褐　シルト　粘性あり　硬く締る　カマド天井か袖の崩落土
7　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　しまりややあり

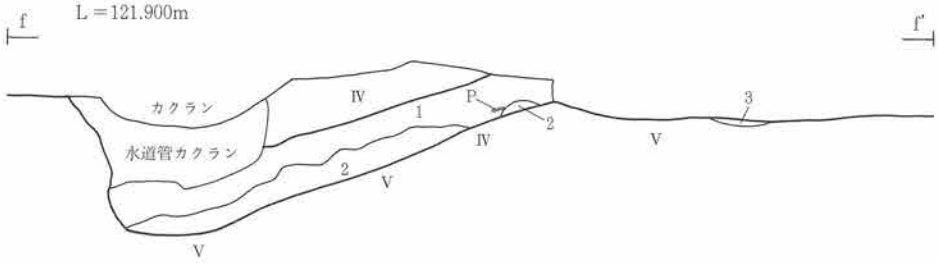



RA139（32号住）3号カマド1　e－e'
1　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　Ⅳ～Ⅴ層極大粒10％
2　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性、締りなし　全体に炭粒を含む
3　10YR5/6 黄褐　砂　粘性、締りなし　黒褐色ブロック30％
4　10YR2/3 黒褐　砂質シルト　粘性あり　締りなくⅥ層の砂を多く含みざらつく

0　1m

第62図　RA139竪穴住居跡（2）



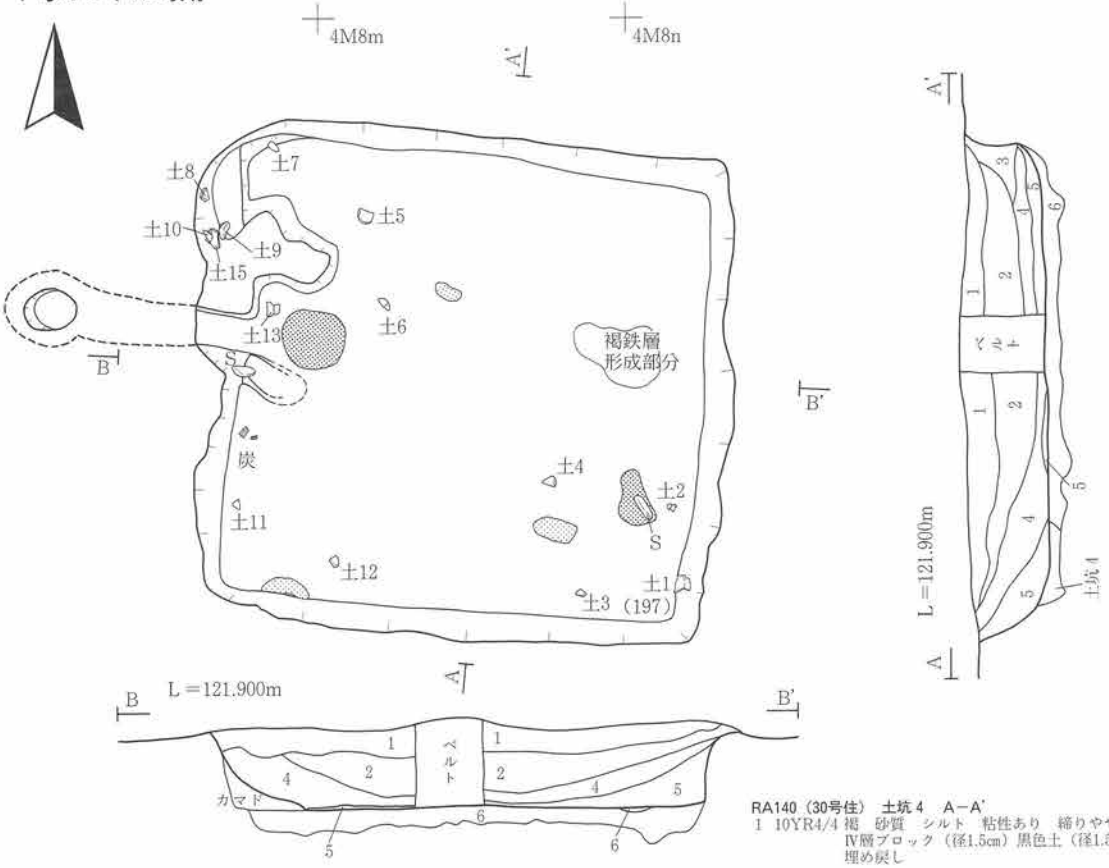




RA139（32号住）4号カマド　f−f'
1　10YR3/3 暗褐　砂質シルト　粘性、締りあり　V層粒大粒5％　炭粉含む
2　10YR4/3 褐　砂　粘性なし　締りあり　焼土ブロック大粒2％含む
3　5YR4/6　赤褐　砂　粘性なし　締りあり

0　1 m

第63図　RA139竪穴住居跡（3）

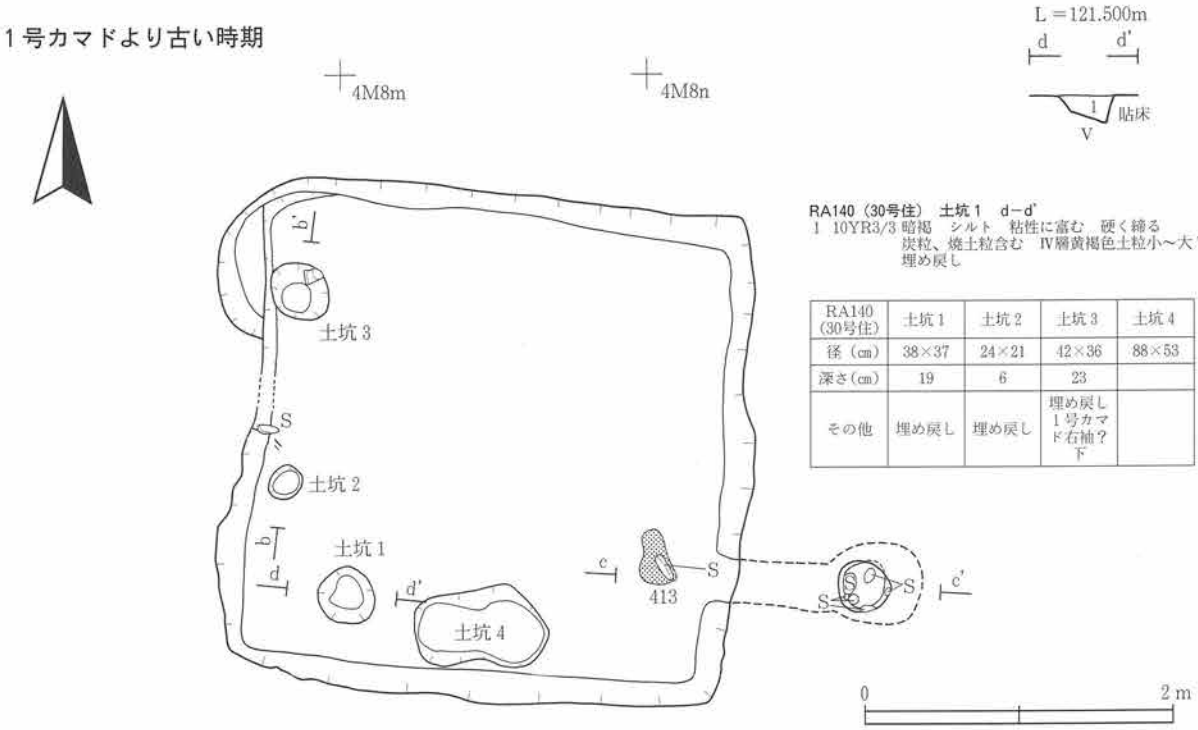
## 1号カマドの時期




RA140（30号住）　土坑4　A－A'
1　10YR4/4 褐　砂質　シルト　粘性あり　締りややあり
Ⅳ層ブロック（径1.5cm）黒色土（径1.5cm）の混合土
埋め戻し

RA140（30号住）　断面　B－B'
1　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　締りあり　Ⅳ層小粒５％
2　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　Ⅳ層粒小～極大15%　Ⅱ層ブロック大～極大７％　埋め戻し
3　10YR2/1 黒　シルト　粘性あり　締り弱　Ⅳ層極小粒２％
4　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性に富む　締り弱　Ⅱ層粒中～大５％　埋め戻し
5　10YR2/1 黒　シルト　粘性に富む　締り弱　Ⅳ層粒小～中２～７％
6　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　硬く締る　Ⅱ層黒色土ブロック、Ⅳ～Ⅴ層の褐色土ブロックを斑に混合　貼床
6'　上記に褐鉄層が入る

## 1号カマドより古い時期

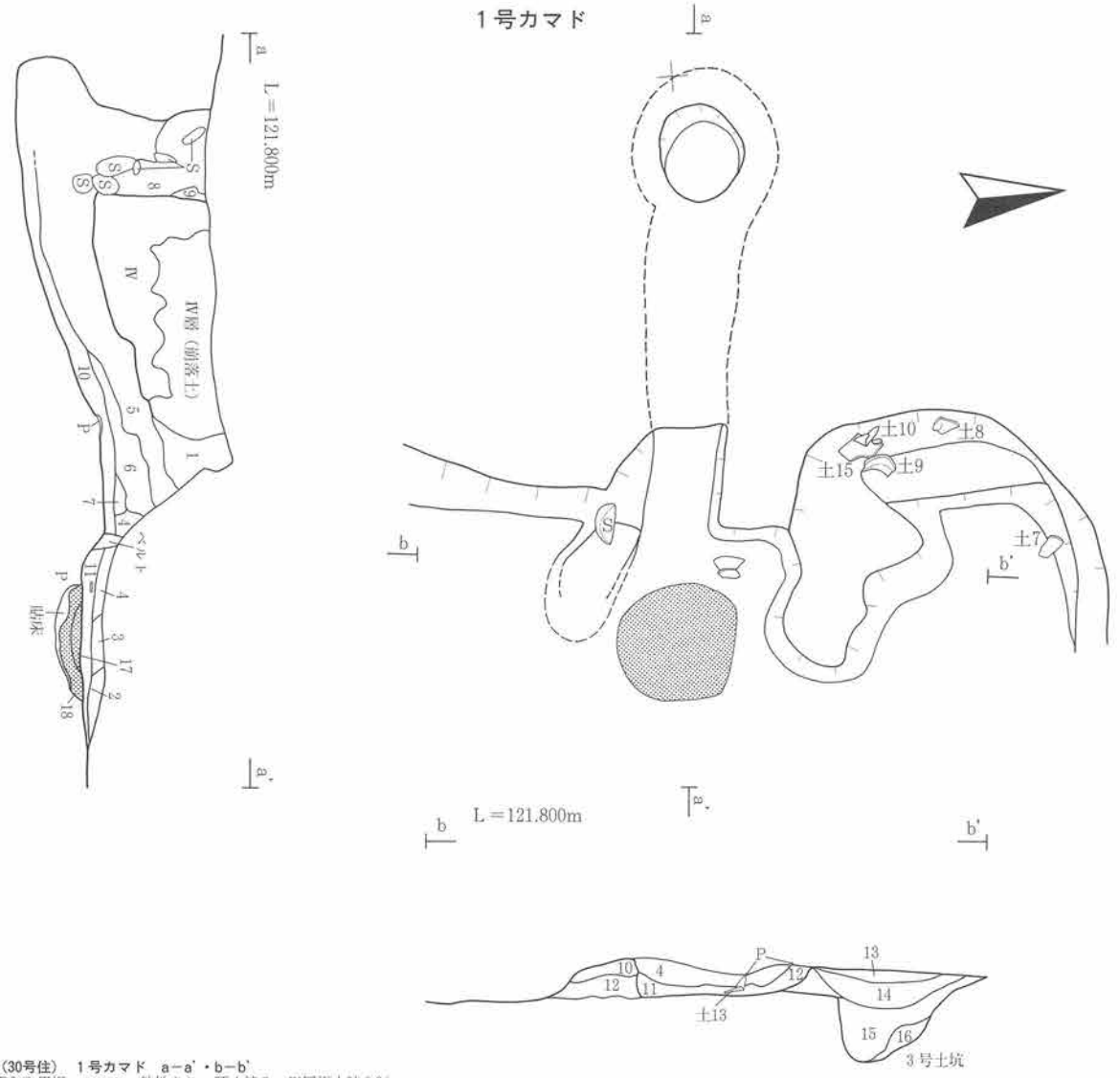



RA140（30号住）　土坑1　d－d'
1　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性に富む　硬く締る
炭粒、焼土粒含む　Ⅳ層黄褐色土粒小～大７％
埋め戻し

| RA140（30号住） | 土坑1 | 土坑2 | 土坑3 | 土坑4 |
|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 38×37 | 24×21 | 42×36 | 88×53 |
| 深さ（cm） | 19 | 6 | 23 | |
| その他 | 埋め戻し | 埋め戻し | 埋め戻し 1号カマド右袖？下 | |

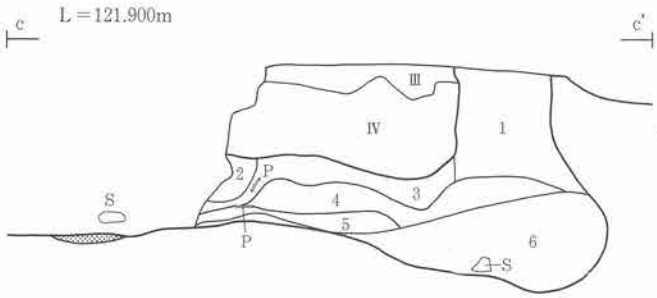
第64図　RA140竪穴住居跡（1）

## 1号カマド




RA140（30号住） 1号カマド a－a'・b－b'
1 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性あり 硬く締る Ⅳ層極小粒３％
2 5YR4/4 にぶい赤褐 シルト 粘性あり 締りなし Ⅳ層起源の黄褐色土粒、炭粒を含む 焼土を全体に含む
3 5YR5/6 明赤褐 シルト 粘性あり 締りあり 下面が焼土化 崩落したカマド天井
4 10YR3/4 暗褐 シルト 粘性あり 締りあり Ⅳ層起源の黄褐色土粒小粒10% 焼土粒小粒３％
5 10YR3/2 黒褐 シルト 粘性あり 入り口付近は硬く締る 煙道は締りなし Ⅳ層極小～極大粒５％
6 10YR6/8 明黄褐 シルト Ⅳ層起源の土 天井崩壊土？ 黒褐色土ブロック７％
7 5YR5/8 明赤褐 シルト 粘性、締りあり 暗褐色土ブロック中粒７％ 落ちた焼土
8 10YR4/6 褐 シルト 粘性に富む 締りなし Ⅳ層小～中粒５％ 埋め戻し
9 10YR4/4 褐 シルト 粘性に富む 締りあり 暗褐色土中粒７％
10 10YR4/6 褐 シルト 粘性あり 締りなし 黒褐色土大粒３％
11 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性に富む 締りなし 微細な焼土 炭粒含む
12 10YR3/2 黒褐 シルト 粘性に富む 締りあり 炭粒含む
13 10YR5/8 黄褐 粘土 粘性あり 締りあり 暗褐色土粒小～大粒３％ 上位に焼土ブロック少量含む
14 10YR5/6 黄褐 粘土 粘性あり 締りあり 暗褐色シルトブロック30%含む
15 10YR3/2 黒褐 シルト 粘性あり 締りあり Ⅳ～Ⅴ層ブロック中～極大20%
16 10YR5/6 黄褐 砂 粘性あり 締りなし Ⅴ層崩壊土に暗褐シルトを少量含む
17 7.5YR6/8橙 シルト 粘性ややあり 非常に硬い 焼土
18 5YR6/8 橙 シルト 粘性に富む 締りなし 焼土

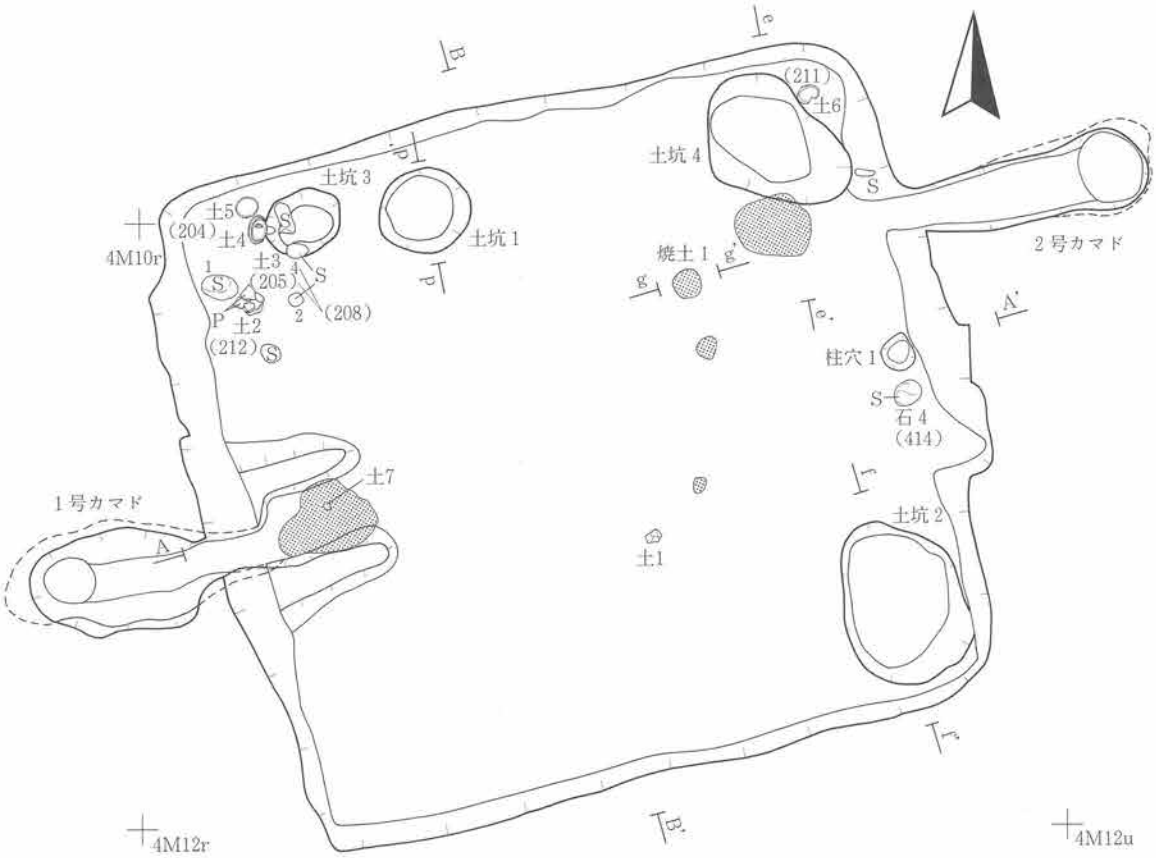
## 2号カマド

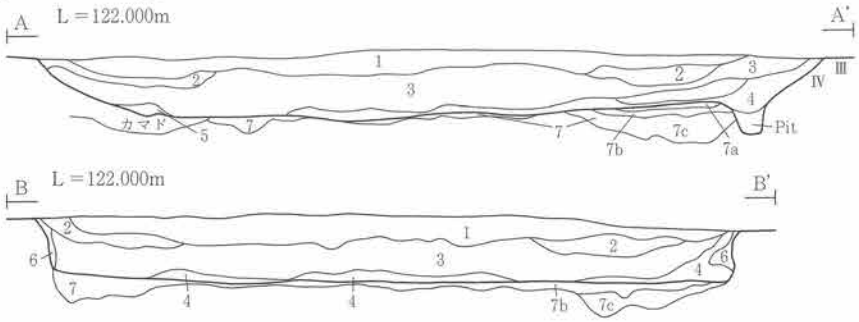



RA140（30号住） 2号カマド c－c'
1 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性に富む 締りあり Ⅳ層粒小～大粒15%
2 10YR4/6 褐 砂質シルト 粘性ややあり 締りあり 黒褐色土中粒３％
3 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性あり 締りなし カーボン粉含む Ⅴ層小～中粒７％
4 10YR4/6 褐 砂質シルト 粘性、締りなし 黒褐色土小～大粒２％
5 10YR4/6 褐 砂質シルト 粘性ややあり 締りなし 黒褐色土小粒３％ 焼土粒３％
6 10YR4/6 褐 砂 粘性、締りなし Ⅴ層崩壊土に黒色土を含む
7 5YR4/6 赤褐 シルト 粘性なし 締りあり 焼土

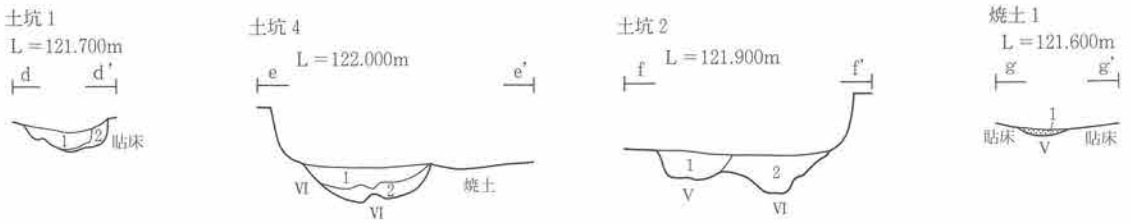
0 1m

第65図 RA140竪穴住居跡（２）




RA141（33号住）
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性、締りあり　To－a 粒小～極大を 0 ～ 3 %含む
2　10YR2/2 黒褐　シルト　1 層より暗い　粘性、締りややあり　混入物なし
3　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　Ⅳ層小～極大のぼんやりした粒10%、黒色土（10YR2/1）のぼんやりしたブロック10%含む　埋め戻しか
4　10YR2/1 黒～10YR3/2黒褐　シルト　粘性なし　締りあり　V層大粒 2 %
5　10YR4/4 褐　シルト　粘性あり　締りなし　カマド崩壊土
6　10YR5/6 黄褐　砂質シルト　粘性、締りややあり　黒褐色土ブロック10～15%
7a　10YR4/6 褐　砂質シルト　粘性なし　非常に硬く締る　褐鉄層
貼り床上面が生活面
7b　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　硬く締る　V層ブロック（径 5 cm）との混合土貼り床
7c　10YR3/3 暗褐　砂　粘性なし　締りあり　V層砂と黄褐色土（径 2 cm）暗褐色土ブロック（径 2 cm）との混合土　貼り床




RA141（33号住）　土坑 1
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性ややあり　締りなし　混入物少ない
2　10YR3/3 暗褐　砂質シルト　粘性、締りなし　V層崩壊土が斑に混入

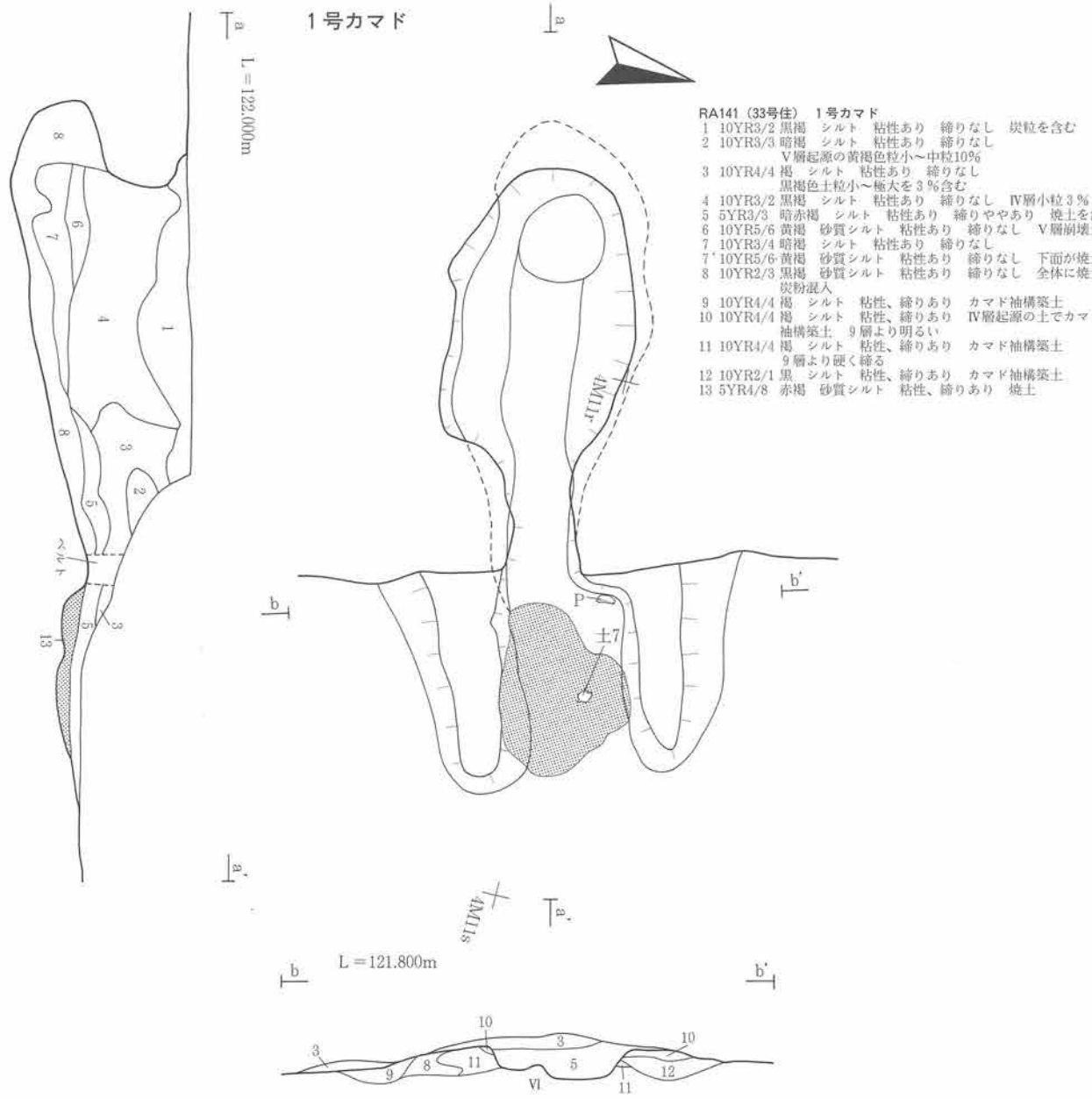
RA141（33号住）　土坑 4
1　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性、締りなし　V層の砂大～極大粒 7 %
2　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり、締りややあり　焼土粒少量

RA141（33号住）　床面焼土 1
1　5YR3/4　暗赤褐～5YR4/6赤褐　砂質シルト　粘性、締りあり　焼土

RA141（33号住）　土坑 2
1　10YR2/3 黒褐　砂質シルト　粘性、締りなし　V層起源の黄褐色砂ブロック10%
2　10YR2/3 黒褐　砂質シルト　粘性、締りなし　V層起源の黄褐色砂ブロック15%

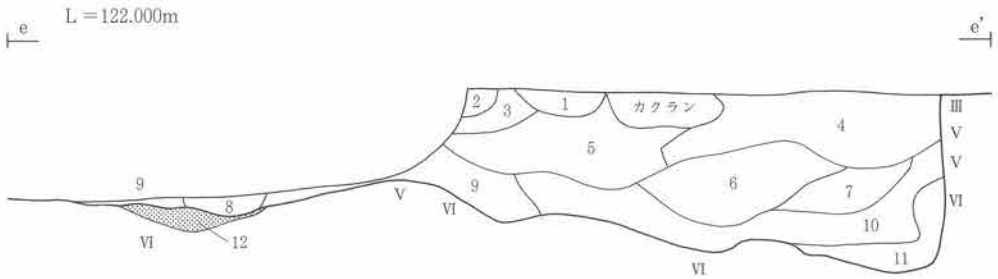
| RA141（33号住） | 柱穴 1 | 土坑 1 | 土坑 2 | 土坑 3 | 土坑 4 |
|---|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 26×23 | 57×57 | 119×78 | 52×40 | 106×73 |
| 深さ（cm） | 17 | 23 | 27 | 15 | 27 |
| その他 | | | | | 2 号カマドを切る |

第66図　RA141竪穴住居跡（1）




RA141（33号住） 1号カマド
1 10YR3/2 黒褐 シルト 粘性あり 締りなし 炭粒を含む
2 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性あり 締りなし
Ⅴ層起源の黄褐色粒小～中粒10%
3 10YR4/4 褐 シルト 粘性あり 締りなし
黒褐色土粒小～極大を3%含む
4 10YR3/2 黒褐 シルト 粘性あり 締りなし Ⅳ層小粒3%
5 5YR3/3 暗赤褐 シルト 粘性あり 締りややあり 焼土を含む
6 10YR5/6 黄褐 砂質シルト 粘性あり 締りなし Ⅴ層崩壊土
7 10YR3/4 暗褐 シルト 粘性あり 締りなし
7' 10YR5/6 黄褐 砂質シルト 粘性あり 締りなし 下面が焼土化
8 10YR2/3 黒褐 砂質シルト 粘性あり 締りなし 全体に焼土、
炭粉混入
9 10YR4/4 褐 シルト 粘性、締りあり カマド袖構築土
10 10YR4/4 褐 シルト 粘性、締りあり Ⅳ層起源の土でカマドの
袖構築土 9層より明るい
11 10YR4/4 褐 シルト 粘性、締りあり カマド袖構築土
9層より硬く締る
12 10YR2/1 黒 シルト 粘性、締りあり カマド袖構築土
13 5YR4/8 赤褐 砂質シルト 粘性、締りあり 焼土

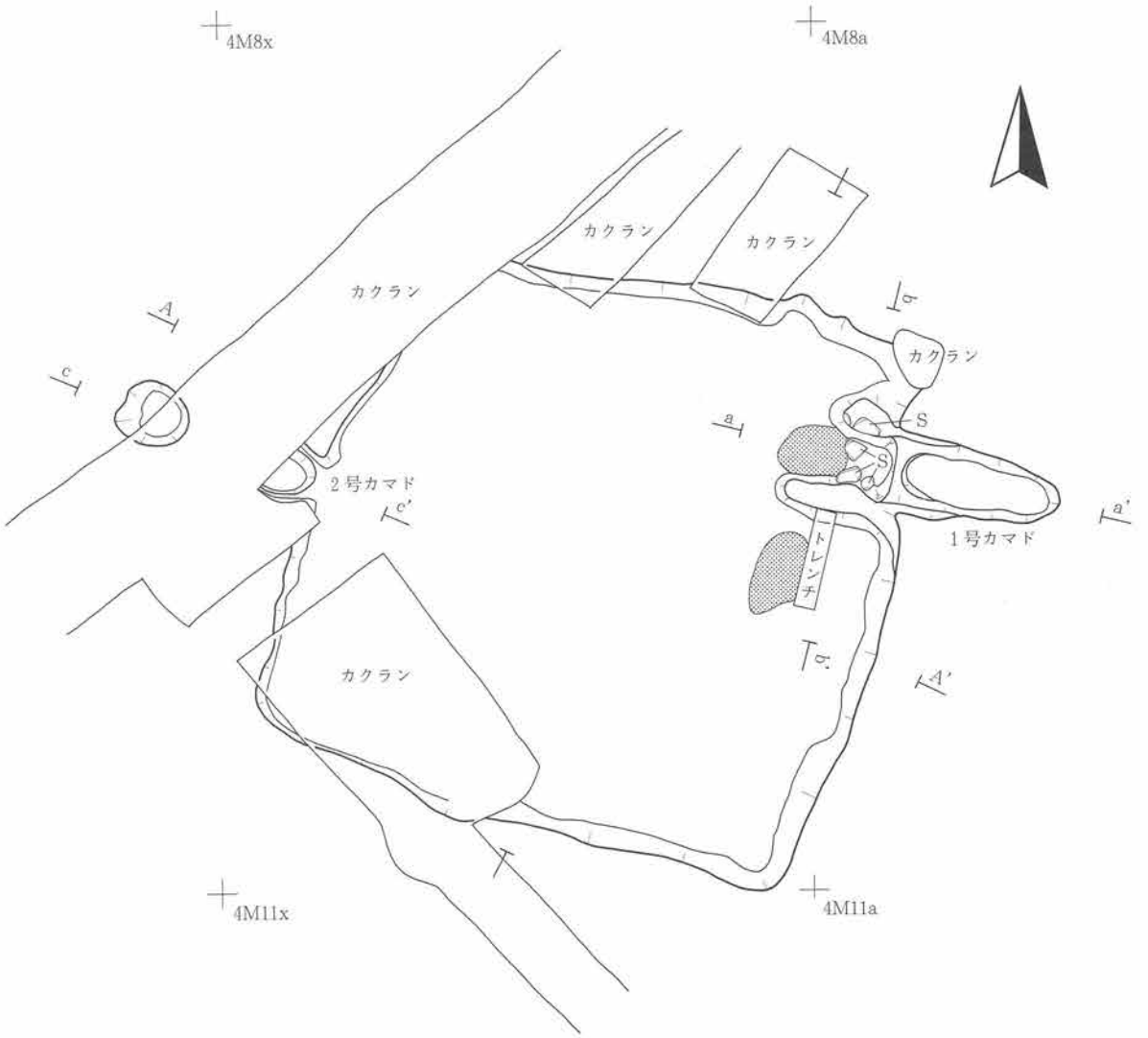
## 2号カマド

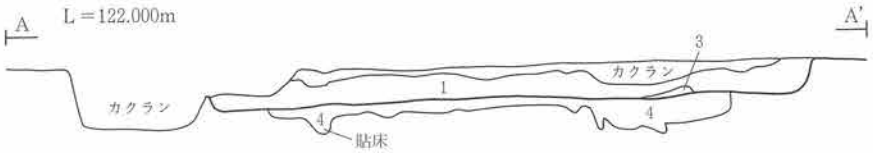



RA141（33号住） 2号カマド a－a'・b－b'・e－e'
1 10YR3/2 黒褐 砂質シルト 粘性、締りなし Ⅱ層崩壊土
2 10YR3/2 黒褐 シルト 粘性なし 締りあり 焼土粒を含む
3 10YR3/4 暗褐 砂質シルト 粘性、締りなし 黒褐色土ブロック30%
4 10YR2/1 黒 砂質シルト 粘性なし 締りややあり
5 10YR5/6 黄褐 砂 粘性なし 締りあり Ⅴ層崩壊土
6 10YR3/3 暗褐 砂 粘性、締りなし Ⅴ層崩壊土 焼土含む
7 10YR5/6 黄褐 砂 粘性なし 締りなし Ⅴ層崩壊土
8 10YR2/2 黒褐 砂質シルト 粘性ややあり 締りなし 焼土小粒3%
9 10YR2/3 黒褐 砂質シルト 粘性、締りなし 炭粉含む
10 10YR3/3 暗褐 砂 粘性、締りなし 炭粉を多く含む
11 10YR5/4 にぶい黄褐 砂 粘性、締りなし Ⅴ層、Ⅵ層崩壊土
12 5YR4/8 赤褐 砂質シルト 粘性あり 下層は砂で締りはないが、上層は締りあり 焼土

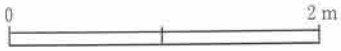
0 1m

第67図 RA141竪穴住居跡（2）

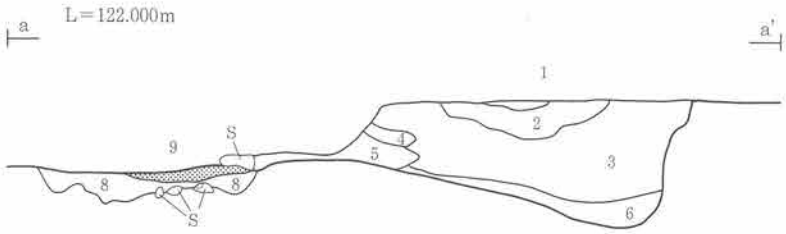


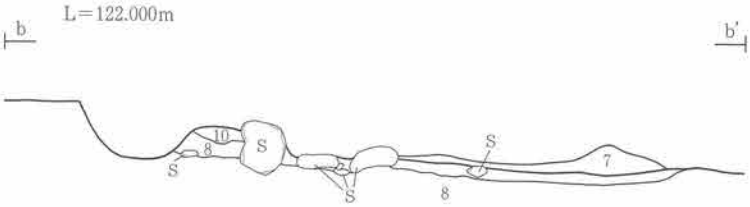



RA142（34号住）　A－A'・B－B'
1　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや疎　灰（形状はパイプ状で、φ20×2㎜、カヤ？）3％混入
1a　10YR2/1 黒　シルト　粘性やや強　締りやや疎
2　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性やや弱　締り中　黄褐砂質土10％混入
3　10YR4/4 褐　粘土　粘性やや強　締り密（※非常に硬い、床に貼った土なのかはわからなかった）
4　10YR2/1 黒　シルト　粘性やや強　締りやや密　暗褐粘土質土（上面の所々に灰白の粘土が含まれる）5％混入（※貼床）

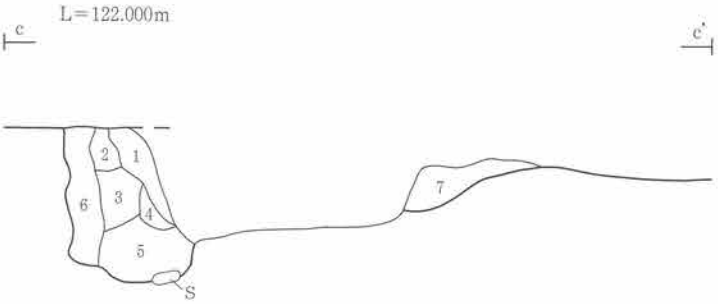



第68図　RA142竪穴住居跡（1）

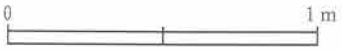


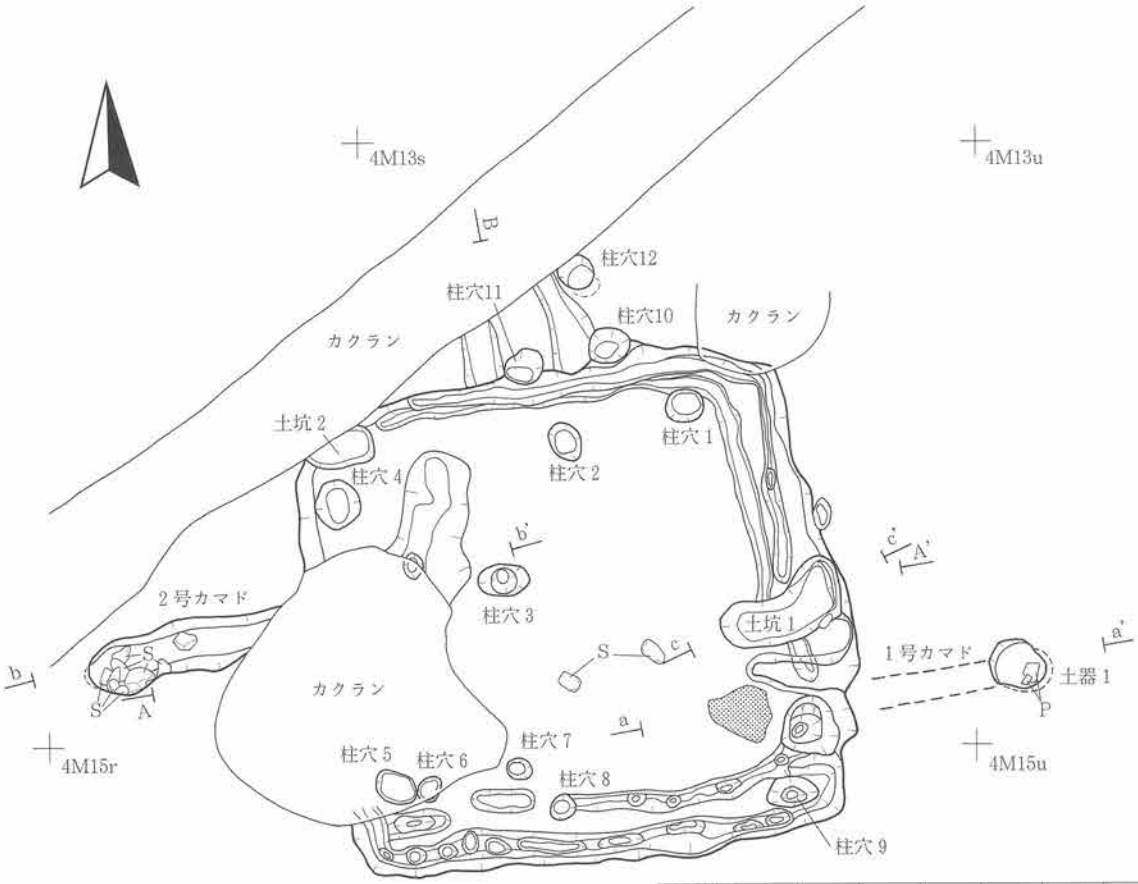

RA142（34号住） 1号カマド a－a'・b－b'
1 10YR3/4 暗褐粘土質 シルト 粘性やや強 締り中（※人為堆積層）
2 10YR4/3 にぶい黄褐 粘土質土 粘性やや強 締りやや密（※人為堆積層）
3 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性やや強 締りやや疎 黄褐粘土ブロック3％混入
4 10YR4/4 褐 粘土 粘性中 締りやや密
5 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性やや強 締り中（※やや焼成受ける）
6 10YR4/4 褐 シルト質砂質土 粘性中 締りやや疎
7 10YR4/4 褐 シルト質粘土質土 粘性やや強 締りやや密（※カマド崩壊土）
8 10YR2/2 黒褐 シルト質砂質土 粘性中 締りやや密（※貼床）
9 10YR3/4 暗褐 焼土 粘性中 締り中（※燃焼部）
10 10YR4/3 にぶい黄褐 粘土 粘性やや強 締り密（※袖構築土）




RA142（34号住） 2号カマド c－c'
1 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締り中
2 10YR4/4 褐 砂質シルト 粘性弱 締り疎
3 10YR3/3 暗褐 砂質シルト 粘性やや弱 締りやや疎
4 10YR4/4 褐 シルト質砂質土 粘性中 締りやや疎
5 10YR2/1 黒 シルト質砂質土 粘性中 締りやや疎
6 10YR5/6 黄褐 砂質土 粘性弱 締り疎（※地山崩壊土）
7 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性やや強 締り中 焼土粒3％混入

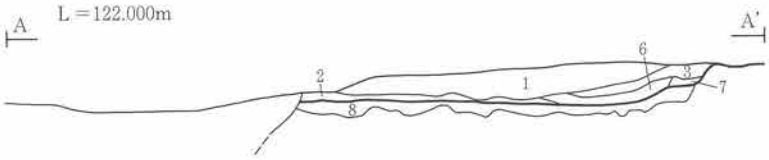


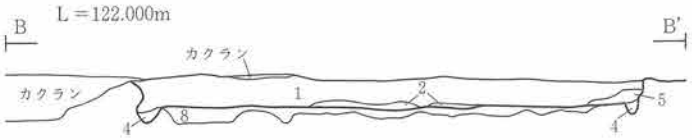

第69図 RA142竪穴住居跡（2）



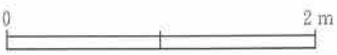

| RA143 (36号住) | 柱穴1 | 柱穴2 | 柱穴3 | 柱穴4 | 柱穴5 | 柱穴6 | 柱穴7 | 柱穴8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 24×22 | 26×20 | 34×24 | 33×30 | 27×18 | 16×14 | 17×14 | 16×14 |
| 深さ(cm) | 8 | 17 | 37 | 10 | 23 | 16 | 8 | 5 |
| その他 | | | | | | | | |

| 柱穴9 | 柱穴10 | 柱穴11 | 柱穴12 | 土坑1 | 土坑2 |
|---|---|---|---|---|---|
| 35×24 | 28×28 | 26×24 | 24×24 | 82×35 | 45×26 |
| 15 | 18 | 24 | 36 | 6～40 | 7 |
| | | | | | |



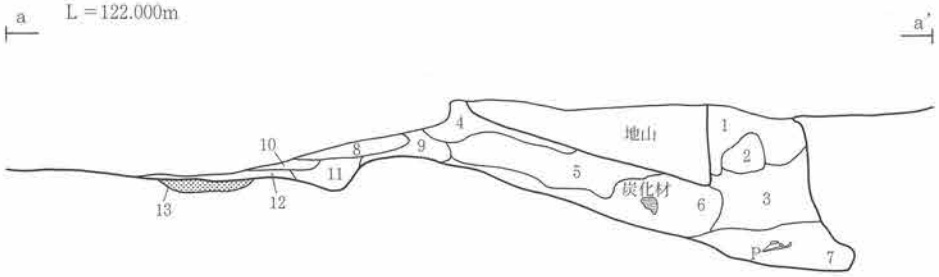




RA143（36号住）　A－A'・B－B'
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中　黄褐粘土ブロック７％（※人為堆積）
2　10YR2/3 黒　シルト質粘土　粘性やや強　締りやや密（※１層より色調が明るく硬い、明確ではないが新しい段階の貼床の可能性あり）
3　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや疎　黄褐粘土ブロック３％混入
4　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性やや弱　締りやや密（※壁溝埋土）
5　10YR2/1 黒　シルト　粘性やや強　締り密　土器小片少量混入
6　10YR4/4 褐　粘土質土　粘性やや強　締り密（※カマド構築土の崩壊した土層と考えられる）
7　10YR3/4 暗褐　粘土質砂質土　粘性やや強　締りやや密
8　10YR4/6 褐　粘土質土　粘性やや強　締りやや密　黒褐シルト10%混入（※貼床）



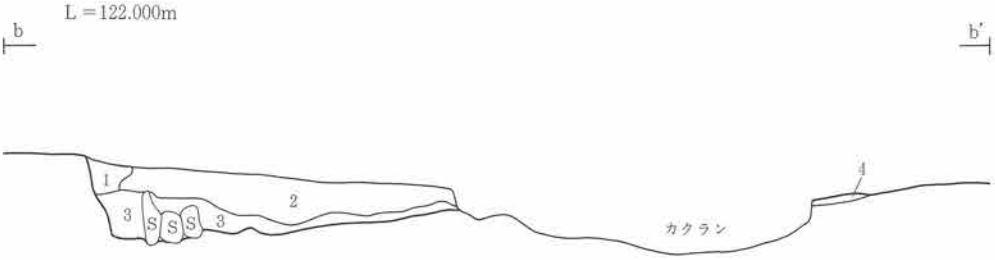

第70図　RA143竪穴住居跡（１）

## 1号カマド



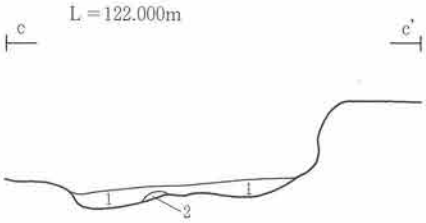

RA143（36号住） カマド1 a－a'
1 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性中 締り中 褐砂質土10%混入（※人為堆積層）
2 10YR4/6 褐 砂質粘土 粘性やや強 締り中（※人為堆積層）
3 10YR4/3 にぶい黄褐 砂質粘土 粘性やや強 締りやや密（※人為堆積層）
4 10YR3/3 暗褐 砂質シルト 粘性中 締りやや疎 黄褐砂質粘土５%混入
5 10YR4/6 褐 粘土質砂質土 粘性中 締り中（※人為堆積層？）
6 10YR3/3 暗褐 粘土質砂質土 粘性中 締り中 炭化材少量混入
7 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性やや強 締りやや疎 土器（甕の口縁～体部片）混入（※人為堆積層？）
8 10YR1.7/1 黒 シルト 粘性中 締りやや疎
9 10YR3/4 暗褐 シルト質粘土 粘性やや強 締り中
10 10YR2/3 黒褐 シルト質粘土 粘性やや強 締りやや疎
11 10YR5/6 黄褐 粘土質土 粘性やや強 締りやや密 暗褐シルト10%混入
12 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中
13 5YR3/4 暗褐 埴土 粘性やや強 締りやや密（※現地性、燃焼部）

## 2号カマド



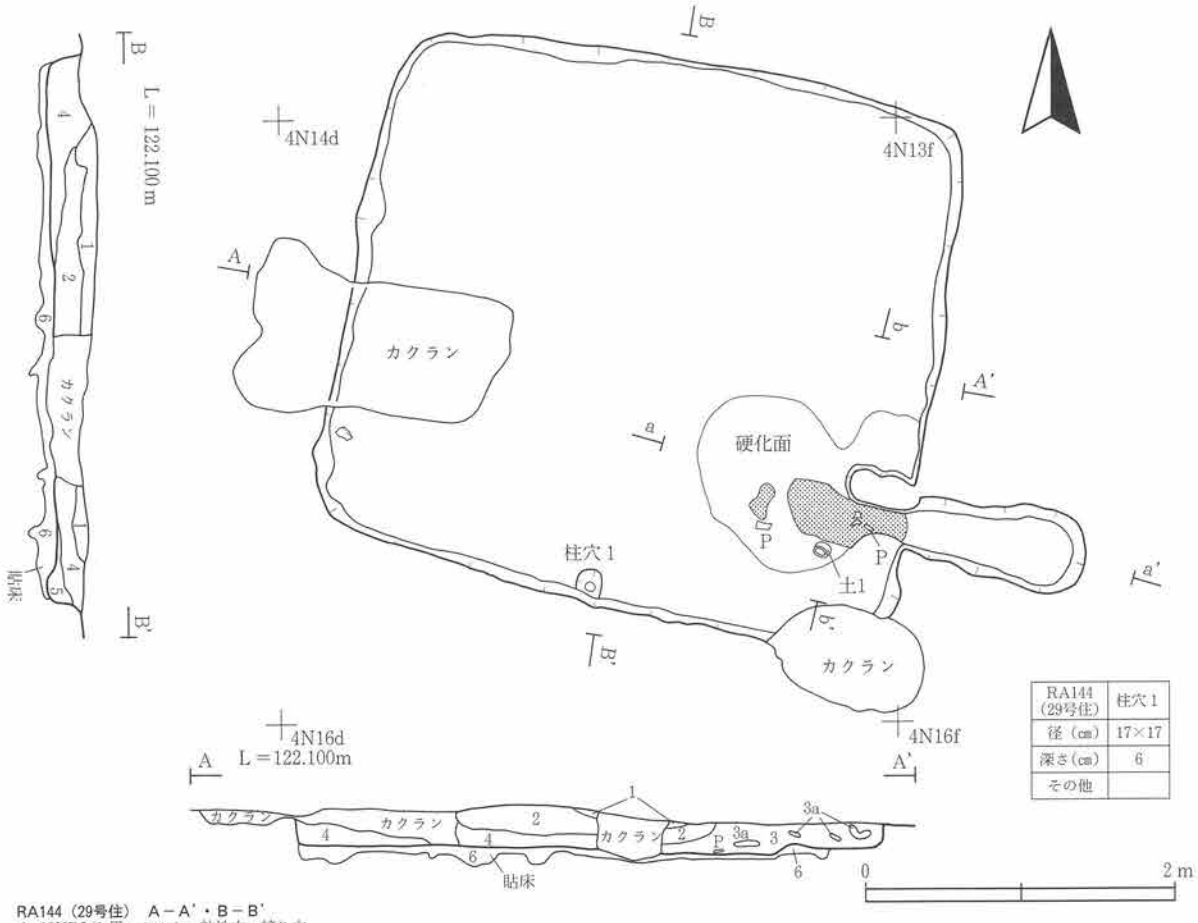

RA143（36号住） カマド2 b－b'
1 10YR4/4 褐 粘土質土 粘性やや強 締り密（※若干酸化した部分が見られる）
2 10YR3/4 暗褐 シルト 粘性中 締りやや密 褐～黄褐粘土ブロック５%混入（※人為堆積層）
3 10YR4/3 にぶい黄褐 シルト質粘土 粘性やや強 締りやや密 φ10～20cm礫多量混入
4 10YR4/6 褐 粘土質土 粘性やや強 締りやや密 黒褐シルト10%混入（※貼床）

## 土坑1




RA143（36号住） 土坑1 c－c'
1 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性やや強 締り中
2 10YR6/6 明黄褐 粘土質土 粘性強 締りやや密

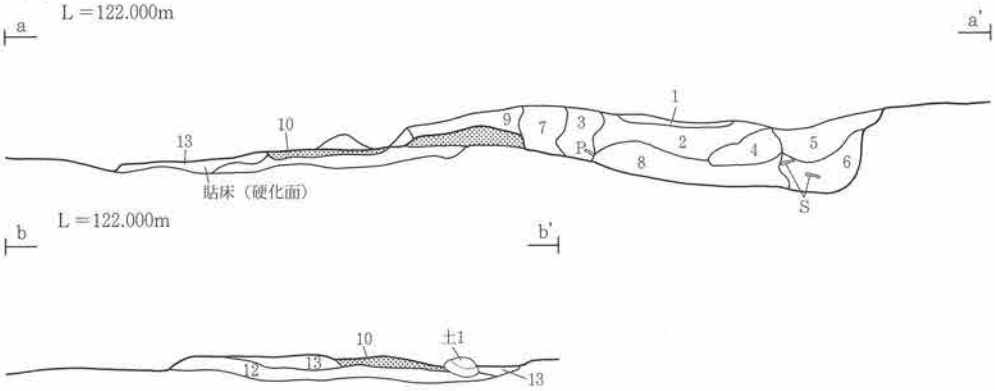
第71図 RA143竪穴住居跡（2）




| RA144（29号住） | 柱穴1 |
|---|---|
| 径（cm） | 17×17 |
| 深さ（cm） | 6 |
| その他 | |

RA144（29号住）　A－A'・B－B'
1　10YR2/1 黒　シルト　粘性中　締り中
2　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締りやや疎　黄褐粘土ブロック５％・褐砂質土20%混入
3　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締り中
3a　10YR5/6 黄褐　粘土　粘性中　締り密
4　10YR4/4 褐　砂質シルト　粘性中　締り中　黄褐粘土ブロック10%
5　10YR5/6 黄褐　粘土　粘性中　締り密
6　10YR4/6 褐　シルト質粘土　粘性やや弱　締り密　黒褐シルト10%混入（※貼床）

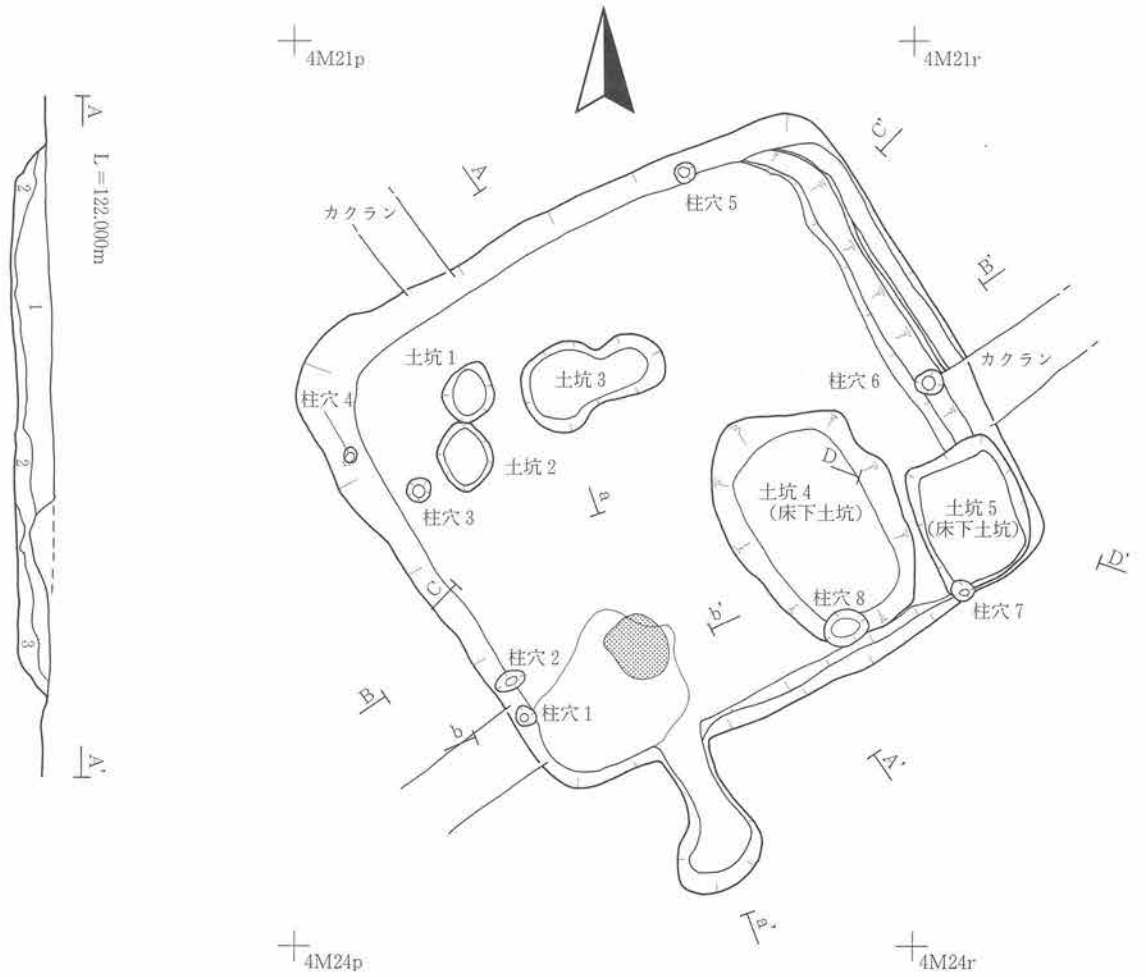
**カマド**

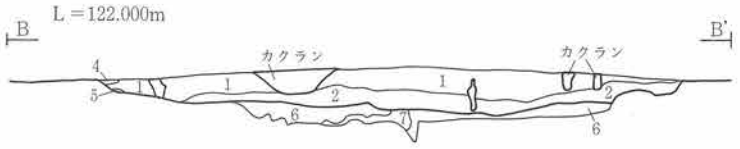


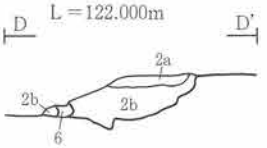

RA144（29号住）　カマドa－a'・b－b'
1　10YR4/3 にぶい黄褐　粘土質シルト　粘性やや強　締りやや密　黒褐シルト10%混入（※人為堆積層）
2　10YR2/1 黒　シルト　粘性やや強　締り疎
3　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性中　締りやや疎（※やや焼成を受けた土）
4　7.5YR4/4褐　シルト　粘性やや強　締り中（※弱い焼土）
5　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締り疎　黄褐粘土10%混入（※人為堆積層）
6　10YR2/1 黒　シルト　粘性やや強　締りやや疎
7　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締りやや密
8　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締りやや疎
9　10YR5/6 黄褐　砂質粘土　粘性やや弱　締り中（※カマド崩壊土）
10　10YR3/4 暗褐　焼土　粘性中　締りやや密（※焼成の弱い焼土）
11　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締りやや密（※７層と同層？）
12　10YR4/4 褐　シルト質粘土　粘性中　締り中　焼土ブロック３％混入（※やや焼成受ける）
13　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性中　締りやや密（※カマド周辺の硬化面を形成する貼床）

0　1m

第72図　RA144竪穴住居跡






| RA145（25号住） | 土坑 1 | 土坑 2 | 土坑 3 | 土坑 4 | 土坑 5 |
|---|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 38×32 | 42×32 | 90×56 | 164×114 | 88×70 |
| 深さ（cm） | 6 | 5 | 3 | 15～18 | 8～16 |
| その他 | | | | 床下 | 床下 |

| RA145（25号住） | 柱穴 1 | 柱穴 2 | 柱穴 3 | 柱穴 4 | 柱穴 5 | 柱穴 6 | 柱穴 7 | 柱穴 8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 12×12 | 20×12 | 16×16 | 8×8 | 12×12 | 18×16 | 14×14 | 30×22 |
| 深さ（cm） | 7 | 11～20 | 10 | 7 | 3～8 | 7 | 4～7 | 11 |

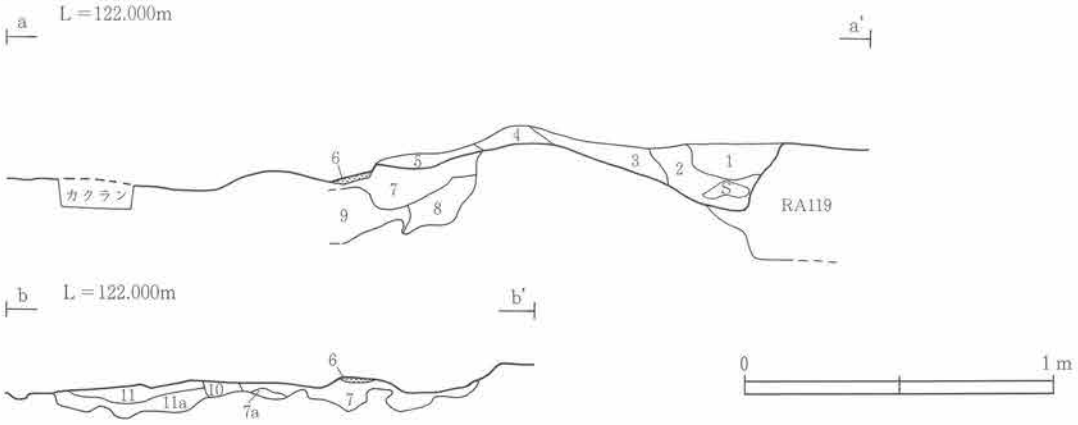
**RA145（25号住）　A－A'・B－B'・C－C'**

1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締りやや密
2　10YR2/3 黒褐シルトと10YR5/8黄褐砂質シルトの混土　粘性やや強　締りやや密（※整地層）
2a　10YR5/8 黄褐　粘土質シルト　粘性中　締り密　黒褐シルト10%混入（※整地層）
2b　10YR2/1 黒　シルト　粘性やや強　締り密（※構築土）
3　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中　黄褐砂質シルト７%混入
4　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性やや強　締りやや密
5　10YR4/3 にぶい黄褐　シルト質粘土　粘性中　締り中
6　10YR3/3 暗褐シルトと10YR5/6黄褐粘土質砂質土の混土　粘性中　締り（※貼床）
7　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締りやや密　黄褐砂質土10%混入（※貼床）
8　10YR2/1 黒　シルト　粘性やや強　締り密

0　2 m

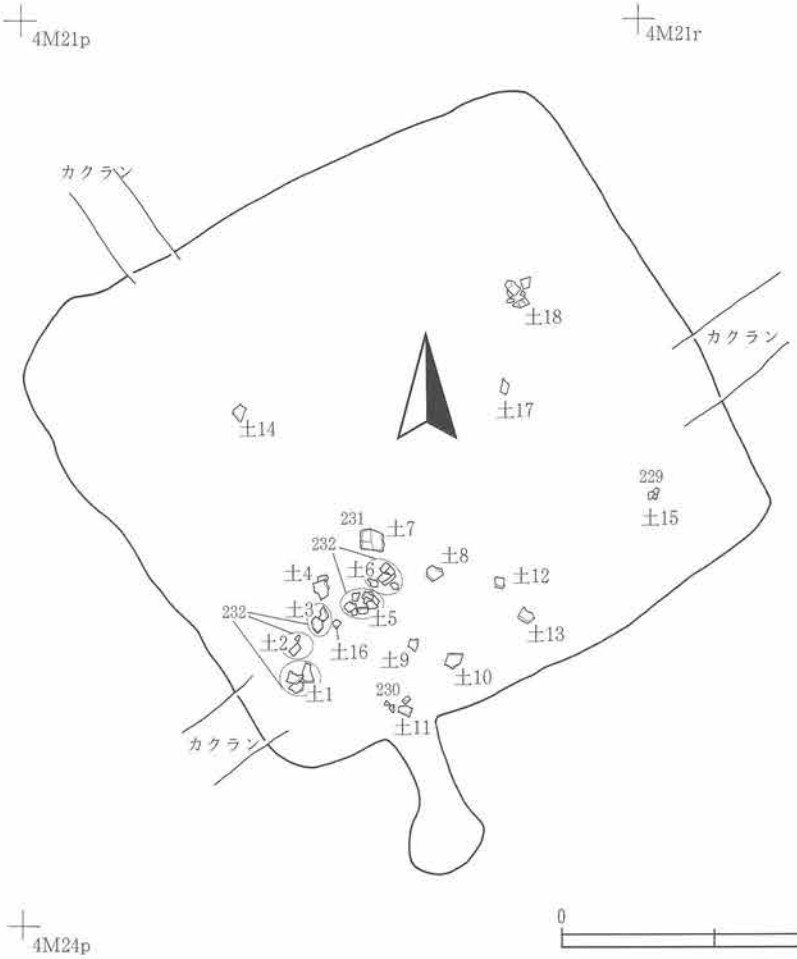
第73図　RA145竪穴住居跡（１）

## カマド

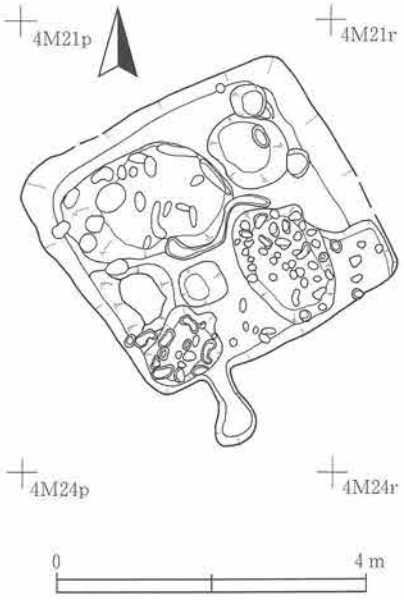



RA145（25号住）　カマドａ－ａ'・ｂ－ｂ'・ｃ－ｃ'
1　10YR5/6 黄褐砂質土　粘性中　締り中　黒褐シルト20%混入（※地山土を主体とする人為堆積層）
2　10YR2/3 黒褐シルト　粘性やや強　締りやや密　黄褐粘土質砂質土15%混入
3　10YR2/2 黒褐シルト　粘性やや強　締りやや密
4　10YR3/3 暗褐シルト　粘性やや強　締りやや密（※基本層序Ⅲ層に由来する土層）
5　10YR2/2 黒褐シルト　粘性中　締り中（※やや焼土化している）
6　5YR4/8　赤褐焼土　粘性中　締り中　5YR6/8橙焼土粒（φ３～５㎜）３%混入
7　10YR1/2 黒シルト　粘性やや強　締り中（※構築土）
7a　10YR5/6 黄褐砂質土　粘性やや強　締り密
8　10YR2/2 黒褐シルト　粘性やや強　締りやや密　黄褐砂質土７%混入（※人為層）
9　10YR2/2 黒褐シルト　粘性やや強　締り密　黄褐砂質土30%混入（※８層より硬く締まる、貼床）
10　10YR5/6 黄褐粘土　粘性やや強　締りやや密　暗褐シルト30%混入（※整地層）
11　10YR5/6 黄褐粘土　粘性やや強　締り密　暗褐シルト30%混入（※整地層）
11a　10YR2/1 黒粘土質シルト　粘性強　締り密　黄褐粘土10%混入（※整地層）

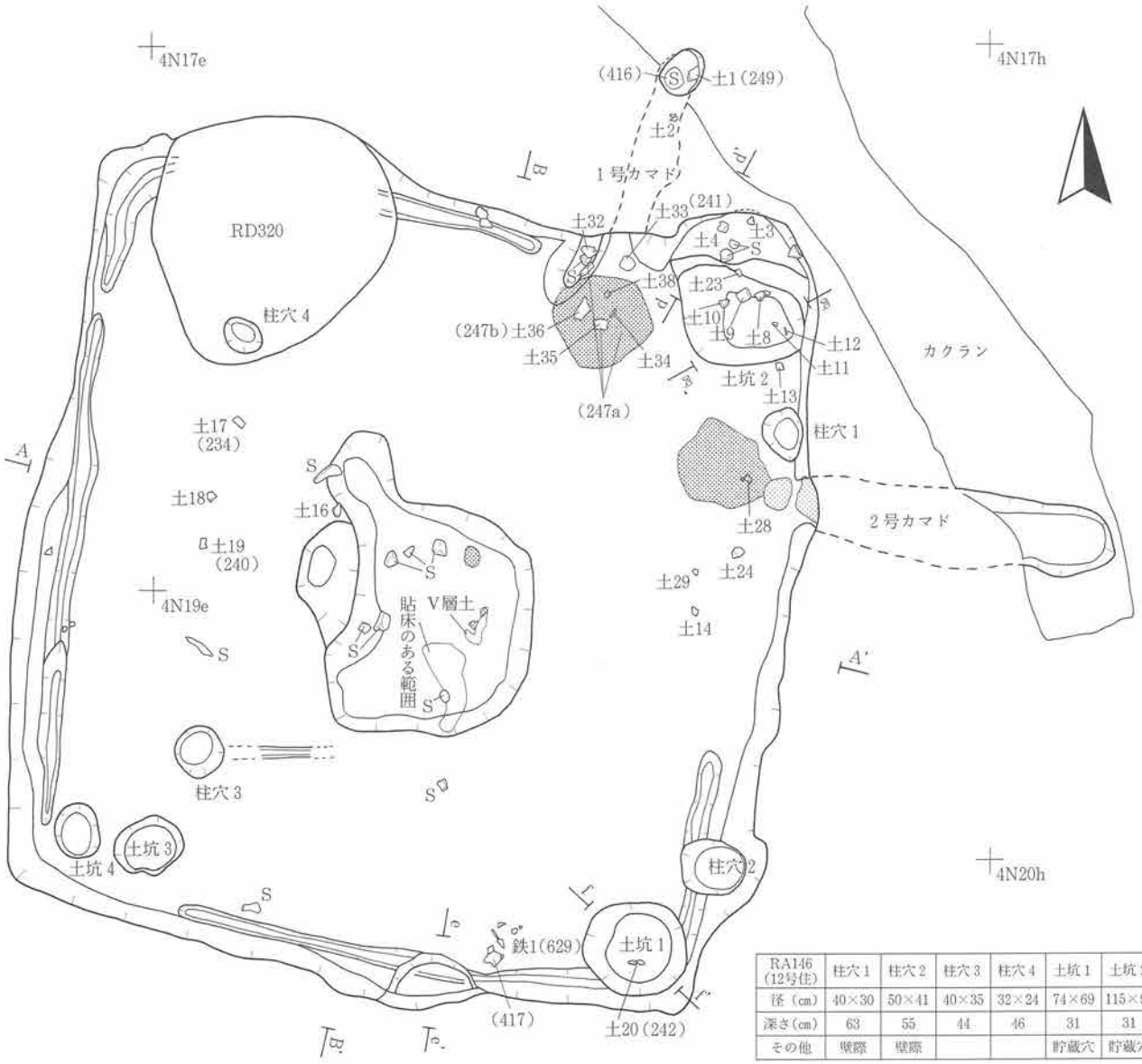
## 遺物出土状況



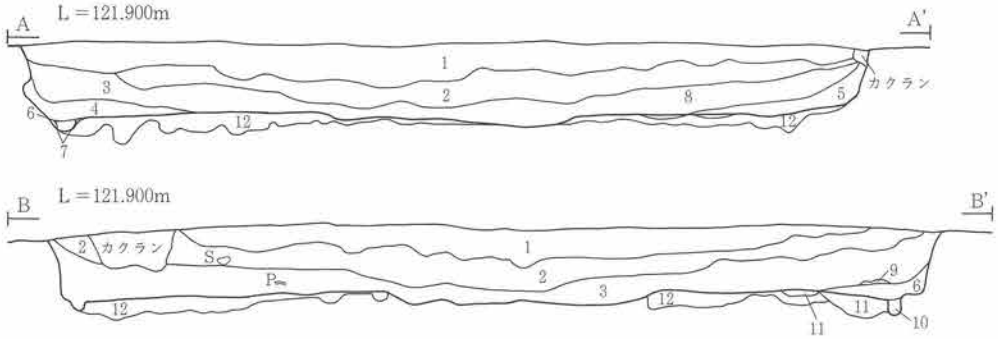

### 掘り方




第74図　RA145竪穴住居跡（２）



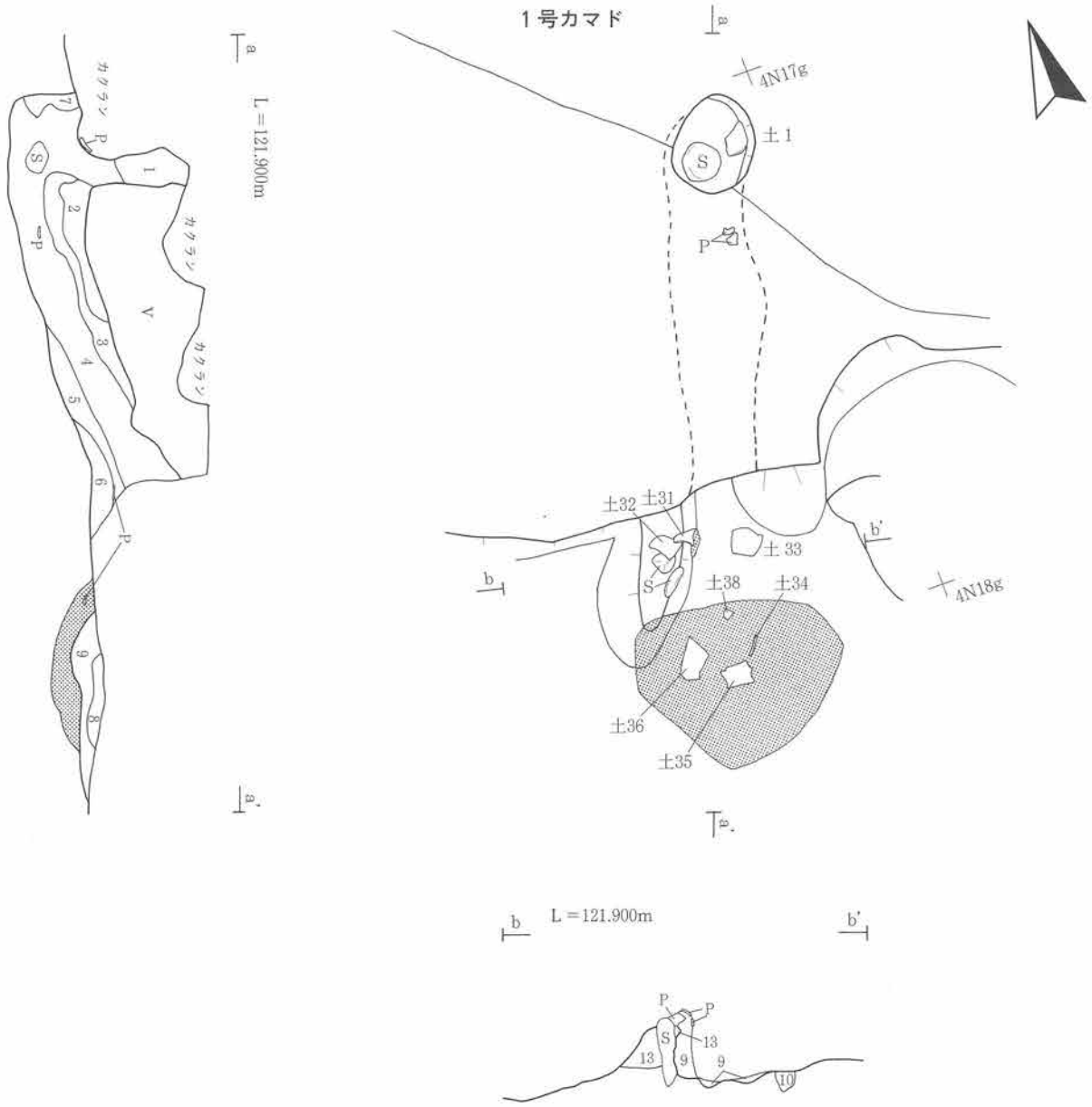

| RA146 (12号住) | 柱穴1 | 柱穴2 | 柱穴3 | 柱穴4 | 土坑1 | 土坑2 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 40×30 | 50×41 | 40×35 | 32×24 | 74×69 | 115×94 |
| 深さ(cm) | 63 | 55 | 44 | 46 | 31 | 31 |
| その他 | 壁際 | 壁際 | | | 貯蔵穴 | 貯蔵穴 |




RA146（12号住） A－A'・B－B'
1 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性なし 締りややあり V層ブロック（径0.5～2㎝）小礫（径1～2㎝）3％
2 10YR2/1 黒 シルト 粘性ややあり 締りあり V層ブロック（径0.5㎝）2％
3 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性に富む 締りあり V層ブロック（径1～2㎝）10％
4 10YR2/1 黒 シルト 粘性あり 硬く締る 炭粉含む
5 10YR3/2 黒褐 シルト 粘性、締りなし V層崩壊土 黒色土ブロック（径0.5～2㎝）2％
6 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性なし 締りあり Ⅳ～V層極小粒20％
7 10YR4/3 にぶい黄褐 シルト 粘性、締りなし Ⅳ～V層崩壊土 暗褐色土粒含む
8 10YR5/8 黄褐 砂質シルト 粘性なし 硬く締る 黒褐色土粒中粒15％ 貼床上層（新段階）
9 10YR5/6 黄褐 砂 粘性なし 締りややあり 埋め戻し
10 10YR4/6 褐 粘性、締りなし 黒褐色土粒中粒3～5％
11 10YR3/4 暗褐 粘性あり 硬く締る 黒褐ブロック（径5㎝）、Ⅳ層黄褐ブロック（径5㎝）の混合土 貼床
12 10YR2/3 黒褐 砂質シルト（V層黄褐色粒小粒10％）～10YR5/8黄褐砂（黒褐粒5％） 粘性なし 硬く締る 貼床下層

0 2 m

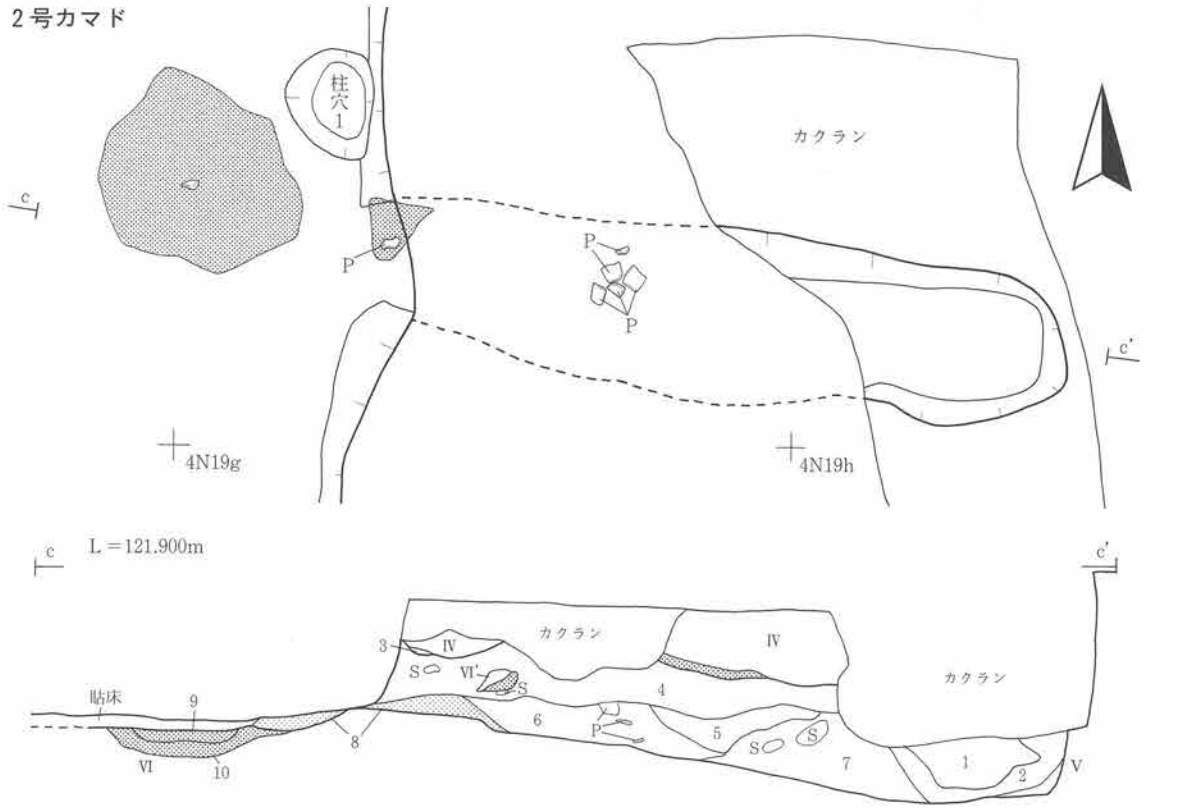
第75図 RA146竪穴住居跡（1）




RA146（12号住）　1号カマド　a－a'・b－b'
1　10YR5/8 黄褐　砂質シルト　粘性なし　締りあり　黒褐極小粒３％
2　10YR5/6 黄褐　砂質シルト　粘性、締りなし　Ⅴ層崩壊土に黒褐色土が極厚い板状に15%混入
3　10YR3/4 暗褐　砂質シルト　粘性、締りなし　Ⅴ層黄褐色土が厚い板状に10%混入
4　10YR3/3 暗褐　砂質シルト　粘性、締りなし　炭粉混入
5　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性、締りなし　炭粉混入
6　7.5YR4/3褐　シルト　粘性、締りなし　カマド天井から崩落した焼土
7　10YR4/6 褐　砂　粘性、締りなし
8　10YR4/4 褐　砂質シルト　粘性なし　締りあり　カマド天井崩落土
9　10YR3/3 暗褐　砂質シルト　粘性、締りなし　８層直下は締りあり　焼土粒、Ⅴ層起源の砂含む
10　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性、締りなし　カマド構築礫のすえ方
11　5YR4/6　赤褐　砂質シルト　粘性なし　硬く締る　焼土
12　10YR3/4 暗褐　砂質シルト　粘性、締りなし　砂質土と黒褐（10YR2/2）土の混合土　貼床
13　10YR4/6 黄褐　砂質シルト　粘性なし　締りややあり　Ⅳ～Ⅴ層起源のカマド袖構築土

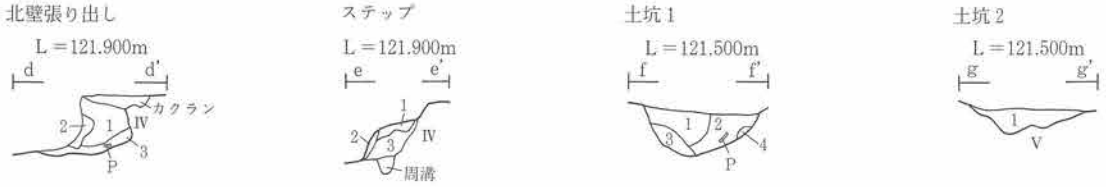
0　1 m

第76図　RA146竪穴住居跡（２）




RA146（12号住） 2号カマド c－c'
1 10YR5/6 黄褐 砂（V層崩壊土）粘性、締りなし
2 10YR3/2 黒褐 砂質シルト 粘性、締りなし 黄褐色土ブロック極大5％
3 10YR3/4 暗赤褐 シルト 粘性ややあり 締りなし 焼けた天井
4 7.5YR2/2黒褐 シルト 粘性、締りなし IV層粒極大5％含む
5 10YR5/6 黄褐 砂質シルト 粘性、締りなし 天井崩壊土
6 7.5YR4/4褐 シルト 粘性ややあり 締りなし 焼土を全体に多く含む
7 10YR2/3 黒褐 砂質シルト 粘性なし 締りあり 炭粉含む
8 5YR3/3 暗赤褐 砂 粘性、締りなし 崩落した焼土
8' 5YR3/3 暗赤褐 砂 粘性なし 締りあり 崩落した焼土
9 5YR4/6 赤褐 シルト 粘性ややあり 締りあり 焼土 旧段階の貼り床が焼けて形成されたもの
10 5YR3/4 暗赤褐 砂 粘性なし 締りややあり 焼土 旧段階の貼り床が焼けて形成されたもの

0 1 m




RA146（12号住） 北壁張り出し d－d'
1 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性なし 締りややあり 暗褐色土ブロック極大10%
2 10YR2/1 黒 シルト 粘性、締りなし
3 10YR3/4 暗褐 シルト 粘性ややあり 締りなし

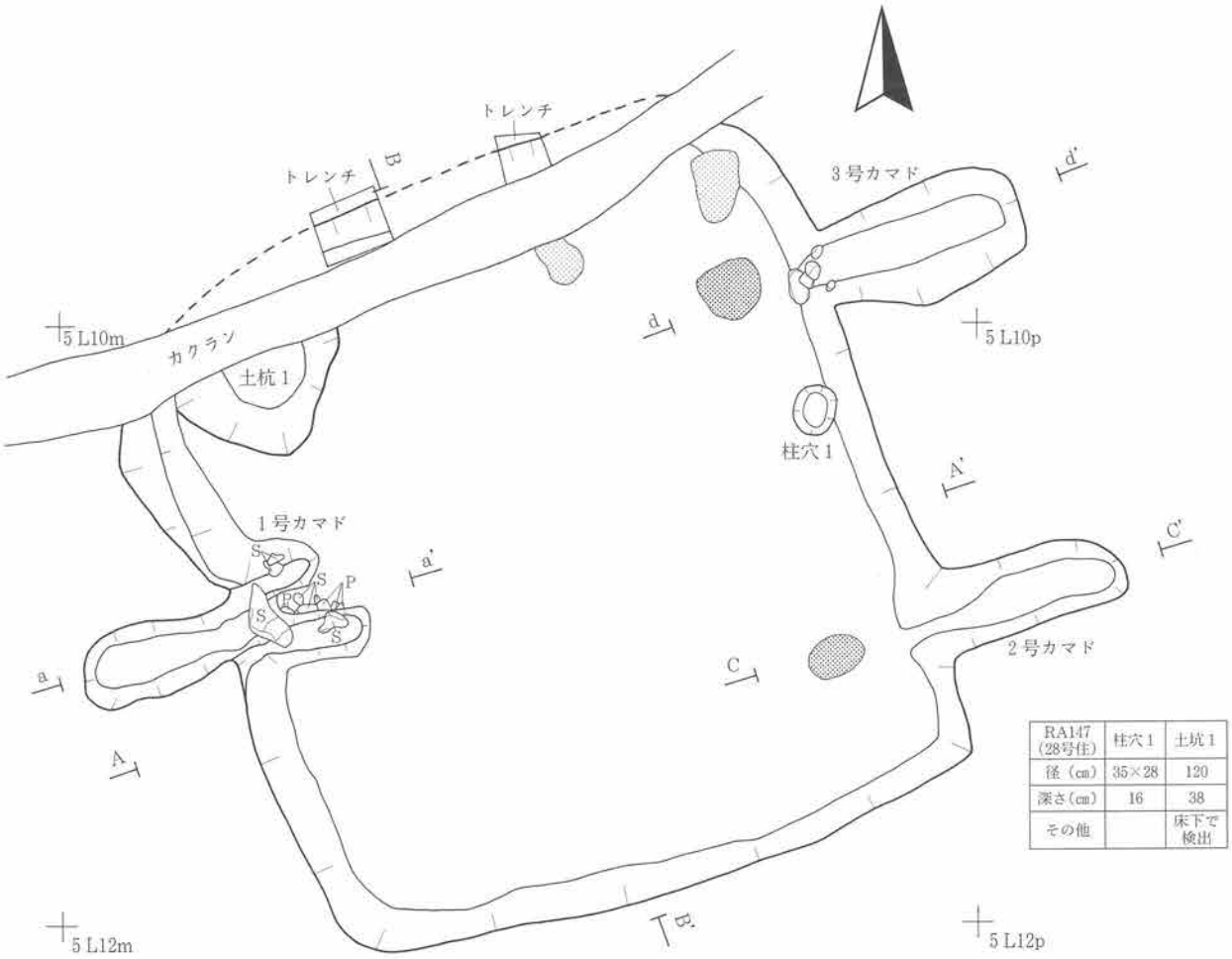
RA146（12号住） ステップ
1 10YR4/4 褐 砂質シルト 粘性なし 締りあり 濁ったV層土
2 10YR5/8 黄褐 砂質シルト 粘性なし 締りややあり 黒褐色土ブロック極大25%
3 10YR5/6 明褐 砂 粘性なし 締りあり V層起源の砂質土

RA146（12号住） 土坑1 f－f'
1 10YR3/4 暗褐 砂質シルト 粘性なし 締りあり IV層粒中～大10%
2 10YR3/3 暗褐 砂質シルト 粘性あり 締りややあり IV層粒中7％
3 10YR3/4 暗褐 砂質シルト 1層より暗い 粘性、締りなし IV層粒極大10%
4 10YR5/6 黄褐 砂 IV層崩壊土

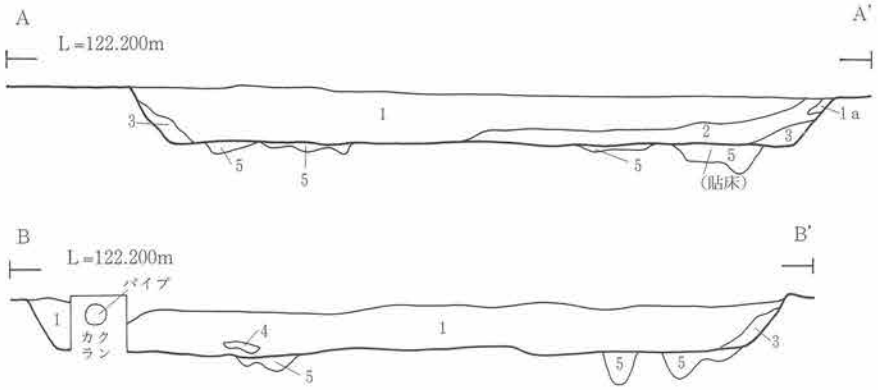
RA146（12号住） 土坑2 g－g'
1 10YR4/4 褐 砂質シルト 粘性あり 締りあり V層砂粒極大25% 焼土少量 黒褐色土極大粒3％含む

0 2 m

第77図 RA146竪穴住居跡（3）




| RA147（28号住） | 柱穴1 | 土坑1 |
|---|---|---|
| 径（cm） | 35×28 | 120 |
| 深さ（cm） | 16 | 38 |
| その他 | | 床下で検出 |

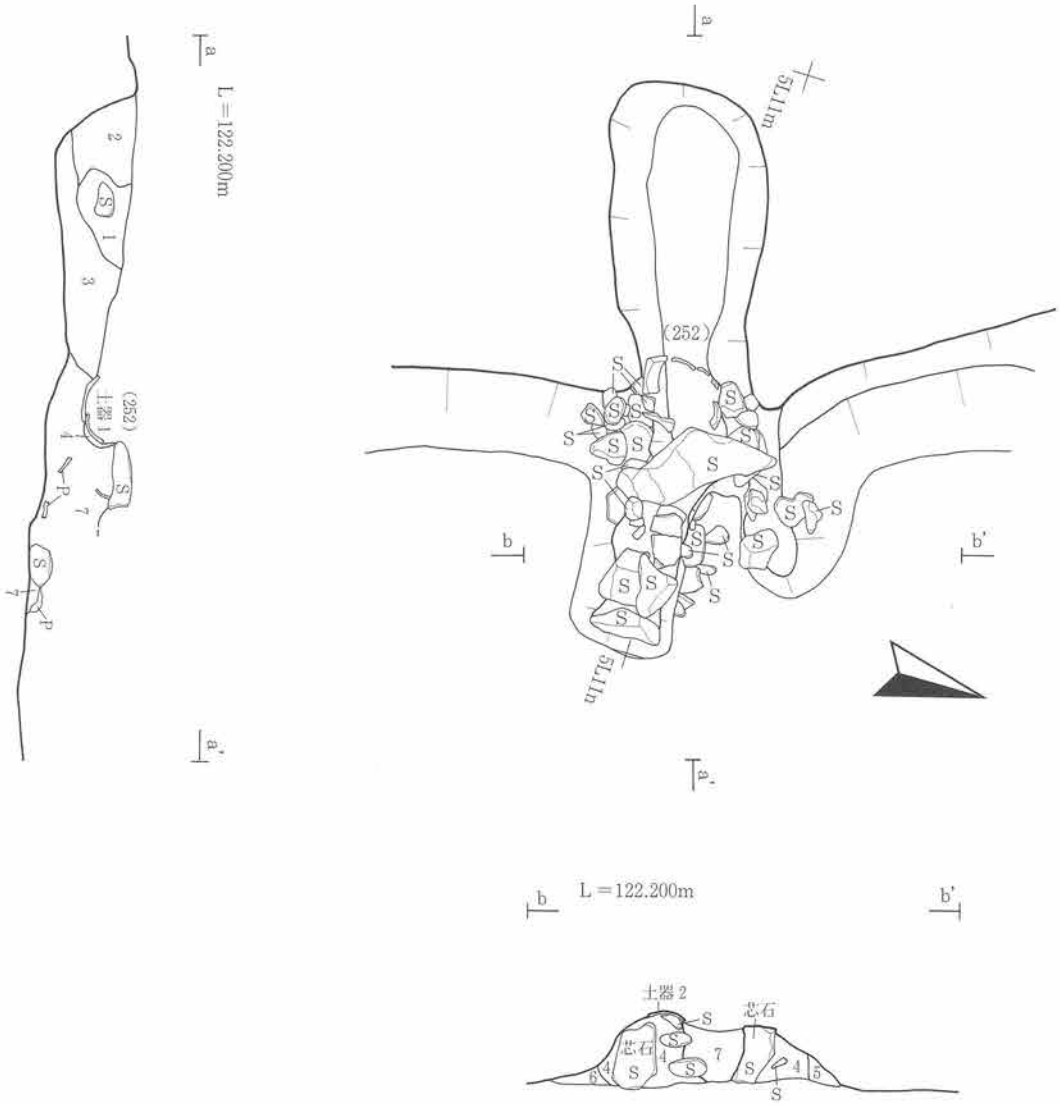



RA147（28号住）　A－A'・B－B'
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中　礫（φ2～20cm）10%・To－a 1%未満混入（※自然堆積層、To－aは、性状は粉状、産状は粒状にみられる）
1a　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性やや強　締り中（※地山崩壊土）
2　10YR2/1 黒　シルト　粘性やや強　締り中　礫3%・To－a 1%未満混入（※自然堆積層、1層と比較して黒が強い色調で礫も少ない）
3　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締り中
4　10YR3/4 暗褐　粘土質砂質土　粘性中　締り中（※地山ブロック層）
5　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締りやや密　砂質土10%・礫少量混入（※貼床）

0　2 m

第78図　RA147竪穴住居跡（1）

1号カマド

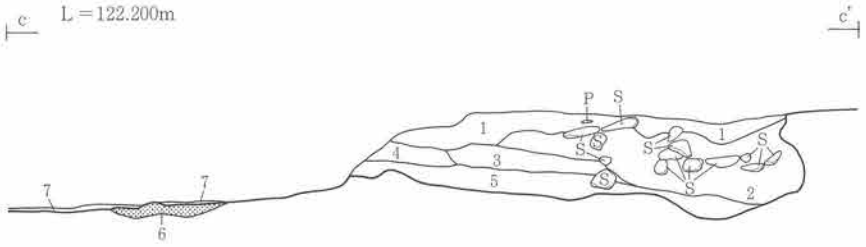



RA147（28号住）　1号カマド　a－a'・b－b'
1　10YR3/4 暗褐　シルト質粘土　粘性やや強　締りやや密（※人為堆積層）
2　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中
3　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや疎
4　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性やや強　締り中　礫・土器片混入（※袖構築土）
5　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締り中（袖構築土若しくは構築土が崩壊した土層）
6　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや弱　締り中　砂質土10%混入（※貼床若しくはカマド構築土）
7　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締りやや疎（※構築土の崩壊した土層若しくは廃絶に際しての廃棄土）

0　1 m

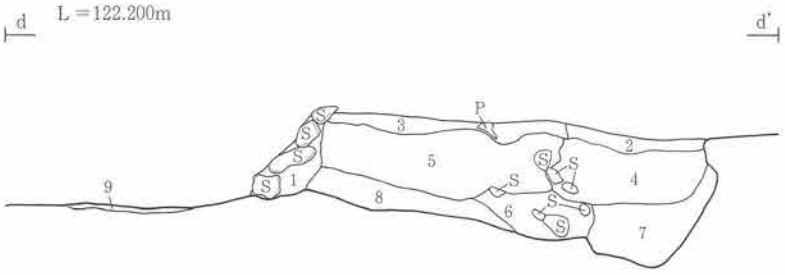
第79図　RA147竪穴住居跡（2）

## 2号カマド



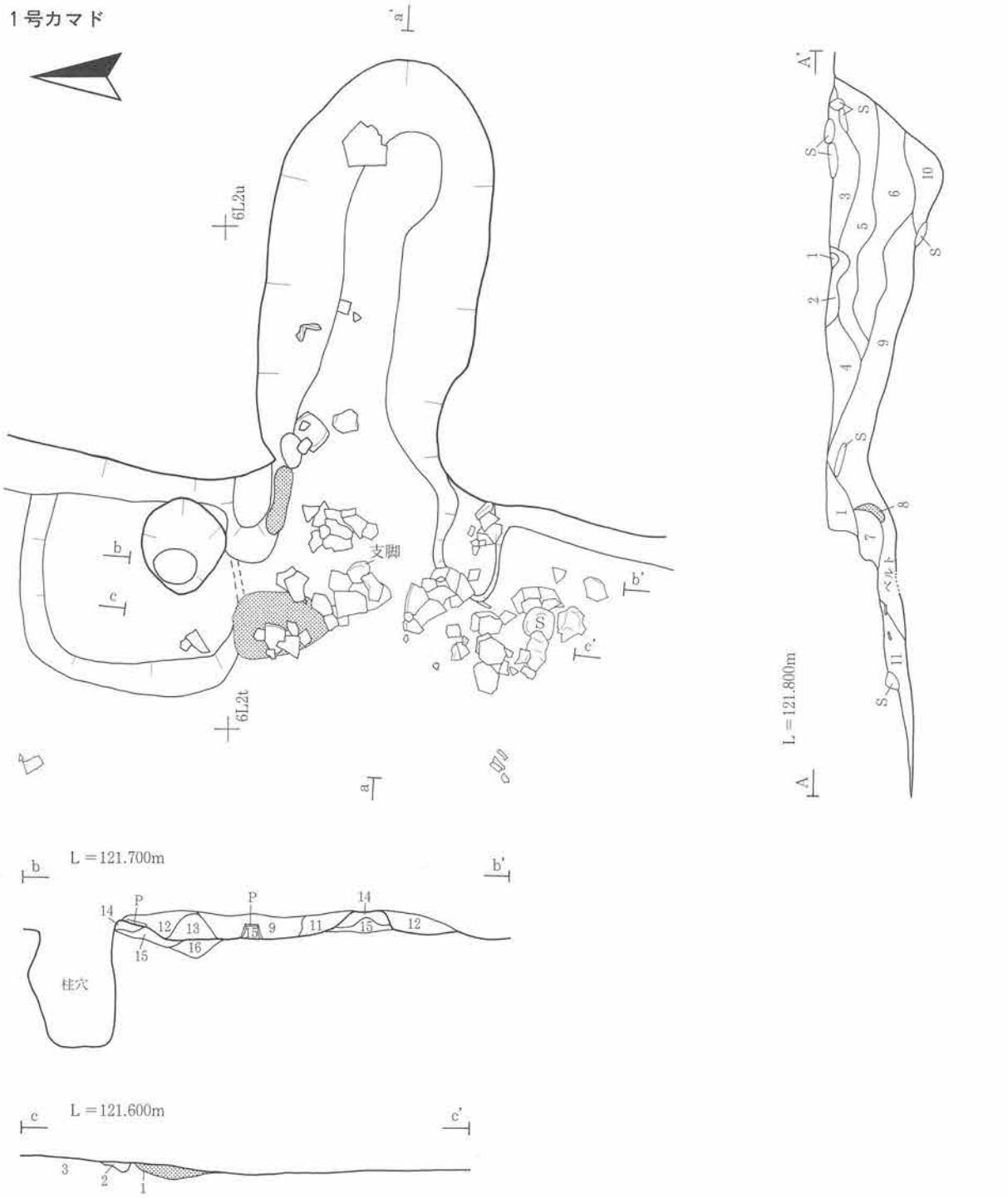

RA147（28号住）　2号カマド　c－c'
1　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締りやや疎　礫（φ2～8㎝）5％混入
2　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや疎　礫（φ5～20㎝）10％・褐砂質土20％混入
3　10YR3/4 暗褐　砂質粘土　粘性やや強　締り中（※人為堆積層）
4　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締り中
5　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや疎
6　5YR4/4　赤褐　焼土　粘性やや弱　締り中（※現地性の焼土、燃焼部）
7　10 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締り中（※貼床）

## 3号カマド




RA147（28号住）　3号カマド　d－d'
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや疎（※人為堆積層）
2　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや疎　暗褐砂質土20％混入（※人為堆積層）
3　10YR3/4 暗褐　粘土質砂質土　粘性やや強　締り中（※人為堆積層）
4　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締り中　暗褐砂質土20％混入（※人為堆積層）
5　7.5YR3/4暗褐　粘土　粘性やや強　締り中　焼土粒3％混入（※全体に焼成を受けた土）
6　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中　礫（φ5～8㎝）30％混入
7　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中　礫（φ2～5㎝）20％混入（※6層と同質土）
8　5YR4/4　赤褐　焼土　粘性やや弱　締り中（※現地性の焼土、燃焼部）
9　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締り中

第80図　RA147竪穴住居跡（3）

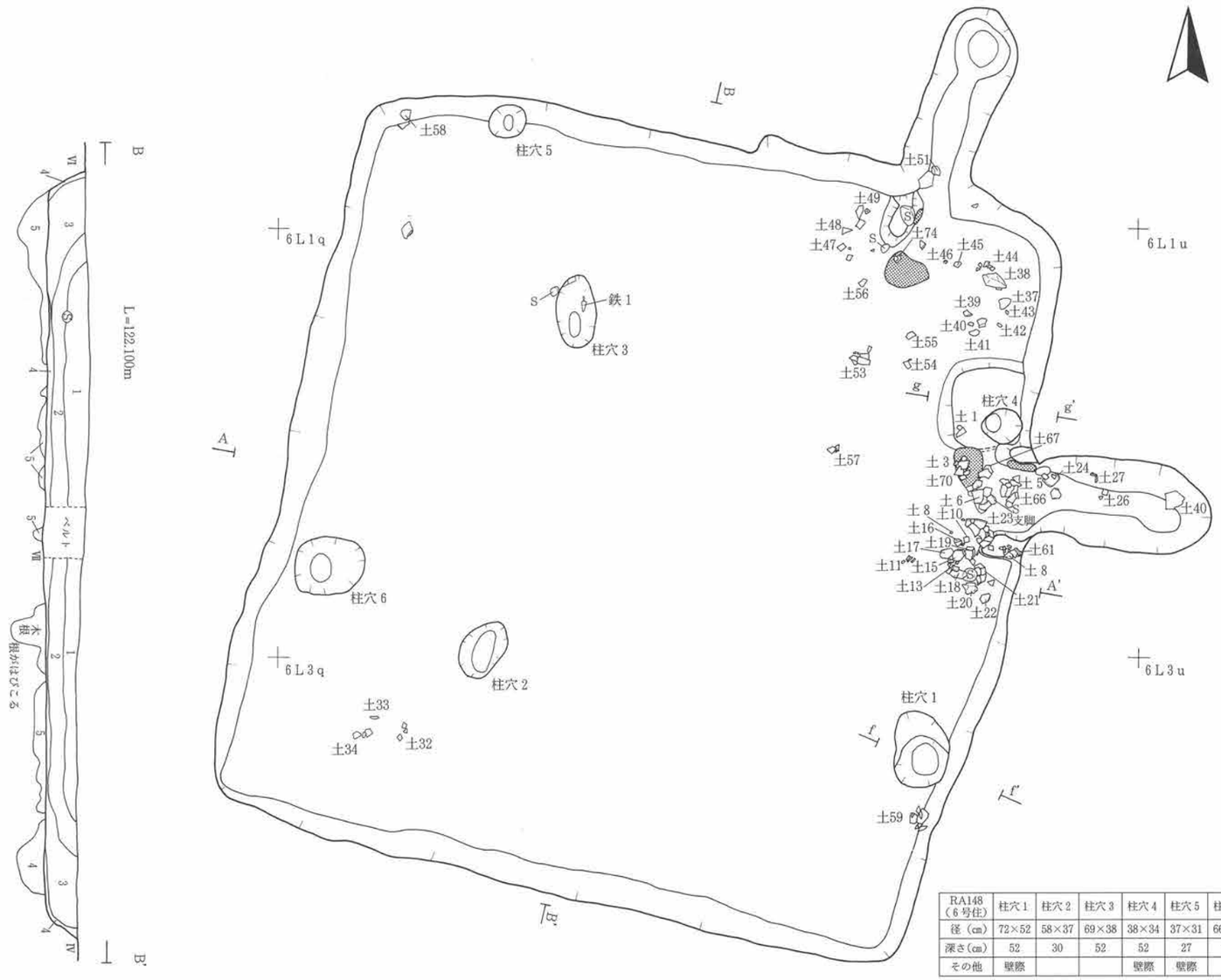



RA148（6号住） 1号カマド c−c'
1 5YR3/4 暗赤褐 焼土 粘性なし 締りあり
2 7.5YR4/3褐 粘性ややあり 締りあり 焼土粒（φ0.5〜1.5cm大）3％含む
3 10YR4/4 褐 粘性あり 締りあり 棚状施設の構築土

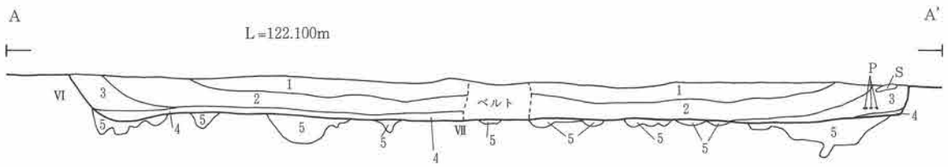
RA148（6号住） 1号カマド煙道 a−a'・b−b'
1 10YR3/2 黒褐 砂質シルト 粘性なし 締りなし
2 7.5YR4/4褐 シルト 粘性なし 締りややあり 焼土
3 10YR2/3 黒褐 砂質シルト 粘性なし 締りなし Ⅳ層の砂礫を全体に含む
4 7.5YR4/3褐 シルト 粘性なし 締りなし 焼土を全体に含む
5 7.5YR2/2黒褐 シルト 粘性なし 締りなし 炭粒を全体に含む
6 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性なし 締りなし Ⅳ層の砂礫を含む
7 10YR4/6 褐 シルト質粘土 粘性あり 締りややあり 天井崩落土
8 7.5YR3/4暗赤褐 粘性なし 締りなし 焼土 焼けた天井 崩落土
9 7.5YR4/3褐 砂質シルト 粘性なし 締りなし 焼土を全体に多く含む Ⅳ層の砂礫含む
10 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性なし 締りなし 炭粉を多く含む
11 10YR4/4 褐 シルト質粘土 粘性ややあり 締りあり 袖崩壊土
12 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性なし 締りあり 袖崩壊土
13 10YR4/4 褐 シルト質粘土 粘性あり 締りあり 落ちた天井
14 7.5YR4/4褐 シルト質粘土 粘性あり 締りあり 袖 火をうけてやや赤化
15 10YR3/3 暗褐 砂質シルト 粘性なし 締りあり 硬い
16 10YR3/2 黒褐 砂質シルト 粘性シルト 粘性なし 締りあり 掘り方

0 1m

第81図 RA148竪穴住居跡（1）



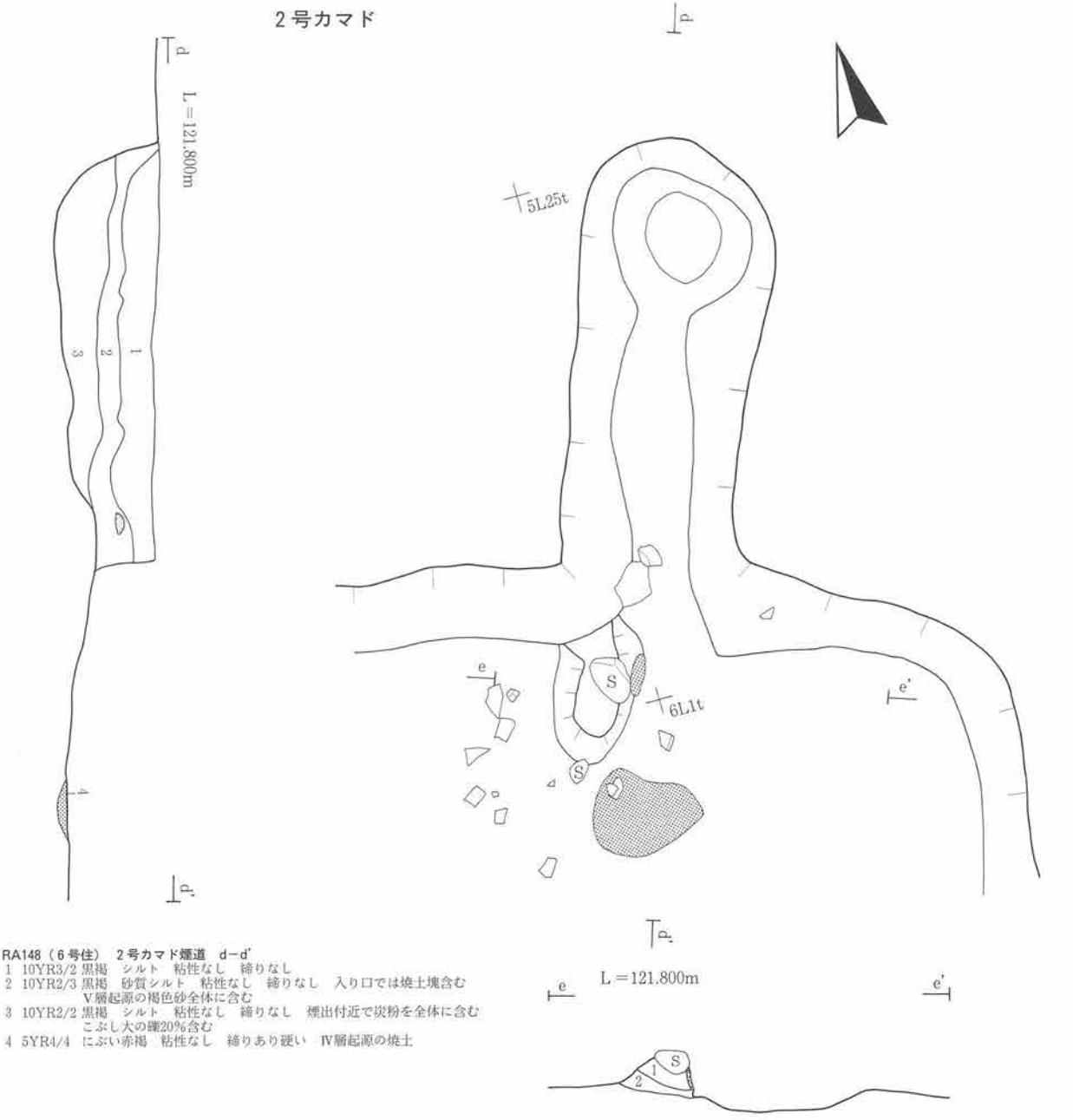

| RA148（6号住） | 柱穴1 | 柱穴2 | 柱穴3 | 柱穴4 | 柱穴5 | 柱穴6 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 72×52 | 58×37 | 69×38 | 38×34 | 37×31 | 66×54 |
| 深さ（cm） | 52 | 30 | 52 | 52 | 27 | 29 |
| その他 | 壁際 | | | 壁際 | 壁際 | |




RA148（6号住） A−A'・B−B'
1 10YR2/1 黒 シルト 粘性なし 締りあり 小礫3%含む
2 10YR2/1 黒 シルト 1層より暗い 粘性なし 締りややあり 小礫・こぶし大礫5〜7%含む Ⅳ層起源の砂全体に少量含む
3 10YR3/2 黒褐 シルト 粘性なし 締りあり 小礫5%含む Ⅳ層起源の砂全体に少量含む
4 10YR2/1 黒 シルト 粘性なし 締りややあり 7〜10%礫含む 2層より礫多い 床までの最下層
5 10YR4/4 褐 砂礫（場所によってシルト質） 粘性なし 締りややあり 砂礫（こぶし大まで）を20%含む

0 2m

第82図 RA148竪穴住居跡（2）



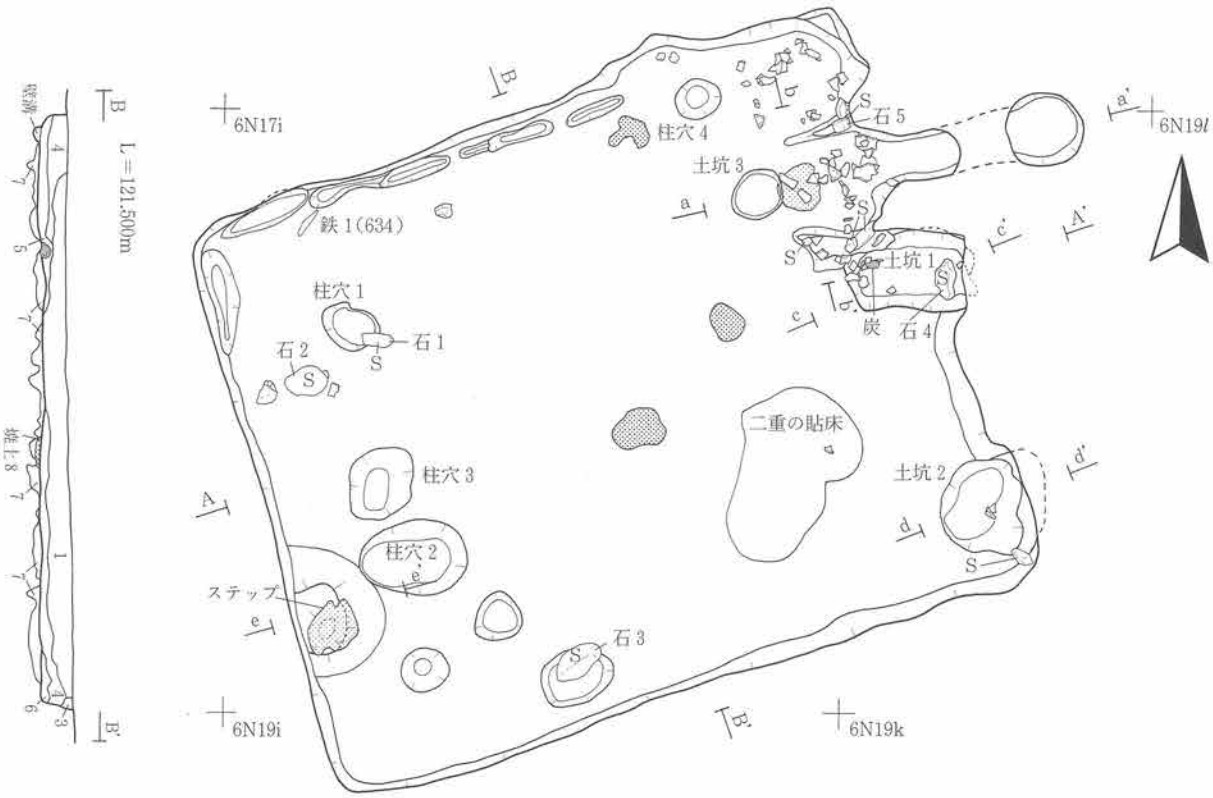

RA148（6号住）　2号カマド煙道　d−d'
1　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性なし　締りなし
2　10YR2/3 黒褐　砂質シルト　粘性なし　締りなし　入り口では焼土塊含む
　　Ⅴ層起源の褐色砂全体に含む
3　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性なし　締りなし　煙出付近で炭粉を全体に含む
　　こぶし大の礫20%含む
4　5YR4/4　にぶい赤褐　粘性なし　締りあり硬い　Ⅳ層起源の焼土

RA148（6号住）　2号カマド　e−e'
1　7.5YR4/3褐　粘性なし　締りあり　非常に硬い　焼土粒（φ0.5cm大）2%含む　袖
2　10YR3/4 暗褐　粘性なし　締りあり　非常に硬い　袖
※a　10YR3/2 黒褐　粘性なし　締りあり　住居掘り方

RA148（6号住）　柱穴1　f−f'
1　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性ややあり　締りなし
2　10YR4/2 灰黄褐　砂質シルト　粘性なし　締りなし　Ⅳ層崩壊土
3　10YR4/3 にぶい黄褐　砂質シルト　粘性なし　締りなし

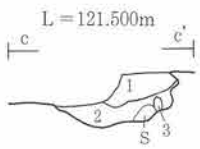
RA148（6号住）　カマド脇棚　g−g'
1　10YR5/8 黄褐　シルト　粘性なし　締り強
2　10YR5/6 黄褐　粘土　粘性あり　締り強　貼った土

第83図　RA148竪穴住居跡（3）

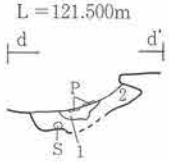



RA149（10号住） A－A'・B－B'
1 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性あり 締りなし Ⅳ層細粒5～7％含む
2 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性あり 締りあり Ⅲ層の崩壊土
3 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性あり 締りあり Ⅳ層細粒15％含む
4 10YR2/1 黒 シルト 粘性あり 締りなし Ⅳ層細粒2％含む
5 10YR3/3 暗褐 シルト 粘性あり 締りややあり Ⅳ層細粒3％含む
6 10YR4/4 褐 シルト 粘性あり 締りあり Ⅳ層起源土に黒褐色土粒5％含む
7 10YR5/6 黄褐 シルトと10YR2/2黒褐 シルトが斑に混合する（共に径0.5～5㎝大） 貼床
8 1.5YR3/4暗赤褐 シルト 粘性なし 非常に硬い 焼土

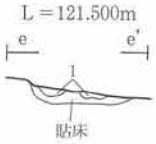
土坑1




土坑2




ステップ




RA149（10号住） 土坑1
1 10YR2/1 黒 シルト 粘性に富む 締りなし Ⅳ層粒（径0.1～0.3㎝大） 7％含む
2 10YR2.2 黒褐 シルト 粘性に富む 締りなし 炭粒少量含む Ⅳ層粒（径0.1～1㎝大） 5％含む
3 10YR4/4 褐 砂質シルト 粘性なし 締りなし Ⅴ層崩壊土

RA149（10号住） 土坑2
1 10YR2/1 黒 シルト 粘性に富む 締りなし 炭粒少量含む
2 10YR2.2 黒褐 シルト 粘性あり 締りなし 炭粒少量含・Ⅳ層粒5～7％含む

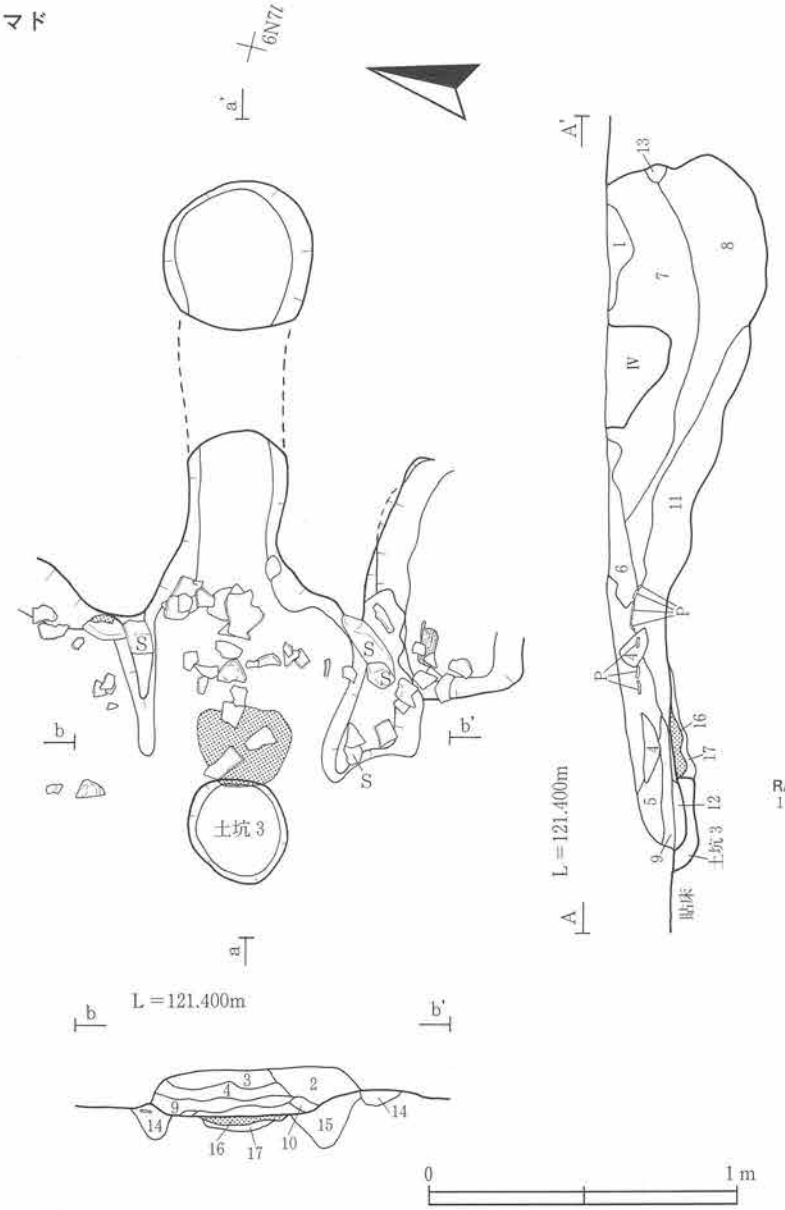
RA149 ステップ e－e'
1 10YR4/6 褐 シルト 粘性あり 締りあり やや濁る

| RA149（10号住） | 柱穴1 | 柱穴2 | 柱穴3 | 柱穴4 | 土坑1 | 土坑2 | 土坑3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 49×28 | 70×49 | 53×42 | 30×26 | 80×54 | 86×57 | 36×31 |
| 深さ（cm） | 11 | 13 | 11 | 6 | 15 | 20 | 8 |
| その他 | | | | | 貯蔵穴 カマド右脇 | 貯蔵穴 | カマド前 |

0 2m

第84図 RA149竪穴住居跡（1）

カマド

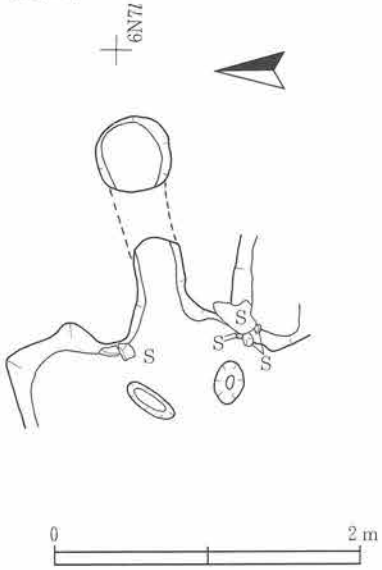



RA149（10号住）カマド　a－a'・b－b'

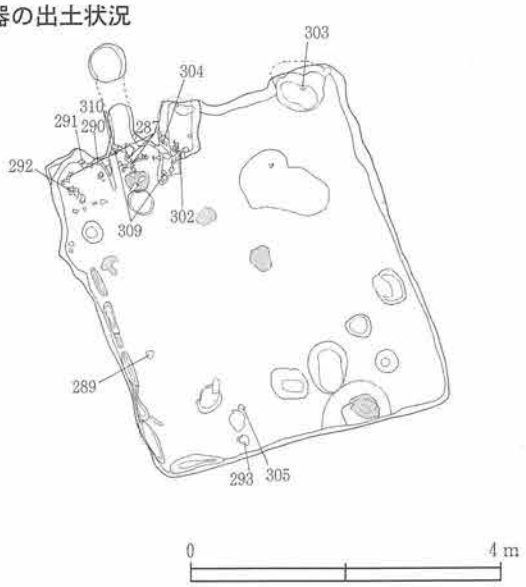
1　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りあり　Ⅲ～Ⅳ層起源の暗褐色土ブロック25%・炭粒少量含む
2　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性なし　締りややあり　Ⅳ層粒10%・焼土粒少量含む
3　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性なし　締りややあり　Ⅳ層粒７%・焼土粒ブロック５%含む
4　10YR4/4 褐　シルト　粘性なし　締りあり　焼土ブロック５%含む　落ちた天井
5　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性なし　締りややあり　Ⅳ層ブロック15%・焼土粒10%含む
6　7.5YR3/3暗褐　シルト　粘性ややあり　締りややあり　焼土を全体に多く含む
7　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りややあり　焼土粒少量含む　天井直下ではⅣ層ブロック20%含む
8　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　Ⅳ層ブロック15%含む　カーボン粉含む
9　10YR2/1 黒　シルト　粘性に富む　締りなし　全体に炭粉多く含む
10　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性なし　締りあり　焼土粒少量含む　崩れた袖？
11　10YR3/2 黒褐　粘性あり　締りなし　焼土を全体に含む
12　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性あり　締りなし　焼土粒・炭粒少量含む
13　10YR4/4 褐　シルト　粘性あり　締りあり　黒褐色土粒25%含む　Ⅳ層崩壊土
14　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　焼土粒少量・炭粒多く含む　カマド袖の据え方
15　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性あり　締りなし　焼土を全体に含む　炭粒を少量含む　カマド袖の据え方
16　5YR4/6　赤褐～4/4にぶい赤褐　シルト　粘性なし　締りあり　焼土
17　7.5YR4/3褐　シルト　粘性あり　締りあり　貼床の少し崩れた土

RA149（10号住）　土坑３
1　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性に富む　締りなし　焼土粒７%・炭粒７%含む

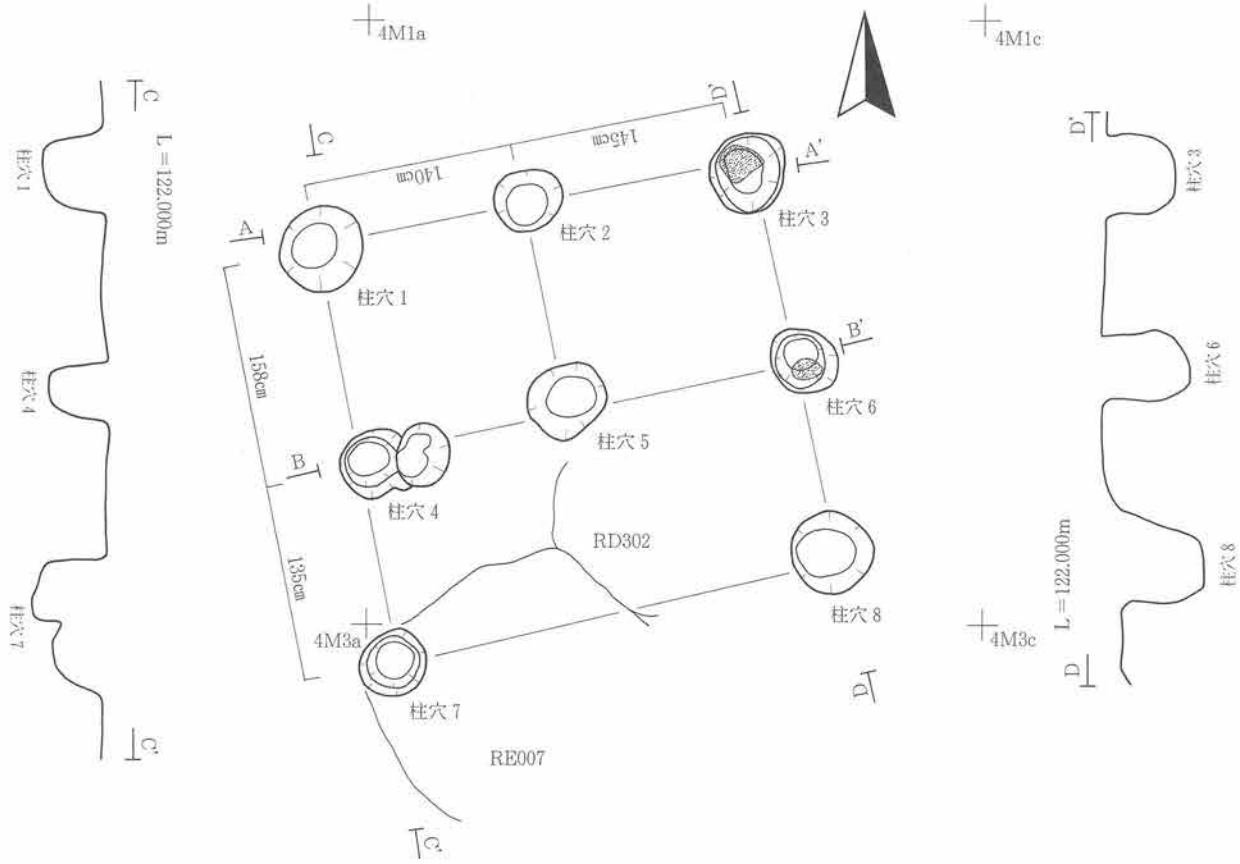
カマド構築礫

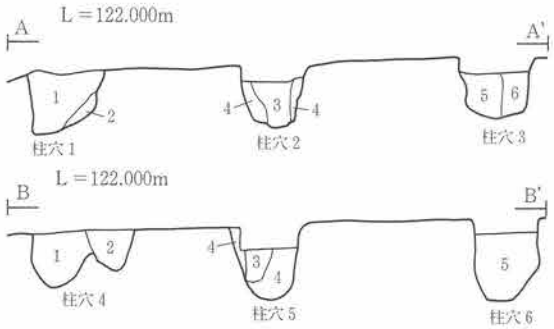



土器の出土状況




第85図　RA149竪穴住居跡（２）



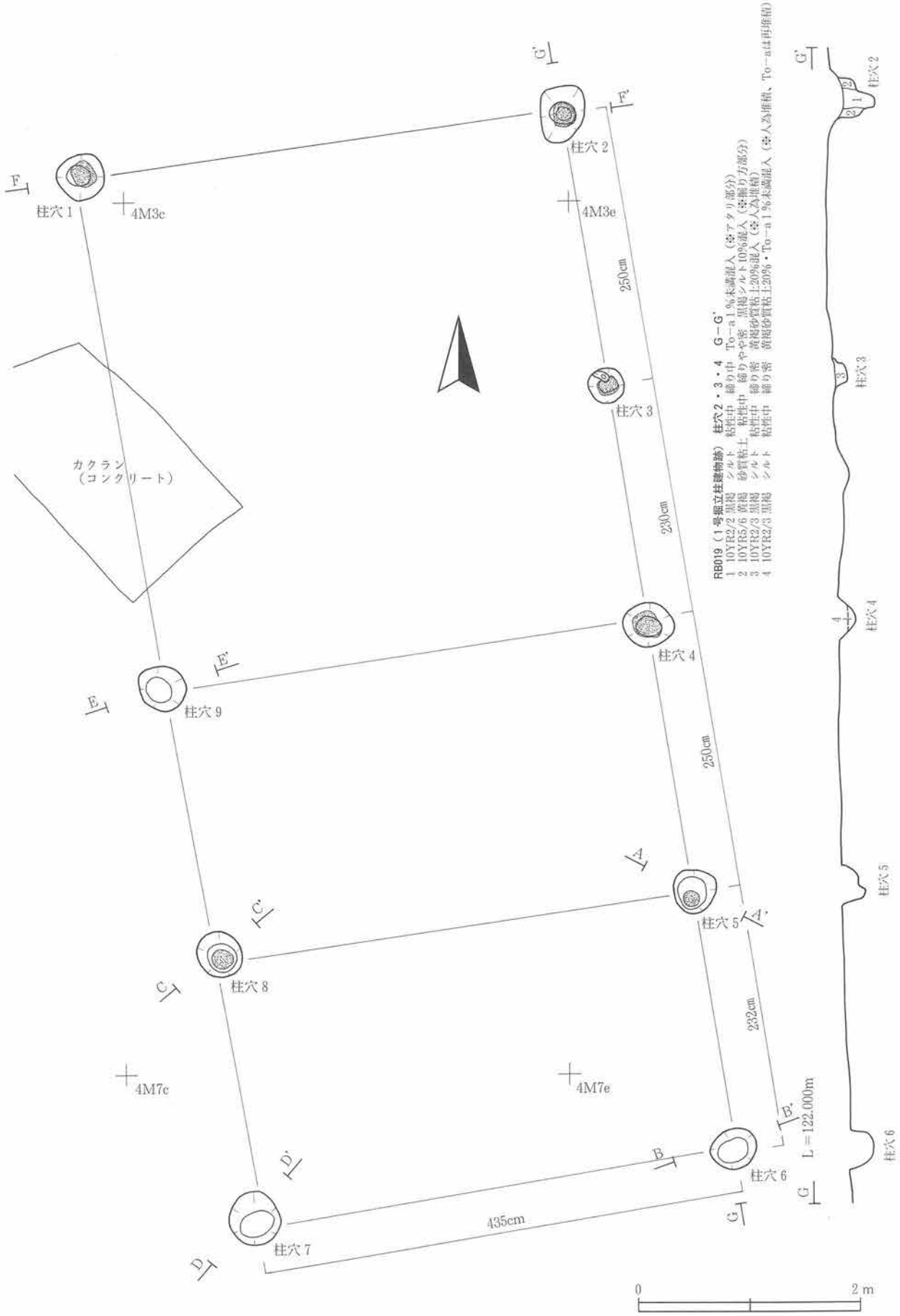




| RB018 | 柱穴1 | 柱穴2 | 柱穴3 | 柱穴4 |
|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 60×54 | 46×42 | 50×56 | 72×45 |
| 深さ(cm) | 40 | 42 | 44 | 38 |
| RB018 | 柱穴5 | 柱穴6 | 柱穴7 | 柱穴8 |
| 径（cm） | 52×50 | 48×42 | 48×42 | 56×56 |
| 深さ(cm) | 50 | 56 | 52 | 54 |

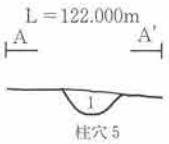
**RB018（2号掘立柱建物跡） 柱穴1・2・3 A－A'**
1 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性やや強 締りやや疎 To－a（φ3～5㎜の粒状）1％混入（※アタリは未確認）
2 10YR4/6 褐 砂質土 粘性弱 締り疎
3 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締りやや疎（※アタリ部分）
4 10YR3/4 暗褐 砂質シルト 粘性中 締りやや疎 To－a（φ3㎜程の粒状）1％混入（※据え方）
5 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締り中 To－a（φ3㎜程の粒状）1％混入（※アタリ部分）
6 10YR3/4 暗褐 シルト 粘性中 締りやや疎

**RB018（2号掘立柱建物跡）柱穴4・5・6 B－B'**
1 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締りやや疎 To－a（φ3㎜程の粒状）1％混入（※アタリは未確認）
2 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締りやや密（※柱穴4を截る、柱の抜き取り痕の可能性有り）
3 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締り疎（※アタリ部分？）
4 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締りやや密 To－a（φ3㎜程の粒状）1％混入
5 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締り中 To－a（φ3㎜程の粒状）1％・砂質土20％混入

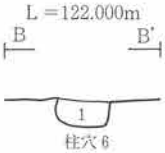
第86図 RB018掘立柱建物跡



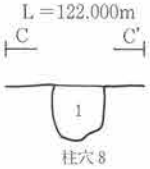

第87図　RB019掘立柱建物跡（1）



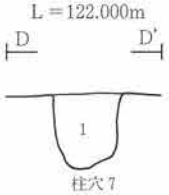

RB019（1号掘立柱建物跡） 柱穴5 A－A'
1 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性中 締り密
黄褐砂質粘土10%混入



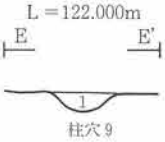

RB019（1号掘立柱建物跡） 柱穴6 B－B'
1 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性中 締り密
黄褐砂質粘土10%混入（※人為堆積、非常に硬い）




RB019（1号掘立柱建物跡） 柱穴8 C－C'
1 10YR2/1 黒シルト 粘性中 締り密
黄褐砂質粘土10%混入（※人為堆積）



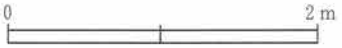

RB019（1号掘立柱建物跡） 柱穴7 D－D'
1 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性中 締りやや密
黄褐砂質粘土10%混入（※人為堆積）



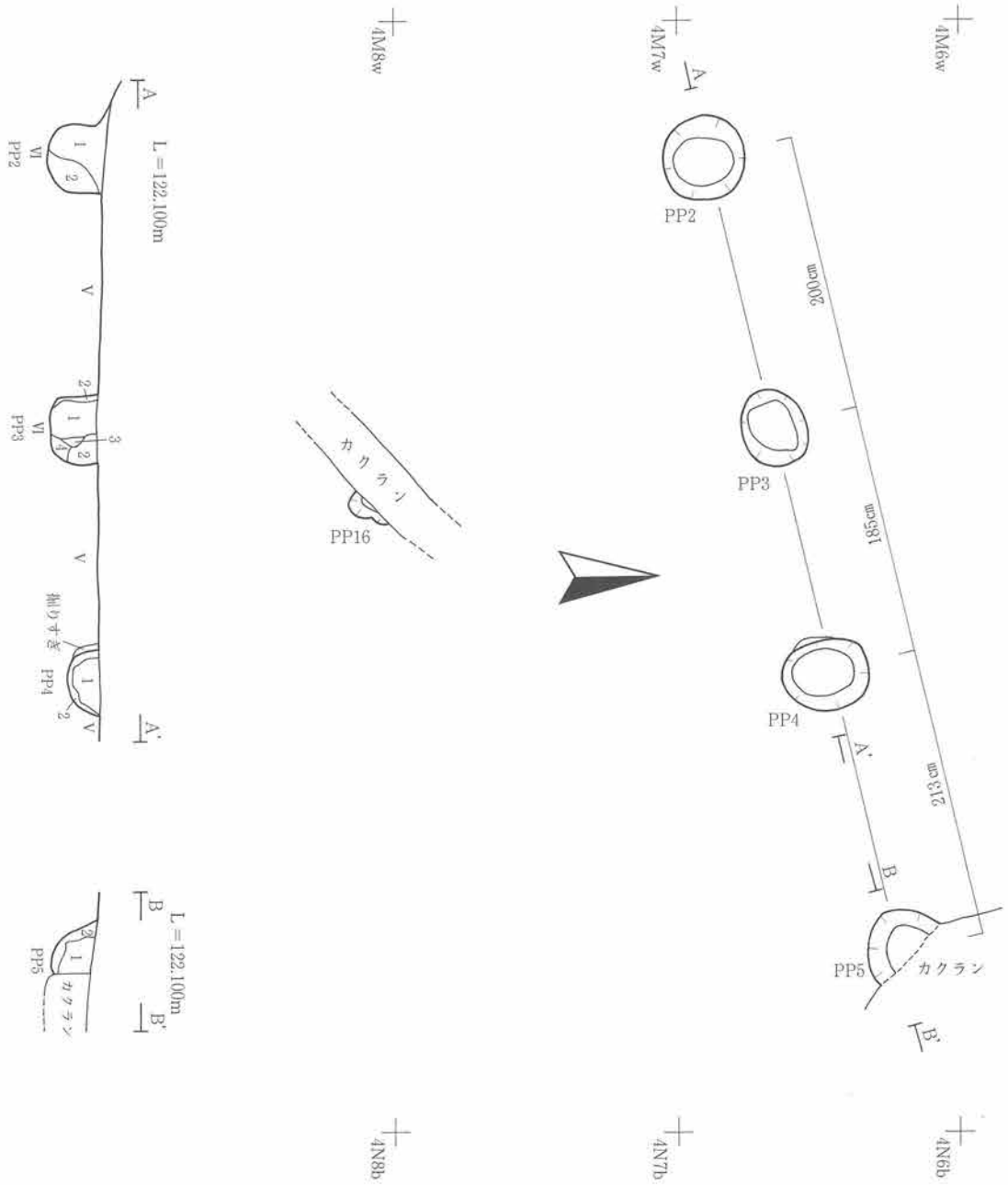

RB019（1号掘立柱建物跡） 柱穴9 E－E'
1 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性中 締りやや密
黄褐砂質粘土10%混入（※人為堆積）

RB019（1号掘立柱建物跡） 柱穴1 F－F'
1 10YR2/1 黒 シルト 粘性中 締りやや疎

| RB019 | 柱穴1 | 柱穴2 | 柱穴3 | 柱穴4 | 柱穴5 | 柱穴6 | 柱穴7 | 柱穴8 | 柱穴9 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 44×46 | 40×56 | 34×34 | 48×53 | 40×40 | 44×38 | 46×50 | 40×44 | 46×42 |
| 深さ（cm） | 50 | 40 | 10 | 16 | 22 | 20 | 50 | 38 | 12 |




第88図 RB019掘立柱建物跡（2）




RC002（1号柱穴列）
PP2
1　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性、締りなし　Ⅴ層粒大粒10%　柱痕
2　10YR5/8 黄褐　砂　粘性、締りなし　黒褐色土粒大粒5%
PP3
1　10YR2/1 黒　砂質シルト　粘性、締りなし　混入物少ない　柱痕
2　10YR2/3 黒褐　砂質シルト　粘性、締りなし　Ⅴ層起源の黄褐色土大粒5%
3　10YR3/3 暗褐　砂質シルト　粘性、締りなし
4　10YR5/8 黄褐　砂　粘性、締りなし　黒褐色土中粒5%
PP4
1　10YR2/2 黒褐　砂質シルト　粘性、締りなし
2　10YR2/3 黒褐　砂質シルト　粘性、締りなし　Ⅴ層小粒7%
PP5
1　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　柱痕
2　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性あり　締りなし　Ⅴ層大粒10%

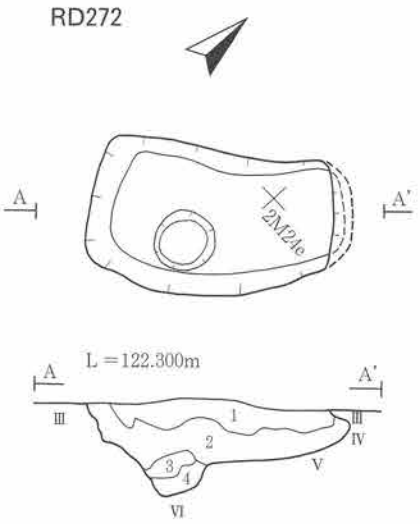
| RC002 | PP2 | PP3 | PP4 | PP5 |
|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 62×59 | 57×45 | 61×50 | 60×？ |
| 深さ(cm) | 41 | 33 | 24 | 30 |

| | PP16 |
|---|---|
| 径（cm） | 32cm以上 |
| 深さ(cm) | 40 |
| その他 | 攪乱に切られる |

0　2m

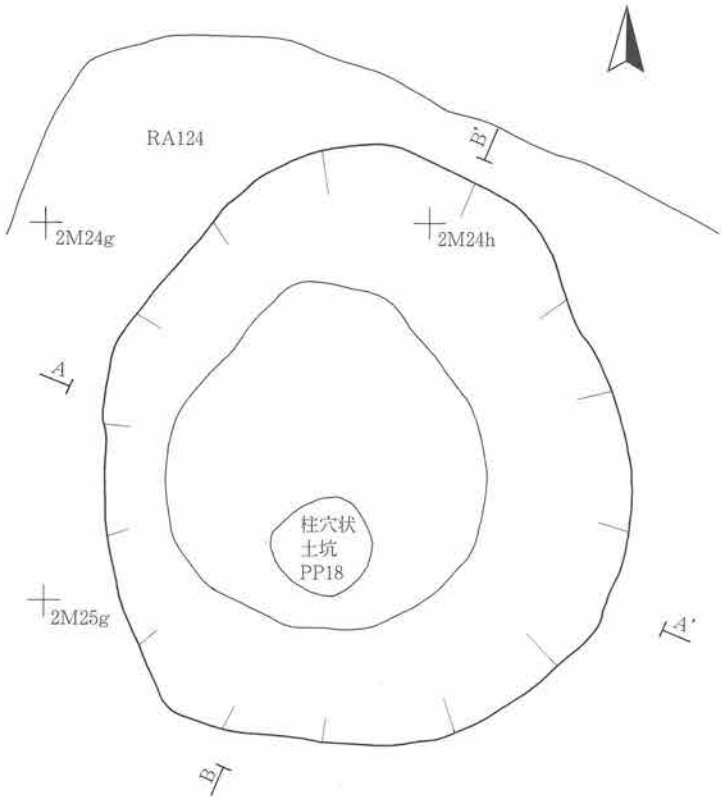
第89図　RC002柱穴列・PP16

## RD272

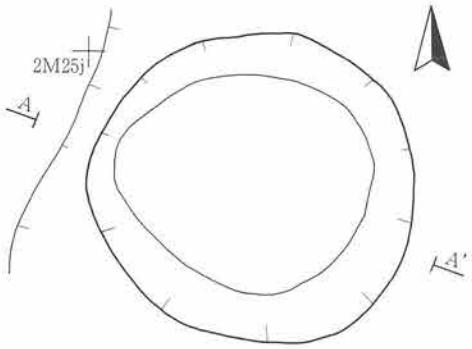


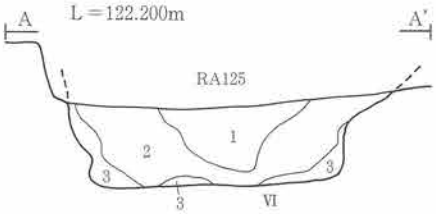

RD272（54号土坑）
1 10YR2/1 黒　シルト　粘性なし　締なし　Ⅵ層中粒２％
2 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　締なし　Ⅵ～Ⅴ層ブロック小～極大25％
3 10YR5/6 黄褐　砂　粘性なし　締なし　Ⅴ層崩壊土
4 10YR3/2 黒褐　砂　粘性なし　締なし　小礫含む

## RD273

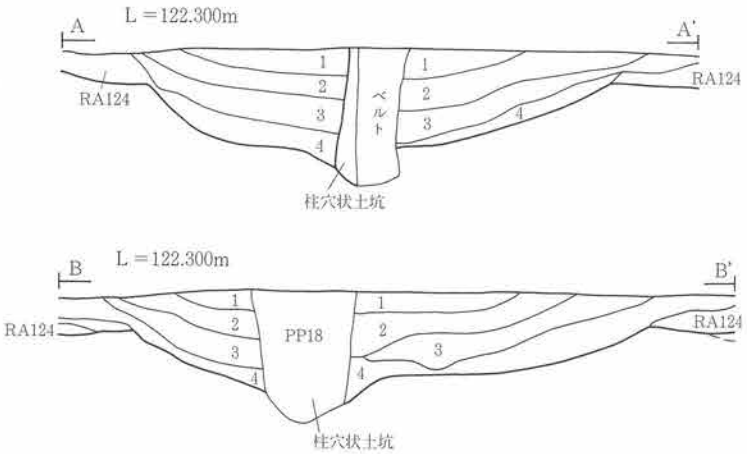



## RD274



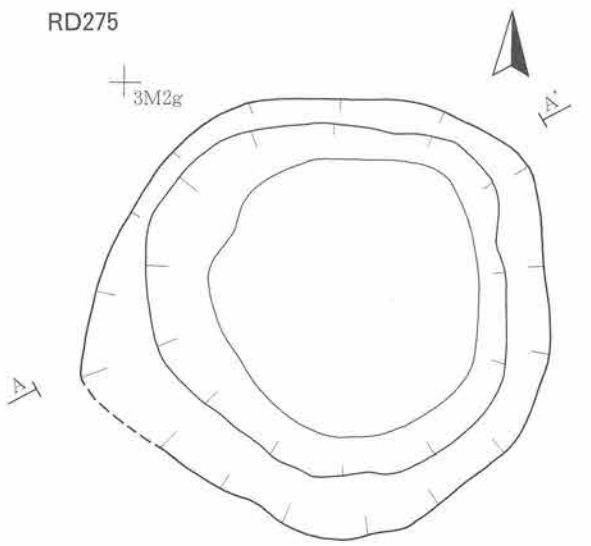

RD274（41号土坑）
1 10YR1.7/1 黒　シルト　粘性ややあり　締なくブカブカ
2 10YR3/2 黒褐　砂質シルト　粘性なし　締なし
3 10YR3/4 暗褐　砂　粘性なし　締なし



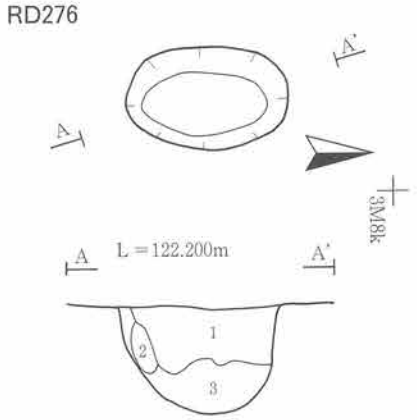

RD273（46号土坑）
1 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性なし　締ややあり　To－ａ粒（極小・極大）を下位に３％含む
2 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性なし　締ややあり　混入物なし
3 10YR2/1 黒　シルト　粘性あり　締なし
4 10YR3/2 黒褐　粘性なし　締なし　Ⅵ層起源の砂礫を含む

0　2 m

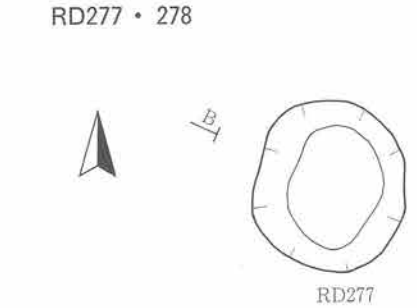
第90図　RD272～274土坑

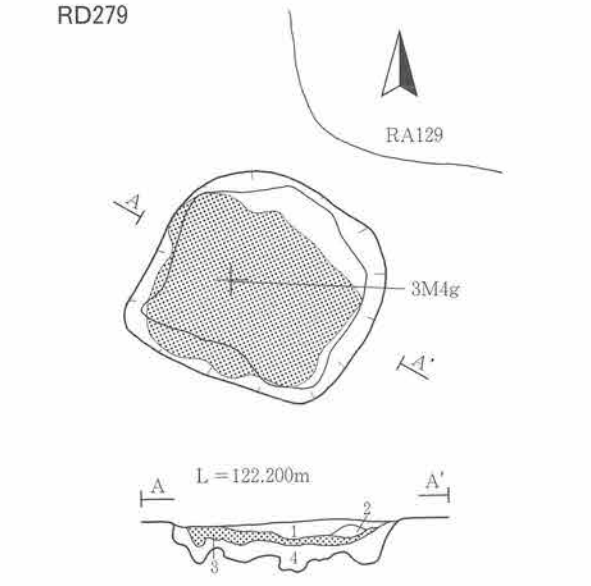


RD275（53号土坑）
1　10YR2/1 黒　シルト　粘性なし　締なし　Ⅵ層起源の小礫10%
2　10YR3/2 黒褐　砂質シルト　粘性なし　硬く締る　Ⅵ層起源の砂礫３～10%

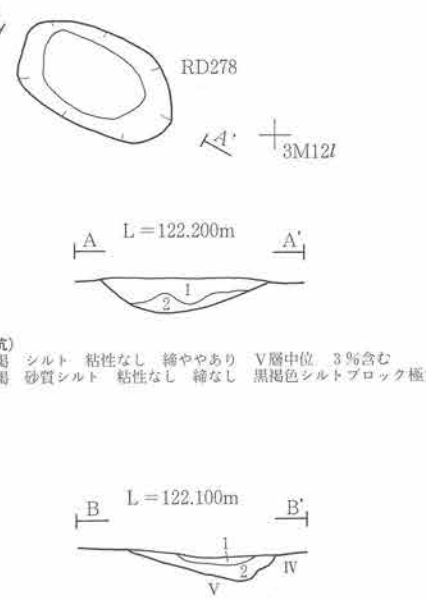



RD276（48号土坑）　A－A'
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締り中
2　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締り中　黄褐砂質土10%混入
3　10YR5/6 黄褐　砂質土　粘性弱　締りやや疎　黒褐シルト20%混入




RD279（49号土坑）
1　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性なし　締あり　炭粒　微細な焼土粒を含む
2　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性なし　締あり　Ⅳ層褐色土を全体に含む
3　7.5YR3/2黒褐　シルト　粘性なし　締あり　Ⅳ層極小～大粒５%・焼土極小～中粒を10～15%含む　上層に灰を含む
4　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性ややあり　締ややあり　Ⅳ層小～極大粒５～７%含む　炭粒極少量含む

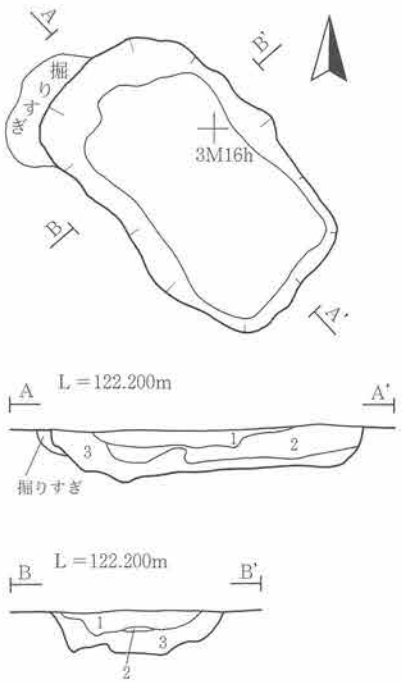



RD278（51号土坑）
1　10YR3/2 黒褐　シルト　粘性なし　締ややあり　Ⅴ層中位　３%含む
2　10YR3/2 黒褐　砂質シルト　粘性なし　締なし　黒褐色シルトブロック極大粒５%含む

RD277（52号土坑）
1　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性なし　締なし　Ⅴ層小粒３%含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐　砂質シルト　粘性なし　締なし　褐色砂・黒褐色シルト含む

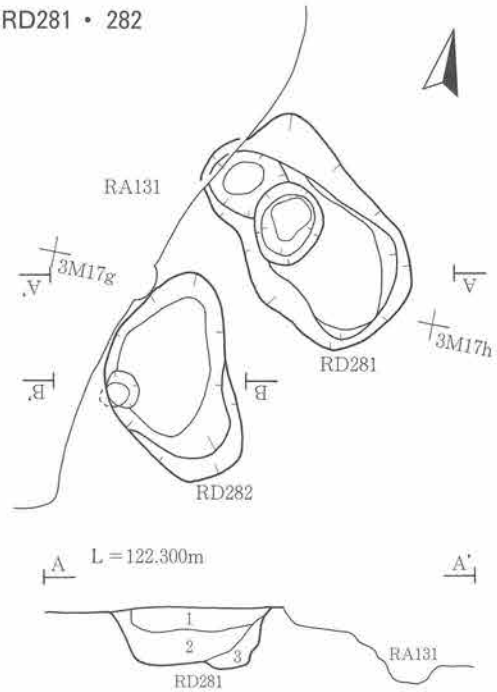
第91図　RD275～279土坑

## RD280




RD280（35号土坑）
1 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性なし　締なし　Ⅳ層小粒3％
2 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　締なし　Ⅳ層中粒5％
3 10YR3/3 暗褐　シルト　粘性ややあり　締なし　Ⅳ層大粒～極小10%　人為堆積？

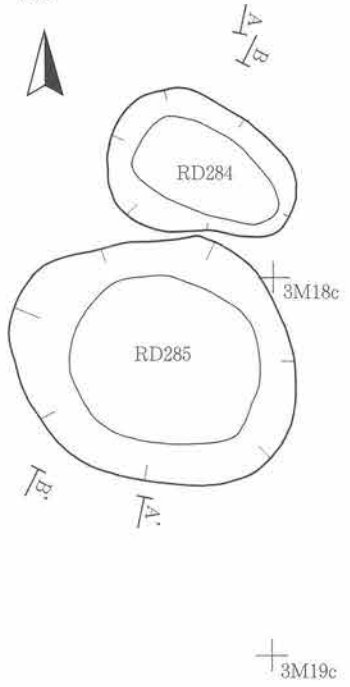
## RD281・282

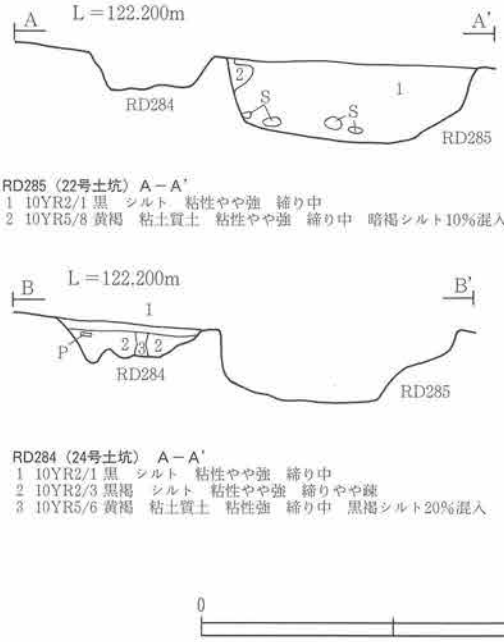



RD281（38号土坑）　A－A'
1 10YR2/1 黒　シルト　粘性中　締りやや密　黄褐粘土ブロック20%混入
2 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中
3 10YR3/3 暗褐　粘土質土　粘性中　締り中

RD282（39号土坑）　B－B'
1 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中（※38号土坑2層と類似する堆積層）
2 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中　To－a 1％・黄褐粘土質土10%混入

## RD284・285



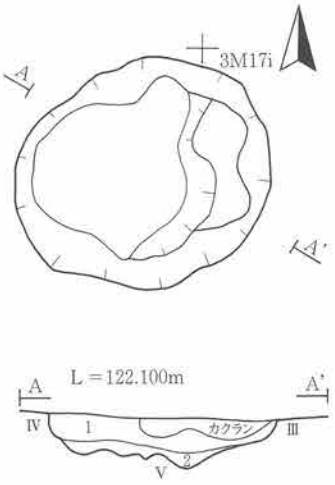

RD285（22号土坑）A－A'
1 10YR2/1 黒　シルト　粘性やや強　締り中
2 10YR5/8 黄褐　粘土質土　粘性やや強　締り中　暗褐シルト10%混入

RD284（24号土坑）　A－A'
1 10YR2/1 黒　シルト　粘性やや強　締り中
2 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや疎
3 10YR5/6 黄褐　粘土質土　粘性強　締り中　黒褐シルト20%混入

0　2 m

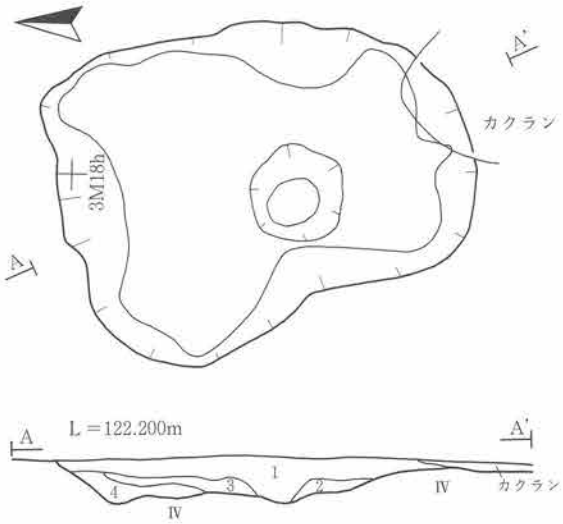
第92図　RD280～282・284・285土坑

RD283



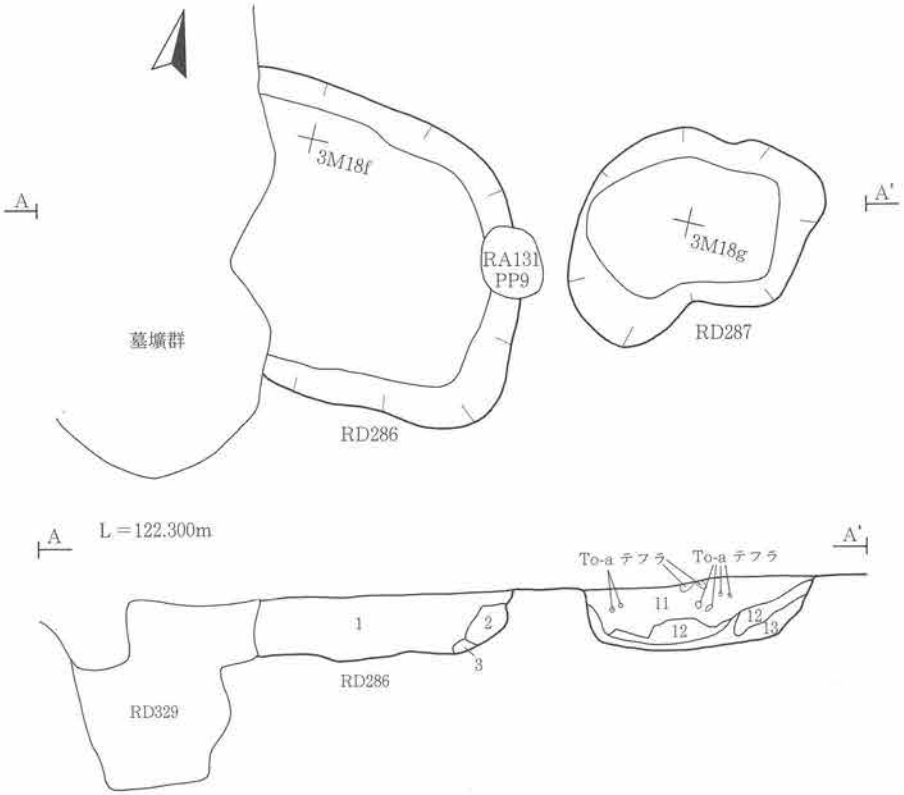

RD283（34号土坑）
1　10YR2/1 黒　シルト　粘性ややあり　締なし　Ⅳ層ブロック（径0.5～3㎝）3％
2　10YR4/6 褐　シルト　粘性ややあり　締なし　Ⅳ～Ⅴ層崩壊土に黒褐色土ブロック（径0.5～2㎝）15％

RD288




RD288（2号土坑）
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性なし　締あり　Ⅳ層ブロック3％含む
2　10YR5/4 にぶい黄褐　シルト　粘性なし　締なし　黒褐色土を斑に含む
3　10YR5/8 黄褐　砂質シルト　Ⅳ層起源の層　黒褐色土粒3％含む
4　10YR5/4 にぶい黄褐　シルト　粘性なし　締なし　黒褐色土を斑に含む

RD286・287

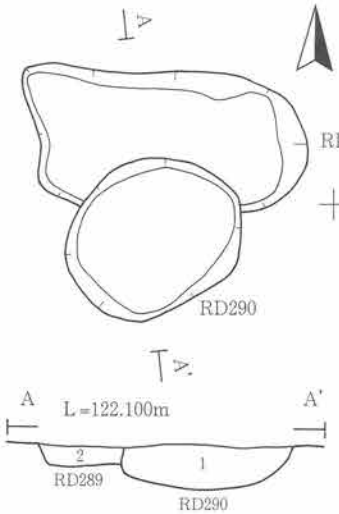



RD286・287（30・31号土坑）　A－A'
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締りやや密　To－a（にぶい黄橙色砂状）小ブロック3％混入
2　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締り中　To－a（にぶい黄橙色砂状）小ブロック5％・黄褐粘土質土10％混入
3　10YR5/6黄褐　砂質粘土質土　粘性中　締りやや密
11　10YR2/1 黒　シルト　粘性やや強　締りやや密　To－a（にぶい黄橙色砂状）小ブロック3％混入
12　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中　黄褐粘土質土10％混入
13　10YR5/6黄褐　砂質粘土質土　粘性中　締りやや緩

0　2m

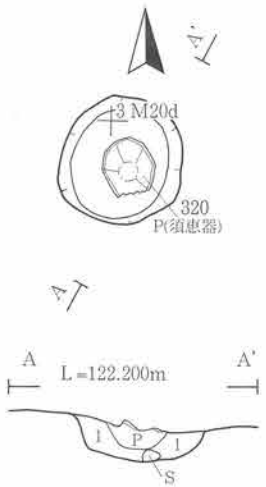
第93図　RD283・286～288土坑

## RD289・290



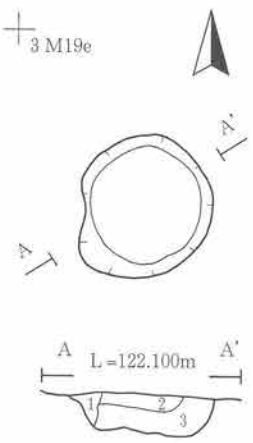

RD289・290（※RD290が19号土坑で、RD289が20号土坑）　A－A'
1　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性中　締りやや疎
　　土器・黄褐粘土ブロック5％・焼土ブロック2％混入
2　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中　黄褐粘土7％混入

## RD291



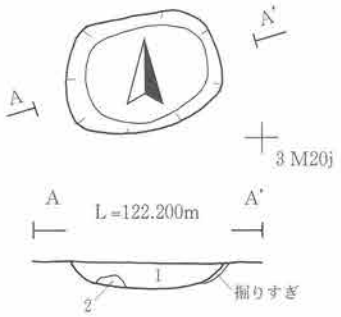

RD291（21号土坑）　A－A'
1　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや疎
　　炭化材（φ1㎝程）2％混入

## RD292



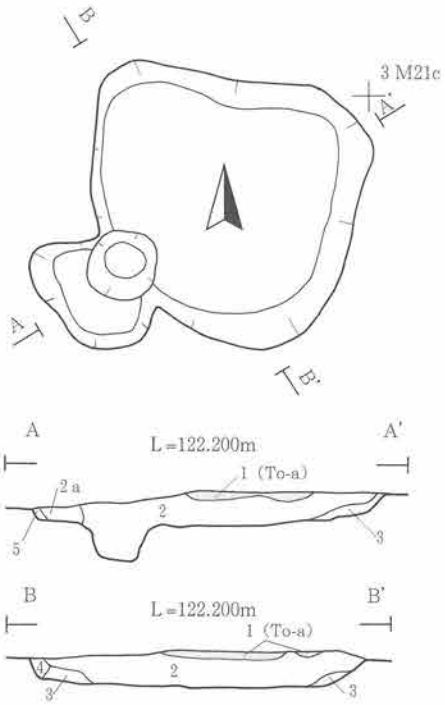

RD292（36号土坑）
1　10YR4/4 褐　粘性あり　締なし
　　黒褐色土粒25％含む炭粒少量含む
　　To－a粒？1％
2　10YR2/3 黒褐　粘性あり　締なし
3　10YR3/2 黒褐　粘性あり　締なし
　　V層起源砂質土を全体に多く含む
　　V層ブロック（径1～3㎝大）3％

## RD293



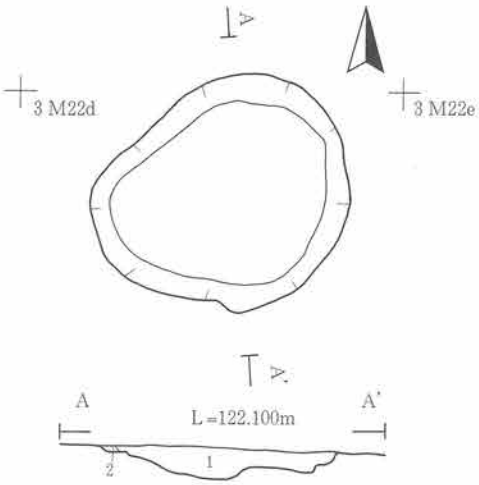

RD293（40号土坑）
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性なし　締ややあり　混入物なし
2　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性ややあり　締なし　Ⅳ層　中粒7％

## RD294

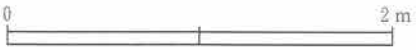



RD294（17号土坑）　A－A'
1　10YR6/4 にぶい黄橙　テフラ　粘性弱　締り中（※To－a層、砂状の部分と粉状部分からなる）
2　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中
2a　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中
3　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性中　締り中　黄褐砂質ローム20％混入
4　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性やや弱　締り中　黄褐砂質ローム10％混入
5　10YR4/4 褐　シルト　粘性中　締り中

## RD295

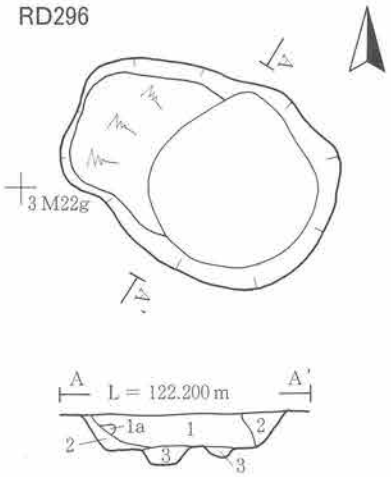



RD295（8号土坑）　A－A'
1　10YR2/2～2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締中　To－a（にぶい黄橙砂質）2％混入
2　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性やや強　締やや疎　黄褐砂質粘土質土10％混入



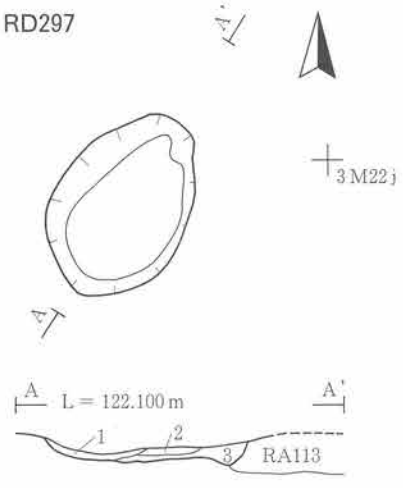

第94図　RD290～295土坑

## RD296



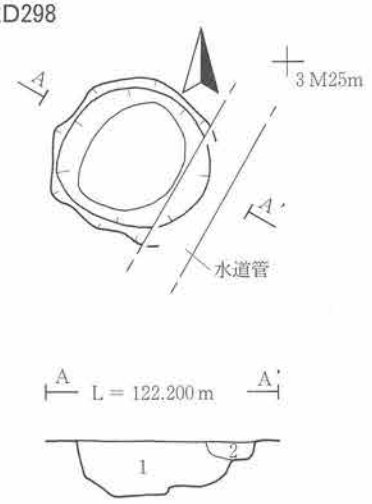

RD296（16号土坑）　A－A'
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締中
Ia 10YR4/6 褐　粘土質土　粘性やや強　締中
2　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中
　　黄褐粘土５％混入
3　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中
　　黄褐粘土30％混入（黒褐シルトと黄褐粘土の混土）

## RD297



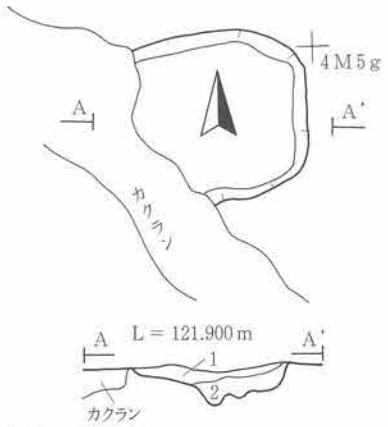

RD297（57号土坑）
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　締なし　Ⅳ層小粒２％
2　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性あり　締なし　焼土小～中粒７％
3　10YR4/4 褐　シルト　粘性なし　締ややあり　Ⅳ層ブロック
　　黒褐色土ブロックの混合土

## RD298



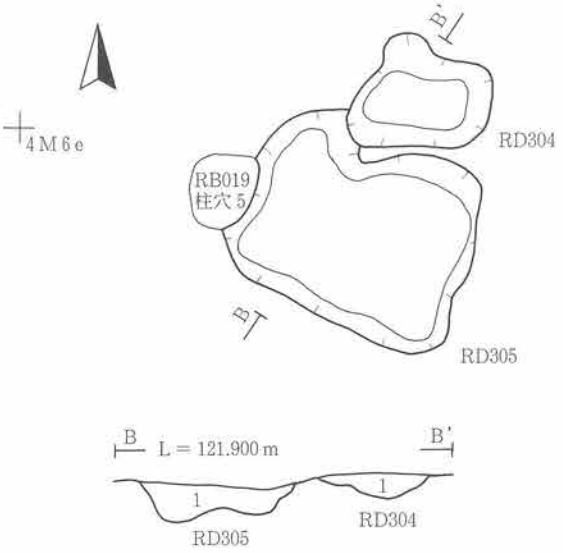

RD298（15号土坑）　A－A'
1　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締中　黄褐粘土３％混入
2　10YR2/3 黒褐シルトと10YR5/6黄褐粘土の混土　粘性中　締密

## RD303




RD303（43号土坑）
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性ややあり　締あり　Ⅳ層ブロック中粒３％　焼土含む
2　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性ややあり　締なし　Ⅳ層ブロック中～極大15％
　　埋め戻し　掘り方の土

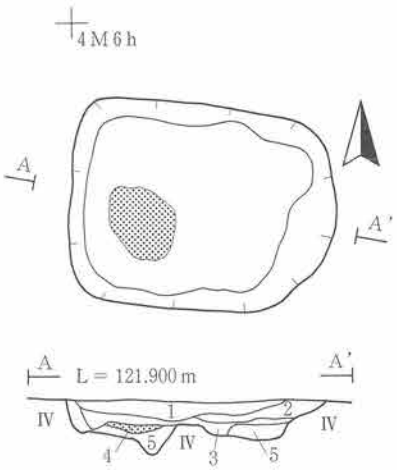
## RD304・305




RD304（44号土坑）
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性ややあり　締ややあり
　　Ⅳ層ブロック小～極大（５㎝大まで）20％混入

RD305（42号土坑）
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性ややあり　締ややあり
　　Ⅳ層ブロック　小～極大粒15％混入

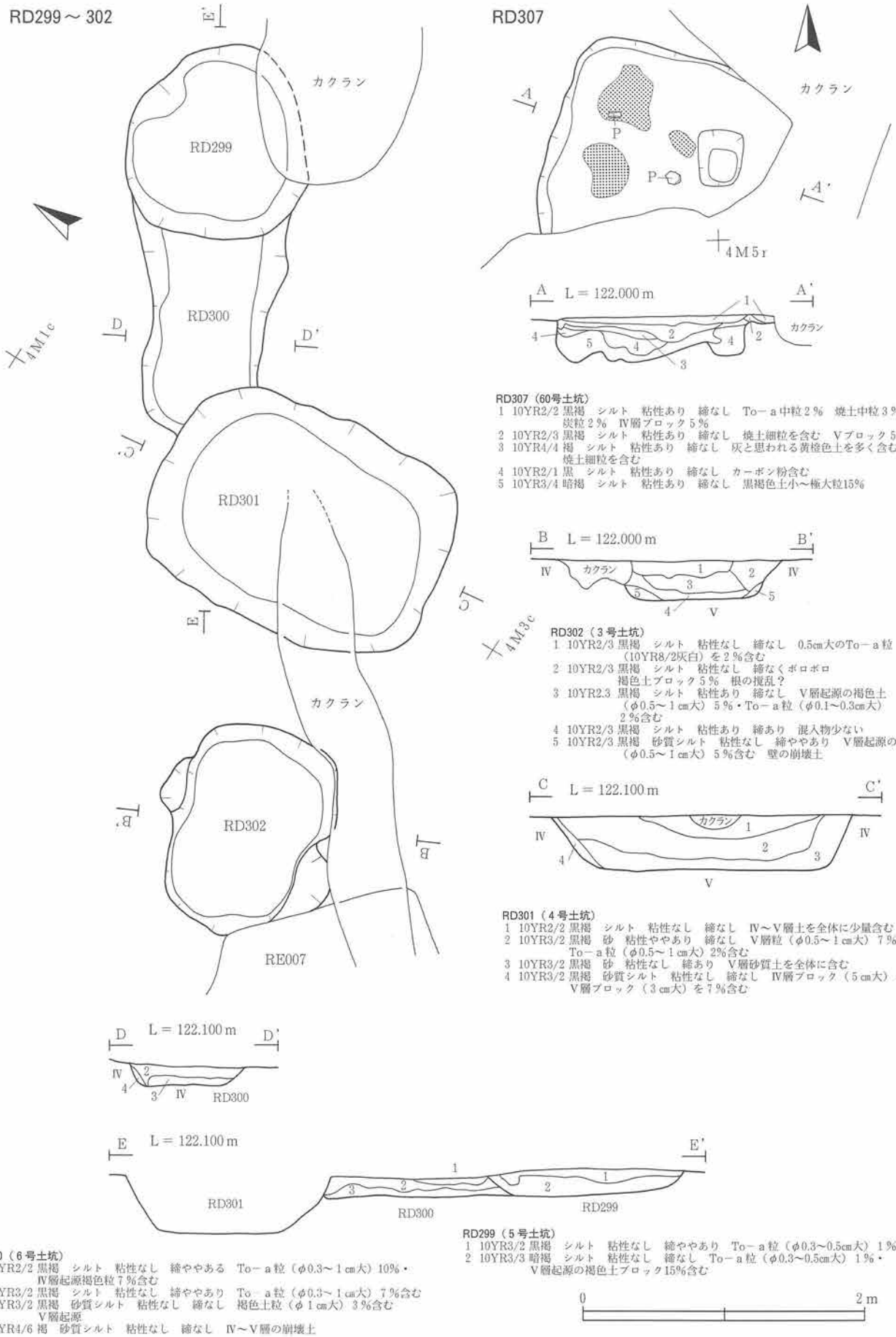
## RD306




RD306（12号土坑）
1　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性ややあり　締あり　特に下層に灰黄褐色の灰を含む
2　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性ややあり　締あり　混入物少ない
3　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性ややあり　締あり　Ⅳ層粒３～５％含む
4　7.5YR3/3暗褐　シルト　粘性ややあり　締なし　焼土　Ⅳ層粒・灰含む　動いた焼土
5　10YR4/6 褐　シルト　粘性なし　締あり　黒褐色土粒（φ0.5～1.5㎝大）５％含む　掘り方
5'10YR2/3 黒褐　シルト　粘性に富む　締あり　Ⅳ層粒７％含む

0　2 m

第95図　RD296～298・303～306土坑




**RD307（60号土坑）**
1 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　締なし　To－a中粒2％　焼土中粒3％
炭粒2％　Ⅳ層ブロック5％
2 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　締なし　焼土細粒を含む　Ⅴブロック5％
3 10YR4/4 褐　シルト　粘性あり　締なし　灰と思われる黄橙色土を多く含む
焼土細粒を含む
4 10YR2/1 黒　シルト　粘性あり　締なし　カーボン粉含む
5 10YR3/4 暗褐　シルト　粘性あり　締なし　黒褐色土小～極大粒15％

**RD302（3号土坑）**
1 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性なし　締なし　0.5cm大のTo－a粒
（10YR8/2灰白）を2％含む
2 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性なし　締なくボロボロ
褐色土ブロック5％　根の攪乱？
3 10YR2.3 黒褐　シルト　粘性あり　締なし　Ⅴ層起源の褐色土
（φ0.5～1cm大）5％・To－a粒（φ0.1～0.3cm大）
2％含む
4 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　締あり　混入物少ない
5 10YR2/3 黒褐　砂質シルト　粘性なし　締ややあり　Ⅴ層起源の褐色土
（φ0.5～1cm大）5％含む　壁の崩壊土

**RD301（4号土坑）**
1 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性なし　締なし　Ⅳ～Ⅴ層土を全体に少量含む
2 10YR3/2 黒褐　砂　粘性ややあり　締なし　Ⅴ層粒（φ0.5～1cm大）7％・
To－a粒（φ0.5～1cm大）2％含む
3 10YR3/2 黒褐　砂　粘性なし　締あり　Ⅴ層砂質土を全体に含む
4 10YR3/2 黒褐　砂質シルト　粘性なし　締なし　Ⅳ層ブロック（5cm大）・
Ⅴ層ブロック（3cm大）を7％含む

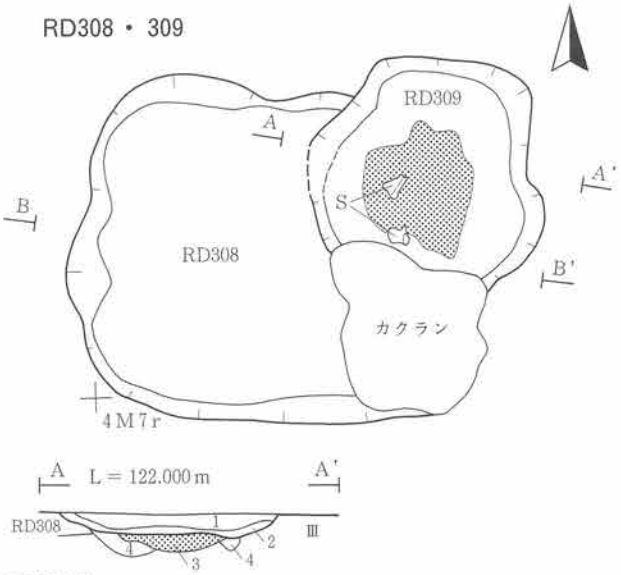
**RD300（6号土坑）**
1 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性なし　締ややある　To－a粒（φ0.3～1cm大）10％・
Ⅳ層起源褐色粒7％含む
2 10YR3/2 黒褐　シルト　粘性なし　締ややあり　To－a粒（φ0.3～1cm大）7％含む
3 10YR3/2 黒褐　砂質シルト　粘性なし　締なし　褐色土粒（φ1cm大）3％含む
Ⅴ層起源
4 10YR4/6 褐　砂質シルト　粘性なし　締なし　Ⅳ～Ⅴ層の崩壊土

**RD299（5号土坑）**
1 10YR3/2 黒褐　シルト　粘性なし　締ややあり　To－a粒（φ0.3～0.5cm大）1％含む
2 10YR3/3 暗褐　シルト　粘性なし　締なし　To－a粒（φ0.3～0.5cm大）1％・
Ⅴ層起源の褐色土ブロック15％含む

0　2m

第96図　RD299～302・307土坑

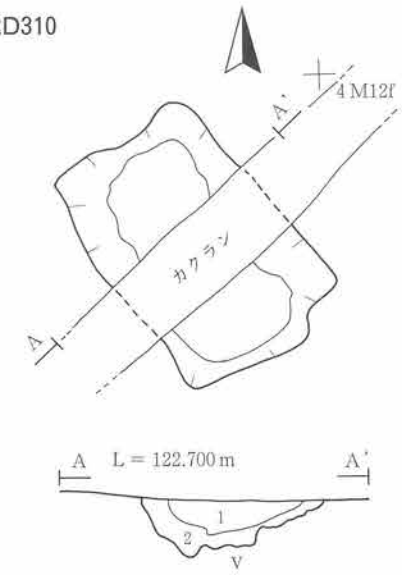
## RD308・309




RD309（58号土坑）
1 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性に富む　締ややあり　59号土坑と切りあっている部分ではTo－a極小粒2％
2 10YR2/1 黒　シルト　粘性あり　締りなし　炭粒少量、焼土小粒3％含む　カーボン粉全体に含む
3 5YR3/3 暗赤褐　砂質シルト　粘性なし　締あり　焼土
4 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性、締あり　Ⅳ層中～極大粒3％　掘り方埋土

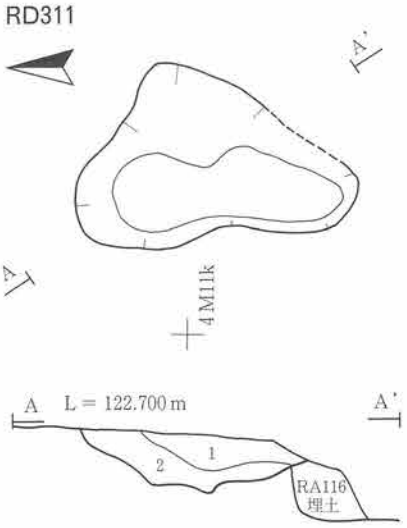
RD308（59号土坑）
1 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やあり　締なし　To－a小～大粒5～7％、Ⅵ層起源の小礫3％、Ⅴ層褐色砂小～中3％含む
2 10YR3/3 暗褐　砂質シルト　黒褐色土ブロック10％、拳大の礫を含む　Ⅴ～Ⅵ層起源の砂を全体に含む　部分的に焼土粒を少量含む

## RD310



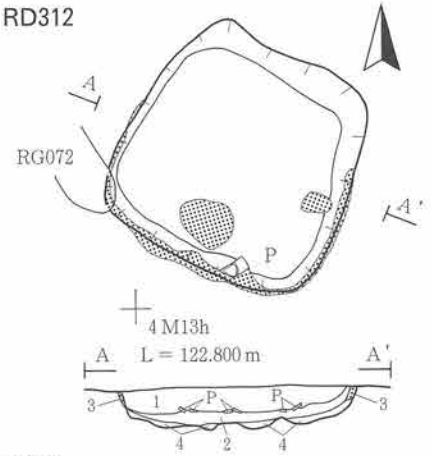

RD310（47号土坑）
1 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性ややあり　締あり
2 10YR3/3 暗褐　シルト　粘性ややあり　締あり　Ⅴ層崩壊土を多く含む　黒褐色ブロック（3～10㎝大）30％含む

## RD311



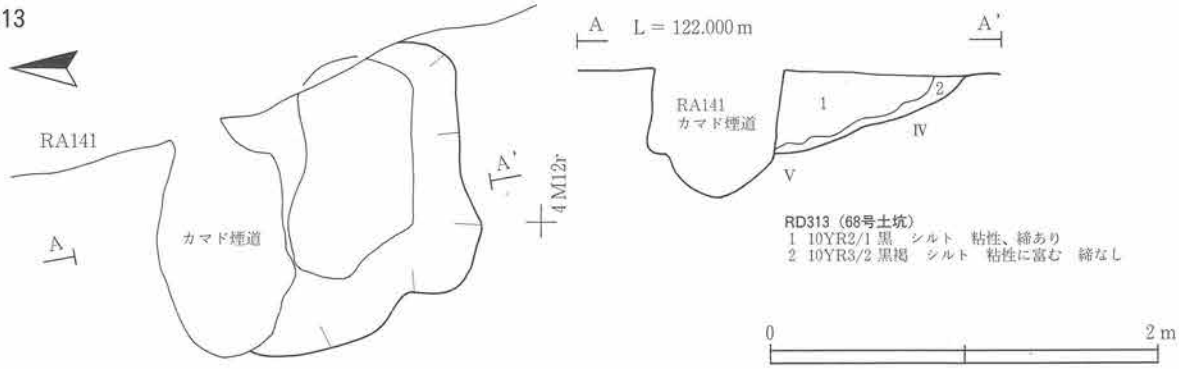

RD311（71号土坑）
1 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　混入物少ない　Ⅳ層微細粒3％
2 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　締りなし　Ⅳ層小～極大粒15％斑に含む　埋め戻しか掘り上げ土の流入か

## RD312



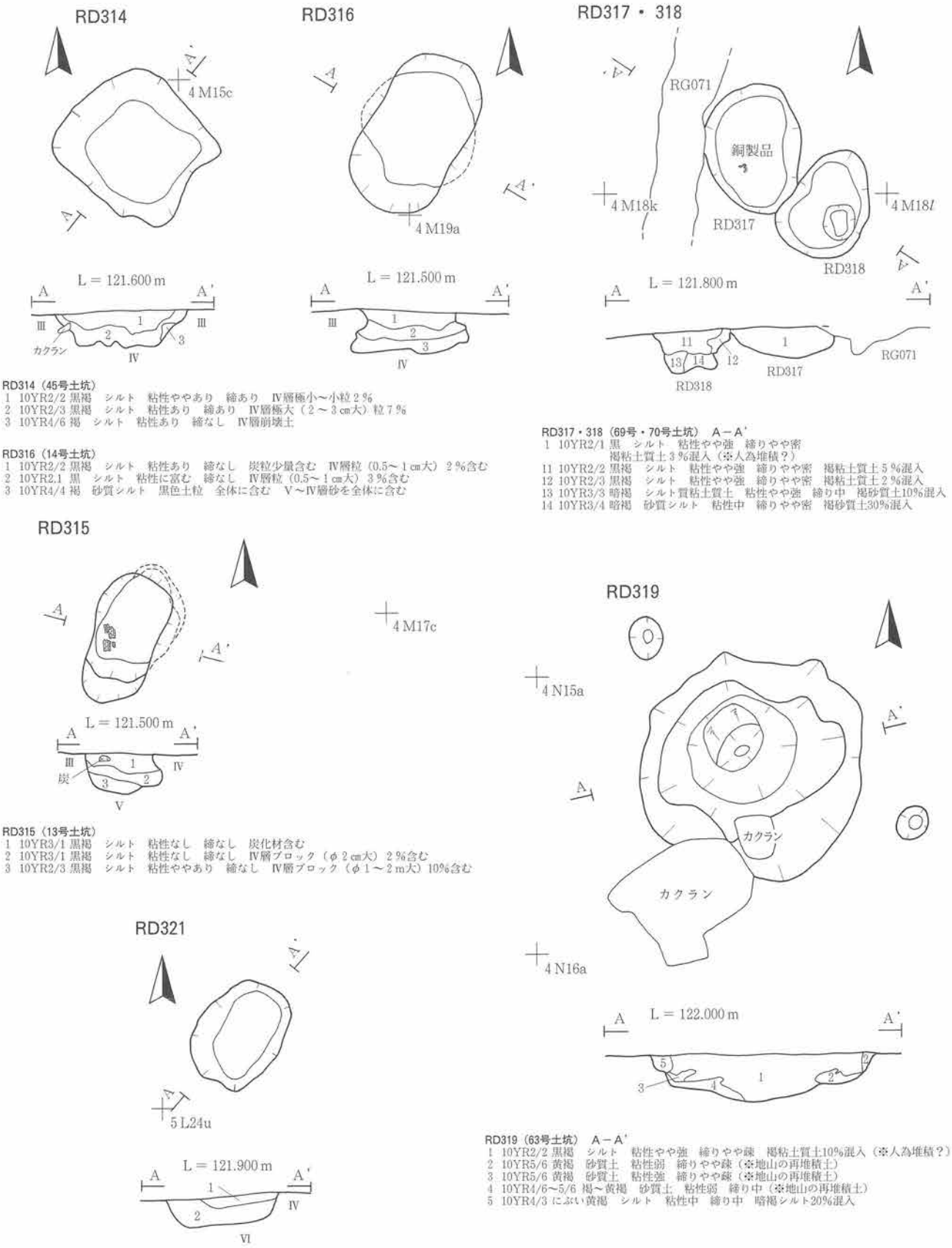

RD312（62号土坑）
1 10YR2/1 黒　シルト　粘性あり　締なし　Ⅳ層粒極小～大3％　焼土小粒1％
2 10YR2/1 黒　シルト　粘性に富む　締なし　炭片、カーボン粒、焼土、Ⅳ層粒を含む　土器剥片、炭化種子を含む
3 5YR4/4 にぶい赤褐　シルト　粘性、締なし　焼土
4 10YR4/6 褐　シルト　粘性、締なし　黒褐色土粒中粒を15％含む

## RD313




RD313（68号土坑）
1 10YR2/1 黒　シルト　粘性、締あり
2 10YR3/2 黒褐　シルト　粘性に富む　締なし

第97図　RD308～313土坑




RD314（45号土坑）
1 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性ややあり　締あり　Ⅳ層極小～小粒2％
2 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　締あり　Ⅳ層極大（2～3㎝大）粒7％
3 10YR4/6 褐　シルト　粘性あり　締なし　Ⅳ層崩壊土

RD316（14号土坑）
1 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　締なし　炭粒少量含む　Ⅳ層粒（0.5～1㎝大）2％含む
2 10YR2.1 黒　シルト　粘性に富む　締なし　Ⅳ層粒（0.5～1㎝大）3％含む
3 10YR4/4 褐　砂質シルト　黒色土粒　全体に含む　Ⅴ～Ⅳ層砂を全体に含む

RD317・318（69号・70号土坑）　A－A'
1 10YR2/1 黒　シルト　粘性やや強　締りやや密
　褐粘土質土3％混入（※人為堆積？）
11 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや密　褐粘土質土5％混入
12 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや密　褐粘土質土2％混入
13 10YR3/3 暗褐　シルト質粘土質土　粘性やや強　締り中　褐砂質土10％混入
14 10YR3/4 暗褐　砂質シルト　粘性中　締りやや密　褐砂質土30％混入

RD315（13号土坑）
1 10YR3/1 黒褐　シルト　粘性なし　締なし　炭化材含む
2 10YR3/1 黒褐　シルト　粘性なし　締なし　Ⅳ層ブロック（φ2㎝大）2％含む
3 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性ややあり　締なし　Ⅳ層ブロック（φ1～2m大）10％含む

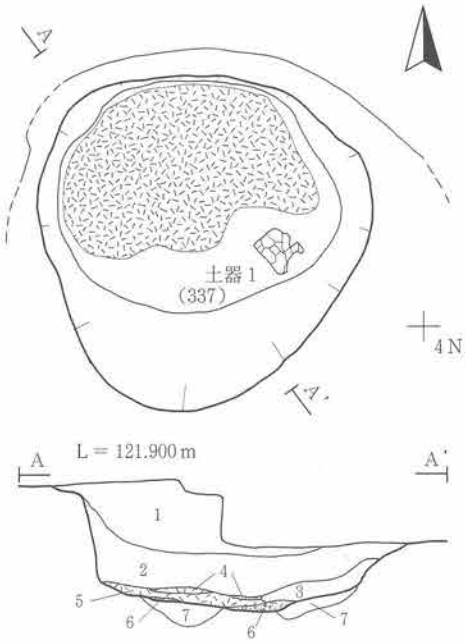
RD319（63号土坑）　A－A'
1 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや疎　褐粘土質土10％混入（※人為堆積？）
2 10YR5/6 黄褐　砂質土　粘性弱　締りやや疎（※地山の再堆積土）
3 10YR5/6 黄褐　砂質土　粘性強　締りやや疎（※地山の再堆積土）
4 10YR4/6～5/6 褐～黄褐　砂質土　粘性弱　締り中（※地山の再堆積土）
5 10YR4/3 にぶい黄褐　シルト　粘性中　締り中　暗褐シルト20％混入

RD321（9号土坑）　A－A'
1 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性なし　締なし
2 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性なし　締なし　Ⅳ層起源の砂と礫（こぶし大）を50％ほど混入

0　2 m

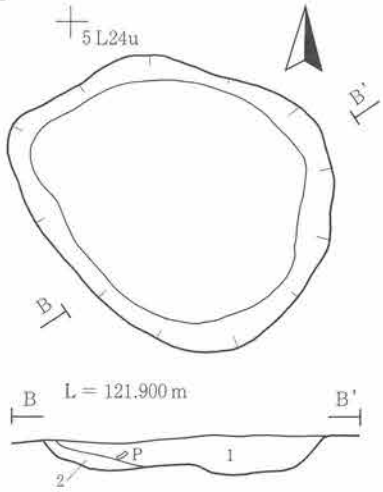
第98図　RD314～319・321土坑

RD320



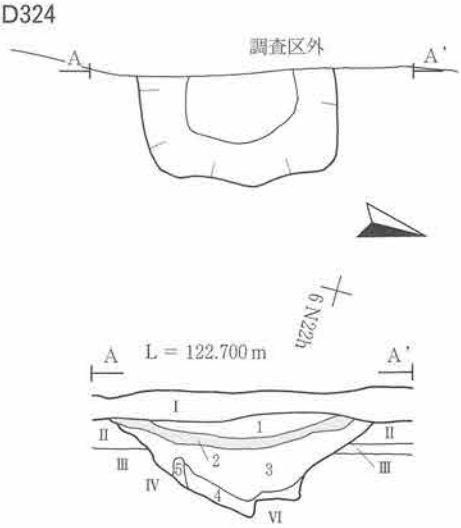

RD320（33号土坑）
1 10YR2/1 黒　シルト　粘性なし　締あり　Ⅴ層粒（径0.5cm大）5％混入
2 10YR2/2 黒褐　砂質シルト　粘性あり　締ややあり　Ⅴ層砂全体に混入
　黒色ブロック（径3～10cm大）20%混入
3 10YR2/1 黒　シルト　粘性なし　締あり
4 10YR6/4 にぶい黄褐　灰層　粘性なし　締なし
5 10YR3/2 黒褐～10YR4/2灰黄褐　灰層　粘性なし　締なし　4層と性質が同じ
6 10YR2/1 黒　シルト　粘性に富む　締なし　カーボン粉多く含む
7 10YR2/3 黒褐　砂　粘性なし　Ⅴ層砂を多く含む　Ⅳ層ブロック（大）3％　掘り方

RD322



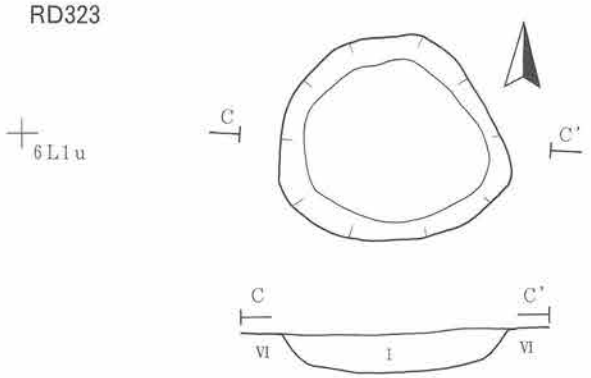

RD322（10号土坑）
1 10YR3/2 黒褐　シルト　粘性なし　締ややあり　炭粒を含む　礫5％含む
　土器片多く含む
2 10YR3/3 暗褐　砂　粘性なし　締ややあり　礫20%含む　土器片多く含む

RD324



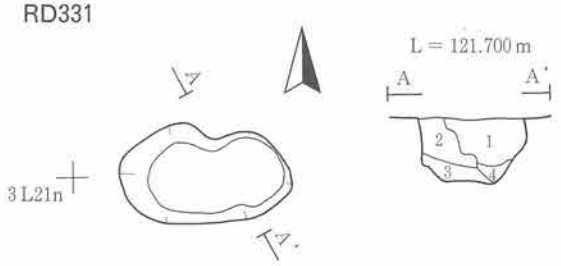

RD324（18号土坑）
1 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　硬く締る　To－a 微細粒を全体に含む
2 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　硬く締る　To－a（10YR7/3にぶい黄褐色）を
　ブロック状に含む（0.5～2㎝大）20%含む
3 10YR2/1 黒　シルト　粘性あり　締あり　Ⅳ層ブロック2％（0.5～1.5㎝大）含む
4 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性あり　締あり　黒色土ブロック・Ⅳ層・Ⅴ層ブロックの
　混合土
5 10YR4/3 にぶい黄褐色　シルト　粘性あり　締あり　Ⅳ層崩壊土

RD323




RD323（11号土坑）
1 10YR3/2 黒褐　シルト　粘性なし　締あり　φ1～2.5cmの小礫3％含む

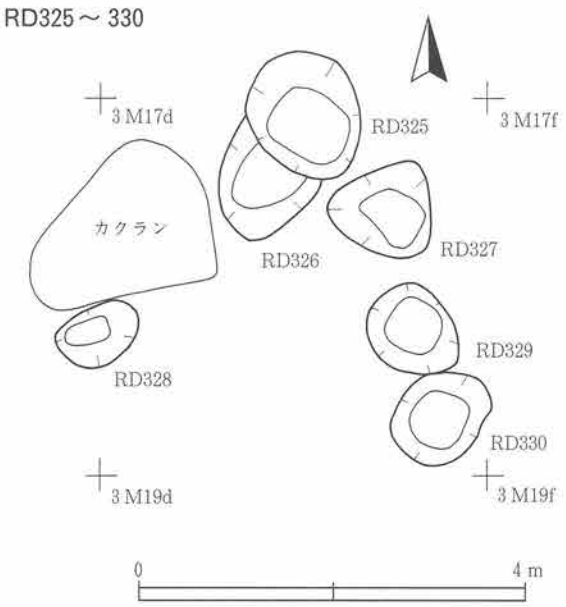
RD331

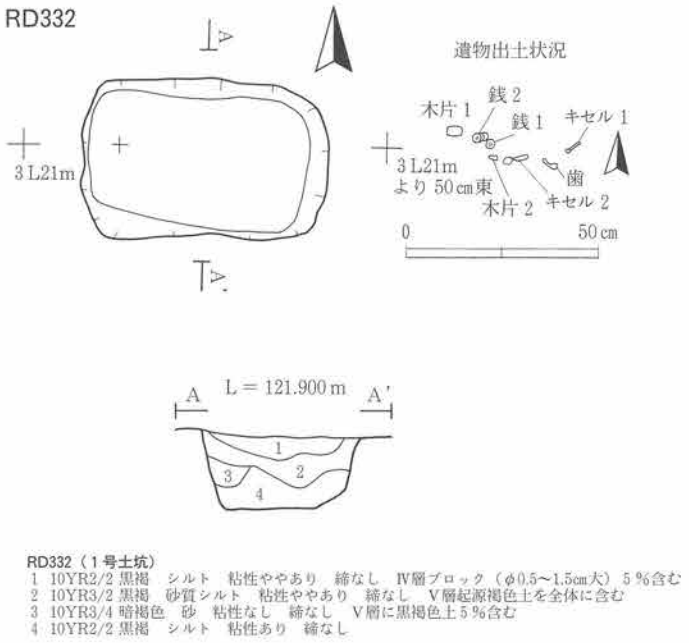



RD331（7号土坑）　A－A'
1 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締やや密　黄褐粘土5％混入
2 10YR4/4 褐　粘土質シルト　粘性中　締やや密　黒褐シルト5％混入
3 10YR4/3 にぶい黄褐　砂質土　粘性弱　締疎（※地山Ⅳ層？）
4 10YR2/3 黒褐　砂質土　粘性弱　締疎（※地山Ⅳ層？）

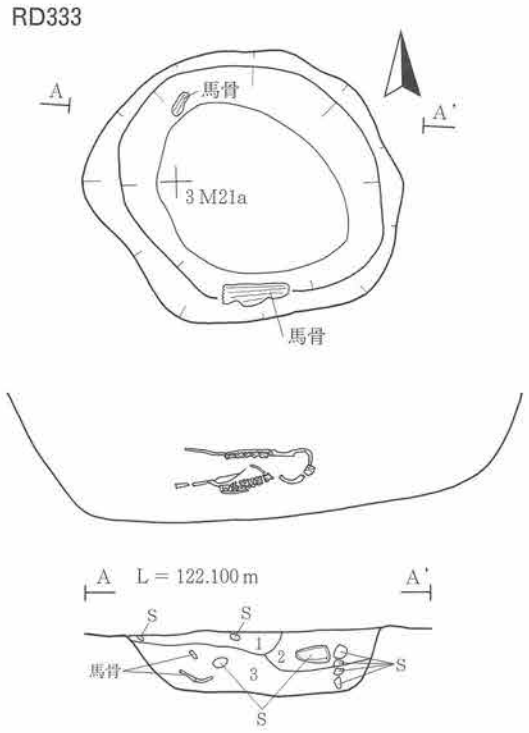
0　2 m

第99図　RD320・322～324・331土坑

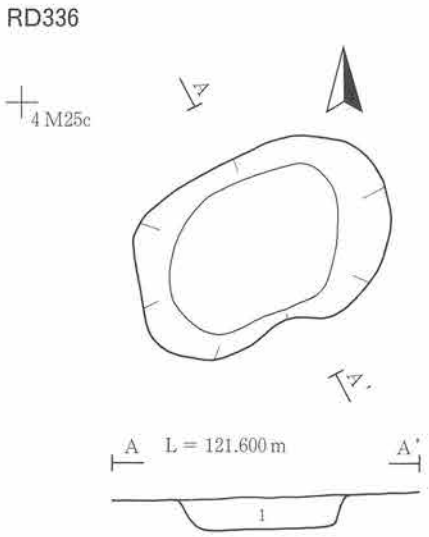


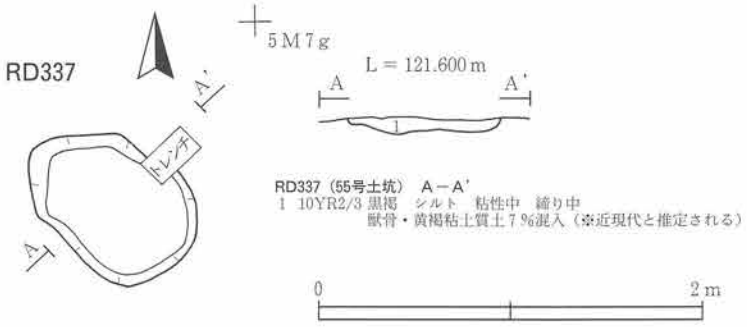

RD332（1号土坑）
1 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性ややあり　締なし　Ⅳ層ブロック（φ0.5～1.5cm大）5％含む
2 10YR3/2 黒褐　砂質シルト　粘性ややあり　締なし　Ⅴ層起源褐色土を全体に含む
3 10YR3/4 暗褐色　砂　粘性なし　締なし　Ⅴ層に黒褐色土5％含む
4 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　締なし




RD333（23号土坑）A－A'
1 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中　礫（φ1～4cm）7％混入
2 10YR3/3 暗褐　シルト　粘性中　締りやや疎　礫（φ1～15cm）20％混入
3 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中　馬骨・礫（φ1～6cm）10％混入



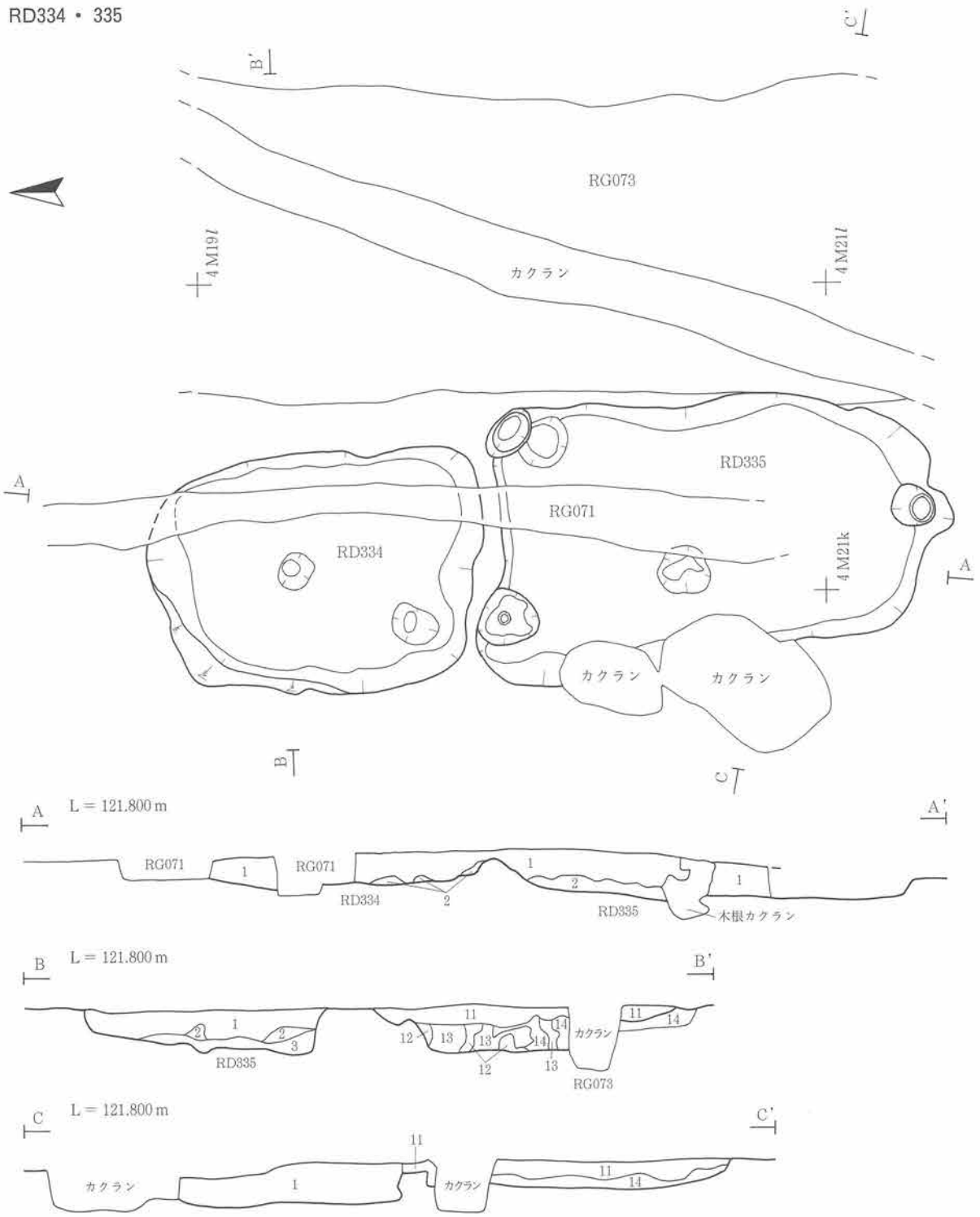

RD336（67号土坑）A－A'
1 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや疎
褐粘土ブロック10％混入（※人為堆積層）




RD337（55号土坑）A－A'
1 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締り中
獣骨・黄褐粘土質土7％混入（※近現代と推定される）

第100図　RD325～330・332・333・336・337土坑

RD334・335

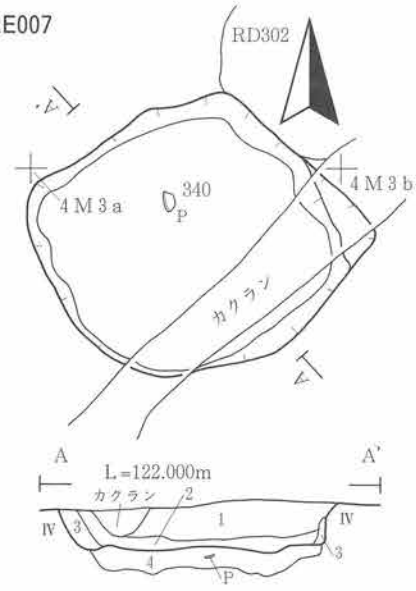



RD334・335（65号・66号土坑）　A－A'　B－B'
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中
2　10YR4/6 褐　粘土質砂質土　粘性やや強　締りやや密　黒褐シルト５%混入
3　10YR4/4 褐　砂質土　粘性中　締り中（※地山土の再堆積層）
11　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締りやや密　黄褐粘土３%混入（※１層より明るめ、人為堆積層？）
12　10YR4/4～3/4 褐～暗褐　砂質粘土質土　粘性中　締りやや密　黒褐シルト20%混入
13　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中　黄褐粘土10%・暗褐砂質土10%混入
14　10YR5/6 黄褐　粘土質砂質土　粘性中　締りやや密　黒褐シルト５%混入

0　2 m

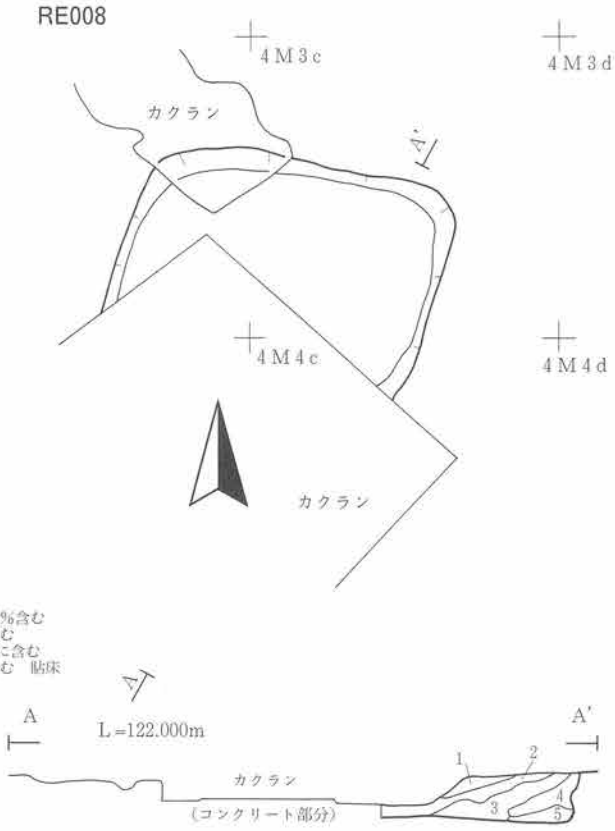
第101図　RD334・335土坑

## RE007



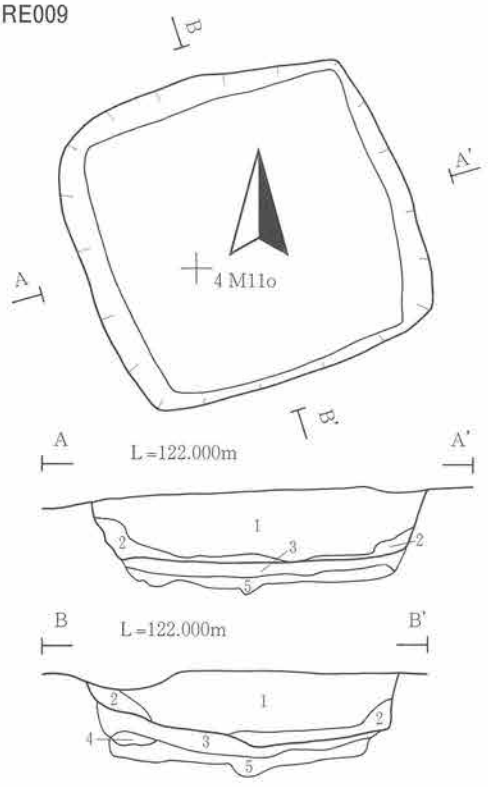

RE007（1号竪穴状遺構）A－A'
1 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性なし　締りややあり　Ⅳ層ブロック（径0.5～1.5cm大）10%含む
2 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　締りあり　Ⅳ層ブロック（径0.3～0.5cm大）2%含む
3 10YR3/3 暗褐　シルト　粘性あり　締りなし　Ⅳ層ブロック（径0.5～3cm大）30%斑に含む
4 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性あり　硬く締る　Ⅳ層ブロック（径0.5～1.5cm大）5%含む　貼床

## RE008



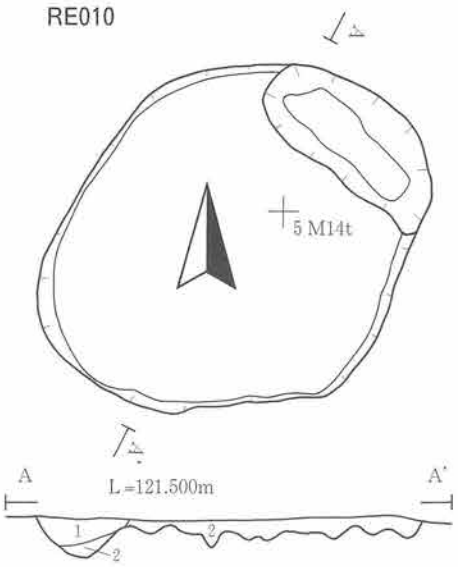

RE008（2号竪穴状遺構）A－A'
1 10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締り中　黄褐砂質土20%・To－a 1%混入
2 10YR5/8 黄褐　砂質土　粘性弱　締りやや疎
3 10YR2/2～2/3 黒褐　シルト　粘性中　締り中　黄褐砂質土20%・To－a 1%混入
4 10YR4/6～5/8 褐～黄褐　砂質土　粘性弱　締りやや疎（※2層と同質土）
5 10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締り中
黄褐砂質土10%混入（※1・3層と同質土と捉えられる）

## RE009




RE009（37号住）A－A'・B－B'
1 10YR3/2 黒褐　シルト　粘性ややあり　締りなし　Ⅳ～Ⅴ層小～極大粒15%　人為堆積
2 10YR2/1 黒　シルト　粘性に富む　締りなし　Ⅳ～Ⅴ層小粒5%　自然堆積
3 10YR3/3 暗褐　シルト　粘性あり　締りなし　Ⅳ～Ⅴ層小～極大粒30%
黒褐色土粒小～極大10%　人為堆積
4 10YR5/8 黄褐　シルト　粘性、締りあり　黒褐色土粒大粒5%
5 10YR3/3 暗褐　シルト　粘性、締りあり　Ⅳ～Ⅴ層土と黒褐色土の互層　人為堆積

## RE010

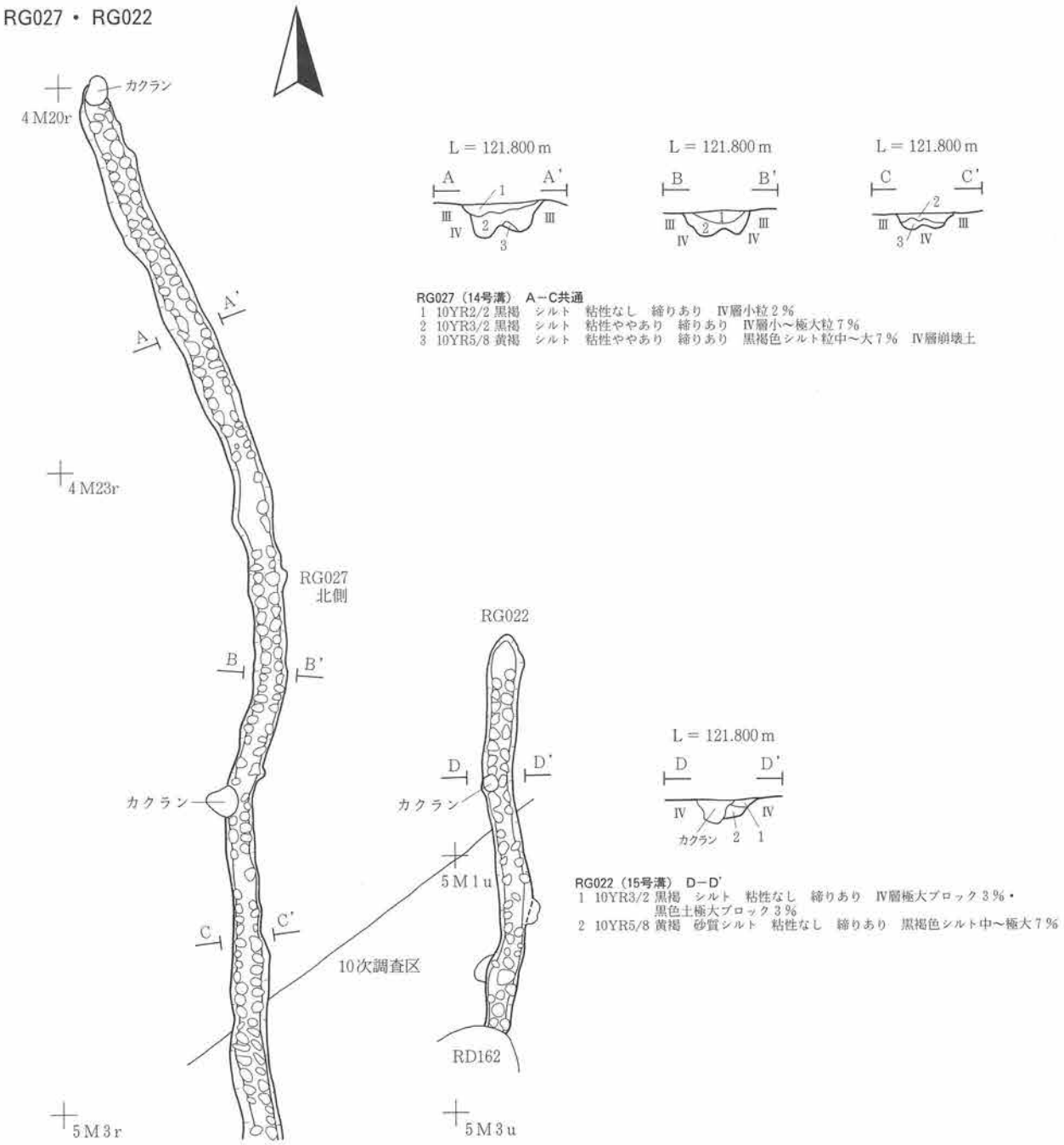



RE010（3号竪穴状遺構）A－A'
1 10YR2/1 黒　シルト　粘性ややあり　締りあり　Ⅳ層極大ブロック1%
2 10YR3/2 黒褐　シルト　粘性、締りあり　Ⅳ層ブロック小～極大10～15%

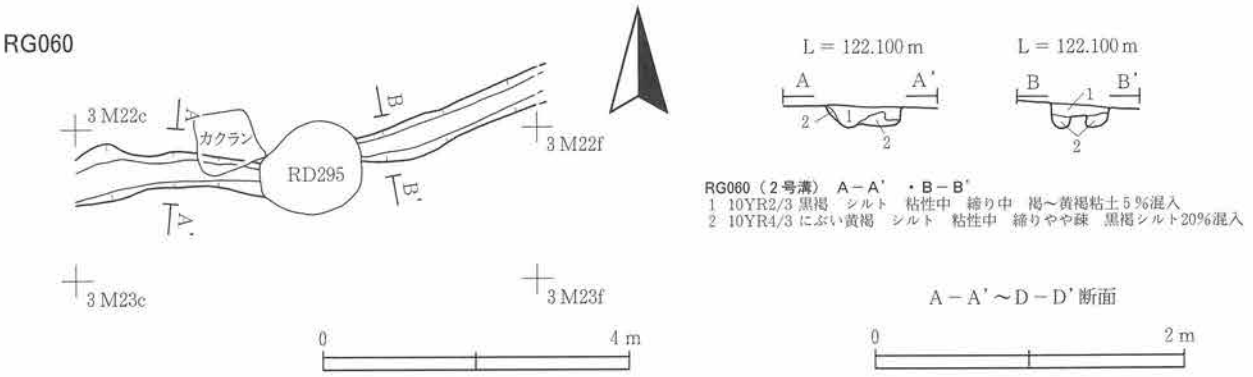
0　2m

第102図　RE007～010竪穴状遺構

RG027・RG022

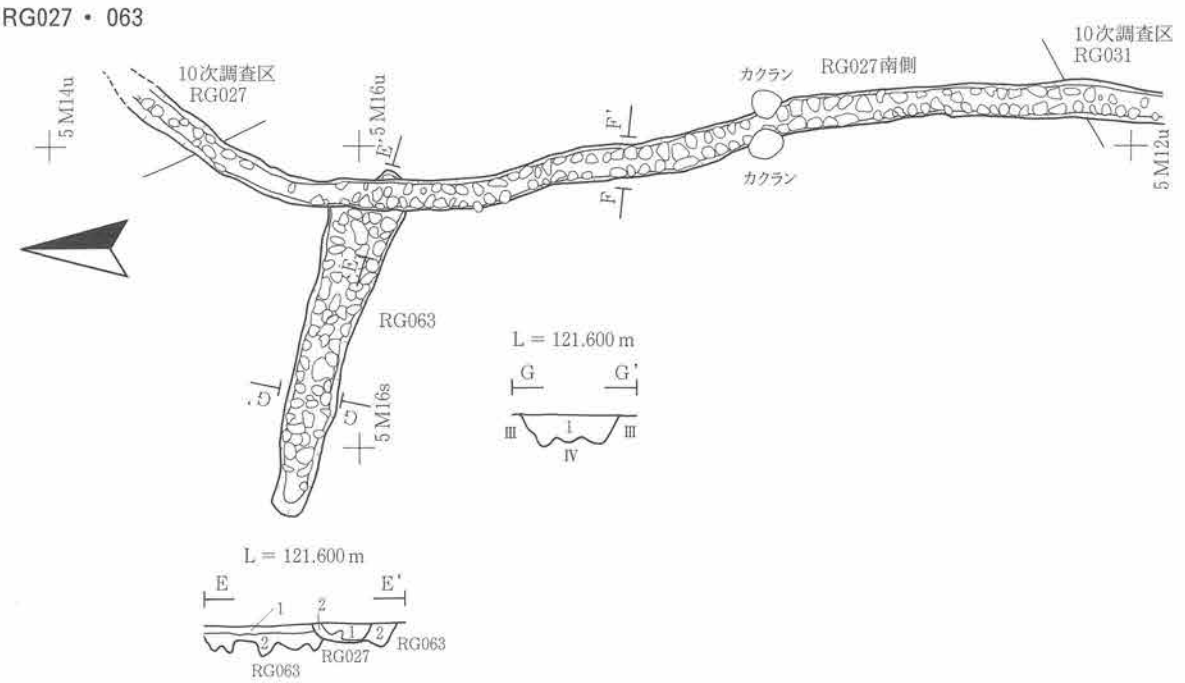



RG060



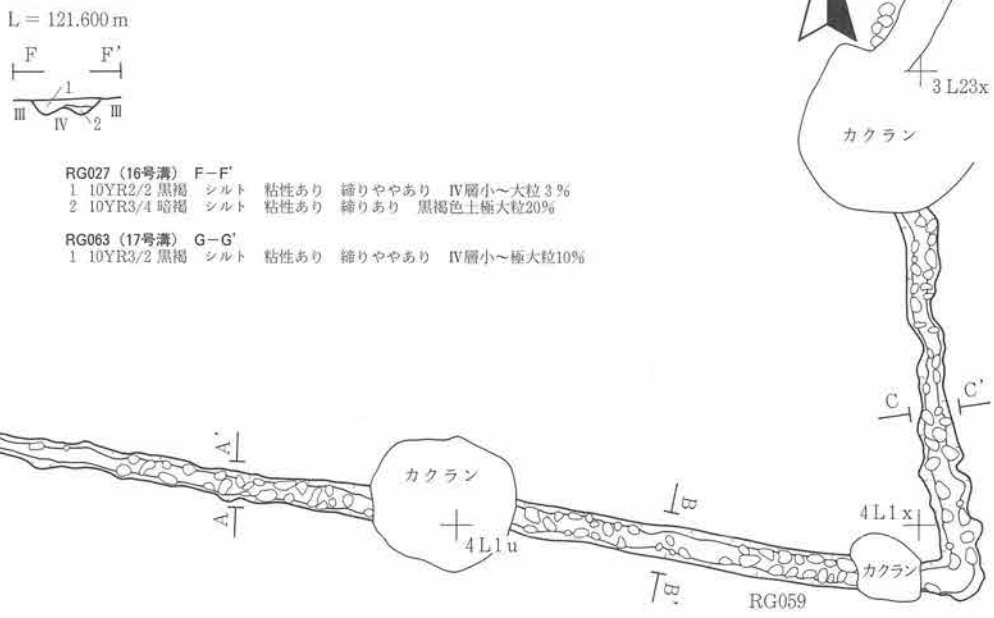

第103図　RG022・027・060溝跡

RG027・063




**RG027（16号溝） E－E'**
1 10YR2/1 黒 シルト 粘性あり 締りあり Ⅳ層小粒2％
2 10YR3/4 暗褐 シルト 粘性あり 締りあり 黒褐色土粒極大20％

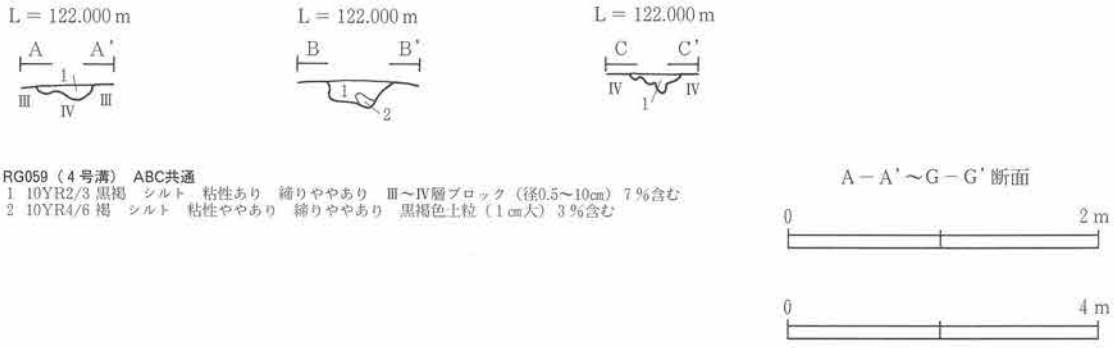
**RG063（17号溝） E－E'**
1 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性ややあり 締りややあり Ⅳ層極小粒3％
2 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性ややあり 締りややあり Ⅳ層極大粒15％




**RG027（16号溝） F－F'**
1 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性あり 締りややあり Ⅳ層小～大粒3％
2 10YR3/4 暗褐 シルト 粘性あり 締りあり 黒褐色土極大粒20％

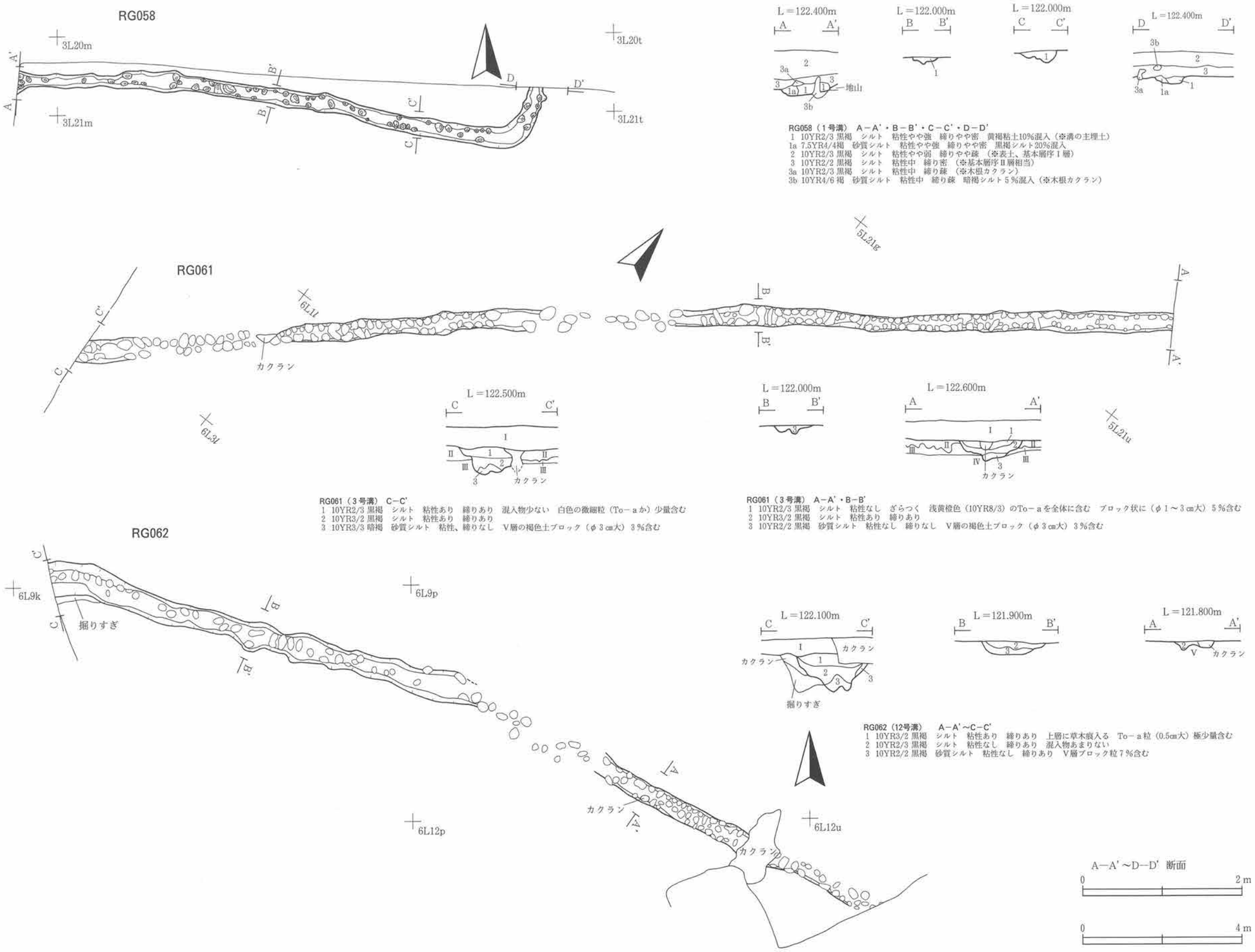
**RG063（17号溝） G－G'**
1 10YR3/2 黒褐 シルト 粘性あり 締りややあり Ⅳ層小～極大粒10％

RG059




**RG059（4号溝） ABC共通**
1 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性あり 締りややあり Ⅲ～Ⅳ層ブロック（径0.5～10cm）7％含む
2 10YR4/6 褐 シルト 粘性ややあり 締りややあり 黒褐色土粒（1cm大）3％含む

第104図 RG027・059・063溝跡



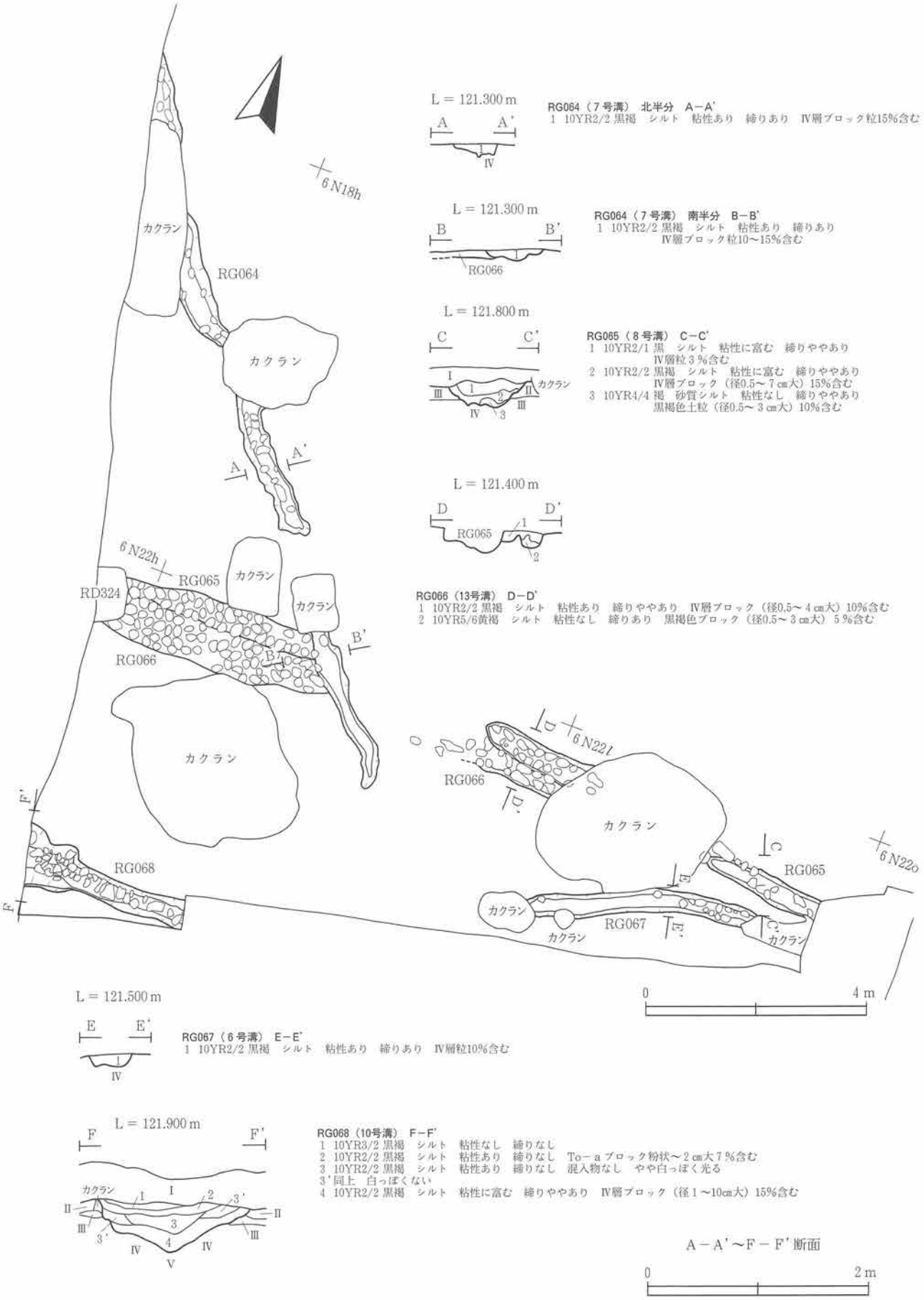

RG058（1号溝） A－A'・B－B'・C－C'・D－D'
1 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性やや強 締りやや密 黄褐粘土10%混入（※溝の主埋土）
1a 7.5YR4/4褐 砂質シルト 粘性やや強 締りやや密 黒褐シルト20%混入
2 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性やや弱 締りやや疎 （※表土、基本層序Ⅰ層）
3 10YR2/2 黒褐 シルト 粘性中 締り密 （※基本層序Ⅱ層相当）
3a 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性中 締り疎 （※木根カクラン）
3b 10YR4/6 褐 砂質シルト 粘性中 締り疎 暗褐シルト５%混入（※木根カクラン）

RG061（3号溝） C－C'
1 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性あり 締りあり 混入物少ない 白色の微細粒（To－aか）少量含む
2 10YR3/2 黒褐 シルト 粘性あり 締りあり
3 10YR3/3 暗褐 砂質シルト 粘性、締りなし Ⅴ層の褐色土ブロック（φ３㎝大）３%含む

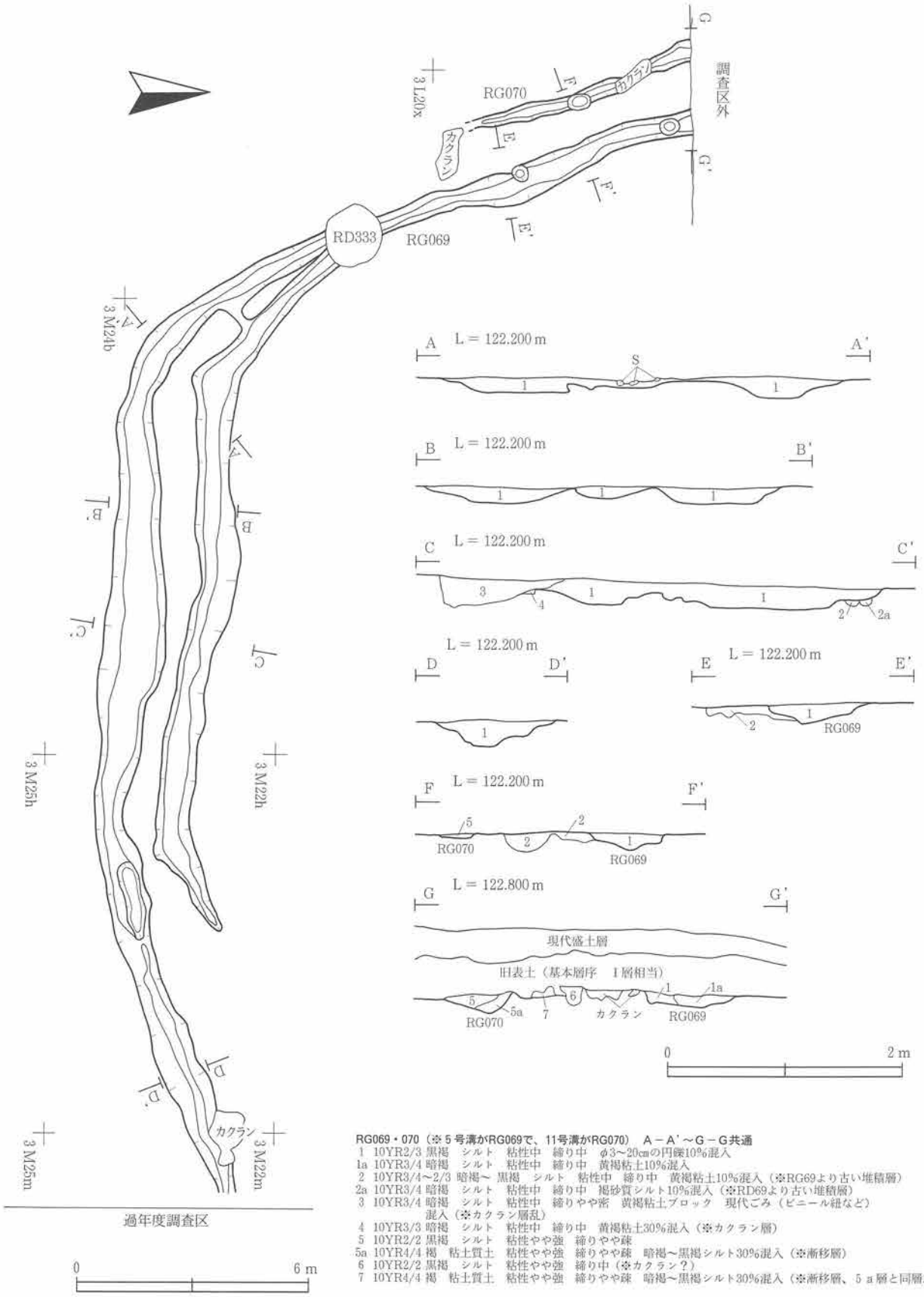
RG061（3号溝） A－A'・B－B'
1 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性なし ざらつく 浅黄橙色（10YR8/3）のTo－aを全体に含む ブロック状に（φ１～３㎝大）５%含む
2 10YR3/2 黒褐 シルト 粘性あり 締りあり
3 10YR2/2 黒褐 砂質シルト 粘性なし 締りなし Ⅴ層の褐色土ブロック（φ３㎝大）３%含む

RG062（12号溝） A－A'～C－C'
1 10YR3/2 黒褐 シルト 粘性あり 締りあり 上層に草木痕入る To－a粒（0.5㎝大）極少量含む
2 10YR2/3 黒褐 シルト 粘性なし 締りあり 混入物あまりない
3 10YR2/2 黒褐 砂質シルト 粘性なし 締りあり Ⅴ層ブロック粒７%含む

第105図 RG058・061・062溝跡



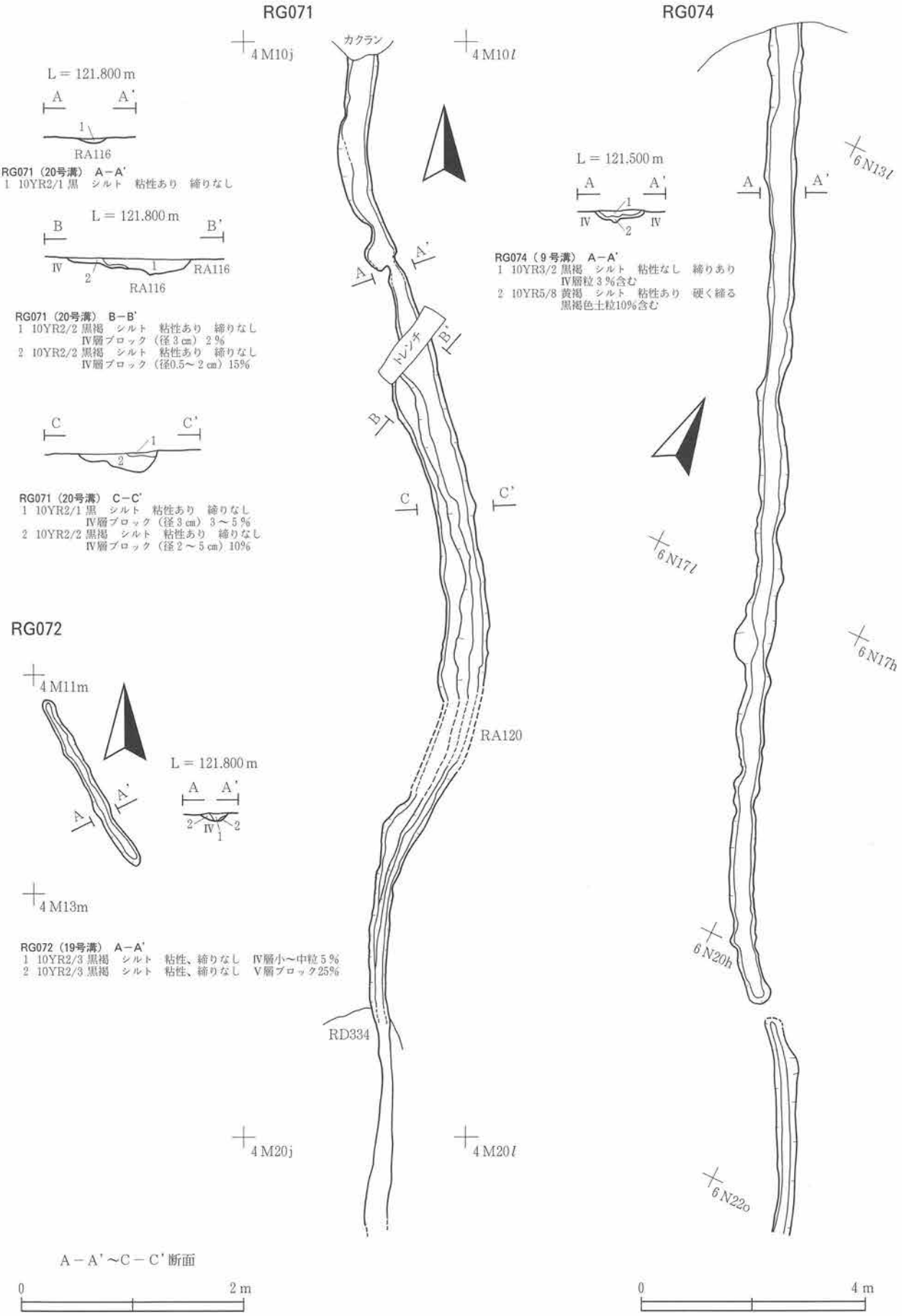

第106図　RG064～068溝跡



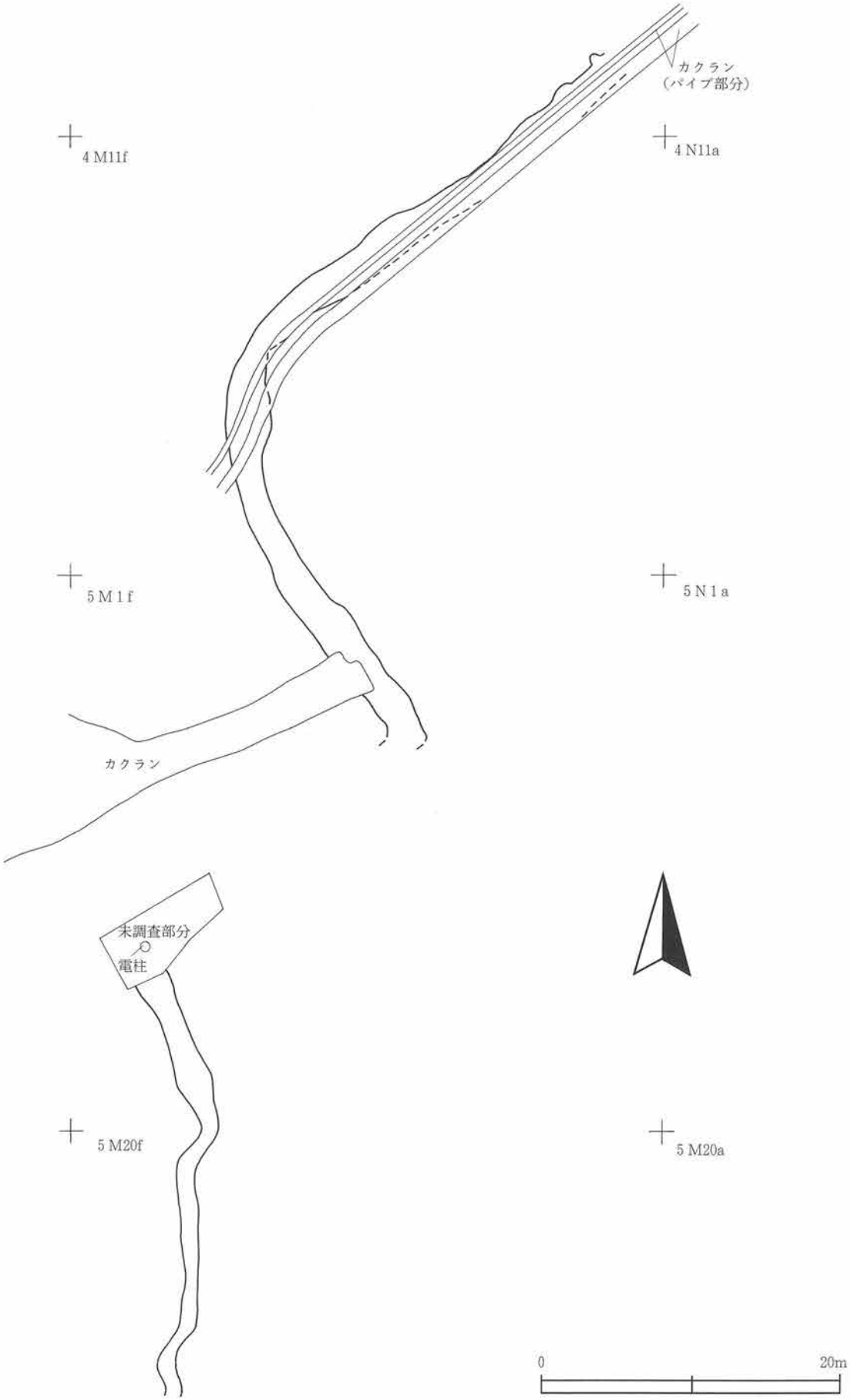

RG069・070（※5号溝がRG069で、11号溝がRG070）　A－A'～G－G共通

1　10YR2/3 黒褐　シルト　粘性中　締り中　φ3～20cmの円礫10%混入
1a　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性中　締り中　黄褐粘土10%混入
2　10YR3/4～2/3 暗褐～黒褐　シルト　粘性中　締り中　黄褐粘土10%混入（※RG69より古い堆積層）
2a　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性中　締り中　褐砂質シルト10%混入（※RD69より古い堆積層）
3　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性中　締りやや密　黄褐粘土ブロック　現代ごみ（ビニール紐など）混入（※カクラン層乱）
4　10YR3/3 暗褐　シルト　粘性中　締り中　黄褐粘土30%混入（※カクラン層）
5　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締りやや疎
5a　10YR4/4 褐　粘土質土　粘性やや強　締りやや疎　暗褐～黒褐シルト30%混入（※漸移層）
6　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性やや強　締り中（※カクラン？）
7　10YR4/4 褐　粘土質土　粘性やや強　締りやや疎　暗褐～黒褐シルト30%混入（※漸移層、5a層と同層か？）

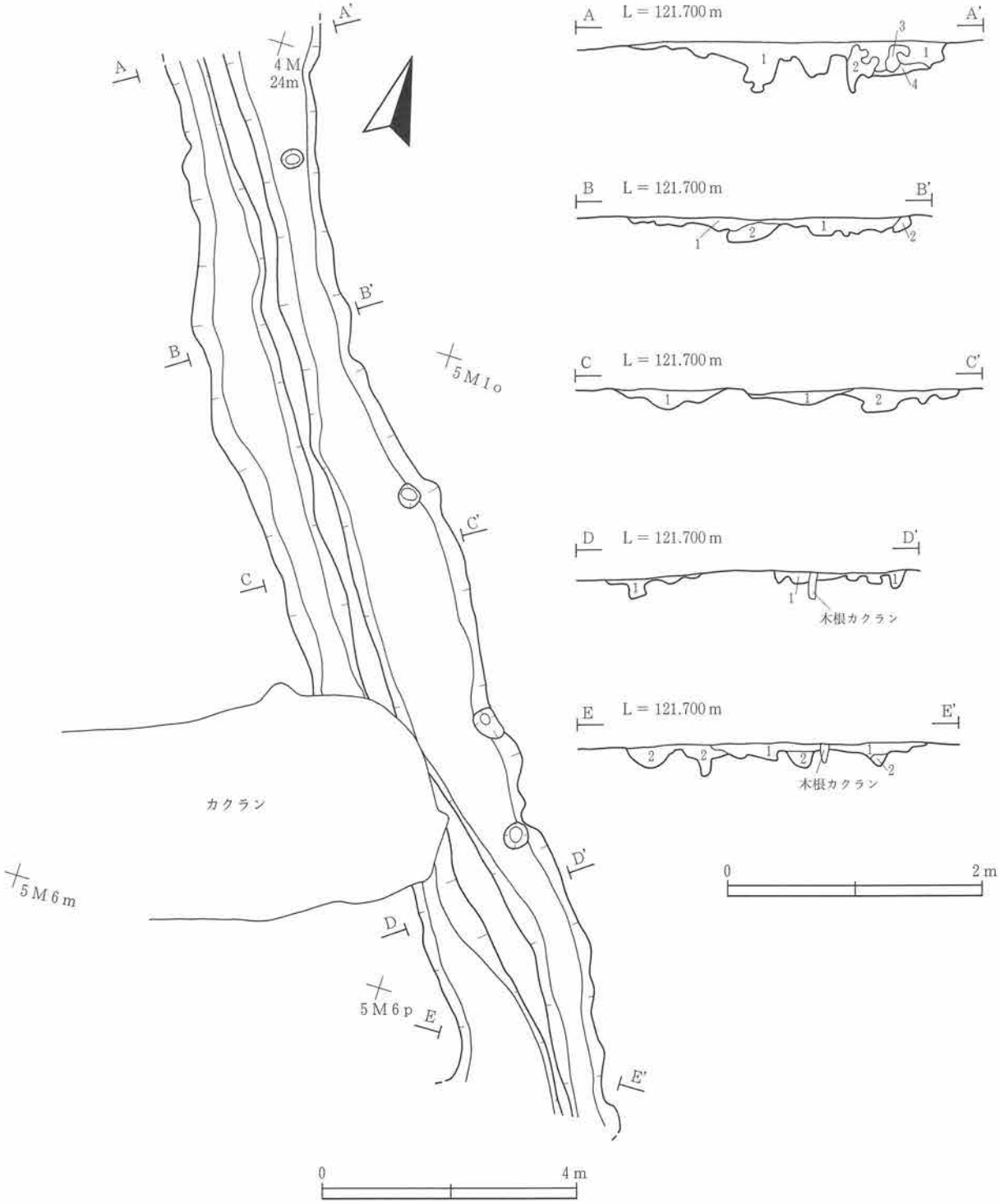
第107図　RG069・070溝跡




第108図　RG071・072・074溝跡

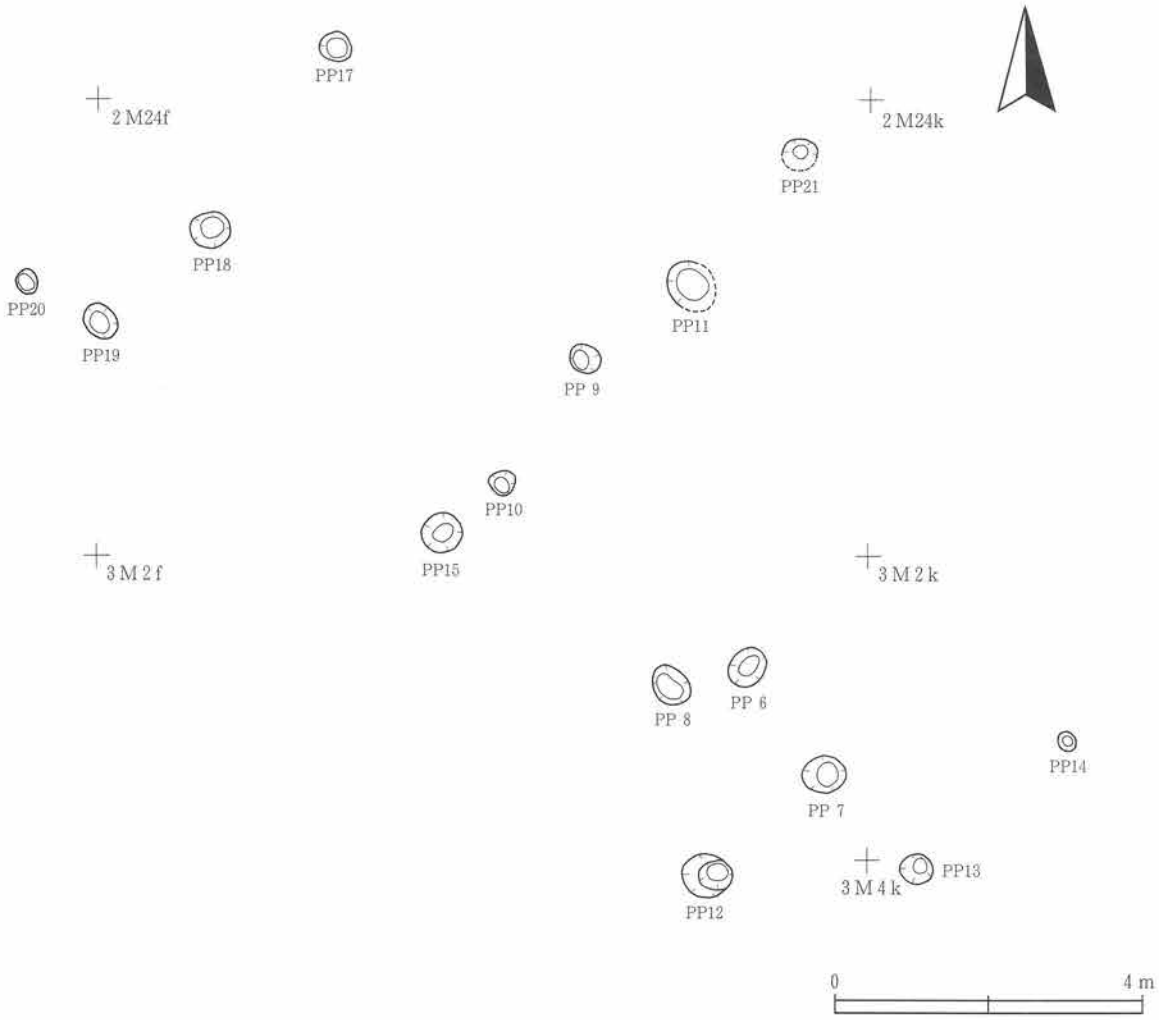



第109図　RG073溝跡（1）




RG073（18号溝）　A－A'・B－B'・C－C'・D－D'・E－E'
1　10YR2/2 黒褐　シルト　粘性中　締り中　黄褐色粘土７％混入（※自然堆積）
2　10YR3/4 暗褐　シルト　粘性やや強　締り中　黄褐色粘土10％・黒褐色シルト５％混入
3　10YR4/6 褐　砂質シルト　粘性中　締り中
4　10YR3/4 暗褐　砂質シルト　粘性中　締りやや疎

第110図　RG073溝跡（２）




| | PP6 | PP7 | PP8 | PP9 | PP10 | PP11 | PP12 | PP13 | PP14 | PP15 | PP17 | PP18 | PP19 | PP20 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 径（cm） | 54×46 | 57×48 | 58×44 | 43×36 | 34×34 | 59×？ | 64×58 | 42×42 | 26×25 | 52×51 | 40×38 | 53×50 | 48×40 | 32×30 |
| 深さ（cm） | 55 | 58 | 29 | 56 | 32 | 59 | 47 | 59 | 40 | 44 | 34 | 67 | 45 | 40 |
| 備考 | | | 柱痕あり | 柱痕あり | 柱痕あり | RA125を切る | | | | | | RD310を切る | RA124を切る | RA124を切る |

| | PP21 |
|---|---|
| 径（cm） | 43×？ |
| 深さ（cm） | 35 |
| 備考 | |

第111図　柱穴状土坑

## 第５表　竪穴住居跡一覧表

| | 遺構名 | フィールド名 | 次数 | 時期 | グリッド | カマド | 規模(長辺) m | 規模(短辺) m | 壁高(cm) | 床面積 | 重複・その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | RA074 | 35号住 | 13 | 平安 | 4 N 8 c | 西 | 4.1 | 3.8 | 25 | 12.2 | ９次調査の12号住 |
| 2 | RA113 | 16号住 | 14 | 奈良 | 3 M20i | 北西 | 4.72 | 4.32 | | <15.7> | RA132、RD297にきられる |
| 3 | RA114 | １号住 | 13 | 奈良 | 4 L 7 x | 北西 | 5.5 | 5.5 | 26～45 | 26.4 | 壁溝１条 |
| 4 | RA115 | ２号住 | 14 | 奈良 | 4 L12o | 西 | 4.1 | 4.1 | 25～30 | 13.0 | 壁溝１条 |
| 5 | RA116 | 39号住 | 13 | 奈良 | 4 M11k | 北西 | 4.28 | 4.25 | 46 | 15.6 | 壁外柱穴カマド反対方向隅に１個と２個 |
| 6 | RA117 | 31号住 | 13 | 奈良 | 4 M11w | 北西 | 4.45 | 4.45 | 15～22 | 16.3 | 壁溝１条 |
| 7 | RA118 | ４号住 | 14 | 奈良 | 4 M18c | 北西 | 5.08 | 4.72 | 43 | 19.5 | 壁外柱穴四隅に４個 |
| 8 | RA119 | 26号住 | 14 | 奈良 | 4 M23q | 北西 | 4.5 | 4.5 | 25～35 | 18.0 | 壁溝１条 |
| 9 | RA120 | 38号住 | 14 | 奈良 | 4 M15k | 北西 | 3 | 2.5 | 20 | <5.6> | 壁溝１条 |
| 10 | RA121 | 13号住 | 13 | 平安 | 4 K10g | ― | 4.65 | | 40 | (4.5) | 北側調査区外に延びる |
| 11 | RA122 | 14号住 | 14 | 平安 | 4 K11l | 東 | 2.75 | 2.6 | 10～12 | <4.9> | |
| 12 | RA123 | 15号住 | 14 | 平安 | 4 K13n | 西・東 | 3.8 | 3.8 | 20 | 12.2 | カマド２基検出(新が西、旧が東)棚状施設 |
| 13 | RA124 | 22号住 | 14 | 平安 | 2 M24g | 北西 | 4.2 | 4.05 | 22 | 15.8 | |
| 14 | RA125 | 18号住 | 14 | 平安 | 2 M25j | 北東 | 3.52 | 3.47 | 32 | 9.1 | |
| 15 | RA126 | 23号住 | 14 | 平安 | 3 M 1 c | 北東 | 3.4 | 3.3 | 23 | 9.6 | |
| 16 | RA127 | 19号住 | 14 | 平安 | 3 M 6 i | 東 | 4.1 | 3.85 | 20～25 | 11.8 | 北側に段(出入り口？)RD276にきられる |
| 17 | RA128 | 27号住 | 14 | 平安 | 3 M12e | 調査区外 | 不明 | 不明 | 40 | (1.6) | 東側コーナーのみ |
| 18 | RA129 | 20号住 | 14 | 平安 | 3 M12g | 西 | 3.3 | 2.85 | 29 | 7.5 | |
| 19 | RA130 | 24号住 | 14 | 平安 | 3 M12j | 東 | 3.1 | 2.95 | 22 | 7.4 | |
| 20 | RA131 | 11号住 | 14 | 平安 | 3 M15e | 西 | 4.05 | 3.5 | 20～30 | 10.3 | 炉１基、土坑６基、出入り口、鍛造剥片出土 |
| 21 | RA132 | 17号住 | 14 | 平安 | 3 M18i | 西・東・南 | 6.73 | 5.42 | 34 | 31.4 | カマド３基検出　西が最新　炭化種実大量出土 |
| 22 | RA133 | ５号住 | 14 | 平安 | 3 L21m | 西 | 5.1 | 4.85 | 15～22 | 22.9 | 柱穴２～５は屋外柱 |
| 23 | RA134 | ３号住 | 14 | 平安 | 3 L23t | 東 | 2.92 | 2.75 | 45 | 6.0 | |
| 24 | RA135 | ７号住 | 14 | 平安 | 3 M24a | 東 | 2.75 | 2.45 | 25～28 | 4.7 | 柱穴４，５は屋外柱 |
| 25 | RA136 | ９号住 | 13 | 平安 | 3 M25f | 北西 | 3.45 | 3.25 | 10 | 9.3 | |
| 26 | RA137 | ８号住 | 14 | 平安 | 3 M24j | 東 | 4.1 | 3.6 | 15～30 | <12.8> | |
| 27 | RA138 | 21号住 | 13 | 平安 | 4 M 1 h | 西 | 3.45 | 3.3 | 15 | <10.1> | 床面に焼土塊と炭化材、土坑１基、壁溝１条 |
| 28 | RA139 | 32号住 | 13 | 平安 | 4 M 3 o | 西・東３基 | 4.68 | 3.75 | 20 | <17.0> | カマド４基検出　東の南側が最新 |
| 29 | RA140 | 30号住 | 13 | 平安 | 4 M18m | 西・東 | 3.5 | 3.4 | 56 | 12.0 | カマド２基検出　西が新 |
| 30 | RA141 | 33号住 | 13 | 平安 | 4 M10r | 西・東 | 4.6 | 4.53 | 38 | 17.7 | カマド２基検出　西が新 |
| 31 | RA142 | 34号住 | 13 | 平安 | 4 M 8 x | 東・西 | 3.95 | 3.9 | 22～28 | (13.9) | カマド２基検出(新が西、旧が東)棚状施設 |
| 32 | RA143 | 36号住 | 13 | 平安 | 4 M14r | 東・西 | 3.3 | 3.25 | 15～25 | 11.8 | カマド２基(新が東、旧が西)、土坑２基、壁溝２条 |
| 33 | RA144 | 29号住 | 13 | 平安 | 4 N13d | 東 | 3.9 | 3.6 | 15～20 | 14.4 | |
| 34 | RA145 | 25号住 | 14 | 平安 | 4 M21p | 南東 | 3.85 | 3.65 | 15～20 | 13.0 | 土坑５基（土坑4.5は床下より検出） |
| 35 | RA146 | 12号住 | 14 | 平安 | 4 N17e | 北・東 | 5.65 | 5.47 | 51 | 20.8 | カマド２基検出　北が新 |
| 36 | RA147 | 28号住 | 14 | 平安 | 5 L 9 m | 南西・北東２基 | 5 | 4.5 | 30～35 | <16.2> | カマド３基、土坑１基（床下より検出） |
| 37 | RA148 | ６号住 | 14 | 平安 | 6 L 1 q | 北・東 | 7.25 | 6.7 | 36 | 43.7 | カマド２基検出　東が新 |
| 38 | RA149 | 10号住 | 14 | 平安 | 6 N17i | 東 | 4.8 | 4 | 21 | 17.2 | |

<　>推定値　（　）調査区外に延びるもの

## 第６表　土坑一覧表

| | 報告名 | 旧遺構名 | 次数 | グリッド | 開口部径(m) | 深さ(cm) | 平面形 | 重複・その他 | | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | RD272 | 54号土坑 | 14 | 2 M24e | 1.25×0.8 | 51 | 長方形 | 副穴あり | | 不明 |
| 2 | RD273 | 46号土坑 | 14 | 2 M24g | 3.19×2.85 | 62 | 楕円形 | RA124をきる | | 古代 |
| 3 | RD274 | 41号土坑 | 14 | 2 M25j | 1.79×1.63 | 41 | 円形 | RA125をきる | 不明 | 古代 |
| 4 | RD275 | 53号土坑 | 14 | 3 M 2 g | 2.56×2.34 | 60 | 円形 | RA125とRA126の間 | | 不明 |
| 5 | RD276 | 48号土坑 | 14 | 3 M 8 j | 0.82×0.52 | 55 | 楕円形 | RA127をきる | | 古代？ |
| 6 | RD277 | 52号土坑 | 14 | 3 M11l | 0.91×0.78 | 13 | 円形 | RD278の北 | | 古代？ |
| 7 | RD278 | 51号土坑 | 14 | 3 M11k | 0.88×0.50 | 17 | 長円形 | RA130北　土器含む | | 古代？ |
| 8 | RD279 | 49号土坑 | 14 | 3 M14g | 1.17×1.13 | 25 | 隅丸方形 | RA129南 | 焼成土坑 | 平安 |
| 9 | RD280 | 35号土坑 | 14 | 3 M16h | 1.61×1.03 | 27 | 長方形 | | | 古代？ |
| 10 | RD281 | 38号土坑 | 14 | 3 M16g | 1.26×0.78 | 32 | 隅丸長方形 | RA131にきられる | | 古代 |
| 11 | RD282 | 39号土坑 | 14 | 3 M17g | 1.0×0.68 | 20 | 楕円形 | To-a 入る | | 平安 |
| 12 | RD283 | 34号土坑 | 14 | 3 M17h | 1.4×1.2 | 26 | 円形 | | | 古代？ |

| | 報告名 | 旧遺構名 | 次数 | グリッド | 開口部径(m) | 深さ(cm) | 平面形 | 重複・その他 | | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 13 | RD284 | 24号土坑 | 14 | 3 M17b | 1.0×0.72 | 20 | 楕円形 | | | 不明 |
| 14 | RD285 | 22号土坑 | 14 | 3 M18b | 1.45×1.27 | 40 | 円形 | | | 不明 |
| 15 | RD286 | 30号土坑 | 14 | 3 M17e | 1.2以上×1.6 | 34 | 隅丸方形 | To-a ブロック含む　RD329・330にきられる | | 平安 |
| 16 | RD287 | 31号土坑 | 14 | 3 M17f | 1.2×0.88～1.12 | 34 | 方形 | To-a ブロック含む | | 平安 |
| 17 | RD288 | 2 号土坑 | 14 | 3 M18h | 2.16×1.74 | 25 | 不整形 | 副穴あり | | 不明 |
| 18 | RD289 | 20号土坑 | 14 | 3 M18a | 1.35×0.68 | 10 | 隅丸方形 | RD290にきられる土師器少量 | | 平安？ |
| 19 | RD290 | 19号土坑 | 14 | 3 M19a | 0.88×0.82 | 22 | 円形 | RD289をきる　土師器 | | 平安？ |
| 20 | RD291 | 21号土坑 | 14 | 3 M19c | 0.68×0.62 | 18 | 円形 | | 須恵器埋設土坑 | 平安 |
| 21 | RD292 | 36号土坑 | 14 | 3 M19e | 0.76×0.72 | 21 | 楕円形 | | 不明 | 不明 |
| 22 | RD293 | 40号土坑 | 14 | 3 M19i | 0.8×0.61 | 12 | 楕円形 | 17住をきる | 不明 | 古代 |
| 23 | RD294 | 17号土坑 | 14 | 3 M21b | 0.7×0.66 | 10 | 楕円形 | 埋土上位にTo-a 良好な堆積 | | 平安 |
| 24 | RD295 | 8 号土坑 | 14 | 3 M22d | 0.66×0.6 | 8 | 楕円形 | To-a 入る　2 溝きる | | 平安 |
| 25 | RD296 | 16号土坑 | 14 | 3 M21g | 0.72×0.54 | 13 | 楕円形 | 底面は凹凸気味 | | 不明 |
| 26 | RD297 | 57号土坑 | 14 | 3 M22i | 1.03×0.7 | 14 | 楕円形 | RA113をきる | | 古代？ |
| 27 | RD298 | 15号土坑 | 14 | 3 M25l | 0.44×0.4 | 14 | 円形 | 土師器少量 | | 古代 |
| 28 | RD299 | 5 号土坑 | 13 | 4 M 1 d | 1.32×1.2 | 16 | 楕円形 | RD300きる | | 平安 |
| 29 | RD300 | 6 号土坑 | 13 | 4 M 1 c | 1.35以上×0.9 | 16 | 長円形？ | RD299・RD301土にきられる　To-a 粒あり | | 平安 |
| 30 | RD301 | 4 号土坑 | 13 | 4 M 1 c | 1.98×1.48 | 36 | 隅丸長方形 | To-a 粒あり | | 平安 |
| 31 | RD302 | 3 号土坑 | 13 | 4 M 2 b | 1.45×1.13 | 26 | 楕円形 | To-a 粒　撹乱にきられる | | 平安 |
| 32 | RD303 | 43号土坑 | 13 | 4 M 5 f | 0.91×0.91以上 | 20 | 長方形？ | 上層に焼土炭 | 不明 | 古代 |
| 33 | RD304 | 44号土坑 | 13 | 4 M 6 d | 0.7×0.58 | 13 | 不整形 | RD305と近接 | 不明 | 古代？ |
| 34 | RD305 | 42号土坑 | 13 | 4 M 6 e | 1.28×1.03 | 21 | 長方形 | 撹乱 Pit にきられる | 不明 | 古代？ |
| 35 | RD306 | 12号土坑 | 13 | 4 M 6 h | 1.38×1.1 | 29 | 隅丸長方形 | 焼土と灰 | 焼成土坑 | 平安 |
| 36 | RD307 | 60号土坑 | 13 | 4 M 4 q | 1.47以上×1.4以上 | 30 | 隅丸方形？ | RA139南 | 焼成土坑 | 平安 |
| 37 | RD308 | 59号土坑 | 13 | 4 M 6 r | 1.7×1.75以上 | 28 | 隅丸方形 | RD309にきられる | | 平安 |
| 38 | RD309 | 58号土坑 | 13 | 4 M 6 r | 1.02×1.05以上 | 21 | 不整形 | RD308をきる | 焼成土坑 | 平安 |
| 39 | RD310 | 47号土坑 | 14 | 4 M12e | 1.30×0.85 | 28 | 長方形 | | 不明 | 古代 |
| 40 | RD311 | 71号土坑 | 13 | 4 M11k | 1.36×0.92 | 30 | 不整形 | RA116をきる | | 古代？ |
| 41 | RD312 | 62号土坑 | 13 | 4 M12h | 1.15×1.1 | 19 | 方形 | RE009南 | 焼成土坑 | 平安 |
| 42 | RD313 | 68号土坑 | 13 | 4 M11r | 1.35以上×1.2以上 | 41 | 不明 | RA141 1 号カマドにきられる | 不明 | 古代？ |
| 43 | RD314 | 45号土坑 | 14 | 4 M15b | 1.03×0.92 | 26 | 隅丸方形 | RD316の北 | 不明 | 古代 |
| 44 | RD315 | 13号土坑 | 14 | 4 M17b | 0.97×0.50 | 29 | 長円形 | 炭　南壁オーバーハング | 不明 | 古代 |
| 45 | RD316 | 14号土坑 | 14 | 4 M18a | 1.19×0.66 | 31 | 長円形 | 南北壁オーバーハング | 不明 | 古代 |
| 46 | RD317 | 69号土坑 | 14 | 4 M17k | 0.92×0.68 | 18 | 楕円形 | RG071にきられる　ガラス小玉、小刀 | 墓壙 | 古代 |
| 47 | RD318 | 70号土坑 | 14 | 4 M17k | 0.8×0.55 | 28 | 楕円形 | RD317に隣接 | 墓壙 | 平安？ |
| 48 | RD319 | 63号土坑 | 14 | 4 N15a | 1.56×1.52 | 32 | 円形 | 炭・焼土 | 焼成土坑 | 古代 |
| 49 | RD320 | 33号土坑 | 14 | 4 N17e | 1.92以上×1.8以上 | 78 | 楕円形 | RA146をきる・灰層あり | 焼成土坑 | 古代？ |
| 50 | RD321 | 9 号土坑 | 14 | 5 L23u | 0.79×0.62 | 20 | 楕円形 | To-a 粒で少し | | 平安 |
| 51 | RD322 | 10号土坑 | 14 | 5 L24u | 1.75×1.45 | 20 | 楕円形 | 土器片たくさん | | 平安 |
| 52 | RD323 | 11号土坑 | 14 | 6 L 1 v | 0.9×0.54 | 34 | 楕円形 | RD322に埋土類似 | | 平安 |
| 53 | RD324 | 18号土坑 | 14 | 6 N22g | 1.0×0.6以上 | 53 | 方形 | To-a 含む | | 平安 |
| 54 | RD325 | 25号土坑 | 14 | 3 M16d | 0.72×0.58 | 110 | 楕円形 | 人骨出土　墓 1 | | 近世以降 |
| 55 | RD326 | 29号土坑 | 14 | 3 M17d | 0.5以上×0.48 | 110 | 楕円形 | 人骨出土　墓 5（墓 1 と重複） | | 近世以降 |
| 56 | RD327 | 26号土坑 | 14 | 3 M17e | 0.50×0.48 | 110 | 楕円形 | 墓 2 | | 近世以降 |
| 57 | RD328 | 32号土坑 | 14 | 3 M18c | 0.42×0.28 | 70 | 楕円形 | 墓 6 | | 近世以降 |
| 58 | RD329 | 27号土坑 | 14 | 3 M18e | 0.50×0.46 | 100 | 楕円形 | 墓 3 | | 近世以降 |
| 59 | RD330 | 28号土坑 | 14 | 3 M18e | 0.56×0.42 | 90 | 楕円形 | 墓 4 | | 近世以降 |
| 60 | RD331 | 7 号土坑 | 14 | 3 L20n | 0.46×0.25 | 16 | 不整楕円形 | | 火葬墓 | 近世 |
| 61 | RD332 | 1 号土坑 | 14 | 3 L21m | 1.3×0.85 | 40 | 長方形 | | 墓壙 | 近世 |
| 62 | RD333 | 23号土坑 | 14 | 3 M18c | 1.66×1.42 | 34 | 円形 | RG070をきる馬骨出土 | | 近世以降 |
| 63 | RD334 | 65号土坑 | 14 | 4 M19*l* | 2.10×1.58 | 18 | 楕円形 | RG071をきる | | 近現代？ |
| 64 | RD335 | 66号土坑 | 14 | 4 M20*l* | 3.00×1.60 | 22 | 楕円形 | RD334と接する | | 近現代？ |
| 65 | RD336 | 67号土坑 | 14 | 4 M25c | 1.40×0.92 | 17 | 楕円形 | 埋没沢をきる　獣骨 | | 近世以降？ |
| 66 | RD337 | 55号土坑 | 14 | 5 M 7 p | 0.94×0.62 | 8 | 楕円形 | 獣骨出土 | | 近現代？ |

## 第７表　竪穴状遺構一覧表

| | 遺構名 | フィールド名 | 次数 | 時期 | グリッド | 平面形 | 規模（長辺）m | 規模（短辺）m | 壁高（cm） | 重複・その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | RE007 | １号竪穴状遺構 | 13 | 平安 | ４Ｍ３ａ | 隅丸方形 | 1.45 | 1.45 | 35 | RD302と重複　新旧不明 |
| 2 | RE008 | ２号竪穴状遺構 | 13 | 平安 | ４Ｍ３ｂ | 方形 | 2.05 | 1.5以上 | 33 | RB019と重複　新旧不明 |
| 3 | RE009 | 37号竪穴住居跡 | 13 | 平安 | ４M11o | 方形 | 2.02 | 2 | 50 | |
| 4 | RE010 | ３号竪穴状遺構 | 14 | 不明 | ５M14t | 楕円形 | 2.5 | 2.16 | 0 | 掘り方と貼り床のみ残存？ |

## 第８表　溝跡一覧表

| | 遺構名 | フィールド名 | 次数 | 位置 | グリッド | 方向 | 長さ(m) | 最大幅（cm） | 深さ（cm） | 工具痕 | 時期 | 重複・その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | RG022 | 15号溝跡 | 14 | 中央 | ４M24u～５Ｍ２ｕ | ほぼ南北 | 6.4 | 50 | 13 | ２列 | 古代 | 10次調査RG022続き |
| 2 | RG027 | 14号溝跡 | 14 | 中央 | ４M20r～５M21u | N-10°－W | 87 | 58 | 27 | ２列 | 古代 | 10次調査RG027続き |
| 3 | RG027 | 16号溝跡 | 14 | 中央 | ３L20m～３L20ｓ | | | | | | 古代 | 10次調査RG027、RG031続き |
| 4 | RG058 | １号溝跡 | 14 | 中央 | ３L20m～３L20ｓ | N-90°－E～N-20°－E | 12.8 | 46 | 13 | ２列 | 平安 | |
| 5 | RG059 | ４号溝跡 | 13 | 中央 | ３L22y～３L25g～４Ｌ１ｘ | 東西方向がN-82°－W、南北方向がN-７°－W | 23.5 | 50 | 15 | ２列 | 古代 | |
| 6 | RG060 | ２号溝跡 | 14 | 中央 | ３M22c～３M21f | N-90°－E～N-65°－E | 6.2 | 80 | 13 | ２列 | 古代 | RD295にきられる |
| 7 | RG061 | ３号溝跡 | 14 | 西② | ５L19t～６Ｌ３ｊ | N-50°－E | 27.8 | 55 | 35 | ２列 | 平安 | 上位にTo-a 層状 |
| 8 | RG062 | 12号溝跡 | 14 | 西② | ６Ｌ８ｋ～６L13u | N-113°－E | | 80 | 50 | 1～2列 | 平安 | 上位にTo-a 粒状 |
| 9 | RG063 | 17号溝跡 | 14 | 中央 | ５M15r～５M16t | N-76°－W | 4.8 | 95 | 21 | 2～4列 | 古代 | |
| 10 | RG064 | ７号溝跡 | 14 | 南 | ６N17f～６N23j | N-38°－W | 北側9.4、南側３ | 60 | 12 | ２列 | 古代 | |
| 11 | RG065 | ８号溝跡 | 14 | 南 | ６N22g～６N22o | N-84°－W | 東側6.8、西側3.5、東西間2.8 | 40 | 26 | 6列 | 古代 | |
| 12 | RG066 | 13号溝跡 | 14 | 南 | ６N22g～６N22 *l* | N-87°－W | 東側2.7、西側4.3、東西間1.6 | 40 | 15 | 4列 | 古代 | |
| 13 | RG067 | ６号溝跡 | 14 | 南 | ６N23 *l*～６N23n | N-107°－W | 4 | 42 | 12 | ２列 | 古代 | |
| 14 | RG068 | 10号溝跡 | 14 | 南 | ６N24h～６N24i | N-87°－W | 3 | 138 | 45 | ランダム | 古代 | |
| 15 | RG069 | 11号溝跡 | 14 | 中央 | ３L17w～３M22m | N-90°～110°－W～N-20°－W | 24 | 310 | 20 | | 近世 | RD333にきられる |
| 16 | RG070 | ５号溝跡 | 14 | 中央 | ３L17w～３L20x | N-20°－W | 6 | 40 | 12 | | 近世？ | |
| 17 | RG071 | 20号溝跡 | 13 | 中央 | ４M10j～４M20k | N-1°－W | 22.3 | 80 | 17 | | 新しい不明 | RA116、120、RD334、335をきる |
| 18 | RG072 | 19号溝跡 | 13 | 中央 | ４M11m～４M12m | N-28°－W | 3.5 | 30 | 7 | | 新しい不明 | |
| 19 | RG073 | 18号溝跡 | 14 | 中央 | ６Ｍ５ｆ～４Ｎ６ａ | N-30°－W～N-50°－E | 100 | 260 | 35 | | 近世？ | RA120、141、142、埋没沢をきる　RD334、335にきられる |
| 20 | RG074 | ９号溝跡 | 14 | 南 | ６N12k～６N22o | N-26°－W | 北側17.9、南側3.9 | 60 | 12 | | 新しい不明 | |

# V 遺　　物

## 1　縄文時代の土器（354・355　※写真掲載のみ）

縄文土器は、354と355の２点出土した。何れも小破片であることから、写真のみ掲載とした。出土地は古代の遺構埋土と現代のカクラン層からである。２点ともに縄文時代中期中葉大木８ａ式に相当すると推定される。（星）

## 2　弥生時代の土器（356～370　※356は写真掲載のみ）

弥生土器は、９号のビニール袋で約１袋分（約３kg）が出土した。今回の調査で出土した弥生土器の時期は、概ね弥生時代後期の天王山～赤穴式段階と推定される。出土地は、埋没沢南端部付近の５M20 $l$ ～22m グリッドからで、平成17年度に調査を行った第10次調査区の続き部分であり、まとまりのある空間から、異時期の混在がほとんどない状況で出土した。近年継続して調査が実施されている盛南開発関連の遺跡をみると、弥生時代前～中期の出土事例は比較的散見されるが、本遺跡で出土している弥生時代後期の土器出土は希少のようである。

器種は鉢類が中心と推定されるが、ほとんどが小片であり特定が難しい。その中で、口縁の残存する破片と文様が確認できるものを中心に15点を選定し掲載した。ここでは、主なものを取り上げ、以下に文章記載する。

357は、比較的大きめの口縁部破片で、交互刺突文が口縁部上端と頸部付近に帯状に施文され、その挟まれた空間に沈線による菱形や連弧状のモチーフが施される。頸部以下は、不明瞭ながら縄文原体若しくは単軸絡条体が施文される。この357は、細谷地遺跡10次調査出土の678と接合関係を示すことから、接合した状態で図化、写真掲載を行った。

358は、口縁部に横位の平行沈線が２条と、波状文１条が１単位で交互に施文された後、１条の平行沈線で口縁部と胴部が分離される。

360と361は同一個体と推定される。２条１単位の平行沈線により、直線的なモチーフが描かれる。沈線間は無文である。また、360は平縁と想定して図化しているが、波状口縁の可能性もあることを付記する。

362は、竹管文と２条１単位の平行沈線が施文される。

363～365は、沈線による弧状のモチーフを基調とするもので、同一個体と推定される。何れも口唇部を欠くが、363の下端にLR斜位回転の施文がみられる。縄文が施文されている部位からが胴部とすれば、沈線による弧状のモチーフが施される部位は、口縁部である可能性も推定されようか。

366は、深く沈線が引かれ、沈線の断面形が薬研状を呈する特徴が看取される。文様モチーフは残存からは推定が難しいが、変形工字文の可能性もある。やや古手であろうか。

369は、やや条間の開いたRLが斜位に施文される。（星）

## 3　奈良時代の土器（６～38）

８世紀代で奈良時代と推定される土器である。そのほとんどが竪穴住居跡からの出土である。接合

作業により、完形・略完形に復元された34点を掲載した。器種の内訳は、坏５点、高坏２点、甕類25点、鉢１点、甑１点である。復元した状況から、甕類が圧倒的に多く、併せて坏などが少ないことが指摘できよう。ここでは器種毎に概観する。

①坏（９・22・25・37・343・345）

掲載した６点の坏は、全て内面黒色処理で内外面にヘラミガキの調整が施される。口縁付近に有段を持ち丸底気味のものが25に、胴部が有段を呈するものが37に認められる。この37は底部を欠くが、器形の連続性から丸底と捉えられる。その他は、段は持たず平底のものである。特徴的なものとして、22は口径が推定で16.2cmとほかのものと比べて大きい。また、９の器高は7.2cmを測り他のものより突出して長い。

今回出土した坏は、点数が少なく多くを言及できる状況にはないものの、口径・底径・器高の数値などを見る限り、規格性が弱いことが窺える。

②高坏（６・19）

脚の付く坏は２点確認された。６は、脚部のみの資料で、内面はナデ、外面はケズリの後ナデ調整が施される。19は、内面に黒色処理で、外面の調整は口縁部がヨコナデ、胴部がヘラミガキ、台部がハケメの後ヨコナデ、内面の調整は全面ヘラミガキによるものである。この19を見る限り、内面の調整などは今回出土した高台の付かない坏との差異は看取できない。また、口径は11.6cmで、９や25の坏と近似した数値を示す。

③甕類

甕類は、大別すると①最大径を器高に持つもの、②最大径を胴部中央に持つもの、③器高が低く小形なもの、の３種に分類される。ここでは①のグループを長胴甕、②を球胴甕、③を小形甕（鉢的なもの）と呼び、完形・略完形のものを対象に見ていくこととする。

長胴甕（11・12・14～18・24・28～30・34～36）：長胴甕は、器高22.9～34.5cmまでみられ、30cmを超えるものが主体である。口径と器高の割合をみると１対1.49～1.76の値を示すが、１対1.5前後と１対1.7前後に数値のまとまりが看取でき（二分される様相）、後者が多い。器形的特徴は、底部がやや張り出し、底部～胴部にかけて緩く曲線的に立ち上がり、頸部～口縁部にかけて外反するものを基調とする。口縁部は内外面ともヨコナデによる調整が施される。胴部は内外面ともにハケメを主体にヘラナデにより調整されるものが多い。外面の調整が若干他とは異なるのが29で、胴部外面にタテにヘラミガキが施される。

長胴甕は、全体的に規格性が高いように思われるが、RA115出土の17・18の口縁部幅が他よりやや狭いことを留意点として指摘しておきたい。

球胴甕（13・31）：球胴甕は、完形品はないものの、２点ともに器高20cm以上を測る。胴部は内外面ともにハケメによる調整が施される。13を見ると、胴部中央の最大径と底部径の割合が１対0.31の数値を示し、直立するには全体のバランスが悪い器形といえる。また、31の口縁部を見る限り、頸部～口縁部への外反具合や内外面の調整は、同じ遺構出土の28・29・30の長胴甕と類似する。

小形甕（７・10・14・21・23・26・27・32・38）：小形甕は、器高が12.3～18.1cmの幅でみられる。口径と器高の割合が、１対0.87～1.37までの値を示すが、数値はまとまりが看取できない。器形的特徴は、底部～胴部にかけて緩く曲線的に立ち上がり、頸部～口縁部にかけて外反するものを基調とする。他のものと比較して、若干異なる口縁形状を呈するのが23で、頸部～口縁部にかけて外傾に立ち上がる。調整は、口縁部は内外面ともヨコナデ、胴部は内外面ともにハケメを主体にヘラナデにより調整が施されるものが多い。

小形甕は、内外面の調整においてはほぼ同様の手法が用いられているが、器形的な観点からは規格性が弱いことが窺える。

④鉢（8）

8は底部を欠損する資料であるが、器種は鉢と判断した。小形甕としたものと比較して、胴部がより曲線的（丸み帯びた）器形を呈し、内面黒色処理が施されることなどが、相違点として指摘される。この8は、胴部内外面にヨコ方向のヘラミガキによる調整がみられる。

⑤甑（20）

RA116より1点出土した。ほぼ完形である。口径12.4cm、底径10.3cm、器高8.4cmである。底部の穿孔部分は、直径4.4～4.6cmでほぼ円形で、焼成前に穴を設けている。内面はハケメの後ヘラナデ、外面がハケメによる調整が施される。

甑の出土事例について、盛南開発関連で実施された調査においては出土例が少なく、野古A遺跡（岩手埋文2003）などに留まる。参考までに主な出土事例を述べると、高柳遺跡（滝沢村教育委員会1987・1989）、百目木遺跡（都南村教育委員会1981）、館畑遺跡（矢巾町教育委員会1999）、江釣子古墳五条丸支部（北上市教育委員会2000）、熊野堂遺跡（水沢市教育委員会1985）、杉の堂遺跡（水沢市教育委員会2001）、今泉遺跡（岩手県教育委員会1981）、膳性遺跡（岩手埋文1982）などで出土している。（星）

## 4　平安時代の土器（1～5・39～353）

### （1）遺構外出土遺物

343は奈良時代と思われるRA115の1層及び2層から出土した土器で、遺構内出土であるが、ロクロを使用している点から平安時代の所産で、流れ込みの可能性があると考え、本欄に掲載した。他の平安時代の土器よりも口径が小さく（12.8cm）、器高がやや高い（5.8cm）点が、他と一線を画している。344も同様に奈良時代と思われるRA117の1層及び2層から出土した土器である。底径が広く、体部下端に回転ヘラケズリを施している点が今回出土した土器の中ではやや古相を示している。345も奈良時代と思われるRA119の1層出土の土器。346～348は風倒木から出土した。口縁部に最大径をもつ器形、成形方法など共通点があり、同時期のものと思われる。352は口縁部、胴部にタタキ痕を残す須恵器広口壺で、奈良時代のRA119の1層と第9次調査のRA071カマド出土の土器が接合したものである。353は遺構外出土の破片と第10次調査のRA080の3層出土の破片が接合した須恵器甕破片である。

### （2）器種別の様相

平安時代の土器は、今回出土した遺物で最も多く、中コンテナ（30×40×20cm）で18箱ある。内面を黒色処理した土師器（内黒）では坏、高台付坏、椀、内外面を黒色処理した土師器では坏、高台付坏、黒色処理のない土師器では坏、高台付坏、ロクロ成形の土師器甕、ロクロを使用しない土師器甕、ロクロ成形の羽釜、須恵器では坏、長頸瓶、広口壺、甕がある。器種別の様相は以下のとおり。

**坏**

**土師器（内面黒色処理）**

1　体部下端及び底面に再調整をほどこしたもの

a　回転ヘラケズリ調整

b　手持ちヘラケズリ調整

50は口縁部径１に対し、底部径は0.5で、今回出土した内黒土師器坏では最も底径の広い坏である。

2　底面が回転糸切りで、再調整のないもの

**土師器（両面黒色処理）**

内外面にミガキが施される。39は埦か坏か不明であったがこの種の土器は出土数が少ないため、掲載した。208は杯の中では最も法量が大きい。

**土師器（非黒色処理）**

1　体部下端及び底面に再調整（手持ちヘラケズリ）を施したもの

2　底面が回転糸切りで、再調整のないもの

**須恵器**

底面回転糸切りで再調整のないもの

**高台付坏**

土師器（内面黒色処理）

低い高台のつくもの

土師器（両面黒色処理）

やや高いハの字状の高台が付くもの

92、93の高台付坏は高台がハの字形に開く器形、高台部のつけ方も良く似ており、同時期のものと捉えられるが、両面黒色と非黒色である点が異なる。

土師器（非黒色処理）

1　低い高台のつくもの

2　やや高いハの字状の高台が付くもの

**高台付埦**

土師器（内面黒色処理）

低い高台がつき、内外面ミガキが施される。243は極低い高台が付き、内面は黒色処理されている。外面にはミガキはあるが黒色処理は確認できなかった。

**長胴甕（土師器）**

ロクロ成形のもの

1　小型のもの

ヘラケズリ等はない　口縁部は外反するもの（245）、外傾するもの（346）、若干上方にひき出すものがある。

2　中～大型のもの

a　体部にヘラケズリあるいはナデを施すもの

口唇部の形体は外傾するもの（５・221・304・347・348）とやや上方に引き出されるもの（95・277・53・276）がある。

b　タタキ目を残すもの

非ロクロのもの

1　小型のもの

口縁部は短く外反または外傾する。

2　大型のもの

頚部に緩やかな括れをもち、口縁部がやや長く直立気味で、緩やかに外反するもの（77）もあるが、口縁部はおおむね短めで、外反する。口縁端部近くで短く外反する（94、252）ものや短い口縁部が直立気味の（283）ものもある。器面調整はナデ、ハケメ、ケズリが施される。

**羽釜（土師器）**

123の1点のみである。ロクロ成形で、ケズリ等の器面調整は施されない。口縁部はやや歪んでいる。

**鉢？（土師器）**

内面を黒色処理され、ミガキが施されていることから鉢としたが全体の器形は不明である。

**球胴甕（土師器）**

確認できたのは1点のみである。非ロクロで内外面ともにナデが施される。

**長頸瓶（須恵器）**

1　小型のもの

確認できた点数は4点のみである。高台の付くもの（329）と付かないもの（130）があり、体部下端に手持ちヘラケズリ（130）、回転ヘラケズリ（329）が施される。

2　大型のもの

頚部にリング状の突帯が付く。口唇部は上方にやや引き出し気味のもの（131、225、240）と肥厚するもの（184）がある。体部下半にヘラケズリが認められるものがある。手持ちヘラケズリが施されるもの（131）と回転ヘラケズリが施されるもの（226、202、185）がある。後者には加えて手持ちヘラケズリも施されるもの（226、202）がある。

**広口壺（須恵器）**

1　小型のもの

2点のみである。ロクロ成形のみである。

2　大型のもの

ロクロ成形後、体部下半に手持ちヘラケズリが施される。口縁部、体部中位、体部下端にタタキ目を残すもの（352、135、84、134）がある。

**甕（須恵器）**

底部付近の内面にハケ目の認められる破片（40）があるものの、それ以外はすべて体部外面にタタキ目、内面に当て具痕がある。これらの種類によりおおよそ3種に分類した。

a　外面　平行タタキ目　内面　部分的に放射状のあて具

b　外面　平行タタキ目　内面　文様のないあて具

c　外面　平行タタキ目　内面　平行のあて具　（金子）

## 5　石　　器（401～419）

今回の調査では45点の石器が出土した。内訳は、砥石9点（内1点？）、磨石13点（内4点？）台石18点（内8点は？）、石錘1点、敲石2点、その他2点である。その他とした2点は、カマドの芯石1点と頁岩製の礫1点を石器として登録したものであるが、何れも不掲載とした。

①砥石（404～406・409・410・412・415～417）

砥石は、9点出土し全て掲載した。全て平安時代の竪穴住居跡より出土した。石材別にみると、安山岩製5点、凝灰岩製3点、軽石製1点である。その中で、凝灰岩製の3点は、複数面に砥痕があり、その砥痕は何れも縦方向に擦痕がみられ、研磨具合も良好にある。そして、この3点の規模的な観点

からは、手に持って動作するのに、適した大きさや重さにある。対して、安山岩製は素材に起因して、砥痕そのものもザラザラ感があり、溝砥痕が顕著に観察される。また、補足として今回の調査では台石とした器種にも安山岩が多く用いられている。これらのことを総括すると、凝灰岩製と安山岩製では使用される段階の違い若しくは対象物の差異などが考えられようか。

②磨石（402・407・408）

磨石は、13点出土し、3点掲載した。なお、不掲載としたものは、磨痕と自然磨耗の区分に際して、不確実なものもある。全て平安時代の竪穴住居跡から出土している。石材をみると、安山岩11点、細粒閃緑岩1点、デイサイト1点である。何れも扁平礫の上面に磨面が形成されている。402と407は欠損している。

③台石（401・403・411・414・418）

台石は、18点出土し、5点を掲載した。全て平安時代の竪穴住居跡から出土している。石材は、全て安山岩である。法量的には、長さや重量などには規格性を見出せないが、幅は15～18cmにまとまる。何れも整形を意図した磨痕がみられ、形状は石皿状や四角柱状のものがみられる。四角柱状にものはカマド袖などの芯材として用いられていた可能性が窺える。なお、RA129出土の402は、カマド付近、床直、住居内土坑2から出土した3片が接合したものである。

④石錘（419）

側面に対で抉りがみられるものを石錘と判断した。1点の出土である。419に見られる側面の抉りは、3～8mmで打ち欠きされている。この419は、頁岩製で、縁辺に磨耗痕（磨痕？）がほぼ全周して見られる。帰属時期の特定はできないが、平安時代の竪穴住居跡であるRA149から出土した。

⑤敲石（413）

敲石は、2点出土し1点掲載した。棒状の礫の先端に敲打痕が形成されており、合せて敲打痕の上下に剥離痕がみられる。石材は安山岩である。（星）

## 6　ガラス製品（420・421）

RD317よりガラス玉2点が出土した。420は、長さ0.6cm、幅0.6cm、厚さ0.4cm、重さ0.2gである。421は、長さ0.6cm、幅0.6cm、厚さ0.5cm、重さ0.3gである。孔部の直径は約2mmで、両側から穿孔されている。大きさや穿孔のあり方などから規格性が高い。時期は、古代と推定されるが詳細は不明である。なお、共伴遺物には、636～642の刀子が出土している。（星）

## 7　土　製　品（501～506）

6点出土した。501・503・505・506の3点は、管の痕跡を確認できるもので、羽口の可能性が考えられる（羽口とするにはやや小さいか？）。502は、炉壁と推定されるもので、ほぼ全面被熱の跡が認められる。土玉とした504は、長さ1.3cm、幅0.9cm、厚さ0.9cm、重さ1.2g、穿孔部は1.5mmの土製品である。（星）

## 8　金　属　製　品（601～684）

84点の金属製品が出土した。出土した金属製品は古代の遺構出土と近世墓壙出土に大別される。

古代の遺構出土は44点出土した。内訳は、刀子25点、刀装１点、鉄鏃３点、鋤先１点、釘？４点、鎹１点、棒状１点、板状１点、不明鉄製品６点、不明銅製品１点である。

近世墓壙出土は40点出土した。内訳は、柄鏡１点、キセル３点、釘２点、寛永通宝33点、不明２点である。近世墓壙から出土した40点（645～684）については、地権者のご好意で埋葬前に実測・写真撮影をさせていただいたものである。ここでは、古代の遺構出土と近世墓壙出土に分けて記述する。

## （１）古代の遺構出土

①　刀子（602・603・605・608・609・612・616・617・621・623～627・631・634～643）：刀子は25点出土した。何れも欠損品である。接合により復元状態の良いものとしては、605・612・631・634・638などが挙げられる。605は、鋒部に近い部位が残存するもので、刃部は直線的に延びる。612は、刃部が関部から鋒に向かって直線的に幅を減じる形状のもので、刃部の断面形は逆三角形状を呈する。631・634・638も、612と同様の形状が推定される。また、612・617・634の３点から、茎部に木質が確認できる。

②　刀装（628）：628は刀装の一部と推定されるもので、銅の付着が確認できる。

③　鉄鏃（610・629・633）：鉄鏃は３点出土した。629と633は、先端の平面形が二等辺三角形状で、頸部は棒状でやや先細を呈する。この２点は、大きさはほぼ同じにあるが、629は腸抉が入らないのに対して、633は腸抉が入る点で相違する。610は、上記の２点と比べ鏃身部が小さいものである。

④　鋤先（613）：鋤先は１点出土した。刃部の平面形は「Ｕ字」状で、耳部は外側に向かってやや開く。

⑤　釘（607・618・619・622）：残存部から釘と推定したが明確ではない。

⑥　棒状（611）：棒状とした611は、鉄鏃の茎、若しくは紡錘車の軸部の可能性がある。

⑦　板状（601）：板状とした601は鉄鏃の可能性もある。

⑧　不明（604・606・614・615・620・632）：器種不明としたものである。その中で、614と630は形態から穂積具（手刈鎌？）と推定される。なお、614は目釘状の金具が付く。606は、両端部がやや尖るものである。鎹であろうか。

⑨　銅製品（638）：638の銅製品は器種不明とした。環状で中央がドーナツ状を呈するもので、３枚に剥脱気味に出土した。

## （２）近世墓壙出土

近世墓壙からは、柄鏡、キセル、釘、寛永通宝が人骨と共に出土した。

①　柄鏡（670）：670の柄鏡は、RD331から出土したもので、表面の銘が「天下一藤原重義」とある。

②　キセル（645・677・678）：キセルは、645・677・678の３点出土した。677は筒部分が木で、吸い口が金属で作られている。

③　釘（651・652）：釘と推定したが詳細はわからない。

④　寛永通宝（646～650・653～669・671～676・679～681・683・684）：寛永通宝は33点出土した。そのうち、647・664・679が古寛永、648・665・668・675は新・古不明、その他は新寛永と捉えられる。出土遺構単位でみると、RD326とRD331からは新寛永のみが出土し、RD325・RD328・RD332からは新・古両方出土している。裏面に字のあるものとして、657に「元」、660に「仙」、661・662に「文」とある。「文」については、1668年に鋳造されたものと推定される。（星）

## 9　鍛造剥片・粒状鉄滓（写真図版140）

遺構の埋土の一部について、ウオーターセパレーションや篩などを使い、鍛造剥片や粒状滓の抽出を試みた。対象とした遺構は、RA131、RA145、RA146、RD281、RD282などである。合せて、57の土壌サンプルを持ち帰り、その中の32の土壌サンプルより鉄関連の微細遺物を抽出した。それら微細遺物は、鍛造剥片、粒状滓、鉄滓（？）、鉄片（？）、鉄の塊状、鉄粉の6種類に大別した。総重量は、鍛造剥片111.8ｇ、粒状滓8.88ｇ、鉄滓10.85ｇ、鉄片5.3ｇ、鉄の塊状229.6ｇ、鉄粉322.6ｇである。鍛造剥片は、大きさは2㎜前後、厚さは約1㎜のトタン状のものが顕著にみられた。なお、大きさ的には、4㎜ほどのやや大きめのものも見られる。粒状滓は、大きさ2～4㎜、厚さ2～3㎜のものが主体的にみられる。

ここでは、鍛造剥片と粒状鉄滓の主な出土地であるRA131（平安時代の竪穴住居跡）を取り上げ、その出土状況などを中心に記述する。

RA131の床面から、炉1基と土坑6基（土坑1～6と命名）、及び鍛造剥片集中部を検出した。これら床面から検出したものは、黒褐色土若しくは暗褐色土による楕円形や円形気味のプランであった。

その中で、炉としたものは、検出時において上面（黒褐色土）より鍛造剥片を確認したもので、炉跡と判断された。炉は掘りこみが浅く、堆積土は黒光りしたような様相の土で、土坑としたものと比較して柔らかい土であった。この炉に堆積する埋土は全てサンプリングした。また、炉とした範囲に近接して鍛造剥片の集中部を検出している。

土坑としたものは、平面形が楕円形状若しくは円形気味で、掘り込みが浅く、硬い土が上面に堆積している。この上面にみられる硬い土の部分は、踏み固められていると判断され、当時の使用面（作業面）だった可能性も考えられる。土坑は、全般に肉眼では鉄滓や鍛造剥片を検出できなかったことから、その埋土をサンプリングした。

鍛造剥片や粒状滓は、炉と土坑3から顕著に出土し、土坑1からは微量、その他の土坑からは出土を確認していない。なお、RA131の竪穴部分の埋土は、床面付近や北壁付近から少量出土しているに留まる。また、RA131に近接するRD281とRD282の埋土中より少量出土している状況から、これらの土坑もRA131に付属する何らかの施設であった可能性が考えられる。

この鍛造剥片や粒状滓の出土状況から、RA131は鍛錬鍛冶に関係する工房跡であったと考えられる。なお、これらの資料は、製作工程の位置付けなどの解明を目的に、鉄滓分析を実施しているので、付編2を参照いただきたい。　（星）

## 10　近世陶磁器（501～506）

陶磁器類は、帰属時期が近世までと推定されるものを掲載した。出土遺構は、RG070とRG073を主体とする。産地は、瀬戸・美濃産、肥前産（？）、在地産（？）が出土している。ある程度年代や産地がわかるものとして、702・703・709・714が挙げられる。702・703は、19世紀前～中葉の瀬戸産で、702が端反碗、703が碗である。709は、18世紀後半肥前産の皿である。714は、16世紀末～17世紀初頭大窯4期の鉄絵皿である。　（星）

## 11　炭化種実・炭化材・炭化昆虫（写真図版139～140）

今回の調査ではRA132のほか、RA125、RA127、RA131、RA138からも炭化した種実が出土しており、合計約8.8kgに及ぶ。遺構内の土壌を取り上げ、水洗して同定を古代の森研究舎に委託した（付編４参照）。土壌水洗の方法は「Ⅳ検出された遺構」のRA132に記した方法と同様である。同定結果は第９表のとおりである。

炭化材はRA113、118、119、130、132、149、RD315からサンプル採取し、肉眼による同定を計100点について行っている。同定結果は第10表のとおりである。クリ、ナラ、ケヤキ、スギ、クワノキ、アカダモ、ホウノキ、イタヤ、タモといった同定結果を得ている。最も多かったのはクリで45%、次いでナラ21%、スギ９%である。

RA132の南東隅の４層から炭化した昆虫の幼虫が出土した。この幼虫について県立博物館中村晋氏から「頭部が失われ、胴部の一部に足が１本残るのみである。多くが失われているので確実ではないが、モモノゴマダラノメイガ（鱗翅目ツトガ科ノメイガ亜科 Conogethes Punctiferalis (Guenee)）などの可能性もある。」旨ご教示いただいた。（金子）

**第９表　炭化種実同定結果**

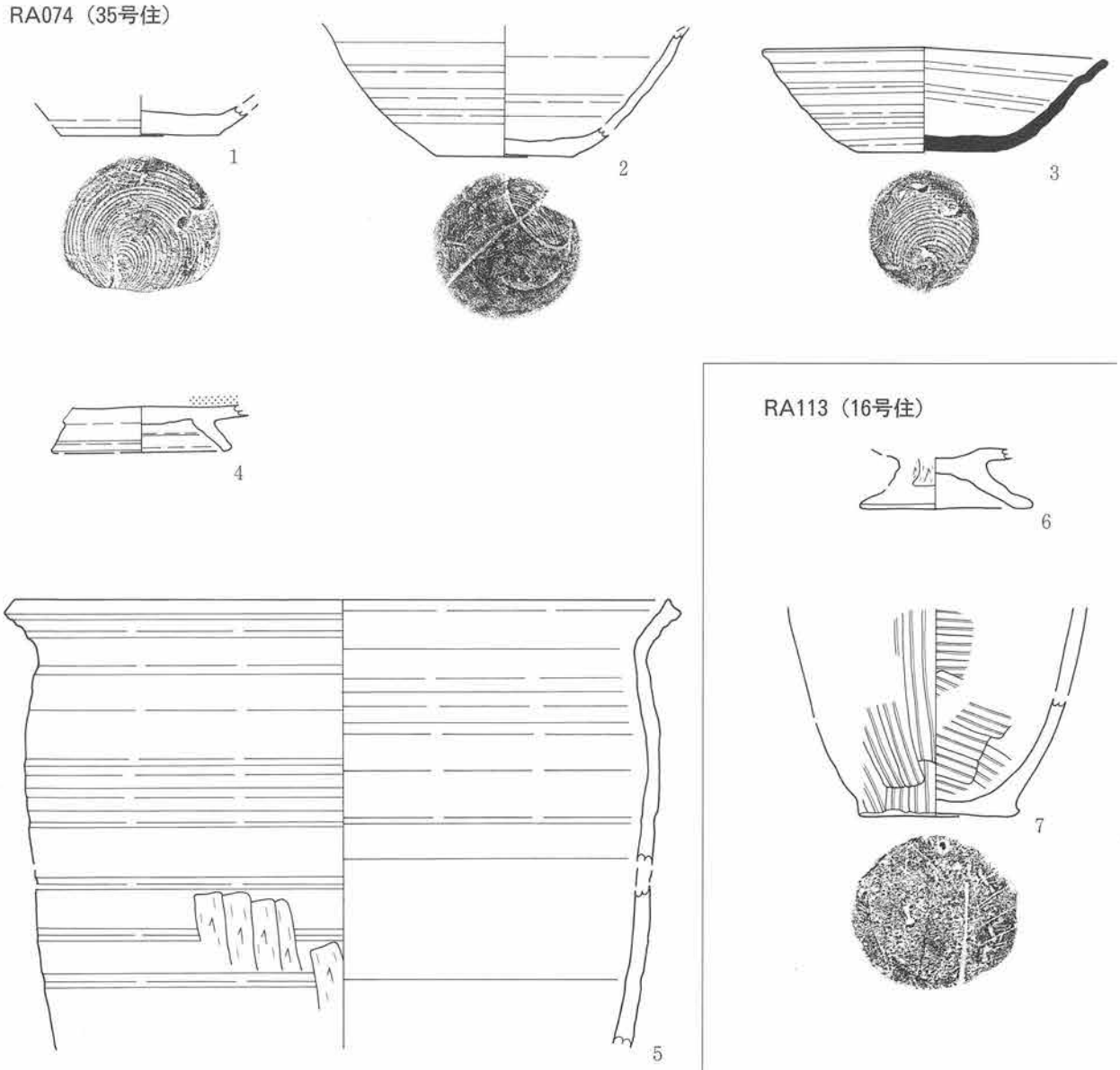
| サンプルNo. | 出土位置 | 同定サンプル量 | 同定結果 |
|---|---|---|---|
| 11 | RD312　２層 | 約30cc | モモ |
| 20 | RA125　カマド内燃焼部直上土器４ | 約５cc | イネ |
| 21 | RA131　灰２ | 約５cc | モモ　イネ　オオムギ　コムギ　アワ |
| 22 | RA127　カマド付近 | 約５cc | 穀類　ササゲ属 |
| 23 | RA138　炭２ | 約５cc | オオムギ　コムギ　ヒエ |
| 24 | 同上 | 約５cc | イネ　オオムギ　コムギ　穀類 |
| 25 | RA138　炭１ | 約10cc | イネ　オオムギ　コムギ |
| 26 | RA138　焼土 | 約10cc | イネ　オオムギ　イネ科茎　アサ　ササゲ属 |

付編４による

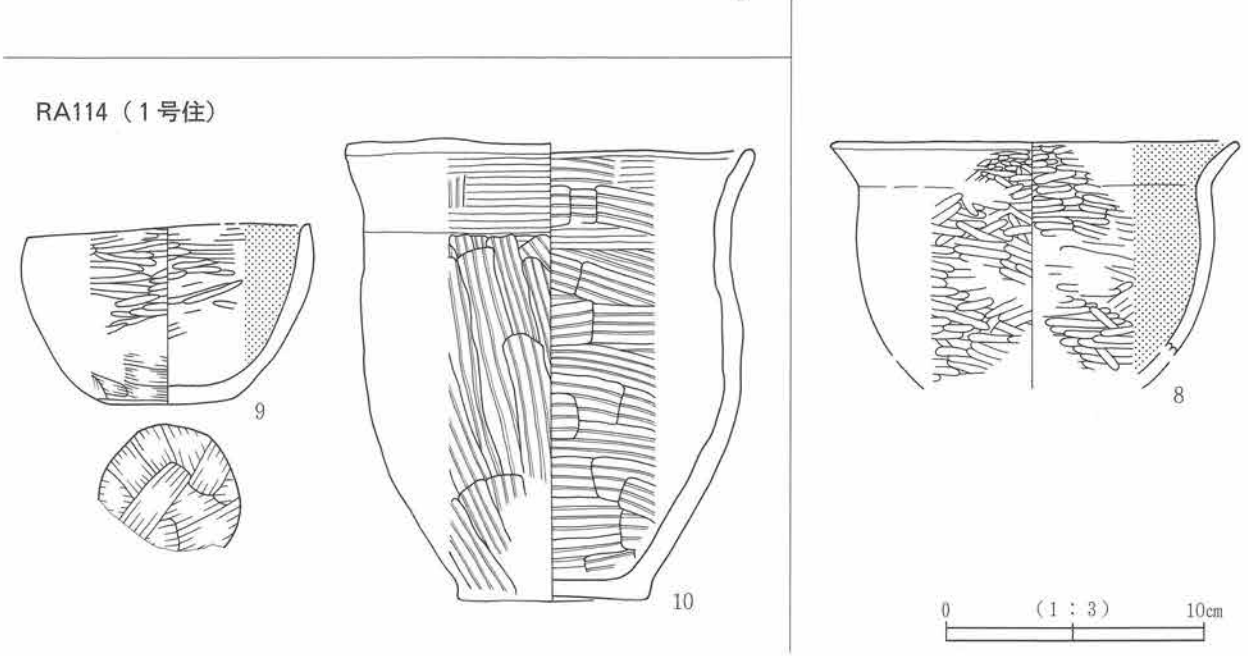
**第10表　炭化材樹種同定結果**

| 遺構 | 炭No. | 層位 | 樹種 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| RA113 | 6 | | ナラ | |
| | 9 | | ケヤキ | |
| RA116 | 2 | | ケヤキ | |
| | 3 | | ナラ | |
| | 4 | | ナラ | |
| RA118 | 1 | ４層 | クリ | |
| | 3 | 床直 | クリ | |
| | 4 | 床直 | クリ | |
| | 5 | ４層 | クリ | |
| | 6 | 埋土下位４層 | ナラ | |
| | 7 | ４層 | クリ | |
| RA119 | | Q３ | クリ | |
| RA130 | 1 | 埋土中 | ケヤキ | |
| | 2 | 埋土下位 | ナラ | |
| | 4 | 埋土中 | ケヤキ | |
| RA132 | 1 | | クリ | |
| | 2 | | クリもあり | 他は不明 |
| | 3 | | クリ | 丸 |
| | 4 | | クリ | |
| | 6 | | クリ | |
| | 7 | | ケヤキ | |
| | 8 | | クリ | |
| | 9 | | ケヤキ | |
| | 10 | | クリ、ナラ | 丸 |
| | 11 | | クリ | |
| | 12 | | クリ | |
| | 13 | | クリ | |
| | 14 | | スギ | |
| | 15 | | クリ | |
| | 16 | | スギ | 丸？ |
| | 17 | | ナラ | 丸？ |
| | 18 | | クリ | |
| | 19 | | ケヤキ | |
| RA132 | 20 | | クリ | |
| | 21 | | スギ | |
| | 22 | | ホウノキ | 丸か厚板 |
| | 23 | | ナラ | |
| | 25 | | スギ | |
| | 26 | | スギ | |
| | 27 | | クリ | |
| | 28 | | クリ | |
| | 29 | | ケヤキ | |
| | 30 | | クリ | |
| | 31 | | クリ | 丸 |
| | 32 | | クリ | 丸 |
| | 33 | | クリ | 丸 |
| | 34 | | クリ | 板？ |
| | 35 | | ケヤキ | |
| | 36 | | ケヤキ | |
| | 37 | | クワノキ | |
| | 41 | | ケヤキ | |
| | 42 | | スギ | |
| | 43 | | クリ | 丸？ |
| | 45 | | クリ | |
| | 46 | | ケヤキ | 丸？ |
| | 47 | | クリ | |
| | 50 | | スギ | |
| | 51 | | クリ | 丸？ |
| | 53 | | ナラ | |
| | 54 | | クリ | |
| | 55 | | アカダモ | |
| | 56 | | ケヤキ | |
| | 58 | | アカダモ | 板？ |
| | 59 | | ナラ | |
| | 60 | | クリ | 丸？ |
| | 61 | | ナラ | |
| RA132 | 62 | | クリ | |
| | 63 | | イタヤ | |
| | 64 | | スギ | |
| | 65 | | ナラ | |
| | 66 | | ナラ | |
| | 67 | | ナラ | |
| | 68 | | ナラ | |
| | 69 | | ナラ | |
| | 70 | | アカダモ | 板 |
| | 71 | | タモ | |
| | 74 | | クリ | |
| | 75 | | クリ | |
| | 76 | | クリ | 厚板 |
| | 77 | | ナラ | |
| | 78 | | ナラ | |
| | 79 | | ホウノキ | 板 |
| | 80 | カマド左脇４層 | クリ | |
| | 81 | 壁直　カマド右脇 | クリ | |
| | 82 | | クリ | |
| | 83 | | クワノキ | |
| | 84 | | ケヤキ | |
| | 85 | | クリ | |
| | 87 | | ナラ | |
| | 89 | | クリ | |
| | 90 | | クリ | 板 |
| | 91 | | クワノキ | 板(1～1.5cm厚) |
| | 92 | 中央種実下 | ケヤキ | |
| | 93 | 中央種実下 | クリ | |
| | カヤ１下層 | | ナラ | 丸 |
| | カヤ１上層 | | クリ | カヤもあり |
| | カヤ７の下 | | スギ | 丸か？ |
| RA149 | | 土坑１　埋土下位 | クリ | |
| RD315 | | １層 | ナラ | |

RA074（35号住）



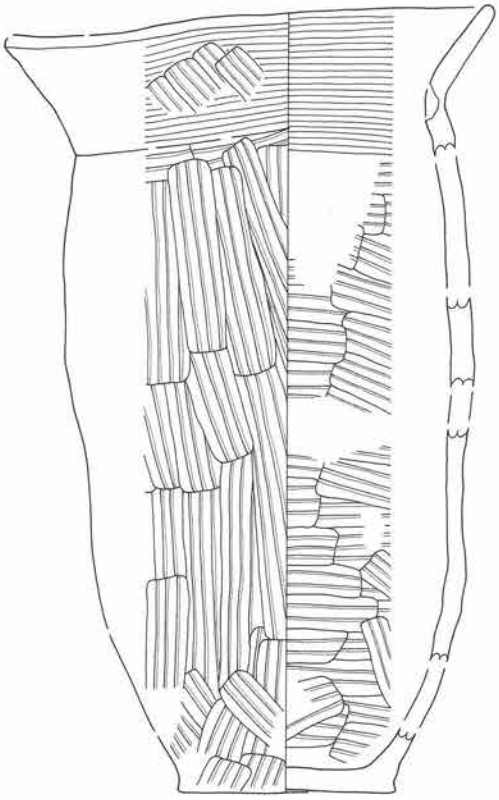

RA113（16号住）



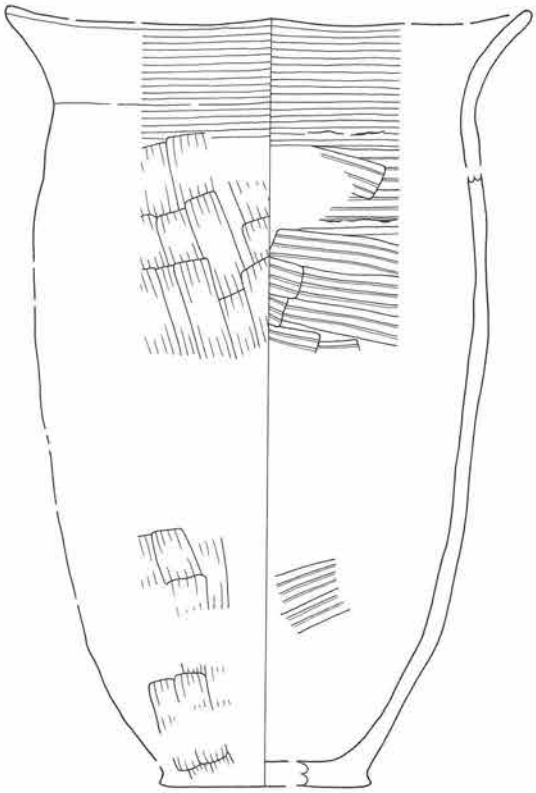

RA114（1号住）



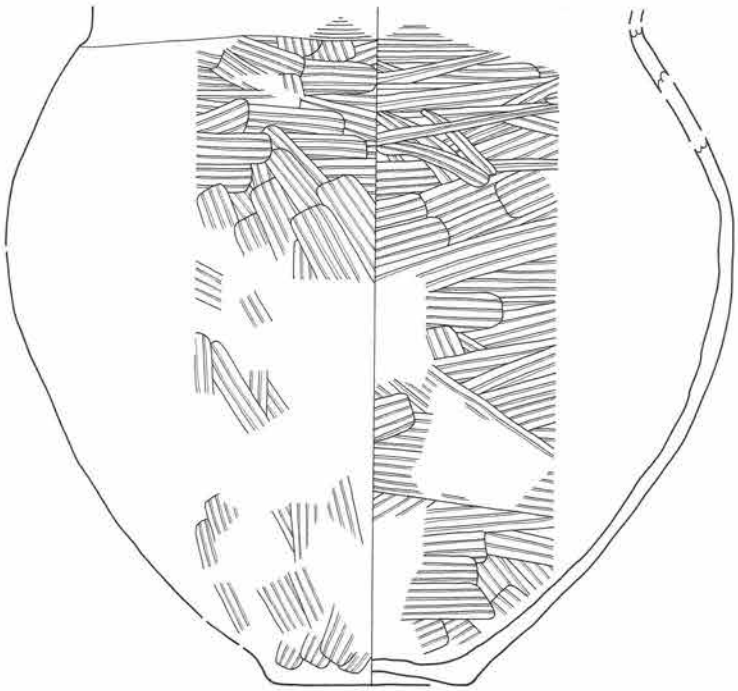

第112図　遺構内出土土器（1）



11



12

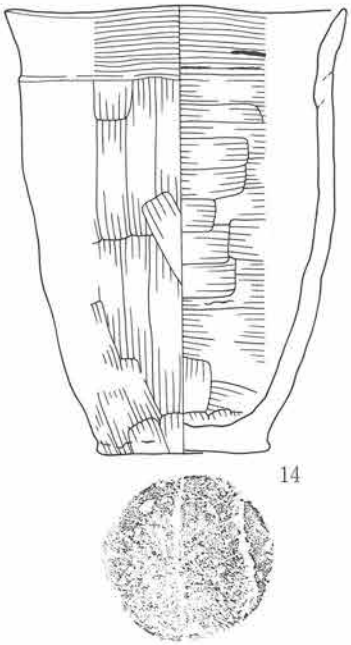


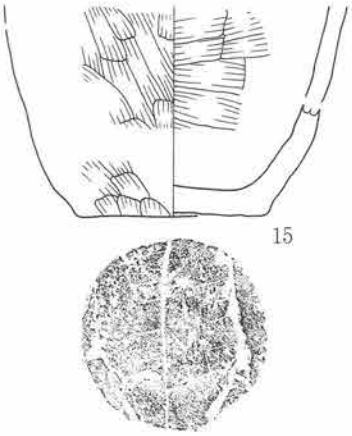
13

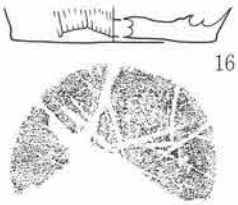
0 (1：3) 10cm

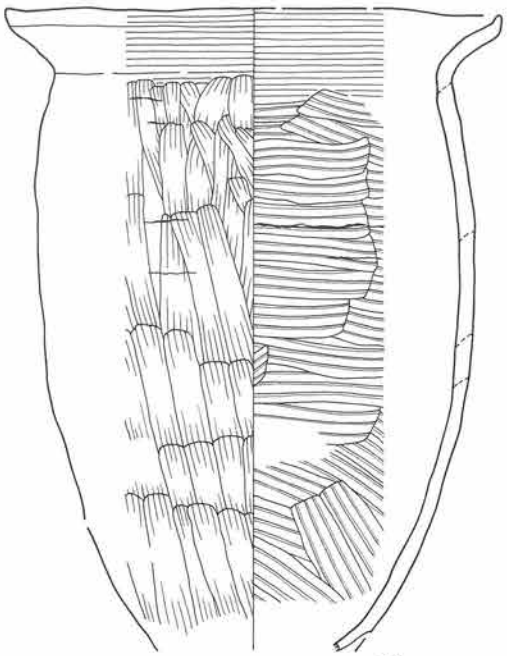
第113図　遺構内出土土器（2）

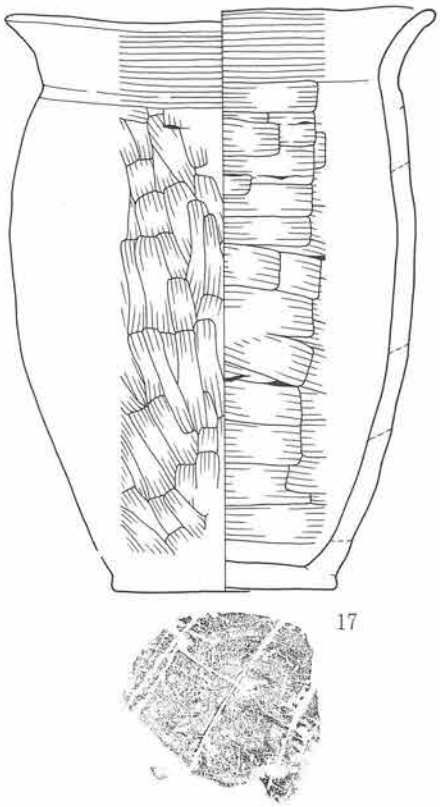
RA115（2号住）


14

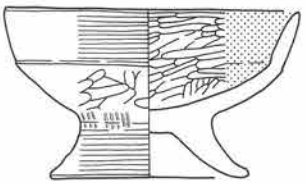

15


16


18

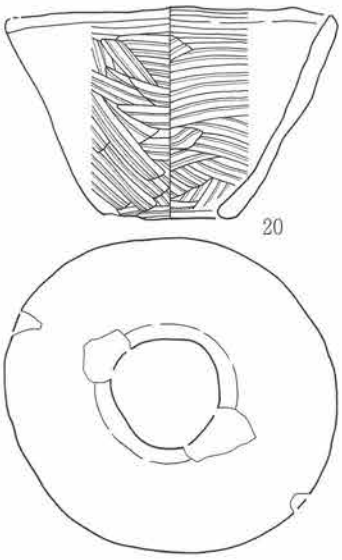

17

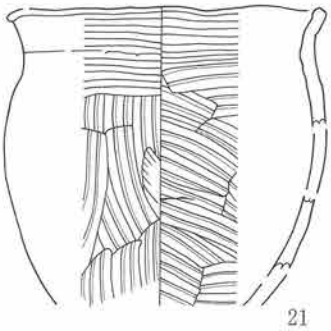
RA116（39号住）


19

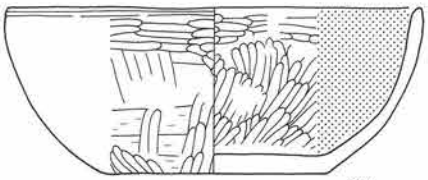
0　（1：3）　10cm

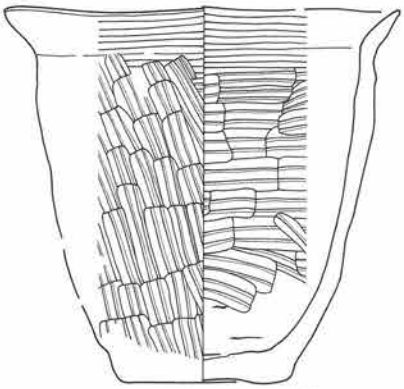
第114図　遺構内出土土器（3）

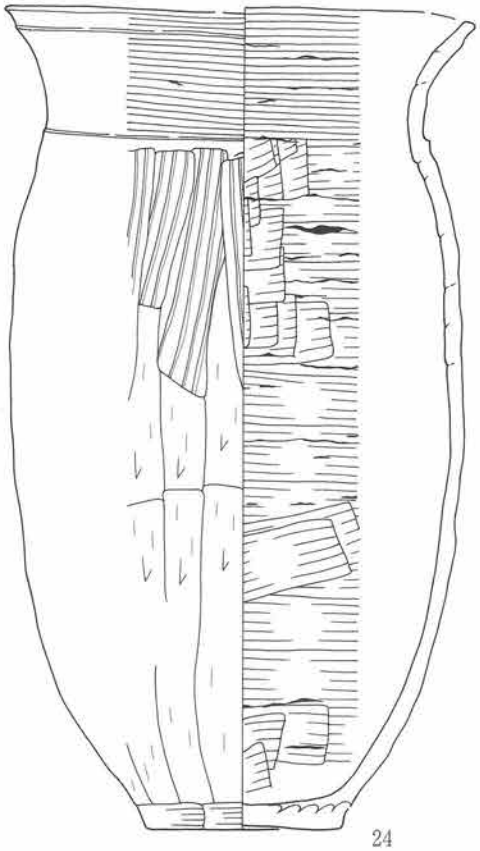


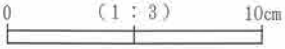




RA117（31号住）



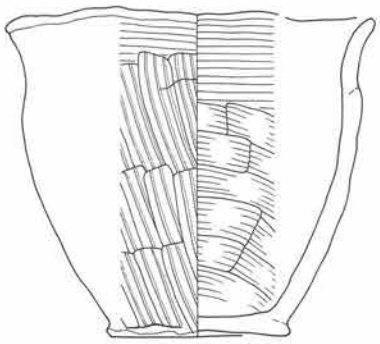




第115図　遺構内出土土器（4）

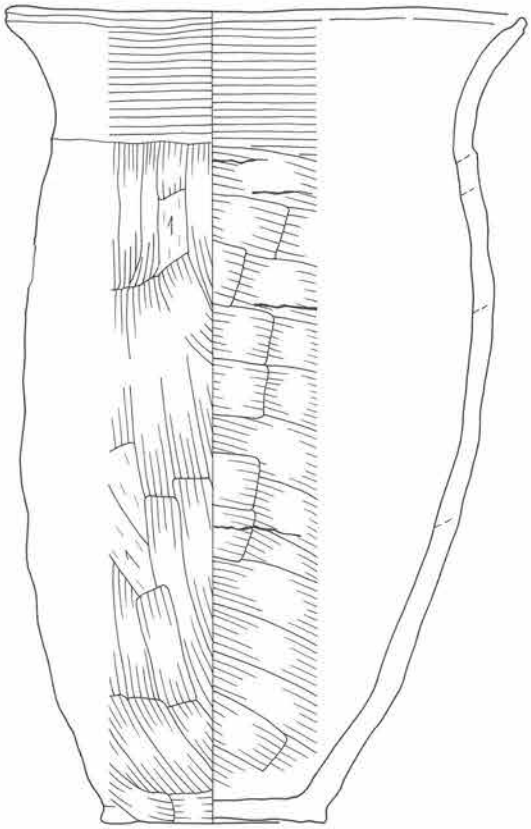
RA118（4号住）

25

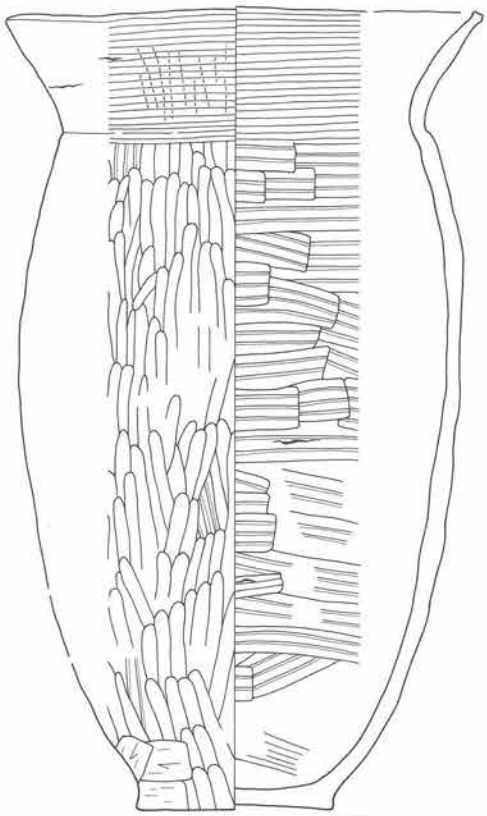


26

27



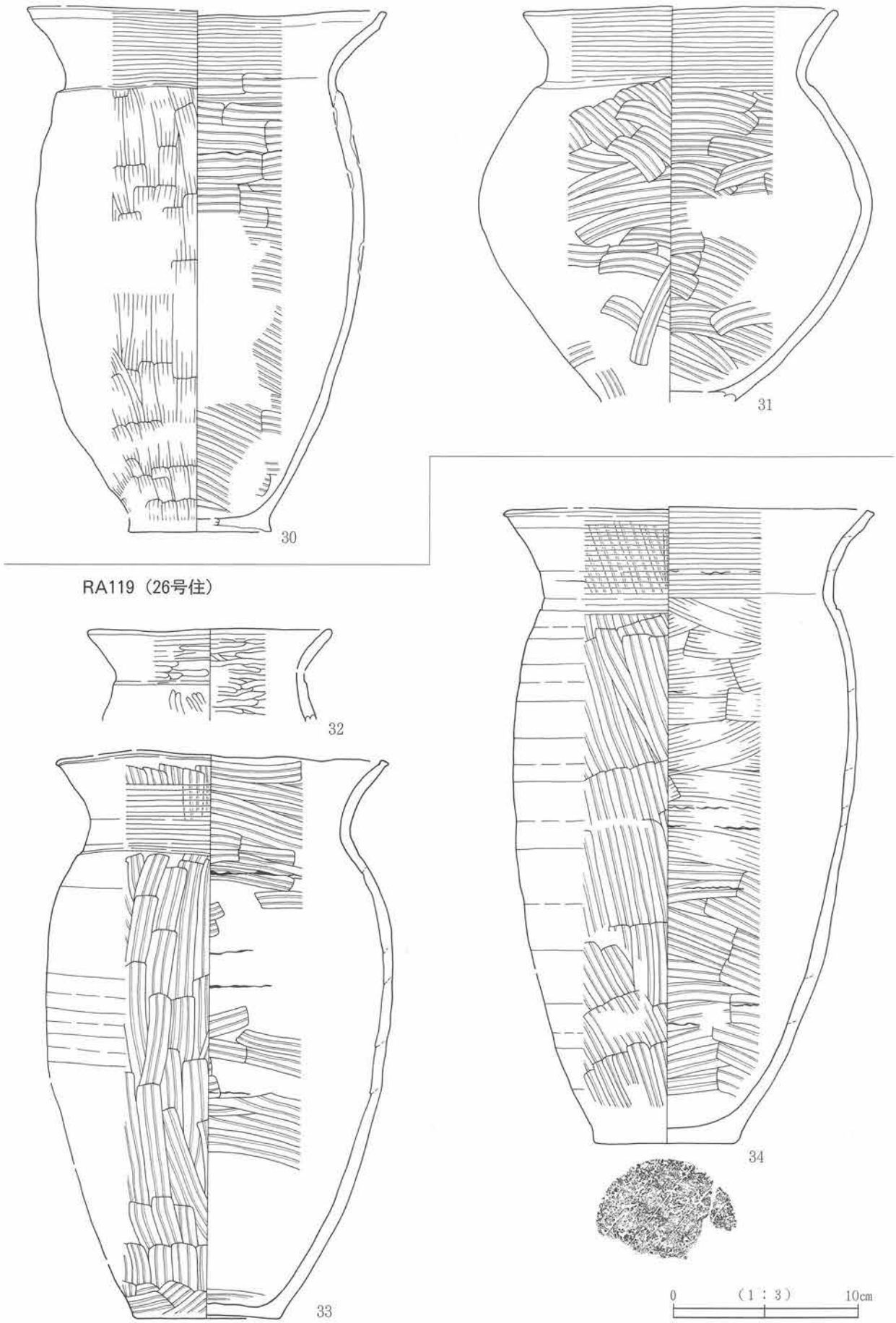
28



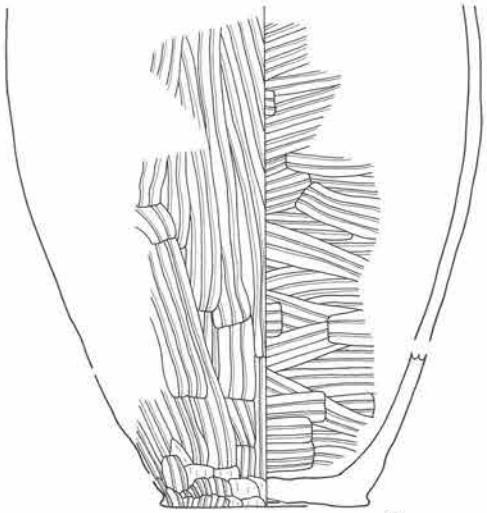
29

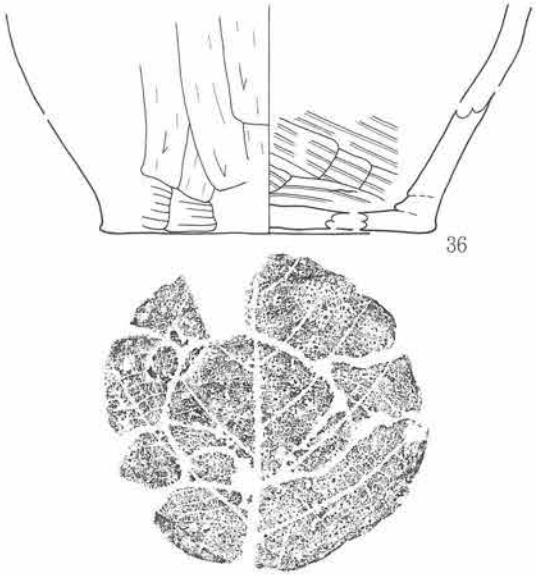
0　（1：3）　10cm

第116図　遺構内出土土器（5）

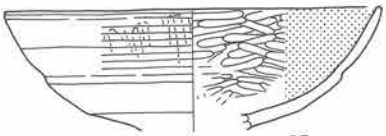


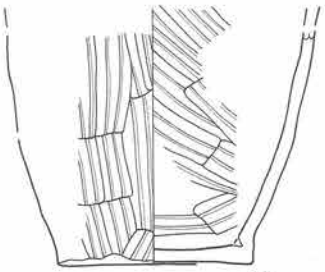

第117図　遺構内出土土器（6）



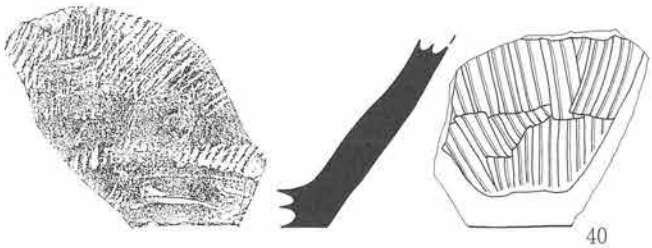




RA120（38号住）

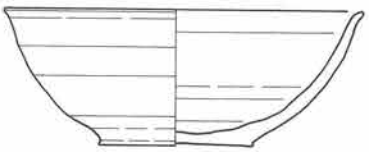



RA121（13号住）

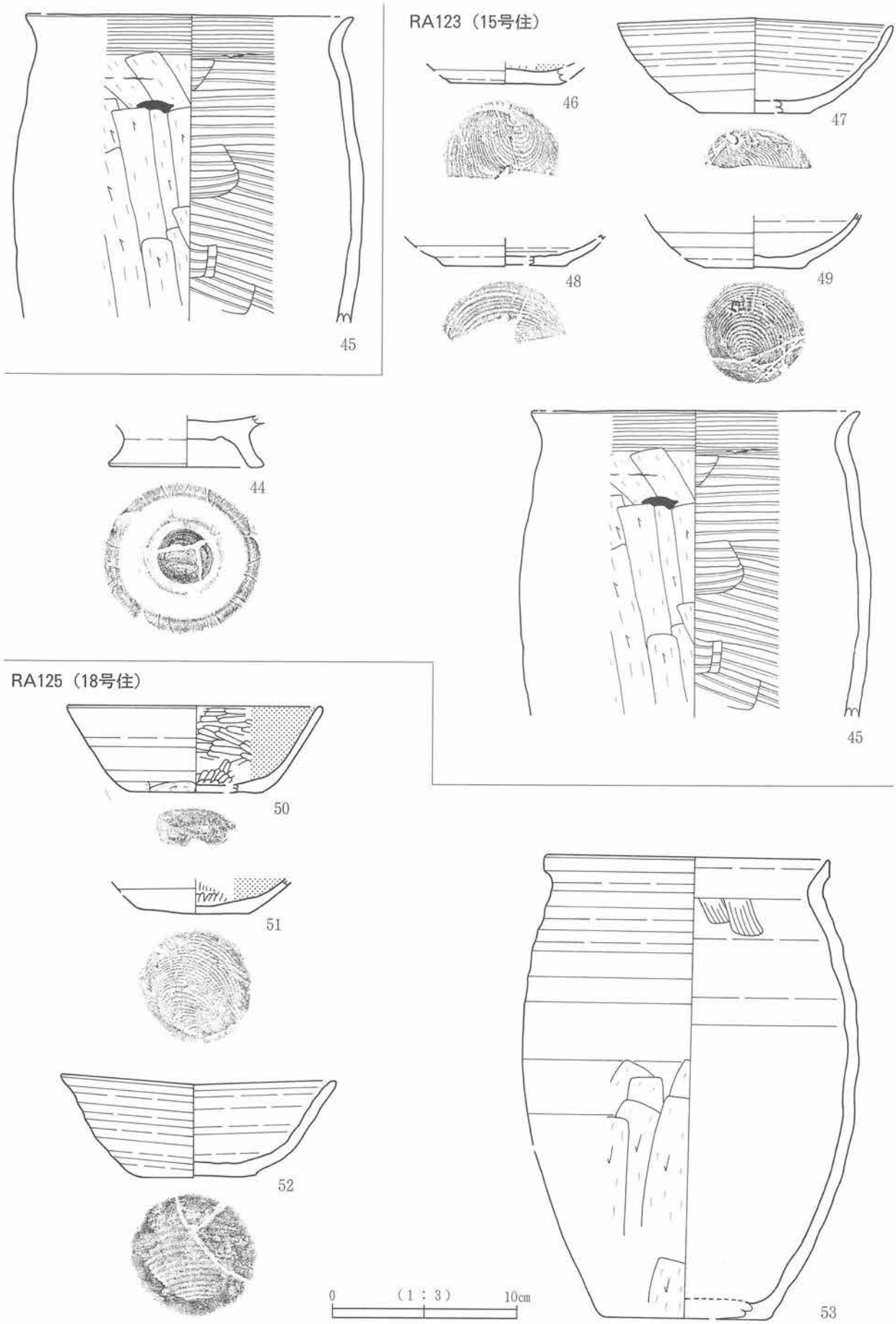



RA122（14号住）

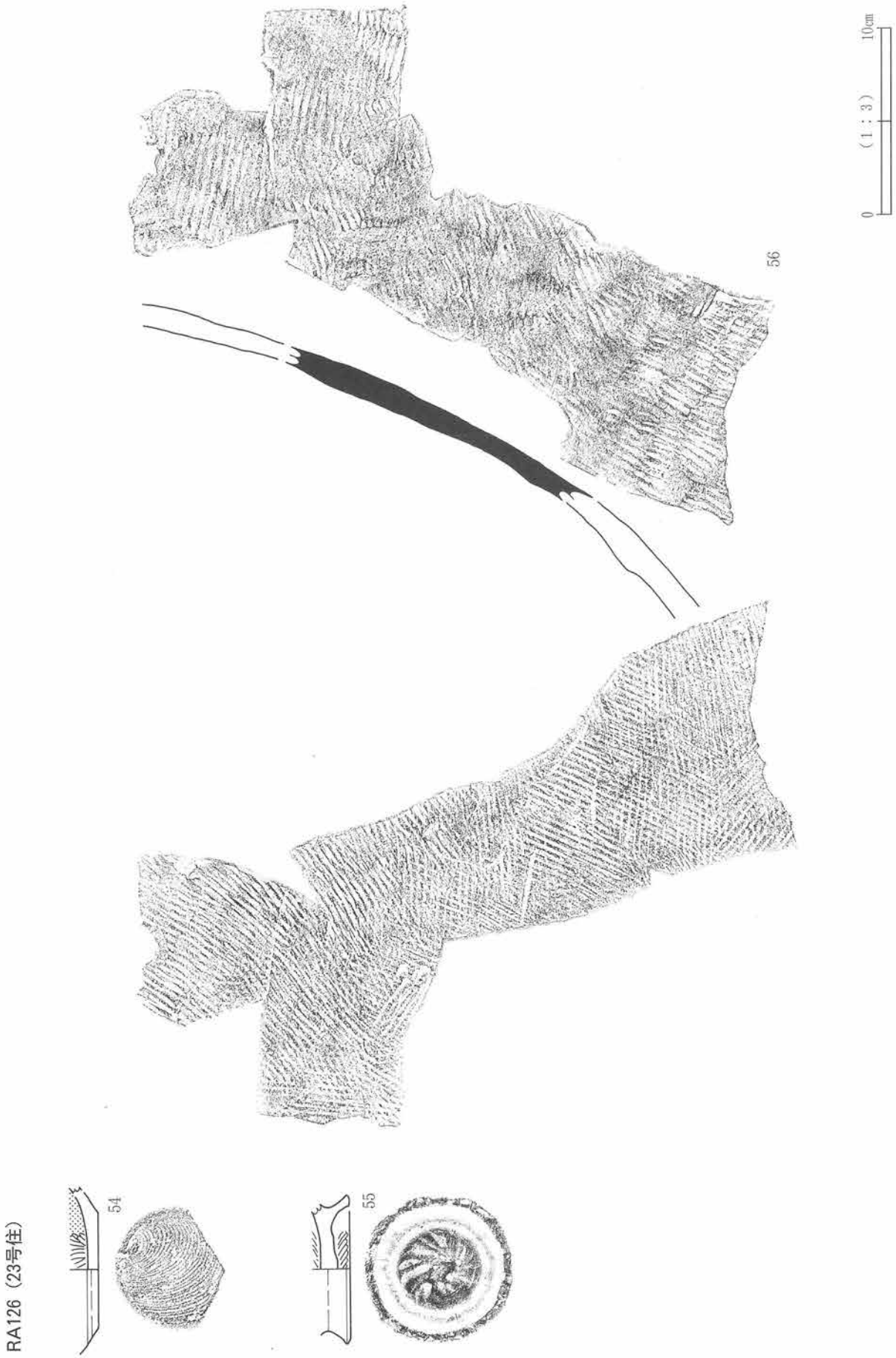


0　（1：3）　10cm

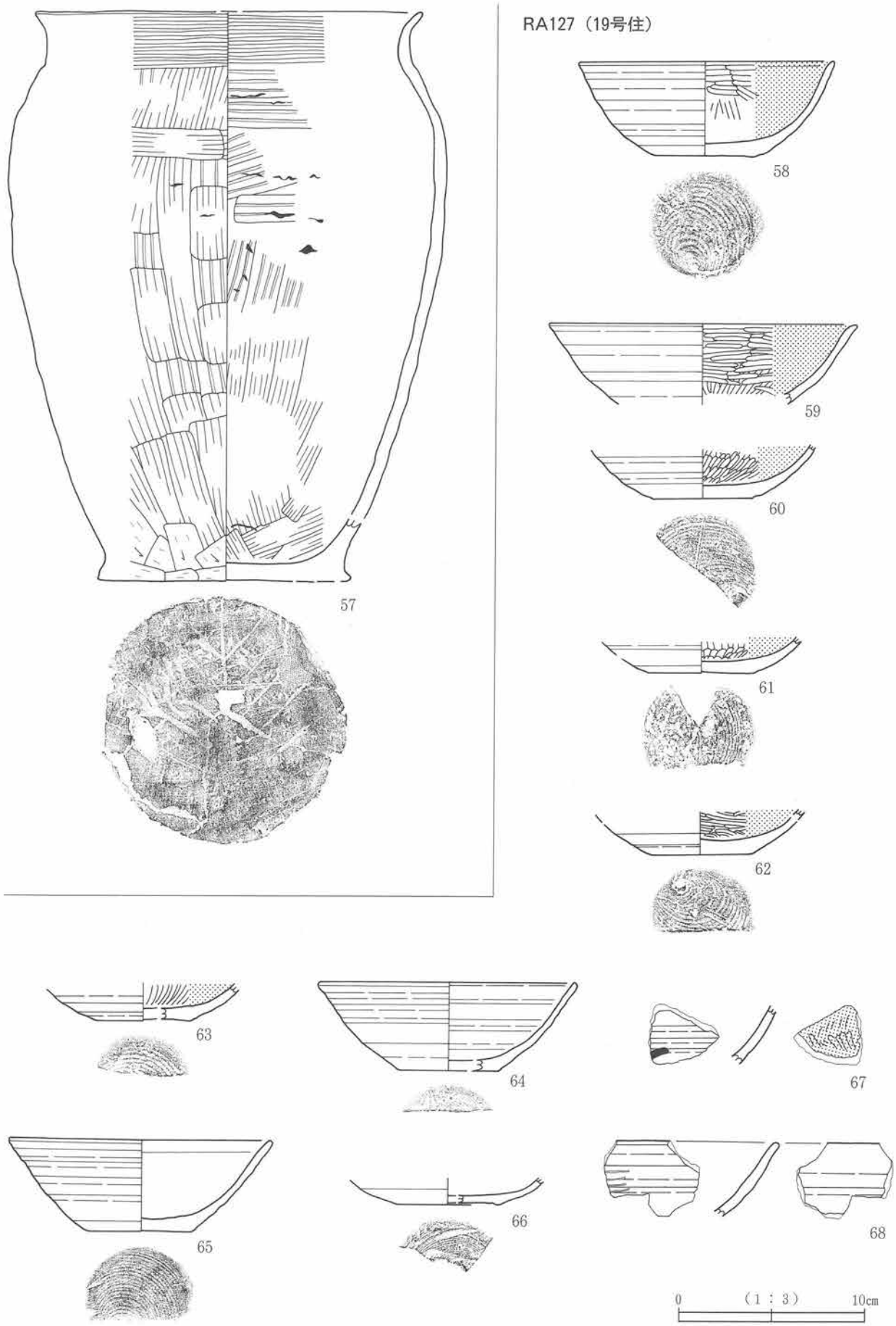
第118図　遺構内出土土器（7）



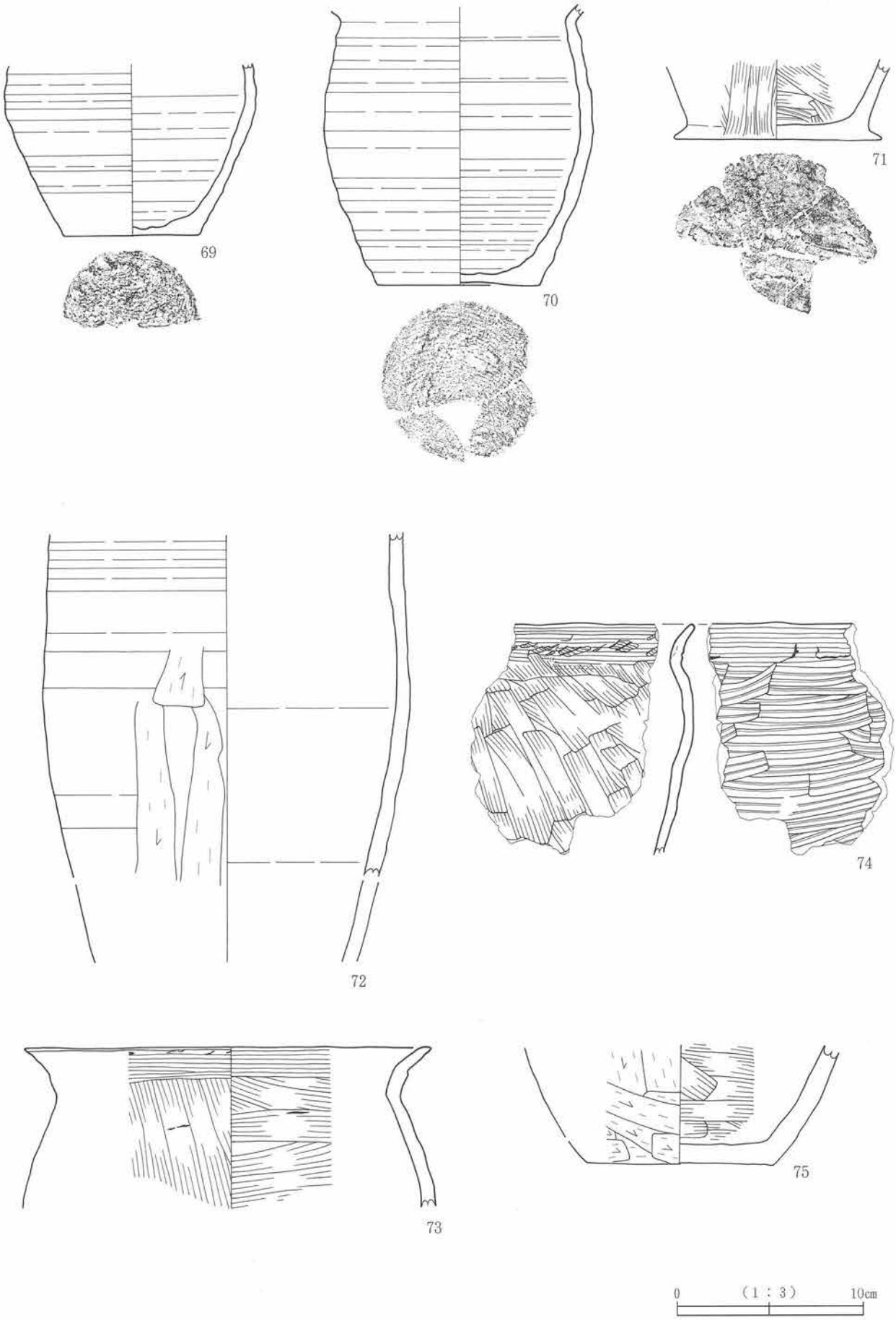

第119図　遺構内出土土器（8）



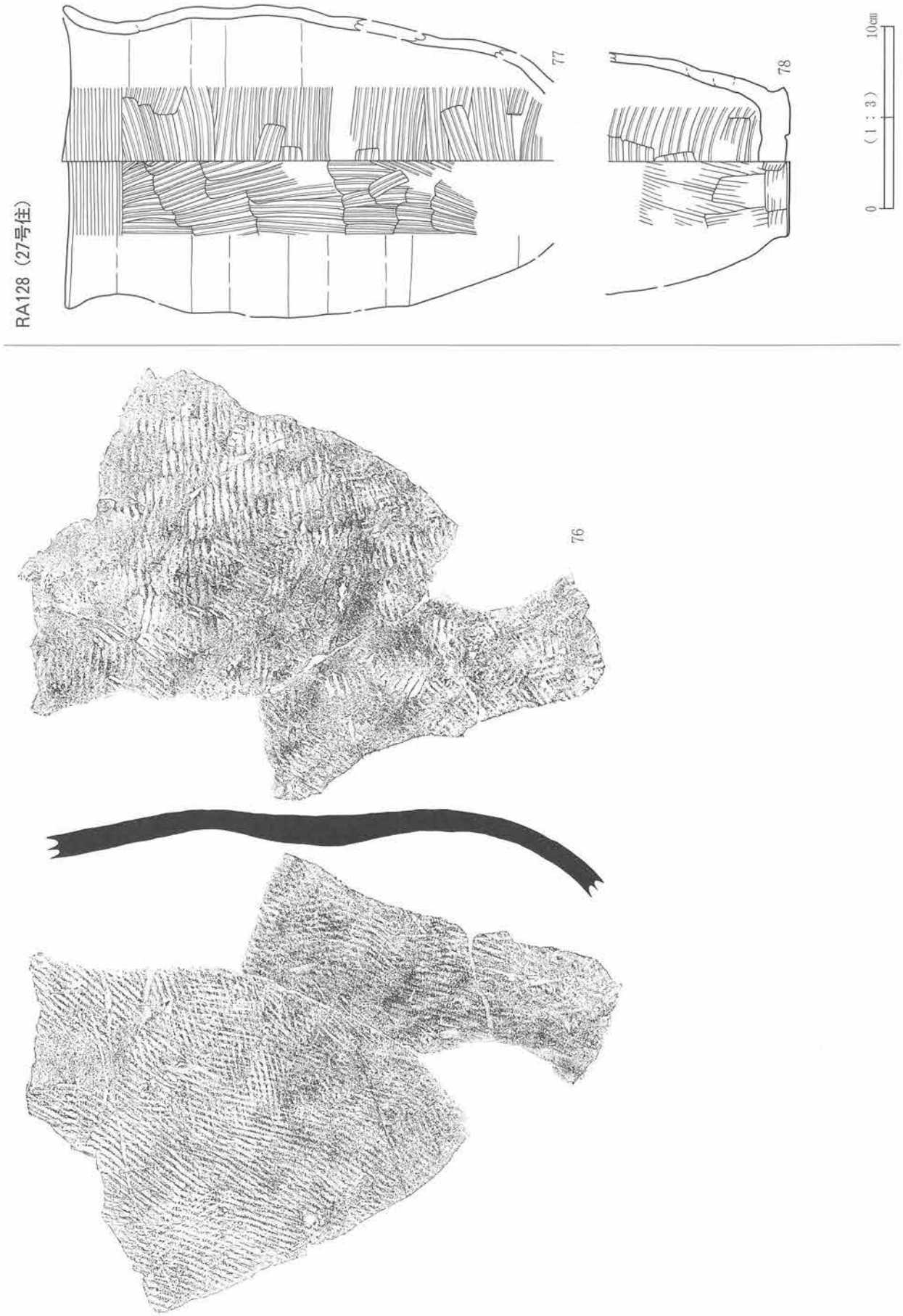

第120図　遺構内出土土器（9）




第121図　遺構内出土土器（10）




第122図　遺構内出土土器（11）




第123図　遺構内出土土器（12）

RA129（20号住）

79

80

81

82

83

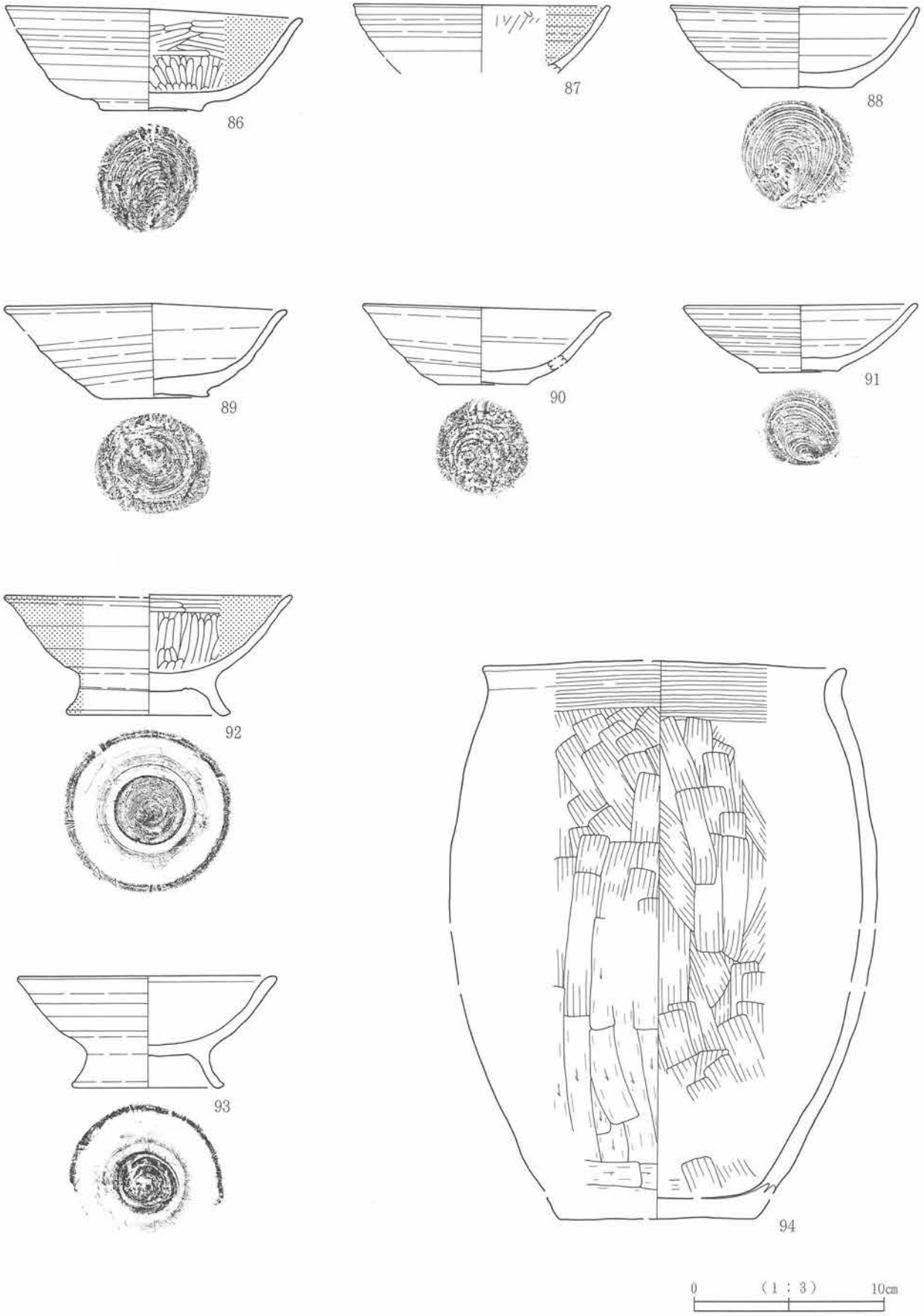
84

85

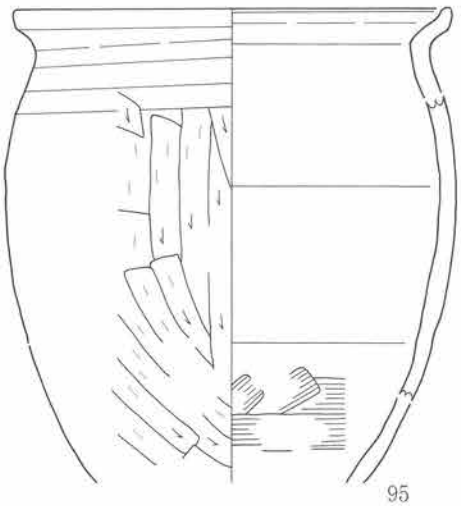
0　（1：3）　10cm

第124図　遺構内出土土器（13）

RA130（24号住）




第125図　遺構内出土土器（14）

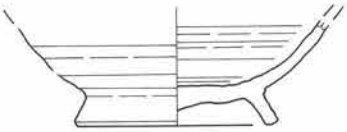


95

84

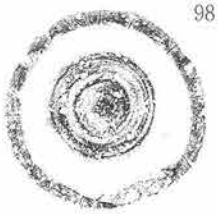
RA131（11号住）

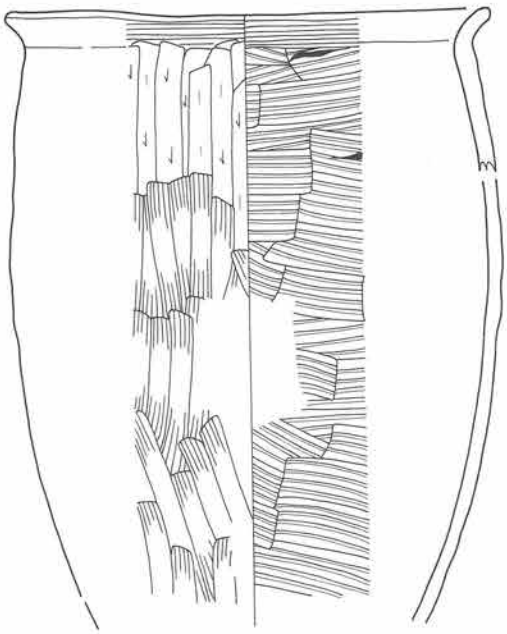
96



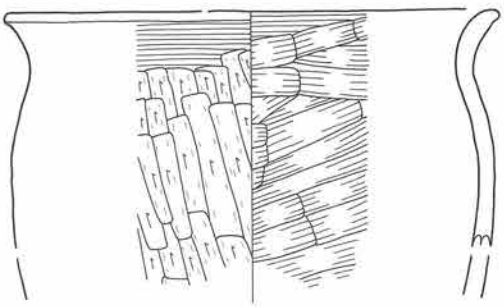
97

98

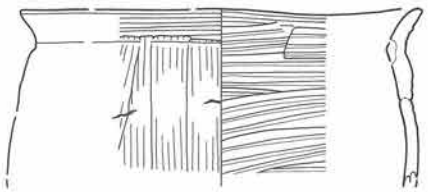




99



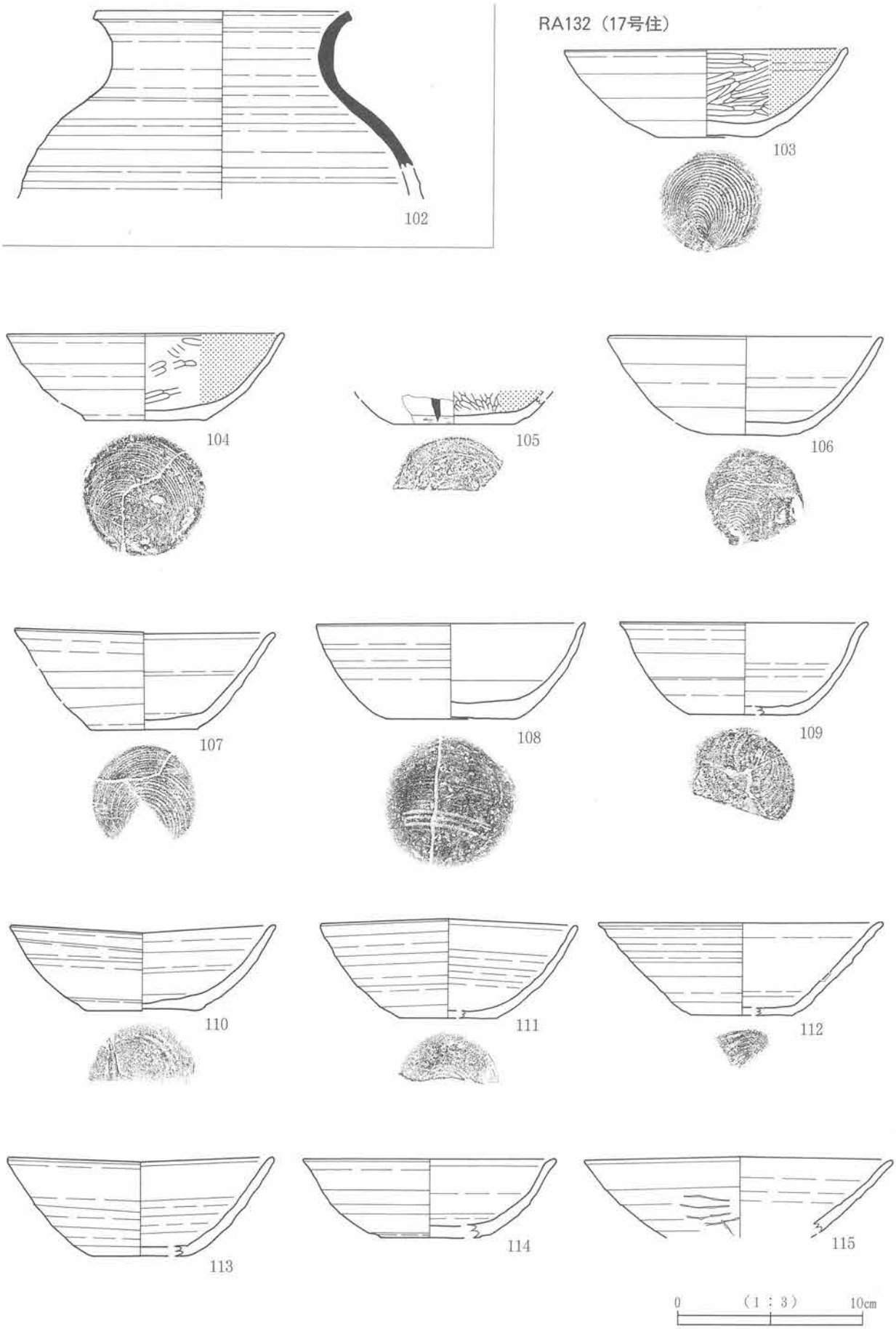
100



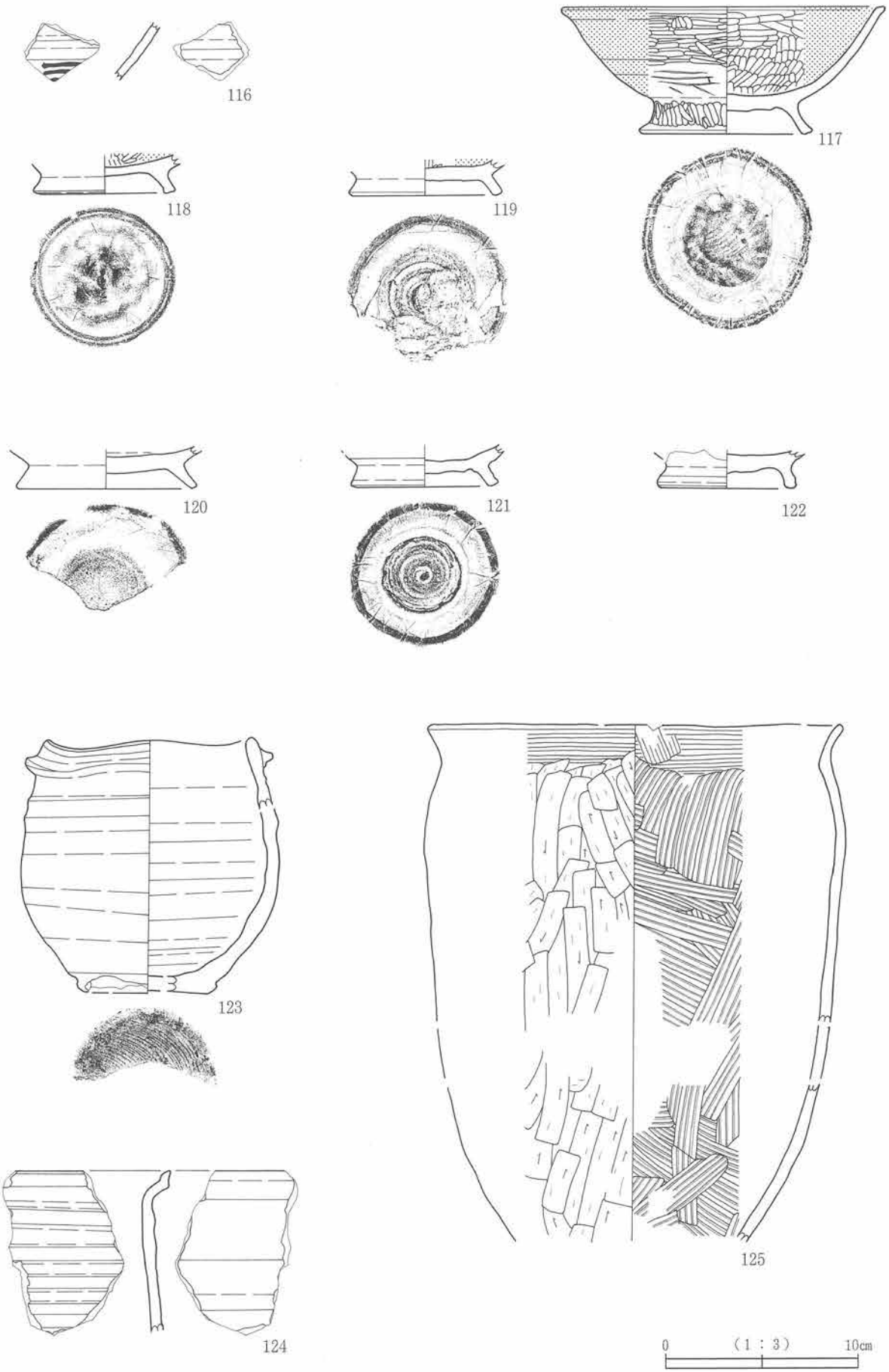
101

0　（1：3）　10cm

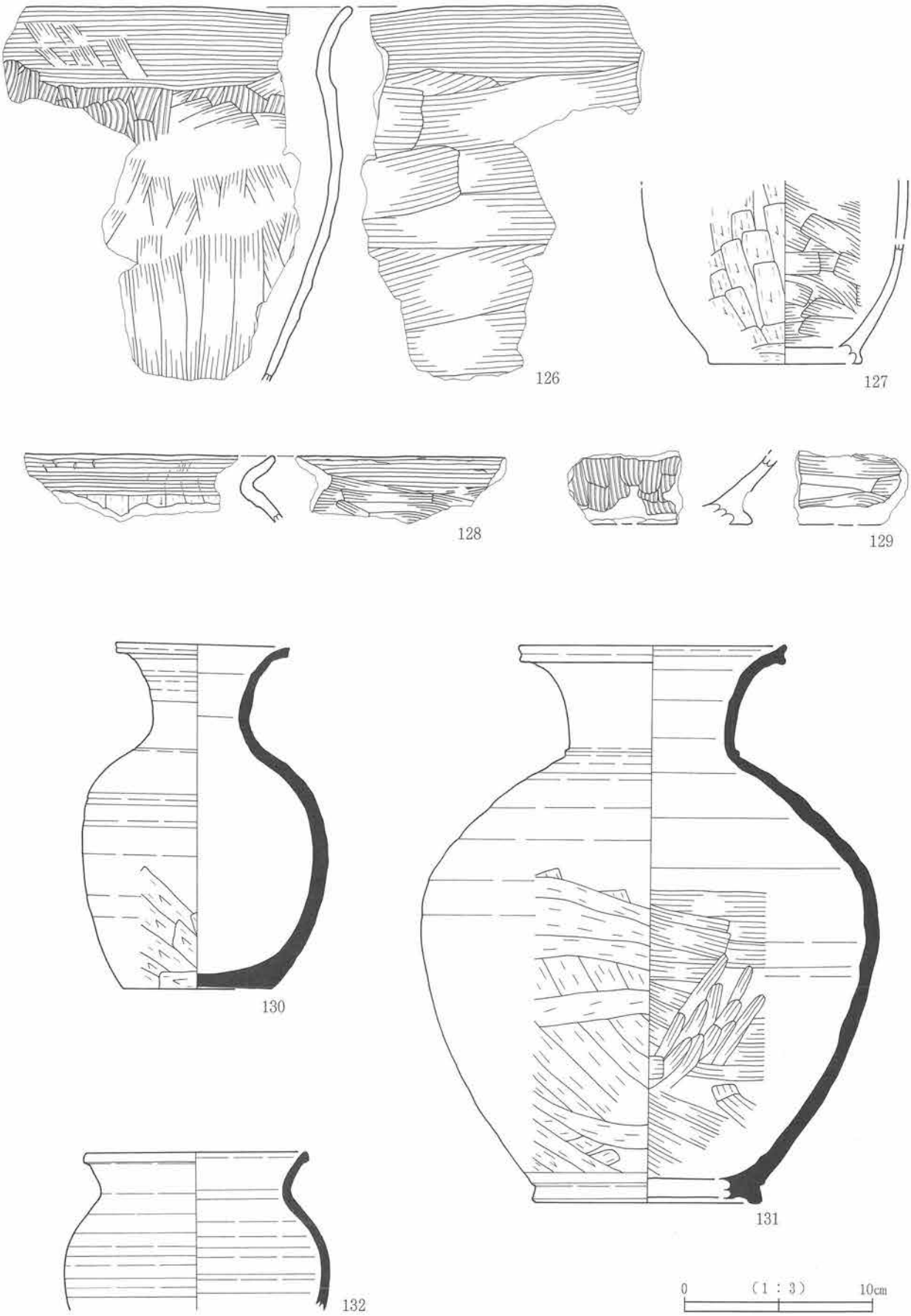
第126図　遺構内出土土器（15）



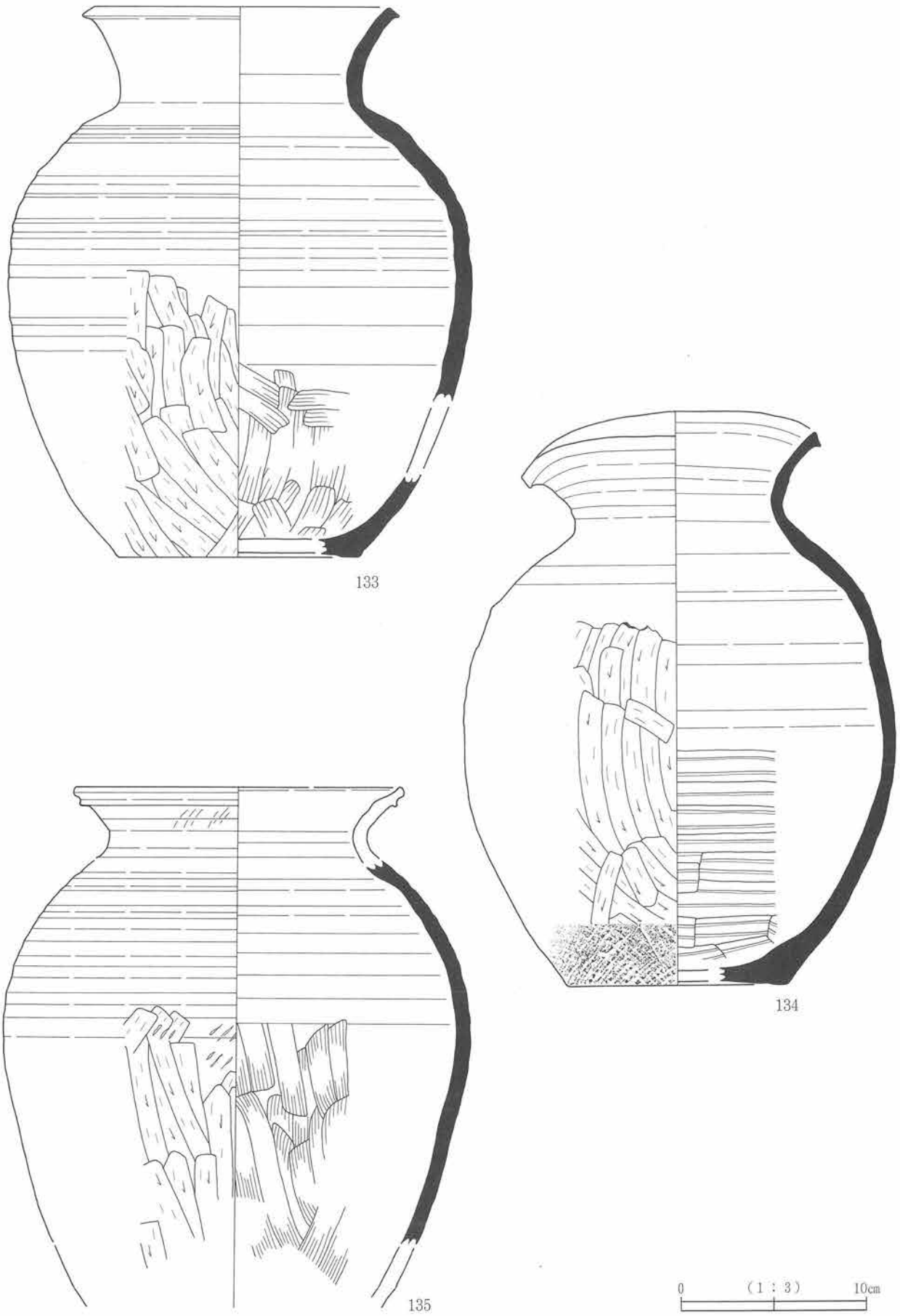

第127図　遺構内出土土器（16）



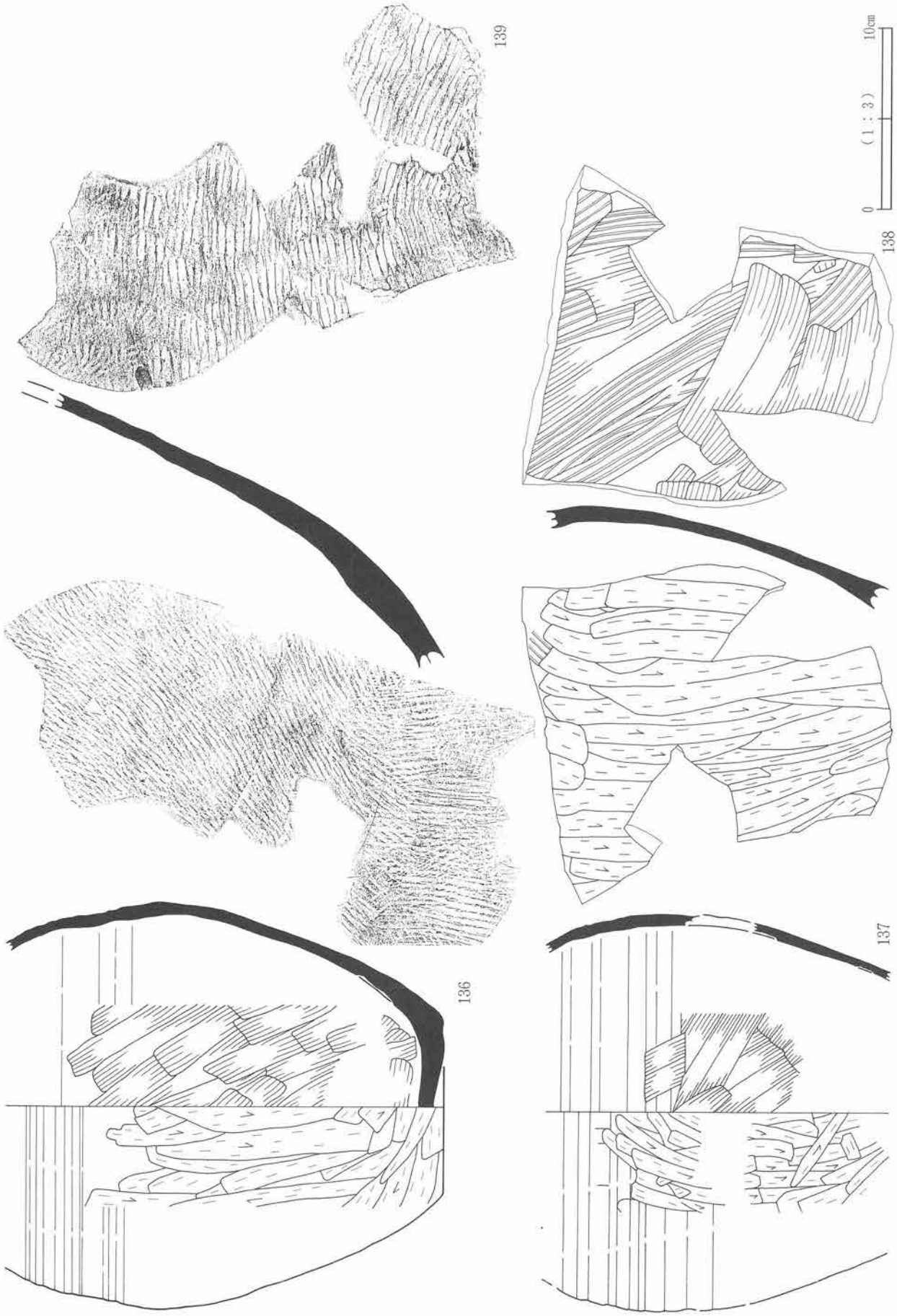

第128図　遺構内出土土器（17）



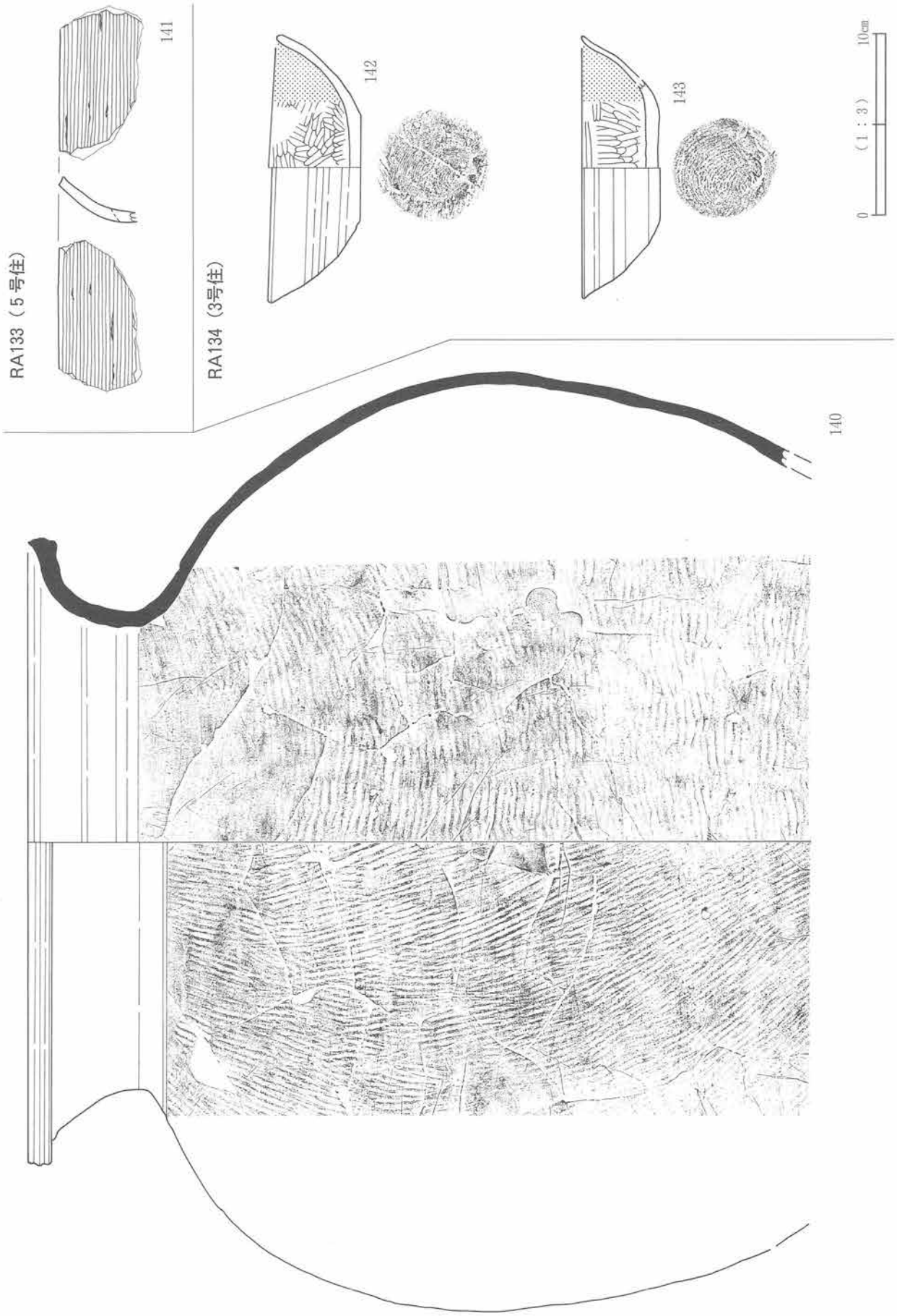

第129図　遺構内出土土器（18）



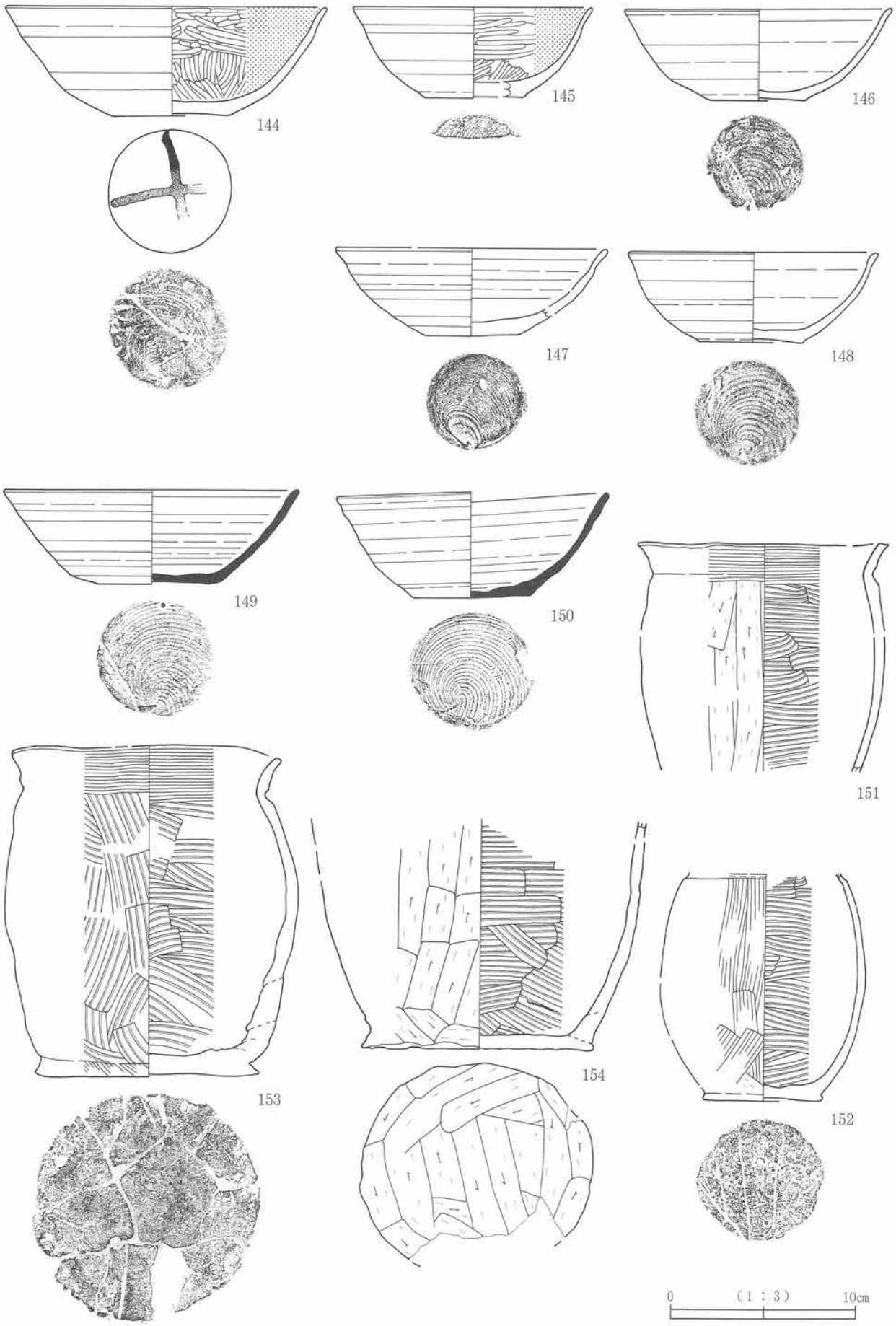

第130図　遺構内出土土器（19）



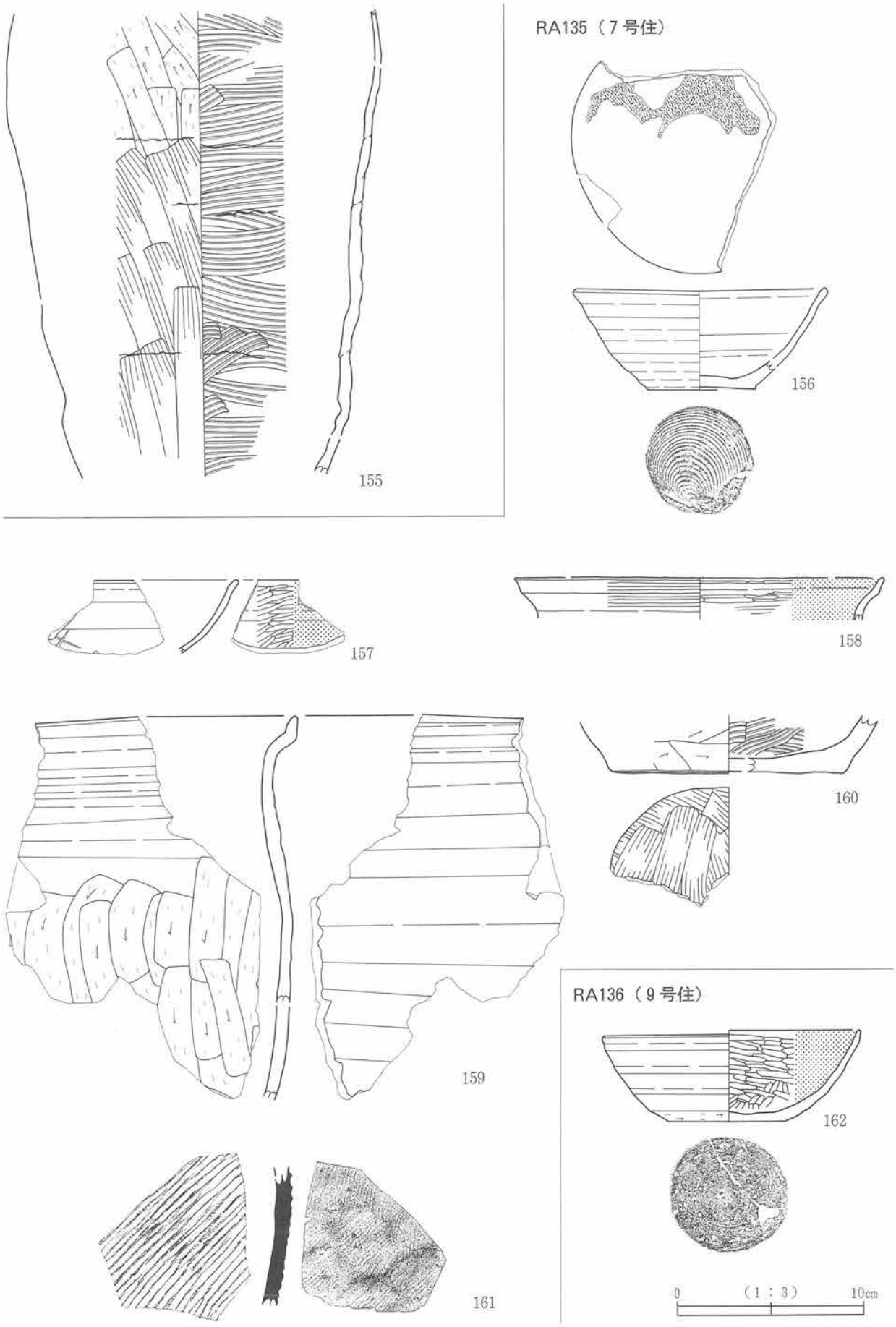

第131図　遺構内出土土器（20）




第132図　遺構内出土土器（21）

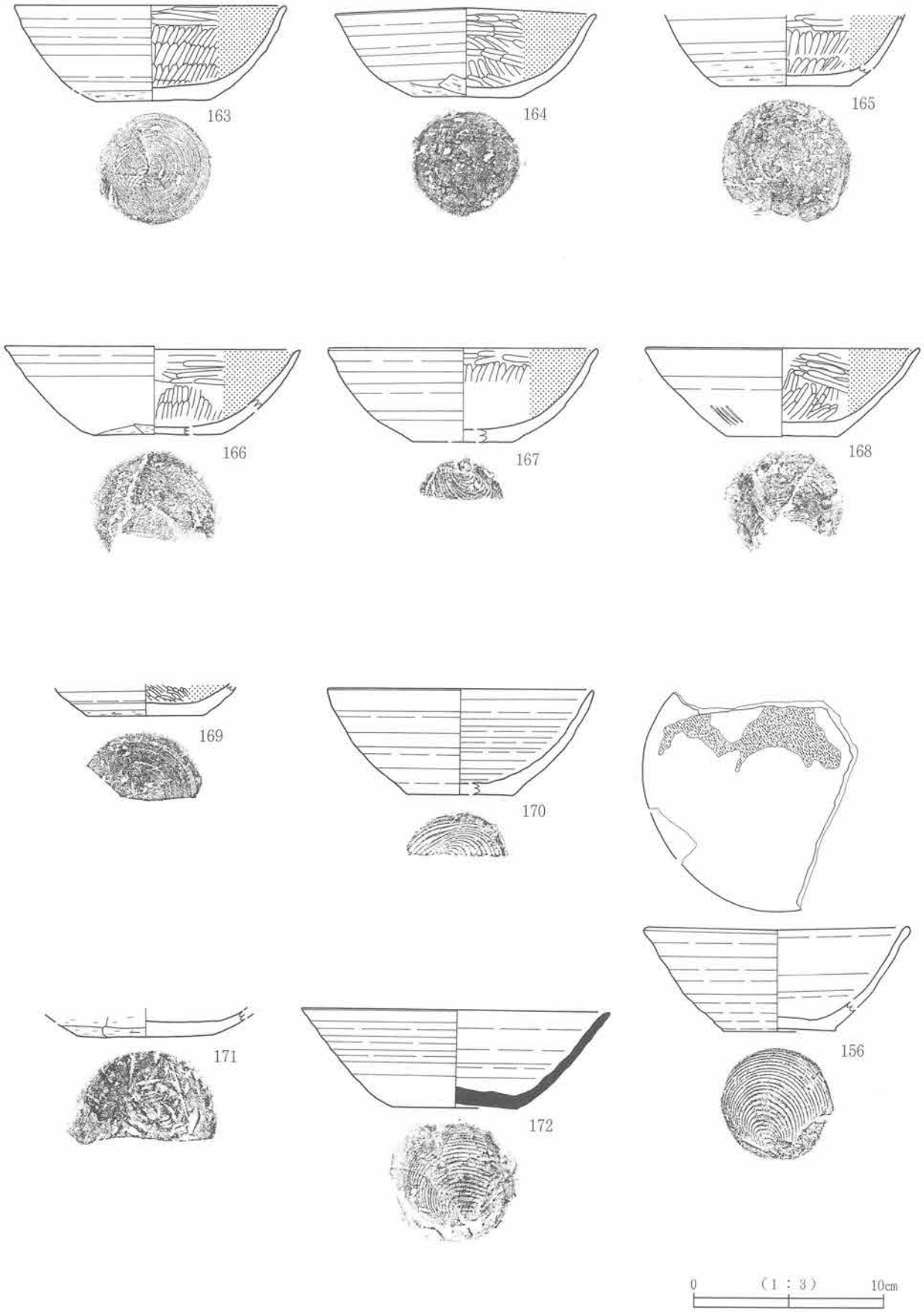



第133図　遺構内出土土器（22）

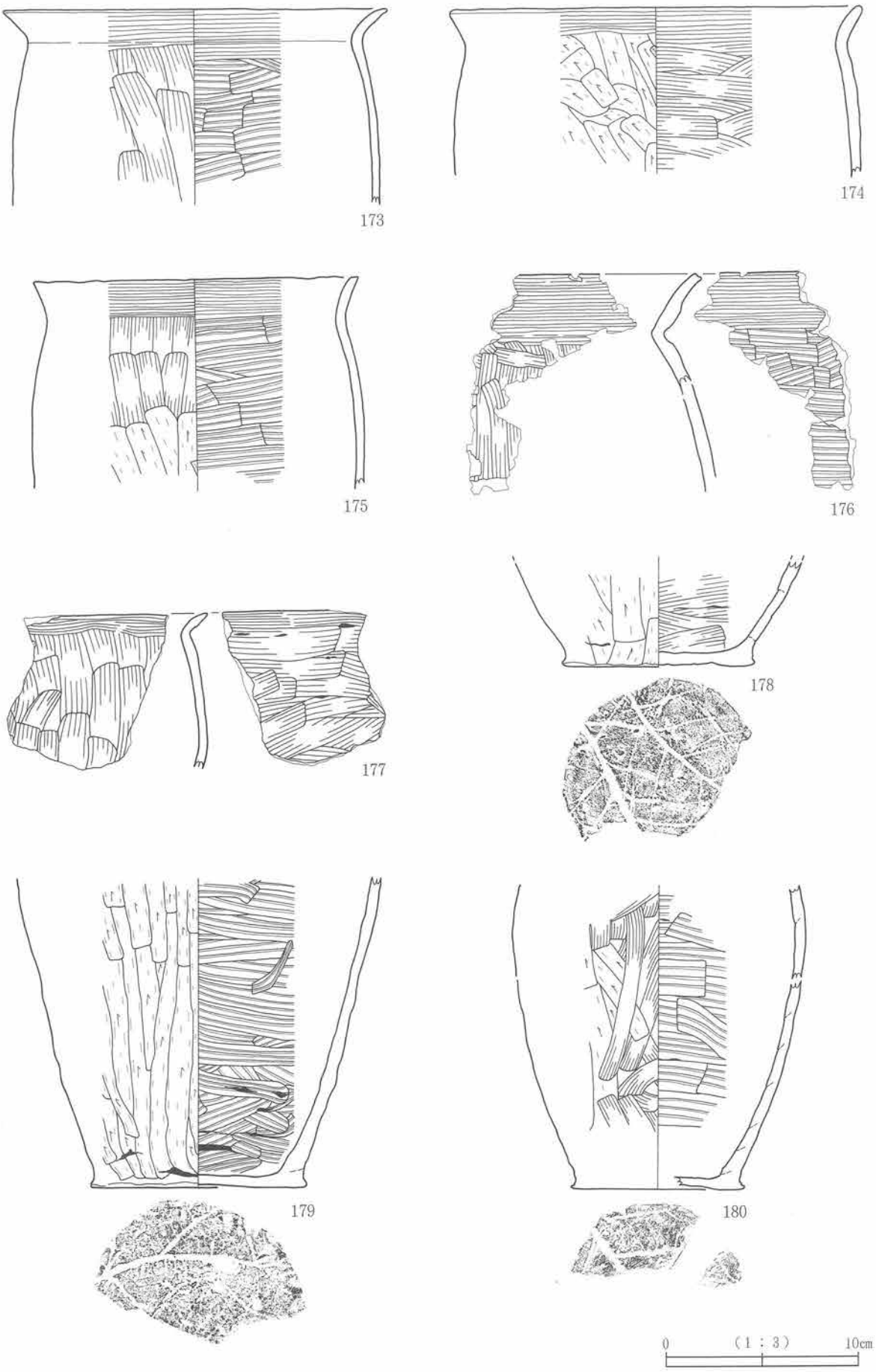



第134図　遺構内出土土器（23）

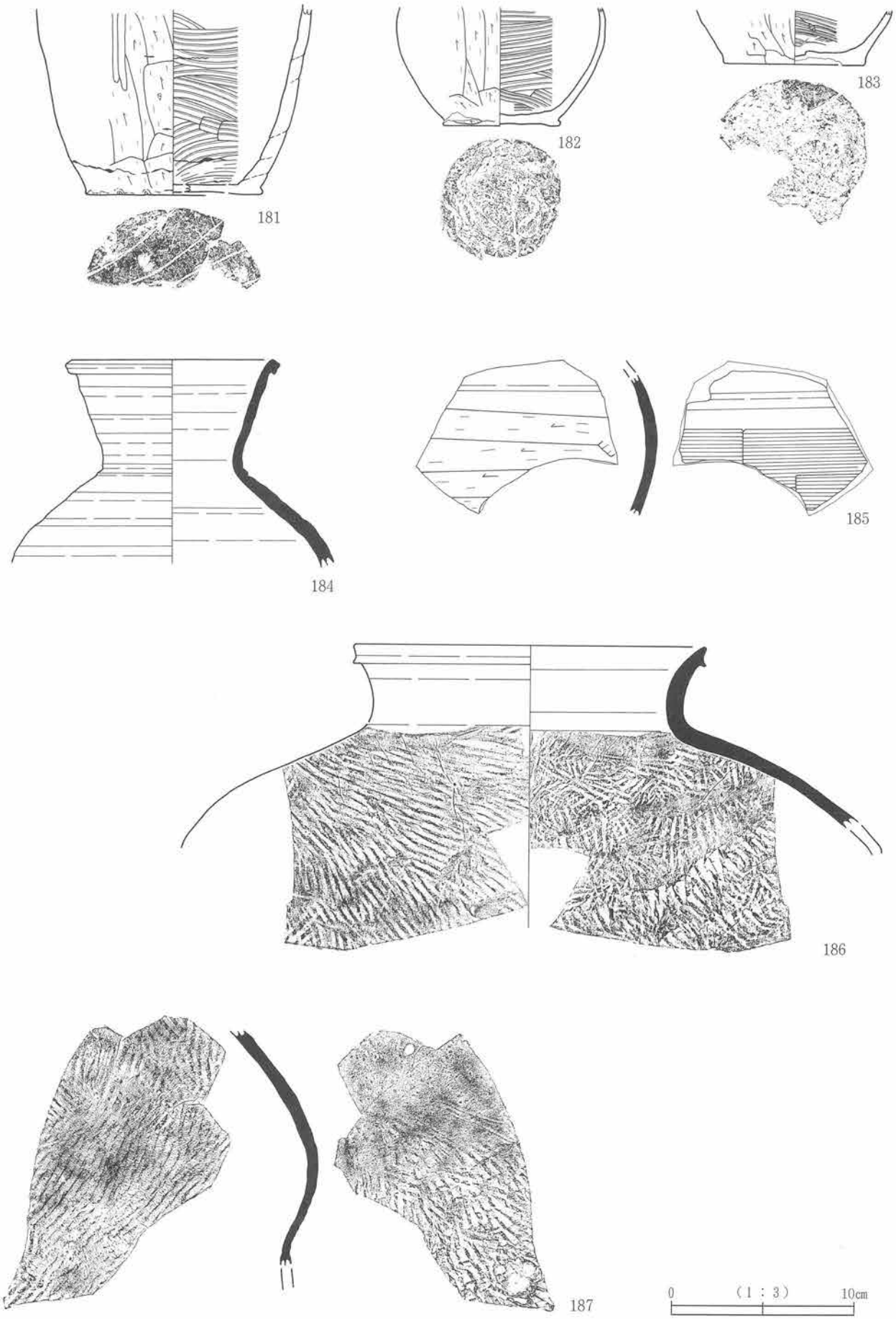
RA137（8号住）



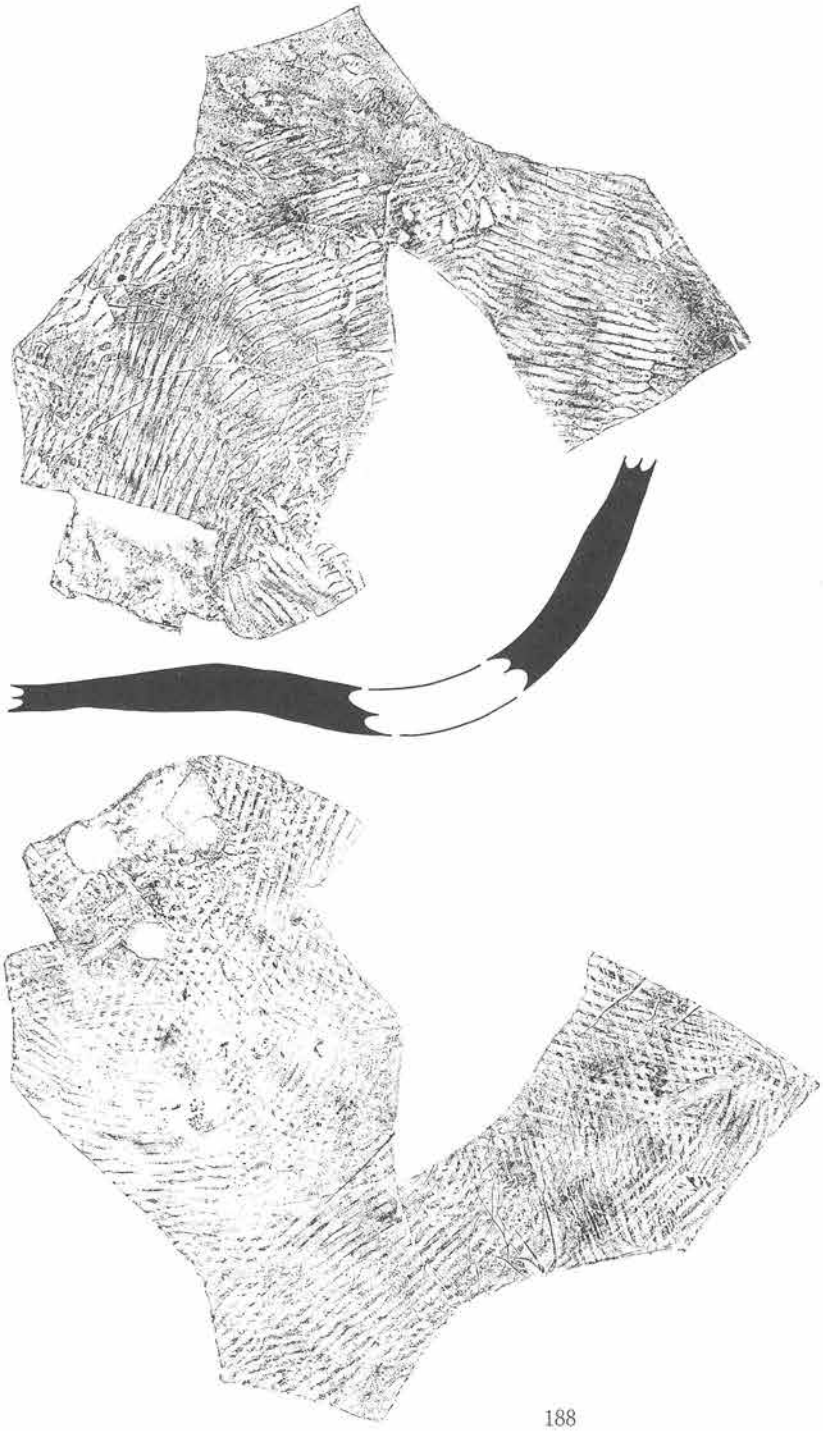

第135図　遺構内出土土器（24）

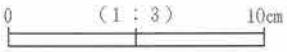



第136図　遺構内出土土器（25）

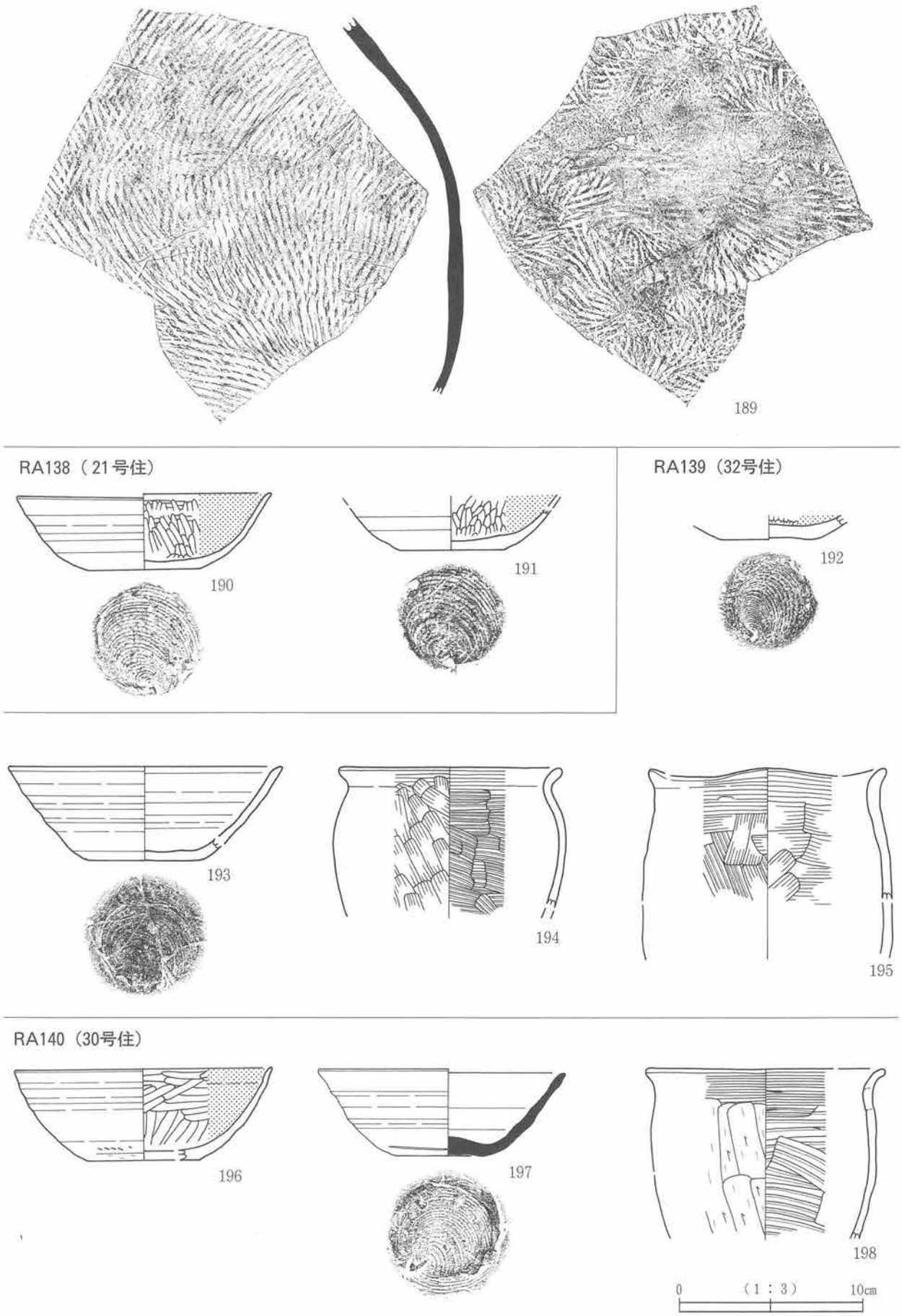



第137図　遺構内出土土器（26）

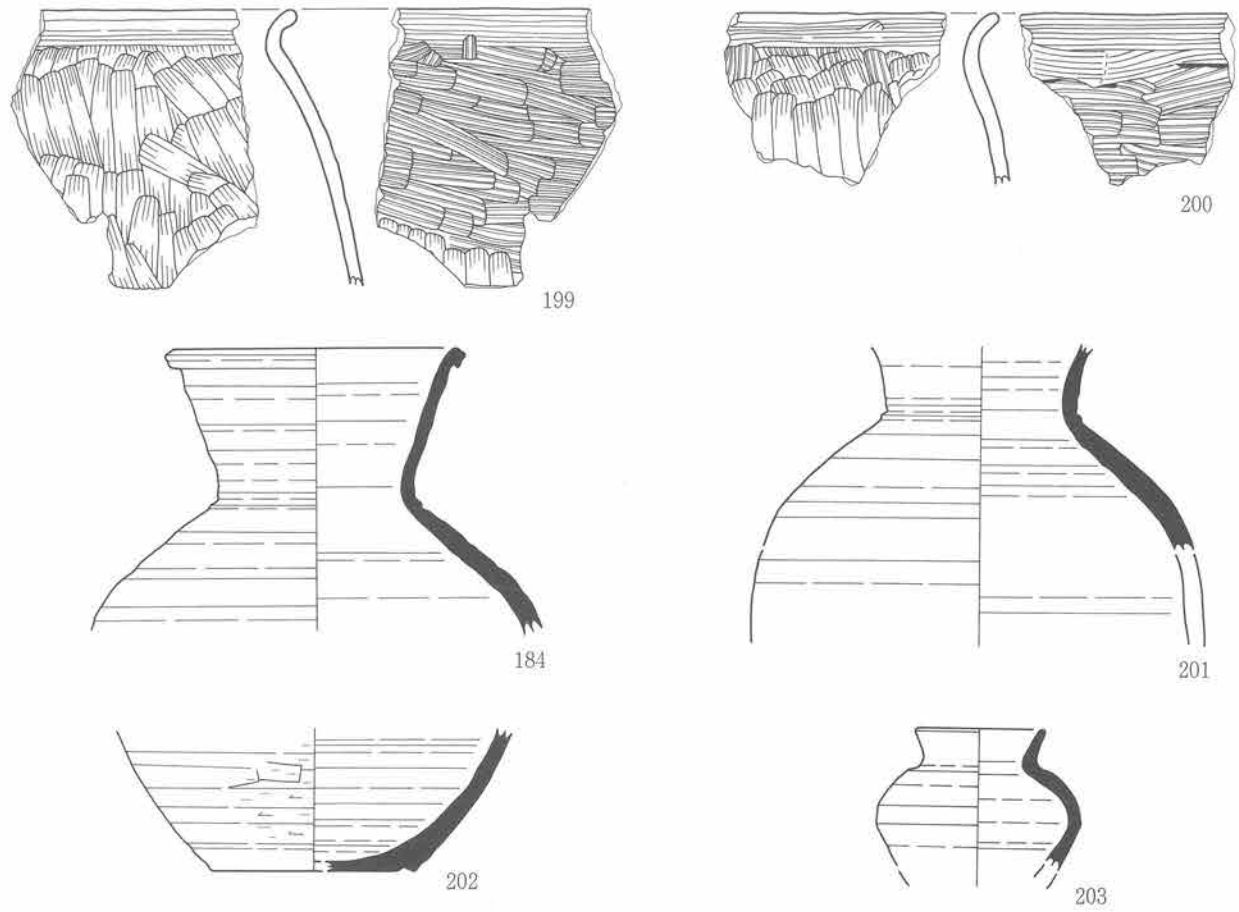


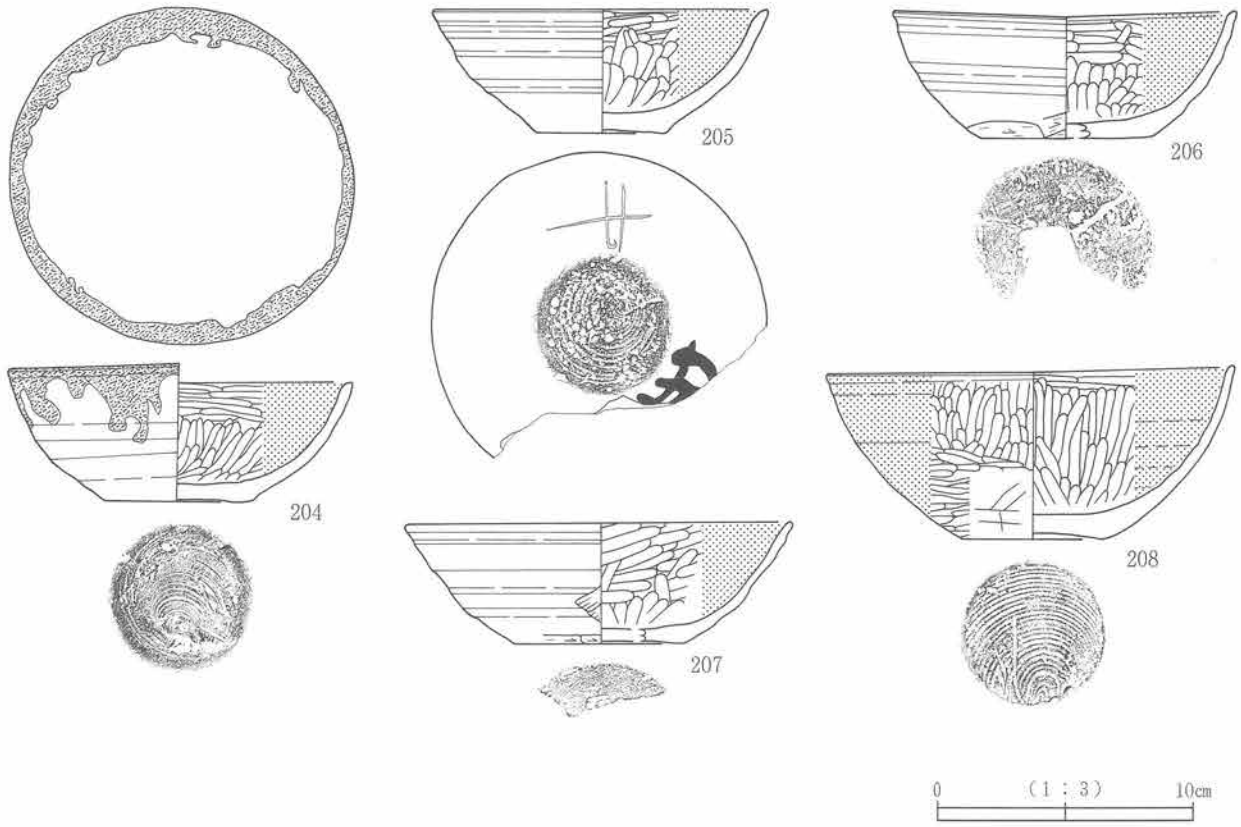

第138図　遺構内出土土器（27）



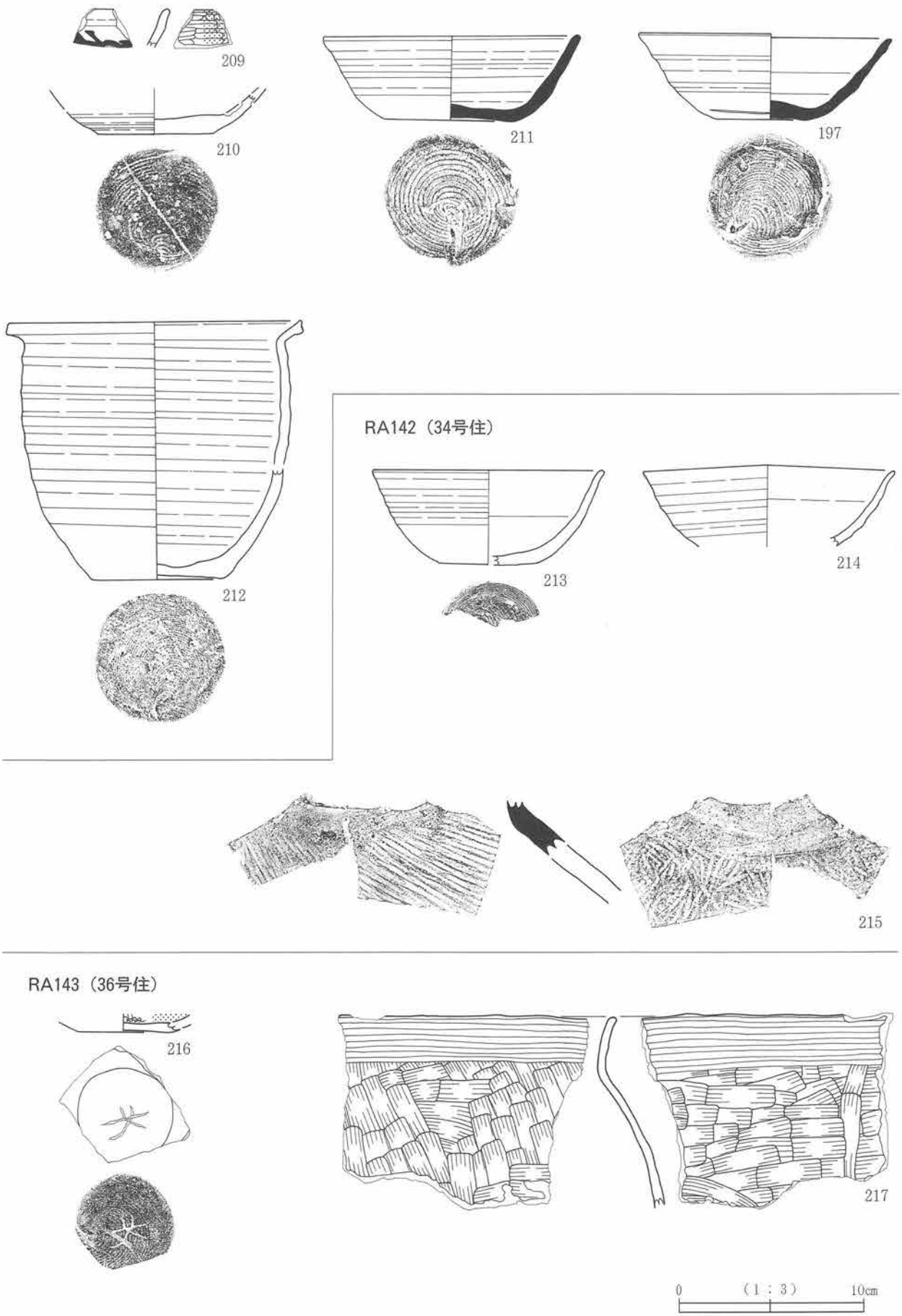

第139図　遺構内出土土器（28）




RA141（33号住）

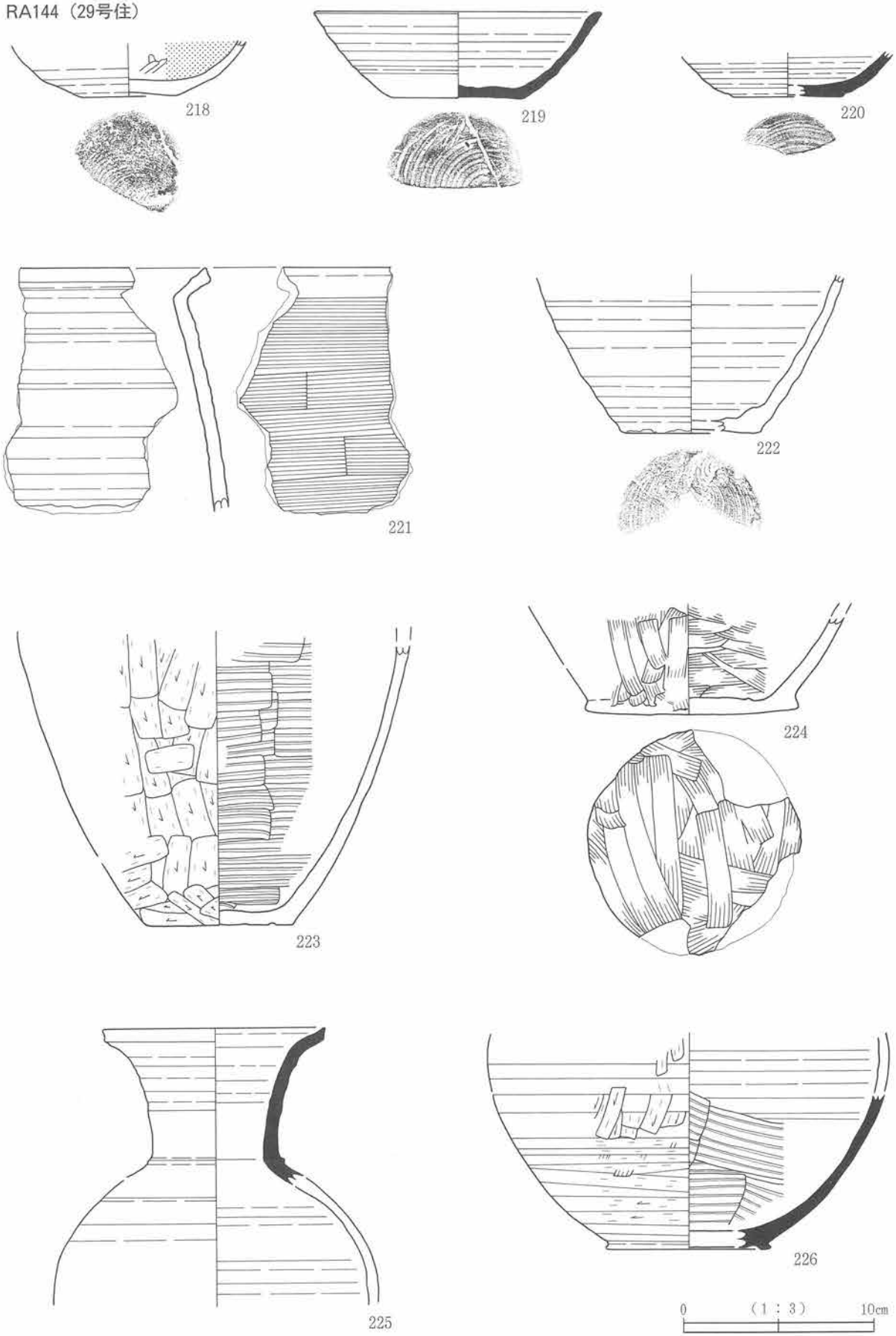



第140図　遺構内出土土器（29）

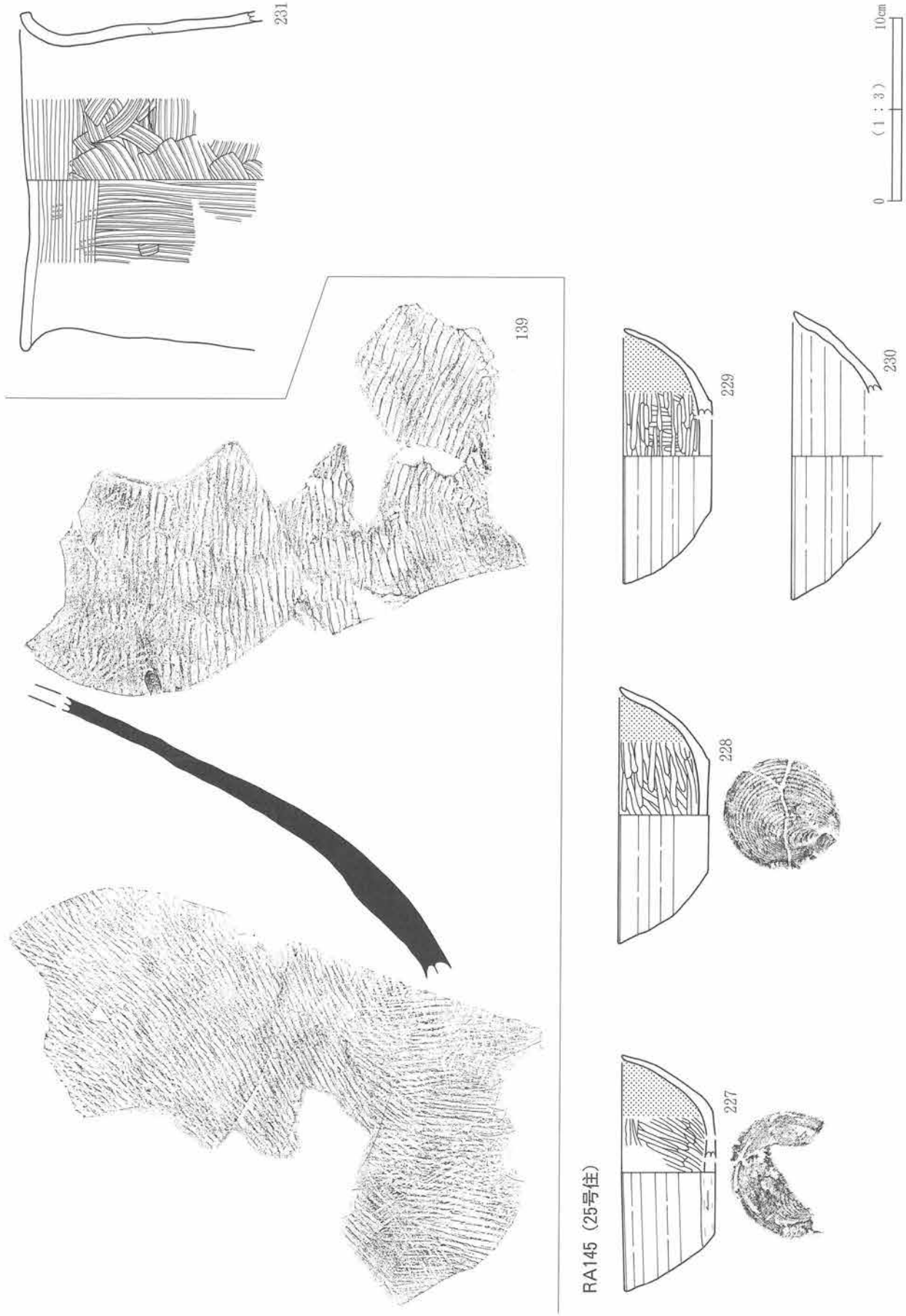



第141図　遺構内出土土器（30）

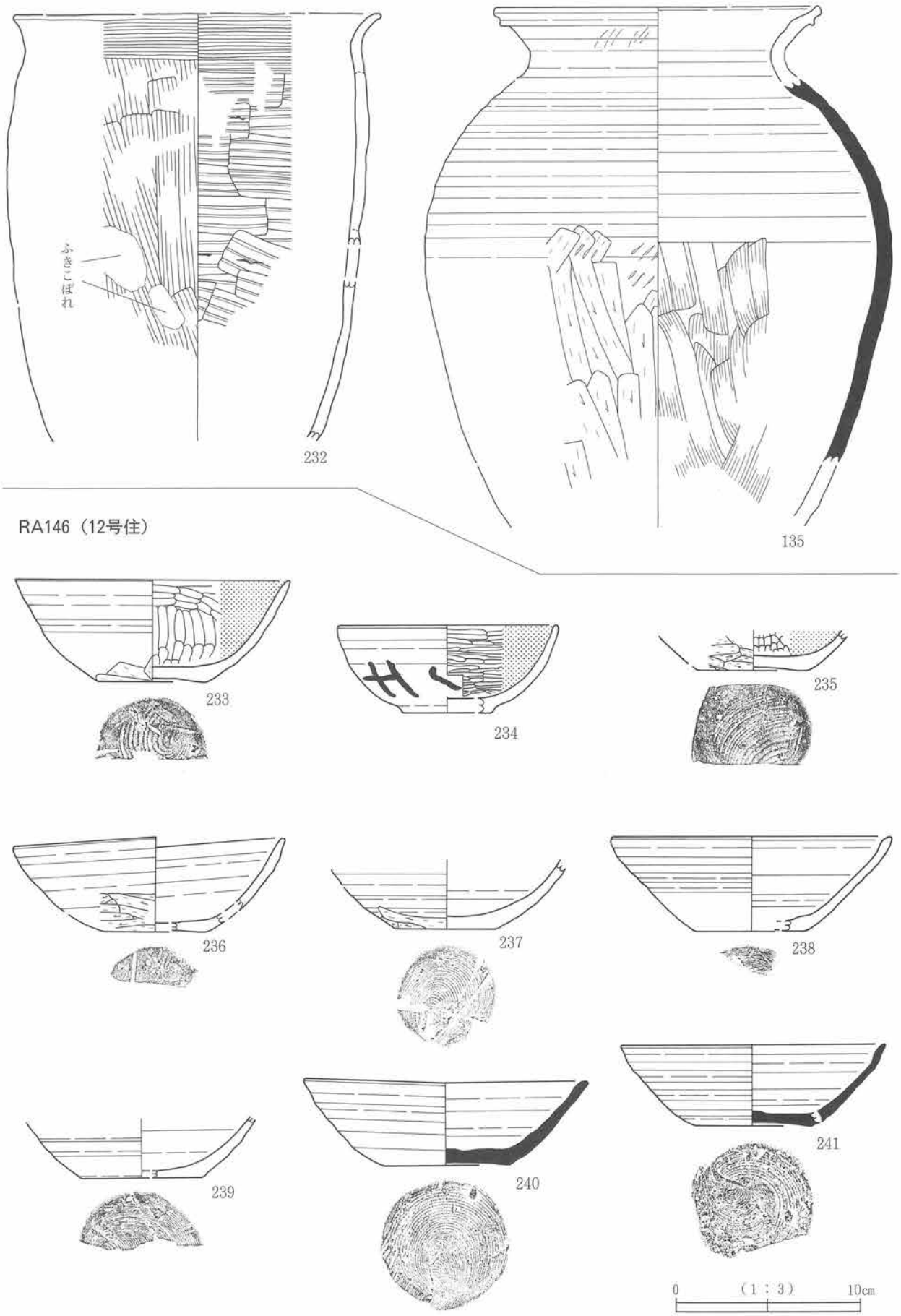
RA144（29号住）



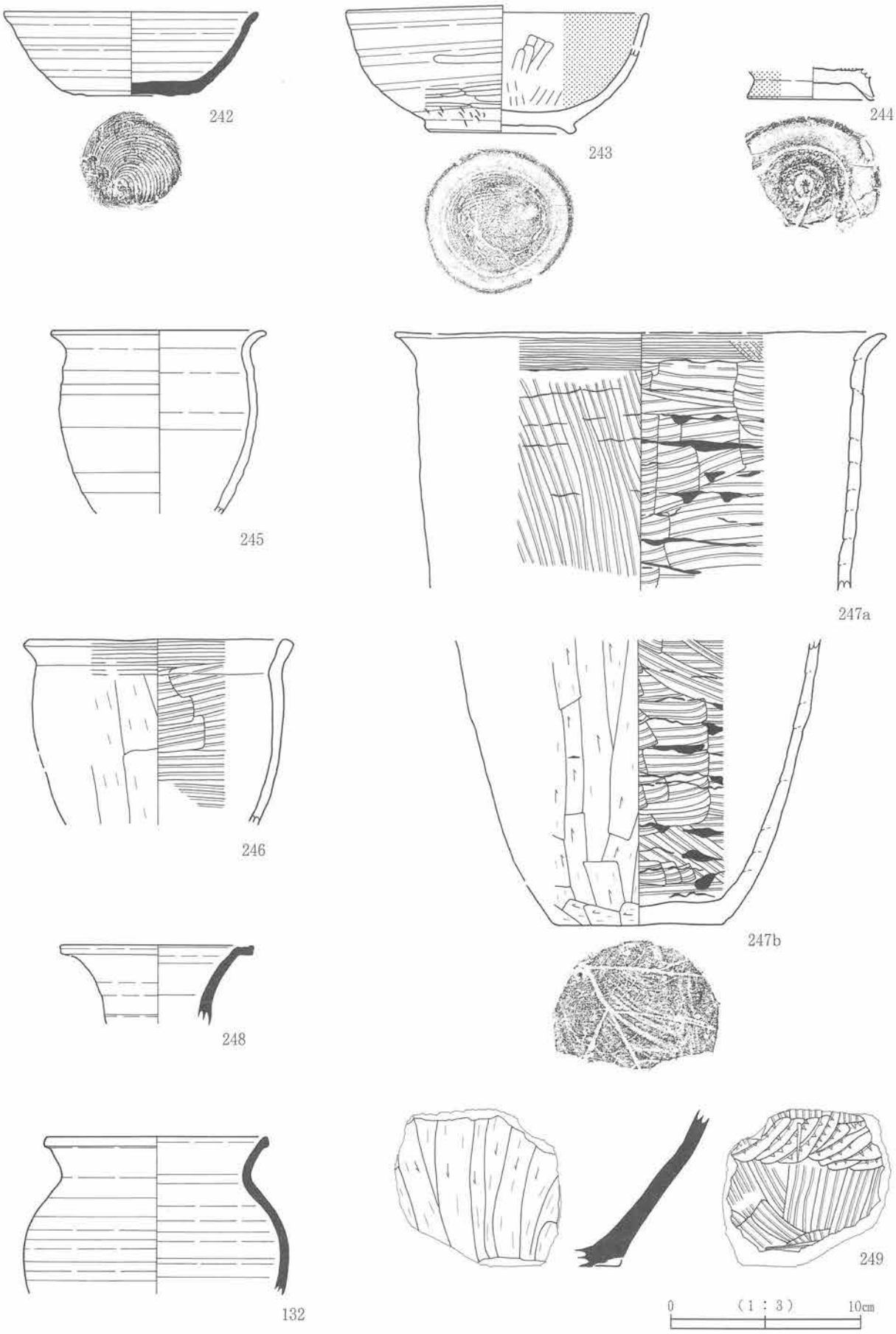

第142図　遺構内出土土器（31）




第143図　遺構内出土土器（32）

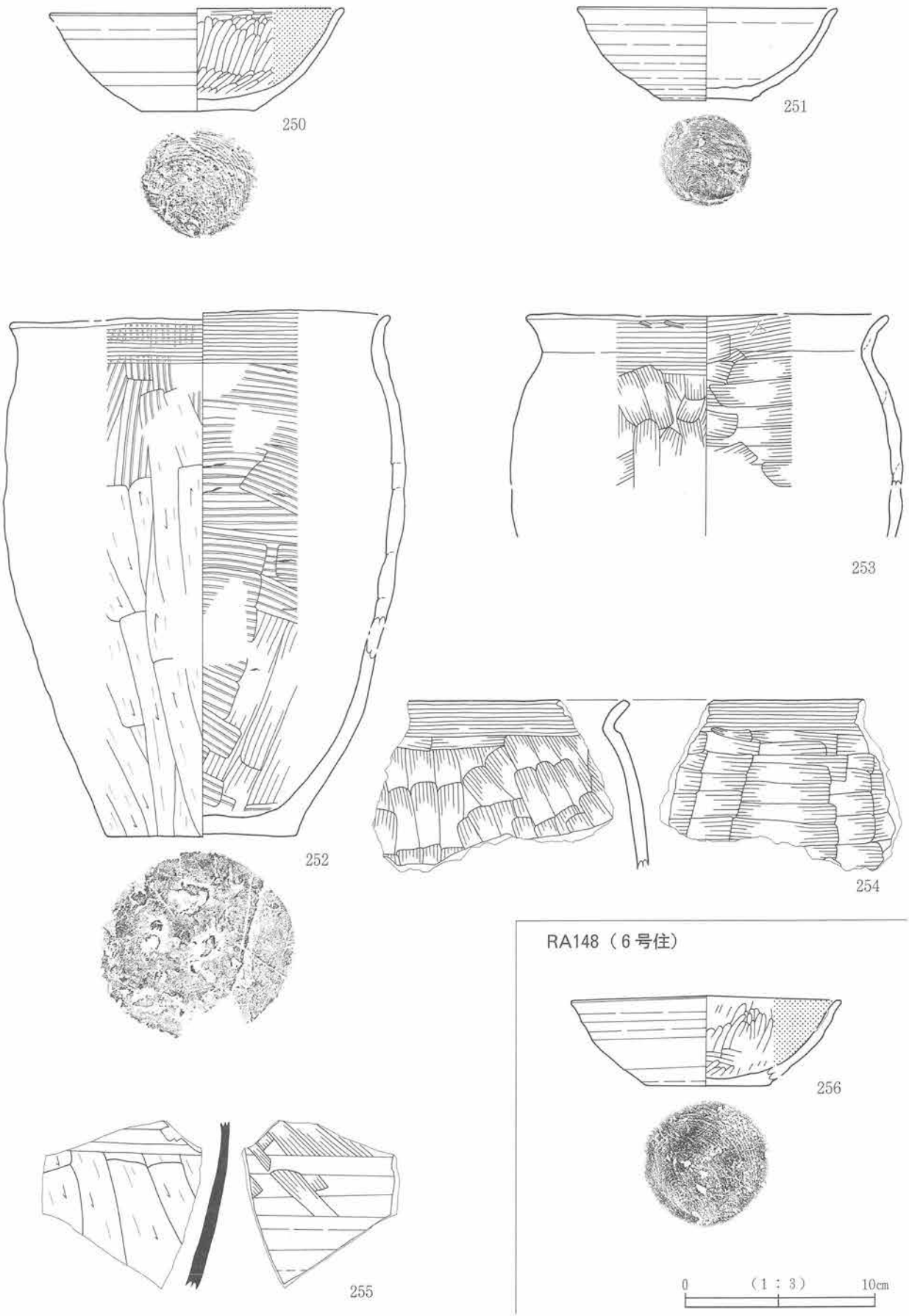



第144図　遺構内出土土器（33）

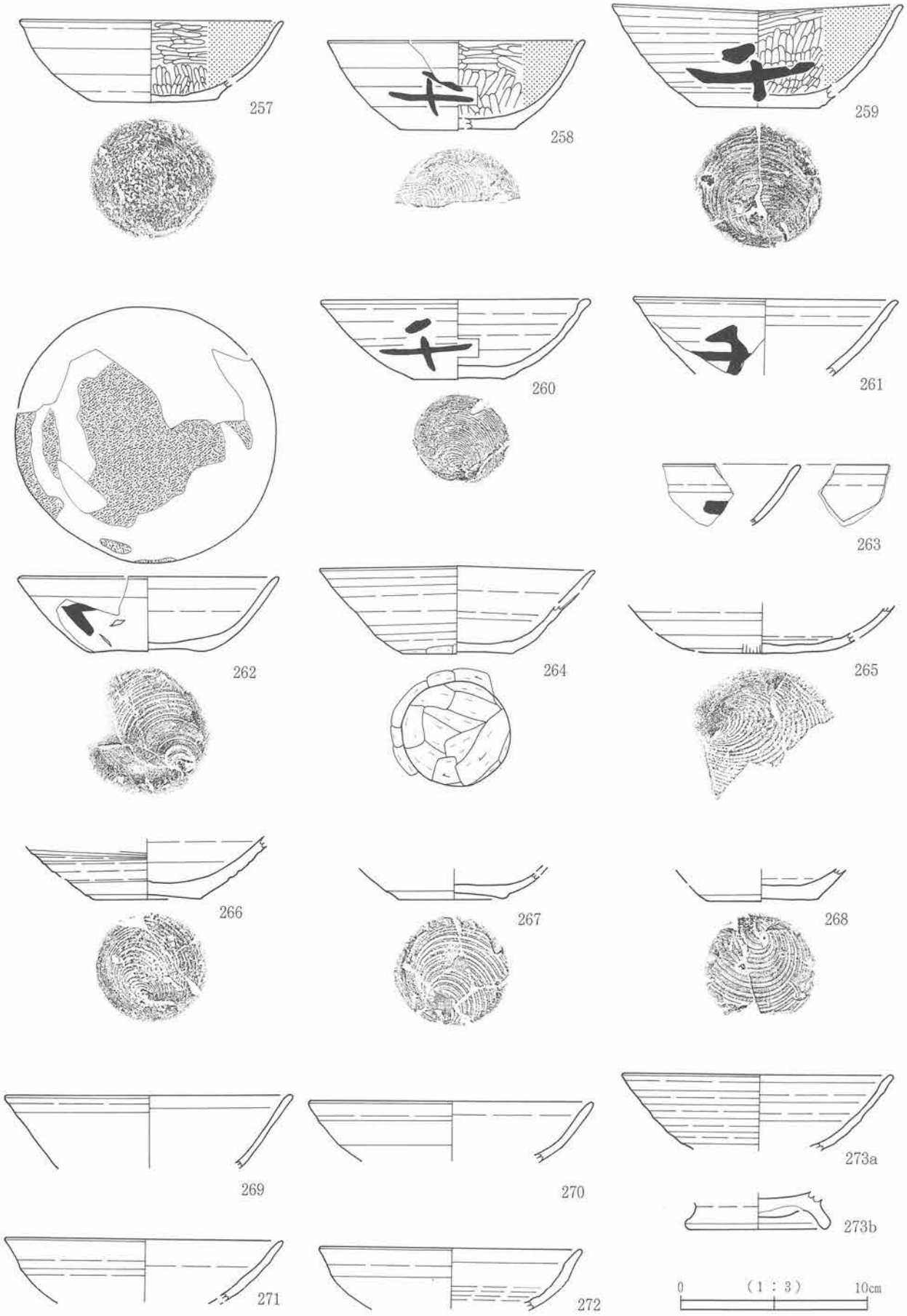



第145図　遺構内出土土器（34）

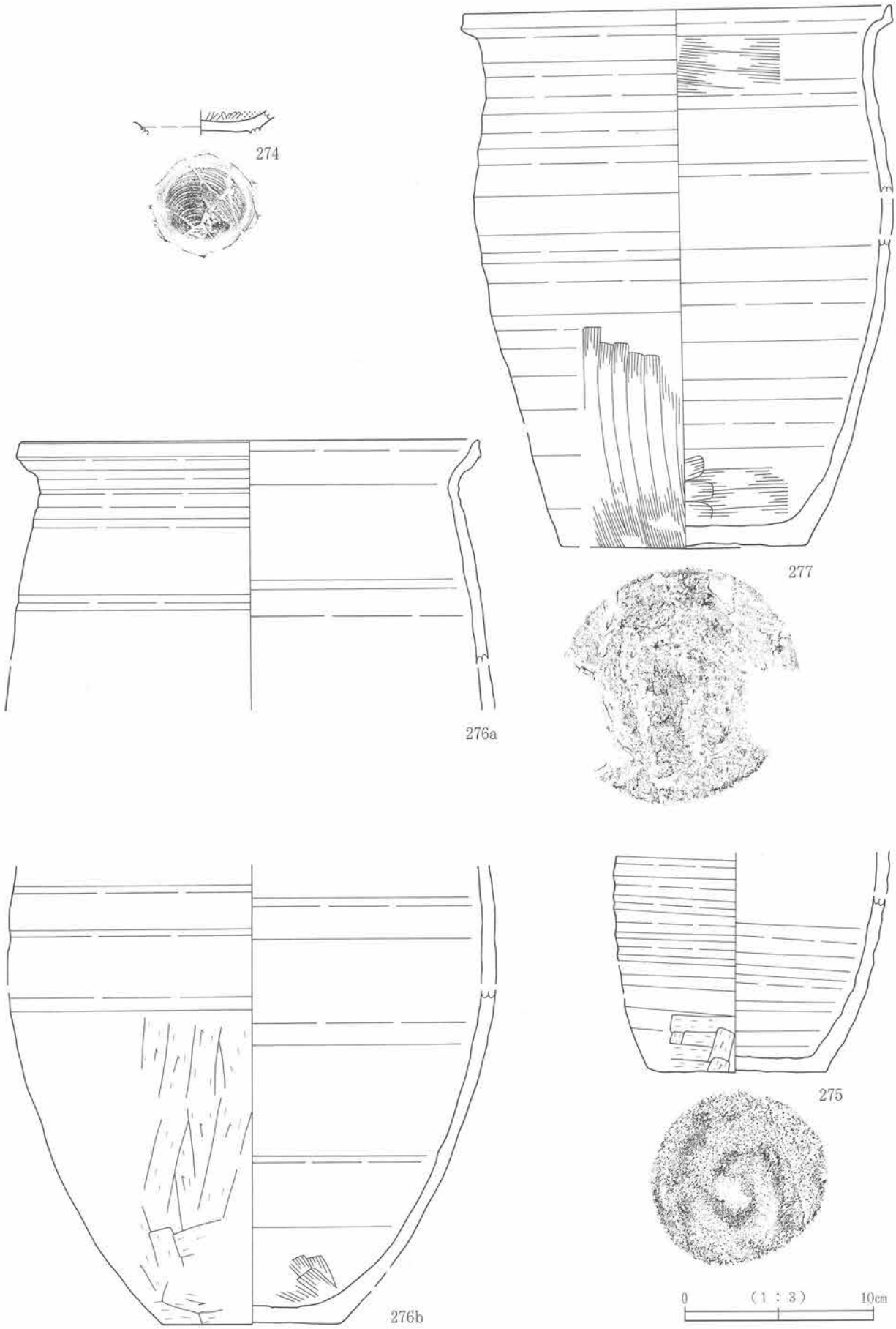
RA147（28号住）



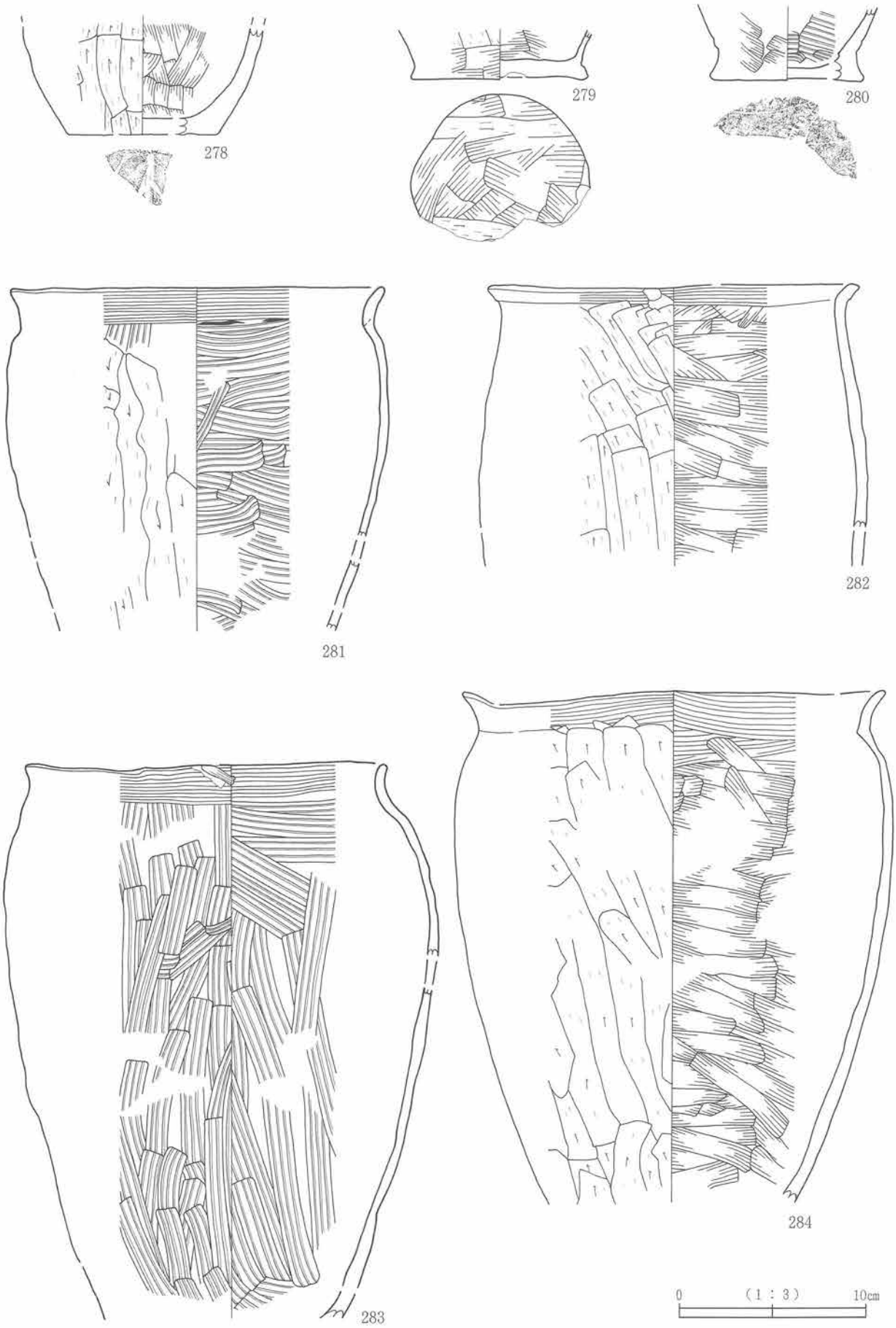

第146図　遺構内出土土器（35）




第147図　遺構内出土土器（36）

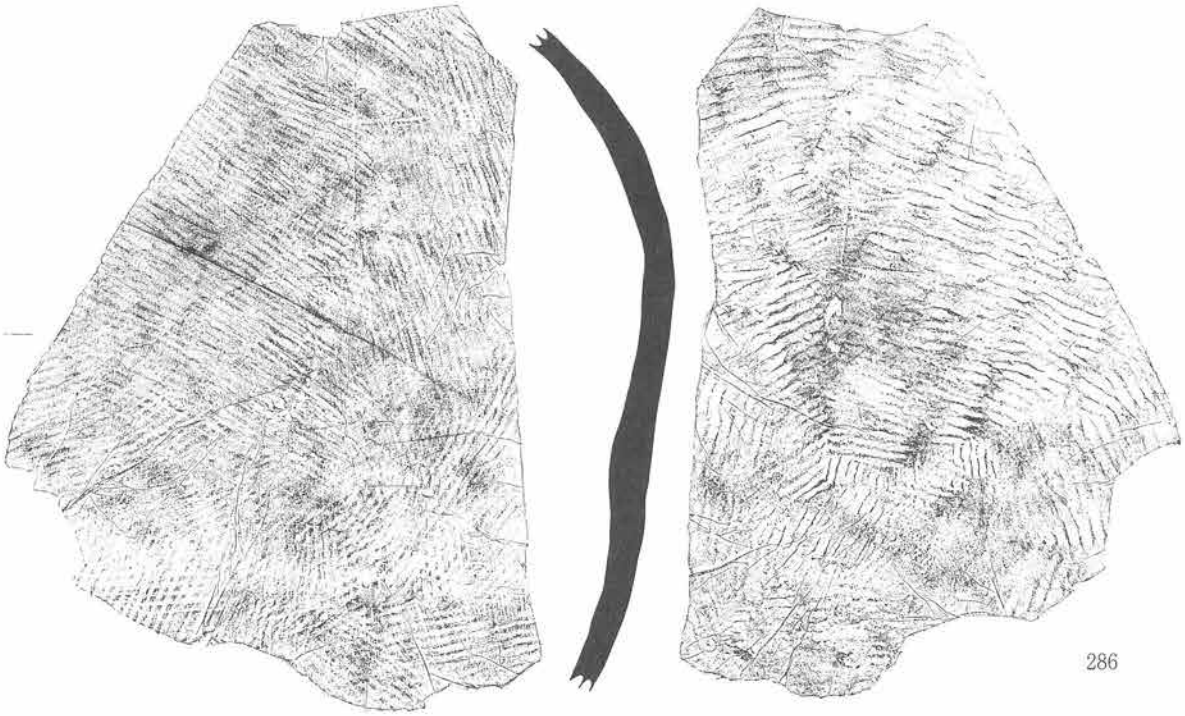



第148図　遺構内出土土器（37）



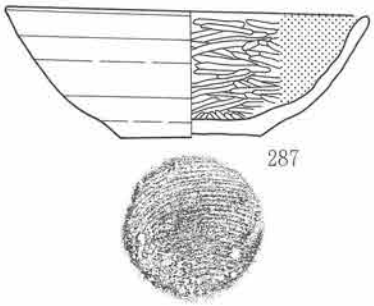

第149図　遺構内出土土器（38）

285

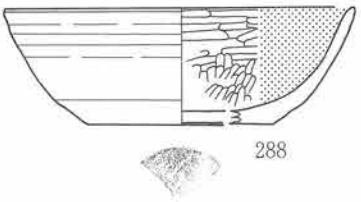


286

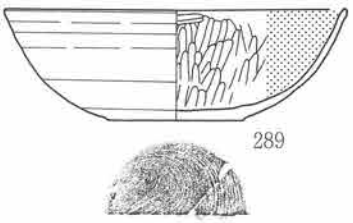
RA149（10号住）



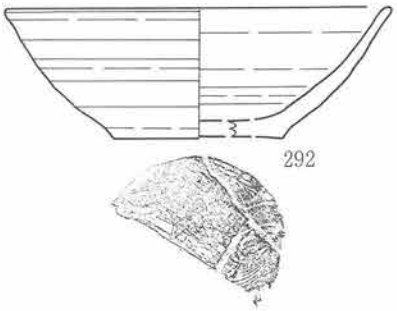
287



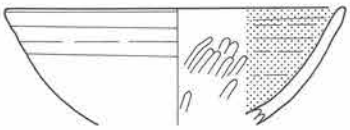
288



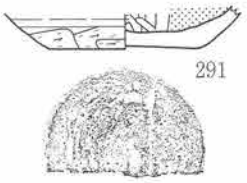
289



292



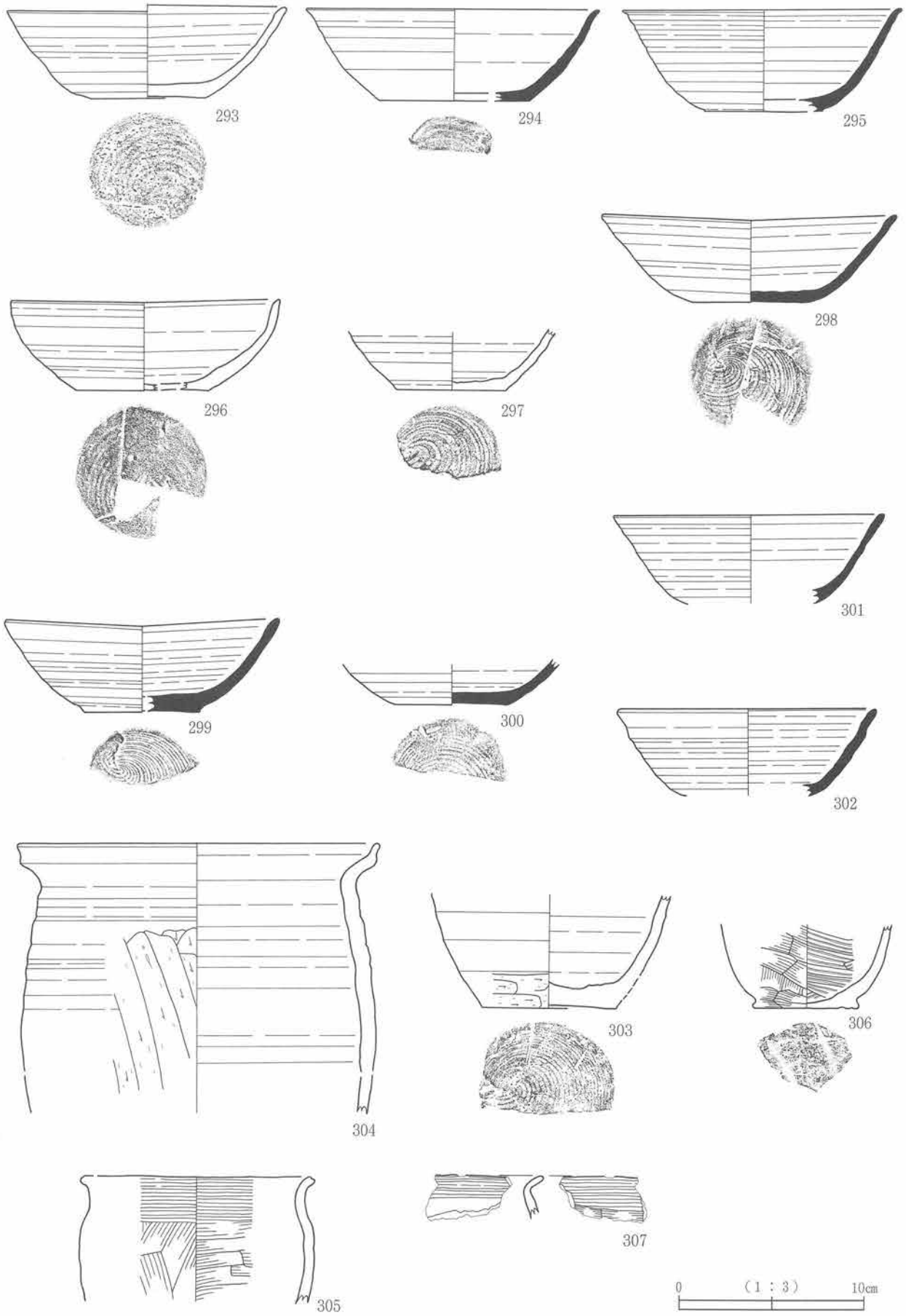
290



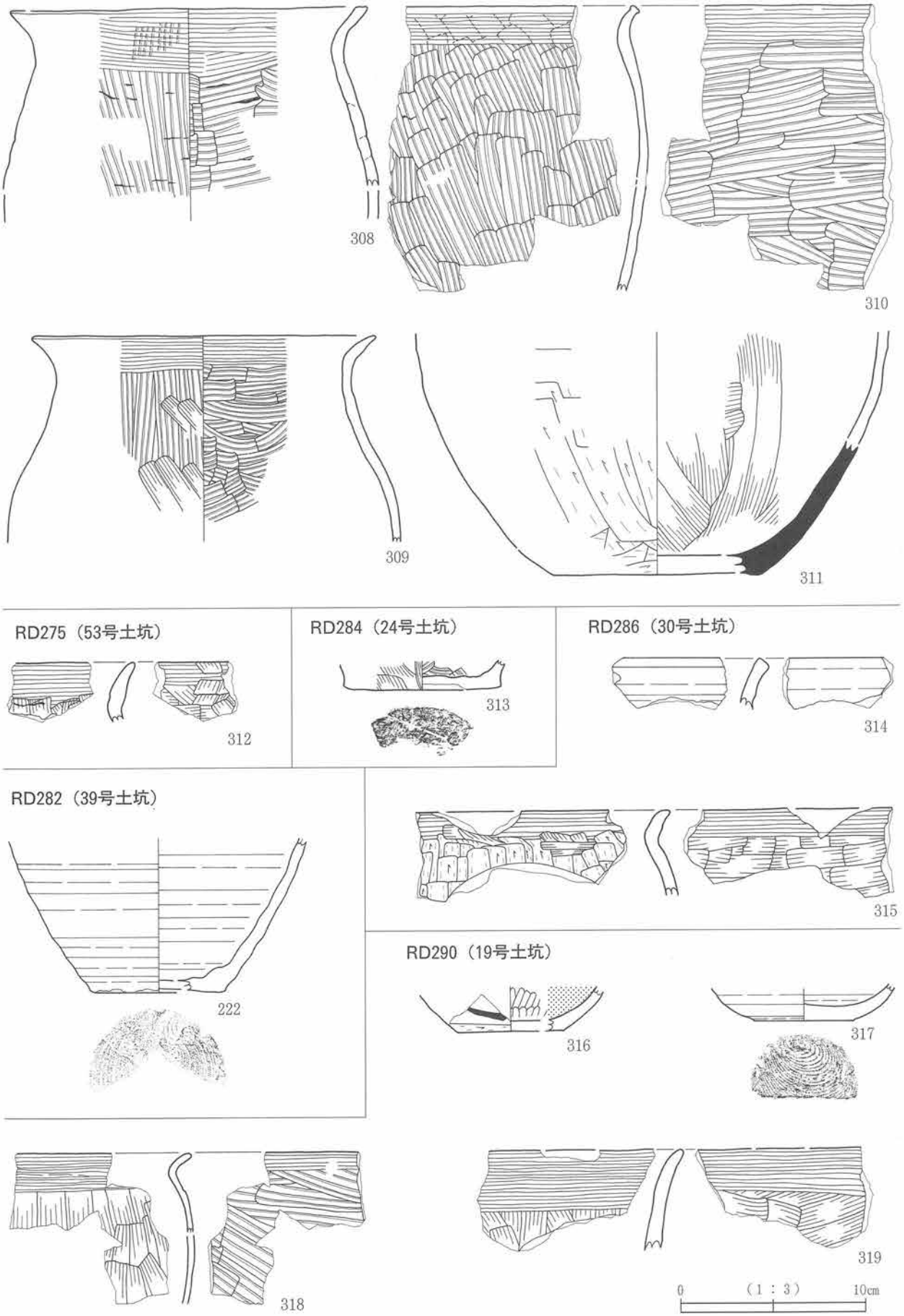
291

0　（1：3）　10cm

第150図　遺構内出土土器（39）

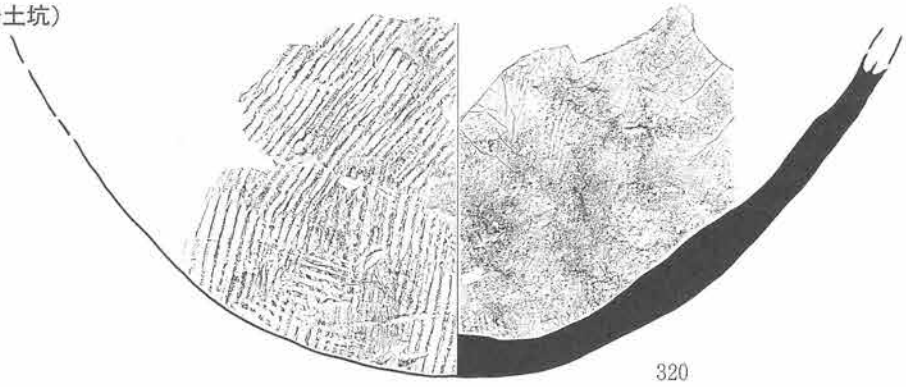



第151図　遺構内出土土器（40）



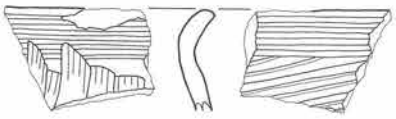

第152図　遺構内出土土器（41）

RD291（21号土坑）



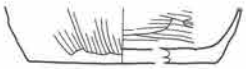
320

RD293（40号土坑）



321

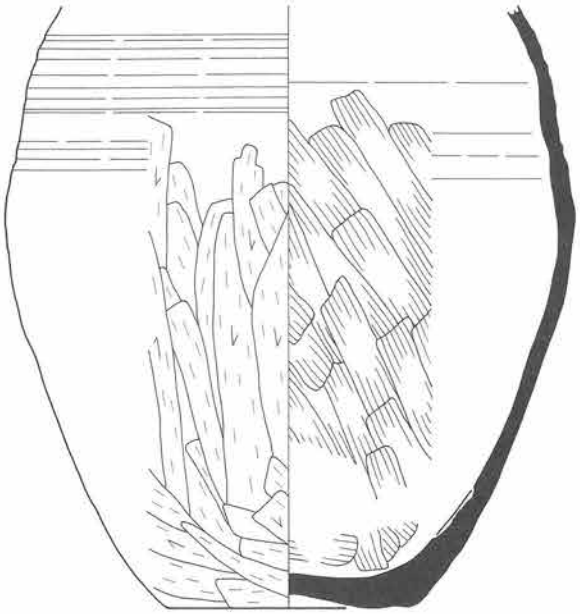
RD296（16号土坑）



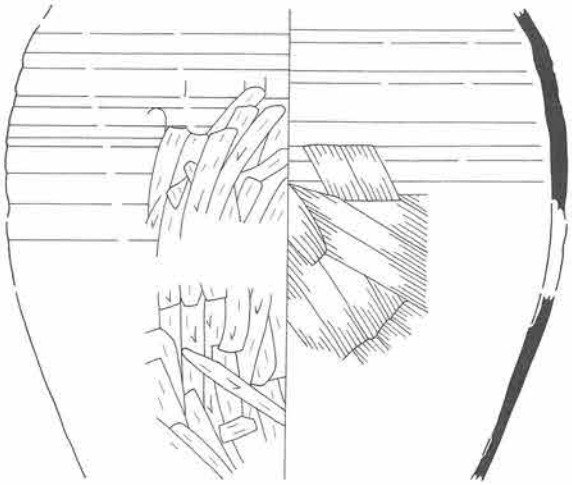
322

323

RD294（17号土坑）

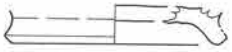


136

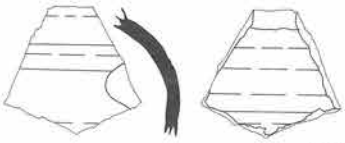


137

RD299（5号土坑）



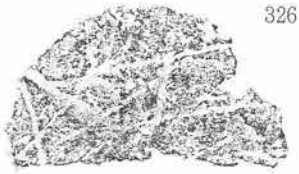
324

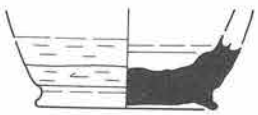


325

RD301（4号土坑）

326





327

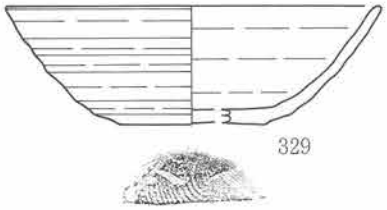
0　（1：3）　10cm

第153図　遺構内出土土器（42）

RD307（60号土坑）

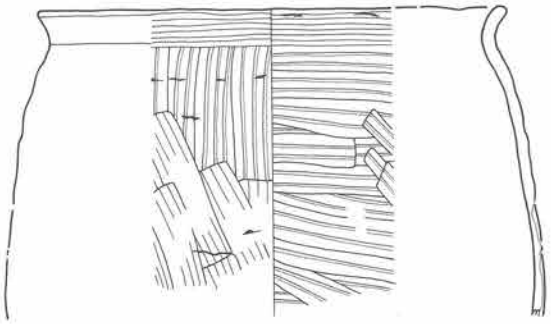
328

RD308（59号土坑）

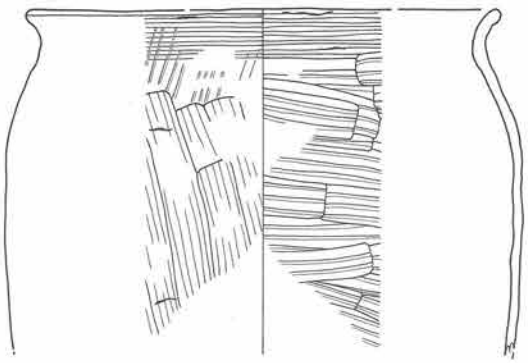


329

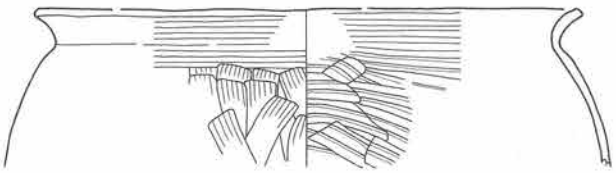
RD312（62号土坑）



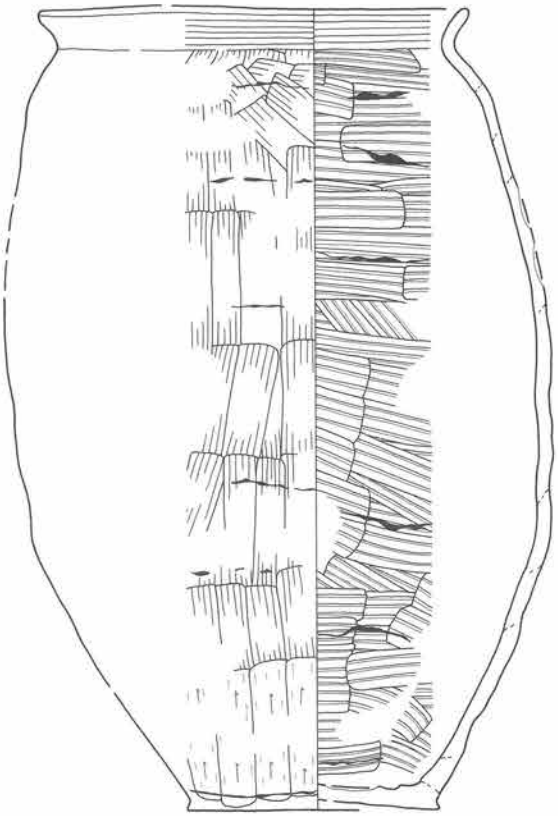
331



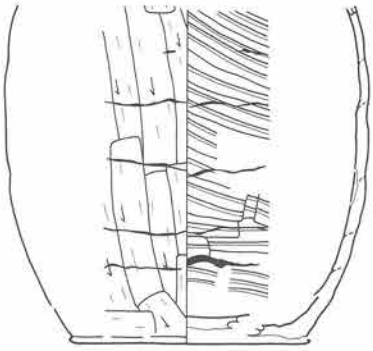
332



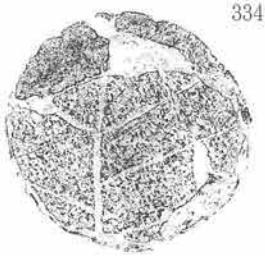
333



330

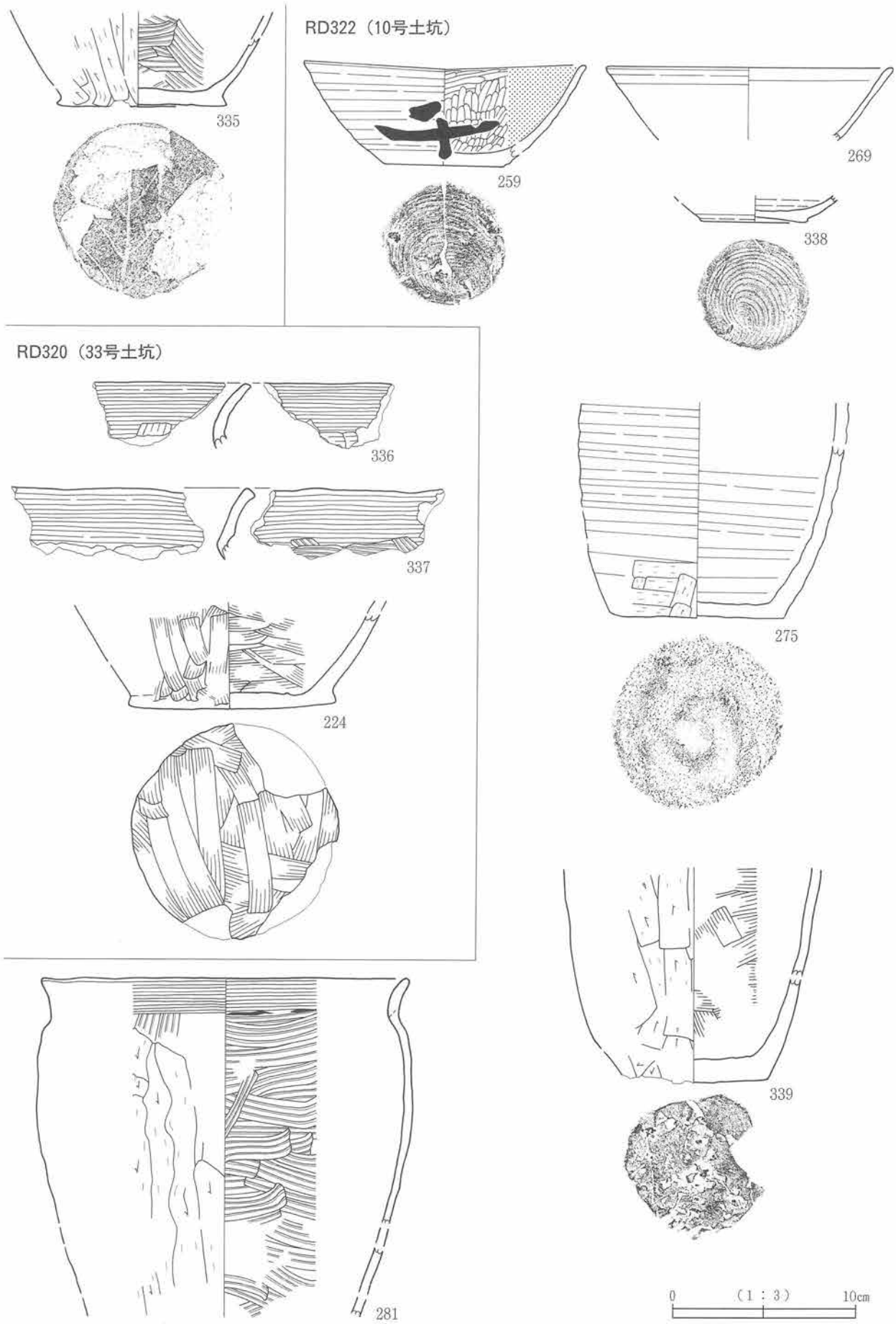


334



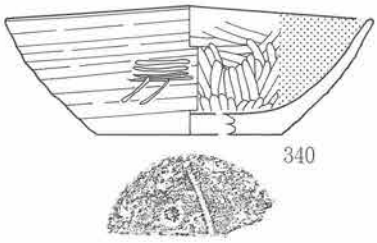
0　（1：3）　10cm

第154図　遺構内出土土器（43）

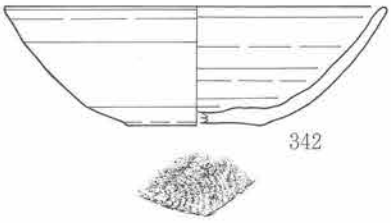



第155図　遺構内出土土器（44）

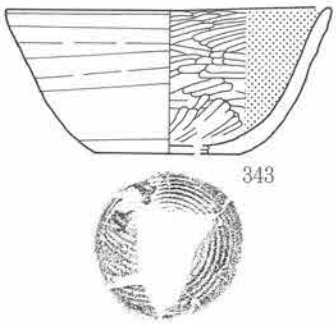
RE007（1号竪穴状遺構）

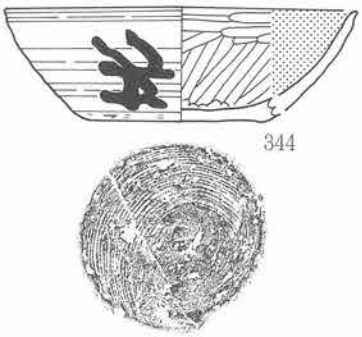


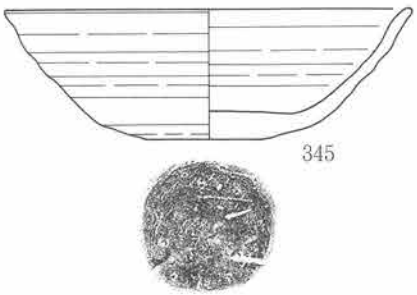
RG058（1号溝跡）

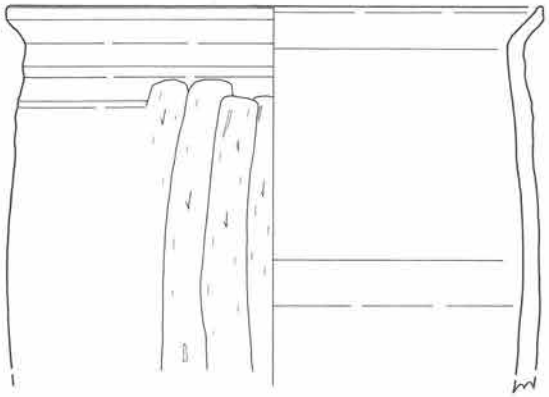


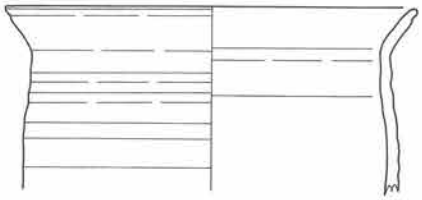

遺構外

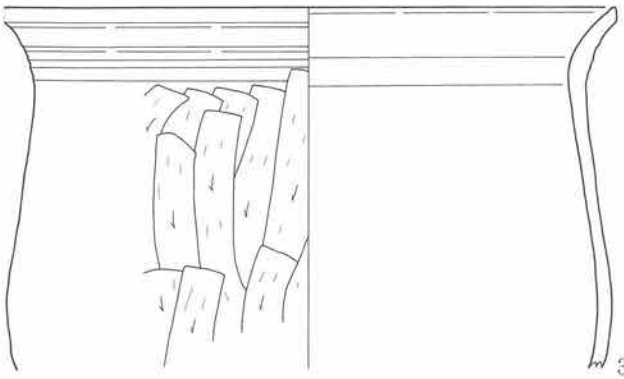


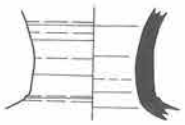



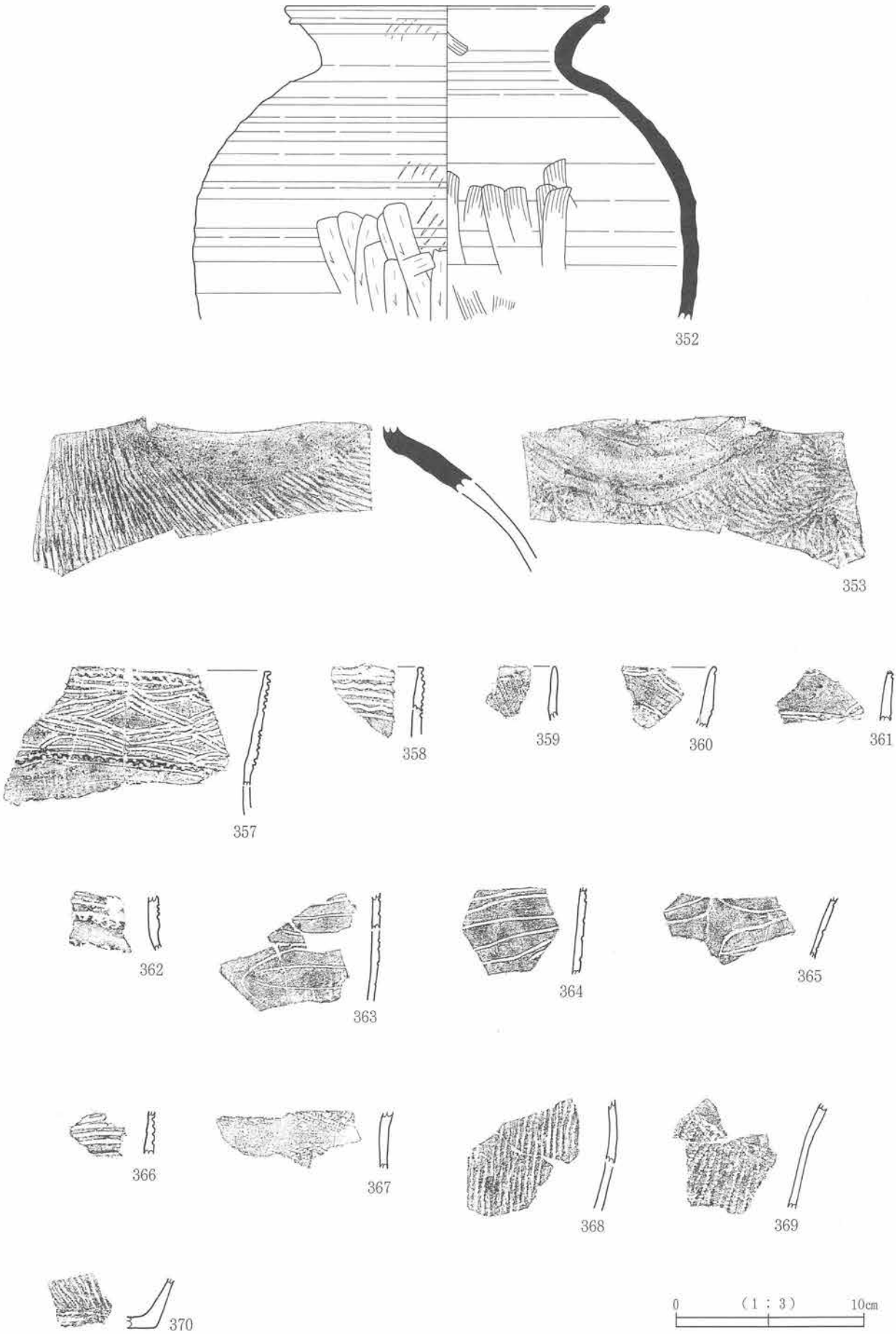





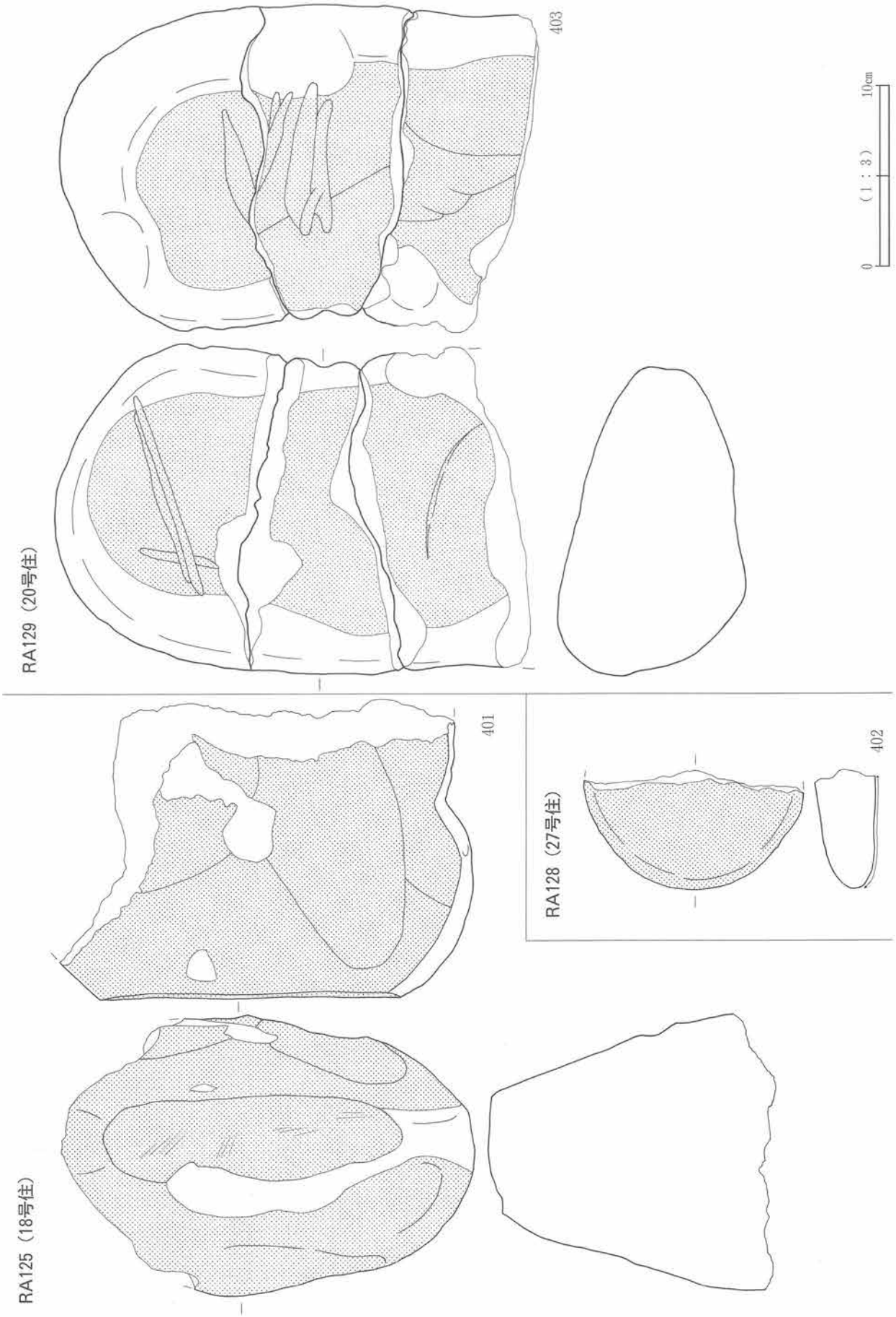



0　（1：3）　10cm

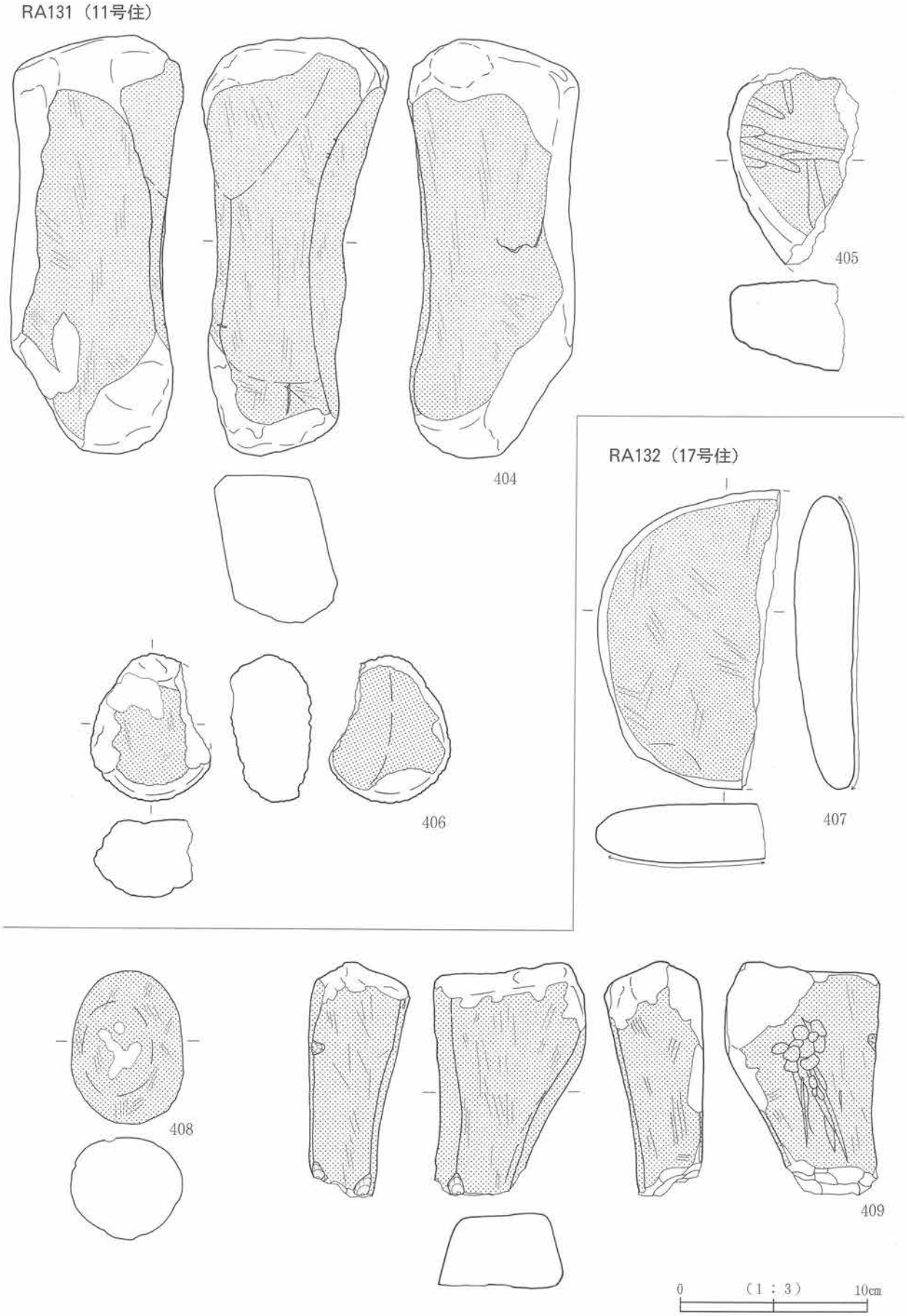
第156図　遺構内出土土器（45）・遺構外出土土器（1）



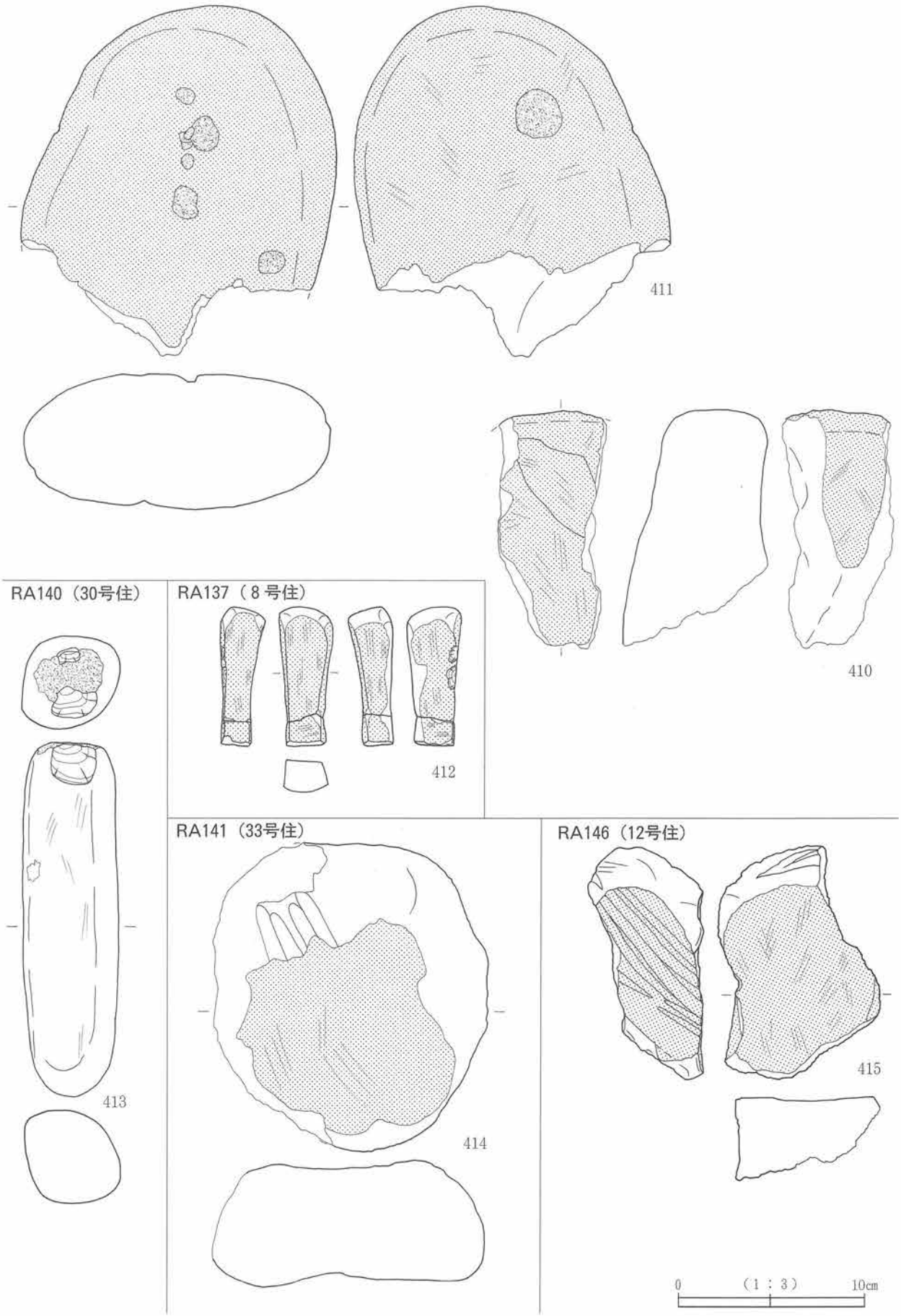

第157図　遺構外出土土器（2）



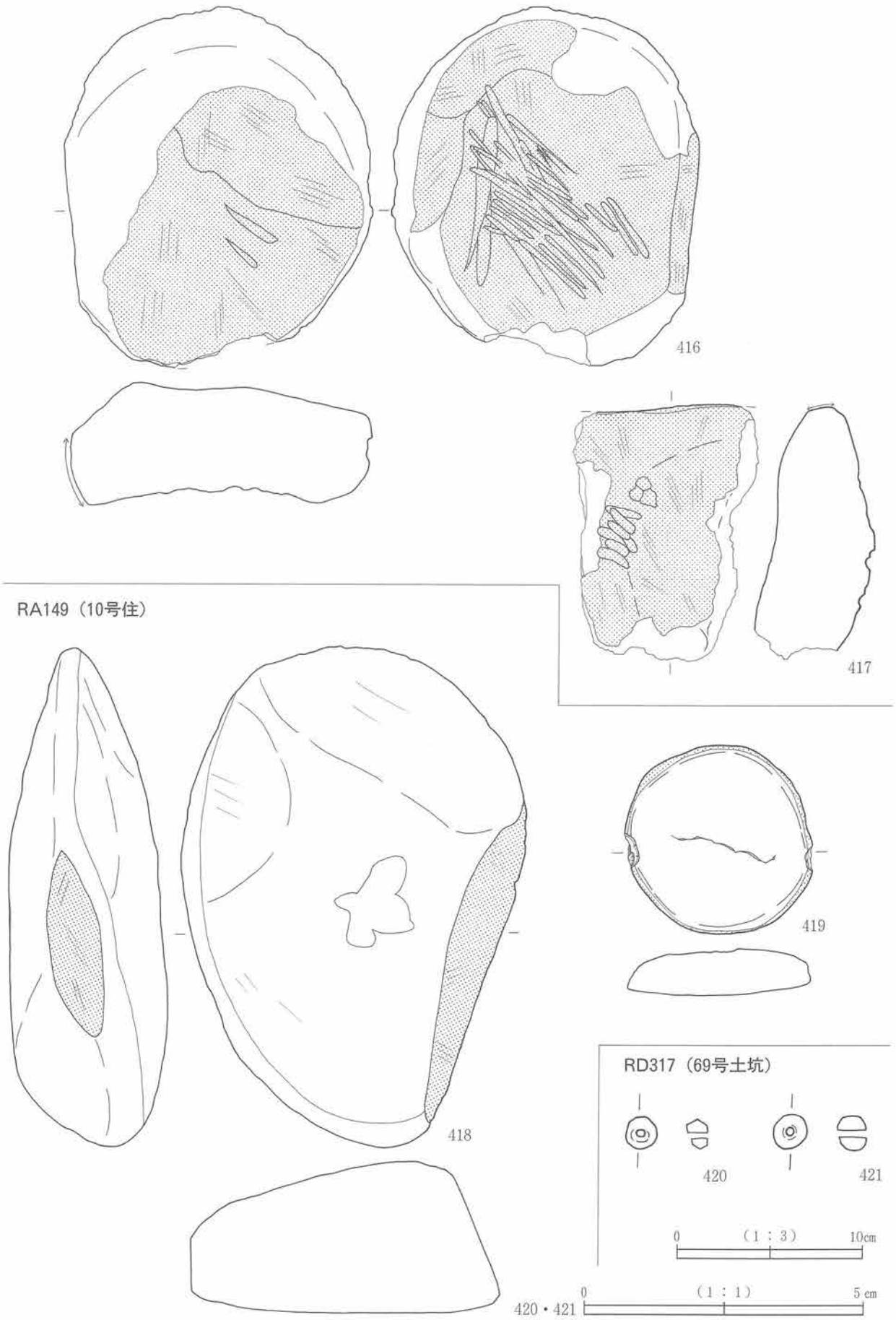

第158図　遺構内出土石器・石製品（1）



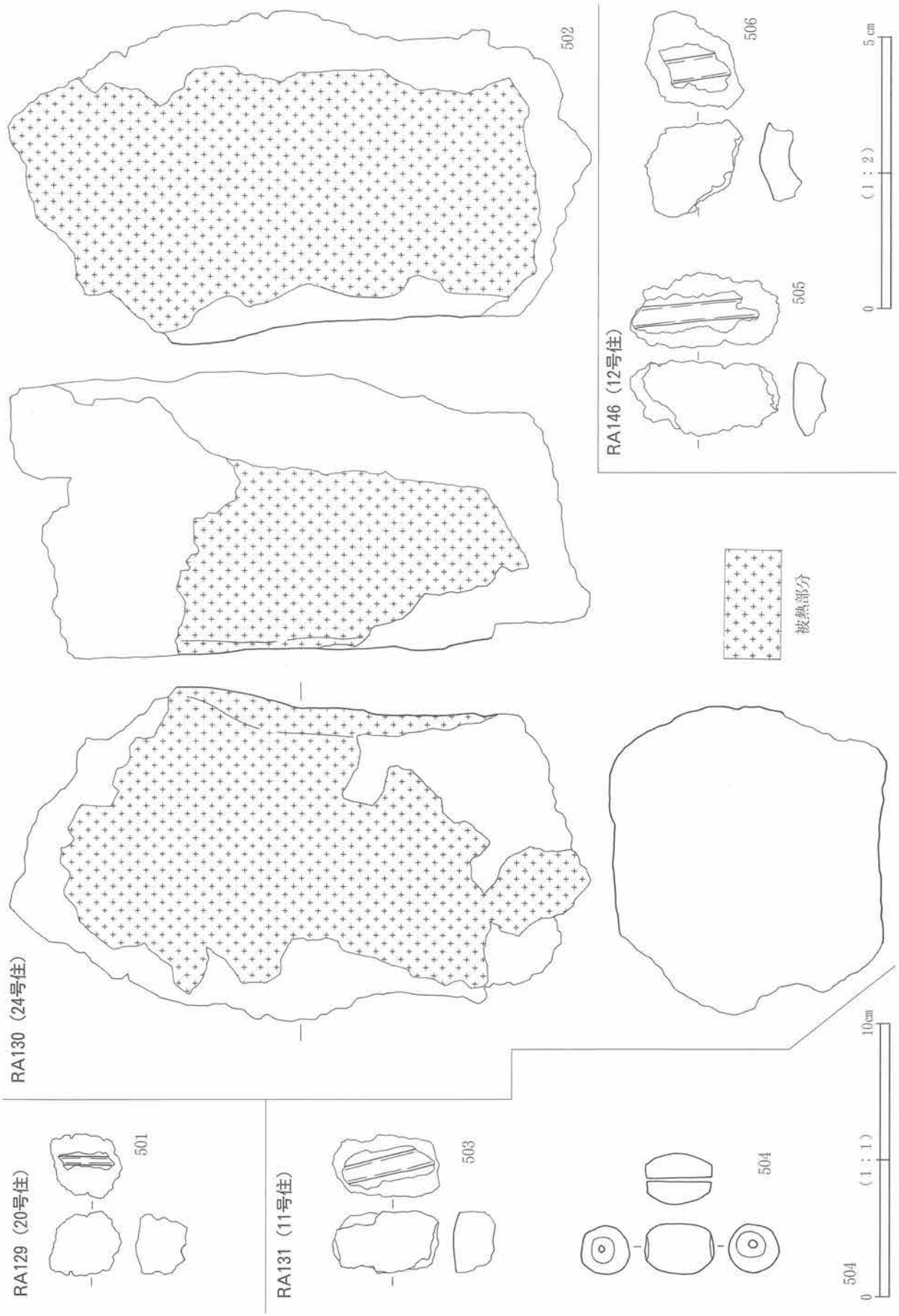

第159図　遺構内出土石器・石製品（2）



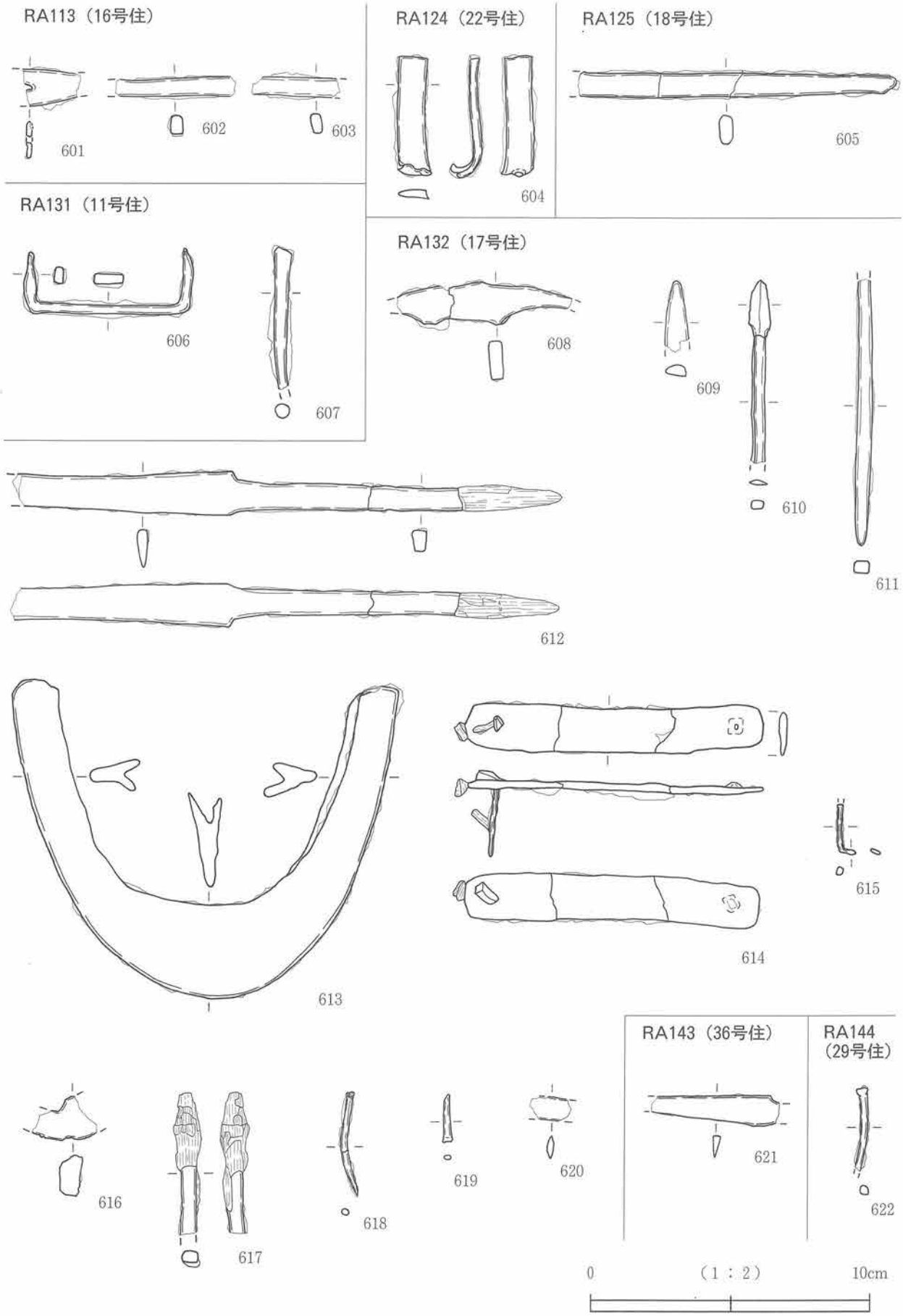

第160図　遺構内出土石器・石製品（3）




第161図　遺構内出土石器・石製品（4）・ガラス製品

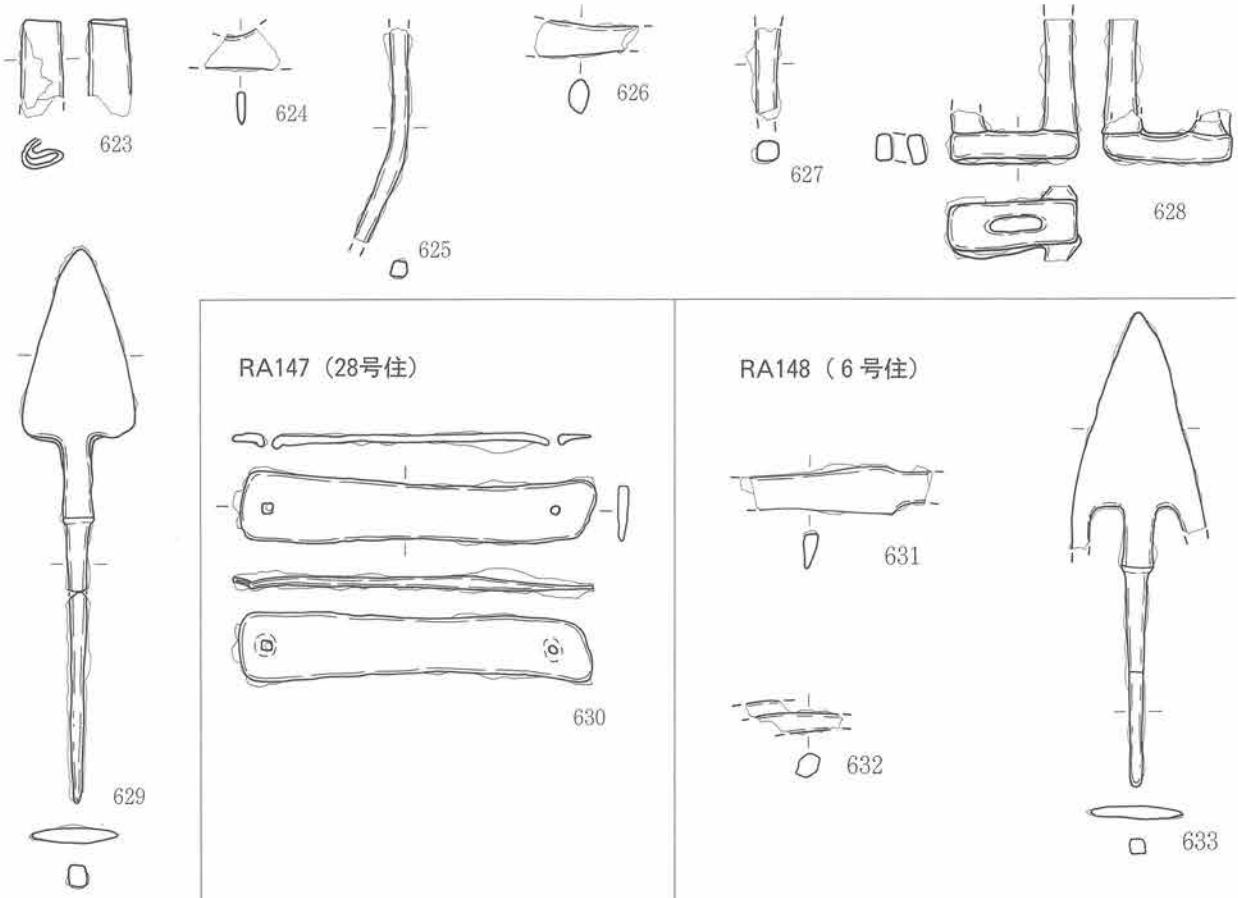



第162図　遺構内出土土製品

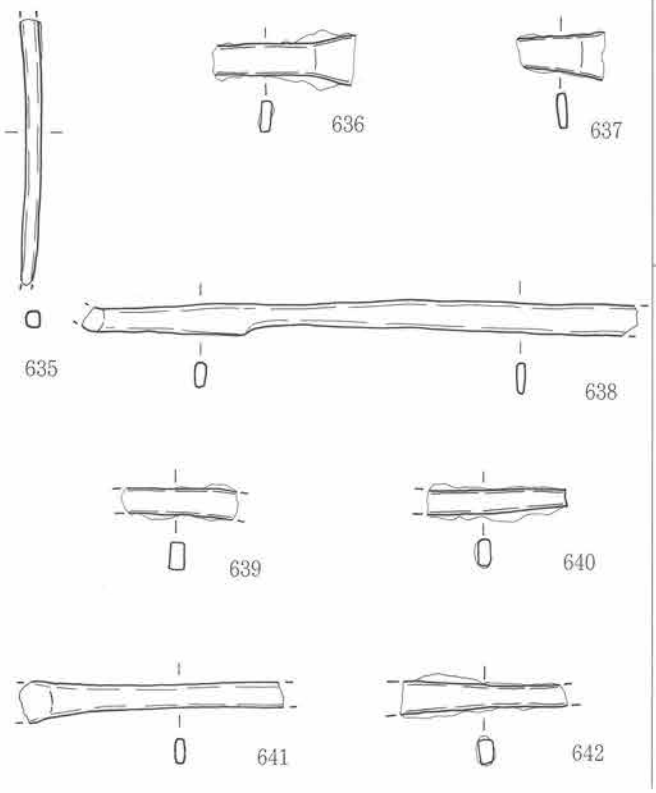



第163図　遺構内出土金属製品（1）

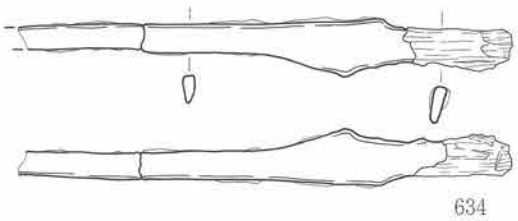
RA146（12号住）




RD317（69号土坑）




RA149（10号住）




RE007
（1号竪穴状遺構）

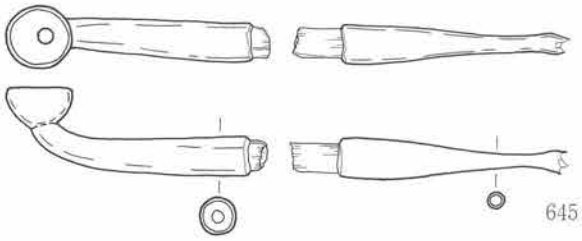
RD317
（69号土坑）

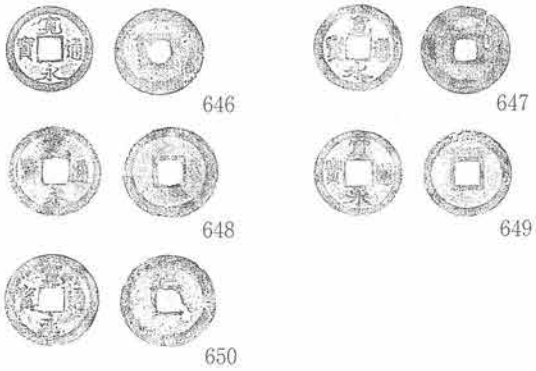
0　（1：2）　5 cm

0　（1：1）　10cm

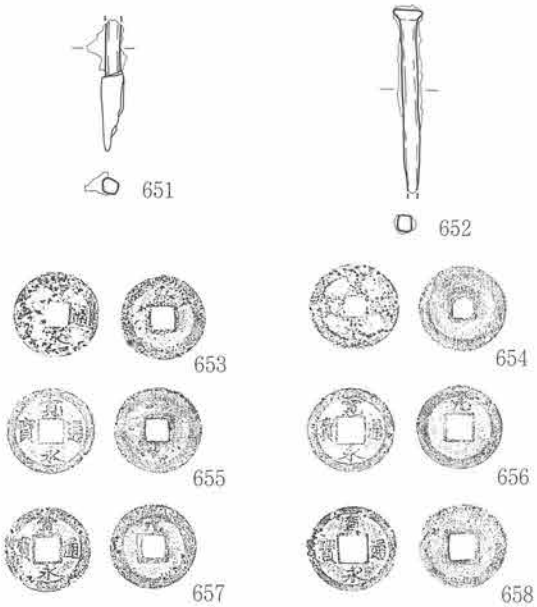
第164図　遺構内出土金属製品（2）

RD325（25号土坑）

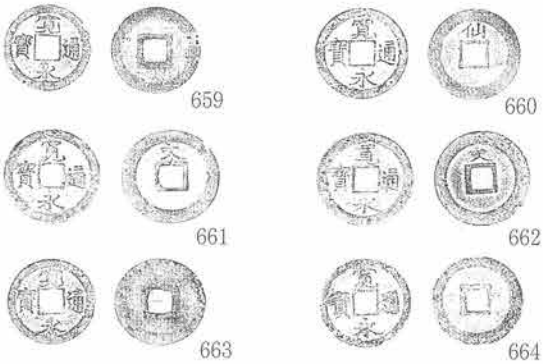


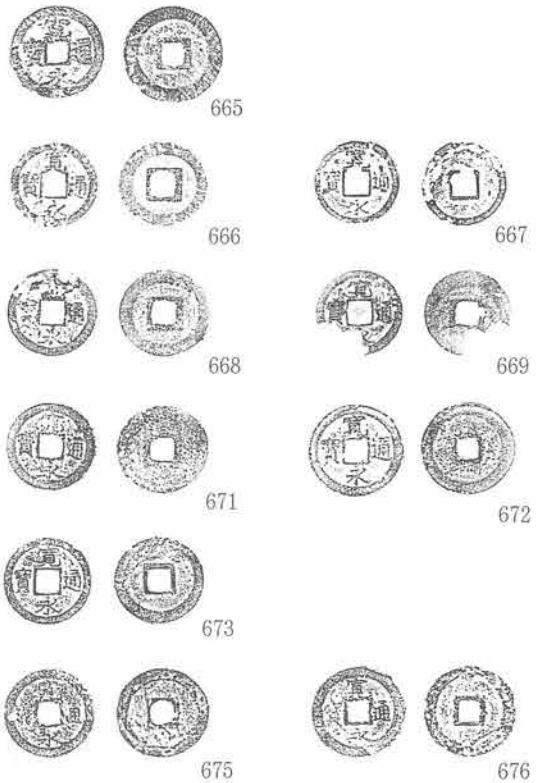

RD326（29号土坑）




RD328（32号土坑）



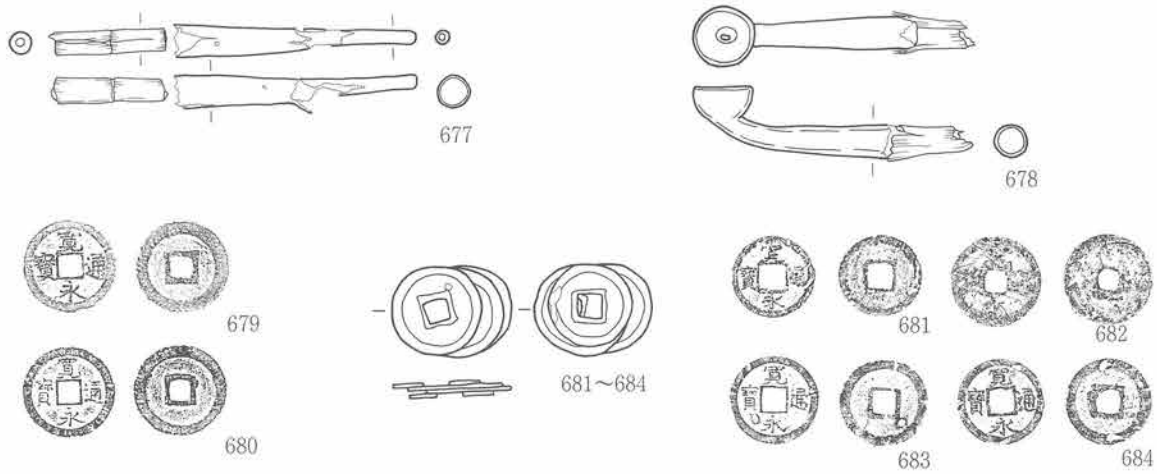

RD331（7号土坑）



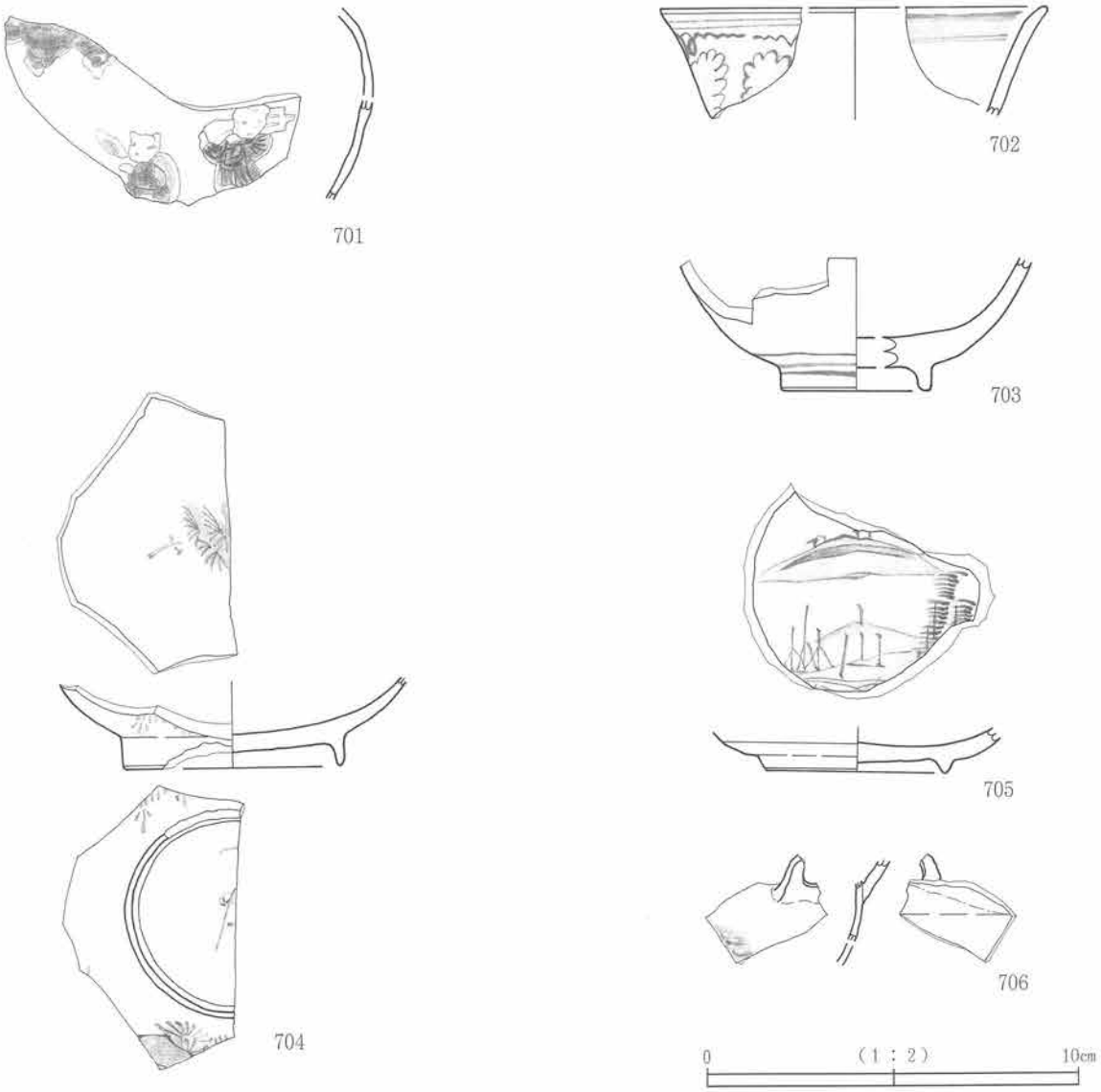
0 （1：2） 10cm

第165図　遺構内出土金属製品（3）（参考資料）

RD332（1号土坑）



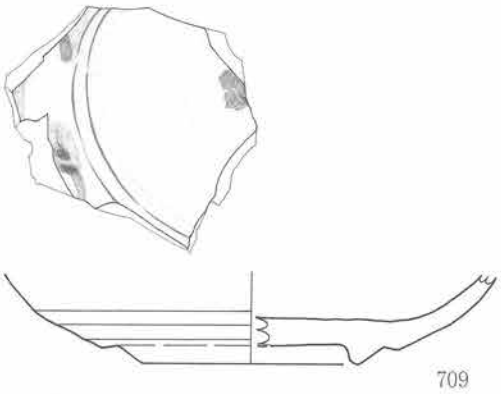

RG069（5号溝跡）



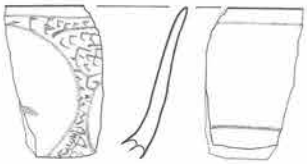

第166図　遺構内出土金属製品（4）（参考資料）・遺構内出土陶磁器（1）

707

708

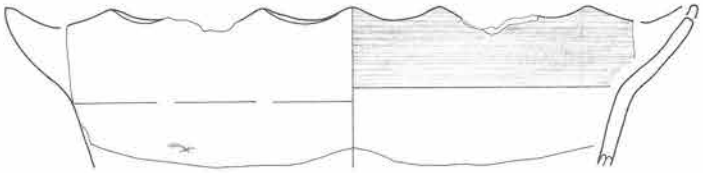


709

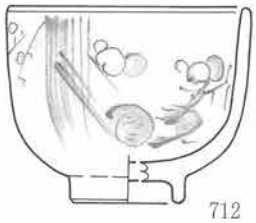


710

RG073（18号溝跡）

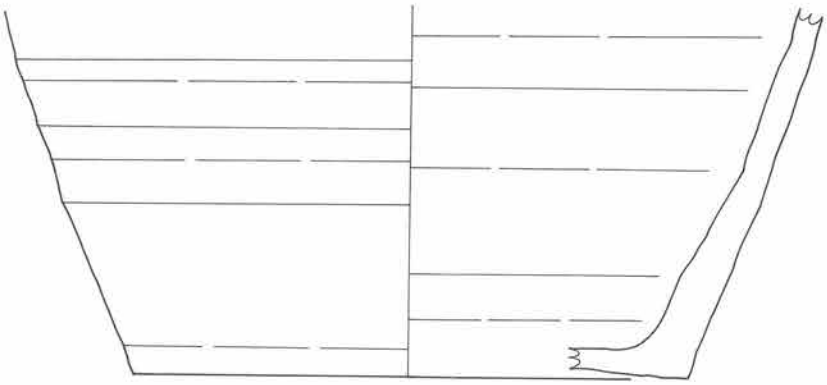


711

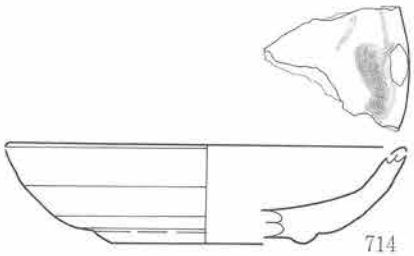


712

遺構外



713



714

0　（1：2）　10cm

第167図　遺構内出土陶磁器（2）・遺構外出土陶磁器

## 第11表　縄文土器・弥生土器観察表

| 掲載No. | 調査次数 | 出土地点・層位 | 時期 | 種別 | 器種 | 残存状況 | 文様・特徴 | 内面調整 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 354 | 14 | RA131の埋土中 | 縄文中期 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部片 | ヨコナデ | 口端内面に刻み目 | ※写真掲載のみ |
| 355 | 14 | RA122付近のカクラン | 縄文中期 | 縄文土器 | 深鉢 | 口縁部片 | ＬＲＬ縦回転 | | ※写真掲載のみ |
| 356 | 14 | RA123付近のカクラン | 弥生後期 | 弥生土器 | 鉢？ | 胴部片 | ＲＬ横回転 | ヨコナデ | ※写真掲載のみ |
| 357 | 14 | 沢跡 c-c' ベルト 3ａ層・3ｂ層/5M22m 沢跡 Ⅱb層/10次678（RF004周辺） | 弥生後期 | 弥生土器 | 鉢 | 口縁部片 | 交互刺突文、沈線文 | ヨコナデ（棒状工具による） | ※10次調査No.678と接合 |
| 358 | 14 | 沢跡 c-c' ベルト 3ａ層 | 弥生後期 | 弥生土器 | 鉢 | 口縁部片 | 沈線文 | ヨコナデ | |
| 359 | 14 | 5M22m 沢跡 トレンチ Ⅱb層 | 弥生後期 | 弥生土器 | 鉢 | 口縁部片 | ＲＬ縦回転 | ヨコナデ | |
| 360 | 14 | 沢跡(5M20l) 3層 | 弥生後期 | 弥生土器 | 鉢？ | 口縁部片 | 沈線文 | | 361と同一v個体 |
| 361 | 14 | 沢跡(5M20l) 1層 | 弥生後期 | 弥生土器 | 鉢？ | 口縁部片 | 沈線文 | | 360と同一個体 |
| 362 | 14 | 沢跡 c-c' ベルト 3ａ層 | 弥生後期？ | 弥生土器 | 鉢 | 胴部片 | 刺突文、沈線文 | ヨコナデ | |
| 363 | 14 | 沢跡 c-c' ベルト 3ａ層 | 弥生後期 | 弥生土器 | 鉢 | 胴部片 | 沈線文、RL斜位 | ヨコナデ | 364・365と同一個体 |
| 364 | 14 | 沢跡 c-c' ベルト 3ａ層 | 弥生後期 | 弥生土器 | 鉢 | 胴部片 | 沈線文 | ヨコナデ | 363・365と同一個体 |
| 365 | 14 | 沢跡 c-c' 3ｂ層 | 弥生後期 | 弥生土器 | 鉢 | 胴部片 | 沈線文 | ヨコナデ | 363・364と同一個体 |
| 366 | 14 | 沢跡 c-c' ベルト 3層下位 | 弥生前期？ | 弥生土器 | 浅鉢？ | 胴部片 | 変形工字文 | | |
| 367 | 14 | 沢跡 c-c' ベルト 3ａ層 | 弥生後期 | 弥生土器 | 鉢 | 胴部片 | ＲＬ横回転 | ヨコナデ | |
| 368 | 14 | 沢跡 c-c' ベルト 3ａ層 | 弥生後期？ | 弥生土器 | 鉢？ | 胴部片 | ＲＬ横回転 | | |
| 369 | 14 | 沢跡 c-c' ベルト 3ａ層/5M22m 沢跡 トレンチ 3ｂ層 | 弥生後期 | 弥生土器 | 鉢 | 胴部片 | ＲＬ斜回転 | ヨコナデ | |
| 370 | 14 | 沢跡(5M21m) 3層 | 弥生後期 | 弥生土器 | 鉢 | 胴～底部 | ＲＬ横回転 | ヨコナデ | ミニチュア？ |

## 第12表　土師器・須恵器観察表

| No. | 仮No. | 調査次数 | 出土地点・層位 | 出土地点1 | 時期 | 種別 | 器種 | 黒色処理 | 口径 | 底径 | 器高 | 内面調整 | 外面調整 | 底面調整 | 残存状況 | 特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 仮321 | 13 | RA074 | Q1 1層 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | － | 6.8 | 〈1.8〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部のみ | |
| 2 | 仮320 | 13 | RA074 | Q3 トレンチ/Q4 2層 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | － | 6.0 | 〈5.8〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/4 | |
| 3 | 仮319 | 13 | RA074 | Q4 2層・トレンチ/埋土下位/カマド上の埋土下位 | 平安 | 須恵器 | 坏 | － | 15.0 | 6.0 | 4.6 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 4/5 | |
| 4 | 仮322 | 13 | RA074 | 壁際の撹乱 | 平安 | 土師器 | 高台付坏 | 内面 | － | 7.8 | 〈2.0〉 | ミガキ | ロクロナデ | ロクロナデ | 高台部のみ | |
| 5 | 仮323 | 13 | RA117・RA074 | 4L撹乱/RA117 B-B'ベルト 2層/RA074 Q4 トレンチ・煙出埋土・埋土下位 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (29.2) | － | 〈19.7〉 | ロクロナデ | ロクロナデ→胴 ヘラケズリ | － | 口～胴部破片 | |
| 6 | 仮259 | 14 | RA113 | カマド燃焼部直上 上器5 | 奈良 | 土師器 | 高坏 | － | － | (7.4) | 〈2.6〉 | ナデ | ケズリ→ナデ | | 脚部 | |
| 7 | 仮261 | 14 | RA113 | 3層 Q5 | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | － | 〈7.0〉 | 〈9.1〉 | ハケメ | ハケメ | 木葉痕(折本) | 胴～底部 | |
| 8 | 仮260 | 14 | RA113・132 | RA113左袖下 上器5/RA132 柱穴5 埋土 | 奈良 | 土師器 | 鉢 | 内面 | (15.6) | － | 〈9.7〉 | ヘラミガキ | ヘラミガキ | － | 口～胴部 | ※器種は要検討 |
| 9 | 仮1 | 13 | RA114 | Q4 2層(カマド周辺)・2層 | 奈良 | 土師器 | 坏 | 内面 | 11.0 | 5.5 | 7.2 | ヘラミガキ | 口～胴部：ヘラミガキ 胴～底部：ヘラナデ | ヘラナデ | 略完形 | 非ロクロ |
| 10 | 仮2 | 13 | RA114 | 床直(一括土器)/中央付近床直(一括土器1)/Q4 埋上中～下位・2層・2層下位 | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | 15.9 | 7.4 | 18.1 | 口：ヨコナデ→ハケメ 胴：ハケメ | 口：ヨコナデ 胴：ハケメ | ナデ | 略完形 | |
| 11 | 仮4 | 13 | RA114 | 床直(一括土器)/中央付近床直(一括土器1)/Q4 2層(カマド周辺)・2層下位・床直 | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | (18.9) | 〈8.4〉 | (31.0) | 口：ヨコナデ→ハケメ 胴：ハケメ | 口：ヨコナデ→ハケメ 胴：ハケメ | ハケメ→ミガキ | 略完形(3/4) | |
| 12 | 仮5 | 13 | RA114 | 床直(一括土器)/カマド煙道部埋土/中央付近床直(一括土器1)/カマド付近床直(一括土器3)/Q1 2層/Q2 2層/Q4 2層カマド周辺・2層下位 | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | (20.6) | (8.2) | 30.6 | 口：ヨコナデ 胴：ハケメ | 口：ヨコナデ 胴：ヘラナデ | ナデ | 略完形 | 細片で出土した破片が接合 |
| 13 | 仮3 | 13 | RA114 | Q2 5層/Q3 2層・3層南壁際・5層/Q4 2層下位 | 奈良 | 土師器 | 球胴甕 | － | － | 7.4 | 〈26.7〉 | ハケメ | ハケメ | ミガキ | 1/2完形 | ※底面はやや上げ底 |
| 14 | 仮7 | 14 | RA115 | Q2 2層・壁際2～2a層/Q3 床面一括土器1 | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | 13.2 | 6.6 | 17.6 | 口：ヨコナデ 胴：ヘラナデ | 口：ヨコナデ 胴：ヘラナデ | 木葉痕 | 略完形(3/4) | 外面胴部はタテのヘラナデ |
| 15 | 仮8 | 14 | RA115 | Q3 2層・3層・カマド袖上(埋土中) | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | － | 7.3 | 8.3 | ヘラナデ | ヘラナデ | 木葉痕 | 胴部下半～底部 | |
| 16 | 仮10 | 14 | RA115 | 2号住 Q3 3層(床直) | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | － | 7.9 | － | | ヘラナデ | 木葉痕 | 底部 | |
| 17 | 仮11 | 14 | RA115 | Q3 床面(一括土器1) | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | － | 16.7 | (8.6) | 22.9 | 口：ヨコナデ 胴：ヘラナデ | 口：ヨコナデ 胴：ヘラナデ | 木葉痕 | 略完形 |
| 18 | 仮9 | 14 | RA115 | Q2 床面(一括土器2)・2層(一括土器)/B-B'ベルト3層(南壁側) | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | 19.2 | － | 25.4 | 口：ヨコナデ 胴：ハケメ | 口：ヨコナデ 胴：ヘラナデ | － | 口～胴部下半 | ※口縁部は強く外反する器形 |
| 19 | 仮329 | 13 | RA116 | 埋上下層(床より5cm上)土器1 | 奈良 | 土師器 | 高坏 | 内面 | 11.6 | 7.7 | 6.8 | ヘラミガキ | 口：ヨコナデ 胴：ヘラミガキ 台：ハケメ→ヨコナデ | ナデ | 略完形 | |
| 20 | 仮330 | 13 | RA116 | 埋上下層(床より2cm上)土器3 | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | 12.4 | 10.3 | 8.4 | ハケメ→ヘラナデ | ハケメ | － | 略完形 | ※後日底部写真撮影する2月20日 |
| 21 | 仮328 | 13 | RA116 | 埋上下層(床より3cm上)土器2 | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | 12.5 | － | 〈11.7〉 | 口：ヨコナデ 胴：ハケメ | 口：ヨコナデ 胴：ハケメ | － | 口～胴部(3/4) | 胎土中に砂粒多量混入 |
| 22 | 仮291 | 13 | RA117 | Q1 1層/Q2 1層/カマド袖内 | 奈良 | 土師器 | 坏 | 内面 | (16.2) | (8.8) | 〈6.5〉 | ヘラミガキ | ヘラケズリ→ヘラミガキ | ヘラミガキ | 1/3完形 | 非ロクロ |
| 23 | 仮294 | 13 | RA117・RA141 | RA117 Q1 1層/A-A'ベルト 1層/カマド 袖内/RA141 検出面 | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | 15.2 | 6.6 | 14.8 | 口：ヨコナデ 胴：ハケメ | 口：ヨコナデ 胴：ハケメ | ナデ | 略完形(4/5) | 内面口～胴部上半煤微量付着 |
| 24 | 仮295 | 13 | RA117 | Q3 1層 | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | 〈18.2〉 | (7.6) | 〈32.1〉 | 口：ヨコナデ 胴：ヘラナデ | 口：ヨコナデ 胴：ヘラケズリ→ハケメ | ナデ、一部欠損 | 略完形(4/5) | |
| 25 | 仮12 | 14 | RA118 | カマド内埋上 上器29/Q4 埋上最下層上器30 | 奈良 | 土師器 | 坏 | 内面 | 11.2 | 4.0 | 3.5 | ヘラミガキ | ヘラナデ | ヘラナデ | 略完形 | 非ロクロ |
| 26 | 仮13 | 14 | RA118 | 支脚 土器33 | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | 15.1 | 7.1 | 13.1 | 口：ヨコナデ 胴：ヘラナデ | 口：ヨコナデ 胴：ハケメ | ハケメ→ナデ | 略完形 | 内面煤微量付着 |
| 27 | 仮14 | 14 | RA118 | Q1 2層/カマド埋上/カマド埋上土器19 | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | 2.5 | 7.3 | 12.3 | 口：ヨコナデ 胴：ヘラミガキ、ヘラナデ | 口：ヨコナデ 胴：ヘラナデ | ナデ | 1/3完形 | 胎土に径1mm程の礫多量混入 |
| 28 | 仮16 | 14 | RA118 | Q1 埋上/カマド埋上土器13・16/カマド前埋上下位土器10・11・12・26/カマド右袖土器34/カマド左袖土器35 | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | 20.2 | 8.7 | 32.1 | 口：ヨコナデ 胴：ヘラナデ | 口：ヨコナデ 胴：ヘラケズリ→ヘラナデ | 粗雑なナデ | 略完形 | |
| 29 | 仮17 | 14 | RA118 | Q1 埋上/カマド埋上上器22・19・20・21・18・24・25/カマド前埋上下位土器23・27/カマド左袖土器35 | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | 18.4 | 7.6 | 31.5 | 口：ヨコナデ 胴：ハケメ | 口：ミガキ→ヨコナデ 胴：ヘラケズリ→ヘラミガキ | ナデ(粗雑) | 略完形 | |
| 30 | 仮18 | 14 | RA118 | Q2 2層・3層・5層/5層上器6/床直上器31/上器1/4層上器2/4層上器5 | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | 19.2 | (7.7) | 28.6 | 口：ヨコナデ 胴：ハケメ | 口：ヨコナデ 胴：ヘラナデ | 欠損 | 略完形(4/5) | 胴部上半に剥落有り |

| No. | 仮No. | 調査次数 | 出土地点・層位 | 出土地点1 | 時期 | 種別 | 器種 | 黒色処理 | 口径 | 底径 | 器高 | 内面調整 | 外面調整 | 底面調整 | 残存状況 | 特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 31 | 仮15 | 14 | RA118 | Q1 トレンチ埋上/5層 土器6・土器8/床直土器21・土器32 | 奈良 | 土師器 | 球胴甕 | － | 17.0 | － | 〈21.6〉 | 口：ヨコナデ 胴：ハケメ | 口：ヨコナデ 胴：ハケメ | 欠損 | 略完形 | |
| 32 | 仮265 | 14 | RA119 | 26号住 Q4 黒褐色土/Q3 2層(黒色土) | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | (13.2) | － | 〈4.9〉 | 口：ヨコナデ→ヘラミガキ 胴：ヘラミガキ | 口：ヨコナデ→ヘラミガキ 胴：ヘラミガキ | － | 口～胴部上半 | |
| 33 | 仮263 | 14 | RA119 | カマド袖東側袖内 土器2・5 | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | 18.0 | (7.8) | 30.6 | 口：ヨコナデ 胴：ハケメ | 口：ハケメ→ヨコナデ 胴：ハケメ | ナデ | 略完形(4/5) | |
| 34 | 仮264 | 14 | RA119 | Q4 1層・2層/1層/カマド西側袖内 土器1/カマド袖上器4 | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | 19.8 | (7.7) | 34.5 | 口：ヨコナデ 胴：ヘラナデ、ハケメ | 口：ハケメ→ヨコナデ 胴：ハケメ | 木葉痕 | 略完形(4/5以上) | 胎土中に砂粒多量混入 |
| 35 | 仮266 | 14 | RA119 | カマド袖西側袖内 土器1/カマド東袖内 土器6/カマド9層 | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | － | 8.1 | 〈19.7〉 | ハケメ | ヘラケズリ→ハケメ | ナデ | 胴～底部(1/4) | |
| 36 | 仮267 | 14 | RA119 | 中央やや南1層 土器3/2層中/Q3 1層/中央付近1層 土器1 | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | － | 〈13.0〉 | 〈9.0〉 | ハケメ | ヘラナデ→ヘラケズリ | 木葉痕 | 胴下半～底部 | |
| 37 | 仮315 | 14 | RA120 | 埋土中 | 奈良 | 土師器 | 坏 | 内面 | (14.6) | － | 〈4.8〉 | ヘラミガキ | ヘラミガキ→ヨコナデ | | 口～胴部破片 | 非ロクロ、胴部に段有り |
| 38 | 仮326 | 14 | RA140・RA120 | /RA120 埋土中・カマド周辺床直/RA140 2号カマド埋土下位 | 奈良 | 土師器 | 甕 | － | … | 〈7.5〉 | 〈10.1〉 | ハケメ | ハケメ | ナデ | 胴部下半～底部 | 内面煤微量付着 |
| 39 | 仮134 | 13 | RA121 | 東壁際埋上下位(3層) | 平安 | 土師器 | 坏 | 内外 | － | － | 〈3.7〉 | ミガキ | ミガキ | － | 胴部破片 | 135と同一個体 |
| 40 | 仮352 | 13 | RA121 | 4層 | 平安 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | 〈7.5〉 | ハケメ | タタキ | － | 胴部下端破片 | |
| 41 | 仮136 | 13 | RA122 | カマド支脚 ※土器1 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | 11.2 | 5.6 | 4.8 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ほぼ完形 | |
| 42 | 仮137 | 13 | RA122 | Q2 1層 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (14.1) | 6.0 | 5.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 2/3 | |
| 43 | 仮138 | 13 | RA122 | Q1 1層/カマド燃焼部動いた焼土内/RA122を切る撹乱 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | … | (5.6) | 〈1.5〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部破片 | |
| 44 | 仮139 | 13 | RA122・RA123 | RA122 カマド燃焼部上/RA123 カマド袖付近 埋土中 | 平安 | 土師器 | 高台付坏 | － | … | 8.4 | 〈2.8〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 高台部のみ | |
| 45 | 仮140 | 13 | RA122・RA123 | RA122 カマド燃焼部上/RA123 カマド袖付近 埋土中 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (17.8) | － | 〈16.7〉 | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ | 口 ヨコナデ 胴ケズリ | － | 口～胴部破片 | 内面一部にスス |
| 46 | 仮144 | 14 | RA123 | RA123 カマド袖付近 埋土中 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | － | 5.9 | 〈1.0〉 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部破片 | |
| 47 | 仮141 | 14 | RA123 | RA123 Q3 南壁際上・上器1 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (14.8) | (6.0) | 5.2 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 2/5 | |
| 48 | 仮143 | 14 | RA123 | RA123 カマド袖付近 埋土中/Q2 床面直上 | 平安 | 土師器 | 坏 | … | － | (6.6) | 〈1.7〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 胴～底部破片 | |
| 49 | 仮142 | 14 | RA123 | RA123 Q1 東壁際上/カマド2 カマド埋土 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | … | 5.4 | 〈2.9〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 胴～底部破片 | |
| 50 | 仮147 | 14 | RA125 | RA125 Q2 埋土上層/カマド右脇下層 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (13.9) | (7.0) | 4.8 | ミガキ | ロクロナデ 胴下端手持ちヘラケズリ | 手持ちヘラケズリ | 1/5 | |
| 51 | 仮148 | 14 | RA125 | RA125 Q1 カマド前埋土中位 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | － | 6.0 | 〈1.9〉 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部 | |
| 52 | 仮146 | 14 | RA125 | RA125 燃焼面直上 土器2/カマド右袖脇埋上下位上器1/カマド埋上 上器5/旧カマド構築土(左袖)土器6 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (15.0) | 6.6 | 5.7 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 3/4 | |
| 53 | 仮149 | 14 | RA125 | RA125 カマド内(床直上) 土器4 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | 15.3 | (9.2) | 25.2 | ロクロナデ ナデ | ロクロナデ 胴部下半ケズリ | ナデか | 底部を除きほぼ完形 | |
| 54 | 仮156 | 14 | RA126 | RA126 Q1 2層上位 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | － | 6.2 | 〈1.5〉 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部破片 | |
| 55 | 仮157 | 14 | RA126 | RA126 Q1 2層上位 | 平安 | 土師器 | 高台付坏 | ? | － | 8.0 | 〈1.5〉 | ミガキ | ロクロナデ | 菊花状 | 高台部のみ | |
| 56 | 仮364 | 14 | RA126・RA064・RA065 | RA126 埋土下位 上器6/カマド左袖 土器25/カマド埋土 土器18/RA064 埋土下位/RA065 南側埋土上位 | 平安 | 須恵器 | 甕 | … | － | － | － | あて具 | タタキ | … | 胴部破片 | 360と同一？ |
| 57 | 仮158 | 14 | RA126 | RA126 Q1 2層中位・2層上位・カマド崩壊土・カマド崩壊土上土器5/煙出2層 | 平安 | 土師器 | 甕 | … | (20.6) | (13.6) | 31.1 | 口 ヨコナデ 胴上半ハケメ 下半 ナデ | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ ナデ 下端 ケズリ | 木葉痕 | 1/3 | |
| 58 | 仮194 | 14 | RA127 | 煙出部 埋土中・カマド上部 土器2・3/カマド上位 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (13.9) | 4.8 | 5.1 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/2 | |
| 59 | 仮196 | 14 | RA127 | RA127 Q1 北壁際上・カマド上部 土器5・6 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (16.6) | － | 〈4.4〉 | ミガキ | ロクロナデ | － | 底部を除き1/3 | |
| 60 | 仮197 | 14 | RA127 | カマド 土器9 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | － | (5.4) | 〈2.7〉 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部破片 | 底部に刻線あり |
| 61 | 仮198 | 14 | RA127 | Q1 1層/カマド上部 土器6 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面? | － | 5.8 | 〈1.9〉 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部破片 | 被熱？黒色処理が飛んでいる |
| 62 | 仮199 | 14 | RA127 | カマド周辺 カマド上位 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | … | (5.3) | 〈2.3〉 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部破片 | |
| 63 | 仮200 | 14 | RA127 | カマド周辺 カマド上位 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面? | － | (5.4) | 〈1.7〉 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部破片 | 被熱？黒色処理が飛んでいる |
| 64 | 仮195 | 14 | RA127 | カマド崩落上・カマド上部上器2・カマド上位 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (14.1) | (5.4) | 4.8 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/3 | 内面にスス少量 |
| 65 | 仮193 | 14 | RA127 | カマド 土器8・10/カマド上部 土器5 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (14.2) | (5.6) | 5.1 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 2/3 | |
| 66 | 仮201 | 14 | RA127 | Q2 1層上位 | 平安 | 土師器 | 坏 | … | － | (5.6) | 〈1.5〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部破片 | |
| 67 | 仮202 | 14 | RA127 | Q4 1層 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | － | － | 〈2.8〉 | ミガキ | ロクロナデ | － | 胴部破片 | 側面に墨痕あり |
| 68 | 仮203 | 14 | RA127 | カマド脇(北側) 床面直上/カマド袖12層 土器1 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | － | － | 〈4.2〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | 胴部破片 | 側面に刻線あり |
| 69 | 仮207 | 14 | RA127 | カマド上部 土器5・カマド上位 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | (7.4) | 〈9.4〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 胴部下半 1/2 | |
| 70 | 仮206 | 14 | RA127 | A-A' ベルト1層/B-B'ベルト 床面/Q1 北壁際/カマド上部 土器4 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | (8.8) | 〈15.3〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 口縁を除く1/2 | |
| 71 | 仮209 | 14 | RA127 | カマド周辺 カマド上位 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | (11.2) | 〈4.1〉 | ナデ ハケメ | ナデ | 木葉痕 | 胴部下端～底部破片 | |
| 72 | 仮210 | 14 | RA127 | Q1 1層・床面/A-A'ベルト 1層/カマド煙出埋土中 土器2/カマド上位 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | … | － | 〈23.6〉 | ロクロナデ | ロクロナデ 胴下半 ケズリ | － | 胴部破片 | |
| 73 | 仮204 | 14 | RA127 | Q4 床面直上 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (22.0) | － | 〈8.7〉 | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | 口 ヨコナデ胴 ナデ | － | 口～胴部破片 | |
| 74 | 仮205 | 14 | RA127 | カマド上部 土器6・カマド袖 12層 土器1 | 平安 | 土師器 | 甕 | … | － | － | 〈12.6〉 | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | － | 口～胴部破片 | |
| 75 | 仮208 | 14 | RA127 | カマド「須恵器の下から土師器2つ」上器11 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | 10.3 | 〈6.5〉 | ナデ | ケズリ | ナデ | 胴部下端～底部破片 | |
| 76 | 仮360 | 14 | RA127 | カマド土器11 | 平安 | 須恵器 | 甕 | － | … | … | － | あて具 | タタキ | タタキ？ | 胴～底部？破片 | 364と同一？ |
| 77 | 仮165 | 14 | RA128 | 埋土一括/2層最下位/検出面 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | 16.5 | － | 〈26.4〉 | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ | … | 底部を除き3/4 | 胴部下半外面一部にスス |
| 78 | 仮167 | 14 | RA128 | 埋土一括/2層最下位 | 平安 | 土師器 | 甕 | … | － | (8.2) | 〈9.7〉 | ハケメ | ナデ | ナデ | 胴部下半～底部 | |
| 79 | 仮166 | 14 | RA128 | 埋土一括/2層最下位 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | … | 8.0 | 〈10.8〉 | ナデ | ナデ 胴下端 ケズリ | 木葉痕 | 胴部下半～底部 | |
| 80 | 仮150 | 14 | RA129 | 埋土下位 土器2 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (15.5) | 6.6 | 5.3 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/3 | |
| 81 | 仮151 | 14 | RA129 | Q4 埋土/カマド埋上上土器5/埋土中位 土器10 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (19.0) | (9.7) | 16.4 | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | 木葉痕 | 2/5 | 底～胴部内面一部スス |
| 82 | 仮152 | 14 | RA129 | 右袖内/カマド埋土上土器6/カマド埋上 上器17 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (20.5) | － | 〈9.7〉 | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | … | 口～胴部破片 | |
| 83 | 仮153 | 14 | RA129 | カマド埋土上 土器4/カマド埋土上器14・15 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (20.8) | … | 〈12.3〉 | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | － | 口～胴部破片 | 頸部、胴の一部内面スス |
| 84 | 仮362 | 14 | RA129・RA130 | 第11トレンチ付近 1層/RA129 埋上最下層 土器8/RA130 Q3 2層 | 平安 | 須恵器 | 広口壺 | … | (18.2) | － | 〈12.1〉 | ロクロナデ | タタキ？→ロクロナデ | － | 口～胴部破片 | 断面セピア色 |
| 85 | 仮361 | 14 | RA129 | 埋土最下層 土器9 | 平安 | 須恵器 | 広口壺 | － | (19.0) | － | 〈7.6〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | 口～胴部破片 | 断面セピア色 |
| 86 | 仮211 | 14 | RA130 | Q4 中位・上器5/埋土下位上器3/床直上器9 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内外 | 15.7 | 5.0 | 5.5 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 4/5 | |
| 87 | 仮216 | 14 | RA130 | Q3 1層/カマド右袖崩壊土 土器25 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面? | 13.4 | － | 〈3.6〉 | ミガキ？ | ロクロナデ | … | 口～胴部破片 2/3 | 被熱？黒色処理が飛んでいる |
| 88 | 仮212 | 14 | RA130 | 壁直 土器18 | 平安 | 土師器 | 坏 | … | 13.1 | 5.8 | 4.3 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ほぼ完形 | |
| 89 | 仮214 | 14 | RA130 | カマド埋土・土器26・27 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | 14.9 | 6.0 | 5.0 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 2/3 | |
| 90 | 仮215 | 14 | RA130 | カマド埋上 土器23 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (13.1) | 4.8 | 4.3 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 3/4 | |
| 91 | 仮213 | 14 | RA130 | カマド埋土 土器22 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | 12.5 | 4.2 | 3.6 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ほぼ完形 | |
| 92 | 仮219 | 14 | RA130 | 壁直 上器17 | 平安 | 土師器 | 高台付坏 | 内外? | (15.2) | (8.7) | (6.4) | ミガキ | ロクロナデ | ロクロナデ | 完形 | 被熱？一部黒色処理が飛ぶ |
| 93 | 仮220 | 14 | RA130 | RA130を切る撹乱/RA130 埋土下位 上器12 | 平安 | 土師器 | 高台付坏 | － | (13.7) | (8.0) | 5.9 | ロクロナデ ナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 1/4 | |

| 抽 | 仮地 | 調査次数 | 出土地点・層位 | 出土地点1 | 時期 | 種別 | 器種 | 黒色処理 | 口径 | 底径 | 器高 | 内面調整 | 外面調整 | 底面調整 | 残存状況 | 特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 94 | 仮222a | 14 | RA130 | カマド埋土 土器4/床直 土器6・8/カマド埋土土器19・30・31/カマド袖/埋土/(Q2 トレンチ 2層/カマド埋土/床直 土器6/壁直土器15) | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (19.1) | (10.2) | 29.5 | □ ヨコナデ 胴 ナデ | ケズリ | ナデ ケズリ | 1/2 | 内面 底部 外面 胴下半にススス |
| 95 | 仮221 | 14 | RA130 | Q1 埋土中/Q2 トレンチ2層・3層/Q3 3層/埋土中位 土器1/床直・土器7/埋土下位上器10・13/壁直上器14/カマド埋土 土器21・28 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (16.0) | － | 〈18.7〉 | ロクロナデ ナデ | ロクロナデ 胴部 ケズリ | － | 底部を除き1/2 | 内面 胴上半、外面 胴下半に薄くススス |
| 96 | 仮168 | 14 | RA131 | Q4 埋土上位・埋土下位・床直 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | 14.4 | － | 〈4.8〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | 底部を除き1/2 | |
| 97 | 仮170 | 14 | RA131 | Q1 1層 | 平安 | 土師器 | 高台付坏 | － | － | 8.0 | 〈4.7〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 胴～高台破片 | |
| 98 | 仮171 | 14 | RA131 | Q1 1層 | 平安 | 土師器 | 高台付坏 | － | － | (8.0) | 〈2.2〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 高台のみ | |
| 99 | 仮176 | 14 | RA131 | Q4 埋土上位・埋土中/Q3 1層/A-A' ベルト 南壁際2層・1層下位/Q2 1層/カマド煙出部 埋土中 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | 18.8 | － | 〈24.6〉 | □ ヨコナデ 胴 ハケメ | □ ヨコナデ 胴上半 ケズリ 下半 ナデ | － | □～胴部 | |
| 100 | 仮174 | 14 | RA131 | Q2 床直(2層) | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (19.4) | － | 〈11.3〉 | □ ヨコナデ 胴 ナデ | □ ヨコナデ 胴 ケズリ | － | □～胴部破片 | |
| 101 | 仮173 | 14 | RA131 | Q4 埋土上位・下位・埋土中・床直 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (15.6) | － | 〈7.0〉 | □ ヨコナデ 胴 ハケメ | □ ヨコナデ 胴 ナデ | － | □～胴部 | |
| 102 | 仮349 | 14 | RA131 | Q1 1層下位・東壁際土 | 平安 | 須恵器 | 広口壺 | － | (13.4) | － | 〈10.2〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | □～胴部破片 | 胎土に白色粒、断面サンドイッチ状に中がセピア色 |
| 103 | 仮229 | 14 | RA132 | 1号カマド支脚 上器251 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面? | (15.2) | (5.4) | 4.8 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 2/5 | 被熱？黒色処理飛ぶ 内面底部摩滅 |
| 104 | 仮236 | 14 | RA132 | Q2 4層/2号カマド煙道1層・右袖上器253 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (15.0) | 6.6 | 4.8 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/4 | |
| 105 | 仮238 | 14 | RA132 | 床直 土器220 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | － | (6.6) | 〈1.8〉 | ミガキ | ロクロナデ 胴下端 回転ヘラケズリ | 回転ヘラケズリ | 底部破片 | 側面墨痕あり |
| 106 | 仮223 | 14 | RA132 | 2層 上器4/Q6 2層・上器3/2層下位上器7 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (14.8) | 5.6 | 5.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 2/3 | |
| 107 | 仮224 | 14 | RA132 | 4層下位 上器219/Q1 貼床/Q2 貼床 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (14.0) | (5.8) | 5.6 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 2/3 | |
| 108 | 仮225 | 14 | RA132 | 1号カマド埋上 土器250 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (14.4) | (7.0) | 5.2 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 3/5 | |
| 109 | 仮231 | 14 | RA132 | Q1 2層/2層下位上器26/Q1 貼床 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (13.4) | (5.8) | 5.0 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/4 | |
| 110 | 仮227 | 14 | RA132 | 4層/埋上下位上器189/Q5 4層・貼床 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (14.2) | (6.0) | 4.6 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 2/5 | |
| 111 | 仮228 | 14 | RA132 | 4層/柱穴5 埋土 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (13.8) | (5.2) | 5.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り？ | 1/4 | |
| 112 | 仮233 | 14 | RA132 | Q5 トレンチ埋土/柱穴1 埋土/Q6 貼床 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (15.4) | (5.4) | 5.0 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/4 | |
| 113 | 仮226 | 14 | RA132 | 1号カマド埋上/1号カマド左袖 土器249 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (14.3) | (5.0) | 5.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | 摩滅 | 2/5 | |
| 114 | 仮230 | 14 | RA132 | Q2 2層/2号カマド煙道埋上 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (13.6) | (5.4) | 〈1.3〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | 1/4 | |
| 115 | 仮234 | 14 | RA132 | 床直 壁際 土器218 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (16.6) | － | 〈4.4〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | 1/3 | 側面刻線あり |
| 116 | 仮235 | 14 | RA132 | Q2 2層 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | － | － | 〈3.0〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | 胴部小破片 | 側面墨痕あり |
| 117 | 仮239 | 14 | RA132 | 床直 土器217 | 平安 | 土師器 | 高台付坏 | 内外 | 16.8 | 9.0 | 6.7 | ミガキ | ミガキ | 回転糸切り→菊花状 | 4/5 | 側面刻線あり |
| 118 | 仮240 | 14 | RA132 | 4層 土器166 | 平安 | 土師器 | 高台付坏 | 内面 | － | (7.4) | 〈2.0〉 | ミガキ | ロクロナデ | 菊花状 | 高台部のみ | |
| 119 | 仮242 | 14 | RA132 | 4層下位 土器195 | 平安 | 土師器 | 高台付坏 | 内面? | － | (8.0) | 〈1.9〉 | ミガキ？ | ロクロナデ | ロクロナデ | 高台部のみ | |
| 120 | 仮244 | 14 | RA132 | 4層下位 土器148 | 平安 | 土師器 | 高台付坏 | － | － | (9.4) | 〈2.2〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 高台部のみ | |
| 121 | 仮241 | 14 | RA132 | 4層上位 土器145 | 平安 | 土師器 | 高台付坏 | － | － | (7.6) | 〈2.2〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 高台部のみ | |
| 122 | 仮243 | 14 | RA132 | 埋土下位 土器188 | 平安 | 土師器 | 高台付坏 | － | － | (7.2) | 〈2.0〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 高台部のみ | |
| 123 | 仮248 | 14 | RA132 | 埋土下位 土器190/Q6 4層/1号カマド燃焼面より3cm上 土器252 | 平安 | 土師器 | 羽釜 | － | (10.6) | (7.2) | 13.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/2 | 被熱による外面胴部の色の変化 |
| 124 | 仮255 | 14 | RA132 | 2層 土器36 | 平安 | 土師器 | 甕 | | － | － | 〈8.6〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | □～胴部破片 | |
| 125 | 仮249 | 14 | RA132 | Q5 トレンチ埋上/(15)4層/(23)2層・上器24・160・162/2層下位上器20・21・161/Q6 4層/柱穴4 埋土 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (21.4) | － | 〈27.3〉 | □ ヨコナデ 胴 ハケメ | □ ヨコナデ 胴 ケズリ | － | 底部を除く1/4 | 胴部内面に薄くススス |
| 126 | 仮250 | 14 | RA132 | 2号カマド 煙道1層/2号カマド煙道 上器265 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 〈20.0〉 | □ ヨコナデ 胴 ナデ | □ ヨコナデ 胴 ナデ | － | □～胴部破片 | |
| 127 | 仮251b | 14 | RA132 | Q2 2層/2層上器14・15・16 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | (8.2) | 〈9.8〉 | ナデ | ケズリ | ナデ | 胴部下半～底部 1/2 | |
| 128 | 仮254 | 14 | RA132 | 2号カマド右壁際 上器255 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 〈3.6〉 | □ ヨコナデ 胴 ナデ | □ ヨコナデ 胴 ケズリ | － | □縁部破片 | |
| 129 | 仮258 | 14 | RA132 | 2号カマド | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 〈3.9〉 | ナデ | ハケメ | 砂底 | 底部破片 | |
| 130 | 仮380 | 14 | RA132 | 4層 口縁部は床直 土器230 | 平安 | 須恵器 | 長頸瓶 | － | 9.2 | 8.0 | 18.5 | ロクロナデ | ロクロナデ→ 胴部下半 ケズリ | ナデ | 完形 | ススが器面1/3に付着(住居焼失時に付着？) |
| 131 | 仮378 | 14 | RA132 | Q2 トレンチ埋土/4層 土器58、60、64、90、91、104、120、123、127、178、180/4層下位 上器201/床直 土器206/Q6 床直 | 平安 | 須恵器 | 長頸瓶 | － | (14.0) | (12.0) | 29.9 | ロクロナデ 胴部下半 ナデ | ロクロナデ→胴部下半 ケズリ | － 高台付 | 1/5 | |
| 132 | 仮363 | 14 | RA146・RA132・RA087・RA104 | RA146Q2 2層上位/RA132 4層下位 土器81/RA104 Q2上下層/RA087 Q3 埋土上位 | 平安 | 須恵器 | 小形広口壺 | － | (11.2) | － | 〈8.4〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | □～胴部破片 | |
| 133 | 仮379 | 14 | RA132 | 4層下位 土器121、134、135、136、207、212、215、216、12/4層 土器122、176/床直 土器214 | 平安 | 須恵器 | 甕 | － | (15.7) | (12.6) | 30.0 | ロクロナデ 胴部下半 ナデ | ロクロナデ→胴部下半 ケズリ | ナデ | 1/2 | 胎土に白色粒 |
| 134 | 仮376 | 14 | RA132 | 壁際焼土中 土器155、157・焼土上 土器156、158、159/土坑1上 上器226、229/土坑1 土器228/(7)と(24)2～4層 | 平安 | 須恵器 | 甕 | － | 15.6 | 11.2 | 31.4 | ロクロナデ 胴部下半 ハケメ | ロクロナデ 胴部下半 タタキ→ケズリ | ナデ | 完形 | 胎土に白色粒、黒色粒 |
| 135 | 仮366 | 14 | RA132・RA145・RA119・RA120・RG029とRA096下 トレンチ | RA132 床直土器 198/RA145 Q1 1層 土器13/RA145 カマド東側貼床内/RA119 Q4 1層/RA119 1層 土器2/RA120 カマド周辺 床直/RG029とRA096トレンチ | 平安 | 須恵器 | 広口壺 | － | (17.4) | － | 〈28.5〉 | ロクロナデ 胴部下半 ナデ | タタキ？→ロクロナデ 胴部下半 ケズリ | － | □～胴部破片 | ～部内外酸化色352と同～ |
| 136 | 仮381 | 14 | RA132・RD294 | RA132 壁際焼上中 土器155/土坑1上 土器226/土坑1 土器228/Q6 4層/4層 土器163/(7)(8)(14)(15)の土器集中部 4層/Q6 1号カマド脇 床直/上器238、239/西壁北上坑埋上/(7)(14) 2～4層/RD294 埋土中(To-aより下位) | 平安 | 須恵器 | 広口？壺 | － | － | 9.5 | 〈23.6〉 | ロクロナデ 胴部下半 ナデ | ロクロナデ 胴部下半 ケズリ | ナデ | 胴～底部1/3 | 胎土に白色粒 |
| 137 | 仮382 | 14 | RA132・RD294 | RA132 土坑1上 上器227/土坑1 上器228/Q6 4層/(7)(8)(14)(15)の土器集中 4層/西壁上坑北上器236/上器237、238/(7)(14) 2～4層/RD294 埋上中(To-aより下位) | 平安 | 須恵器 | 壺? | － | － | － | 〈18.4〉 | ロクロナデ 胴部下半 ナデ | ロクロナデ→ケズリ | － | 胴1/3 | 胎土に白色粒 |
| 138 | 仮383 | 14 | RA132・RA064・3M21c | 3 M21c 攪乱層/RA132 Q2 2層/3号カマド煙道 土器267/RA064 Q4 東サブトレ | 平安 | 須恵器 | 広口壺？ | － | － | － | － | ハケメ→ヘラナデ | タタキ→ケズリ | － | 胴部下半破片 | 胎土に白色粒、黒色粒 |
| 139 | 仮368 | 14 | RA132・RA144・RA092・RA104・4N | RA132 4層下位 土器81/RA144 カマド周辺の凹部床面/10次428(RA092 2層)/10次604(RA104 Q2 上下層) | 平安 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | － | あて具 | タタキ | タタキ | 胴下半破片 | |
| 140 | 仮377 | 14 | RA132 | (33)(39)(42) 4層/3層 土器29、30/4層壁際 土器43、～47、139、143/4層 土器48～50、53～55、57、61、62、65、68～72、75～80、82～84、86～89、92、97、99、101～103、105、108～111、113、114、116、119、125、126、130、172、173、179、184、185/4層下位 上器51、52、73、74、93～95、98、115、124、131～134、140、194、202、203、208、209/壁際中位 上器138/壁際上層 上器141/Q5 4層/Q2 4層/中央埋妻上 4層上器168、169、171/柱穴3埋上 | 平安 | 須恵器 | 甕 | － | 34.2 | － | 〈42.1〉 | □縁部 ロクロナデ 頸部 ナデ 胴部あて具 | □縁部 ロクロナデ 胴部 タタキ | － | 胴部下半～底部を欠く | |

| No. | 仮No. | 調査次数 | 出土地点・層位 | 出土地点1 | 時期 | 種別 | 器種 | 黒色処理 | 口径 | 底径 | 器高 | 内面調整 | 外面調整 | 底面調整 | 残存状況 | 特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 141 | 仮33 | 14 | RA133 | カマド袖付近 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 〈4.5〉 | □ ヨコナデ | □ ヨコナデ | － | 口縁部破片 | 口唇部がやや凹む |
| 142 | 仮24 | 14 | RA134 | Q4 トレンチ/6層土器6/8層上器25 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (14.5) | 5.9 | (5.0) | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 4/5 | |
| 143 | 仮26 | 14 | RA134 | カマド埋土 土器43 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (14.4) | 6.1 | 4.2 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/2 | |
| 144 | 仮23 | 14 | RA134 | 煙道埋土下位/6層最下位上器21/埋土最下位上器30・土器34/カマド煙道入口埋土土器46/カマド右袖脇壁際埋土土器49 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | 17.3 | 6.6 | 6.2 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 4/5 | 底部に墨書「十」 |
| 145 | 仮25 | 14 | RA134 | 袋状Pit底直 土器48 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (13.0) | (5.4) | 5.0 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 2/5 | |
| 146 | 仮20 | 14 | RA134 | Q4 6層/6層下位上器20/床直上器33 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | 14.2 | 5.2 | 5.1 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 完形 | |
| 147 | 仮22 | 14 | RA134 | Q4 6層・土器3・1器4 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (14.8) | 5.4 | 4.8 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 2/3 | |
| 148 | 仮21 | 14 | RA134 | 埋土下位(6層)/埋土最下位上器31/床直上器35 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | 13.5 | 5.8 | 5.0 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 完形 | |
| 149 | 仮27 | 14 | RA134 | Q1 2層・3層/4層上器1/埋土下位土器32 | 平安 | 須恵器 | 坏 | － | 16.2 | 6.2 | 5.2 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ほぼ完形 | |
| 150 | 仮73 | 14 | RA134 | Q4 6層・土器8/6層下位 土器15・17/8層 土器25 | 平安 | 須恵器 | 坏 | － | 14.9 | 6.6 | 5.8 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ほぼ完形 | |
| 151 | 仮30 | 14 | RA134 | Q2 6層・床直/カマド前6層土器27 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (13.6) | － | 〈12.5〉 | □ ヨコナデ、胴 ハケメ | □ ヨコナデ、胴 ケズリ | － | □～胴 1/2 | |
| 152 | 仮29 | 14 | RA134 | Q4 6層・8層上位/6層土器5・6層下位土器26 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | 6.5 | 〈12.4〉 | ハケメ | ナデ | 木葉痕 | 胴部 2/3 | |
| 153 | 仮28 | 14 | RA134 | Q4 6層・上器7・9・10・11・13/6層下位上器14・16・22/8層土器24/床直上器33 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | 14.6 | 12.1 | 18.2 | □ ヨコナデ。胴 ハケメ | □ ヨコナデ。胴 ハケメ | ナデ | ほぼ完形 | 底部にスス |
| 154 | 仮31 | 14 | RA134 | 4層 上器2/6層下位土器23/支脚上土器42/煙道底直土器47/カマド右袖上器50 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | 12.5 | (12.6) | ケズリ | ハケメ | ナデ | 胴部下半 | 内面底部にスス |
| 155 | 仮32 | 14 | RA134 | Q4 8層上位/カマド右袖脇埋土/4層土器2/床直上器28/カマド埋土上器36・38・35・カマド支脚の上土器42 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 〈25.7〉 | ナデ、ケズリ | ハケメ | － | 胴部 1/2 | 内面下端にスス |
| 156 | 仮74 | 14 | RA135・RA137 | RA135 カマド袖e-e'ベルト6層/カマド土器3、4/RA137 1層 上器1 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (14.0) | 5.9 | 5.5 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 2/3 | 内面に油煙・灯明皿? |
| 157 | 仮76 | 14 | RA135 | Q3 埋土中 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面? | － | － | 〈4.0〉 | ミガキ | ロクロナデ | － | 口縁部破片 | 側面に刻線あり |
| 158 | 仮75 | 14 | 遺構外 | RA135 Q4 埋土中/B-B'ベルト1層 | 須恵器? | 土師器 | 鉢? | 内面 | (20.0) | － | 〈2.3〉 | ミガキ | ヨコナデ | － | 口縁部破片 | |
| 159 | 仮77 | 14 | RA135 | カマド カマド崩落上/カマド 上器1/カマド煙道部 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 〈20.7〉 | ロクロナデ | ロクロナデ 胴部過半ケズリ | － | 口～胴部破片 | |
| 160 | 仮78 | 14 | RA135 | カマド袖c-c'ベルト6層 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | (12.8) | 〈2.8〉 | ハケメ | ケズリ | ナデ | 底部破片 | |
| 161 | 仮354 | 14 | RA135 | Q1 壁際土(1層) | 平安 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | － | あて具 | タタキ | － | 胴部破片 | 320と同一 |
| 162 | 仮79 | 13 | RA136 | カマド袖中央 土器1 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | 14.0 | 5.2 | 5.0 | ミガキ | ロクロナデ 胴部下端回転ヘラケズリ | 回転糸切り→回転ヘラケズリ | ほぼ完形 | |
| 163 | 仮111 | 14 | RA137 | Q1 1層・土器24 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | 14.3 | 5.9 | 5.2 | ミガキ | ロクロナデ 胴下端 回転ヘラケズリ | 回転ヘラケズリ | 3/4 | |
| 164 | 仮115 | 14 | RA137 | Q3 1層 土器21 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (13.8) | 5.4 | 4.7 | ミガキ | ロクロナデ 胴下端 手持ちヘラケズリ | 手持ちヘラケズリ | 1/2 | |
| 165 | 仮118 | 14 | RA137 | カマド煙出部 1層/埋土中位 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | － | 6.8 | 〈3.8〉 | ミガキ | ロクロナデ 胴下端 回転ヘラケズリ | 回転ヘラケズリ | 胴～底部破片 | |
| 166 | 仮117 | 14 | RA137 | 1層 上器1/カマド周辺崩壊土/Q3 1層/Q4 埋土上位 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (15.5) | (6.6) | 4.7 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/2 | |
| 167 | 仮116 | 14 | RA137 | Q3 1層 土器22/煙道部埋土下位 土器44 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (14.2) | (5.2) | 5.0 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/2 | |
| 168 | 仮119 | 14 | RA137 | Q1 1層/カマド 北側上坑 埋土中 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (14.3) | 5.6 | 4.8 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/4 | 側面に刻線あり |
| 169 | 仮123 | 14 | RA137 | カマド北側 床面 上器49 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | － | (6.2) | 〈1.5〉 | ミガキ | ロクロナデ 胴下端 回転ヘラケズリ | 回転糸切り→回転ヘラケズリ | 底部1/3 | |
| 170 | 仮121 | 14 | RA137 | Q2 1層 上器18 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (14.0) | (5.6) | 5.6 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/4 | |
| 171 | 仮122 | 14 | RA137 | カマド 北側上坑埋土中 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | － | 7.1 | 〈1.5〉 | ロクロナデ | ロクロナデ 胴下端 手持ちヘラケズリ | 手持ちヘラケズリ | 底部2/3 | |
| 172 | 仮120 | 14 | RA137 | Q1 埋土上位/Q2 床面上器48 | 平安 | 須恵器 | 坏 | － | 16.2 | 6.6 | 5.2 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/4 | |
| 173 | 仮128 | 14 | RA137 | カマド付近 Q1 カマド崩壊上/北側土坑 埋土中 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (20.0) | － | 〈10.3〉 | □ ヨコナデ胴 ハケメ | □ ヨコナデ 胴 ナデ | － | □～胴部破片 | |
| 174 | 仮129 | 14 | RA137 | カマド カマド崩壊土 土器35・36 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (21.5) | － | 〈9.7〉 | □ ヨコナデ 胴 ナデ | □ ヨコナデ 胴 ケズリ | － | □～胴部破片 | |
| 175 | 仮127 | 14 | RA137 | カマド カマド崩壊土 土器35/Q1 埋土上位/1層上位/a-a'2層/カマド北側土坑埋土中/煙道部 底面直上 土器43 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (16.9) | － | 〈11.2〉 | □ ヨコナデ 胴 ハケメ | □ ヨコナデ 胴 ナデ、ケズリ | － | □～胴部破片 | |
| 176 | 仮133 | 14 | RA137 | カマド カマド崩壊土 土器35/カマド周辺床直/Q1 1層 土器12 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 〈11.5〉 | □ ヨコナデ 胴 ハケメ | □ ヨコナデ 胴 ナデ | － | □～胴部破片 | |
| 177 | 仮145 | 14 | RA137 | 床直 土器10 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 〈8.2〉 | □ ヨコナデ 胴 ナデ | □ ヨコナデ 胴 ナデ | － | □～胴部破片 | |
| 178 | 仮126 | 14 | RA137 | カマド北側床面 土器49 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | (5.0) | 〈5.8〉 | ナデ | ケズリ | 木葉痕 | 胴～底部破片 | |
| 179 | 仮124 | 14 | RA137 | Q2 1層 土器41/カマド崩壊土 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | (11.3) | 〈16.3〉 | ハケメ | ケズリ | 木葉痕 | 胴部下半 | |
| 180 | 仮125 | 14 | RA137 | カマド カマド崩壊土 土器29・34・35・36 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | (9.0) | 〈16.0〉 | ハケメ | ケズリ、ナデ | 木葉痕 | 胴部下半 | |
| 181 | 仮132 | 14 | RA137 | 床直 上器9 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | 10.1 | 〈10.2〉 | ハケメ 胴部下端ナデ | ケズリ | 木葉痕 | 胴部下半～底部 | |
| 182 | 仮130 | 14 | RA137 | カマド付近 カマド崩壊土 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | 6.8 | 〈7.0〉 | ハケメ | ケズリ | 木葉痕 | 胴部下端～底部 | |
| 183 | 仮131 | 14 | RA137 | Q2 1層 土器37/カマド燃焼部 埋土上位 土器46 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | (7.8) | 〈3.0〉 | ハケメ | ケズリ | 木葉痕 | 底部破片 | |
| 184 | 仮371 | 14 | RA137・RA140 | Q2 1層 上器20/30号住Q2 床直 | 平安 | 須恵器 | 長頸瓶 | － | (11.6) | － | 〈11.4〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | □～胴部破片 | 頸部 リング状突起 断面胎土セピアがかる |
| 185 | 仮357 | 14 | RA137 | カマド a-a'2層 | 平安 | 須恵器 | 壺 | － | － | － | 〈8.4〉 | ナデ カキメ | ロクロナデ ケズリ | － | 胴部破片 | |
| 186 | 仮355 | 14 | RA137・9次調査PP3 | カマド崩壊土 土器31/Q2 1層 土器19/煙道部埋土下位 上器44/カマド支脚付近 土器45/9次調査PP3 埋土 | 平安 | 須恵器 | 甕 | － | (19.2) | － | 〈11.2〉 | □ ロクロナデ 胴 タタキ | □ ロクロナデ 胴 あて具痕 | － | □～胴上部 | |
| 187 | 仮356 | 14 | RA137・RA064 | カマド北脇土坑 埋土中 上器47/RA064 Q1 東サブトレ埋土上位 | 平安 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | － | 頸部ナデ 胴 あて具 | タタキ | － | 胴部破片 | 頸部 自然釉 |
| 188 | 仮358 | 14 | RA137 | カマド袖付近 カマド崩壊土/煙道部埋土下位 上器44/カマド支脚付近埋土中 土器45 | 平安 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | － | あて具 | タタキ | タタキ | 胴～底部破片 | |
| 189 | 仮359 | 14 | RA137 | 煙出部 埋土中位 土器42 | 平安 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | － | あて具 | タタキ | － | 胴部破片 | |
| 190 | 仮154 | 13 | RA138 | Q2 4層/Q4 1層・床直 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | 13.8 | 6.0 | 4.2 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 4/5 | |
| 191 | 仮155 | 13 | RA138 | カマド北脇床面 倒立(うつ伏せ) | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | － | 5.8 | 〈3.0〉 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部破片 | |
| 192 | 仮297 | 13 | RA139 | 上坑1 埋土上位壁際 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | － | 5.3 | 〈1.3〉 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部のみ | |
| 193 | 仮296 | 13 | RA139 | Q2 2層 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (14.8) | 6.0 | 5.2 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/3 | |
| 194 | 仮299 | 13 | RA139 | 1号カマド埋土 土器5 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (12.1) | － | 〈8.2〉 | □ ヨコナデ 胴 ハケメ | □ ヨコナデ 胴 ナデ | － | □～胴部破片 | |
| 195 | 仮298 | 13 | RA139 | 埋土最下位 上器3 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (12.8) | － | 〈10.5〉 | □ ヨコナデ 胴 ナデ | □ ヨコナデ 胴 ナデ | － | □～胴部破片 | 口縁端部に煤くスス |
| 196 | 仮285 | 13 | RA140 | 壁際 上位 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (14.0) | (6.0) | 〈5.0〉 | ミガキ | ロクロナデ 胴下端 回転ヘラケズリ | 回転ヘラケズリ | 1/4 | 胴下端列点 |
| 197 | 仮309 | 13 | RA140・RA141 | RA140 Q3 トレンチ/床直/RA141 Q1トレンチ/床直上器1/Q3 トレンチ | 平安 | 須恵器 | 坏 | － | 13.7 | 5.9 | 4.7 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 4/5 | |
| 198 | 仮287 | 13 | RA140 | Q4 壁際・4層/1号カマド右壁際上位/土坑3埋土/Q4 貼床/1号カマド左袖 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | 13.0 | － | 〈9.3〉 | □ ヨコナデ胴 ハケメ | □ ヨコナデ 胴 ケズリ | － | 上半 | 内面胴の一部にスス |
| 199 | 仮288 | 13 | RA140 | 上坑3 上層 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 〈11.0〉 | □ ヨコナデ胴 ハケメ | □ ヨコナデ 胴 ナデ | － | □～胴部破片 | 外面一部にスス |
| 200 | 仮289 | 13 | RA140 | Q2 4層 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 〈6.8〉 | □ ヨコナデ胴 ハケメ | □ ヨコナデ 胴 ナデ ハケメ | － | □～胴部破片 | |
| 201 | 仮372 | 13 | RA140 | 床直 | 平安 | 須恵器 | 長頸瓶 | － | － | － | 〈11.8〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | 頸部～胴部破片 | 頸部 リング状突起 断面胎土セピアがかる |

| No. | 仮No. | 調査次数 | 出土地点・層位 | 出土地点1 | 時期 | 種別 | 器種 | 黒色処理 | 口径 | 底径 | 器高 | 内面調整 | 外面調整 | 底面調整 | 残存状況 | 特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 202 | 仮373 | 13 | RA140 | Q2 3層・1層下位 | 平安 | 須恵器 | 長頸瓶 | － | | 〈7.8〉 | 〈5.7〉 | ロクロナデ | 回転ヘラケズリ | ナデ | 胴部下端～底部破片 | 高台付 |
| 203 | 仮286 | 13 | RA140 | 床直 | 平安 | 須恵器 | 壺 | － | (5.1) | － | 〈6.3〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | … | 1/3 | 外面酸化色、内面還元色 |
| 204 | 仮302 | 13 | RA141 | 床直 土器5 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | 13.4 | 5.6 | 5.4 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 完形 | 内外面口縁部に油煙 内面一部剥落 灯明皿？ |
| 205 | 仮304 | 13 | RA141 | 床直 上器3 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | 13.3 | 5.0 | 4.9 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 2/3 | 側面に墨痕あり 焼成前記号「キ」 |
| 206 | 仮310 | 13 | RA141 | 検出面/Q2 トレンチ/Q4 トレンチ・1層・3層/Q1 3層/Q3 貼床 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (13.4) | 6.8 | 5.0 | ミガキ | ロクロナデ 胴下端 手持ちヘラケズリ | 回転糸切り→手持ちヘラケズリ | 1/4 | |
| 207 | 仮312 | 13 | RA141 | Q4 3層/土坑4 埋土/Q1 埋土下位 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (15.2) | (6.6) | 4.8 | ミガキ | ロクロナデ 胴下端 手持ちヘラケズリ | 回転糸切り→周縁 手持ちヘラケズリ | 1/5 | |
| 208 | 仮303 | 13 | RA141 | 床直 土器3・4 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内外 | 16.0 | 5.6 | 6.8 | ミガキ | ミガキ | 回転糸切り | 4/5 | 側面刻書十万 胴位 |
| 209 | 仮316 | 13 | RA141 | Q1 1層 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | － | － | 〈2.1〉 | ミガキ | ロクロナデ | － | 口縁部破片 | 側面に墨痕あり |
| 210 | 仮313 | 13 | RA141 | Q1 3層 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | － | (6.1) | 〈2.5〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部のみ | |
| 211 | 仮305 | 13 | RA141 | 床直 上器6 | 平安 | 須恵器 | 坏 | … | 13.8 | 7.0 | 4.8 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ほぼ完形 | |
| 212 | 仮306 | 13 | RA141 | 床直 土器2 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (15.8) | 7.0 | 14.1 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/2 | 底部外面、口唇部内面、胴部の一部外面にススス |
| 213 | 仮318 | 13 | RA142 | Q4 1層 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (12.6) | (5.4) | 5.2 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/5 | |
| 214 | 仮317 | 13 | RA142 | Q3 1層 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (13.6) | － | 〈4.5〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | 底部を除き1/4 | |
| 215 | 仮375 | 13 | RA142・RA089 | RA142 Q2 1層/RA089 Q3 撹乱 | 平安 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | － | あて具 | タタキ | － | 胴部上端破片 | 胎土に黒色粒、白色粒 333と同一？ |
| 216 | 仮324 | 13 | RA143 | カマド 燃焼部上 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | － | 4.9 | 〈1.0〉 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部のみ | 底部外面に刻書記号「大」 |
| 217 | 仮325 | 13 | RA143 | 煙出埋土下位 底面より少し上 土器1 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 〈10.5〉 | □ ヨコナデ 胴 ナデ | □ ヨコナデ 胴 ナデ | … | － | 胴部外面にススス |
| 218 | 仮280 | 13 | RA144 | カマド 燃焼部周辺 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内黒? | － | (5.0) | 〈2.8〉 | ミガキ？ | ロクロナデ | 回転糸切り | 胴～底部1/2 | 被熱？摩滅？黒色飛ぶ |
| 219 | 仮279 | 13 | RA144 | Q1 埋土中 | 平安 | 須恵器 | 坏 | － | (15.0) | (6.8) | 4.6 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/4 | |
| 220 | 仮278 | 13 | RA144 | Q1 埋土中 | 平安 | 須恵器 | 坏 | － | … | (5.8) | 〈2.2〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部破片 | |
| 221 | 仮284 | 13 | RA144 | カマド 10層/カマド燃焼部 貼土 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | | 〈13.0〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | 口～胴部破片 | |
| 222 | 仮283 | 13 | RA144・RD282 | RA144 Q1 埋土中/Q3 埋土中・床面/RD282 62層 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | (7.4) | 〈8.4〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 胴～底部破片 | |
| 223 | 仮281 | 13 | RA144 | Q2 埋土中/カマド燃焼部周辺/カマド燃焼部貼土/カマド崩落土 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | … | 7.6 | 〈15.7〉 | ハケメ | ケズリ | ナデ | 下半1/3 | |
| 224 | 仮282 | 13 | RA144・RD320 | RD320 1層/RA144 カマド煙道部 | 平安 | 土師器 | 甕 | … | － | 11.2 | 〈5.7〉 | ナデ | ナデ | ナデ | 胴～底部破片 | |
| 225 | 仮367 | 13 | RA144・RA068・RA078・4N23u・4N24u 風倒木 | RA144 Q1 埋上中/10次225(RA068 Q4 下層/RA078 Q4 貼床中/カマド埋上中位/Q1 6層)/4N23u・4N24u風倒木 | 平安 | 須恵器 | 長頸瓶 | － | (11.6) | － | 〈14.7〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | … | 口～胴部破片 | 頸部 リング状突起 胎土に白色粒 断面の内側セピア色 226と同一 |
| 226 | 仮369 | 13 | RA144 | カマド周辺の凹部 床面(黒褐色シルト) | 平安 | 須恵器 | 長頸瓶 | － | … | (8.6) | 〈11.5〉 | ロクロナデ 胴下半 ハケメ | ロクロナデ→ケズリ 胴部下端 回転ヘラケズリ | － | 胴～底部破片 | 高台付 胎土に白色粒 断面の内側セピア色 225と同一 |
| 227 | 仮160 | 14 | RA145 | Q4 埋土上位/Q2 1層 土器14 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (13.0) | (6.6) | 5.1 | ミガキ | ロクロナデ 下端 回転? ヘラケズリ | 回転糸切り→一部回転? ヘラケズリ | 1/3 | |
| 228 | 仮159 | 14 | RA145 | Q4 床直 土器17/Q3 床直 上器18 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | 14.0 | 6.2 | 4.9 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 2/3 | |
| 229 | 仮161 | 14 | RA145 | Q4 整地層中 上器15 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (14.0) | (6.1) | 4.8 | ミガキ | ロクロナデ | － | 1/4 | |
| 230 | 仮162 | 14 | RA145 | Q1 1層 土器11 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (15.8) | － | 〈4.7〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | 1/3 | |
| 231 | 仮164 | 14 | RA145 | Q1 1層 土器7/Q3 埋土上位 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (18.4) | － | 〈12.9〉 | □ ヨコナデ 胴 ハケメ | □ ヨコナデ 胴 ハケメ | － | 口～胴部破片 | |
| 232 | 仮163 | 14 | RA145 | Q1 1層 土器1・3～6/カマド焼土上上器16 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (19.7) | － | 〈23.6〉 | □ ヨコナデ 胴 ハケメ | □ ヨコナデ 胴 ナデ | － | 底部を除く1/2 | 外面におこげ 口縁部内面にススス |
| 233 | 仮183 | 14 | RA146 | 柱穴1 埋上最上層/土坑2 埋土 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (15.8) | (5.8) | 5.6 | ミガキ | ロクロナデ 胴部下端手持ちヘラケズリ | 回転糸切り→周縁のみ手持ちヘラケズリ | 1/4 | |
| 234 | 仮184 | 14 | RA146 | 埋上4層 上器17 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (12.0) | (4.8) | 4.8 | ミガキ | ロクロナデ | － | 1/5 | 側面に墨書「#」 |
| 235 | 仮185 | 14 | RA146 | Q2 5層 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | － | 6.2 | 〈2.3〉 | ミガキ | ロクロナデ 胴部下端手持ちヘラケズリ | 回転糸切り→周縁のみ手持ちヘラケズリ | 底部破片 | |
| 236 | 仮179 | 14 | RA146 | Q4 2層/壁際下層 上器15 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (14.8) | (5.6) | 5.2 | ロクロナデ | ロクロナデ 胴部下端手持ちヘラケズリ | 手持ちヘラケズリ | 1/4 | |
| 237 | 仮180 | 14 | RA146 | Q2 2層上位・3層/土坑1埋土の直上 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | － | 5.4 | 〈3.8〉 | ロクロナデ | ロクロナデ 胴部下端手持ちヘラケズリ | 回転糸切り | 胴～底部 | |
| 238 | 仮181 | 14 | RA146 | 土坑2 埋土 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (15.2) | (6.1) | 5.2 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/5 | |
| 239 | 仮182 | 14 | RA146 | Q2 4層壁際 | 平安 | 土師器 | 坏 | … | － | (6.6) | 〈3.3〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 胴～底部1/2 | |
| 240 | 仮177 | 14 | RA146 | Q2 4層壁際・トレンチ上層・下層/Q3 3層/土坑2埋上中層土器5/4層土器17・19 | 平安 | 須恵器 | 坏 | | 15.5 | 6.7 | 4.9 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 4/5 | |
| 241 | 仮187 | 14 | RA146 | 1号カマド9層 土器33 | 平安 | 須恵器 | 坏 | － | (14.2) | 6.2 | 4.5 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/4 | |
| 242 | 仮188 | 14 | RA146 | Q2 3層/土坑1埋土・下層土器20 | 平安 | 須恵器 | 坏 | － | (13.5) | 6.0 | 4.5 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/3 | |
| 243 | 仮178 | 14 | RA146 | Q3 1層 | 平安 | 土師器 | 高台付坏 | 内面 | (16.0) | 8.0 | 6.8 | ミガキ | ミガキ | 回転糸切り→高台貼付 | 4/5 | |
| 244 | 仮186 | 14 | RA146 | Q2 上層・2層 | 平安 | 土師器 | 高台付坏 | 内外 | － | 6.8 | 〈1.8〉 | － | ロクロナデ | ロクロナデ | 高台部破片 | |
| 245 | 仮190 | 14 | RA146 | 1号カマド煙道埋土 土器2/土坑2埋上下層土器3 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (11.6) | － | 〈9.9〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | … | 口～胴部破片 | |
| 246 | 仮191 | 14 | RA146 | Q4 5層(壁際下層)/Q2 3層/Q1 土坑2/埋土下位土器8・9/埋土5層土器21 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (14.4) | － | 〈9.9〉 | □ ヨコナデ 胴 ハケメ | □ ヨコナデ 胴 ケズリ | － | 口～胴部破片 | 口縁部内面ススス |
| 247a | 仮192b | 14 | RA146 | Q4 5層(壁際下層)/Q2 下層/1号カマド左袖上器32/1号カマド焼土直上上器34/1号カマド9層土器35 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | (9.0) | 〈15.3〉 | ハケメ | ケズリ | 木葉痕 | 胴～底部破片 | 内面ススス |
| 247b | 仮192a | 14 | RA146 | 1号カマド左袖・上器31/1号カマド9層土器36 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (26.0) | － | 〈13.9〉 | □ ヨコナデ 胴 ハケメ | □ ヨコナデ 胴 ハケメ | － | 口～胴部破片 | 内面薄くススス |
| 248 | 仮350 | 14 | RA146 | Q3 2層上位/Q4 2層/RA080 No.34 | 平安 | 須恵器 | 長頸瓶 | － | (10.3) | － | 〈4.2〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | 口縁部破片 | 断面セピア色 |
| 249 | 仮351 | 14 | RA146 | 1号カマド煙出 上器1 | 平安 | 須恵器 | 広口壺? | － | － | … | 〈8.4〉 | ハケメ | ケズリ | － | 胴部下端破片 | 胎上に白色粒 断面セピア色かかる |
| 250 | 仮268 | 14 | RA147 | Q4 1層/カマド上部/カマド崩落土/カマド 土器3/カマド構築土内 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | 15.6 | 6.1 | 5.5 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 3/4 | |
| 251 | 仮269 | 14 | RA147 | カマド2検出作業時/Q4 1層/煙道部 埋土中/カマド2の1層 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (13.8) | 5.0 | 5.0 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/3 | |
| 252 | 仮272 | 14 | RA119・RA147 | RA147 カマド上部/カマド崩落土/カマド1 埋上内/カマド構築土内/RA119 カマド1 上器1 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | 20.0 | 10.0 | 28.2 | □ ヨコナデ 胴 ハケメ ナデ | □ ヨコナデ 胴上半 ハケメ 下半 削り | 木葉痕 | 4/5 | |
| 253 | 仮275 | 14 | RA147 | カマド3 3層/カマド2 検出作業時 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (19.2) | － | 〈12.0〉 | □ ヨコナデ 胴 ナデ | □ ヨコナデ 胴 ナデ | － | 上半1/2 | 内外面一部にススス |
| 254 | 仮273 | 14 | RA147 | カマド2 3層/Q2 貼床内 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 〈9.2〉 | □ ヨコナデ 胴 ナデ | □ ヨコナデ 胴 ナデ | － | 口～胴部破片 | |

| No. | 仮No. | 調査次数 | 出土地点・層位 | 出土地点1 | 時期 | 種別 | 器種 | 黒色処理 | 口径 | 底径 | 器高 | 内面調整 | 外面調整 | 底面調整 | 残存状況 | 特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 255 | 仮370 | 14 | RA147 | Q2 床面直上 | 平安 | 須恵器 | 壺? | − | − | − | − | ロクロナデ ナデ | ロクロナデ→ケズリ | − | 胴部破片 | 外面自然釉 黒色 |
| 256 | 仮50 | 14 | RA148 | 埋土 土器37/Q1 3層下位・コーナー埋上下位 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (14.4) | (6.8) | 4.9 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/2 | |
| 257 | 仮52 | 14 | RA148 | カマド前埋土下位 土器12/カマド埋上 土器13・18/Q1 1層ベルト・カマド右脇埋上下位 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (14.2) | 6.7 | 4.5 | ミガキ | ロクロナデ | 摩滅? | 2/3 | |
| 258 | 仮51 | 14 | RA148 | 煙道埋上 土器51 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (13.8) | (6.4) | 4.9 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/3 | 側面墨書「千」正位 |
| 259 | 仮49 | 14 | RA148・RD322 | Q4埋上3層/10号上坑埋上 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (15.6) | 6.6 | 5.6 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 2/3 | 側面墨書「千」正位 |
| 260 | 仮34 | 14 | RA148 | 床直 土器32/埋土下位土器33・34/Q3埋上下位・2層 | 平安 | 土師器 | 坏 | − | 14.4 | 4.9 | 4.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ほぼ完形 | 側面墨書「千」正位 |
| 261 | 仮40 | 14 | RA148 | カマド埋上 土器28/Q3 埋上下位 | 平安 | 土師器 | 坏 | − | (14.2) | − | 〈4.2〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | − | 口縁部破片 | 側面墨書「千」カ 正位 |
| 262 | 仮36 | 14 | RA148 | カマド前埋土下位 土器2/壁際下層 土器59/Q23層壁際/1号カマド煙道検出面/貼り床(1号カマド右袖脇) | 平安 | 土師器 | 坏 | − | 14.0 | 6.2 | 4.4 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 2/3 | 側面 墨痕あり 内面にスス・灯明皿? |
| 263 | 仮42 | 14 | RA148 | Q1 3層下位 | 平安 | 土師器 | 坏 | − | − | − | 〈3.4〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | − | 口縁部破片 | 側面墨痕あり |
| 264 | 仮35 | 14 | RA148 | 埋上下位 土器39・40/Q1 2層・3層下位・コーナー埋上下位 | 平安 | 土師器 | 坏 | − | 15.0 | 5.9 | 4.8 | ロクロナデ | ロクロナデ 下端 手持ちヘラケズリ | 手持ちヘラケズリ | 3/4 | |
| 265 | 仮45 | 14 | RA148 | Q1 トレンチ床直/Q4 床直/10号土坑埋土 | 平安 | 土師器 | 坏 | − | − | (7.4) | 〈2.7〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部破片 | |
| 266 | 仮43 | 14 | RA148 | 床直 土器42・43/Q1 3層下位/Q1コーナー埋上下位 | 平安 | 土師器 | 坏 | − | − | 5.8 | 〈2.8〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 胴〜底破片 | |
| 267 | 仮46 | 14 | RA148 | Q4 2層・床直/貼り床(1号カマド右袖脇)/柱穴3埋上上層 | 平安 | 土師器 | 坏 | − | − | 5.9 | 〈1.8〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部破片 | |
| 268 | 仮41 | 14 | RA148 | 柱穴3の検出面・柱穴3埋土上層 | 平安 | 土師器 | 坏 | − | − | 6.0 | 〈1.7〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部破片 | |
| 269 | 仮39 | 14 | RA148・RD322 | RA148 Q4 3層・埋上/柱穴3の検出面/RD322 埋上 | 平安 | 土師器 | 坏 | − | (15.6) | − | 4.0 | ロクロナデ | ロクロナデ | − | 口縁部破片 | |
| 270 | 仮38 | 14 | RA148 | Q1 2〜3層下位・3層下位/2号カマド埋上 | 平安 | 土師器 | 坏 | − | (15.4) | − | 〈3.3〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | − | 口縁部破片 | |
| 271 | 仮41 | 14 | RA148 | 埋上下位 土器38・44・46/Q13 層下位/Q1コーナー埋土下位/2号カマド埋上 | 平安 | 土師器 | 坏 | − | (15.0) | − | 〈3.5〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | − | 口〜胴 2/3 | 外面一部スス付着もろい |
| 272 | 仮37 | 14 | RA148 | カマド埋上 土器7/埋土下位土器49/Q1 1層/Q1コーナー埋上下位 | 平安 | 土師器 | 坏 | − | (14.2) | − | 〈3.3〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | − | 口縁部破片 | |
| 273a | 仮48a | 14 | RA148 | 1号カマド埋上 土器71 | 平安 | 土師器 | 高台付坏? | − | (14.6) | − | 〈4.1〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | − | 口縁部破片 | bと胎土同一 |
| 273b | 仮48b | 14 | RA148 | 埋上下位 土器35 | 平安 | 土師器 | 高台付坏 | − | − | 7.8 | 〈2.0〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部〜台部破片 | aと胎土同一 接点なし |
| 274 | 仮53 | 14 | RA148 | Q1 2〜3層下位・3層下位 | 平安 | 土師器 | 高台付坏 | 内面 | − | 坏部底径5.0 | 〈1.3〉 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部破片 | |
| 275 | 仮58 | 14 | RA148・RD322 | RA148 煙道埋上(検出面) 土器24・26・27/RD322埋上 | 平安 | 土師器 | 甕 | − | − | 9.5 | 〈11.8〉 | ロクロナデ | ロクロナデ 胴部下端ケズリ | 砂底 | 胴部下半 3/4 | 内面にスス おこげ |
| 276a | 仮65a | 14 | RA148 | カマド埋上 土器4 | 平安 | 土師器 | 甕 | − | (24.4) | … | 〈14.5〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | − | 口縁〜胴部破片 | bと同一個体 |
| 276b | 仮65b | 14 | RA148 | カマド前埋土 土器1/埋土下位土器11/1号カマド埋上・土器67/1号カマド左袖内土器75/1号カマド右袖内土器76/Q1 3層上位/Q1カマド右脇埋上最下位/1号カマド煙道検出面 | 平安 | 土師器 | 甕 | − | − | 9.5 | 〈24.8〉 | ロクロナデ 胴部下端ナデ | 上半 ロクロナデ 下半 ケズリ | ナデ | 胴〜底部1/2 | aと同一 接点なし |
| 277 | 仮56 | 14 | RA148 | カマド埋上 土器4・5・18・23/1号カマド埋土 土器66/Q1 2層/カマド埋上/1号カマド煙道検出面 | 平安 | 土師器 | 甕 | − | (22.7) | 13.2 | 29.2 | ロクロナデ、胴部下端ナデ | ロクロナデ、胴部下半ナデ | ナデ | 1/3 | 外面下半にスス |
| 278 | 仮63 | 14 | RA148 | 柱穴1埋土3層 | 平安 | 土師器 | 甕 | − | − | (8.0) | 〈6.4〉 | ナデ | ケズリ | 木葉痕 | 胴部下端破片 | |
| 279 | 仮61 | 14 | RA148 | 1号カマド支脚 | 平安 | 土師器 | 甕 | − | − | 9.5 | 〈2.7〉 | ナデ | ケズリ、下端ナデ | ナデ | 底部2/3 | |
| 280 | 仮62 | 14 | RA148 | 最下位 土器53 | 平安 | 土師器 | 甕 | − | − | 8.2 | − | ハケメ | ナデ | 木葉痕 | 底部1/3 | |
| 281 | 仮59 | 14 | RA148・RD322 | RA148 Q2 埋土中位/Q4 2層・3層・埋土・中央トレンチ床面/RD322埋上 | 平安 | 土師器 | 甕 | | (20.0) | − | 〈18.6〉 | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ | 口 ヨコナデ 胴 ケズリ | − | 口〜胴1/3 | |
| 282 | 仮57 | 14 | RA148 | カマド袖 土器3/カマド埋土上器6・62・64・69・72 | 平安 | 土師器 | 甕 | − | (20.0) | − | 〈15.3〉 | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | 口 ヨコナデ 胴 ケズリ | − | 1/2 | |
| 283 | 仮54 | 14 | RA148 | カマド埋上 上器7・9・10・14・20・22・23・29/カマド前埋土下位土器11/1号カマド埋土土器66・68・72/Q1 ベルト1層・ベルト2層/Q2 2層・埋土中位/1号カマド煙道検出面 | 平安 | 土師器 | 甕 | − | 19.3 | − | 〈30.2〉 | 口 ヨコナデ、胴 ハケメ | 口 ヨコナデ、胴 ハケメ | − | 底部を除きほぼ完形 | 内面下端一部にスス |
| 284 | 仮55 | 14 | RA148 | 埋土下位 土器45・54/煙道埋土土器50/埋土最下位上器53/Q1 1層ベルト・2層・2〜3層下位・コーナー埋土下位 | 平安 | 土師器 | 甕 | − | 22.6 | − | 〈27.7〉 | 口 ヨコナデ、胴 ナデ | 口 ヨコナデ。胴 ケズリ | − | 口〜胴下端1/3 | |
| 285 | 仮64 | 14 | RA148 | 煙道埋土(検出面) 上器25/最下位土器53/Q1 2層・3層下位 | 平安 | 土師器 | 甕 | − | − | − | 〈9.1〉 | ナデ | タタキ | − | 胴部破片 | |
| 286 | 仮353 | 14 | RA148 | 6号住 1号カマド埋土 土器15・19/1号カマド煙出最下層 土器60 | 平安 | 須恵器 | 甕 | − | − | − | − | あて具 | タタキ | − | 胴部破片 | |
| 287 | 仮85 | 14 | RA149 | 埋土上層 土器2/カマド埋土 土器10・11/Q1 埋土1層・コーナー埋土上位/Q2 埋土上位 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (14.3) | 5.5 | 5.3 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 3/4 | 一部被熱のため黒色処理とぶ |
| 288 | 仮88 | 14 | RA149 | Q1 コーナー埋土下位/上坑1 埋土/土坑1 上端土器45 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (13.7) | (7.2) | 4.6 | ミガキ | ロクロナデ | 摩滅? | 1/4 | |
| 289 | 仮86 | 14 | RA149 | 床直 土器53 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (13.4) | (6.2) | 5.0 | ミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/2 | 口唇部、外面一部にスス、油煙少量 |
| 290 | 仮87 | 14 | RA149 | カマド左袖芯材 土器58 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (13.4) | − | 〈1.6〉 | ミガキ | ロクロナデ | − | 口縁〜胴部2/5 | |
| 291 | 仮82 | 14 | RA149 | カマド埋上 上器31/Q2 埋土上位 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面? | − | 6.0 | 〈1.1〉 | ミガキ | ロクロナデ 胴部下端手持ちヘラケズリ | 回転糸切り→手持ちヘラケズリ | 底部1/2 | |
| 292 | 仮84 | 14 | RA149 | 土坑1埋土下位 土器1/Q2 埋土上位/土坑1埋土下位/埋土中層 | 平安 | 土師器 | 坏 | − | (15.0) | (6.5) | 5.2 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/4 | |
| 293 | 仮80 | 14 | RA149 | 土坑2埋土上層/壁際 埋土下位 土器55 | 平安 | 土師器 | 坏 | − | 15.0 | 6.2 | 5.1 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ほぼ完形 | |
| 294 | 仮91 | 14 | RA149 | 土坑2埋土上層 | 平安 | 須恵器 | 坏 | − | (15.8) | (8.2) | 5.0 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/5 | 口唇部のみ白色粘土が化粧土状 |
| 295 | 仮90 | 14 | RA149 | 土坑2埋土上層 | 平安 | 須恵器 | 坏 | − | (15.0) | (6.2) | 5.5 | ロクロナデ | ロクロナデ | 摩滅? | 1/4 | 肌色に近い 柔らかい |
| 296 | 仮83 | 14 | RA149 | Q1 トレンチ・ベルト上層/Q2 埋土下位・埋土上位/Q3 埋土上位・埋土下位 | 平安 | 土師器 | 坏 | − | 14.6 | 7.1 | 5.0 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | ほぼ完形 | |
| 297 | 仮81 | 14 | RA149 | Q2 埋土下位 | 平安 | 土師器 | 坏 | − | − | 6.0 | 〈3.2〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 胴〜底破片 | |
| 298 | 仮92 | 14 | RA149 | Q2 埋土上層/Q3 ベルト1層・埋土上位 | 平安 | 須恵器 | 坏 | − | (15.9) | (6.4) | 4.8 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 2/3 | |
| 299 | 仮89 | 14 | RA149 | Q3 トレンチ/煙出し8層 | 平安 | 須恵器 | 坏 | − | (14.8) | (6.2) | 5.1 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/2 | |
| 300 | 仮94 | 14 | RA149 | 煙出(カマド7層) | 平安 | 須恵器 | 坏 | − | − | 6.0 | 〈2.2〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部1/2 | 肌色に近い 柔らかい |
| 301 | 仮95 | 14 | RA149 | Q1 埋土上層 | 平安 | 須恵器? | 坏 | − | (14.6) | … | 〈4.8〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | − | 口縁〜胴部 1/4 | 肌色に近い 柔らかい |
| 302 | 仮93 | 14 | RA149 | 土坑1下層 土器47 | 平安 | 須恵器 | 坏 | − | (14.0) | − | 〈1.7〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | − | 口縁〜胴部2/5 | 表面やや酸化色 |
| 303 | 仮97 | 14 | RA149 | 土坑2埋土・埋土上層・中層・底直上器50 | 平安 | 土師器 | 甕 | − | − | 7.2 | 〈6.2〉 | ロクロナデ | ロクロナデ 胴部下端ケズリ | 回転糸切り | 胴〜底部1/2 | |
| 304 | 仮98 | 14 | RA149 | カマド埋土 土器5・Q1コーナー埋上下位/カマド埋上/カマド右袖外側土器46 | 平安 | 土師器 | 甕 | − | (19.5) | − | 〈14.6〉 | ロクロナデ | ロクロナデ 胴部 ケズリ | − | 口〜胴部1/2 | |

| No. | 仮No. | 調査次数 | 出土地点・層位 | 出土地点1 | 時期 | 種別 | 器種 | 黒色処理 | 口径 | 底径 | 器高 | 内面調整 | 外面調整 | 底面調整 | 残存状況 | 特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 305 | 仮96 | 14 | RA149 | 床直 土器54・2層貼り床上位 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (12.6) | － | 〈6.8〉 | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | － | 口縁～胴部破片 | 口縁部内面にススス |
| 306 | 仮99 | 14 | RA149 | カマド埋土 | 平安 | 土師器 | 甕 | … | － | (5.8) | 〈4.6〉 | ハケメ | ナデ | 木葉痕 | 底部1/4 | |
| 307 | 仮101 | 14 | RA149 | 土坑1埋土 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 〈2.3〉 | 口 ヨコナデ胴 ナデ | 口 ヨコナデ | | 口縁部破片 | |
| 308 | 仮103 | 14 | RA149 | 埋土上層 土器1/壁際埋土下位 土器34 | 平安 | 土師器 | 甕 | … | (19.0) | － | 〈11.6〉 | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ | － | 口～胴部破片 | |
| 309 | 仮104 | 14 | RA149 | カマド埋土 土器1/カマド右袖上埋土 土器23 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (18.6) | － | 〈11.3〉 | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ、ナデ | … | 口～胴部破片 | |
| 310 | 仮102 | 14 | RA149 | カマド埋土 土器1・30・30の下 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 〈15.7〉 | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ | … | 口～胴部破片 | |
| 311 | 仮348 | 14 | RA149・RA089 | RA149 壁山(カマド8層)/RA089 1号カマド 焼土/10次調査 調査区中央掘見大溝 | 平安 | 須恵器 | 広口壺？ | － | － | (11.0) | 〈13.3〉 | ナデ | ロクロナデ 胴部下半ケズリ | … | 胴部下半～底部破片 | 胎土に白色粒、黒色粒 |
| 312 | 仮337 | 14 | RD275 | 埋土 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 〈3.3〉 | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | － | 口縁部破片 | |
| 313 | 仮113 | 14 | RD284 | 埋土中(1層) | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | (8.7) | 〈1.6〉 | ハケメ | ナデ | 木葉痕 | 底部破片 | |
| 314 | 仮332 | 14 | RD286 | 埋土中 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 〈2.8〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | 口縁部破片 | |
| 315 | 仮333 | 14 | RD329・RD286 | RD329(築3)埋土中/RD286 埋土中 | 平安 | 土師器 | 甕 | … | … | － | 〈4.9〉 | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | 口 ヨコナデ 胴 ケズリ | － | 口縁部破片 | |
| 316 | 仮109 | 14 | RD290 | 1層 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | … | (5.8) | 〈2.4〉 | ミガキ | ロクロナデ 胴部下端 回転ヘラケズリ | 回転ヘラケズリ | 胴部下端～底部破片 | 側面に墨痕あり |
| 317 | 仮112 | 14 | RD290 | 埋土中 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | － | 5.4 | 〈1.8〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部1/2 | |
| 318 | 仮110 | 14 | RD290 | 1層・埋土中 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | … | 〈8.3〉 | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ | 口 ヨコナデ 胴ナデ | － | 口～胴部破片 | |
| 319 | 仮111 | 14 | RD290 | 1層・埋土中 | 平安 | 土師器 | 甕 | … | － | － | 〈5.4〉 | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | － | 口縁部破片 | |
| 320 | 仮385 | 14 | RD291 | 第4トレンチ 2層(黒色土)/RD291 埋土中 | 平安 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | 〈13.9〉 | あて具の上からナデ？ | タタキ | タタキ | 胴～底部 丸底 | 161と同一 |
| 321 | 仮336 | 14 | RD293 | 埋土 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | … | 〈4.0〉 | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | － | 口縁部破片 | |
| 322 | 仮108 | 14 | RD296 | 埋土中 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | (7.4) | 〈2.2〉 | ナデ | ナデ | ナデ | 底部破片 | |
| 323 | 仮107 | 14 | RD296 | 埋土中 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | … | 〈3.4〉 | ナデ | ナデ | ナデ | 底部破片 | |
| 324 | 仮70 | 13 | RD299 | 埋土 | 平安 | 土師器 | 高台付坏 | － | － | 8.7 | 〈1.5〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | 台部破片 | |
| 325 | 仮374 | 13 | RD299 | 埋土 | 平安 | 須恵器 | 長頸瓶 | － | － | － | 〈5.0〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | 頸部～胴部破片 | 頸部にリング状突起？ |
| 326 | 仮69 | 13 | RD301 | 埋土/2層 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | … | 11.1 | 〈3.1〉 | ハケメ | ハケメ | 木葉痕 | 底部1/2 | |
| 327 | 仮384 | 13 | RD301 | RD301壁際最下層(3層下位)/トレンチ3 | 平安 | 須恵器 | 長頸瓶？ | － | － | (7.0) | 〈3.9〉 | ロクロナデ 底部 ナデ | ロクロナデ | 回転糸切り→高台貼付 | 胴部下端～底部破片 | 胎土に白色粒、黒色粒 |
| 328 | 仮339 | 13 | RD307 | 3層 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 〈2.9〉 | 口 ヨコナデ ナデ | 口 ヨコナデ | … | 口縁部破片 | |
| 329 | 仮338 | 13 | RD308 | 1層 | 平安 | 土師器 | 坏 | … | (14.6) | (5.8) | 4.7 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/4 | |
| 330 | 仮342 | 13 | RD312 | 1層・2層/西半 2層/東半 2層 | 平安 | 土師器 | 甕 | … | (16.7) | (9.7) | 31.7 | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | 木葉痕 | 1/3 | 被熱による器面、粘土紐のはがれ、器形のゆがみ |
| 331 | 仮344 | 13 | RD312 | 西半 2層 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (18.4) | … | 〈12.1〉 | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ ナデ | -- | 口～胴部1/2 | 被熱による器面、粘土紐のはがれ、器形のゆがみ |
| 332 | 仮345 | 13 | RD312 | 埋土/東半 2層 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (21.2) | － | 〈6.2〉 | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ ナデ | － | 口～胴部破片 | 被熱による器面、粘土紐のはがれ、器形のゆがみ |
| 333 | 仮343 | 13 | RD312 | 西半 2層 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (21.2) | － | 〈6.2〉 | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | 木葉痕 | 口～胴部破片 | 外面にススス？ |
| 334 | 仮340 | 13 | RD312 | 1層/西半 2層/東半 2層 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | 9.4 | 〈13.3〉 | ハケメ | ケズリ | 木葉痕 | 胴部以下1/3 | 被熱による器面、粘土紐のはがれ、器形のゆがみ |
| 335 | 仮341 | 13 | RD312 | 西半 2層/東半 2層 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | 9.3 | 〈5.3〉 | ハケメ | ケズリ | 木葉痕 | 胴部下端～底部 | 被熱による器面、粘土紐のはがれ、器形のゆがみ |
| 336 | 仮334 | 14 | RD320 | 1層 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 〈3.6〉 | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | 口 ヨコナデ 胴 ナデ | － | 口縁部破片 | |
| 337 | 仮335 | 14 | RD320 | 底直 土器1 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | － | 〈3.9〉 | 口 ヨコナデ 胴 ハケメ | 口 ヨコナデ | － | 口縁部破片 | |
| 338 | 仮47 | 14 | RD322 | 埋土 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | － | 5.8 | 〈1.5〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部破片 | |
| 339 | 仮60 | 14 | RD322 | 埋土 | 平安 | 土師器 | 甕 | － | － | 7.5 | 〈11.7〉 | ナデ | ケズリ | ナデ | 胴部下半2/3 | 底部モミ痕 |
| 340 | 仮67 | 13 | RE007 | 埋土/2層 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (14.4) | (7.2) | 5.1 | ミガキ | ロクロナデ | 摩滅？ | 1/2 | 側面に刻書「二万」 |
| 341 | 仮66 | 13 | RE007 | 粘床(4層) | 平安 | 土師器 | 坏 | － | － | 6.2 | 〈2.1〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 底部破片 | |
| 342 | 仮71 | 14 | RG058 | 埋土上位/1層 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (15.0) | (5.4) | 4.7 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り | 1/4 | |
| 343 | 仮6 | 14 | 遺構外 | RA115 Q3 1層・2層(一括土器) | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | 12.8 | 5.8 | 5.8 | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切り | 略完形 | ロクロ整形 |
| 344 | 仮292 | 13 | 遺構外 | RA117 Q1 1層/A-A'ベルト 1層・2層 | 平安 | 土師器 | 坏 | 内面 | (13.8) | 6.8 | 4.5 | ミガキ | ロクロナデ 胴下端 回転？ヘラケズリ | 回転糸切り→一部回転？ヘラケズリ | 2/3 | 側面「七万」(鏡像)刻位 |
| 345 | 仮262 | 14 | 遺構外 | RA119 Q3 1層 | 平安 | 土師器 | 坏 | － | (15.8) | 4.5 | 〈5.4〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切り→再調整 | 1/3完形 | |
| 346 | 仮105 | 14 | 遺構外 | 3M20e 風倒木 黒褐色シルト | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (16.0) | － | 〈7.2〉 | ロクロナデ | ロクロナデ | － | 口～胴部破片 | |
| 347 | 仮106 | 14 | 遺構外 | 3M20e 風倒木 黒褐色シルト | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (21.0) | － | 〈15.0〉 | ロクロナデ | 口 ロクロナデ 胴 ケズリ | － | 口～胴部破片 | |
| 348 | 仮100 | 14 | 遺構外 | 3M20e 風倒木 黒褐色シルト | 平安 | 土師器 | 甕 | － | (21.0) | -- | 〈14.2〉 | ロクロナデ | 口 ロクロナデ 胴ケズリ | － | 口～胴部 1/3 | |
| 349 | 仮72 | 14 | 遺構外 | 3L21 直根？跡 | 平安 | 土師器 | 甕 | … | -- | (7.7) | 〈2.2〉 | ハケメ | ハケメ | 木葉痕 | 底部破片 | |
| 350 | 仮331 | 14 | 遺構外 | RD329(築3)埋土中 | 平安 | 土師器 | 甕 | … | -- | (6.0) | 〈1.9〉 | ナデ | ケズリ | ナデ | 底部破片 | |
| 351 | 仮387 | 14 | 遺構外 | 3M21c 撹乱層 | 平安 | 須恵器 | 長頸瓶 | … | － | － | 〈4.4〉 | ロクロナデ ナデ | ロクロナデ | － | 頸部 | リング状突起あり |
| 352 | 仮365 | 14 | 遺構外・RA071 | RA119 1層(黄褐色土)/9次166(RA071カマド左側底面) | 平安 | 須恵器 | 広口壺 | － | (17.4) | － | 〈16.9〉 | ロクロナデ、胴部下半ナデ | タタキ？→ロクロナデ 胴部下半 ケズリ | － | 口～胴部破片 | 内外一部被化色 135と同一 |
| 353 | 仮388 | 14 | 遺構外・RA080 | 3M17b 撹乱層/RA080 Q4 ② 3層 | 平安 | 須恵器 | 甕 | － | － | － | -- | 頸部ナデ 胴部あて具 | 頸部 ナデ 胴部 タタキ | － | 胴部上端破片 | 胎土に白色粒、黒色粒 215と同一 |

## 第13表　石器・ガラス製品観察表

| 掲載No. | 調査次数 | 遺構名 | 出土地点 | 層位 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 401 | 14次 | RA125 | 18号住石No.1 | 埋土下位 | 台石？ | 22.3 | 15.2 | 15.5 | 4250 | 安山岩 | 磨面あり、欠損 |
| 402 | 14次 | RA128 | 27号住 | 床より1cm上 | 磨石 | 11.9 | 6.5 | 3.1 | 268.4 | 安山岩 | 楕円形、欠損 |
| 403 | 14次 | RA129 | 20号住カマド支脚・土坑2・石6 | 埋土上・壁際 | 台石 | 25.6 | 18.0 | 10.2 | 3100 | 安山岩 | 磨面あり、石皿状、欠損、※3片が接合 |
| 404 | 14次 | RA131 | 11号住Q2 | 1層 | 砥石 | 22.6 | 9.9 | 8.0 | 2370 | 凝灰岩 | 3面に砥痕あり |
| 405 | 14次 | RA131 | 11号住Q1 | 東壁際土 | 砥石 | (10.7) | (6.9) | 5.0 | 200.7 | 安山岩 | 軽石？、欠損 |
| 406 | 14次 | RA131 | 11号住出入口 | 黒色土中(人為層) | 砥石？ | 8.0 | 6.3 | 4.4 | 76 | 軽石 | 3面に砥痕あり、産地不明 |
| 407 | 14次 | RA132 | 17号住石10？ | | 磨石 | 16.2 | 9.6 | 3.3 | 717.5 | 細粒閃緑岩 | 両面に磨面、欠損 |
| 408 | 14次 | RA132 | 17号住石11 | 埋土下位 | 磨石 | 8.3 | 5.9 | 5.5 | 220.5 | 安山岩 | ほぼ全面磨耗痕あり |
| 409 | 14次 | RA132 | 17号住石9 | 埋土下位 | 砥石 | 12.6 | 8.1 | 4.1 | 662.4 | 凝灰岩 | 4面に砥痕あり |
| 410 | 14次 | RA132 | 17号住Q1 | 埋土下位 | 砥石 | 13.1 | 5.8 | 7.8 | 276.8 | 安山岩 | 両面に磨面（砥痕？）あり、欠損 |
| 411 | 14次 | RA132 | 17号住石5 | 2層 | 台石？ | (19.2) | 17.0 | 7.4 | 1852.3 | 安山岩 | 磨面あり、欠損 |
| 412 | 14次 | RA137 | 8号住Q1石器1 | 1層 | 砥石 | 7.6 | 2.9 | 2.4 | 56.1 | 凝灰岩 | 4面に砥痕あり |
| 413 | 13次 | RA140 | 30号住2号カマド | 焼土上3cm | 敲石 | 19.3 | 5.2 | 5.1 | 722.9 | 安山岩 | 棒状で、先端に敲打 |
| 414 | 13次 | RA141 | 33号住石4 | 埋土最下位 | 台石 | 16.8 | 14.8 | 6.6 | 1538.7 | 安山岩 | 磨面あり、石皿状、 |
| 415 | 14次 | RA146 | 12号住石1 | 埋土最下位 | 砥石 | 13.7 | (8.5) | 4.5 | 277.3 | 安山岩 | 磨面・砥痕あり、欠損 |
| 416 | 14次 | RA146 | 12号住1号カマド石2 | 煙出下層 | 砥石 | 19.8 | 16.5 | 6.7 | 1423.3 | 安山岩 | 磨面・砥痕？あり、欠損 |
| 417 | 14次 | RA146 | 12号住石3 | 壁際埋土最下位 | 砥石 | 14.0 | 9.8 | 6.4 | 539.8 | 安山岩 | 磨面あり、欠損 |
| 418 | 14次 | RA149 | 10号住Q4 | 床直 | 台石 | 27.2 | 18.7 | 8.2 | 3340 | 安山岩 | 磨面あり |
| 419 | 14次 | RA149 | 10号住Q2 | 埋土上位 | 石錘 | 10.4 | 10.1 | 2.5 | 366.2 | 頁岩 | 縁辺に磨耗痕が全周する |
| 420 | 14次 | RD317 | 69号土坑 | 1層中位 | ガラス玉 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 0.2 | | 孔は2mmで両側から穿孔されている。 |
| 421 | 14次 | RD317 | 69号土坑 | 埋土中 | ガラス玉 | 0.6 | 0.6 | 0.5 | 0.3 | | 孔は2mmで両側から穿孔されている。 |

## 第14表　土製品観察表

| 掲載No. | 遺構名 | 出土地点 | 層位 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 501 | RA129 | 20号住Q2 | 埋土中 | 土製品 | 2.60 | 2.80 | 1.90 | (6.8) | |
| 502 | RA130 | 24号住 | カマド袖芯材 | 土製品 | (21.10) | (12.30) | 10.00 | (1840.0) | ※ほぼ全面が被熱、炉壁？ |
| 503 | RA131 | 11号住Q2 | 床面直上 | 土製品 | 3.80 | 2.30 | 1.50 | (10.8) | |
| 504 | RA131 | 11号住Q1 | 床面 | 土玉 | 1.3 | 0.9 | 0.9 | 1.2 | 穿孔部は1.5mm。 |
| 505 | RA146 | 12号住Q1 | 3層 | 土製品 | 5.40 | 2.60 | 1.20 | (15.7) | |
| 506 | RA146 | 12号住Q2 | 3層 | 土製品 | 3.60 | 3.60 | 1.50 | (11.5) | |

## 第15表　古代金属製品観察表

| 掲載No. | 遺構名 | 出土地点 | 層位 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 601 | RA113 | 16号住Q2 | 2層 | 板状 | (2.10) | (1.60) | 0.20 | (1.5) | 孔有り |
| 602 | RA113 | 16号住Q3 | 2層下位 | 刀子 | (4.30) | 0.80 | 0.50 | (3.1) | 603と同一個体。※保存処理後に接合が判明。 |
| 603 | RA113 | 16号住Q3 | 2層下位 | 刀子 | (3.10) | 0.80 | 0.50 | (2.0) | 602と同一個体。※保存処理後に接合が判明。 |
| 604 | RA124 | 22号住Q1 | 埋土下位 | 不明 | 4.50 | 1.40 | 0.40 | 5.9 | |
| 605 | RA125 | 18号住鉄1 | 床直 | 刀子 | (11.55) | 1.10 | 0.50 | (12.0) | 3片が接合。 |
| 606 | RA131 | 11号住Q4 | 床面 | 鏃 | 6.15 | 2.60 | 0.35 | 16.3 | おひきがね？ |
| 607 | RA131 | 11号住Q3 | 1層 | 釘？ | 5.30 | 0.90 | 0.50 | 6.3 | |
| 608 | RA132 | 17号住Q6 | 貼床(10層) | 刀子 | | | | | |
| 609 | RA132 | 17号住Q6 | 2層 | 刀子 | (2.60) | (0.90) | 0.40 | (1.4) | |
| 610 | RA132 | 17号住鉄2 | 4層下位 | 鉄族 | (6.70) | (0.80) | 0.45 | 2.7 | |
| 611 | RA132 | 17号住鉄3 | 4層 | 棒状 | (9.70) | 0.70 | 0.60 | (8.5) | 610に類似する。 |
| 612 | RA132 | 17号住鉄1 | 4層 | 刀子 | (19.70) | 1.70 | 0.50 | (30.9) | 3片に分かれて出土、接合する可能性あり。 |
| 613 | RA132 | 17号住鉄4 | 床直 | 鋤先 | 11.60 | 14.10 | 1.20 | 122.4 | |
| 614 | RA132 | 17号住鉄5 | 4層 | 不明 | 11.15 | 1.80 | 0.30 | 11.1 | 両端に孔有り。接合した3片を合せて614と命名し、接合しない1片を615とした。 |
| 615 | RA132 | 17号住鉄5 | 4層 | 不明 | (1.90) | 0.75 | 0.30 | (0.3) | 614と同一個体 |
| 616 | RA132 | 17号住 | 4層 | 刀子 | (2.30) | (1.60) | (0.85) | (4.2) | |
| 617 | RA132 | 17号住 | 4層 | 刀子 | (5.20) | 1.05 | 0.70 | (4.3) | |

| 掲載No. | 遺構名 | 出土地点 | 層位 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 618 | RA132 | 17号住クリの下 | 4層 | 釘？ | 3.90 | 0.70 | 0.25 | 0.5 | ウオーターセパレーション |
| 619 | RA132 | 17号住中央部炭化果実 | 4層 | 釘？ | 1.80 | 0.40 | 0.20 | 0.4 | ウオーターセパレーション |
| 620 | RA132 | 17号住28 | 4層 | 不明 | 1.50 | 0.90 | 0.25 | 0.3 | ウオーターセパレーション |
| 621 | RA143 | 36号住Q2 | 埋土中(1層) | 刀子 | (4.60) | 1.20 | 0.30 | (3.6) | |
| 622 | RA144 | 29号住Q1 | 埋土中 | 釘？ | (3.15) | 0.50 | 0.35 | (1.0) | |
| 623 | RA146 | 12号住Q1 | 1層 | 刀子 | 2.60 | 1.15 | | (1.6) | |
| 624 | RA146 | 12号住Q2 | 上層 | 刀子 | (2.00) | 1.10 | 0.20 | (0.9) | 2片が接合 |
| 625 | RA146 | 12号住Q1 | 3層 | 刀子 | (5.70) | 1.40 | 0.50 | (3.7) | 626と同一固体(3片に分かれて出土し、1片は不掲載)。 |
| 626 | RA146 | 12号住Q1 | 3層 | 刀子 | (2.80) | (1.00) | 0.55 | (2.9) | 625と同一固体(3片に分かれて出土し、1片は不掲載)。 |
| 627 | RA146 | 12号住Q2 | 上層 | 刀子 | (2.45) | 0.9 | | (1.8) | 柄？ |
| 628 | RA146 | 12号住土坑1 | 埋土の直上 | 刀装？ | 3.80 | 3.50 | 0.40 | (16.2) | 銅付着 |
| 629 | RA146 | 12号住鉄1 | 5層 | 鉄族 | 14.80 | 3.00 | 0.60 | 21.2 | |
| 630 | RA147 | 28号住Q2 | 1層 | 不明 | 9.40 | 2.05 | 0.50 | 12.0 | 両端に孔有り。601・614と類似する。 |
| 631 | RA148 | 6号住Q3 | 3層下位 | 刀子 | (5.00) | 1.40 | 0.35 | 5.6 | |
| 632 | RA148 | 6号住土器12 | カマド前埋土下位 | 不明 | (2.60) | 0.90 | 0.70 | (0.8) | |
| 633 | RA148 | 6号住鉄1 | 埋土下位 | 鉄族 | 12.60 | 3.50 | 0.40 | 20.2 | 2片が接合 |
| 634 | RA149 | 10号住鉄1 | 埋土下位 | 刀子 | (12.80) | 1.60 | 0.50 | 7.6 | 2片が接合、木質？付着あり。 |
| 635 | RD317 | 69号土坑 | 埋土中 | 刀子 | 7.00 | 0.60 | 0.40 | 2.9 | ※の9片が一括出土し、内2点がが接合。636～642と同一個体 |
| 636 | RD317 | 69号土坑 | 埋土中 | 刀子 | 3.75 | 1.60 | 0.40 | 3.1 | 635・637～642と同一個体 |
| 637 | RD317 | 69号土坑 | 埋土中 | 刀子 | 2.30 | 1.30 | 0.30 | 1.2 | 635・636・638～642と同一個体 |
| 638 | RD317 | 69号土坑 | 埋土中 | 刀子 | 14.60 | 1.10 | 0.35 | 7.5 | 635～637・639～642と同一個体 |
| 639 | RD317 | 69号土坑 | 埋土中 | 刀子 | 3.10 | 0.90 | 0.40 | 1.8 | 635～638・640～642と同一個体 |
| 640 | RD317 | 69号土坑 | 埋土中 | 刀子 | (3.70) | 0.95 | 0.40 | 2.1 | 635～640・641・642と同一個体 |
| 641 | RD317 | 69号土坑 | 埋土中 | 刀子 | (6.90) | 1.00 | 0.60 | 3.7 | 635～640・642と同一個体 |
| 642 | RD317 | 69号土坑 | 埋土中 | 刀子 | (4.30) | 1.20 | 0.50 | (3.2) | 635～641と同一個体 |
| 643 | RE007 | 1号竪穴状遺構 | 埋土上層 | 刀子 | (4.10) | 2.30 | 0.30 | (1.7) | 2片が接合。 |
| 644 | RD317 | 69号土坑 | 1層中位 | 銅製品 | 1.70 | 1.80 | 0.30 | 0.6 | 3片に分かれて出土。 |

## 第16表　近世墓出土金属製品観察表

| 掲載No. | 次数 | 遺構名 | 出土地点 | 層位 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 穿径(cm) | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 645 | 14 | RD325 | 25号土坑 | 埋土中 | キセル | <6.9> | 1.00 | 1.00 | － | 16.0 | |
| 646 | 14 | RD325 | 25号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝 | 2.30 | 2.30 | 0.10 | 0.58 | 2.3 | |
| 647 | 14 | RD325 | 25号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝(古) | 2.36 | 2.36 | 0.13 | 0.56 | 2.4 | |
| 648 | 14 | RD325 | 25号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝 | 2.44 | 2.47 | 0.12 | 0.63 | 2.5 | 新・古不明 |
| 649 | 14 | RD325 | 25号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝 | 2.35 | 2.33 | 0.11 | 0.62 | 2.5 | |
| 650 | 14 | RD325 | 25号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝 | 2.48 | 2.49 | 0.13 | 0.56 | 3.1 | |
| 651 | 14 | RD326 | 29号土坑 | 埋土中 | 釘 | (3.40) | － | － | － | 1.1 | |
| 652 | 14 | RD326 | 29号土坑 | 埋土中 | 釘 | (5.00) | － | － | － | 2.9 | |
| 653 | 13 | RD326 | 29号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝 | 2.34 | 2.28 | 0.15 | 0.61 | 1.9 | |
| 654 | 14 | RD326 | 29号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝 | 2.40 | 2.37 | 0.17 | 0.49 | 2.5 | |
| 655 | 14 | RD326 | 29号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝 | 2.36 | 2.35 | 0.12 | 0.58 | 2.6 | |
| 656 | 13 | RD326 | 29号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝 | 2.31 | 2.29 | 0.12 | 0.64 | 1.8 | |
| 657 | 14 | RD326 | 29号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝 | 2.28 | 2.30 | 0.14 | 0.60 | 2.3 | 裏面に「元」 |
| 658 | 14 | RD326 | 29号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝 | 2.29 | 2.36 | 0.11 | 0.65 | 2.0 | |
| 659 | 14 | RD328 | 32号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝 | 2.33 | 2.33 | 0.11 | 0.61 | 2.3 | |
| 660 | 13 | RD328 | 32号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝 | 2.47 | 2.46 | 0.14 | 0.59 | 3.7 | 裏面に「仙」 |
| 661 | 14 | RD328 | 32号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝 | 2.52 | 2.53 | 0.15 | 0.57 | 3.7 | 裏面に「文」1668年 |
| 662 | 14 | RD328 | 32号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝 | 2.54 | 2.53 | 0.14 | 0.57 | 3.6 | 裏面に「文」1668年 |

| 掲載No. | 次数 | 遺構名 | 出土地点 | 層位 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 穿径(cm) | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 663 | 14 | RD328 | 32号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝 | 2.33 | 2.33 | 0.10 | 0.59 | 2.3 | |
| 664 | 14 | RD328 | 32号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝(古) | 2.41 | 2.41 | 0.14 | 0.56 | 3.1 | |
| 665 | 14 | RD331 | 7号土坑 | 1層 | 寛永通宝 | 2.61 | 2.61 | 0.25 | 0.60 | 3.7 | 新・古不明※旧地権者に返却 |
| 666 | 14 | RD331 | 7号土坑 | 1層 | 寛永通宝(新) | 2.26 | 2.26 | 0.10 | 0.68 | 1.8 | ※旧地権者に返却 |
| 667 | 14 | RD331 | 7号土坑 | 1層 | 寛永通宝(新) | 2.24 | 2.24 | 0.11 | 0.63 | (1.3) | ※旧地権者に返却 |
| 668 | 14 | RD331 | 7号土坑 | 1層 | 寛永通宝 | 2.35 | 2.34 | 0.10 | 0.62 | (2.0) | 新・古不明※旧地権者に返却 |
| 669 | 14 | RD331 | 7号土坑 | 1層 | 寛永通宝(新) | (2.29) | 2.28 | 0.08 | 0.62 | (1.4) | ※旧地権者に返却 |
| 670 | 14 | RD331 | 7号土坑 | 埋土中位 | 柄鏡 | 9.03 | 9.03 | 0.35 | — | 113.8 | 銘：天下一藤原重義※旧地権者に返却 |
| 671 | 14 | RD331 | 7号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝(新) | 2.34 | 2.34 | 0.14 | 0.61 | 2.4 | ※旧地権者に返却 |
| 672 | 14 | RD331 | 7号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝(新) | 2.48 | 2.51 | 0.18 | 0.57 | 3.9 | ※旧地権者に返却 |
| 673 | 14 | RD331 | 7号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝(新) | 2.36 | 2.32 | 0.12 | 0.60 | 2.5 | ※旧地権者に返却 |
| 674 | 14 | RD331 | 7号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝(新) | 2.30 | 2.29 | 0.12 | 0.59 | 2.1 | ※旧地権者に返却 |
| 675 | 14 | RD331 | 7号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝 | 2.39 | 2.38 | 0.12 | 0.59 | 2.1 | 新・古不明※旧地権者に返却 |
| 676 | 14 | RD331 | 7号土坑 | 埋土中 | 寛永通宝(新) | 2.45 | 2.45 | 0.17 | 0.56 | 2.7 | ※旧地権者に返却 |
| 677 | 14 | RD332 | 1号土坑 | 4層 | キセル | (6.30) | 0.80 | 0.80 | | | 木の筒と吸い口※旧地権者に返却 |
| 678 | 14 | RD332 | 1号土坑 | 4層 | キセル | (7.30) | 0.90 | 0.90 | | (5.5) | ※旧地権者に返却 |
| 679 | 14 | RD332 | 1号土坑 | 4層 | 寛永通宝(古) | 2.47 | 2.47 | 0.11 | 0.56 | 2.5 | ※旧地権者に返却 |
| 680 | 14 | RD332 | 1号土坑 | 4層 | 寛永通宝(新) | 2.44 | 2.44 | 0.11 | 0.55 | 2.7 | ※旧地権者に返却 |
| 681 | 14 | RD332 | 1号土坑 | 4層 | 寛永通宝(新) | 2.19 | 2.17 | 0.12 | 0.69 | 2.0 | ※旧地権者に返却 |
| 682 | 14 | RD332 | 1号土坑 | 4層 | 不明 | 2.39 | 2.39 | 0.14 | 0.53 | 3.1 | ※旧地権者に返却 |
| 683 | 14 | RD332 | 1号土坑 | 4層 | 寛永通宝(新) | 2.33 | 2.31 | 0.13 | 0.63 | 2.6 | 小孔あり※旧地権者に返却 |

## 第17表　近世陶磁器観察表

| 掲載No. | 調査次数 | 出土地点 | 旧出土地 | 層位 | 種類 | 産地 | 時代 | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 701 | 14次 | RG069 | 5号溝 | 埋土中 | 徳利か急須 | 不明 | 近世？ | 15.7 | |
| 702 | 14次 | RG069 | 5号溝 | 埋土中 | 端反椀 | 瀬戸産 | 19世紀前～中葉 | 11.5 | |
| 703 | 14次 | RG069 | 5号溝西端付近 | 埋土中 | 碗 | 瀬戸産 | 19世紀前～中葉 | 40.5 | |
| 704 | 14次 | RG069 | 5号溝西端付近 | 埋土中 | 碗 | 不明 | 近世？ | 33.1 | 19世紀前～中葉？ |
| 705 | 14次 | RG069 | 5号溝西端付近 | 埋土中 | 皿 | 瀬戸・美濃産？ | 近世 | 31.1 | |
| 706 | 14次 | RG069 | 5号溝北側 | 埋土中 | 土瓶 | 不明(在地産？) | 近世？ | 3.9 | |
| 707 | 14次 | RG069 | 5号溝北側 | 埋土中 | 湯飲み茶碗 | 不明(在地産？) | 近世？ | 6.4 | |
| 708 | 14次 | RG069 | 5号溝南側 | 埋土中 | 急須？ | 不明(在地産？) | 近世？ | 1.5 | |
| 709 | 14次 | RG069 | 5号溝南側 | 埋土中 | 皿 | 肥前 | 18世紀後半 | 46.6 | |
| 710 | 14次 | RG069 | 5号溝南側 | 埋土中 | 端反椀 | 不明 | 不明 | 6.2 | |
| 711 | 14次 | RG073 | 18号溝 | 埋土中 | 鉢 | 肥前？ | 近世 | 27.6 | 5M7rグリッド付近 |
| 712 | 14次 | RG073 | 18号溝 | 埋土中 | 湯飲み茶碗 | 不明 | 近世 | 33.4 | 5M7rグリッド付近 |
| 713 | 14次 | 遺構外 | 3M17b | 撹乱層 | 鉢 | | 近世？ | 180.2 | |
| 714 | 14次 | 遺構外 | 3M6j | 撹乱層 | 鉄絵皿 | 美濃 | 16世紀末～17世紀初頭 | 11.2 | 大窯4期 |

土師器（内黒処理）坏

344 165 163 196 162 227

50 206 164 166 207 233

343 288 168 80 340 259

258 103 142 58 289 228

250 144 190 143 104 167

287 256 229 257 205 204

145 234 86

土師器（両面黒色処理）

208 39

土師器（非黒色処理）

236 237 264 108 112 238

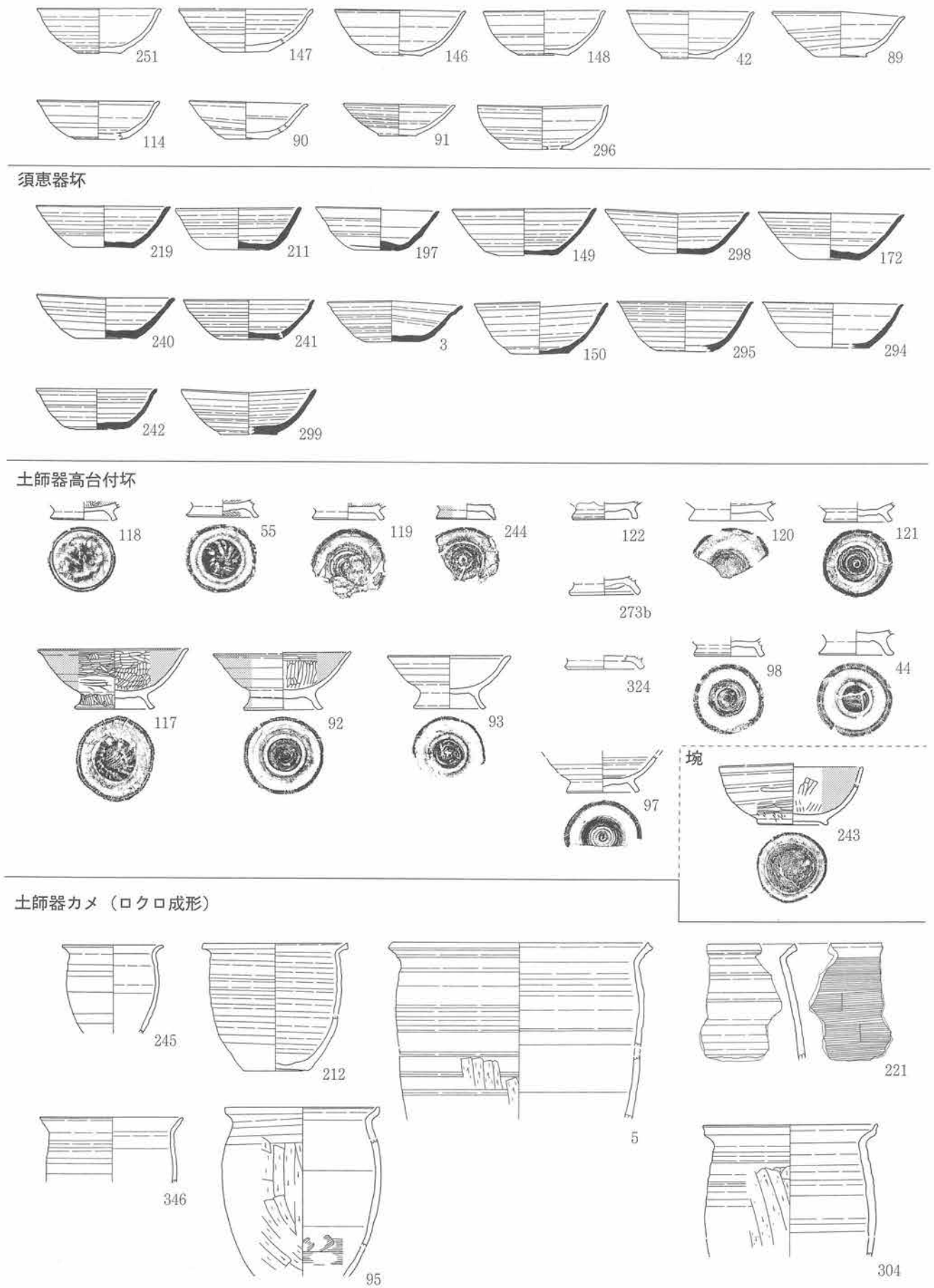
293 262 106 113 193 41

329 342 65 64 156 111

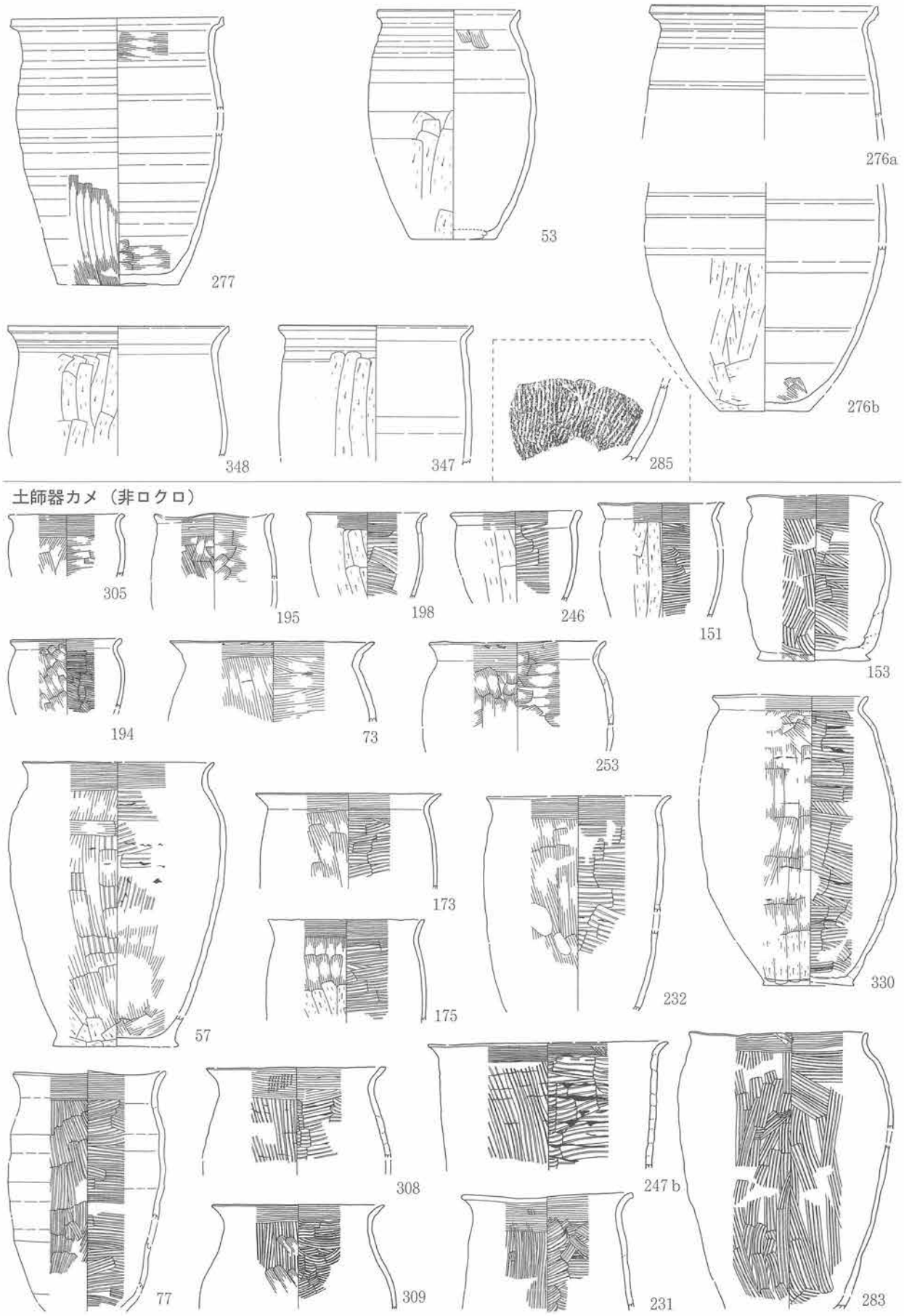
170 156 107 292 47 260

110 88 345 109 213 52

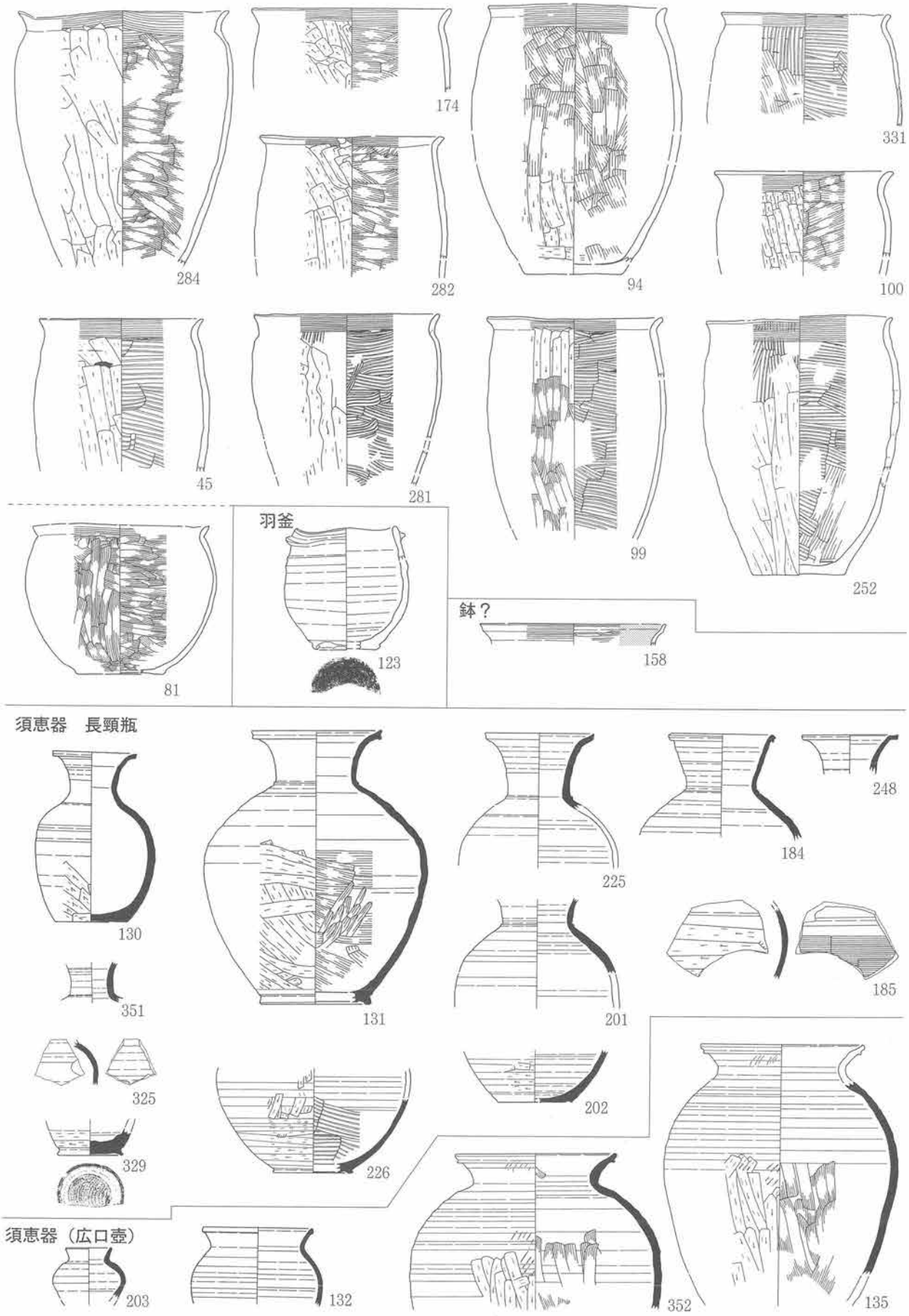
第168図　平安時代の土器器種別集成図（1）



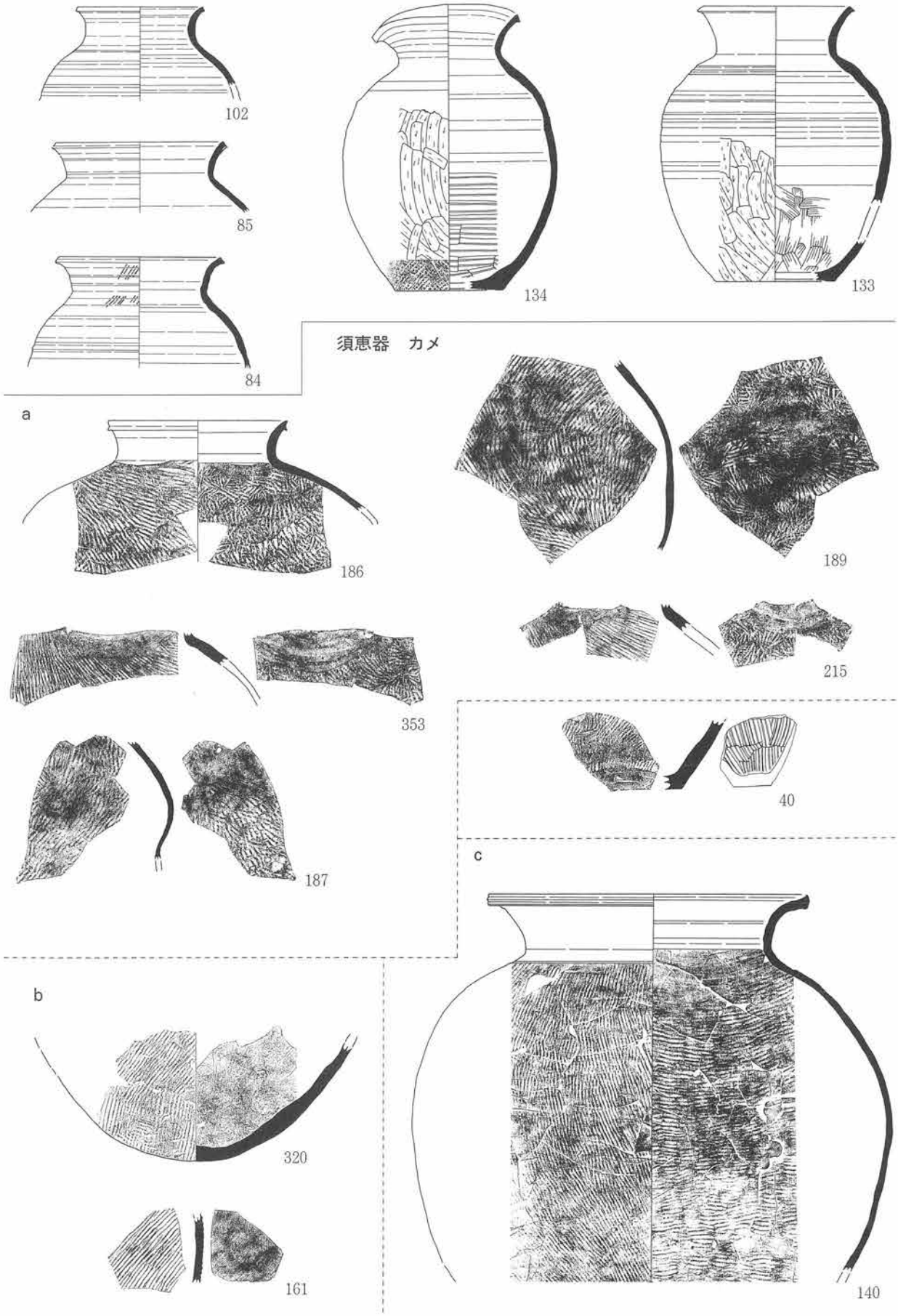

第169図　平安時代の土器器種別集成図（２）



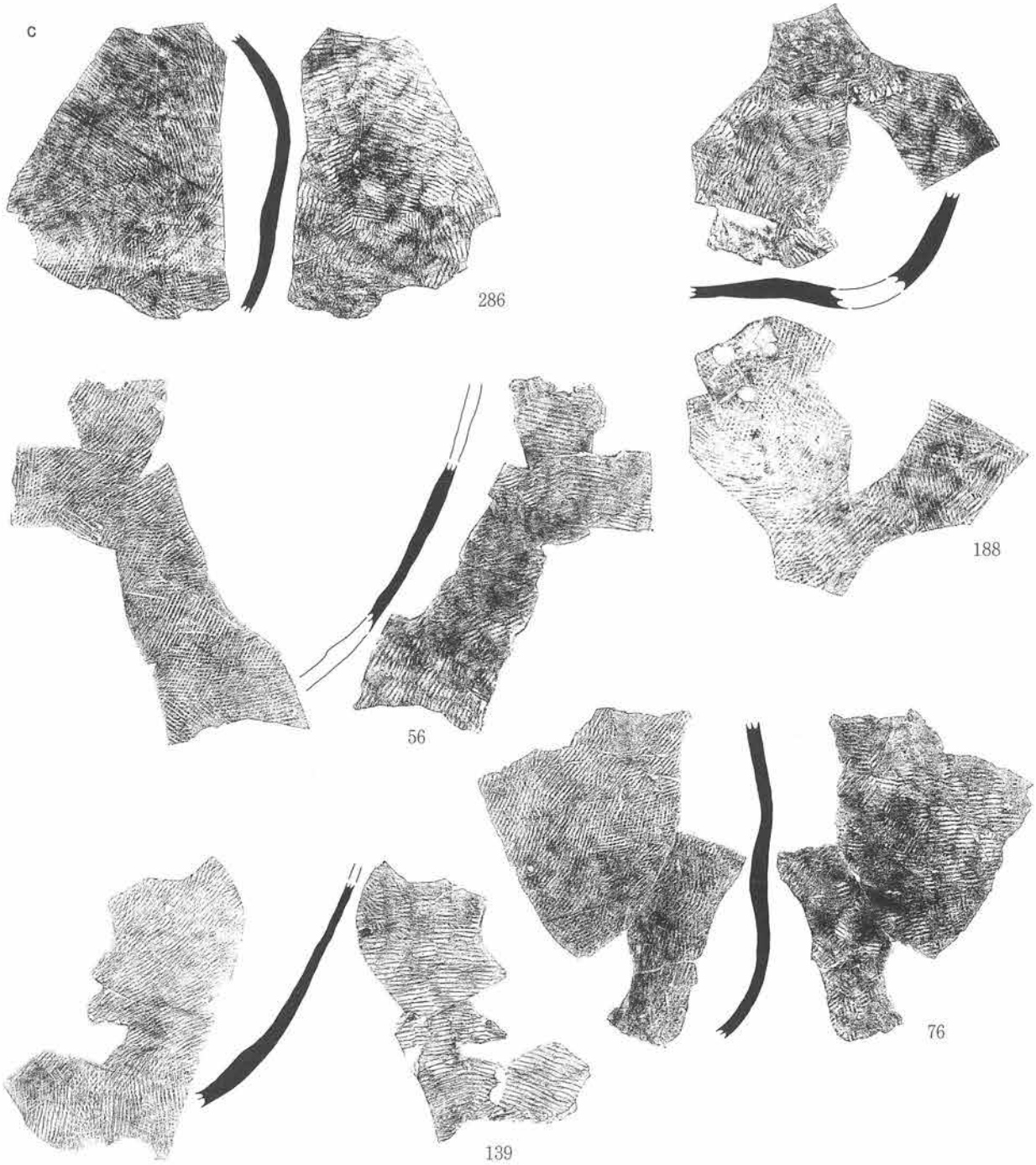

第170図　平安時代の土器器種別集成図（3）




第171図　平安時代の土器器種別集成図（4）




第172図　平安時代の土器器種別集成図（5）




第173図　平安時代の土器器種別集成図（6）

# Ⅵ まとめ

## 1 奈良時代

ここでは奈良時代の竪穴住居跡について、9・10次調査分を含めて総括する。第165図の遺構配置図は、9次・10次・13次・14次調査分を合せて図示したもので、その中で奈良時代の竪穴住居跡は19棟である（スクリーントーンで示したもの）。

先に、今回検出した奈良時代の竪穴住居跡の床面積について見ていくと、最小がRA056で4.4㎡、最大がRA114で26.4㎡である。古代の竪穴住居跡の規模に関しては、八木光則氏（八木：1992）や西野修氏（西野：1998）が、その分類・類型化を行っている。八木氏のそれに従うと、超大形60㎡以上、特大形40～60㎡、大形25～40㎡、中形15～25㎡、小形15㎡以下の5類型される。本遺跡で検出された奈良時代の竪穴住居跡について、これに準拠すると、大形1棟、中形5棟、小形12棟となり、圧倒的に小形が多い結果を示す。そして、特大形は該当が無く、大形と呼ぶ規模のものも1棟である。最も多い小形（15㎡以下）を見ると、4.4～8㎡と11～15㎡の間の2つの領域に数値のまとまりが看取される。ここでは小形の細分を目的に以下のように基準を設定し分類してみた。

小形Ⅰ：床面積8㎡未満
小形Ⅱ：床面積8㎡以上～11㎡未満
小形Ⅲ：床面積11㎡以上～15㎡未満
中形Ⅰ：床面積15㎡以上20㎡未満
中形Ⅱ：床面積20㎡以上25㎡未満
大形：床面積25㎡以上

上記の分類の結果、小形Ⅰが6棟、小形Ⅱが1棟、小形Ⅲが5棟、中形Ⅰが6棟、中形Ⅱが0棟、大形が1棟である。小形Ⅰ、小形Ⅲ、中形Ⅰについては、ほぼ同じ割合で見られ、これら3類型が本遺跡の該期竪穴住居跡において顕著に見られる規模と判断される。また、中形Ⅱに該当がない。このことから、床面積20㎡以上の規模のものは本遺跡では希少性が高いことが指摘できよう。以上が、細谷地遺跡の該期竪穴住居跡の規模的特徴である。ここからは、上記した類型を基に、諸要素について、若干の分析と総括を行う。

**①平面形**

竪穴住居跡の平面形について、その傾向を探る。一辺の長さについて見ていくと、最大でRA062の6.2m、最小でRA056の2.67mである。個々の竪穴住居跡を見ると、数値にバラツキが散見されるものの、3～4.5mが多い様相である。

次に、長辺と短辺の割合を規模別に見てみると、小形Ⅰは1.03～1.3対1、小形Ⅱは1.03対1、小形Ⅲは1.05～1.25対1、中形Ⅰは1～1.4対1、大形は1対1となる。従って、長辺と短辺の割合は、竪穴住居跡の規模に関わらず、1対1から1.2対1に数値のまとまりを示し、長辺に対して短辺がやや短い、方形気味の形態が多いことがわかる。例外的なものとして、RA062は長辺が短辺に対して突出して長く、1.4対1を示す。このRA062は、長辺6.2m、短辺4.4mで、カマドが延びる北西－南東方向に短辺をとり、今回検出された竪穴住居跡の中においても、特異な形態と捉えられよう。

**②カマド**

カマドの特徴についてまとめてみる。

カマドの位置について、19棟全て北西壁の中心付近に位置する特徴がある。カマドの作り替えを確認できるのは、RA117の１棟のみである。基本的には作り替えは行われていないことが窺える。
カマドの袖部の構築について、以下に示すａ～ｄの４タイプが見られる。ａ「地山土やシルト土を貼り構築する」タイプが６棟、ｂ「土師器甕を芯材として倒立で埋め込み地山土を構築土とし貼り付けた」タイプが４棟、ｃ「地山を掘り残す（地山作り出し）」タイプが３棟、ｄ「礫を芯材とし構築土を貼る」タイプが２棟である。なお、袖部の残存が無く不明なものが４棟ある。これを規模別に見てみると、小形Ⅰはａ・ｄが各１棟と不明４棟である。小形Ⅱはａが１棟である。小形Ⅲはａが２棟、ｂが１棟、ｃが１棟、ｄが１棟である。中形Ⅰはａが２棟とｃが３棟である。大形はｃが１棟である。上記の結果から、ａのタイプは小形と中形全般的に、ｂ・ｄのタイプは小形に、ｃのタイプは小形Ⅲ以上の規模に見られる。

煙道部について、刳り貫き式と推定されるものが12棟、掘り込み式と推定されるものが４棟、残存状態からは判断できないものが３棟である。煙道部の長さは、73～240cmまでみられ、概ね100～180cmにおさまる。煙道部の延びる方向については、Ｎ－26°－ＷからＮ－72°－Ｗまであり、概ねＮ－45°－ＷからＮ－60°－Ｗの範囲に集中する。主体を占める刳り貫き式は、各規模を通じて見られる。また、煙道部の長さ、煙道部の延びる方向についても、大形・中形・小形による違いを看取できない。

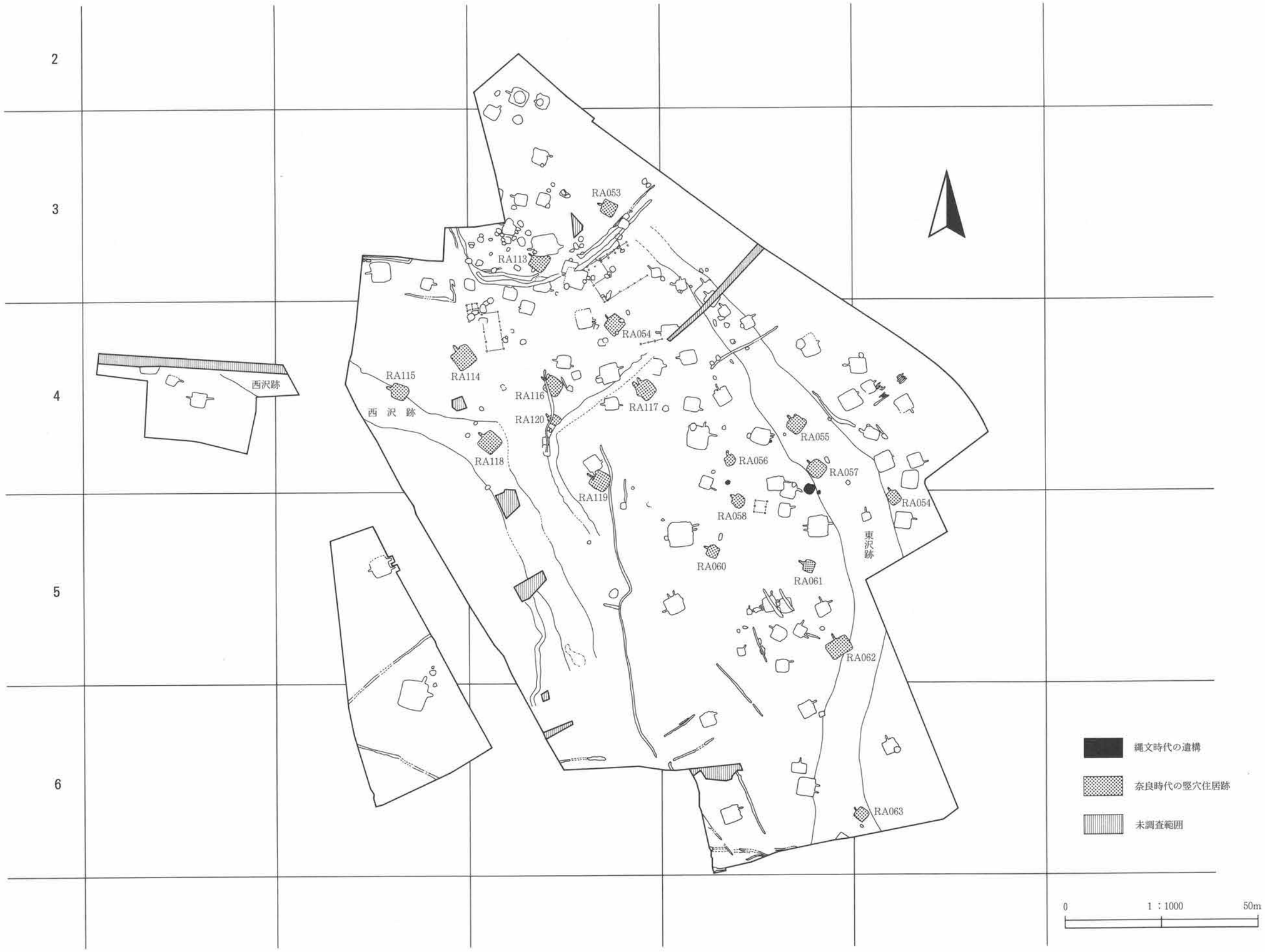
**③時期**

竪穴住居跡の年代は、出土した土師器から８世紀前半～後半の時間幅で求められよう。第13・14次調査出土の奈良時代の土師器を第175・176図に集成し示したが、器種の傾向としては甕類が多く、坏類が少ない。従って、竪穴住居跡の時期推定に際しては、出土した土師器の中で主体を占める甕類の年代が鍵を握る。盛南開発関連の調査においては、台太郎遺跡第26次調査（杉沢ほか：2002）、熊堂Ｂ25次調査（村木：2006）、野古Ａ遺跡第23・24・29次調査（福島ほか：2006）などで、時期の細分を念頭においた土師器の年代観について考察が行われている。これらの研究成果から、坏類でその時期を判断すると、№25の有段で丸底の坏からRA118は８世紀前半に、RA114・117は、№９や№22の坏から８世紀後半の可能性がある。ただし、RA118出土の甕類とRA114・117出土の甕類を比較すると、取り留めて差異を見出せず、RA118の時期を坏類からの判断で積極的に８世紀前半に位置付けられるのか躊躇いがある。その他の竪穴住居跡の時期は、甕類の編年に依存することになるが、台太郎遺跡第26次調査で杉沢氏が示した編年を参考とすると、ア体部最大径を胴部下半に持つもの、イ口縁部に稜を持ち横走沈線が施されたもの、ウ口唇部が角張って最大径を体部に持ち、底部の外方への張り出しが弱いもの、エ口縁部幅が狭くなり、器形的にはロクロ成形甕に類似するもの、の順に古いとされている。上記のとおり坏類の編年からは、竪穴住居跡の時期は８世紀前半と８世紀後半に位置付けられると捉えられるが、甕類とのセット関係を重視した場合、杉沢氏の言うウの時期に該当するものが主体を占め、時期の細分は難しい。その中で、時期差を示す可能性が窺えるものとして、口縁部幅が狭いものを主体とするRA115出土甕類を挙げておきたい。これらの甕類は、８世紀後半の中でも、他と比較してやや新しい段階となる可能性がある。

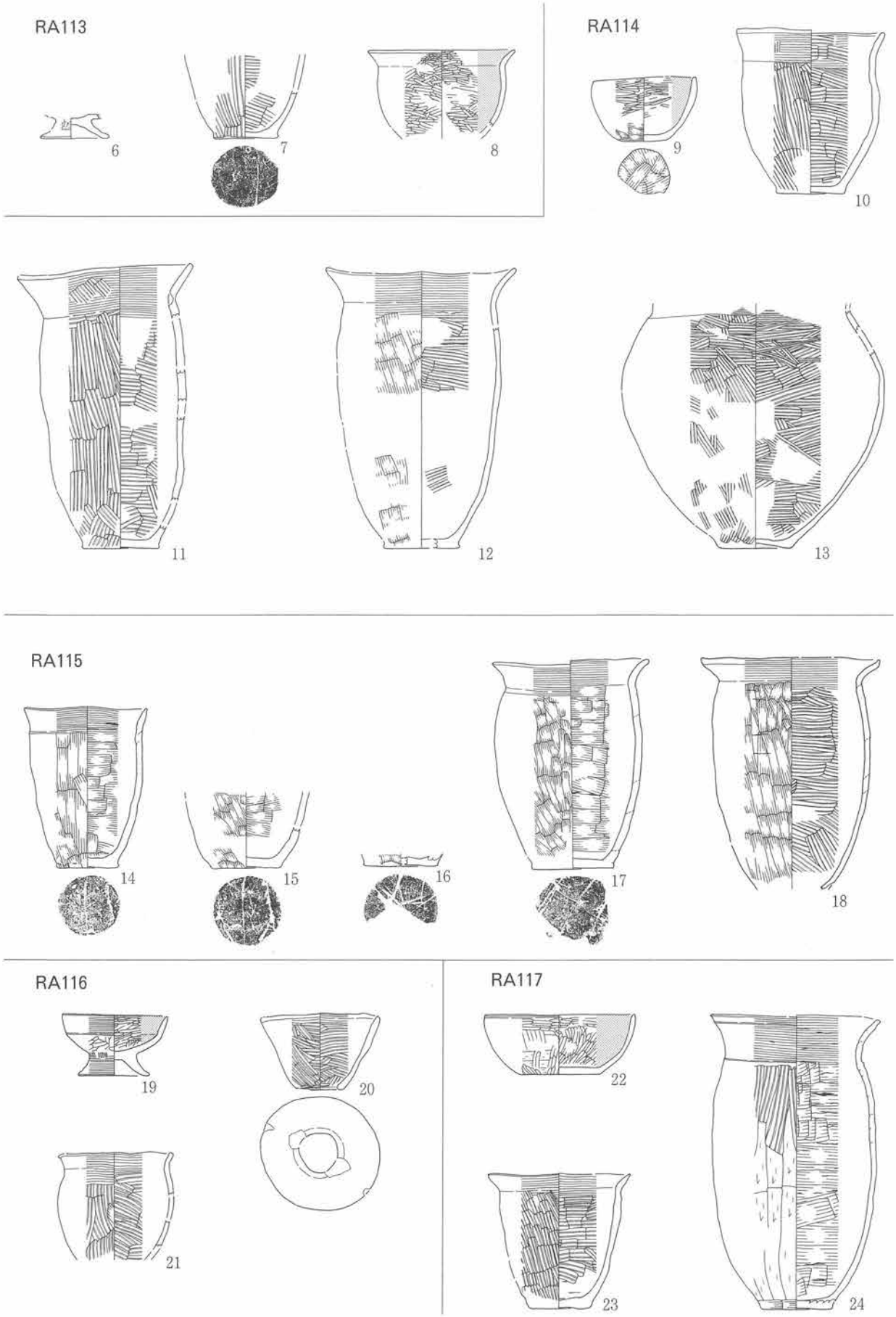
総括すると、今回検出された奈良時代の竪穴住居跡は、同時性や時期差を言及することは難しいものの、８世紀中～後半と８世紀後半を主体に、８世紀前半は極少数が存在していたと考えられる。

**④空間占地**

奈良時代の竪穴住居跡の空間占地をみると、概ね調査区を北から南に走る２条の沢跡に挟まれた空間を中心とし、そして沢跡内にも構築されていることがわかる。竪穴住居跡が占地する２条の沢跡に挟まれた空間は、東西約55m、南北約85mの広がりを持つが、これを細かく見ていくと、ア調査区中



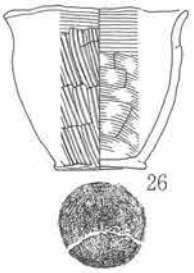

第174図　細谷地遺跡東端遺構配置図（第９次・10次・13次・14次）

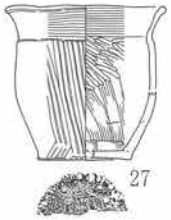


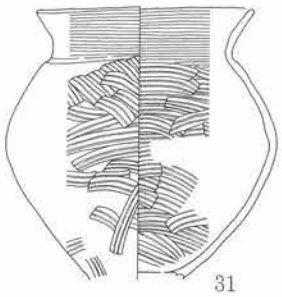

第175図　奈良時代の土器遺構別集成図（1）

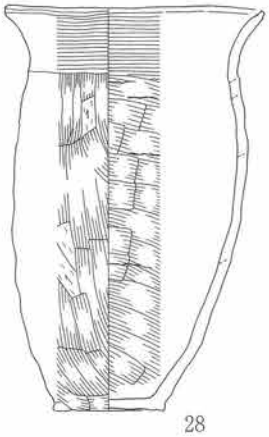
RA118

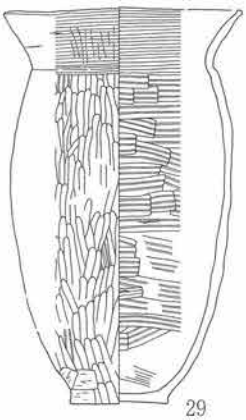
25

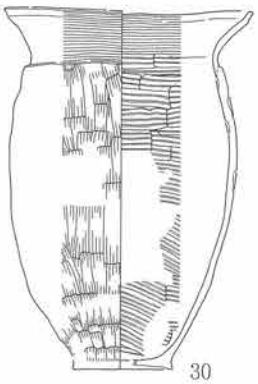

26


27

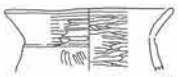

31

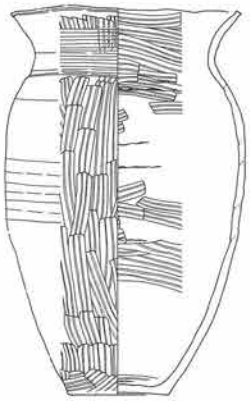

28

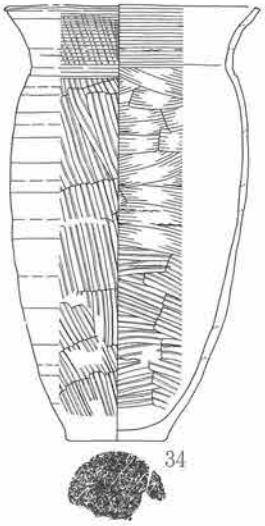

29

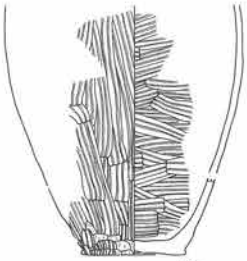

30

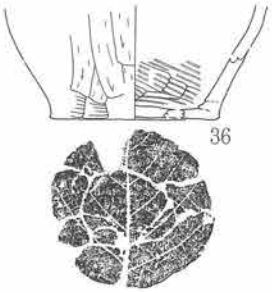
RA119


32


33

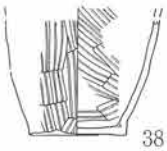

34


35


36

RA120

37


38

第176図　奈良時代の土器遺構別集成図（2）

央からやや西にかけて東西約25m南北約25mの空間と、イ調査区中央～東側にかけて東西約７m南北約15mの空間に、それぞれ規格性の高い竪穴住居跡が所在することが指摘される。具体的には、アとした空間にはRA114・116・117・118・119・120の６棟が分布するが、これらは中形Ⅰとした規模を中心に竪穴住居跡同士が、東西方向で10～11m、南北方向で８～10mの間隔を持って占地し、その中央付近に小形ⅠのRA120が位置する。このアの空間に占地する竪穴住居跡の特徴としては、全て壁溝を持つ共通点があり、また全ての竪穴住居跡から柱穴が見つかっている。そして、小形ⅠであるRA120を除き、煙道部の長さが150～180cmで、該期竪穴住居跡の平均値より長い特徴が見受けられ、全般に竪穴住居跡の規格性が高いように思われる。特記事項として、袖に甕を芯材に用いているものが３棟と屋外に柱穴を持つものが２棟含まれる。イとした空間には、RA056・058・060・061の４棟が占地するが、これらは3.5～７mの間隔を持って点在し、全て小形Ⅰの規模のものである。これら竪穴住居跡の煙道部の長さは、73～106cmで何れも短い特徴がある。

空間占地を総括すると、イとした小形Ⅰの規模のものが占地する空間を中心に捉えた場合、アとした空間が西側に広がり、東側にはRA055やRA057など小形Ⅲが、南東側にはRA062など中形Ⅰが、イの空間を取り囲むように占地する様相が想起されるように思われる。ただし、小形Ⅰの規模の竪穴住居跡自体は、RA059・120のようにイの空間以外にも、それからやや離れて占地するものも散見され、小形Ⅰが特殊な空間にのみ占地するのではないことも、併せて読みとれる。

**⑤まとめ**

奈良時代の竪穴住居跡は、小形Ⅰ、小形Ⅲ、中形Ⅰが多いことがわかった。小形Ⅰは、小形Ⅲや中形Ⅰと比較した場合、平面形（長辺と短辺の割合）・カマド・壁溝・柱穴などの構造に差異を見出せなかった。時期については、８世紀前～後半の時期幅で捉えられ、８世紀中～後半と８世紀後半が多い様相で捉えられる。そして、現状では積極的に同時性を言及できない。空間占地については、北から南に走る二条の沢跡周辺を中心とする。その中でも、中形Ⅰを中心とする空間と小形Ⅰを中心とする空間が存在するように捉えられるが、遺跡全体的には何かしらの規則性などは看取できず、点在的に占地する様相で捉えられる。

**第18表　奈良時代の竪穴住居跡一覧**

| 遺構名 | 分類 | 床面積（㎡） | 時期 | カマド方向 | カマド袖 | 煙道部 | 煙道長（cm） | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| RA053 | 小形３ | 11.6 | ８世紀後半 | N－62°－W | 礫芯材に貼る | 刳り貫き | 100 | 壁溝１条 |
| RA054 | 小形３ | 13.9 | ８世紀中頃 | N－46°－W | 構築土 | 掘り込み式 | 145 | 壁溝１条 |
| RA055 | 小形３ | 11.9 | ８世紀中～後半 | N－47°－W | 構築土貼る | 刳り貫き | 140 | 柱２本(浅い) |
| RA056 | 小形１ | 4.4 | ８世紀中～後半 | N－26°－W | 構築土 | 刳り貫き | 84 | To-a |
| RA057 | 小形３ | 13.9 | ８世紀中～後半 | N－42°－W | 甕を芯材 | 刳り貫き | 128 | 柱４個 |
| RA058 | 小形１ | 5.8 | ８世紀後半 | N－57°－W | 礫芯材に貼る | 刳り貫き | 73 | |
| RA059 | 小形１ | 6.9 | ８世紀後半 | N－35°－W | 不明 | 刳り貫き | 170 | 柱１個 |
| RA060 | 小形１ | 7.8 | ８世紀後半 | N－59°－W | 不明 | 不明 | 106 | 柱１個 |
| RA061 | 小形１ | 6.7 | ８世紀後半 | N－66°－W | 不明 | 刳り貫き | 160 | 壁溝、床下土坑 |
| RA062 | 中形１ | 19.9 | ８世紀中～後半 | N－30°－W | 構築土(シルト) | 不明 | 160 | 柱４個 |
| RA063 | 小形２ | 9.8 | ８世紀代 | N－50°－W | 構築土(シルト) | 刳り貫き | 240 | 壁溝１条 |
| RA113 | 中形１ | 15.7 | ８世紀中～後半 | N－55°－W | 構築土(地山土) | 刳り貫き | 150 | 壁溝１条 |
| RA114 | 大形 | 26.4 | ８世紀中～後半 | N－45°－W | 地山作り出し | 刳り貫き | 180 | 柱４個、壁溝１条 |
| RA115 | 小形３ | 13 | ８世紀後半 | N－72°－W | 地山作り出し | 掘り込み式 | 155 | 柱５個、壁溝１条 |
| RA116 | 中形１ | 15.6 | ８世紀後半 | N－53°－W | 地山作り出し | 掘り込み式？ | 160 | 柱３個(※屋外)、土坑２基壁溝 |
| RA117 | 中形１ | 16.3 | ８世紀後半 | N－46°－W | 甕を芯材 | 刳り貫き | 170 | 柱２個、壁溝１条 |
| RA118 | 中形１ | 19.5 | ８世紀前半 | N－54°－W | 甕を芯材 | 掘り込み式？ | 170 | 柱６個(※屋外４個)壁溝、土坑１ |
| RA119 | 中形１ | 18 | ８世紀後半 | N－60°－W | 甕を芯材 | 刳り貫き | 150 | 柱４本、壁溝１条 |
| RA120 | 小形１ | 5.6 | ８世紀中～後半 | N－55°－W | 不明 | 掘り込み式 | 115 | 柱３個、壁溝１条 |

第９次・10次・13次・14次の調査結果による

最後に、今回の調査で奈良時代の竪穴住居跡が多数検出され、構造的な内容を検討する良好資料を提供するものと思われる。該期の集落様相を検討する上で、小形Ⅰとした8㎡未満の竪穴住居跡の性格を解明することや、同時性や時期差を明らかにするためにも出土の主体を占める甕類の編年の確立が、今後の課題として指摘しておきたい。（星）

## 2　平　安　時　代

### （1）竪穴住居跡

今回の調査で東西に長い本遺跡の東端における竪穴住居跡の様相がほぼ明らかになった。第9次・第10次調査の結果とあわせ、まとめとしたい。

①分布

調査区にあたる遺跡東端には低位段丘の形状と平行して東西2本の埋没した沢跡がある（以下仮に東沢跡、西沢跡と呼称）。段丘縁辺部は標高がやや高くなっている。平安時代の竪穴住居跡は東の沢跡の西側から縁辺部までごく密に分布している。西沢跡には竪穴住居跡はない。西沢跡の西側には若干住居が分布しているが、東沢跡に比して圧倒的に数が少ない。この付近は標高が少し高く、表土を除去すると礫層が露出している箇所が多いが、そのような場所には竪穴住居は作られない。西沢跡西側と東沢跡周辺の竪穴住居跡の分布には隔絶があり、西沢跡を境にして別の集落であった可能性も考えられる。

②重複・近接

平安時代の竪穴住居跡74棟のうち、重複しているのは今次調査区東隣の第9次・10次調査区の4例のみで、今次調査区では見られなかった。間隔が1m内外のごく近接している住居跡も第9次・10次調査区には3例あるが、今次調査区では見られない。

③規模

床面積が計測可能な69棟を伊藤氏と西野氏の分類（伊藤・西野1998）により分けると、以下のとおりとなった。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 小：15㎡未満 | 47棟 | 中：15㎡以上～25㎡未満 | 19棟 |
| 大：25㎡以上～40㎡未満 | 2棟 | 特大：40㎡以上～60㎡未満 | 1棟 |
| 超大形：60㎡を超える | なし | | |

小が圧倒的に多く、約7割を占めるが、なかでも6㎡以下の極小規模の住居跡が9棟あることが注目される。最小は10次調査のRA094で、床面積1.4㎡、最大は14次調査のRA148で床面積43.7㎡である。

④軸方向

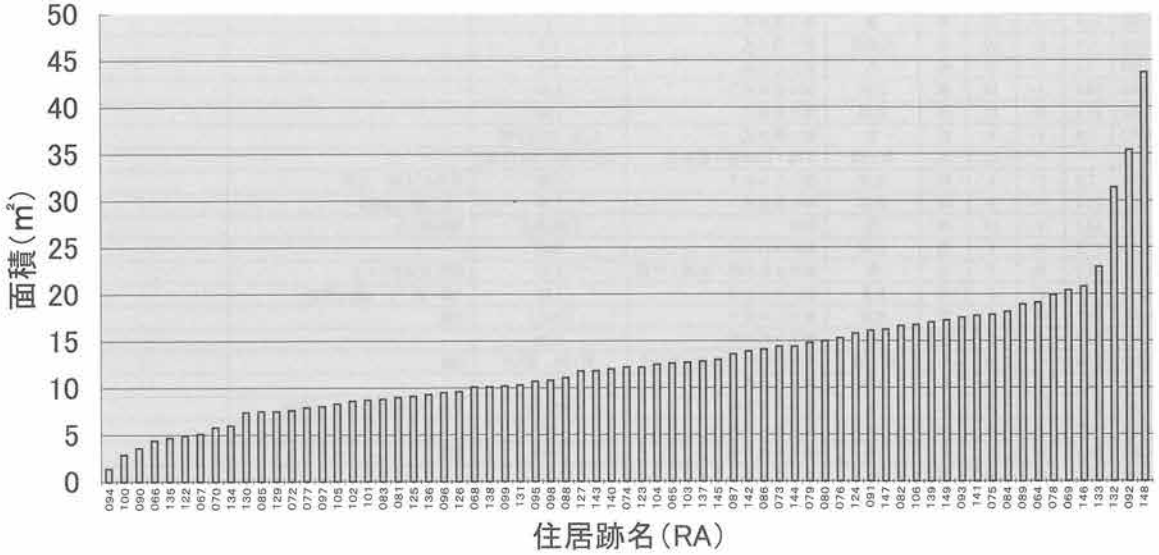
竪穴住居跡の壁が対面する壁とほぼ平行とみなして、次の3種に分類した。

a　竪穴住居跡の東壁と西壁がおおよそ北を向くもの　14棟
b　竪穴住居跡の東壁と西壁が真北からやや西に傾くもの　27棟
c　竪穴住居跡の東壁と西壁が真北からやや東に傾くもの　28棟

⑤柱穴

74棟のうち柱穴と想定できる小ピットが検出されたのは37棟である。規則的な柱穴配置を確認できたのは12棟で、2個、4個、6個の方形基調又は台形の配置を持つ住居跡が多いが、五角形と思われる配置をもつ住居跡も1棟ある。また、4個又は6個の方形基調の柱穴配置の場合、2個は壁際に配

平安時代の竪穴住居跡面積分布




される。４個以上の主柱穴を持つ竪穴住居跡は小が47棟のうち３棟、中が19棟のうち４棟、大が２棟両方、特大が１棟で、住居の床面積が多くなるほど、しっかりした規則的な柱配置を持つ傾向がある。

壁外に住居に伴うのではないかと推測される柱穴を持つ住居跡も６棟ある。すべての柱穴が壁外にある住居跡も１棟検出された（RA072）。

⑥カマド

一つの住居跡につき、１～４基認められる。複数のカマドを持つのは69棟のうち18棟である。小の住居跡では47棟のうち７棟であるが、中では19棟中８棟、大、特大では３棟すべてである。住居の規模が大きくなるほど、カマドを作り変えて使用する傾向がある。

カマドの位置は東、西、南、北いずれにも認められる。カマド１基のみの住居跡では、西壁９棟、東壁18棟、北壁５棟、北西壁８棟、北西隅１棟、北東７棟、北東隅１棟、南壁１棟、南東壁１棟で、東壁に設置されることが多い。住居の隅にカマドが位置する２棟は、いずれも床面積５㎡に満たないごく小型の住居跡である。床面積を少しでも確保するためであろうか。

カマドを２基検出された住居跡では11棟のうち東西に位置するものが５棟、東側にのみあるものが２棟、北・東が２棟、北西・北東、北東・南東が各１棟で、東側にやや偏在する傾向がここでも見受けられる。

３基以上の場合は、東西いずれかあるいはその両方を含んでいる場合が７棟のうち５棟と多く、他も南西・北東、南西、北西が各１棟である。最大4基持つ住居跡の場合は東側に３基のカマドがつくられている。

カマドの作り変えは西→東が最も多く４棟、東→西３棟、東→東、東→北が２棟その他で、特に規則性は認められなかった。

煙道は、計98基のカマドのうち、削平されて構造が不明の24基を除くと、掘りこみ式が14基、刳り貫き式が60基で、圧倒的に刳り貫き式が多い。複数のカマドが検出された18棟では、すべて刳り貫き式の場合が９棟、すべて掘りこみ式の場合が２棟、確実に混在する場合が２棟で、その他５棟は不明の住居跡である。

煙道の長さは0.7～1.9mで、１m未満の煙道は８基のみである。なお、RA130は撹乱のため、煙道

## 第19表　平安時代の竪穴住居跡一覧

| 遺構名 | 床面積(㎡) | 分類 | 次数 | 軸方向 | カマド | 煙道 | 煙道の長さ(m) | 柱穴 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| RA064 | 19.1 | 中 | 10 | 東 | 西 | 構造不明 | 1.18 | 4個＋1 | |
| RA065 | 12.6 | 小 | 10 | 東 | 東 | 刳り貫き式 | 1 | | |
| RA066 | 4.4 | 小 | 10 | 北 | 北西隅 | 刳り貫き式 | 1.3 | | |
| RA067 | 5.1 | 小 | 10 | 西 | 西 | 掘りこみ式 | 1.4 | | |
| RA068 | 10.1 | 小 | 10 | 西 | 北西 | 刳り貫き式？ | 1.46 | | |
| RA069 | 20.4 | 中 | 10 | 西 | 北西 | 刳り貫き式 | 1.68 | | |
| RA070 | 5.8 | 小 | 9 | 西 | 北 | 刳り貫き式 | 1.33、旧は不明 | | |
| RA071 | － | － | 10 | 北 | 東・西 | 不明・旧は刳り貫き式 | 新は不明、旧は1.58 | | |
| RA072 | 7.6 | 小 | 9 | 西 | 北東 | 掘りこみ式？ | 0.88 | 壁外に4個　台形 | |
| RA073 | 14.4 | 小 | 9 | 西 | 北西 | 刳り貫き式 | 1.65 | 4本(2個は壁際) | |
| RA074 | 12.2 | 小 | 13 | 西 | 西 | 削平 | 1.3前後か | 南西隅に1 | |
| RA075 | 17.8 | 中 | 9 | 西 | 北東 | 削平され不明 | 不明 | | |
| RA076 | 15.3 | 中 | 9 | 北 | 西 | 削平され不明・被熱した礫 | 1.13 | 5個(五角形)＋1 | |
| RA077 | 7.9 | 小 | 9 | 西 | 北東 | 削平され不明 | 1.05 | 7個＋床下2　3個は壁際 | |
| RA078 | 19.9 | 中 | 9 | 西 | 北東 | 掘りこみ式？ | 0.7以上 | 2個 | |
| RA079 | 14.8 | 小 | 9 | 西 | 南 | 削平され不明 | 1.38 | | |
| RA080 | 15.0 | 中 | 10 | 東 | 東2基 | 刳り貫き式、旧も刳り貫き式 | 新1.05、旧1.0 | 6個 | |
| RA081 | 9.0 | 小 | 10 | 東 | 北西 | 掘りこみ式 | 1.5 | | |
| RA082 | 16.6 | 中 | 10 | 西 | 東 | 削平され不明 | 0.62以上 | 4個　壁際2のうち1は内傾 | |
| RA083 | 8.8 | 小 | 10 | 西 | 東 | 削平され不明 | 1.5 | | |
| RA084 | 18.1 | 中 | 10 | 北 | 東 | 削平され不明 | 不明 | 3個 | |
| RA085 | 7.5 | 小 | 10 | 東 | 東 | 刳り貫き式 | 1.37 | | |
| RA086 | 14.1 | 小 | 10 | 北 | 北 | 削平され不明 | 不明 | 壁際7個 | |
| RA087 | 13.6 | 小 | 10 | 東 | 東 | 刳り貫き式 | 1.5 | 3個 | |
| RA088 | 11.1 | 小 | 10 | 東 | 東 | 刳り貫き式 | 1.43 | 5個 | |
| RA089 | 18.9 | 中 | 10 | 北 | 東・西2基 | すべて刳り貫き式 | 新1.31、旧1.4、1.2 | 6個(長方形　うち2個は東壁に取り付く) | |
| RA090 | 3.6 | 小 | 10 | 西 | 北 | 刳り貫き式 | 1.56 | | |
| RA091 | 16.1 | 中 | 10 | 北 | 東 | 刳り貫き式 | 1.47 | 3個 | |
| RA092 | 35.4 | 大 | 10 | 北 | 東2基 | 新旧ともに刳り貫き式 | 1.67、旧1.4 | 4個(方形うち2個は壁際)＋貼り床除去後、旧い柱穴2個 | 旧カマドの燃焼部、貼り床の形状などで、住居の拡張が想定される |
| RA093 | 17.5 | 中 | 10 | 西 | 南西・北西2基 | すべて刳り貫き式 | 新1.4、旧1.4、1.33 | 4本(長方形　2個は壁際)＋3－床下1 | |
| RA094 | 1.4 | 小 | 10 | 北 | 北 | 刳り貫き式 | 0.9 | | |
| RA095 | 10.7 | 小 | 10 | 西 | 西・北・東 | すべて刳り貫き式 | 1.9、旧1.8、2.3 | 2個 | |
| RA096 | 9.5 | 小 | 10 | 西 | 西 | 刳り貫き式 | 1.4 | | |
| RA097 | 8.0 | 小 | 10 | 東 | 北東・南東 | 新は削平され不明、旧は刳り貫き式 | 1.45、旧1.4 | | 住居廃絶直後に床に長方形の土坑 |
| RA098 | 10.8 | 小 | 10 | 西 | 北西・北東 | 刳り貫き式　旧も | 1.6、旧1.5 | | |
| RA099 | 10.2 | 小 | 10 | 東 | 北西 | 刳り貫き式 | 1.2 | 1 | |
| RA100 | 2.9 | 小 | 10 | 北 | 北東隅 | 刳り貫き式 | 1.02 | | |
| RA101 | 8.7 | 小 | 10 | 北 | 東 | 刳り貫き式 | 1.4 | | |
| RA102 | 8.6 | 小 | 10 | 西 | 東 | 刳り貫き式 | 1.26 | 1？ | |
| RA103 | 12.7 | 小 | 10 | 西 | 北東 | 刳り貫き式 | 0.75 | 3個 | |
| RA104 | 12.5 | 小 | 10 | 西 | 北西 | 掘りこみ式 | 1.25 | 4個？ | |
| RA105 | 8.3 | 小 | 10 | 東 | 北 | 刳り貫き式 | 1.5 | | |
| RA106 | 16.7 | 中 | 10 | 東 | 東2基・南 | 3基とも刳り貫き式 | 1.09、旧0.8、1.24 | 5個＋床下2 | |
| RA122 | 4.9 | 小 | 14 | 東 | 東 | 不明 | 1.5 | 2個(カマド対面隅) | |
| RA123 | 12.2 | 小 | 14 | 東 | 西・東 | 不明 | 1.5 | 2個 | |
| RA124 | 15.8 | 中 | 14 | 東 | 北西 | 刳り貫き式？ | 1.8 | | 住居廃絶直後に床に円形の土坑を掘り、掘り上げた土が住居床面から検出 |
| RA125 | 9.1 | 小 | 14 | 東 | 北東 | 不明 | 不明 | | |
| RA126 | 9.6 | 小 | 14 | 東 | 北東 | 掘りこみ式 | 1.1 | | |
| RA127 | 11.8 | 小 | 14 | 東 | 東 | 刳り貫き式 | | 南壁外で1個 | |
| RA129 | 7.5 | 小 | 14 | 東 | 西 | 刳り貫き式 | 1.3 | | |
| RA130 | 7.4 | 小 | 14 | 東 | 東 | 不明(極短い？) | 見つからず | | 短い煙道？(見つからず) |
| RA131 | 10.3 | 小 | 14 | 東 | 西 | 刳り貫き式、煙出しに礫や土器を敷き詰める | 1.7 | 主柱穴1　その他6　壁外1　張り出し1 | 鍛冶工房 |
| RA132 | 31.4 | 大 | 14 | 西 | 西・東・南 | 刳り貫き式、旧は掘りこみ式1＋刳り貫き式(礫による天井、側石あり) | 新1.65、旧1.45以上、0.7 | 主柱穴4個(方形)そのほか壁際に5個(うち2個は内傾 | 3号カマドの煙道が短いことから南側に拡張か |
| RA133 | 22.9 | 中 | 14 | 北 | 西 | 刳り貫き式 | 不明 | 壁外4、床面1 | |
| RA134 | 6.0 | 小 | 14 | 東 | 東 | 刳り貫き式 | 1.16 | | |
| RA135 | 4.7 | 小 | 14 | 北 | 東 | 刳り貫き式 | 0.7 | 壁外2、床面3(方形？) | |
| RA136 | 9.3 | 小 | 13 | 東 | 北西 | 刳り貫き式 | 1 | | |
| RA137 | 12.8 | 小 | 14 | 東 | 東 | 刳り貫き式 | 1.25 | | |
| RA138 | 10.1 | 小 | 13 | 東 | 西 | 不明 | 0.75 | | |
| RA139 | 17.0 | 中 | 13 | 西 | 西・東3基 | 刳り貫き式3＋不明1 | 新1.4、旧1.1、1.5　不明 | 1 | 4号カマドの廃絶 |
| RA140 | 12.0 | 小 | 13 | 北 | 西・東 | 刳り貫き式　旧も | 新1.5、旧1.15 | | |
| RA141 | 17.7 | 中 | 13 | 西 | 西・東 | 掘りこみ式　旧は刳り貫き式 | 新1.7、旧1.5 | 東壁際中央から1個 | |
| RA142 | 13.9 | 小 | 13 | 東 | 東・西 | 掘りこみ式　旧は不明 | 新1.05、旧不明 | | |
| RA143 | 11.8 | 小 | 13 | 北 | 東・西 | 刳り貫き式　旧は不明 | 1.33、旧は不明 | 床面9個(うち4個で台形？)、壁外3個 | |
| RA144 | 14.4 | 小 | 13 | 東 | 東 | 不明 | 1.1 | 南壁際1個 | |
| RA145 | 13.0 | 小 | 14 | 西 | 南東 | 不明 | 0.9 | 壁際から8個 | |
| RA146 | 20.8 | 中 | 14 | 東 | 北・東 | 刳り貫き式　旧も | 新1.4、旧2.1 | 4個(方形うち2個は壁際) | |
| RA147 | 16.2 | 中 | 14 | 西 | 南西・北東2基 | 掘りこみ式　旧も | 1.1、旧1.3、1.3 | 東壁際から1個 | |
| RA148 | 43.7 | 特大 | 14 | 東 | 北・東 | 掘りこみ式　旧も | 新1.6、旧1.6 | 4個(方形　うち2個は壁際)＋2 | |
| RA149 | 17.2 | 中 | 14 | 西 | 東 | 刳り貫き式 | 1.4 | 4個？(浅い) | |

※RA107・108・121・128は調査区外に延びてるため除く　　第9次・10次・13次・14次の調査結果による

が検出できなかったが、撹乱があまり大きいものでなかったことから、極端に煙道が短いのではないかと推測される住居跡である。

煙出しの底面は多くの場合燃焼面より低く、煙道の底面も煙出しに向かって徐々に下降するカマドが多いが、煙出しが燃焼面より高い位置にあり、煙道底面が上昇していくカマドが10基ある。中でも第９次調査のRA078、今次調査のRA125のカマドは煙道底面が急に上昇するものである。

カマド支脚は20基で出土した。単独の支脚は17基で、燃焼部奥の左右に２個の支脚をおいたものが３基ある。単独の支脚では礫のみを支脚としているものが７例、礫に土師器甕や坏を重ねたものは２例である。使用される礫は立方体に近い亜角礫が多い。土師器甕及び坏を使用したものは８例で、天地不明の１例をのぞき、すべて倒位で用いられていた。２個の支脚を持つもの３例は、坏を２個伏せて重ねた上に甕の下半を倒位で重ねたもの＋坏を３点重ねたもの、方形の亜角礫＋土師器坏、礫を２個重ねたもの＋土師器甕を倒位でおいたもの、である。

カマド本体の構造を確認できるものは以下のとおり、分類した。

ア　地山を削りだして袖の一部にしているもの　３基

イ　芯材（礫、土師器甕、焼成粘土板）に暗褐色土、黒褐色土、黄褐色土、白色粘土などを貼り付けて構築しているもの　30基（このほか、残存状態では芯材が認められないが、芯の据え方と思われる小ピットが検出された２基がある。）

ウ　芯材が認められず、褐色土のみ、あるいは黒褐色土、暗褐色土に、褐～黄褐色土を貼り付けて構築しているもの　16基

⑦住居内土坑

住居内から土坑が検出された例は69棟中40棟で、そのうち貯蔵穴と推定できる土坑は27棟から検出された。土坑の形状が袋状であること、カマドの脇から検出されたこと、中から遺物が出土したことなどのいずれか又は複数を根拠に貯蔵穴と推定した。

用途不明の土坑の中には底面から現地性の焼土が検出された例もあり、土坑内で焼成を行っていることが窺える。

床面で検出される土坑のほか、床をはがした段階で、貼り床とは異なる埋土で埋め戻されている土坑が検出される例も6棟あった。土坑中から粘土と坏が出土するものもあった。

住居を廃絶した直後に、床面に土坑を掘った例も確認した。第10次調査のRA097は長方形の土坑、第14次調査のRA124は円形の土坑である。RA124は住居跡が埋没していない段階で土坑を掘削し、住居床面に掘り上げた土を置いた形跡がある。これらの土坑の性格については、今後類例にあたり、検討していきたい。

⑧壁溝

69棟中９棟から検出された。壁際をほぼ全周するものは５棟で、他は一部の壁際にのみ検出された。14次調査のRA143は二重に壁溝が廻り外側の溝に内側の溝が切られていることから、住居を拡張した可能性がある。

⑨ステップ状施設

ステップ状の施設が壁際から検出されたのは８棟である。カマドが対面する壁際から検出されたものが４棟、カマド側から検出されたのが２棟、その他の壁から検出されたものが２棟である。ステップには暗褐色土を盛りその上に褐～黄褐色土を貼り付けたと認められるものがあり、上面は硬く締まっている。このような施設は入り口と考えられるものが多いが、RA148のようにカマド袖脇から検出されたものは別の用途であろう。そのほか、ステップなどの施設は認められないが、RA140では床

面の一部に褐鉄層が形成され、非常に硬く締まっている部分があった。褐鉄層が、頻繁に踏みしめられた結果、形成されたものと仮定すれば、この部分が入り口の可能性もある。

⑩火山灰

埋土にTo－ａテフラを含む住居跡は71棟中10棟である。また、住居跡を切っている溝跡にTo－ａテフラを含む住居跡が２棟あった。最上位または上位にブロック状、粒状に含む住居跡が多いが、下層に含む住居跡１棟、埋土の大部分に粒状に含む住居跡３棟、柱穴直上の埋土に部分的に含まれる住居跡が１棟である。

⑪拡張の痕跡

住居跡を拡張した痕跡を確認できた住居跡が４棟ある。

・　壁溝が二重に確認され、外側の溝が内側の溝を切っているもの

・　複数あるカマドのうち、旧いと思われるものの煙道が他に比較して短く、燃焼部も壁よりかなり内側に確認されるもの・・・RA092、RA106、RA132（うちRA092、RA106に関しては貼り床も拡張前と拡張部分に差異が認められた。）

## （２）遺構間接合

遺物の接合については、土師器に関しては遺構単位で、須恵器については量が少ないため調査区全体と隣接する第９次調査・第10次調査で出土した須恵器をあわせて遺構間接合を行った。

一方のカマド内や袖、床上から出土した破片が他方の埋土中や検出面から出土した破片と接合したことから、新旧関係が推測され、土器の年代観とも余り矛盾しないものは次のとおりである。

RA135（新）←RA137（旧）（以下矢印の向いた方向が新）、RA122←RA123、RA089←RA149、RA078←RA144・RA068、RA132←RA146・RA087・RA104、RA126←RA064・RA065、RA132・RA145←RA119・RA096、RA140←RA137、RA137←RA064、RA071←RA119、RA144・RA132←RA092・RA104

なお、RA129下層から出土した土器とRA130は２層から出土した土器は接合し、接合関係ではRA129の方が新しいと推測されるが、出土土器はRA130の方が新しい要素を含んでいるように思われる。

また、RA148とRD322から出土した破片が４個接合した例では、周辺に他の住居跡もないことから、両者は同時に存在し、土坑が住居の廃棄土坑あるいは貯蔵穴などであった可能性が高い。

須恵器では、最大５棟の住居から出土した破片が接合する例が見られた。また、最大160mはなれた住居跡から出土した破片が接合している。

## （３）土　　器

ここでは８個以上の坏が出土した数棟の竪穴住居跡の土器群について考えたい（第179～182図）。

**RA137竪穴住居跡出土土器**　　坏　11点

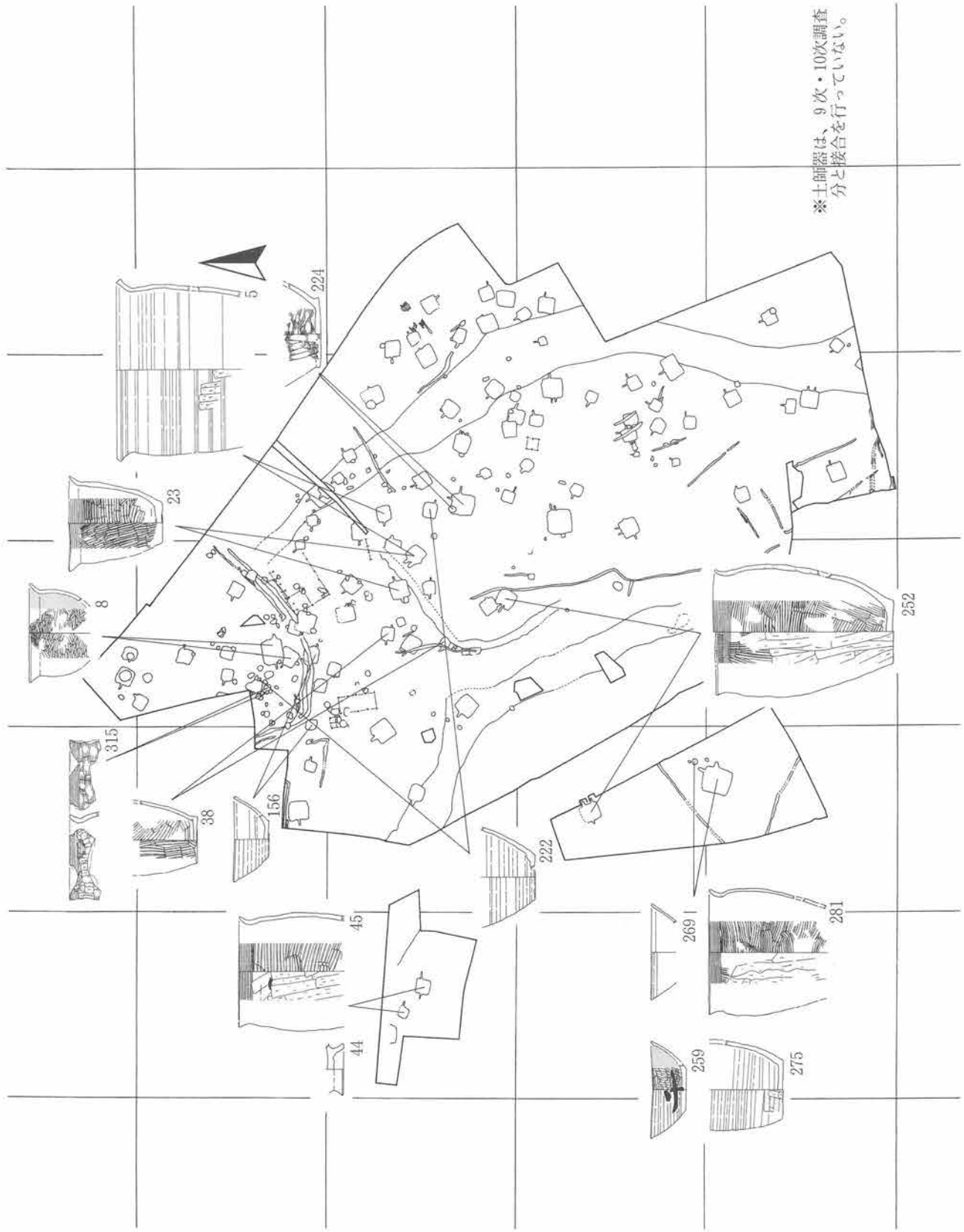
土師器（内黒）７点　うち５点に体部下端～底部にかけて回転ヘラケズリ、手持ちヘラケズリが施される。口縁部と底部の比率は　口縁部１に対し平均0.40　器高平均　4.9cm

土師器（非黒色処理）３点　うち１点の体部下端～底部に手持ちヘラケズリ　口縁部と底部の比率は0.41　器高5.4cm

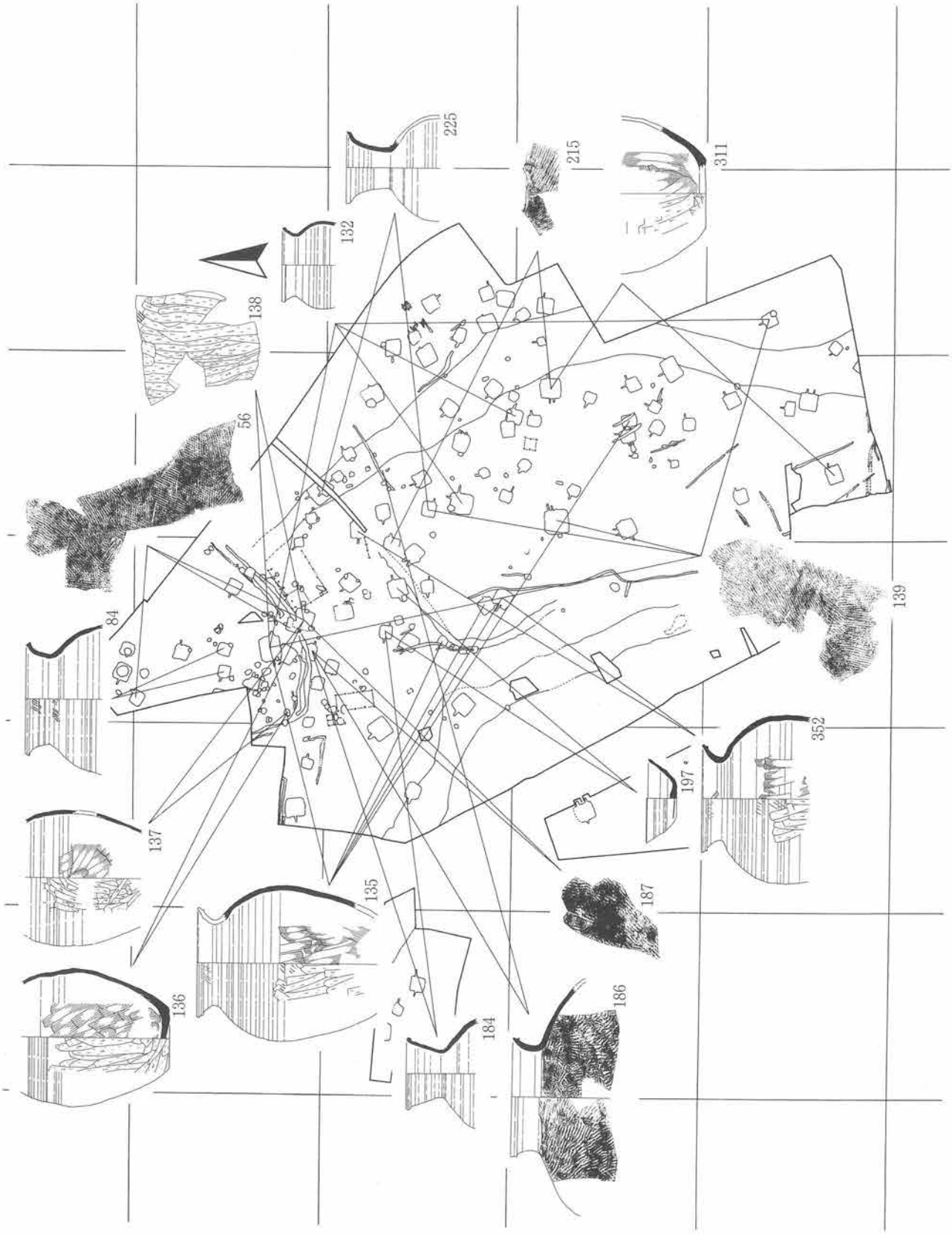
須恵器　１点　回転糸切り　口縁部と底部の比率0.41　器高5.2cm

**RA141竪穴住居跡出土土器**　　坏　８点

土師器（内黒）４点　うち２点の体部下端～底部にかけて手持ちヘラケズリ　口縁部と底部の比率




第177図　遺物の遺構間接合図（1）土師器




第178図　遺物の遺構間接合図（2）須恵器

0.44　器高5.0cm

土師器（両黒）1点　内外面ともミガキ　口縁　口縁部と底部の比率0.35　器高6.8cm

土師器（非黒色処理）1点　無調整

須恵器　2点　口縁部と底部の比率　0.47　器高4.8cm

**RA149竪穴住居跡出土土器**　　坏　16点

土師器（内黒）5点　うち1点の体部下端～底部にかけて手持ちヘラケズリ　口縁部と底部の比率0.46　器高5.0cm

土師器（非黒色処理）4点　すべて無調整　口縁部と底部の比率　0.44　器高5.1cm

須恵器　7点　無調整　口縁部と底部の比率　0.44　器高5.1cm

**RA146竪穴住居跡出土土器**　　坏　10点

土師器（内黒）3点　うち2点の体部下端～底部にかけて手持ちヘラケズリ　口縁部と底部の比率0.39　器高5.2cm

土師器（非黒色処理）4点　うち2点の体部下端～底部にかけて手持ちヘラケズリ　口縁部と底部の比率0.39　器高5.2cm

須恵器　3点　無調整　口縁部と底部の比率0.44　器高4.6cm

**RA148竪穴住居跡出土土器**　　坏　12点

土師器（内黒）4点　無調整　口縁部と底部の比率　0.46　器高5.0cm

土師器（非黒色処理）8点　うち1点の体部下端～底部にかけて手持ちヘラケズリ　口縁部と底部の比率0.39　器高4.4cm

須恵器　なし

**RA134竪穴住居跡出土土器**　　坏　9点

土師器（内黒）4点　無調整　口縁部と底部の比率　0.41　器高5.1cm

土師器（非黒色処理）3点　無調整　口縁部と底部の比率　0.39　器高5.0cm

須恵器　2点　無調整　0.41　器高5.5cm

**RA132竪穴住居跡出土土器**　　坏　12点

土師器（内黒）3点　うち1点の体部下端～底部に回転ヘラケズリ　口縁部と底部の比率0.40　器高　4.8cm

土師器（非黒色処理）9点　無調整　口縁部と底部の比率　0.40　器高5.2cm

須恵器　なし

**RA130竪穴住居跡出土土器**　　坏　6点

土師器（内黒）2点　無調整　口縁部と底部の比率　0.32　器高5.5cm

土師器（非黒色処理）4点　無調整　口縁部と底部の比率　0.39　器高4.3cm

以上の土器群の傾向から、大まかな時期を推定する。RA137、RA141、RA149、RA146は内黒土師器と須恵器の量が多いこと、内黒土師器に再調整の施されるものの多いことから、9世紀後半、RA148、RA134、RA132は非内黒土器が増えること、底部径の口径に対する比率が下がること、須恵器が減少することから9世紀末～10世紀前葉、RA130については、口径が小さくなり、底部径の口径に対する割合がさらに小さくなることから10世紀前葉～中葉の範疇に入るものと考えられる。

## （4）墨書土器・刻書土器

今回の調査で出土した墨書土器は15点、刻書土器は10点でいずれも坏、または高台付坏で、すべて土師器である。墨書と刻書の両方を施された土器も１点ある。墨書土器は15点中、内黒の土師器が10点、黒色処理のない土師器が５点である。出土地点はほとんどが住居跡で、RA148からは６点の墨書土器が出土した上、「千」の字と認められるものが４点あることが注目される。

また、刻書では６点が内黒の土師器、２点が両面黒色の土師器、２点が黒色処理のない土師器である。「七万」「十万」「二万」など「万」を含む文字が見受けられる。はっきりと焼成前に刻まれたと確認できた土器は１点あった。なお、これらの釈文については、石崎高臣氏（岩手県奥州市世界遺産推進室）にご指導いただいた。

（金子）

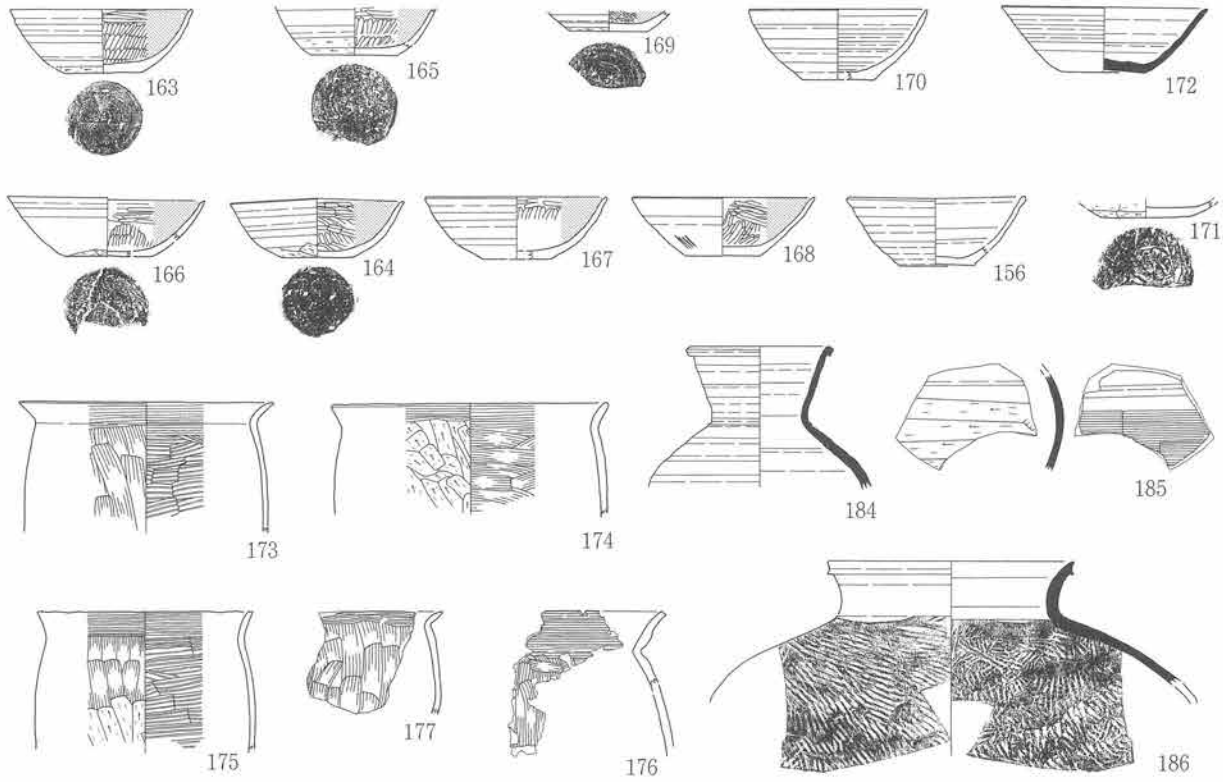
### 引用・参考文献

※（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター→岩手埋文
岩手埋文　2003　『細谷地遺跡発掘調査報告書―第４・５次調査』岩手埋文報告書第414集
岩手埋文　2003　『台太郎遺跡第26次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第416集
岩手埋文　2004　『細谷地遺跡第8次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第454集
岩手埋文　2006　『本宮熊堂Ａ遺跡第24・本宮熊堂Ｂ遺跡25次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第470集
岩手埋文　2007　『細谷地遺跡第９次・10次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第500集
岩手埋文　2007　『野古Ａ遺跡第23・24・29次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第501集
岩手埋文　2007　『本宮熊堂Ａ遺跡第26・29次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第502集
八木光則　1992　「古代斯波群と爾薩体の土器様相」『第18回古代城柵官衙遺跡検討会資料』
西野　修　1998　「城柵と地域社会の変容－北上盆地北部の様相」『第24回古代城柵官衙遺跡検討会資料』
伊藤博幸　1988　「城柵と地域社会の変容－北上盆地南部の様相」『第24回古代城柵官衙遺跡検討会資料』

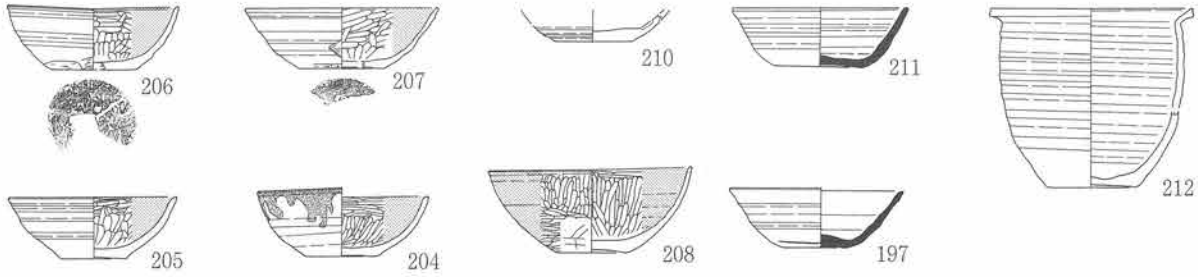
**第20表　墨書土器・刻書土器一覧表**

| No. | 種別 | 器種 | 出土遺構 | 墨書・刻書部位 | 釈文・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 67 | 墨書 | 内黒土師器坏 | RA127 | 体部外面 | 墨痕あり（破片） |
| 105 | 墨書 | 内黒土師器坏 | RA132 | 体部下端外面正位 | 墨痕あり（破片） |
| 116 | 墨書 | 非内黒土師器坏 | RA132 | 体部外面正位？ | 墨痕あり（破片） |
| 144 | 墨書 | 内黒土師器坏 | RA134 | 底部外面 | 「十」 |
| 205 | 墨書 | 内黒土師器坏 | RA141 | 体部外面 | 墨痕あり・刻書もあり |
| 209 | 墨書 | 内黒土師器坏 | RA141 | 体部外面 | 墨痕あり（破片） |
| 234 | 墨書 | 内黒土師器坏 | RA146 | 体部外面正位？ | 「卄」墨痕あり |
| 258 | 墨書 | 内黒土師器坏 | RA148 | 体部外面正位 | 「千」 |
| 259 | 墨書 | 内黒土師器坏 | RA148 | 体部外面正位 | 「千」 |
| 263 | 墨書 | 非内黒土師器坏 | RA148 | 体部外面 | 墨痕あり（破片） |
| 260 | 墨書 | 非内黒土師器坏 | RA148 | 体部外面正位 | 「千」 |
| 261 | 墨書 | 非内黒土師器坏 | RA148 | 体部外面正位 | 「千」 |
| 262 | 墨書 | 非内黒土師器坏 | RA148 | 体部外面正位 | 墨痕あり　　灯明皿？ |
| 316 | 墨書 | 内黒土師器坏 | RD290 | 体部外面 | 墨痕あり |
| 344 | 墨書 | 内黒土師器坏 | RA177 | 体部外面倒位 | 「七万」鏡像 |
| 60 | 刻書 | 内黒土師器坏 | RA127 | 底部外面 | 刻線あり |
| 68 | 刻書 | 非内黒土師器坏 | RA127 | 体部外面 | 刻線あり |
| 115 | 刻書 | 非内黒土師器坏 | RA132 | 体部外面 | 刻線あり |
| 117 | 刻書 | 両黒土師器高台付坏 | RA132 | 体部外面 | 刻線あり |
| 157 | 刻書 | 内黒土師器坏 | RA135 | 体部外面 | 刻線あり |
| 168 | 刻書 | 内黒土師器坏 | RA137 | 体部外面 | 刻線あり |
| 205 | 刻書 | 内黒土師器坏 | RA141 | 体部外面横位 | 焼成前　記号「キ」・墨書もあり |
| 208 | 刻書 | 両黒土師器坏 | RA141 | 体部外面倒位 | 「十万」 |
| 216 | 刻書 | 内黒土師器坏 | RA143 | 底部外面 | 記号「大」 |
| 340 | 刻書 | 内黒土師器坏 | RE007 | 体部外面正位 | 「二万」 |

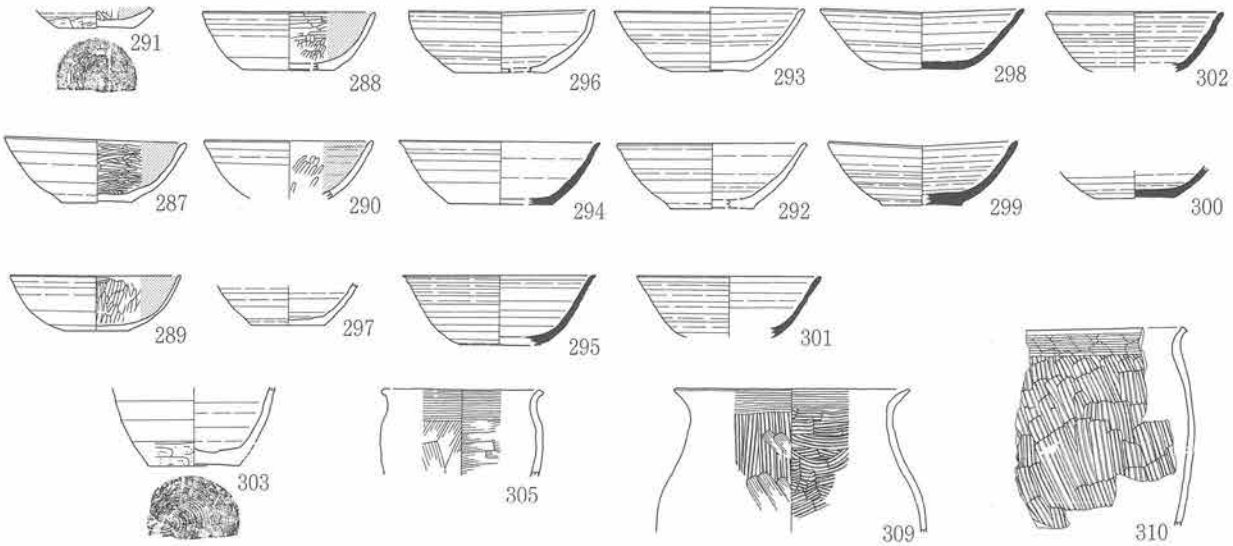
RA137




RA141

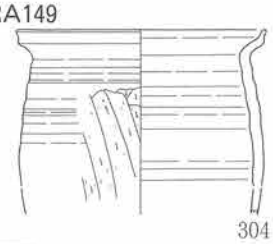


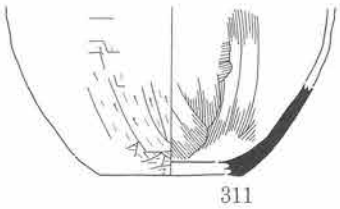

RA149



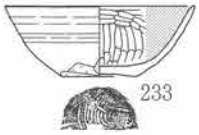

第179図　平安時代の土器遺構別集成図（1）

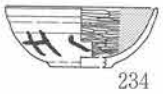
RA149

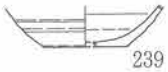


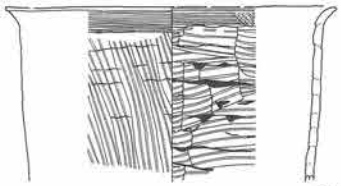


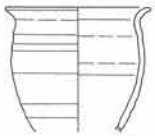

RA146

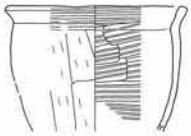


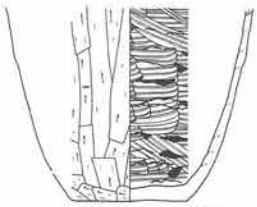





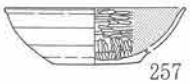


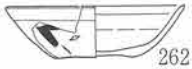


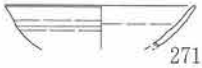



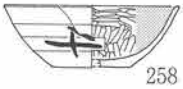



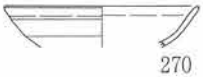
RA148

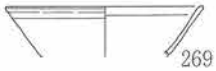


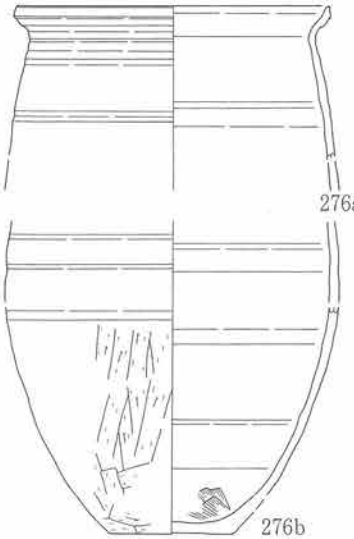


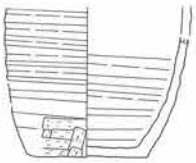



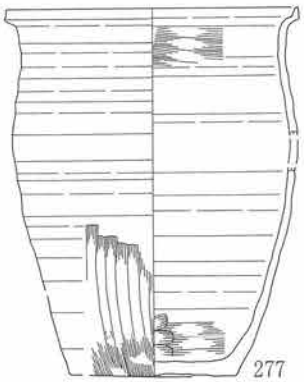


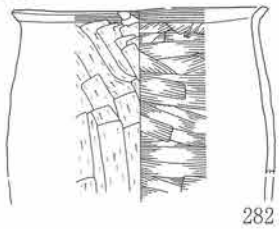


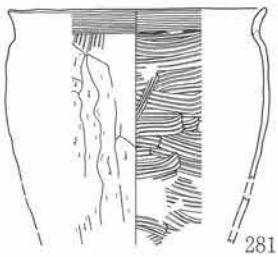


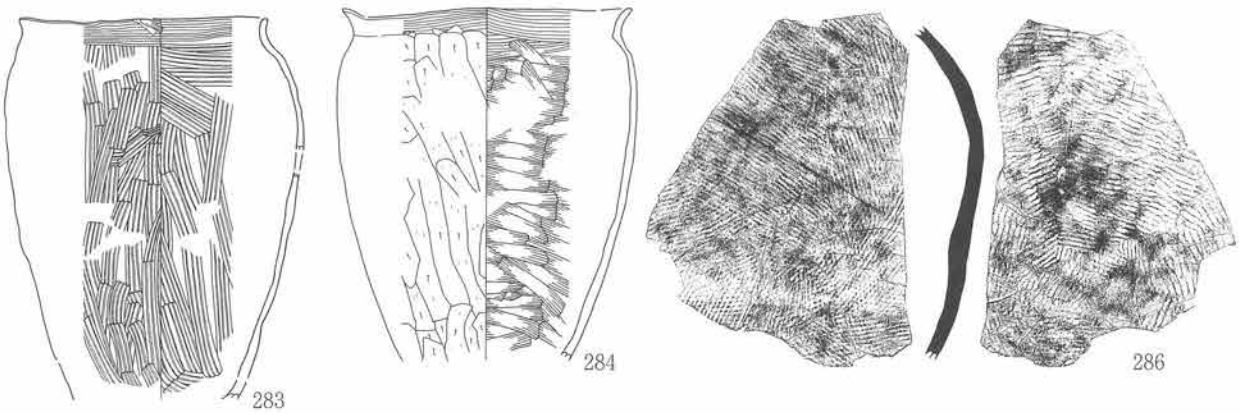


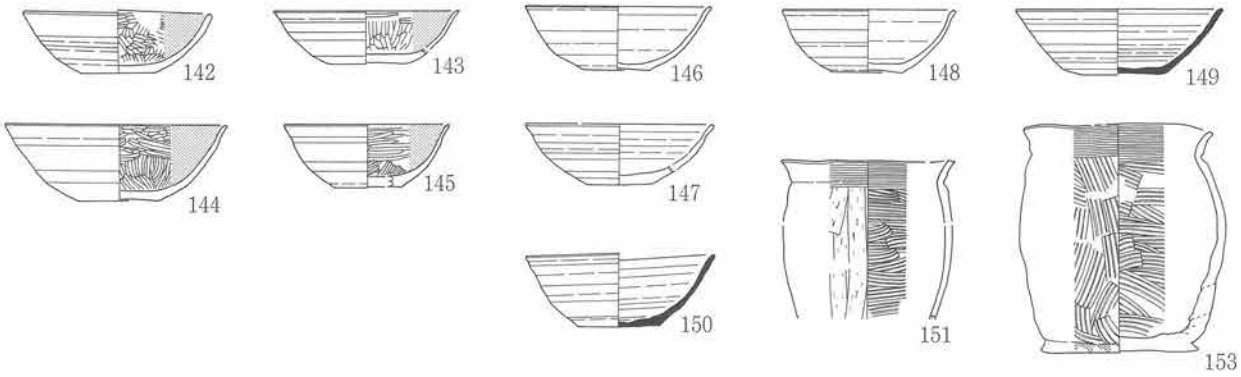




第180図　平安時代の土器遺構別集成図（2）

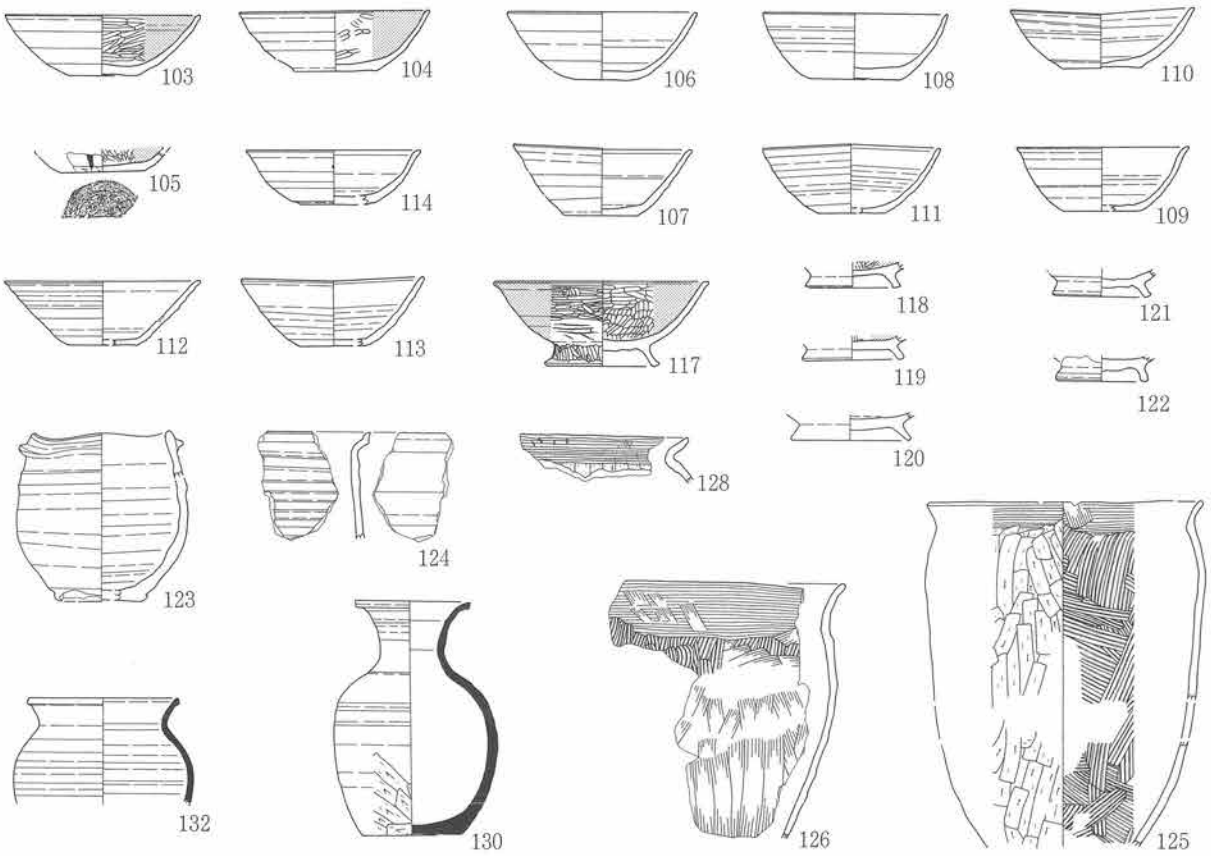
RA148




RA134

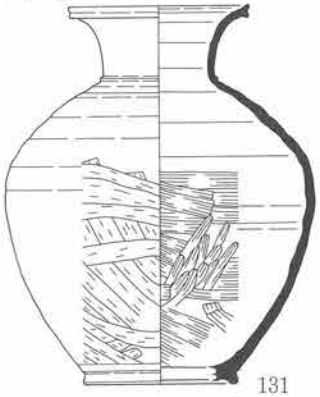


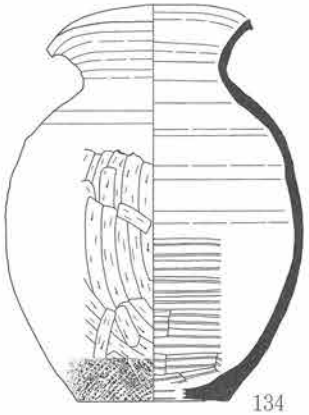

RA132

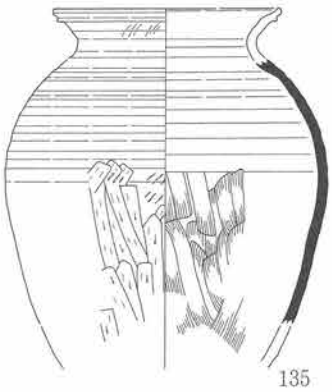


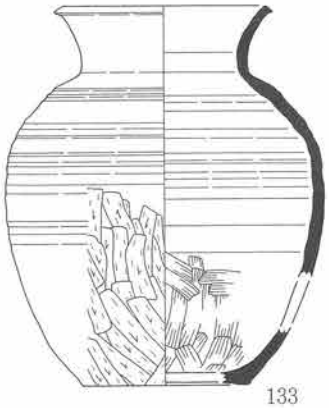

第181図　平安時代の土器遺構別集成図（3）

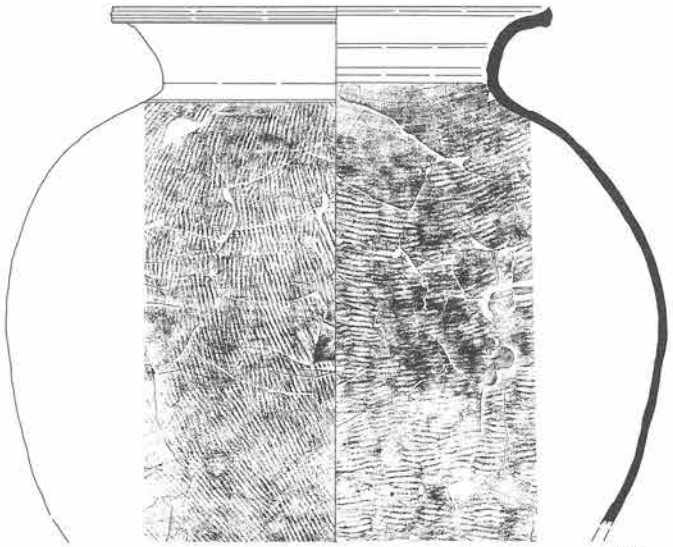
RA132


131

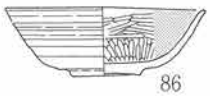

134

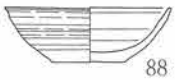

135

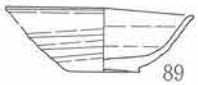

133

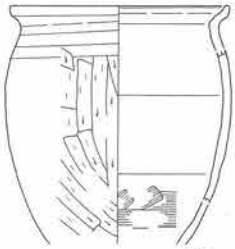

140

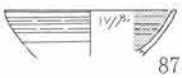
RA130

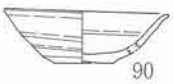

86

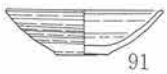

88

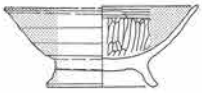

89

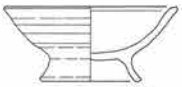

95


87

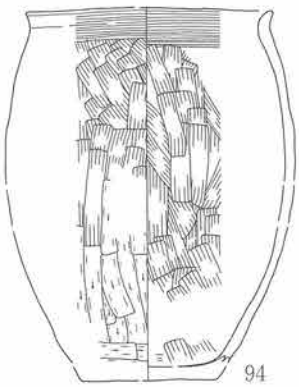

90


91

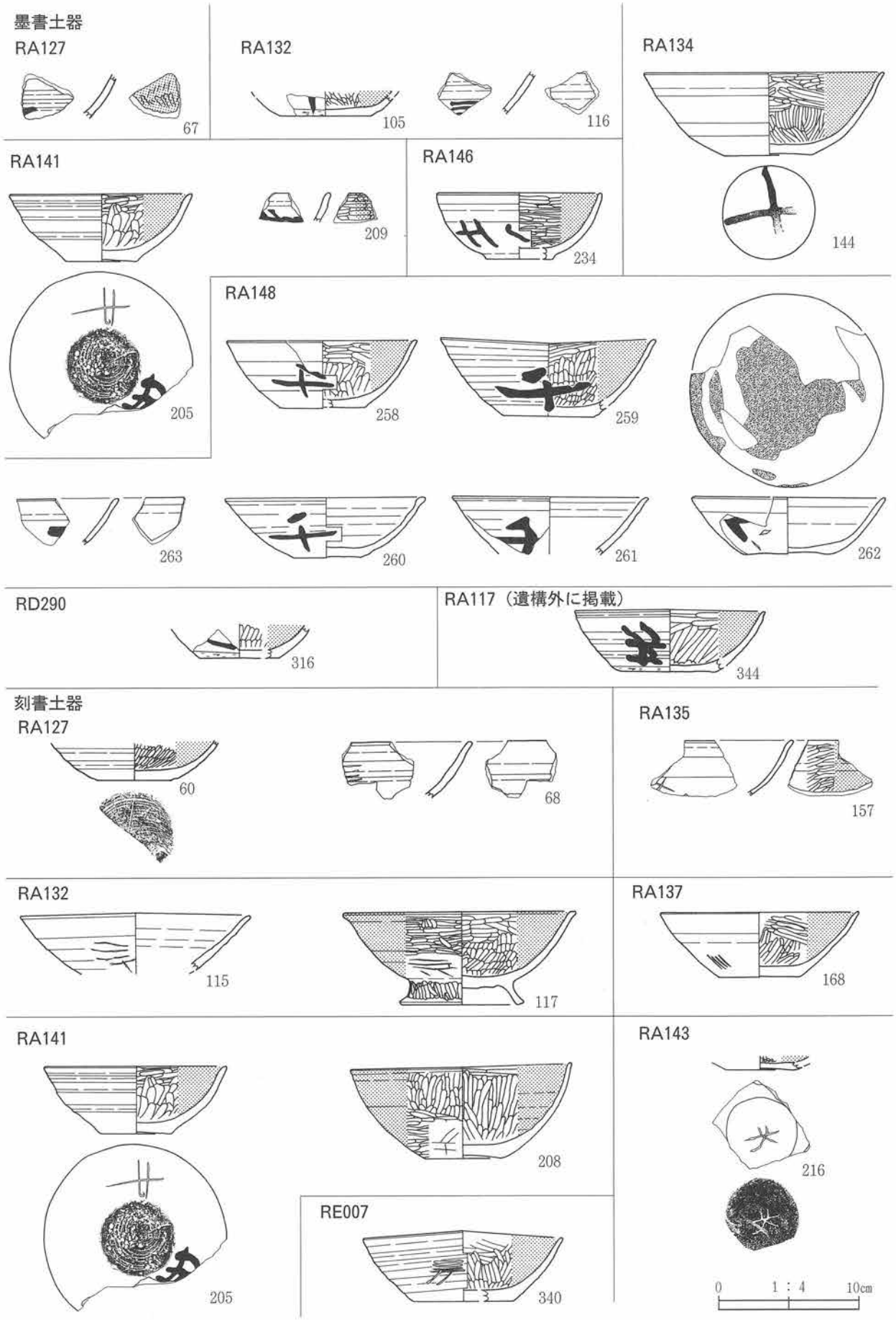

92


93

84


94

第182図　平安時代の土器遺構別集成図（4）




第183図　墨書土器・刻書土器集成図

# 付　　編

## 1　細谷地遺跡から検出された灰様資料の植物珪酸体分析，灰像分析

北方ファイトリス研究室　佐　瀬　　隆

### Ⅰ　はじめに

細谷地遺跡調査で植物灰と推定される資料が検出された．これらの資料がはたして植物灰であるか否かを調べるために植物珪酸体分析，灰像分析を実施した．本報告はその結果についてまとめたものである．

### Ⅱ　資料と方法

「資料」

分析資料は以下の9点である．

①14次RA131灰様資料
②14次RA131灰様資料下位（灰混じり）
③14次RA131埋土
④14次RD320灰様資料上部
⑤14次RD320灰様資料中部
⑥14次RD320灰様資料下部
⑦14次RA146埋土下位黒色土
⑧10次RD153灰様資料（6層のa）
⑨10次RD153灰様資料（6層のb）

なお，③と⑦は植物灰と推定された資料が検出された遺構に関わる埋土であり，比較として採取したものである．

「方法」

植物珪酸体分析，灰像分析の方法は佐瀬（1992，2003）に準じ以下の手順で実施した．

（1）各試料を乾土当たり1～2ｇを秤量．（2）過酸化水素法で有機物の分解．（3）超音波処理による土塊の破砕．（4）ジチオナイト法による脱鉄処理．（5）篩と沈底法により粒径10－100μｍ画分の分離，乾燥（6）乾燥後の試料の一部をカナダバルサムで封じプレパラートを作製，（7）顕微鏡下で植物珪酸体，珪化組織片を合わせて200粒子以上無作為に鑑定し，その計測値に基づいて組成表，組成図を作成．

### Ⅲ　結果

#### 1　検出された植物珪酸体，珪化組織片

本分析で検出された植物珪酸体，珪化組織片を以下に記す．なお，主要な植物珪酸体，珪化組織片の顕微鏡写真を図1に示す．

「植物珪酸体群」

a．イネ科機動細胞起源・ファン型

（1）タケ亜科起源（図1の35）
タケ・ササ類起源の洗濯板状や肉厚チューブの断面の一部を切り取った形状を示す一群.
（2）非タケ亜科起源
・イネ属タイプ（図1の1－4）
端面観の上辺はなめらかな弧を描き端部で鍔状に突出，上面の亀甲紋が特徴的である.
・非タケ亜科起源タイプ（図1の34）
イネ属タイプ以外の非タケ亜科起源タイプを一括する.
b．イネ科短細胞起源
（1）タケ型（図1の41）
タケ亜科を特徴づける上面の皺で特徴づけられる鞍状珪酸体内の一群.
（2）ヒゲシバ型
ズズメガヤ亜科，ダンチチク亜科のヨシ属を特徴づけ，またタケ亜科にも見られる．上面端部の皺のない鞍状珪酸体の一群.
（3）キビ（亜科）型（図1の37・38）
キビ亜科を特徴づける亜鈴状珪酸体の一群.
（4）ウシノケグサ・イチゴツナギ（亜科）型（図1の36）
ウシノケグサ（イチゴツナギ）亜科を特徴づけるボート状珪酸体で一般に上面（より広い面）側縁に波状縁有する.
（5）イネ型
イネ類に特徴的な小型の亜鈴状珪酸体.
（6）その他
糸巻き状（図1の39・40）など（1）～（5）に該当しない未整理の短細胞起源珪酸体を一括.
c．イネ科トゲ細胞起源（ポイント型）（図1の32）
石鏃状，鍵状を呈する一群
d．棒状型
（1）平滑（図1の28）
直線的側縁を有する群.
（2）鋸歯
鋸歯状縁を有する群で次の3群に区分.
・ムギ様（図1の16・17）
鋸歯は鋭く尖り鋸歯間が弧状に落ち込む特徴を示す．ムギ類種皮組織に多く見られる.
・導管細胞起源（図1の31）
導管細胞に由来する棒ヤスリ状を呈する.
・その他
ムギ様，導管細胞起源以外を一括.
a．その他
イネ科葉肉細胞起源（図1の33），シダ植物起源，カヤツリグサ科起源などを一括する.

「珪化組織片群」
f．イネ科植物種皮起源

・イネ様（図１の７－12）
イネ類種皮に起源するものと推定されるサメ歯状の突起や波状文様が特徴である．強く珪化した塊状粒子として観察される．
・ヒエ・キビ様（図１の19－22）
ヒエ類，キビ類種皮に起源すると推定されるはめ絵パズル状の文様が特徴で板状を呈する．
・アワ様（図１の23・24）
アワ類種皮に起源すると推定される突起を伴うはめ絵パズル状文様が特徴で板状を呈する．
・ムギ様（図１の13－15）
ムギ様鋸歯縁棒状珪酸体を含む珪化組織片である．
ｇ．イネ科植物葉部表皮起源
・イネ様（図１の５・６）
短細胞起源イネ型珪酸体を含む組織片．亜鈴状珪酸体がその長軸を葉脈に対して直交して配列するのが特徴である．
・キビ亜科様（図１の25）
短細胞起源キビ（亜科）型珪酸体を含む組織片．亜鈴状珪酸体がその長軸を葉脈に並行して配列する．
ｈ．その他
・おろし金状（図１の27）
多数の小突起で特徴づけられる．
・弱珪化毛（図１の29）
弱く珪化した毛細胞．
・基本組織（図１の26）
珪化した長細胞の集合体．

2　各資料の植物珪酸体群，珪化組織片群の組成

各資料の植物珪酸体群集，珪化組織片群集の組成を表１，図２に示す．なお，定数を鑑定後，プレパラートを走査して認められた珪酸体，珪化組織片については表１，図２の当該欄に☆印をつけた．また，比較資料（③⑦）では珪化組織片がほとんど検出されないので，頻度値を求めず組成図は示していない．次に起源植物が推定できる珪酸体，珪化組織片の検出傾向から各資料の特徴を記す．
「RA131資料（①②③）」
①灰様資料：珪化組織片の割合が高く約56％を占める．植物珪酸体群では，イネ科機動細胞起源・ファン型で非タケ亜科起源が全てを占め，その中でイネ属タイプが優勢である．イネ科短細胞起源はほとんど検出されない．ムギ様の鋸歯縁棒状型珪酸体がわずかに認められる．珪化組織片群では，イネ科種皮起源イネ様の検出率が約75％で非常に高く，またイネ様の葉部表皮組織片も検出される．キビ・ヒエ様の種皮起源組織片が検出されるものの極めて少ない．
②灰様資料下位（灰混じり）：珪化組織片の割合は約29％である．植物珪酸体群では，イネ科機動細胞起源・ファン型で非タケ亜科起源が全てを占め，その中ではイネ属タイプとその他が拮抗している．また，ムギ様の鋸歯縁棒状型が比較的高い約８％の検出率を示す．珪化組織片群ではイネ科種皮起源イネ様の検出率が約57％で高く，またイネ様の葉部表皮組織片も検出される．キビ・ヒエ様，アワ様，ムギ様の種皮起源組織片はそれぞれ約７％，約１％，約10％の頻度で認められる．
③埋土（比較資料）：珪化組織片はほとんど含まれていない．珪酸体群では，イネ科機動細胞起源・

ファン型で非タケ亜科起源が極めて優勢で，その中ではその他がイネ属タイプより卓越する．また，ムギ様の鋸歯縁棒状型珪酸体がわずかに2%弱で検出される．短細胞起源はキビ型が優勢で次いでウシノケグサ型が続くが，タケ型は少ない．珪化組織片ではイネ様の種皮部組織片，葉部表皮組織片がわずかに検出される．

「RD320資料（④⑤⑥⑦」

④灰様資料上部：珪化組織片の割合が高く約54%を占める．植物珪酸体群では，イネ科機動細胞起源・ファン型で非タケ亜科起源が全てを占め，その中でイネ属タイプとその他が拮抗する．また，ムギ様の鋸歯縁棒状型珪酸体がわずかに検出される．短細胞起源はほとんど検出されずウシノケグサ型が1%未満で検出されたに止まる．珪化組織片群では，イネ科種皮起源イネ様の検出率が約73%で高く，イネ様葉部表皮組成片も検出される．キビ・ヒエ様の種皮起源組織片は約6%認められ，また，アワ様，ムギ様の種皮起源組織片もわずかに検出される．

⑤灰様資料中部：珪化組織片の割合が非常に高く約70%を占める．植物珪酸体群では，イネ科機動細胞起源・ファン型で非タケ亜科起源が全てを占め，その中でイネ属タイプとその他が拮抗している．また，ムギ様の鋸歯縁棒状型が約31%の高率で検出される．短細胞起源は極めて少ないがイネ型が約2%で認められる．珪化組織片群では，イネ科種皮起源イネ様の検出率が約33%で最も多いが，キビ・ヒエ様も約14%の検出率を示し，アワ様，ムギ様の種皮起源組織片もそれぞれ約3%，約2%検出される．また，キビ亜科様の葉部表皮組織片がわずかに認められる．

⑥灰様資料下部：珪化組織片の割合が非常に高く約70%を占める．植物珪酸体群では，イネ科機動細胞起源・ファン型で非タケ亜科起源が全てを占め，その中でその他がイネ属タイプより優勢である．また，ムギ様の鋸歯縁棒状型珪酸体の検出が約6%認められる．短細胞起源は極めて少なくヒゲシバ型，ウシノケグサ型，その他がわずかに検出される．珪化組織片群では，イネ科種皮起源イネ様の検出率が約52%で最も多いが，キビ・ヒエ様，アワ様，ムギ様の種皮起源組織片もそれぞれ約7%，約2%，約2%の検出率で認められる．また，イネ様の葉部表皮組織片も検出される．

⑦埋土下部（比較資料）：珪化組織片は認められない．珪酸体群では，イネ科機動細胞起源・ファン型で非タケ亜科起源が極めて優勢で，その中ではイネ属タイプが少なくその他が明らかに卓越する．短細胞起源はキビ型が明らかに優勢である．

「RD153（⑧⑨）」

⑧灰様資料（6層のａ）：珪化組織片の割合が非常に高く約79%を占める．植物珪酸体群では，イネ科機動細胞起源・ファン型で非タケ亜科起源が全てを占め，その中でイネ属タイプが優勢である．イネ科短細胞起源は極めて少なく，イネ型，ヒゲシバ型がわずかに検出されたに過ぎない．珪化組織片群では，イネ科種皮起源イネ様の検出率が約87%で非常に高く，またイネ様の葉部表皮組織片も検出される．キビ・ヒエ様，アワ様，ムギ様の種皮起源組織片は検出されない．

⑨灰資料（6層のｂ）：珪化組織片の割合が高く約79%を占める．植物珪酸体群では，イネ科機動細胞起源・ファン型で非タケ亜科起源が全てを占め，その中でイネ属タイプが優勢である．イネ科短細胞起源は極めて少なく，イネ型，ヒゲシバ型がわずかに検出されたに過ぎない．珪化組織片群では，イネ科種皮起源イネ様の検出率が約66%で高く，またイネ様の葉部表皮組織片も検出される．キビ・ヒエ様，アワ様の種皮起源組織片は検出されるが極めて少ない．

## Ⅳ　考察

比較資料（③，⑦）では珪化組織片がほとんど含まれていないのに対して，灰様資料（①④⑤⑥⑧

⑨）ではいずれも珪化組織片の割合が50％以上と高い．これは植物灰の特徴といえるので，灰様資料はいずれも植物灰と考えられる．また「灰混じり」とした②も珪化組織片の割合が30％近くあり植物灰を有意に含むと考えて間違いないであろう．

それではどのような植物の灰が含まれているのであろうか．珪化組織片の組成から推定してみよう．まず，イネ様組織片が多いことから，イネ起源の灰が主体であるが，部位的には種皮組織片が多いので籾殻の灰が卓越しているといえる．なお，イネ様以外のキビ・ヒエ様，アワ様，ムギ様組織片に注目すると①，⑧，⑨に比べて②，④，⑤，⑥ではそれらの組織片がより多く検出する傾向が認められので，後者にはキビ類，ヒエ類，アワ類，ムギ類が相応量含まれていることを示している．灰様資料を検出した遺構はいずれも平安時代に帰属しほぼ同時期のものと推定されているが，植物珪酸体および珪化組織片組成の差異は時期差を示している可能性もあり，栽培利用種の履歴解読の有益な情報となるかもしれない．

以上のように，細谷地遺跡の遺構から検出された植物灰はイネ類起源灰を主体とし，それにキビ類，ヒエ類，アワ類，ムギ類起源灰を伴っていることが明らかとなった．これらの灰が単に破棄されたものかそれとも何らかの意図で遺構内に置かれたものなのかなど考古遺物としての意味は不透明であるが，稲作農耕などが背景にあることは疑いもなく細谷地遺跡における農耕史を探る一資料が得られたといえよう．

## 引用文献

佐瀬　隆（1992）付編８　鼻館跡の古代のＤ３－ｗ土抗，Ｅ４－ａ土抗の埋土に狭在する灰層の植物珪酸体分析，灰像分析．岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第171集，鼻館跡発掘調査報告書，国道45号久慈バイパス関連遺跡発掘調査，222－227，（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター．

佐瀬　隆（2003）植物ケイ酸体．竹内均（監）「地球環境調査計測事典　陸域編（第１巻）」，974－981，フジテクノシステム．

## 表１　細谷地遺跡から検出された灰様資料の植物珪酸体，珪化組織片組成

植物珪酸体群

| | 試料名 | イネ科機動細胞起源（ファン型） | | | 棒状型 | | | | イネ科トゲ細胞起源（ポイント型） | イネ科短細胞起源 | | | | | | | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | タケ亜科起源 | 非タケ亜科起源 イネ属タイプ | 非タケ亜科起源 その他 | 平滑縁 | 鋸歯縁 ムギ様 | 鋸歯縁 導管起源 | 鋸歯縁 普通 | | タケ型 | ヒゲシバ型 | キビ型 | イネ型 | ウシノケグサ型 | 未分類 | | | |
| ① | 14次RA131灰様資料 | 0<br>0.0 | 42<br>32.3 | 15<br>11.5 | 30<br>23.1 | ☆ | 15<br>11.5 | 17<br>13.1 | 5<br>3.8 | 0<br>0.0 | 0.0 | 1<br>0.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | | 5<br>3.8 | 130<br>43.8 |
| ② | 14次RA131灰様資料下位（灰混じり） | 0<br>0.0 | 26<br>13.3 | 30<br>15.3 | 56<br>28.6 | 16<br>8.2 | 6<br>3.1 | 24<br>12.2 | 14<br>7.1 | 0<br>0.0 | 6<br>3.1 | 8<br>4.1 | 0.0 | 4<br>2.0 | 4<br>2.0 | | 2<br>1.0 | 196<br>70.8 |
| ③ | 14次RA131埋土 | 3<br>1.2 | 7<br>2.9 | 64<br>26.1 | 36<br>14.7 | 4<br>1.6 | 2<br>0.8 | 28<br>11.4 | 24<br>9.8 | 2<br>0.8 | 2<br>0.8 | 34<br>13.9 | 0.0 | 13<br>5.3 | 17<br>6.9 | | 8<br>3.3 | 245<br>98.8 |
| ④ | 14次RD320灰様資料上部 | 0<br>0.0 | 23<br>12.3 | 25<br>13.4 | 95<br>50.8 | 3<br>1.6 | 10<br>5.3 | 22<br>11.8 | 5<br>2.7 | 0<br>0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1<br>0.5 | 0.0 | | 3<br>1.6 | 187<br>46.3 |
| ⑤ | 14次RD320灰様資料中部 | 0<br>0.0 | 7<br>8.2 | 7<br>8.2 | 24<br>28.2 | 26<br>30.6 | 4<br>4.7 | 12<br>14.1 | 3<br>3.5 | 0<br>0.0 | 0.0 | 0.0 | 2<br>2.4 | 0.0 | 0.0 | | 0<br>0.0 | 85<br>30.2 |
| ⑥ | 14次RD320灰様資料下部 | 0<br>0.0 | 9<br>6.6 | 14<br>10.2 | 63<br>46.0 | 8<br>5.8 | 6<br>4.4 | 23<br>16.8 | 6<br>4.4 | 0<br>0.0 | 2<br>1.5 | 0.0 | 0.0 | 1<br>0.7 | 2<br>1.5 | | 3<br>2.2 | 137<br>30.4 |
| ⑦ | 14次RA146埋土下位黒色土 | 3<br>1.2 | 1<br>0.4 | 97<br>37.9 | 36<br>14.1 | 0.0 | 2<br>0.8 | 24<br>9.4 | 24<br>9.4 | 5<br>2.0 | 2<br>0.8 | 28<br>10.9 | 0.0 | 9<br>3.5 | 12<br>4.7 | | 13<br>5.1 | 256<br>100.0 |
| ⑧ | 10次RD153灰様資料（6層のa） | 0<br>0.0 | 11<br>14.7 | 5<br>6.7 | 30<br>40.0 | 0.0 | 12<br>16.0 | 7<br>9.3 | 6<br>8.0 | 0<br>0.0 | 1<br>1.3 | 0.0 | 1<br>1.3 | 0.0 | 0.0 | | 2<br>2.7 | 75<br>20.7 |
| ⑨ | 10次RD153灰様資料（6層のb） | 0<br>0.0 | 12<br>15.6 | 7<br>9.1 | 32<br>41.6 | 0.0 | 3<br>3.9 | 10<br>13.0 | 3<br>3.9 | 0<br>0.0 | 0.0 | 0.0 | 2<br>2.6 | 2<br>2.6 | 0.0 | | 6<br>7.8 | 77<br>21.2 |

上段は個数，下段は植物珪酸体群内での頻度（%），ただし計の下段は（植物珪酸体＋珪化組織片）総数を基数に求めた珪酸体の頻度（%）

珪化組織片群

| | 試料名 | イネ科種皮 | | | | | イネ科葉部 | | その他 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | イネ様 | キビ・ヒエ様 | アワ様 | ムギ様 | 不定 | イネ様 | キビ亜科様 | おろし金状 | 弱珪化毛 | 基本組織 | |
| ① | 14次RA131灰様資料 | 126<br>75.4 | 2<br>1.2 | | | | 5<br>3.0 | | 8<br>4.8 | 14<br>8.4 | 12<br>7.2 | 167<br>56.2 |
| ② | 14次RA131灰様資料下位（灰混じり） | 46<br>56.8 | 6<br>7.4 | 1<br>1.2 | 8<br>9.9 | | 1<br>1.2 | | 1<br>1.2 | 3<br>3.7 | 15<br>18.5 | 81<br>29.2 |
| ③ | 14次RA131埋土 | 1 | | | | | 1 | | 1 | | | 3<br>1.2 |
| ④ | 14次RD320灰様資料上部 | 158<br>72.8 | 12<br>5.5 | 2<br>0.9 | 1<br>0.5 | 4<br>1.8 | 2<br>0.9 | | 4<br>1.8 | 15<br>6.9 | 19<br>8.8 | 217<br>53.7 |
| ⑤ | 14次RD320灰様資料中部 | 65<br>33.2 | 27<br>13.8 | 6<br>3.1 | 4<br>2.0 | 11<br>5.6 | 1<br>0.5 | ☆ | 11<br>5.6 | 19<br>9.7 | 52<br>26.5 | 196<br>69.8 |
| ⑥ | 14次RD320灰様資料下部 | 164<br>52.2 | 22<br>7.0 | 6<br>1.9 | 6<br>1.9 | 7<br>2.2 | 1<br>0.3 | | 4<br>1.3 | 30<br>9.6 | 74<br>23.6 | 314<br>69.6 |
| ⑦ | 14次RA146埋土下位黒色土 | | | | | | | | | | | 0<br>0.0 |
| ⑧ | 10次RD153灰様資料（6層のa） | 249<br>86.5 | | | | | 3<br>1.0 | | 8<br>2.8 | 13<br>4.5 | 15<br>5.2 | 288<br>79.3 |
| ⑨ | 10次RD153灰様資料（6層のb） | 190<br>66.4 | 1<br>0.3 | 1<br>0.3 | | | 9<br>3.1 | | 25<br>8.7 | 11<br>3.8 | 49<br>17.1 | 286<br>78.8 |

上段は個数，下段は珪化組織片内での頻度（%），ただし計の下段は（植物珪酸体＋珪化組織片）総数を基数に求めた珪化組織片の頻度（%）

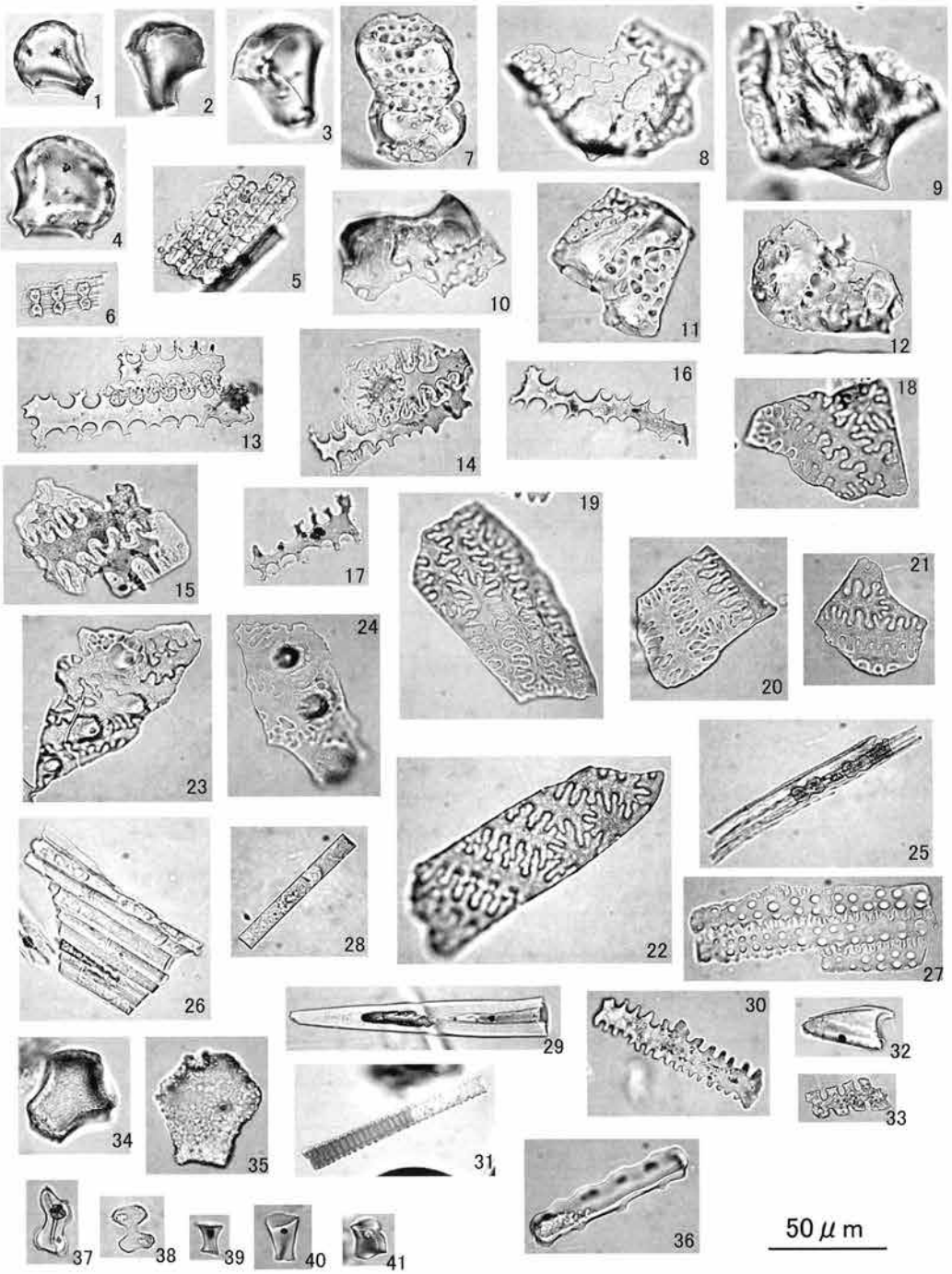



**図1　細谷地遺跡灰様資料から検出された代表的な植物珪酸体，珪化組織片の顕微鏡写真**

1－4：イネ科機動細胞起源ファン型珪酸体イネ属タイプ，5・6：イネ科葉部珪組織片イネ様，7－12：イネ科種皮珪化組織片イネ様，13－15：イネ科種皮珪化組織片ムギ様，16・17：棒状型珪酸体鋸歯縁ムギ様，18－22：イネ科種皮珪化組織片キビ・ヒエ様，23・24：イネ科種皮珪化組織片アワ様，25：イネ科葉部珪化組織片キビ亜科様，26：珪化基本組織片，27：おろし金状珪化組織片，28：棒状型珪酸体平滑縁，29：弱珪化毛，30：棒状型珪酸体鋸歯縁，31：棒状型珪酸体導管起源，32：イネ科トゲ細胞起源ポイント型珪酸体，33，イネ科葉肉細胞起源椎骨状，34：イネ科機動細胞起源ファン型珪酸体非タケ亜科起源，35：同タケ亜科起源，36：イネ科短細胞起源ウシノケグサ型珪酸体，37・38：同キビ（亜科）型珪酸体，39・40：同その他糸巻き状珪酸体，41：同タケ型珪酸体

1・3・4・6・7・29：資料①，33-36・40・41：資料③，10・13-22・24・25・27・32：資料⑤，23：資料⑥，37－39：資料⑦，2・8・9・11・12・26：資料⑧，5・28・30・31：資料⑨

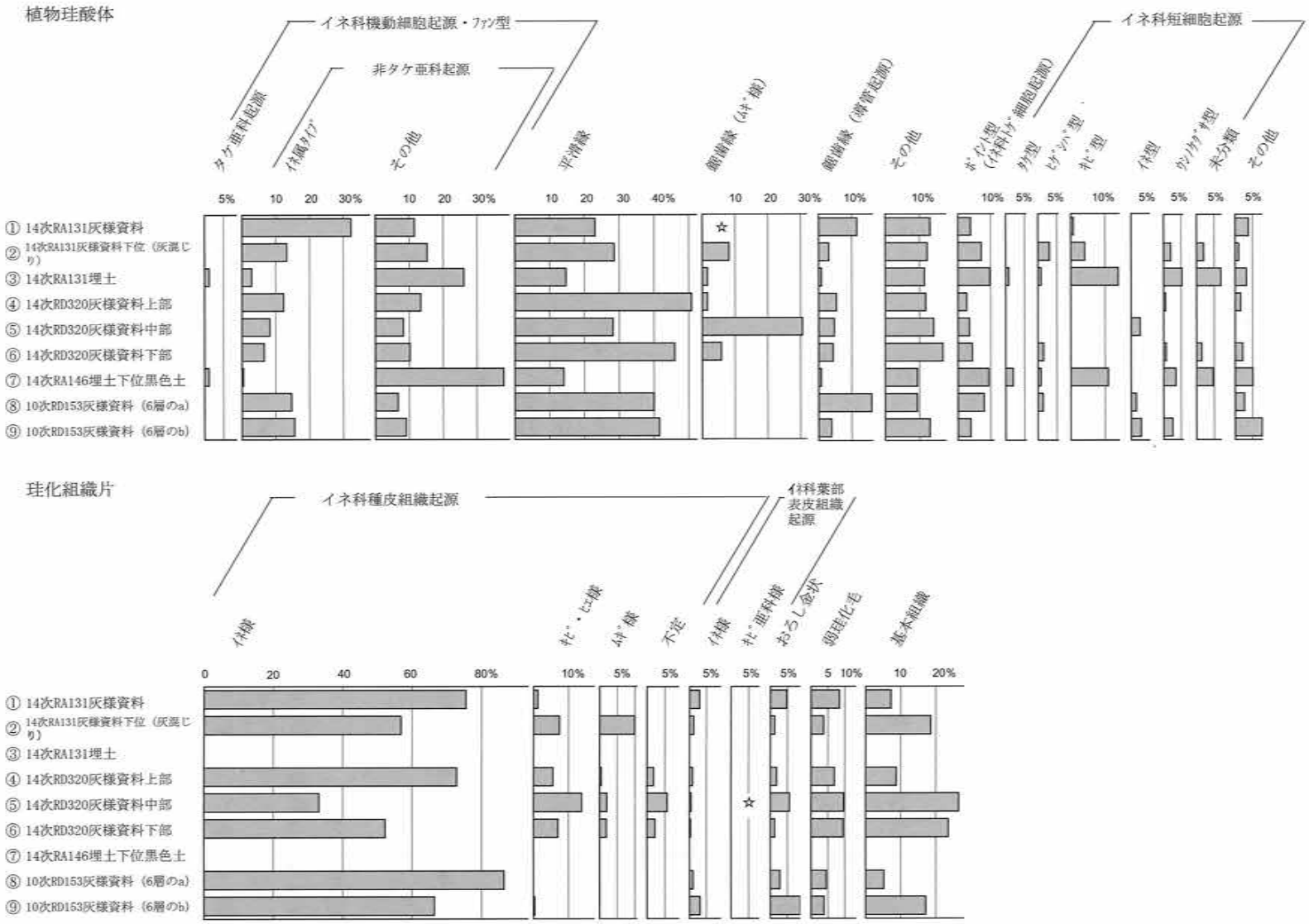



図2　細谷地遺跡から検出された灰様資料および比較資料の植物珪酸体・珪化組織片組成図

## 2　細谷地遺跡第14次調査出土鉄滓等の成分分析調査

JFEテクノリサーチ株式会社
分析・評価事業部
埋蔵文化財調査研究室

### 1　はじめに

岩手県盛岡市飯岡新田に所在する細谷地遺跡（第14次調査）から出土した鉄関連遺物について、学術的な記録と今後の調査のための一環として化学成分分析を含む自然科学的観点での調査を依頼された。調査の観点として、出土鉄滓の化学成分分析、外観観察、ミクロ組織観察、X線回折調査に基づき、資料の製造工程上の位置づけおよび始発原料などを中心に調査した。その結果について報告する。

### 2　調査項目および試験・観察方法

（1）調査項目

調査資料の記号、出土遺構・注記および調査項目を表1に示す。

（2）調査方法

（i）重量計測、外観観察および金属探知調査

資料重量の計量は電子天秤を使用して行い、少数点2位で四捨五入した。各種試験用試料を採取する前に、資料の外観をmm単位まであるスケールを同時に写し込みで撮影した。資料の出土位置や資料の種別等は提供された資料に準拠した。

着磁力調査については、直径30mmのリング状フェライト磁石を使用し、6mmを1単位として35cmの高さから吊した磁石が動きは始める位置を着磁度として数値で示した。遺物内の残存金属の有無は金属探知機（MC：metal checker）を用いて調査した。金属検知にあたっては参照標準として直径と高さを等しくした金属鉄円柱（1.5mmφx1.5mmH、2.0mmφx2.0mmH、5mmφx5mmH、10mmφx10mmH、16mmφx16mmH、20mmφx20mmH、30mmφx30mmH）を使用し、これとの対比で金属鉄の大きさを判断した。

（ii）化学成分分析

化学成分分析は鉄鋼に関するＪＩＳ分析法に準じて行っている。

- 全鉄（T.Fe）：三塩化チタン還元－二クロム酸カリウム滴定法。
- 金属鉄（M.Fe）：臭素メタノール分解－EDTA滴定法。
- 酸化第一鉄（FeO）：二クロム酸カリウム滴定法。
- 酸化第二鉄（Fe２O３）：計算。・化合水（C.W.）：カールフィッシャー法。
- 炭素（C）、イオウ（S）：燃焼－赤外線吸収法。
- ライム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化マンガン（MnO）、酸化ナトリウム（Na2O）、珪素（Si）、マンガン（Mn）、リン（P）、銅（Cu）、ニッケル（Ni）、コバルト（Co）、アルミニウム（Al）、ヴァナジュム（V）、チタン（Ti）：ICP発光分光分析法。
- シリカ（SiO2）、アルミナ（Al2O3）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、二酸化チタン（TiO2）、酸化リン（P2O5）、酸化カリウム（K2O）：ガラスビード蛍光X線分析法。

但しCaO, MgO, MnOは含有量に応じてICP分析法またはガラスビード蛍光X線分析法を選択。

・　酸化ナトリウム（Na2O）：原子吸光法。

なお、鉄滓中成分は、18成分（全鉄T.Fe、金属鉄M.Fe、酸化第一鉄FeO、酸化第二鉄Fe2O3、シリカSiO2、アルミナAl2O3、ライムCaO、マグネシアMgO、酸化ナトリウムNa2O、酸化カリウムK2O、二酸化チタンTiO2、酸化マンガンMnO、酸化リンP2O5、コバルトCo、化合水C.W.、炭素C、ヴァナジウムV、銅Cu）を化学分析している。分析は各元素について分析し、酸化物に換算して表示している。

羽口・胎土成分は、13成分（全鉄T.Fe、酸化鉄FeO、シリカSiO2、アルミナAl2O3、ライムCaO、マグネシアMgO、化合水C.W.、灼熱減量Ig. Loss、二酸化チタンTiO2、酸化マンガンMnO、酸化ナトリウムNa2O、酸化カリウムK2O、炭素C、）を化学分析している。なお、粘土については産地検討のためルビジュウムRb　とストロンチュウムSrについても分析した。

鉄製品中成分の化学分析は、13成分（炭素C、シリコンSi、マンガンMn、リンP、イオウS、銅Cu、ニッケルNi、コバルトCo、アルミニウムAl、ヴァナジウムV、チタンTi、カルシウムCa、マグネシウムMg）を化学分析している。

（ⅲ）顕微鏡組織観察

資料の一部を切り出し樹脂に埋め込み、細かい研磨剤などで研磨（鏡面仕上げ）する。炉壁・羽口・粘土などの鉱物性資料については顕微鏡で観察しながら代表的な鉱物組織などを観察し、その特徴から材質、用途、熱履歴などを判断する。滓関連資料も炉壁・羽口などと同様の観察を行うが特徴的鉱物組織から成分的な特徴に結びつけ製・精錬・鍛造工程の判別、使用原料なども検討する。金属鉄はナイタール（５％硝酸アルコール液）で腐食後、顕微鏡で観察しながら代表的な断面組織を拡大して写真撮影し、顕微鏡組織および介在物（不純物、非金属鉱物）の存在状態等から製鉄・鍛冶工程の加工状況や材質を判断する。原則として100倍および 400倍で撮影を行う。必要に応じて実体顕微鏡（５倍～20倍）による観察もする。

（ⅳ）X線回折測定

試料を粉砕して板状に成形し、X線を照射すると、試料に含まれている化合物の結晶の種類に応じて、それぞれに固有な反射（回折）された特性X線を検出（回折）できることを利用して、 試料中の未知の化合物を同定することができる。多くの種類の結晶についての標準データが整備されており、ほとんどの化合物が同定される。

測定装置　理学電気株式会社製　ロータフレックス（RINT－1500型）

測定条件

| | |
|---|---|
| ① 使用X線 | Co－Kα（波長＝1.79021Å） |
| ② Kβ線の除去 | グラファイト単結晶モノクロメーター |
| ③ 管電圧・管電流 | 48kV・200mA |
| ④ スキャニング・スピード | 4.0°/min |
| ⑤ サンプリング・インターバル | 0.020° |
| ⑥ D.S.スリット | 1° |
| ⑦ R.S.スリット | 0.15㎜ |

⑧ S.S.スリット　　1°
⑨ 検出器　　シンチレーション・カウンター

3　調査結果および考察

分析調査結果を図表にまとめて７頁～10頁に示す。表１に調査資料と調査項目をまとめた。表２に資料の化学成分分析結果をそれぞれ示す。資料番号は提供された資料に準拠し、出土状況については提供された資料を転記した。

全資料の外観写真を11頁～13頁に、鉄滓の顕微鏡ミクロ組織を14頁～22頁に、X線回折結果を23頁に示す。鉱物組織の英文、化学式は一括して５．参考に示した。

各資料の調査結果をまとめ、最も確からしい推定結果を最後にまとめる。以下、資料の番号順に述べる。

資料No.１　鍛造剥片、着磁度：強、メタル反応：なし

**外観**：外観を外観写真１に示す。典型的な鍛造剥片で８㎜ x ８㎜くらいの大きさのものから１㎜ x １㎜くらいの大きさのものまで様々である。篤さは0.1㎜くらいのものが多く、中には0.7～１㎜くらいのものもある。片側が暗褐色で反対側がやや灰色のものが多い。厚さが0.1㎜くらいで片面が銀灰色の光沢のあるもの（資料１－１とする）、やや灰色のもの（資料No.１－２とする）、厚手のもの（資料No.１－３）について顕微鏡観察した。通常の測定法による着磁度は測定できないが磁石に強く引かれ、磁着は強い。メタル反応はない。

**顕微鏡組織**：資料１－１：の100倍と400倍の組織を顕微鏡組織写真１－１に示す。厚さは0.125㎜位である。400倍の写真に見られるが非常に緻密な酸化鉄相で３層から構成されている。内層のウスタイトは凝集しており、不明瞭ながら粒の痕跡が見られる。資料１－２：厚さは150μ程度である。３層構造と思われるがヘマタイトは明瞭でなくマグネタイトの中間層とウスタイトの内層が観察される。資料１－３：100倍の写真に見られるように上側の鍛造剥片とガラス質の多い、ウスタイトを多く含む滓が結合しており、鍛造剥片というよりは再結合滓になりかけている鉄滓の薄片と見る方がよいように思われる。

資料No.２　粒状滓、着磁度：強、メタル反応：なし

**外観**：外観を外観写真2に示す。粒径が１㎜位から５㎜くらいまでの粒状滓で表面は暗褐色で滑らかである。発泡したものはなく、そのためか通常の粒状滓に比べ重量感がある。通常の測定法による着磁度は測定できないが磁石には非常に強く引きつけられ着磁は強い。メタル反応はない。

**顕微鏡組織**：顕微鏡組織を組織写真２－１、２－２に示す。組織写真２－１、２－２ともに同質の組織である。２－１では乳白色のウスタイトとマグネタイトの混晶とガラス質からなる粒状滓である。２－２ではさらに鉄酸化物が多い凝集ウスタイトの組織である。磁着が認められることからマグネタイトも存在しているはずである。組織写真２－２に見られるように凝集ウスタイトからは鍛錬系の滓と推察される。

資料No.３　鍛冶滓、着磁度：強、ＭＣ：なし

**外観**：外観を外観写真３に示す。１㎜以下の大きさの滓が滴下して堆積結合したように見える滓で、流動性を有する滓が結合したようにはみえない。小さな粒の粟おこし状で軽量である。土砂なども一

緒に固化し酸化土砂の様相を呈し、飛散した滓粒と土砂が一体化しているようにも見える。通常の測定による着磁度は測定できないが磁着は強い。メタル反応はない。やや大きめの粒子について検鏡する。

**顕微鏡組織**：顕微鏡組織を組織写真３－１、３－２に示す。組織の全体を把握するため資料No.３についてはすべて50倍にて撮影した。３－１の写真では炉壁胎土などに巻き込まれれた金属鉄粒子が銹化している。また、溶けた胎土中に微細な金属鉄粒子が白く輝いて観察される。一方、別な粒子は写真３－２に見られるように銹化鉄の固まりである。このように資料３は鍛冶等で飛散した様々な粒子の集合体の可能性が考えられる。

**X線回折結果**：結果をX線回折チャート１に示す。マグネタイトが最強の回折強度を示し、次いで石英、ウスタイトが明瞭な回折線を示している。鉄銹化物であるゲーサイトやレピドクロサイトの回折線も認められる。このほかにはファイヤライトや金属鉄の回折線もある。滓でありながら土砂や鉄さびが多く存在することがわかる。顕微鏡観察と一致した結果である。

**化学成分**：化学成分分析結果を表２に示す。全鉄51.7％に対して金属鉄は0.28％である。FeOは12.8％、$Fe_2O_3$は59.3％である。$SiO_2$は15.1％で、$Al_2O_3$は2.88％である。結合水は5.34％と非常に多く、ゲーサイトなどの銹化鉄が相当存在しているとみられる。$TiO_2$は0.22％と低く、始発原料が砂鉄か否か不明である。CaOは0.65％、MgOは0.56％含まれている。造滓成分量（$SiO_2$＋$Al_2O_3$＋CaO＋MgO＋$Na_2O$＋$K_2O$）は20.23％含まれている。

鉄滓の化学成分の特徴から製鉄工程の位置づけを検討する図１、２、３で見ると図１、図３では鍛錬鍛冶滓と判断される位置にあり、図２では精錬鍛冶滓と鍛錬鍛冶滓の中間にある。土砂の混入は明らかであり、これを考慮すれば滓そのものの造滓成分は少なくなり、総合的には鍛錬鍛冶滓と思われる。以上から、本資料は鍛錬錬鍛冶滓と推察される。始発原料は不明である。

資料No.４　鍛冶滓、着磁度：強、ＭＣ：なし

**外観**：外観を外観写真４に示す。資料No.３の小粒や５㎜以下も鉄さびと酸化土砂の集合体に見える資料で単純な鉄滓とはことなある。飛散した滓粒が土砂などともの結合したものの様である。通常の測定による着磁度は測定できないが磁着は強い。メタル反応はない。この中で滓粒らしきものを検鏡する。

**顕微鏡組織**：顕微鏡組織を組織写真４－１、４－２に示す。４－１ではウスタイトやマグネタイトを主体とする乳白色の滓とガラス質が多い滓とが結合している様子がわかる。粒状滓の再結合滓になりかけの状態のように見える。４－２は別な粒子であるが銹が主体でガラス質滓と結合しており、鍛冶系滓であることは明瞭である。

**X線回折結果**：結果をX線回折チャート２に示す。マグネタイトが最強の回折強度を示し、次いで石英の明瞭な回折線が認められる。他にはウスタイト、鉄銹化物であるゲーサイトやレピドクロサイト、ファイヤライト、金属鉄の弱から微弱な回折線も認められる。

**化学成分**：化学成分分析結果を表２に示す。全鉄48.9％に対して金属鉄は0.22％である。FeOは20.2％、$Fe_2O_3$は47.1％である。$SiO_2$は20.1％で、$Al_2O_3$は3.74％である。結合水は3.61％と多く、ゲーサイトなどの銹化鉄が相当存在しているとみられる。$TiO_2$は0.27％と低く、始発原料が砂鉄か否か不明である。CaOは0.84％、MgOは0.65％含まれている。造滓成分量（$SiO_2$＋$Al_2O_3$＋CaO＋MgO＋$Na_2O$＋$K_2O$）は26.5％含まれている。

鉄滓の化学成分の特徴から製鉄工程の位置づけを検討する図１、２、３で見ると図１、図３では鍛錬

鍛冶滓と判断される位置にあり、図２では精錬鍛冶滓と鍛錬鍛冶滓の中間にある。土砂の混入は明らかであり、これを考慮すれば滓そのものの造滓成分は少なくなり、総合的には鍛錬鍛冶滓と思われる。以上から、本資料は鍛錬錬鍛冶滓と推察される。始発原料は不明である。

## 4　まとめ

本分析調査を以下にまとめた。

本調査の資料はいずれも鍛錬鍛冶に関わると判断された。RA131住居跡では鍛錬鍛冶が行われていた可能性が考えられる。

## 5　参考

（１）鉄滓の顕微鏡組織について：　鉄滓を構成する化合物結晶には、一般的に表Ａ１のような鉱物組織がある。酸化鉄（Fe2O3、Fe3O4、FeO）、二酸化ケイ素（シリカ: SiO2）、アルミナ（Al2O3）および二酸化チタン（TiO2）を組み合せた化合物（固溶体）が多く、これら鉱物結晶は含有量にも依存するが、Ｘ線回折により検出され確認できる。鉄滓中の低融点化合物がガラス相（非晶質）を形成することがあり、Ｘ線回折では検出されない。

**表Ａ１　鉱物組織の英文名、化学式、顕微鏡観察状況**

| 鉱物組織名（和） | 鉱物名（英） | 化学式 | 偏光顕微鏡観察状況 |
|---|---|---|---|
| ヘマタイト | Hematite | $\alpha$-$Fe_2O_3$ | 赤褐色～赤紫色 |
| マーゲマイト | Maghemite | $\gamma$-$Fe_2O_3$ | 赤紫色～黒紫色 |
| マグネタイト | Magnetite | $Fe_3O_4$ | 白青色、四角または多角盤状 |
| ウスタイト | Wustite | FeO | 灰白色、繭玉状または樹枝状 |
| ファイヤライト | Fayalite | $2FeO \cdot SiO_2$ | 薄い青灰色、短冊状の長い結晶 |
| シュードブルッカイト | Pseudobrookite | $FeO \cdot 2TiO_2$ | 白色、針状の結晶 |
| イルメナイト | Ilmenite | $FeO \cdot TiO_2$ | 白色、針状･棒状の長い結晶 |
| ウルボスピネル | Ulvospinel | $2FeO \cdot TiO_2$ | 白色、四角～角形板状結晶 |
| ムライト | Mullite | 3Al2O3・2SiO2 | Ｘ線で同定されるが組織は不明 |
| コージェライト | Cordierite | 2MgO・4Al2O3・5SiO2 | Ｘ線で同定されるが組織は不明 |
| アルバイト | Albite | Na2O・Al2O3・6SiO2 | Ｘ線で同定されるが組織は不明 |
| リューサイト | Leucite | K2O・Al2O3・4SiO2 | Ｘ線で同定されるが組織は不明 |
| ハロイサイト | Halloysite | $Al_2O_3 \cdot 2SiO_2 \cdot 2H_2O$ | Ｘ線で同定されるが組織は不明 |

## 6　図表・写真

表１　調査資料と調査項目

資料の種別、出土遺構、層位は提供された資料による。

| 資料 No. | 遺跡<br>出土位置 | 層位 | 資料　種別 | 着磁度 | ＭＣ反応 | 外観写真 | 化学成分 | 組織写真 | Ｘ線回折 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| No. 1 | RA131 | 炉１ | 鍛造剥片 | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| No. 2 | RA131 | 炉１ | 粒状滓 | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| No. 3 | RA131 | 炉１ | 鍛冶滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No. 4 | RA131 | 炉１ | 鉄滓？ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

表 2　鉄滓の化学成分分析結果　(%)

| 資料No. | T. Fe | M. Fe | FeO | $Fe_2O_3$ | $SiO_2$ | $Al_2O_3$ | CaO | MgO | $Na_2O$ | $K_2O$ | 比率(%) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | FeO | $Fe_2O_3$ |
| 3 | 51.7 | 0.28 | 12.8 | 59.3 | 15.1 | 2.88 | 0.65 | 0.56 | 0.77 | 0.27 | 17.8 | 82.2 |
| 4 | 48.9 | 0.22 | 20.2 | 47.1 | 20.1 | 3.74 | 0.84 | 0.65 | 0.85 | 0.32 | 30.0 | 70.0 |

表2　つづき

| 資料No. | $TiO_2$ | MnO | $P_2O_5$ | Co | C.W. | C | V | Cu | $TiO_2$/T.Fe | MnO/$TiO_2$ | 造滓成分% |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 0.22 | 0.06 | 0.335 | 0.022 | 5.34 | 1.08 | 0.004 | 0.010 | 0.004 | 0.273 | 20.23 |
| 4 | 0.27 | 0.06 | 0.304 | 0.021 | 3.61 | 0.94 | 0.008 | 0.008 | 0.006 | 0.222 | 26.50 |

C.W.=化合水、造滓成分= SiO2+ Al2O3+ CaO+ MgO+ Na2O+ K2O

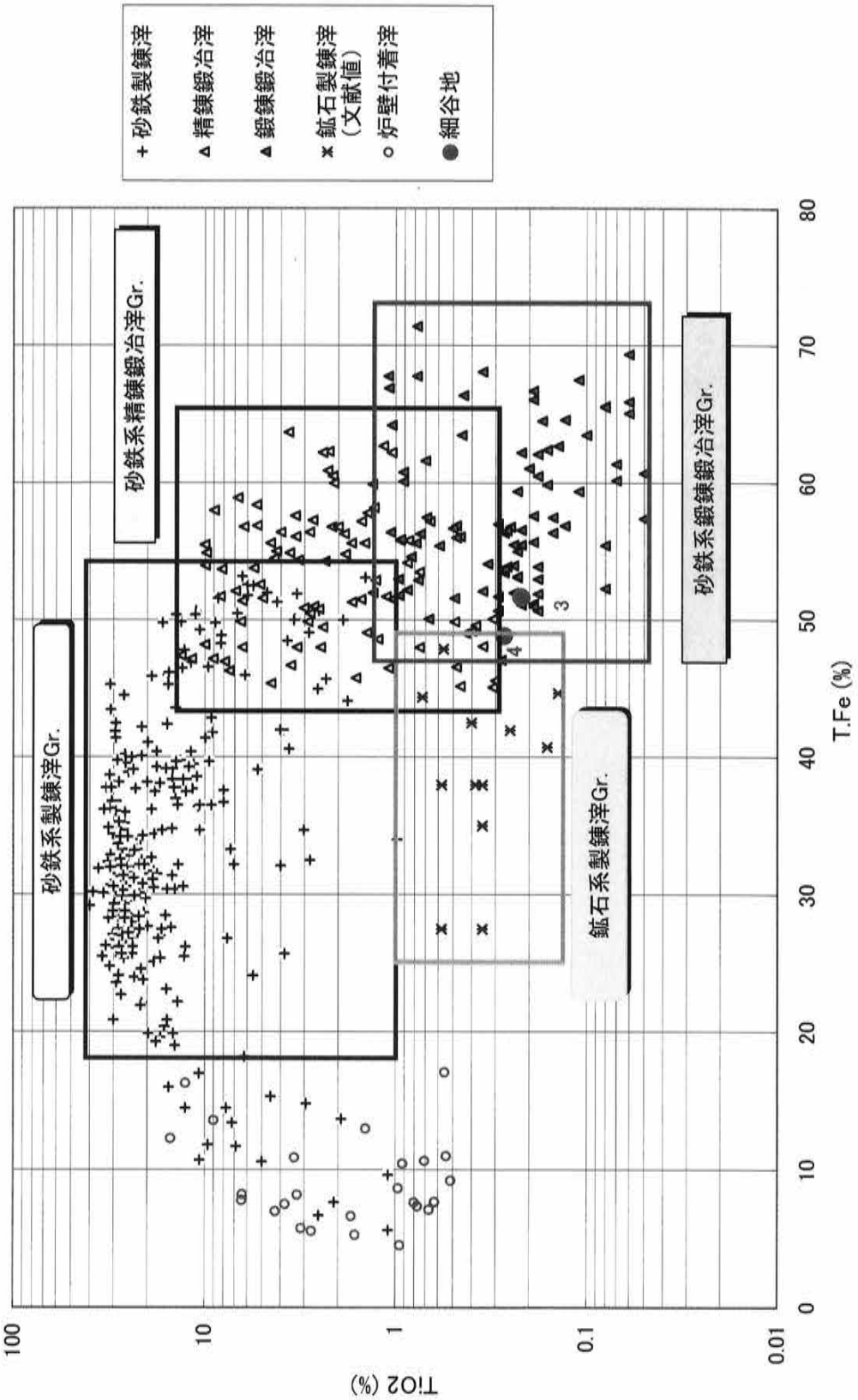
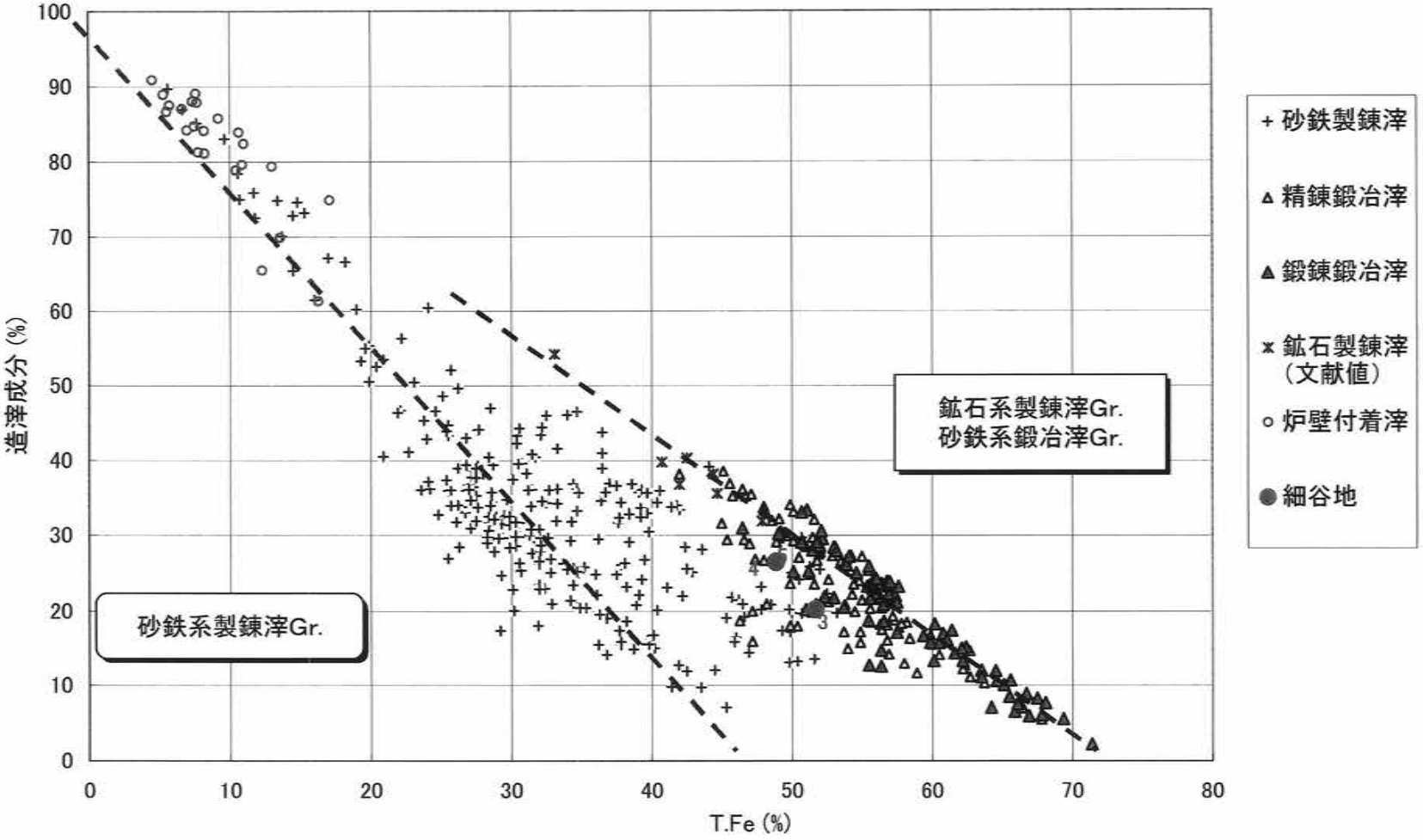



図1　出土鉄滓類の全鉄量と二酸化チタン量の分布図




（造滓成分＝ SiO2+ Al2O3+ CaO+ MgO+K2O+Na2O）

図2　製錬滓と鍛冶滓の分類

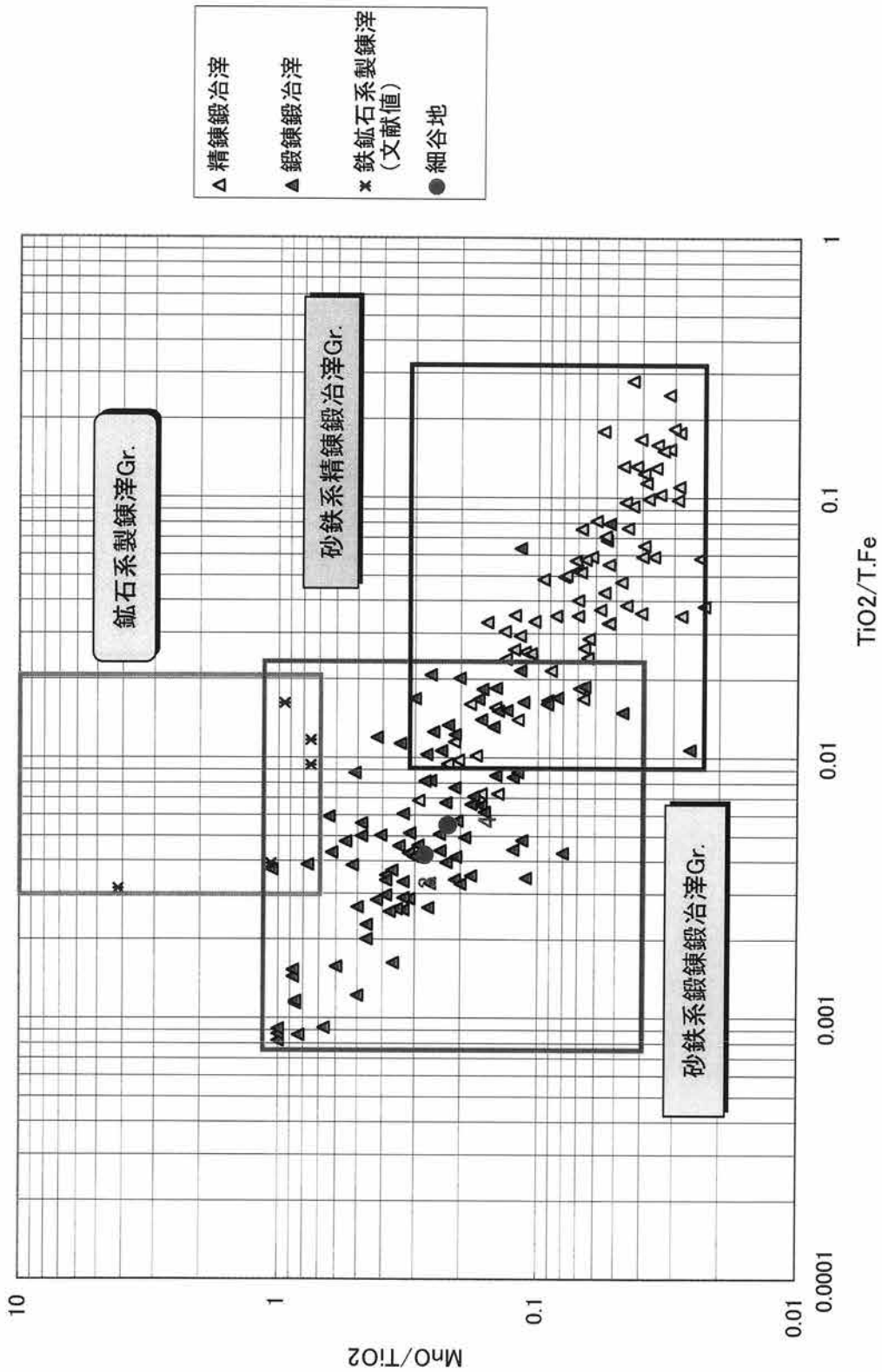
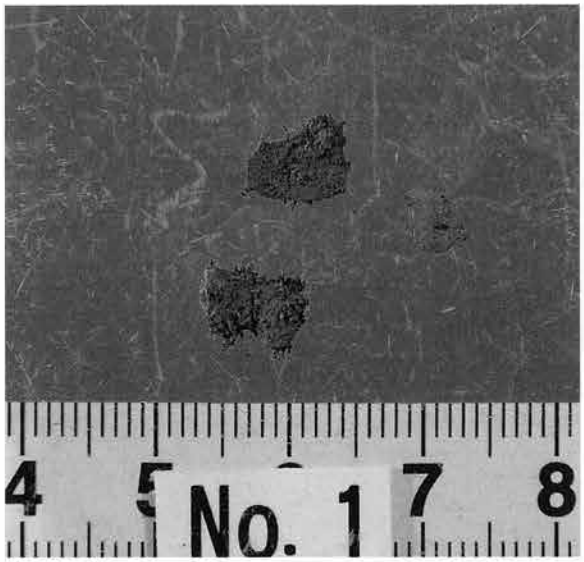
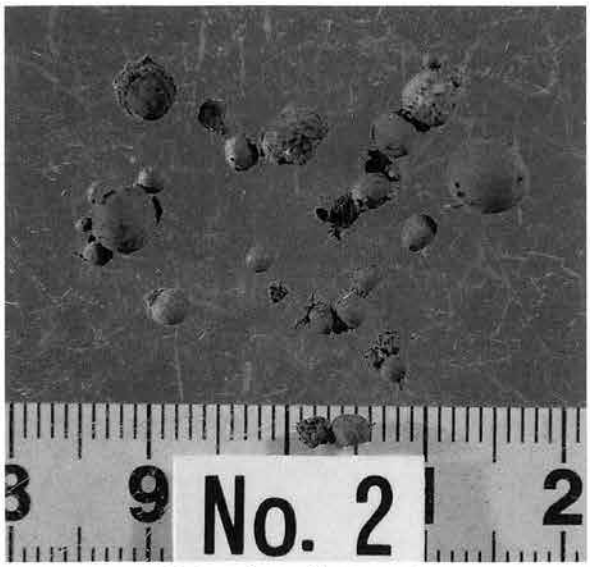



図3　砂鉄系鍛冶滓と鉱石系製錬滓の分類

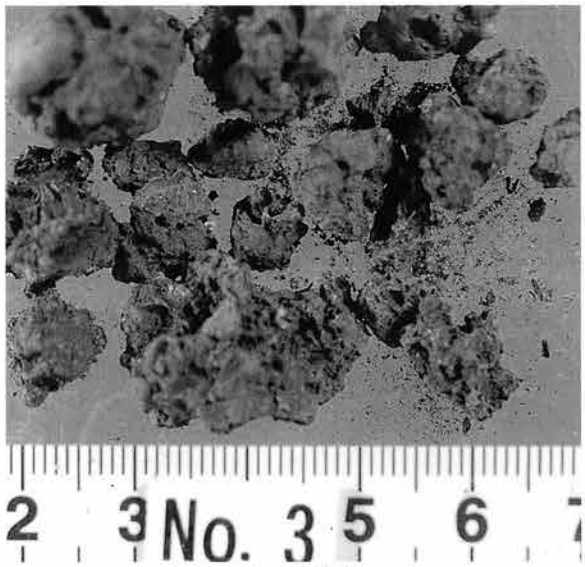
外観写真１（資料No.１）



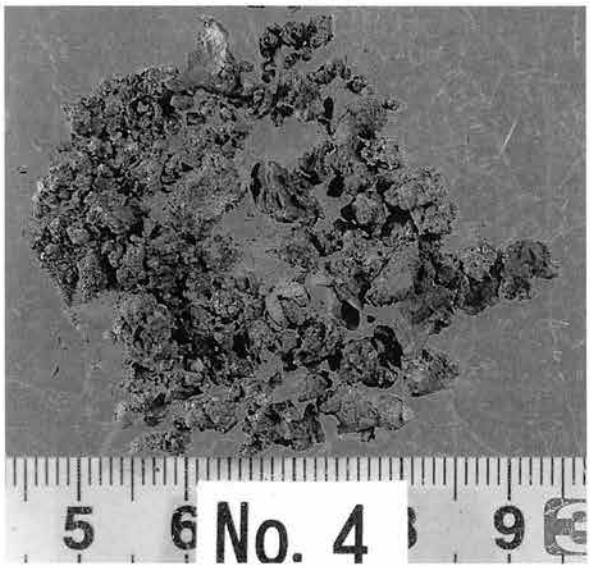

外観写真１（資料No.１）



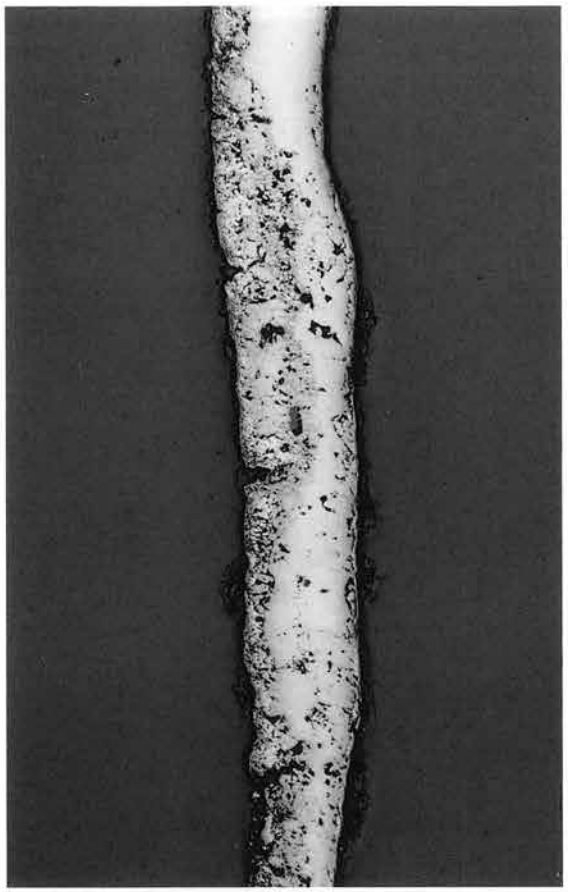

外観写真２（資料No.２）




外観写真３（資料No.３）



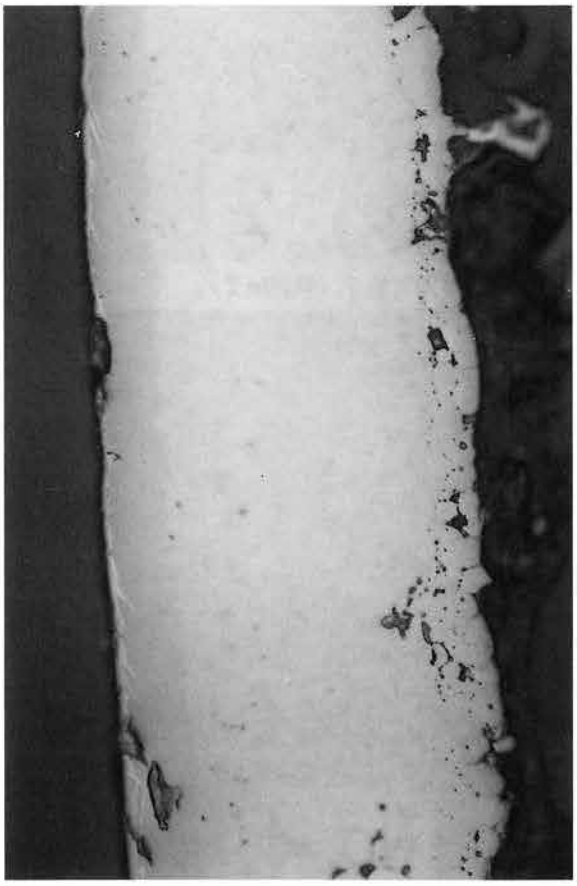

外観写真４（資料No.４）



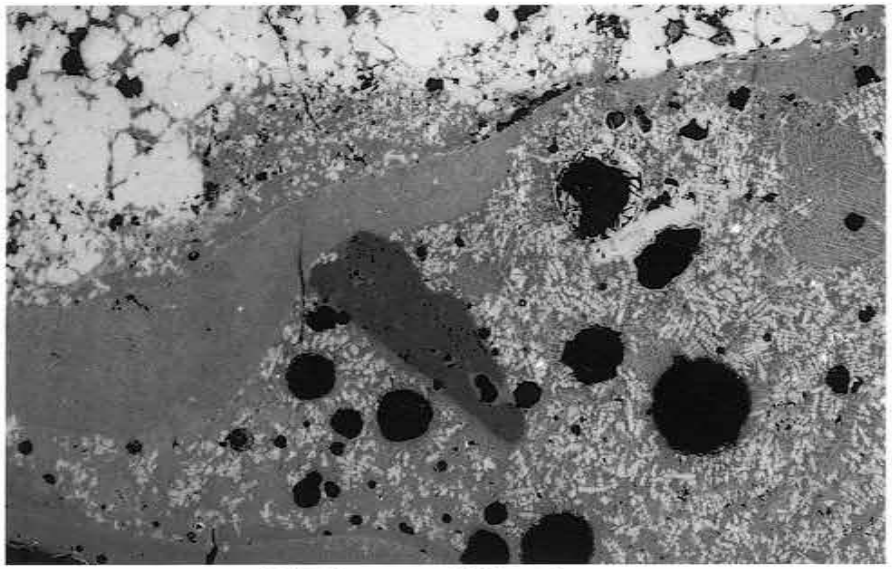
組織写真１－２（資料No.１）×100

組織写真１－２（資料No.１）×400

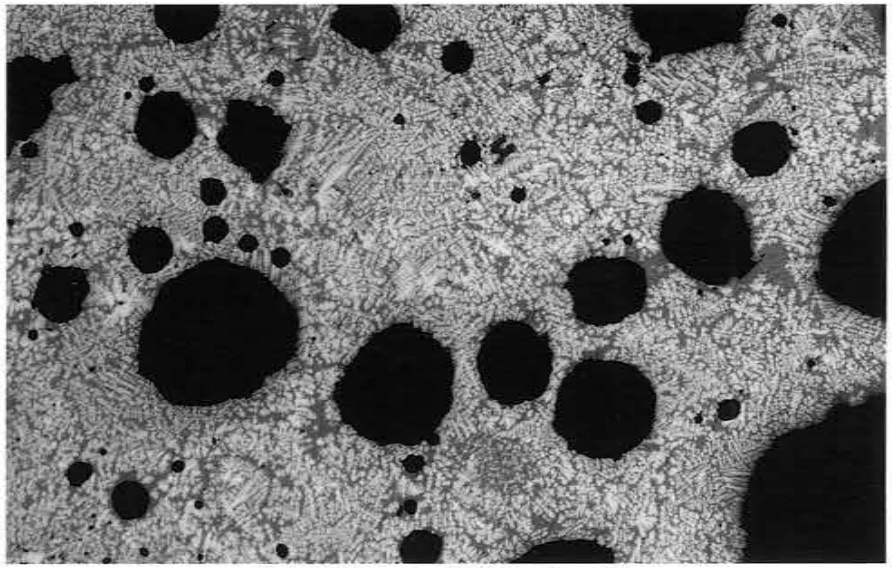
組織写真１－１（資料No.１）×100



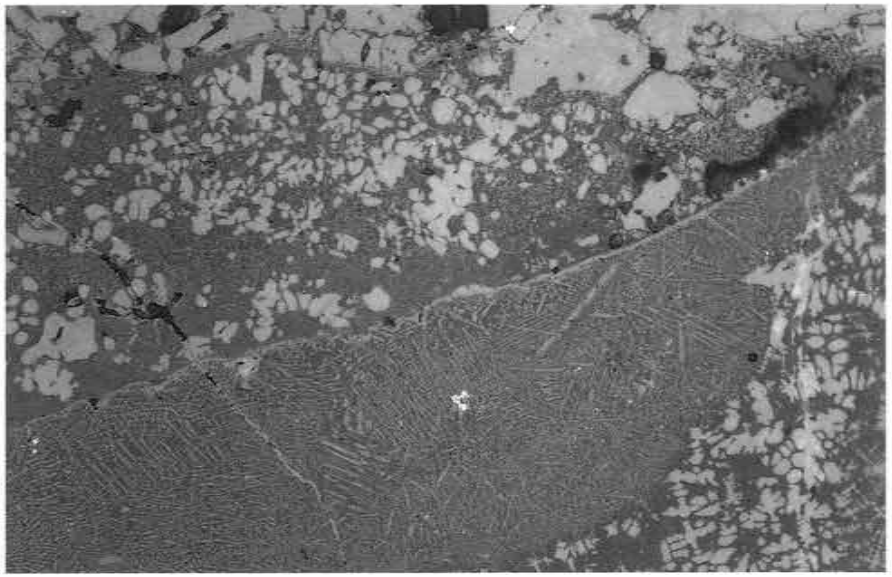
組織写真１－１（資料No.１）×400



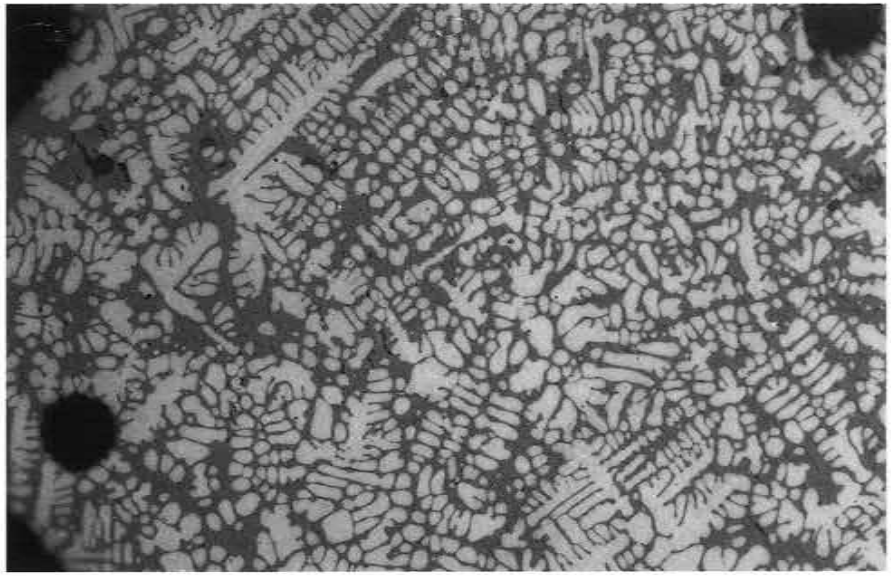
組織写真１－３（資料No.３）×100



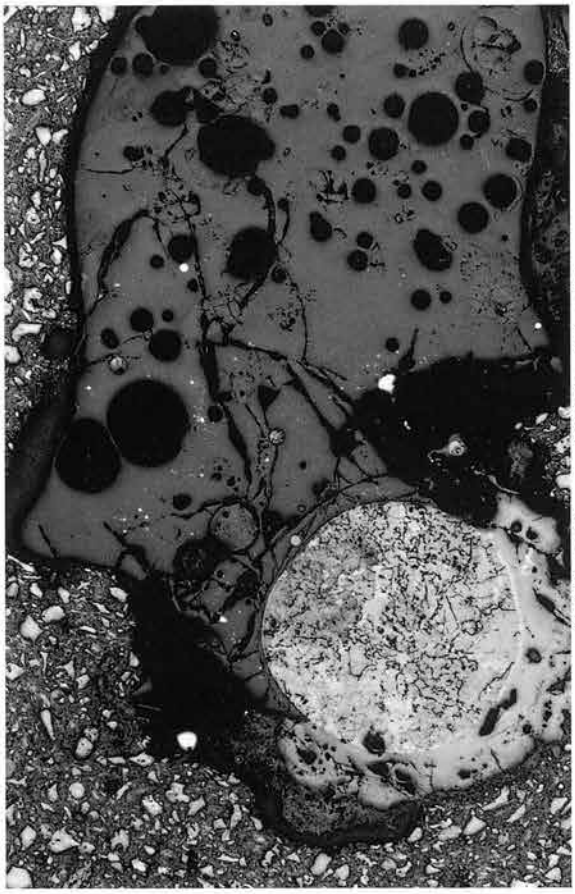
組織写真２－１（資料No.２）×100



組織写真１－３（資料No.３）×400

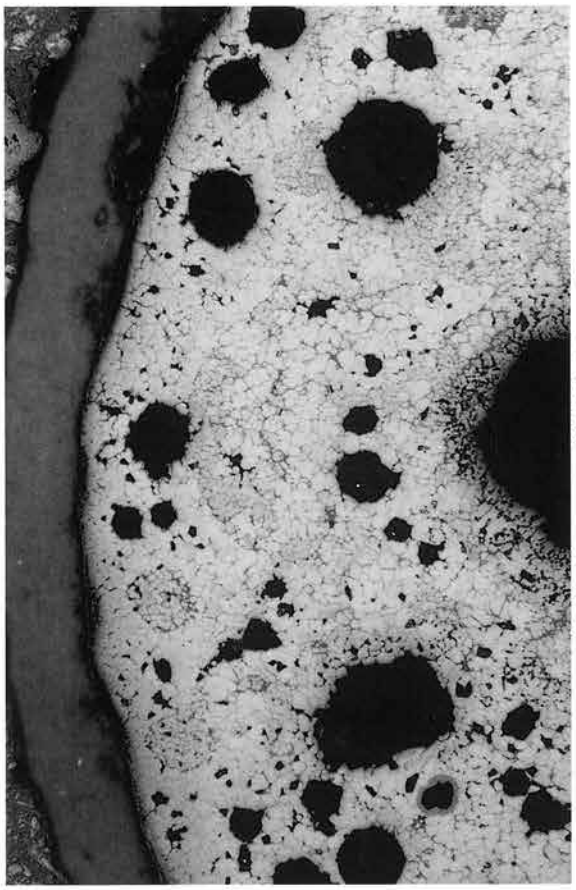


組織写真２－１（資料No.２）×400

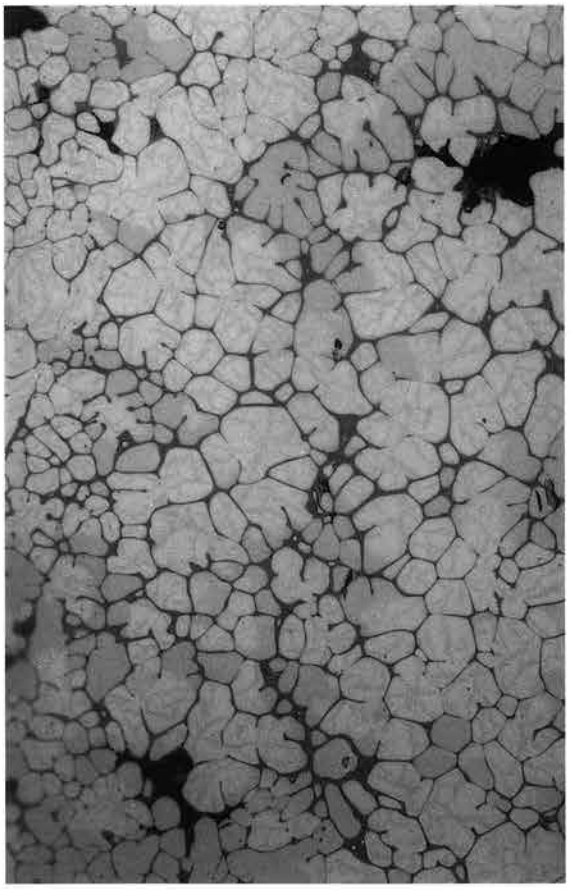


組織写真３－１（資料No.３）×50

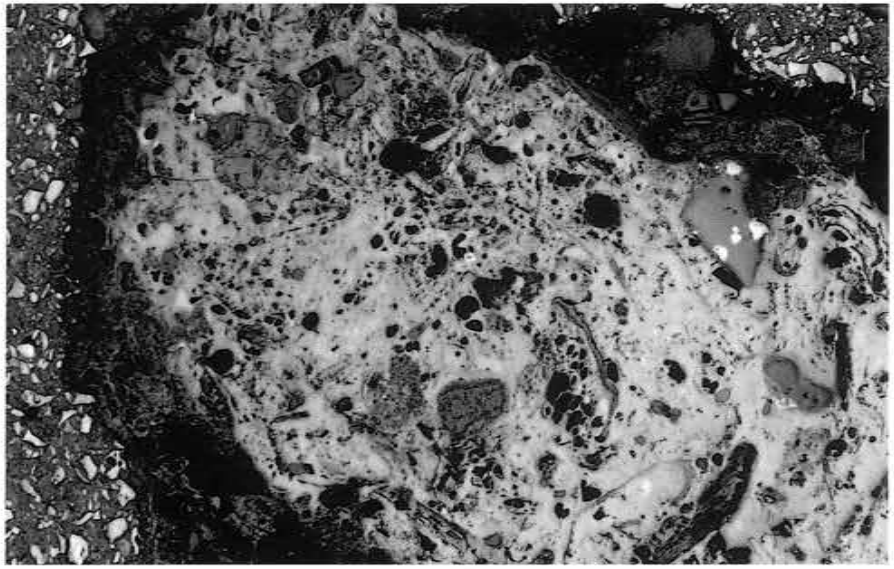
組織写真３－１（資料No.３）×50



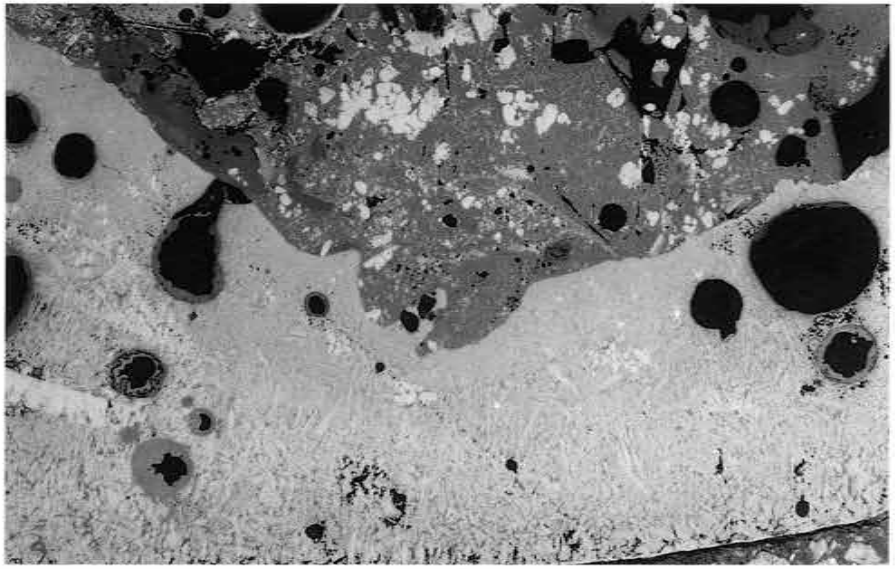
組織写真２－２（資料No.２）×100



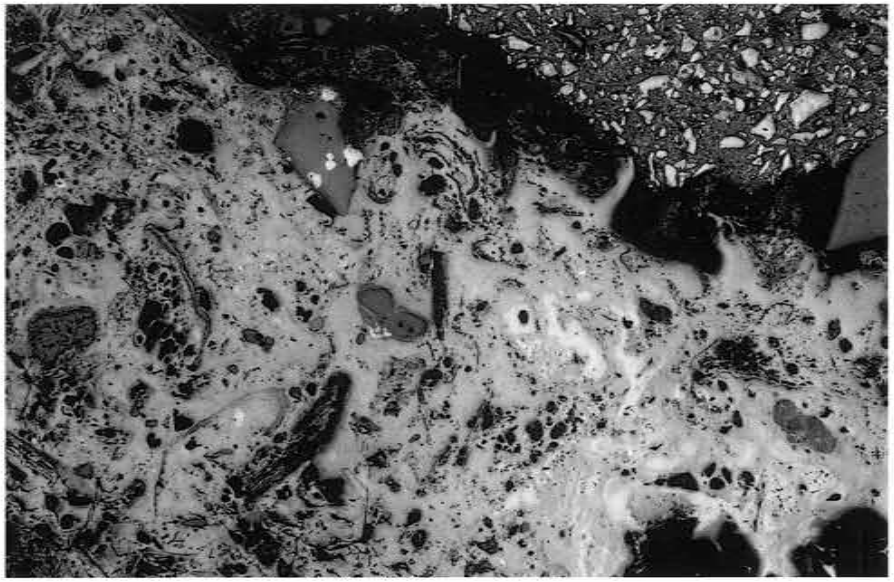
組織写真２－２（資料No.２）×400



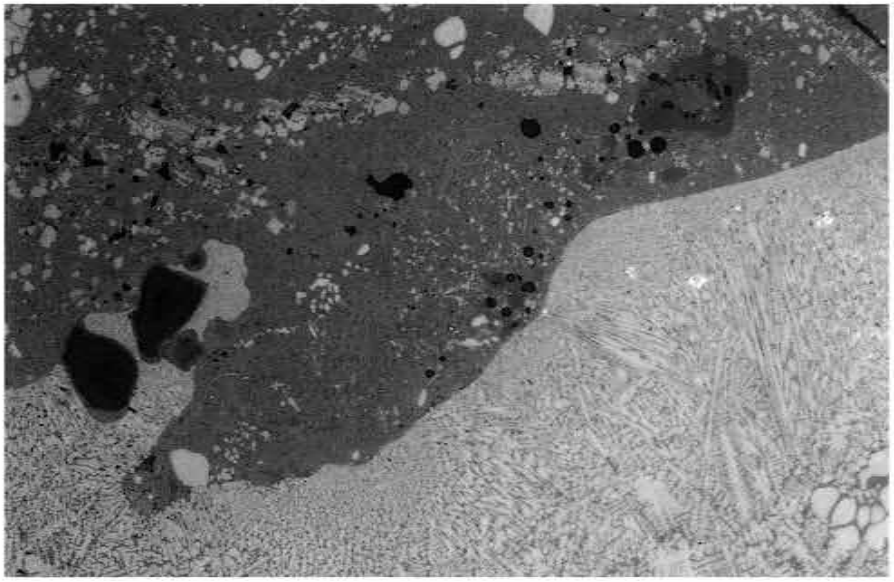
組織写真３－２（資料No.３）×50



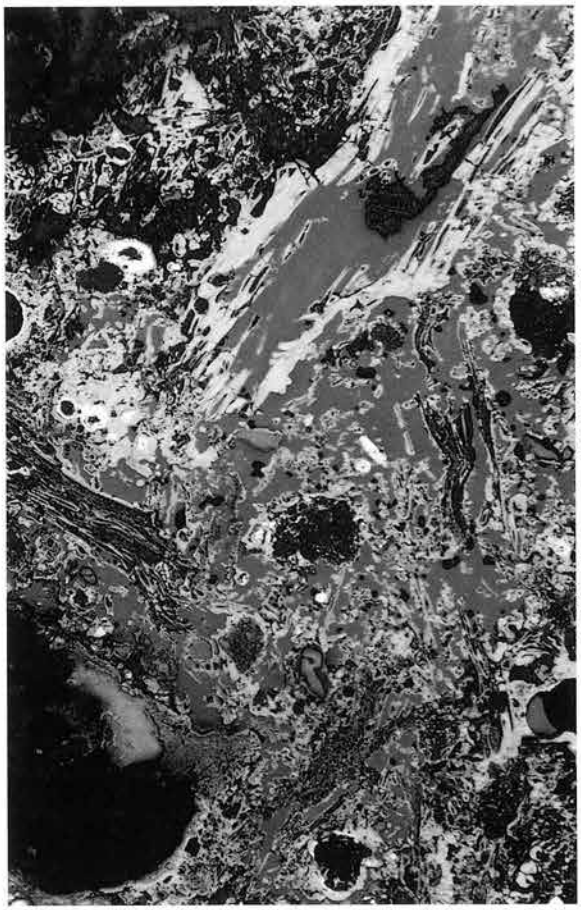
組織写真４－１（資料No.４）×100



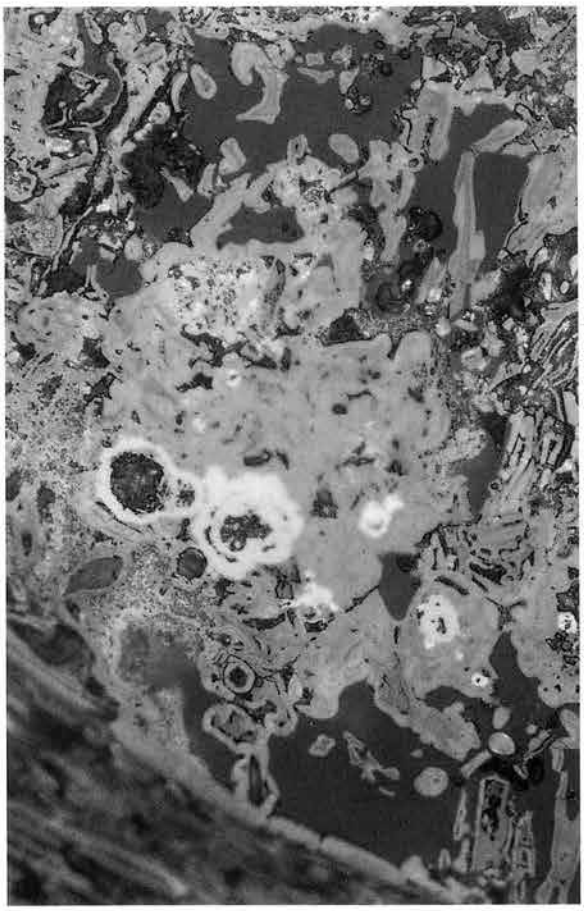
組織写真３－２（資料No.３）×50



組織写真４－１（資料No.４）×400

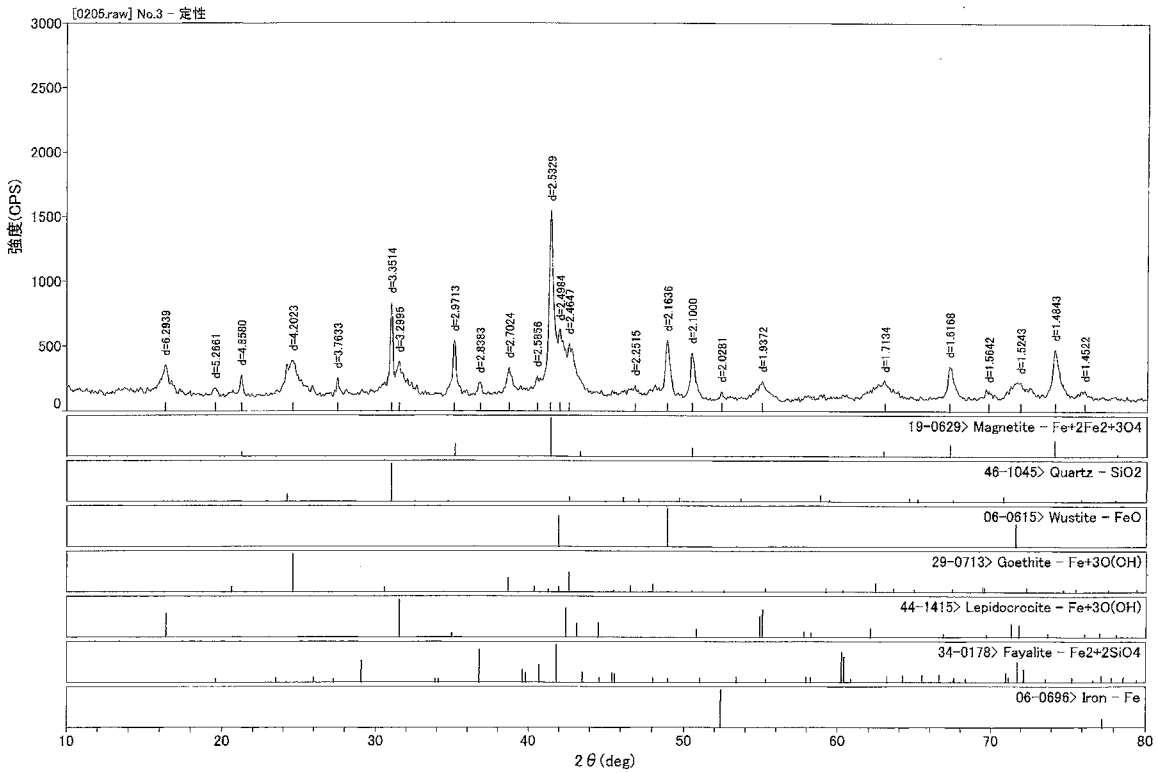


組織写真４－２（資料No.４）×100

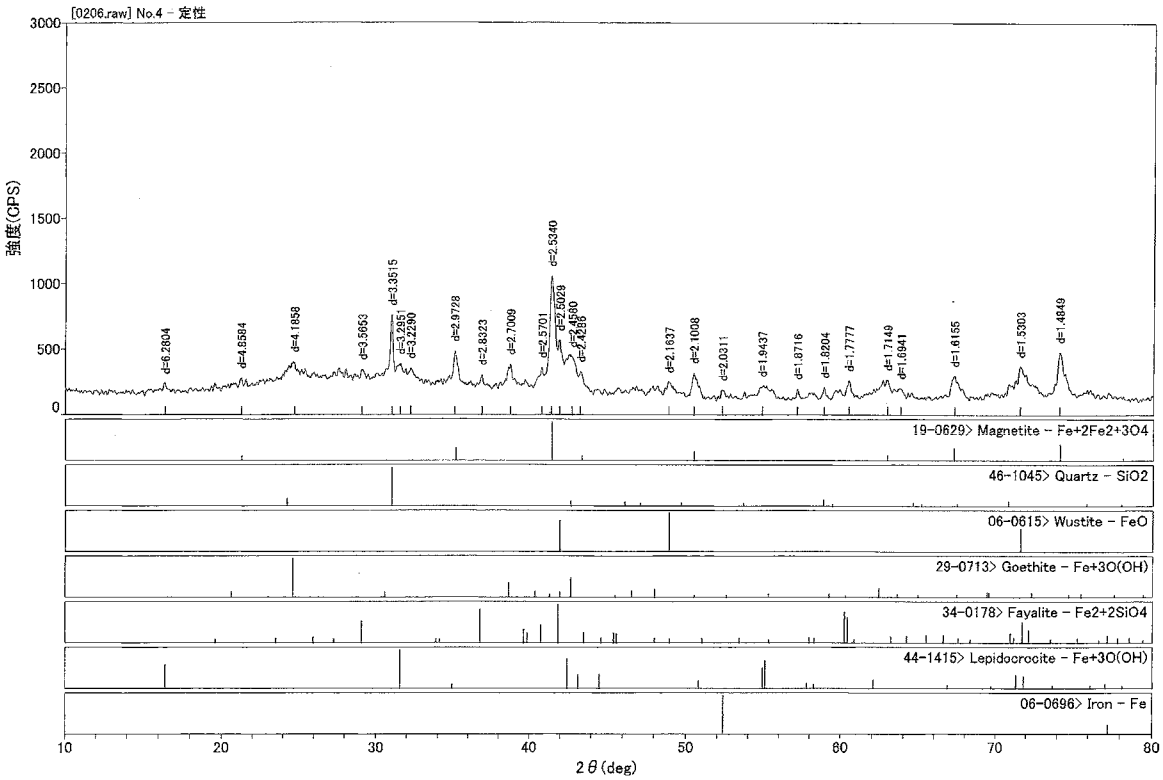


組織写真４－２（資料No.４）×400

## X線回折結果




X線回折チャート１（資料No.３）




X線回折チャート２（資料No.４）

## 3　細谷地遺跡第14次調査における火山灰分析報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

岩手県盛岡市細谷地遺跡は、北上川支流の雫石川右岸に分布する低位段丘上に位置する。これまでの発掘調査により、奈良時代～平安時代にかけての大規模な集落跡であることが確認されている。

今回の分析調査では、第14次調査で検出された、平安時代の土坑覆土に認められた火山灰（テフラ）とされる堆積物についてその砕屑物の性状を明らかにし、テフラである場合には、既知のテフラとの対比を行う。

1　試料

試料は、第14次調査で検出された平安時代の土坑であるRD287とRD294の２基の覆土より、それぞれ１点ずつ採取された褐灰～灰黄色を呈する砂質シルト計２点である。

RD287は、平安時代の鍛冶工房を兼ね備えた竪穴住居跡に近接して検出された土坑であり、発掘調査所見では、人為的に埋め戻されたと考えられている。テフラとされる堆積物は、黒色土からなる土坑覆土中にブロック状に認められており、土坑の埋め戻しに使用された土に混入していたと考えられている。

RD294は、自然に埋積されたと考えられており、その覆土中には今回の調査区内では最も厚いテフラ層とされる堆積物が確認されている。

2　分析方法

試料約20ｇを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の３タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

さらに火山ガラスについては、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤（1995）のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

3　結果

処理後に得られた砂分の状況は、２点ともにほぼ同様である。中量の細砂～極細砂径の火山ガラスと多量の軽石から構成される。火山ガラスのほとんどは無色透明の塊状の軽石型であり、少量の繊維束状のものも混在する。また、極めて微量の無色透明のバブル型も認められる。軽石は、最大径約1.5㎜で粒径の淘汰は良好、白色を呈し、発泡はやや良好～やや不良である。火山ガラスと軽石の他には、少量の斜長石や斜方輝石、単斜輝石などの遊離結晶や安山岩と思われる岩石片および微量の黒曜石片などが認められる。さらに、テフラには由来しない砕屑物である、粗粒砂～極粗粒砂径の石英片やチャートと考えられる灰色岩片なども少量混在する。

火山ガラスの屈折率測定結果を図１に示す。n1.499～1.508のレンジに入り、n1.505～1.507にモードがある。

## 4　考察

試料は、細粒の軽石および火山ガラスを主体とするテフラである。上述した砕屑物の特徴および細谷地遺跡の地理的位置と、これまでに研究された東北地方におけるテフラの産状（町田ほか（1981；1984)、Arai etal.（1986)、町田・新井（2003）など）との比較から、試料は十和田aテフラ（To－a）の降下堆積物に由来すると考えられる。To－aは、平安時代に十和田カルデラから噴出したテフラであり、給源周辺では火砕流堆積物と降下軽石からなるテフラとして、火砕流の及ばなかった地域では軽石質テフラとして、さらに給源から離れた地域では細粒の火山ガラス質テフラとして、東北地方のほぼ全域で確認されている（町田ほか，1981)。前述したように、試料には細粒ではあるが軽石が含まれているから、細谷地遺跡の位置する盛岡市付近は、To－aが軽石質テフラとして分布する範囲にあるといえる。また、町田ほか（1981）は、淡緑色・淡褐灰色を呈するn1.502以下の低い屈折率の火山ガラスを主体とするTo－aの上部火山灰層は、南方へは広がらず、十和田周辺とその東方地域に分布が限られるとしている。ただし、今回の試料では、この低屈折率の火山ガラスも微量含まれていることがわかる。なお、To－aの噴出年代については、早川・小山（1998）による詳細な調査によれば、西暦915年とされている。

今回の試料が採取されたテフラ層は、いずれも発掘調査所見により、一次降下堆積層ではない可能性が高いとされている。試料中にはテフラに由来しない砕屑物も含まれており、この状況はその所見を支持するものといえる。なお、RD287については、発掘調査所見に従うならば、埋め戻しの行われた時期は、To－aの降灰した915年以降となる。また、RD294については、土坑内にTo－aが二次的に堆積したとしても、その堆積物を構成する砕屑物においては、To－aに由来する砕屑物（軽石、火山ガラス、遊離結晶など）の割合が高いことから、降灰からそれほど時間の経過していない頃に土坑内に堆積した可能性もある。

## 引用文献


Arai,F.・Machida,H.・Okumura,K.・Miyauchi,T.・Soda,T.・Yamagata,K,1986,Catalog for late quaternary marker-tephras in JapanⅡ－Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido－.Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21,223-250.

古澤　明　1995　火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別.地質学雑誌,101,123-133.

早川由紀夫・小山真人　1998　日本海をはさんで10世紀に相次いで起こった二つの大噴火の年月日－十和田湖と白頭山－.火山,43,403-407.

町田　洋・新井房夫　2003　新編　火山灰アトラス.東京大学出版会,336p.

町田　洋・新井房夫・森脇　広　1981　日本海を渡ってきたテフラ.科学,51,562-569.

町田　洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦　1984　テフラと日本考古学－考古学研究と関連するテフラのカタログ－.渡辺直経（編）古文化財に関する保存科学と人文・自然科学.同朋舎,865-928.

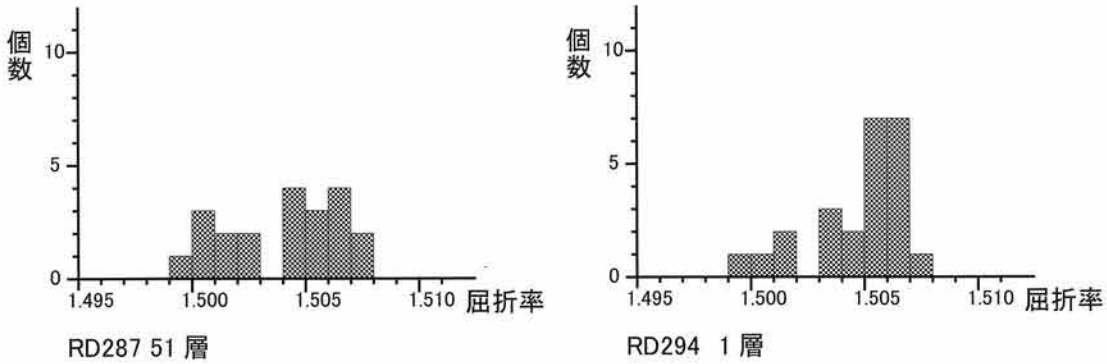
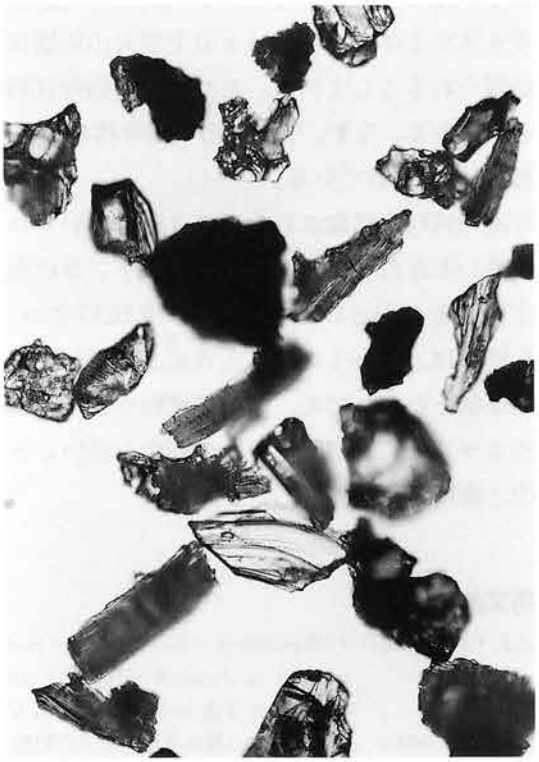



図 1. 火山ガラスの屈折率測定結果

図版 1　テフラ

1．To－a の軽石（RD294；1 層）



2．To－a の火山ガラス（RD294；1 層）

2 mm　0.2mm
1　2

# 4　細谷地遺跡住居跡より出土した炭化種実

吉川純子（古代の森研究舎）

## 1　はじめに

細谷地遺跡は盛岡市の雫石川の河岸段丘上に位置する、9世紀後半～10世紀初頭の平安時代の住居群である。焼失家屋であるRA132や鍛冶工房跡なども発見されている。これらの住居群において当時の食料利用状況を調査するため、RA132の18試料、および4住居8試料とRD312 1試料の炭化種実の同定をおこなった。

## 2　同定結果

焼失家屋RA132より出土した炭化種実の同定結果を表1に示す。RA132では穀類を多く出土している。炭化したイネ胚乳は住居の東南隅を中心に9箇所で1～850粒出土している。イネの穎は付着しておらず、試料中にも穎の破片は確認されなかった。41ではヒエが約1500粒出土している。この試料にはほかの穀類はほとんど混じっていなかった。オオムギは24と40で出土し、コムギは19、24、41

表1　細谷地遺跡RA132より出土した炭化種実

| 分類群 | | 遺構等<br>出土部位／番号 | 1 | 中央<br>4 | 10 | 17 | 中央あ<br>18 | 4<br>8 | 11 5-2<br>5 | 13<br>14 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| クリ | *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. | 果実完形 | – | 1 | – | – | – | – | – | – |
| | | 子葉完形 | – | 4 | – | – | – | – | – | – |
| | | 子葉破片 | – | 6 | – | – | – | – | – | – |
| モモ | *Prunus persica* (Linn.)Batsch | 核完形 | – | – | – | – | – | 2 | – | – |
| サンショウ | *Zanthoxylum piperitum* (Linn.) DC. | 内果皮完形 | – | – | – | – | – | – | – | – |
| トチノキ | *Aesculus turbinata* Blume | 種子完形 | 16 | – | – | – | – | – | – | – |
| | | 種皮破片 | – | – | 多 | – | – | – | – | – |
| ブドウ属 | *Vitis* | 種子完形 | – | – | – | – | – | – | – | – |
| ノブドウ | *Ampelopsis brevipedunculata* (Maxim.) Trautv. | 種子 | – | – | – | – | – | – | – | – |
| イネ | *Oryza sativa* L. | 胚乳 | – | – | – | – | – | – | – | 850 |
| | | 胚乳塊 | – | – | – | – | – | – | – | – |
| オオムギ | *Hordeum vulgare* L. | 種子完形 | – | – | – | – | – | – | – | – |
| コムギ | *Triticum aestivum* L. | 種子完形 | – | – | – | – | – | – | – | – |
| ムギ類 | *Hordeum* and/or *Triticum* | 種子焼け膨れ | – | – | – | – | – | – | – | – |
| ヒエ | *Echinochloa utilis* Ohwi et Yabuno | 種子 | – | – | – | – | – | – | – | – |
| 穀類 | | 塊 | – | – | – | – | – | – | – | – |
| イネ科 | Gramineae | 茎破片 | – | – | – | – | – | – | – | – |
| アサ | *Cannabis sativa* L. | 種子 | – | – | – | – | – | – | – | – |
| ササゲ属 | *Vigna* | 種子 | – | – | – | – | – | – | – | – |
| マメ科A | Leguminosae A | 種子焼け膨れ | – | – | – | 1 | 10 | – | 7 | – |
| マメ科B | Leguminosae B | 種子 | – | – | – | – | – | – | – | – |
| 不明 | Unknown | | – | – | – | – | – | – | – | – |

| 分類群 | | 遺構等<br>出土部位／番号 | 19<br>7 | 19<br>9 | 24<br>12 | 26<br>2 | 33<br>15 | 35<br>13 | 36<br>3 | 36<br>16 | 40<br>19 | 41<br>6 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| クリ | *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. | 果実完形 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| | | 子葉完形 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| | | 子葉破片 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| モモ | *Prunus persica* (Linn.)Batsch | 核完形 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| サンショウ | *Zanthoxylum piperitum* (Linn.) DC. | 内果皮完形 | – | – | – | – | 24 | – | – | – | – | 1 |
| トチノキ | *Aesculus turbinata* Blume | 種子完形 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| | | 種皮破片 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| ブドウ属 | *Vitis* | 種子完形 | 7 | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| ノブドウ | *Ampelopsis brevipedunculata* (Maxim.) Trautv. | 種子 | 1 | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| イネ | *Oryza sativa* L. | 胚乳 | 36 | 1 | 4 | 262 | 2 | 850 | 5 | – | 500 | 1 |
| | | 胚乳塊 | – | – | – | 2 | – | – | – | – | – | – |
| オオムギ | *Hordeum vulgare* L. | 種子完形 | – | – | 13 | – | – | – | – | – | 1 | – |
| コムギ | *Triticum aestivum* L. | 種子完形 | 1 | – | 5 | – | – | – | – | – | 3 | – |
| ムギ類 | *Hordeum* and/or *Triticum* | 種子焼け膨れ | – | – | 16 | – | – | – | – | – | – | – |
| ヒエ | *Echinochloa utilis* Ohwi et Yabuno | 種子 | – | – | – | – | – | – | – | – | – | 1587 |
| 穀類 | | 塊 | 70 | – | – | – | 17 | – | – | – | – | 15 |
| イネ科 | Gramineae | 茎破片 | – | 多 | – | – | – | – | – | – | – | – |
| アサ | *Cannabis sativa* L. | 種子 | – | – | 2 | – | – | – | 1 | – | – | – |
| ササゲ属 | *Vigna* | 種子 | – | – | – | – | – | – | 166 | – | – | – |
| マメ科A | Leguminosae A | 種子焼け膨れ | – | – | – | – | – | – | – | – | – | – |
| マメ科B | Leguminosae B | 種子 | 1 | – | – | 1 | 2 | – | – | – | – | – |
| 不明 | Unknown | | – | – | – | – | – | – | – | 1 | – | – |

で出土し、いずれも個数は少ない。マメの仲間は36からササゲ属を出土しており、焼け膨れて種が同定できないが食用の可能性があるマメ科Ａが中央、中央あ、11から出土している。穀類とマメのほかに食用植物は、床中央からトチノキの完形炭化種子、クリを出土し、４ではモモを、33と41ではサンショウ、24と36ではアサを出土した。食用以外の種類では、19からブドウ属とノブドウ、19、26、33から野生種と考えられるマメ科Ｂを、36からは不明種を出土した。また、イネ科草本の茎を19から出土している。

その他の土坑・住居から出土した炭化種実を表２に示した。RD312からはモモを出土した。RA131からはモモ、イネ、オオムギ、コムギ、アワを少量出土した。RA125土器からはイネを少量出土し、RA127からは穀類塊とササゲ属を１個ずつ出土した。RA138からはイネ、オオムギ、コムギを多く出土し、ササゲ属、ヒエをやや多く出土し、アサを１個出土した。

表2　細谷地遺跡RA131・125・127・138竪穴住居跡およびRD312より出土した炭化種実

| | | 遺構等 | RD312 | RA131 | RA125 | RA127 | RA138 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 2層 | 灰2 | 土器4 | 竈付近 | 炭1 | | 炭2 | | 焼土 |
| 分類群 | | 出土部位／番号 | 11 | 21 | 20 | 22 | 25 | 27 | 23 | 24 | 26 |
| モモ | *Prunus persica* (Linn.)Batsch | 核完形 | 3 | – | – | – | – | – | – | – | – |
| | | 核破片 | 10 | 1 | – | – | – | – | – | – | – |
| イネ | *Oryza sativa* L. | 胚乳 | – | 6 | 2 | – | 20 | – | – | 22 | 18 |
| オオムギ | *Hordeum vulgare* L. | 種子完形 | – | 1 | – | – | 300 | – | 4 | 15 | 4 |
| コムギ | *Triticum aestivum* L. | 種子完形 | – | 4 | – | – | 50 | – | 2 | 26 | – |
| アワ | *Setaria italica* Beauv. | 種子 | – | 1 | – | – | – | – | – | – | – |
| ヒエ | *Echinochloa utilis* Ohwi et Yabuno | 種子 | – | – | – | – | – | – | 10 | – | – |
| 穀類 | | 塊 | – | – | – | 1 | – | – | – | 6 | – |
| イネ科 | Gramineae | 茎破片 | – | – | – | – | – | – | – | – | 1 |
| アサ | *Cannabis sativa* L. | 種子 | – | – | – | – | – | – | – | – | 1 |
| ササゲ属 | *Vigna* | 種子 | – | – | – | 1 | – | – | – | – | 34 |

以下に特筆すべき炭化種実の形態記載をおこなう。

モモ：核を出土した。核は紡錘形で全体に流理状の深い溝が入る。炭化した核で高さが20㎜を超えるので食用や薬用などにするノモモの仲間と考えられる。核の計測値を表３に示す。

表3　出土炭化種実計測値

| RD312 | 高さ | 幅 | 厚さ |
|---|---|---|---|
| モモ | 21.9 | 16.1 | 12.7 |
| | 20.2 | 15.4 | 12.1 |
| | 22.9 | 16.4 | 13.4 |
| RA132 | | | |
| クリ | 16.0 | 14.6 | 6.7 |
| | 19.6 | 21.2 | 11.3 |
| | 14.4 | 17.5 | 9.8 |
| | 18.5 | 20.9 | 14.0 |
| | 17.0 | 17.0 | 11.3 |

クリ：果皮が付着したまま炭化した完形の果実と果皮がとれた種子を出土した。種子は縦に深いしわが入っている。炭化種子の計測値を表３に示す。

トチノキ：種皮がついた状態の完形種子を出土した。種子はほぼ球形でややおうとつがあり、表面は光沢があり平滑、下半分がおおきなへそで光沢がない。光沢がある種皮の表面は微細な指紋状あるいは流理状の模様がある。

ブドウ属：種子は縦に長い心形で腹面には２個の穴があり、背面にはさじ状の浅い溝がある。形態はヤマブドウ以外のブドウ属である。

ノブドウ：種子は楕円形で頂部が突出する。腹面には２個の穴があり、背面には帯状の浅いみぞがある。

ササゲ属：種子は５～６㎜楕円形で丸みが強いものと四隅がかなり角張ったものがある。いずれも半分に割ると内面に初生葉という発芽の準備のための芽が伸びた跡がある。へそは一文字状で種子長の半分くらい、中央ではなく偏ってついている。マメ科Ａは焼け膨れて形状がわかりにくくなっており、ササゲ属の可能性がある。マメ科Ｂは円形で扁平の厚みのない３㎜程度の種子で、食用ではなく野生種と考えられる。

イネ科：節のある茎を多数出土した。横断面では茎の表面に凹凸などの特徴がないのでススキ、ヨシ以外のイネ科草本である。

3　考察

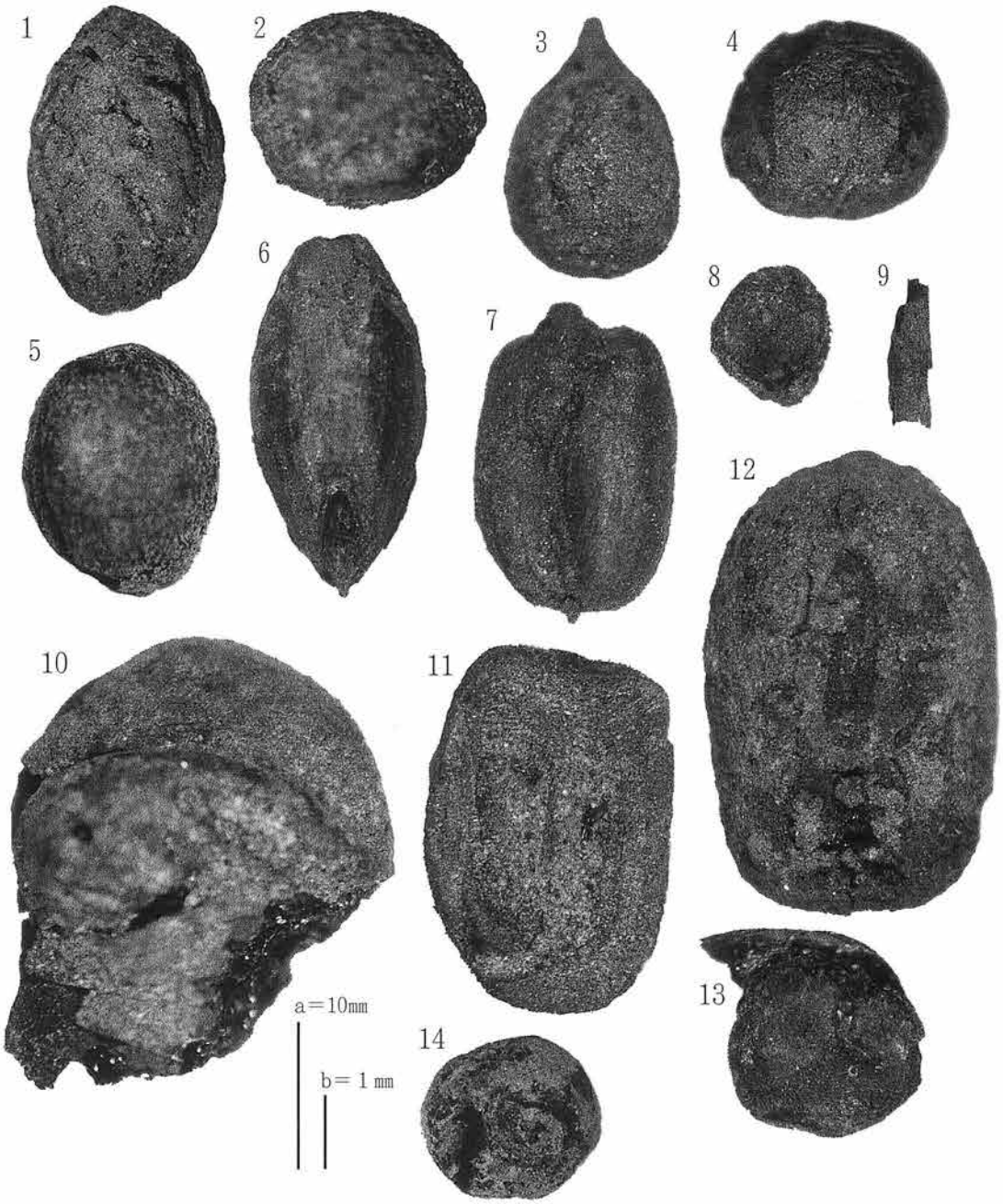
RA132からはイネ、オオムギ、コムギ、ヒエなどの穀類と豆類のササゲ属、トチノキ、クリ、モモ、サンショウやアサなどの種実を出土した。また、他の４つの住居と１土坑からもイネ、オオムギ、コムギ、アワ、ヒエの穀類とササゲ属、モモやアサを出土しており、平安時代はこれらの穀類や種実を頻繁に利用していたと考えられる。RA132は一辺が約6.5mの大型建物で、竈が存在することから倉庫ではなく生活するための住居であったと考えられている。これらの穀類や種実は利用するために住居内に置かれていたと推測され、穀類のイネやヒエなどを主食とし、トチノキやクリなどの果実も同時に利用していたと考えられる。出土した比率は異なるが、他の住居からもイネとともにオオムギ、コムギ、ヒエなどの穀類やササゲ属を出土していることから、イネ、雑穀、マメと木の実を組み合わせた利用が一般的だった可能性が高い。RA132では穀類は東南隅から出土したが、トチノキは住居の中央から出土している。同じように住居中央からまとまってトチノキ種子が出土した例としては、青森市の近野遺跡があげられる。近野遺跡では平安時代焼失住居の中央床面から完形にして約980個以上のトチノキが出土しており、食用として加工するために置かれていたと推測している（吉川2005）。近野遺跡のトチノキが出土したESI26住居では、少量であるがイネをともに出土しており、イネとトチノキが利用されていたと考えられる。平安時代当時の岩手県や青森県などの東北北部では穀類の補助食品としてトチノキが重要な役割を果たしていたことがうかがえる。またモモは、現在は生の果実を食用として利用するのみであるが、平安時代当時は果物としてではなく貴重で神聖な植物として扱われ、魔よけや薬用として利用していたとされている（堀田ほか1989）。サンショウやアサも食用と言うよりは薬用であった可能性がある。

## 引用文献

引用文献

堀田満編　1989　世界有用植物辞典．平凡社．1499pp.

吉川純子　2005　第４節　E区遺構内出土炭化種実．青森県埋蔵文化財調査報告書　第394集　近野遺跡Ⅷ－県立美術館及び県道里見丸山線建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－（第一分冊　本文・図版編）．青森県教育委員会．302-305.




図版1 細谷地遺跡出土炭化種実の顕微鏡写真

1.モモ、核(No.8) 2.サンショウ、内果皮(No.6) 3.ブドウ属、種子(No.7) 4.ノブドウ、種子(No.7) 5.アサ、種子(No.12) 6.オオムギ、種子(No.25) 7.コムギ、種子(No.25) 8.ヒエ、種子(No.6) 9.イネ科、茎(No.9) 10.マメ科A、種子(No.2) 11, 12.ササゲ属、種子(No.3) 13.マメ科B、種子(No.7) 14.不明(No.16)　1,9,14はスケールa、そのほかはスケールb

# 写　真　図　版

遺跡遠景（南から）

遺跡遠景（東から）

写真図版１　航空写真（１）

調査区直上から（上が西）

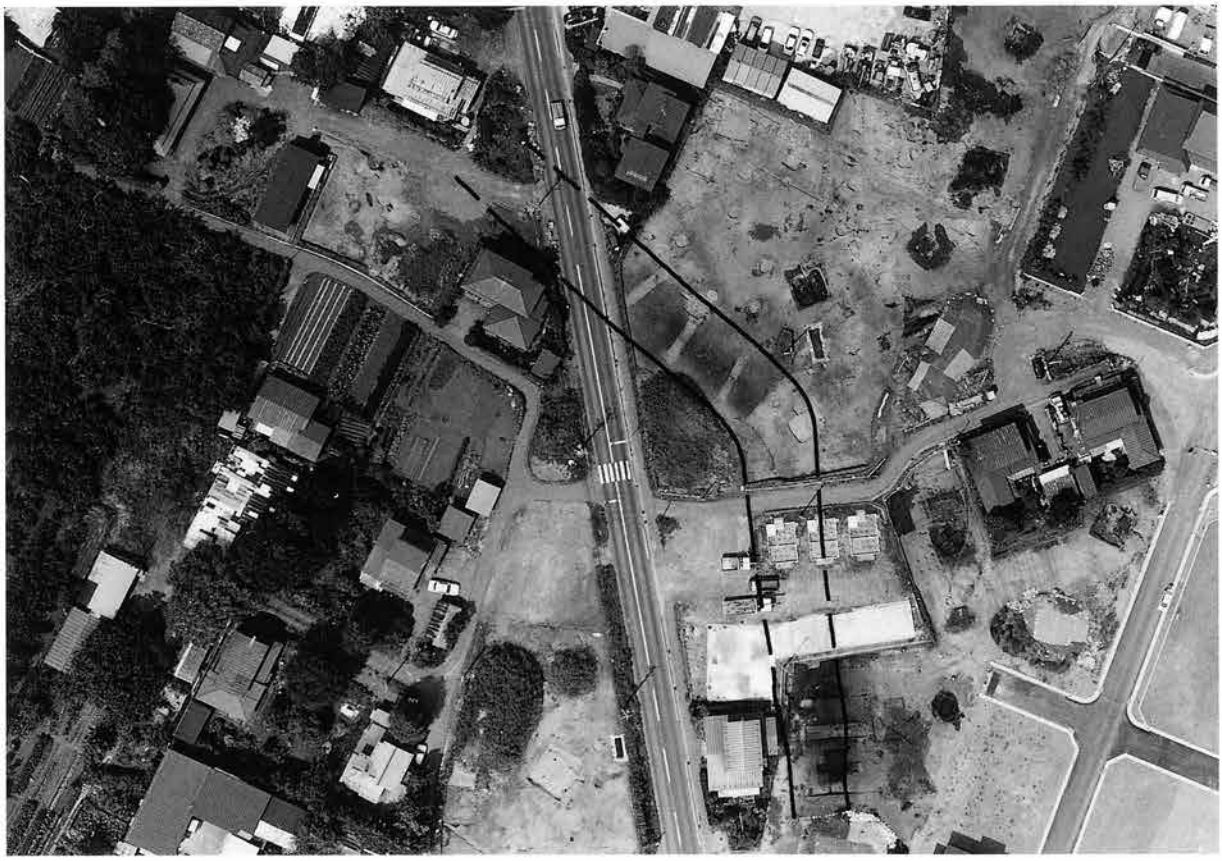
調査区

写真図版２　航空写真（２）

調査前風景

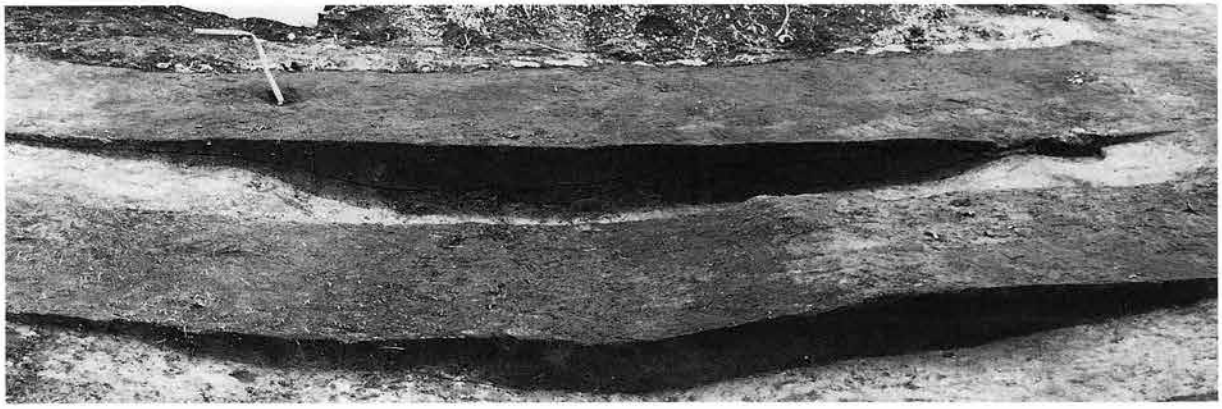
基本土層

写真図版 3　調査前風景・基本土層



全景（上が北）

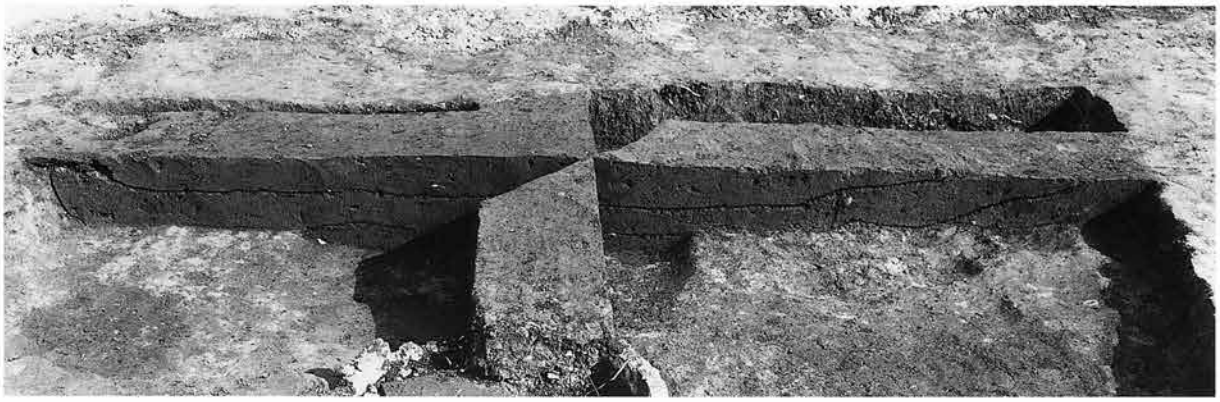
断面（北から）



断面（北から）

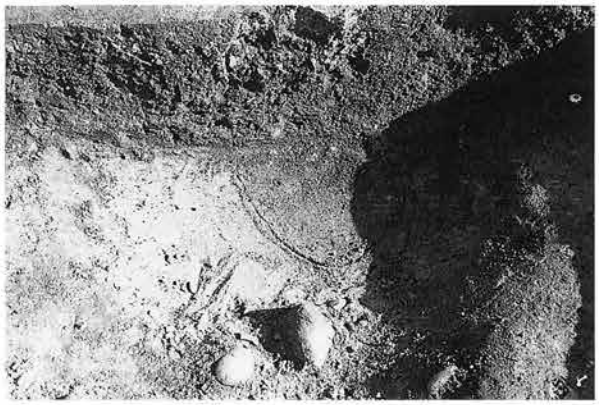
写真図版４　沢跡

全景（南から）



断面（西から）

カマド



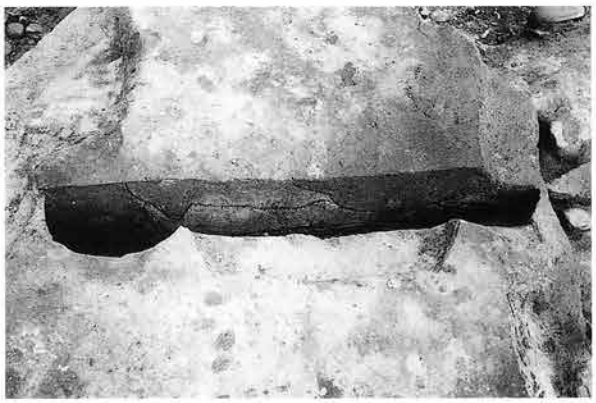
土坑 2　底面焼土

写真図版 5　RA074竪穴住居跡

全景（南東から）

断面（西南から）

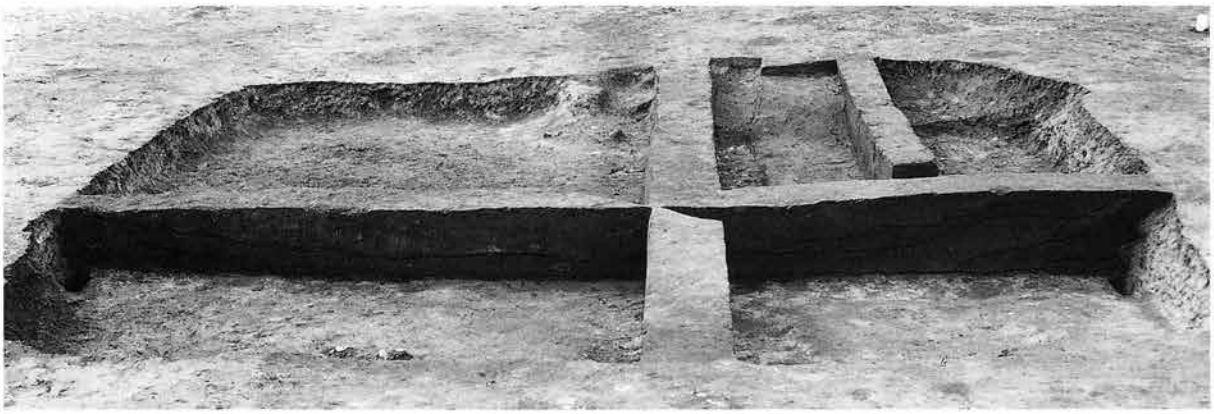
カマド



煙道断面

写真図版 6　RA113竪穴住居跡

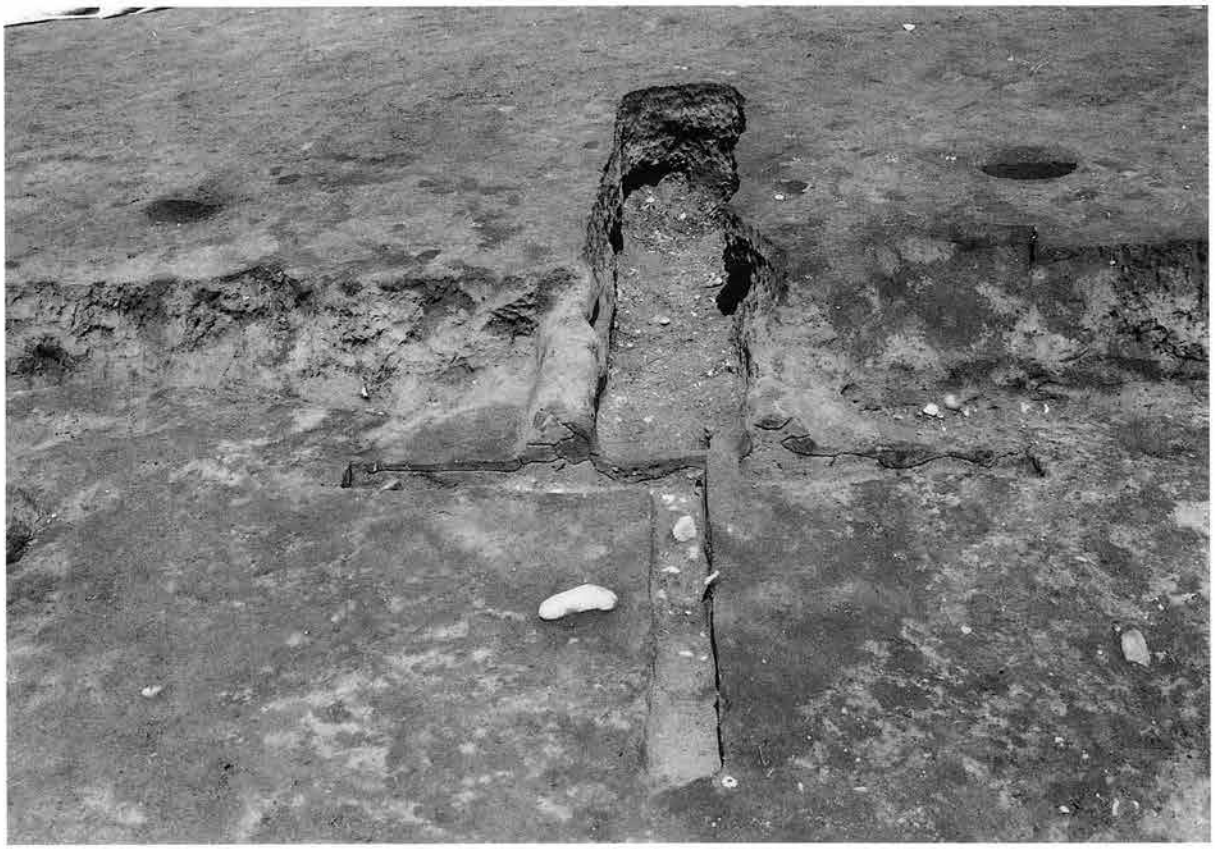
全景（南東から）



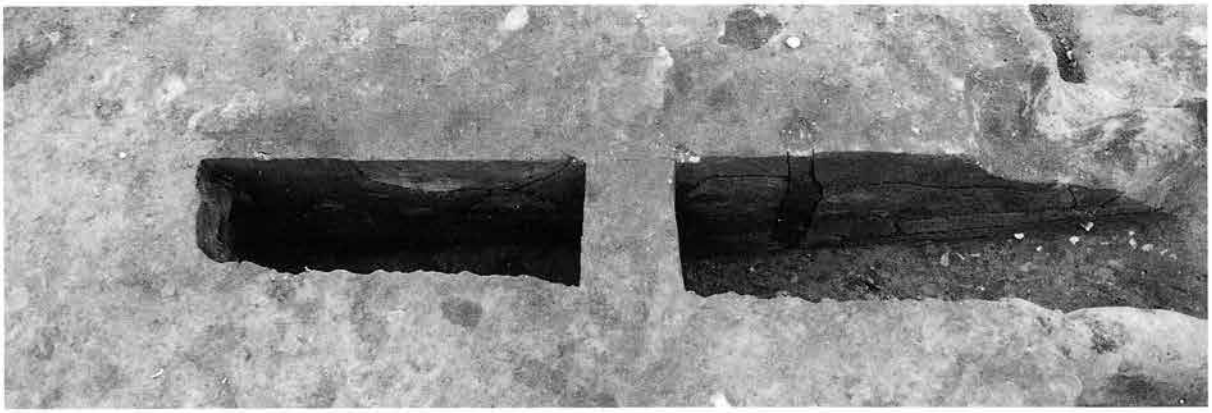
断面（南東から）

断面（南西から）

写真図版７　RA114竪穴住居跡（１）



カマド全景（南東から）

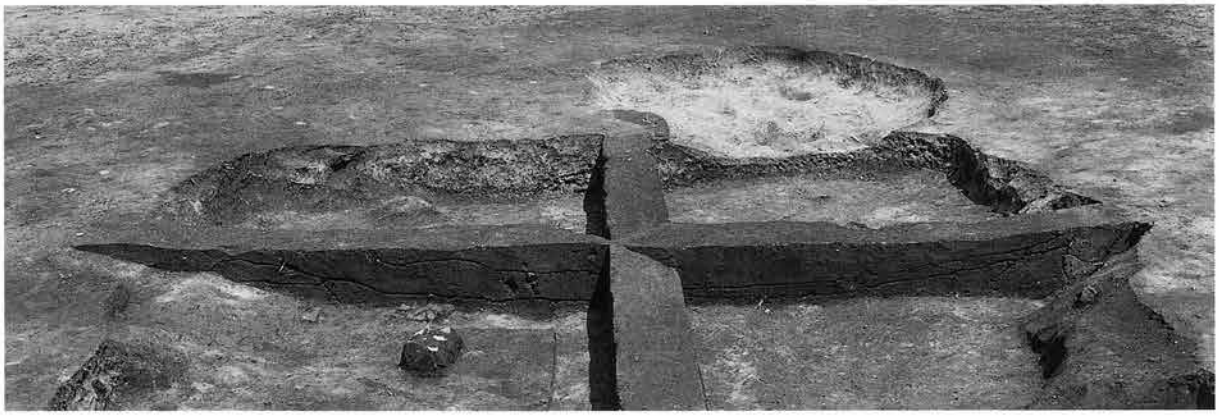


カマド長断面（南西から）

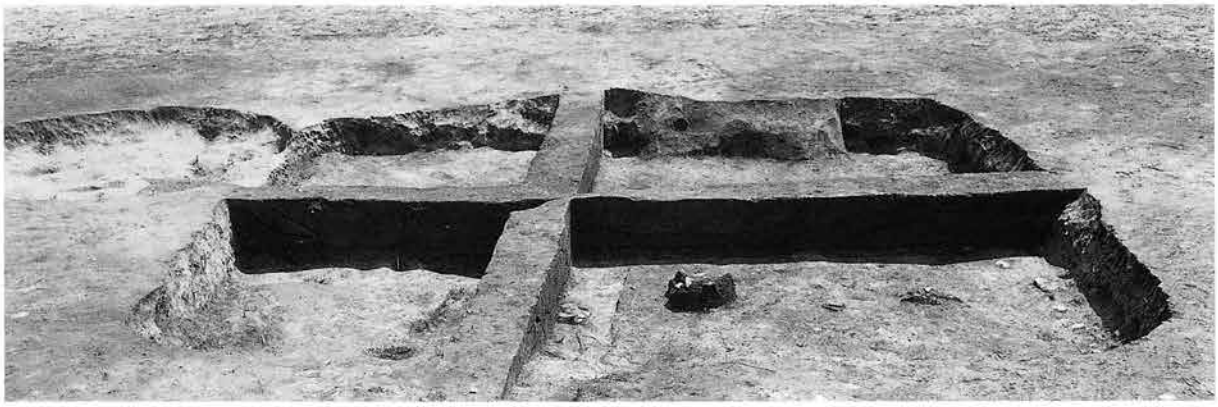
カマド長断面（南西から）

写真図版８　RA114竪穴住居跡（２）

全景（南東から）

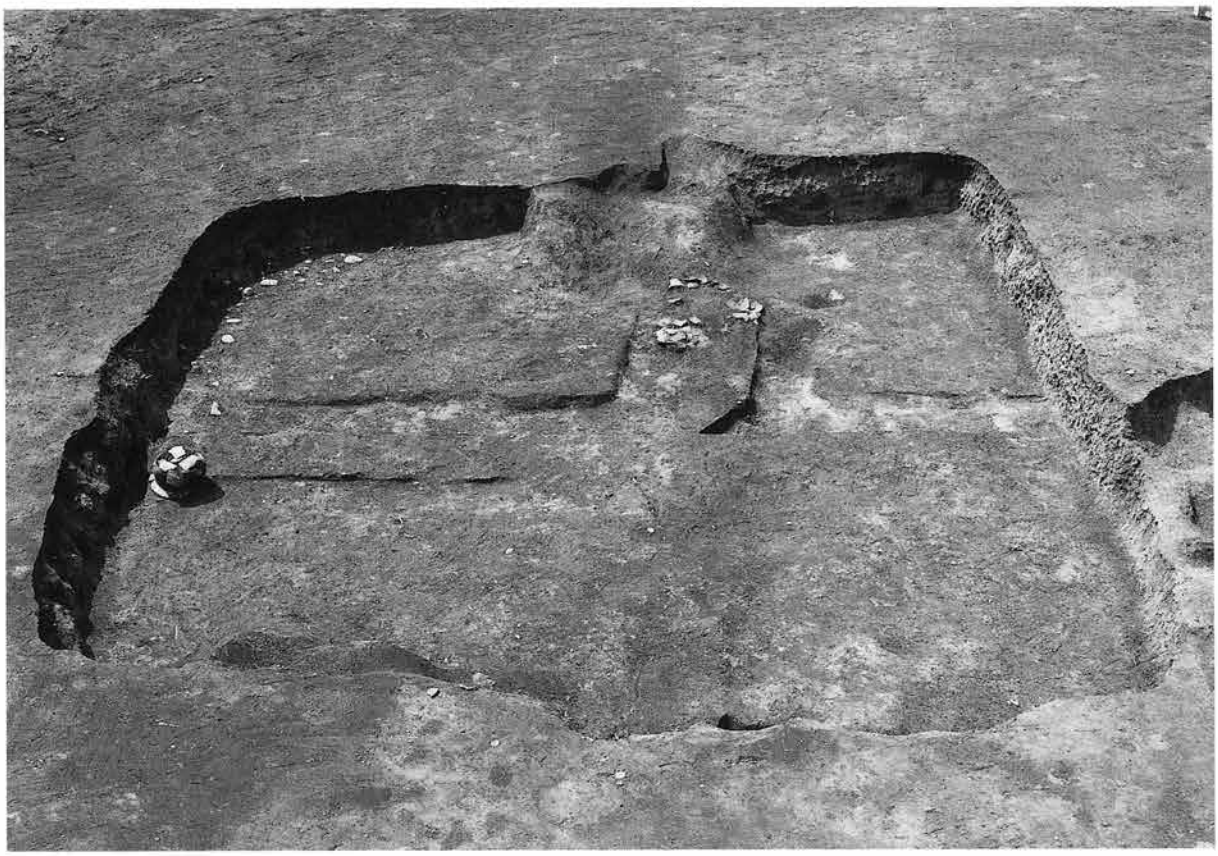


断面（南西から）



断面（南西から）

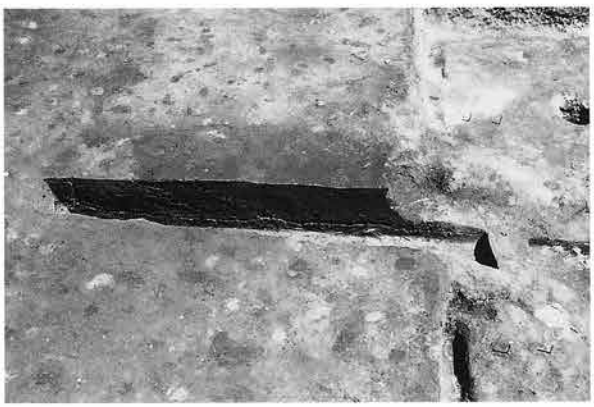
写真図版 9　RA115竪穴住居跡（1）



遺物出土状況（南東から）

カマド周辺遺物出土状況（南東から）

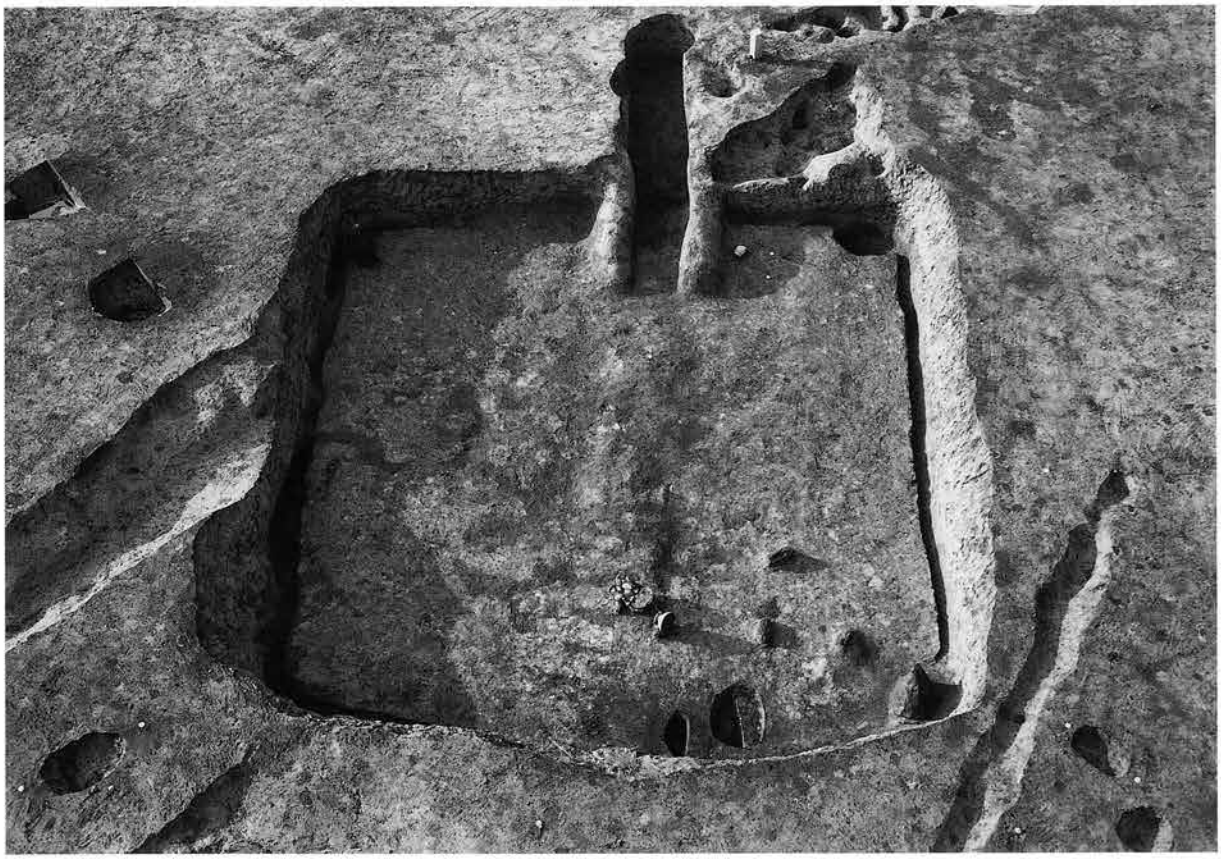
南壁際遺物出土状況（西から）



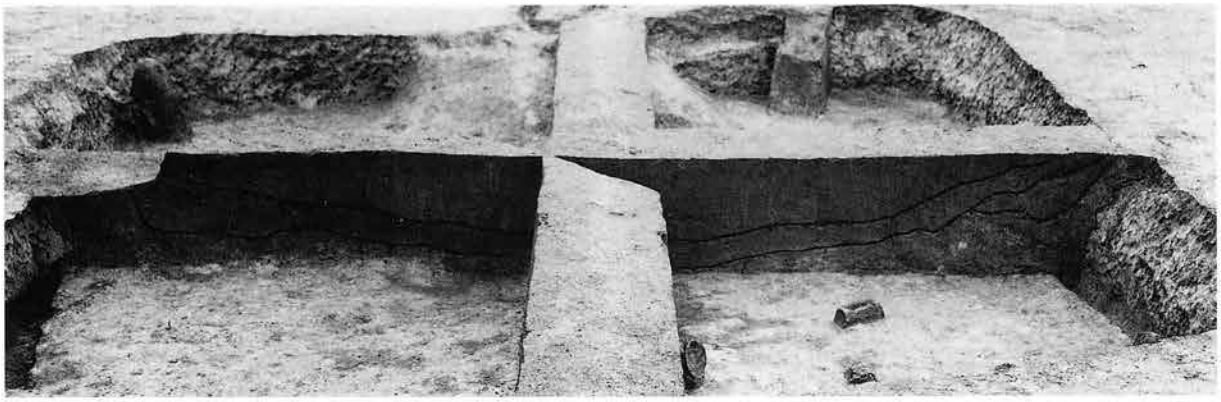
カマド長断面（南西から）

カマド袖断面（南東から）

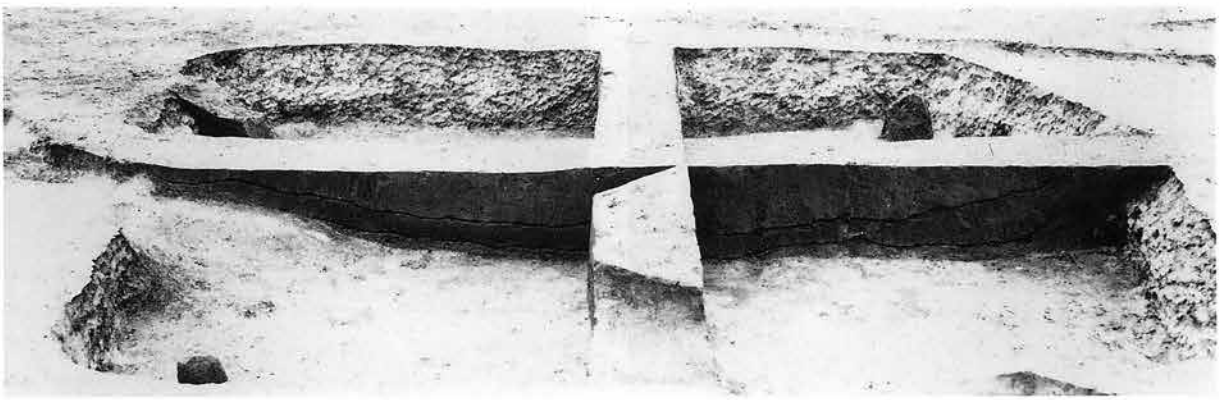
写真図版10　RA115竪穴住居跡（2）



全景（南東から）

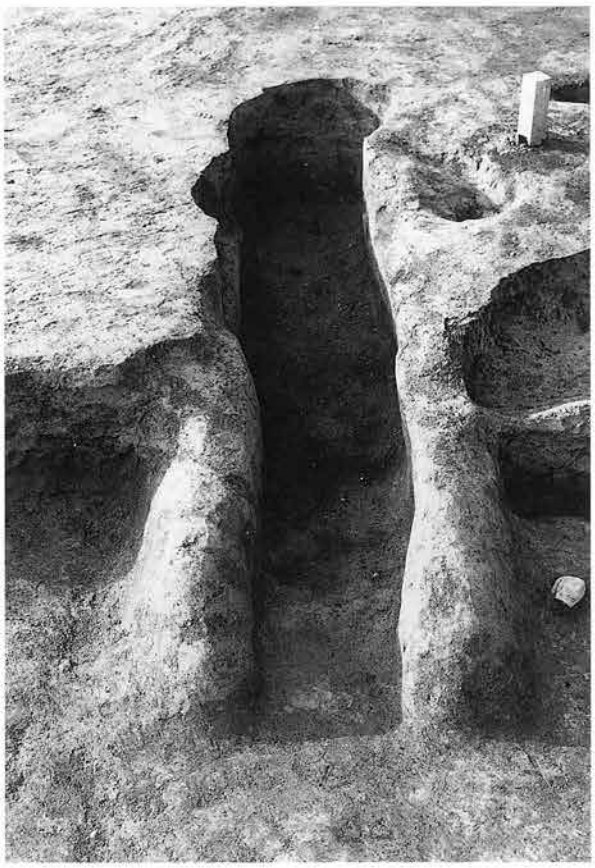


断面（南東から）



断面（南西から）

写真図版11　RA116竪穴住居跡（1）



カマド

カマド断面（南東から）

カマド断ち割り（南東から）

煙道断面

カマド断面（南西から）

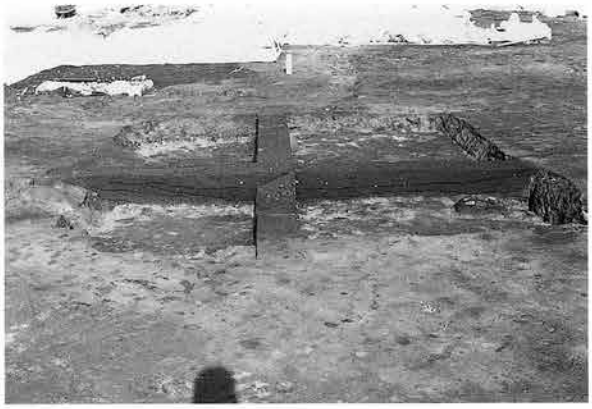
遺物出土状況

カマド焼土断ち割り（南西から）

写真図版12　RA116竪穴住居跡（2）

全景（南東から）

断面（南東から）

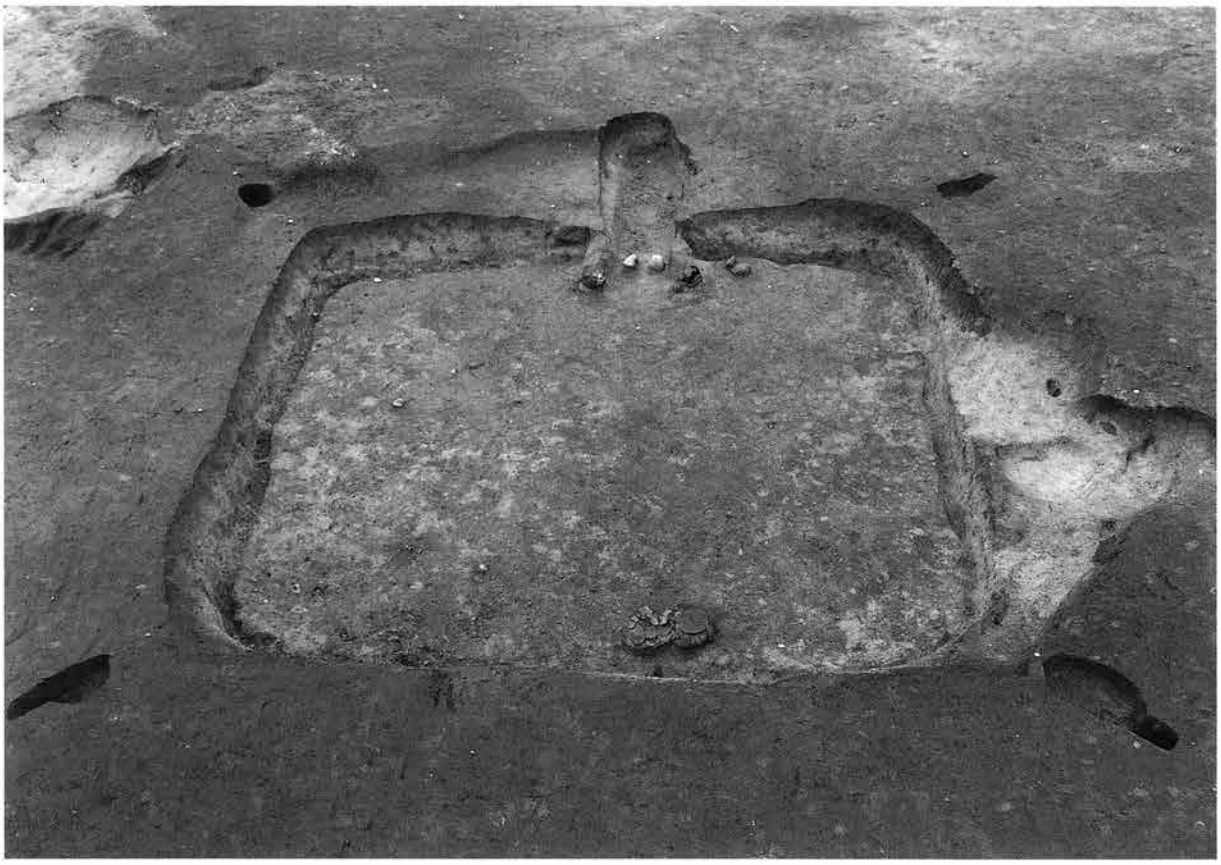


断面（南西から）

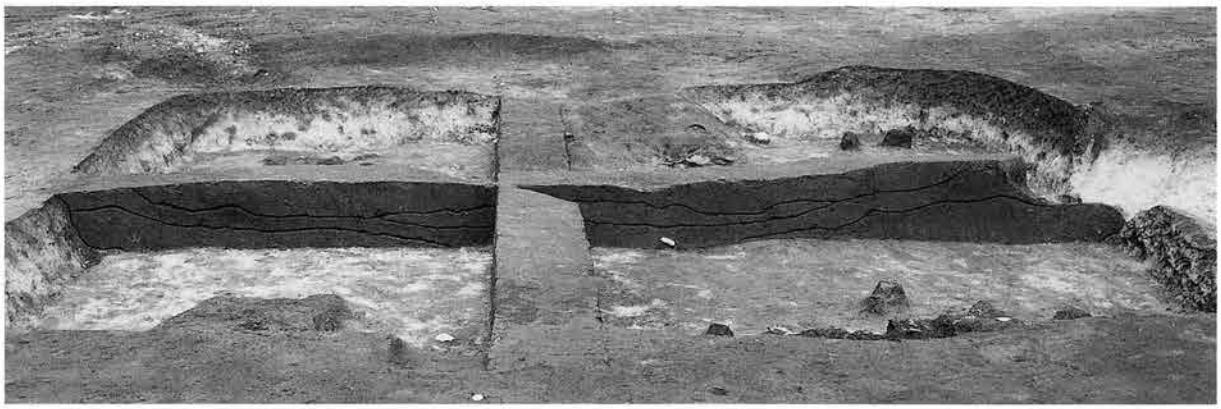
カマド煙道部断面（南から）

カマド袖断面（南東から）

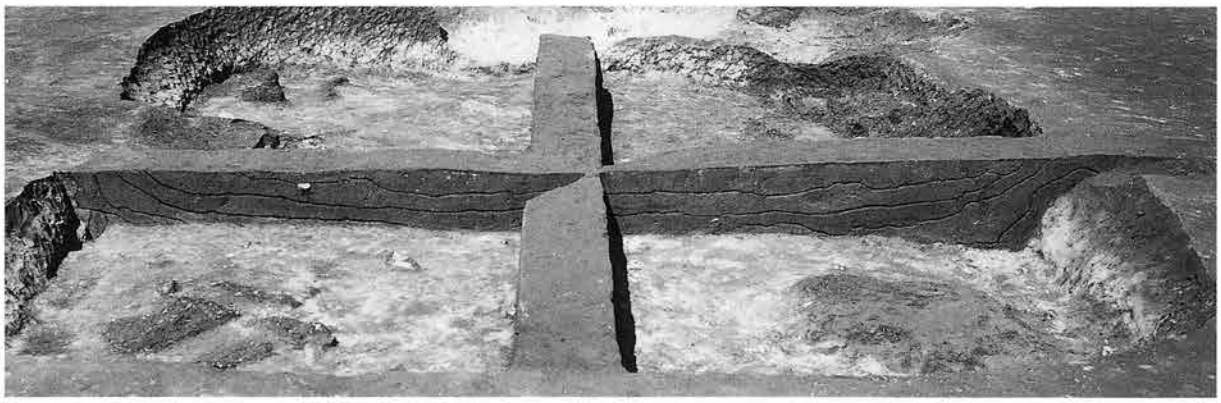
写真図版13　RA117竪穴住居跡



全景（南東から）



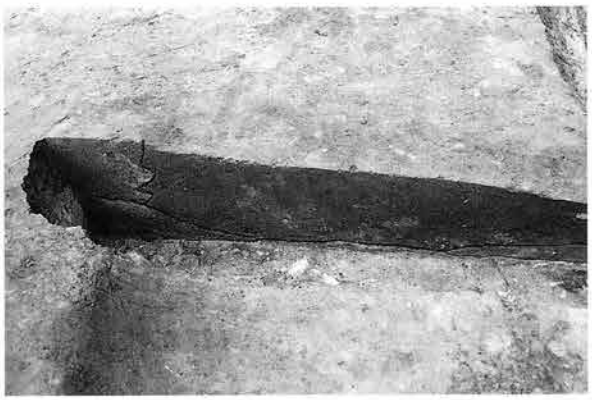
断面（南東から）



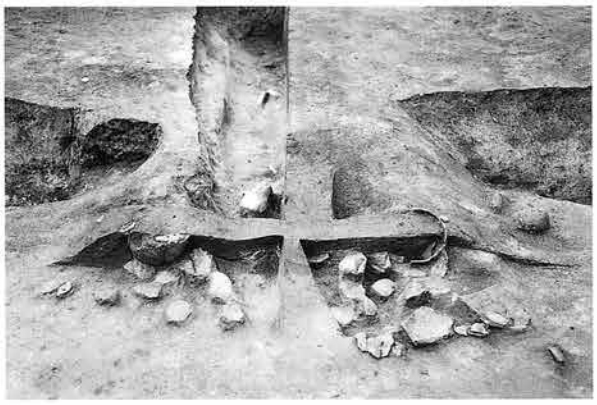
断面（南西から）

写真図版14　RA118竪穴住居跡（1）

カマド



煙道断面（南西から）

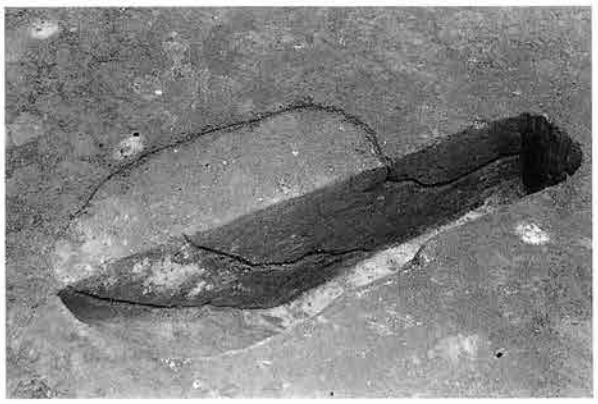


カマド断面

カマド周辺遺物出土状況

カマド断ち割り

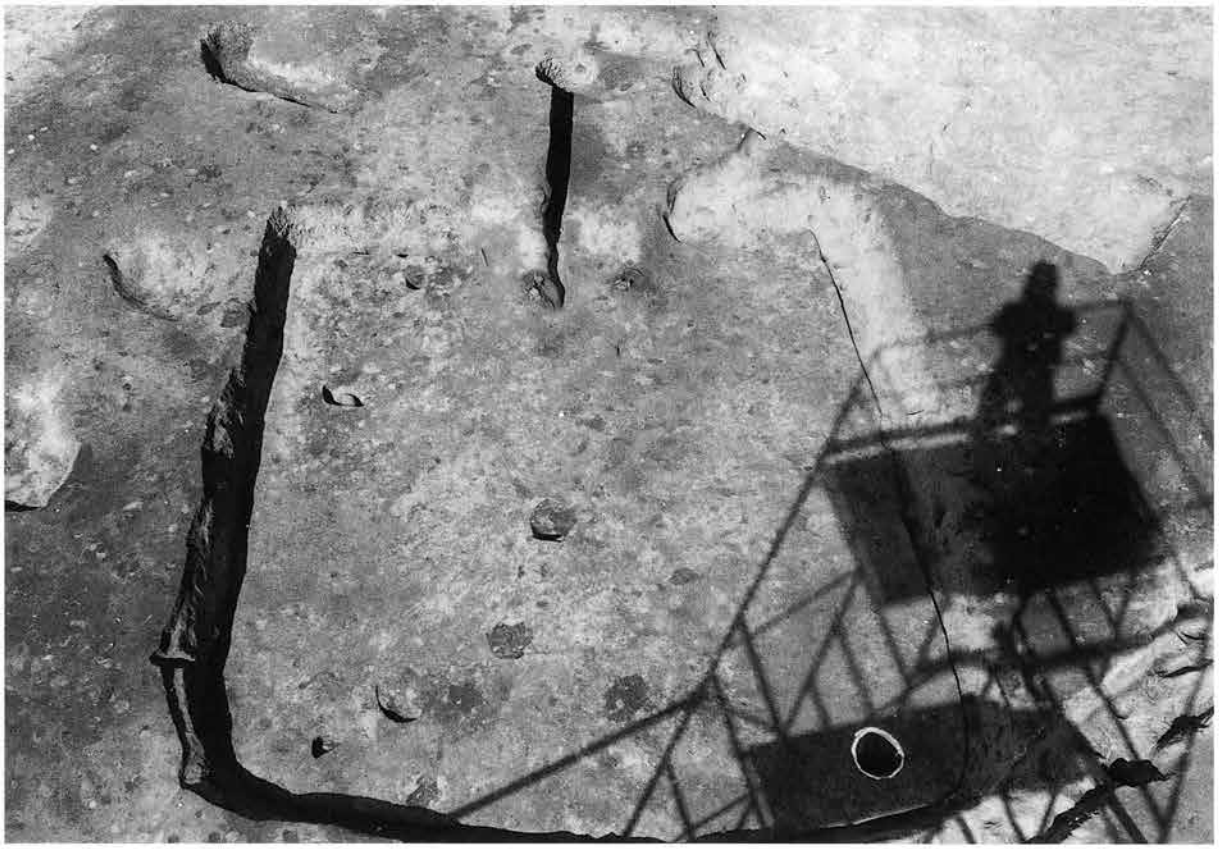
遺物出土状況



壁外柱穴断面（柱穴２・南から）

壁外柱穴断面（柱穴３・西から）

写真図版15　RA118竪穴住居跡（２）



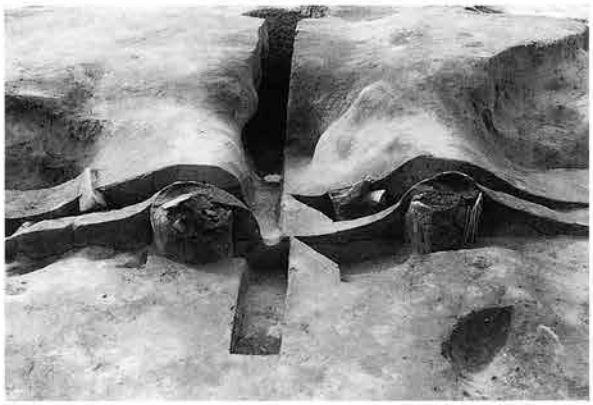
全景（南東から）

断面（南西から）

断面（南東から）

写真図版16　RA119竪穴住居跡（1）

カマド全景（南東から）



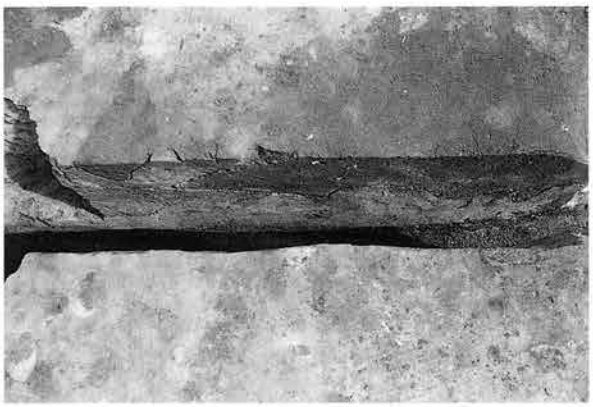
カマド袖断面（南東）

カマド袖断面全景（南から）

カマド袖土器設置状況（北東から）

カマド長断面（南から）

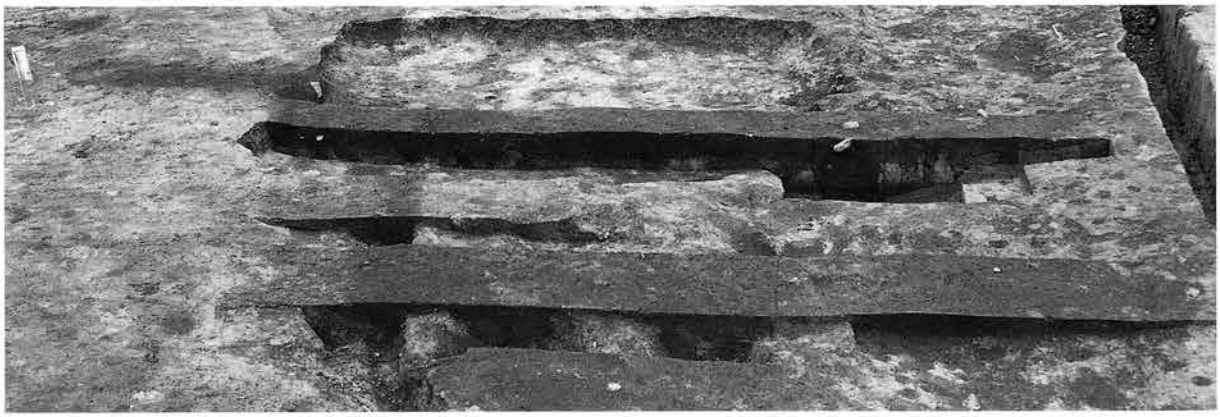
カマド煙道部断面（西から）



カマド煙道部断面（南西から）

写真図版17　RA119竪穴住居跡（2）

全景（南東から）



断面（南西から）

カマド煙道部断面（南西から）

写真図版18　RA120竪穴住居跡

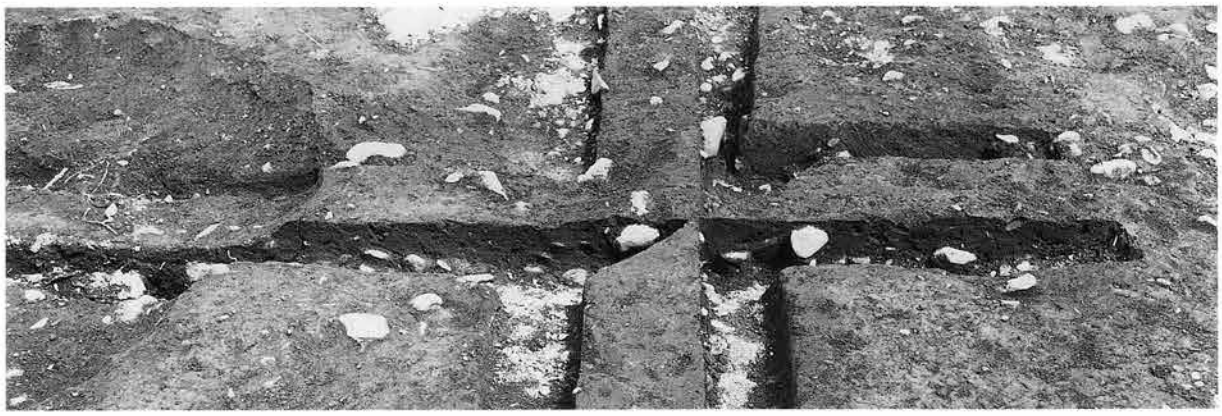
全景（南東から）

断面（西から）

断面（南から）

写真図版19　RA121竪穴住居跡

全景（西から）

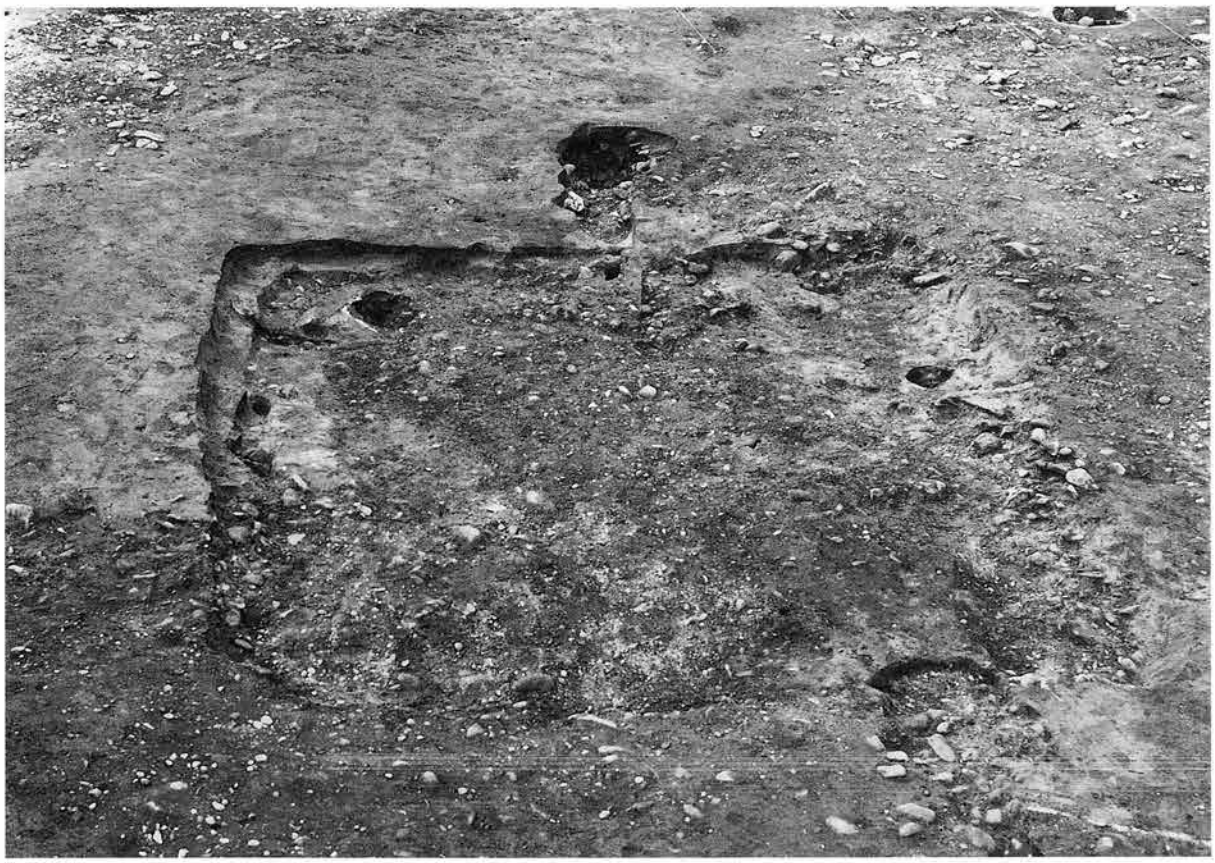


断面（西から）

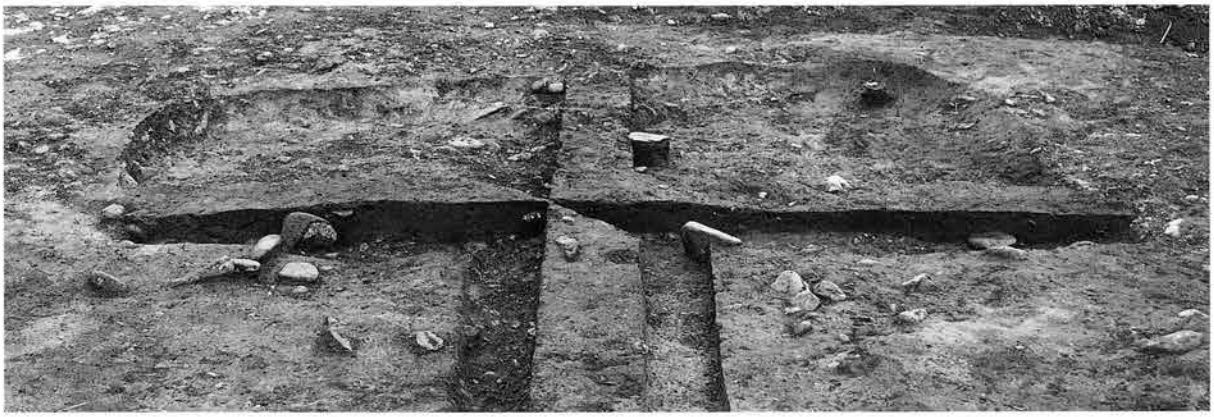
カマド長断面（南から）

カマド断面（西から）

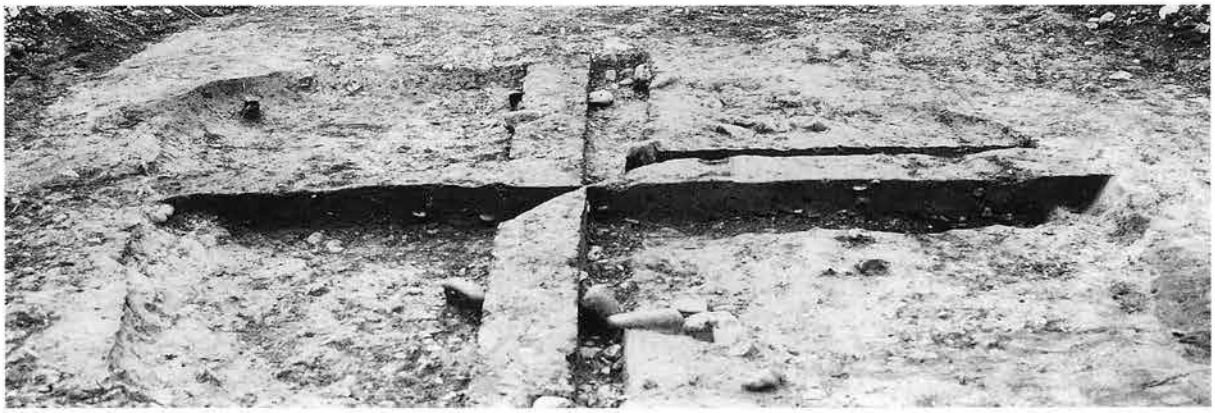
写真図版20　RA122竪穴住居跡



全景（東から）



断面（南から）



断面（西から）

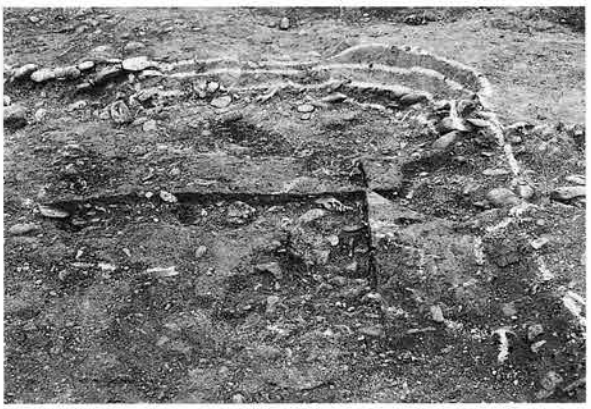
写真図版21　RA123竪穴住居跡（1）

1号カマド検出状況（東から）

1号カマド長断面（南から）

1号カマド長断面（南から）

1号カマド断面（東から）



2号カマド断面（南から）

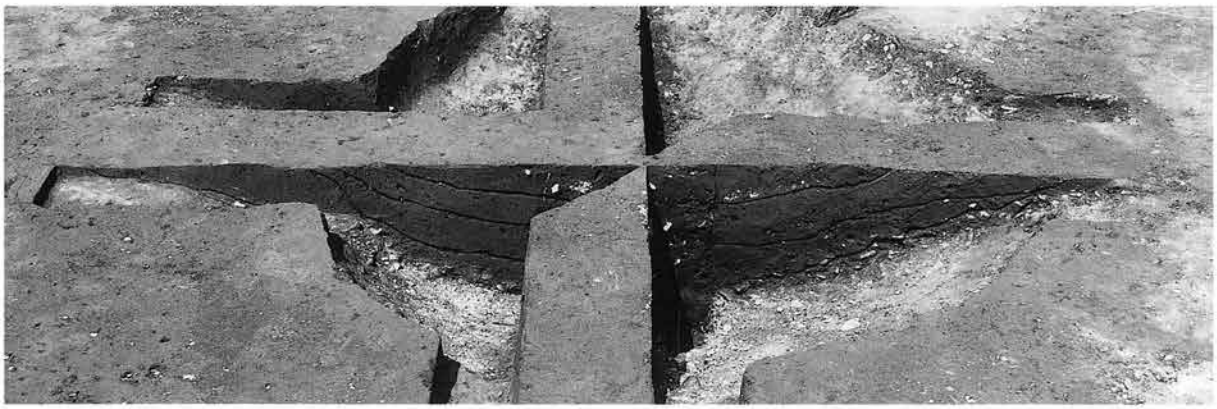
2号カマド断面（西から）

竪穴掘り方全景（東から）

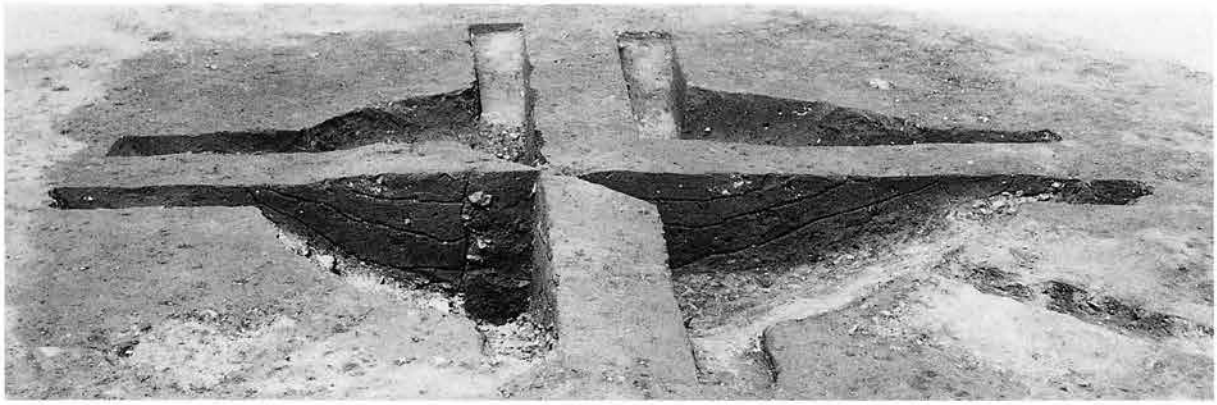
貼床断面（南から）

写真図版22　RA123竪穴住居跡（2）

全景（南西から）



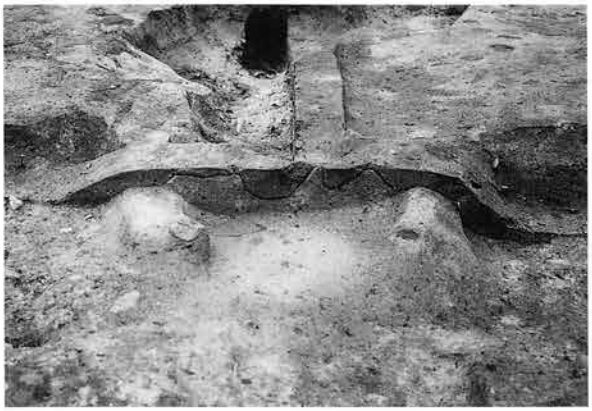
断面（南西から）



断面（南東から）

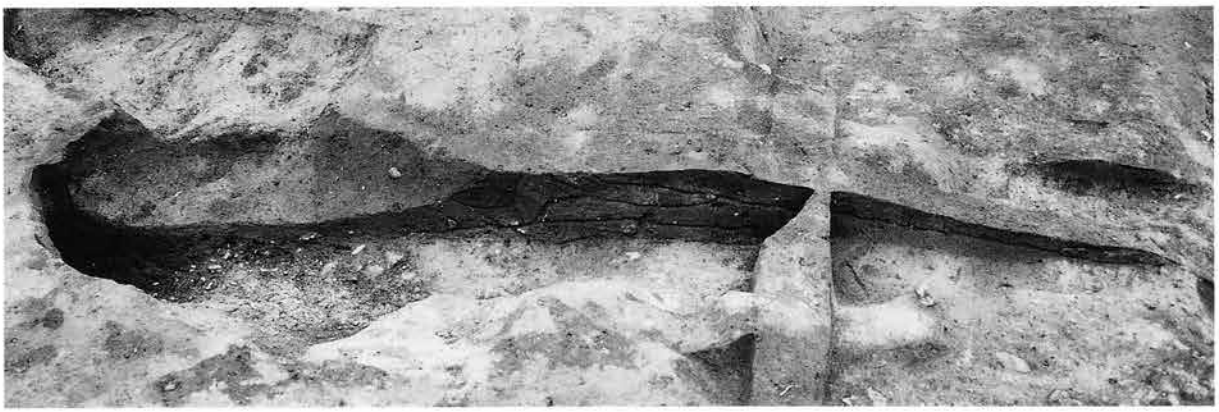
写真図版23　RA124竪穴住居跡（1）

カマド



カマド断面（南東から）

カマド断ち割り（南東から）



煙道断面（南西から）

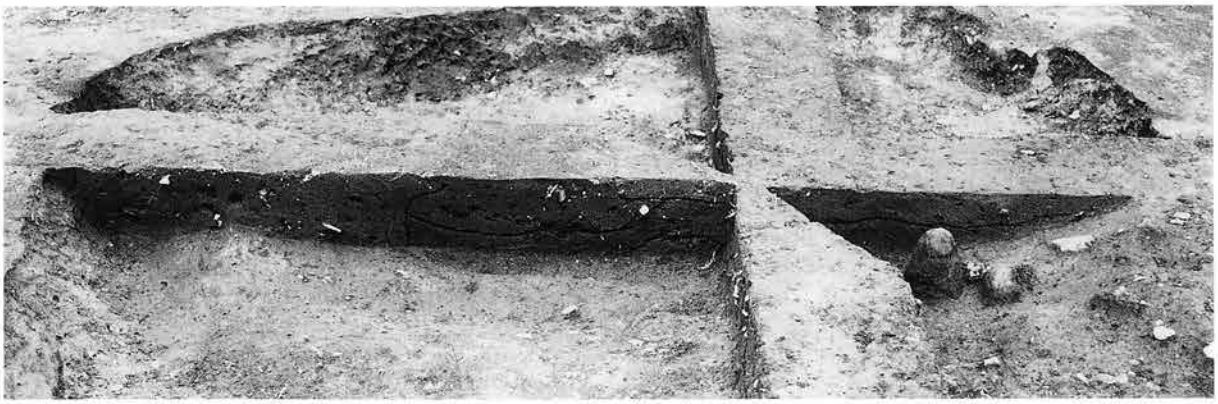
人為堆積土の状況（南西から）

カマド焼土断ち割り（南西から）

写真図版24　RA124竪穴住居跡（２）

全景（南西から）

断面（南西から）



断面（南東から）

写真図版25　RA125竪穴住居跡（1）

カマド

カマド断面（南西から）

カマド断面（南東から）

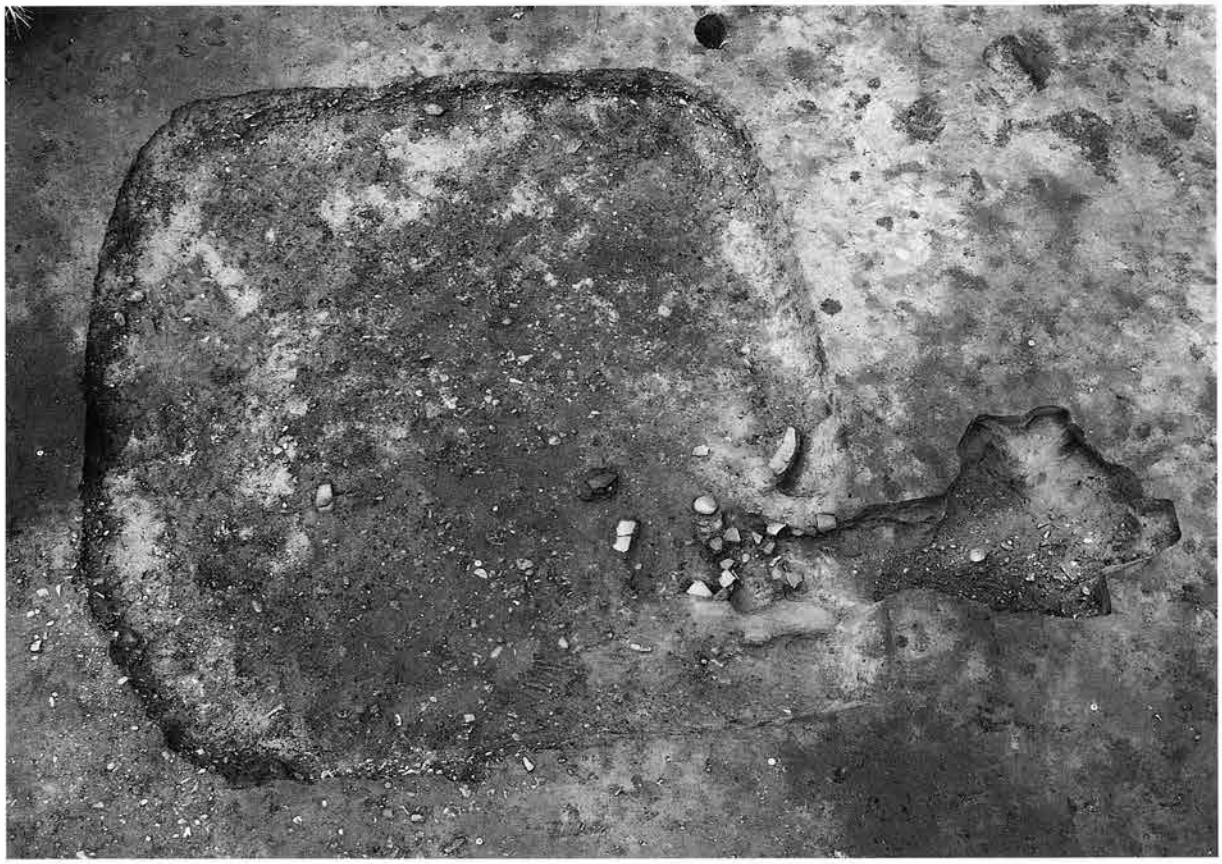
カマド断ち割り（南西から）

カマド焼土断ち割り（南東から）

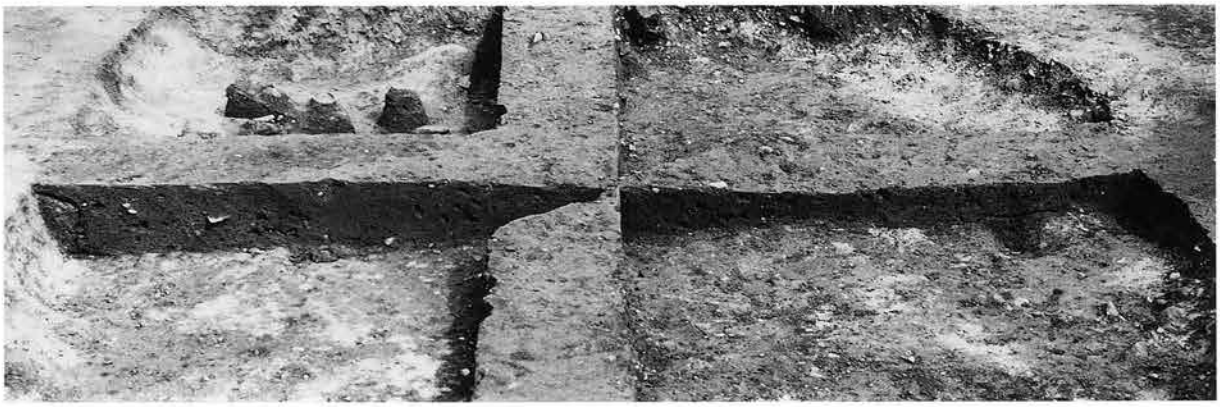
貼り床断面（南西から）

北東隅焼土断面（南西から）

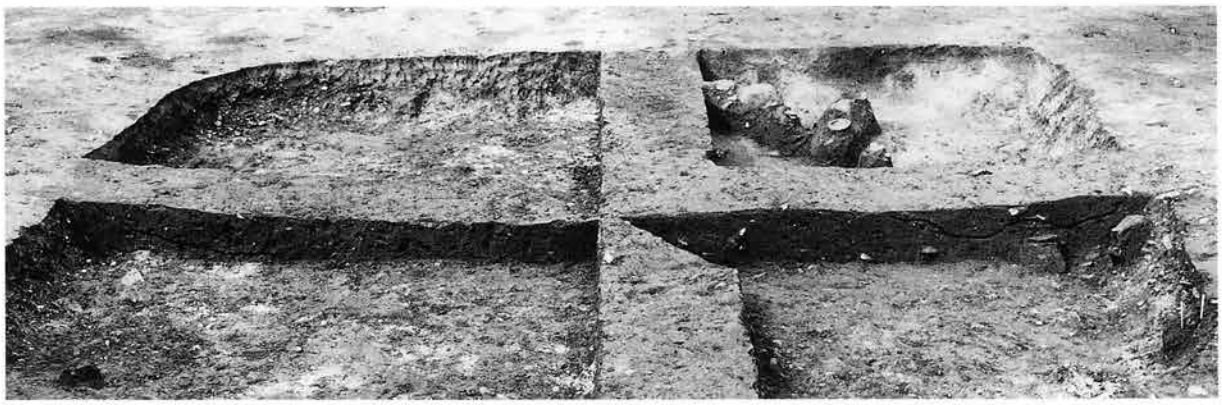
写真図版26　RA125竪穴住居跡（２）



全景（南東から）



断面（北西から）

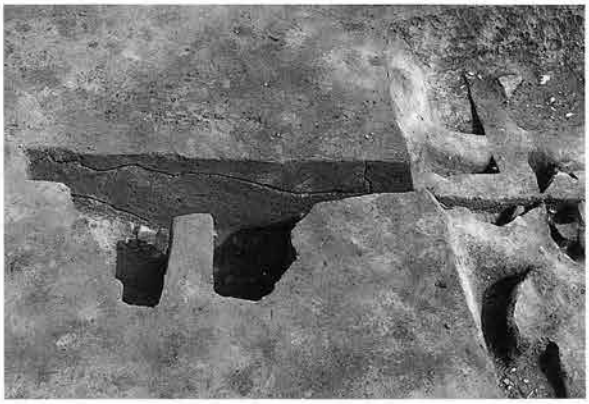


断面（南西から）

写真図版27　RA126竪穴住居跡（1）

カマド

煙道断面（南西から）

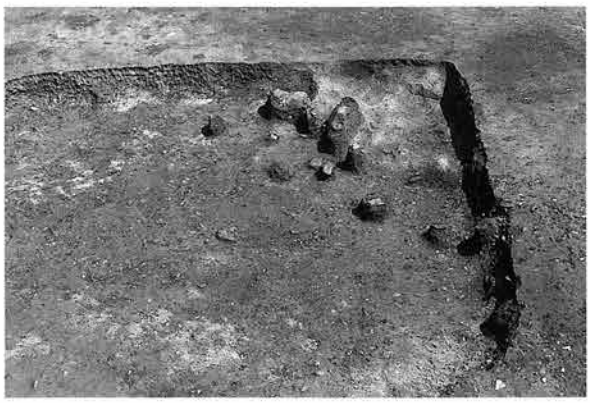


煙道断面（北西から）

カマド断面（南西から）

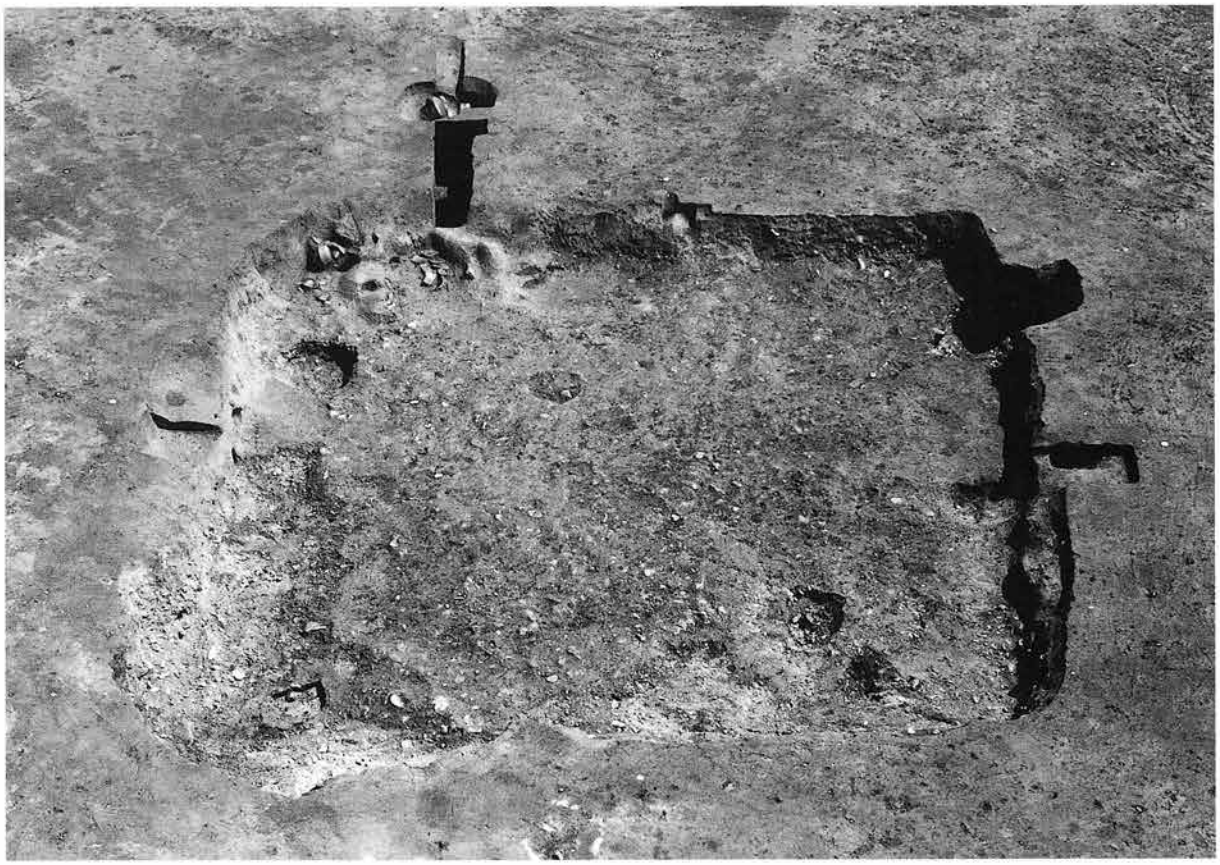
カマド断面（北西から）

カマド断ち割り（南西から）

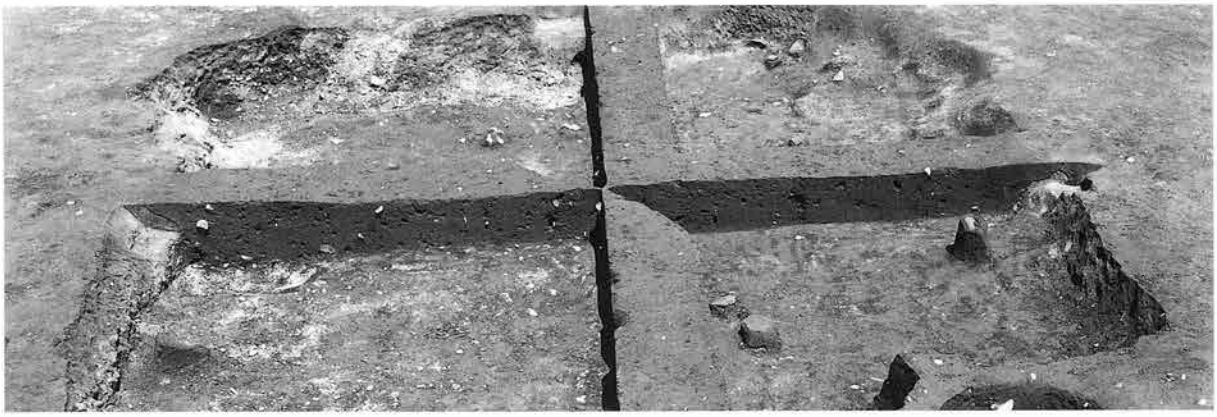


遺物出土状況（南西から）

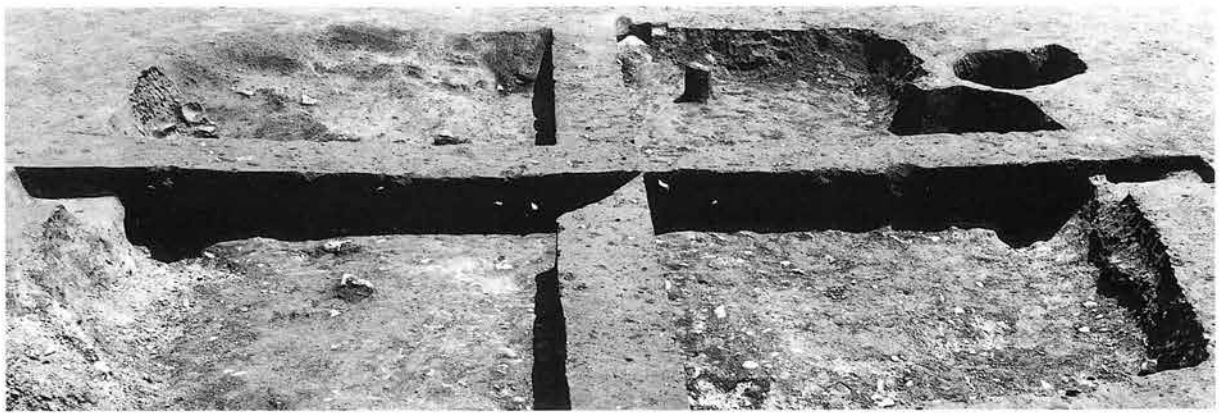
写真図版28　RA126竪穴住居跡（2）



全景（西から）

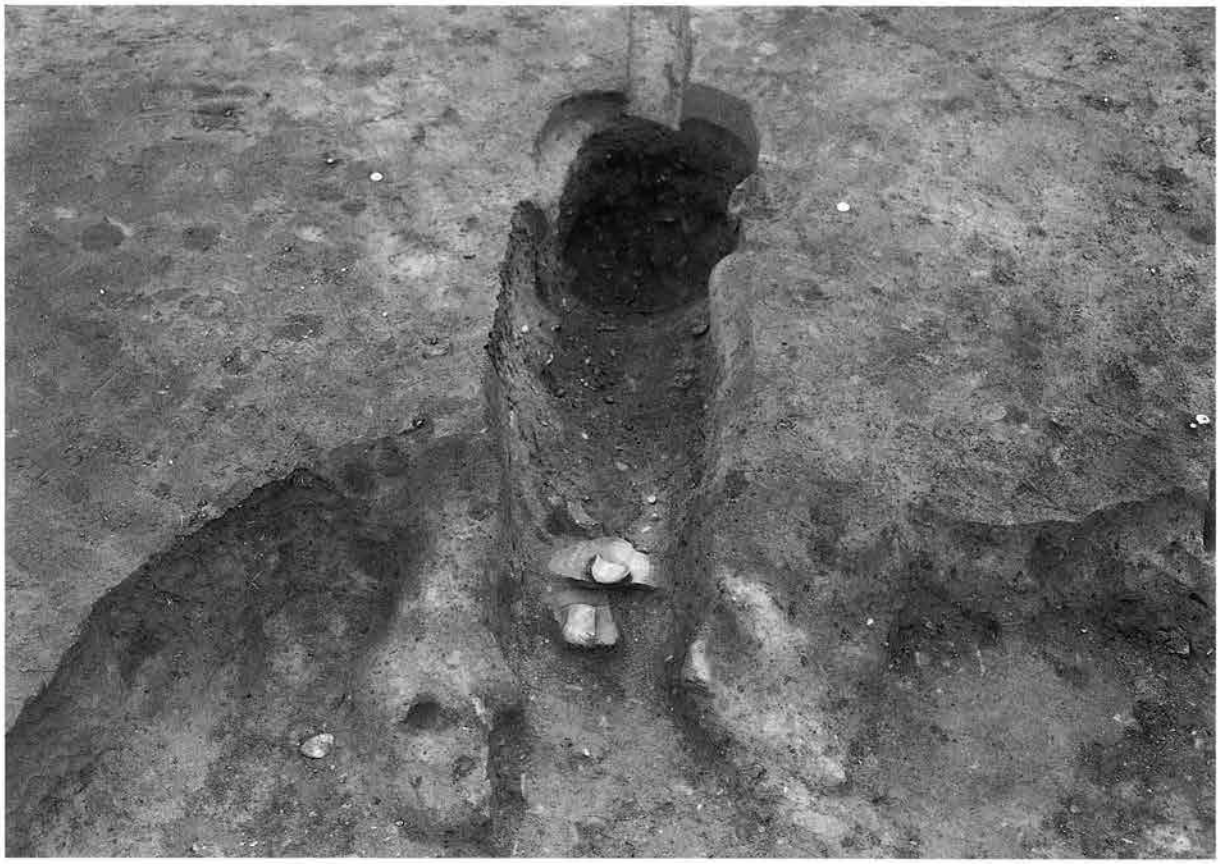


断面（南から）

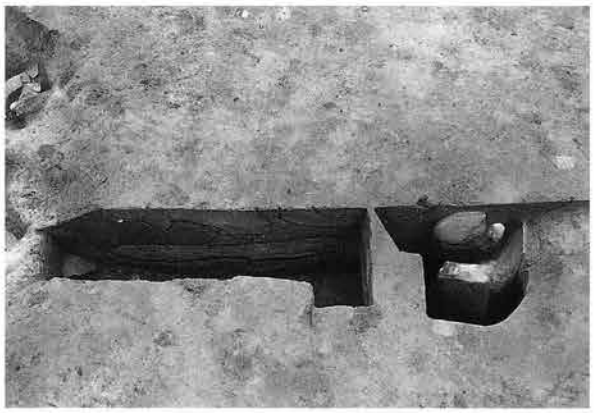


断面（西から）

写真図版29　RA127竪穴住居跡（1）



カマド全景（西から）



カマド煙道部断面（南から）

カマド袖断面（西から）

カマド煙道部断面（西から）

カマド煙道部断面（南から）

写真図版30　RA127竪穴住居跡（2）

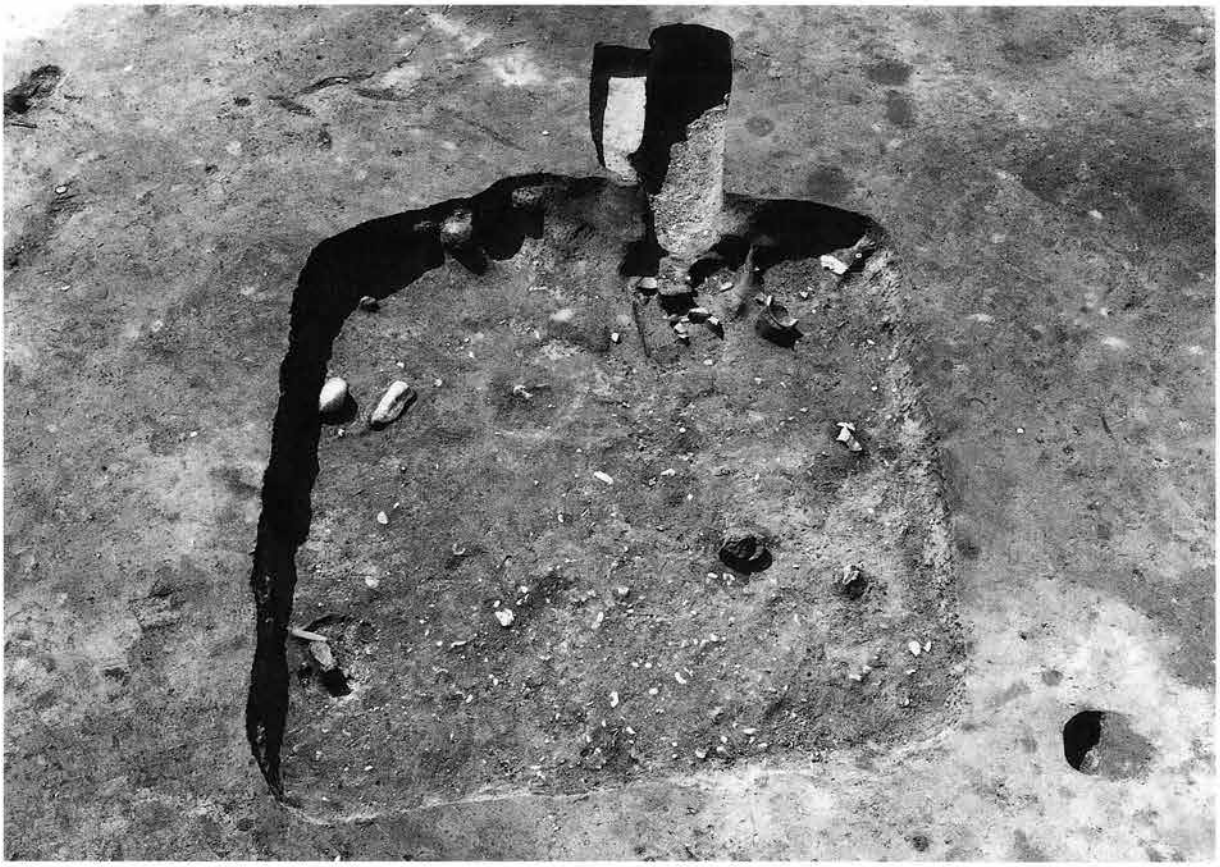
全景（南東から）

断面（東から）

遺物出土状況

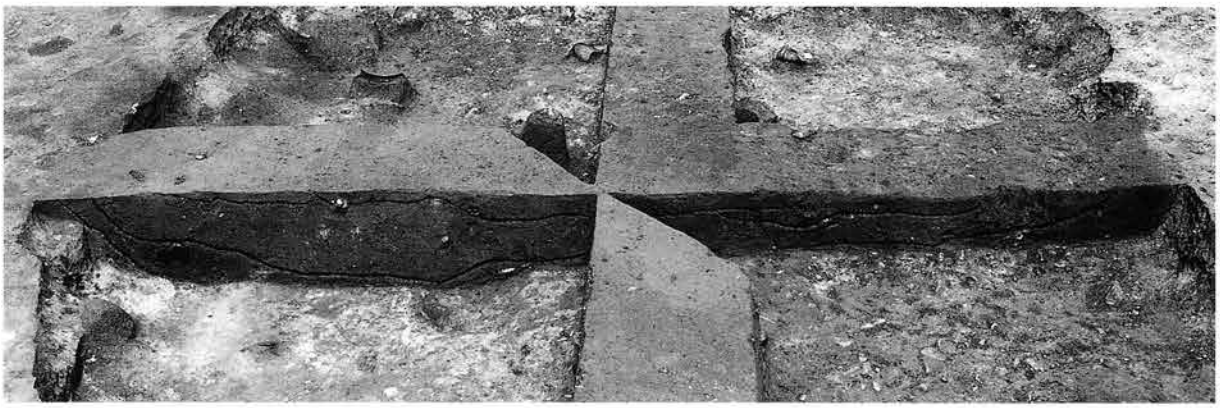
遺物出土状況

写真図版31　RA128竪穴住居跡



全景（東から）

断面（西から）



断面（南から）

写真図版32　RA129竪穴住居跡（1）

カマド

カマド断面（東から）

カマド焼土断ち割り（南から）

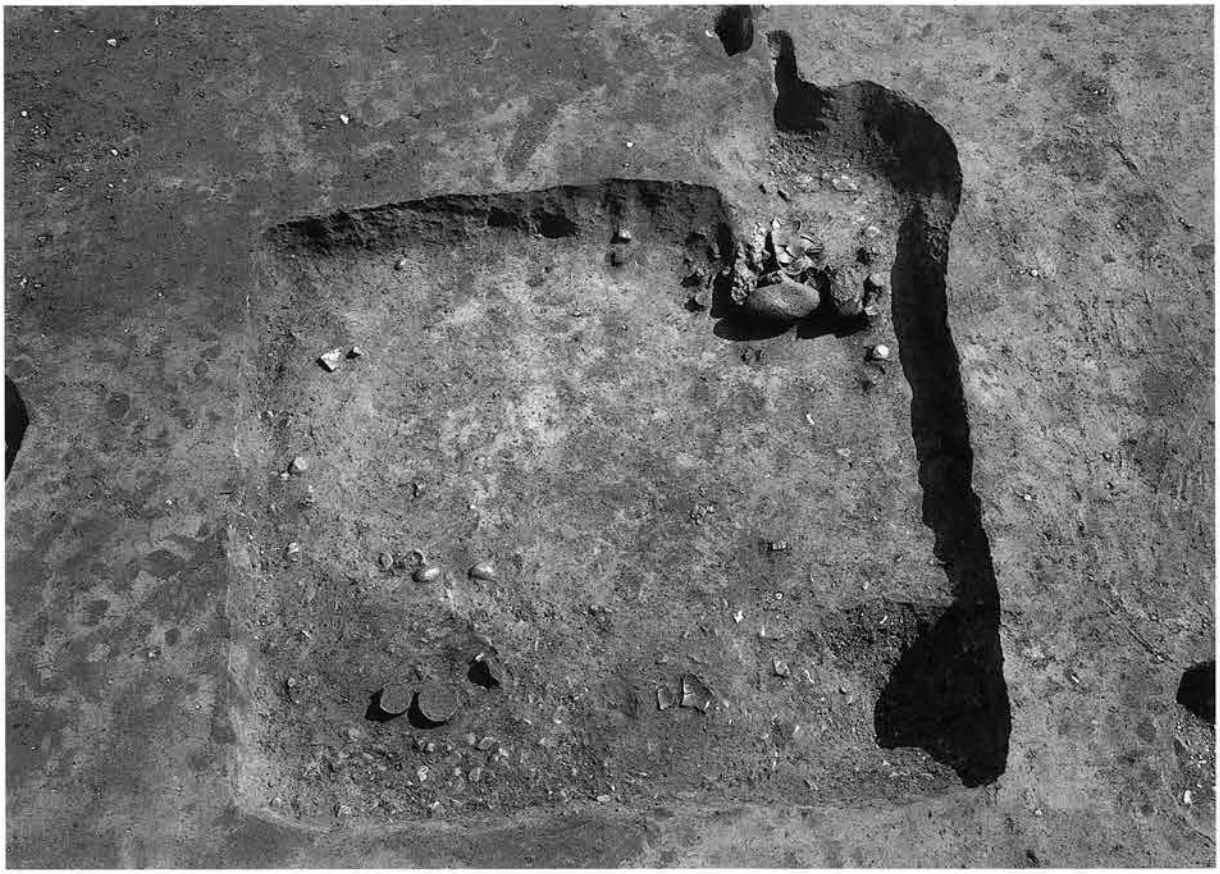
カマド煙道断面（南から）

カマド断面（南から）

遺物出土状況（カマド周辺）

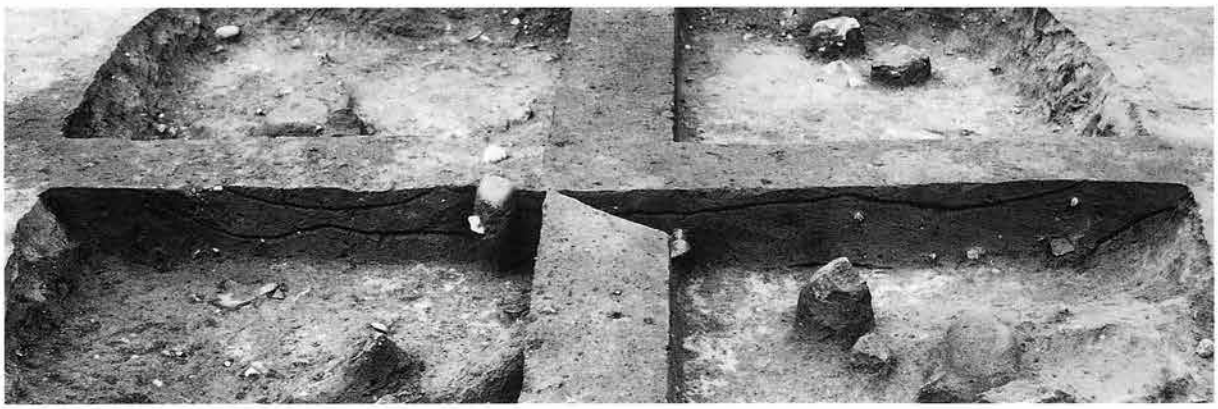
遺物出土状況（東から）

写真図版33　RA129竪穴住居跡（２）



全景（西から）

断面（西から）



断面（南から）

写真図版34　RA130竪穴住居跡（1）

カマド遺物出土状況（西から）

カマド断面（南から）

カマド断ち割り（西から）

カマド構築礫検出状況

遺物出土状況（西から）

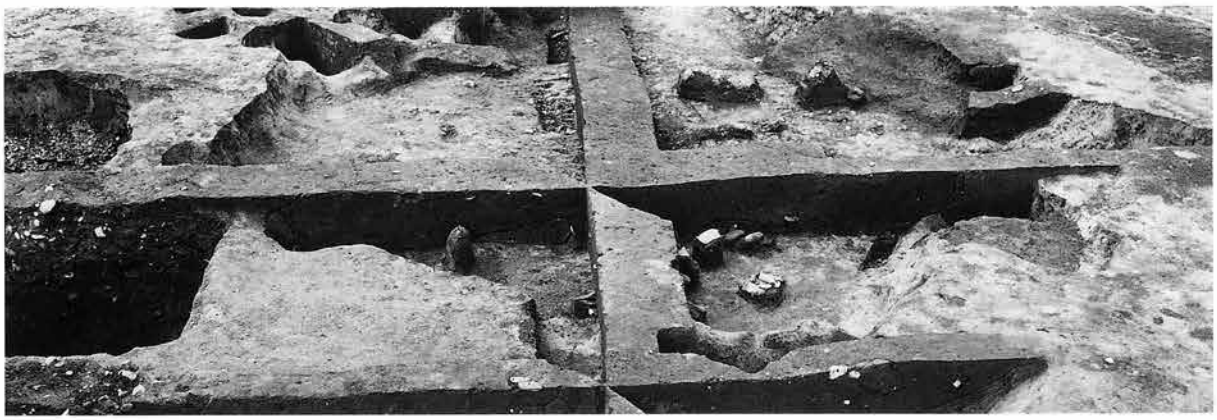
遺物出土状況（南東から）

土坑１断面（南から）

調査風景

写真図版35　RA130竪穴住居跡（２）

全景（東から）



断面（南から）

断面（西から）

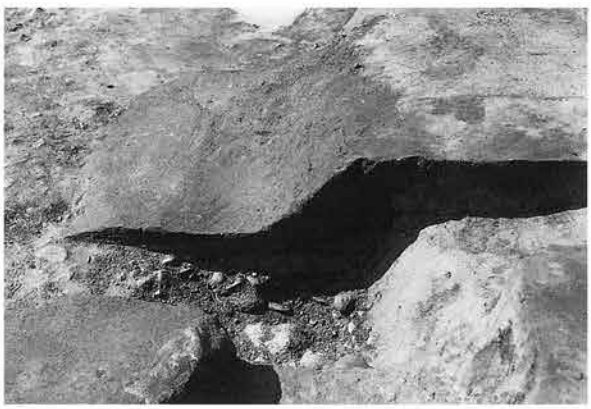
写真図版36　RA131竪穴住居跡（1）

全景（出入口、炉、周辺土坑など　南から）

カマド煙道部断面

炉１断面

床面土坑



出入口断面

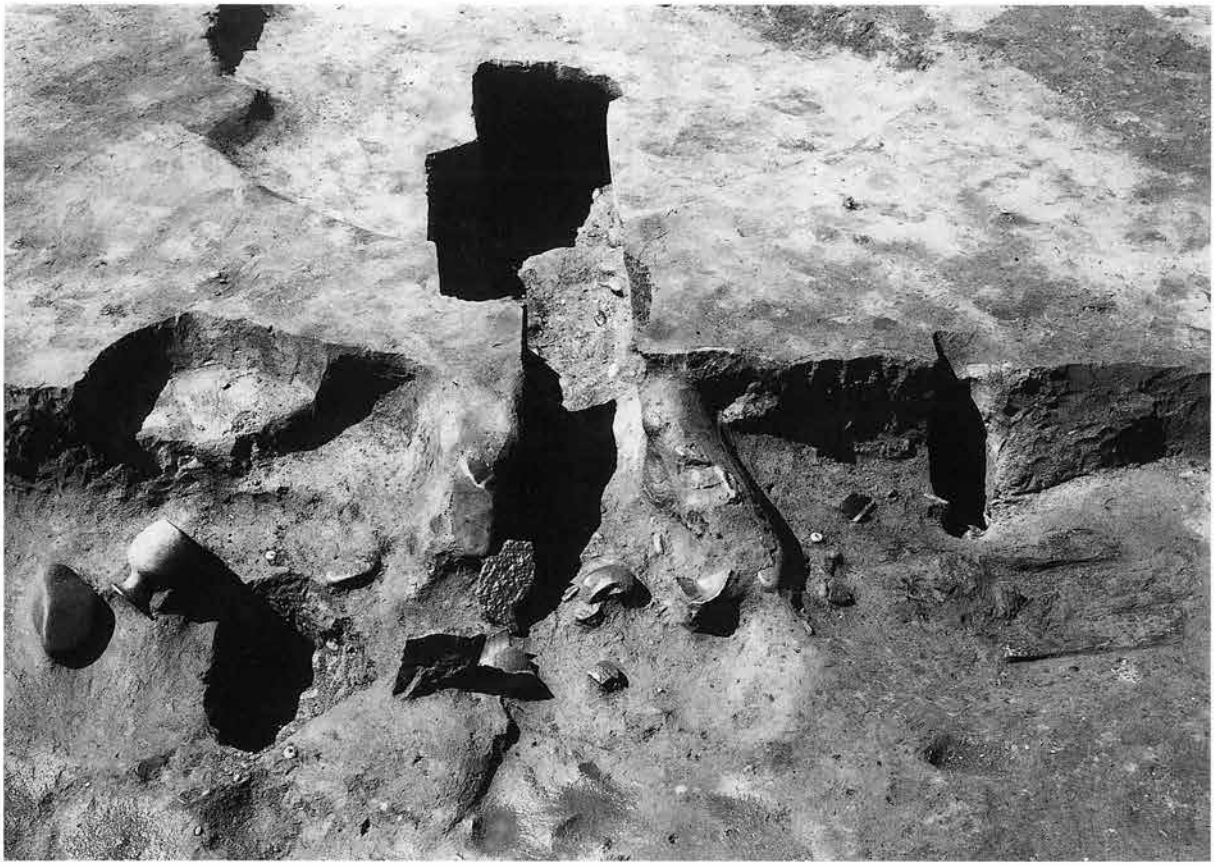
写真図版37　RA131竪穴住居跡（２）

全景（東から）

断面（東から）

断面（南から）

写真図版38　RA132竪穴住居跡（1）



1号カマド

煙道断面（南から）

断面（南から）

断面（東から）

カマド焼土断ち割り（南東から）

写真図版39　RA132竪穴住居跡（2）

1号カマド構築礫

3号カマド

2号カマド

2号カマド構築礫

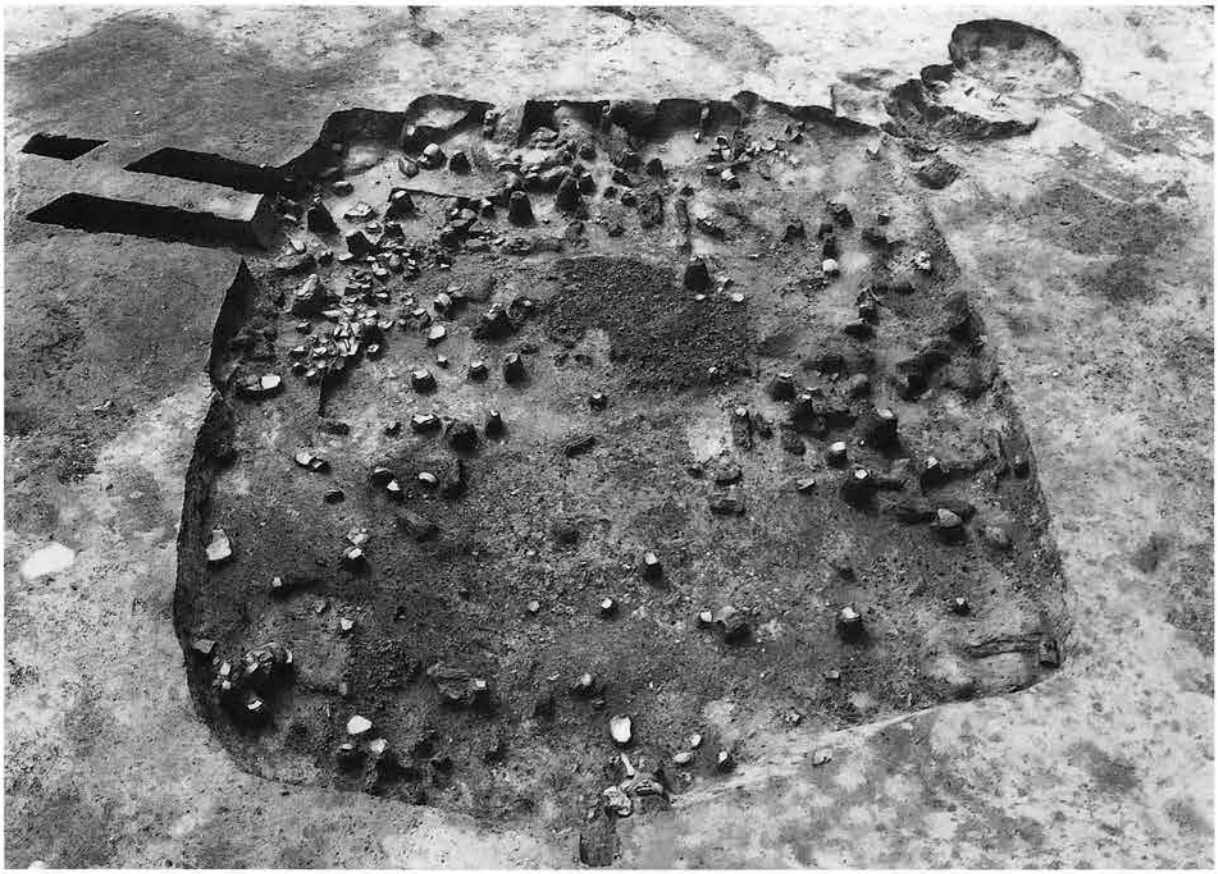
2号カマド煙道断面

土坑3

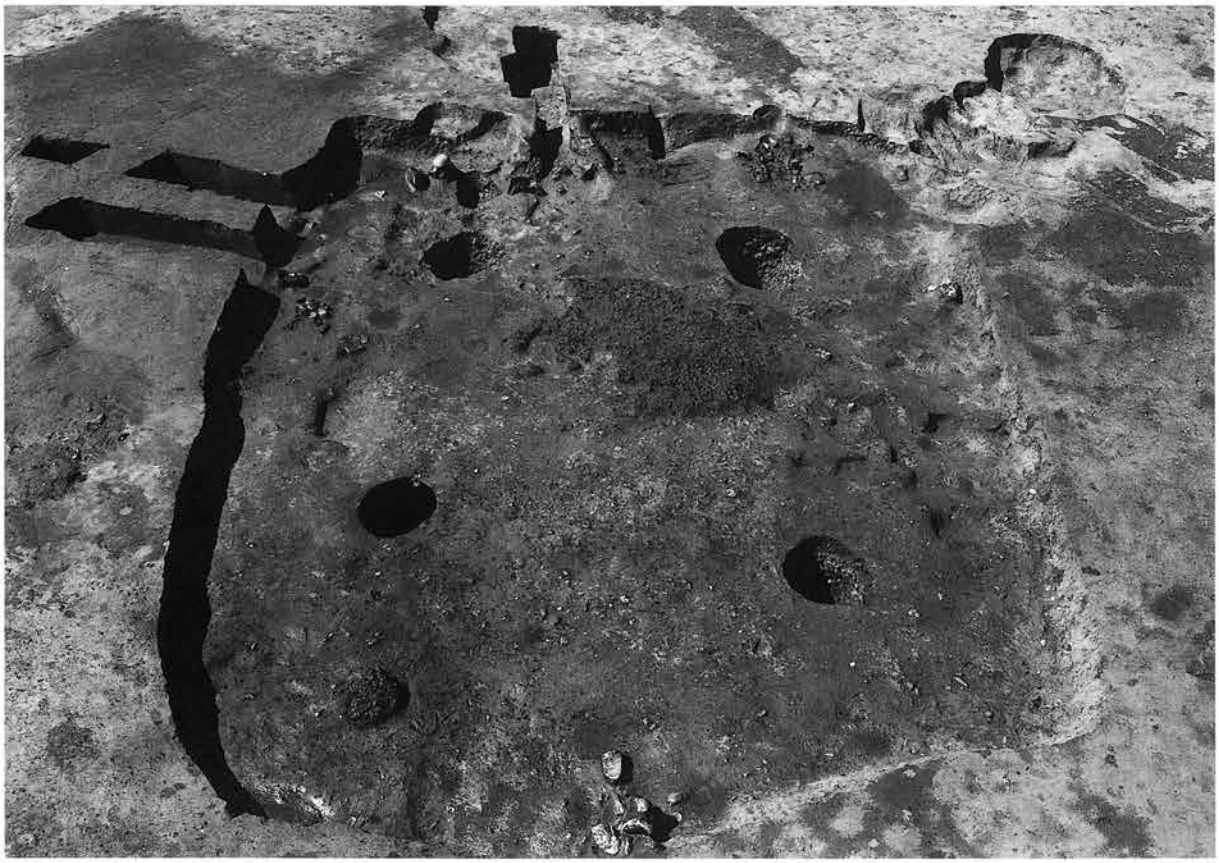
炭化材出土状況（南から）

カヤ状炭化物出土状況

写真図版40　RA132竪穴住居跡（3）

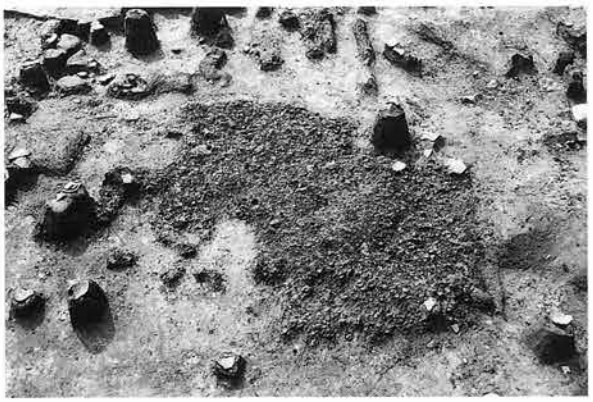


遺物・炭化材出土状況（東から）



床面直上遺物出土状況（東から）

写真図版41　RA132竪穴住居跡（４）



床面中央種実

南東隅付近種実・鋤先

炭化米 3

炭化米 4

土坑 1 周辺遺物出土状況 1

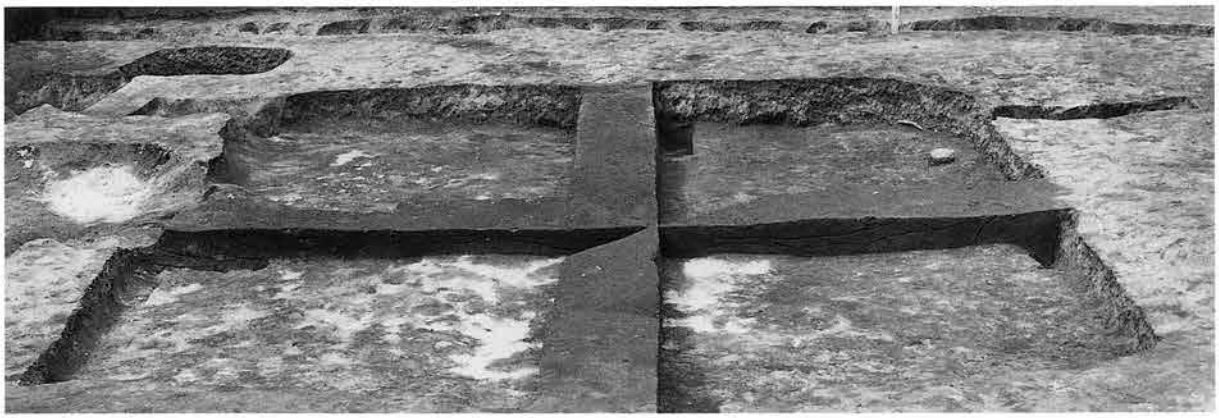
土坑 1 周辺遺物出土状況 2

土坑 2 内板材出土状況

鉄製品出土状況

写真図版42　RA132竪穴住居跡（5）

全景（東から）



断面（南から）

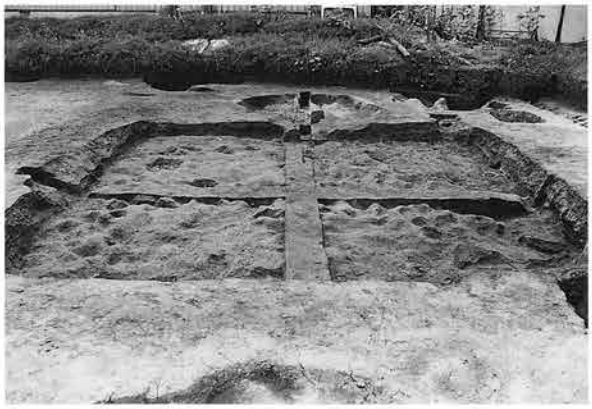
断面（東から）

写真図版43　RA133竪穴住居跡（1）

カマド長断面（南から）

カマド袖断面（東から）

竪穴掘り方状況（南から）



竪穴掘り方状況（東から）

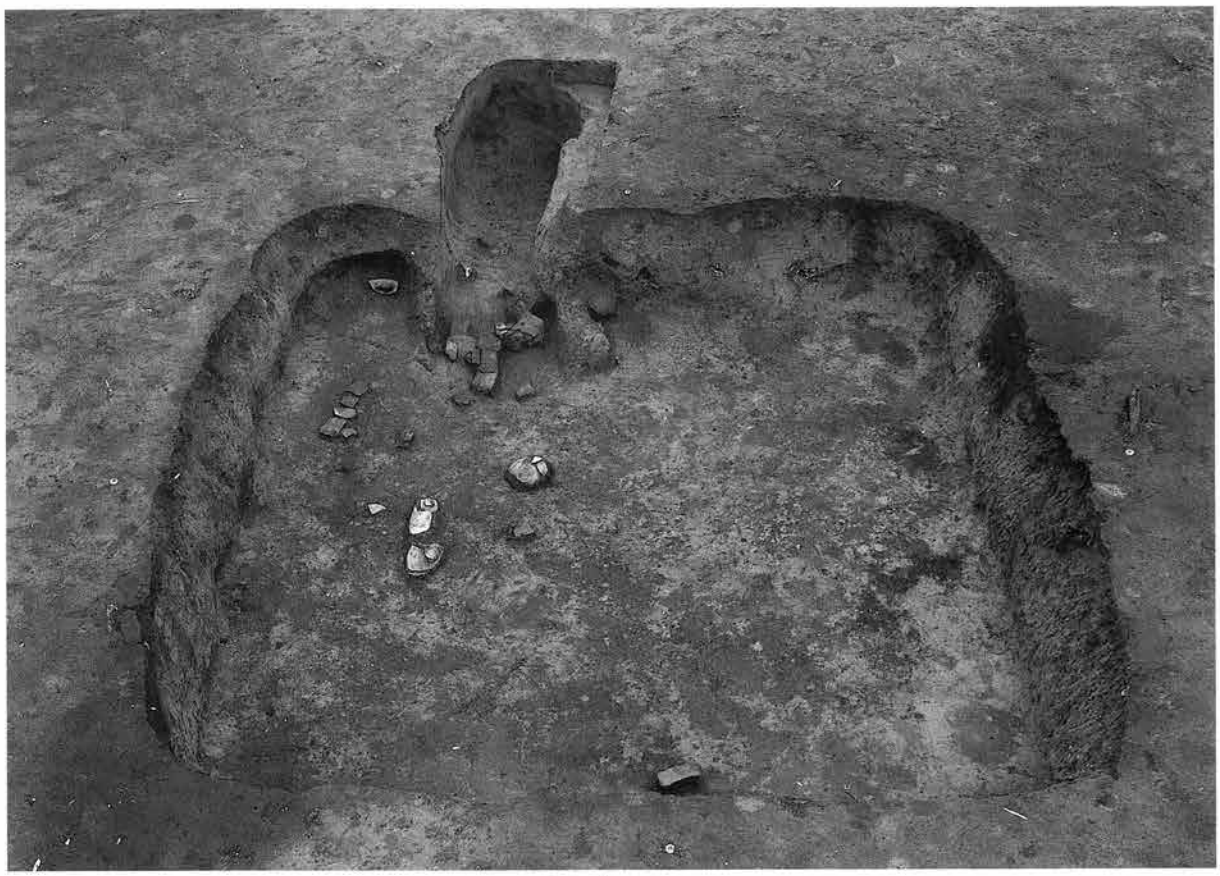
屋外柱穴３（東から）

柱穴３アップ（東から）

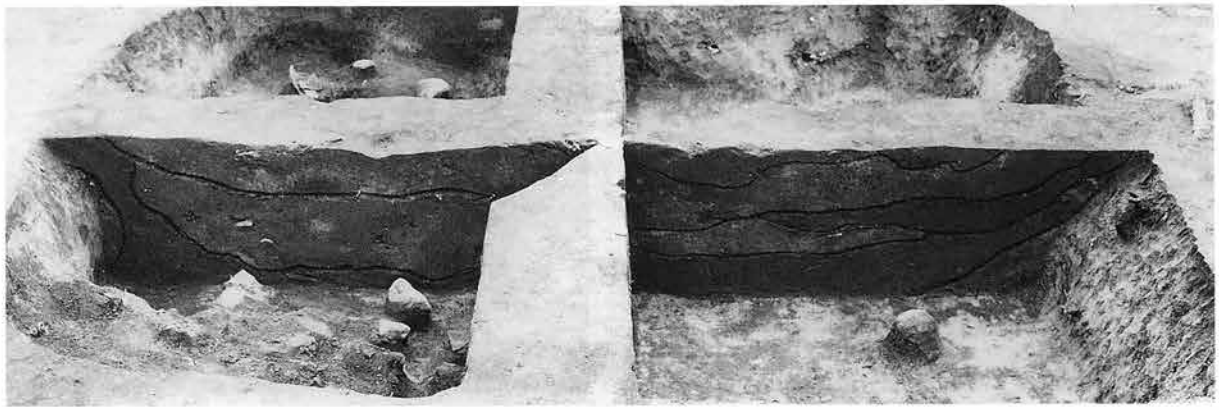
屋外柱穴５（東から）

柱穴５アップ（東から）

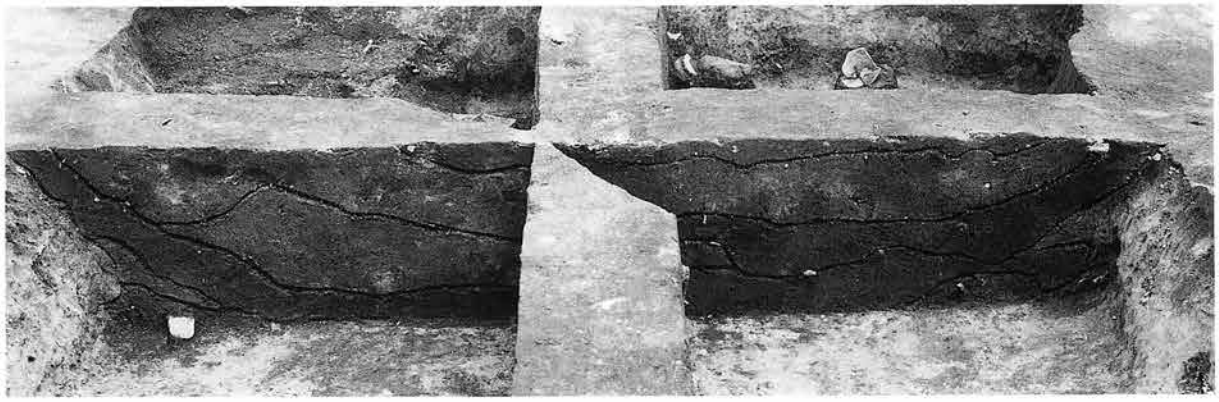
写真図版44　RA133竪穴住居跡（２）



全景（西から）



断面（西から）



断面（南から）

写真図版45　RA134竪穴住居跡（1）

カマド

カマド断面（西から）

カマド断ち割り（西から）

カマド断面（南から）

煙道断面（南から）

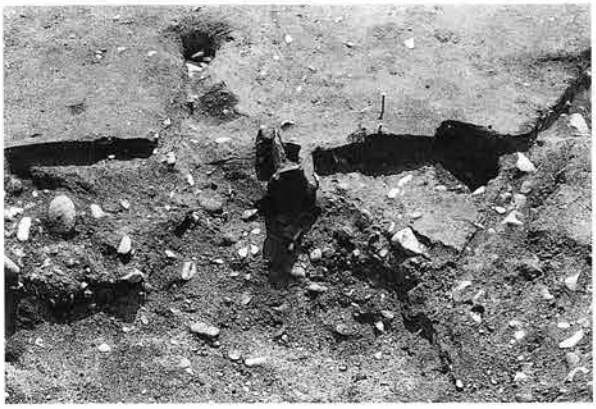
遺物出土状況（西から）

遺物出土状況（南から）

写真図版46　RA134竪穴住居跡（2）

全景（西から）

断面（南から）

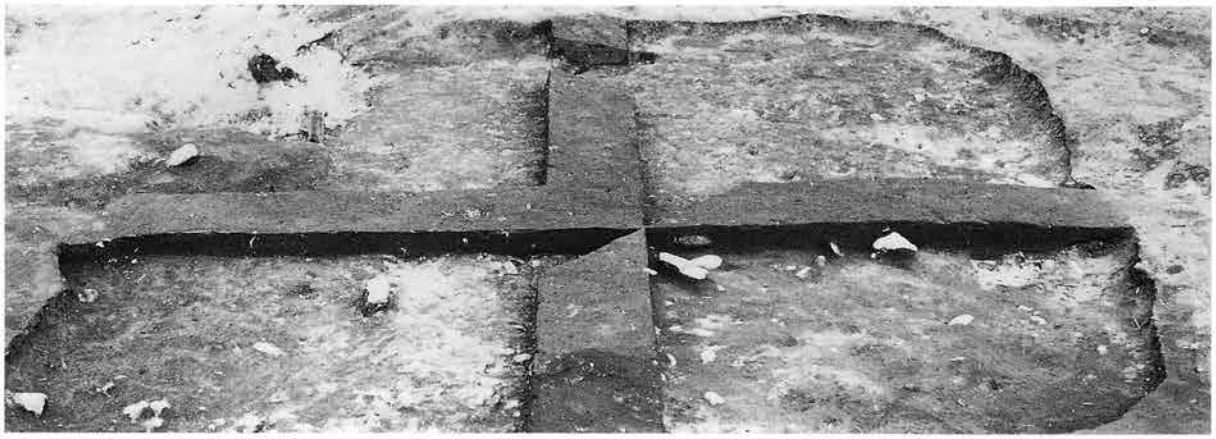


カマド全景（西から）

カマド煙道部設置土器（北西から）

写真図版47　RA135竪穴住居跡

全景（南から）

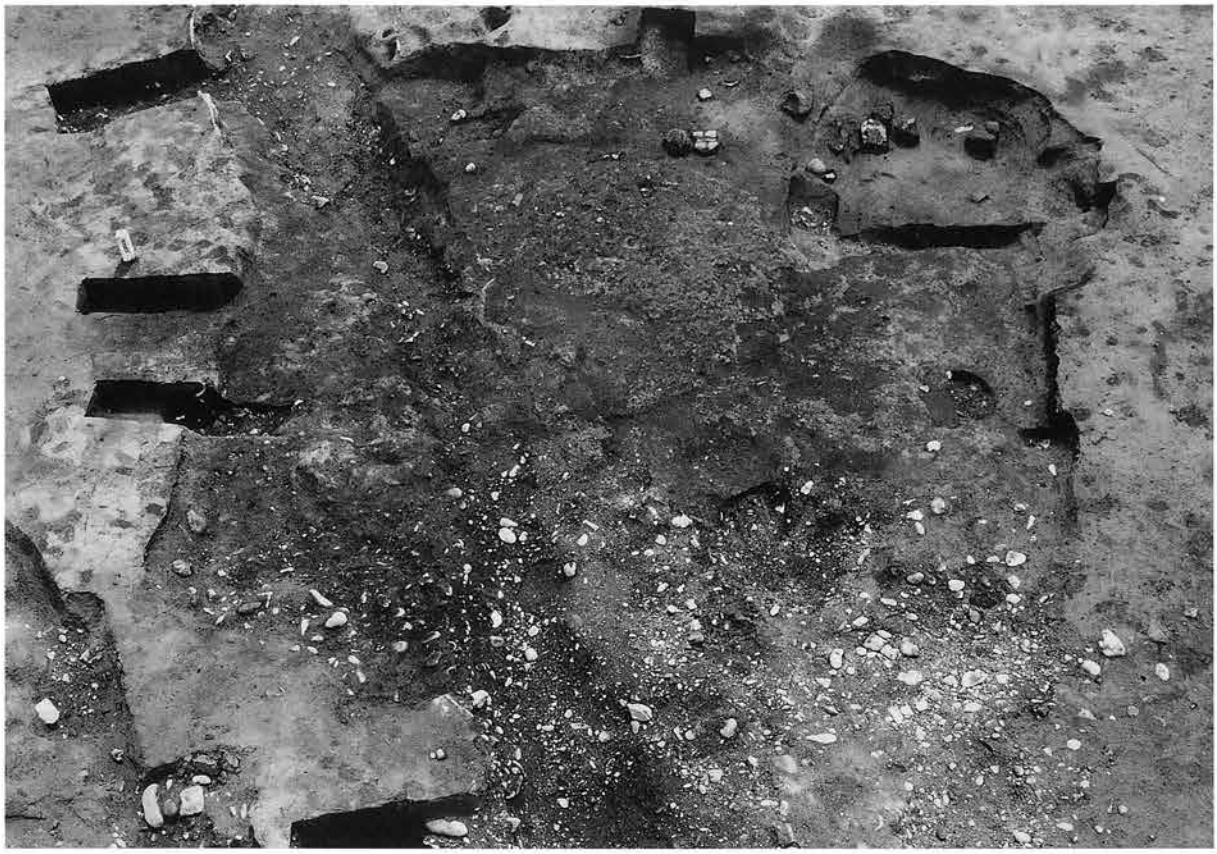


断面（西から）

煙道部断面（北西から）

カマド（南から）

写真図版48　RA136竪穴住居跡



全景（西から）

全景（床貼除去後、西から）

写真図版49　RA137竪穴住居跡（1）

断面（南から）

断面（西から）

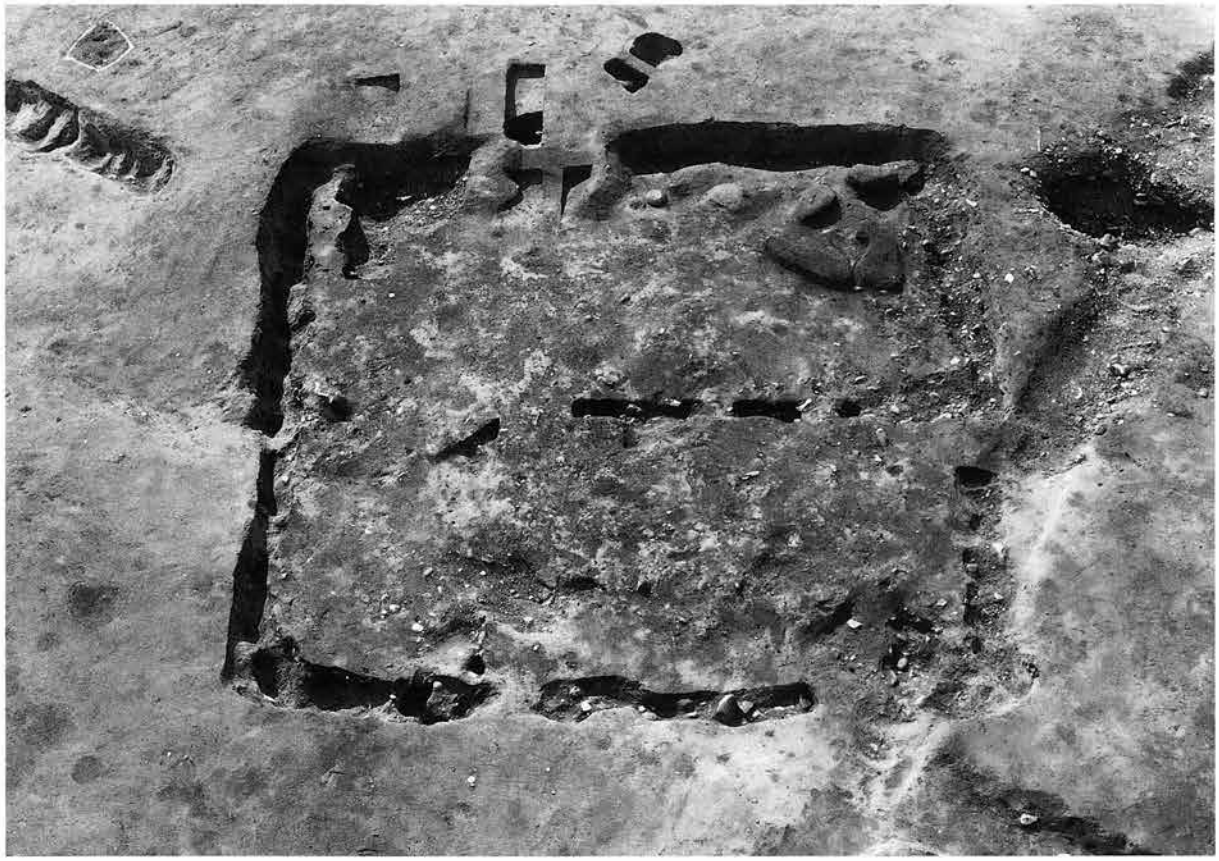
南壁際張出し断面（西から）

カマド断面（西から）

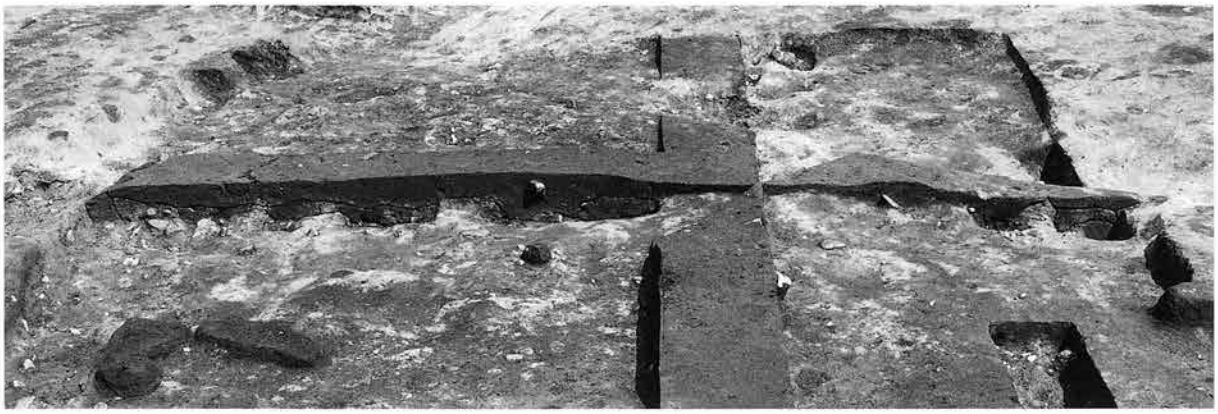
カマド煙道部断面（西から）

カマド土器出土状況（西から）

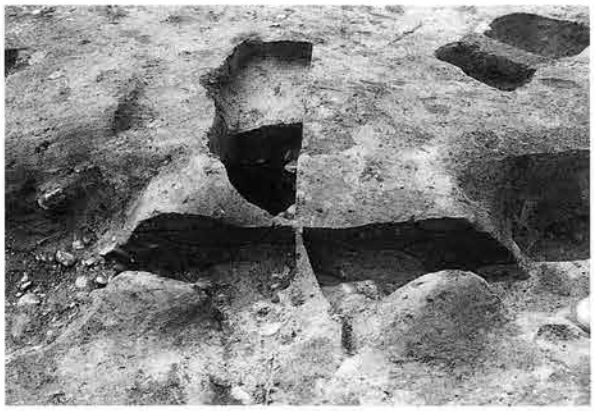
写真図版50　RA137竪穴住居跡（2）



全景（東から）



断面（西から）

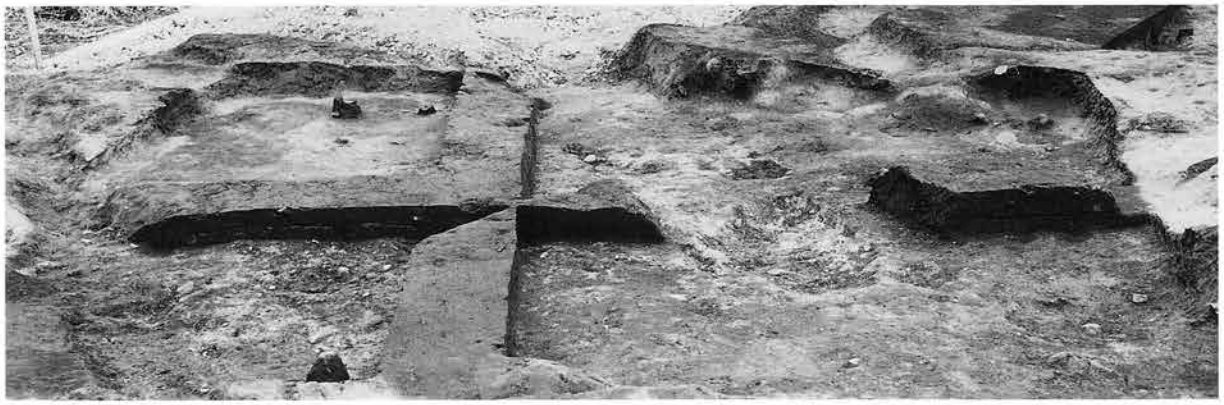


カマド袖断面（東から）

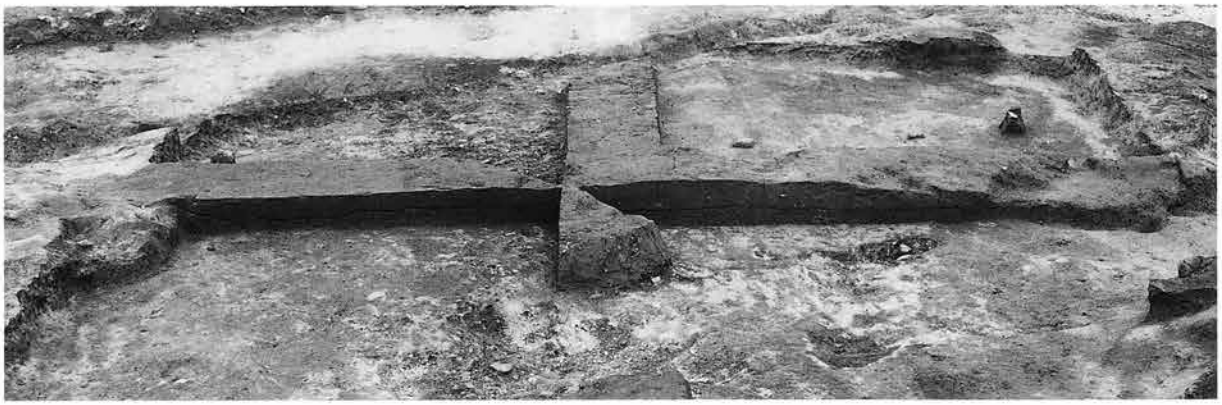
カマド長断面（南から）

写真図版51　RA138竪穴住居跡

全景（西から）



断面（西から）



断面（南から）

写真図版52　RA139竪穴住居跡（1）

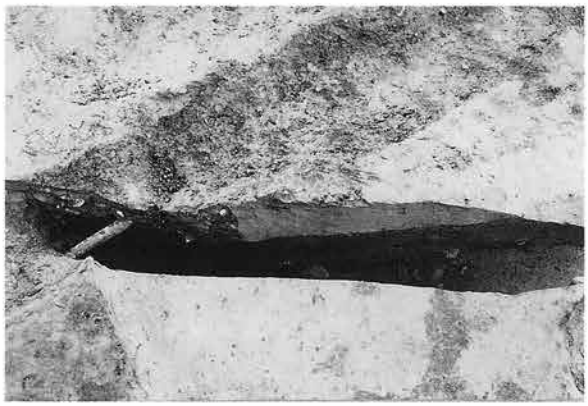
1号・3号カマド

3号カマド煙道断面（南から）

1号カマド断面（南から）

1号カマド煙道断面（南から）

4号カマド



4号カマド煙道断面（南から）

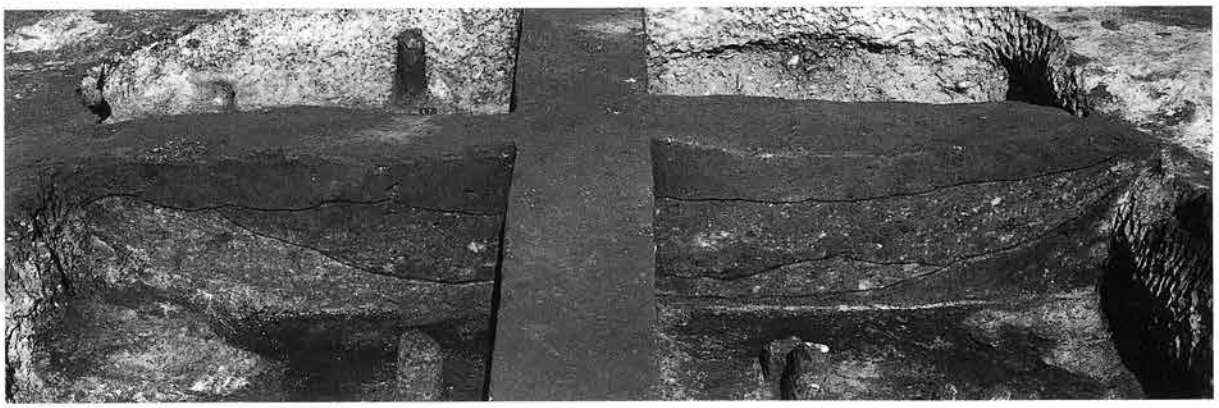
西壁ステップ状施設断面

2号カマド

写真図版53　RA139竪穴住居跡（2）

全景（東から）

断面（東から）



断面（南から）

写真図版54　RA140竪穴住居跡（1）

1号カマド

1号カマド断面（東から）

1号カマド煙道断面

1号カマド断面（南から）

土坑3遺物出土状況

1号カマド燃焼部断面

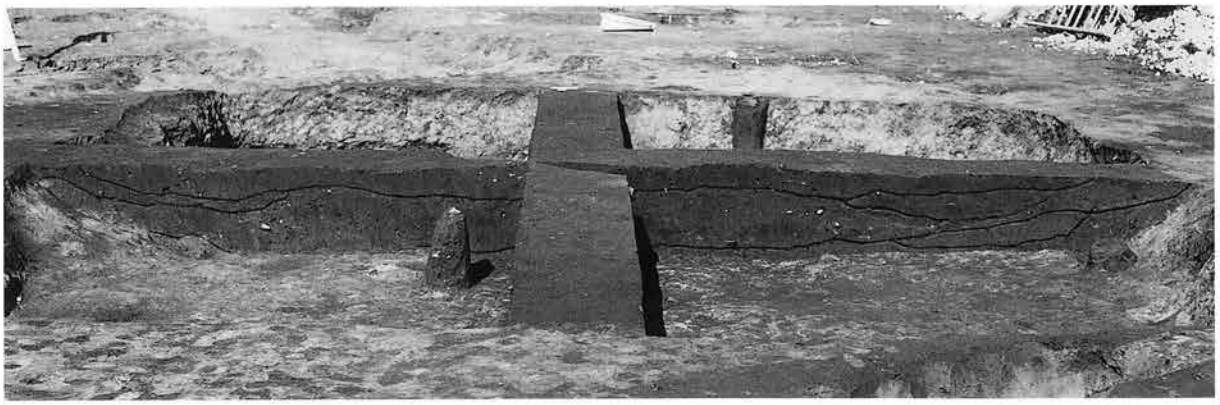
2号カマド

2号カマド煙道断面

写真図版55　RA140竪穴住居跡（2）

全景（東から）

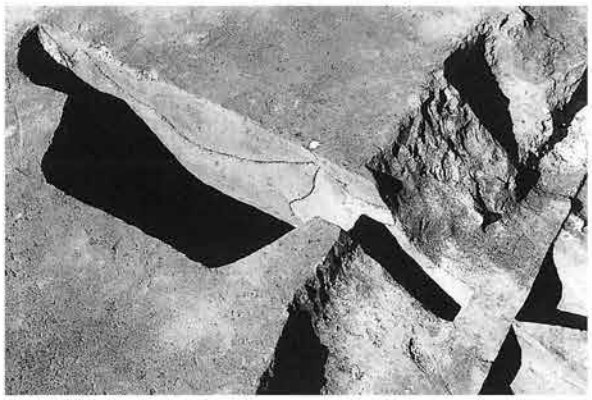
断面（西から）



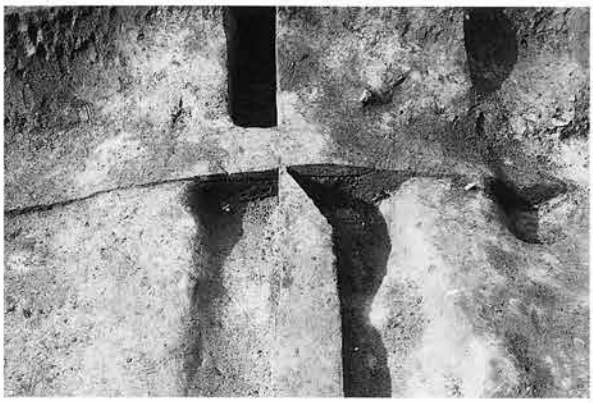
断面（南から）

写真図版56　RA141竪穴住居跡（1）

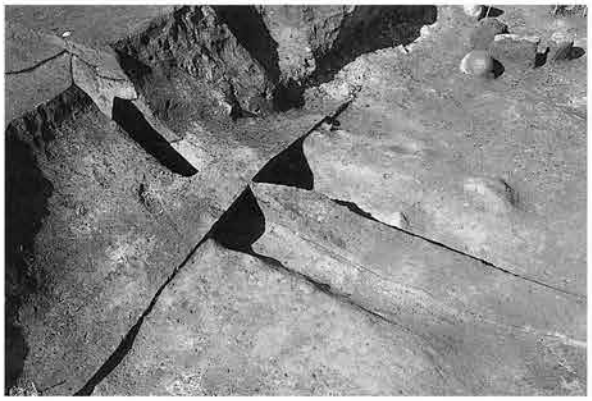
1号カマド



1号カマド煙道断面



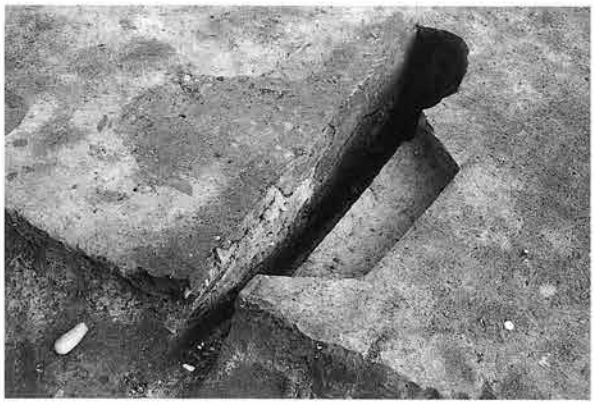
1号カマド断面（東から）



1号カマド断面（南から）

2号カマド

1号カマド焼土断ち割り（南から）

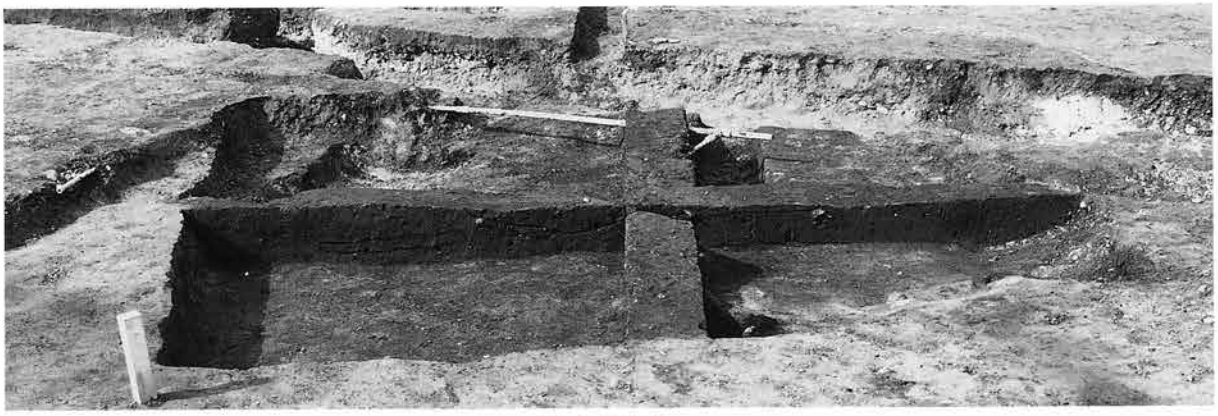


2号カマド煙道断面（南西から）

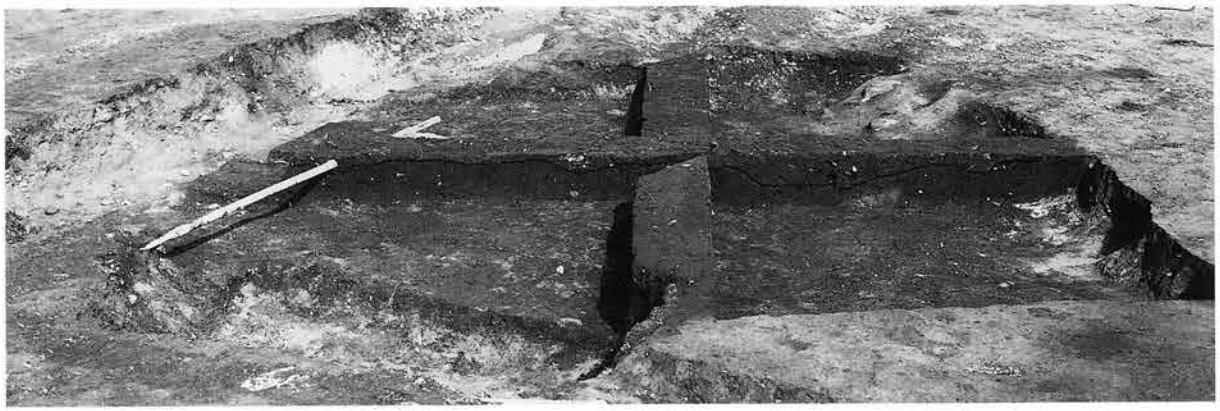
遺物出土状況（北西隅）

写真図版57　RA141竪穴住居跡（2）

全景（北西から）

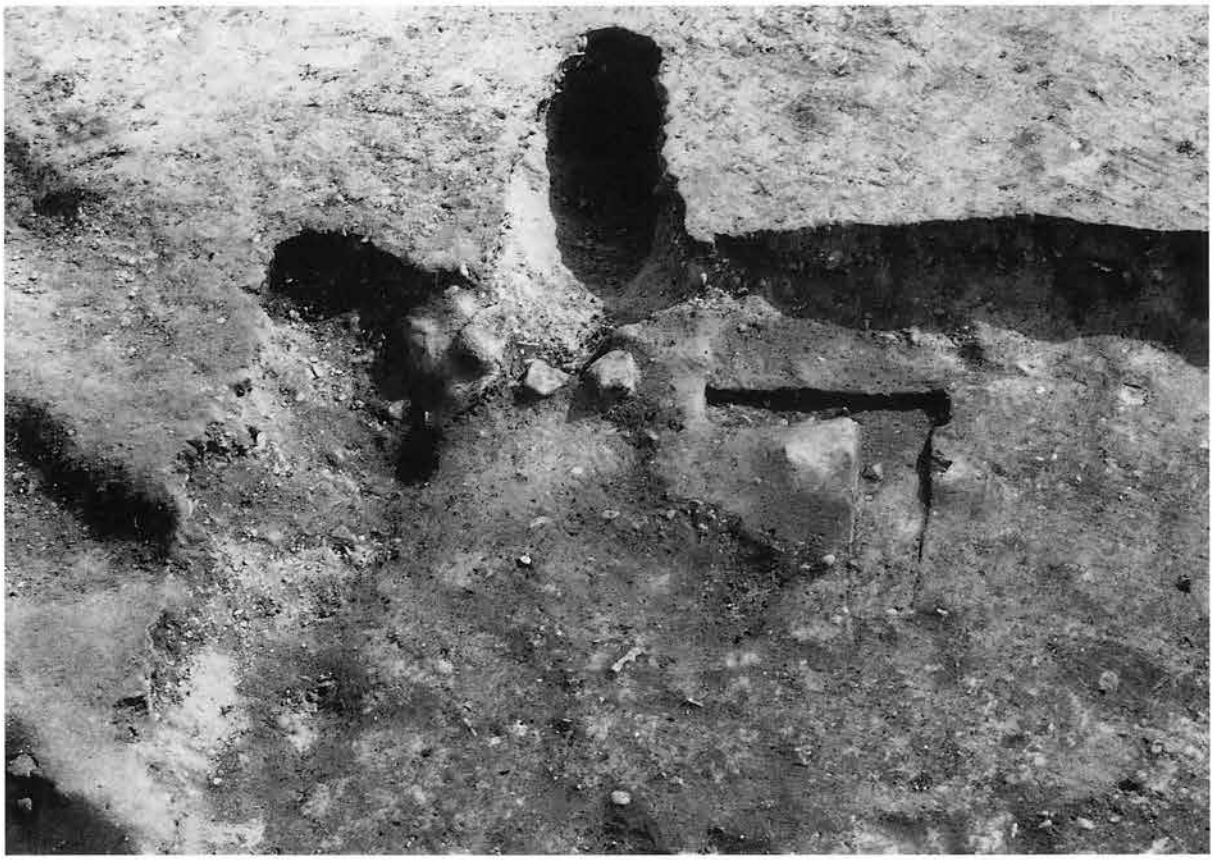


断面（南から）



断面（西から）

写真図版58　RA142竪穴住居跡（1）



1号カマド全景（西から）

1号カマド煙道部断面（南から）

1号カマド燃焼部断面（南から）

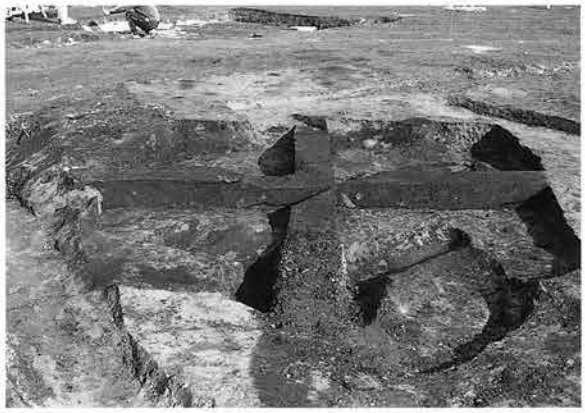
1号カマド袖断面（西から）

2号カマド煙出部断面（南から）

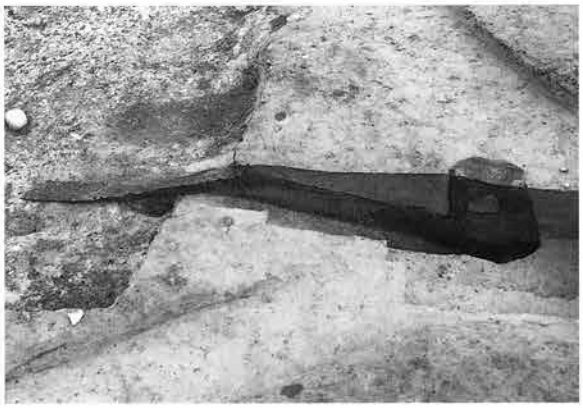
写真図版59　RA142竪穴住居跡（2）

全景（西から）

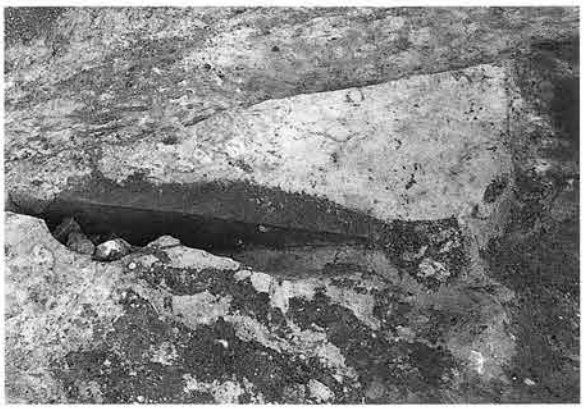
断面（南から）



断面（西から）



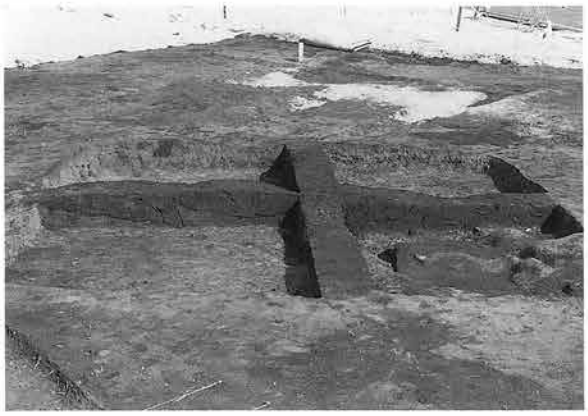
1号カマド長断面（南から）



2号カマド長断面（南から）

写真図版60　RA143竪穴住居跡

全景（西から）



断面（南から）

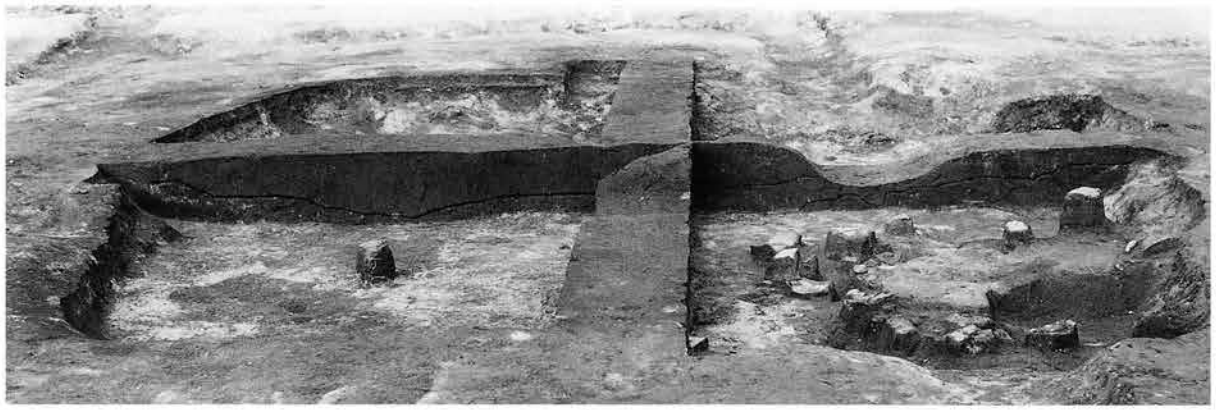
カマド全景（西から）

カマド長断面（南から）

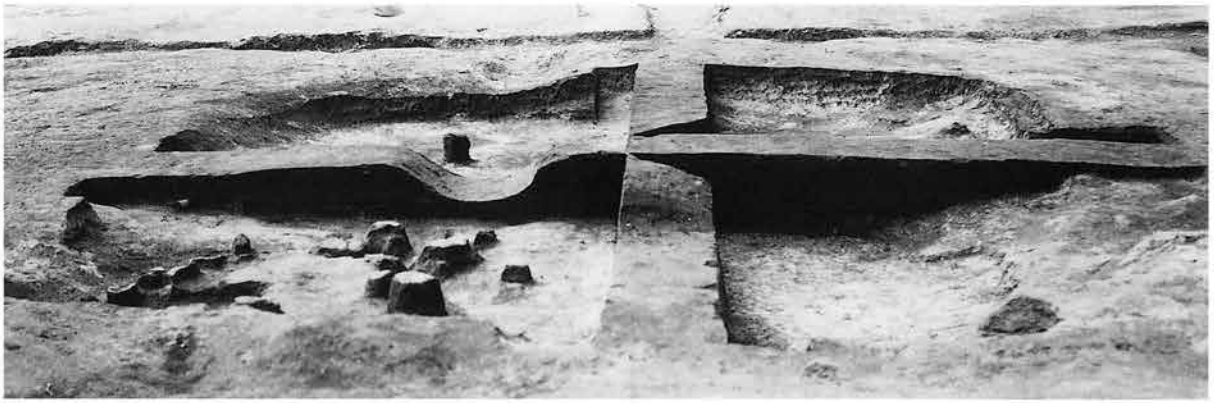
カマド袖断面（西から）

写真図版61　RA144竪穴住居跡

全景（北西から）



断面（南西から）

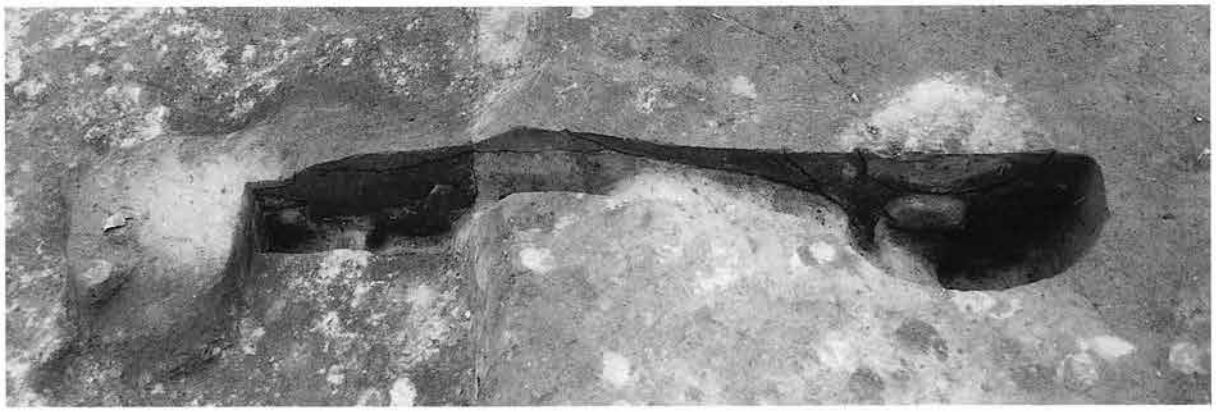


断面（南東から）

写真図版62　RA145竪穴住居跡（1）

遺物出土状況（北西から）

遺物出土状況（北から）



カマド煙道部断面（南西から）

東壁周辺整地層断面（南から）

整地層断面（南から）

カマド周辺貼床断面（北から）

掘り方全景（北から）

写真図版63　RA145竪穴住居跡（２）

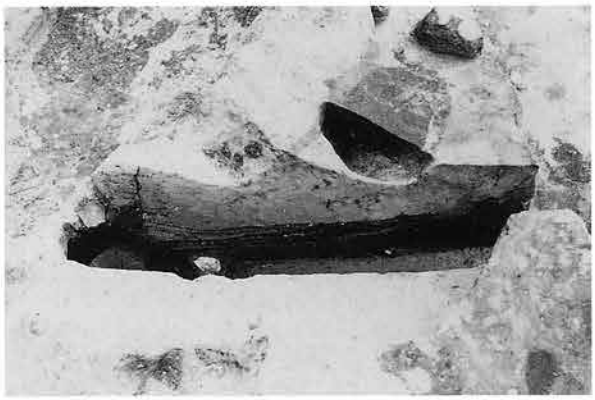
全景（南から）

埋土（南から）

埋土（西から）

写真図版64　RA146竪穴住居跡（1）

1号カマド



1号カマド煙道（西から）

2号カマド

2号カマド煙道（南から）

1号カマド土坑2遺物出土状況

土坑2断面

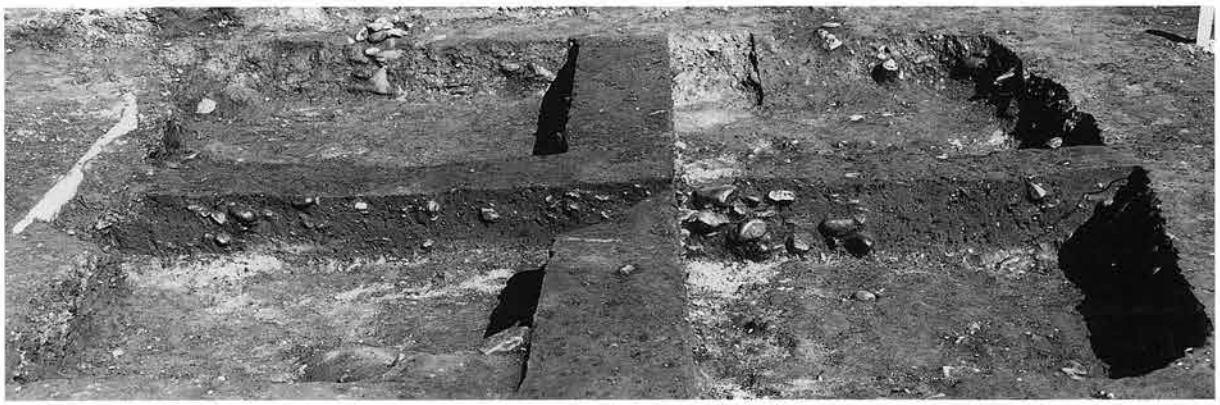
床面中央くぼみ検出状況

南壁ステップ検出状況

写真図版65　RA146竪穴住居跡（2）

全景（西から）

断面（南から）



断面（西から）

写真図版66　RA147竪穴住居跡（1）

1号カマド全景（東から）

1号カマド全景（完掘・東から）

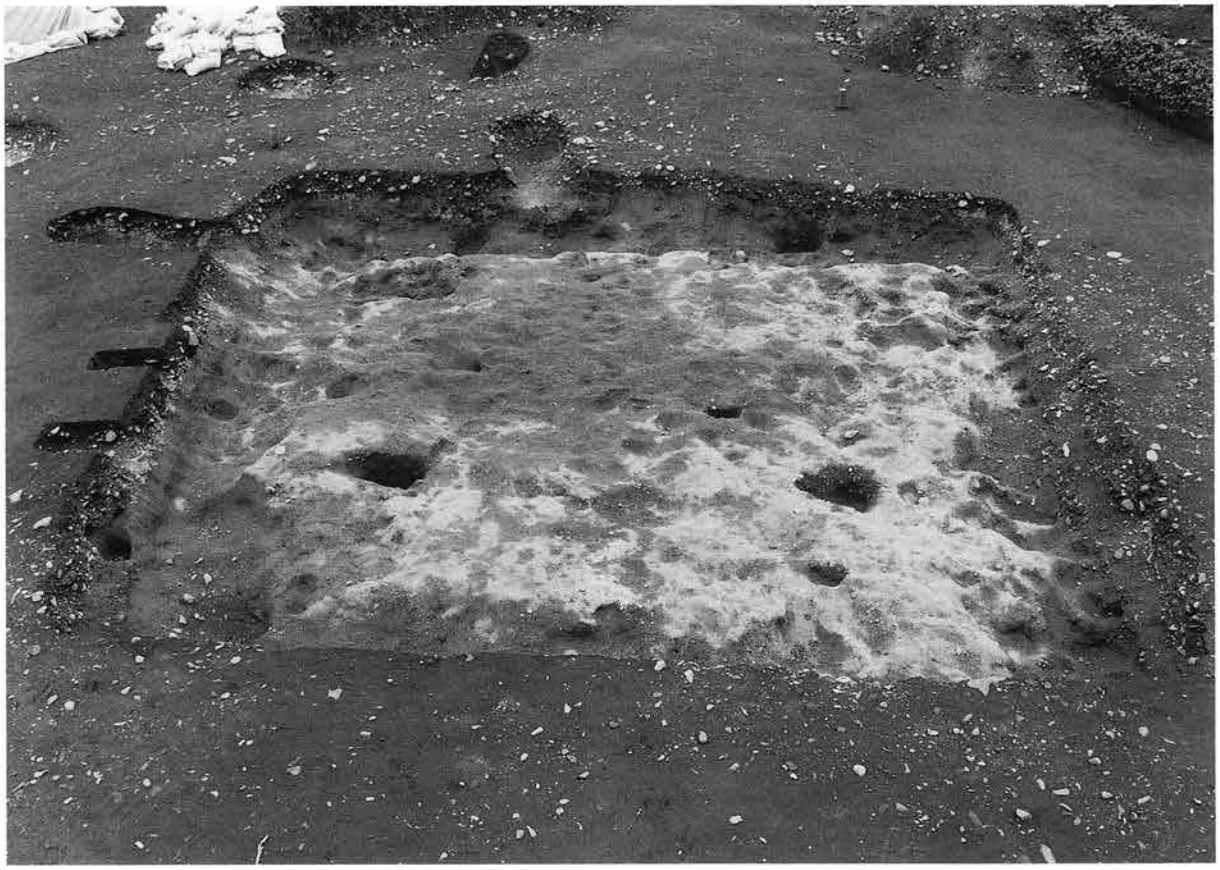
1号カマド長断面（南から）

1号カマド袖断面（東から）

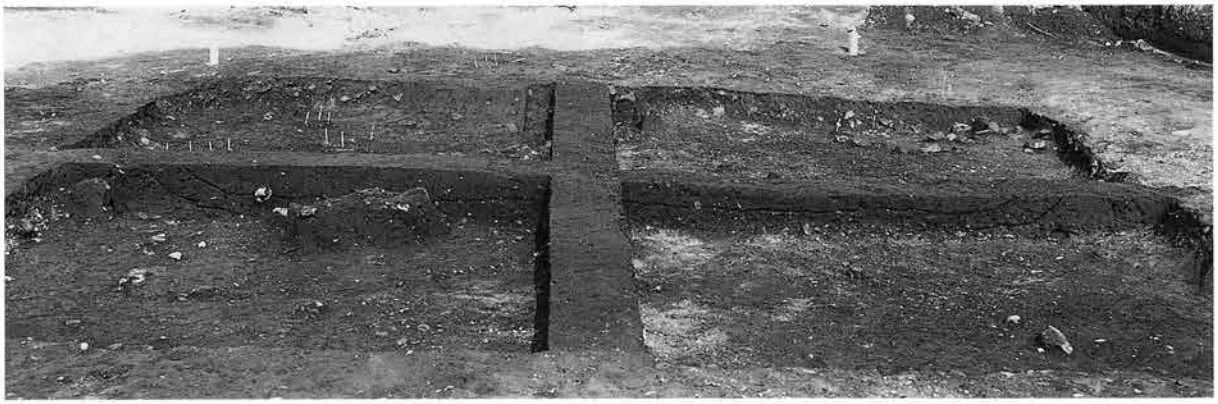
2号カマド煙道部断面（南から）

3号カマド煙道部断面（南から）

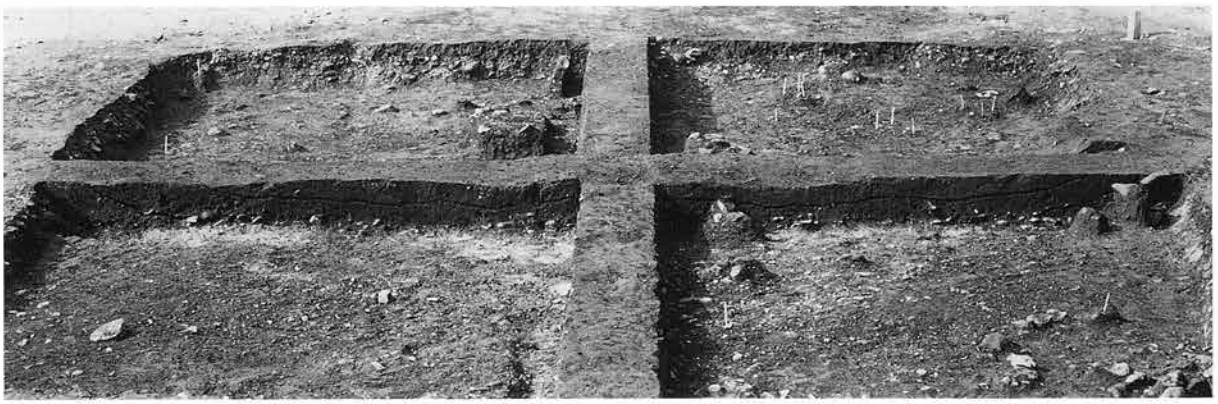
写真図版67　RA147竪穴住居跡（2）



掘り方全景（西から）



埋土断面（西から）



埋土断面（南から）

写真図版68　RA148竪穴住居跡（1）

1号カマド

1号カマド煙道断面（南から）

1号カマド断面（西から）

1号カマド断面（南から）

2号カマド

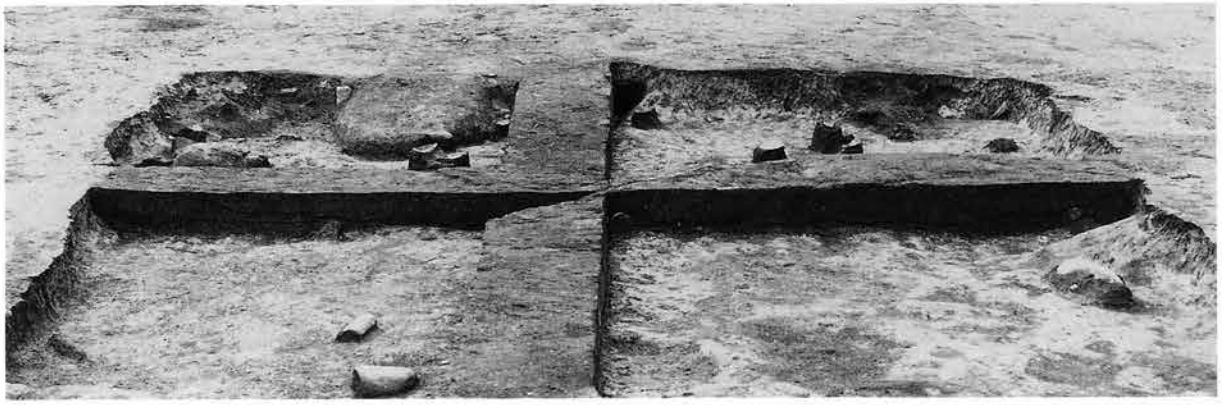
2号カマド煙道断面（西から）

遺物出土状況

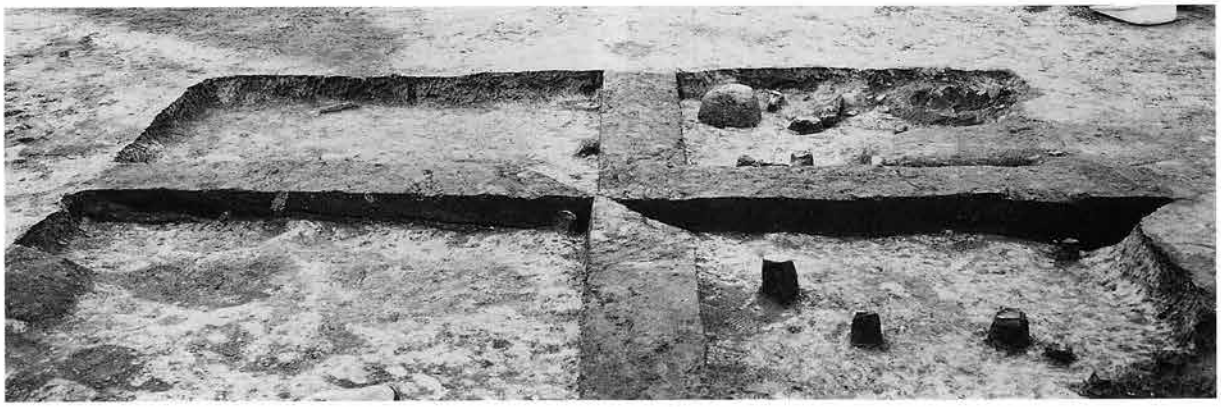
遺物出土状況（北東隅）

写真図版69　RA148竪穴住居跡（2）

全景（西から）



断面（西から）



断面（南から）

写真図版70　RA149竪穴住居跡（1）

カマド

カマド断面（南から）

遺物出土状況

遺物出土状況

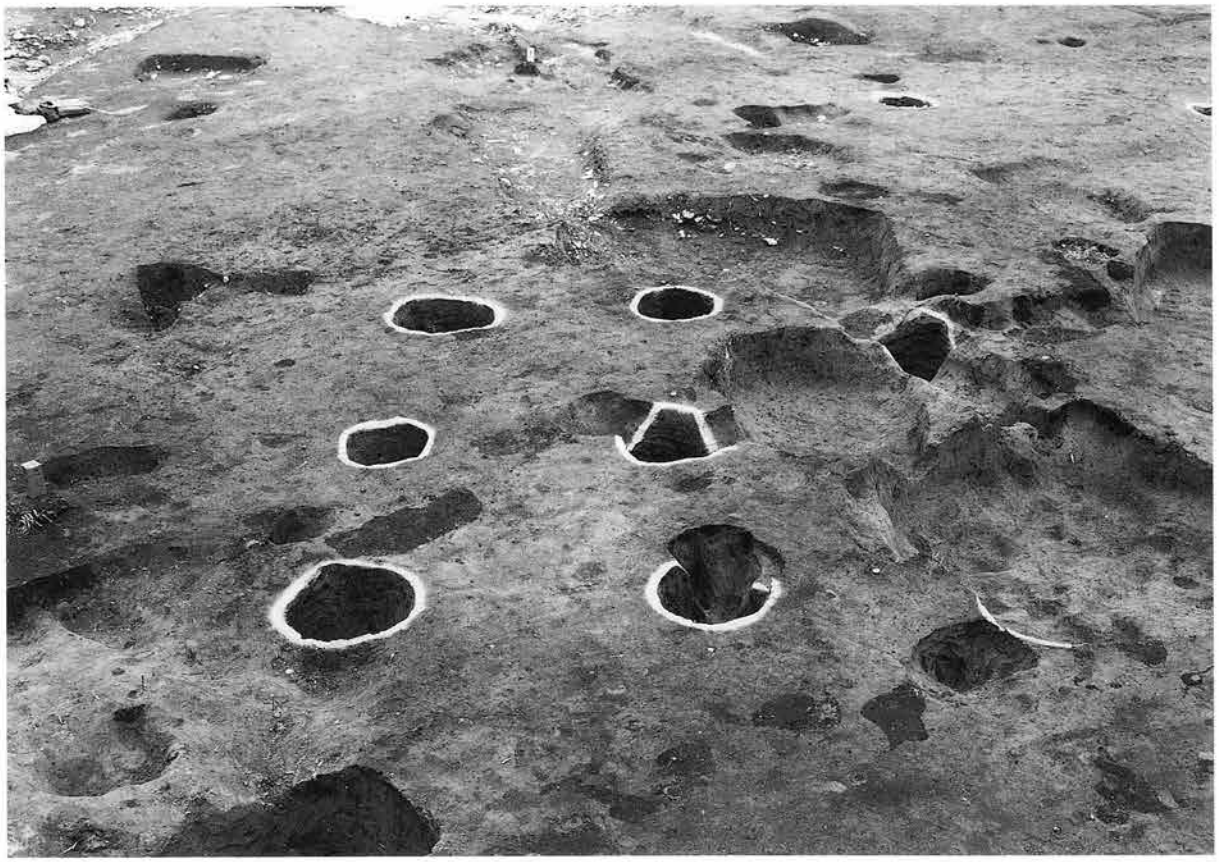
カマド周辺遺物出土状況

土坑 1 断面（南から）

土坑 2 遺物出土状況

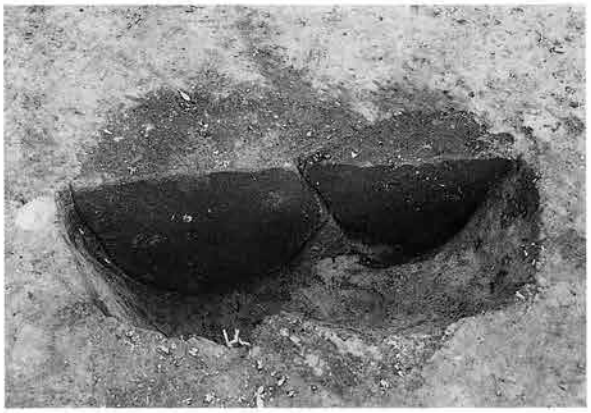
土坑 2 断面（南から）

写真図版71　RA149竪穴住居跡（2）



全景（西から）

柱穴３断面（南から）

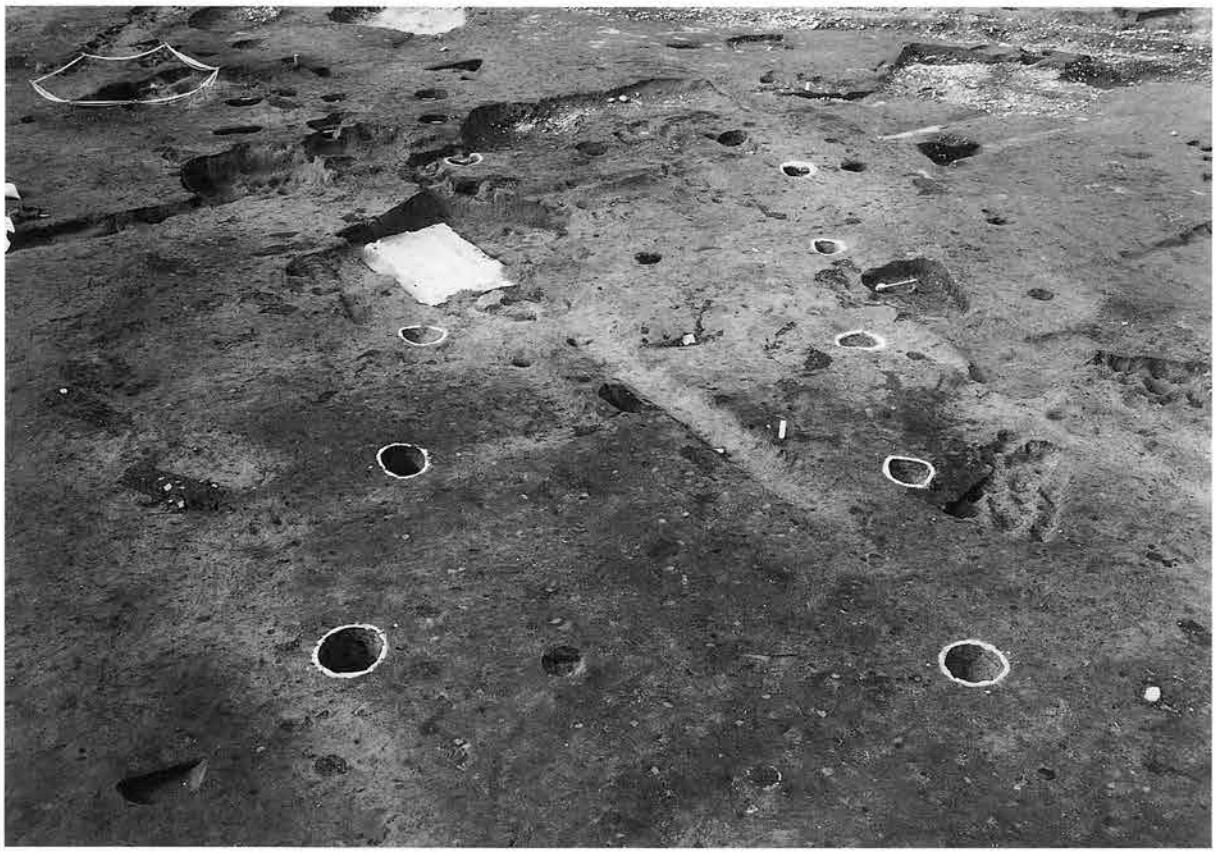


柱穴４断面（南から）

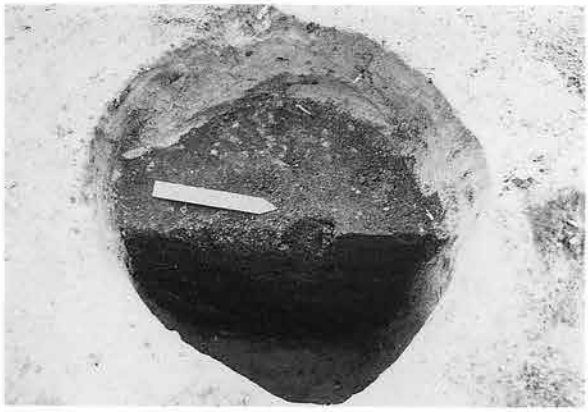
柱穴５断面（南から）

柱穴６断面（南から）

写真図版72　RB018掘立柱建物跡



全景（南から）



柱穴 1 断面（北から）

柱穴 2 断面（北から）

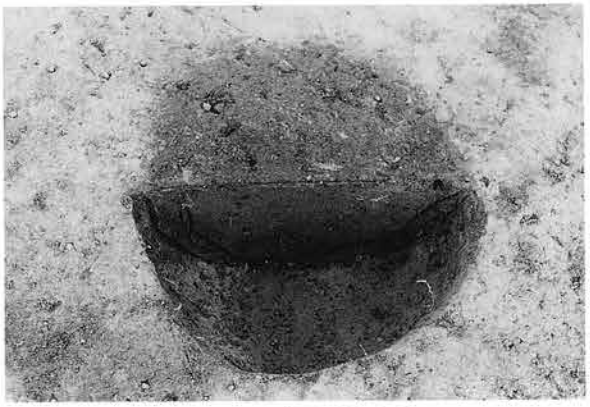
柱穴 7 断面（南東から）

柱穴 8 断面（南東から）

写真図版73　RB019掘立柱建物跡

RC002柱穴列

RC002PP 5 断面（南から）

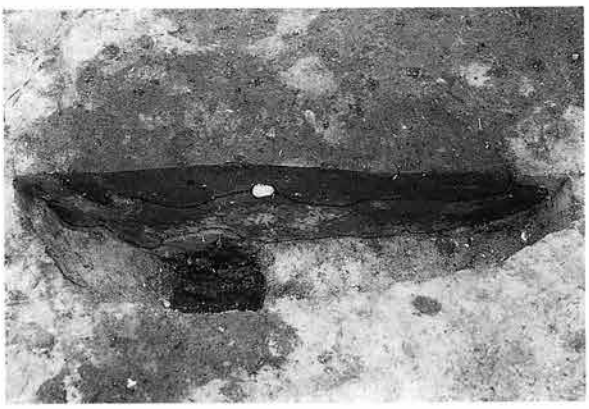


RC002PP 4 断面（南から）

RC002PP 2 断面（南から）

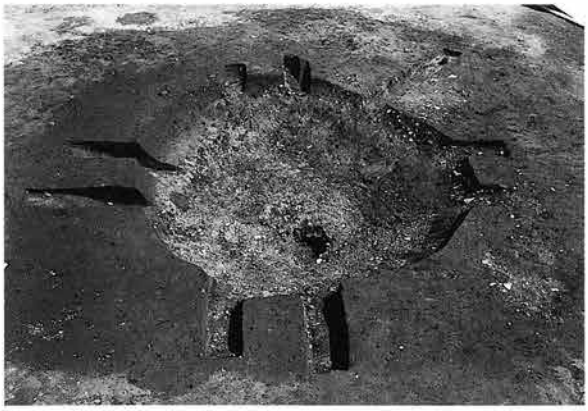
RC002PP 3 断面（南から）

RD272

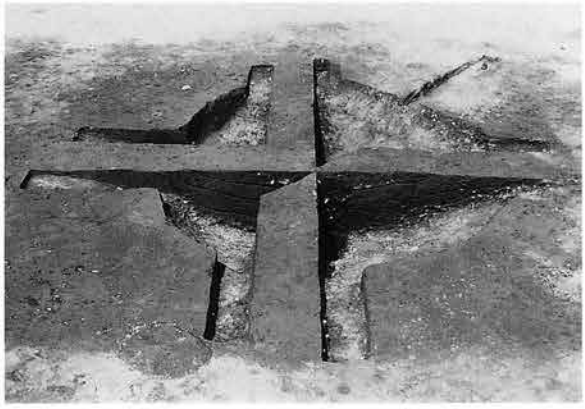


RD272断面

写真図版74　RC002柱穴列・RD272土坑



RD273



RD273断面

RD274

RD274断面

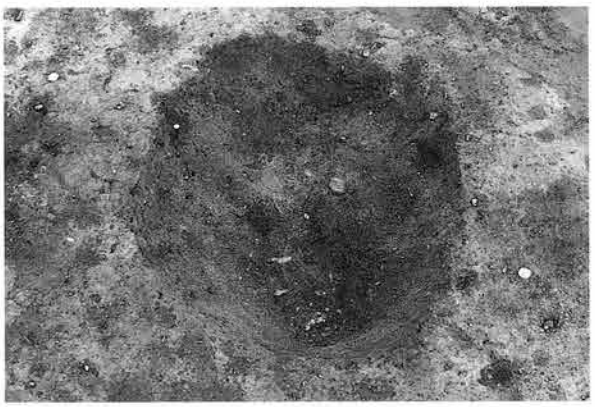
RD275

RD275断面

RD276（南から）

RD276断面（東から）

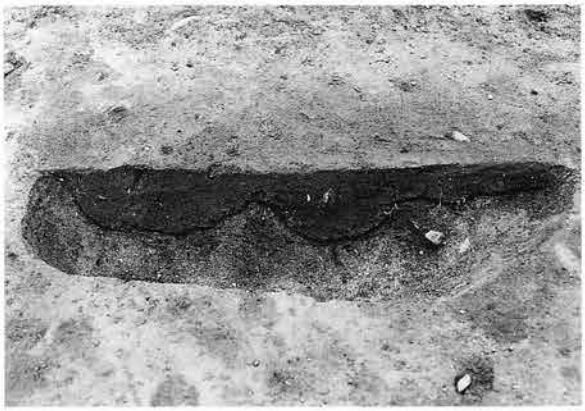
写真図版75　RD273～276土坑



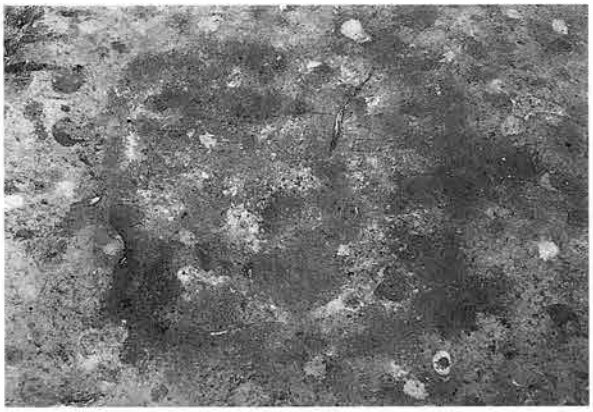
RD277

RD277断面

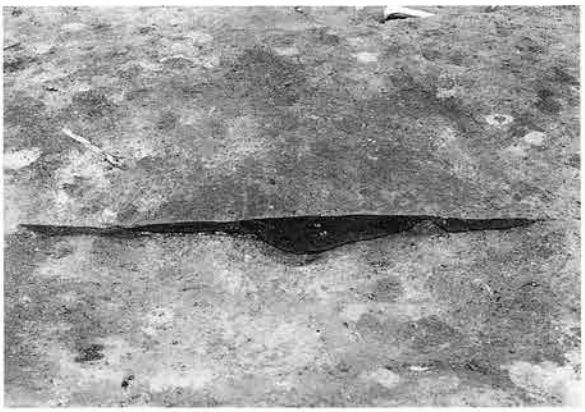
RD278



RD278断面

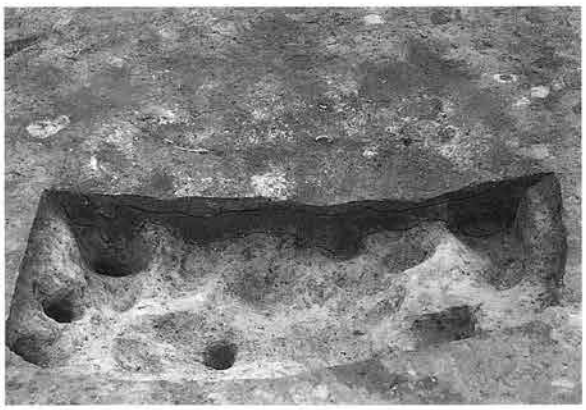


RD279焼成面



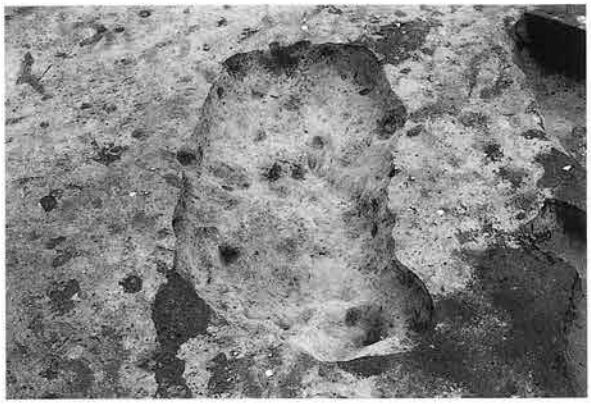
RD279埋土断面

RD279完掘

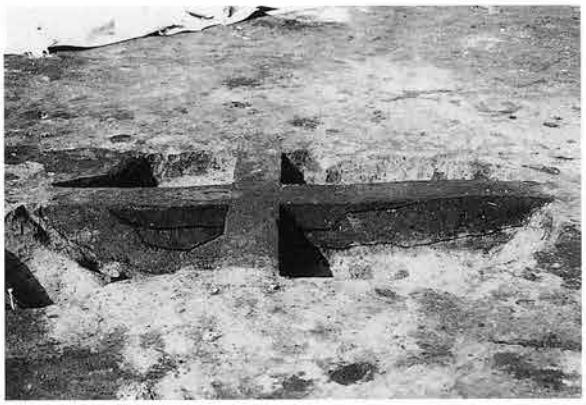


RD279断ち割り

写真図版76　RD277～279土坑



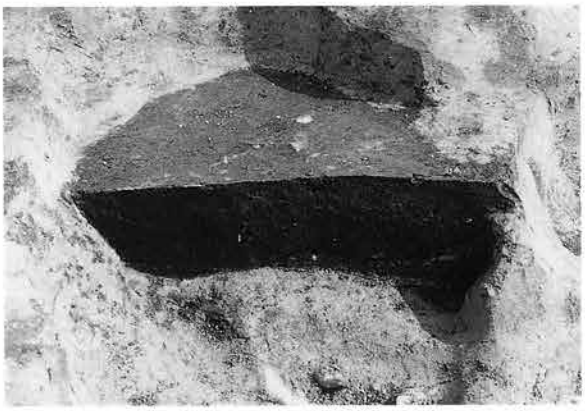
RD280



RD280断面

RD281・282（北西から）

RD281断面（北西から）



RD282断面（北西から）

RD283

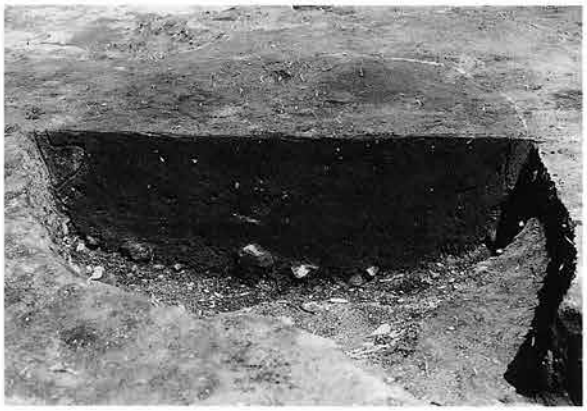
RD283断面

写真図版77　RD280～283土坑

RD284（西から）

RD284断面（北西から）

RD285（西から）



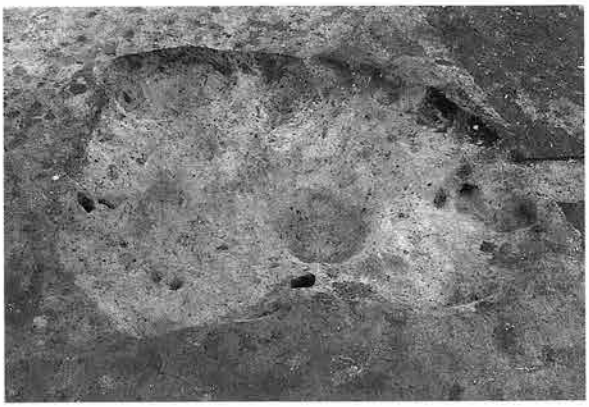
RD285断面（西から）

RD286（西から）

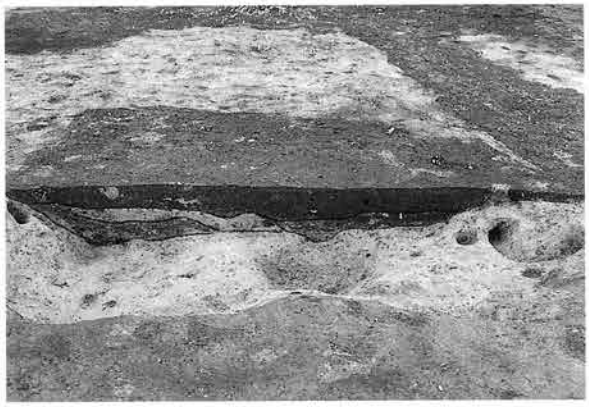
RD287（東から）

RD286・287断面（南から）

写真図版78　RD284～287土坑



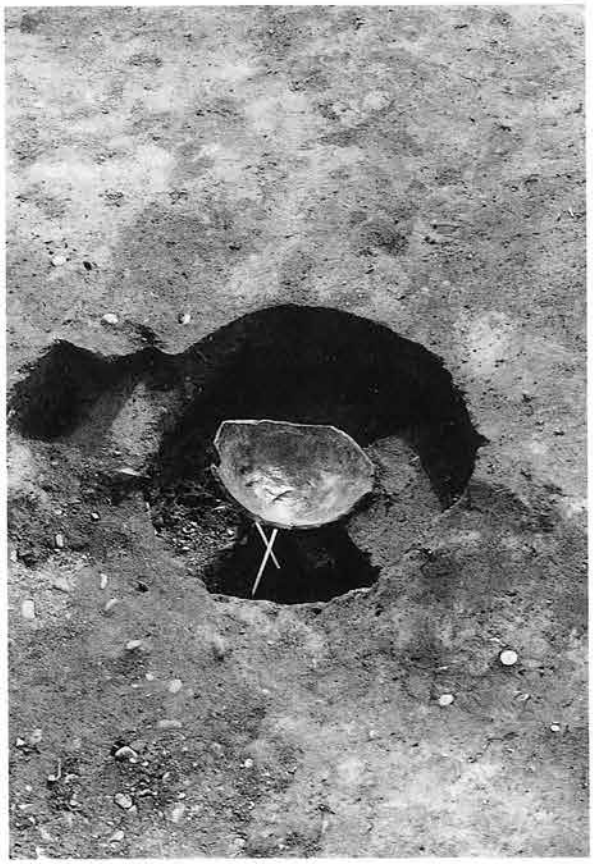
RD288



RD288断面

RD289・290（西から）

RD289・290断面（西から）



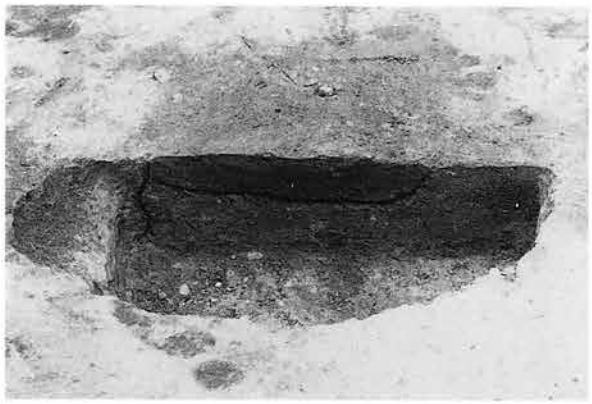
RD291須恵器出土状況（東から）

RD291断面（東から）

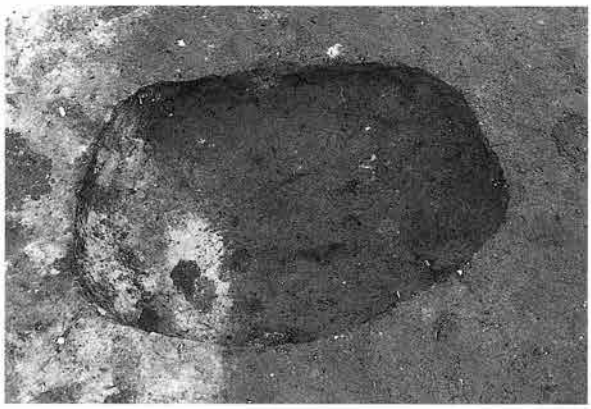
RD291（西から）

写真図版79　RD288～291土坑

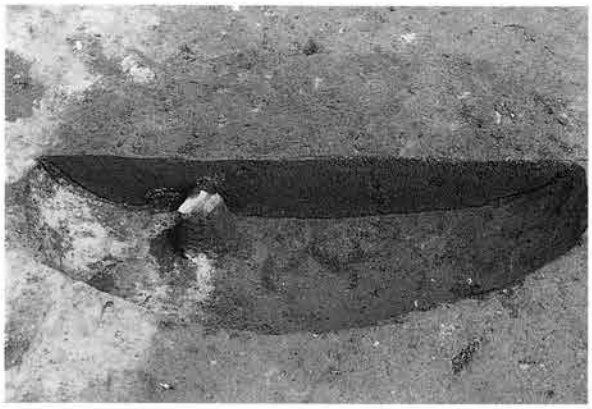
RD292



RD292断面

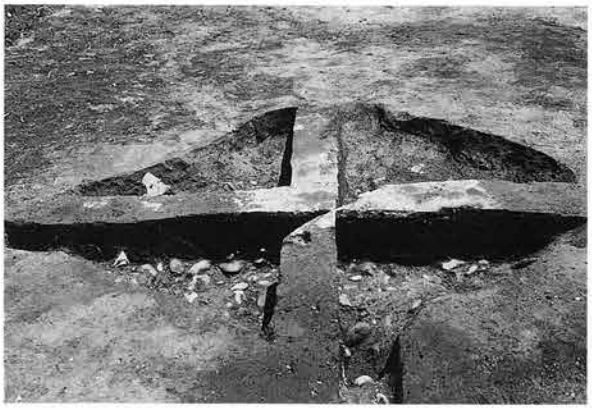


RD293



RD293断面

RD294（東から）



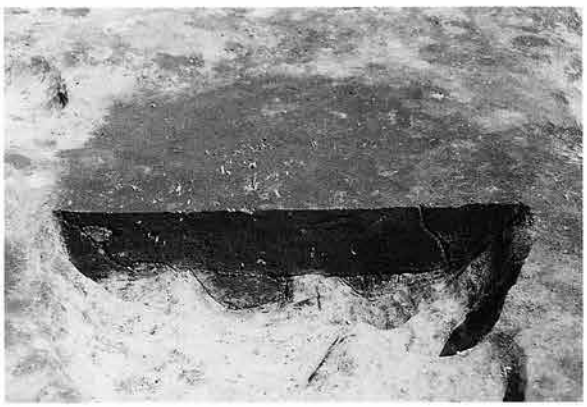
RD294断面（西から）

RD295（西から）

RD295断面（北西から）

写真図版80　RD292～295土坑

RD296（北西から）

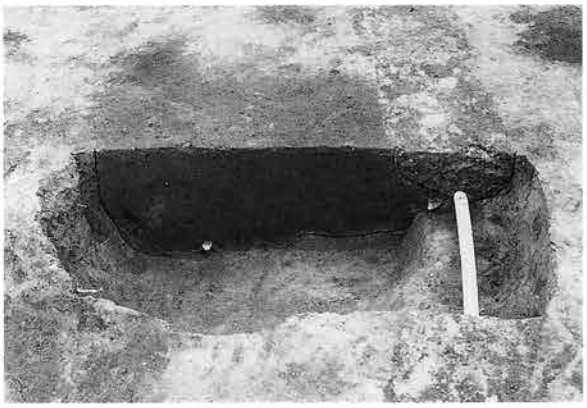


RD296断面（西から）

RD297

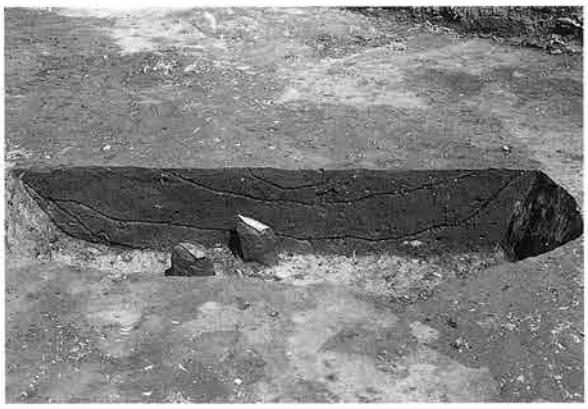
RD297断面

RD298（南から）



RD298断面（南から）

RD301



RD301断面

写真図版81　RD296～298・301土坑

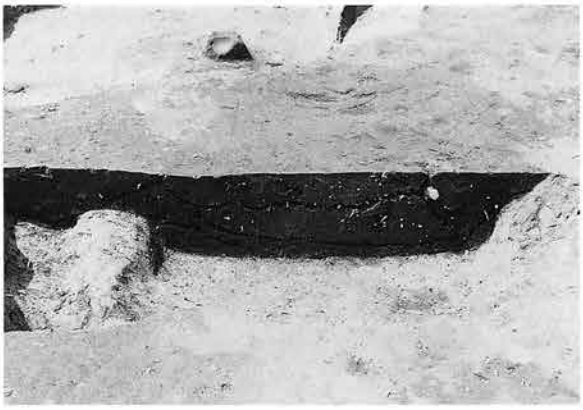
RD299

RD300・RD299断面

RD300

RD300断面

RD302



RD302断面

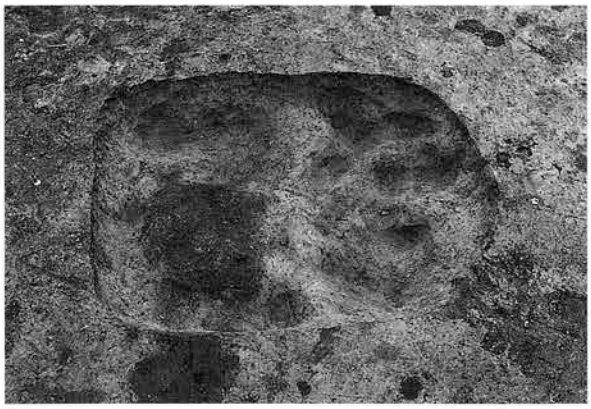
RD303

RD303断面

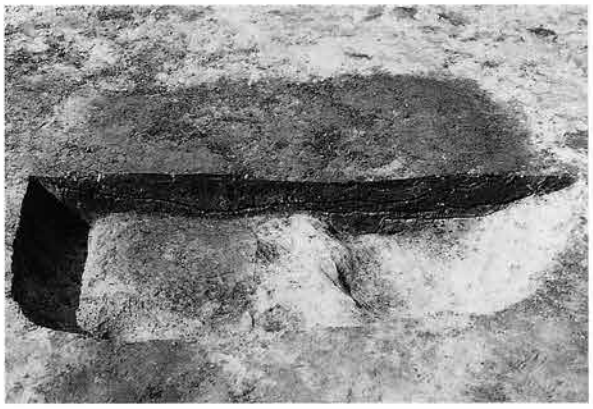
写真図版82　RD299・300・302・303土坑

RD304・305

RD304・305断面



RD306

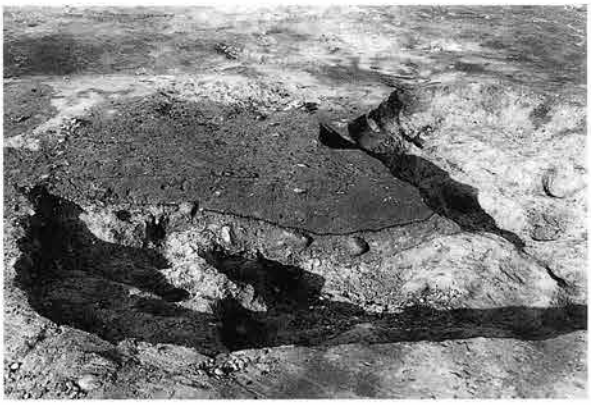


RD306断面

RD307

RD307断面

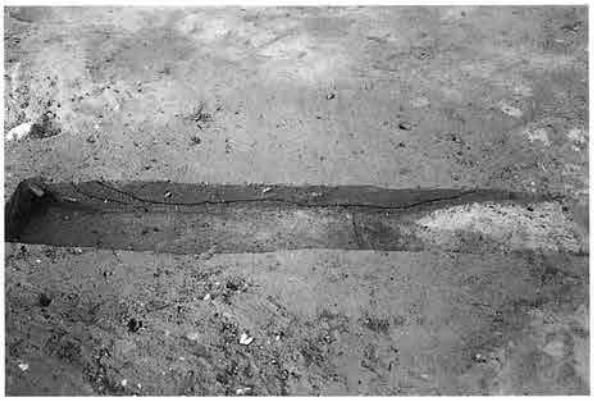
RD308



RD308断面

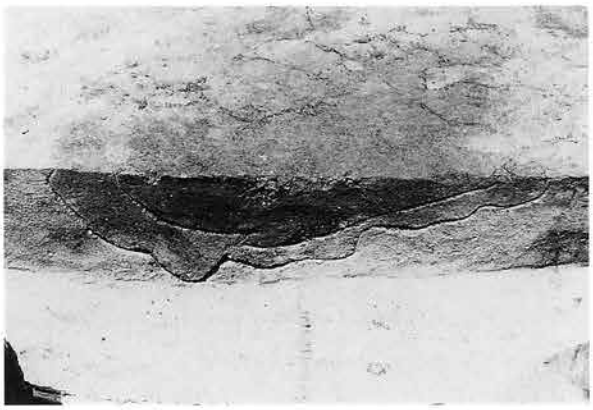
写真図版83　RD304～308土坑

RD309



RD309断面

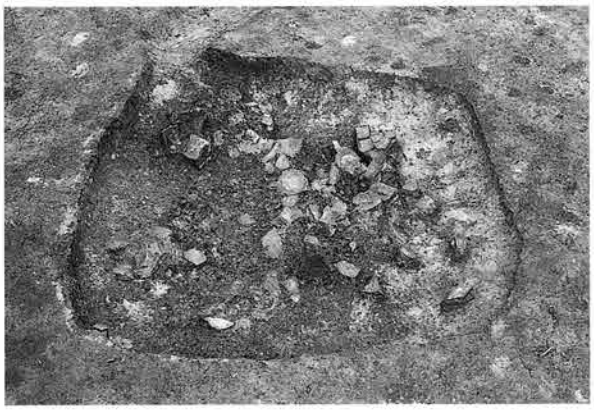
RD310



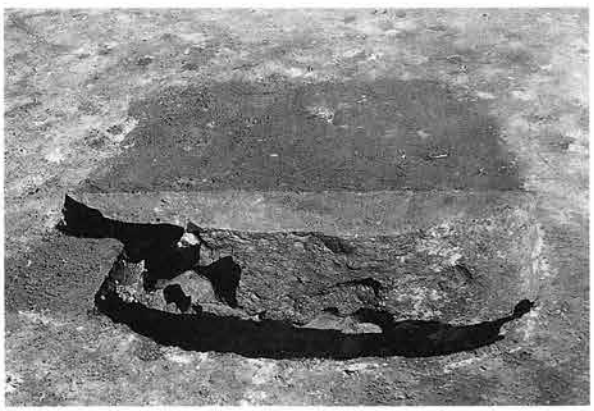
RD310断面

RD311

RD311断面



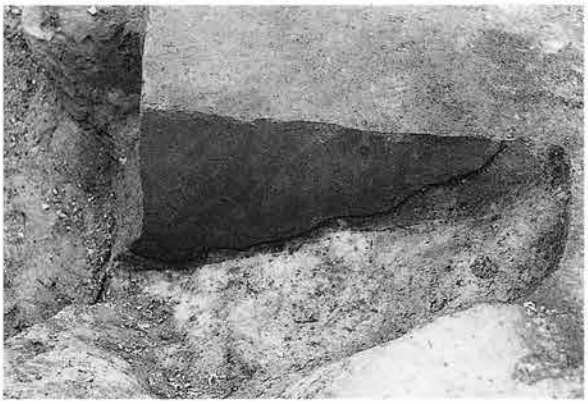
RD312



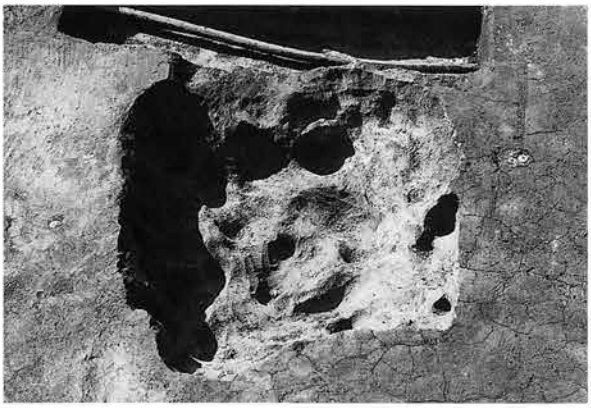
RD312断面

写真図版84　RD309～312土坑

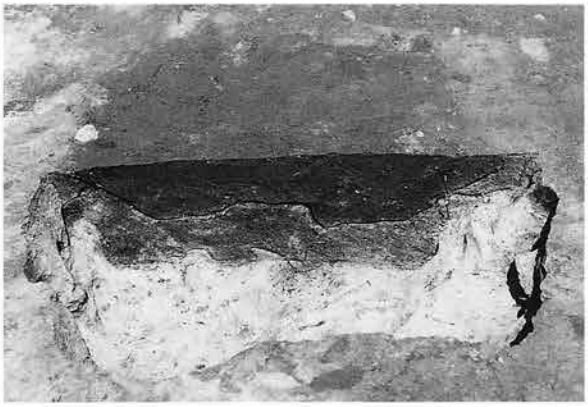
RD313



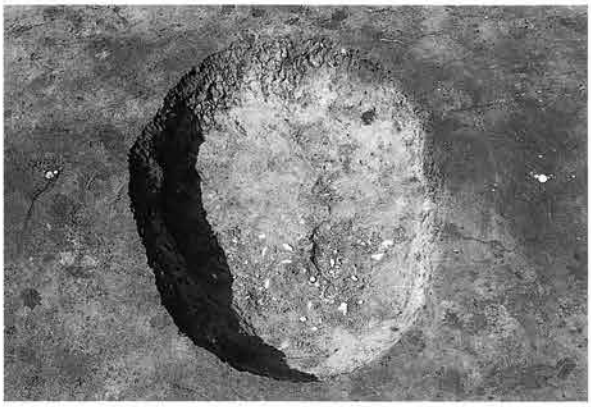
RD313断面



RD314



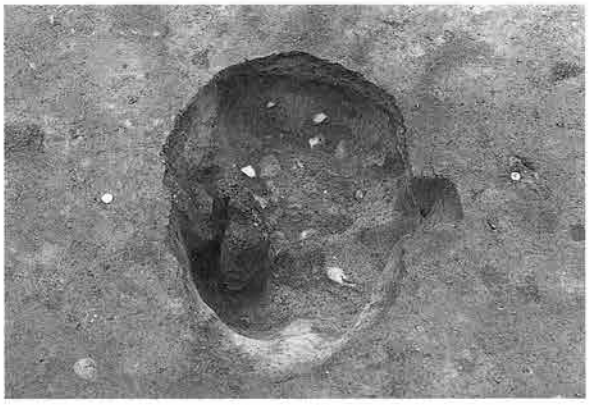
RD314断面



RD315

RD315断面

RD316

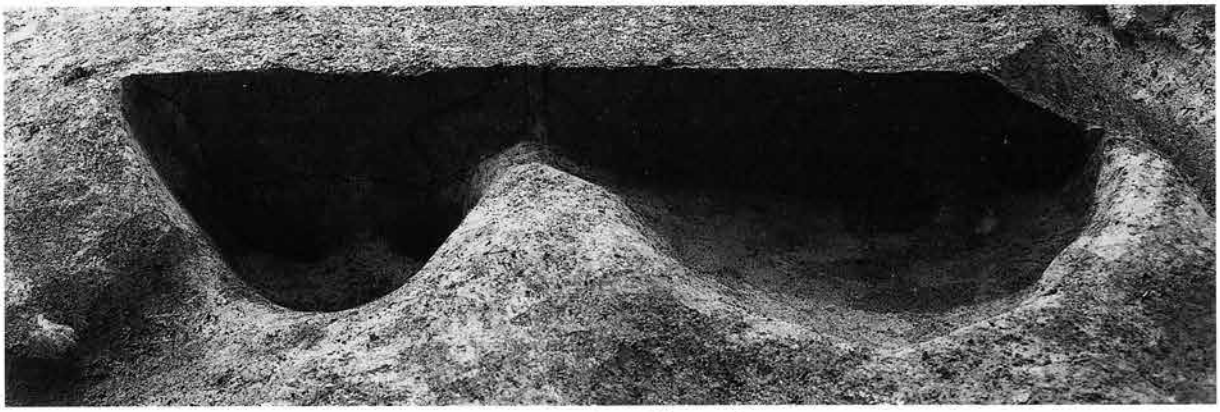


RD316断面

写真図版85　RD313～316土坑

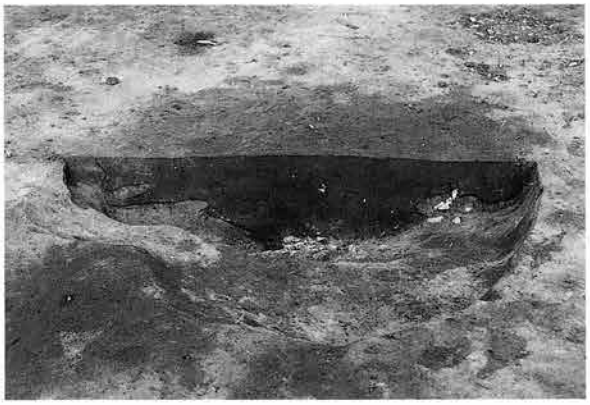
RD317・318（北東から）

RD317銅製品出土状況（南東から）



RD317・318断面（南西から）

RD319（南から）



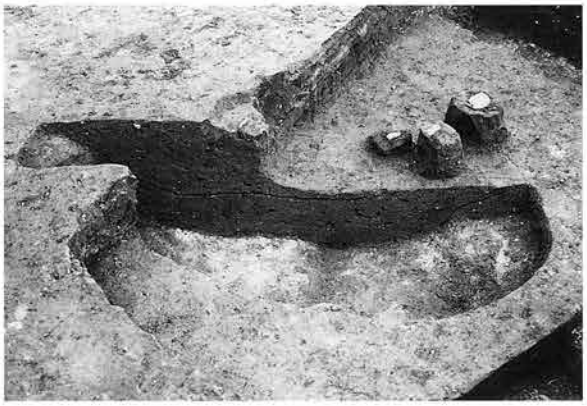
RD319断面（南から）

RD321

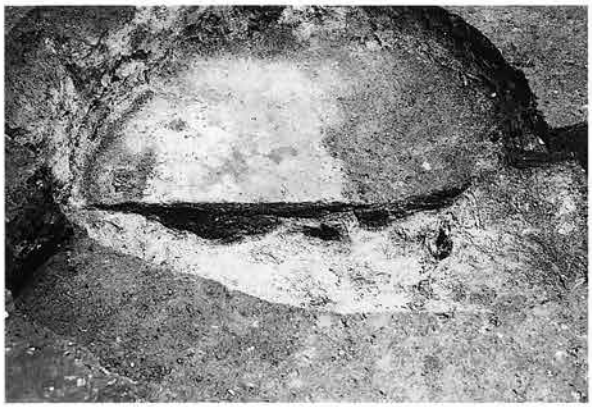
RD321断面

写真図版86　RD317～319・321土坑

RD320



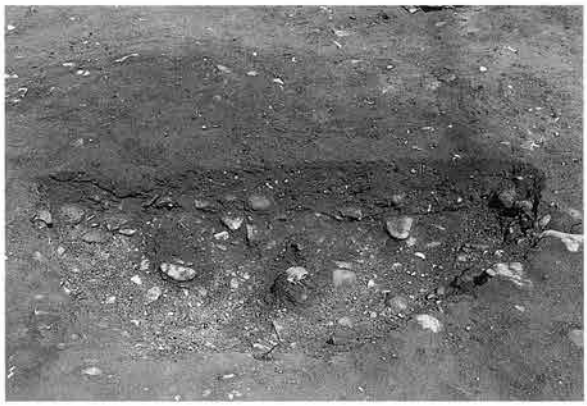
RD320



RD320

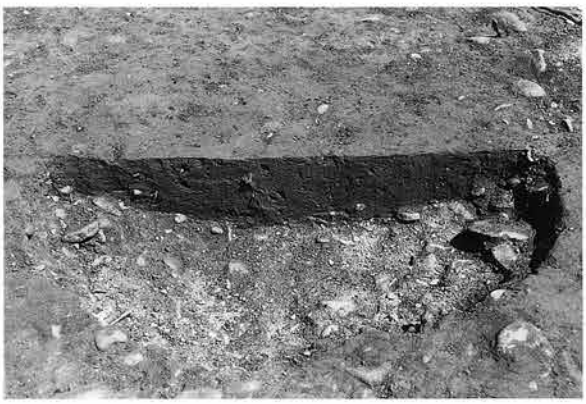
作業風景（南から）

RD322



RD322断面

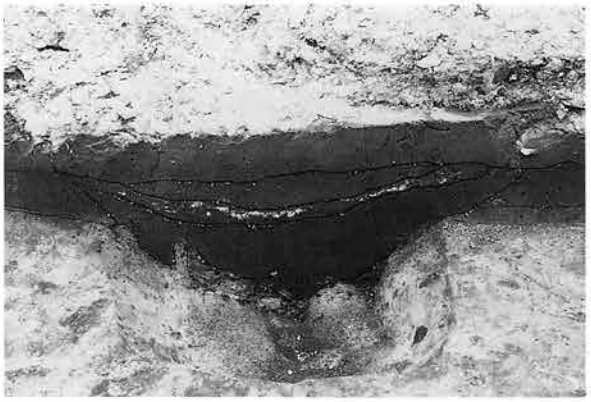
RD323



RD323断面

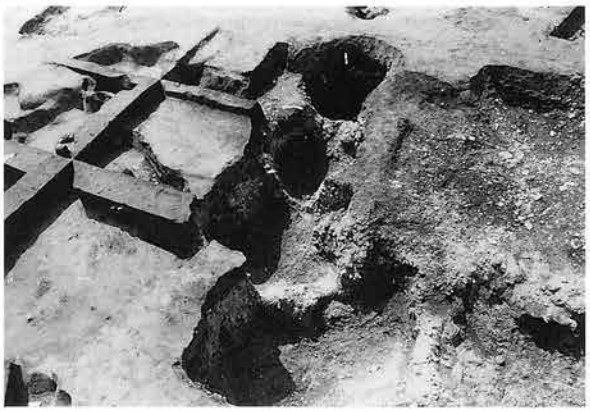
写真図版87　RD320・322・323土坑

RD324

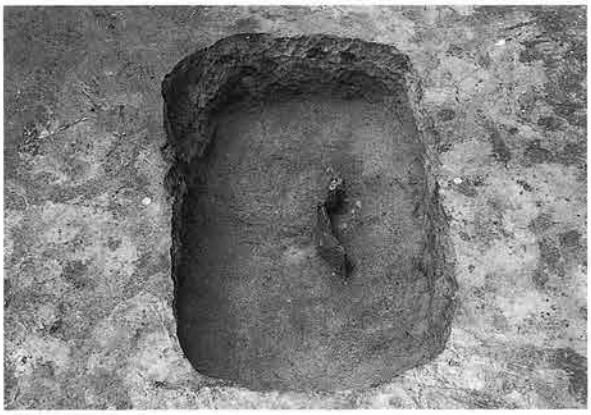


RD324断面

RD325～330（南から）



RD325～330（北西から）



RD332

RD332断面

RD332銭、キセル出土状況

RD332歯出土状況

写真図版88　RD324～330・332土坑

RD331（南西から）

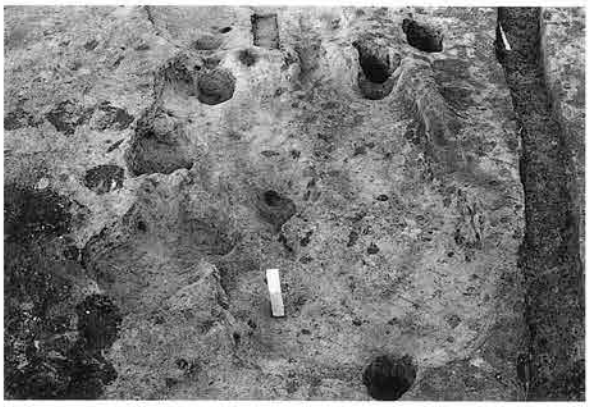
RD331（南西から）

RD333（西から）

RD333断面（南から）

RD334（南から）

RD334断面（南から）

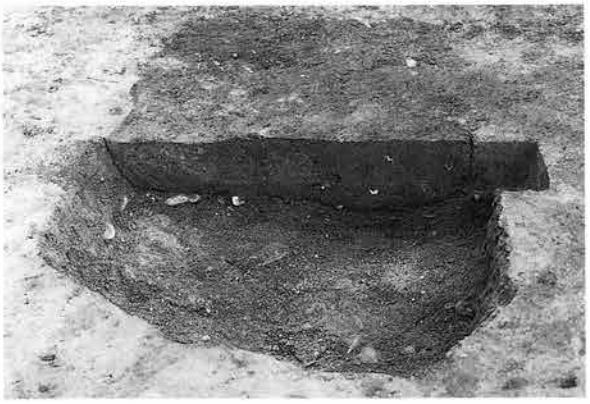


RD335（南から）

RD335断面（南西から）

写真図版89　RD331・333～335土坑

RD336（西から）



RD336断面（西から）

RD337（南から）

RD337断面（南から）

作業風景

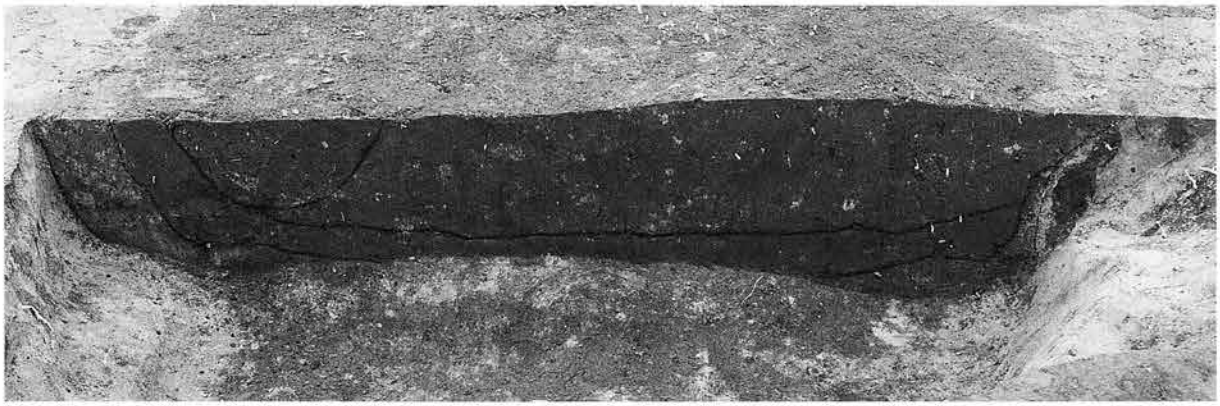
作業風景

RE010

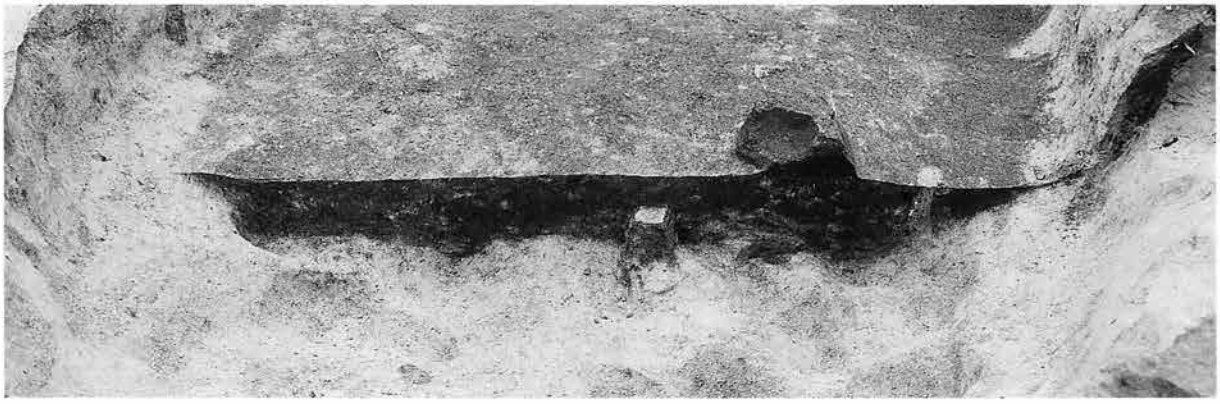
RE010断面

写真図版90　RD336・337土坑・RE010竪穴状遺構

全景（南東から）



埋土断面（北東から）

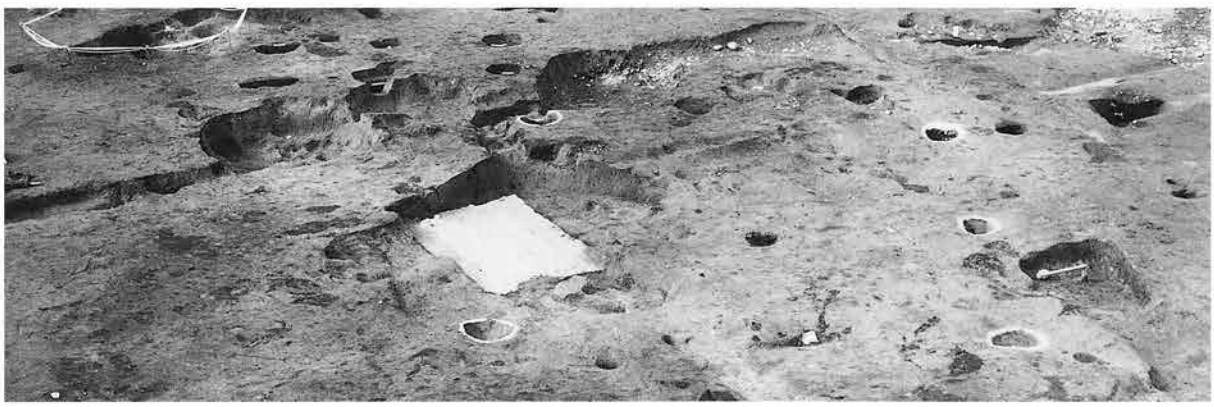


はり床断面（北東から）

写真図版91　RE007竪穴状遺構

全景（南から）

断面（南から）



遠景（南から）

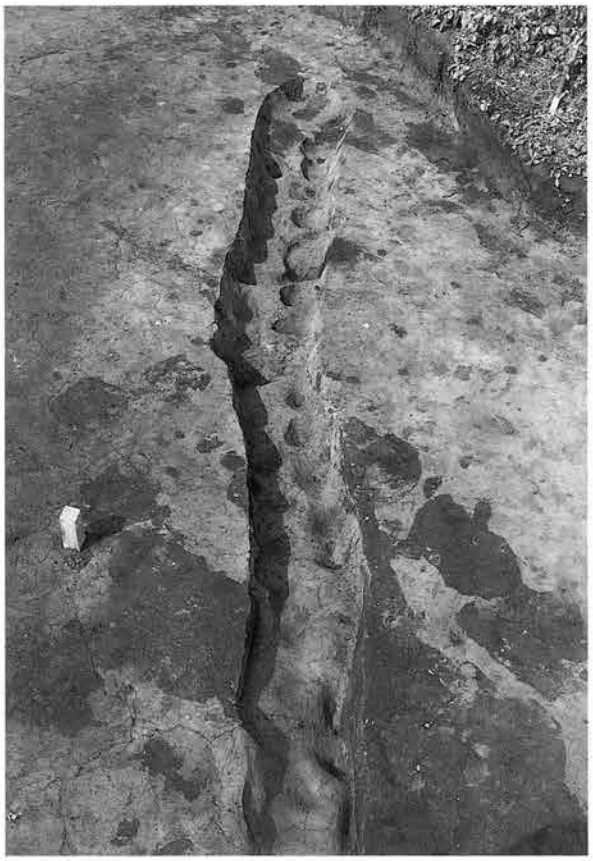
写真図版92　RE008竪穴状遺構

全景（南から）

埋土断面（南から）

はり床断面（南から）

写真図版93　RE009竪穴状遺構

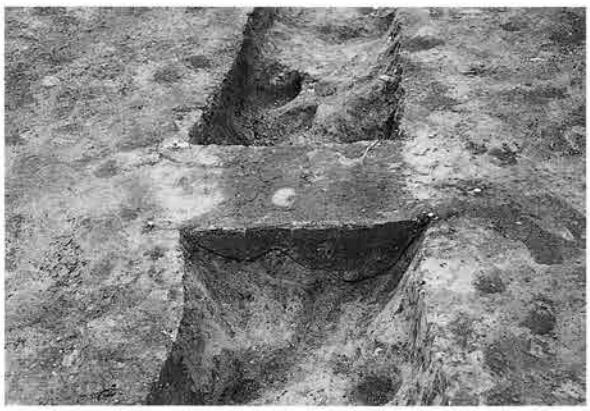


RG022

RG022断面

RG058断面（東から）

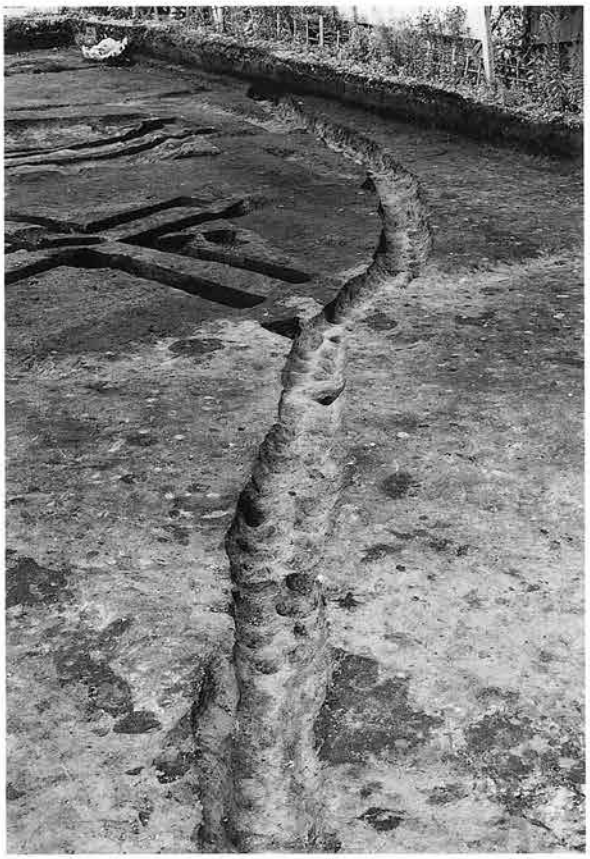
RG058断面（東から）



RG058断面（東から）

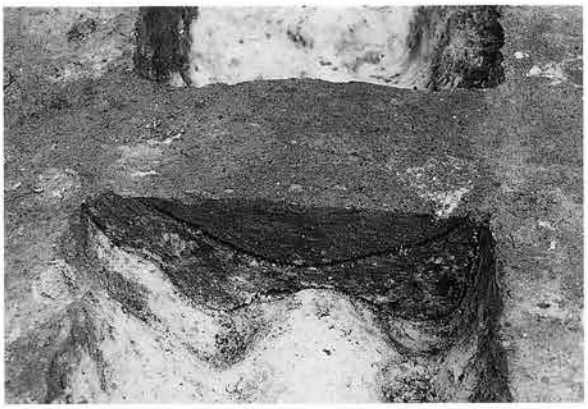
RG058断面（南から）

写真図版94　RG022・058溝跡



RG027北側

RG027断面



RG027断面

RG027南側

RG027断面

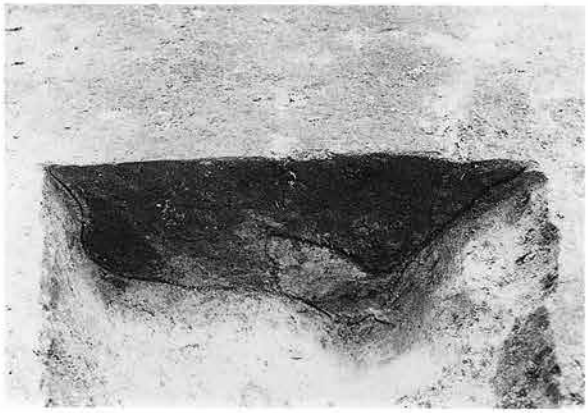
RG027断面

写真図版95　RG027溝跡

RG059

RG059断面

RG059



RG059断面

RG060（西から）

RG060断面（北西から）

RG060断面（北西から）

写真図版96　RG059・060溝跡

RG061

RG061断面

RG061断面

RG062

RG062断面

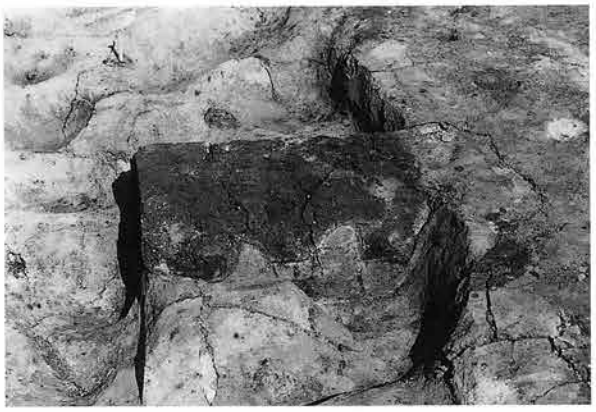
RG062断面

写真図版97　RG061・062溝跡

RG063

RG066

RG063断面



RG066断面

RG068

RG068断面

写真図版98　RG063・066・068溝跡

RG064

RG064断面

RG064断面

RG065

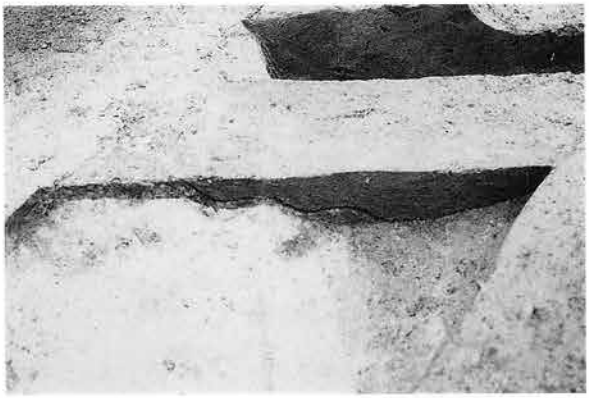
RG065断面

RG065断面

写真図版99　RG064・065溝跡

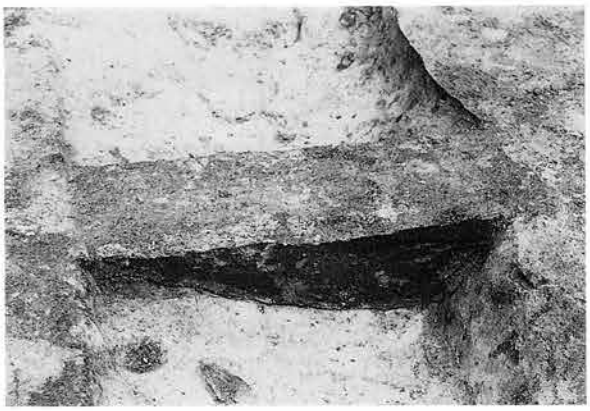
RG067

RG067断面



RG071断面

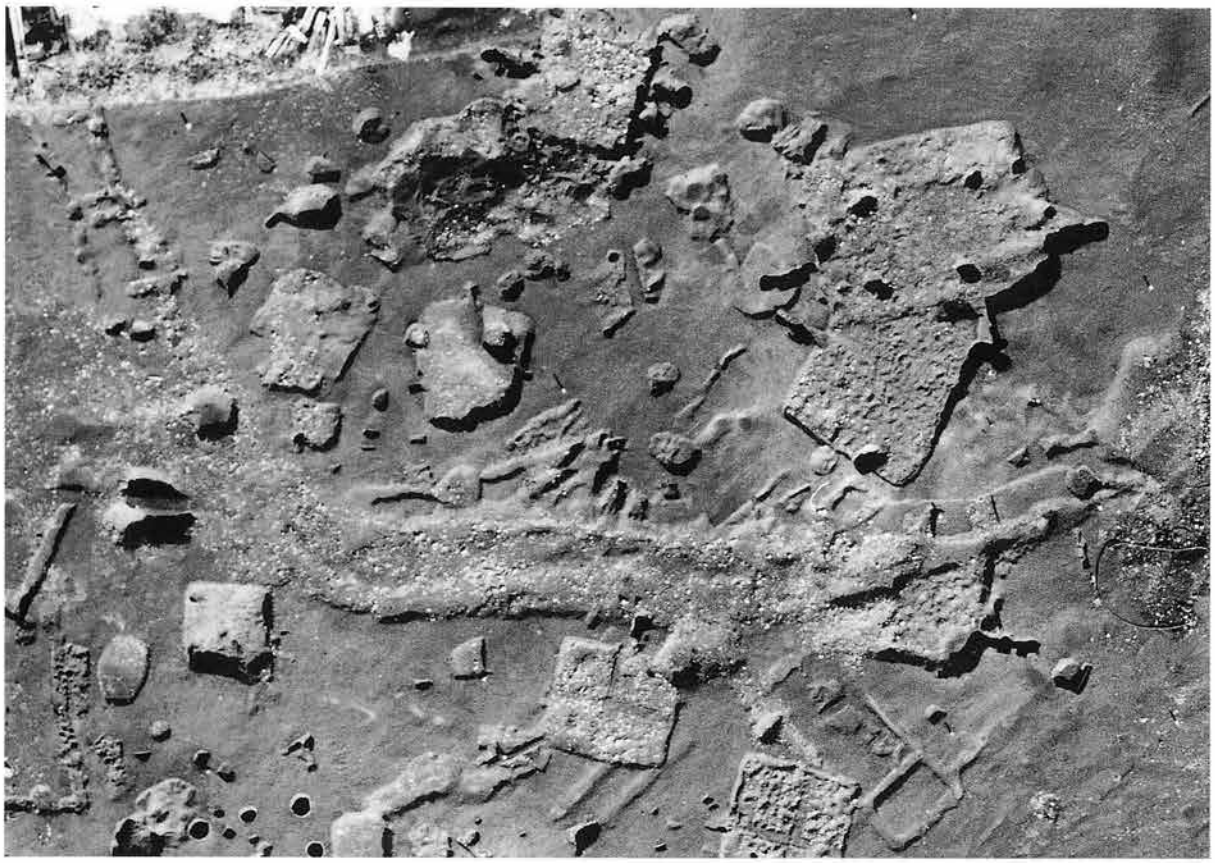
RG071



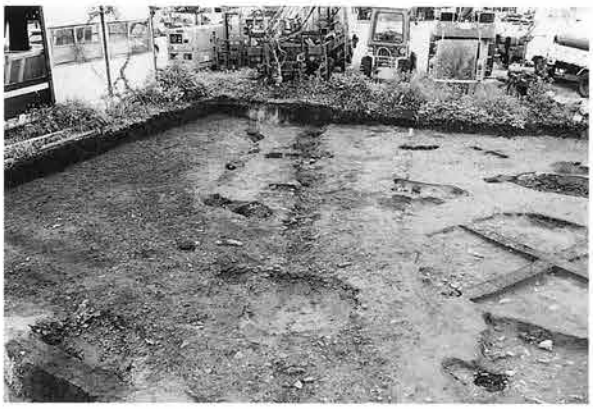
RG071断面

RG071断面

写真図版100　RG067・071溝跡



RG069・070（南から）



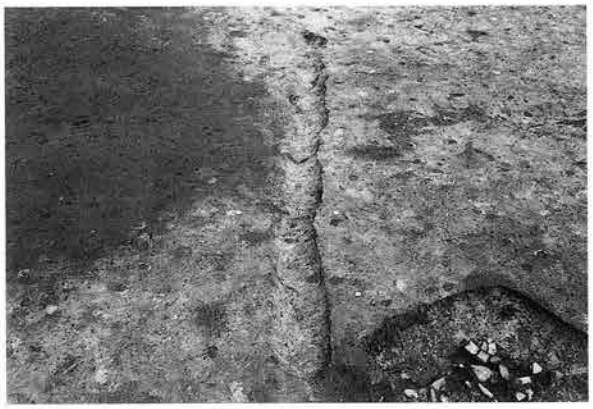
RG069・070（南から）

RG069・070断面（南から）

RG069断面（西から）

RG069断面（西から）

写真図版101　RG069・070溝跡

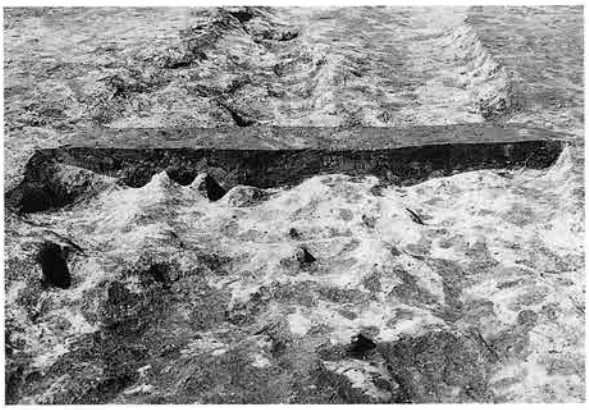


RG072

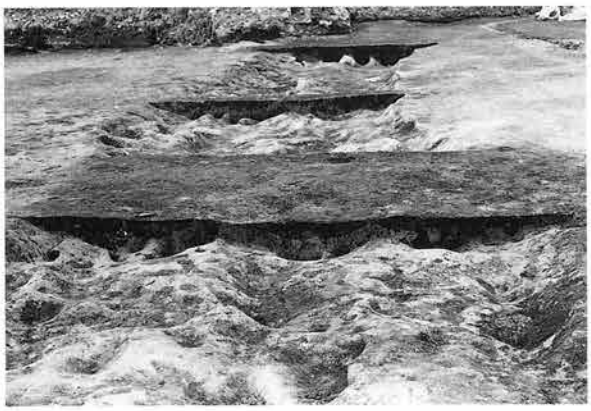
RG072断面

RG073（南から）

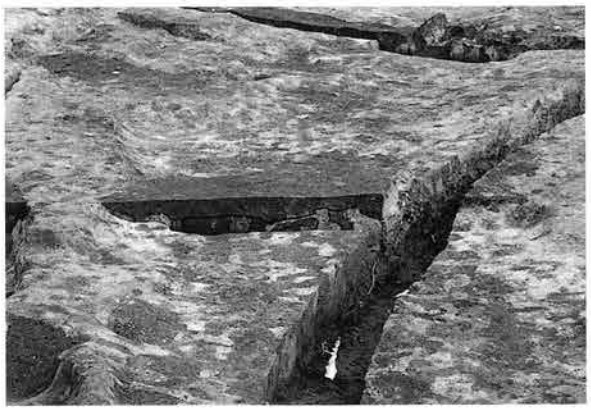
RG073（北東から）



RG073（南から）



RG073（南から）

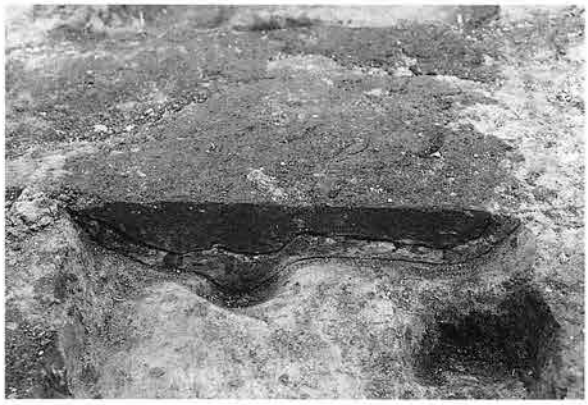


RG073（南から）

写真図版102　RG072・073溝跡

RG074

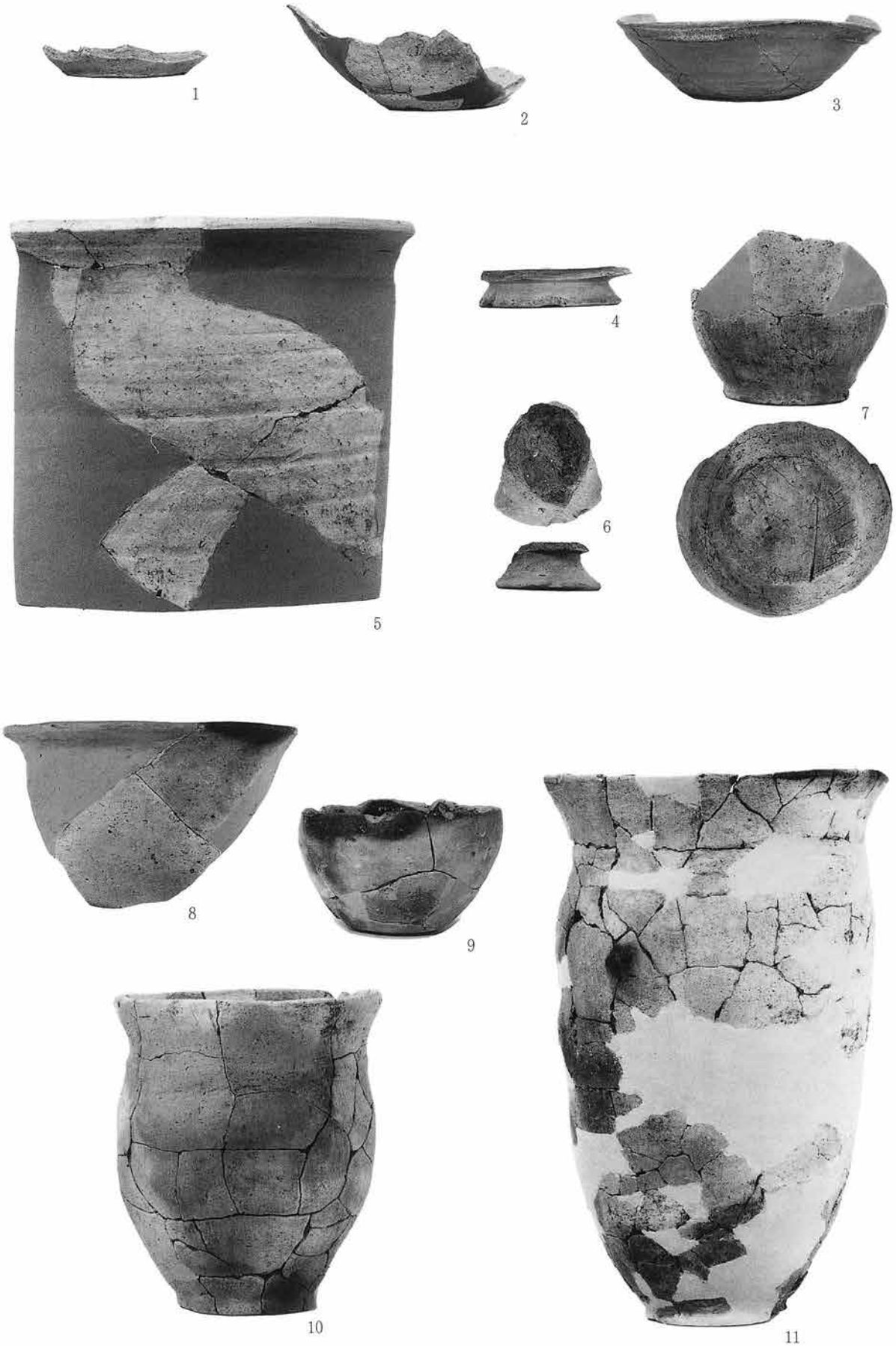
RG073作業風景（西から）



RG074断面

調査区北部柱穴状土坑群（南から）

写真図版103　RG073・074溝跡・柱穴状土坑群




写真図版104　遺構内出土土器（1）

12

13

14

15

16

17

写真図版105　遺構内出土土器（2）

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

写真図版106　遺構内出土土器（3）

28

29

30

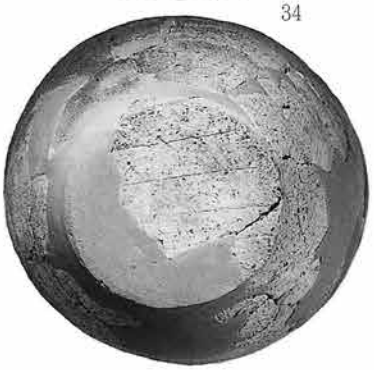
31

32

写真図版107　遺構内出土土器（4）

33

34



36

35

写真図版108　遺構内出土土器（5）

37

38

39

40

41

43

45

42

44

46

47

48

49

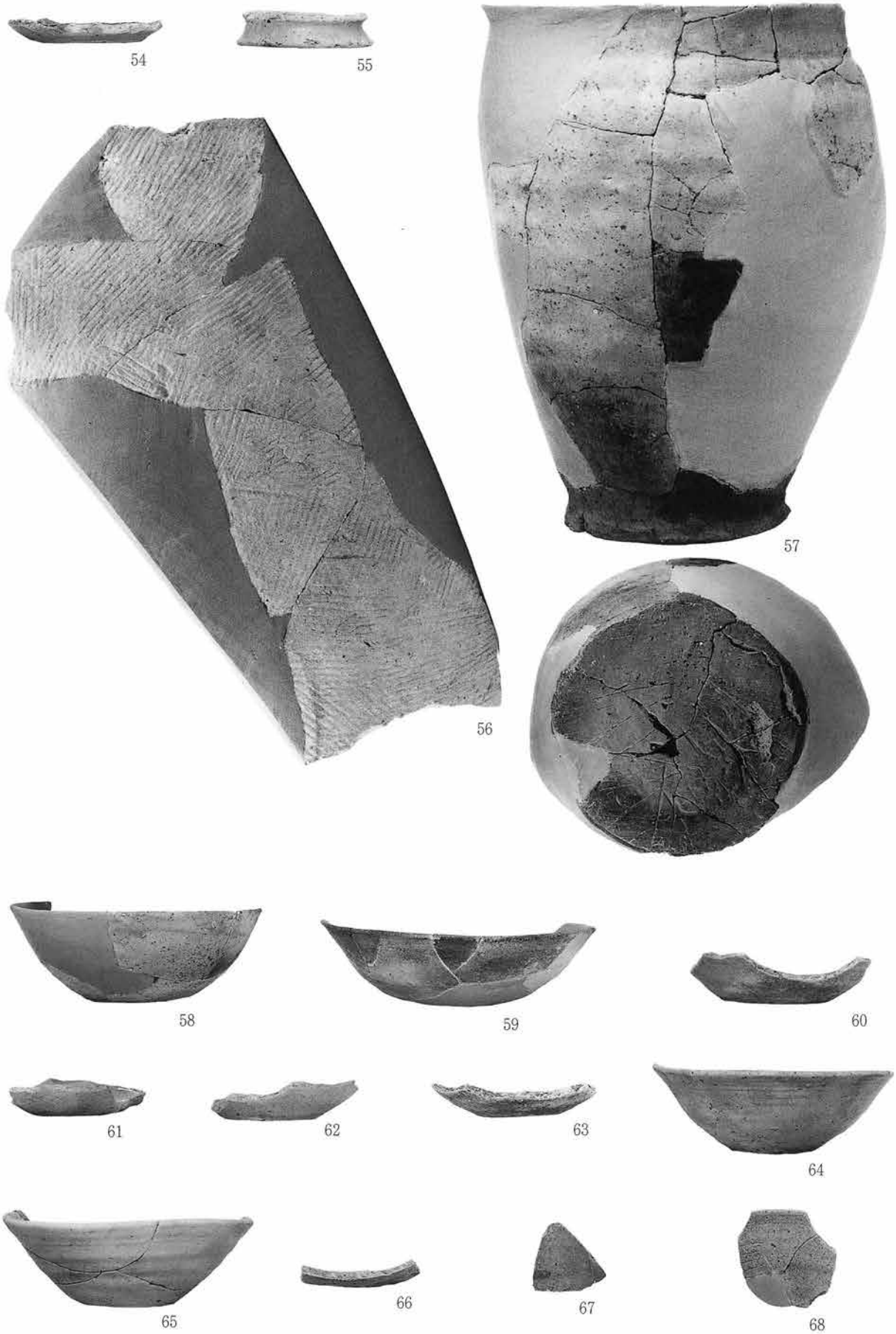
50

51

52

53

写真図版109　遺構内出土土器（6）




写真図版110　遺構内出土土器（7）

69

70

71

72

73

74

75

76

写真図版111　遺構内出土土器（8）

77

78

79

80

82

81

83

84

85

写真図版112　遺構内出土土器（9）

86

87

88

89

90

94

91

93

92

95

99

96

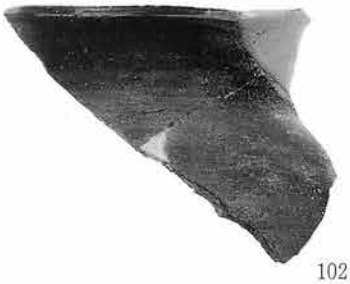
97

98

写真図版113　遺構内出土土器（10）

100

101


102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

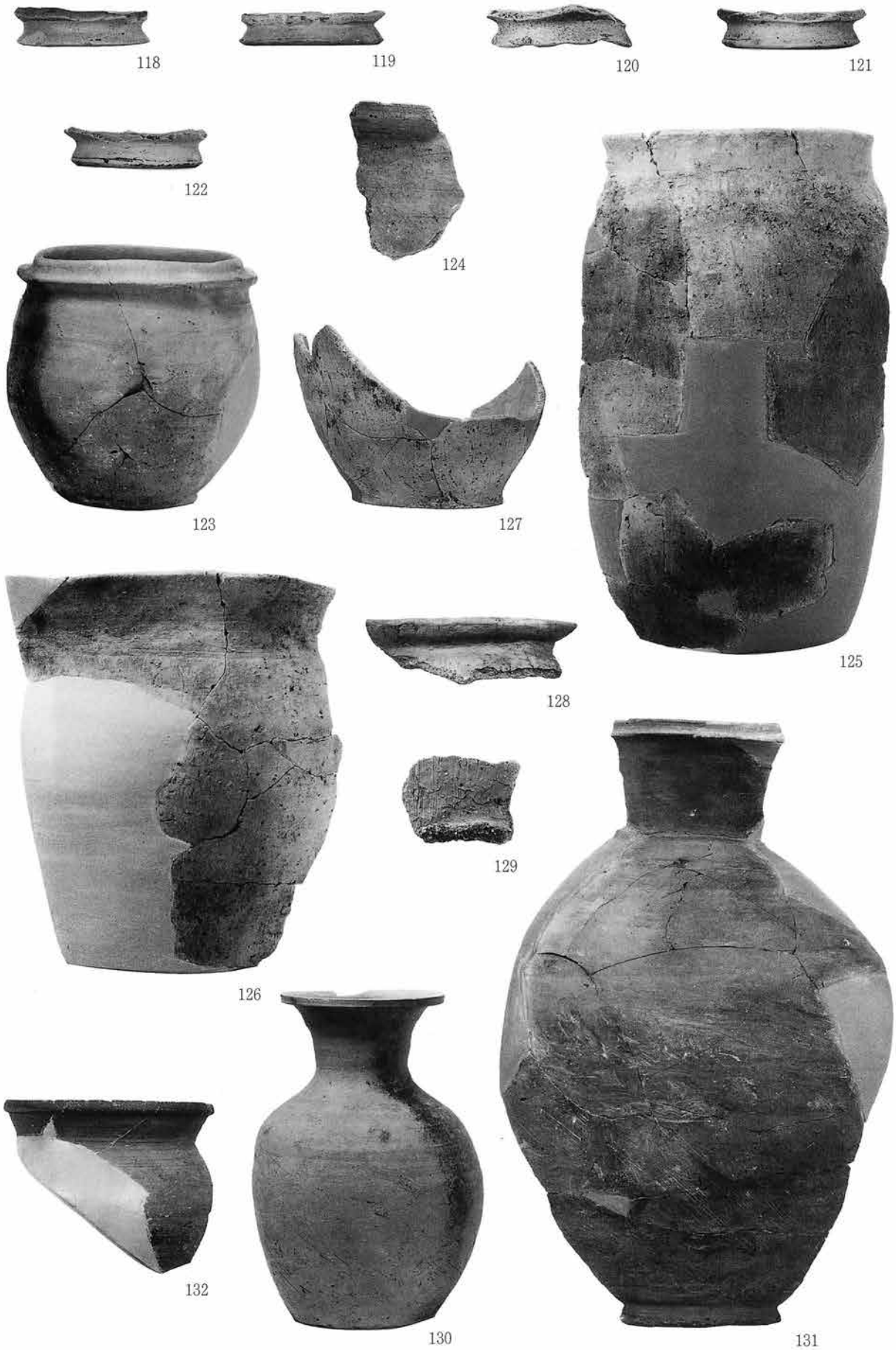
114

115

117

116

写真図版114　遺構内出土土器（11）




写真図版115　遺構内出土土器（12）

133

134

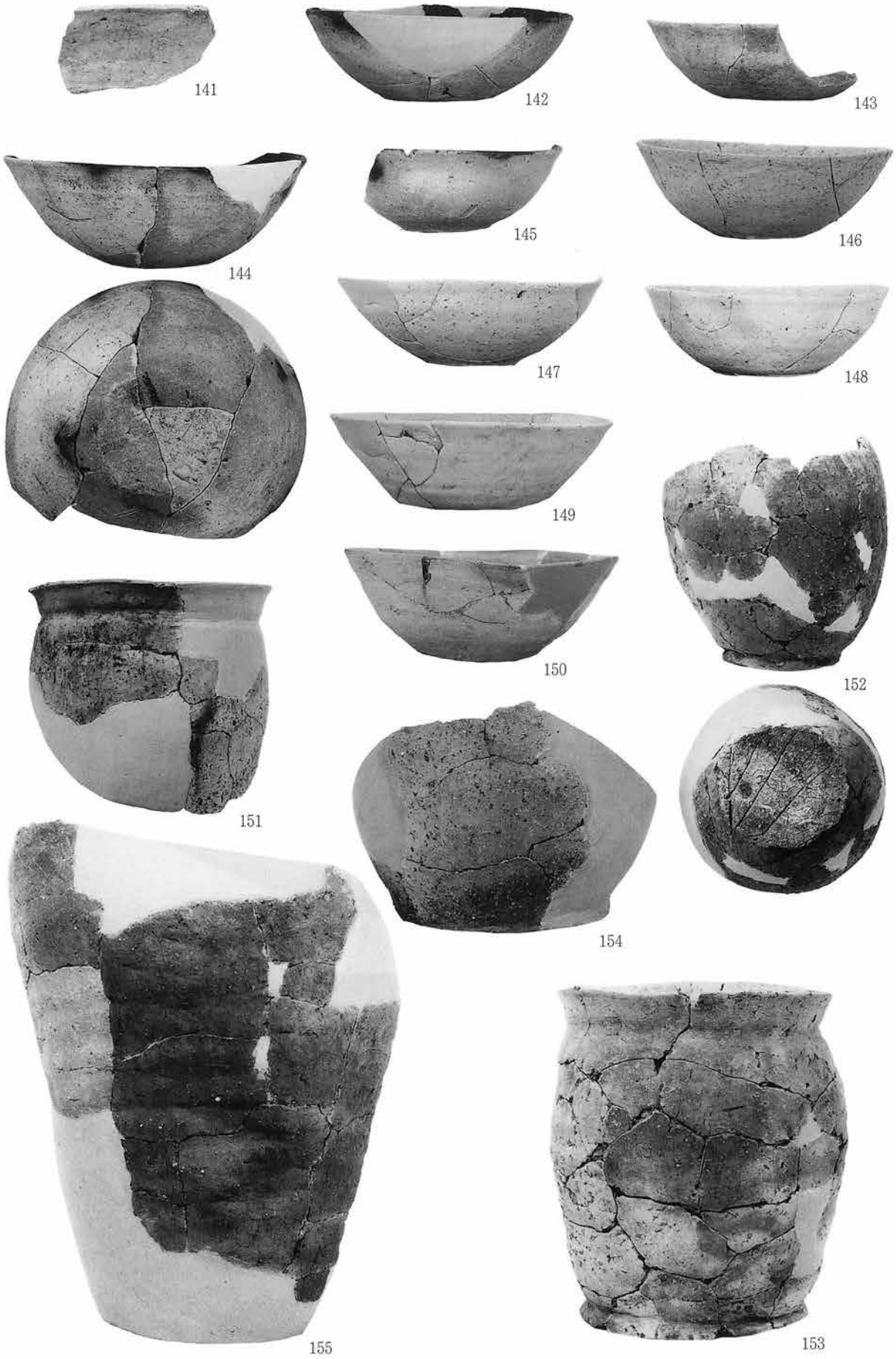
138

135

137

写真図版116　遺構内出土土器（13）

写真図版117　遺構内出土土器（14）




写真図版118　遺構内出土土器（15）

156

157

159

158

161

160

162

163

164

165

166

167

168

169

170

173

171

172

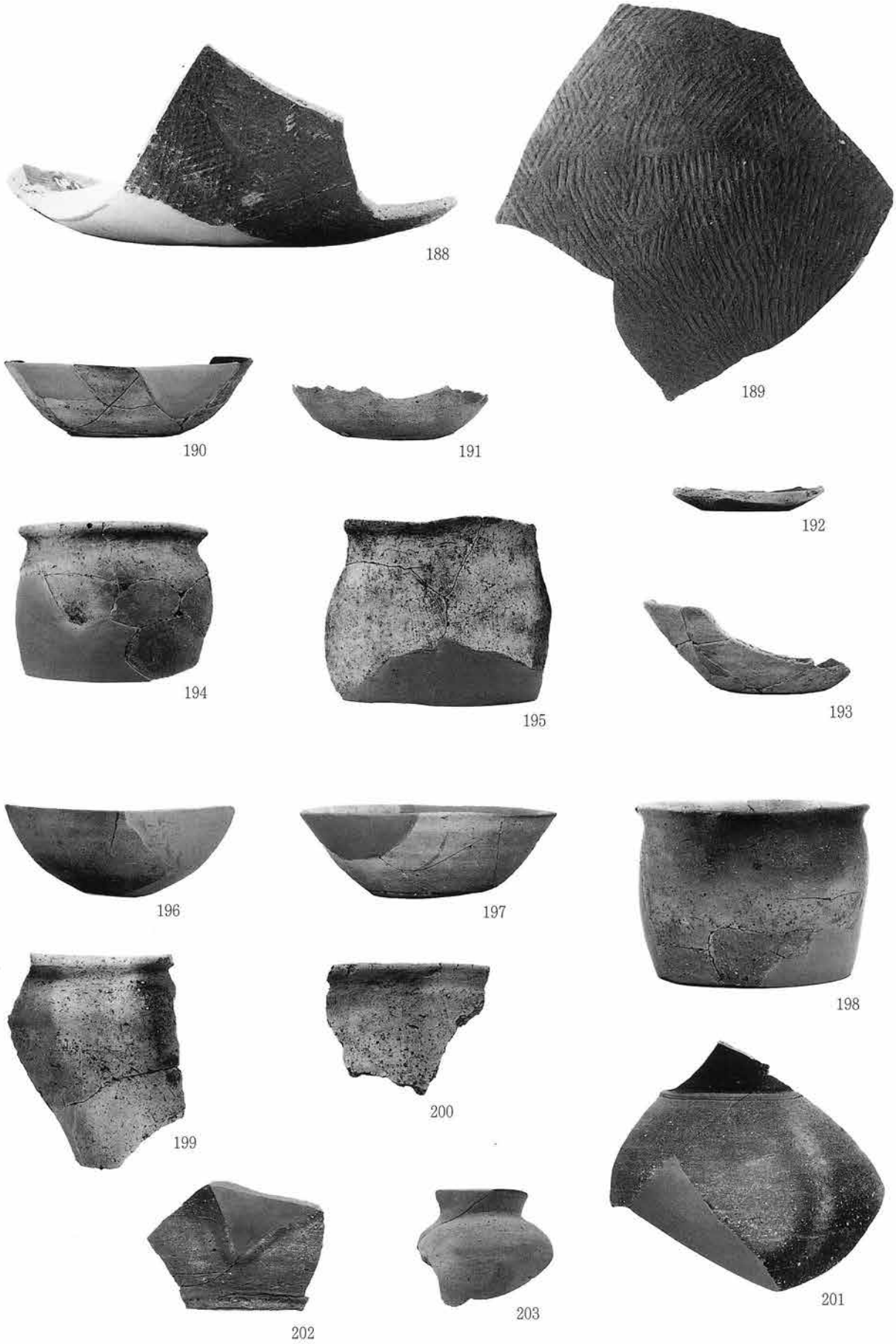
174

175

176

写真図版119　遺構内出土土器（16）

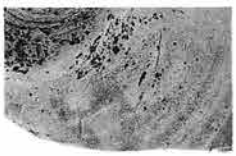
写真図版120　遺構内出土土器（17）




写真図版121　遺構内出土土器（18）

204

205



206

207

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

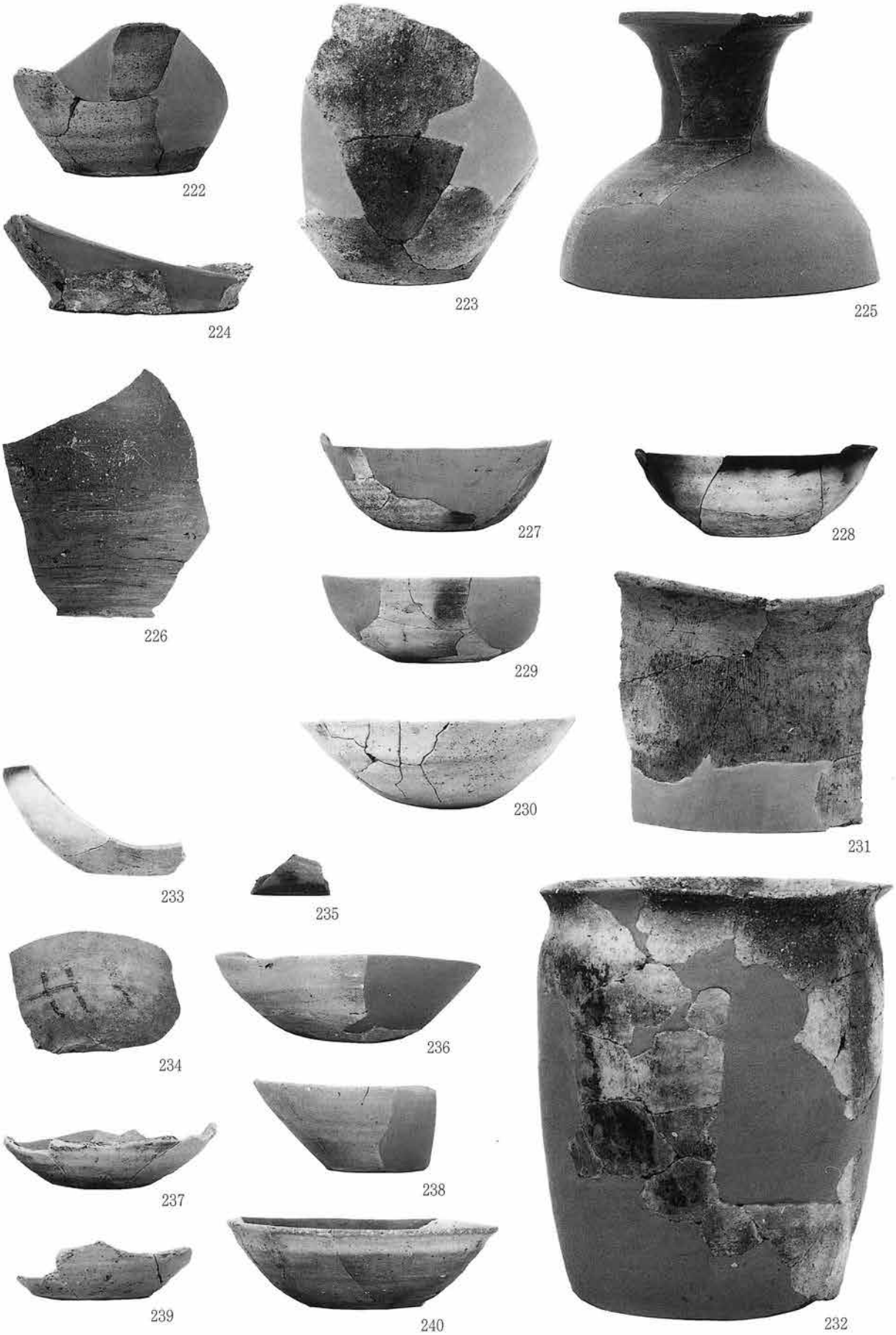
219

218

220

221

写真図版122　遺構内出土土器（19）




写真図版123　遺構内出土土器（20）

241

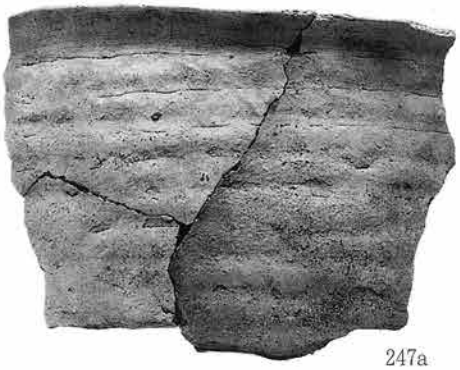
242

243

244

245

246


247a

248

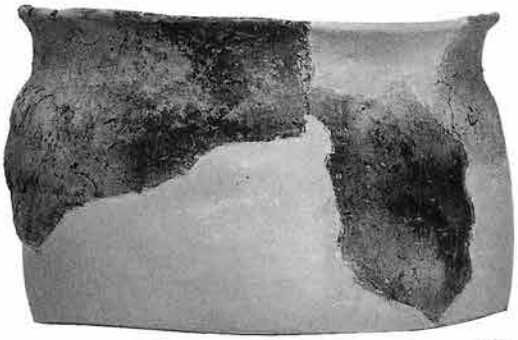
249

250

247b

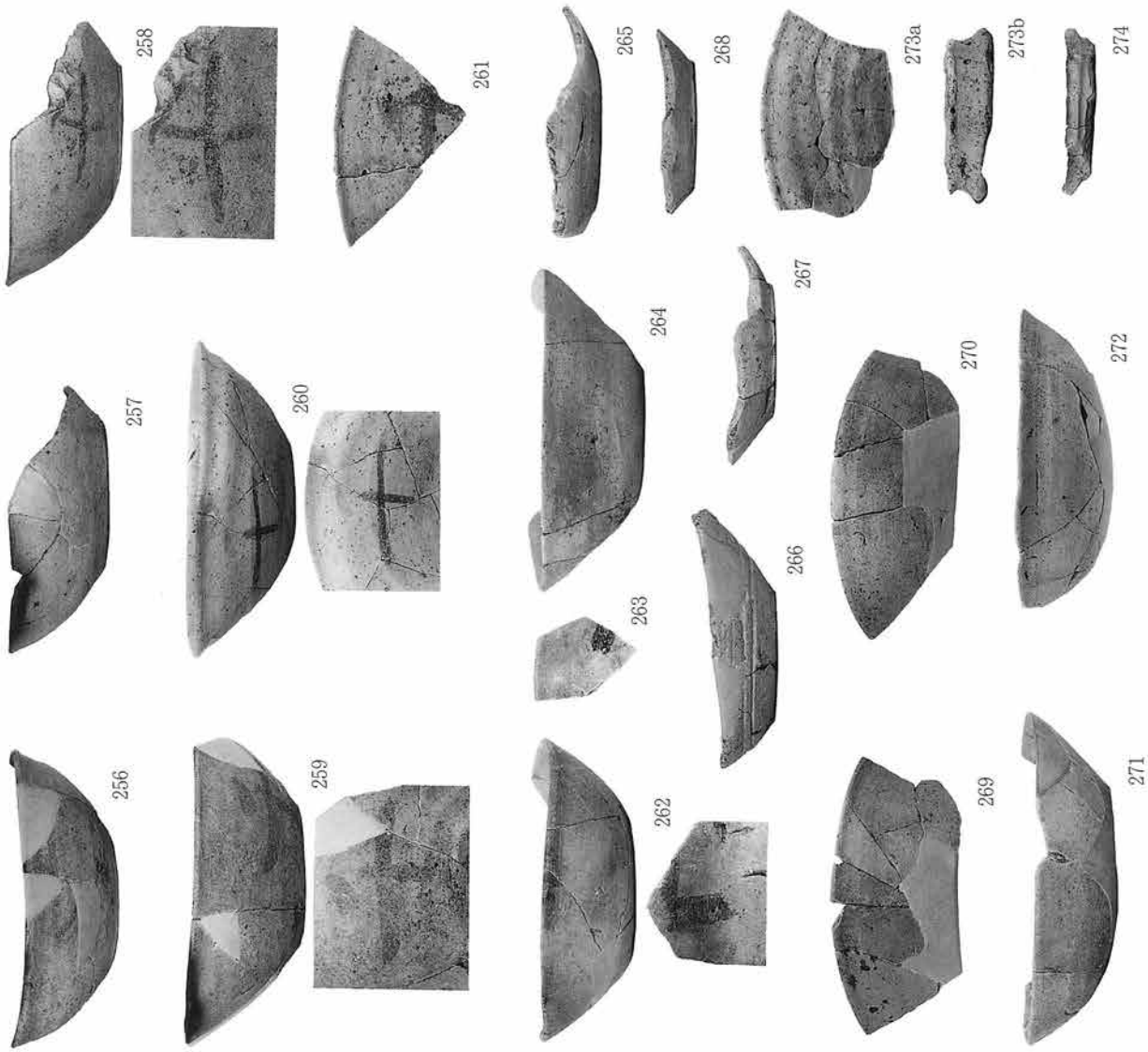
251

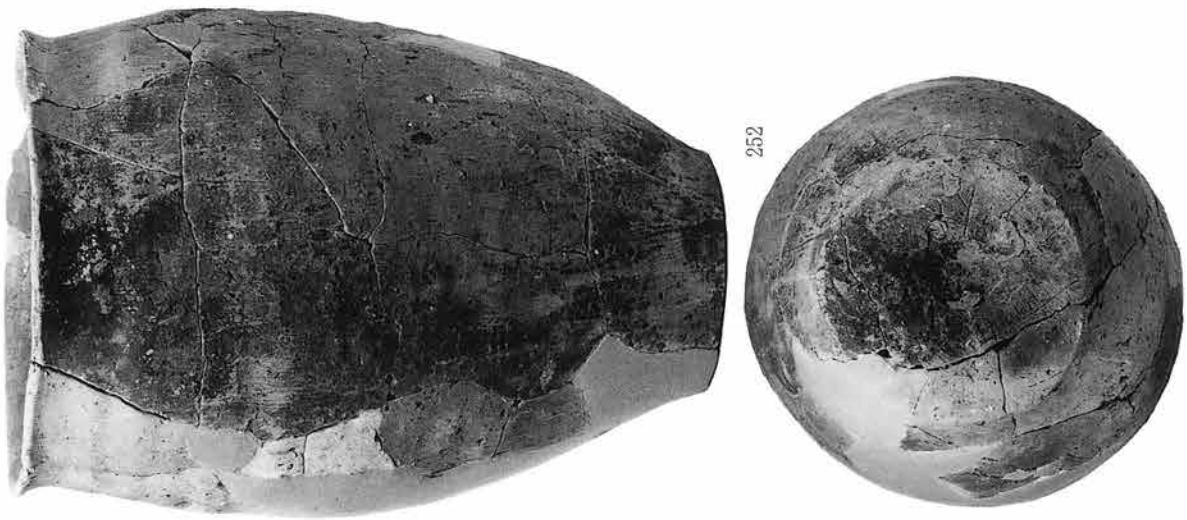
254


253

255

写真図版124　遺構内出土土器（21）




写真図版125　遺構内出土土器（22）

275

277

278

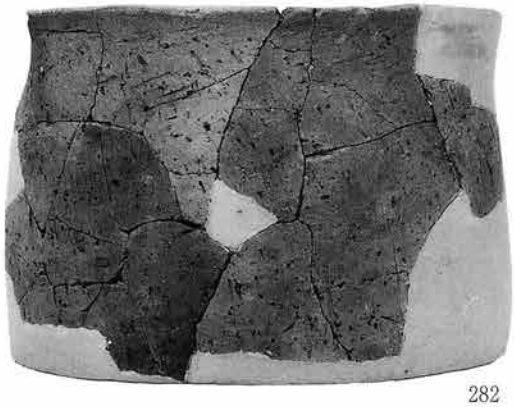
279

280

276a

281

276b


282

写真図版126　遺構内出土土器（23）

283

284

285

287

288

289

290

286

291

292

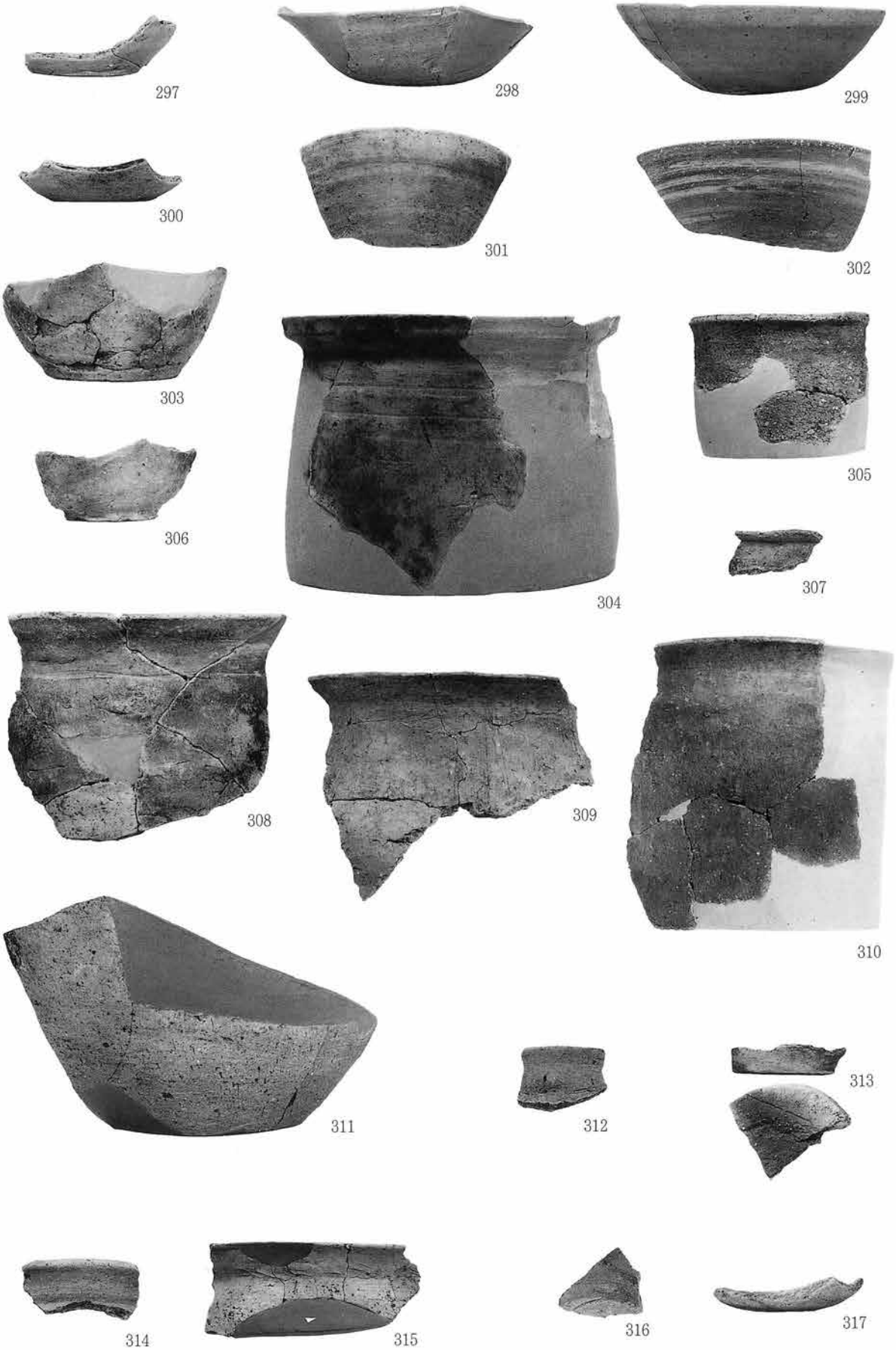
293

294

295

296

写真図版127　遺構内出土土器（24）




写真図版128　遺構内出土土器（25）

318

319

320

321

322

323

324

325

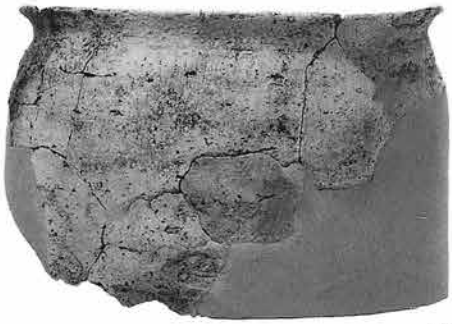
326

327

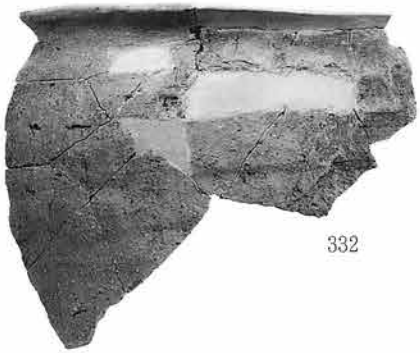
330

328

329

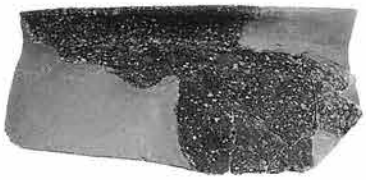

331

写真図版129　遺構内出土土器（26）


332

334

335


333

336

338

340

337

339

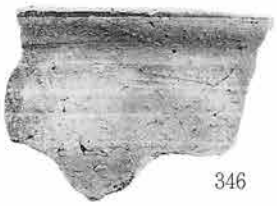
342

341

遺構外

343

344


346

345

写真図版130　遺構内出土土器（27）・遺構外出土土器（1）

347

348

349

350

351

352

353

354

355

356

357

358

359

360

361

362

363

364

365

366

367

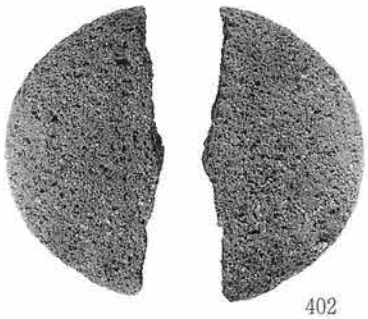
368

369

370

写真図版131　遺構外出土土器（2）

401



402

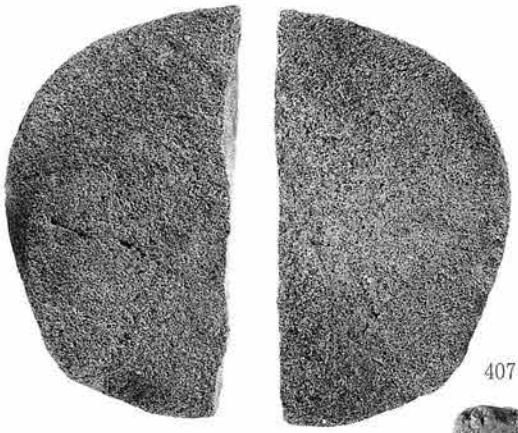
403

写真図版132　遺構内出土石器・石製品（1）

404

405

406


407

408

409

411

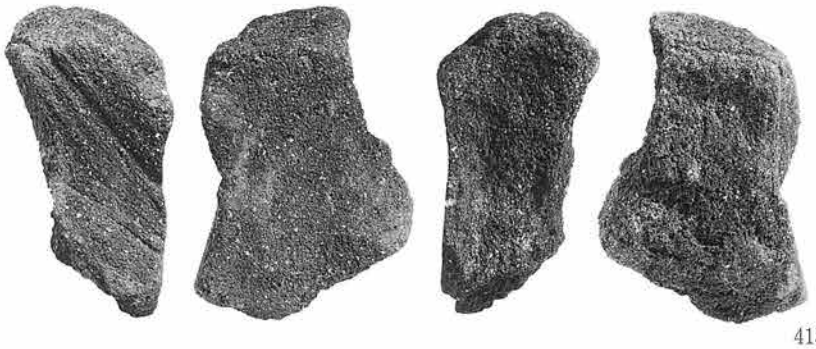
410

写真図版133　遺構内出土石器・石製品（2）

412

414

413



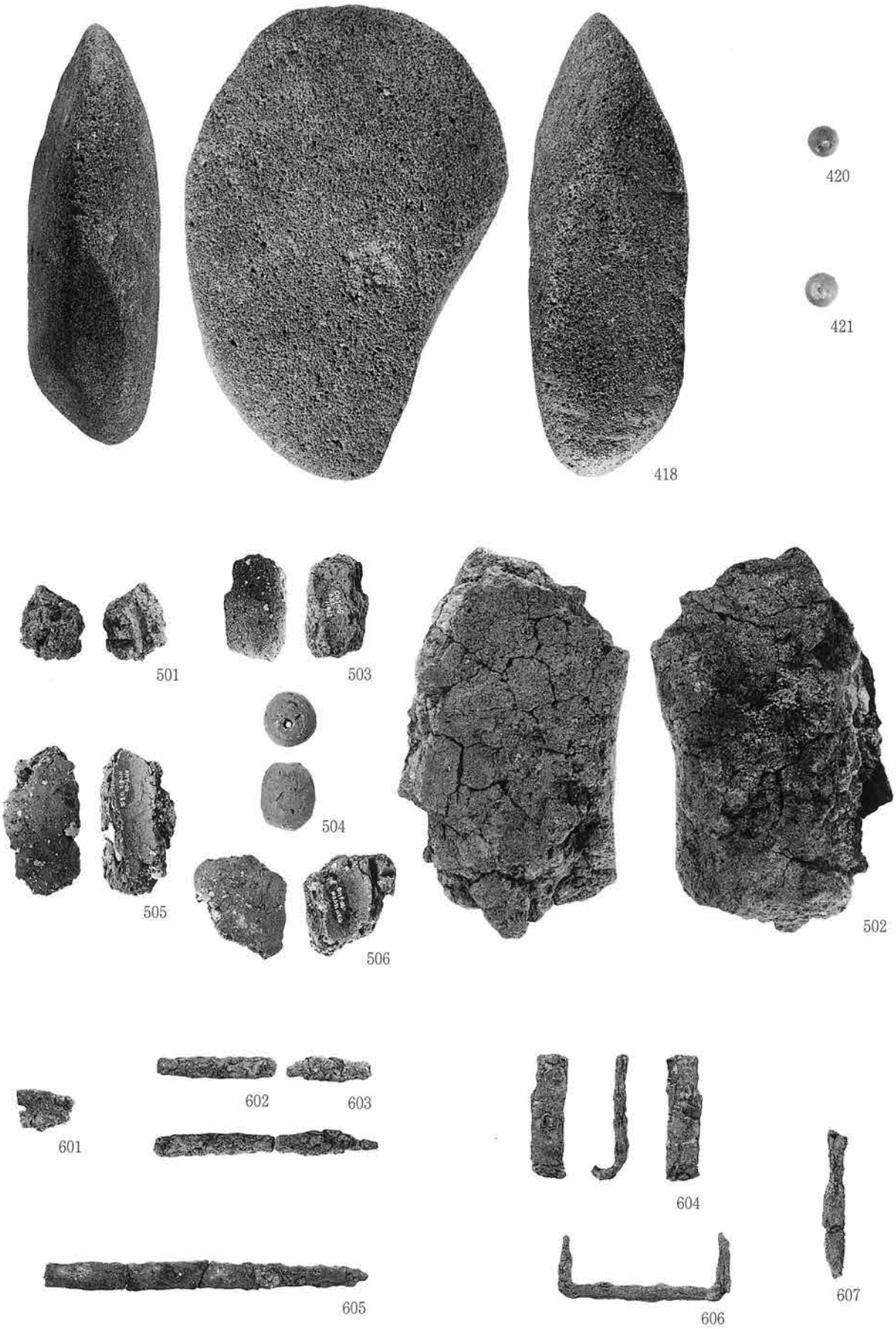
415

416

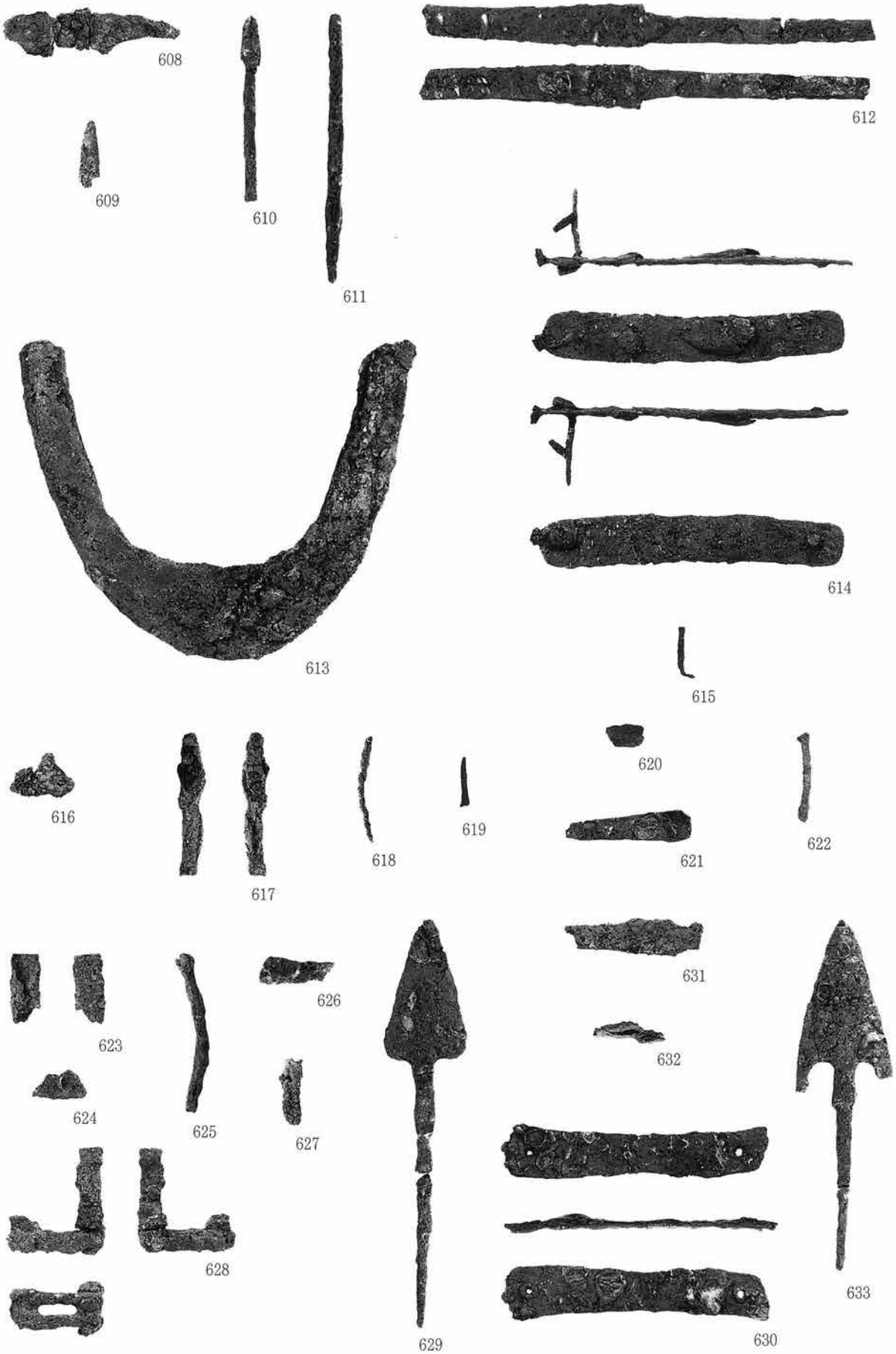
417

419

写真図版134　遺構内出土石器・石製品（3）




写真図版135　遺構内出土石器・石製品（4）・遺構内出土金属製品（1）




写真図版136　遺構内出土金属製品（2）

写真図版137　遺構内出土金属製品（3）

671

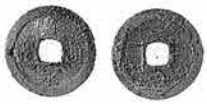
672

677

673

674

678


675

676

681

682

679

680

683

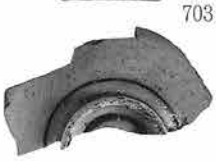
684

701

702

703

706



705

707

704

708

710

709

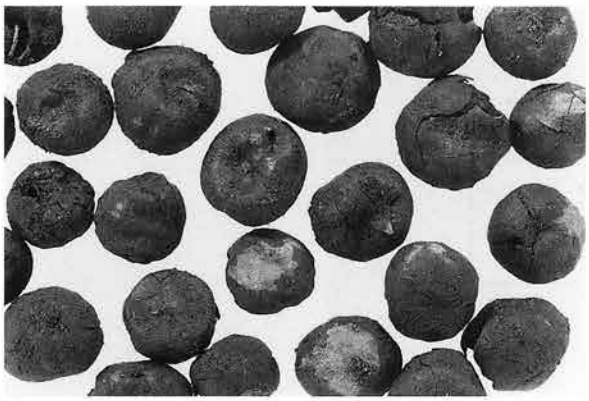
711

712

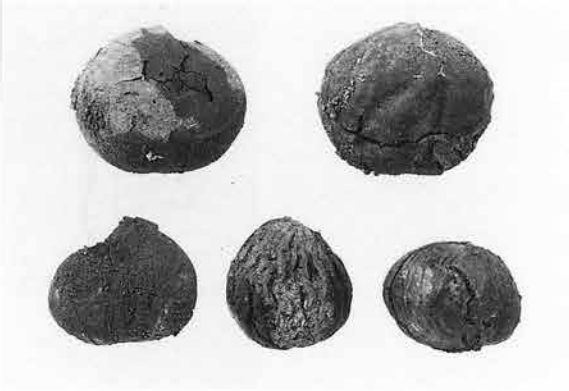
713

714

写真図版138　遺構内出土金属製品（4）・遺構内外出土陶磁器



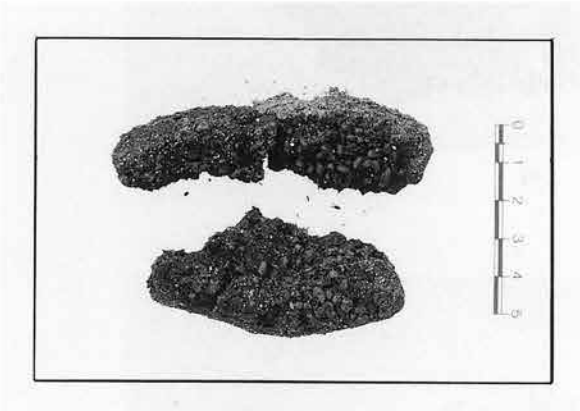
トチノキ



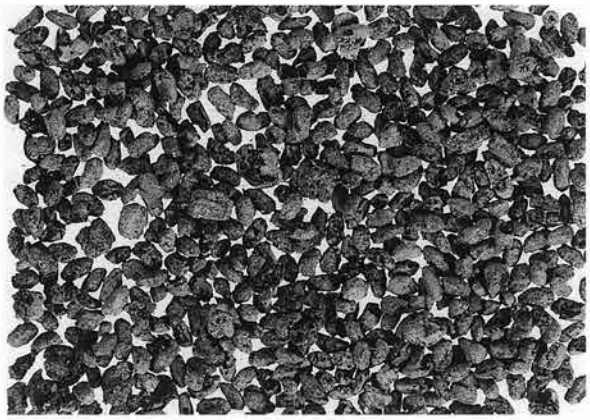
トチノキ（上段） クリ（下段）

豆

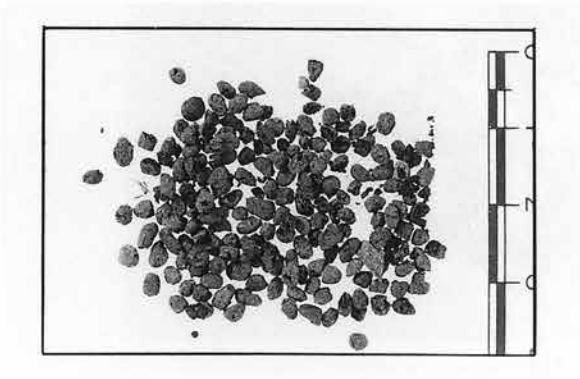
炭化米① S＝1／2



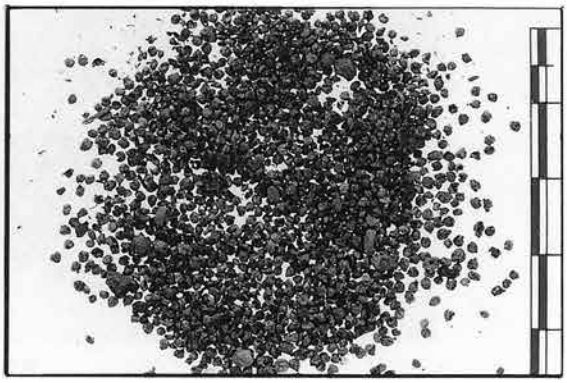
炭化米③ S＝1／2



米

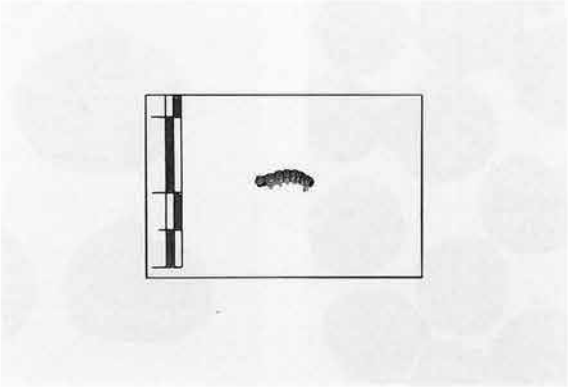


米より小さい種実（E）



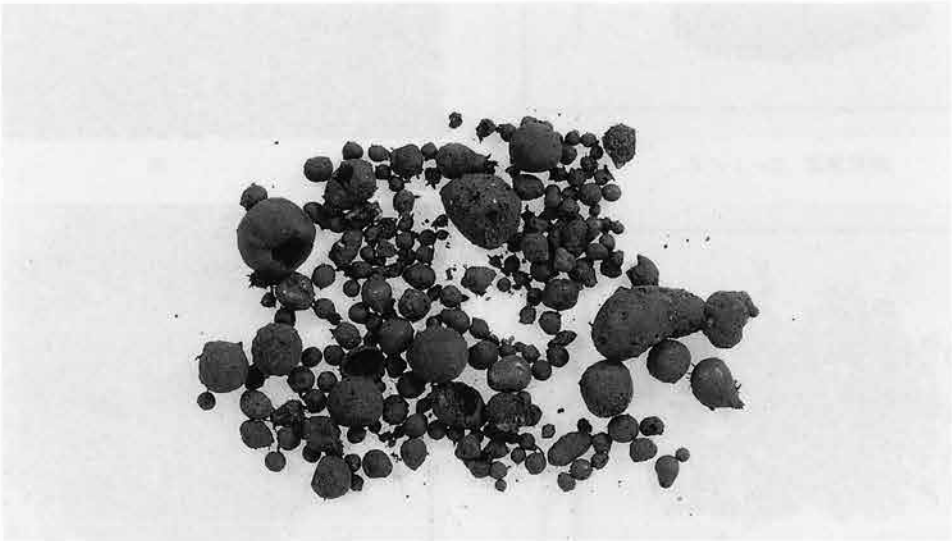
米より小さい種実（E）

写真図版139 RA132出土炭化種実



炭化した虫　　等倍

鍛造剥片　　2倍



粒状滓　　2倍

写真図版140　RA132出土炭化昆虫・RA131出土鍛造剥片・粒状滓

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | ほそやちいせきだいじゅうさんじだいじゅうよじはっくつちょうさほうこくしょ |
| 書名 | 細谷地遺跡第13次・第14次発掘調査報告書 |
| 副書名 | 盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第513集 |
| 編著者名 | 金子佐知子・星　雅之 |
| 編集機関 | (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター |
| 所在地 | 〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地　TEL（019）638-9001 |
| 発行年月日 | 2008年2月29日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>°′″ | 東経<br>°′″ | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 細谷地遺跡<br>第13次・第14次調査 | 岩手県盛岡市<br>飯岡新田2地割字才川48-1ほか | 03201 | LE26<br>－0214 | 39度<br>40分<br>42秒 | 141度<br>08分<br>19秒 | 第13次<br>2006.07.03～<br>2006.11.27<br>第14次<br>2006.04.10～<br>2006.11.27 | 2,530㎡<br>7,958㎡ | 盛岡南新都市土地区画整理事業 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 細谷地遺跡第13次・第14次調査 | 散布地? | 弥生時代（後期） | | 弥生土器　1袋 | 沢状の窪地に土器片が集中（キャンプサイト?） |
| | 集落跡 | 奈良時代（8世紀後半） | 竪穴住居跡　8棟 | 土師器・須恵器中コンテナ(30×40×20㎝)　18箱<br>ガラス玉　2点<br>土玉　1点<br>焼成粘土塊<br>鉄製品　44点<br>炭化種実　約8.8kg | 平安時代の鍛冶工房1棟を検出<br>平安時代の焼失住居跡から大量の炭化種実が出土 |
| | | 平安時代（9世紀後半～10世紀前半） | 竪穴住居跡　30棟<br>掘立柱建物跡　2棟<br>柱穴列　1条<br>土坑　24基<br>竪穴状遺構　3基 | | |
| | | 古代 | 土坑　22基<br>溝跡　14条<br>柱穴群　1箇所 | キセル　3点<br>鉄釘　2点<br>寛永通宝　33点<br>銅鏡　1点<br>陶磁器　14点 | 大窯4期<br>鉄釉皿が出土 |
| | | 近世以降 | 墓壙　8基<br>土坑　2基<br>溝跡　2条 | | |
| | | 時期不明及び近現代 | 土坑　9基<br>竪穴状遺構　1基<br>溝跡　4条 | | |


要　約

今回は10回目の本調査である。調査区は、遺跡の東よりで沖積段丘の東縁辺からやや内側である。

これまでの本調査で、縄文時代晩期前葉の集落、奈良時代（8世紀後半）、平安時代（9世紀中～10世紀初頭）の集落跡、縄文時代の狩場（陥し穴群）が確認されていた。今回の調査区には奈良時代と平安時代の集落が立地し、遺跡東端で確認された縄文時代の集落は西側には広がっていないことが確認された。

特筆すべき点は、平安時代の集落から鍛造剥片を伴う鍛冶工房が確認されたこと、大量の炭化種実が出土した焼失住居跡が検出されたことである。炭化種実には大量のトチノキをはじめとして、クリ、イネ、ヒエ、オオムギ、コムギ、ササゲ、サンショウ、アサなどが確認され、当時の植物利用及び食料事情を知る上で貴重な資料となった。

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第513集

# 細谷地遺跡第13次・第14次発掘調査報告書

盛岡南新都市土地区画整理事業関連遺跡発掘調査

印　刷　平成20年２月25日
発　行　平成20年２月29日

発　行　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電 話 (019) 638－9001
FAX (019) 638－8563
印　刷　株式会社　熊谷印刷
〒020-0066　盛岡市上田１丁目６番49号
電 話 (019) 653－4151
FAX (019) 654－0435

© (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2008